

# 千葉北部地区新市街地造成整備事業 関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

－ 印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡 －

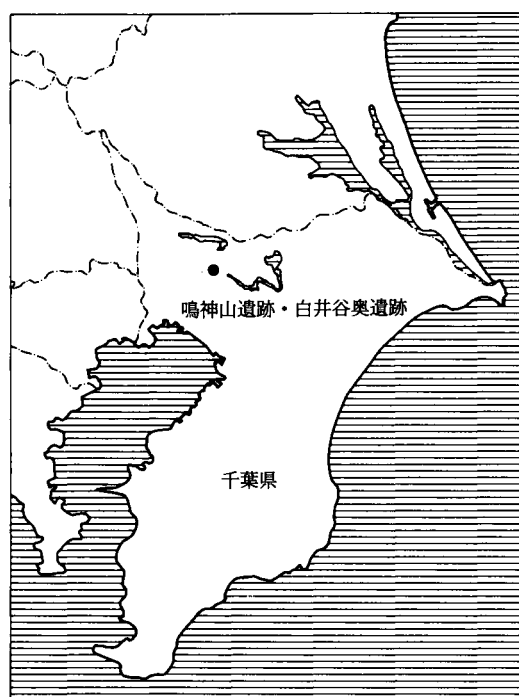
平成11年3月

千葉県企業庁

財団法人 千葉県文化財センター

# 千葉北部地区新市街地造成整備事業 関連埋蔵文化財調査報告書 II

— いんざい しなるかみやまいせき しろいたにおくいせき  
— 印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡 —



## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第358集として、千葉県企業庁の千葉北部地区新市街地造成整備事業関連に伴って実施した印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの遺構群や多数の墨書土器・線刻土器が発見され、当地が倭名類聚抄に見られる印旛郡船穂郷の中心的村落であることが判明し、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また文化財の保護、普及のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、ご協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係機関、また、発掘調査から整理までご苦勞をおかけした補助員の皆様に心から感謝の意を表します。


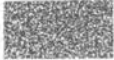











平成11年 3月31日

財団法人 千葉県文化財センター  
理事長 中 村 好 成

# 凡 例

- 1 本書は、千葉県企業庁による千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、以下のとおりである。  
 鳴神山遺跡 千葉県印西市戸神字大野610他（遺跡コード CN507）  
 白井谷奥遺跡 千葉県印西市戸神字北ノ内1054（遺跡コード CN508）
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県企業庁の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は、本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、北部調査事務所印西調査室長鳴田浩司及び研究員田形孝一が担当した。執筆分担は以下のとおりである。  
 第1章、第2章第1節・第4節掘立柱建物・土坑・道路・第5節、第3章、第4章第1節を鳴田が執筆した。  
 第2章第2節・第3節・第4節竪穴住居・井戸、第4章第2節を主に田形が執筆し、鳴田が加筆・編集した。  
 また、データの集計及び全体の編集は鳴田が担当した。
- 6 文字資料については、国立歴史民俗博物館平川南教授及び群馬県教育委員会文化スポーツ部高島英之主任に、判読・解釈していただいた。
- 7 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県企業庁ニュータウン整備部、印西市教育委員会の御指導、御助言を得た。
- 8 本書に使用した地形図は、下記のとおりである。  
 第1図 印西市発行 1/2,500都市計画図（21・22）  
 第2図 国土地理院発行 1/50,000「佐倉」（NI-54-19-14）  
 第3図 千葉県企業庁千葉ニュータウン事業部作成 1/1,000
- 9 周辺航空写真は、京葉測量株式会社により平成2年及び3年に撮影されたものを使用した。
- 10 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 11 本書で使用しているスクリーントーンは、以下のとおりである。

## 凡例

遺 構	遺 物	
 電袖砂質粘土	 灰 釉	 木 質 部
 電火床面	 三 彩	 硯 使 用 痕
 焼 土	 緑 茶 白	 布 部
 白色粘土	 貝 殻	
 床面上の砂質粘土	 鉄製品断面	

# 本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 調査の経過	1
2 調査の方法	2
3 遺構の表記方法と遺構番号の対応	2
第2節 遺跡の環境と研究略史	5
第2章 鳴神山遺跡	9
第1節 縄文時代	12
第2節 弥生時代後期から古墳時代前期	18
第3節 古墳時代後期	40
第4節 奈良・平安時代	43
第5節 中近世	373
第6節 その他表採遺物	389
第3章 白井谷奥遺跡	394
第1節 縄文時代	395
第2節 弥生時代後期	396
第3節 奈良・平安時代	397
第4章 まとめ	400
第1節 奈良・平安時代の集落	400
第2節 出土文字資料	402

# 挿図目次

第1章	第9図 I 001	18
第1図 鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡年度別調査範囲 (1/5,000)	第10図 I 002	19
	第11図 I 010	21
第2図 遺跡位置図(1/50,000)	第12図 I 017	22
第2章	第13図 I 021	23
第3図 鳴神山遺跡遺構配置図(1/2,000)	第14図 II 019	24
	第15図 II 023	25
第4図 II地区遺構集中地点詳細図(1/500)	第16図 II 041	26
第5図 I 206・208、II 039・046・154、N205	第17図 II 042	27
第6図 II 072・152・153・159・160	第18図 II 051	28
第7図 縄文土器	第19図 II 098	28
第8図 縄文土器・土製品	第20図 II 100	30

第 21 图	II102	31	第 58 图	I 031(1)	70
第 22 图	II103	32	第 59 图	I 031(2)	71
第 23 图	II104	33	第 60 图	I 032	72
第 24 图	II108	34	第 61 图	I 033	73
第 25 图	II112	35	第 62 图	I 034(1)	75
第 26 图	II114	36	第 63 图	I 034(2)	76
第 27 图	II117	36	第 64 图	I 035	79
第 28 图	II119	37	第 65 图	I 036	80
第 29 图	III176	38	第 66 图	I 037	81
第 30 图	III181	38	第 67 图	I 038	82
第 31 图	I 008	41	第 68 图	I 039	83
第 32 图	I 012	42	第 69 图	I 040	84
第 33 图	I 003	44	第 70 图	I 041	85
第 34 图	I 004	45	第 71 图	I 042	86
第 35 图	I 005	46	第 72 图	I 043	87
第 36 图	I 006	47	第 73 图	I 044(1)	89
第 37 图	I 007(1)	48	第 74 图	I 044(2)	90
第 38 图	I 007(2)	49	第 75 图	I 044(3)	91
第 39 图	I 009(1)	51	第 76 图	I 045	93
第 40 图	I 009(2)	52	第 77 图	I 046A • 046B	94
第 41 图	I 011	52	第 78 图	I 047A(1) • 047B(1)	95
第 42 图	I 013	53	第 79 图	I 047A(2)	96
第 43 图	I 014(1)	54	第 80 图	I 047A(3)	97
第 44 图	I 014(2)	55	第 81 图	I 047A(4)	98
第 45 图	I 015	56	第 82 图	I 047A(5)	99
第 46 图	I 016	57	第 83 图	I 047A(6) • 047B(2)	100
第 47 图	I 018	58	第 84 图	I 048	103
第 48 图	I 019	59	第 85 图	I 049	104
第 49 图	I 020	61	第 86 图	I 050	106
第 50 图	I 022	62	第 87 图	I 051	107
第 51 图	I 023	63	第 88 图	I 052(1)	109
第 52 图	I 024 • 025	64	第 89 图	I 052(2)	110
第 53 图	I 026	65	第 90 图	I 053(1)	112
第 54 图	I 027	65	第 91 图	I 053(2)	113
第 55 图	I 028	66	第 92 图	I 054	115
第 56 图	I 029	68	第 93 图	I 055A • 055B	117
第 57 图	I 030	69	第 94 图	I 056	118

第 95 图	I 057	119	第132图	II035	159
第 96 图	I 058	120	第133图	II036	161
第 97 图	I 059	121	第134图	II037(1)	163
第 98 图	I 060	123	第135图	II037(2)	164
第 99 图	I 061(1)	124	第136图	II038	165
第100图	I 061(2)	125	第137图	II043	166
第101图	I 062	127	第138图	II044	167
第102图	I 063	128	第139图	II045	168
第103图	II001	129	第140图	II048	169
第104图	II003	130	第141图	II049	170
第105图	II004	131	第142图	II056(1)	172
第106图	II005	133	第143图	II056(2)	173
第107图	II006	134	第144图	II057	174
第108图	II007	135	第145图	II058	175
第109图	II008	136	第146图	II059(1)	176
第110图	II009	137	第147图	II059(2)	177
第111图	II010	138	第148图	II060	179
第112图	II011	138	第149图	II061(1)	180
第113图	II012	140	第150图	II061(2)	181
第114图	II013	141	第151图	II062	182
第115图	II014	141	第152图	II063(1)	184
第116图	II015	142	第153图	II063(2)	185
第117图	II016	143	第154图	II063(3)	186
第118图	II017	144	第155图	II064(1)	188
第119图	II018	144	第156图	II064(2)	189
第120图	II020(1)	146	第157图	II065	190
第121图	II020(2)	147	第158图	II066	191
第122图	II021	148	第159图	II067	192
第123图	II022	149	第160图	II068	193
第124图	II025	149	第161图	II069	194
第125图	II026	150	第162图	II070(1)	196
第126图	II027 · 028 · 029 · 030	152	第163图	II070(2)	197
第127图	II031	153	第164图	II071	198
第128图	II032	153	第165图	II073	199
第129图	II033(1)	155	第166图	II074	200
第130图	II033(2)	156	第167图	II075	201
第131图	II034	158	第168图	II076	201

第169回	II077(1)	202	第206回	II120A(2)・120B(2)	246
第170回	II077(2)	203	第207回	II121(1)・122(1)	247
第171回	II078	204	第208回	II121(2)・122(2)	248
第172回	II079	205	第209回	II123A(1)・123B(1)・123C(1)	250
第173回	II080(1)・081(1)	206	第210回	II123A(2)・123B(2)	251
第174回	II080(2)・081(2)	207	第211回	II123C(2)	252
第175回	II082(1)・083(1)	209	第212回	II124	253
第176回	II082(2)・083(2)	210	第213回	II125	254
第177回	II084(1)	212	第214回	II126(1)	256
第178回	II084(2)	213	第215回	II126(2)	257
第179回	II084(3)	214	第216回	II127(1)	258
第180回	II084(4)	215	第217回	II127(2)	259
第181回	II088	217	第218回	II128(1)・129(1)・130(1)・151(1)	261
第182回	II090(1)	218	第219回	II128(2)・129(2)	262
第183回	II090(2)	219	第220回	II128(3)	263
第184回	II092	220	第221回	II129(3)・130(2)・151(2)	264
第185回	II093(1)・094(1)	221	第222回	II131	265
第186回	II093(2)・094(2)	222	第223回	II132	266
第187回	II094(3)	223	第224回	II133	267
第188回	II095	225	第225回	II134	267
第189回	II096	226	第226回	II135	268
第190回	II097(1)	227	第227回	II136・137	269
第191回	II097(2)	228	第228回	II138・139	271
第192回	II101(1)	230	第229回	II140(1)	272
第193回	II101(2)	231	第230回	II140(2)	273
第194回	II105	232	第231回	II141	275
第195回	II106	233	第232回	II142(1)	276
第196回	II107	234	第233回	II142(2)	277
第197回	II109	235	第234回	II143(1)	278
第198回	II110(1)	236	第235回	II143(2)	279
第199回	II110(2)	237	第236回	II144	281
第200回	II111	238	第237回	II145	282
第201回	II113	240	第238回	II146	283
第202回	II115	241	第239回	II147	284
第203回	II116	242	第240回	II148	286
第204回	II118	243	第241回	II149	287
第205回	II120A(1)・120B(1)	245	第242回	II150	288



第243図	II 155	288	第280図	II H25・26	334
第244図	II 156	290	第281図	II H27・28	335
第245図	II 157	291	第282図	II H29・30	336
第246図	II 158 A・158 B	292	第283図	II H31・32	337
第247図	II 161	293	第284図	II H33・34・35	339
第248図	II 162	294	第285図	II H36・37	340
第249図	II 163 A	295	第286図	II H38・39・40	342
第250図	II 164	296	第287図	II H41・SA 2	343
第251図	II 165	297	第288図	II H42・43	344
第252図	N 195	298	第289図	II 040(1)下層出土遺物	346
第253図	N 196	299	第290図	II 040(2)中層出土遺物	347
第254図	N 197 A(1)・197 B(1)	300	第291図	II 040(3)中層・上層出土遺物	348
第255図	N 197 A(2)・197 B(2)	301	第292図	I 201・202・203・204・205・210, II 085・086・087	351
第256図	N 198	302	第293図	IIM004(1)	352
第257図	N 199	303	第294図	IIM004(2)	353
第258図	N 200(1)	305	第295図	IIM004(3)	354
第259図	N 200(2)	306	第296図	IIM004(4)	355
第260図	N 201	307	第297図	IIM004(5)	356
第261図	III 170	308	第298図	IIM004(6)	357
第262図	III 173	310	第299図	IIM004(7)	359
第263図	III 175(1)	311	第300図	IIM004(8)	360
第264図	III 175(2)	312	第301図	IIM004(9)	362
第265図	III 178	313	第302図	IIM004(10)	363
第266図	III 180	314	第303図	IIM004(11)	364
第267図	I H01・02	317	第304図	IIM004(12)	365
第268図	I H03・04	318	第305図	IIM004(13)	367
第269図	I H05・06・07	319	第306図	IIM004(14)	368
第270図	II H08・09	321	第307図	II 002	373
第271図	II H10	322	第308図	II 047・053・054・055・091・099・163B	375
第272図	II H11	323	第309図	II 166	376
第273図	II H12・13	324	第310図	II 167A	376
第274図	II H14・15	326	第311図	IIM001・002・003・006	378
第275図	II H16・17	327	第312図	IIM001	379
第276図	II H18・19	328	第313図	IIM002(1)	380
第277図	II H20・22	330	第314図	IIM002(2)	381
第278図	II H21	331	第315図	IIM002(3)	382
第279図	II H23・24	332			

第316図	IIM003・005・008・012・014	384	第3章	
第317図	IIM006・009・010	385	第324図	白井谷奥遺跡全測図
第318図	IIM005	386	第325図	003
第319図	IIM008・009・010・011・012・013・014・015・016	387	第326図	002
第320図	グリッド出土遺物(I)	390	第327図	グリッド出土土器
第321図	グリッド出土遺物(II) - 1	391	第328図	001(1)
第322図	グリッド出土遺物(II) - 2	392	第329図	001(2)
第323図	グリッド出土遺物(N)	393	第330図	004
			第4章	
			第331図	文字資料
				406

## 表

表1	鳴神山遺跡発掘調査面積一覧	1	表25	II117	35
表2	白井谷奥遺跡発掘調査面積一覧	1	表26	II119	37
表3	鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡調査組織表	2	表27	III176	37
表4	鳴神山遺跡遺構番号対応表	3	表28	III181	39
表5	周辺の主な奈良・平安時代の遺跡一覧	7	表29	竪穴住居跡計測表(弥生後期～古墳前期)	39
表6	鳴神山遺跡縄文土器観察表	17	表30	I 008	40
表7	鳴神山遺跡縄文時代土製品観察	17	表31	I 012	40
表8	I 001	19	表32	竪穴住居跡計測表(古墳後期)	42
表9	I 002	19	表33	I 003	43
表10	I 010	20	表34	I 004	43
表11	I 017	20	表35	I 005	45
表12	I 021	22	表36	I 006	46
表13	II019	25	表37	I 007	47, 49
表14	II023	26	表38	I 009	50
表15	II041	27	表39	I 011	50
表16	II042	27	表40	I 013	53
表17	II098	29	表41	I 014	53, 55
表18	II100	29	表42	I 015	56, 57
表19	II102	29	表43	I 016	57
表20	II103	33	表44	I 018	59
表21	II104	33	表45	I 019	60
表22	II108	34	表46	I 020	60
表23	II112	34	表47	I 022	62
表24	II114	35	表48	I 023	63

表49	I 024	63, 64	表86	I 061	125, 126
表50	I 025	64	表87	I 062	126
表51	I 026	65	表88	I 063	129
表52	I 027	66	表89	II 001	130
表53	I 028	67	表90	II 003	132
表54	I 029	67	表91	II 004	132
表55	I 030	68	表92	II 005	133
表56	I 031	71	表93	II 006	133
表57	I 032	72	表94	II 007	134
表58	I 033	74	表95	II 008	135
表59	I 034	77	表96	II 009	136
表60	I 035	78	表97	II 010	137
表61	I 036	78	表98	II 011	139
表62	I 037	80	表99	II 012	139
表63	I 038	81	表100	II 013	139
表64	I 039	82	表101	II 014	142
表65	I 040	83	表102	II 015	143
表66	I 041	85, 86	表103	II 016	143
表67	I 042	87	表104	II 017	143
表68	I 043	88	表105	II 018	144
表69	I 044	88, 92	表106	II 020	145
表70	I 045	93	表107	II 021	148
表71	I 046	94	表108	II 022	148
表72	I 047	101, 102, 103	表109	II 025	150
表73	I 048	104	表110	II 026	150
表74	I 049	105	表111	II 027 • 028 • 029 • 030	151
表75	I 050	105	表112	II 031	151
表76	I 051	108	表113	II 032	154
表77	I 052	108, 111	表114	II 033	154, 156, 157
表78	I 053	111, 114, 115	表115	II 034	157
表79	I 054	116	表116	II 035	160
表80	I 055	116	表117	II 036	160
表81	I 056	118	表118	II 037	162
表82	I 057	118	表119	II 038	164
表83	I 058	120	表120	II 043	165, 167
表84	I 059	122	表121	II 044	167
表85	I 060	122	表122	II 045	167

表123	II048	168	表160	II106	232
表124	II049	171	表161	II107	234
表125	II056	171, 173	表162	II109	235
表126	II057	174	表163	II110	237
表127	II058	174	表164	II111	238
表128	II059	178	表165	II113	239
表129	II060	179	表166	II115	239
表130	II061	179, 181	表167	II116	241
表131	II062	183	表168	II118	242
表132	II063	183, 187	表169	II120A · 120B	244
表133	II064	187, 189	表170	II121	248
表134	II065	190	表171	II122	249
表135	II066	191	表172	II123A · B · C	249, 252
表136	II067	192	表173	II124	252
表137	II068	193	表174	II125	253, 255
表138	II069	194	表175	II126	255
表139	II070	195	表176	II127	259
表140	II071	195	表177	II128 · 129 · 130 · 151	260, 265
表141	II073	198	表178	II132	266
表142	II074	199	表179	II133	266
表143	II075	200	表180	II134	268
表144	II076	200	表181	II135	268
表145	II077	201, 203	表182	II136 · 137	270
表146	II078	204, 205	表183	II138 · 139	270
表147	II079	205	表184	II140	273, 274
表148	II080 · 081	207, 208	表185	II141	274
表149	II082 · 083	208, 210	表186	II142	277
表150	II084	211, 215, 216	表187	II143	280
表151	II088	216	表188	II144	280, 282
表152	II090	216, 219	表189	II145	282
表153	II093	220, 224	表190	II146	284
表154	II094	224	表191	II147	284
表155	II095	225	表192	II148	285
表156	II096	225	表193	II149	285
表157	II097	226, 228	表194	II150	287
表158	II101	229	表195	II155	289
表159	II105	229	表196	II156	289

表197	II 157	289	表229	II H24	333
表198	II 158	292, 293	表230	II H31	338
表199	II 161	293	表231	II H32	338
表200	II 162	294	表232	II H37	341
表201	II 163 A	295	表233	II H42	341
表202	II 164	297	表234	II H43	341
表203	II 165	297	表235	S A 2	345
表204	N 195	298	表236	II 040	345, 349
表205	N 196	298	表237	I 202・203・205	350
表206	N 197 A・197 B	301, 302	表238	IIM004	358, 361, 366, 369
表207	N 198	303	表239	竪穴住居跡計測表 (奈良・平安時代)	
表208	N 199	304			370, 371, 372
表209	N 200	304	表240	II 053	374
表210	N 201	306	表241	II 166	374
表211	III 170	307, 309	表242	II 167 A	374
表212	III 173	309	表243	IIM001	377
表213	III 175	309, 312	表244	IIM002	382, 383
表214	III 178	313	表245	IIM003・005・008・012・014	384
表215	III 180	315	表246	IIM006	388
表216	I H 03	316	表247	IIM009・010	388
表217	I H 04	316	表248	グリッド (I)	389, 392
表218	I H 06	320	表249	グリッド (II)	392, 393
表219	I H 07	320	表250	グリッド (N)	393
表220	I H 11	320	表251	002	396
表221	II H 12	322	表252	16 L グリッド	396
表222	II H 13	325	表253	001	397
表223	II H 16	325	表254	004	397
表224	II H 18	325	表255	主な古墳時代後期から奈良・平安時代) 竪穴住居年代	401
表225	II H 19	329	表256	古墳時代後期から奈良・平安時代竪穴住居遺構別出土土器片数	409, 410, 411
表226	II H 20	329			
表227	II H 21	329			
表228	II H 22	329			

## 図 版 目 次

<p>図版1 鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡航空写真 (平成2年)</p> <p>図版2 鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡航空写真 (平成3年)</p> <p><b>鳴神山遺跡遺構</b></p> <p>図版3 1 I 001 2 I 002 3 I 003</p> <p>図版4 1 I 004 2 I 005 3 I 006</p> <p>図版5 1 I 006 2 I 007 3 I 007</p> <p>図版6 1 I 008 2 I 009 3 I 009</p> <p>図版7 1 I 010 2 I 012 3 I 010・012</p> <p>図版8 1 I 010・012 2 I 011 3 I 013</p> <p>図版9 1 I 014 2 I 014 3 I 015</p> <p>図版10 1 I 016 2 I 017 3 I 017</p> <p>図版11 1 I 018・019 2 I 020 3 I 021</p> <p>図版12 1 I 021 2 I 022 3 I 022</p> <p>図版13 1 I 023 2 I 023 3 I 024</p> <p>図版14 1 I 026 2 I 027 3 I 028</p> <p>図版15 1 I 028 2 I 029・030 3 I 029</p> <p>図版16 1 I 031 2 I 031 3 I 031</p> <p>図版17 1 I 032 2 I 032 3 I 033</p> <p>図版18 1 I 033 2 I 034 3 I 034</p> <p>図版19 1 I 034 2 I 035 3 I 035</p> <p>図版20 1 I 035 2 I 036 3 I 037</p> <p>図版21 1 I 038 2 I 039 3 I 040</p> <p>図版22 1 I 041・042 2 I 043 3 I 044</p> <p>図版23 1 I 044 2 I 045 3 I 046・201・202・ 203・204</p> <p>図版24 1 I 047 2 I 048 3 I 049</p> <p>図版25 1 I 050 2 I 051 3 I 052・055</p> <p>図版26 1 I 052 2 I 052 3 I 053</p> <p>図版27 1 I 054 2 I 056 3 I 057</p> <p>図版28 1 I 058 2 I 059 3 I 060</p> <p>図版29 1 I 060 2 I 061 3 I 062</p> <p>図版30 1 I 063 2 I H01 3 I H02</p> <p>図版31 1 I H03 2 I H04 3 I H05・06</p>	<p>図版32 1 I H07 2 I 205 3 I 206 4 I 208 5 I 210</p> <p>図版33 1 II001 2 II001・002 3 II003</p> <p>図版34 1 II004 2 II004 3 II004</p> <p>図版35 1 II004 2 II005 3 II005</p> <p>図版36 1 II006 2 II007 3 II008</p> <p>図版37 1 II009 2 II010 3 II011</p> <p>図版38 1 II012 2 II012 3 II014</p> <p>図版39 1 II015 2 II016 3 II017</p> <p>図版40 1 II018 2 II019 3 II020</p> <p>図版41 1 II020 2 II021 3 II021 4 II021</p> <p>図版42 1 II022 2 II023 3 II025</p> <p>図版43 1 II026 2 II027 3 II028</p> <p>図版44 1 II028 2 II029 3 II030</p> <p>図版45 1 II031 2 II032 3 II032</p> <p>図版46 1 II033 2 II033 3 II034</p> <p>図版47 1 II034 2 II035 3 II035</p> <p>図版48 1 II036 2 II037 3 II038</p> <p>図版49 1 II041 2 II042 3 II043</p> <p>図版50 1 II043 2 II044 3 II045</p> <p>図版51 1 II047・053・054・055 2 II048 3 II049</p> <p>図版52 1 II051・052 2 II056 3 II056</p> <p>図版53 1 II057 2 II058 3 II059</p> <p>図版54 1 II060 2 II061 3 II061</p> <p>図版55 1 II062 2 II063 3 II063 4 II063</p> <p>図版56 1 II064 2 II065 3 II066</p> <p>図版57 1 II066 2 II067 3 II068</p> <p>図版58 1 II069 2 II070 3 II070</p> <p>図版59 1 II071 2 II073 3 II074</p> <p>図版60 1 II075 2 II076 3 II077</p> <p>図版61 1 II078 2 II079 3 II080</p> <p>図版62 1 II081 2 II082 3 II083</p>
--	---

図版63	1	II084	2	II084	3	II084	図版94	1	IIH08	2	IIH09	3	IIH10
図版64	1	II088	2	II090	3	II092	図版95	1	IIH11	2	IIH12	3	IIH12
図版65	1	II093	2	II094	3	II095	図版96	1	IIH13	2	IIH14	3	IIH15
図版66	1	II096	2	II097	3	II097	図版97	1	IIH16	2	IIH17	3	IIH18
図版67	1	II098	2	II100	3	II101	図版98	1	IIH19	2	IIH20	3	IIH21
図版68	1	II101	2	II102	3	II103	図版99	1	IIH22	2	IIH23	3	IIH24
図版69	1	II103	2	II103	3	II104	図版100	1	IIH25	2	IIH26	3	IIH27
図版70	1	II105	2	II106	3	II107	図版101	1	IIH28	2	IIH29・38	3	IIH30
図版71	1	II108	2	II109	3	II110	図版102	1	IIH31	2	IIH33	3	IIH34
	4	II110					図版103	1	IIH35	2	IIH36	3	IIH37
図版72	1	II111	2	II111	3	II112	図版104	1	IIH41	2	IIH42・43		
図版73	1	II113	2	II113	3	II114		3	II SA 2	4	IIH43		
図版74	1	II115	2	II116	3	II117	図版105	1	II039	2	II072	3	II046
図版75	1	II118	2	II119	3	II120A・120B		4	II046	5	II152	6	II153
図版76	1	II120B	2	II121	3	II121・122	図版106	1	II154	2	II159	3	II160
図版77	1	II122	2	II122	3	II123A・123B		4	II024	5	II047	6	II053
図版78	1	II123A・123B・123C					図版107	1	II054	2	II055	3	II085・086・087
	2	II124	3	II125				4	II091	5	II099	6	II167B
図版79	1	II125	2	II126	3	II126	図版108	1	II040	2	II040	3	II040
図版80	1	II127	2	II127	3	II127		4	II040	5	II040		
	4	II128・129・130・151					図版109	1	III170	2	III173	3	III175
図版81	1	II128	2	II131	3	II132	図版110	1	III176	2	III178	3	III180
図版82	1	II133	2	II134	3	II135	図版111	1	III181	2	IIIH32	3	N195
図版83	1	II136・137	2	II138	3	II139	図版112	1	N196	2	N196	3	N197
図版84	1	II140	2	II141	3	II141	図版113	1	N197A・197B	2	N198		
	4	II141						3	N199				
図版85	1	II142	2	II143	3	II143	図版114	1	N200	2	N201	3	N201
図版86	1	II144	2	II145	3	II146	図版115	1	N205	2	N203	3	IIM004
	4	II146						4	IIM004	5	IIM004	6	IIM004
図版87	1	II147	2	II148	3	II148	図版116	1	IIM001・002・003				
図版88	1	II149	2	II150・M001	3	II155		2	IIM001・002・003				
図版89	1	II156	2	II156			<b>鳴神山遺跡遺物</b>						
	3	II156・157・161・162					図版117	I 001・003・004・005・006・007・008					
図版90	1	II157	2	II157	3	II158	図版118	I 008・009・011・012					
図版91	1	II158	2	II161	3	II162	図版119	I 012・013・014					
図版92	1	II163	2	II163B	3	II164	図版120	I 014・015					
図版93	1	II165	2	II167	3	II167	図版121	I 016・017・018・020・021					

- 図版122 I 022・023・024・025・028・029  
 図版123 I 029・030・031  
 図版124 I 031・032・033・034  
 図版125 I 034・035  
 図版126 I 035・036・037・038・039・040  
 図版127 I 040・041・042・043・044  
 図版128 I 044・047A  
 図版129 I 047A・047B・048・049・050  
 図版130 I 050・051・052  
 図版131 I 052・053・054  
 図版132 I 055・056・057・058・059  
 図版133 I 060・061・062・063  
 図版134 I 063, II001・003  
 図版135 II003・004・005・006・007  
 図版136 II007・009・011・012・014・015・018  
 図版137 II018・019・020・021  
 図版138 II021・023・025・027・028・030  
 図版139 II030・031・032・033・034  
 図版140 II035・036・037・038・040  
 図版141 II040・041  
 図版142 II042・043・044・048  
 図版143 II048・049・056・058・059  
 図版144 II059・061・062・063  
 図版145 II064・065・066・068  
 図版146 II068・069・070・071・073・074・075  
 図版147 II077・078・080・081・082・083・084  
 図版148 II084・088・090・093  
 図版149 II093・094・095・096・097・098・100  
 図版150 II101・102・103・104・105・106  
 図版151 II106・107・109・110・111・112・113  
 図版152 II115・116・118・119・120・121・122  
 図版153 II122・123A・123B・123C・125・126  
 図版154 II126・127・128・129  
 図版155 II130・133・134・135・137・138・139・140  
 図版156 II140・141・142  
 図版157 II142・143・144・146  
 図版158 II147・148・149・150・156・157  
 図版159 II158・161・162・163・164・165  
 図版160 N195・197A・197B・198・199・200・201  
 図版161 III170・173・175・178・181  
 図版162 IIH21・H43・M001・M002・M004  
 図版163 IIM004  
 図版164 IIM004・M006  
 図版165 IIM004手捏ね・紡錘車・土鈴・土玉・土錘・帶  
     金具  
 図版166 土製品・土錘  
 図版167 砥石・石製模造品・石器・火打ち石・石英・磨  
     石・砥石  
 図版168 鉄鏃・刀子・土製円盤・鎌・その他鉄製品  
 図版169 紡錘車・鎌・鉄斧・穂摘具・鍬・釘・鉋・小刀・鍬  
     先・楔・その他鉄製品  
 図版170 文字資料(1) I 004・007・014・018・029・  
     032・033  
 図版171 文字資料(2) I 036・042・043・044・048・049  
 図版172 文字資料(3) I 053・054・055・059・061・  
     II001・004  
 図版173 文字資料(4) II007・018・020・025・028・  
     033・040・059・061・069  
 図版174 文字資料(5) II061・077・094・110  
 図版175 文字資料(6) II110・113・125・138・143・  
     155・157・164  
 図版176 文字資料(7) N200・201・III170・173・  
     IIM001・002・004  
**白井谷奥遺跡遺構・遺物**  
 図版177 1 001 2 002 3 003 4 004  
 図版178 001・004



# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 調査の経過

財団法人千葉県文化財センターは、千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査として千葉県企業庁から業務委託を受け、昭和63年度から鳴神山遺跡の発掘調査を開始した。この地点は営農調整地となる部分で、このほかに住宅・都市整備公団との委託契約による発掘調査(鳴神山遺跡III)も平行して実施した。

昭和63年の発掘調査成果から、遺跡がさらに拡大することが明らかになり、当初範囲を鳴神山遺跡Iとし、南に伸びる部分を鳴神山遺跡IIとして、平成元年度から新たに発掘調査を開始した。さらに、平成2年度には北側に広がる部分を鳴神山北遺跡として追加調査した。

なお、調査当初は鳴神山I遺跡、鳴神山II遺跡、鳴神山III遺跡、鳴神山北遺跡のように別個の遺跡名を付して調査したが、共通の遺跡コードを使用してきたことから窺えるように、それぞれが同一遺跡内での地点の違いということは共通認識されていた。そこで、当初の遺跡名ではあたかも別の遺跡であるような印象が拭えないため、整理段階で地点名を付す位置を変更し、それぞれ鳴神山I遺跡を鳴神山遺跡I(地点)、鳴神山II遺跡を鳴神山遺跡II(地点)、鳴神山III遺跡を鳴神山遺跡III(地点)、鳴神山北遺跡を鳴神山遺跡N(北地点)と改めた。なお、本書では「地点」はすべて省略している。

発掘調査は平成4年度に完了した。年度ごとの調査面積は下記の表1のとおりである。

調査完了に伴い平成4年度途中から整理作業を開始した。

白井谷奥遺跡は鳴神山遺跡に隣接する遺跡である。平成3年度に発掘調査を実施し、平成10年度に整理作業を行った。調査年度及び調査面積は表2のとおりである。

なお、発掘調査開始から報告書刊行までの、年度ごとのセンター組織については表3にまとめた。

表1 鳴神山遺跡調査面積一覧(単位:㎡)

年度	遺跡名	対象面積	上層確認	下層確認	上層本調査	下層本調査
昭和63	鳴神山遺跡I	12,000	874	—	10,790	—
平成元	鳴神山遺跡I	2,800	280	—	2,390	—
	鳴神山遺跡II	7,000	700	—	3,500	—
平成2	鳴神山遺跡II	25,500	2,200	—	24,500	—
	鳴神山遺跡N	7,000	700	—	—	—
平成3	鳴神山遺跡N	4,900	—	—	4,900	—
	鳴神山遺跡II	1,814	—	73	109	0
平成4	鳴神山遺跡II	3,260	—	50	3,260	0

表2 白井谷奥遺跡調査面積一覧(単位:㎡)

年度	遺跡名	対象面積	上層確認	下層確認	上層本調査	下層本調査
平成3	白井谷奥遺跡	2,244	—	—	2,244	—

表3 鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡調査組織表

年 度	遺 跡 名	業務内容	調査部長	班 長	担当調査員
昭和63	鳴神山遺跡 I	発掘	堀部昭夫	大原正義	郷堀英司 岡田光広
平成元	鳴神山遺跡 I・II	発掘	堀部昭夫	上野純司	郷堀英司
平成 2	鳴神山遺跡 II・N	発掘	堀部昭夫	上野純司	郷堀英司
平成 3	鳴神山遺跡 II・N	発掘	天野 努	上野純司	郷堀英司
	白井谷奥遺跡	発掘			
平成 4	鳴神山遺跡 II	発掘	天野 努	田坂 浩	郷堀英司
	鳴神山遺跡 I	整理			
平成 5	鳴神山遺跡 I・II・N	整理	高木博彦	田坂 浩	郷堀英司
平成 6	鳴神山遺跡 I・II	整理	西山太郎	谷 旬	郷堀英司
平成 7	鳴神山遺跡 II・N	整理	西山太郎	谷 旬	田形孝一
平成 8	鳴神山遺跡 I・II・N	整理	西山太郎	谷 旬	田形孝一 整理課 (高梨・木島・大久保)
平成 9	鳴神山遺跡 I・II・N	整理	西山太郎	折原 繁	田形孝一
平成10	鳴神山遺跡 I・II・N	整理	沼澤 豊	折原 繁	鳴田浩司
	白井谷奥遺跡	整理			

※調査部長は平成5年度から7年度の間は調査研究部長  
班長は平成5年度以降所長

## 2 調査の方法

公共座標（第IX座標系）に従い、鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡両遺跡を包括する範囲に対して共通のグリッドを設定した。方眼の設定に当たっては座標  $X = -22.840$ 、 $Y = 25.360$  を起点として、両軸をそれぞれ40m間隔で区切り大グリッドとした。さらにグリッドの中を  $4\text{ m} \times 4\text{ m}$  の100個の小グリッドに分割した。大グリッドは、Y軸が北から南に向かって1, 2, 3, 4, ..., 22, ..., X軸が西から東に向かってA, B, C, D, ..., Y, Zという順序で呼称している。すなわち北西隅の大グリッドは1Aグリッド、逆に南東隅の大グリッドは22Yグリッドになる。ただし、「I」と「J」及び「O」と「Q」はそれぞれ文字が似通っているため、混同する恐れがあり、「I」及び「O」を削除して、その分詰めて設定している。そして、それらの大グリッド中の小グリッドは北西隅小グリッドを始点にして、Y軸が北から南に向かって00, 10, 20, ..., 90、X軸が西から東に向かって00, 01, 02, 03, ..., 09という順序で呼称する。つまり北西隅の小グリッドから南東へと対角線上で見ると00, 11, 22, ..., 99というように進んでいくことになる。すべてのグリッドは北西隅に打たれた杭にそのグリッドの呼称を付帯させている。つまり先の方眼設定の起点となった座標  $X = -22.840$ 、 $Y = 25.360$  は1A-00グリッド北西隅の点となる。

## 3 遺構の表記方法と遺構番号の対応

「鳴神山遺跡」の遺跡名については、一般的な字名からとるのではなく、土地の人々に「ナルカミサマ」として信仰を受けている祠が当地に残っていることから、命名したものである。

遺構番号は、最初に着手したI(地点)については、竪穴住居は001からの通し番号を、溝については101からの通し番号を、土坑・陥穴については201からの通し番号を付し、掘立柱建物についてのみ「H」の記

号を冠して01からの通し番号とした。II（地点）の調査段階では、竪穴住居・土坑をまとめて001からの通し番号とし、溝は「M」の記号を冠して001から、一方掘立柱建物についてはI（地点）との継続性を保たせて、「H」の記号を冠し、連番としている。III（地点）及びN（地点）の竪穴住居・土坑・陥穴・炭焼窯については、IIの調査からの連番としている。したがって、表4のように同一番号の遺構が各調査地点に混在していることになる。そこで本書では、地点を表す「I」、「II」、「III」、「N」を遺構番号の前に付けることによって区別し、混乱を避けることにした。

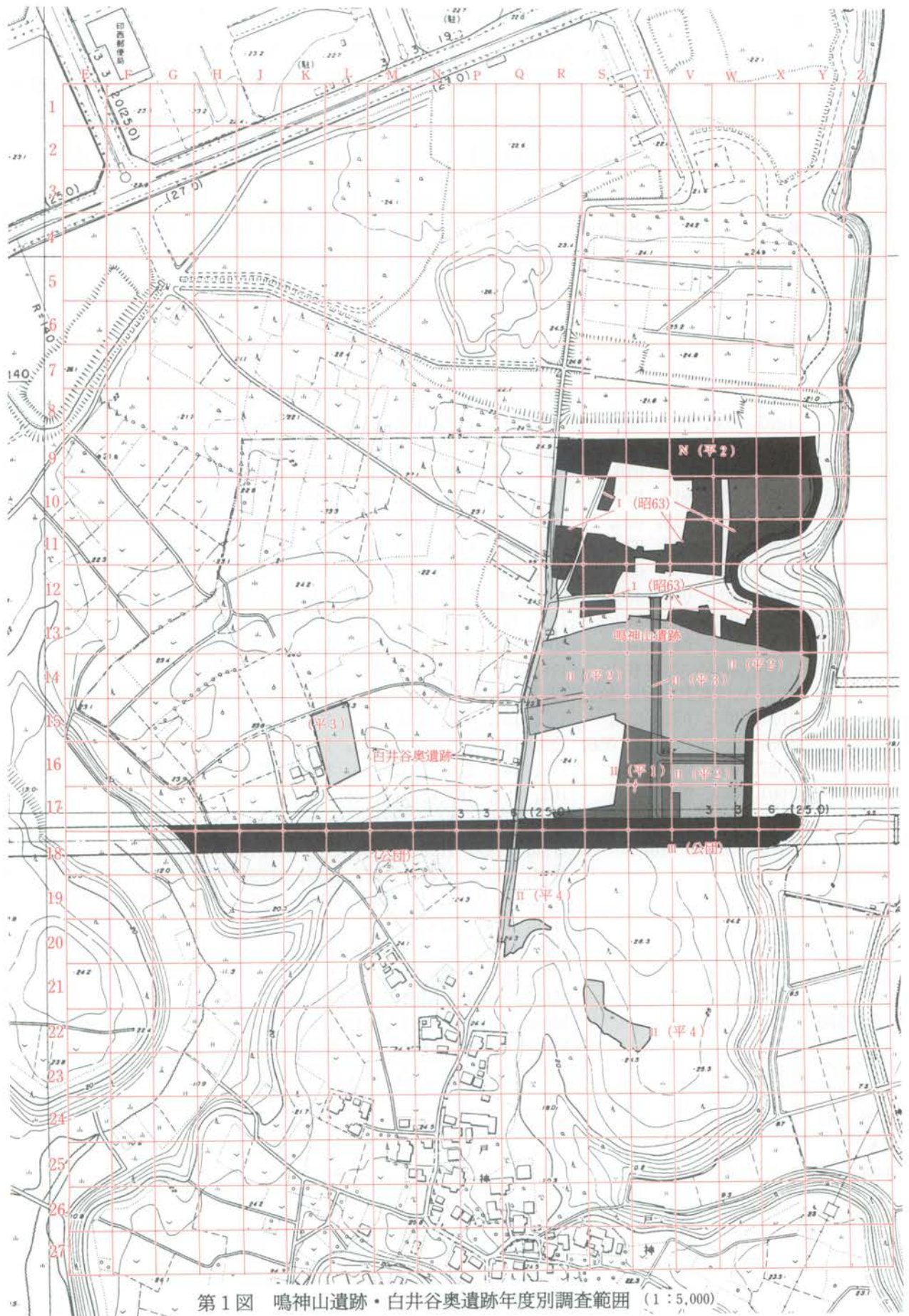
本文では基本的に、遺物の説明を表形式で掲載した。そのうち文字資料はいかなる破片でも載せることとした。また、竪穴住居の規模及び出土遺物の器種別破片数を一覧表形式にして、巻末に掲載した。

表4 鳴神山遺跡遺構番号対応表

	I	II	N	III
竪穴住居	001, 002, 003, 004, 005, 006, 007, 008, 009, 010, 011, 012, 013, 014, 015, 016, 017, 018, 019, 020, 021, 022, 023, 024, 025, 026, 027, 028, 029, 030, 031, 032, 033, 034, 035, 036, 037, 038, 039, 040, 041, 042, 043, 044, 045, 046A, 046B, 047A, 047B, 048, 049, 050, 051, 052, 053, 054, 055A, 055B, 056, 057, 058, 059, 060, 061, 062, 063	001, 003, 004, 005, 006, 007, 008, 009, 010, 011, 012, 013, 014, 015, 016, 017, 018, 019, 020, 021, 022, 023, 025, 026, 027, 028, 029, 030, 031, 032, 033, 034, 035, 036, 037, 038, 041, 042, 043, 044, 045, 048, 049, 051, 056, 057, 058, 059, 060, 061, 062, 063, 064, 065, 066, 067, 068, 069, 070, 071, 073, 074, 075, 076, 077, 078, 079, 080, 081, 082, 083, 084, 088, 090, 092, 093, 094, 095, 096, 097, 098, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120A, 120B, 121, 122, 123A, 123B, 123C, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 155, 156, 157, 158A, 161, 162, 163A, 164, 165	195, 196, 197A, 197B, 198, 199, 200, 201	170, 173, 175, 176, 178, 180, 181
掘立柱建物	H01, H02, H03, H04, H05, H06, H07	H08, H09, H10, H11, H12, H13, H14, H15, H16, H17, H18, H19, H20, H21, H22, H23, H24, H25, H26, H27, H28, H29, H30, H31, H32, H33, H34, H35, H36, H37, H38, H39, H40, H41, H42, H43		
土坑	201, 202, 203, 204, 205, 210	002, 047, 053, 054, 055, 085, 086, 087, 091, 099, 163B, 166, 167A, 167B		
溝(道路)	101 (IIM002), 102 (IIM004)	M001, M002, M003, M004, M005, M006, M008, M009, M010, M011, M012, M013, M014, M015, M016		
陥穴	205, 206, 208	039, 046, 072, 152, 153, 154, 159, 160	205	
井戸		040		
柱穴列		S A 2		

備考

IIIに含まれる遺構（竪穴住居7軒）は公団調査地区との境界にまたがる遺構であり、整理段階で企業庁分として一括して取り扱った。



第1図 鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡年度別調査範囲 (1:5,000)

## 第2節 遺跡の環境と研究略史

鳴神山遺跡及び白井谷奥遺跡は、北総開発鉄道「千葉ニュータウン中央駅」の真南約1kmに位置し、印旛沼の西端に注ぐ神崎川の支流、戸神川右岸の標高25mの台地上に位置する。この台地は東西300m、南北600mを測り、東側に幾つかの小支谷が入り込むが、台地のほぼ全域で、奈良・平安時代の集落が展開していることが、想定される。

付近は現千葉県企業庁や現住宅・都市整備公団により、昭和40年代中ごろから千葉ニュータウンとして大規模な宅地開発や関連する市街化整備が行われており、周辺の遺跡については比較的早くから発掘調査が実施されていた。

しかしながら、鳴神山遺跡の調査以前には、奈良・平安時代の大規模な集落遺跡の調査例に乏しかったこともあり、倭名類聚抄に記載されている印旛郡船穂郷の地名が、現在の印西市船尾として残されているにもかかわらず、これまでは余り注目されてこなかった。

船穂郷の隣郷の一つである村神郷については、八千代市村上込ノ内遺跡や萱田遺跡群という大規模な遺跡群の調査成果から、東国の代表的な古代村落の一つとして、全国的に注目されている。

また、近年においても、八千代市教育委員会により、今まで調査例が少なかった八千代市の北東部に当たる神野・保品地区の調査が行われており、より明確な郷域が確定できるような状況になってきた。

一方、千葉ニュータウン内においても、前述したように昭和63年度から鳴神山遺跡の調査を開始し、その後も鳴神山遺跡周辺の発掘調査が進んだ結果、昭和63年度以前に断片的に調査され、関連する時代の遺構・遺物が見つかった遺跡についても、船穂郷の一部であったり、郷のはずれであることが確認できるようになりつつある。さらに千葉ニュータウン周辺域においても、船穂郷の郷域と想定できる地区について、近年幾つかの発掘調査が行われており、まだ推測の域を越えない部分が多いが、おぼろげながら船穂郷の郷の全体が明らかになってきている。

鳴神山遺跡については、その調査段階や整理の途中で、遺跡の紹介や論考が幾つかなされている。

郷堀英司は豊富な文字資料の中から、「方代」、「召代」、「國玉神」、「大国玉」、「神」などの墨書や「佛」の墨書がほぼ同じ時期の土器に見られることから、当時の民衆が仏教と「國玉神」等の在地神を重層的に扱う、すなわち明確な宗教的観念にとらわれない、現世利己的な祭祀形態の現れとして神仏習合がなされていたのではなかろうかと考えた。また、線刻と墨書での字形の変化に着目し、墨や筆を扱える人間と、その文字を真似するような人間の存在を想定した。<sup>1)</sup>

田形孝一は紀年銘墨書土器と他遺跡の紀年銘土器との比較検討から、従来の土器編年の有効性を検証している。また、小型甕を倒位にし、土器片を積み重ねるというタイプの竈祭祀の存在を指摘している。また、竈前面が壊される一方で、竈祭祀の位置が火床部最奥でなされていることから、竈の解体と竈祭祀が密接に関係していることが考えられるとした。その他、獣骨・大量の土器・貝殻を出土した井戸状遺構については、擬制的な井戸であり、水に関わる国神への祭祀のために存在したものとした。また、多量に出土した常陸産須恵器や千葉市域産須恵器、北武蔵産・上総産・下野産・東海産須恵器、施釉陶器及び特殊な例として東海産と考えられる刷毛目甕を紹介している。<sup>2)</sup>

その後田形は、豊富な文字資料から、船穂郷の歴史景観の復元を試みている。<sup>3)</sup>



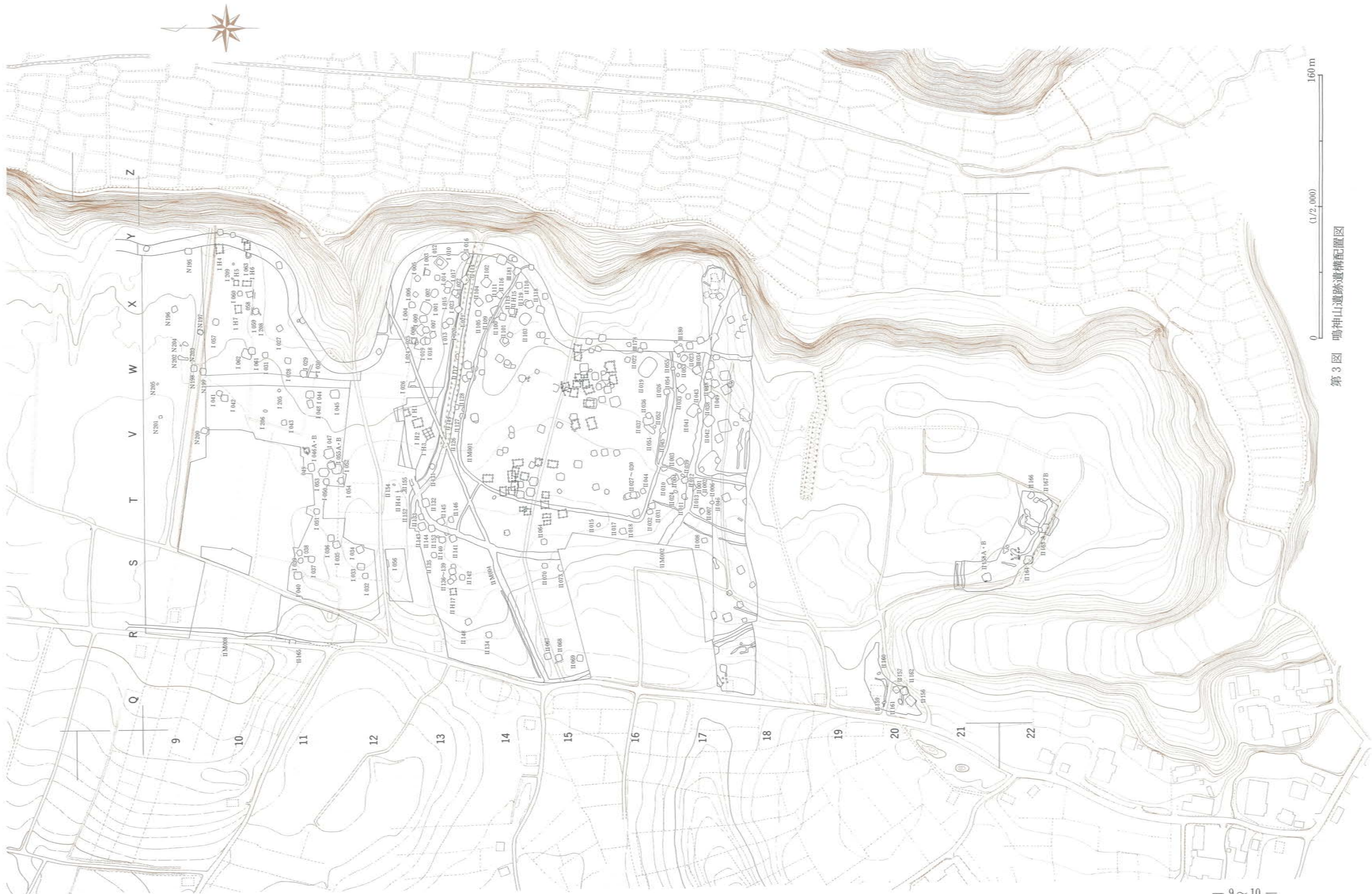
第2図 遺跡位置図 (1/50,000)

表5 周辺の主な奈良・平安時代の遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	検出遺構	特徴のある遺物	文献
1	鳴神山遺跡	竪穴住居、掘立柱建物、井戸、道路、溝、土坑	紀年銘墨書土器、線刻土器、ヘラ書き土器、鉄鏃、鉄製鎌、青銅製帯金具、畿内産土師器甕、奈良三彩、彩釉陶器、茨城産須恵器	1 2 3
2	船尾白幡遺跡 船尾白幡II遺跡	竪穴住居、掘立柱建物	墨書土器、青銅製帯金具、鉄製鎰、石帯、茨城産須恵器、杯13点一括資料	4
3	白井谷奥遺跡	竪穴住居	土師器、須恵器、墨書土器、転用硯	5
4	北の台遺跡	竪穴住居	土師器、須恵器、土製馬、土製人形	6
5	南西ヶ作遺跡	竪穴住居、土坑	丸瓦、蓮花卉墨書土器	7
6	大塚前遺跡	四面庇建物、竪穴住居	下総国分寺同范宝相華文軒丸瓦、軒平瓦、「埴」文字瓦	8
7	松崎遺跡群	竪穴住居	土師器、須恵器	9
8	清戸遺跡	竪穴住居、掘立柱建物	土師器、須恵器、施釉陶器	10
9	村上込の内遺跡	竪穴住居155、掘立柱建物24、井戸1、土坑17	墨書土器248、刻書土器45、ヘラ書き土器28、銅製帯金具、鋤鍬、紡錘具	11
10	萱田遺跡	竪穴住居552、掘立柱建物222、土坑、方形墓坑溝、土器焼成坑	紀年銘墨書土器、人面墨書土器、小金銅仏、奈良三彩、和銅開珎、瓦塔	12
11	上谷遺跡、栗谷遺跡、役山東遺跡、雷遺跡、向境遺跡、境堀遺跡	竪穴住居、掘立柱建物、土坑、ピット	土師器、須恵器	13

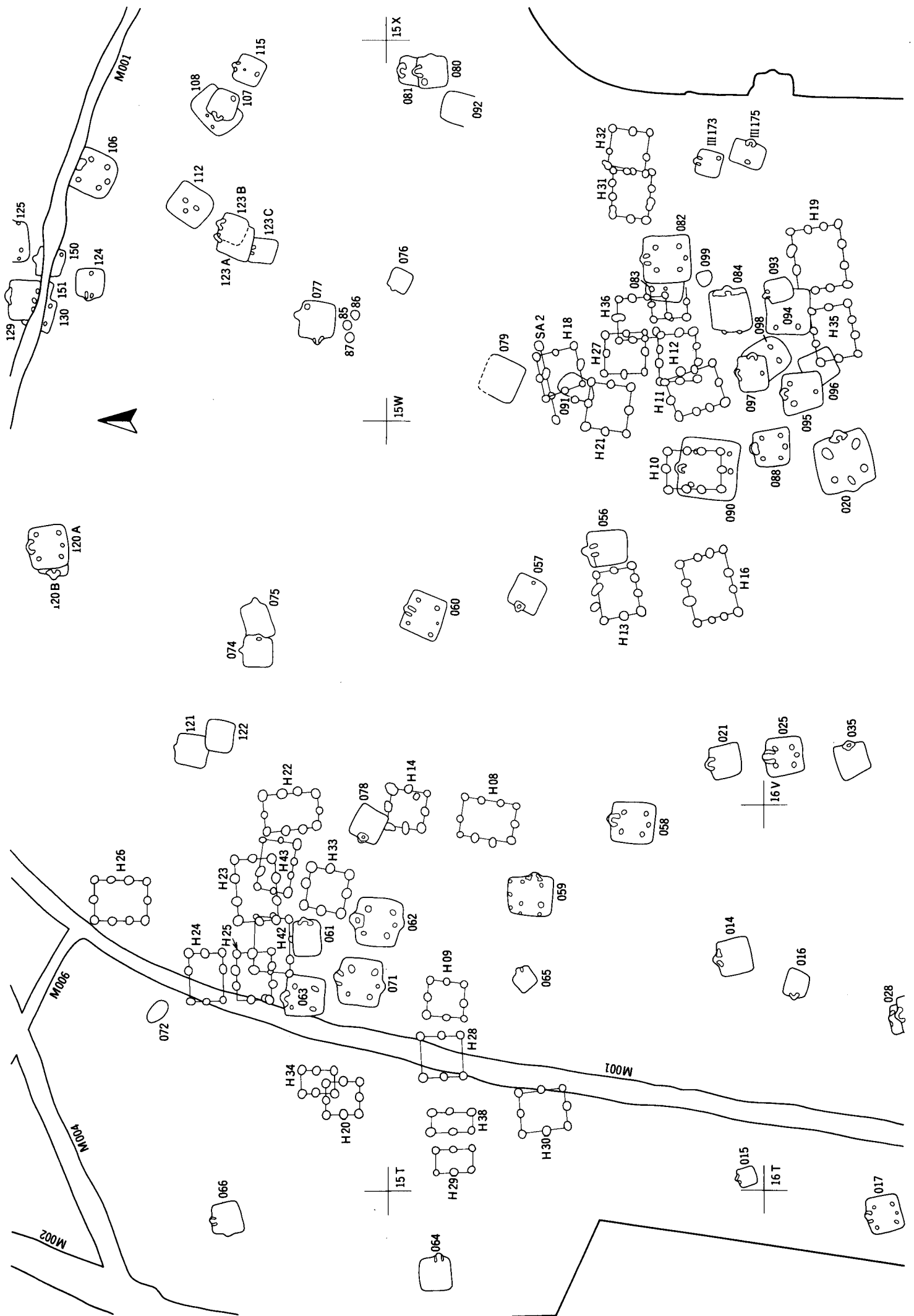
注（番号は上表の文献に同じ）

- 1 郷堀英司 1994「鳴神山遺跡遺跡群出土の文字資料」『研究連絡誌』第40号
- 2 田形孝一 1996「集落から村落へ（1）-古代東国村落復元へのアプローチ-」『研究連絡誌』第47号
- 3 田形孝一 1997「下総国印旛郡船穂郷の歴史景観-印西市鳴神山遺跡とその周辺-」『千葉史学』第31号
- 4 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書』V 千葉県開発庁・（財）千葉県都市公社 1976  
『千葉県文化財センター年報』平成6年度・7年度・8年度 （財）千葉県文化財センター
- 5 『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報』平成3年度 千葉県教育庁生涯学習部文化課
- 6 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書』III 昭和50年 房総考古資料刊行会
- 7 『千葉県文化財センター年報』平成4年度・5年度・6年度 （財）千葉県文化財センター
- 8 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書』II 1973 千葉県開発庁・（財）千葉県都市公社
- 9 『千葉県文化財センター年報』平成6年度・7年度 （財）千葉県文化財センター
- 10 『千葉県文化財センター年報』昭和62年度・平成4年度 （財）千葉県文化財センター
- 11 多くの文献があるが、最近発刊された『千葉県の歴史』資料編 考古3（奈良・平安時代）にまとめられている。
- 12 9に同じ
- 13 『八千代市埋蔵文化財調査年報』平成5年度・6年度 八千代市教育委員会



第3图 鸣神山遗迹遗构配置图





第 4 図 II 地区遺構集中地点詳細図 (1/500)

## 第2章 鳴神山遺跡

### 第1節 縄文時代

縄文時代の遺構は、11基の陥穴のみである。陥穴は調査区全域に広く分布し、特に集中する地点はない。遺物は早期・前期・中期・後期・晩期にわたるが、断片的であり、総じて遺物量は少ない。

#### (1) 遺構

I 206・208、II 039・046・154、N 205 (第5図、図版32・115・167)

いずれも陥穴である。I 206は楕円形プランで、長軸2.2m、短軸1.3m、深さ3.0mを測る。10V-98グリッドに位置する。I 208は長軸3.0m、短軸0.5m、深さ0.9mを測る。10X-82グリッドに位置する。II 039は長軸2.5m、短軸1.8m、深さ1.7mを測る。17T-27グリッドに位置する。II 046は長軸2.6m、短軸1.8m、深さ2.2mを測る。17T-63グリッドに位置する。II 154は長軸1.7m、短軸1.3m、深さ1.9mを測る。12T-86グリッドに位置する。N 205は長軸1.8m、短軸1.4m、深さ2.1mを測る。9W-22グリッドに位置する。II 039埋土中からは、石鏃が1点出土している。

II 072・152・153・159・160 (第6図、図版105・106)

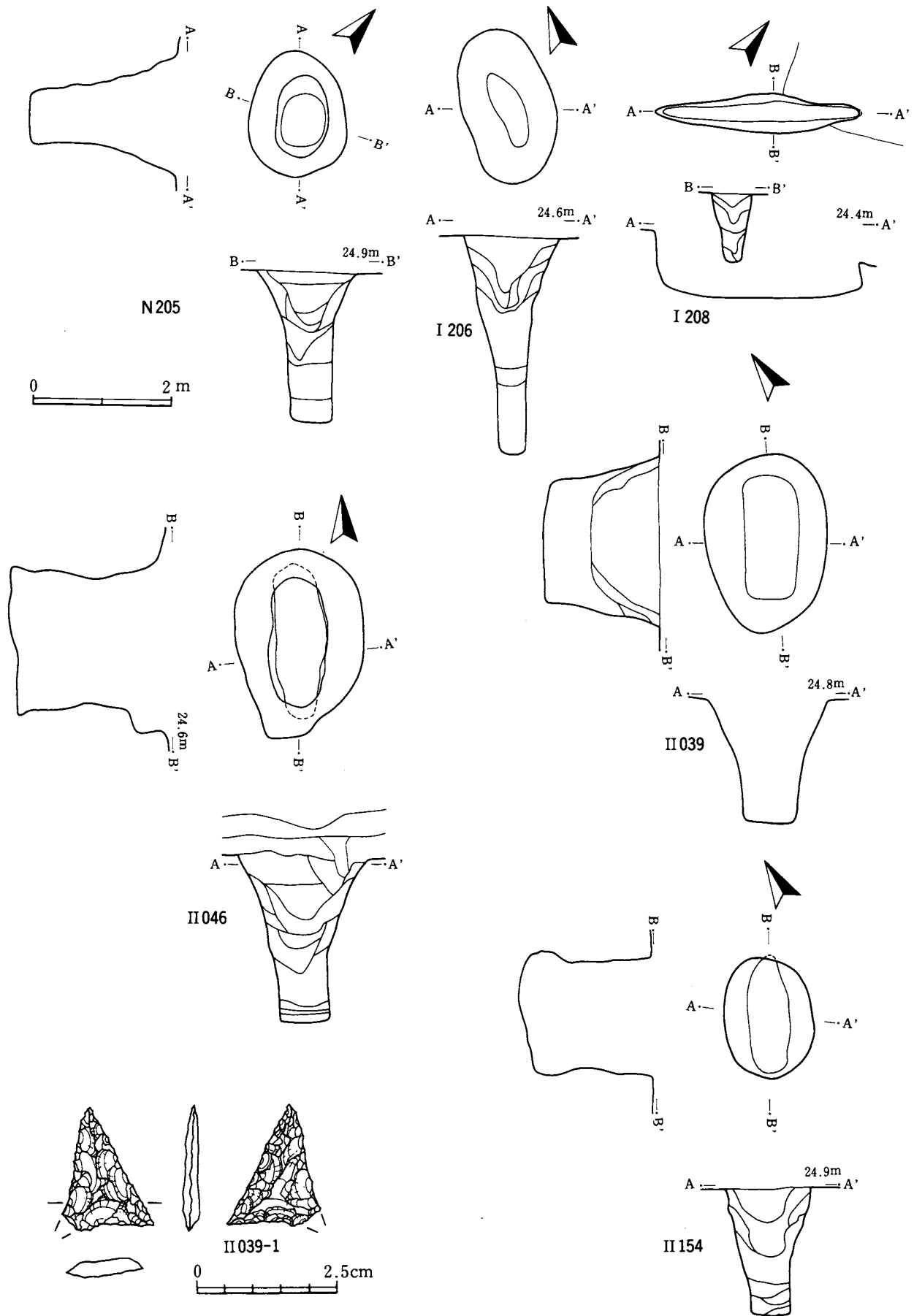
いずれも陥穴である。II 072は長軸3.0m、短軸2.1m、深さ2.3mを測る。14T-34グリッドに位置する。II 152は長軸2.1m、短軸0.6m、深さ1.8mを測る。13T-11グリッドに位置する。II 153は長軸1.9m、短軸1.3m、深さ2.6mを測る。13S-58グリッドに位置する。II 159は長軸2.6m、短軸1.4m、深さ2.2mを測る。20Q-13グリッドに位置する。II 160は長軸2.2m、短軸1.1m、深さ1.6mを測る。20Q-17グリッドに位置する。

II 158B (第246図、図版90・91)

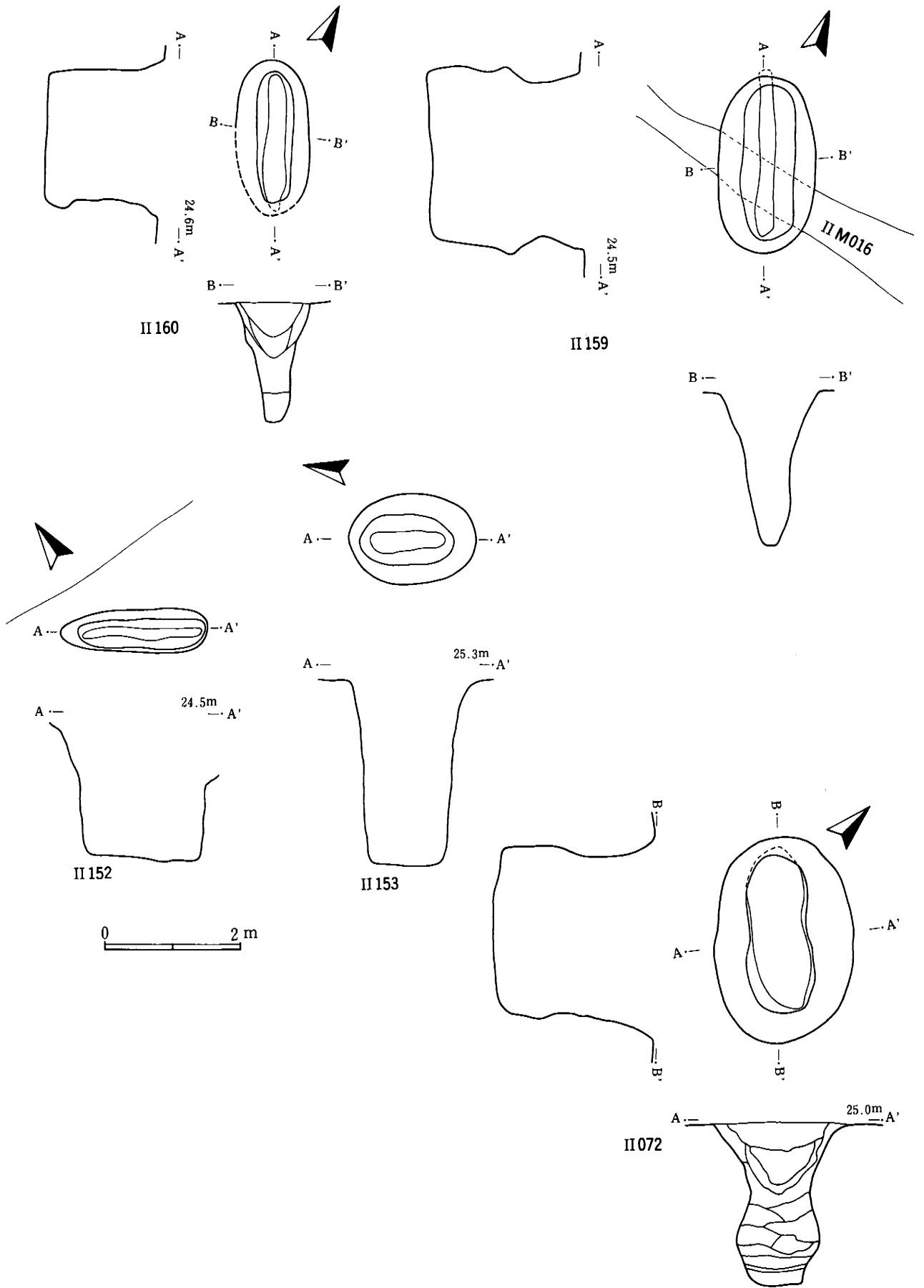
II 158A (竪穴住居) 中から検出された陥穴である。長軸1.8m、短軸0.3m、深さは0.8mを測る。

#### (2) 遺物 (第7・8図)

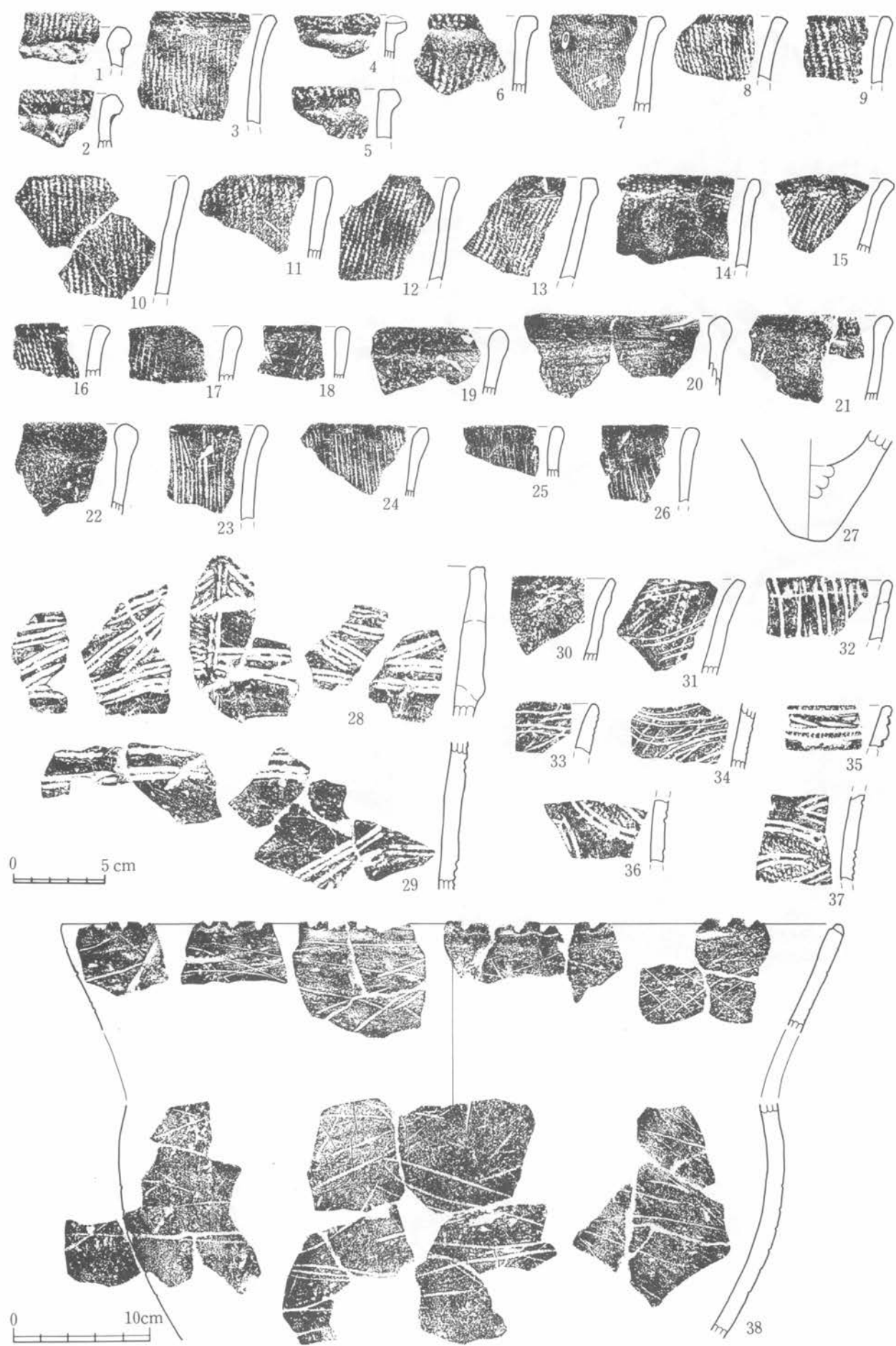
鳴神山遺跡からは、縄文時代早期から晩期の各時期の土器が、断片的に出土している。縄文時代の遺構に伴うものではなく、新しい時代の遺構覆土中に混入したものと、調査区内から出土したものである。総数で、整理箱3箱程度で、多くが摩滅した小破片である。出土したすべての縄文土器から、土器の様相が明らかとなるよう、各時期の遺物を抽出して図化した。早期前葉の燃糸文土器はやや多く出土しており、とくに夏島式から稻荷台式と考えられる土器が目につく。また中期前半の阿玉台式がやや多く出土している。なお阿玉台式の土器片を用いた、土器片錘が3点出土している。観察表中の項目については、胎土は、肉眼で見て最も顕著な混入物に関して記載し、色調は外面の色調を記載した。



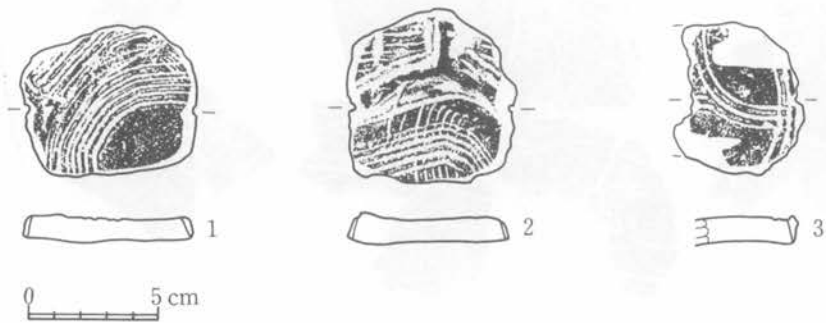
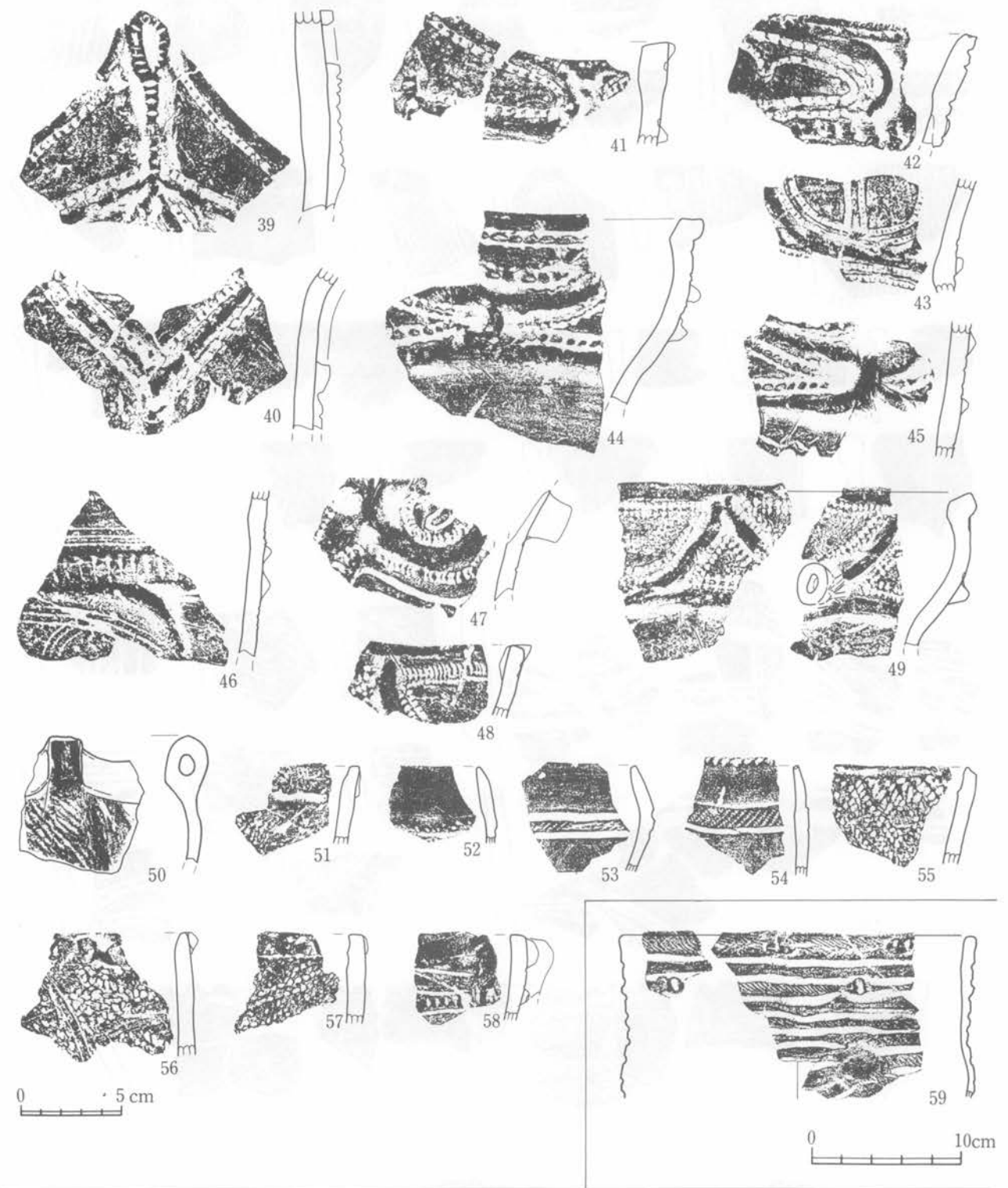
第5图 I 206·208、II 039·046·154、N205



第6图 II072·152·153·159·160



第7図 縄文土器



第8図 縄文土器・土製品

表6 鳴神山遺跡縄文土器観察表

種別番号	時期	分類	部位	重量(g)	胎土	焼成	色調	備考	遺物番号
1	早期前葉	井草式	r	13.12	砂粒、白色粒多	良	暗褐色	縄文RL?	16V
2	早期前葉	井草式	r	14.88	白色粒多	良	暗褐色	縄文RL	026-2
3	早期前葉	井草式	r	36.80	砂粒、白色粒	良	暗褐色	縄文RL	010-112
4	早期前葉	井草式	r	12.70	砂粒	やや良	黄褐色	縄文RL	16V-65-1
5	早期前葉	井草式	r	14.85	砂粒、白色粒	良	褐色	縄文RL	16W-82-1
6	早期前葉	井草式	r	26.23	白色粒	やや良	暗赤褐色	縄文RL	II M005-4
7	早期前葉	夏島式	r	24.92	砂粒、白色粒	やや良	暗褐色	捺糸文R 補修孔あり	16W-62-1
8	早期前葉	夏島式	r	18.90	白色粒	良	暗褐色	捺糸文R	16W-93-1
9	早期前葉	夏島式	r	15.12	白色粒少	良	暗赤褐色	縄文RL	16W-86-1
10	早期前葉	夏島式	r	47.96	砂粒少	良	黄褐色	縄文RL	16W-93-1
11	早期前葉	夏島式	r	27.68	白色粒	良	暗赤褐色	縄文RL	II M002-25
12	早期前葉	夏島式	r	27.56	砂粒	良	暗褐色	縄文RL	16W-94-1
13	早期前葉	夏島式	r	26.59	砂粒	良	暗褐色	縄文RL	16W-85-1
14	早期前葉	夏島式?	r	37.29	砂粒	やや良	黄褐色	縄文不明	16W-95-1
15	早期前葉	夏島式	r	21.29	白色粒	やや良	暗褐色	縄文RL	16W-95-1
16	早期前葉	稻荷台式	r	12.44	白色粒	良	暗褐色	捺糸文R	17W-02-1
17	早期前葉	稻荷台式?	r	16.20	砂粒	やや不良	暗褐色	捺糸文R	10X-59-1
18	早期前葉	稻荷台式	r	11.46	白色粒	良	暗褐色	捺糸文L	10X-38-1
19	早期前葉	稻荷台式	r	26.86	砂粒	良	黄褐色	捺糸文R?	10Y-12-1
20	早期前葉	稻荷台式	r	39.02	砂粒	良	黄褐色	捺糸文R?	9Y-91-1
21	早期前葉	稻荷台式	r	27.09	砂粒	やや良	暗褐色	捺糸文R?	10Y-32-1
22	早期前葉	稻荷台式	r	29.40	砂粒	良	暗黄褐色	捺糸文R	10X-08-1
23	早期前葉	稻荷台式?	r	21.42	白色粒	やや良	褐色	絡条体条痕?	16W-94-1
24	早期前葉	稻荷台式	r	16.91	白色粒少	良	暗褐色	絡条体条痕?	16W-93-1
25	早期前葉	稻荷台式	r	10.98	白色粒	やや良	褐色	絡条体条痕?	16W-86-1
26	早期前葉	稻荷台式	r	16.05	白色粒少	良	暗褐色	絡条体条痕?	17W-25-1
27	早期前葉		b	122.34	白色粒	やや良	褐色	尖底部	10X-49-1
28	前期前半	黒浜式?	r	170.94	砂粒、繊維少	やや良	暗褐～褐色	半截竹管による沈線	209-2,10Y-38-1,10Y-48-1,10Y-49-1
29	前期前半	黒浜式?	m	116.51	砂粒、繊維少	やや良	暗褐～褐色	28と同一個体	10Y-38-1,10Y-48-1
30	前期前半		r	14.35	砂粒、繊維	良	暗褐色	縄文不明	10X-33-1
31	前期後半	浮島式	r	27.22	砂粒	良	暗褐色	地文捺糸文R	210-1
32	前期後半	浮島式	r	18.71	砂粒	良	褐色		10X-63-1
33	前期後半	浮島式	r	10.09	砂粒少	やや良	褐色	地文捺糸文?	10X-49-1
34	前期後半	浮島式	r	23.20	砂粒少	良	黒褐色	地文捺糸文?	10X-49
35	前期後半	諸磯a式	r	10.75	砂粒	やや良	暗褐色		10X-28-1
36	前期後半	諸磯a式	r	17.85	砂粒	良	褐色		10X-22-1
37	前期後半	諸磯a式	r	20.80	砂粒	良	暗褐色		10X-59-1
38	前期後半	浮島式	r	1673.26	砂粒、白色粒少	やや不良	暗褐～褐色	重量は石膏分を含む	10Y-60-1
39	中期前半	阿玉台I b式	r	193.35	砂粒、白色粒	良	暗赤褐色	40、41と同一個体	16W-76-1,16W-85-1
40	中期前半	阿玉台I b式	m	111.84	砂粒、白色粒	良	暗赤褐色	39と同一個体	16W-85-1,16W-86-1
41	中期前半	阿玉台I b式	r	94.13	砂粒、白色粒	良	暗赤褐色	39と同一個体	16W-85-1
42	中期前半	阿玉台I b式	r	88.05	砂粒、雲母少	良	暗赤褐色		037-256
43	中期前半	阿玉台I b式?	m	62.48	白色粒	やや良	褐色		019-323,324
44	中期前半	阿玉台II式	r	137.54	砂粒	良	黄褐色	複列の結節沈線	14X-65-1
45	中期前半	阿玉台II式	m	64.03	白色粒	良	黄褐色	複列の結節沈線	14X-65-1
46	中期前半	阿玉台II式	m	77.99	砂粒多	良	暗褐色		103-7,8
47	中期前半	阿玉台III式	r	66.51	白色粒多、雲母	良	暗褐色		16W-93-1
48	中期前半	勝坂式	r	40.17	白色粒少	良	暗赤褐色		14X-65-1
49	中期前半	勝坂式	r	140.95	砂粒少	良	暗褐色		14X-65-1
50	中期後半	加曾利EIV式	r	49.76	砂粒	良	暗褐色		10Y
51	後期前葉	堀之内2式?	r	19.69	砂粒	良	暗褐色	隆線上縄文?	166-0
52	後期中葉	加曾利B1式	r	12.89	白色粒少	良	暗褐色		II M005-2
53	後期中葉	加曾利B1式	r	21.83	白色粒少	良	暗褐色		118-134
54	後期中葉	加曾利B1式	r	21.7	砂粒	良	暗褐色		II M002-35
55	後期中葉	加曾利B式	r	28.72	砂粒	良	暗褐色	粗製土器	008-90
56	後期中葉	加曾利B式	r	54.68	砂粒少	良	暗赤褐色	粗製土器	15W-60-1
57	後期中葉	加曾利B式	r	27.75	砂粒	良	褐色	粗製土器	II M005-2
58	後期後葉	安行2式	r	26.5	黒色粒	やや良	暗黄褐色		II M001-3
59	晩期前葉	安行3a式	r	159.25	砂粒	良	暗褐色	台付鉢?	16W-84-1,16W-84-3

表7 鳴神山遺跡縄文時代土製品観察表

種別番号	時期	種類	部位	重量(g)	胎土	焼成	色調	備考	遺物番号
1	中期前半	土器片鉢	m	51.46	白色粒、雲母少	良	暗褐色	阿玉台式	II M001-49
2	中期前半	土器片鉢	m	58.98	白色粒	良	暗褐色	阿玉台式	14X-66-1
3	中期前半	土器片鉢	m	36.50	砂粒	良	暗褐色	阿玉台式	14X-66-1

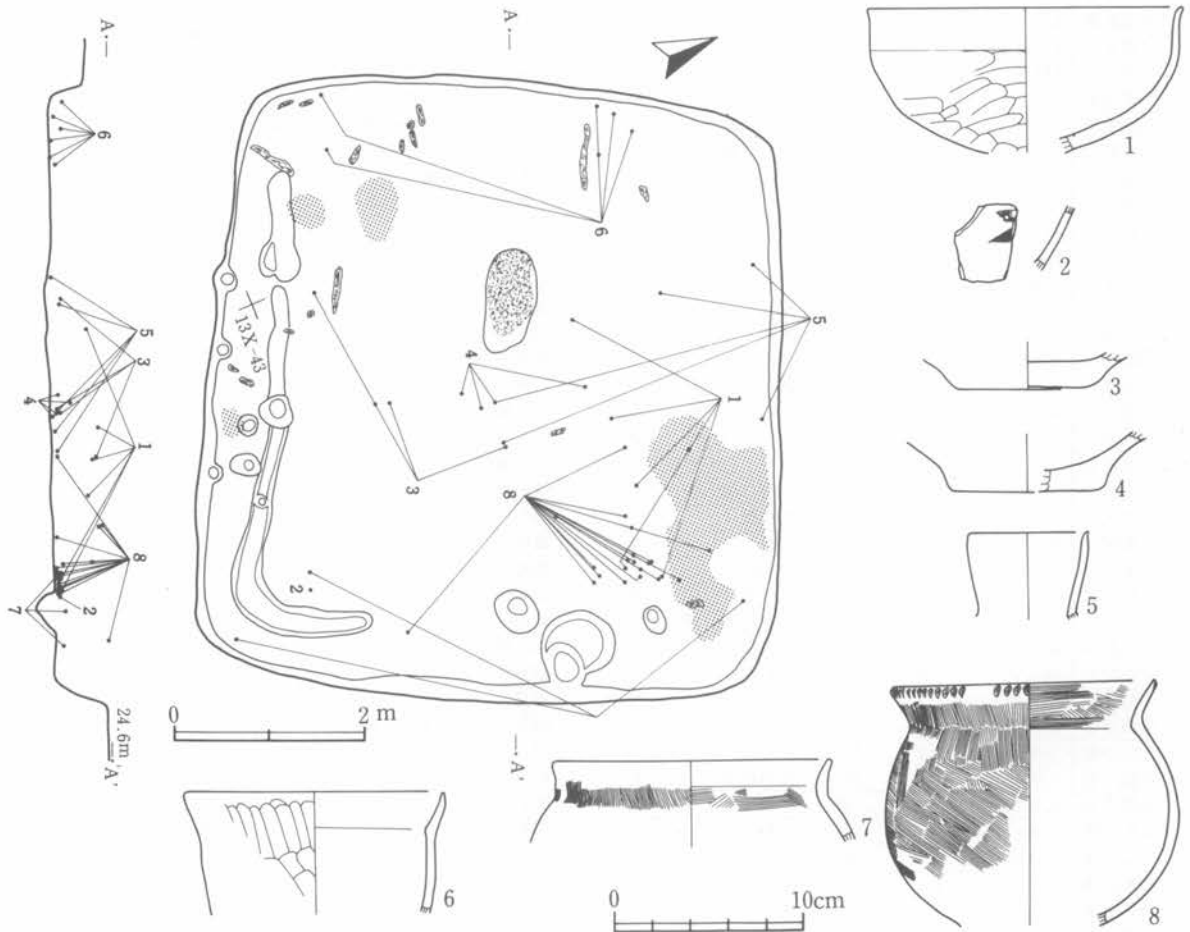
\* 部位のrは口縁部、mは体部、bは底部を表す。胎土は肉眼で見て最も顕著なものを記載し、色調は外面の色調を記載した。

## 第2節 弥生時代後期から古墳時代前期

弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺構は、すべて竪穴住居で、総数21軒になり、大きく2か所に集中する。いずれも北から南へ開析される谷に面した、舌状に張り出した台地の東側縁辺部に当たる。北側の集中地点には東西70m×南北70mの範囲(13X、13Y、14X、14Y大グリッド)に15軒の竪穴住居が密集する。その集中地点から南約100mの地点にもう1か所の集中地点(16Y、16W、17Y、17W大グリッド)がある。ここには6軒の竪穴住居が集中する。

### I 001 (第9図、図版3・117)

古墳時代前期の住居で、床面近くから、焼土と炭化材を検出した。また、深さ0.1m~0.15mの、拡張する以前の壁溝を検出した。南壁には3本の壁柱穴が伴う。床面中央やや西寄りの位置に地床炉が設けられている。炉内の火床部は極めて強い熱を受けている。床面は全体的にあまり硬化していない。ハケ目調整の甕が住居東コーナー床面付近から破片となって出土している。



第9図 I 001

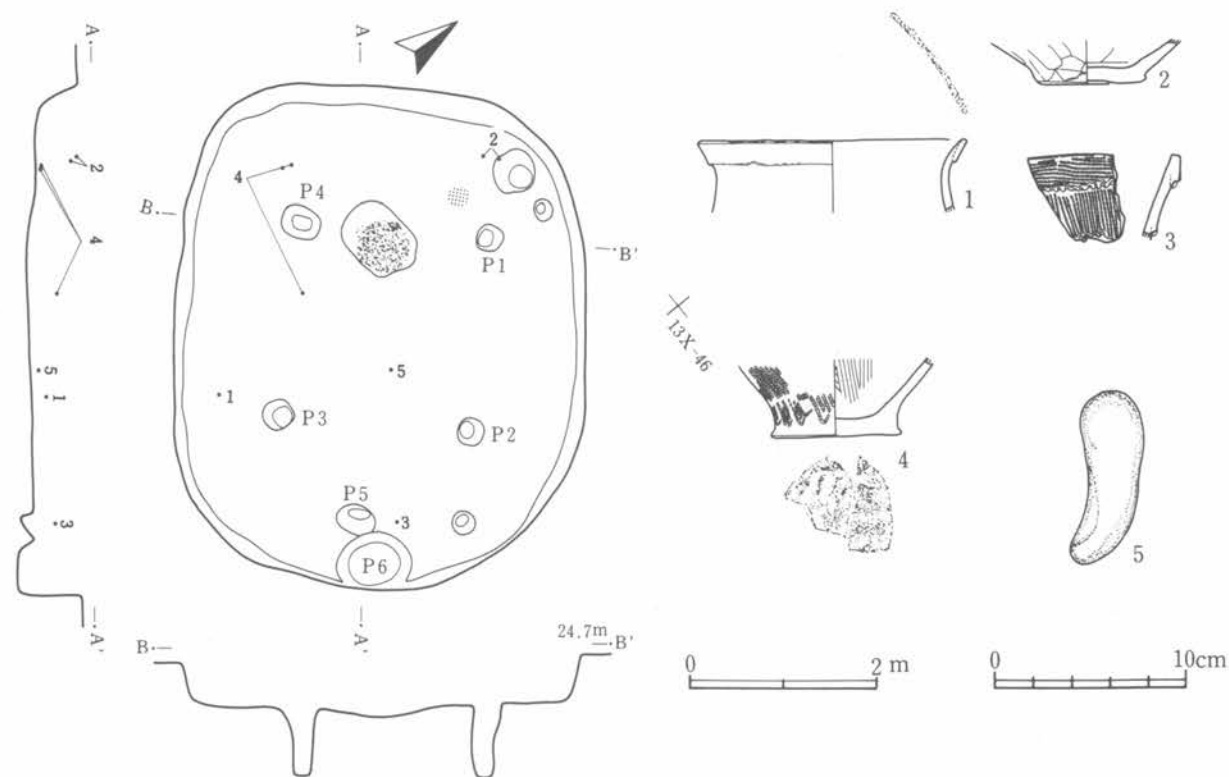


表8 I 0 0 1

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第9図の1	土師器 鉢	16.6	7.5	-	砂粒を含む	褐色～黒褐色		39、41、45、54、109、139
第9図の2	土師器 杯	-	-	-	砂粒を含む	褐色	墨書(体外) □□	7
第9図の3	土師器 甕	-	-	7.0	砂粒を含む	褐色	底外木葉痕	85、126、131、132
第9図の4	土師器 甕	-	-	7.7	砂粒・スコリア含む	暗褐色	底部ヘラケズリ	69、80、116、129
第9図の5	土師器 壺	6.3	-	-	砂粒を含む	褐色		62、64、65、129、146
第9図の6	土師器 甕	13.6	4.3	-	砂粒を含む	褐色		73、94、134、136、137、150
第9図の7	土師器 甕	14.6	-	-	砂粒を含む	暗褐色	ハケ目	1、10、48、I002-10、12、19、65
第9図の8	土師器 甕	13.7	12.7	-	砂粒を含む	淡褐色	ハケ目、口縁部刻み	19、33、34、36、37、50、53、56、104、105、106、107、118、119、130、139、141、142、152

I 0 0 2 (第10図、図版3・167)

弥生時代後期のほぼ隅丸の、いわゆる小判形となる住居で、東側のコーナーの湾曲は強い。柱穴は4本で、心々間距離で2.0mを測る。P5は出入口に伴うハシゴ等の挿入ピットと考えられる。P6は貯蔵穴であろう。床面は全体的に軟弱である。柱穴のうち、西側の2本(P1・P4)の掘り方はほぼ長方形となるが、東側の2本(P2・P3)は円形となる。またP5の掘り方から推定すると、ハシゴは床面から46度の角度で取り付けられていたと考える。出土遺物は極めて少ない。



第10図 I 0 0 2

表9 I 0 0 2

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第10図の1	弥生土器 甕	(13.7)	-	-	乳白色微砂粒・長石粒含む	灰褐色	口唇部RL単節縄文	5
第10図の2	土師器 小型甕	-	-	5.4	乳白色微砂粒・長石粒含む	褐色		25、47
第10図の3	弥生土器 甕	-	-	-	乳白色微砂粒含む	暗褐色	外面燃糸文、折り返し口縁	37
第10図の4	土師器 甕	-	-	(6.8)	乳白色微砂粒・長石粒含む	暗褐色	底外木葉痕、外面縄文、内面ハケ目	8、18、41
第10図の5	砥石	63.3g	-	-	凝灰岩	-		62

I 010 (第11図、図版7・8・167)

弥生時代後期の住居で、中央部をI 012に削平される。炉や柱穴の一部もI 012によって削平される。確認した柱穴は3本である。他に貯蔵穴と考えられるP1は南東壁とP2の中間に位置している。床面は全体的に軟らかく、遺物の出土は多くないが、3の弥生土器甕底部と6の弥生土器甕胴部が、住居北コーナーの覆土中から出土している。

表10 I 0 1 0

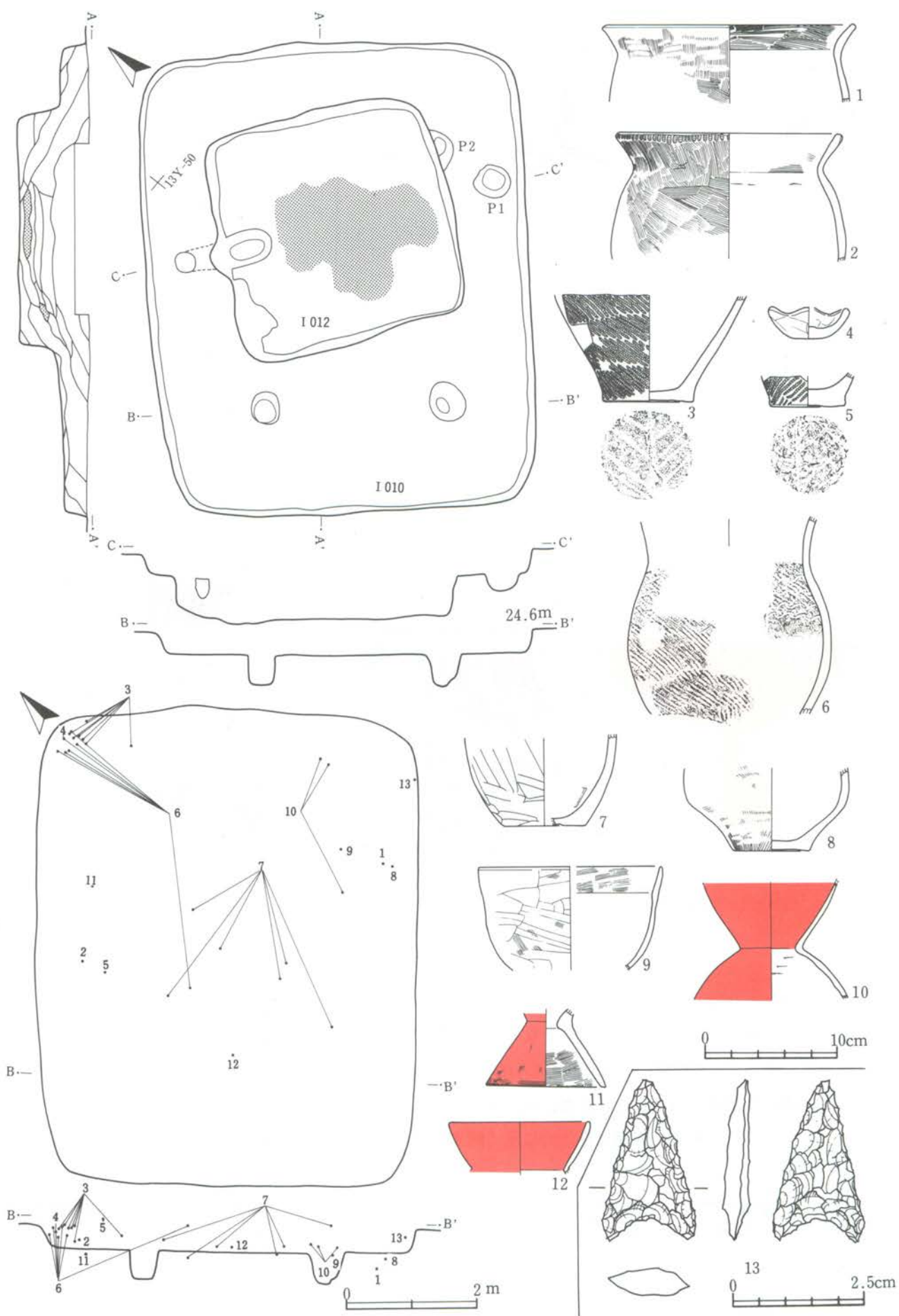
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第11図の1	土師器 甕	(18.7)	—	—	乳白色砂・長石含む	外面赤褐色 内面褐色	内外面ハケ目	127
第11図の2	土師器 甕	(16.4)	—	—	乳白色砂・長石・スコリア含む	暗褐色	内外面ハケ目、口唇部刻み	91
第11図の3	弥生土器 甕	—	—	6.8	乳白色砂・長石含む	黄褐色	外面R L単節縄文、底外木葉痕	1、2、3、9、10、11、73、一括
第11図の4	手捏ね	(5.7)	2.3	(2.5)	石英・長石・スコリア含む	黒褐色		4
第11図の5	弥生土器 甕	—	—	5.8	乳白色砂・長石含む	褐色	外面R L単節縄文、底外木葉痕	89
第11図の6	弥生土器 甕	—	—	—	乳白色砂・長石含む	黄褐色	胴部上半R L結節縄文、胴部下半R L単節縄文	4、5、6、8、75、77、80、一括
第11図の7	土師器 甕	—	—	6.2	乳白色砂・長石・スコリア含む	外面暗褐色 内面褐色	底外木葉痕	30、82、92、93、109、116、I 012-5、7、13Y-50
第11図の8	土師器 壺	—	—	5.9	乳白色砂・長石含む	褐色～黒褐色	外面ハケ目	124
第11図の9	土師器 椀	(13.8)	—	—	長石・スコリア含む	褐色～灰色	ハケ目、ヘラケズリ	101、I 012-4、19
第11図の10	土師器 埴	—	—	—	乳白色砂・長石・スコリア含む	赤褐色	外面全体および内面口頸部赤彩	38、39、79、一括
第11図の11	土師器 器台	—	—	9.1	乳白色砂・長石含む	赤褐色	ハケ目、外面赤彩	28
第11図の12	土師器 埴	(10.8)	—	—	乳白色砂・長石・石英含む	赤褐色	内外面赤彩	103
第11図の13	石鏃	最大幅 17.5mm	最大高 30.1mm	最大厚 5.7mm	流紋岩、1.96g	—		31

I 017 (第12図、図版10・121)

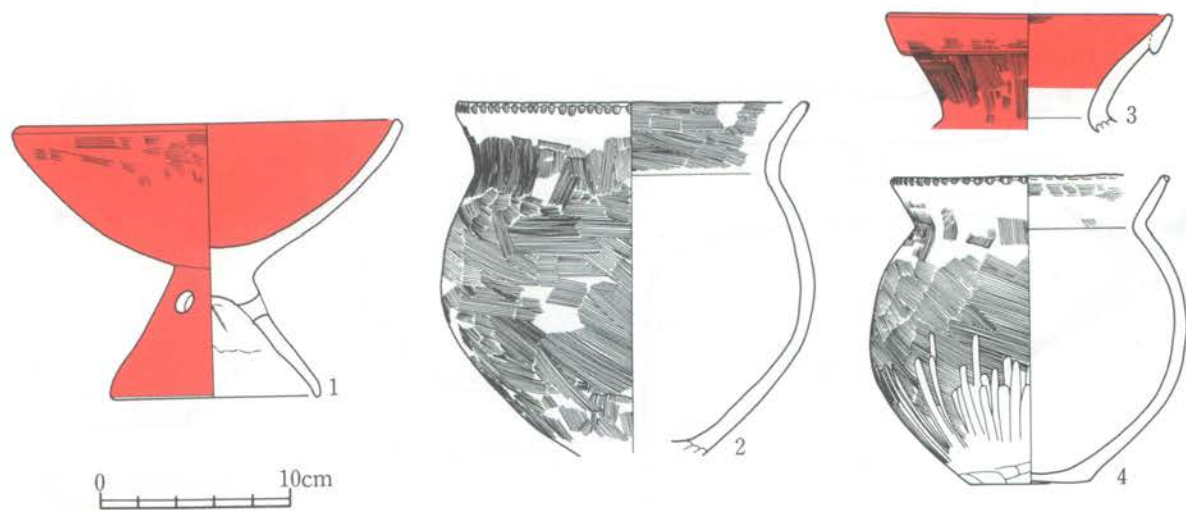
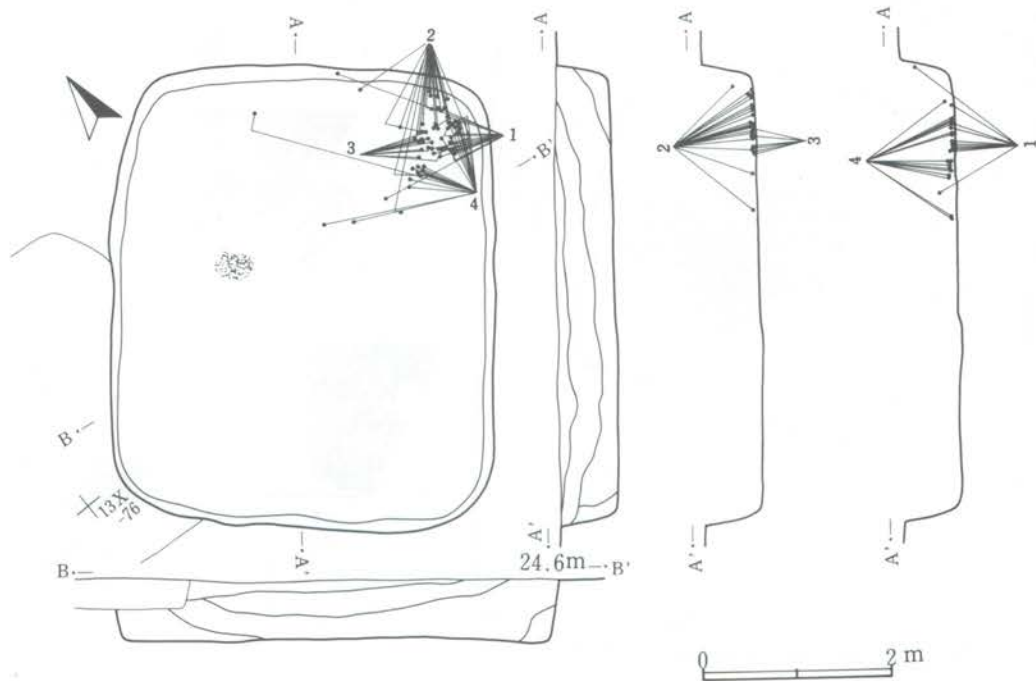
古墳時代前期の住居で、I 015と重複し、本跡のほうが古い。平面プランは、炉の位置から見ると横長の隅丸長方形となる。炉は中央よりやや北西側に寄ったところに位置する。柱穴などのピットはなかった。床面直上か床面よりやや浮いた状態で、炭化材が少量見つかった。遺物は北東コーナー近くに集中する。床面近くから出土したものが多く、小破片化していることが特徴的で、意図的に破砕した可能性がある。1の高杯は赤彩を施し、2～4の土師器甕・壺は胴部をハケ目調整する。

表11 I 0 1 7

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第12図の1	土師器 高杯	(19.8)	14.2	11.1	乳白色砂・長石・石英・スコリア含む	赤褐色	赤彩、透孔3ヶ	1、8、82、83、86、87、88、89、90、102、105、107、126、132
第12図の2	土師器 甕	18.3	(18.3)	—	乳白色砂・長石・石英・スコリア含む	暗褐色	ハケ目	7、64、65、100、103、106、112、115、117、118、119、120、121、123、124、125、128、129、130、134
第12図の3	土師器 壺	14.9	(6.0)	—	乳白色砂・長石・石英・スコリア含む	暗褐色	赤彩	91、92、93、94、95、96、97、98、101、107
第12図の4	土師器 甕	12.2	15.9	6.3	乳白色砂・長石・石英・スコリア含む	暗褐色	ハケ目後粗いミガキ	50、66、72、73、74、76、77、78、79、80、104、108、109、110、111、113、114、116、131、133



第11图 I 010



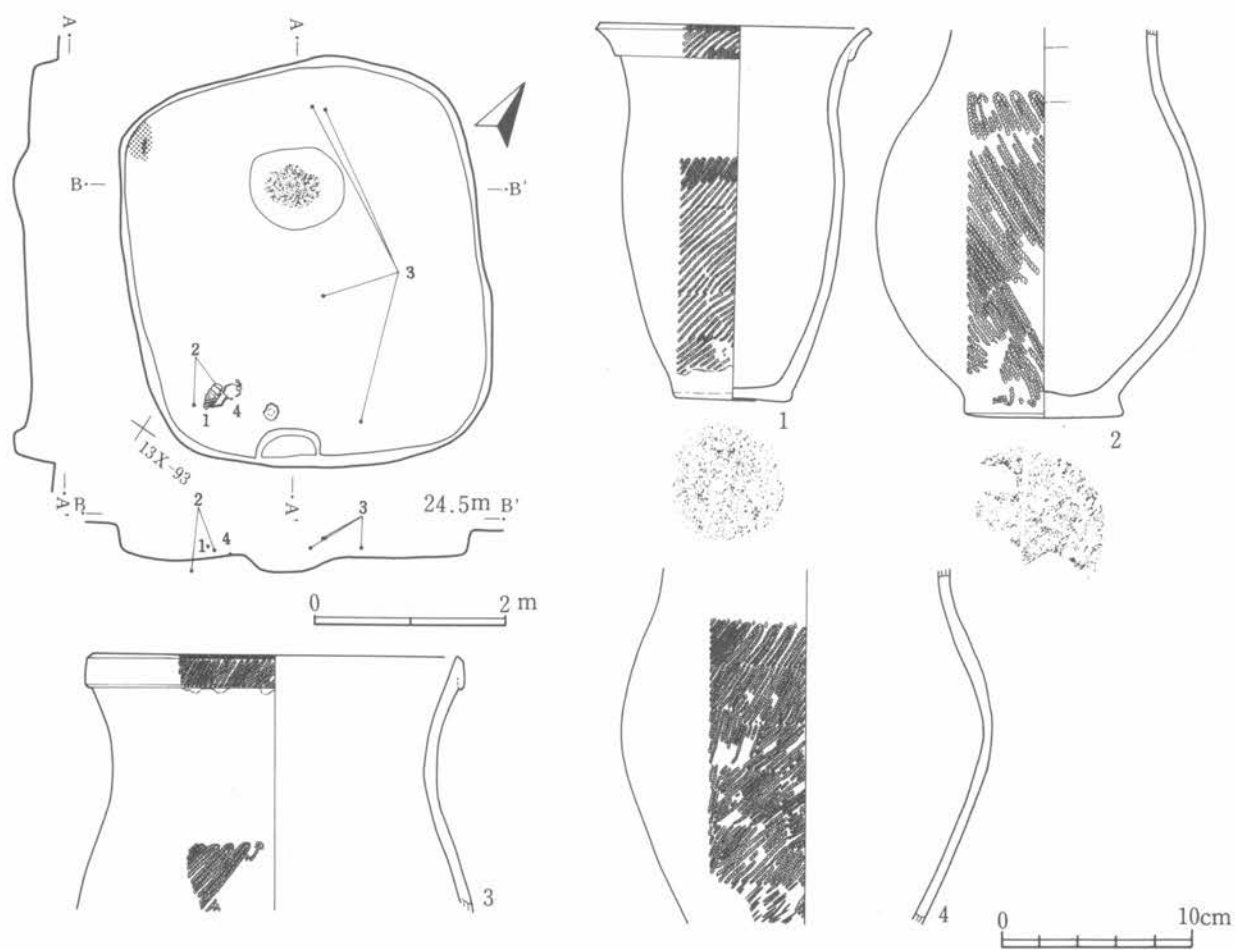
第12図 I 017

I 021 (第13図、図版11・12・121)

弥生時代後期のプランが隅丸長方形となる竪穴住居で、炉は床中央からやや北寄りに位置し、約0.2m程度掘り込んでいる。南側壁の一部に接して、深さ0.1mほどの小ピットがあり、周辺からは遺存度が良好な弥生土器甕が3個体分出土した。また、北西コーナーには焼土と炭化材を含んだブロックがあった。ブロックの量は小規模である。床面は全体的に硬く締まっている。柱穴はない。

表12 I 021

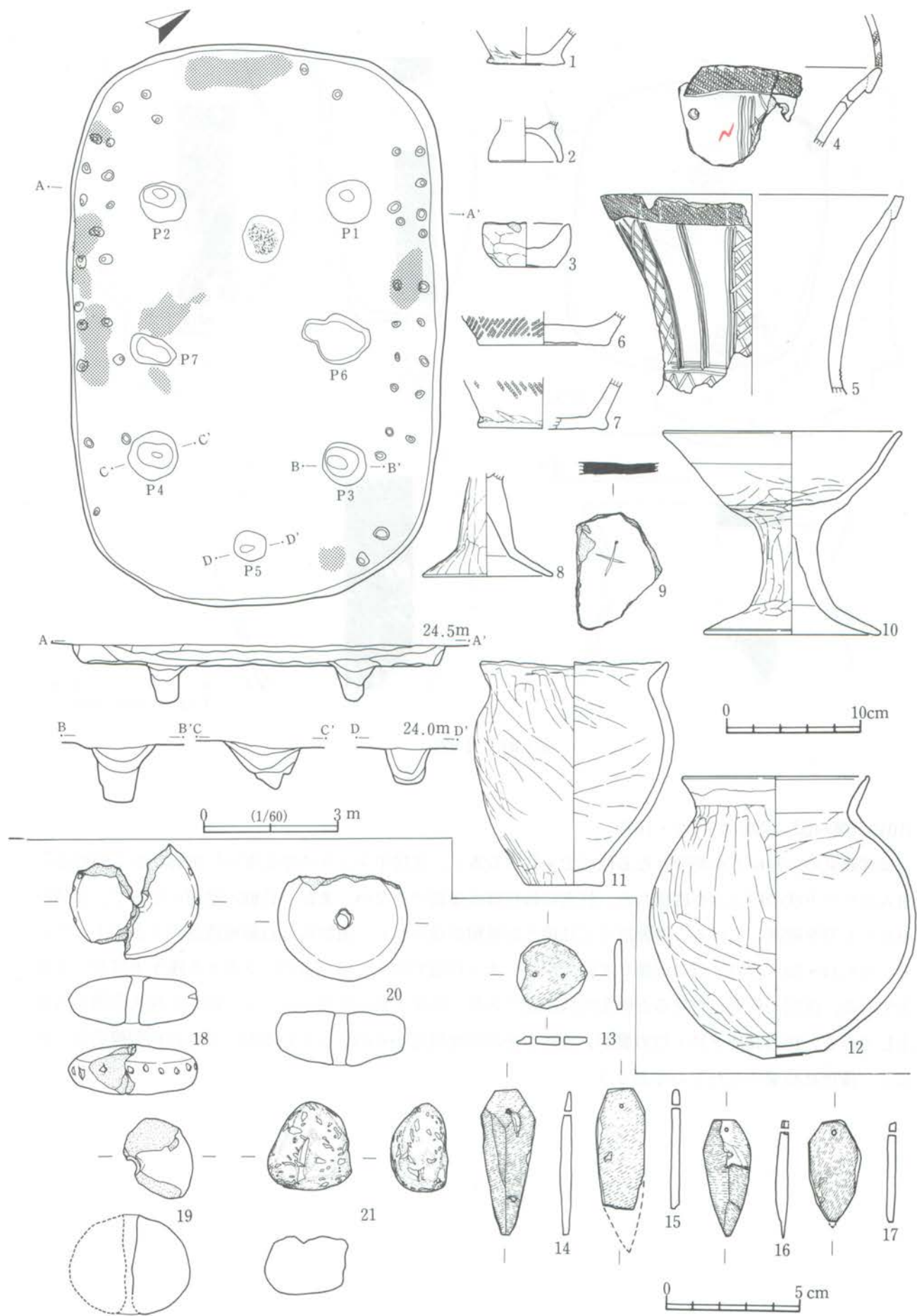
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第13図の1	弥生土器 甕	(14.2)	19.6	6.1	長石・石英・スコリア含む	暗褐色	L R単節縄文、底外木葉痕	21
第13図の2	弥生土器 甕	-	-	(8.3)	長石・石英・スコリア含む	赤褐色	R L単節縄文、底外木葉痕	22、24
第13図の3	弥生土器 甕	(19.0)	-	-	長石・石英含む	暗褐色	R L単節縄文	4、14、15、27、28
第13図の4	弥生土器 甕	-	-	-	長石・石英含む	黒褐色	L R単節縄文	23



第13図 I 021

II 019 (第14図、図版40・137・167)

ほぼ隅丸のいわゆる小判形となる住居で支柱穴6本と、住居中央よりやや北寄りに炉跡、および対面に出入口ピット状の掘込みを確認した。柱穴には柱痕は確認できない。また、長軸の壁面に沿って、2列の小ピット列を確認している。壁面近くには焼土の堆積が見られる。遺物には石製模造品が5点出土している。うち14・15・17の3点は近接して住居南コーナー付近で出土しているが、5点とも覆土上層からの出土である。住居の形態から見ると弥生時代後期であり、弥生土器は住居のコーナー近くの埋土中層から出土している。10の高杯と11・12の甕が、住居中央の床面付近から出土しているが、これは石製模造品と同じく、後世に投棄されたものであろう。



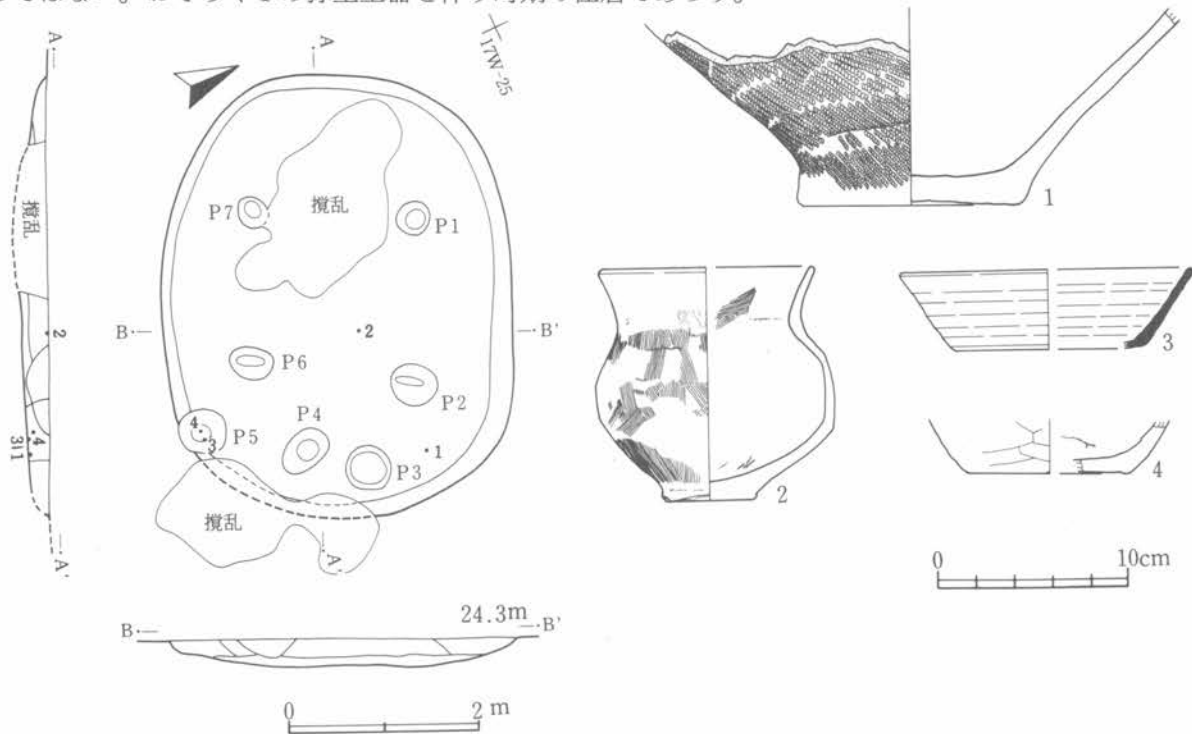
第14图 II019

表13 II 0 1 9

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第14図の1	土師器小型甕	—	—	5.9	石英・長石・スコリア含む	暗褐色		185
第14図の2	土師器台付甕	—	—	(5.3)	石英・長石含む		ハケ目	222
第14図の3	手捏ね	(6.3)	3.2	(4.2)	砂粒含む	暗褐色		20
第14図の4	弥生土器 甕	—	—	—	石英・長石・砂粒含む	橙褐色	赤彩	2、194
第14図の5	弥生土器 甕	—	—	—	雲母・長石・砂粒含む	赤褐色		209、229、239、263、264
第14図の6	弥生土器 甕	—	—	9.8	雲母・長石多量に含む	明褐色		208
第14図の7	弥生土器 甕	—	—	(9.6)	長石多く含む	褐色		190
第14図の8	土師器 高杯	—	—	9.7	砂粒含む	褐色		1、230、237、239、241、269
第14図の9	須恵器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底外)「+」	16W-73
第14図の10	土師器 高杯	(17.5)	15.0	12.9	スコリア含む	褐色		3、4、5、80、81、127、128、189、331、333、340
第14図の11	土師器 甕	13.9	16.4	5.6	スコリア含む	暗褐色		3、4、5、6、106、119、169、188、316、318、326、328、329、335、336、337、338、339、341、342、344、394
第14図の12	土師器 甕	13.8	22.6	4.6	石英・長石・スコリア含む	褐色		3、5、51、124、131、133、134、138、140、149、150、151、152、157、181、186、284
第14図の13	石製模造品	—	最大幅 2.6	厚さ 0.3	滑石	—	双孔円盤	290
第14図の14	石製模造品	最大長 5.4	最大幅 2.0	厚さ 0.4	滑石	—	剣型	7、11
第14図の15	石製模造品	最大長 (4.5)	最大幅 1.8	厚さ 0.3	滑石	—	剣型	9、10
第14図の16	石製模造品	最大長 4.3	最大幅 1.8	厚さ 0.4	滑石	—	剣型	154
第14図の17	石製模造品	最大長 3.7	最大幅 1.9	厚さ 0.3	滑石	—	剣型	8
第14図の18	紡錘車	直径 4.7	厚さ 1.8	—	雲母含む	橙褐色	刺突痕	5、138
第14図の19	土玉	直径 (4.4)	厚さ 3.6	—	雲母含む	灰褐色		207
第14図の20	紡錘車	直径 4.8	厚さ 2.0	—	雲母多量に含む	黄褐色～黒色		286
第14図の21	軽石	長径 3.3	短径 3.1	高さ 2.2	6.4g	—		57

II023 (第15図、図版42・138)

いわゆる小判形の住居で、壁の立上がりは緩やかである。主柱穴は4本で、炉は攪乱により検出できない。P3及びP5は住居に伴う可能性は低い。2のハケ目調整の小型甕は出土層位が高く、本住居に伴うものではない。おそらく1の弥生土器を伴う時期の住居であろう。



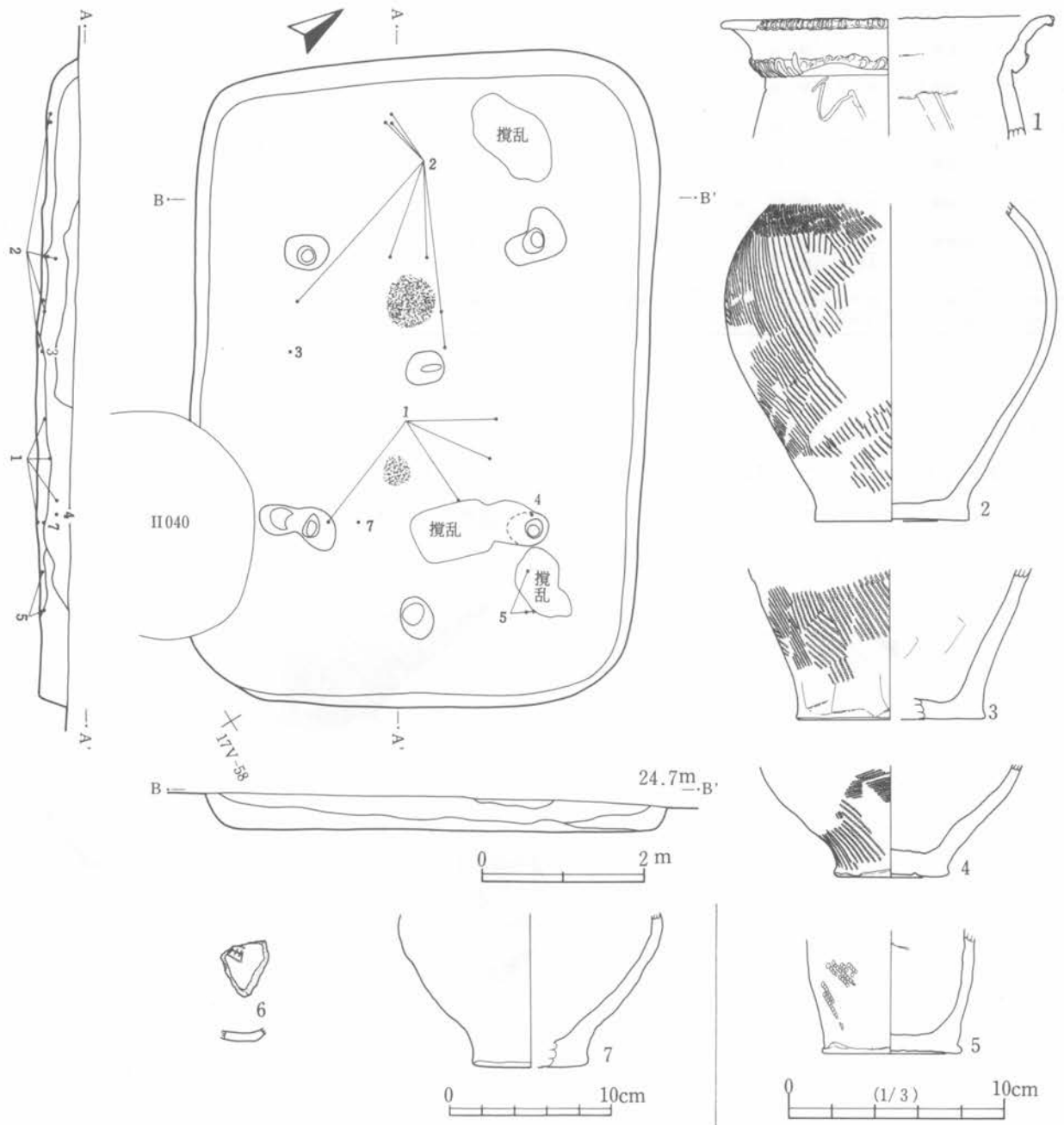
第15図 II023  
— 25 —

表14 II023

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第15図の1	弥生土器 甕	—	—	11.2	長石多く含む	明黄褐色	R L 単節縄文	53
第15図の2	土師器小型甕	(11.0)	7.1	5.5	長石・砂粒含む	褐色	ハケ目	28、17W-25-1
第15図の3	須恵器 杯	(15.1)	5.1	9.6	雲母多く含む	灰褐色		44
第15図の4	土師器 甕	—	—	(8.4)	長石多量に含む	黒褐色		42

II041 (第16図、図版49・141)

弥生時代後期の隅丸長方形プランの住居で、4本の支柱穴と炉を2か所確認できる。壁の立上がりはかなり緩やかである。住居床面直上から埋土下層にかけて弥生土器甕が出土している。



第16図 II041

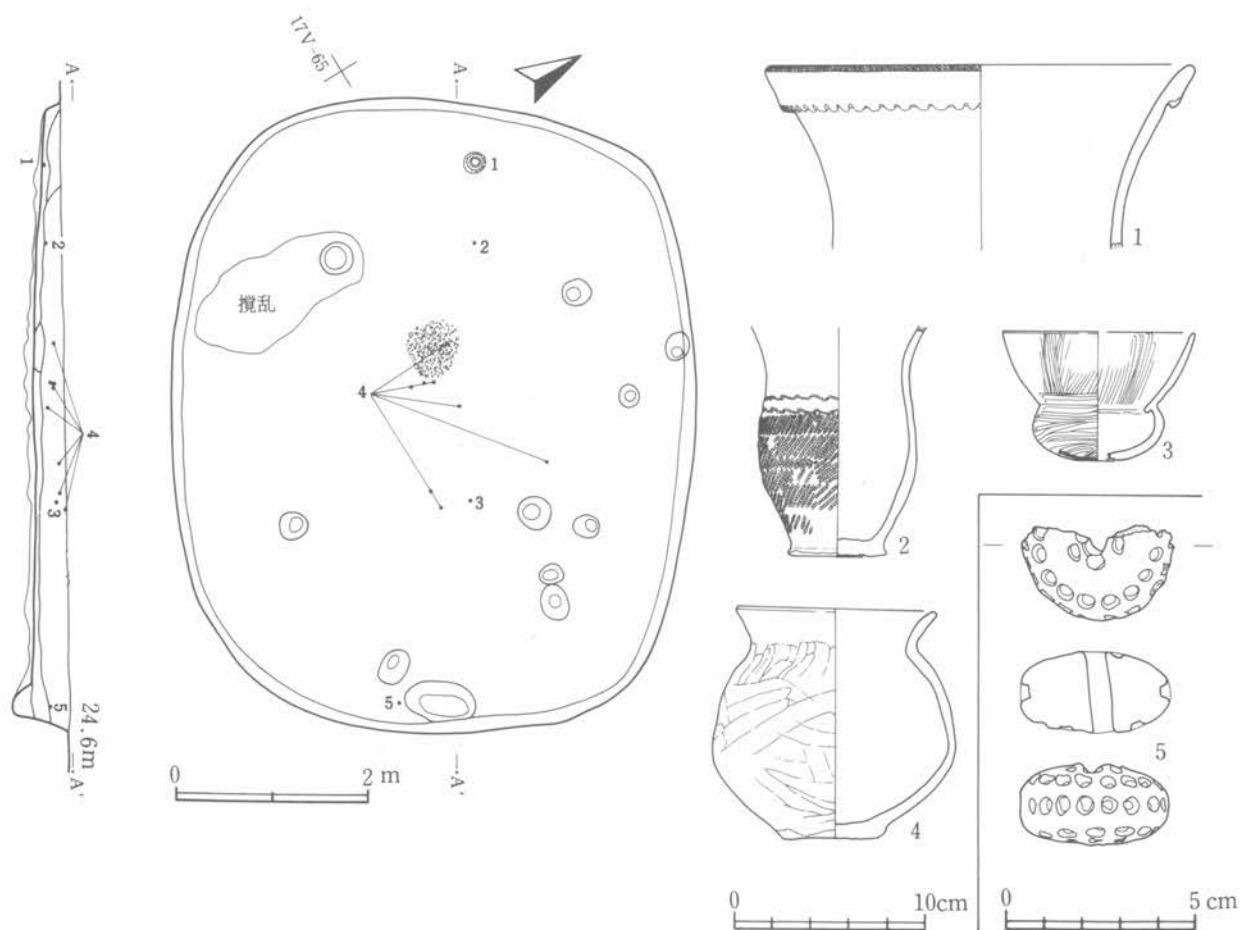


表15 II041

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第16図の1	弥生土器 甕	(15.0)	—	—	石英・長石・スコリア含む	暗褐色		2、5、20、37、38、84
第16図の2	弥生土器 甕	—	—	(7.0)	長石・砂粒含む	暗褐色	底外木葉痕	1、2、42、44、56、66、69、77、78、79
第16図の3	弥生土器 甕	—	—	(8.6)	石英・長石・砂粒含む	赤褐色	底外木葉痕	64
第16図の4	弥生土器 甕	—	—	(5.2)	長石・砂粒含む	黄褐色～赤褐色	底外木葉痕	3、80
第16図の5	弥生土器 甕	—	—	(6.4)	長石・砂粒含む	明褐色		2、3、5、9、10、26
第16図の6	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「玉」?	6
第16図の7	弥生土器 甕	—	—	(7.1)	長石・スコリア含む	暗褐色	底外木葉痕	2、5、6、81

II042 (第17図、図版49・142)

弥生時代後期の、かなり円形に近い、隅丸長方形の住居で、4本の主柱穴と炉及び出入口ピットを各1か所確認できる。貼り床除去後5本の小ピットを検出した。1・2の弥生土器甕は埋土最下層より出土している。3の土師器埴や4の土師器甕、5の刺突文を施す土製紡錘車は、それよりやや高いレベルから出土している。



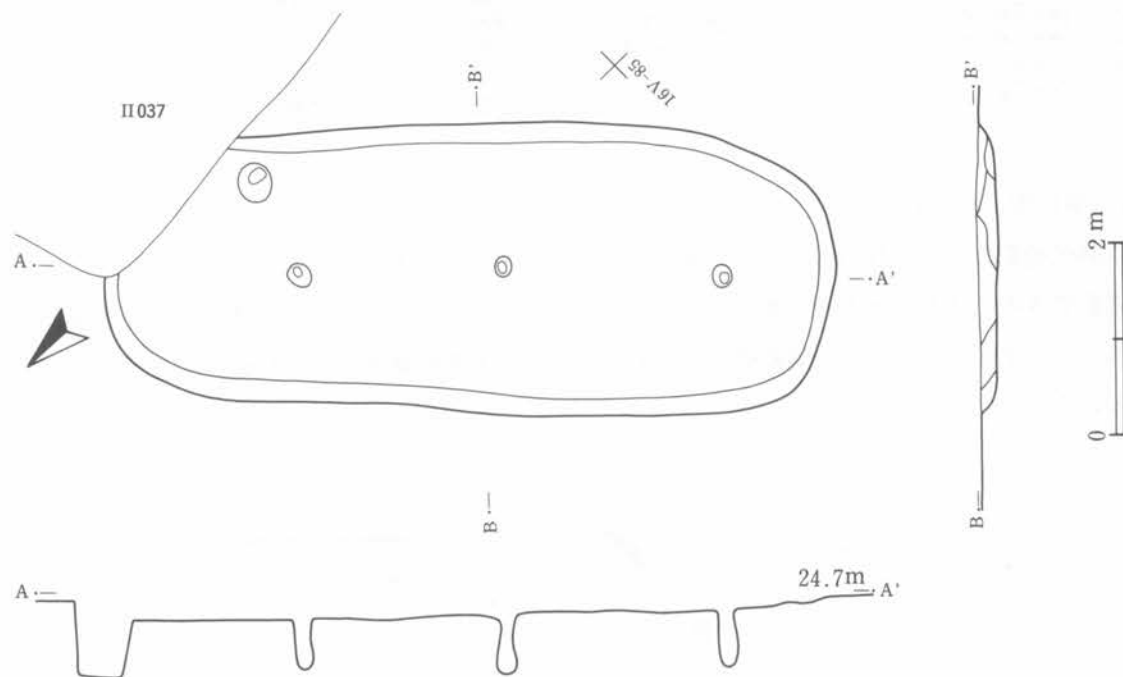
第17図 II042

表16 II042

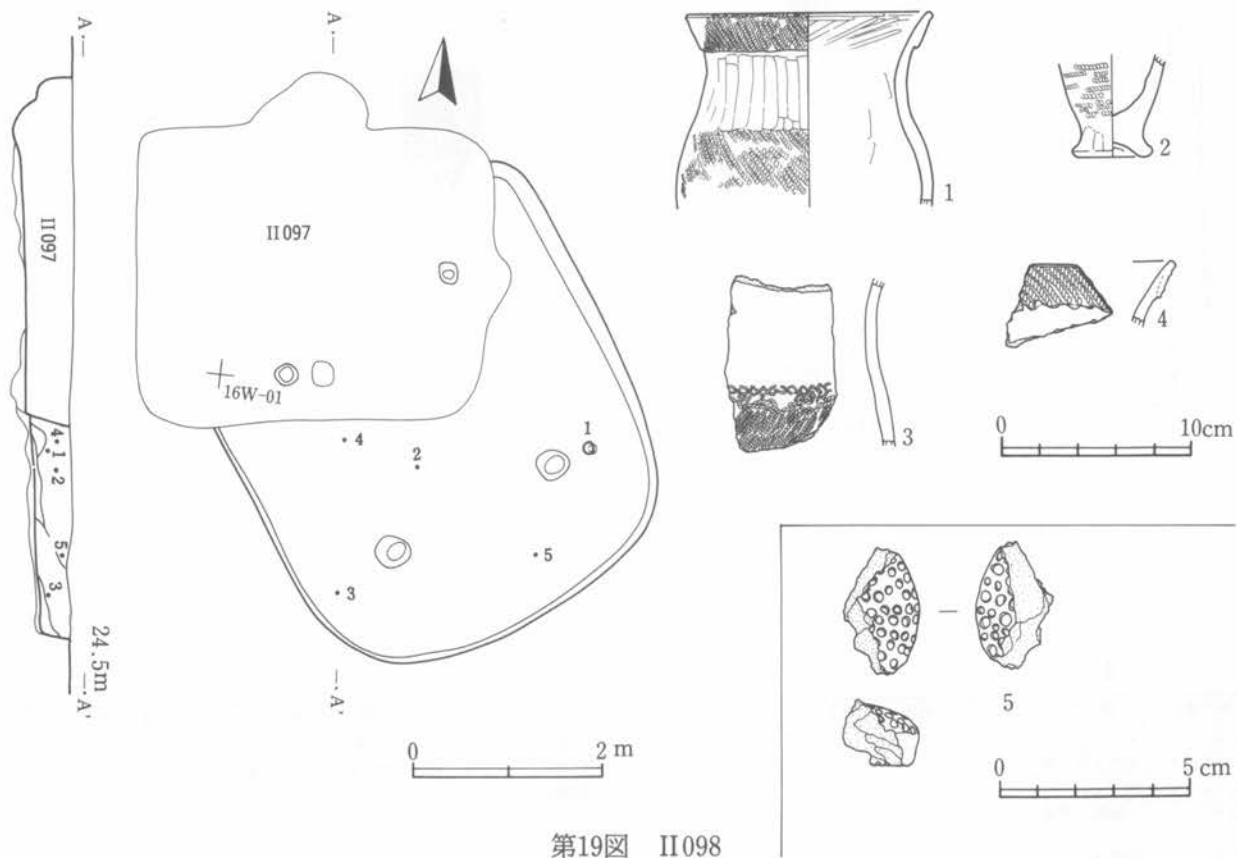
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第17図の1	弥生土器 甕	22.0	—	—	雲母・長石・砂粒含む	明褐色	R L単節縄文	30
第17図の2	弥生土器 甕	—	—	5.2	長石・砂粒・スコリア含む	暗褐色	底外木葉痕、L R単節縄文	29
第17図の3	埴	(10.0)	6.7	(2.1)	石英・砂粒含む	暗褐色	ヘラミガキ	2、4、12
第17図の4	土師器小型甕	10.3	12.1	5.1	砂粒含む	—		1、2、3、11、24、25、26、46、48、49、50
第17図の5	紡錘車	直径 3.9 厚さ 2.1	—	—	砂粒・長石・スコリア含む	灰褐色	刺突痕あり	4

II051 (第18図、図版52)

非常に細長い小判形のプランの遺構である。壁の立上がり緩やかで、掘込みもかなり浅い。長軸に沿って3本の支柱穴が掘られていた。埋土は硬く締まりがある。



第18図 II051



第19図 II098

II098 (第19図、図版67・149)

II097と重複するが、097の方が新しい。炉は097に壊されているため遺存しない。埋土中からの遺物量はさほど多くなく、甕2個体以外は小破片のみである。土製の紡錘車が1点出土した。上面・下面ともに刺突紋を施しているが、側面には文様はない。弥生時代後期の住居である。

表17 II098

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第19図の1	弥生土器 甕	12.5	—	—	雲母・スコリア含む	黒褐色		15、19
第19図の2	弥生土器 甕	—	—	3.6	雲母・石英・スコリア含む	褐色		6
第19図の3	弥生土器 甕	—	—	—	—	暗褐色	R L単節縄文	10
第19図の4	弥生土器 甕	—	—	—	—	暗褐色	L R単節縄文	11
第19図の5	紡錘車	—	厚さ 1.5	—	土製	暗褐色	直径3mmの刺突文	5

II100 (第20図、図版67・149・166)

II101、IIM001と重複するが、いずれも100の方が古い。焼土と炭化材が、住居全域から出土した。解体後、廃材などを焼却処分したものであろうか。焼土は、床面から10cmほど浮いて出土している。遺物には完形となるものはないが、外面をハケ目調整し、内面をヘラミガキする土師器高杯の杯部片や器台が出土し、おそらく、古墳時代前期を中心とする時期の住居であろう。平安時代の線刻土器などの混入が見られる。

表18 II100

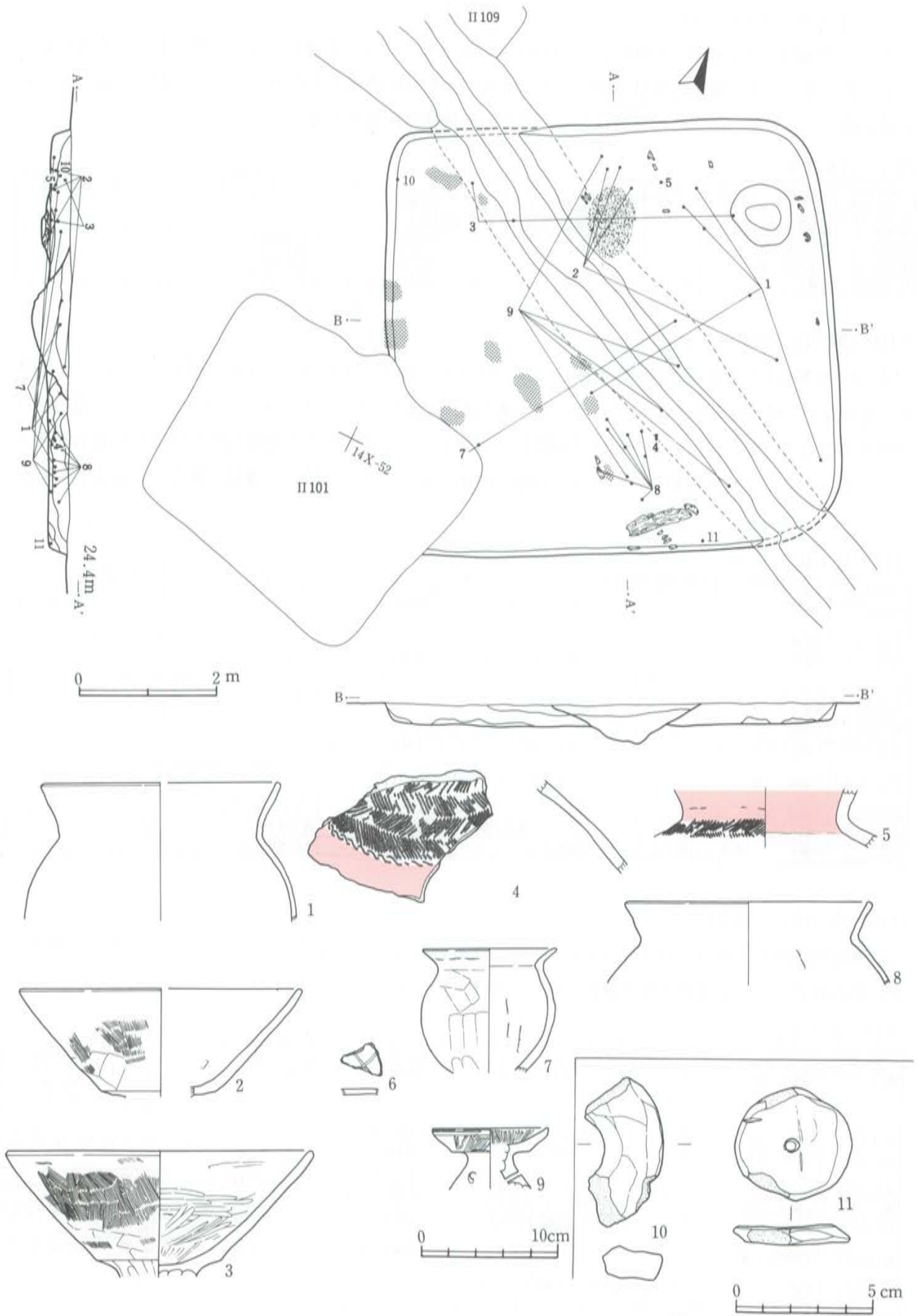
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第20図の1	土師器 甕	(16.8)	—	—	長石・石英含む	暗褐色		1、3、47、72、87、89、95、172
第20図の2	土師器 高杯	20.4	—	—	—	—	ハケ目	44、135、144
第20図の3	土師器 高杯	21.6	—	—	雲母・長石・石英・スコリア含む	黄褐色	ハケ目	57、115、125
第20図の4	弥生土器 壺	—	—	—	—	—	赤彩	32、78
第20図の5	弥生土器 甕	(9.0)	—	—	—	—	赤彩	101
第20図の6	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内) □	4
第20図の7	土師器小型甕	9.8	—	—	石英・長石・スコリア含む	黄褐色		2、83、183
第20図の8	土師器 甕	17.5	—	—	石英・長石含む	—		2、21、23、25、26、28、30、163、169、170
第20図の9	土師器 器台	6.4	—	—	—	—	ハケ目、脚に孔あり	2、7、24、33、138、150
第20図の10	不明土製品	—	厚さ 1.3	—	長石・石英多く含む	黒色	厚さは不均一	128
第20図の11	紡錘車	直径 4.3	厚さ 1.2	—	微砂粒含む	薄い褐色	土師器杯転用	20

II102 (第21図、図版68・150・167)

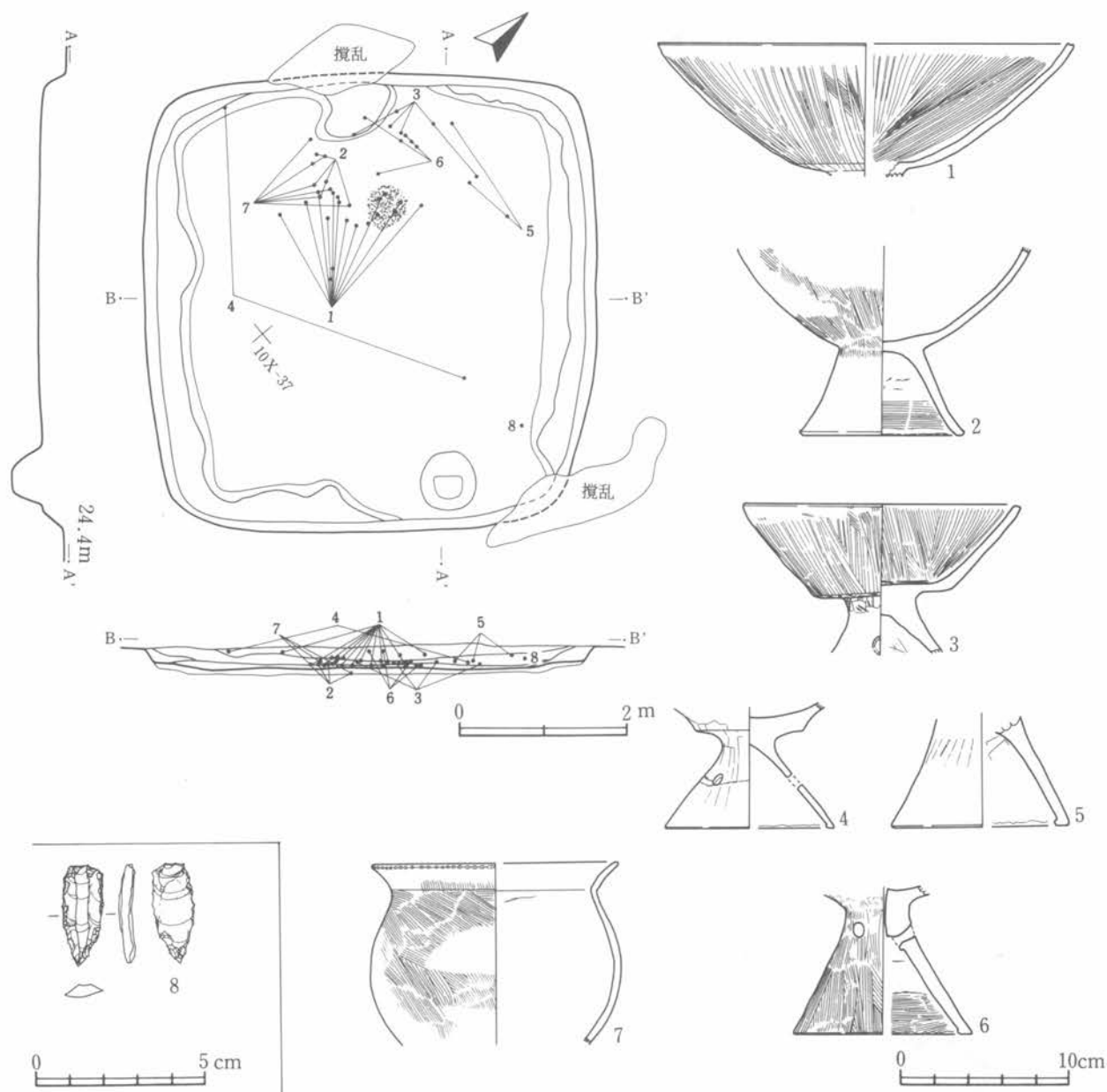
古墳時代前期の方形の、掘込みの浅い住居で、主柱穴はない。炉を住居中央よりやや北西寄りに検出した。炉の周辺から、土師器高杯や甕が一括して出土している。

表19 II102

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第21図の1	土師器 高杯	(24.1)	—	—	石英・長石含む	明褐色	外面ハケ目後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ	2、3、4、17、18、19、32、34、35、36、38、39、40、41、42、43、61、63、65、72、74、75
第21図の2	土師器 高杯	—	—	9.2	石英・長石含む	褐色～黒褐色	外面ハケ目	2、25、26、29、30、62、63
第21図の3	土師器 高杯	15.6	—	—	石英・長石含む	明褐色～黒褐色	外面ハケ目後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ	2、3、10、15、24、67、69、70
第21図の4	土師器 高杯	—	—	10.0	石英・長石含む	明褐色	ヘラケズリ後ナデ	2、45、51
第21図の5	土師器台付甕	—	—	(10.4)	石英・長石含む	明褐色～黒褐色	ヘラケズリ後ナデ	2、3、7、9、11
第21図の6	土師器 器台	—	—	(10.6)	石英・長石含む	橙褐色	ヘラケズリ後ハケ目	2、12、13、14、16、23、68、76
第21図の7	土師器小型甕	(14.4)	—	—	石英・長石含む	赤褐色～黒褐色	ハケ目、口唇部キザミ	2、25、27、28、29、32、62、63、64
第21図の8	石錐	最大高 29.0mm	最大幅 12.1mm	最大厚 4.1mm	珪質頁岩、1.57g	—		54



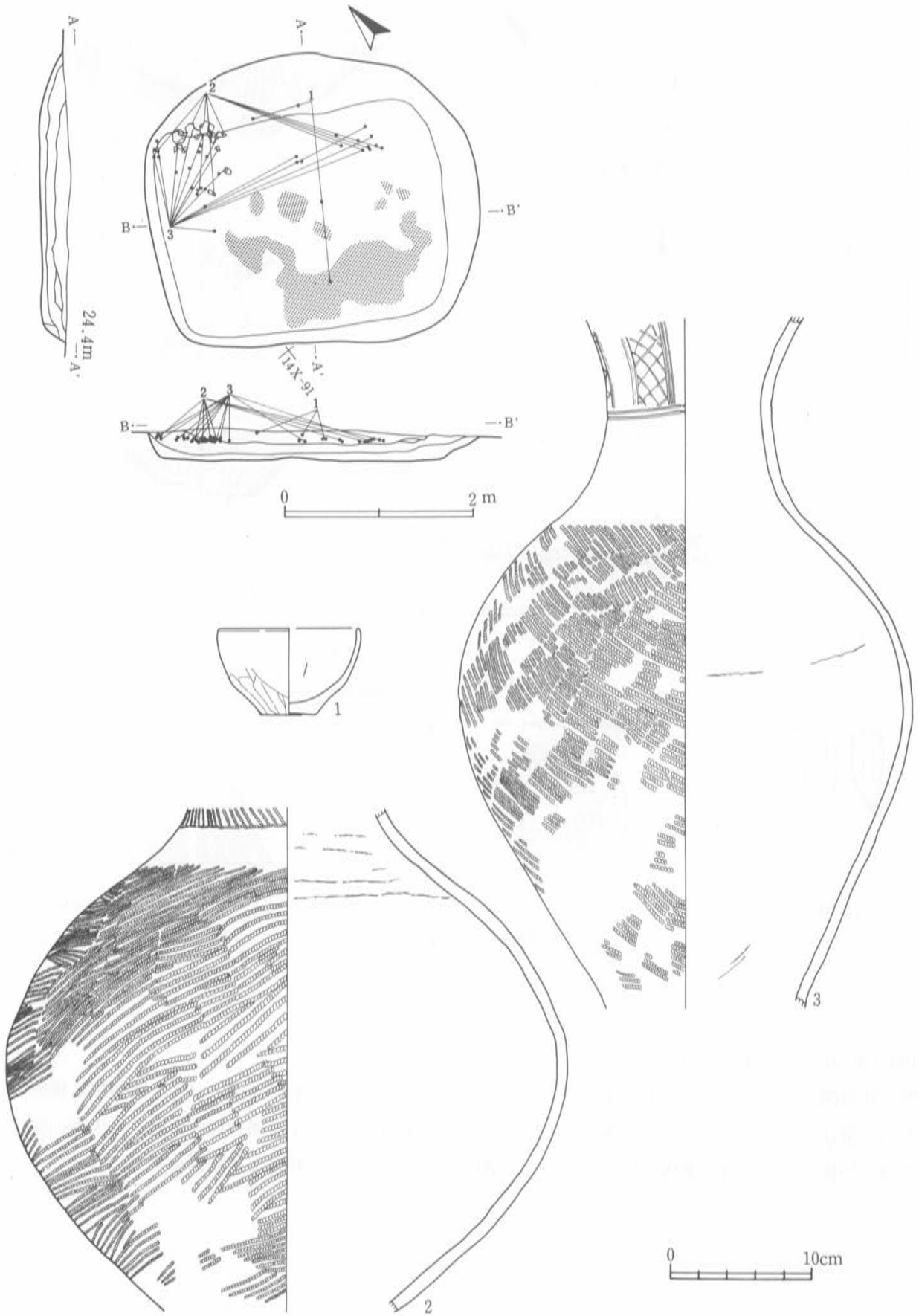
第20图 II 100



第21図 II102

II103 (第22図、図版68・150)

竪穴状遺構で、住居になるか不明確である。壁の立上がりは緩やかである。焼土が埋土中層中に確認できるが、量はさほど多くはない。北西コーナーを中心に、焼土出土レベルと同じ埋土中層から大型の弥生土器壺2個体と土師器鉢1個体が出土している。遺物内の骨粉・骨片の有無は不明である。



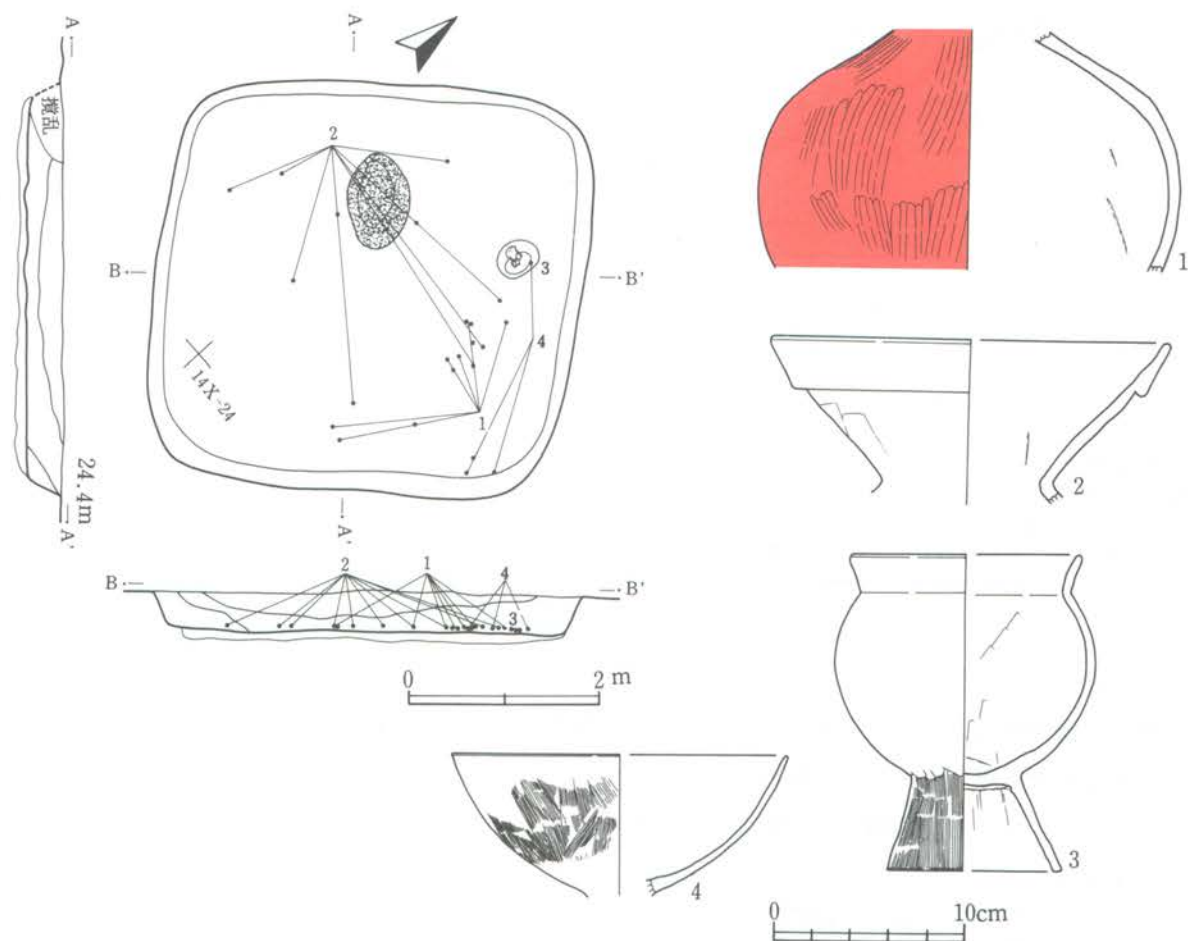
第22図 II103

表20 II 1 0 3

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第22図の1	土師器小型鉢	(10.0)	6.0	3.9	石英・長石含む	明褐色		3、4、13、16、95、114
第22図の2	弥生土器 壺	-	-	-	石英・長石含む	褐色	L R 単節縄文	1、4、38、39、44、46、59、64、66、72、73、74、80、82、88、89、90、92、100、103、104、106
第22図の3	弥生土器 壺	-	-	-	石英・長石含む	橙褐色	R L 単節縄文	1、3、4、26、41、42、43、45、47、48、49、51、52、53、54、55、56、66、77、80、81、83、84、97、98、99、101、102、103、104、105、106、107、108、109、110、111

II 104 (第23図、図版69・150・166)

古墳時代前期の隅丸方形プランの住居で、支柱穴はない。貯蔵穴が住居中央やや北東寄りにある。内部から体部を1/2ほど欠損した台付甕が出土している。



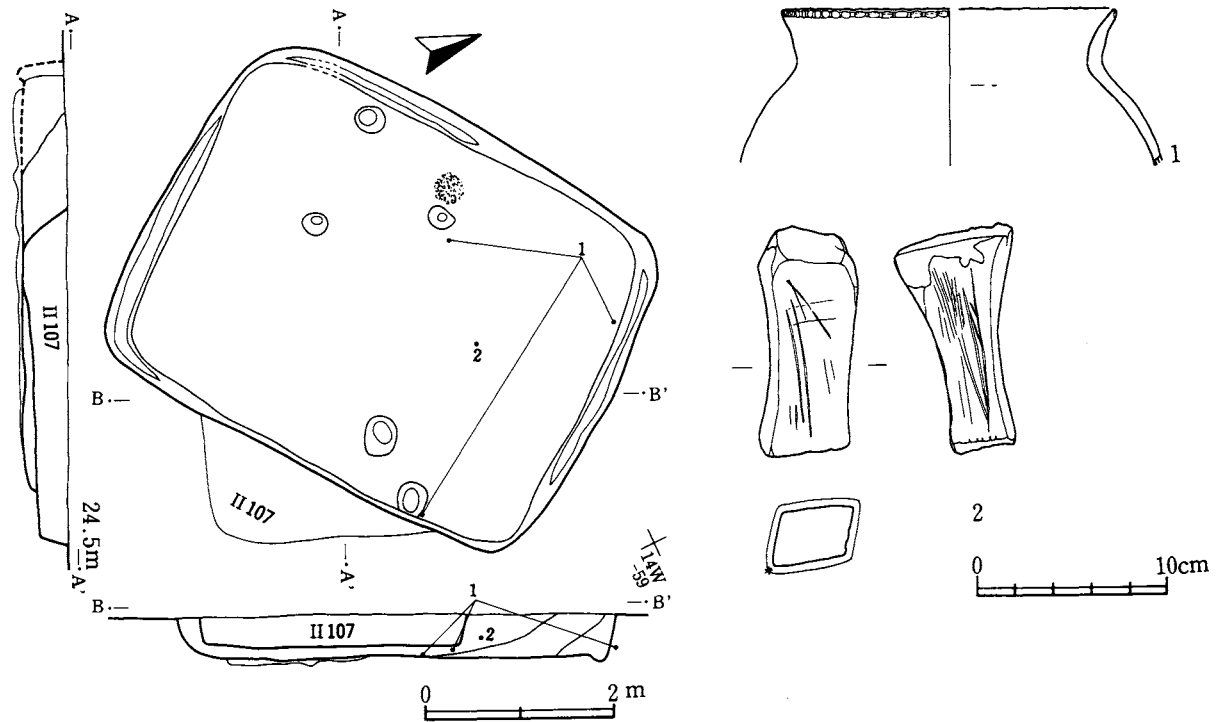
第23図 II104

表21 II 1 0 4

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第23図の1	土師器 壺	-	-	-	石英・長石含む	橙褐色	外面赤彩、ヘラミガキ	2、3、20、44、45、46、48、50、55、61、83、85、91
第23図の2	土師器 壺	(20.4)	-	-	石英・長石含む	橙色	折り返し口縁、外面ヘラケズリ後ナデ	1、2、3、4、8、10、13、30、34、37、47、55、63、67、81、100
第23図の3	土師器台付壺	11.8	16.4	9.2	石英・長石含む	明赤褐色	体部外面ヘラケズリ後ナデ、台部ハケ目	4、93、94、95
第23図の4	土師器 高杯	(17.6)	-	-	雲母・スコリア含む	暗褐色	ハケ目	1、2、4、59、89、90、98、100

II108 (第24図、図版71・167)

II107に一部削平されている。古墳時代前期と考えられる比較的整った隅丸長方形のプランの住居である。壁溝は、部分的に途切れる。主軸を北北西に向け、北側の壁近くには炉がある。出土遺物は非常に少ない。



第24図 II108

表22 II108

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第24図の1	土師器 甕	(17.4)	-	-	長石・スコリア含む	黒褐色	口縁キザミ	4、6、10、20
第24図の2	砥石	365.9g	-	-	凝灰岩	-	無数の細い直線的な研磨痕有り	5

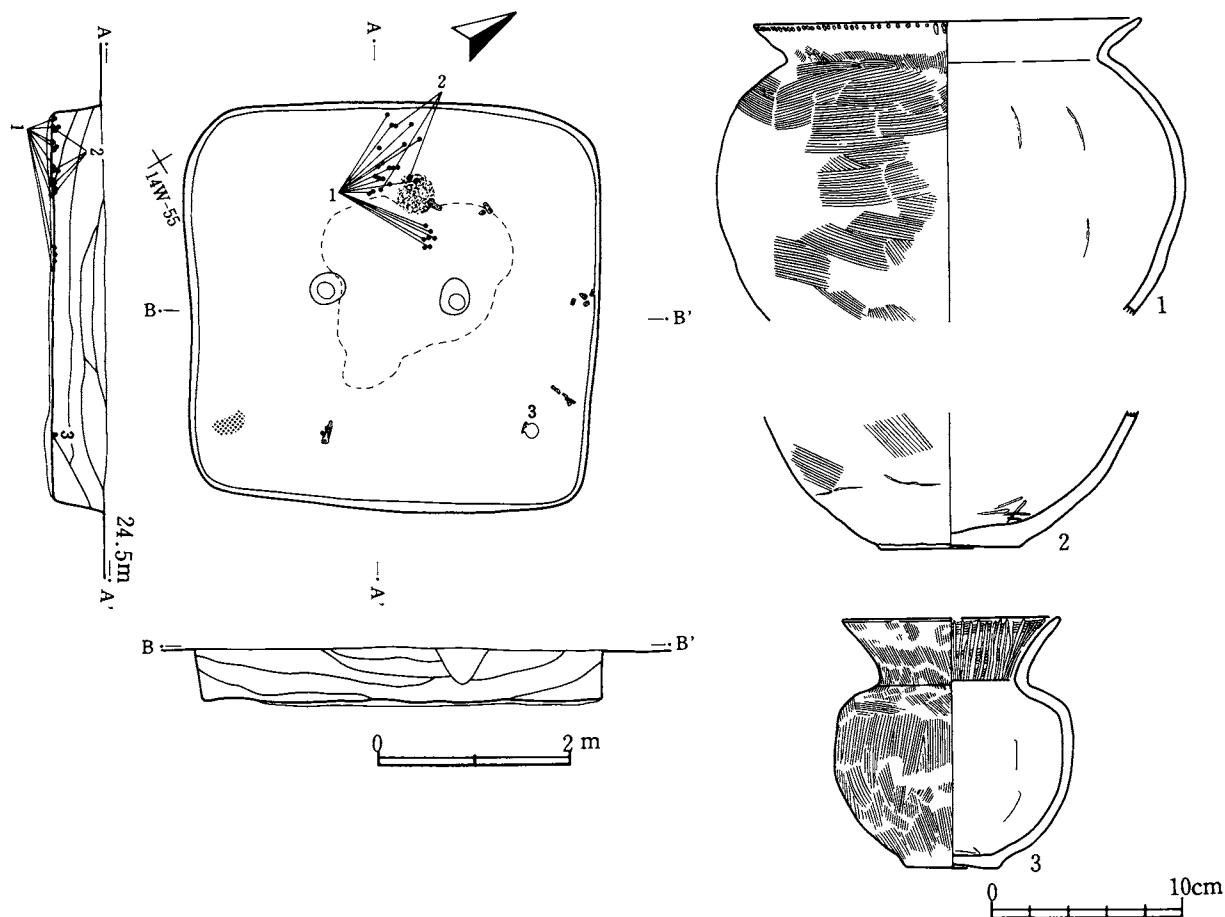
II112 (第25図、図版72・151)

中央付近に硬質床面があり、中央に2本の支柱穴を確認した。炭化材が少量出土している。1個体になるとと思われる土師器甕(1・2)が炉の周辺床面上から、また、完形の土師器小型甕が住居東コーナー床面直上から出土している。古墳時代前期と考えられる。

表23 II112

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第25図の1	土師器 甕	20.2	-	-	石英・長石・砂粒含む	明褐色～黒褐色	口唇部刺突文、体部ハケ目	1、2、12、13、14、15、16、17、18、20、21、22、24、25、26、29、30、31、33、35、36、37、38、39、40、41、14W
第25図の2	土師器 甕	-	-	7.2	スコリア・砂粒含む	黒褐色～褐色		1、19、27、28、41、42
第25図の3	土師器小型甕	11.1	13.1	4.8	石英・長石・砂粒含む	橙褐色	外面ハケ目、底外木葉痕、完形	43





第25図 II112

II114 (第26図、図版73)

方形プランの、4本の支柱穴をもつ住居である。柱穴の底面が、幾分方形を呈する。特にP3・P4は顕著である。遺物は極めて少ないが、弥生土器甕の底部片が出土している。

表24 II114

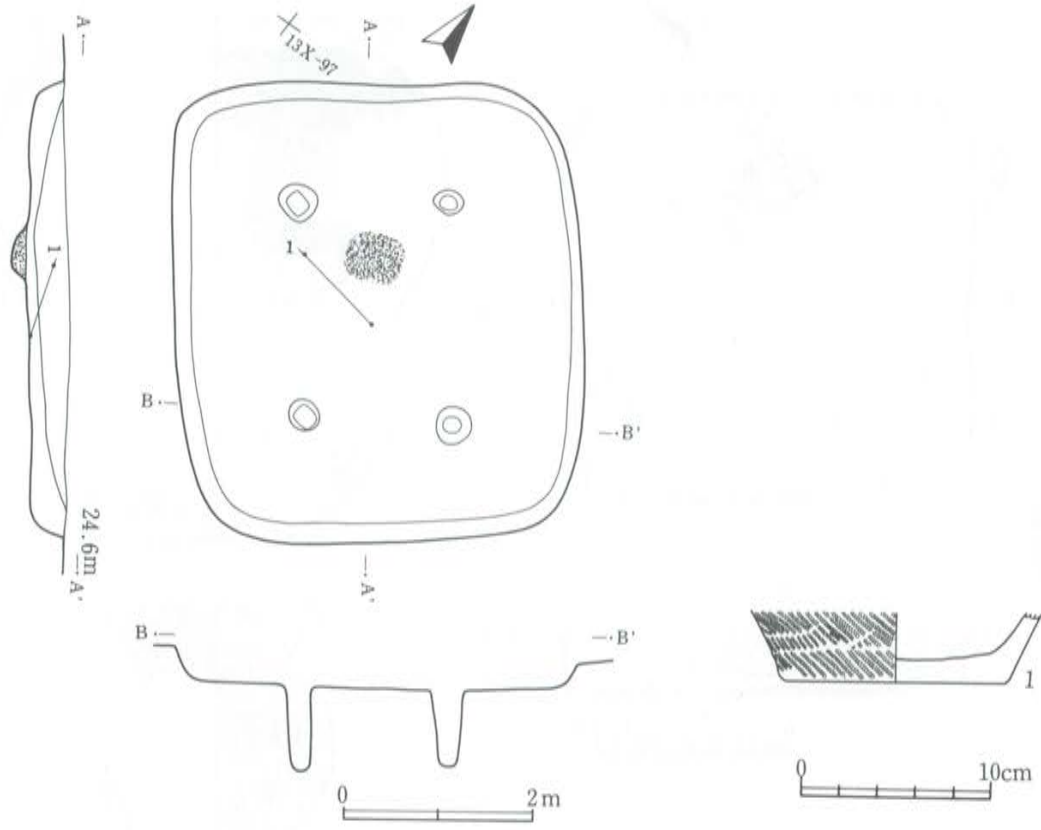
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第26図の1	弥生土器 甕	-	-	11.4	雲母・石英・長石多量に含む	淡橙褐色	底外木葉痕	8、15

II117 (第27図、図版74)

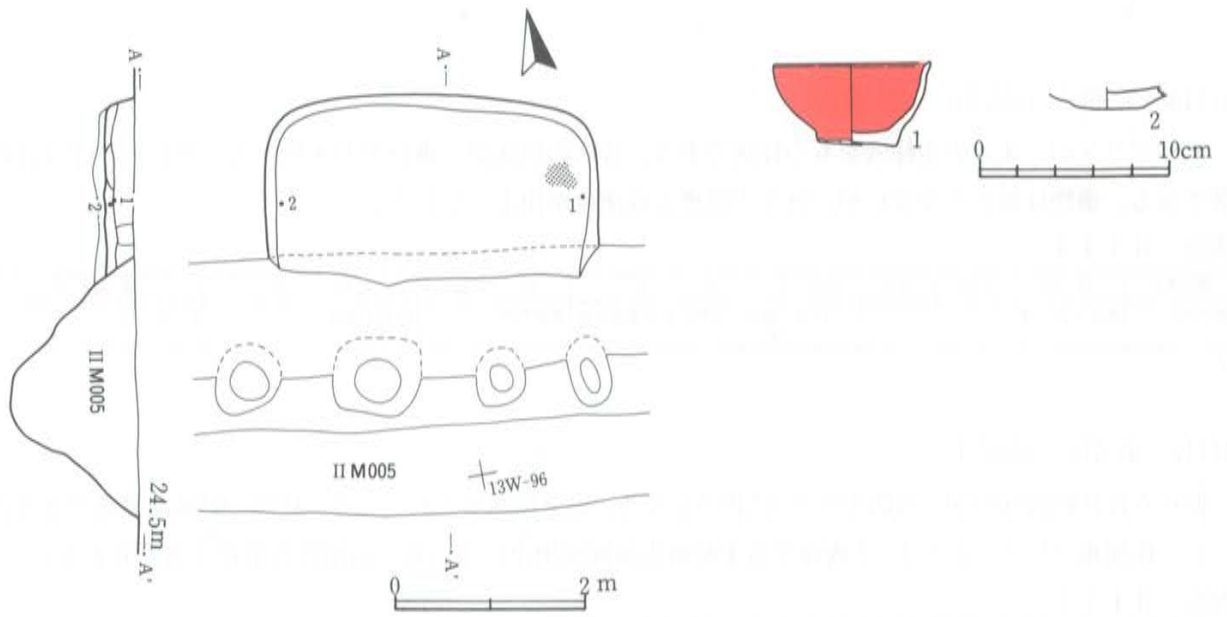
掘込みは比較的深いが、南側半分をIIM005により、完全に削平されている。柱穴、炉跡は確認できなかった。住居東コーナーから1/2残存する土師器小型椀が出土している。古墳時代前期と考えられる。

表25 II117

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第27図の1	土師器小型椀	8.1	4.4	4.0	砂粒含む	赤褐色	内外面赤彩	1
第27図の2	土師器小型壺	-	-	(3.6)	スコリア・砂粒含む	暗褐色		2



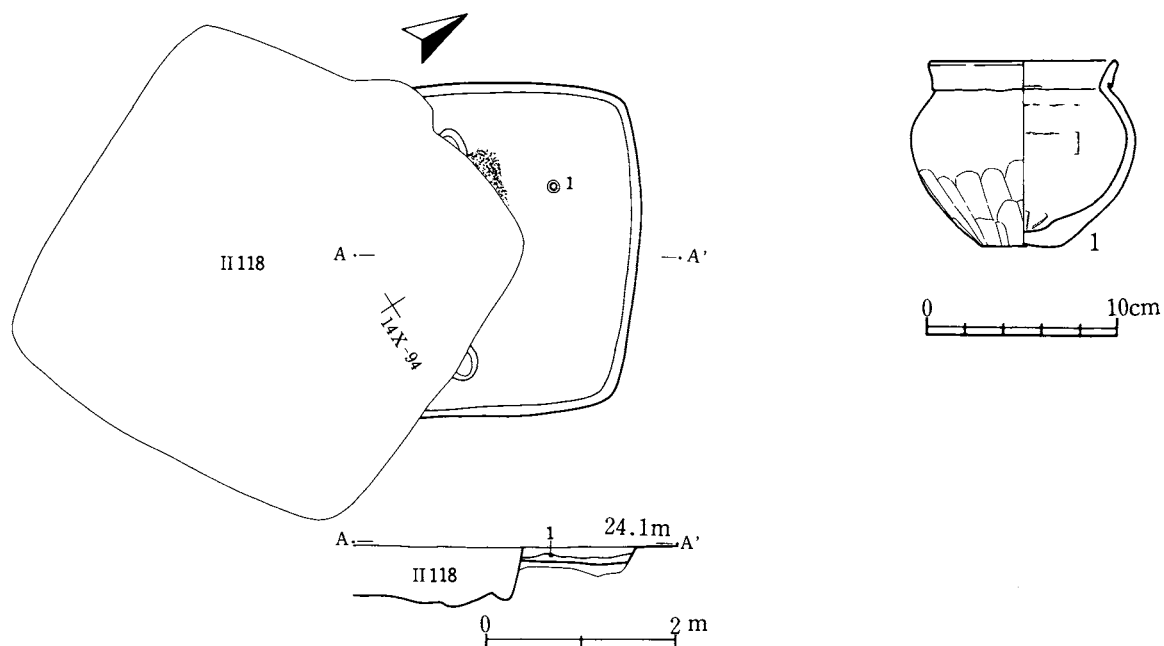
第26图 II114



第27图 II117

II119 (第28図、図版75・152)

II118に南側半分を削平される。炉の半分を含め、遺構の半分程度が遺存している。ピット2本を検出したが、掘り方は浅い。口縁部の一部を欠損しているが、ほぼ完形の折り返し口縁の土師器甕が、床面に正位に置かれた状態で出土した。古墳時代前期と考えられる。



第28図 II119

表26 II 1 1 9

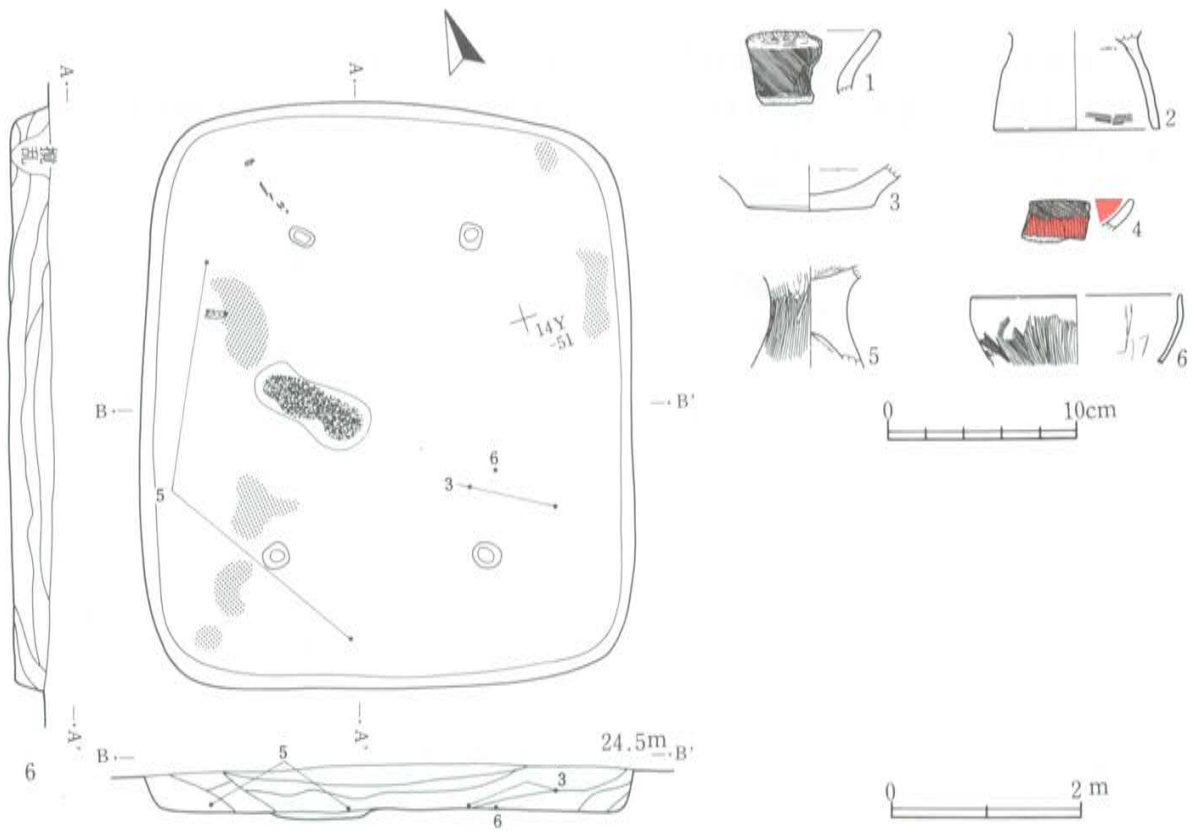
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第28図の1	土師器小型甕	9.6	9.6	4.1	雲母・石英・砂粒含む	橙色	折り返し口縁	3

III176 (第29図、図版110)

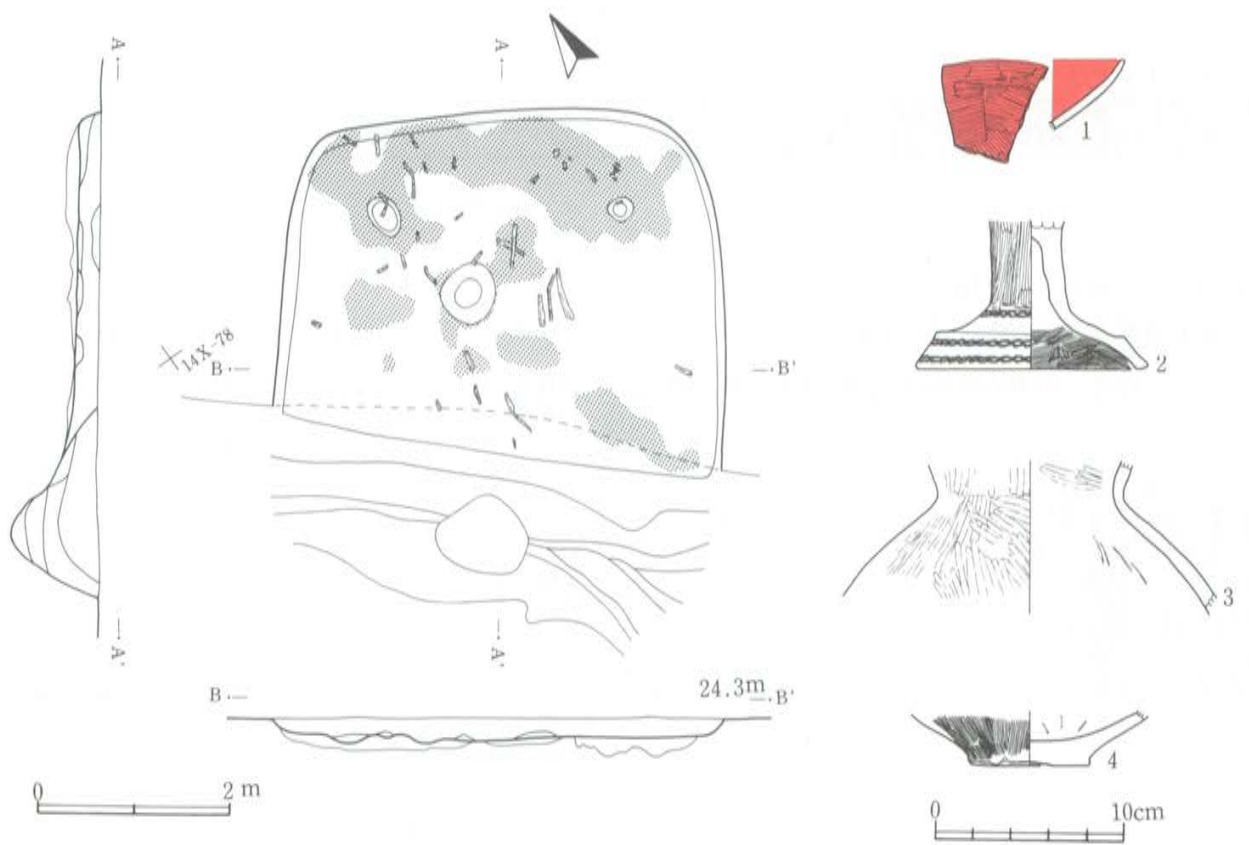
隅丸方形プランの住居で、4本の支柱穴をもつ。炉は住居中央よりやや西寄りに位置する。遺物量はそれほど多くなく、小破片の弥生土器甕片や土師器甕・壺・高杯片が出土している。埋土中から焼土を多く検出している。時期を決定できる資料に乏しい。

表27 III 1 7 6

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第29図の1	弥生土器 甕	-	-	-	長石・スコリア含む	暗褐色	ハケ目、口唇部キザミ	3
第29図の2	土師器 甕	-	-	(8.8)	長石・スコリア含む	赤褐色～褐色	ハケ目	2、3
第29図の3	土師器 壺	-	-	(6.7)	長石・スコリア含む	褐色		18、30
第29図の4	弥生土器 壺	-	-	-	長石・スコリア含む	赤褐色	赤彩	2
第29図の5	土師器 高杯	-	-	-	長石・スコリア含む	赤褐色	ヘラミガキ	6、34
第29図の6	土師器 碗	(11.0)	-	-	長石・スコリア含む	-	ハケ目、ヘラミガキ	2、36、37



第29图 III176



第30图 III181

III181 (第30図、図版111・161)

弥生時代後期の掘込みの浅い、隅丸方形のプランの住居であるが、南西側を大きく攪乱される。埋土中には多量の焼土や炭化材を包含し、焼失家屋であったことが窺える。主柱穴はおそらく4本であったと思われるが、南側の2本は、攪乱により完全に削平されてしまっている。遺物は少ないが、2の弥生土器高杯の脚部は外面全体をヘラミガキした後、3列の結節縄文を、内面はハケ目調整の後ヘラミガキ調整を施している。

表28 III 1 8 1

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第30図の1	弥生土器高杯	-	-	-	長石・スコリア含む	赤褐色	赤彩、内外面ヘラミガキ	4、20
第30図の2	弥生土器高杯	-	-	11.8	長石・スコリア含む	暗褐色		29
第30図の3	弥生土器 壺	-	-	-	長石・スコリア含む	暗褐色	ヘラミガキ	12、18、30
第30図の4	弥生土器 壺	-	-	6.4	長石・スコリア含む	暗褐色～褐色	底外木葉痕、ハケ目	17、28

表29 竪穴住居跡計測表 (弥生後期～古墳前期)

遺構番号	主軸長×横軸長(m)	方位	壁高浅～深 (cm)	主柱穴数	グリッド
I 001	6.5 × 6.0	N - 67° - W	40~60	3	13X-22
I 002	5.2 × 4.3	N - 48° - W	40~50	4	13X-44
I 010	7.1 × 5.8	N - 45° - E	30	4	13X-59
I 017	4.0 × 4.8	N - 49° - W	60	0	13X-66
I 021	3.7 × 4.2	N - 41° - W	20	0	13X-73
II 019	8.2 × 5.6	N - 54° - W	40	4	16W-73
II 023	4.6 × 3.6	N - 65° - W	30	4	17W-25
II 041	7.8 × 5.6	N - 33° - W	40	4	17V-47
II 042	6.5 × 5.5	N - 62° - W	30	4	17V-65
II 051	7.7 × 3.0	N - 42° - E	20	3	16V-74
II 098	- × 4.1	N - 32° - W	40	4	16W-01
II 100	6.2 × 6.6	N - 25° - W	30	0	14X-42
II 102	5.4 × 5.4	N - 48° - W	25	0	14X-27
II 103	4.0 × 4.6	N - 38° - E	40	0	14X-81
II 104	4.5 × 4.2	N - 44° - W	40	0	14X-14
II 108	4.0 × 5.1	N - 39° - W	40	0	14W-58
II 112	4.3 × 4.3	N - 60° - W	60	0	14W-45
II 114	4.8 × 4.3	N - 37° - W	40	4	13X-97
II 117	3.5 × -	N - ° - -	30	0	13W-85
II 119	3.5 × -	N - ° - -	15	0	14X-84
III 176	5.2 × 6.0	N - 69° - W	50	4	14Y-50
III 181	4.8 × -	N - ° - -	20	2+	14X-78

### 第3節 古墳時代後期

古墳時代後期の遺構は、2軒の竪穴住居のみで、極めて少ない。分布域は弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居集中地点の北側縁辺部（13X大グリッド）に当たる。

#### I 008（第31図、図版6・118・165）

南側でI 007に、竈側で後世の溝に攪乱される。極めて整った方形プランで、柱穴は4本存在する。出入口はおそらく竈対面側と考えられるが、007により削平されて確認できない。竈は袖部が若干遺存している程度であった。埋土の上層には焼土層が認められる。北側壁床面から集中して遺存度が良好な土器が出土した。特殊な遺物としては土鈴がある。

表30 I 0 0 8

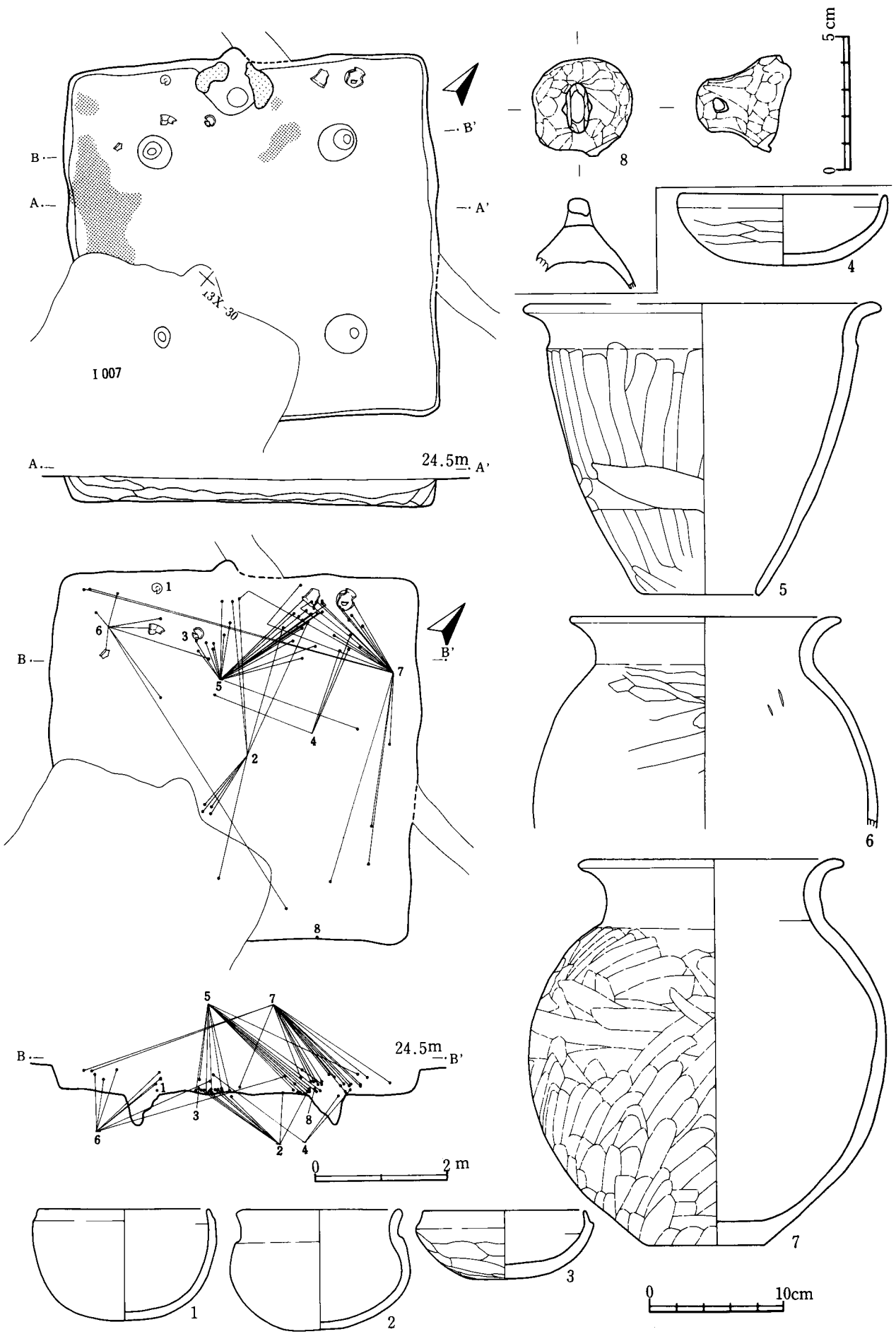
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第31図の1	土師器 碗	12.7	8.2	—	石英・雲母含む	暗褐色～黄褐色	外面ヘラケズリ後、ヘラミガキ	121
第31図の2	土師器 壺	11.6	8.7	—	—	赤褐色～暗褐色		79、82、103、113、114、115、117、118、130、131、133、135、136
第31図の3	土師器 杯	(12.2)	5.0	—	白色鉱物含む	黒褐色		122
第31図の4	土師器 杯	(15.2)	(5.1)	—	—	黒色	外面ヘラケズリ後、ヘラミガキ	26、41、42、72、136、I 007-141、170
第31図の5	土師器 甗	25.8	21.4	8.6	砂粒含む	褐色～黒褐色	内面ヘラナデ	19、20、21、22、33、36、38、39、67、71、74、75、76、77、78、79、80、81、100、101、103、123、127、129、132、133、136、I 007-140
第31図の6	土師器 甗	19.4	—	—	砂粒含む	赤褐色	内面ヘラナデ	3、5、12、24、28、97、125、126、136 I 007-140、13W-1
第31図の7	土師器 甗	(18.7)	(28.1)	8.7	砂粒含む	赤褐色		1、2、31、32、40、43、44、45、46、48、65、66、68、69、90、93、109、124、131、I 007-140
第31図の8	土鈴	幅 (3.7)	—	—	長石・石英含む	褐色	外面は細かなヘラケズリ、破片	112

#### I 012（第32図、図版7・8・118）

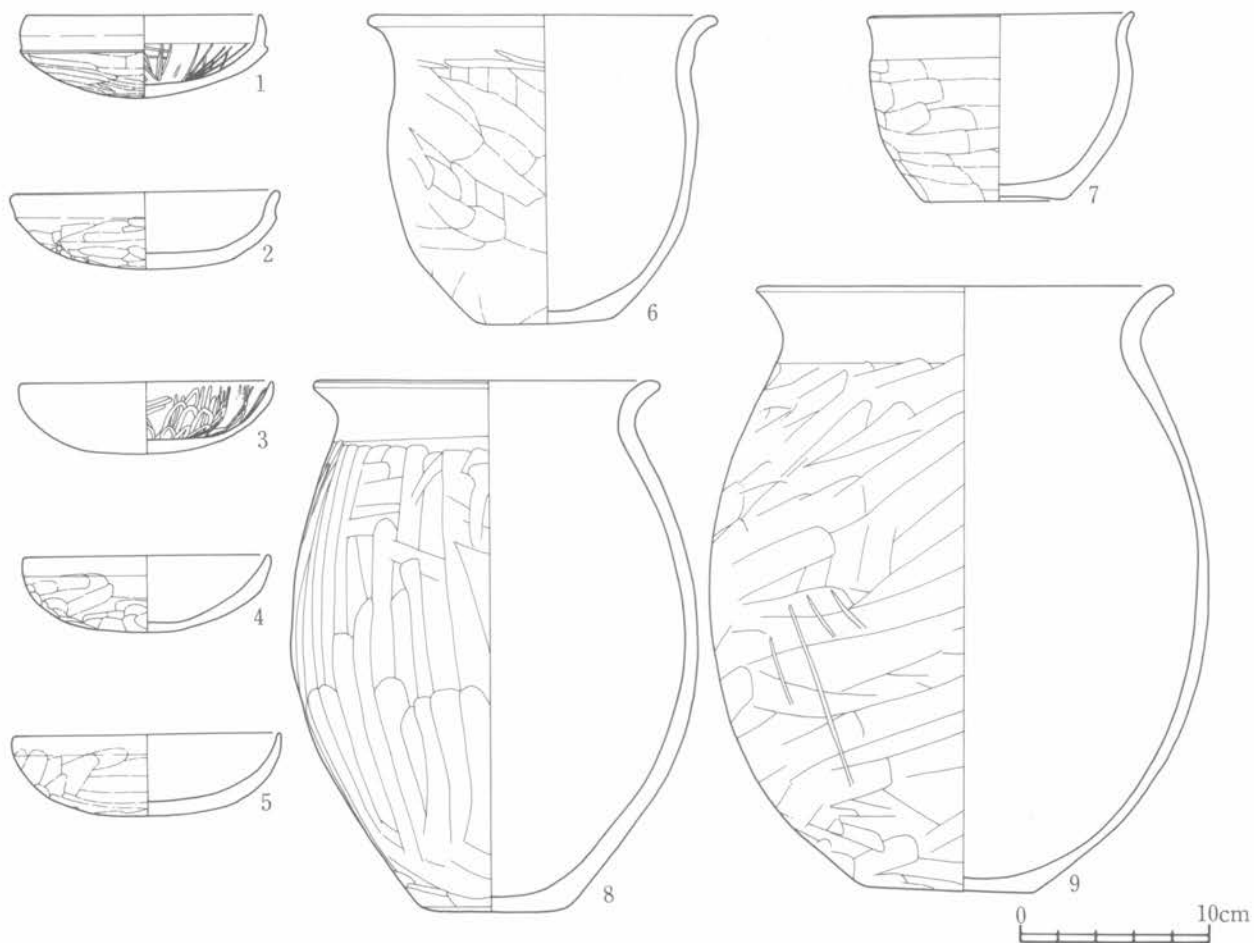
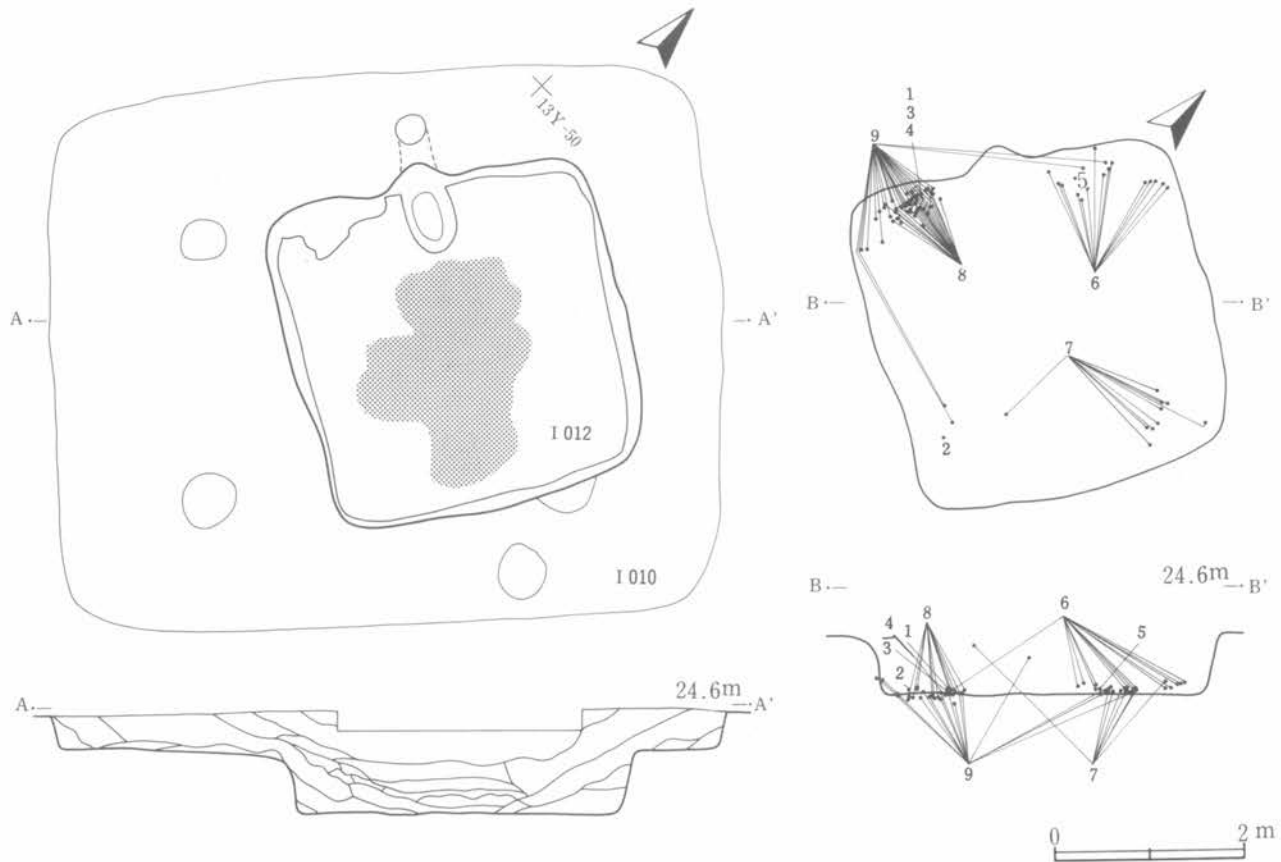
I 010と重複し、本跡のほうが新しい。竈はほとんど遺存しない。I 010の床面レベルより上部で、本跡の壁の明瞭な立上がりが認められないことから、本跡はI 010が完全に埋まりきる以前に構築されたと考えられる。床面からやや浮いた層から多量の焼土を検出した。炭化材が全く検出されないことから、住居廃絶に伴う、焼土の投げ込み行為と考えられる。竈煙道部は掘り抜きとなっている。

表31 I 0 1 2

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第32図の1	土師器 杯	(12.2)	4.3	—	—	赤褐色	内面ヘラミガキ	42
第32図の2	土師器 杯	14.0	3.9	—	砂粒・スコリア含む	褐色～暗褐色	内面ナデ後ミガキ	40
第32図の3	土師器 杯	13.2	3.7	—	スコリア含む	暗褐色	内面ヘラミガキ	43
第32図の4	土師器 杯	12.8	4.0	—	スコリア含む	褐色～黒褐色		44
第32図の5	土師器 杯	14.0	4.1	—	白色鉱物・スコリア・雲母・長石含む	褐色		98
第32図の6	土師器 甗	17.9	16.0	7.1	白色鉱物・スコリア含む	暗褐色～赤褐色		71、72、73、74、75、76、78、79、80、81、82、90、91、95、100
第32図の7	土師器 甗	13.8	9.9	7.6	—	暗褐色		8、27、28、29、30、31、32、33、34、35
第32図の8	土師器 甗	17.6	27.4	7.8	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	赤褐色		45、46、48、49、50、52、54、55、57、58、59、60、63、64、67、70、83、85、86、94、101、105
第32図の9	土師器 甗	21.4	31.5	9.0	乳白色砂・長石・スコリア含む	赤褐色		2、3、36、39、41、47、48、51、61、62、65、66、68、69、84、87、88、97、99、102、103、104、106、107、108、I 010-121



第31图 I 008



第32図 I 012

表32 竪穴住居跡計測表 (古墳後期)

遺構番号	主軸長×横軸長(m)	方位	竈の基数	竈の位置	壁高浅～深 (cm)	主柱穴数	グリッド
I 008	5.3 × 5.5	N - 41° - W	1	NW	40	4	13X-10
I 012	3.5 × 3.6	N - 54° - W	1	NW	110	0	13X-59



## 第4節 奈良・平安時代

本遺跡の遺構の大半は、奈良・平安時代の竪穴住居である。総数で202軒になる。その分布は調査対象域のほぼ全面に亘るが、調査区北端と台地奥部には比較的少ない傾向にある。また、掘立柱建物も総数43軒にのぼるが、ほとんどすべて当期に該当すると考えられ、その分布は特に14T、15T大グリッド周辺と15W大グリッド周辺の2か所に集中している。また、当該期には、谷津を上り台地上を東北東から西南西に一直線に横切る溝状遺構（道路）が見られる。

### (1) 竪穴住居

#### I 003 (第33図、図版3・117・169)

北側で後世の溝と重複するやや小型の住居である。壁溝はなく、床面も全体的に軟弱である。竈内には須恵器の甗が割れた状態で出土した。明瞭な柱穴は確認できない。P1は直径0.5m、深さ0.2mほどの小ピットである。住居埋土中から4つに割れた鉄製紡錘車1組が出土している。

表33 I 0 0 3

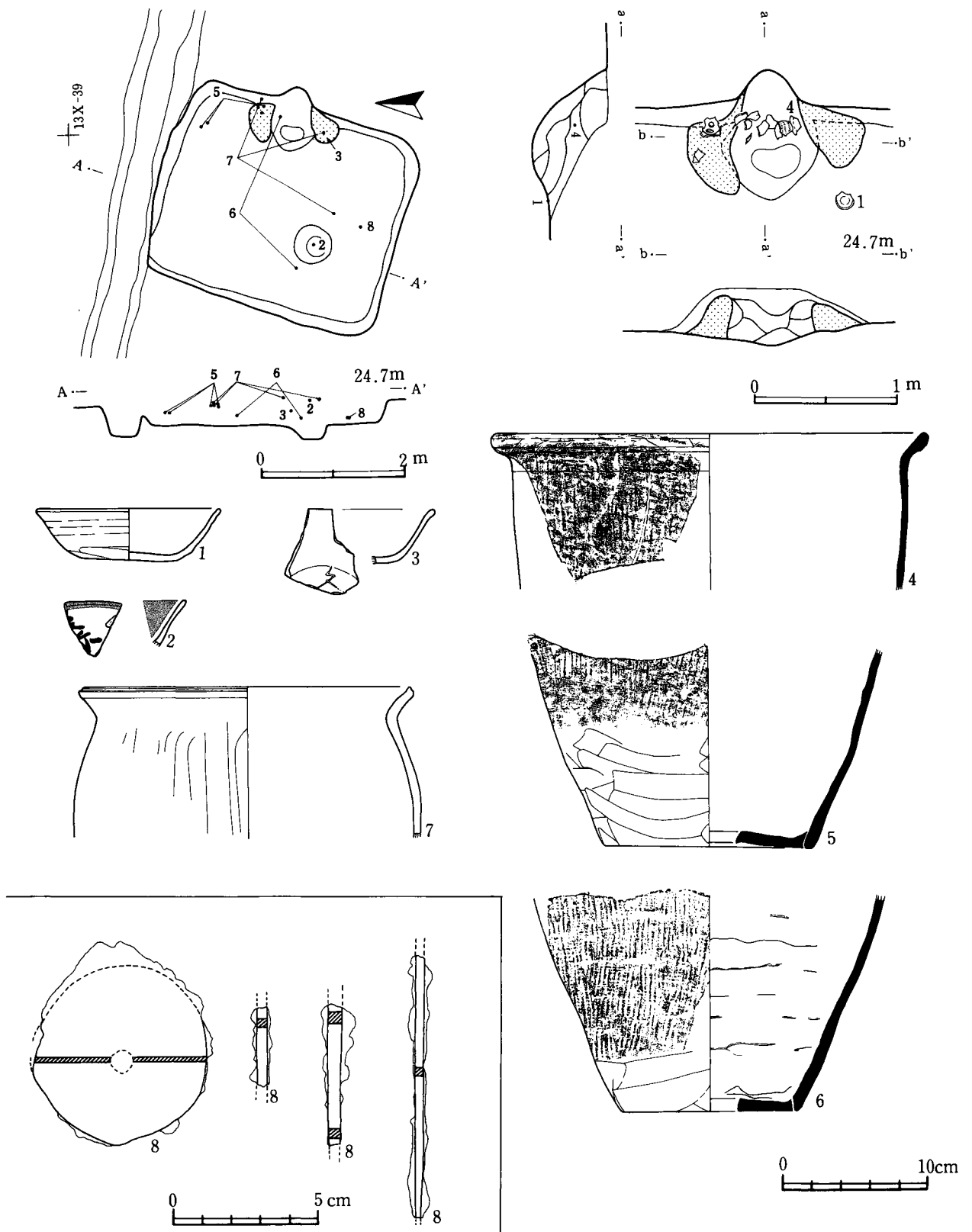
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第33図の1	土師器 杯	12.6	3.5	6.6	長石・雲母・スコリア含む	褐色		59、71
第33図の2	土師器 杯	-	2.7	-	長石・雲母含む	内面黒色、外面黒色	内黒墨書(体外)「久弥」	14
第33図の3	土師器 杯	-	3.7	-	長石・雲母・スコリア含む	褐色	線刻(底外)「久」	6、70
第33図の4	須恵器 甗	(29.7)	-	-	スコリア・雲母粒含む	灰褐色		66
第33図の5	須恵器 甗	-	-	14.4	長石粒含む	灰褐色	5孔	33、34、37、38、51、69
第33図の6	須恵器 甗	-	-	(12.2)	長石粒含む	灰褐色	5孔	15、57
第33図の7	土師器 甗	(22.6)	-	-	乳白色砂・長石・スコリア含む	黒褐色		4、45、46、48、71
第33図の8	紡錘車	直径 6.0	-	-	鉄製品	-	棒軸は断面方形、4点で1セット	10

#### I 004 (第34図、図版4・117・165・167・168・170)

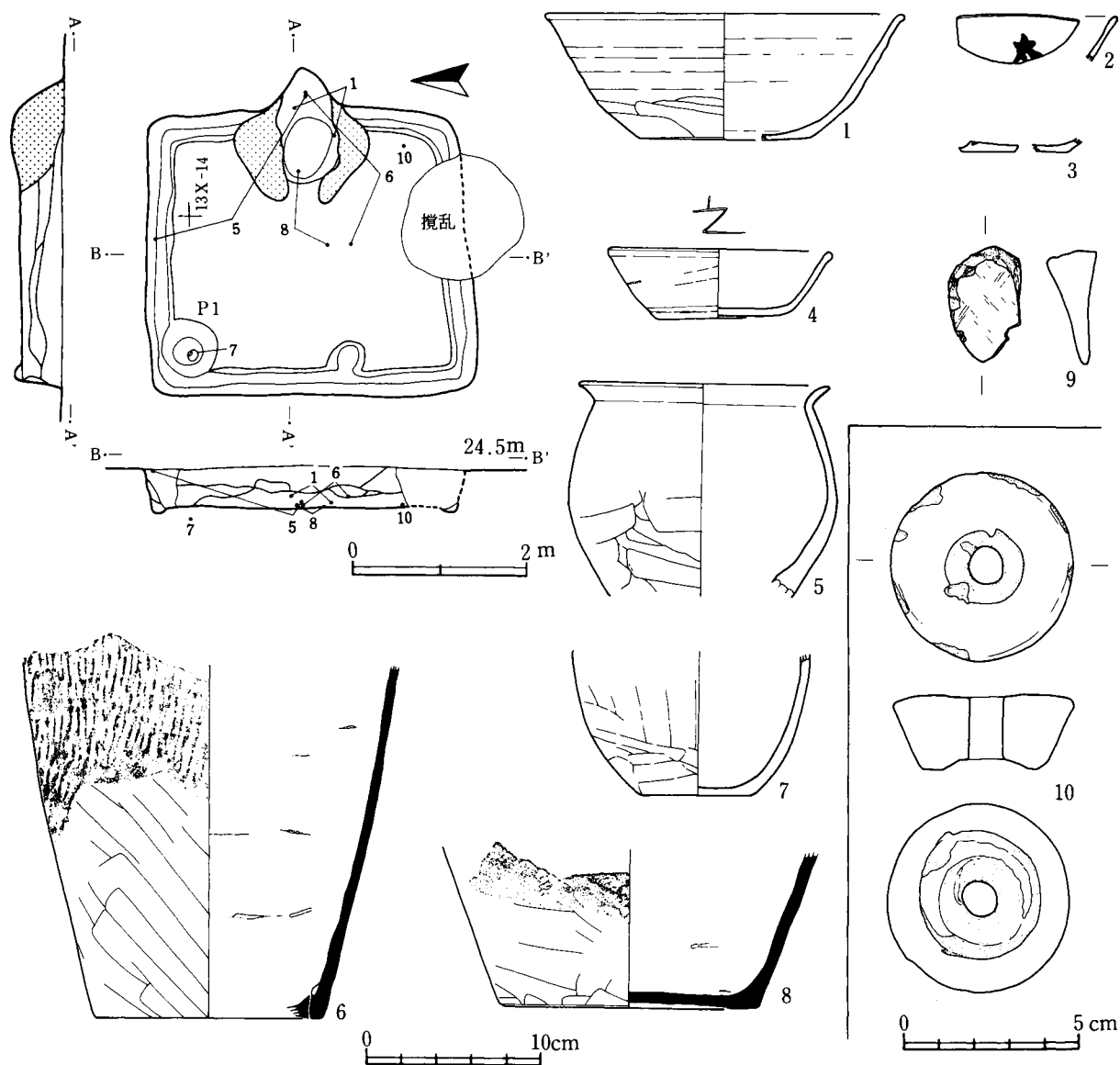
主軸方向をほぼ真東にとる住居である。床面は四隅を除いて全体に硬く締まっている。竈の対面に当たる西側壁中央からやや南側に、深さ0.05mほどの浅い落込みがある。出入口施設に伴うものであろう。また西北隅には直径0.6m、深さ0.25mのピットがある(P1)。柱穴はなかった。埋土にはロームブロックが混入し、人為的な埋戻しを行っている。完形の土製紡錘車が竈右脇床面直上から出土している。

表34 I 0 0 4

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第34図の1	土師器 碗	(20.35)	7.2	(9.8)	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	赤褐色		5、8、32
第34図の2	土師器 杯	-	-	-	乳白色砂・長石・スコリア含む	褐色	墨書(体外)「太」	28、30
第34図の3	土師器 杯	-	-	-	乳白色砂・長石・スコリア含む	褐色	墨書(体外)「□」	30
第34図の4	土師器 杯	12.7	4.1	7.0	乳白色砂・長石・スコリア含む	褐色	線刻(底内)「之」	30
第34図の5	土師器 甗	(14.2)	-	-	乳白色砂・長石・スコリア含む	外面灰褐色 内面赤褐色		7、11、28、29、31
第34図の6	須恵器 甗	-	-	(13.0)	長石・スコリア・雲母含む	灰褐色	5孔	6、26、29
第34図の7	土師器 甗	-	-	6.4	乳白色砂・長石含む	灰褐色	二次焼成受ける	33
第34図の8	須恵器 甗	-	-	(14.8)	乳白色砂・長石・スコリア含む	赤褐色	底外縄目状圧痕	1、25、28、29、31、32
第34図の9	砥石	-	-	-	凝灰岩、58.7g	-		30
第34図の10	紡錘車	上端幅 3.0	厚さ 2.1	下端部 5.2	乳白色砂・長石含む	赤褐色		27



第33图 I 003



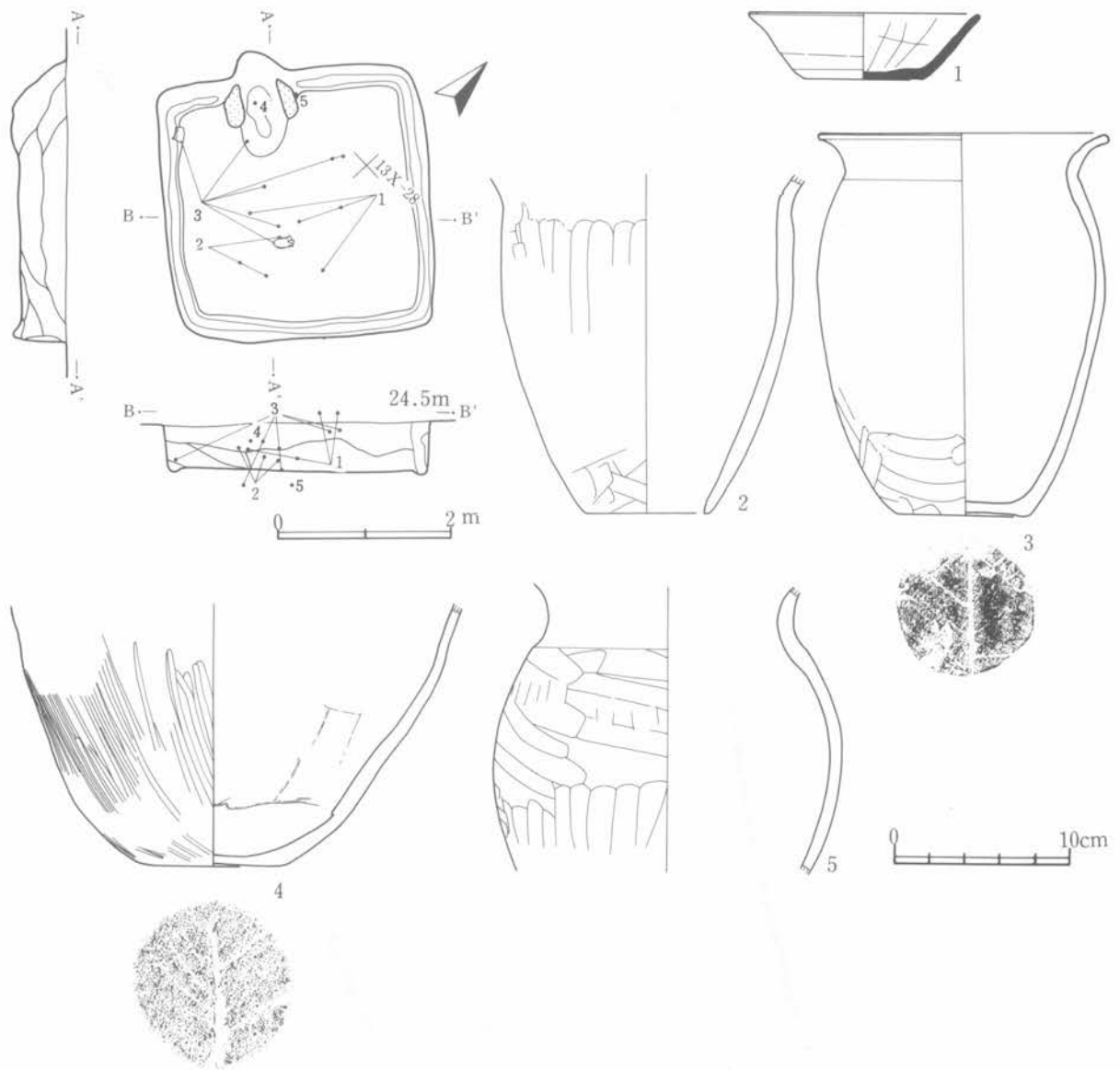
第34図 I 004

I 005 (第35図、図版4・117)

竈部分を除き壁溝が全周する住居で、竈は北西壁のやや西寄りに位置する。床面は全体に硬く締まっている。柱穴はない。竈の遺存はさほど良好ではないが、内部から甕の胴下半部、右袖脇から甕の上半部が出土している。埋土は全体的に硬く締まった層で、人為的な埋戻しである。

表35 I 005

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第35図の1	須恵器 杯	13.1	3.9	6.8	乳白色砂・長石・雲母含む	灰色	線刻(体内)「卍」	5、9、14、24、31
第35図の2	土師器 甕	—	(7.4)	—	乳白色砂・長石含む	暗褐色	二次焼成受ける	7、8、10、32
第35図の3	土師器 甕	16.2	21.8	7.6	乳白色砂・長石・スコリア含む	赤褐色	底外木葉痕、のちヘラケズリ	12、18、21、22、23、32、34、36
第35図の4	土師器 甕	—	—	8.6	長石・雲母含む	外面暗褐色 内面黒色	底外木葉痕	30
第35図の5	土師器 甕	—	—	—	乳白色砂・長石・スコリア含む	暗褐色	二次焼成受ける	33



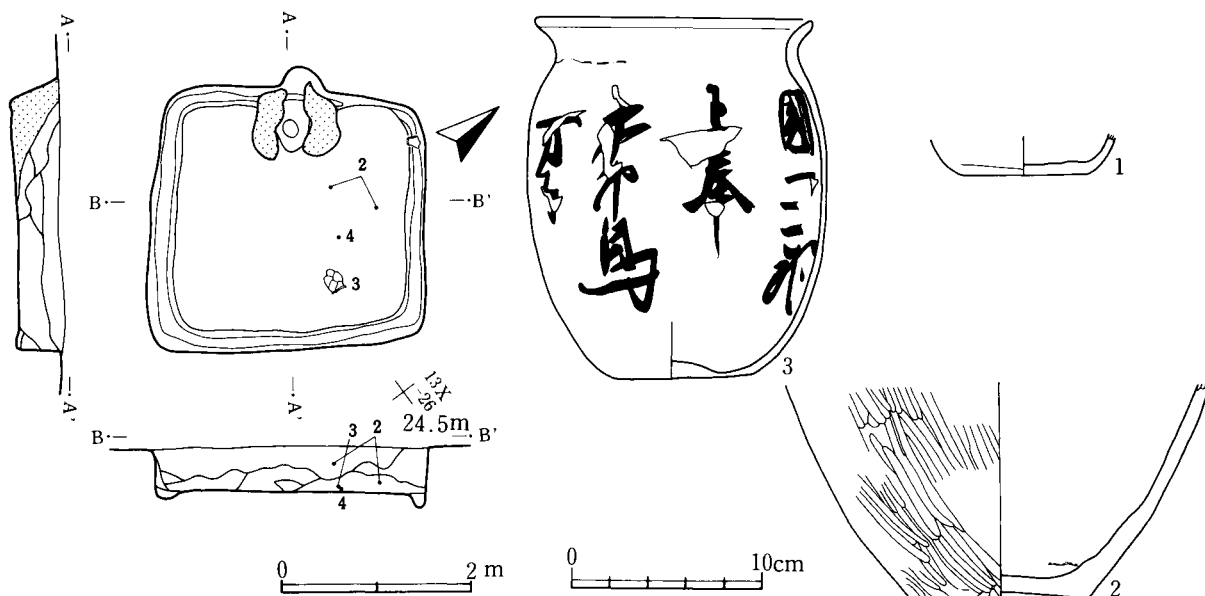
第35図 I 005

I 006 (第36図、図版4・5・117)

小型の住居で壁溝は全周する。床面は、中央部が著しく硬くしまっていた。埋土はロームブロックを多く含む層と、焼土層と砂質粘土を多く含む層からなる。遺物量は極めて少量であるが、床面から横位で、完形の甕が1点出土した。この甕の胴部外面には正位、4段書きの墨書で「国玉神 上奉 丈部鳥 万呂」の文字が認められた。

表36 I 006

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第36図の1	土師器 杯	—	—	(6.8)	乳白色砂・長石含む	赤褐色		33
第36図の2	土師器 甕	—	11.2	9.5	長石・スコリア・雲母含む	暗褐色	底外木葉痕	10、21、30、34
第36図の3	土師器 甕	14.5	19.1	7.7	乳白色砂・長石・スコリア含む	赤褐色～黒色	墨書(体外)「国玉神 上奉 丈部鳥 万呂」	29



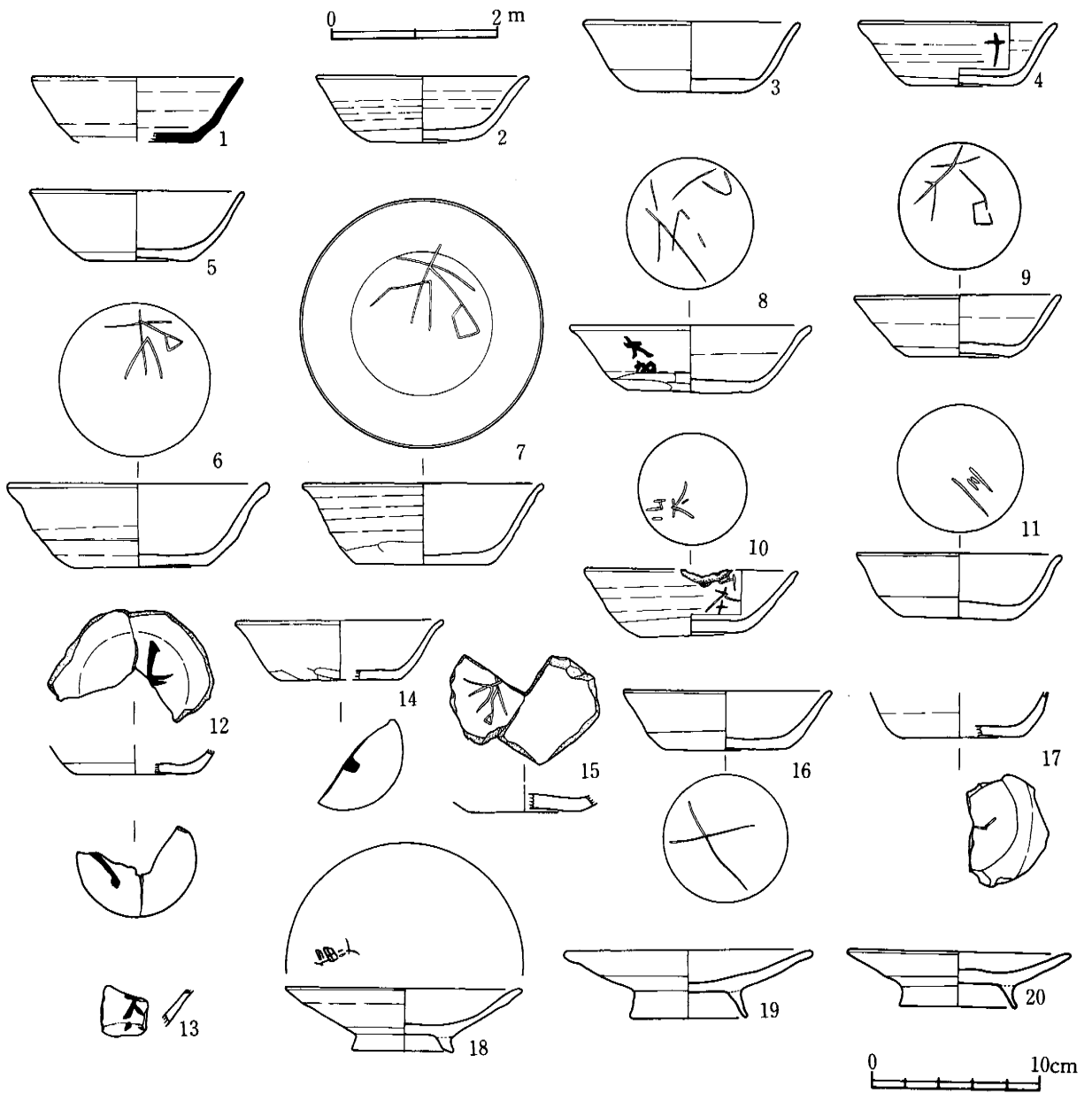
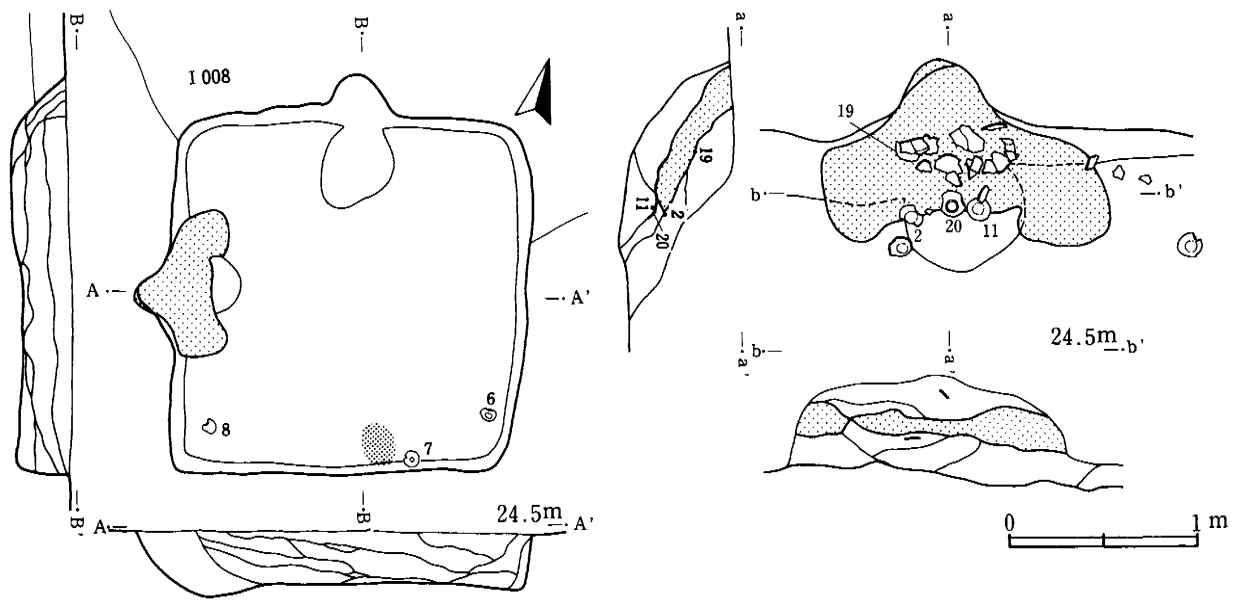
第36図 I 006

I 007 (第37・38図、図版5・117・166~170)

電位置の変更が行われている住居である。北壁に旧竈、西壁に建替え後の新竈がある。I 008と重複するが008より新しい。新竈内からは多くの遺物が出土した。また、埋土から見ると新竈側から人為的に埋戻しを行った痕跡が窺える。柱穴は認められない。墨書や線刻土器で2文字を合成した合わせ字の「大加」・「山本」が多く出土している。また、土錘や土師器杯片を転用した円盤、鉄製の穂摘具の破片が出土している。

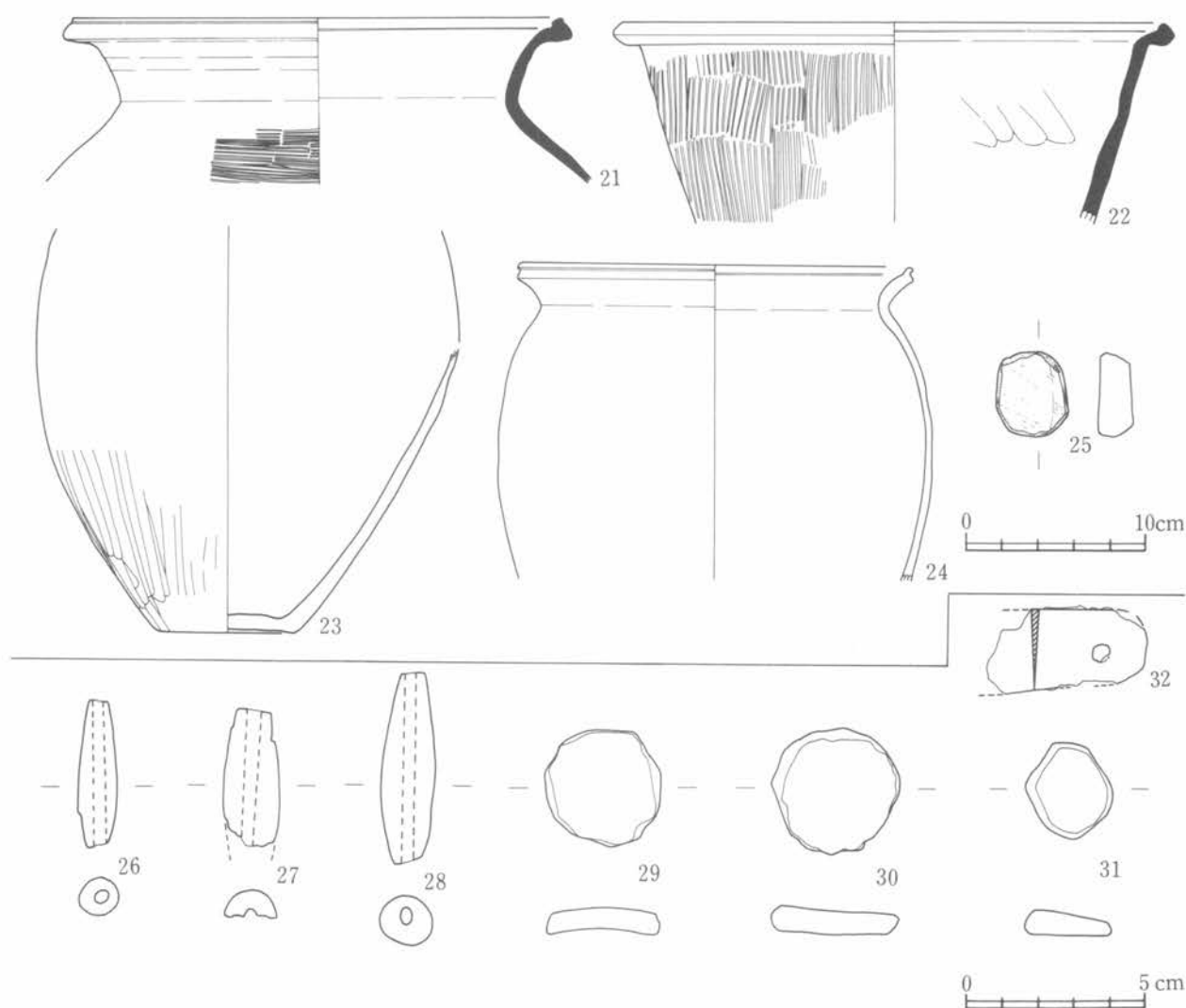
表37 I 007

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第37図の1	須恵器 杯	(12.4)	3.9	(6.8)	白色針状物・長石・石英含む	灰褐色	中原・宇津志野窯産	87
第37図の2	土師器 杯	12.6	3.9	6.4	白色針状物・雲母・砂粒含む	赤褐色		118
第37図の3	土師器 杯	(12.8)	4.1	6.3	白色針状物・雲母含む	橙褐色		10、90、142
第37図の4	土師器 杯	11.8	3.7	6.3	雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書(体外)「十」	10、12、32、143
第37図の5	土師器 杯	(12.5)	4.1	6.1	白色針状物・雲母含む	暗褐色		140
第37図の6	土師器 杯	15.5	5.0	8.0	白色針状物・雲母含む	褐色	線刻(底内)「大加」	136
第37図の7	土師器 杯	12.4	4.7	6.0	白色針状物・雲母含む	外面褐色、内面暗褐色	線刻(底内)「大加」	135
第37図の8	土師器 杯	14.4	4.0	7.5	雲母含む	褐色	墨書(体外)「大加」 線刻(底内)「大加」	134
第37図の9	土師器 杯	12.3	3.7	6.3	白色針状物・雲母・スコリア含む	淡褐色	線刻(底内)「大加」	21、91、140、142
第37図の10	土師器 杯	13.2	4.0	6.1	雲母・砂粒含む	淡褐色	線刻(体外)「山本」 線刻(底内)「山本」	133
第37図の11	土師器 杯	12.1	3.9	6.8	雲母・砂粒・スコリア含む	褐色	線刻(体内)「三」	115
第37図の12	土師器 杯	-	-	7.0	雲母含む	褐色	墨書(底内)  墨書(底外) 	106、144
第37図の13	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「大八」	141
第37図の14	土師器 杯	(12.1)	3.5	(7.2)	白色針状物・雲母含む	淡褐色	墨書(底外) 	100、141
第37図の15	土師器 杯	-	-	6.6	白色針状物・雲母・スコリア含む	淡褐色	線刻(底内)「大加」	27、140
第37図の16	土師器 杯	12.2	3.4	7.5	白色針状物・雲母含む	褐色~黒褐色	線刻(底外)「×」	19、30、48、140
第37図の17	土師器 杯	-	-	(7.5)	白色針状物・雲母含む	橙褐色	線刻(底外) 	98
第37図の18	土師器 高台付皿	(14.2)	3.7	5.9	雲母・スコリア含む	外面橙褐色 内面暗褐色	線刻(体内)「畠」 	9、140、144
第37図の19	土師器 高台付皿	(14.6)	3.9	6.8	白色針状物・雲母含む	褐色	内面ヘラミガキ	121



第37图 I 007(1)

第37図の20	土師器 高台付皿	13.3	3.3	6.8	雲母多量に含む	橙褐色	内面ヘラミガキ	116
第38図の21	須恵器 甕	(27.0)	—	—	雲母・石英・長石含む	灰褐色	新治産	67、88
第38図の22	須恵器 鉢	(30.1)	—	—	雲母・石英・長石含む	灰白色～橙褐色	新治産	5、53、140
第38図の23	土師器 甕	—	—	7.6	乳白色砂・雲母含む	褐色～暗褐色	底外木葉痕	62、77、122、123、124、128、129、130、140、141、144、164
第38図の24	土師器 甕	(21.8)	—	—	雲母・長石・石英含む	橙褐色	—	61、68、120、126、131、143
第38図の25	砥石	53.6g	—	—	砂岩	—	—	16
第38図の26	土錘	長さ 4.0	最大幅 1.1	4.4g	—	黒褐色	—	34
第38図の27	土錘	(3.8)	1.6	—	—	黒褐色	—	95
第38図の28	土錘	5.2	1.5	10.2g	—	暗褐色	—	44
第38図の29	土製円盤	長径 3.2	短径 3.1	高さ 0.7	—	褐色	土師器杯体部転用	57
第38図の30	土製円盤	長径 3.6	短径 3.1	高さ 0.8	—	褐色	土師器杯底部転用	7
第38図の31	土製円盤	長径 2.7	短径 2.4	高さ 0.7	—	褐色	土師器杯底部転用	141
第38図の32	穂摘具	長さ 4.5	—	—	鉄製品	—	—	8



第38図 I 007(2)

I 009 (第39・40図、図版6・118・165・168)

竈煙道部が後世の溝と重複し欠失する以外は、比較的遺存度は良好である。柱穴は4本である。竈対面に入出口施設に伴う浅い小ピットがある。壁溝は全周する。竈内部から倒位の小型甕や杯が出土した。このうち小型甕は、竈火床部と煙道部の境（いわゆる障壁部に相当する）に倒位で検出された。その他、墨

書で「山本」や、線刻で「万」という文字資料が出土している。椀型滓が出土しているが、当住居には鉄製関連の炉を検出していない。

表38 I 0 0 9

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第39図の1	土師器 杯	(11.2)	4.0	5.8	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	褐色		8
第39図の2	土師器 杯	12.3	4.4	6.9	乳白色砂・長石・スコリア含む	黄褐色		84
第39図の3	土師器 杯	14.8	4.3	7.8	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	外面黄褐色 内面黒褐色	内黒	77
第39図の4	土師器 杯	(15.0)	4.6	(7.4)	乳白色砂・長石・雲母含む	外面赤褐色 内面黒色	内黒	20、76
第39図の5	土師器 杯	(12.0)	4.2	6.9	乳白色砂・長石・スコリア含む	赤褐色		33
第39図の6	土師器 杯	11.7	4.0	7.1	乳白色砂・長石・雲母含む	黄褐色		25、102、104、105
第39図の7	土師器 杯	12.6	3.8	7.4	乳白色砂・長石・雲母・スコリア含む	赤褐色		1、39、104、105
第39図の8	土師器 杯	11.9	3.8	6.7	乳白色砂・長石・雲母・スコリア含む	褐色		34、41、103
第39図の9	土師器 杯	11.5	3.7	7.5	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	黄褐色		93
第39図の10	土師器 杯	12.2	4.1	7.3	乳白色砂・長石・スコリア含む	黄褐色		11、40
第39図の11	土師器 杯	(14.4)	4.4	7.6	乳白色砂・長石・雲母含む	外面褐色、内面黒色	内黒	31、102
第39図の12	土師器 杯	(15.7)	4.6	(7.8)	—	—	内黒	32、105
第39図の13	土師器 杯	—	—	(8.4)	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	褐色	墨書(底外)「□」	103、104
第39図の14	土師器 杯	(18.2)	5.5	9.5	乳白色砂・長石・スコリア含む	外面黄褐色 内面黒色	線刻(体外)「万」 へら書き(底外)「万」	87、102、104、105
第39図の15	土師器 杯	—	—	—	乳白色砂・長石含む	外面褐色、内面黒色	線刻(体外)「□」 内黒	104
第39図の16	土師器 杯	—	—	—	長石・スコリア・雲母含む	褐色	墨書(体外)「山本」	104
第39図の17	土師器 杯	—	—	—	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	明褐色	墨書(底外)「□」	103
第39図の18	土師器 杯	—	—	—	乳白色砂・長石・スコリア含む	褐色	墨書(体外)「□」	103
第39図の19	土師器 甕	—	—	5.8	乳白色砂・長石・雲母含む	暗褐色～黄褐色		86
第39図の20	土師器 甕	(14.2)	—	—	乳白色砂・長石・スコリア含む	赤褐色	二次焼成受ける	100、101、117、119、121、122、123
第39図の21	土師器 甕	(16.2)	17.0	6.2	乳白色砂・長石・雲母含む	黄褐色	底外木葉痕	95
第39図の22	土師器 甕	23.1	—	—	乳白色砂・長石・スコリア含む	赤褐色～暗褐色	二次焼成受ける	78、79、104、M103-1
第40図の23	須恵器 甕	—	—	—	乳白色砂・長石・スコリア含む	灰褐色	内面ヘラナデ	104、105
第40図の24	須恵器 甕	—	—	—	乳白色砂・長石・雲母含む	黒褐色	新治産?	37、103、13X-1
第40図の25	須恵器 甕	—	—	11.2	乳白色砂・長石・雲母含む	褐色	新治産	38
第40図の26	紡錘車	上端幅 4.1	厚さ 2.1	下端幅 5.1	凝灰岩、73.4g	—		19
第40図の27	鉄鏃	残存長 5.7	残存長 3.0	—	—	—		85
第40図の28	椀形滓	横 12.1	縦 10.0	厚さ 3.2	279.8g	—		81

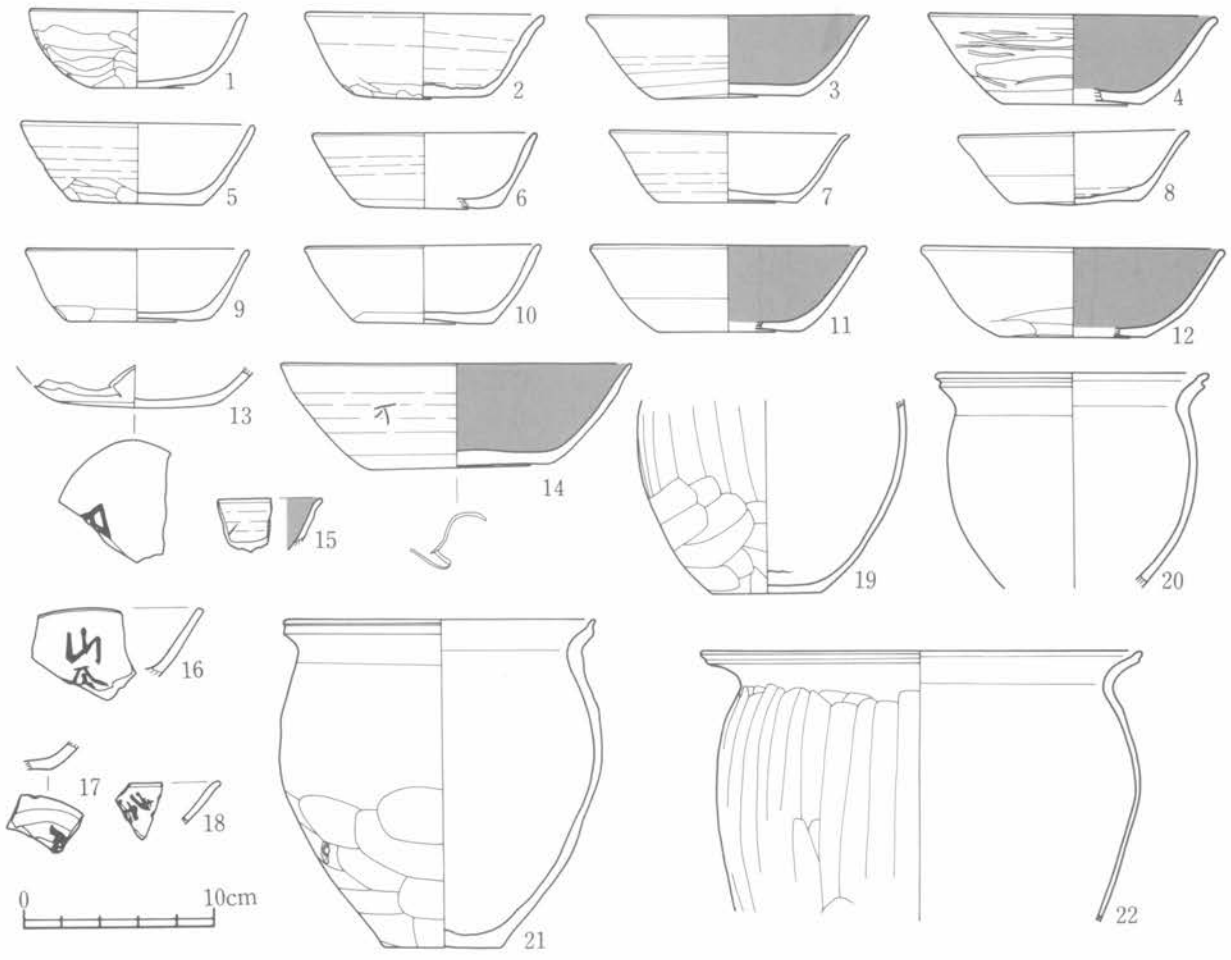
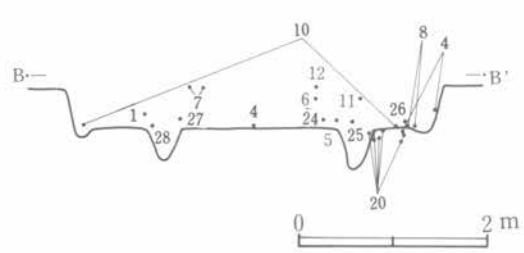
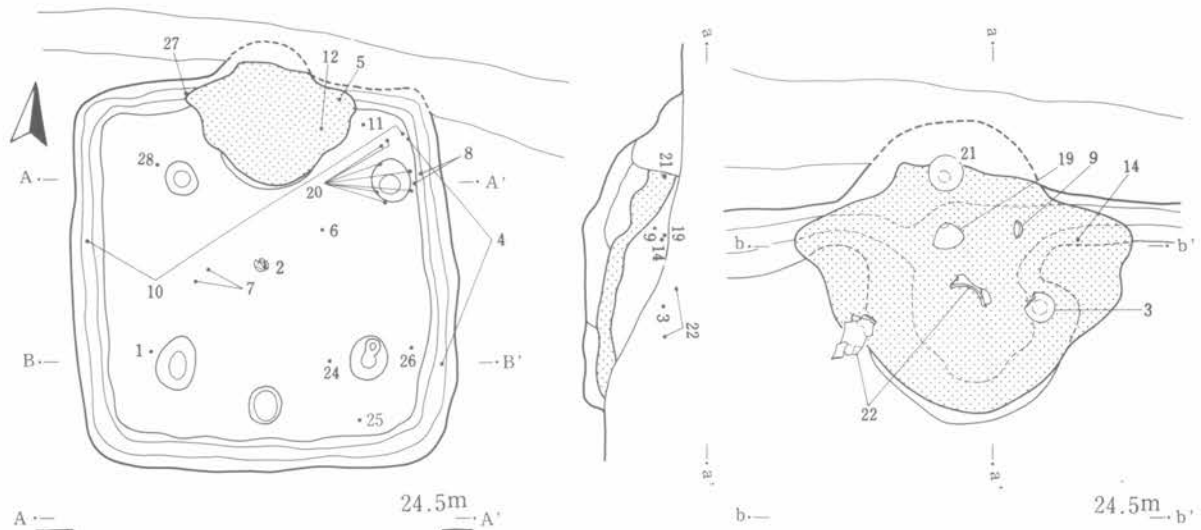
I 011 (第41図、図版8・118・168)

I 020と重複し、本跡の方が新しい。竈は袖部のほとんどが解体されている。柱穴は4本存在するが、位置が堅穴のコーナーに寄っており、壁溝と重なるように構築されているものも存在する。その分、床面の面積は広く間取りされ、硬質面も対応するように広い。また、西壁際の中央部分には、床面が円形に直径0.4mほど強く被熱した部分があるが、工房的な様相は認められず、出土遺物にも生産関連の遺物は出土していない。刀子の基部が住居埋土上層から出土している。

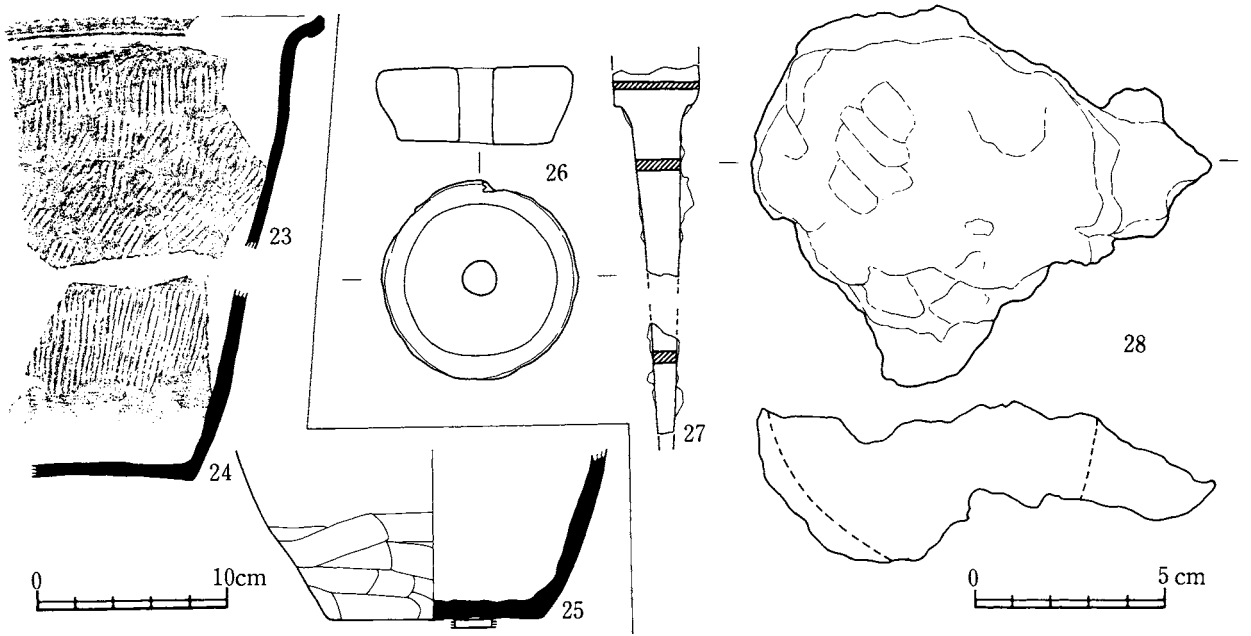
表39 I 0 1 1

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第41図の1	土師器 杯	(12.2)	4.5	(5.9)	乳白色砂・長石・雲母・スコリア含む	黄褐色	二次焼成受ける	17、40
第41図の2	土師器 杯	(12.9)	4.4	(7.9)	長石・スコリア含む	黄褐色		49、52
第41図の3	土師器 杯	13.4	3.9	(6.8)	長石・雲母含む	暗褐色		16、49、50、51
第41図の4	土師器 杯	12.6	3.6	5.9	長石・雲母・スコリア含む	褐色～灰褐色		19、33、37、52
第41図の5	土師器 杯	13.2	4.3	7.4	乳白色砂・長石含む	赤褐色	線刻(体外)「大加」?	21、22、32
第41図の6	土師器 甕	(21.2)	—	—	長石・雲母・スコリア含む	褐色		53
第41図の7	刀子	残存長 10.0	—	—	鉄製品	—		15

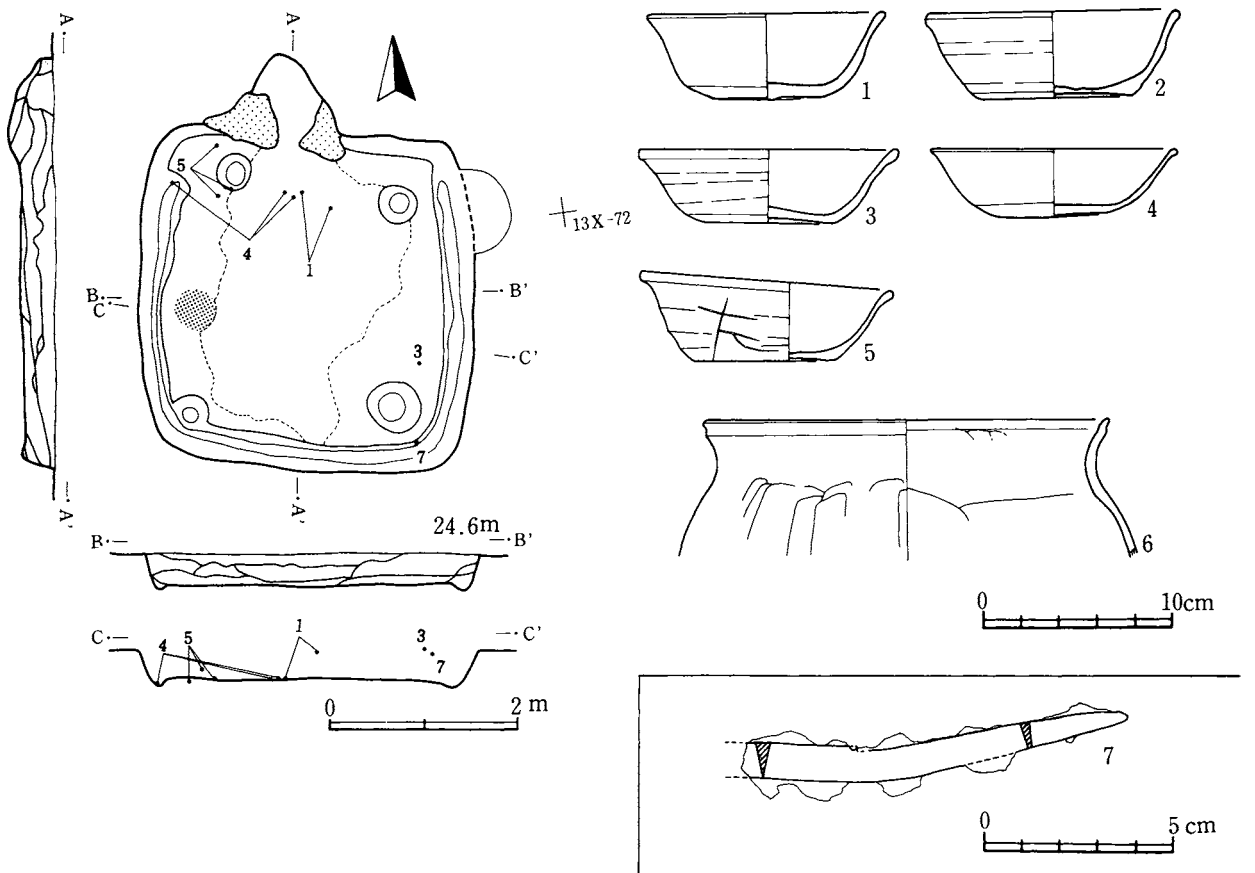




第39图 I 009(1)



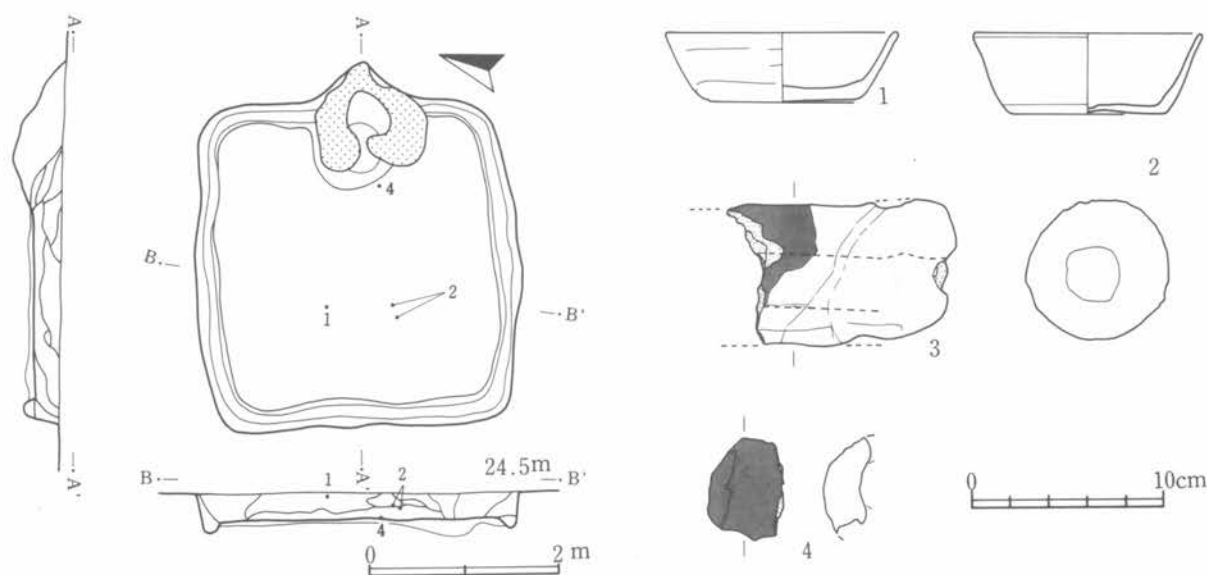
第40图 I 009(2)



第41图 I 011

I 013 (第42図、図版8・119)

竈の遺存状態の良好な住居で、床面は四隅を除いて全体的に硬く締まっている。出土遺物は少ない。竈穴の埋土はロームブロック、砂質粘土ブロックなどが混入し、人為的な埋戻しが行われたようである。竈付近から土製羽口(4)が出土した。竈の支脚に転用されていた可能性が高い。本跡には鍛冶工房等の製鉄関連施設は存在しない。



第42図 I 013

表40 I 013

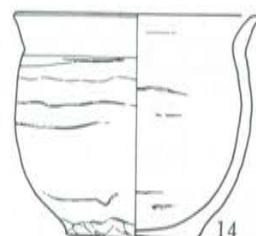
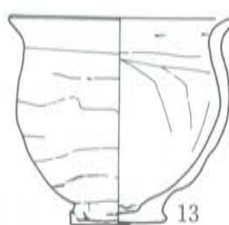
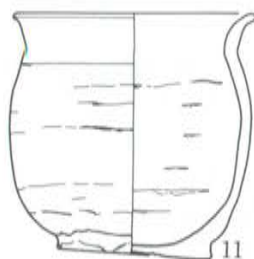
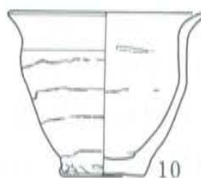
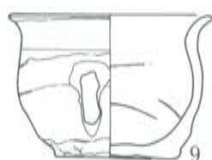
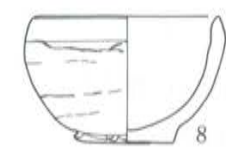
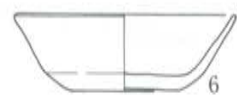
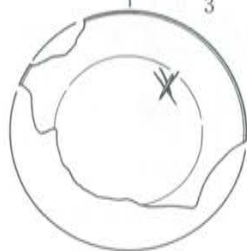
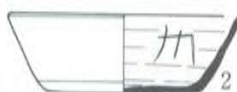
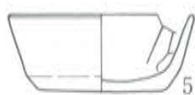
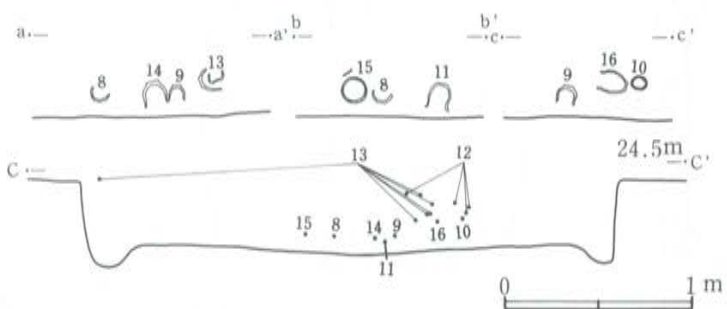
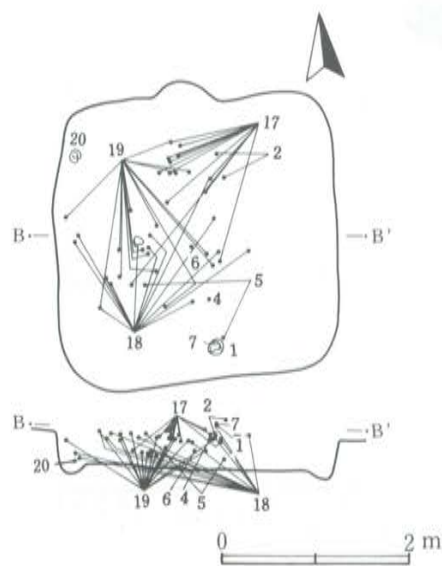
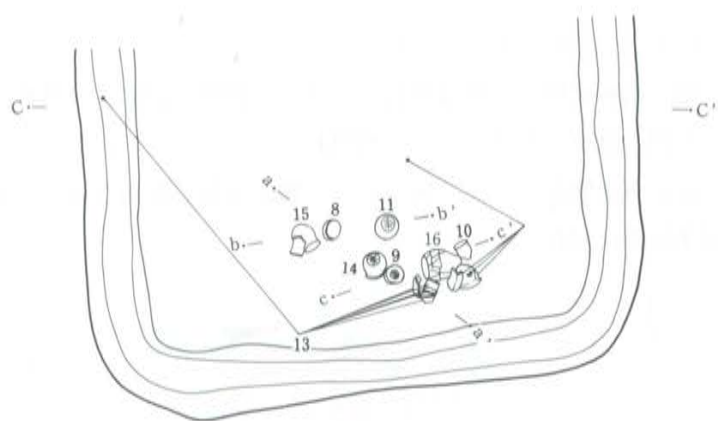
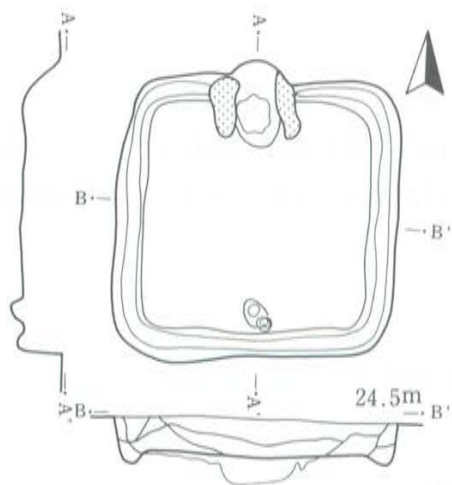
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第42図の1	土師器 杯	12.0	3.6	7.7	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	赤褐色	外面スス附着	3
第42図の2	土師器 杯	11.8	3.6	8.1	白色針状物・長石含む	黒褐色	吉川窯産?	4、17
第42図の3	羽口	外径 7.5	孔径 3.1	残存12.0	白色砂・雲母・長石・スサ混入	橙色		28
第42図の4	羽口	外径 6.0	孔径 2.8	残存 4.0	砂粒・長石・石英・雲母・スサ混入	淡褐色、ガラス化した面は黒色	先端表面ガラス化	24

I 014 (第43・44図、図版9・119・170)

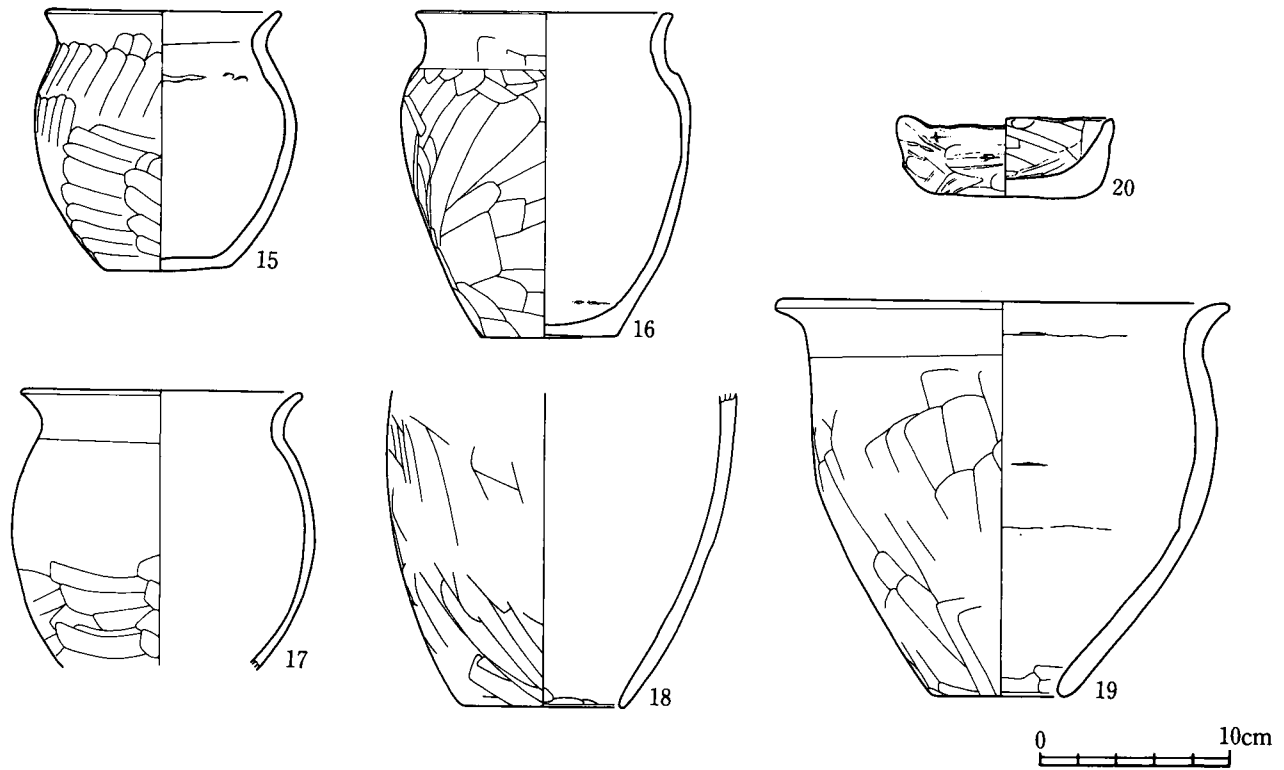
竈対面に入出口施設の小ピットを有する住居である。壁溝は全周する。住居の南半部(出入口付近)で、遺存度が良好な一括遺物が出土した。手捏ね土器(20)を含み祭祀遺物と考えられ、意図的に埋められたようである。また埋土最上層から2枚重なって出土した杯の内側の1点に、多文字墨書が認められた。7の赤色塗彩杯の体部内面に倒位で「丈尼」、体部外面にも倒位で「丈尼」、体部外面には別記で横位の多文字墨書で「丈部山城方代奉」と記されている。

表41 I 014

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第43図の1	須恵器 杯	(13.3)	7.9	4.0	長石含む	暗褐色		16
第43図の2	須恵器 杯	(12.2)	4.0	8.2	乳白色砂・長石含む	茶灰色	火だすき、線刻(底内)「卍」?	1、2
第43図の3	須恵器 杯	(12.2)	4.3	6.3	乳白色砂・長石含む	灰色	火だすき、線刻(底内)「卍」?、永田窯産	102
第43図の4	土師器 杯	(11.9)	8.1	4.1	乳白色砂・長石含む	暗褐色	内面にスス附着	10
第43図の5	土師器 杯	9.6	4.0	6.7	乳白色砂・長石含む	褐色	内外面に油煙附着 線刻(体内)「口」	36、59、3X-52-1



第43图 I 014(1)



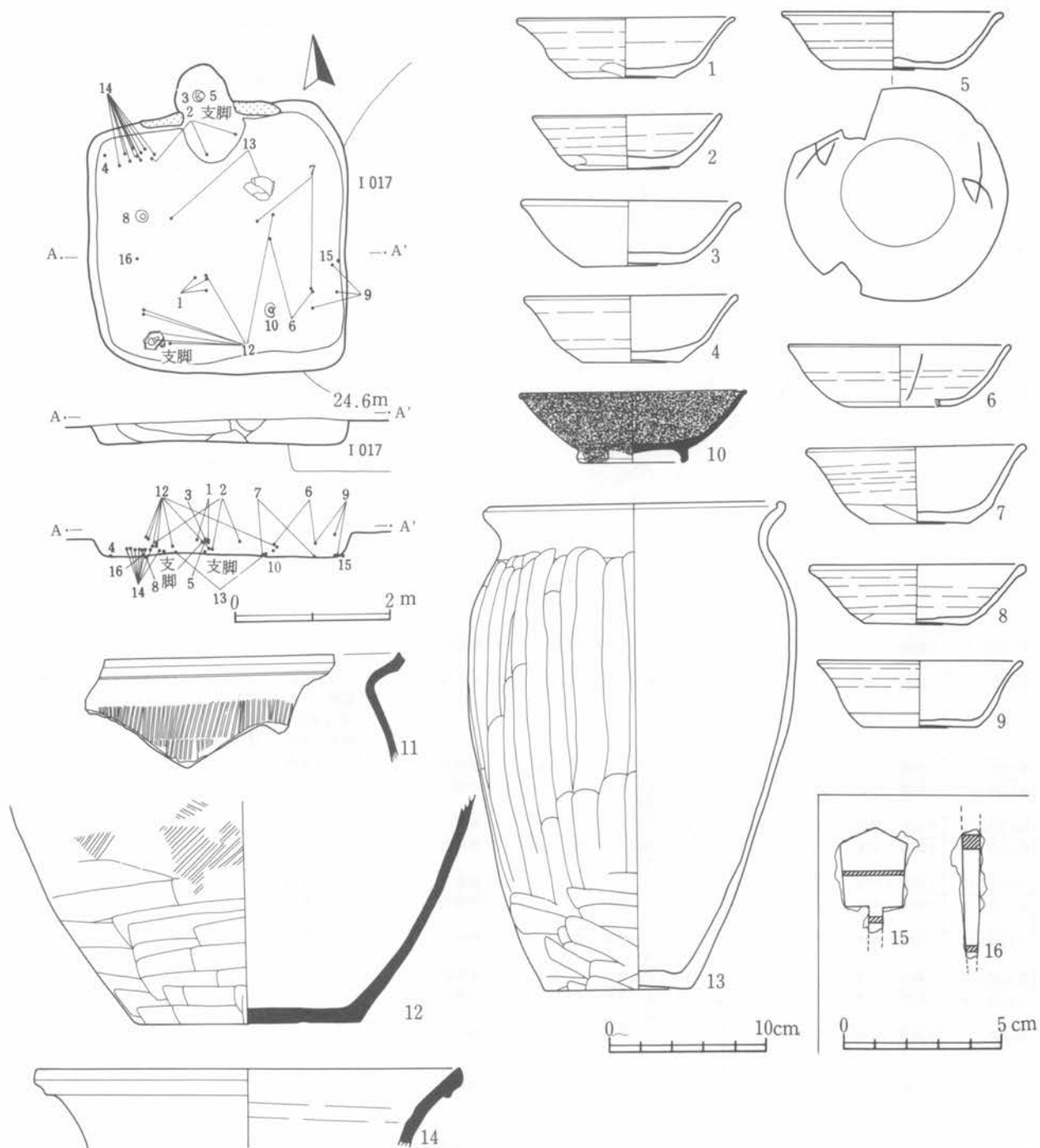
第44図 I 014(2)

第43図の6	土師器 杯	(11.6)	4.0	5.8	乳白色砂・長石・スコリア含む	橙褐色		52、103、13X-52-1
第43図の7	土師器 杯	11.9	4.4	8.3	乳白色砂・長石・スコリア含む	赤褐色	内外面赤彩 墨書(体外)「丈尼 丈部山城方代奉」 墨書(体内)「丈尼」	17、103
第43図の8	土師器小型鉢	9.7	6.6	5.3	長石・スコリア含む	黄褐色	底外木葉痕	86
第43図の9	土師器小型甕	10.6	7.5	7.5	乳白色砂・長石・スコリア含む	暗褐色	底外木葉痕	88
第43図の10	土師器小型甕	10.1	8.6	4.4	長石・スコリア含む	黄褐色	底外木葉痕	92
第43図の11	土師器小型甕	12.3	12.8	8.0	乳白色砂・長石・スコリア含む	黒褐色	底外木葉痕	89
第43図の12	土師器小型甕	13.3	12.4	7.0	スコリア含む	黄褐色	底外木葉痕	43、83、94、95
第43図の13	土師器小型甕	11.5	10.7	5.1	長石含む	黄褐色	底外木葉痕	18、81、82、91、92、93、106
第43図の14	土師器小型甕	12.7	11.6	6.8	乳白色砂・長石・スコリア含む	褐色	底外木葉痕	87、106
第44図の15	土師器 甕	12.2	13.5	6.8	砂粒含む	淡褐色		85
第44図の16	土師器 甕	13.1	22.1	7.1	乳白色砂・長石・スコリア含む	暗褐色		96
第44図の17	土師器 甕	14.6	-	-	乳白色砂・長石含む	褐色		4、7、8、20、22、23、25、26、43、46、55、61、99、100、101、103
第44図の18	土師器 甕	-	-	8.4	長石・スコリア含む	暗褐色		13、33、34、37、41、44、46、54、66、67、69、71、77、100、103、106、13X-52-1、13X-53-1
第44図の19	土師器 甕	23.3	20.5	(7.0)	乳白色砂・長石・スコリア含む	黄褐色		20、27、28、30、33、35、42、60、62、63、68、70、76、80、84、100、103、3X-52-1
第44図の20	手捏ね	10.95	8.1	4.25	乳白色砂・長石含む	暗褐色～褐色	底外木葉痕	98

I 015 (第45図、図版9・120・167・168)

I 017と重複するが、本跡の方が新しい。壁溝、柱穴は確認できなかった。竈は北側壁に沿って袖部の構築材が貼り付く程度の遺存である。おそらく住居廃絶時に解体されたものと考えられる。竈内の煙道口付近には、支脚の上に杯2枚(3・5)が倒位で被さっていた。ほかに床面上から甕、灰釉陶器碗などが出土

している。住居東壁際床面上から身部が五角形の鍍形の鉄製品が出土している。



第45図 I 015

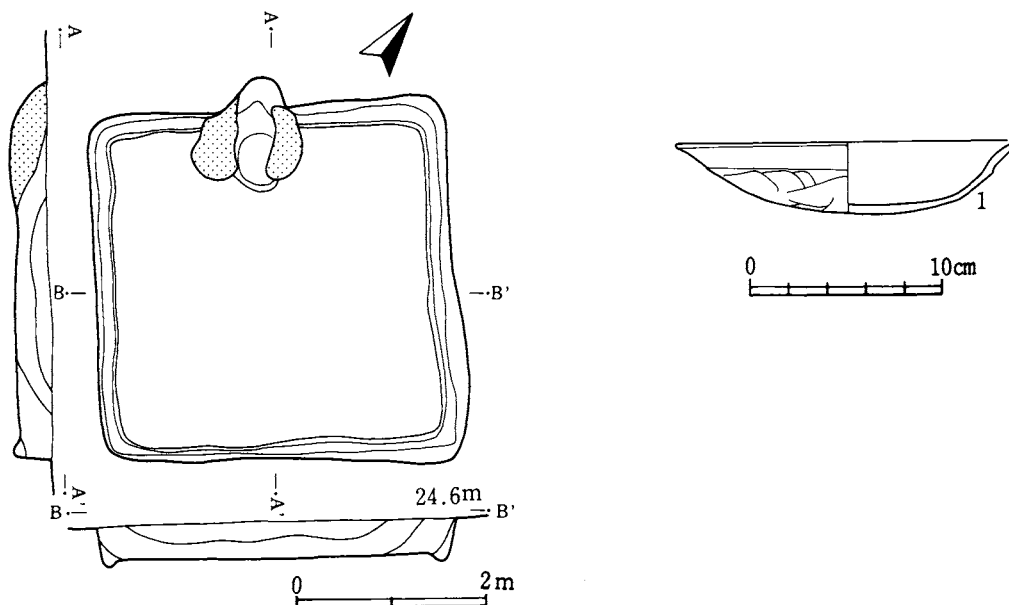
表42 I 015

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第45図の1	土師器 杯	(13.8)	3.9	6.5	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	暗褐色		16、66、67、93、94
第45図の2	土師器 杯	11.9	3.5	7.5	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	赤褐色		8、59、75、95
第45図の3	土師器 杯	13.7	4.1	6.5	乳白色砂・長石・スコリア含む	暗褐色		78、95
第45図の4	土師器 杯	(13.5)	4.1	6.2	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	黄褐色		37

第45図の5	土師器 杯	13.8	3.7	7.3	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	暗褐色	線刻(体内)「又」「又」	79、95
第45図の6	土師器 杯	(14.0)	3.9	(6.6)	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	褐色～赤褐色	線刻(体内)「 」or「-」	36、64
第45図の7	土師器 杯	13.7	4.9	6.4	乳白色砂・長石・針状物含む	褐色		52、77、91、93
第45図の8	土師器 杯	13.7	3.8	6.5	乳白色砂・長石・スコリア・雲母含む	暗褐色		84
第45図の9	土師器 杯	(13.0)	4.1	7.4	乳白色砂・長石・白色針状物含む	赤褐色		38、55、68、92
第45図の10	灰釉陶器 塊	14.2	4.5	6.5	長石・石英含む	灰白色	黒笹90窯式	86
第45図の11	須恵器 甕	-	-	-	乳白色砂・長石・雲母含む	橙褐色		28
第45図の12	須恵器 甕	-	-	14.2	乳白色砂・長石・スコリア含む	暗褐色		4、20、21、32、65、81、82
第45図の13	土師器 甕	(18.5)	30.2	9.4	乳白色砂・長石含む	黒褐色		10、85、94
第45図の14	須恵器 甕	26.8	-	-	-	-		13、14、42、43、44、45、46、47、48
第45図の15	鉄鏃	残存長 3.3	鏃身幅 2.2	-	-	-		88
第45図の16	鉄鏃	残存長 4.1	-	-	-	-		40

### I 016 (第46図、図版10・121)

壁溝が全周する。竈の遺存も比較的良好である。柱穴はなかった。床面はさほど硬化していない。南側壁で、床面から浮いた状態で、少量の焼土を検出した。遺物の出土量は極めて少ない。



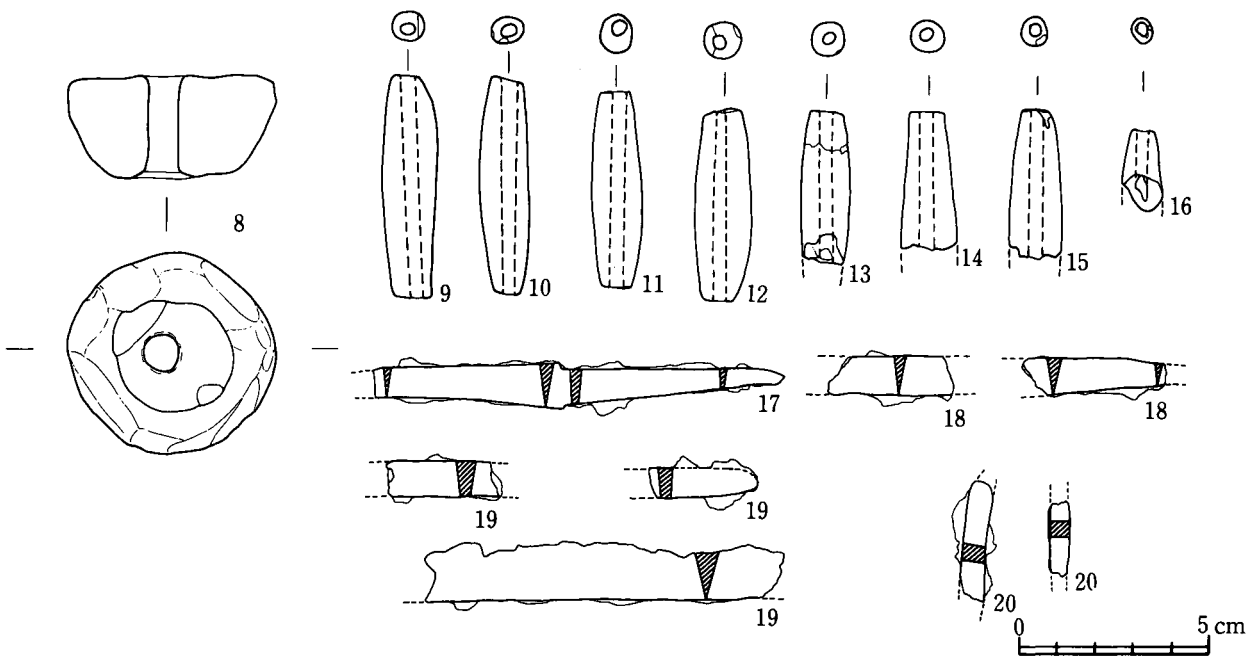
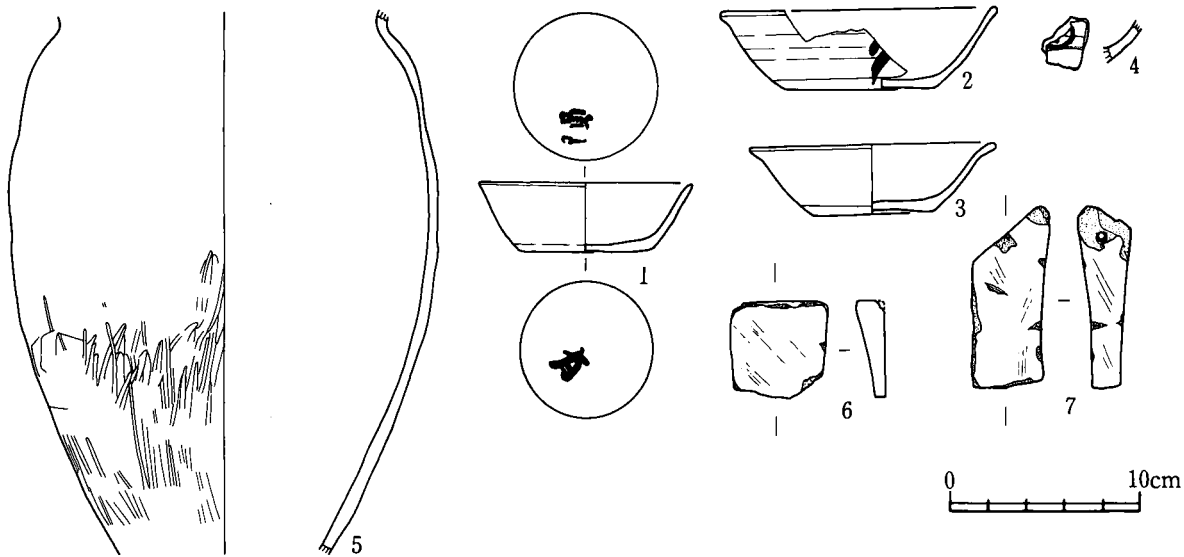
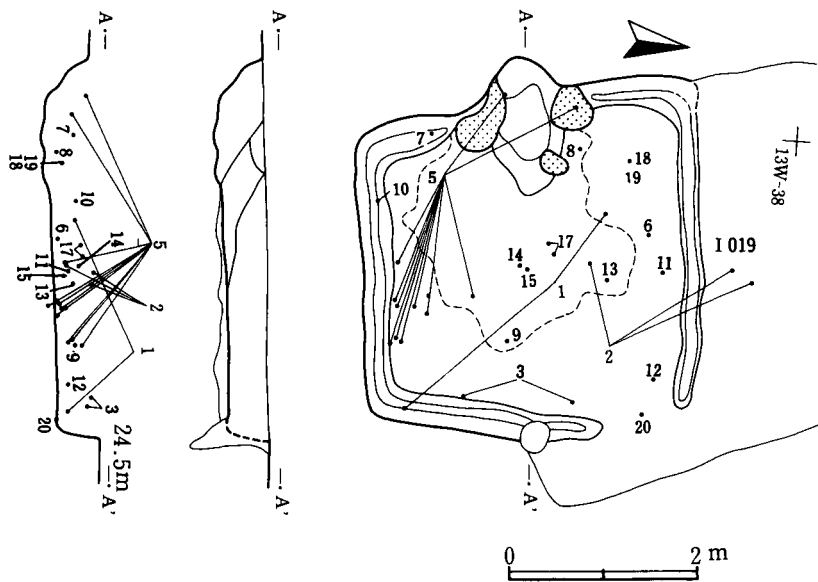
第46図 I 016

表43 I 016

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第46図の1	土師器 杯	17.9	3.8	-	乳白色砂・長石・石英含む	褐色	器面の磨減著しい	1、2、3

### I 018 (第47図、図版11・121・165～168・170)

I 019と重複するが、竈の遺存状況などから考えて本跡が新しいと考えられる。柱穴はない。埋土は019と同様単一の黒色土であり、その中に砂質粘土がブロック状に混入する。特徴的な遺物として土錘が8個出土したが、出土位置は分散している。杯の墨書には「酒」・「有」などが見られる。鉄製品では刀子の断片(17・18・19)が出土している。



第47图 I 018

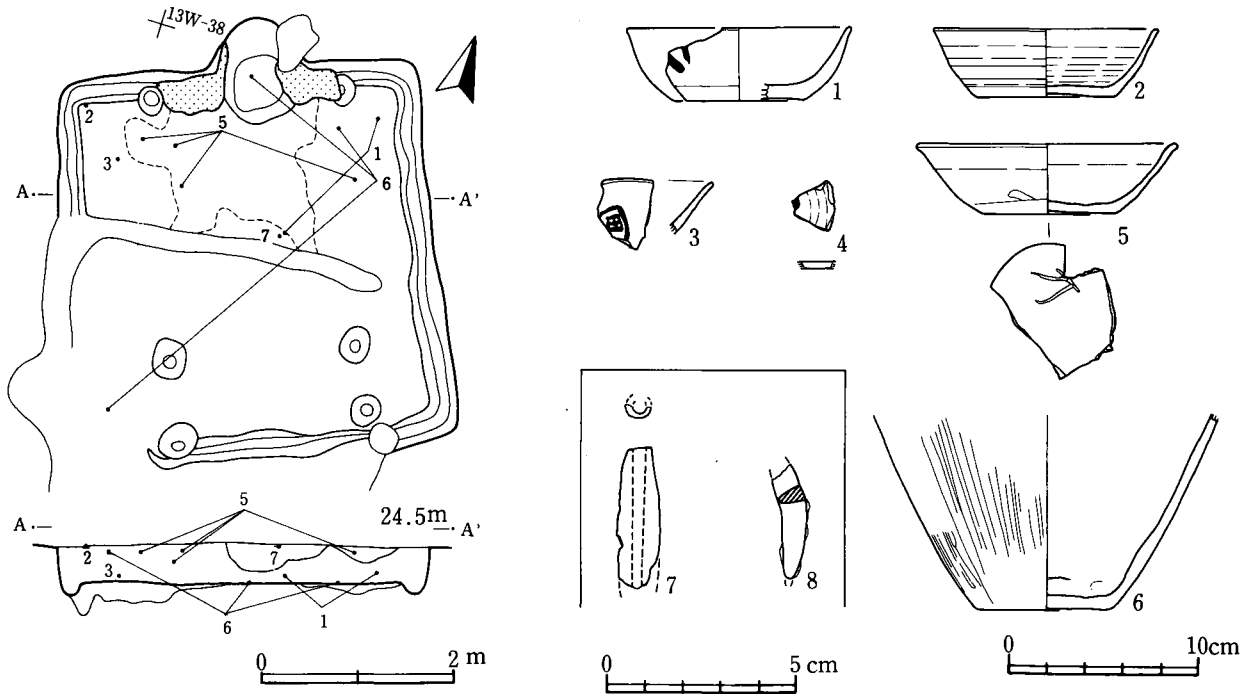


表44 I 018

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第47図の1	土師器 杯	11.75	3.6	7.0	乳白色砂・長石・石英・スコリア含む	黄褐色	墨書(体内)「酒」 墨書(体外)「有」	7、86、203
第47図の2	土師器 杯	(14.2)	4.1	(7.8)	乳白色砂・長石・石英・白色針状物含む	褐色	墨書(体外)「□」	147、202、203、205、I 019-15、16
第47図の3	土師器 杯	12.8	3.5	6.35	長石・石英・雲母・白色針状物含む	褐色		83、88、205
第47図の4	土師器 杯	—	(2.1)	—	長石・石英・雲母含む	褐色	墨書(体外)「□」	205
第47図の5	土師器 甕	—	(28.1)	—	乳白色砂・長石・石英・雲母・スコリア含む	黄褐色～暗褐色		42、57、60、68、70、121、126、135、137、195、199、204、205
第47図の6	砥石	43.3g	—	—	凝灰岩	—	被熱	5
第47図の7	砥石	109.4g	—	—	凝灰岩	—		113
第47図の8	紡錘車	上端 3.2 厚さ 2.8	下端 5.4	長石・石英・雲母含む	褐色	穿孔径0.9	182	
第47図の9	土錘	長さ 5.8 最大幅 1.4	孔径 0.4	長石・石英・雲母含む	黒色		116	
第47図の10	土錘	長さ 5.6 最大幅 1.3	孔径 0.5	長石・石英・雲母含む	黒色		34	
第47図の11	土錘	長さ 6.0 最大幅 1.4	孔径 0.4	長石・石英・雲母含む	黒褐色		128	
第47図の12	土錘	長さ 4.9 最大幅 1.5	孔径 0.4	長石・石英・雲母含む	黒色		105	
第47図の13	土錘	長さ (3.9) 最大幅 1.3	孔径 0.4	長石・石英・雲母含む	黒色		99	
第47図の14	土錘	長さ (3.5) 最大幅 1.5	孔径 0.4	長石・石英・雲母含む	黒褐色		153	
第47図の15	土錘	長さ (3.8) 最大幅 1.4	孔径 0.4	長石・石英・雲母含む	黒色		160	
第47図の16	土錘	長さ (2.1) 最大幅 (1.05)	孔径 0.4	長石・石英・スコリア・雲母含む	黒褐色		203	
第47図の17	刀子	残存長 10.9	—	—	鉄製品	—	17、115	
第47図の18	刀子	残存長 3.8	残存長 3.3	—	鉄製品	—	183	
第47図の19	刀子	残存長 3.0	残存長 2.8	—	鉄製品	—	183	
第47図の20	釘	—	—	—	鉄製品	—	138	

I 019 (第48図、図版11・166)

I 018と重複するが、本跡の方が古い。018と重複する部分では、018の床面の貼床除去後に、本跡の南壁の壁溝を確認した。柱穴はすべて本跡の貼床除去後に確認できたものである。北側壁溝と南側壁溝に接する位置の4本、及びその間に2本という構成であるが、その新旧関係は不明である。柱穴の深さは0.3m～0.5m程度である。「万」のへら書きや、「田」の墨書がある。



第48図 I 019

表45 I 0 1 9

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第48図の1	土師器 杯	(11.7)	3.8	(6.8)	長石・石英・白色針状物含む	褐色	墨書(体外)「□」	146、159
第48図の2	土師器 杯	(11.6)	3.5	(7.2)	長石・石英・雲母・スコリア含む	黄褐色		1、234
第48図の3	土師器 杯	—	—	—	長石・石英・雲母・白色針状物含む	褐色	墨書(体外)「田」	175
第48図の4	土師器 杯	—	—	—	長石・石英・雲母・白色針状物含む	褐色	墨書(底内)「□」	232
第48図の5	土師器 杯	(13.4)	3.6	(7.0)	長石・石英・スコリア・雲母含む	黒色	ヘラ書き(底外)「万」	18、20、200、201
第48図の6	土師器 甕	—	(10.3)	7.4	長石・石英・雲母・スコリア含む	橙褐色～暗褐色	二次焼成受ける	144、209、I 018-55
第48図の7	土錘	長さ (3.6)	最大幅 (1.2)	孔径 (0.4)	長石・石英・雲母含む	黒色		83
第48図の8	不明鉄製品	残存長さ 3.0	—	—	—	—		223

I 020 (第49図、図版11・121)

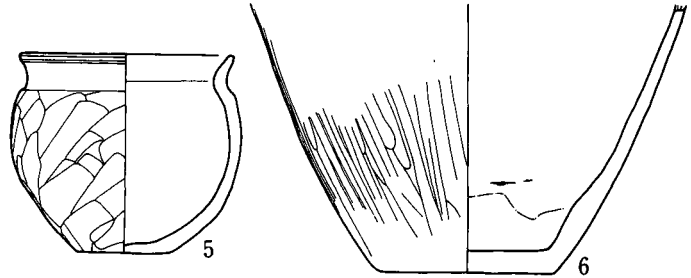
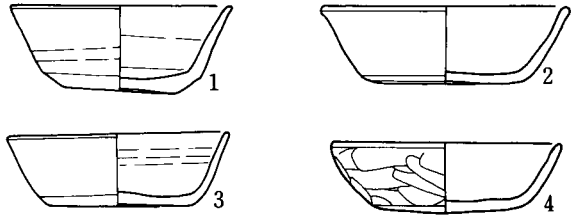
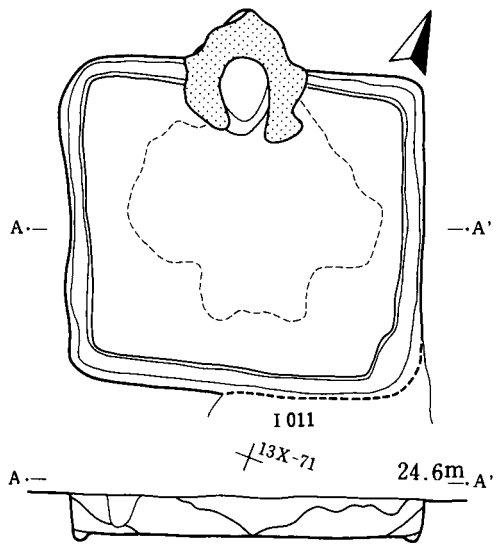
I 011と南東側のコーナー付近で重複するが、本跡の方が古い。壁溝は竈部分を除き全周する。柱穴はない。床面は中央部で硬化している。竈とその周辺で遺存度が良好な遺物が見つまっている。竈内では、倒立した小型甕(5)の上に、被さった状態の杯(1)が出土している。

表46 I 0 2 0

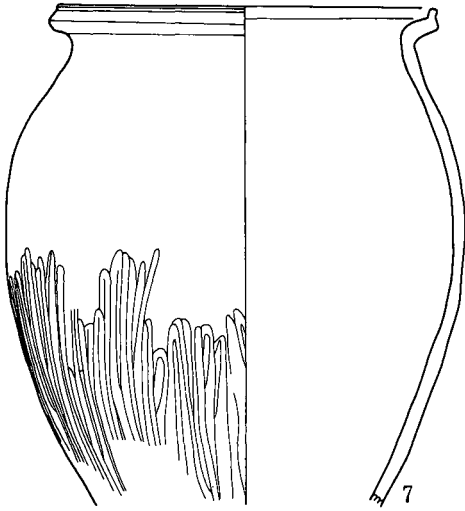
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第49図の1	土師器 杯	11.5	4.6	5.8	長石・石英・雲母・スコリア含む	褐色		134
第49図の2	土師器 杯	(12.6)	4.1	(8.2)	長石・石英・スコリア・雲母含む	橙褐色		74、112、I 013-28
第49図の3	土師器 杯	12.5	3.9	7.7	長石・石英・スコリア含む	赤褐色		29、43、61、87、88、107、108、111
第49図の4	土師器 杯	11.8	3.8	7.9	長石・石英・雲母・スコリア含む	暗褐色～褐色		85、94、108
第49図の5	土師器小型甕	11.4	10.3	7.0	長石・石英・雲母・スコリア含む	赤褐色		112、136、139、141
第49図の6	土師器 甕	—	—	9.2	長石・石英・雲母・スコリア含む	黒色～暗褐色	二次焼成受ける、底外木葉痕	9、11、21、40、111、112、I 014-11.12、13X-52-1
第49図の7	土師器 甕	19.5	—	—	長石・石英・雲母含む	褐色～暗褐色	常総型	2、5、6、14、27、30、44、78、83、92、95、97、102、103、106、112、113、128、129、130、132、133、135、137、138、140
第49図の8	土師器 甕	20.4	32.4	7.9	長石・石英・雲母・礫含む	暗褐色	底外木葉痕、常総型	38、49、109、111、112、114、115、116、117、118、119、120、122、125、126、I 011-32

I 022 (第50図、図版12・122・169)

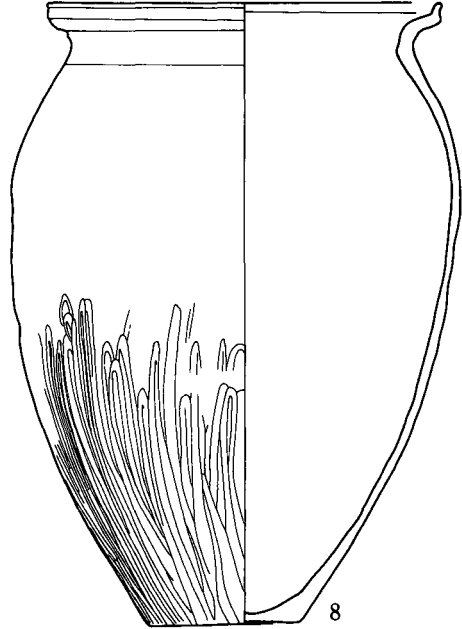
I 023と重複し、本跡の方が新しい。いわゆる焼失住居であるが、炭化材が小破片であること、竈が意図的に解体されている痕跡が認められることから、不意の失火ではなく、おそらく住居廃棄時の処分による焼却であると判断される。また、竈部分とその西側部分に厚く堆積していた焼土は、特に強く被熱が認められた。その部分の焼土を詳細に観察すると、スサ入り粘土板状の破片が多く伴っていた。これらのことから上屋の想定として、屋根あるいは壁などに粘土を貼っていた可能性が考えられる。また、竈は、同位置で一度造り替えられており、造り替え以前の火床部が、竈前面の床面下から発見された。遺物は埋土中からの出土がほとんどで、1組と考えられる鉄製紡錘車の破片が、住居南側埋土上層から出土した。「井」や「田」の墨書がある。



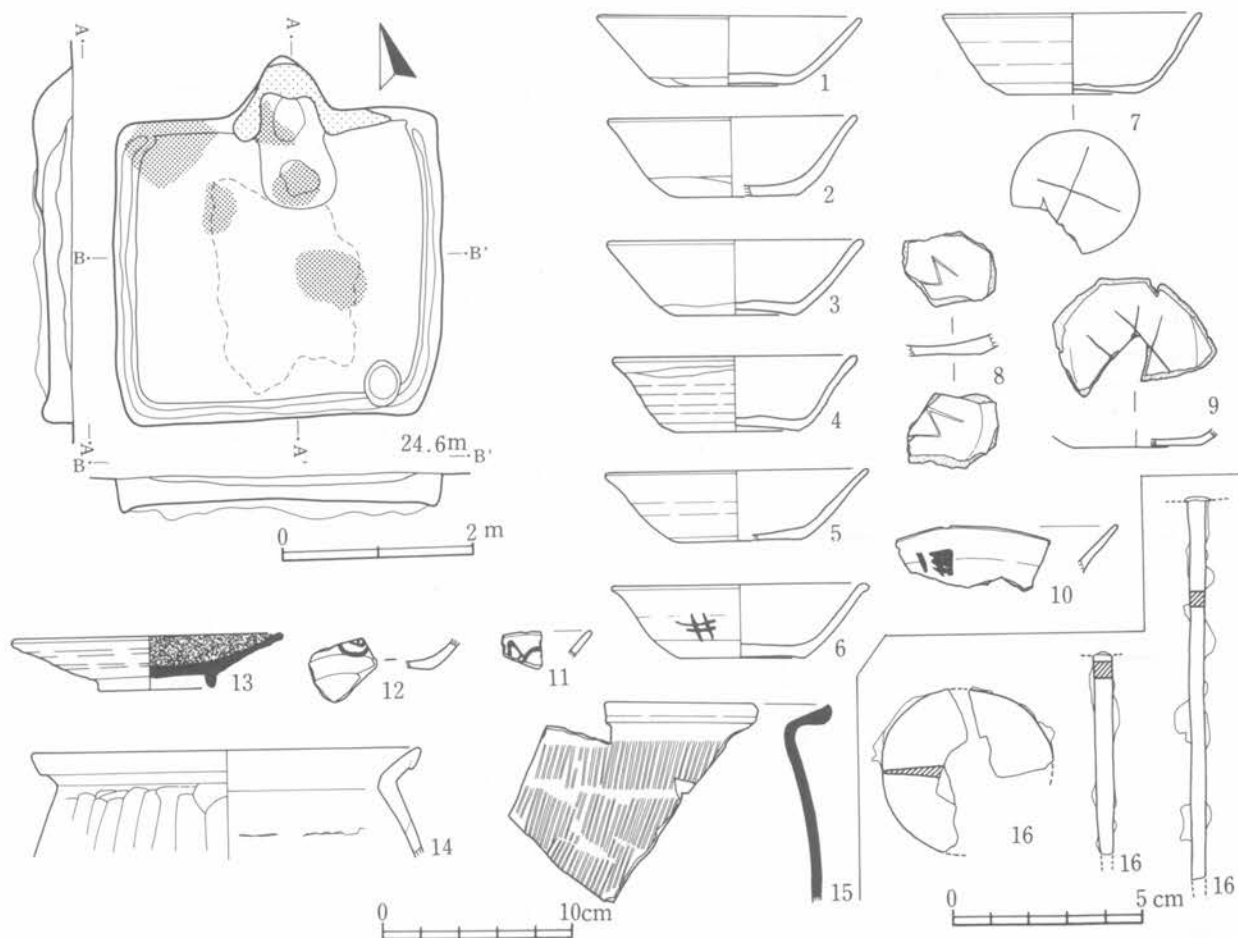
0 2 m



0 10cm



第49图 I 020



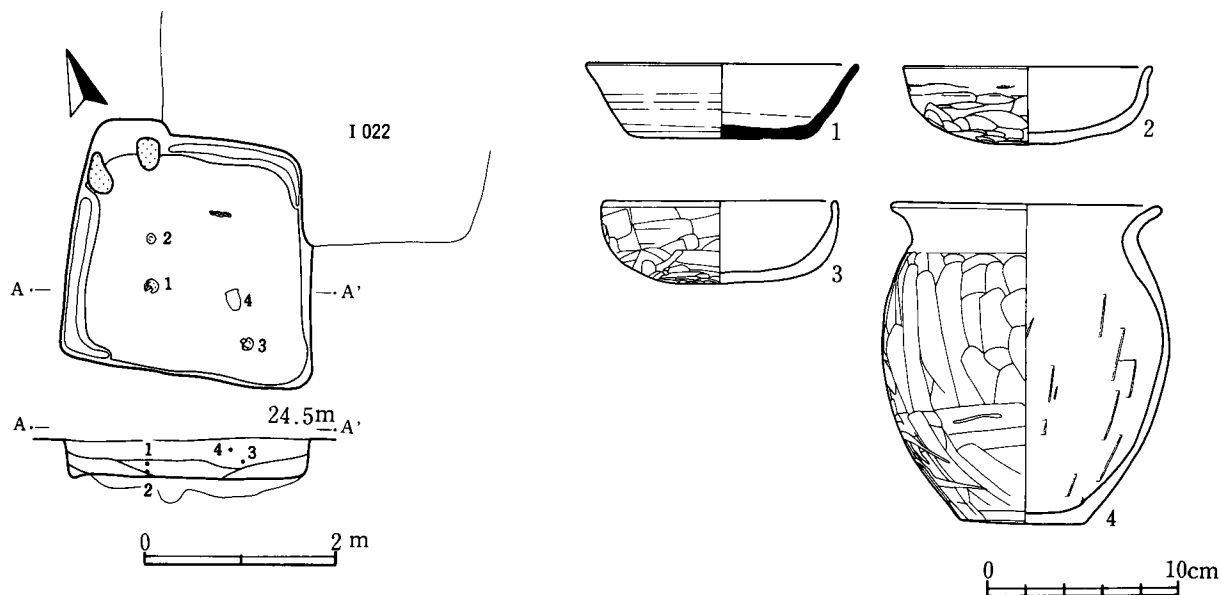
第50図 I 022

表47 I 022

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第50図の1	土師器 杯	13.8	3.7	6.5	長石・石英・スコリア含む	黒褐色		162、165、171、175、179、189、326、329、361、441
第50図の2	土師器 杯	13.0	4.3	6.7	長石・石英・雲母・スコリア含む	褐色		212、302、371、421、440、454
第50図の3	土師器 杯	(13.4)	3.9	6.5	長石・石英・雲母・スコリア含む	褐色～暗褐色		3、4、127、167
第50図の4	土師器 杯	(12.7)	3.9	6.6	長石・石英・雲母・スコリア含む	灰褐色		82、140、160、309
第50図の5	土師器 杯	(13.8)	3.7	(6.4)	長石・石英・雲母・スコリア含む	赤褐色		426、430、431、450
第50図の6	土師器 杯	13.2	3.8	6.7	長石・石英・雲母・スコリア含む	褐色	墨書(体外)「井」	31、77、78、79
第50図の7	土師器 杯	(13.4)	4.2	6.8	長石・石英・雲母・スコリア含む	赤褐色	線刻(底外)「十」	243、316、339
第50図の8	土師器 杯	-	-	-	長石・石英・雲母・スコリア含む	赤褐色	線刻(底内)「久」? 線刻(底外)「久」?	29
第50図の9	土師器 杯	-	-	6.8	長石・石英・雲母・スコリア含む	赤褐色	線刻(底内)「田」?	352、425、440
第50図の10	土師器 杯	-	-	-	長石・石英・雲母・スコリア含む	赤褐色	墨書(体外)「田」	219、223、454
第50図の11	土師器 杯	-	(1.4)	-	長石・石英・雲母含む	赤褐色	墨書(体外)「口」	453
第50図の12	土師器 杯	-	-	-	長石・石英・雲母含む	褐色	墨書(体外)「田」?	278
第50図の13	灰軸陶器 高台付皿	13.8	2.8	6.2	長石・石英含む	灰白色	ハケ塗り	19、22、25、193、217、225、252
第50図の14	土師器 壺	20.2	(5.8)	-	長石・石英含む	赤褐色		20
第50図の15	須恵器 壺	-	-	-	長石・石英・細礫含む	黒褐色		374、407
第50図の16	紡錘車	直径(4.5)	-	-	鉄製品	-	3点で1セット、棒軸は断面方形	100

I 023 (第51図、図版13・122)

I 022と重複し、本跡の方が古い。平面プランはやや不整な小型の方形住居である。竈は北側コーナーに位置するいわゆる「隅竈」である。壁溝は竈のある北側コーナー側の二辺、北東壁と北西壁コーナー付近まで設けられるのみで、全周はしない。柱穴はない。貼床除去後、掘り方面で直径0.3mほどのピットを検出した。遺物の出土量は少ないが、遺存度が良好なものの割合が高かった。



第51図 I 023

表48 I 0 2 3

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第51図の1	須恵器 杯	13.8	16.7	6.7	長石・石英・雲母含む	暗褐色	常陸産	1、8
第51図の2	土師器 杯	12.9	4.0	—	長石・石英・雲母・スコリア含む	明褐色		2
第51図の3	土師器 杯	12.2	4.3	—	乳白色砂・長石・石英・スコリア含む	赤褐色		4
第51図の4	土師器 甕	13.8	16.7	6.7	乳白色砂・長石・石英・スコリア含む	黄褐色		5

I 024・025 (第52図、図版13・122・166・168・169)

I 024は025と主軸方向がやや異なるが、ほとんど重複している住居で、竈の遺存状態から、本跡の方が新しいと判断した。確認面下の掘込みは浅く、0.2m~0.25m程度で床面となる。床面は全体的に軟らかく、壁溝・柱穴ともない。025は竈掘り方と西側壁の一部が遺存するのみである。掘込みは浅く、確認面下0.1m~0.15mほどで床面となる。壁溝や柱穴はない。鉄製の刀子(9)や釘(10・11)、土錘(12)が出土している。

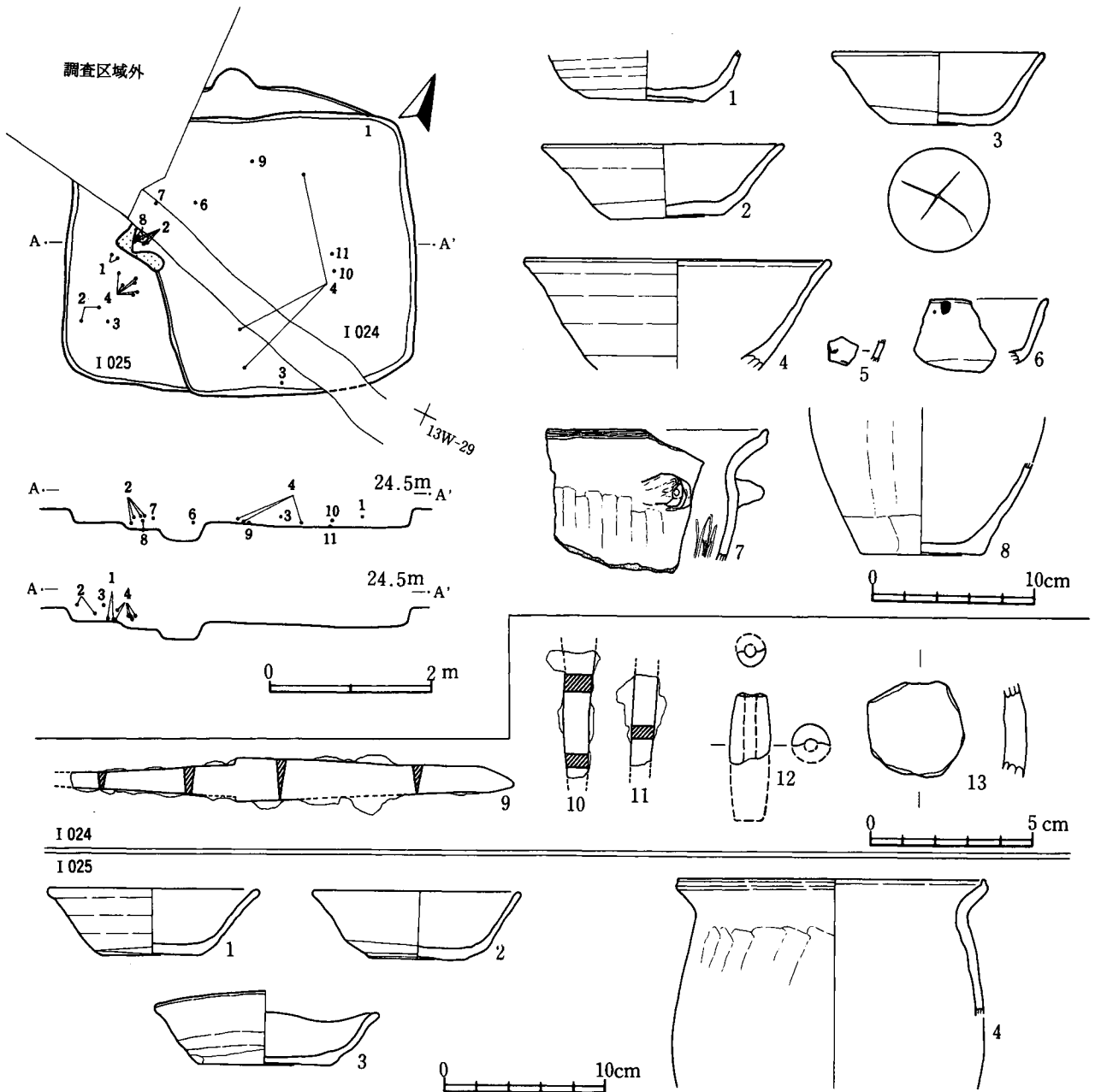
表49 I 0 2 4

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第52図の1	土師器 杯	—	—	7.3	砂粒・スコリア含む	暗褐色		12
第52図の2	土師器 杯	14.8	4.4	6.9	砂粒・雲母含む	暗褐色		64、65、67、68、73
第52図の3	土師器 杯	12.8	4.5	6.2	微砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	線刻(底外)「×」	1、72
第52図の4	土師器 鉢	(18.8)	—	—	微砂粒・雲母含む	橙褐色		16、31、34
第52図の5	土師器 杯	—	—	—	砂粒含む	淡褐色	墨書(体外)「□」	72
第52図の6	土師器 杯	—	—	—	砂粒含む	明褐色~暗褐色	墨書(体外)「□」	39
第52図の7	土師器 甕	—	—	—	砂粒・スコリア含む	淡褐色	把手付	41
第52図の8	土師器小型甕	—	—	7.6	砂粒・雲母含む	暗褐色		70

第52図の9	刀子	残存長 13.6	-	-	鉄製品	-	-	45
第52図の10	釘	残存長 4.0	-	-	鉄製品	-	-	6
第52図の11	釘?	残存長 2.8	-	-	鉄製品	-	-	51
第52図の12	土鏝	最大径 1.3	孔径 0.4	-	-	-	-	70
第52図の13	土製円盤	短軸 2.8	長軸 3.9	-	-	-	杯転用	70

表50 I 0 2 5

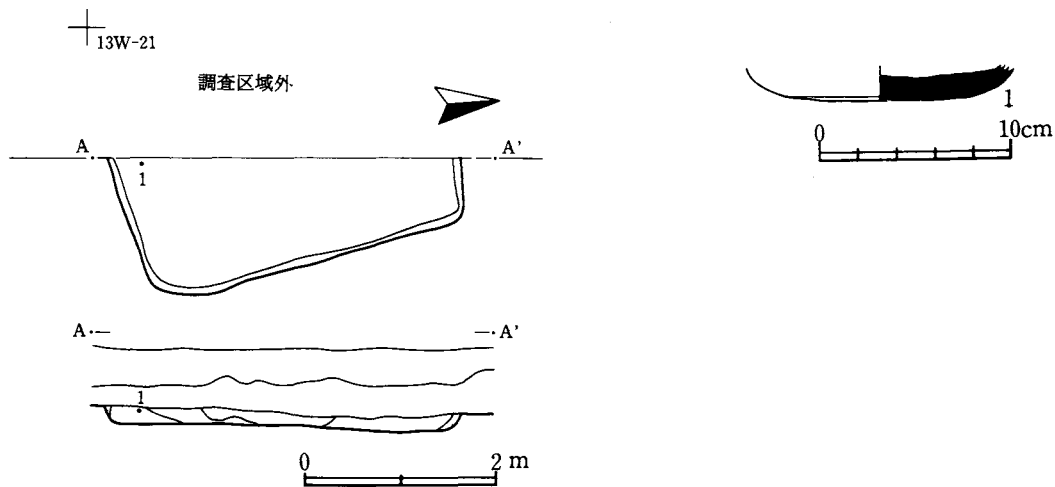
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第52図の1	土師器 杯	12.8	4.0	5.9	砂粒含む	褐色		11、32
第52図の2	土師器 杯	12.6	4.1	5.8	砂粒含む	暗褐色		5、7
第52図の3	土師器 杯	12.8~ 13.5	4.5~ 3.3	7.5~ 8.0	砂粒・雲母・スコリア含む	淡褐色	歪み著しい	3
第52図の4	土師器 甕	18.8	-	-	砂粒・礫含む	暗褐色		9、19、20、21、30、31、37



第52図 I 024・025

I 026 (第53図、図版14)

調査区域境に位置するため、全体の1/3程度の調査である。掘込みが浅く、確認面下0.2mほどで床面に当たる。北壁際セクションで、砂質粘土や炭化材が少量混入することから、北辺の一角に竈を敷設していた可能性が高い。遺物の出土量は極めて少ない。



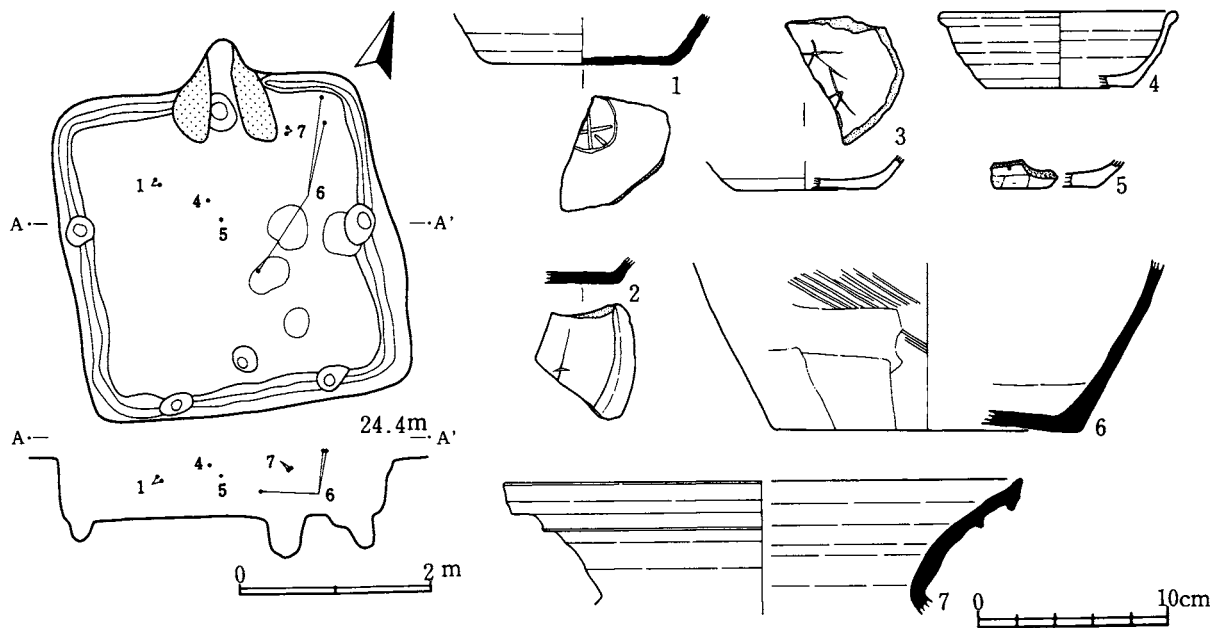
第53図 I 026

表51 I 0 2 6

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第53図の1	須恵器 杯	-	-	9.4	砂粒・雲母含む	灰色		2

I 027 (第54図、図版14)

壁溝は竈部分以外で全周するが、掘込みは浅い。竈に対面するP1は出入口施設に伴う小ピットである。支柱穴は、南側壁溝内に2本、西側壁溝中央と東側壁溝中央に、それぞれ1本ずつ、計4本である。遺物の出土量は少なく、ほとんどが埋土上層からの出土である。「大加」と線刻された土器がある。



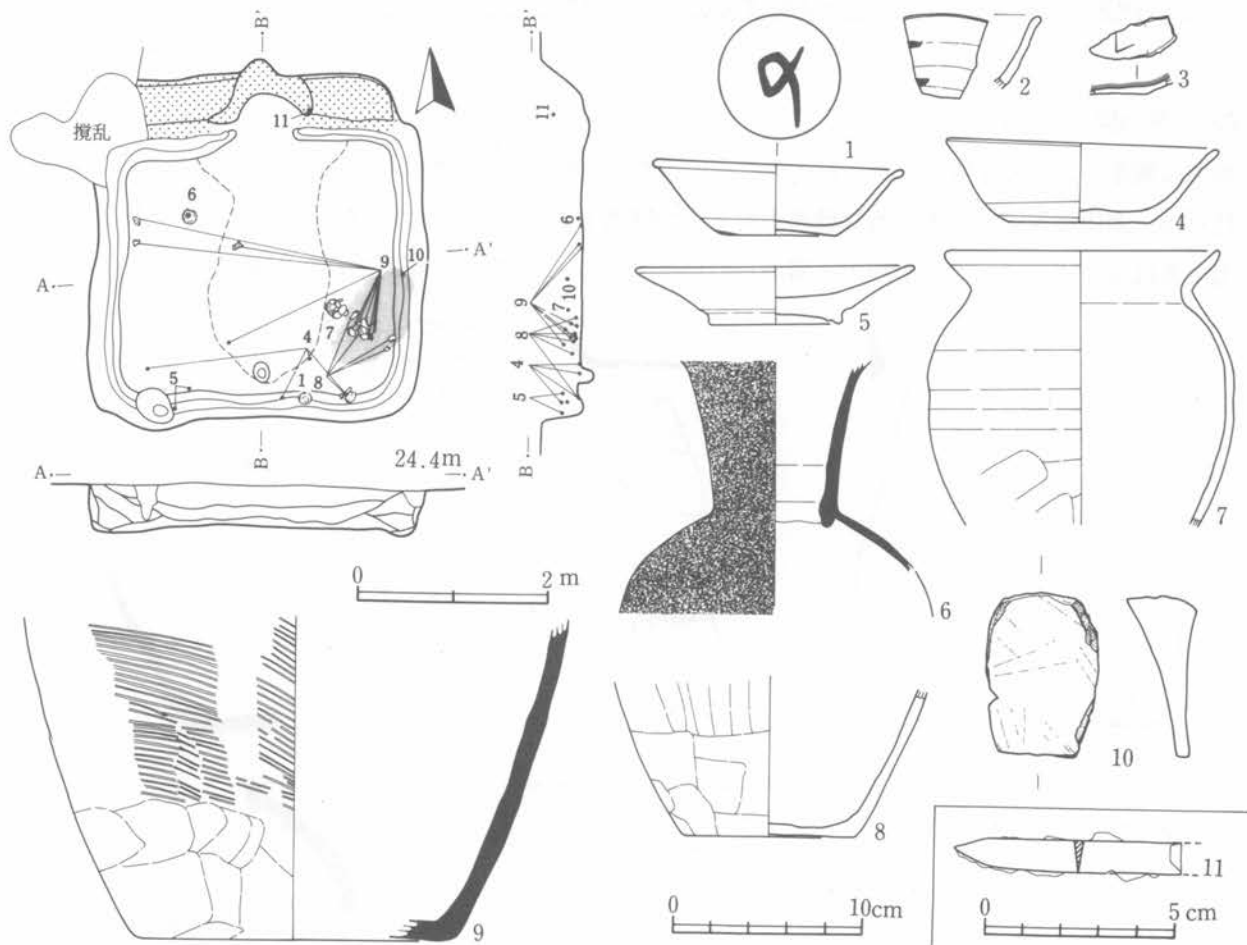
第54図 I 027

表52 I 0 2 7

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第54図の1	須恵器 杯	-	-	(9.2)	砂粒・雲母含む	灰色	焼成不良、ヘラ書き(底内) 「⊕」	4、32、33
第54図の2	須恵器 杯	-	-	-	砂粒・長石・石英・雲母含む	灰色	線刻(底外)「□」	2
第54図の3	土師器 杯	-	-	(7.4)	砂粒・スコリア含む	褐色	線刻(底内)「大加」	4
第54図の4	土師器 杯	(12.2)	3.9	(7.6)	砂粒含む	淡褐色		21
第54図の5	土師器 杯	-	-	-	砂粒含む	淡褐色		19
第54図の6	須恵器 甕	-	-	(16.0)	長石・石英・雲母含む	暗灰色	墨痕(体外) 底外縄目痕	6、7、14
第54図の7	須恵器 甕	(27.2)	-	-	砂粒多い	灰色		38、39

I 028 (第55図、図版14・15・122・167・168)

北側壁に竈を敷設し、その両側にテラス状に張り出した施設をもつ住居である。竈構築材と張出し施設に敷いた砂質粘土が一体化していること、また、竈煙道部を張出し部分に設けること、さらに竈を含めて改修の痕跡がないことから、本跡は当初から張出し施設を含めて構築されたと判断した。張出し部分は、確認面下での掘込みは極端に浅く、壁面との段差は、本体の床面から0.3m~0.45mである。砂質粘土を全面に敷きつめ、全体的に丁寧に作られている。この施設については他遺跡の類例から棚であると考えられる。特に竈両側に位置することから、収納に関する棚であると考えられる。壁溝は竈部分以外で全周し、棚上にはない。柱穴は、竈対面の出入口施設に伴うものが1本のみで、支柱穴はない。床面は堅穴中央部分が特に堅緻である。南東隅付近に、砂粒を多く含む灰白色粘土ブロックがまとまって出土した。このブロックの付近には遺物の出土が多い。北側竈上面から刀子の身部片が出土している。



第55図 I 028



表53 I 0 2 8

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第55図の1	土師器 杯	12.9	3.6	6.1	砂粒・スコリア含む	暗褐色	墨書(底内)「又」?	91
第55図の2	土師器 杯	-	-	-	砂粒・雲母含む	淡褐色	墨書(体外)「口」	2
第55図の3	土師器 杯	-	-	-	砂粒含む	淡褐色	内黒 線刻(底内)「口」	2
第55図の4	土師器 杯	14.0	4.0	7.5	砂粒・スコリア・雲母含む	橙褐色		1、13、80、83、92
第55図の5	土師器 皿	(14.4)	3.0	(6.6)	砂粒・スコリア・雲母含む	橙褐色		2、5、6
第55図の6	灰釉陶器 長頸瓶	-	-	-	鉄分吹き出し	灰色		89
第55図の7	土師器 甕	14.4	-	-	-	-		97、109
第55図の8	土師器 甕	-	-	9.0	砂粒含む	暗褐色		92、93、96、99、104
第55図の9	須恵器 甕	-	-	(17.0)	砂粒・酸化鉄含む	灰色		11、85、87、94、98、102、 103、105、106、107
第55図の10	砥石	130.6g	-	-	凝灰岩	-		95
第55図の11	刀子	残存長 7.0	-	-	鉄製品	-		122

I 029 (第56図、図版15・122・123・168・170)

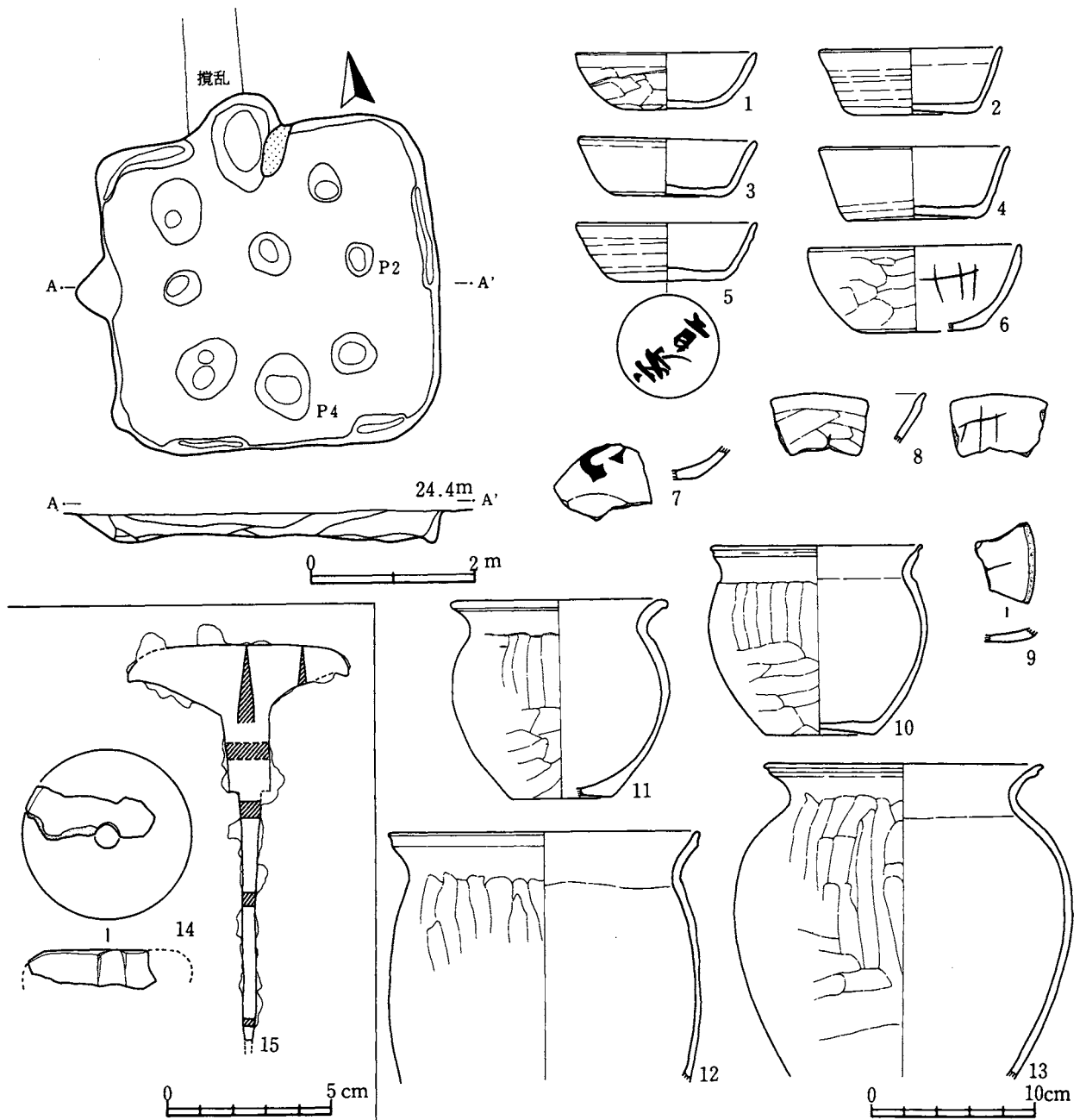
竈の造り替えと柱穴の掘替え痕跡が認められる住居であり、規模を変えず建替えを行っている。また竈の位置変更により、西から北へ建物の主軸が変更されている。出入口施設はP2からP4へ変更したと考えられる。壁溝は遺存状態が良好ではないが、本来は全周していたと考えられる。床面は全体的に堅緻であり、ロームブロック、砂質粘土ブロック、焼土粒を多量に含む土を貼り、丁寧に構築されていた。「文刀自女」の墨書土器が出土している。先端がT字型となる鉄鏃が、住居南壁際の床面からやや浮いた状況で出土している。

表54 I 0 2 9

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第56図の1	土師器 杯	(11.0)	3.5	(7.0)	砂粒・スコリア含む	淡褐色		121、122
第56図の2	土師器 杯	11.0	4.1	7.1	砂粒・スコリア含む	淡褐色	焼成不良	173
第56図の3	土師器 杯	10.8	3.4	6.5~6.8	砂粒含む	褐色		2、57、62、63、64、151、 234、235、240
第56図の4	土師器 杯	11.6	4.5	8.1	砂粒・雲母含む	橙褐色		52、58、61、67、232
第56図の5	土師器 杯	11.0	3.5	6.2	砂粒・スコリア・雲母含む	淡褐色	墨書(底外)「文刀自女」	262
第56図の6	土師器 杯	(12.8)	5.2	(7.8)	砂粒・スコリア含む	淡褐色	線刻(体内)「卍」	2、168、293、304、309
第56図の7	土師器 杯	-	-	-	砂粒・スコリア含む	淡褐色	墨書(体外)「口」	187
第56図の8	土師器 杯	-	-	-	砂粒含む	暗褐色	線刻(体内)「卍」	2、153
第56図の9	土師器 杯	-	-	-	砂粒含む	橙褐色	線刻(底内)「口」	280
第56図の10	土師器 甕	(12.8)	11.3	(6.6)	砂粒・スコリア・雲母含む	暗褐色		116、168、251、252、292、 299、301、303、305、306、 307、308
第56図の11	土師器 甕	(13.0)	11.9	(6.1)	砂粒・スコリア含む	褐色		8、11、31、93、111、116、 127、128、267
第56図の12	土師器 甕	(19.0)	(19.4)	-	砂粒・スコリア・雲母含む	淡褐色		4、114、135、136、169、312
第56図の13	土師器 甕	(16.6)	(20.6)	-	砂粒・スコリア含む	淡褐色		2、65、82、172、204、221、 222、223、225、226、227、 228、229、231、235、237、 256
第56図の14	紡錘車	外径 (5.2)	内径 (0.8)	-	砂粒含む	橙褐色		4
第56図の15	鉄鏃	鏃身幅 6.7	鏃身長 2.1	-	-	-	T字型	85

I 030 (第57図、図版15・123・168)

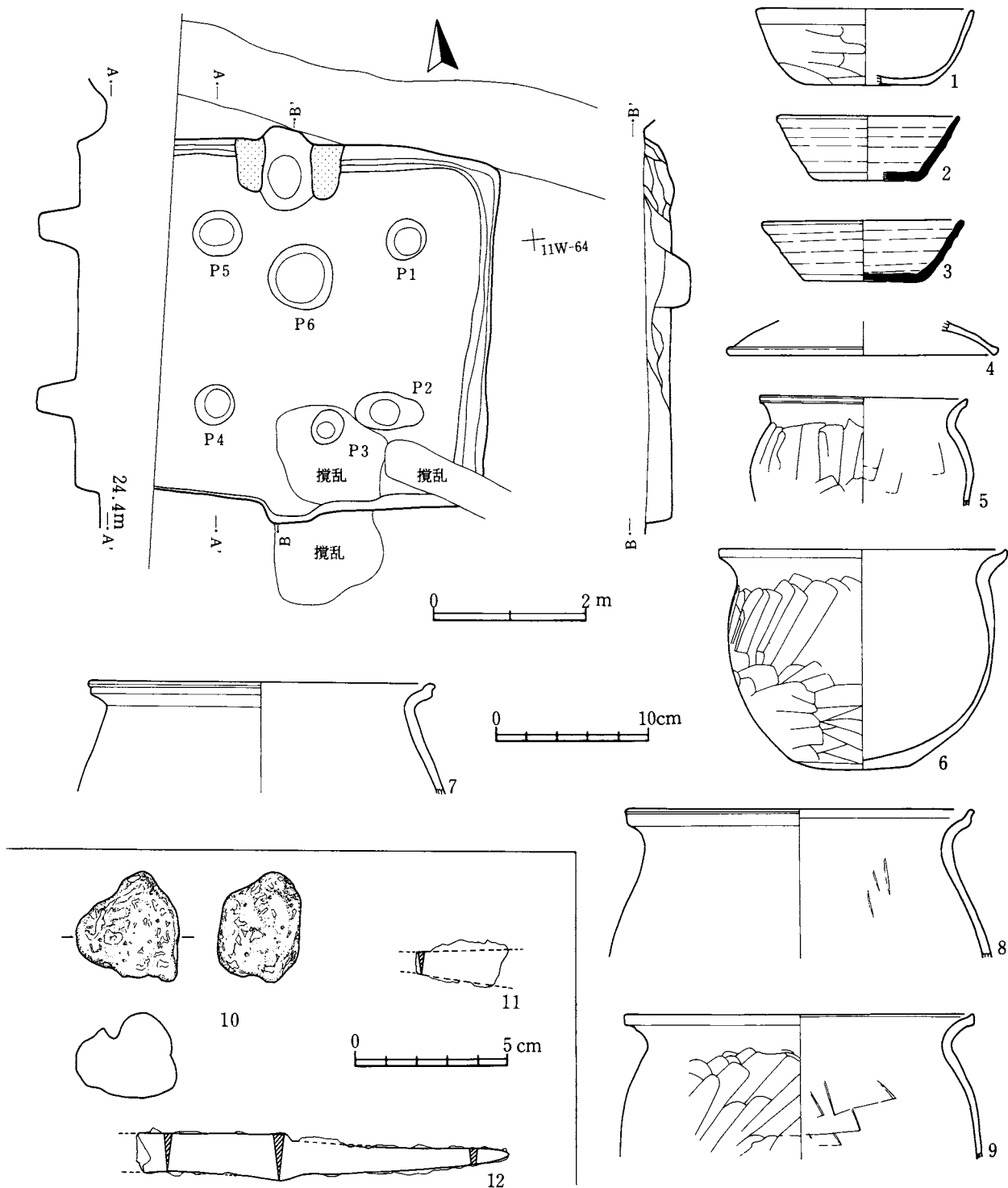
平面プランが非常に整った方形となる住居である。ほぼ真北に主軸方向を向ける。住居のほぼ全域を埋める覆土中に、灰白色粘土ブロックの堆積が認められた。埋土内上層や床面に接しているものなど、検出層位にはレベル差が認められる。南側壁には壁溝はない。支柱穴4本と、竈対面に出入口施設に伴う小ピットがある。竈前面のP6は本跡には伴わないようである。



第56図 I 029

表55 I 030

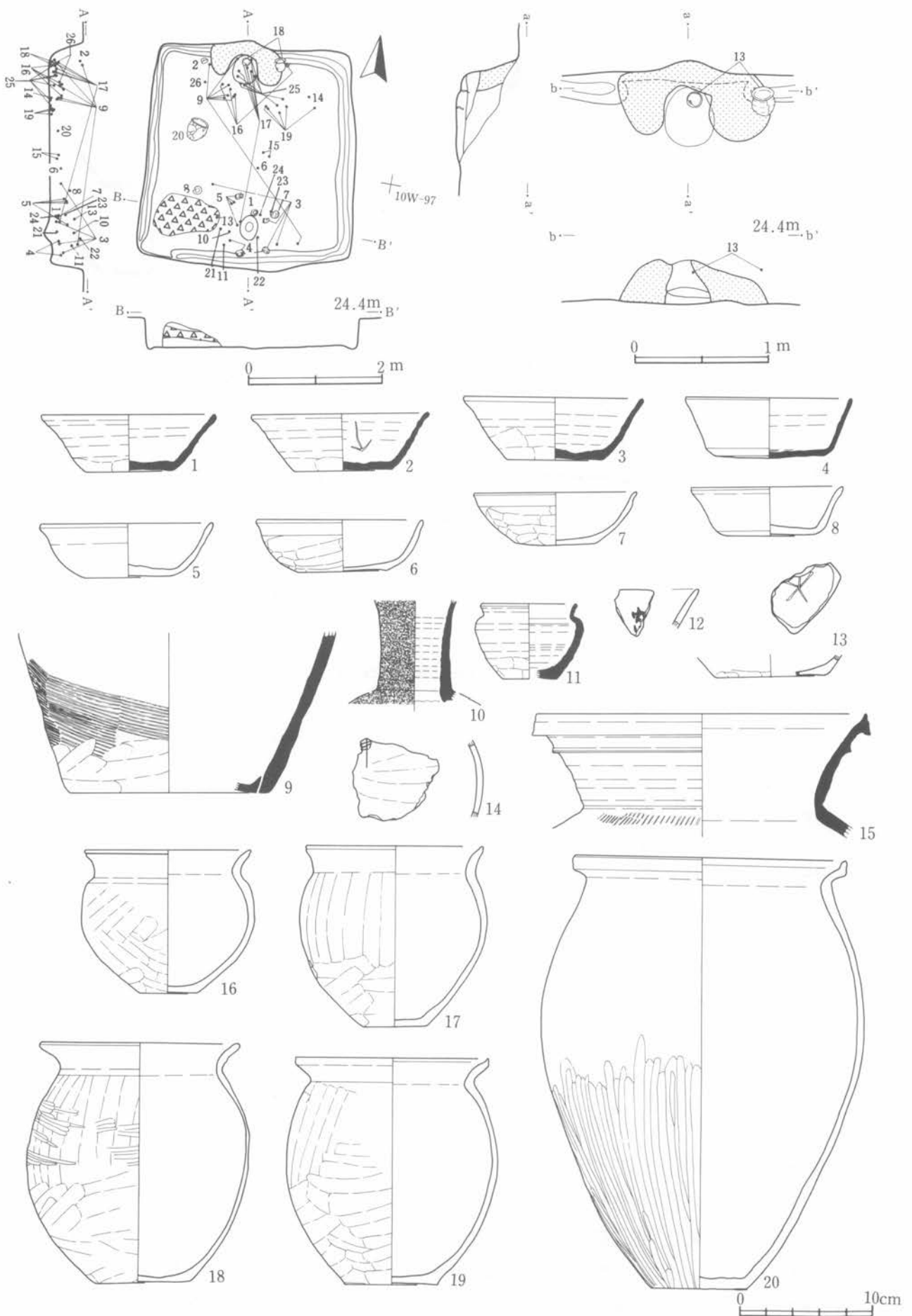
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第57図の1	土師器 杯	(14.0)	(8.0)	5.0	長石・石英・スコリア含む	明褐色		6、44
第57図の2	須恵器 杯	(11.8)	4.2	(6.5)	長石・石英含む	青灰色		76
第57図の3	須恵器 杯	12.9	3.9	7.8	長石・石英・雲母含む	青灰色		84
第57図の4	土師器 蓋	(17.4)	—	—	長石・石英・スコリア含む	褐色		42、85
第57図の5	土師器 壺	(13.4)	—	—	長石・石英・スコリア含む	赤褐色～黒褐色		71
第57図の6	土師器 壺	18.6	14.3	7.4	長石・石英・スコリア・雲母含む	赤褐色		26、67、83、88、93
第57図の7	土師器 壺	(22.2)	—	—	長石・石英・雲母・スコリア含む	明褐色		50
第57図の8	土師器 壺	(22.4)	—	—	長石・石英・スコリア含む	赤褐色		114
第57図の9	土師器 壺	(22.5)	—	—	長石・石英・スコリア含む	暗褐色～黒褐色		115
第57図の10	軽石	重さ 8.6g	—	—	—	—		34
第57図の11	刀子	残存長 3.2	—	—	鉄製品	—	身部片	93
第57図の12	刀子	残存長 12.1	—	—	鉄製品	—	身部～基部片	91、92



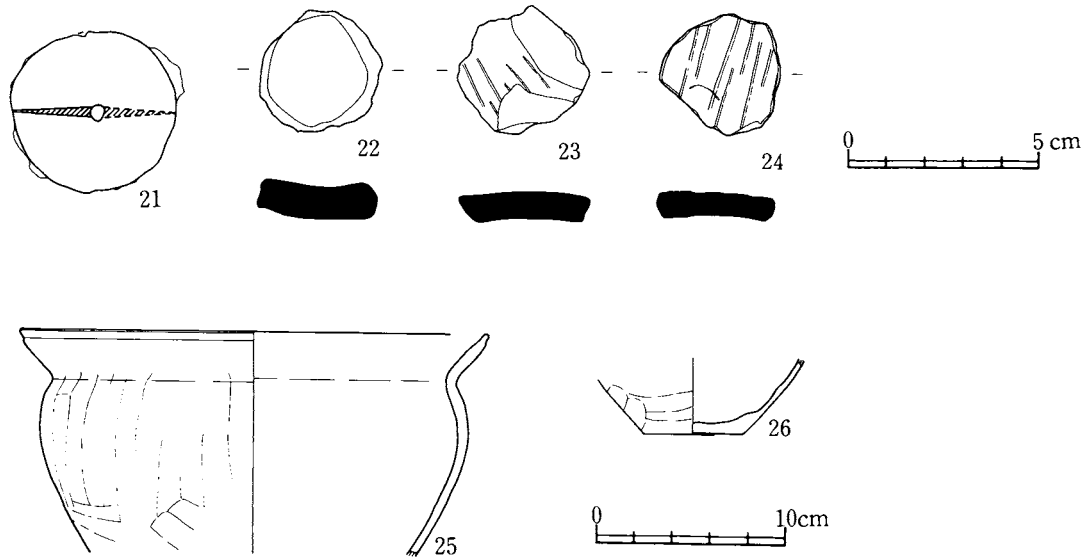
第57図 I 030

I 031 (第58・59図、図版16・123・124・168・169)

小型の住居で、平面プランは整った方形を示す。出入口に伴う小ピットは竈対面側壁付近に位置する。壁溝はほぼ全周する。竈は、煙道部の切込みがほとんどないタイプで、傾斜角度はほぼ垂直となる。床面は全体的に硬質である。遺物は、竈内あるいは竈脇を含めた竈周辺にまとまって出土している。また、床面からやや浮いてはいるが、南西コーナー付近に廃棄された貝殻が出土した。貝層の厚さは最大0.25mで、



第58图 I 031(1)



第59図 I 031(2)

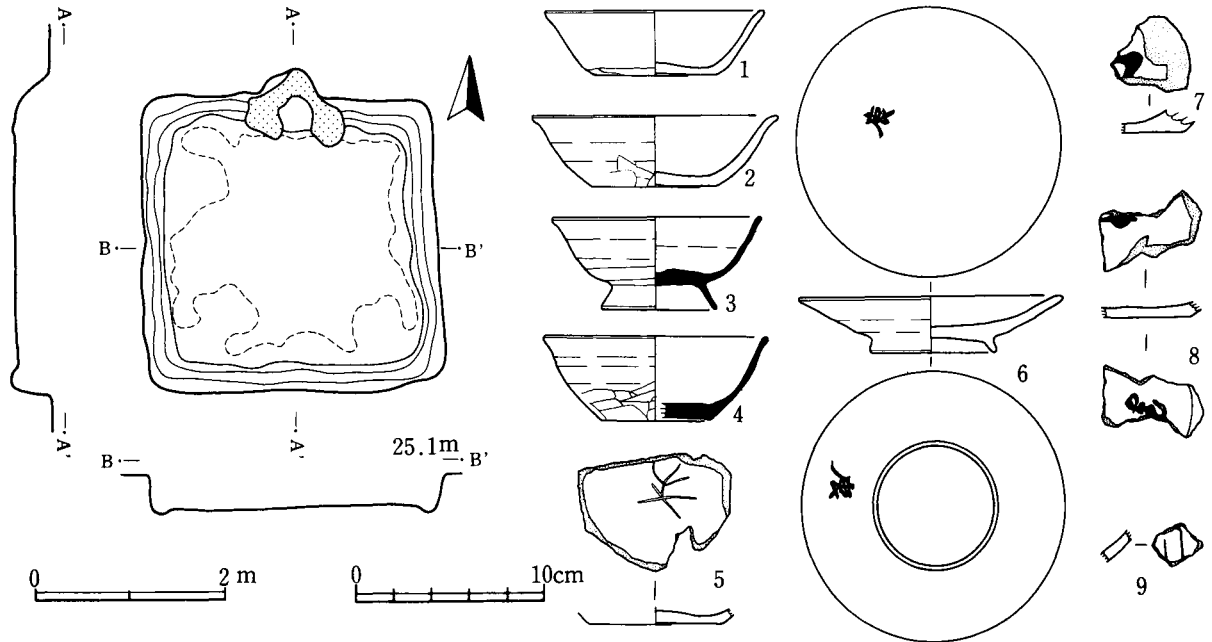
ほぼ純貝層である。貝の組成比は正確な数値化は行わなかったが、全体の50%強がシオフキガイで、ハマグリが45%程度、その他はいずれもごく少量で、マガキ、イタボガキ科、アサリ、サルボウガイ、ウミニナ属などの貝が認められた。アサリの少なさが特に目につくことと、大多数を占めるシオフキガイとハマグリは、極めて小型のものが多く、明らかに稚貝と判断できるものが存在することから、かなり貝を乱獲していた状況が窺える。須恵器片転用の円盤が埋土上層から下層にかけて出土している。また、軸部を欠損した鉄製紡錘車が住居床面やや上から出土している。

表56 I 031

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第58図の1	須恵器 杯	13.0	4.3	6.5	雲母・長石・石英含む	灰色		81
第58図の2	須恵器 杯	13.3	4.2	7.3	長石・石英・雲母含む	青灰色	線刻(体内)「↓」	4、71
第58図の3	須恵器 杯	13.4	4.1	7.1	長石・石英・雲母含む	灰白色		7、34、76、78
第58図の4	須恵器 杯	12.5	4.5	8.2	砂粒・雲母・スコリア含む	黒褐色		77、89
第58図の5	土師器 杯	12.7	4.1	6.6	乳白色砂・雲母含む	褐色		1、2、25、26、27、85
第58図の6	土師器 杯	12.5	4.1	6.6	雲母含む	淡褐色		36
第58図の7	土師器 杯	12.2	3.9	6.3	石英・長石・スコリア含む	褐色		79
第58図の8	土師器 杯	11.4	3.6	6.6	雲母・スコリア含む	橙褐色		69
第58図の9	須恵器 甗	—	—	(14.8)	長石・石英含む	灰色		6、55、63、70、72、75、99
第58図の10	灰釉陶器 長頸瓶	頸部 (5.4)	—	—	微砂粒含む	灰白色		18
第58図の11	須恵器短頸壺	(7.2)	4.1	(5.5)	雲母含む	青灰色		17
第58図の12	土師器 杯	—	—	—	雲母含む	橙褐色	墨書(体外)「□」	4
第58図の13	土師器 杯	—	—	(8.4)	白色砂含む	暗褐色	線刻(底内)「大」	29
第58図の14	土師器 甗	—	—	—	雲母含む	褐色	線刻(体外)「補」?	50
第58図の15	須恵器 甗	(24.8)	—	—	砂粒含む	灰白色		40、82、11X-00
第58図の16	土師器 壺	(12.4)	10.6	4.2	雲母含む	褐色		54、65、73、110
第58図の17	土師器小型甗	13.3	13.4	4.6	スコリア・雲母含む	褐色		19、98、101、104、107、108、112
第58図の18	土師器小型甗	14.9	18.8	7.0	雲母・砂粒含む	橙褐色		104、109
第58図の19	土師器小型甗	(14.5)	11.7	7.0	スコリア・雲母含む	暗褐色		1、4、51、52、66、83、84
第58図の20	土師器 甗	20.3	31.6	7.0	雲母・スコリア含む	淡褐色		68
第59図の21	紡錘車	直径 4.3	—	—	鉄製品	—		61
第59図の22	土製円盤	短軸 3.1	長軸 3.2	—	—	—	須恵器転用	9
第59図の23	土製円盤	短軸 3.2	長軸 3.5	—	—	—	須恵器転用	12
第59図の24	土製円盤	短軸 3.1	長軸 3.2	—	—	—	須恵器転用	15
第59図の25	土師器 壺	(24.4)	(11.6)	—	雲母含む	淡褐色		48、49、96、97、102、105、108、111
第59図の26	土師器 甗	—	—	5.1	雲母・スコリア含む	暗褐色		64、110

I 032 (第60図、図版17・124・170)

平面形態は、非常に整った方形プランである。壁溝は竈部分以外は全周する。主柱穴はない。出入口施設に伴う小ピットも確認できなかった。ただし、床面の硬質部分が、竈対面の南側壁中央付近で、半月状に弧を描く部分があり、この地点に出入口施設を想定することができる。竈は前面を解体している。火床部には支脚が正位で遺存しており、頂部に土器片1点を被せて、高さ調整を行っていた痕跡が認められる。竈前面から住居中央にかけての床面直上から埋土中層にかけて遺物が出土している。「庚」の墨書土器(高台付皿)をはじめとした文字資料が出土している。



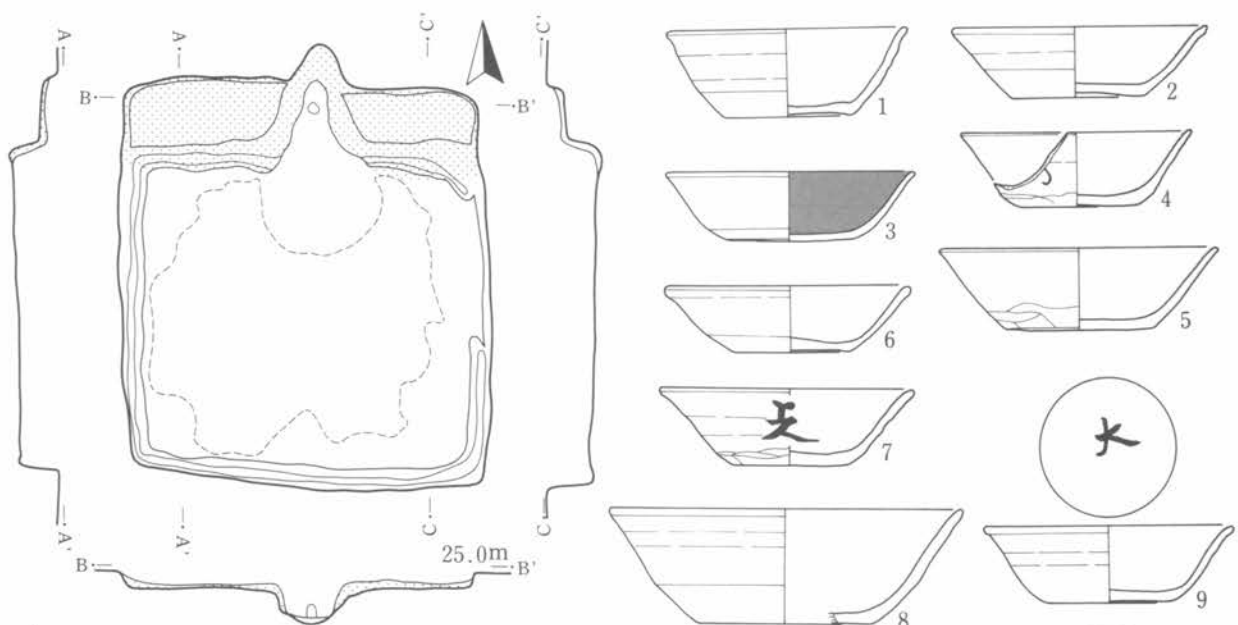
第60図 I 032

表57 I 032

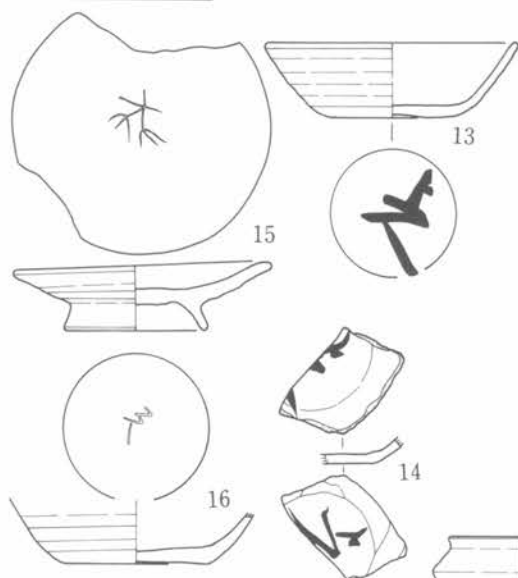
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第60図の1	土師器 杯	(11.6)	3.4	(6.5)	長石・石英・スコリア含む	褐色		94
第60図の2	土師器 杯	(13.1)	3.7	6.6	長石・石英・スコリア・雲母含む	明褐色		163、209、217
第60図の3	須恵器 高台付杯	11.0	4.8	6.2	長石・石英含む	灰色		173、174、198、199、222
第60図の4	須恵器 杯	(11.8)	4.4	(5.8)	長石・石英含む	灰白色		82、85、142
第60図の5	土師器 杯	—	(0.8)	7.1	長石・石英・スコリア含む	暗褐色	線刻(底内)「大加」	146、171、201
第60図の6	土師器 高台付皿	13.6	2.9	6.3	長石・石英・スコリア含む	明褐色	墨書(体外)「庚」 墨書(底内)「庚」	219
第60図の7	土師器 杯	—	(1.2)	—	長石・石英・スコリア含む	褐色	墨書(底内)「□」	150
第60図の8	土師器 杯	—	(0.8)	—	長石・石英・雲母含む	褐色	墨書(底外)「里」? 墨書(底内)「□」	152、184
第60図の9	土師器 杯	—	(1.7)	—	長石・石英・雲母含む	暗褐色	線刻(体外)「□」	105

I 033 (第61図、図版17・18・124・168・169・170)

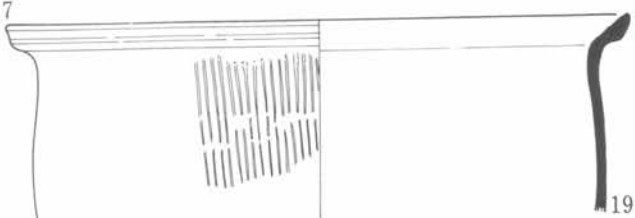
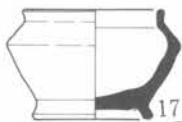
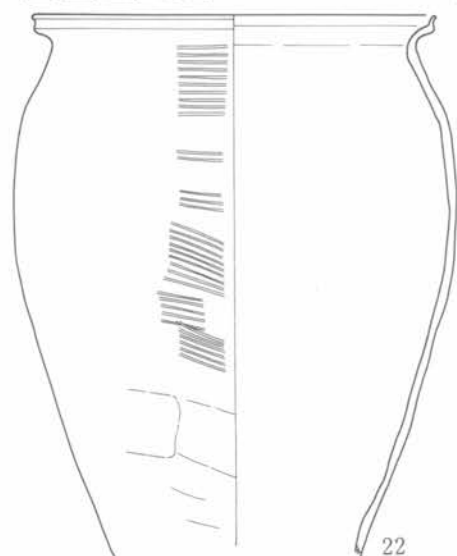
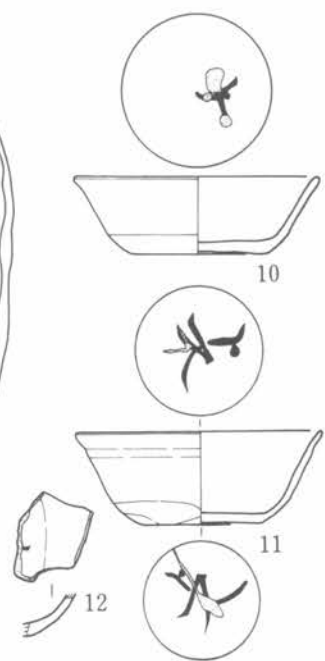
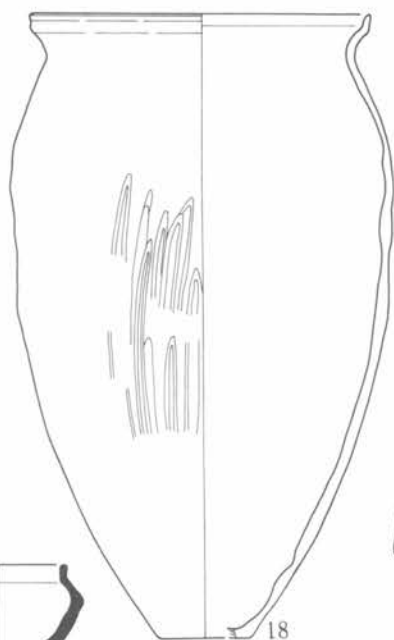
I 028同様、北側壁に竈を敷設し、両側にテラス状に張出し施設を構築する。張出し施設と竪穴本体の床面との段差は0.3mほどで、底面には灰白色粘土を均質に敷き詰めている。さらに灰白色粘土は、北側壁面にも連続して認められ、壁面と一体化して化粧粘土的な役割をしていたものと考えられる。粘土の一部については北側壁の壁溝内を覆っていた。遺物は床面上を含めて極めて多い。墨書土器「支」、「大」や須恵



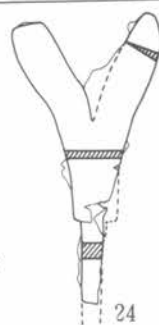
0 2 m



0 10cm



0 5 cm



第61図 I 033

器短頸壺などが見られる。また、茎部の木質を残す刀子(23)が、ほぼ完全な形で住居北東コーナー床面直上から、また、身部がY字型となる鉄鏃が、住居中央やや南側の床面直上から出土している。

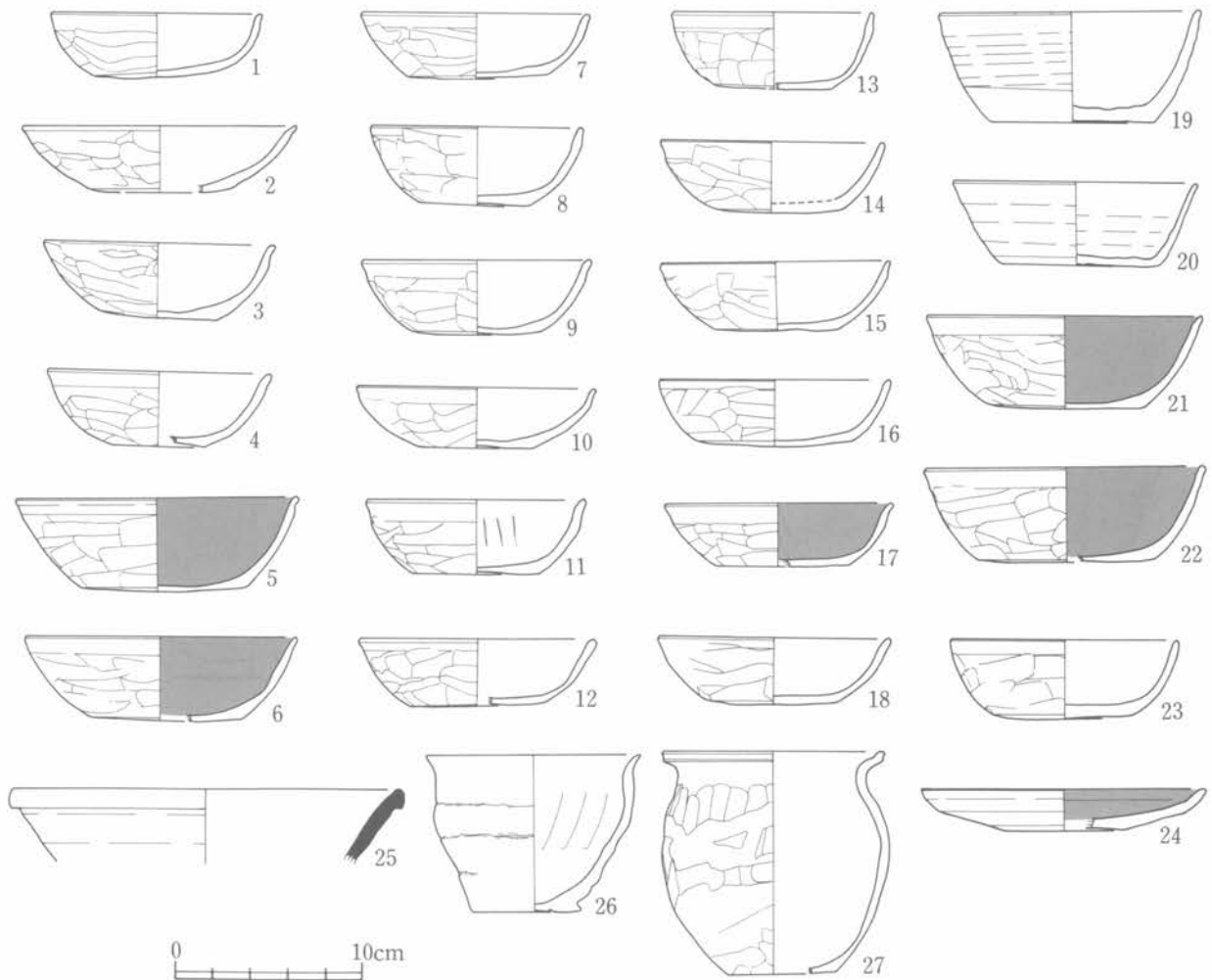
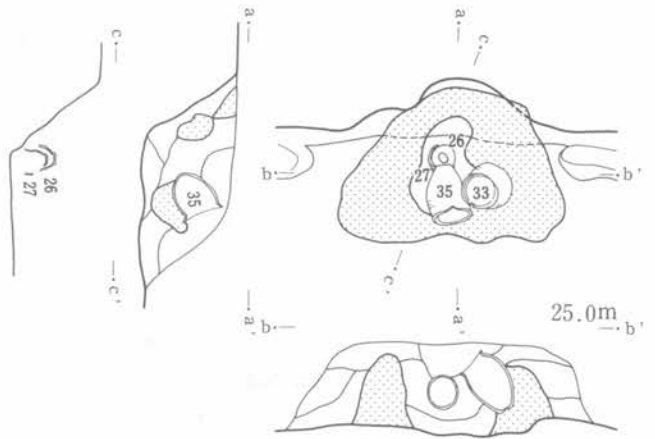
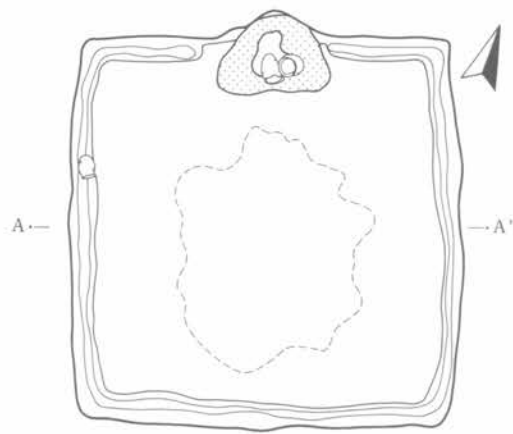
表58 I 0 3 3

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第61図の1	土師器 杯	(12.6)	4.6	(6.8)	砂粒含む	淡褐色		403、559
第61図の2	土師器 杯	13.3	3.7	6.9	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色		59、121、125、139、254、343、498、499、500、532、538
第61図の3	土師器 杯	(13.2)	3.7	(6.8)	砂粒・スコリア含む	暗褐色	内黒	213、238、375、385、500、542
第61図の4	土師器 杯	(12.2)	3.9	(6.3)	砂粒・雲母含む	褐色	墨書(体外)「□」	557、563
第61図の5	土師器 杯	(14.6)	4.2	(7.9)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色		377、394、400、412、499
第61図の6	土師器 杯	12.8	3.4	6.4	砂粒・雲母含む	暗褐色		347、392、535、536
第61図の7	土師器 杯	13.3	3.9	6.1	雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書(体外)「支」	544
第61図の8	土師器 杯	(18.6)	6.0	(9.0)	砂粒・スコリア・雲母含む	淡褐色		543
第61図の9	土師器 杯	(13.0)	4.0	(6.5)	砂粒・雲母含む	褐色	墨書(底内)「大」	206、330
第61図の10	土師器 杯	(12.8)	4.0	(6.8)	砂粒・雲母含む	橙褐色	墨書(底内)「大」	291、529
第61図の11	土師器 杯	(12.8)	4.8	(6.1)	雲母含む	褐色	墨書(底内)「支」 墨書(底外)「支」	82、93、203、251、446、499
第61図の12	土師器 杯	-	-	-	砂粒含む	橙褐色	墨書(底内)「□」	248
第61図の13	土師器 杯	(13.0)	3.9	(6.4)	砂粒・スコリア・雲母含む	橙褐色	墨書(底外)「支」	257、416、489
第61図の14	土師器 杯	-	-	-	雲母・スコリア含む	暗褐色	墨書(底内)「支」 墨書(底外)「支」	361
第61図の15	土師器 皿	13.4	3.5	7.3	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	線刻(底内)「大加」	560
第61図の16	土師器 杯	-	-	7.7	砂粒・雲母含む	暗褐色	線刻(底内)「支」	347、359、366、379、380、390、399、447、545
第61図の17	須恵器短頸壺	7.4	5.7	6.0	雲母含む	灰色	焼成不良	540
第61図の18	土師器 甕	(20.0)	32.4	(5.0)	長石・砂粒・雲母・スコリア含む	暗褐色	常総型	3、58、138、156、187、204、211、234、241、247、277、333、350、376、432、435、450、454、478、483、497、499、500、513
第61図の19	須恵器 甕	(32.8)	-	-	砂粒含む	灰色		98、282、436、531
第61図の20	土師器 杯	-	-	-	砂粒・スコリア含む	橙褐色	墨書(体外)「大」	357
第61図の21	土師器 杯	(12.0)	-	-	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書(体外)「千万」	315、413、414、499、500、501
第61図の22	土師器 甕	(21.0)	-	-	長石・石英・雲母含む	暗褐色		476、506、507、508、509、510、511、512、513、514、516、541、547
第61図の23	刀子	残存長 14.7	-	-	鉄製品	-	木質部残存	504
第61図の24	鉄鏃	鏃身幅 3.9	鏃身長 5.4	-	-	-	Y字型	502

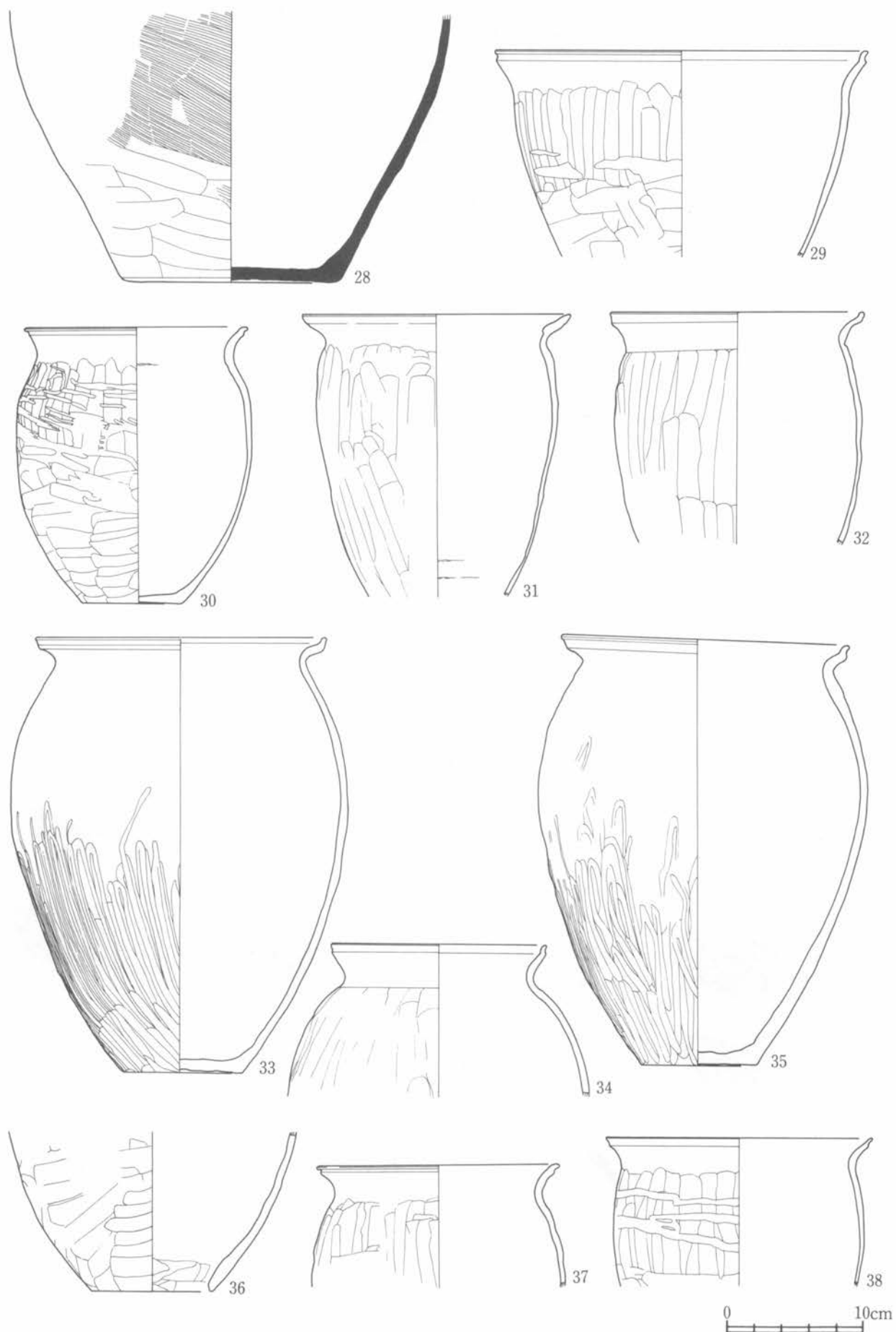
I 034 (第62・63図、図版18・19・124・125)

極めて整った正方形プランとなる住居である。壁溝は竈部分以外で全周する。床面は竈穴中央部で硬質である。竈は、前面を解体せず遺棄し、その後、天井部は自然に崩落している。このため器掛け口が崩落した状態で遺存していた。竈内から見つかった土器は、器掛け部に掛かったままの状態や、やや傾いた状態で出土した。遺物の出土量は極めて多いが、出土層位は床面と床面直上、及び埋土内の上層に分かれており、その間に、遺物を含まない間層が明瞭に確認できた。内面黒色処理の土師器杯が多い。





第62図 I 034(1)



第63图 I 034(2)

表59 I 0 3 4

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第62図の1	土師器 杯	11.3	3.6	7.0	長石・石英・スコリア含む	褐色		282、315、375、398、583、606、613、627、713
第62図の2	土師器 杯	(14.7)	(3.5)	(7.6)	長石・石英・スコリア含む	暗褐色	焼成不良	245、260、390、406、510、580、600、625
第62図の3	土師器 杯	12.3	4.1	6.2	長石・石英・スコリア含む	赤褐色		225、268、273、290、291、293、295、412、587、631、678
第62図の4	土師器 杯	11.9	4.0	5.0	長石・石英・スコリア含む	褐色		112、161、528、538、539、582、610、612、710、713
第62図の5	土師器 杯	15.0	5.0	8.8	長石・石英・スコリア含む	外面灰褐色 内面黒色	内黒	69、110、111、270、674、679、682、685、687、688、689、691、694、695、696、678、699
第62図の6	土師器 杯	14.6	4.5	8.2	長石・石英・スコリア含む	外面黄褐色 内面黒色	内黒	32、320、348、349、359、400、407、645、647、653、654、659、660、712、736
第62図の7	土師器 杯	12.2	3.6	7.5	長石・石英・スコリア含む	明褐色		485、576、637、639、641、651、660、662、677、681、686、710、711、713
第62図の8	土師器 杯	11.2	4.2	5.8	長石・石英・スコリア含む	黄褐色		7、8、65、66、160、253、258、259、391、436、507、585、586、597、617、710
第62図の9	土師器 杯	(12.1)	4.0	7.0	長石・石英・スコリア含む	灰褐色		224、266、347、413、420、712、716、717、718
第62図の10	土師器 杯	(12.8)	3.2	6.0	長石・石英・スコリア含む	暗褐色		255、276、328、536、578、626
第62図の11	土師器 杯	(11.5)	4.0	(6.7)	長石・石英・スコリア含む	黄褐色	線刻(体内)「   」	704、705
第62図の12	土師器 杯	12.6	3.6	7.2	長石・石英・スコリア含む	黒色～暗褐色		521、522、747、748
第62図の13	土師器 杯	10.7	4.2	6.3	長石・石英・スコリア含む	褐色		235、236、237、281、288、313、505、506、527、529、544、547
第62図の14	土師器 杯	11.9	3.8	6.9	長石・石英・スコリア含む	暗褐色		234、283、373、410、573、611、710、713
第62図の15	土師器 杯	12.2	3.6	6.6	長石・石英・スコリア含む	黒褐色		284、475、550、560、561、562、635、665、711
第62図の16	土師器 杯	(12.2)	3.6	(8.6)	長石・石英・スコリア含む	赤褐色		294、716
第62図の17	土師器 杯	12.3	3.9	7.3	長石・石英・スコリア含む	外面赤褐色 内面黒色	内黒	459、495、666、670、672、676、712、736、737
第62図の18	土師器 杯	(12.4)	3.6	7.0	長石・石英・スコリア含む	褐色		15、100、136
第62図の19	土師器 杯	13.9	6.0	8.8	長石・石英・雲母含む	暗褐色		753
第62図の20	土師器 杯	13.0	4.4	8.4	長石・石英・スコリア含む	暗褐色		751
第62図の21	土師器 杯	14.8	5.0	8.2	長石・石英・スコリア・雲母含む	外面黄褐色 内面黒色	内黒	345、351、470、548、557、559、646、649、655、657、658、661、663、664、667、668、683、684
第62図の22	土師器 杯	(14.7)	5.0	(9.4)	長石・石英・スコリア含む	外面明褐色 内面黒色	内黒	319、541、634、635、648、652、656、660、690、692、693
第62図の23	土師器 杯	12.2	4.2	7.7	長石・石英・スコリア含む	暗褐色		392、454、455、623、710、755
第62図の24	土師器 皿	(15.1)	(2.2)	(6.2)	長石・石英・スコリア含む	外面暗褐色 内面黒色	内黒	486、491、512
第62図の25	土師器 甕	(20.8)	-	-	長石・石英・雲母含む	暗灰色		383、446、472
第62図の26	土師器 小型甕	11.6	8.4	5.9	長石・石英・雲母含む	褐色		767
第62図の27	土師器 小型甕	11.6	11.9	5.8	長石・石英・スコリア含む	褐色		768
第63図の28	土師器 甕	-	-	16.3	長石・石英・雲母含む	灰色		321、337、357、386、671、712、715、723、746
第63図の29	土師器 甕	(27.2)	-	-	長石・石英・スコリア含む	暗褐色		1、2、154、183、185、188、230、231、232、233、279、502、579、590、593、614、713
第63図の30	土師器 甕	16.0	19.9	7.1	長石・石英・スコリア含む	暗褐色		754
第63図の31	土師器 甕	(19.7)	20.3	-	長石・石英・雲母含む	褐色		285、302、304、306、417、418、421、437、438、440、457、458、468、469、680、702、703、713、714、770
第63図の32	土師器 甕	18.5	16.8	-	長石・石英・雲母・スコリア含む	褐色		241、265、271、523、535、552、553、554、555、556、568、569
第63図の33	土師器 甕	21.0	31.4	8.7	長石・石英・雲母・スコリア含む	赤褐色	常総型	762
第63図の34	土師器 甕	(15.8)	-	-	長石・石英・雲母・スコリア含む	暗褐色		156、242、250、314、366、368、409、511、721、727、728、729、730
第63図の35	土師器 甕	20.9	31.1	8.5	長石・石英・雲母含む	褐色	常総型	763
第63図の36	土師器 甕	-	-	8.7	長石・石英・スコリア含む	暗褐色		12、24、31、256、390、492、508、515、517、520、524、618、711、713
第63図の37	土師器 甕	17.6	-	-	長石・石英・スコリア含む	黄褐色		27、569、741、742、743
第63図の38	土師器 甕	(19.4)	-	-	長石・石英・雲母含む	暗褐色		749、750、752、764

I 035 (第64図、図版19・20・125・126・168)

比較的整った方形プランの住居である。北側壁に竈を敷設する。支柱穴は4本あり、竈の各コーナーの対角線上の、コーナー寄りの位置にある。竈の掘り方の軸と、支柱穴間を結ぶ軸がややずれている。竈は、袖部を比較的良く残し、煙道部側の天井（後天井）も良く残った状態で遺存していた。床面は全体的に硬く締まっている。遺物は、竈東側と住居中央部の埋土下層から中層中に集中して見られる。手捏ね土器片や刀子が埋土中層から出土している。

表60 I 035

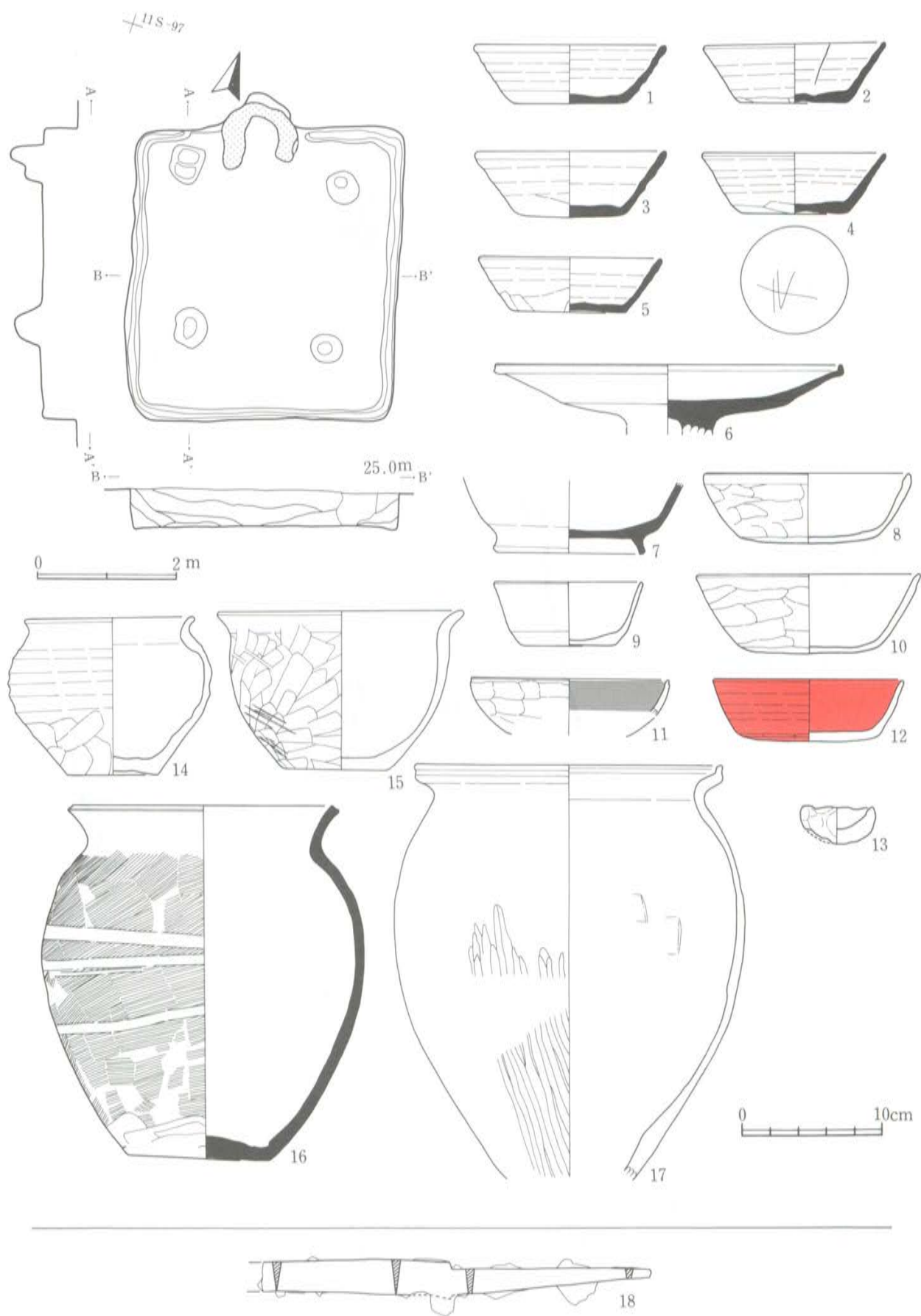
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第64図の1	須恵器 杯	(13.4)	4.3	(8.0)	雲母含む	灰色		167、214、246、281、338、355
第64図の2	須恵器 杯	12.8	4.2	7.7	砂粒・雲母・スコリア含む	淡褐色	線刻(体内)「 」	351
第64図の3	須恵器 杯	13.5	4.7	7.6	長石・石英・雲母含む	灰色	焼成不良	292
第64図の4	須恵器 杯	13.0	4.3	7.6	長石・石英含む	灰色	線刻(底外)「H」	280
第64図の5	須恵器 杯	13.0	3.9	8.0	雲母含む	灰色		291
第64図の6	須恵器 高盤	24.7	—	—	砂粒・雲母含む	灰褐色	焼成不良	352
第64図の7	須恵器 高台付杯	—	—	10.4	長石・石英・雲母含む	灰色	焼成不良	341
第64図の8	土師器 杯	(14.6)	4.9	(9.8)	砂粒含む	淡褐色		293、294、321
第64図の9	土師器 杯	(10.6)	4.4	(6.6)	砂粒・雲母・スコリア含む	淡褐色		136、255、340、346、353
第64図の10	土師器 杯	(15.8)	5.5	(9.8)	砂粒・スコリア含む	淡褐色		6、94、184、223、228、231、338、339、340
第64図の11	土師器 杯	(14.0)	—	—	砂粒・スコリア含む	黒褐色	内黒	101、120、197、225
第64図の12	土師器 杯	(13.6)	4.4	(9.3)	砂粒・雲母含む	赤褐色	内外面赤彩	113、134、158、239
第64図の13	手捏ね	5.6	2.6	—	砂粒含む	暗褐色		290
第64図の14	土師器 甕	11.8	11.2	6.4	砂粒・スコリア含む	褐色		190、241、307、309、311、337
第64図の15	土師器 甕	17.7	11.35	7.3	長石・石英・スコリア含む	暗褐色		282、283、284、285、286、287、288、315、323、337
第64図の16	須恵器 甕	18.5	9.9	24.9	長石・石英・スコリア含む	暗褐色～黒褐色		1、31、201、297、311、312、313、314、317、318、319、320、322、324、326、329、330、331、332、333
第64図の17	土師器 甕	(21.7)	—	—	長石・石英含む	褐色		32、41、52、84、163、189、202、203、289、295、296、336
第64図の18	刀子	残存長 13.9	—	—	鉄製品	—		279

I 036 (第65図、図版20・126・171)

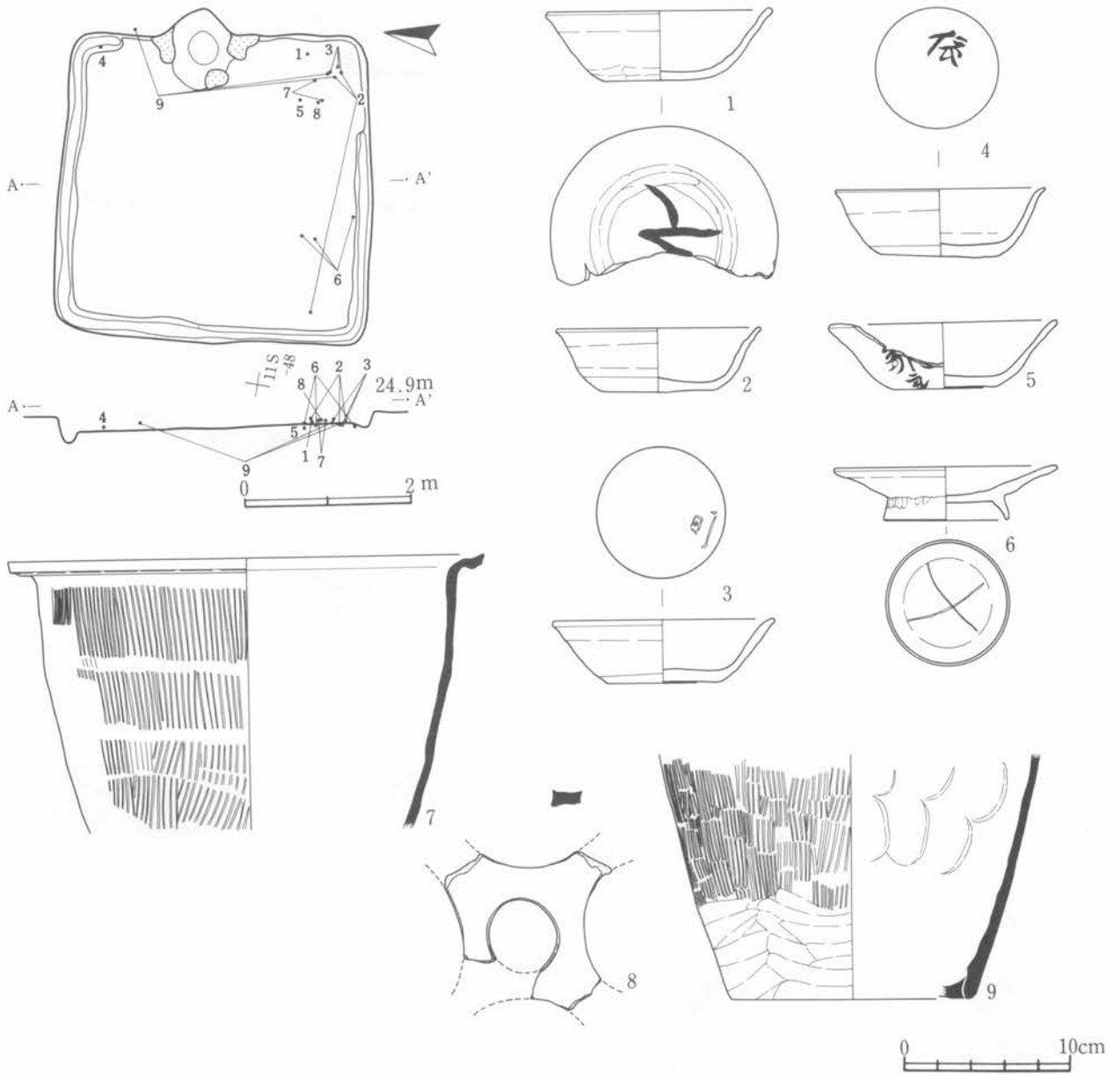
掘込みが0.15mほどで、極めて浅い住居である。柱穴はない。竈は袖部の一部が遺存する程度である。壁溝は、竈周辺と南東コーナー周辺を除き、巡っている。遺物は竈脇、南東コーナー側の床面上にまとまって出土している。文字資料では墨書の「依」、「久弥良」や、線刻の「冨」が出土している。

表61 I 036

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第65図の1	土師器 杯	13.4	3.2	6.6	雲母含む	褐色	墨書(底外)「冨」	46
第65図の2	土師器 杯	12.2	3.8	6.9	雲母・スコリア含む	橙褐色		25、51、54、56
第65図の3	土師器 杯	13.4	3.7	6.5	スコリア含む	褐色	線刻(底内)「冨」	49、51、54、55
第65図の4	土師器 杯	12.6	4.5	7.2	雲母含む	褐色	墨書(底内)「依」	52
第65図の5	土師器 杯	13.6	3.9	6.2	雲母含む	淡褐色	墨書(体外)「久弥良」	59
第65図の6	土師器 皿	13.3	3.2	7.4	雲母含む	橙褐色	線刻(底外)「×」	22、27、57
第65図の7	須恵器 鉢	(28.4)	—	—	砂粒含む	灰色		4、50、60
第65図の8	須恵器 甕	—	—	—	—	灰色	底部のみ、5孔	5
第65図の9	須恵器 甕	—	—	(14.6)	—	暗褐色		37、53、56



第64図 I 035



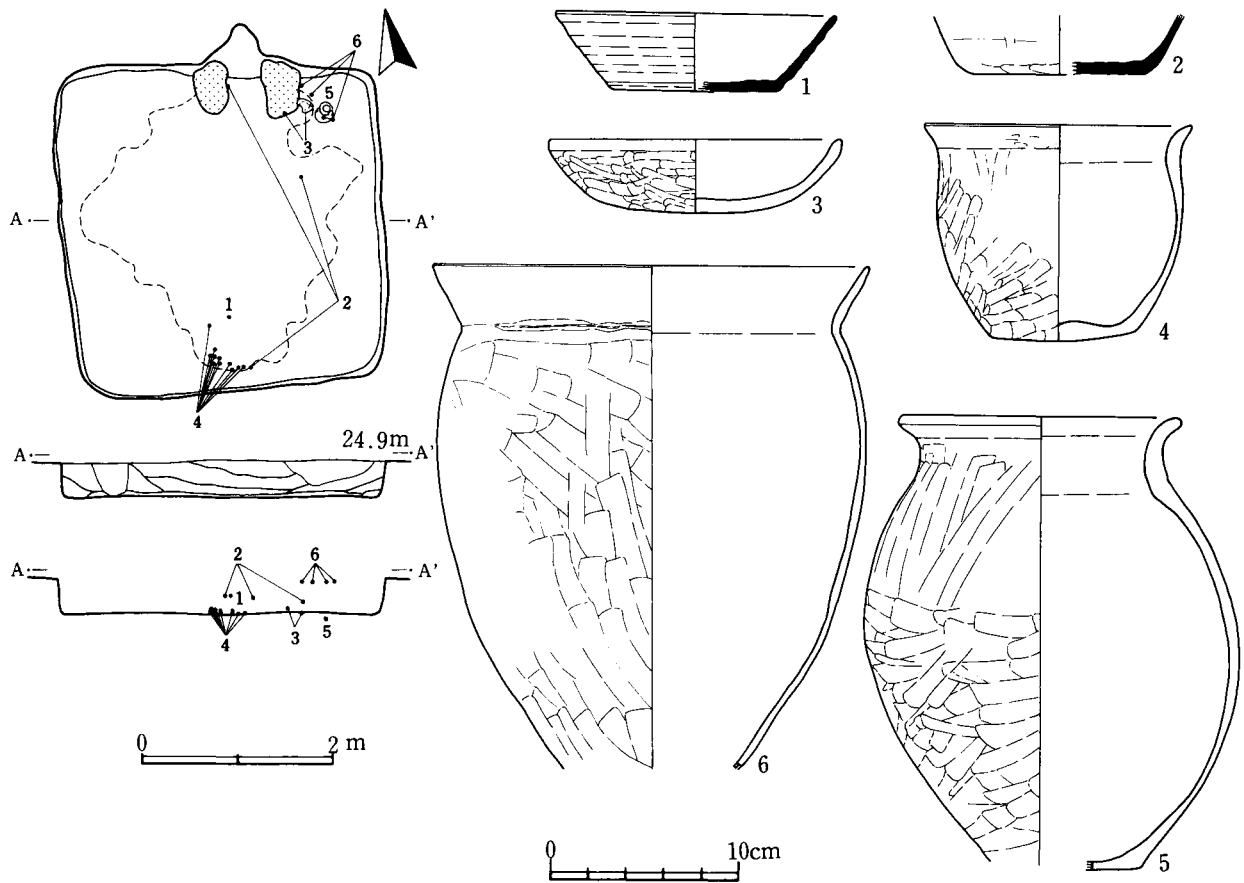
第65図 I 036

I 037 (第66図、図版20・126)

比較的整った方形プランの住居である。北側壁に竈を有する。壁溝・柱穴はない。床面中央は硬化している。竈右袖脇と出入口付近で遺物を出土している。

表62 I 037

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第66図の1	須恵器 杯	(14.8)	4.1	(8.4)	雲母含む	灰色		1、55
第66図の2	須恵器 杯	—	—	9.0	雲母含む	灰褐色		7、11、35
第66図の3	土師器 杯	15.3	4.0	—	スコリア含む	褐色		31、52、56
第66図の4	土師器 鉢	13.9	11.3	7.6	雲母含む	褐色		12、13、14、15、16、18、37、38、39、40、42、44、55、56
第66図の5	土師器 壺	(22.8)	(26.1)	—	雲母含む	黒褐色		19、20、25、27
第66図の6	土師器 壺	14.8	—	7.9	雲母・スコリア含む	淡褐色		53



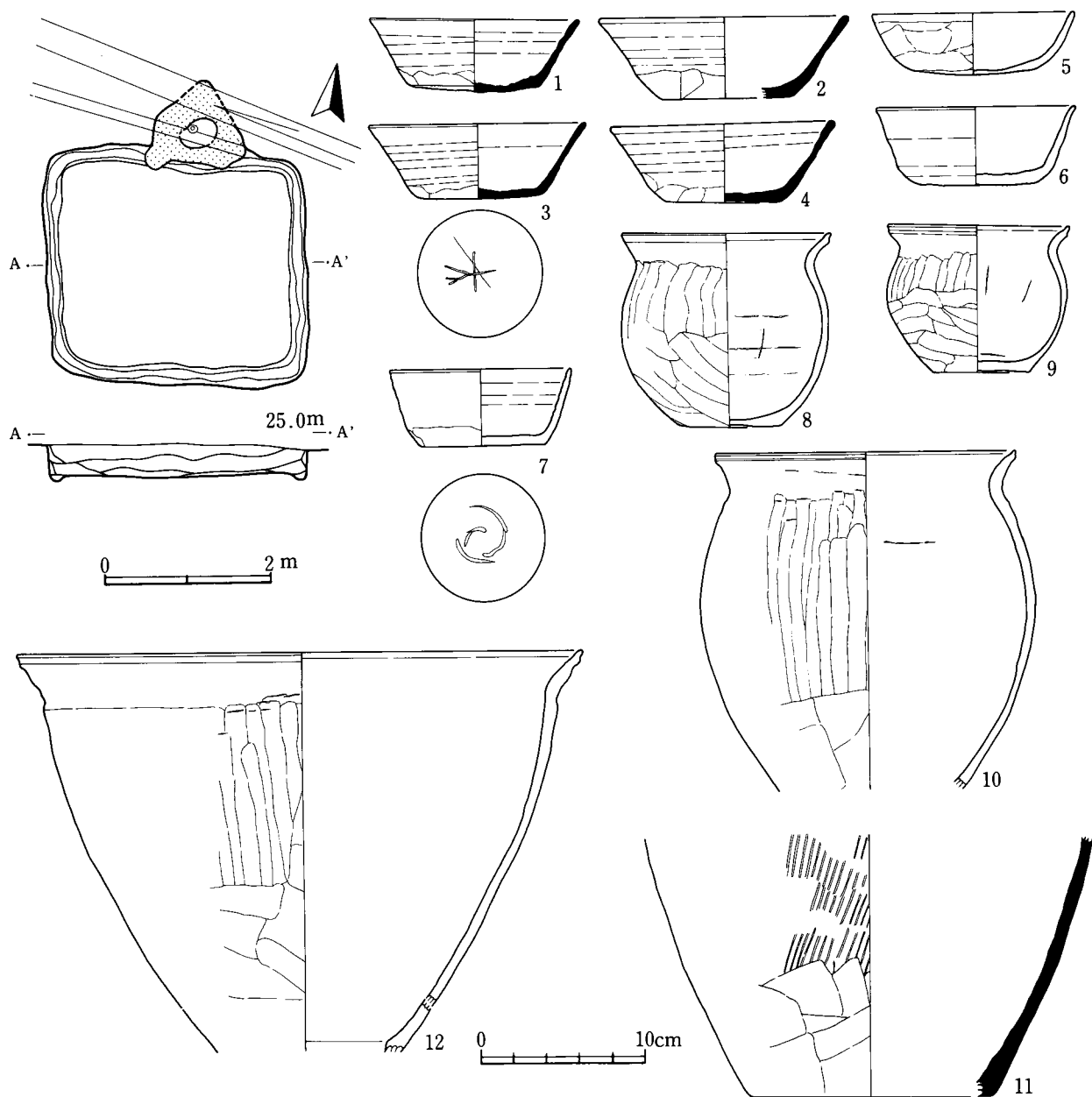
第66図 I 037

I 038 (第67図、図版21・126)

小型の方形プランの住居で、北壁に竈を有する。壁溝は全周するが、柱穴はない。竈内から甕(10)、甌(12)が倒位で出土している。

表63 I 038

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第67図の1	須恵器 杯	12.7	4.4	8.0	長石・石英含む	灰色		66、68
第67図の2	須恵器 杯	14.8	4.8	8.0	長石・石英・雲母含む	暗褐色		58、63、75、77
第67図の3	須恵器 杯	13.0	4.6	7.7	白色砂含む	灰色	線刻(底外) <input type="checkbox"/>	67
第67図の4	須恵器 杯	13.3	4.8	7.0	砂粒・雲母含む	灰褐色		65
第67図の5	土師器 杯	(12.0)	3.7	(7.6)	砂粒含む	暗褐色		12、13、31、32
第67図の6	土師器 杯	(11.8)	4.8	(7.4)	雲母・スコリア含む	暗褐色		59、73
第67図の7	土師器 杯	11.0	4.6	7.6	砂粒・スコリア含む	暗褐色	へら書き(底外) <input type="checkbox"/>	64
第67図の8	土師器 甕	12.4	11.5	6.0	砂粒含む	褐色～暗褐色		76
第67図の9	土師器 甕	10.9	8.7	5.8	砂粒・スコリア含む	淡褐色		44
第67図の10	土師器 甕	(18.0)	—	—	砂粒・スコリア含む	暗褐色		45、46、47、48、49、50、51、52、53、77
第67図の11	須恵器 甕	—	—	(12.8)	砂粒・雲母含む	黒褐色		11、17、18、19、24
第67図の12	土師器 甌	(33.8)	—	—	砂粒・雲母含む	褐色		55、60、61、62、71、72、74



第67図 I 038

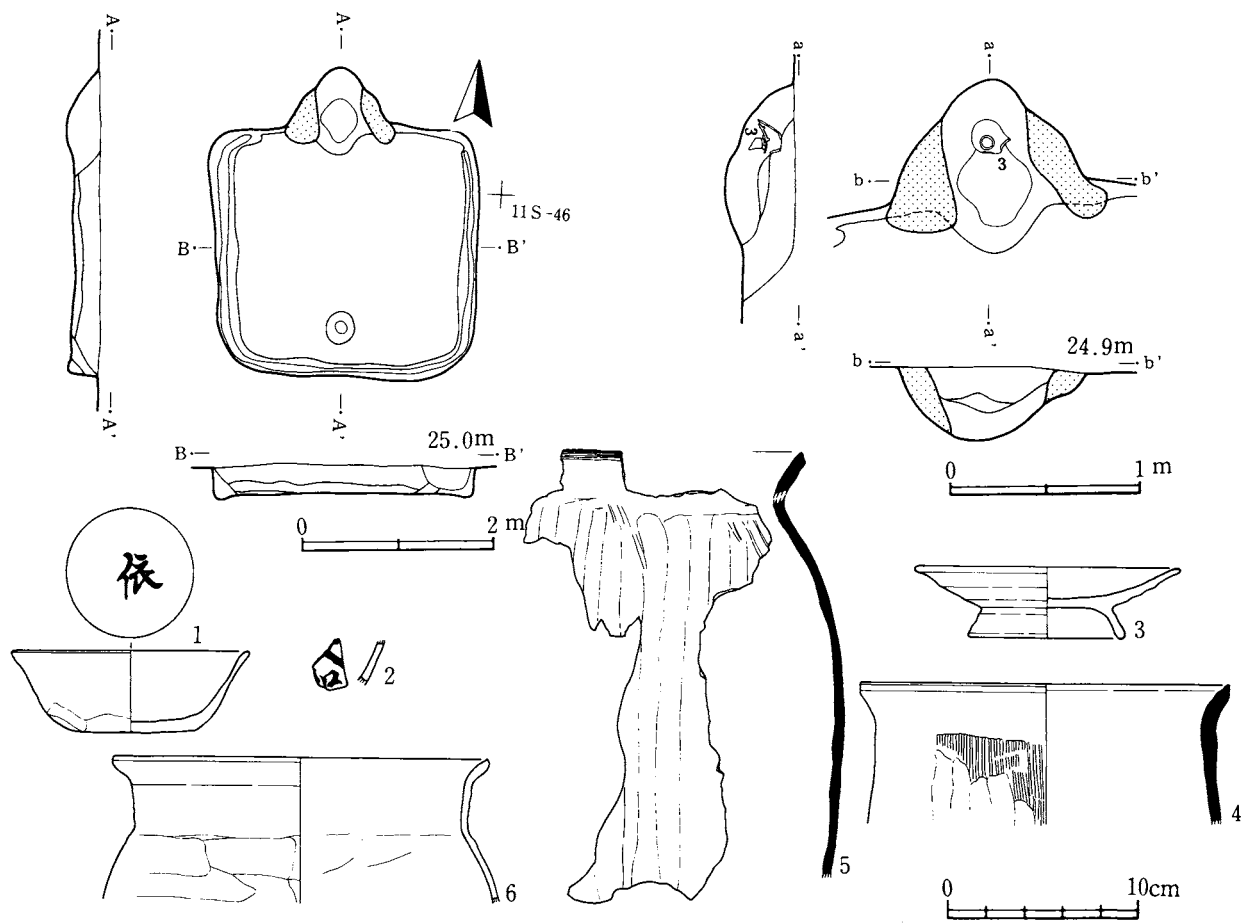
I 039 (第68図、図版21・126・169)

小型の方形プランの住居で、北壁に竈を有する。壁溝は北壁以外を全周する。出入口ピットは1つである。竈内には、支脚の上に甕の破片を載せ、その上に杯を倒位で被せ、全体を甕の胴部で覆っている状況が見られた。文字資料には墨書の「依」や「大加」がある。

表64 I 039

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第68図の1	土師器 杯	12.4	4.2	6.5	砂粒・雲母・スコリア含む	淡褐色	墨書(底内)「依」	66、111、116
第68図の2	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「大加」	115
第68図の3	土師器 高台付皿	(13.8)	3.7	(8.0)	砂粒・雲母含む	暗褐色		18、20、22、43、45、60、65、69、115
第68図の4	須恵器 甕	-	-	-	砂粒含む	暗褐色		135
第68図の5	須恵器 甕	-	-	-	砂粒含む	暗褐色		18、20、22、43、45、60、65、69、115
第68図の6	土師器 甕	(19.6)	-	-	砂粒含む	褐色		72、74、100、101、116、130、134、136、145、148、149、151





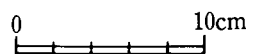
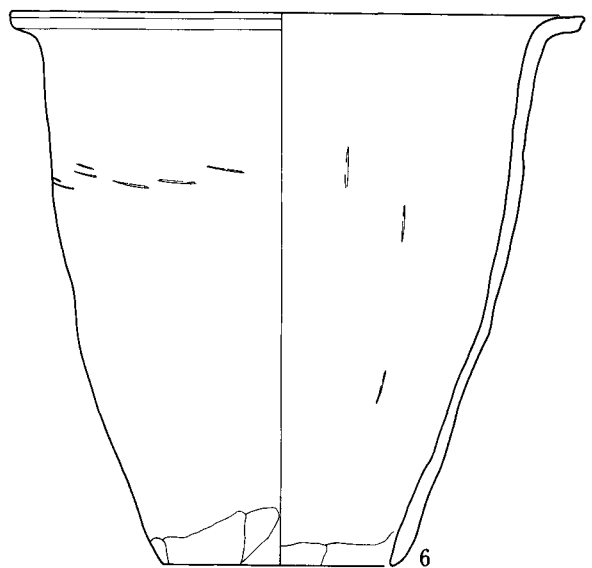
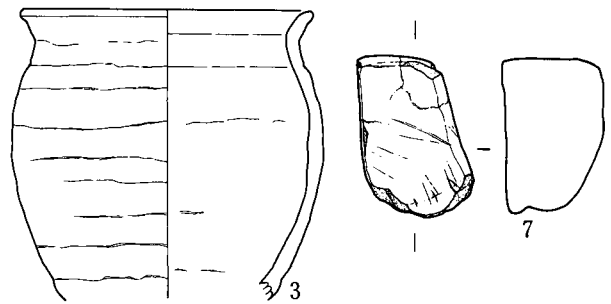
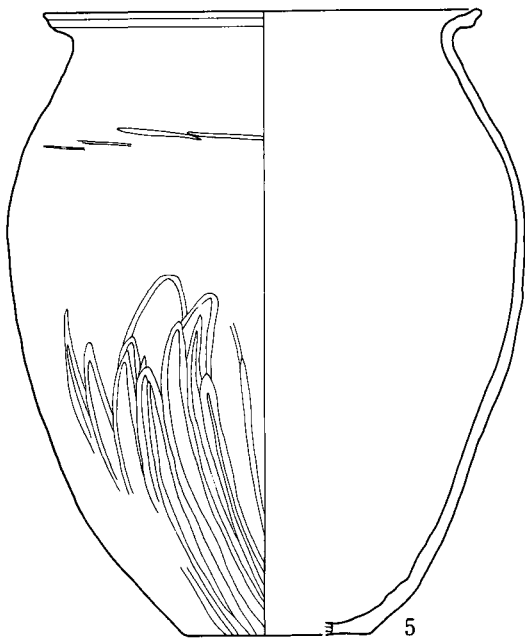
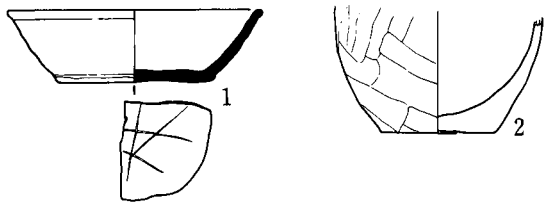
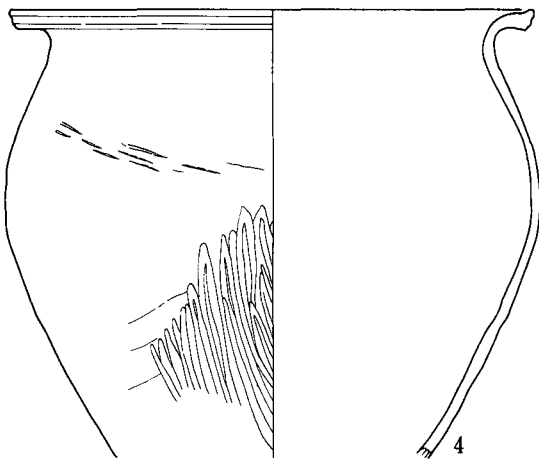
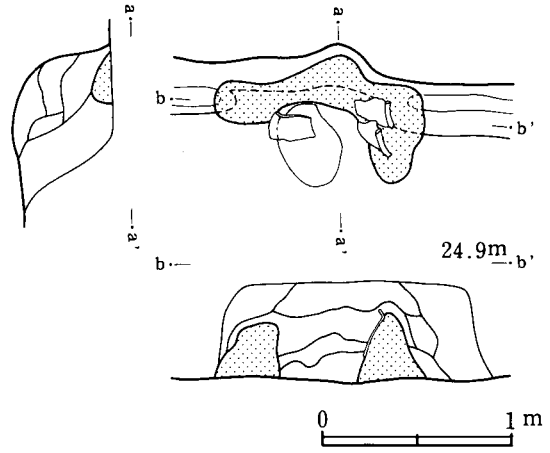
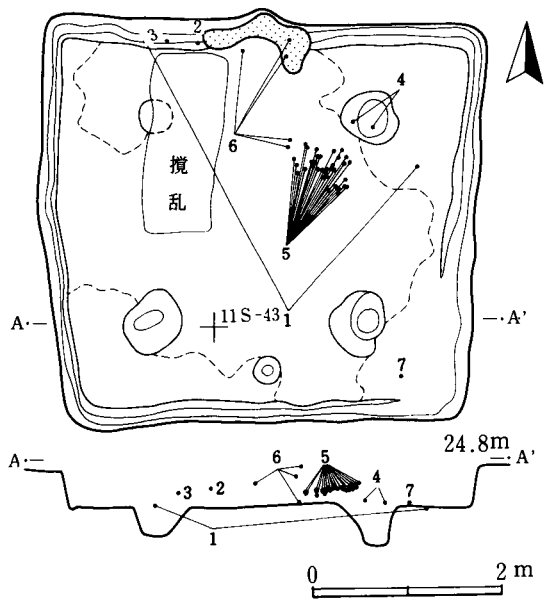
第68図 I 039

I 040 (第69図、図版21・126・127・167)

北側壁がやや長い、台形状のプランの住居で、支柱穴4本、出入口ピット1本を有する。床面中央は硬化している。埋土は人為的な埋め戻しである。竈右袖に、補強のため甕の破片を貼り付けている。

表65 I 040

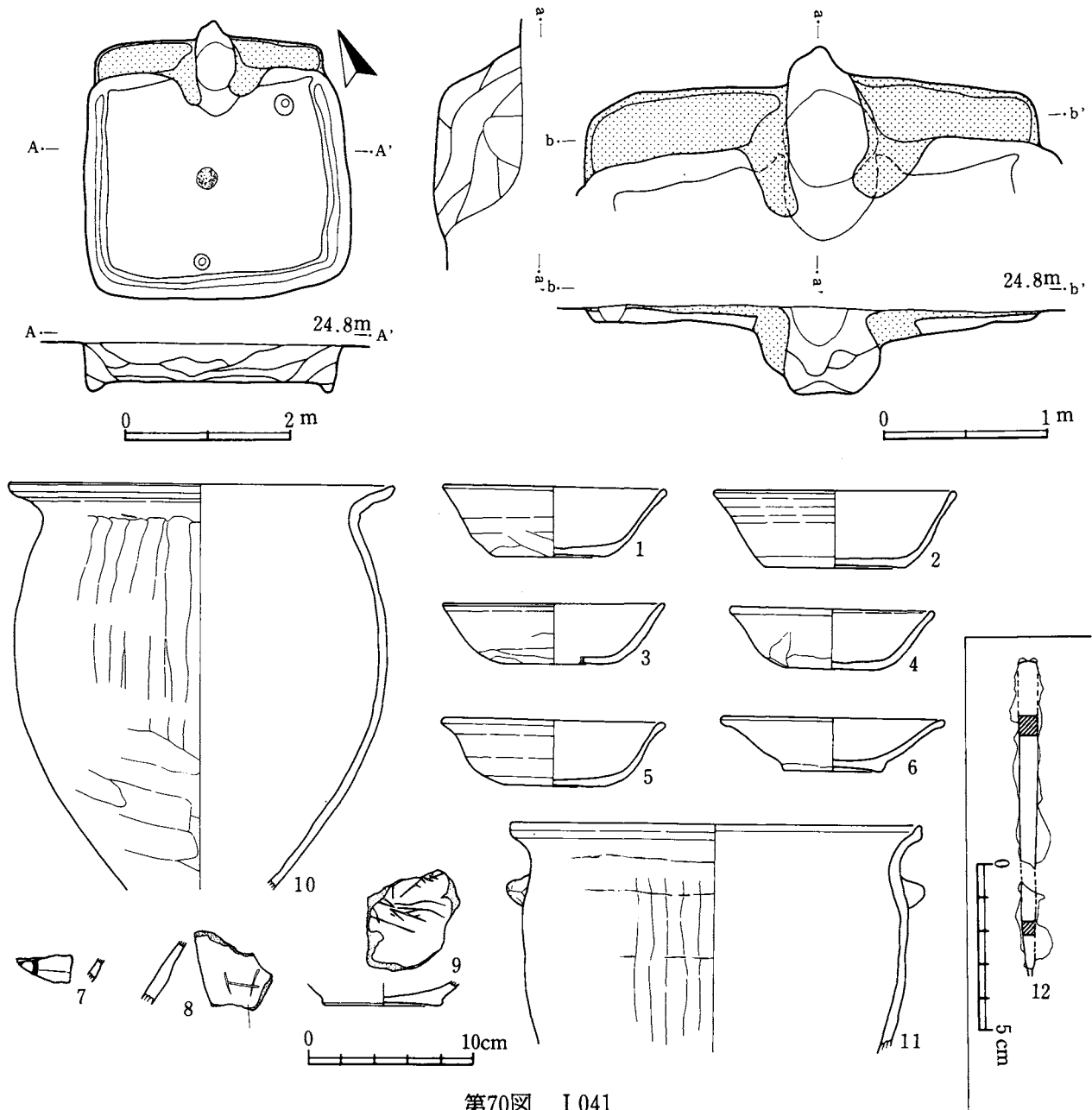
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第69図の1	須恵器 杯	(13.4)	3.8	(8.1)	砂粒・雲母含む	灰色	線刻(底外)「[大]」?	9、44
第69図の2	土師器 小型甕	-	-	6.0	砂粒含む	暗褐色		19
第69図の3	土師器 甕	(15.2)	-	-	砂粒含む	褐色~黒褐色		18
第69図の4	土師器 甕	(27.4)	-	-	長石・石英・雲母含む	暗褐色		20、21、72、73
第69図の5	土師器 甕	22.8	32.3	(9.6)	長石・石英・雲母含む	褐色		4、6、7、22、23、24、25、26、28、29、30、31、32、33、34、36、37、38、40、42、46、47、48、49、50、51、52、54、55、62、63、64、65、66、72、75
第69図の6	土師器 甕	30.3	28.3	12.1	長石・石英含む	褐色		56、57、67、69、71、74
第69図の7	砥石	314.4g	-	-	砂岩	-		60



第69图 I 040

I 041 (第70図、図版22・127・169)

I 028同様、竈の両脇がテラス状になり、竈と同じ山砂を主体とした土が充填されている。支柱穴はないが、出入口ピットを1つ検出した。床面中央が円形に被熱している。遺物は埋土中層から上層にかけて多い。線刻土器「久弥良」が埋土上層から出土した。また、釘と考えられる鉄製品が住居北コーナー埋土中から出土している。



第70図 I 041

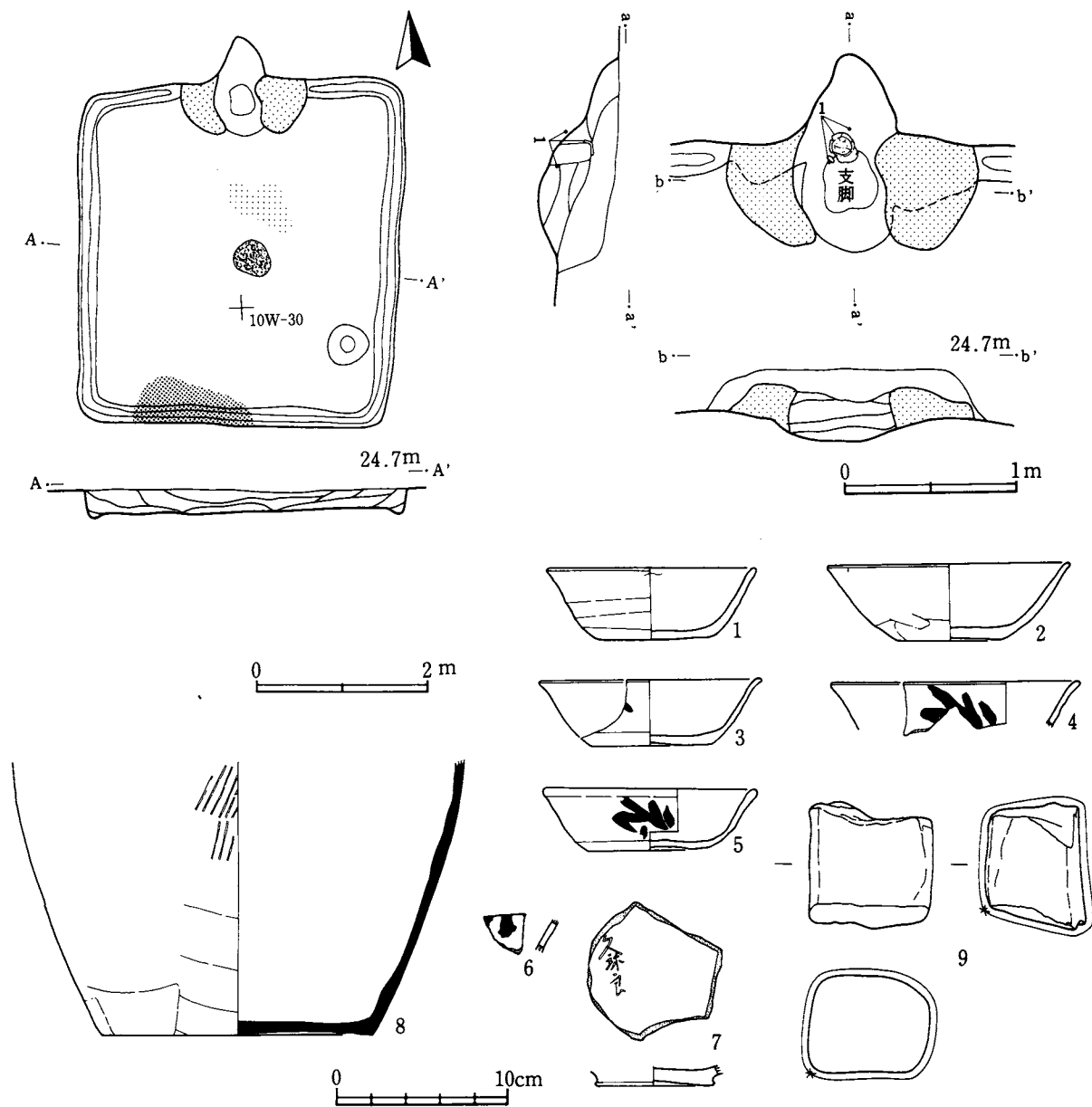
表66 I 041

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第70図の1	土師器 杯	13.5	4.3	6.6	砂粒・スコリア含む	淡褐色		203
第70図の2	土師器 杯	14.4	4.0	8.3	砂粒含む	橙褐色		110、111、206、229
第70図の3	土師器 杯	(13.4)	3.6	(6.5)	砂粒含む	橙褐色		4、22、23、97、128
第70図の4	土師器 杯	12.1~12.4	3.5	5.5~6.0	砂粒・雲母・スコリア含む	暗褐色		204
第70図の5	土師器 杯	(13.4)	4.0	(6.0)	砂粒・スコリア・雲母含む	橙褐色		114、132、236
第70図の6	土師器 皿	(13.4)	3.0	(6.0)	砂粒含む	淡褐色		98、104、229

第70図の7	土師器 杯	-	-	-	-	墨書 (体外) □	228
第70図の8	土師器 杯	-	-	-	-	線刻 (体内) 千 or 丈	3
第70図の9	土師器 皿	-	-	-	-	線刻 (底内) 久弥良	158
第70図の10	土師器 甕	(23.3)	-	-	砂粒含む	暗褐色	6、10、38、39、51、53、56、57、87、88、89、90、122、123、124、165、166、179、184、187、188、189、190、191、192、193、201、217、227、228、231
第70図の11	土師器 甕	(24.8)	-	-	砂粒含む	暗褐色	把手
第70図の12	釘	残存長 (8.8)	-	-	鉄製品	-	176

I 042 (第71図、図版22・127・171)

方形プランの住居で、支柱穴はないが、東壁近くにピットを1つ有する。床面中央が円形に被熱している。竈は北壁中央に位置し、支脚の上に甕の底部を被せている。遺物には墨書土器「依」や、線刻土器「久弥良」がある。



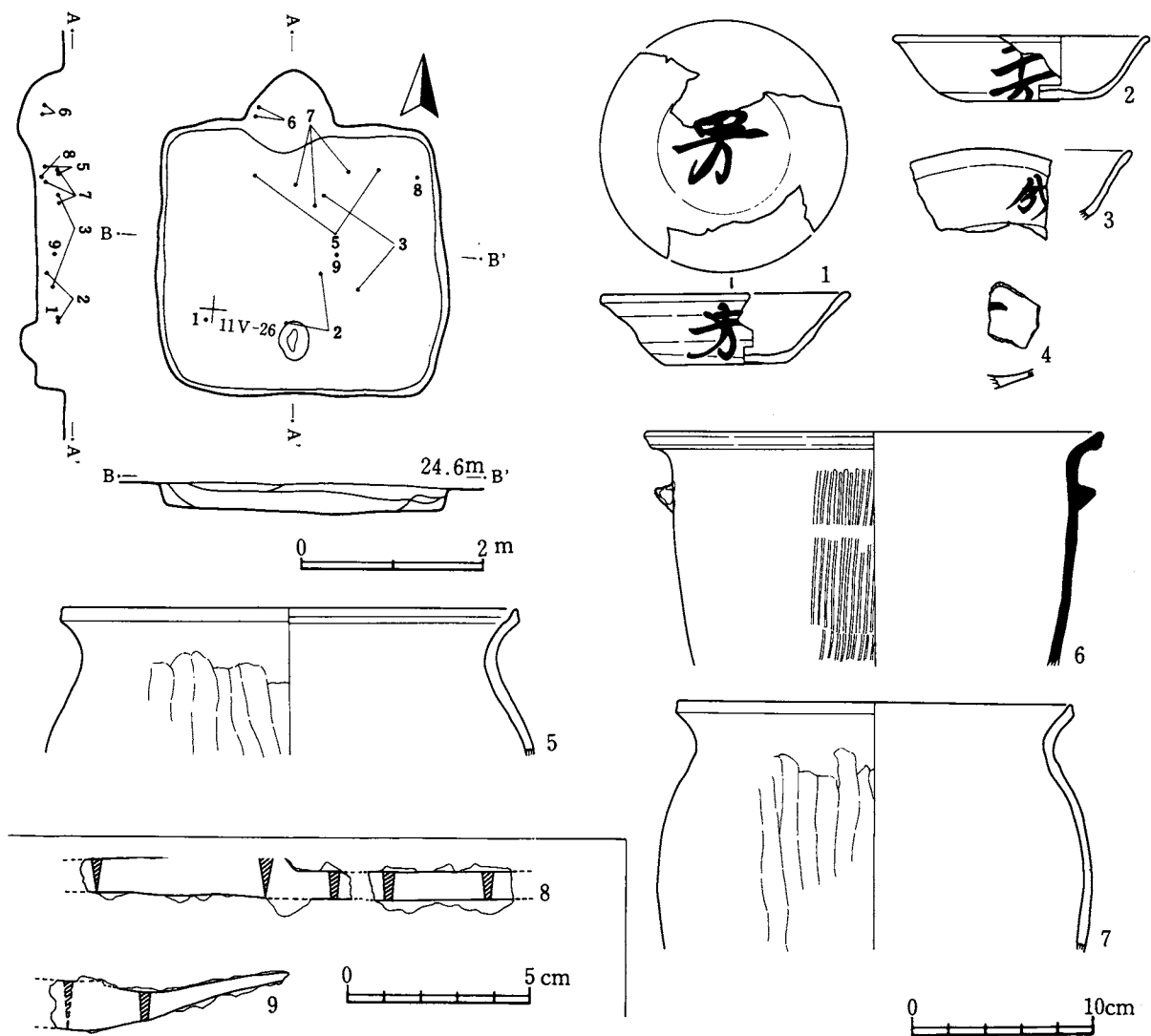
第71図 I 042

表67 I 0 4 2

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第71図の1	土師器 杯	12.1~12.7	4.2	6.4	砂粒・スコリア含む	橙褐色		79、80、84、85
第71図の2	土師器 杯	14.1	4.4	6.1	砂粒・スコリア含む	淡褐色		26
第71図の3	土師器 杯	(12.8)	3.8	7.0	砂粒・雲母・スコリア含む	淡褐色	墨書(体外) □	12、39、40
第71図の4	土師器 杯	(14.2)	-	-	-	-	墨書(体外) 「衣」	43、44、45、50
第71図の5	土師器 杯	12.4	3.7	7.0	砂粒・雲母・スコリア含む	淡褐色	墨書(体外) 「衣」	82
第71図の6	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) □	86
第71図の7	土師器 杯	-	-	7.0	砂粒・雲母含む	淡褐色	線刻(底内) 「久弥良」	77
第71図の8	須恵器 甕	-	-	(15.6)	砂粒・長石・石英・雲母含む	赤褐色		52、57、58、60、63、64、85
第71図の9	砥石	504.9g	-	-	硬砂岩	-		1

I 043 (第72図、図版22・127・168・171)

方形の小型のプランの住居である。支柱穴・壁溝はない。出入口ピットを1つ有する。竈の袖はほとんど遺存しない。また、竈床面も余り被熱していない。遺物には「中万」の合わせ字の墨書土器がある。埋土中から刀子片が2点(いずれも身部から茎部片)出土している。



第72図 I 043

表68 I 0 4 3

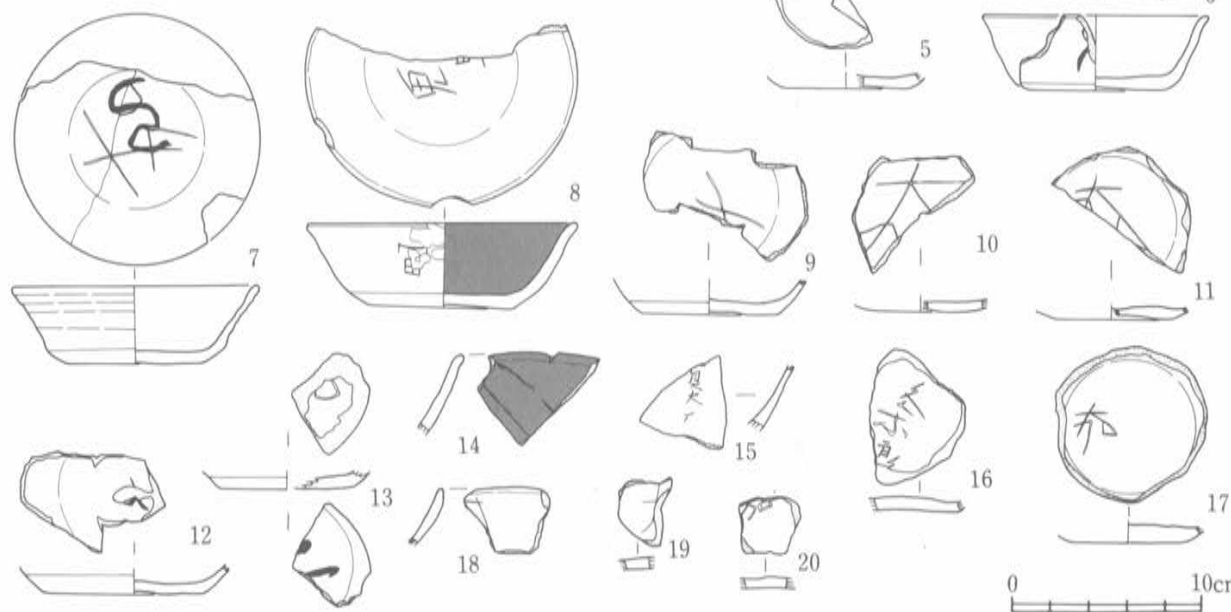
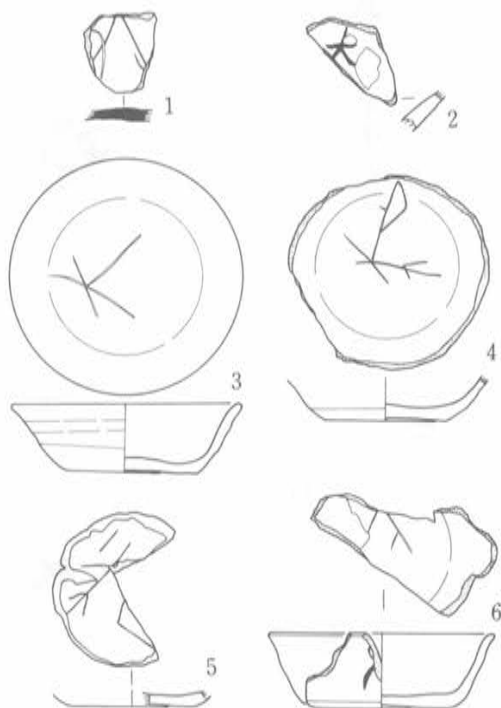
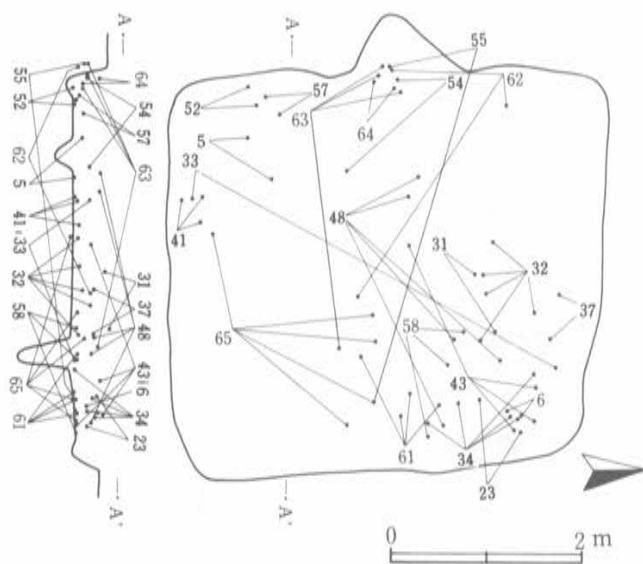
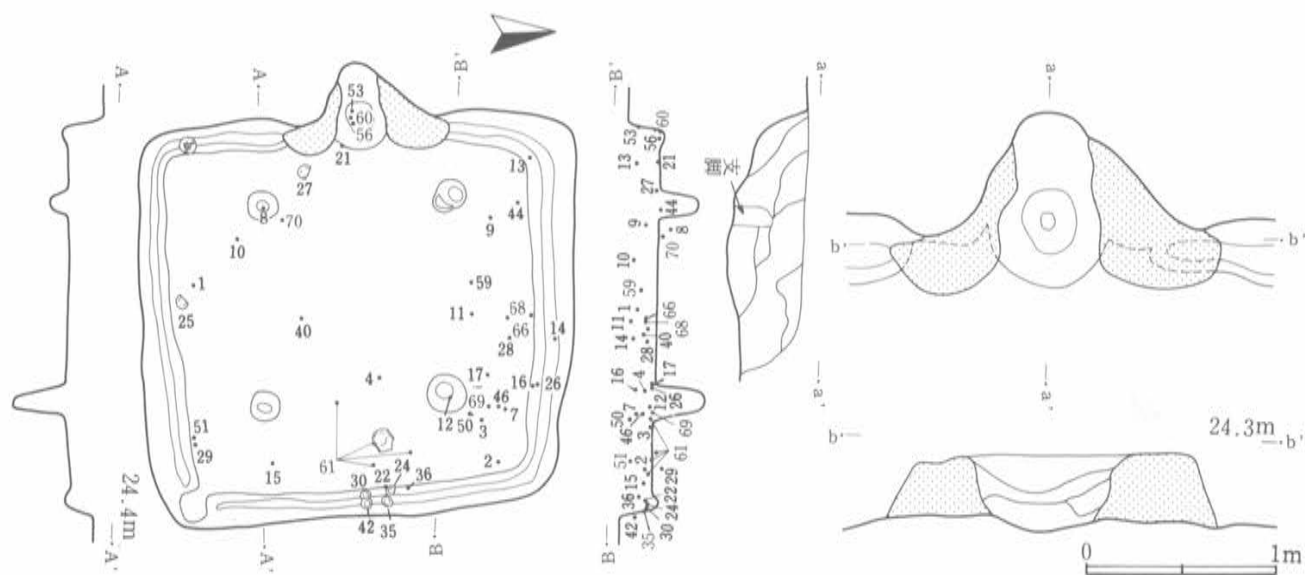
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第72図の1	土師器 杯	13.6	3.8	6.8	砂粒・雲母含む	淡褐色	墨書(体外)「中万」 墨書(底内)「中万」	2、4、20
第72図の2	土師器 杯	13.8	3.6	6.8	砂粒・スコリア・雲母含む	淡褐色	墨書(体外)「千万」	21、39
第72図の3	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「成」	12、24
第72図の4	土師器 皿	—	—	—	—	—	墨書(底内)「□」	3
第72図の5	土師器 甕 (25.0)	—	—	—	砂粒・雲母含む	暗褐色		2、7、16
第72図の6	須恵器 甕 (25.0)	—	—	—	砂粒多く含む	明褐色		50、51、55
第72図の7	土師器 甕 (21.7)	—	—	—	砂粒含む	暗褐色		1、3、9、14、44、55
第72図の8	刀子	残存長 (11.4)	—	—	鉄製品	—		5
第72図の9	刀子	残存長 6.7	—	—	鉄製品	—		22

## I 044 (第73～75図、図版22・23・127・128・168・169・171)

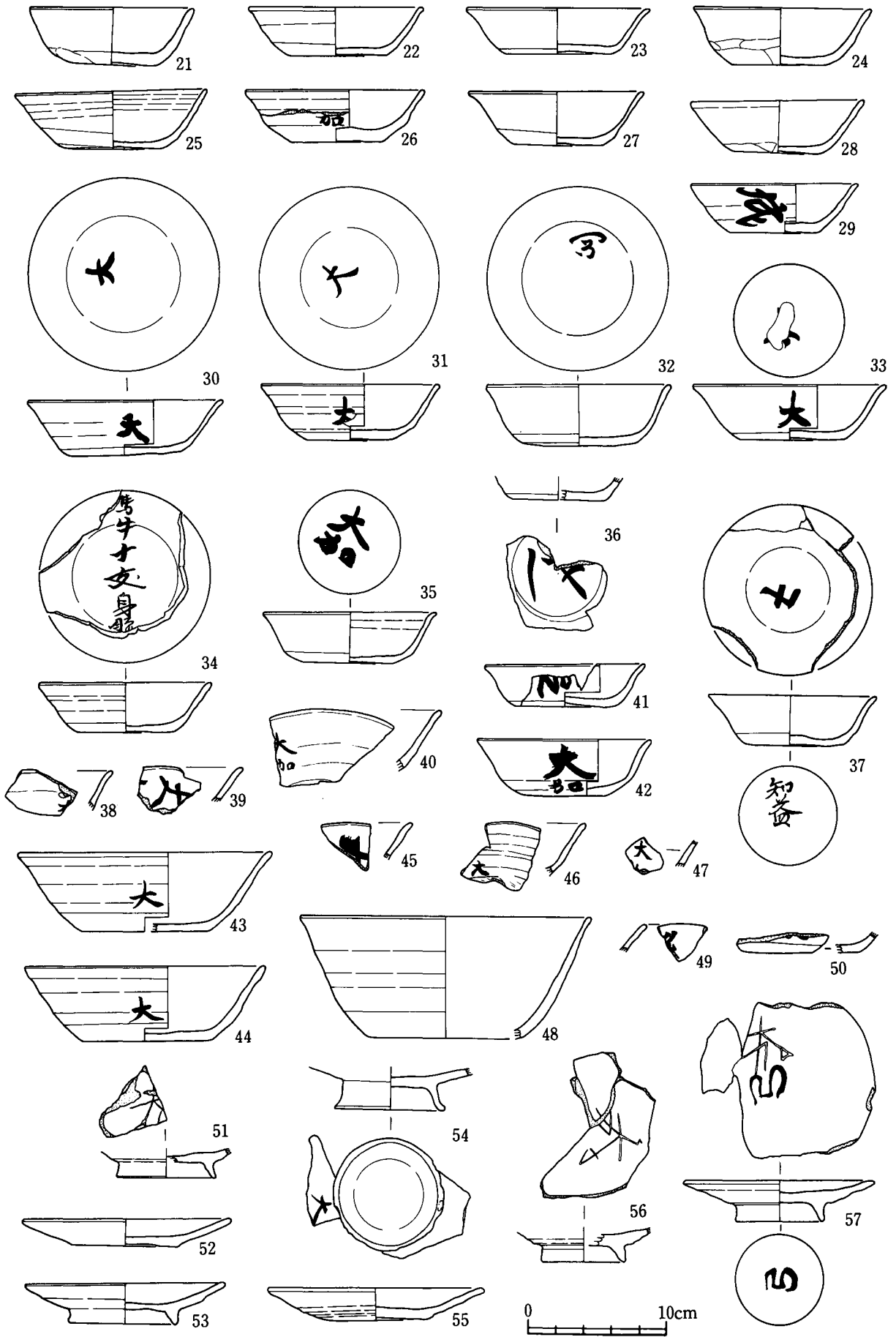
西側に竈をもち、壁溝は全周し、主体穴4本を有する住居である。竈火床部には支脚が直立し、周辺から土師器皿や須恵器甕の破片が出土している。遺物量は豊富で、その中には「馬牛子皮カ身體カ」、「富」、「大」、「知益」、「弓」の墨書土器や、「大加」の合わせ字の線刻土器が多い。土師器杯を転用した円盤が埋土中から出土している。鉄製品では3点に割れている刀子(70)が、南西側柱穴脇床面直上から出土し、鋸(68)が、住居北側埋土中から出土している。69は丸い頭部以外は断面が方形の釘形の鉄製品で、北東側柱穴脇床面直上から出土している。

表69 I 0 4 4

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第73図の1	須恵器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「大加」	35
第73図の2	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「大」	222
第73図の3	土師器 杯	12.0	3.7	7.1	砂粒・雲母・スコリア含む	淡褐色	線刻(底内)「大」	2、220
第73図の4	土師器 杯	—	—	6.4	砂粒・雲母含む	淡褐色	線刻(底内)「大加」	287
第73図の5	土師器 杯	—	—	6.5	—	—	線刻(底内)「大加」	4、201、237
第73図の6	土師器 杯	(11.6)	3.9	(7.0)	—	—	墨書(体外)「大」 線刻(底内)「大加」	192、221
第73図の7	土師器 杯	12.8	4.0	7.1	砂粒・スコリア・雲母含む	淡褐色	墨書(底内)「弓」 線刻(底内)「大加」	2、193
第73図の8	土師器 杯	12.0	4.4	7.4	砂粒・雲母含む	淡褐色	内黒線刻(体外)「富」 線刻(底内)「鬼□」	323
第73図の9	土師器 杯	—	—	(7.0)	—	—	線刻(底内)「×」	1、86
第73図の10	土師器 杯	—	—	6.0	—	—	線刻(底内)「大加」	38
第73図の11	土師器 杯	—	—	6.2	—	—	線刻(底内)「大加」	281
第73図の12	土師器 杯	—	—	(7.4)	—	—	墨書(底内)「大」?	2、177
第73図の13	土師器 杯	—	—	(7.0)	—	—	墨書(底内)「□」 線刻(底内)「大加」	116
第73図の14	土師器 杯	—	—	—	—	—	内黒	269
第73図の15	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体外)「□大□」	136
第73図の16	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「久弥良」	2、185
第73図の17	土師器 杯	—	—	6.0	—	—	線刻(底内)「大加」	219
第73図の18	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体内)「□」	365
第73図の19	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「大」	333
第73図の20	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「大加」	2
第74図の21	土師器 杯	11.7	4.2	6.5	砂粒・スコリア・雲母含む	明褐色	焼成不良	359
第74図の22	土師器 杯	12.5	3.6	7.0	砂粒・雲母含む	淡褐色		330
第74図の23	土師器 杯	(13.0)	3.3	(7.6)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色		96、223
第74図の24	土師器 杯	12.6	4.2	6.7	雲母・スコリア含む	橙褐色		331
第74図の25	土師器 杯	13.6	4.2	7.2	雲母・砂粒・スコリア含む	淡褐色		325
第74図の26	土師器 杯	(12.8)	3.8	(6.5)	砂粒・雲母・スコリア含む	淡褐色	墨書(体外)「加」	253
第74図の27	土師器 杯	12.6	3.9	6.5	雲母・スコリア含む	淡褐色		324

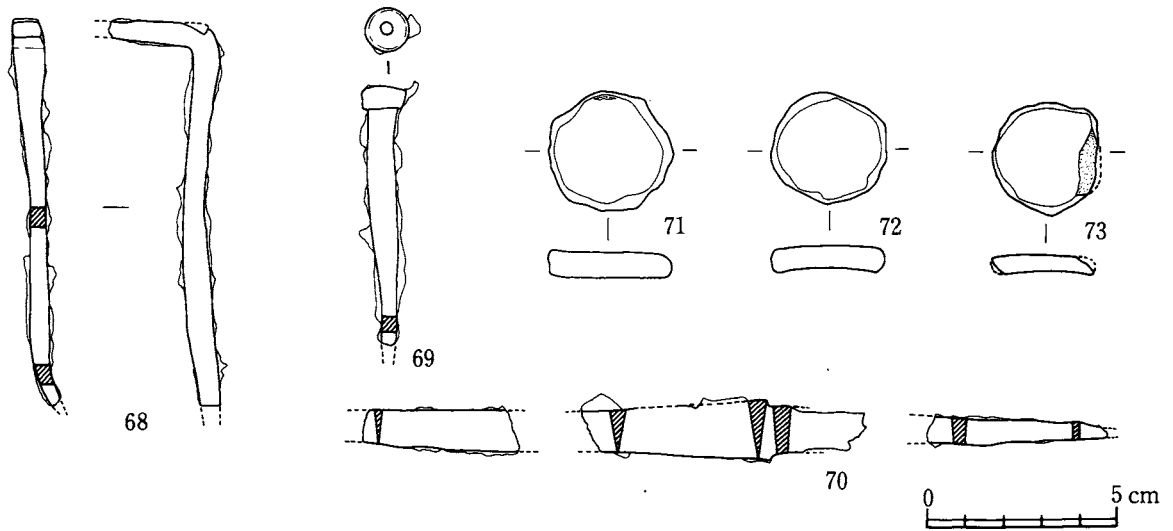
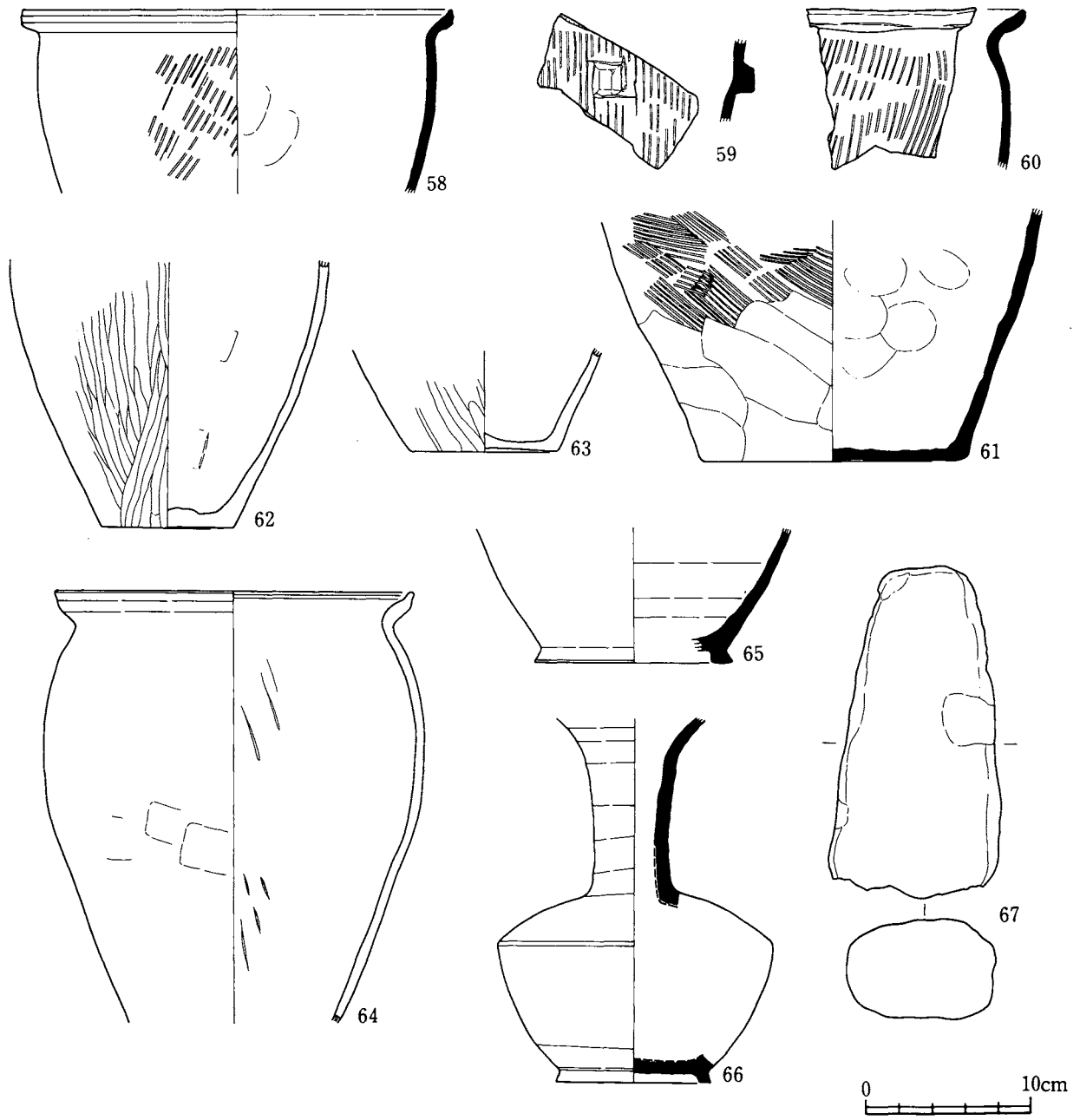


第73图 I 044(1)



第74図 I 044(2)



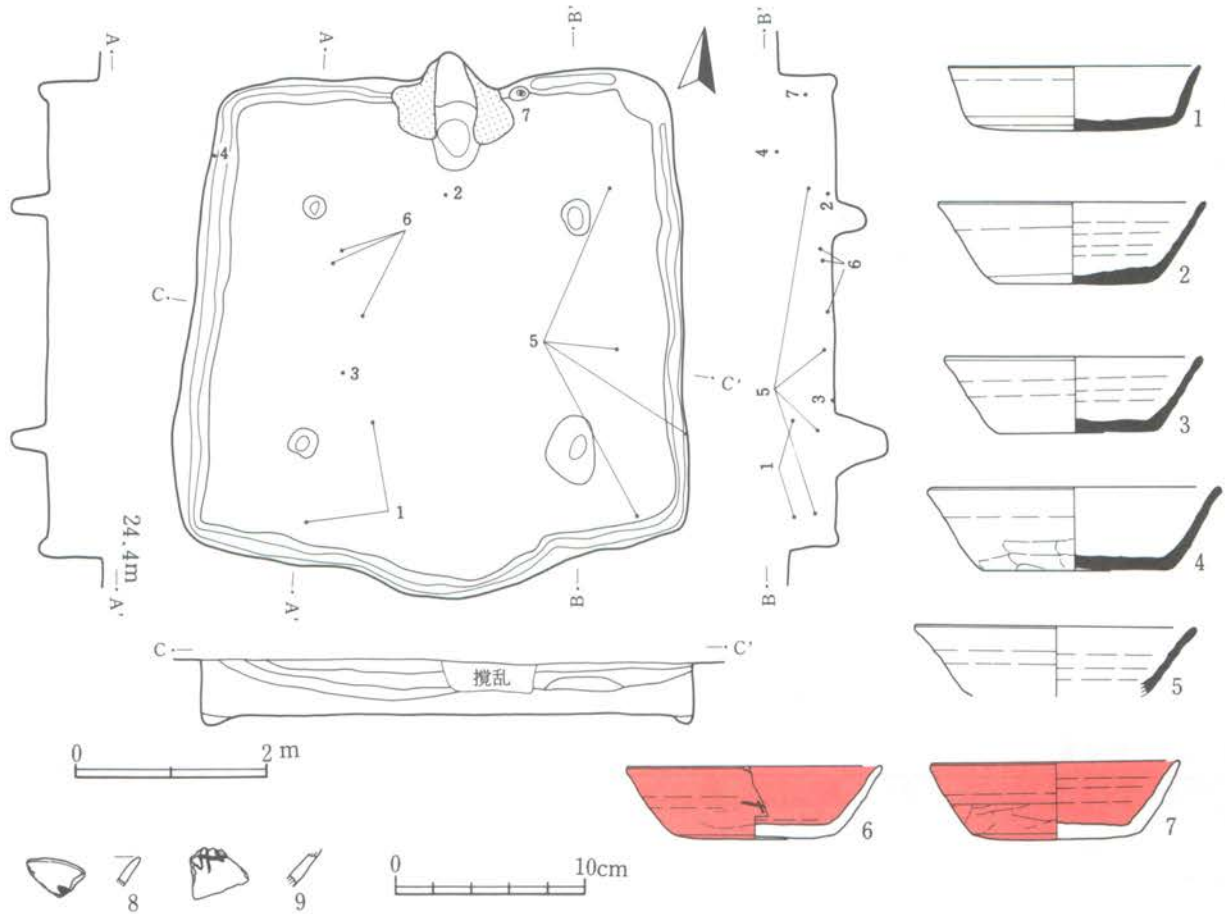


第75图 I 044(3)

第74図の28	土師器	杯	12.5	3.8	6.4	砂粒・スコリア含む	橙褐色		217
第74図の29	土師器	杯	12.0	3.6	6.4	雲母・砂粒・スコリア含む	明褐色	墨書(体外)「成」	267
第74図の30	土師器	杯	13.8	4.0	8.1	雲母・砂粒含む	淡褐色	墨書(体外)「因 or 大」 墨書(底内)「大」	328
第74図の31	土師器	杯	(12.8)	4.0	(6.2)	砂粒・雲母含む	淡褐色	墨書(体外)「大」 墨書(底内)「大」	1、2、7、283
第74図の32	土師器	杯	(13.0)	4.4	(8.2)	雲母・砂粒・スコリア含む	橙褐色	墨書(底内)「冨」	2、111、119、176、189、298
第74図の33	土師器	杯	14.0	3.9	7.6	雲母・砂粒・スコリア含む	淡褐色	墨書(体外)「大」 墨書(底内)「大」	168、252
第74図の34	土師器	杯	(12.2)	3.5	7.0	雲母・砂粒・スコリア含む	橙褐色	墨書(体内)「馬牛子皮カ身體カ」	157、160、162、191、194
第74図の35	土師器	杯	12.4	3.6	6.6	雲母・砂粒・スコリア含む	褐色	墨書(底内)「大加」	329
第74図の36	土師器	杯	—	—	(6.4)	—	—	墨書(底外)「□」	2、263
第74図の37	土師器	杯	12.0	3.7	7.2	砂粒・雲母・スコリア含む	明褐色	墨書(底外)「知益」 墨書(底内)「七」	2、121、183
第74図の38	土師器	杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「□大」	4
第74図の39	土師器	杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「大□」	2
第74図の40	土師器	杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「大加」	308
第74図の41	土師器	杯	11.4	3.0	7.2	砂粒・スコリア含む	淡褐色	墨書(体外)「□足」	3、4、172、205、245
第74図の42	土師器	杯	12.6	4.1	6.0	雲母・砂粒・スコリア含む	橙褐色	墨書(体外)「大加」	327
第74図の43	土師器	鉢	(7.8)	5.6	9.0	砂粒・雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「大」	2、4、124、156、233、295
第74図の44	土師器	鉢	17.2	5.4	9.3	砂粒・雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「大」	195
第74図の45	土師器	杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「□」	2
第74図の46	土師器	杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「大」	2、181
第74図の47	土師器	杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「大加」	3
第74図の48	土師器	鉢	(20.8)	8.7	(11.2)	雲母含む	暗褐色		79、92、151、161、296
第74図の49	土師器	杯	—	—	—	—	—	墨書(体内)「□」	2
第74図の50	土師器	杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「大」	89
第74図の51	土師器	高台付皿	—	—	—	—	—	線刻(底内)「大加」	131
第74図の52	土師器	皿	14.7	2.1	7.5	砂粒・雲母含む	褐色		4、256、270
第74図の53	土師器	高台付皿	14.1	2.9	7.5	砂粒・雲母含む	明褐色		354
第74図の54	土師器	高台付皿	—	—	8.0	砂粒・雲母含む	暗褐色	墨書(体外)「大」	44、351
第74図の55	土師器	皿	15.4	2.8	6.5	砂粒・雲母含む	暗褐色		265、353
第74図の56	土師器	高台付皿	—	—	(6.0)	—	—	線刻(底内)「大加」	357、365
第74図の57	土師器	高台付皿	(13.5)	2.9	(6.2)	雲母・砂粒含む	淡褐色	墨書(底外)「弓」、(底内)「弓」、線刻(底内)「大加」	239、272
第75図の58	須恵器	甕	(26.2)	—	—	砂礫・雲母含む	灰褐色	常陸産	2、174、178、227
第75図の59	須恵器	甕	—	—	—	—	—		57
第75図の60	須恵器	甕	—	—	—	砂粒・雲母含む	灰褐色	常陸産	1、356
第75図の61	須恵器	甕	—	—	16.0	砂粒・雲母・長石・石英含む	灰色		2、108、224、291、326
第75図の62	土師器	甕	—	—	(8.0)	砂礫・長石・雲母・スコリア含む	暗褐色	常陸型	16、234、358
第75図の63	土師器	甕	—	—	9.0	砂礫・長石・雲母含む	暗褐色	常陸型	19、334、340、342
第75図の64	土師器	甕	(21.4)	—	—	砂粒・礫・雲母含む	褐色		350、361
第75図の65	須恵器	長頸瓶	—	—	高台径12.0	—	灰色	猿投窯産	17、18、163、206、265
第75図の66	須恵器	長頸瓶	—	16.7	9.4	—	灰色	湖西窯産、8c前半頃	275
第75図の67	支脚	全長20.0	—	—	—	土製品	—		362
第75図の68	鏡?	残存長9.8	—	—	—	鉄製品	—	断面方形	278
第75図の69	不明鉄製品	残存長6.7	—	—	—	—	—		254
第75図の70	刀子	残存長16.4	—	—	—	鉄製品	—		320
第75図の71	土製円盤	長径3.3 短径3.1 高さ1.75	—	—	—	—	—	土師器杯転用	2
第75図の72	土製円盤	長径3.0 短径2.9 高さ0.7	—	—	—	—	—	土師器杯転用	2
第75図の73	土製円盤	長径3.0 短径2.75 高さ0.5	—	—	—	—	—	土師器杯転用	2

I 045 (第76図、図版23・168)

南側壁が大きく外側に湾曲する大型の住居である。支柱穴を4本有し、壁溝は全周する。覆土は自然堆積である。赤色塗彩の土師器杯(6・7)が出土している。



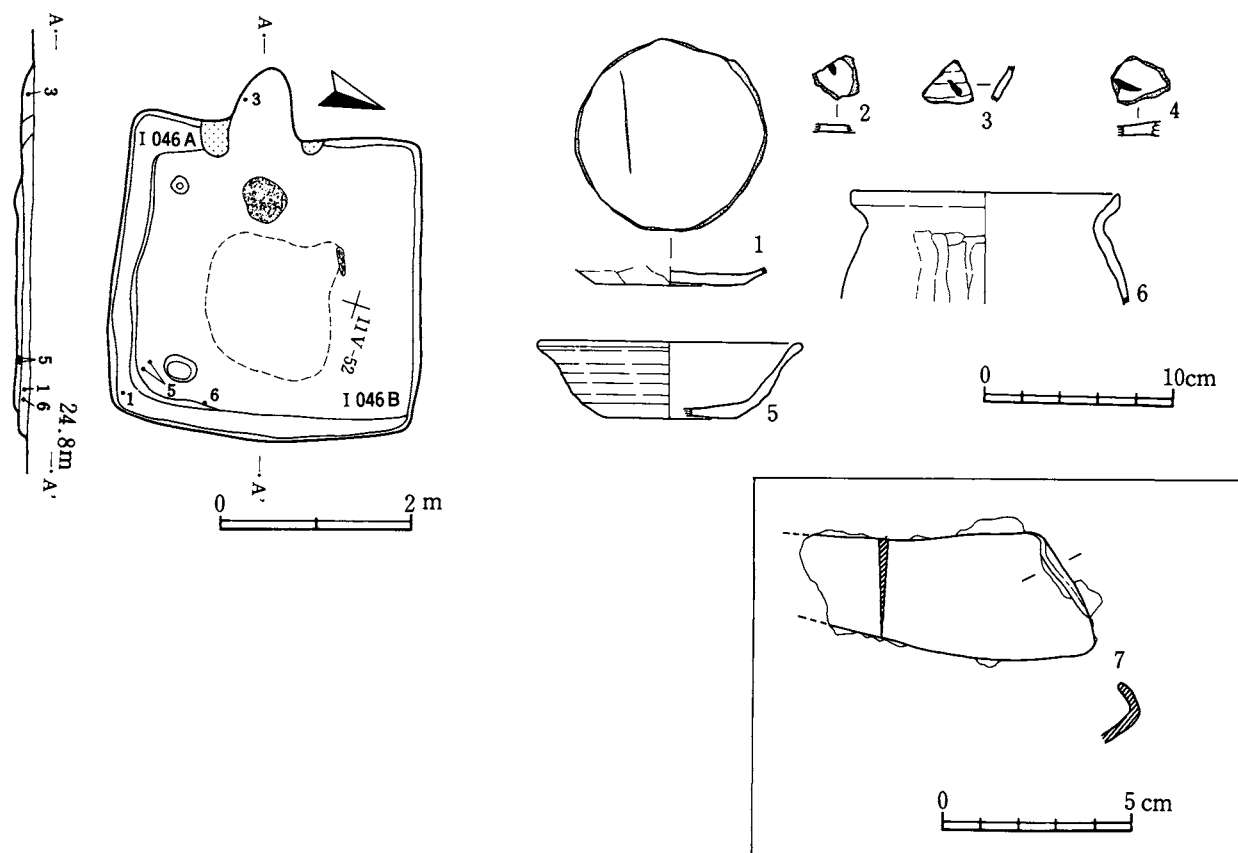
第76図 I 045

表70 I 045

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第76図の1	須恵器 杯	(13.2)	3.1	(10.6)	—	灰白色	内面転用硯?	61、68
第76図の2	須恵器 杯	14.0	4.2	8.1	雲母含む	灰白色		158
第76図の3	須恵器 杯	13.3	4.0	8.1	雲母含む	灰白色		142
第76図の4	須恵器 杯	(15.0)	4.3	(10.8)	雲母含む	灰白色		4、111
第76図の5	須恵器 杯	(14.6)	(3.7)	—	雲母含む	灰白色		2、15、96、122、132
第76図の6	土師器 杯	(13.4)	3.7	(8.8)	雲母含む	褐色	赤彩、墨書(体外) □□	4、41、52、144
第76図の7	土師器 杯	(13.0)	4.0	(8.8)	スコリア含む	橙褐色	赤彩	159
第76図の8	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) □□	4
第76図の9	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) □□	4

I 046A・046B (第77図、図版23・169)

北側壁と西側壁の一部を共有する規模の異なる住居で、内側をA、外側をBとする。掘込みは非常に浅い。竈の火床部が壁の位置に比べ、かなり床面中央に寄っている。遺物量は少ないが、鉄製の鎌が破片で出土している。



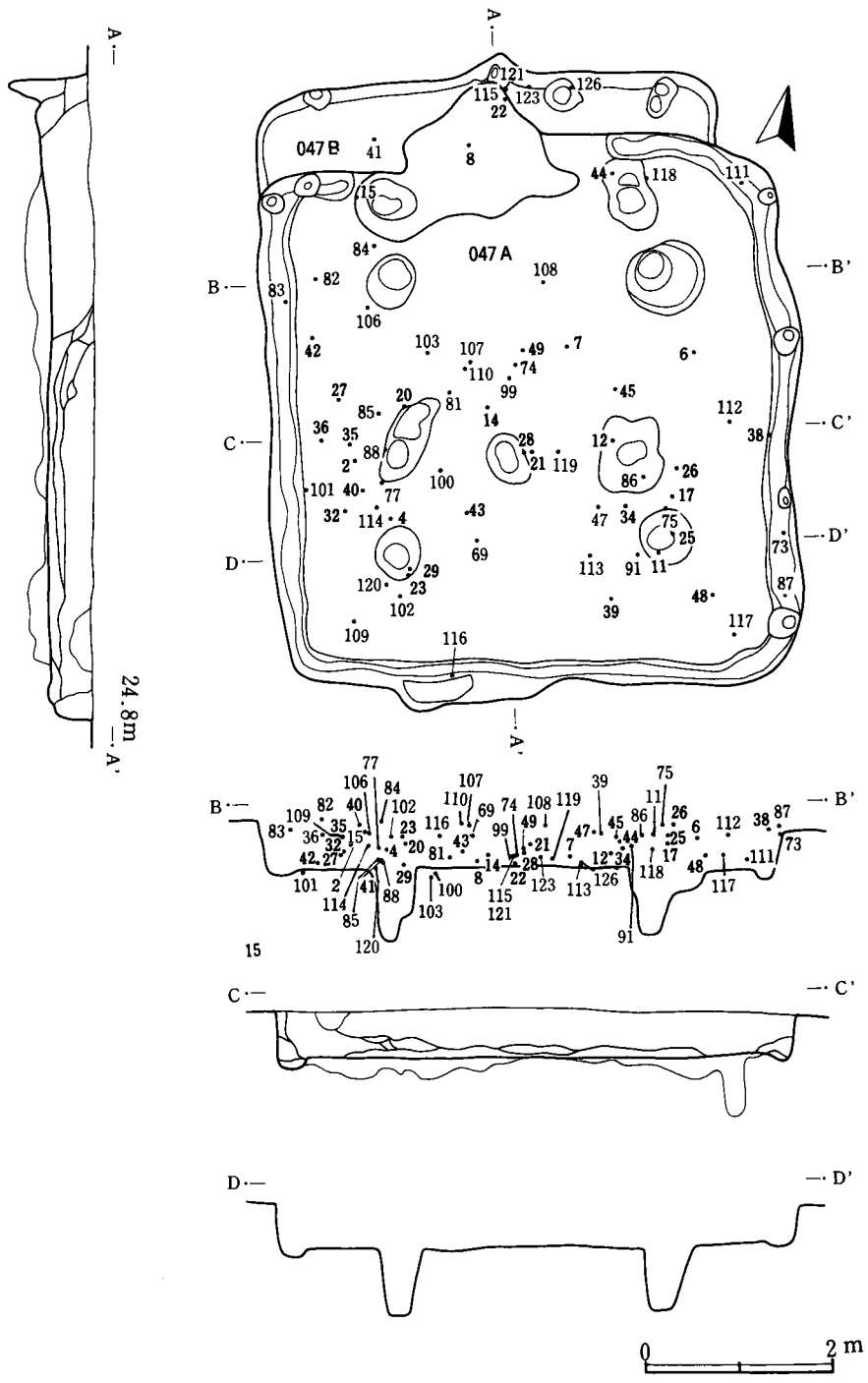
第77図 I 046A・046B

表71 I 0 4 6

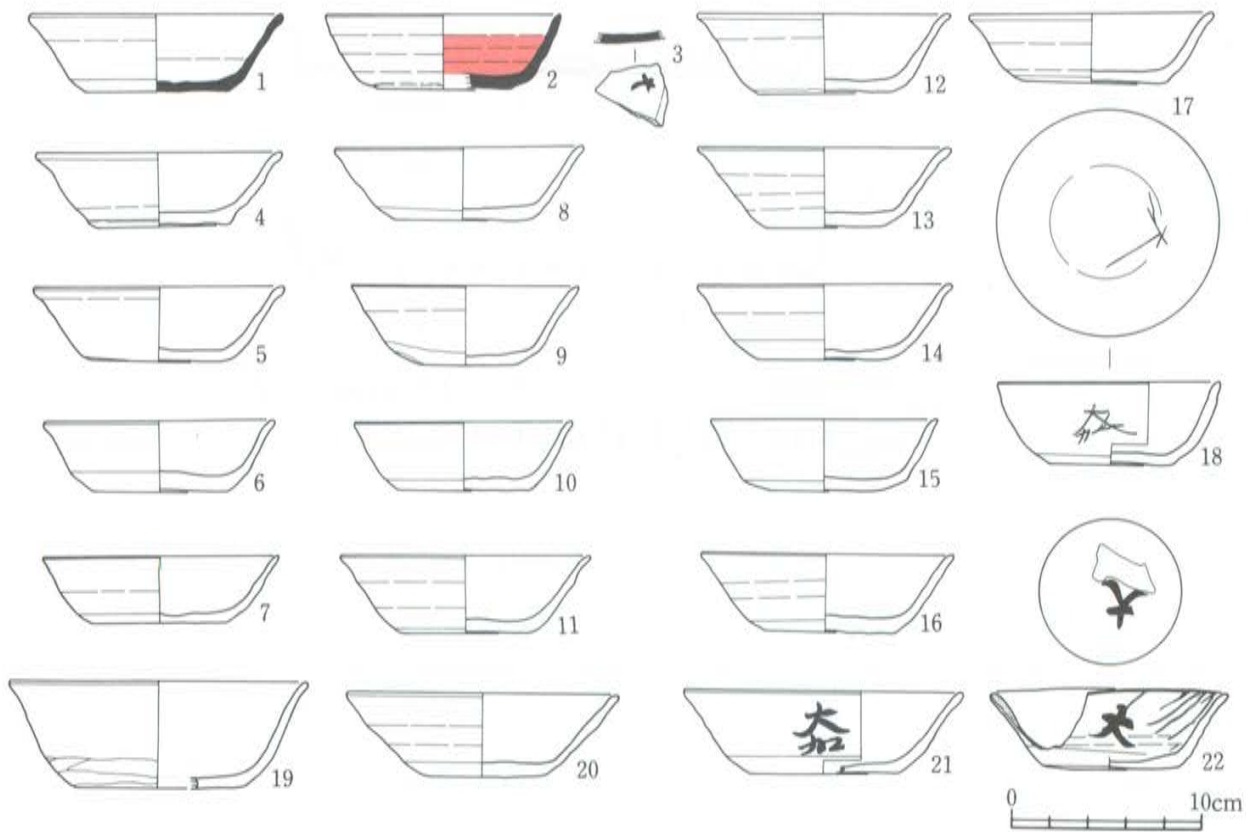
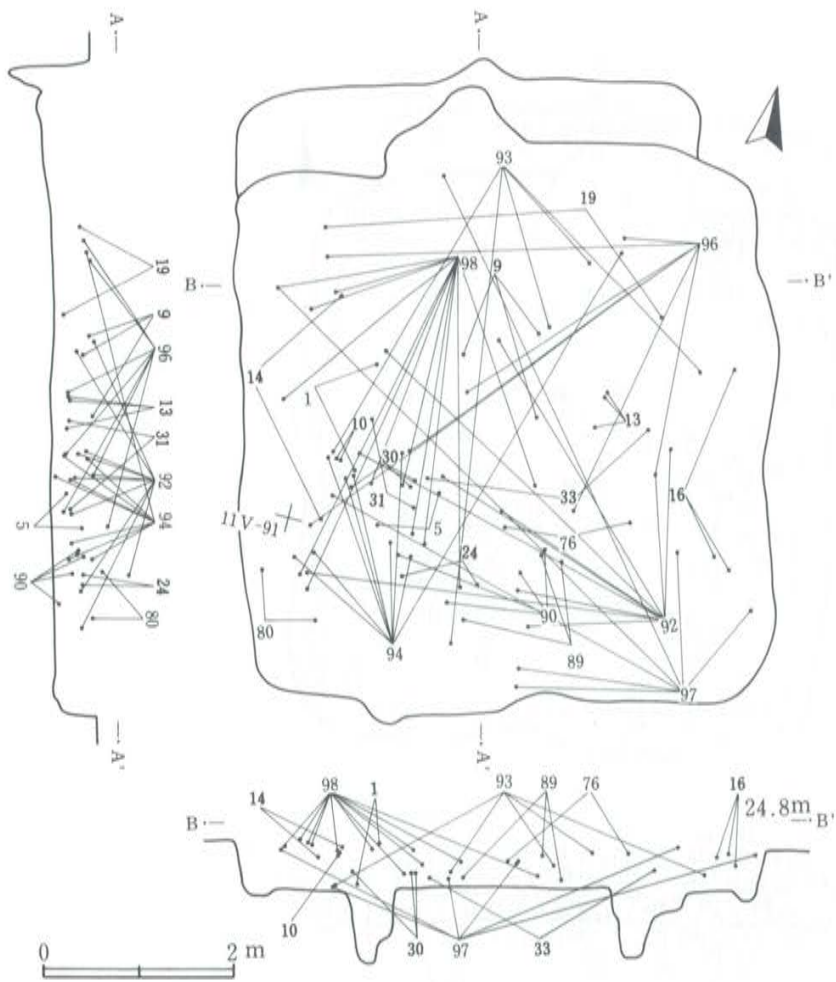
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第77図の1	土師器 杯	-	-	7.8	-	-	へら書き(底内)「一」	49
第77図の2	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) □	66
第77図の3	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) □	65
第77図の4	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) □	66
第77図の5	土師器 杯	(13.6)	4.0	(6.8)	砂粒含む	明褐色		40、41、67
第77図の6	土師器 甕	(14.0)	-	-	砂粒含む	暗褐色		50、67
第77図の7	鎌	残存長 7.8	-	-	鉄製品	-		不明

I 047 A・047 B (第78~83図、図版24・128・129・166~169)

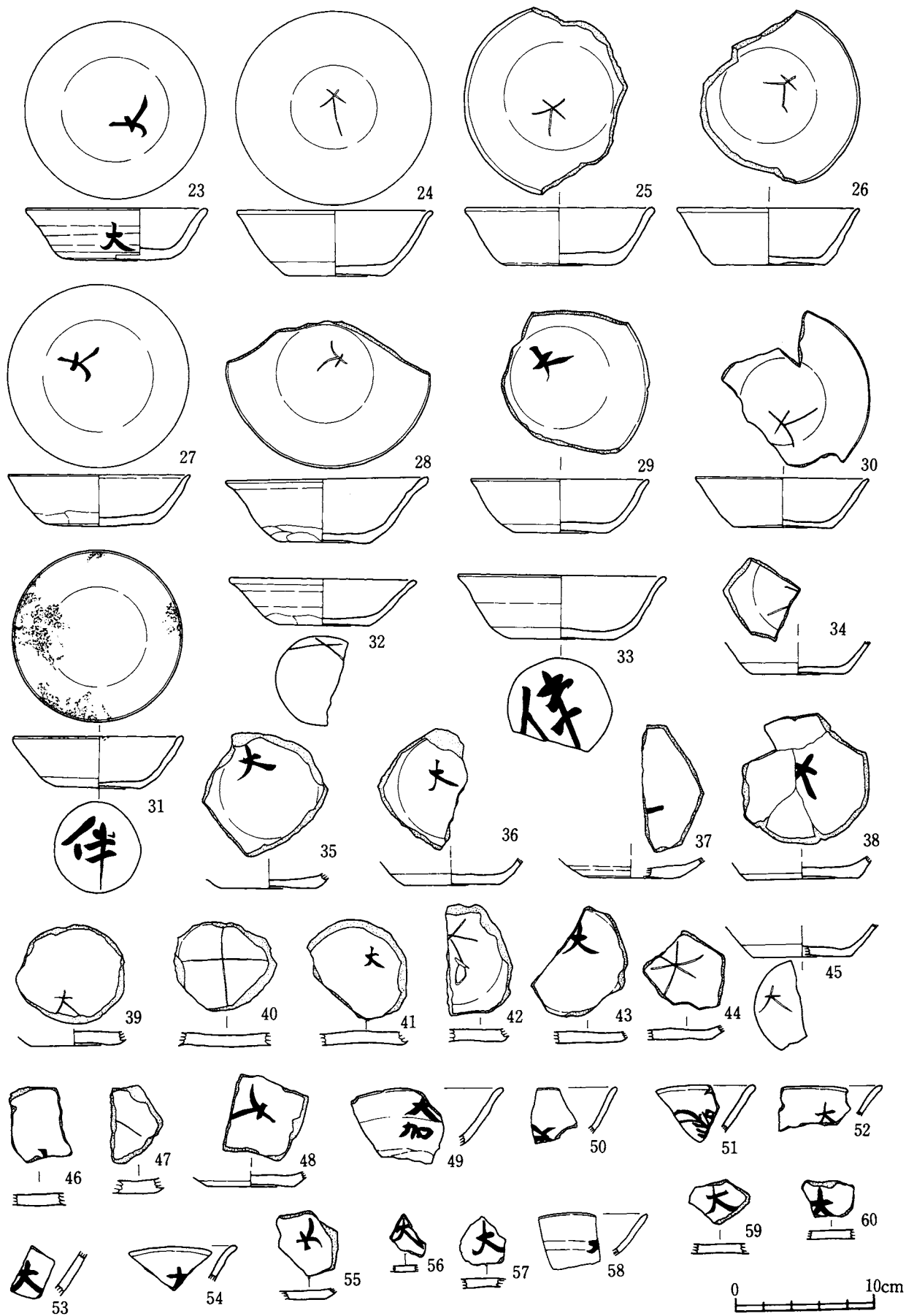
047 Bは047 Aによって、大半を削平され、北側の一部を残すのみである。Aの竈は袖や天井の区別ができないほど壊されている。Aは壁溝が全周するが、Bには認められない。支柱穴はA、B各々4本ずつ確認でき、Bでは北壁際、Aでは東壁際に壁柱穴が確認できる。また、Bには建て替えの痕跡が見られる。遺物量は非常に豊富で、埋土中のどのレベルからも均一に出土している。特に、「大」、「大加」の墨書土器・線刻土器、土師器の円面硯や、多量の鉄製品が見られる。106・107は逆刺部のほとんどない、鎌身断片が「かまぼこ」型の鉄鎌で、埋土最上層から出土している。109は途中にねじれを入れた、両端が鋭利な鉄製品で、埋土上層から出土している。112はS字状に折り曲げられた鉄製品で、埋土下層から出土している。113から118は刀子で、113を除いて埋土上層から中層にかけて出土している。119から121は鉄鎌で、119は刀と逆の方向に反っている。2点はほぼ完形で、埋土下層から出土している。鉄製品は、全体的に分散して出土している。



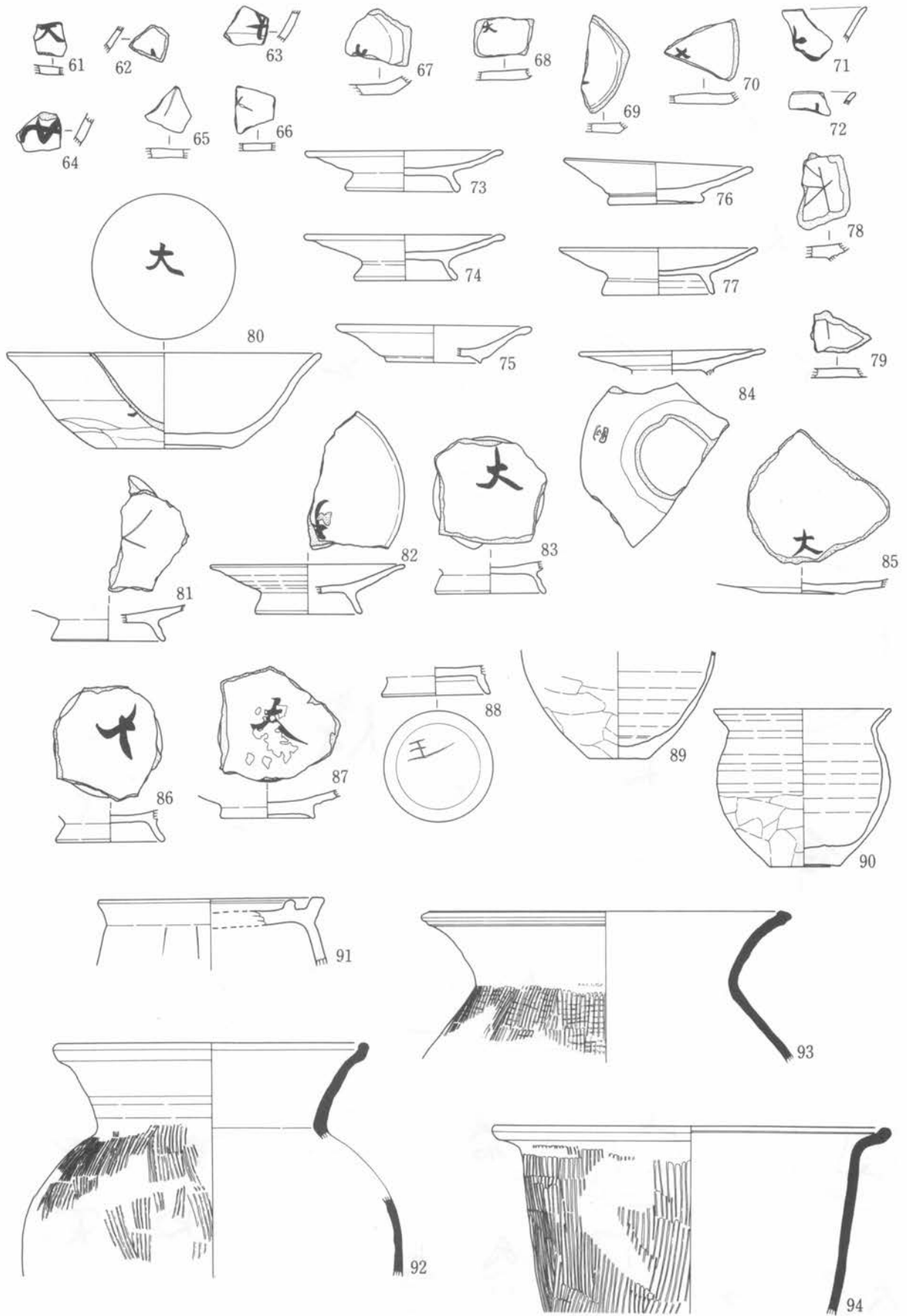
第78図 I 047A(1)・047B(1)



第79图 I 047A(2)

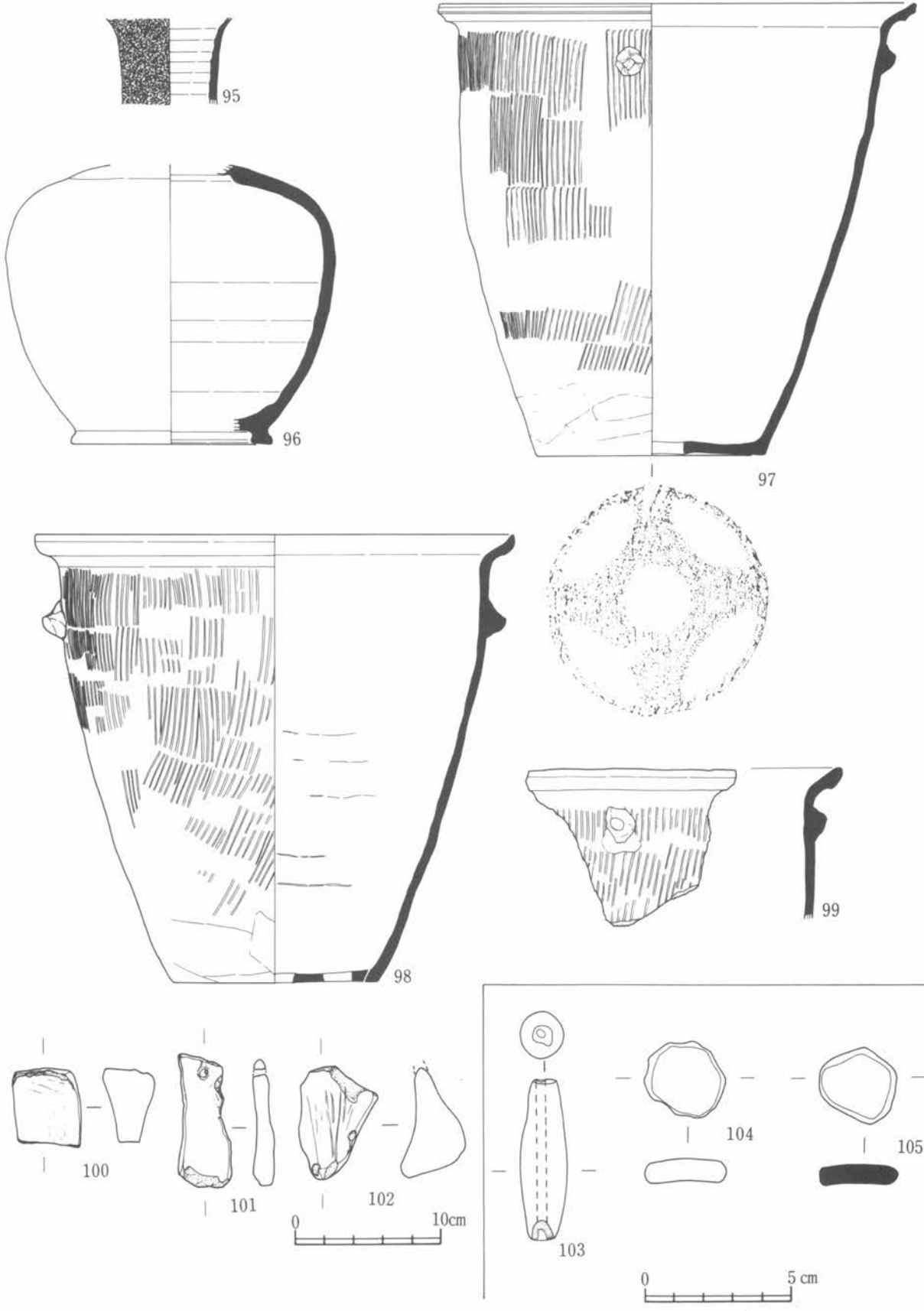


第80图 I 047A(3)

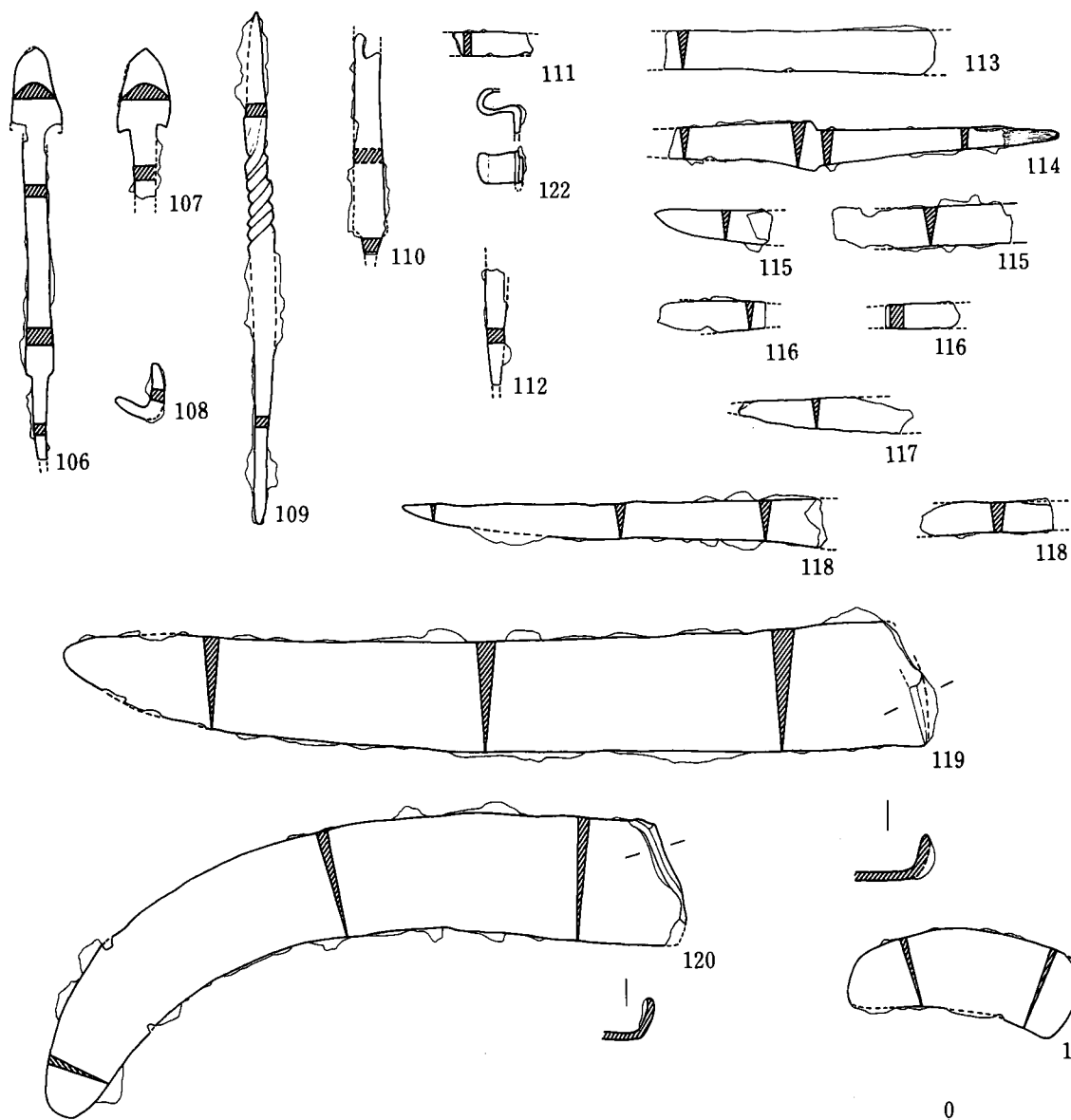


第81图 I 047A(4)





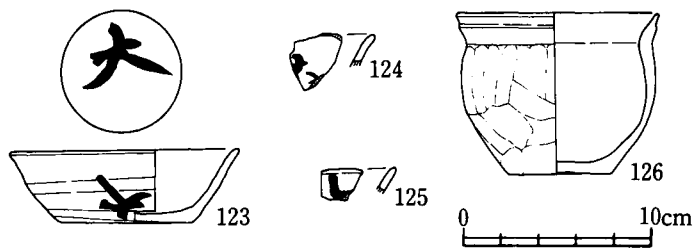
第82図 I 047A(5)



0 5 cm

I 047 A

I 047 B



0 10cm

第83图 I 047A(6) · 047B(2)

表72 I 0 4 7

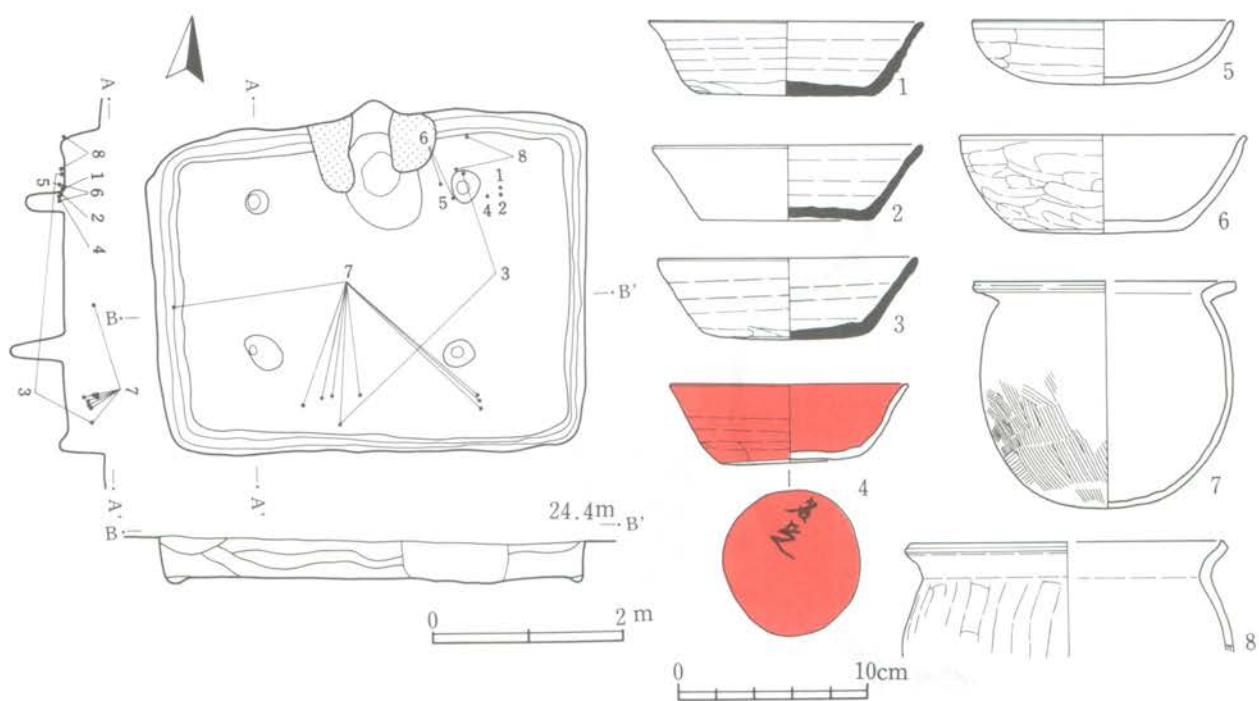
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第79図の1	須恵器 杯	(13.0)	4.0	(7.4)	砂粒・スコリア含む	灰褐色	中原窯産?	33、682、957
第79図の2	須恵器 杯	(12.3)	3.9	(7.0)	-	灰色	内面に朱の痕跡	496
第79図の3	須恵器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外)「大」	956
第79図の4	土師器 杯	12.8	3.9	7.0	砂粒・雲母含む	明褐色		607
第79図の5	土師器 杯	13.0	3.9	6.8	砂粒・スコリア含む	橙褐色		213、596、956、957、958
第79図の6	土師器 杯	(12.0)	3.7	(7.1)	雲母・スコリア含む	明褐色		235
第79図の7	土師器 杯	(12.3)	3.5	(6.8)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	焼成不良	567
第79図の8	土師器 杯	13.0	3.8	7.0	砂粒・雲母・スコリア含む	褐色	焼成不良	850
第79図の9	土師器 杯	11.8~12.8	4.2	5.0~5.4	砂粒・スコリア含む	淡明褐色		123、141、807、955
第79図の10	土師器 杯	(11.4)	3.6	(6.9)	砂粒・雲母含む	黒褐色		215、244、957
第79図の11	土師器 杯	(13.2)	4.1	(6.6)	砂粒・雲母含む	橙褐色		312、956
第79図の12	土師器 杯	13.4	4.2	7.0	砂粒・スコリア含む	明褐色		654、955、956
第79図の13	土師器 杯	13.3	4.2	6.0	砂粒・雲母含む	橙褐色		394、533、794
第79図の14	土師器 杯	(13.0)	3.9	(7.0)	雲母・スコリア含む	橙褐色		205、246、957
第79図の15	土師器 杯	(11.9)	3.8	(6.8)	砂粒・雲母含む	橙褐色	灯明皿	201、958
第79図の16	土師器 杯	13.2	4.1	6.8	雲母・スコリア含む	明褐色		390、416、417
第79図の17	土師器 杯	12.8	3.7	7.3	砂粒・雲母・スコリア含む	明褐色		401
第79図の18	土師器 杯	11.6	4.3	6.4	砂粒・スコリア含む	明褐色	線刻(体外)「大加」 線刻(底内)「大」	812
第79図の19	土師器 杯	(15.4)	5.5	(8.0)	砂粒・雲母・スコリア含む	明褐色		338、556
第79図の20	土師器 杯	(14.2)	4.3	(6.2)	砂粒・雲母含む	黒褐色		783、958
第79図の21	土師器 杯	14.7	4.3	7.6	雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書(体外)「大加」	524
第79図の22	土師器 杯	12.5	4.2	7.0	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書(体外)「大」 墨書(底内)「大」	845
第80図の23	土師器 杯	12.8	3.7	7.8	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書(体外)「大」 墨書(底内)「大」	282
第80図の24	土師器 杯	(14.0)	4.6	(6.6)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	線刻(底内)「大」	280、748
第80図の25	土師器 杯	(13.4)	4.05	(7.7)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	線刻(底内)「大」	324
第80図の26	土師器 杯	(13.0)	4.0	(8.0)	砂粒・スコリア含む	明褐色	線刻(底内)「大」	174
第80図の27	土師器 杯	(13.0)	3.7	(7.3)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書(底内)「大」	739
第80図の28	土師器 杯	14.5	4.8	6.4	砂粒・雲母含む	橙褐色	線刻(底内)「大」	552、957
第80図の29	土師器 杯	(12.7)	3.8	(6.6)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書(底内)「大」	619
第80図の30	土師器 杯	(12.3)	3.6	(7.0)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	線刻(底内)「大」	597、608、684
第80図の31	土師器 杯	12.0	3.8	6.3	砂粒・雲母・スコリア含む	褐色	灯明皿 墨書(底外)「伴」	602、784
第80図の32	土師器 杯	(13.2)	3.3	(6.5)	砂粒・雲母含む	暗褐色	へら書き(底外)「×」	612
第80図の33	土師器 杯	(14.8)	4.5	(7.4)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書(底外)「伴」	685、777
第80図の34	土師器 杯	-	-	(6.6)	-	-	線刻(底内)「大」	651
第80図の35	土師器 杯	-	-	6.8	-	-	墨書(底内)「大」	497
第80図の36	土師器 杯	-	-	(6.8)	-	-	墨書(底内)「大」	221
第80図の37	土師器 杯	-	-	(6.0)	-	-	墨書(底内)「大」	328
第80図の38	土師器 杯	-	-	(8.0)	-	-	墨書(底内)「大」	396、853、956
第80図の39	土師器 杯	-	-	6.4	-	-	線刻(底内)「大」	307
第80図の40	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底外)「十」	83
第80図の41	土師器 杯	-	-	(6.8)	-	-	墨書(底内)「大」	852
第80図の42	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「大加」	585
第80図の43	土師器 杯	-	-	(6.4)	-	-	墨書(底内)「大」	603
第80図の44	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「×」	716
第80図の45	土師器 杯	-	-	(7.0)	-	-	線刻(底外)「大」	234
第80図の46	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「口」	957
第80図の47	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底外)「口」	270
第80図の48	土師器 杯	-	-	(6.2)	-	-	墨書(底内)「大」	698
第80図の49	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「大加」	569
第80図の50	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「大」	954
第80図の51	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「口」	957
第80図の52	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「大」	853
第80図の53	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「大」	957
第80図の54	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「大」	956
第80図の55	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「大」	956
第80図の56	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「大」	957
第80図の57	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「大」	957

第80図の58	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「大」	955
第80図の59	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「大」	956
第80図の60	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「大」	956
第81図の61	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「大」	853
第81図の62	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体内) 「大」	958
第81図の63	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「大」	956
第81図の64	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) □	955
第81図の65	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻 (底内) □	955
第81図の66	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻 (底内) □	957
第81図の67	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「大」	955
第81図の68	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「大」	956
第81図の69	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) □	274
第81図の70	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) □	955
第81図の71	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「大」	958
第81図の72	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「大」	956
第81図の73	土師器 高台付皿	14.0	3.1	7.9	砂粒・雲母・スコリア含む	明褐色		419、955
第81図の74	土師器 高台付皿	(14.0)	3.2	(7.0)	砂粒・雲母含む	明褐色		572
第81図の75	土師器 高台付皿	(13.7)	2.6	(6.8)	砂粒・雲母含む	暗褐色		260
第81図の76	土師器 皿	13.3	2.8~3.3	6.6	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色		317、471
第81図の77	土師器 高台付皿	13.8	3.3	7.6	砂粒・雲母含む	橙褐色		491、957
第81図の78	土師器 高台付皿	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「大加」	957
第81図の79	土師器 皿	-	-	-	-	-	線刻 (底内) □	957
第81図の80	土師器 鉢	(22.0)	6.7	(9.8)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書 (体外) 「大」 墨書 (底内) 「大」	101、106
第81図の81	土師器 高台付皿	-	-	(8.0)	-	-	線刻 (底内) □	678
第81図の82	土師器 皿	13.6	3.5	(7.4)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書 (底内) 「大」	66
第81図の83	土師器 高台付皿	-	-	7.8	-	-	墨書 (底内) 「大」	59
第81図の84	土師器 皿	(13.0)	1.8	-	砂粒・雲母含む	橙褐色	線刻 (体外) 「富」	18
第81図の85	土師器 皿	-	-	(5.8)	-	-	墨書 (底内) 「大」	798
第81図の86	土師器 高台付皿	-	-	7.7	-	-	墨書 (底内) 「大」	330
第81図の87	土師器 高台付皿	-	-	6.6	-	-	墨書 (底内) 「大」	426
第81図の88	土師器 高台付皿	-	-	7.8	-	-	内黒 線刻 (底外) □	610
第81図の89	土師器小型甕	-	-	(4.0)	砂粒・雲母含む	黒褐色		632、643、767、957
第81図の90	土師器小型甕	(12.5)	11.1	(5.0)	砂粒・雲母含む	明褐色		278、458、461、627、956
第81図の91	土師器円面硯	外径 (16.0)	内径 (11.8)	-	砂粒・雲母含む	明褐色		526
第81図の92	須恵器 甕	(21.8)	-	-	長石・石英・雲母含む	黒褐色		87、134、173、299、334、 464、513、518、593、595、 955、957
第81図の93	須恵器 甕	(2.5)	-	-	長石・石英・雲母含む	灰色		240、540、557、626、628、 853、955
第81図の94	須恵器 甕	(28.0)	-	-	長石・石英・雲母含む	灰白色		79、216、384、492、495、 500、605、609、683、954、 955、957
第82図の95	灰釉陶器 長頸瓶	-	-	-	鉄分の吹き出し	灰白色	猿投窯産	955
第82図の96	須恵器長頸壺	-	-	高台径 (13.8)	砂粒多い	灰色	産地不明	173、200、247、385、601、 646、805、955
第82図の97	須恵器 甕	32.6	31.0	15.6	-	褐色	千葉市域産	193、320、425、467、468、 596?、611、848、855、955、 956、957、958
第82図の98	須恵器 甕	(32.8)	30.6	(14.0)	スコリア含む	褐色~黒褐色	千葉市域産	102、177、191、192、193、 204、210、212、483、594、 599、764、957
第82図の99	須恵器 甕	(30.4)	-	-	砂粒・雲母含む	灰色		571
第82図の100	砥石	106.1g	-	-	凝灰岩	-		598
第82図の101	砥石	64.4g	-	-	凝灰岩	-	1孔	930
第82図の102	砥石	139.4g	-	-	砂岩	-		294
第82図の103	土鏝	長さ5.3	幅 1.6	重さ 12.4g	-	黒褐色		876
第82図の104	土製円盤	長径2.8	短径2.5	器高0.8	-	-	土師器転用	958
第82図の105	土製円盤	長径2.7	短径2.6	器高0.7	-	-	須恵器転用	957
第83図の106	鉄鏝	鏝身幅 1.4	鏝身長 2.1	残存長 11.2	-	-		251

第83図の107	鉄鏝	鏝身幅 1.4	鏝身長 2.3	残存長 5.1	—	—	—	131
第83図の108	不明鉄製品	—	—	—	—	—	—	125
第83図の109	不明鉄製品	残存長 14.5	—	—	—	—	—	259
第83図の110	不明鉄製品	残存長 6.1	—	—	—	—	—	26
第83図の111	不明鉄製品	残存長 2.1	—	—	—	—	—	703
第83図の112	鉄鏝	残存長 3.2	—	—	—	—	—	757
第83図の113	刀子	残存長 7.5	—	—	鉄製品	—	—	701
第83図の114	刀子	残存長 9.8	—	—	鉄製品	—	—	494
第83図の115	刀子	残存長 3.3	—	—	鉄製品	—	—	824
第83図の116	刀子	残存長 3.0	残存長 2.1	—	鉄製品	—	—	300
第83図の117	刀子	残存長 4.9	—	—	鉄製品	—	—	702
第83図の118	刀子	残存長 11.8	—	—	鉄製品	—	—	300
第83図の119	鎌	長さ 23.9	—	—	鉄製品	—	—	829
第83図の120	鎌	長さ 15.3	—	—	鉄製品	—	—	830
第83図の121	鎌	長さ6.6	—	—	鉄製品	—	—	831
第83図の122	不明鉄製品	幅 0.8~1.0	—	—	S字状に曲がる、両端欠損	—	—	703
第83図の123	土師器 杯	11.9	3.9	6.8	雲母・赤色スコリア含む	橙褐色	墨書(体外)「大」 墨書(底内)「大」	4
第83図の124	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)□	8
第83図の125	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)□	8
第83図の126	土師器 甕	10.7	8.4	5.5	砂粒・スコリア含む	暗褐色	—	5、8

#### I 048 (第84図、図版24・129・171)

主軸に対して横軸の長い、長方形のプランの住居である。支柱穴は4本で、壁溝は全周する。竈右袖脇から須恵器杯・土師器杯がまとまって出土している。その他、遺物には底部外面に「名足」と墨書する赤色塗彩土師器杯(4)がある。また、丸底でハケ目調整のある土師器甕(7)が出土している。



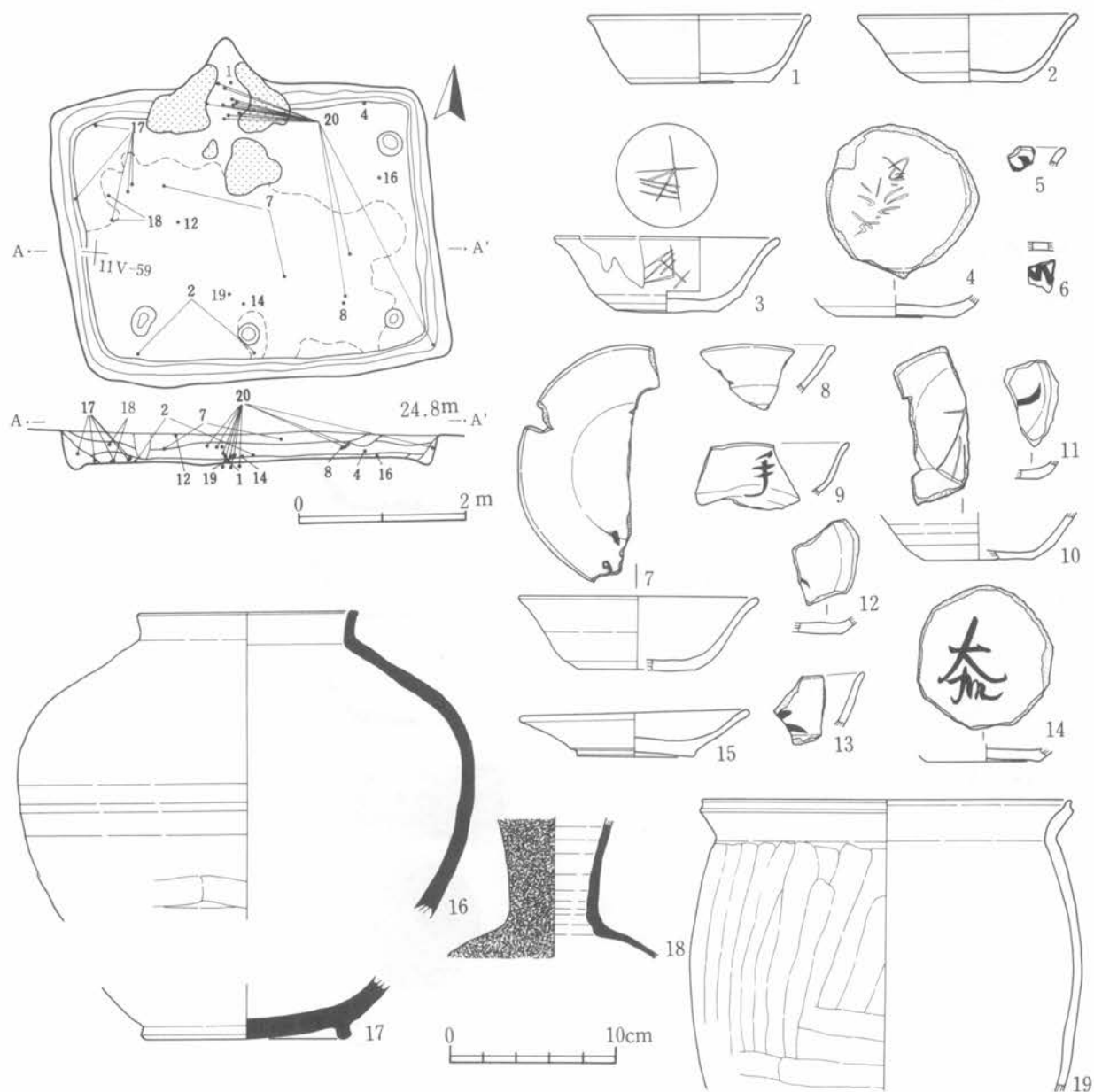
第84図 I 048

表73 I 0 4 8

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第84図の1	須恵器 杯	14.4	3.9	9.2	白色砂・雲母含む	灰白色	常陸産	29
第84図の2	須恵器 杯	14.0	3.9	8.9	雲母含む	灰白色	常陸産	30
第84図の3	須恵器 杯	13.6	4.1	4.8	白色砂・雲母含む	青灰色		17、34
第84図の4	土師器 杯	13.5	4.1	7.3	雲母・白色砂含む	褐色	墨書(底外)「名足」 内外面赤彩	31
第84図の5	土師器 杯	13.7	3.9	5.5	雲母・白色砂含む	褐色～黒褐色		33
第84図の6	土師器 杯	14.9	5.2	9.4	雲母・白色砂・スコリア含む	橙褐色～黒褐色		32、33
第84図の7	土師器 甕	(13.7)	11.8	—	長石・石英・雲母含む	黒褐色～灰褐色	外面ハケ目	10、11、12、14、15、16、 17、19、25
第84図の8	土師器 甕	(14.4)	—	—	雲母含む	暗褐色		5、35

I 049 (第85図、図版24・129・171)

主軸に対して横軸の長い長方形のプランの住居で、小型の柱穴を3本、出入口ピットを1本有する。竈内には支脚が直立し、土師器甕(19)が破片となって出土している。遺物には、須恵器短頸壺(16・17)や、「久祢良」の線刻土器、「大加」の墨書土器が見られる。



第85図 I 049

表74 I 0 4 9

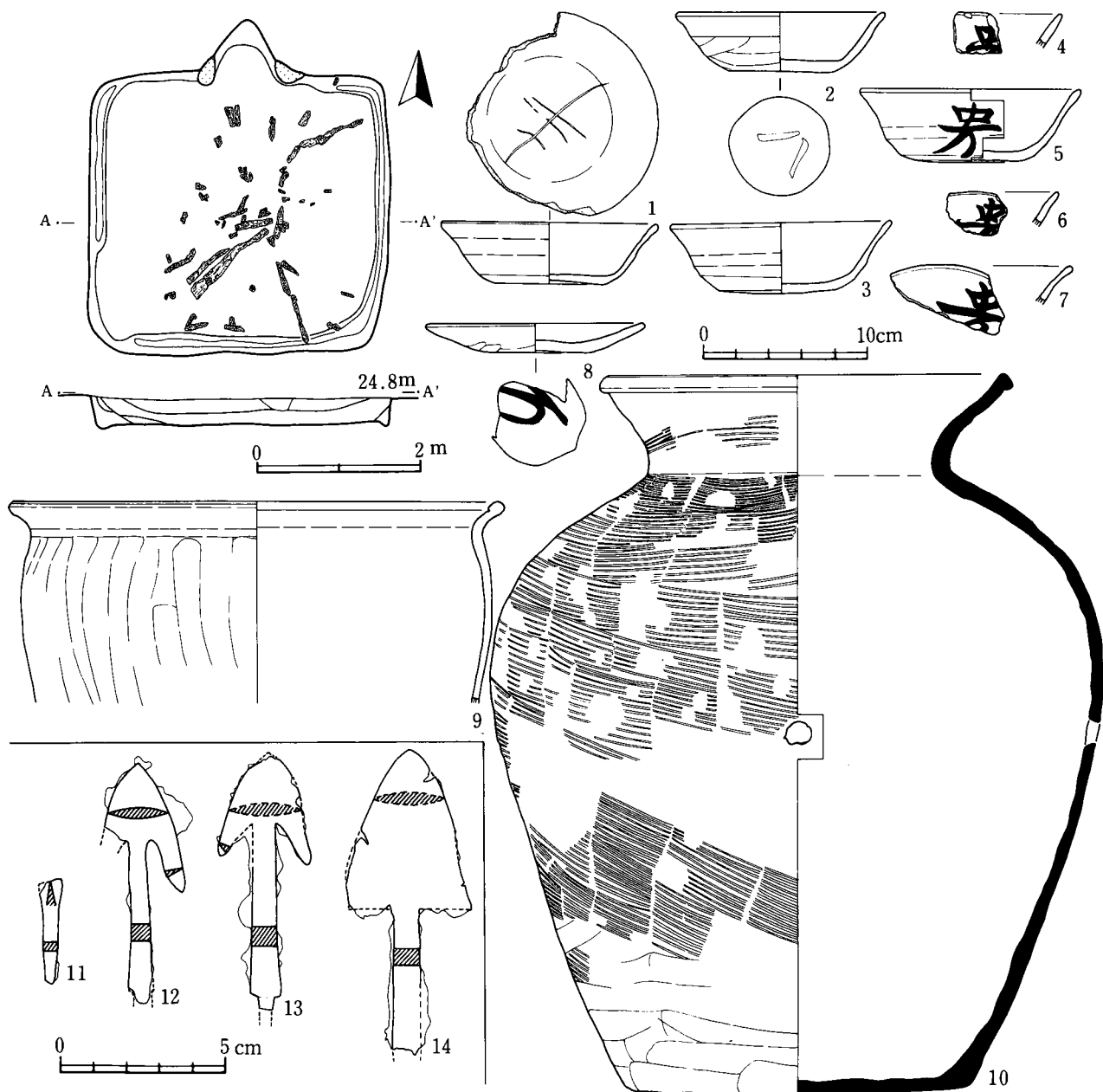
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第85図の1	土師器 杯	(13.0)	4.0	(8.2)	雲母・スコリア含む	明褐色		85
第85図の2	土師器 杯	13.0	4.0	6.2	雲母・スコリア含む	淡褐色		27、30
第85図の3	土師器 杯	(13.4)	4.4	(6.2)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	線刻(体外) □ 線刻(底内) □	90、91
第85図の4	土師器 杯	-	-	7.0	長石・石英・スコリア含む	暗褐色～褐色	線刻(底内)「久弥良」	57
第85図の5	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) □	90
第85図の6	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外) □	88
第85図の7	土師器 杯	(14.2)	4.3	(7.0)	雲母含む	橙褐色	墨痕(底内)、転用硯?	22、33
第85図の8	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) 「大」	17
第85図の9	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) 「手」	88、89
第85図の10	土師器 杯	-	-	(6.2)	-	-	線刻(底内) 「大加」	89
第85図の11	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) 「大」	89
第85図の12	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) 「大」	48
第85図の13	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) □	91
第85図の14	土師器 杯	-	-	6.7	-	-	墨書(底内) 「大加」	61
第85図の15	土師器 皿	13.6	2.8	7.0	雲母含む	暗褐色		59
第85図の16	須恵器短頸壺	(13.2)	-	-	砂粒多く含む	灰色		34、39、46、47、60
第85図の17	須恵器短頸壺	-	-	(12.4)	砂粒多く含む	灰色		37、60
第85図の18	灰釉陶器 長頸瓶	-	-	-	砂粒含む	暗灰色		62、90
第85図の19	土師器 甕	(22.0)	-	-	砂粒・雲母含む	明褐色		2、13、15、67、68、69、 71、76、78、79、82、83、 84、92

I 050 (第86図、図版25・129・130・168)

ほぼ正方形のプランの住居で、柱穴はない。炭化した建物の構造材が出土している。材質は不明だが、板材は全く見られない。その他、住居埋土中には焼土を含んでおり、焼失家屋と考えられる。遺物は住居南側に集中する。「中万」の合わせ字の墨書土器が多く見られる。逆刺の顕著な鉄鏃(12)、12に比べ逆刺のやや短いもの(13)、逆刺のないもの(14)の3種類の鉄鏃が見られる。11は先端部が鋭利になっており、これも鉄鏃の可能性がある。12・13・14とも住居南東側の床面直上から出土している。また、10の胴部を穿孔する須恵器甕は住居南側と東側2か所に分散して見られた。

表75 I 0 5 0

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第86図の1	土師器 杯	(13.0)	3.7	6.7	雲母・スコリア含む	淡褐色	線刻(底内)「卅」	151
第86図の2	土師器 杯	12.5	3.7	6.1	雲母・スコリア含む	淡褐色	ヘラ書き(底外)「八」	38
第86図の3	土師器 杯	-	4.3	4.3	雲母含む	褐色		109、117
第86図の4	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「中万」	175
第86図の5	土師器 杯	13.3	4.5	3.5	雲母含む	淡褐色	墨書(体外)「中万」	116
第86図の6	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「中万」	176
第86図の7	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「中万」	53
第86図の8	土師器 皿	-	1.8	6.1	雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書(底外)「万」	18、19、21、170、173
第86図の9	土師器 甕	(28.5)	(12.1)	-	スコリア・白色砂粒含む	暗褐色		6、162、163、171
第86図の10	須恵器 甕	(24.2)	43.1	21.1	雲母・白色砂含む	灰褐色～黒褐色	底外縄目状圧痕、胴部孔有	13、26、28、29、31、33、 35、36、50、52、70、73、 75、77、78、79、83、84、 94、95、96、97、112、121、 124、126、127、128、129、 130、132、133、138、140、 141、142、143、144、145、 147、148、149、152、153、 170、173、174、175
第86図の11	不明鉄製品	残存長 3.2	-	-	-	-		175
第86図の12	鉄鏃	鏃身幅 (2.7)	鏃身長 3.9	残存長 7.2	-	-		90
第86図の13	鉄鏃	2.8	3.1	7.0	-	-		87
第86図の14	鉄鏃	3.8	4.7	9.1	-	-		92

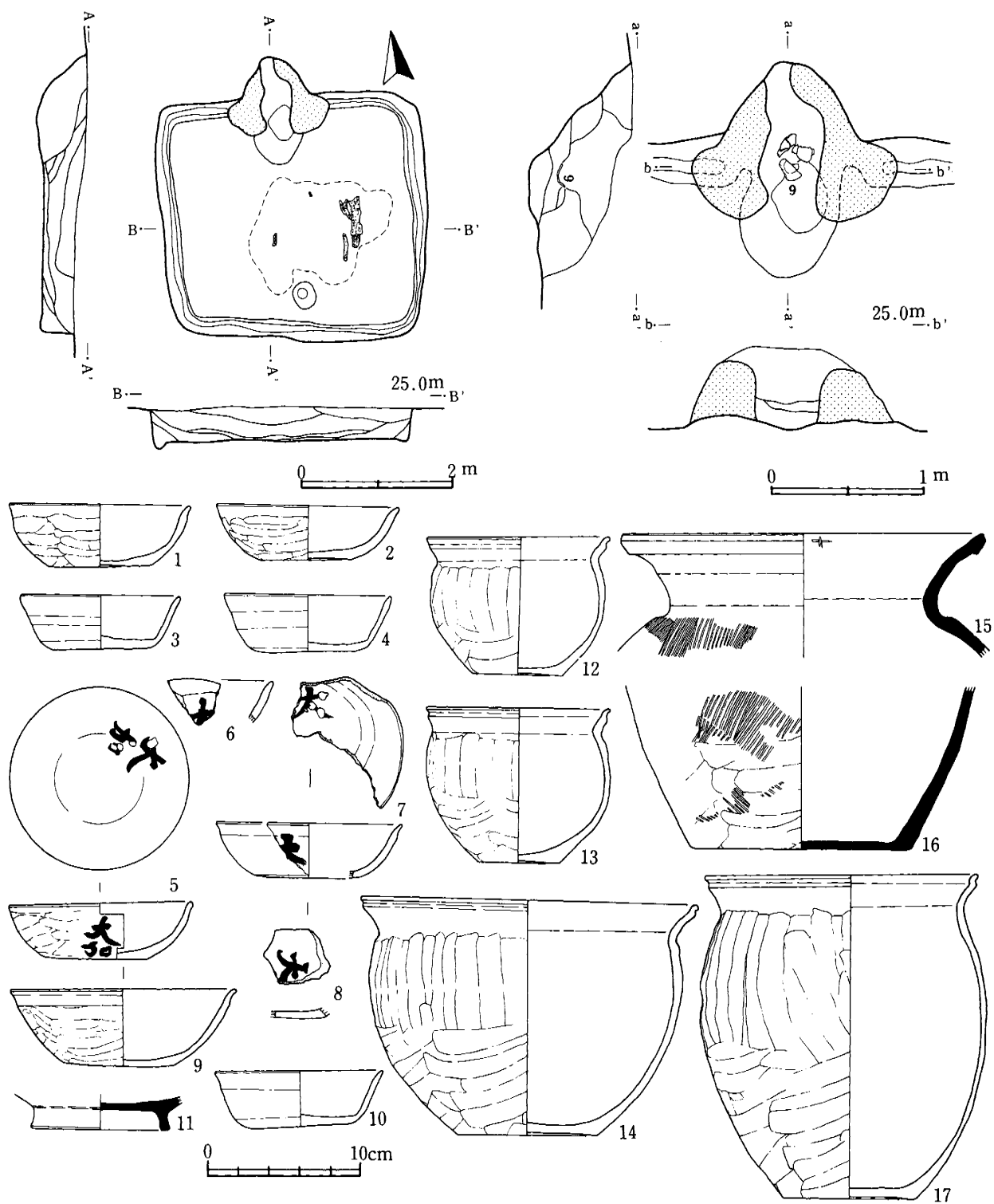


第86図 I 050

I 051 (第87図、図版25・130)

北側に竈を有する方形プランの住居で、壁溝が全周する。出入口ピットを1つ確認している。床面中央付近に炭化材を検出した。また、床面直上の覆土中には焼土を含んだ層が見られる。この焼土層中から上にかけて遺物が分布する。遺物には、「大」、「大加」の墨書土器が多く見られる。





第87图 I 051

表76 I 0 5 1

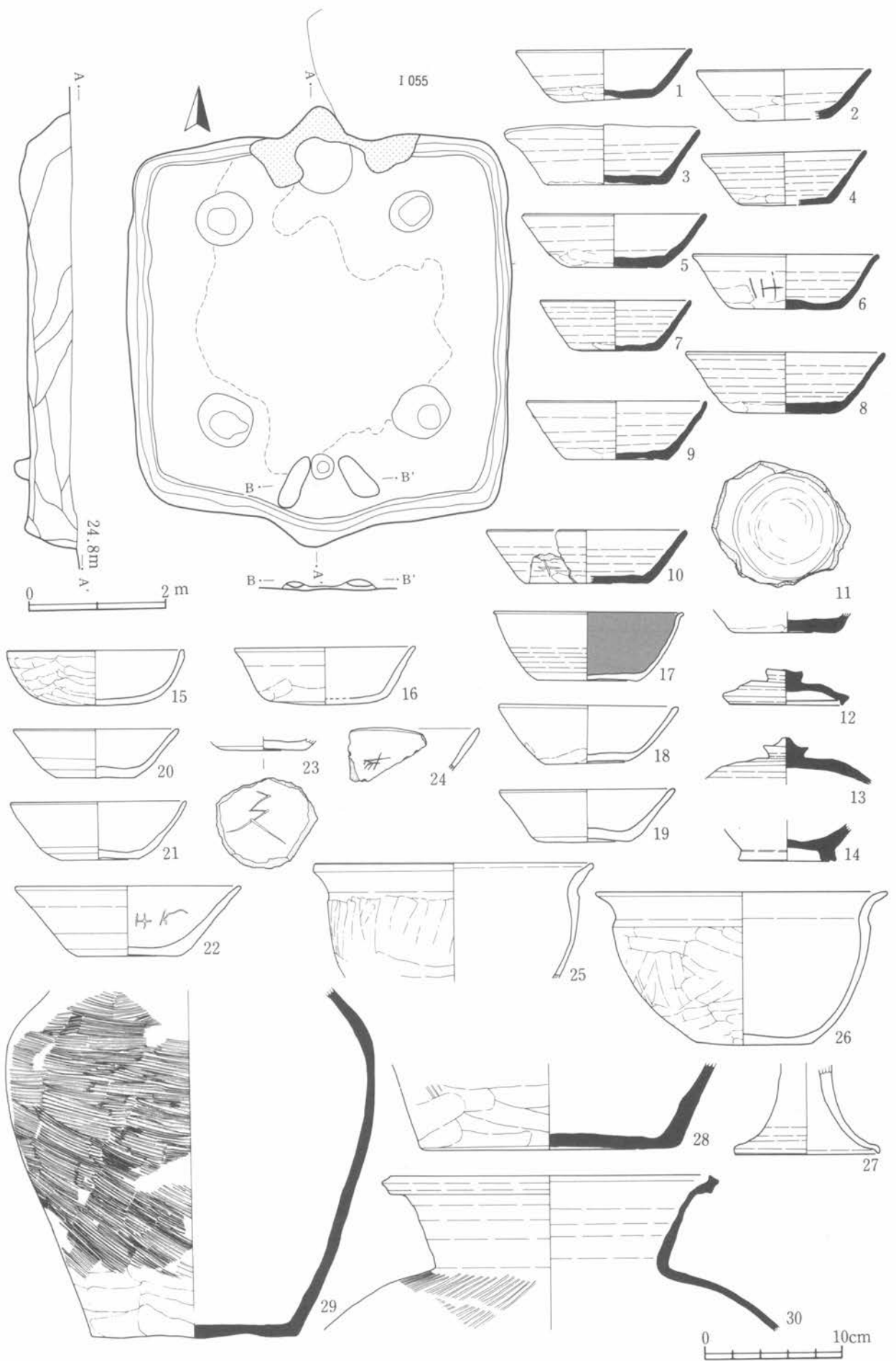
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第87図の1	土師器 杯	11.8	3.7	6.8	雲母含む	暗褐色		11、42、51、55、97
第87図の2	土師器 杯	11.8	3.7	5.9	雲母・スコリア含む	暗褐色		34、35、36、97、11T-1
第87図の3	土師器 杯	10.5	3.6	6.4	雲母・スコリア含む	淡褐色		38、11T-1
第87図の4	土師器 杯	11.0	3.7	6.1	雲母・スコリア含む	橙褐色		39、41、11T-1
第87図の5	土師器 杯	12.0	3.7	5.7	雲母・スコリア含む	淡褐色	墨書(体内)「大加」 墨書(体外)「大加」	40、48
第87図の6	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「大」	96
第87図の7	土師器 杯	(12.2)	3.6	—	雲母・スコリア含む	淡褐色	墨書(体外)「大」 墨書(底内)「大」	27
第87図の8	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「大」	99
第87図の9	土師器 杯	(14.8)	5.1	7.2	雲母含む	褐色		81
第87図の10	土師器 杯	10.9	3.8	6.2	雲母・スコリア含む	橙褐色		82
第87図の11	須恵器 高台付盤	—	(2.2)	9.0	雲母含む	灰色		12
第87図の12	土師器小型壺	12.0	10.2	6.0	雲母含む	褐色～黄褐色		49、66、99、11T-1
第87図の13	土師器小型壺	12.1	10.1	5.6	雲母・スコリア含む	褐色～黒褐色		73、78、95、96、99
第87図の14	土師器 壺	22.1	15.4	9.3	雲母・スコリア含む	暗褐色		28、37、46、74、99、11T-1
第87図の15	須恵器 壺	23.8	—	—	雲母含む	灰色	線刻(口縁内)「□」	1
第87図の16	須恵器 壺	—	—	14.6	雲母・白色砂含む	灰白色		17、99
第87図の17	土師器 壺	17.9	21.2	8.9	雲母・スコリア含む	暗褐色		26、29、32、33、44、45、52、61、71、96、97

## I 052 (第88・89図、図版25・130・131・165・168・169)

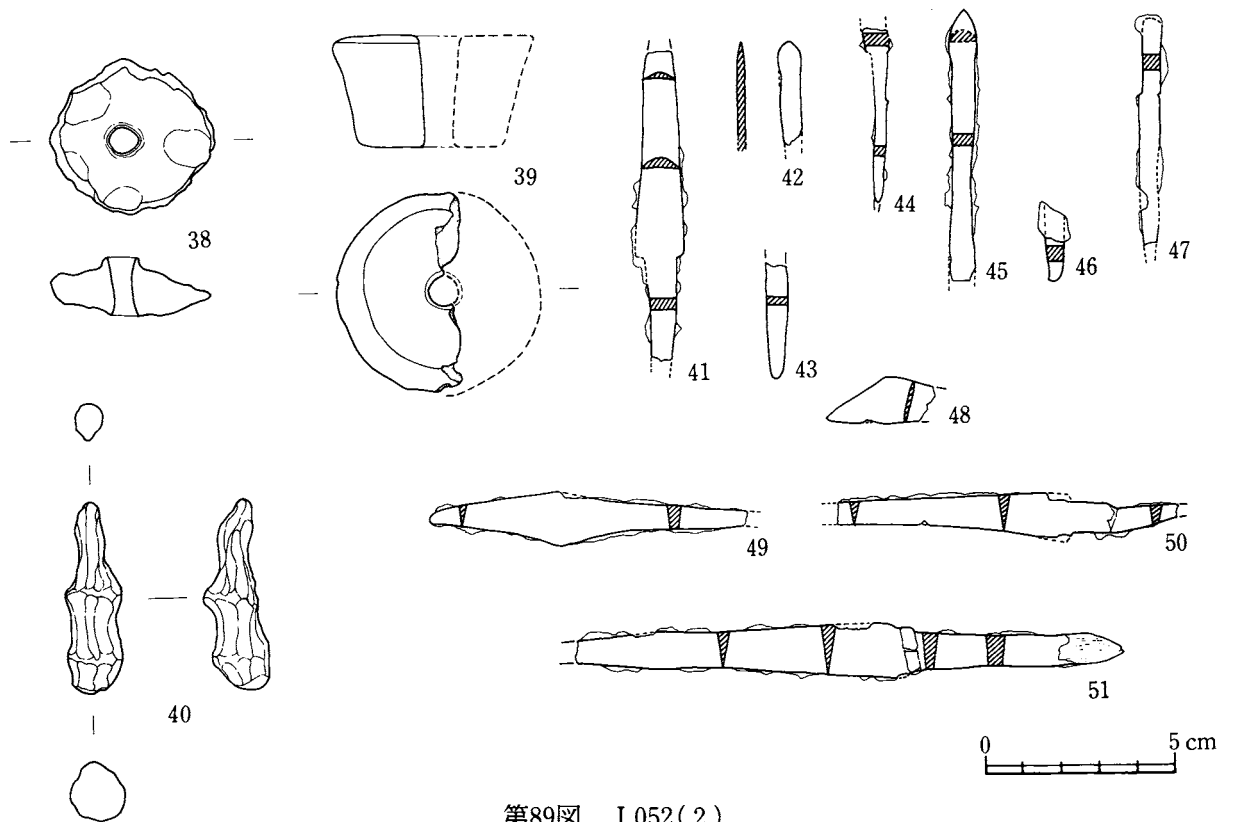
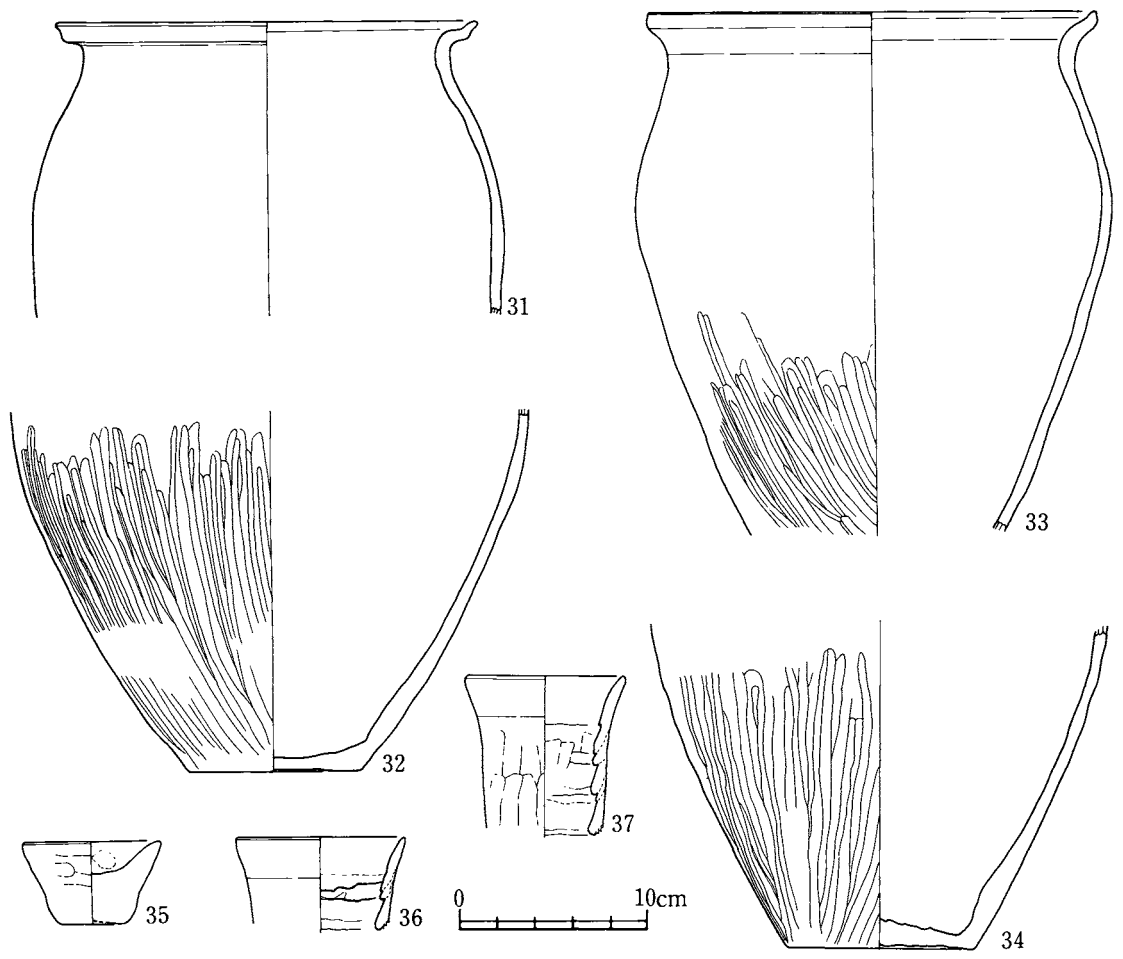
南側壁が大きく外側に湾曲し、張り出す住居である。張り出した部分の床面には「ハ」の字状に小高く山砂が残っており、さらにその中央には出入口ピットを1つ確認した。竈は遺存状態があまり良くない。当住居には055Aと055Bとの2軒が重複しているが、052が最も古い。多量の遺物が出土しているが、レベルから見ると床面直上と埋土最上層に2分される。35の手捏ねは床面直上だが、36・37の土師器壺は最上層である。38の指頭痕が顕著な土製紡錘車は竈正面床面直上から出土した。40の獣脚状の土製品は単体で、細かな面取りを施す。埋土上層から出土した。49・50・51の刀子はいずれも埋土最上層から出土した。51には茎の木質や留金具が残っている。41の鉋と同一位置から出土した。鉄製品は総じて埋土中に分散して見られる。

表77 I 0 5 2

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第88図の1	須恵器 杯	12.8	3.9	6.9	雲母・白色砂含む	灰色	焼成不良	40、41、83、483
第88図の2	須恵器 杯	12.7	3.7	6.9	雲母・白色砂含む	灰色	焼成不良	261、264、484
第88図の3	須恵器 杯	14.2	4.1	8.4	雲母・白色砂含む	青灰色		172、241、483、485
第88図の4	須恵器 杯	(12.0)	3.9	(6.7)	白色砂含む	青灰色		460、479
第88図の5	須恵器 杯	13.3	3.9	7.2	雲母・白色砂含む	灰色	焼成不良	420、438、443、445、481、483
第88図の6	須恵器 杯	(13.4)	4.0	(7.5)	白色砂含む	灰色	線刻(体外)「□」	57、109、237
第88図の7	須恵器 杯	(11.0)	3.6	(6.1)	雲母含む	灰白色		285、484、550
第88図の8	須恵器 杯	14.4	4.3	7.7	雲母含む	灰白色		277、281、284、480、483、484
第88図の9	須恵器 杯	(13.0)	4.3	7.5	白色砂含む	青灰色		403、483、484、525、566
第88図の10	須恵器 杯	(14.5)	3.8	(9.0)	白色砂含む	青灰色	線刻(体外)「□」	203、207、213
第88図の11	須恵器 杯	—	—	7.5	雲母含む	灰白色	転用硯(内面)	393
第88図の12	須恵器 蓋	8.3	2.7	—	白色砂含む	灰色		9、109、485
第88図の13	須恵器 蓋	—	—	—	白色砂含む	青灰色		404
第88図の14	須恵器長頸壺	—	—	高台径 7.1	白色砂含む	灰色		43、483、485
第88図の15	土師器 杯	(12.8)	4.0	—	スコリア含む	橙褐色		306、345、382、545
第88図の16	土師器 杯	(13.2)	4.2	—	雲母含む	橙褐色		2、52、78、432、450、478、482、483
第88図の17	土師器 杯	(13.8)	5.0	7.4	雲母・スコリア含む	淡褐色	内黒	358、378、473、482
第88図の18	土師器 杯	23.0	4.3	5.0	雲母含む	橙褐色		474、482
第88図の19	土師器 杯	12.8	3.8	6.6	雲母含む	橙褐色		138
第88図の20	土師器 杯	12.1	3.5	5.7	雲母含む	橙褐色		318
第88図の21	土師器 杯	(12.8)	4.2	5.7	雲母含む	褐色		95、480、481



第88图 I 052(1)



第89图 I 052(2)

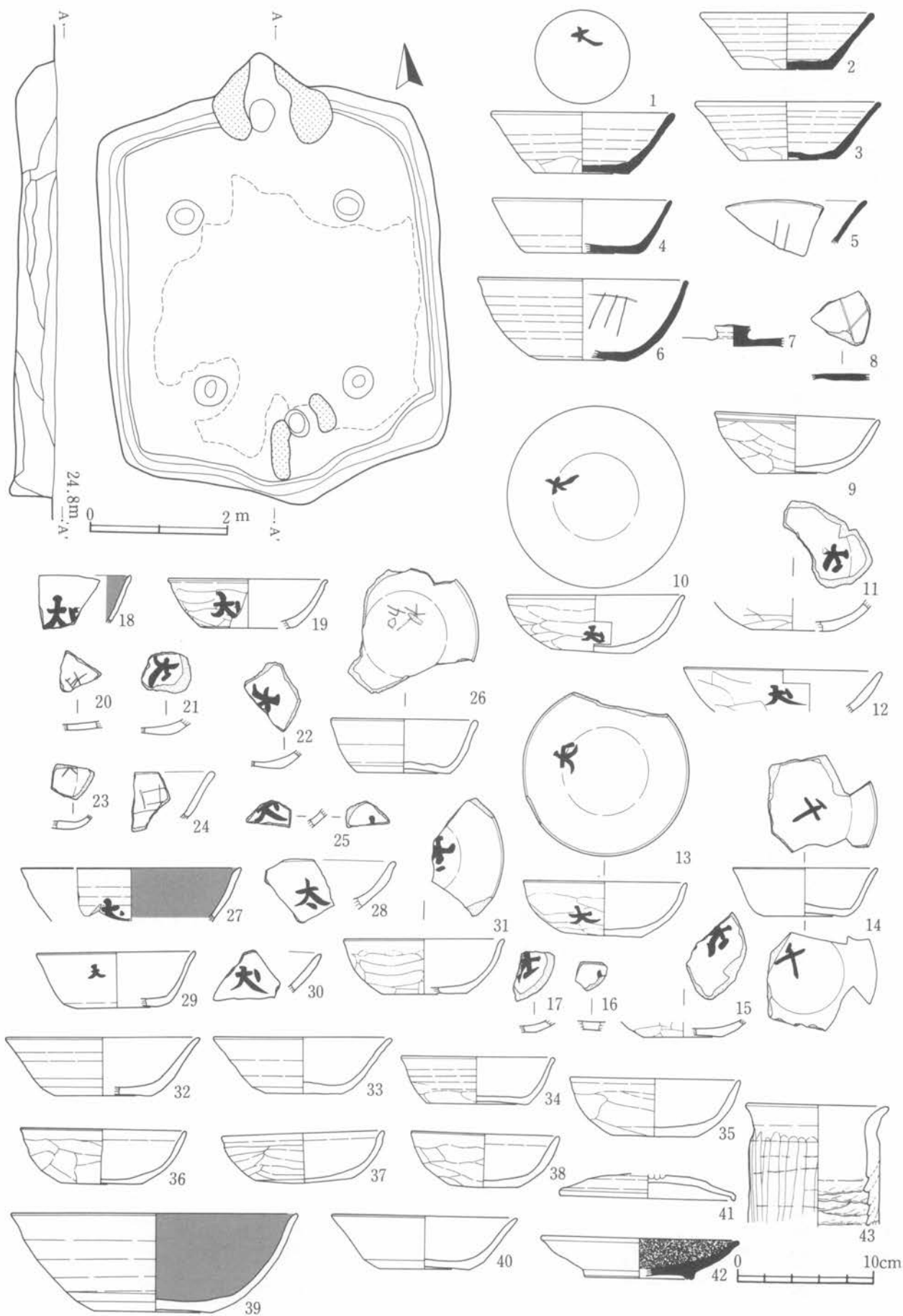
第88図の22	土師器 杯	(16.5)	5.0	7.3	スコリア・雲母含む	褐色	線刻(体内)「千万」	94
第88図の23	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底外)「囧」?	1
第88図の24	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体外)「□」	467
第88図の25	土師器 鉢	20.3	—	—	スコリア含む	淡褐色	—	49、56、69、160、291、483、485
第88図の26	土師器 鉢	(21.2)	11.1	8.6	白色砂含む	暗褐色	—	12、71、72、73、74、98、110、248、257、484、485
第88図の27	土師器 高杯	—	—	裾部径 10.6	雲母含む	淡褐色	—	186、243、482
第88図の28	須恵器 甕	—	—	18.4	雲母含む	灰白色～灰褐色	—	4、10、20、25、26、27、30、32、33、34、39、100
第88図の29	須恵器 甕	—	—	15.1	白色砂含む	青灰色	—	9、109、135、483
第88図の30	須恵器 甕	(23.4)	—	—	白色砂含む	灰色	—	187
第89図の31	土師器 甕	(21.9)	—	—	雲母含む	暗褐色	—	66、260、484
第89図の32	土師器 甕	—	—	8.6	雲母含む	暗褐色	常総型	165、280、367、464、469、471、479、482、483、484、489
第89図の33	土師器 甕	(23.7)	—	—	雲母含む	橙褐色～暗褐色	常総型	387、516、517、518、520、524、525、526、530、543、547、561
第89図の34	土師器 甕	—	—	9.7	雲母含む	橙褐色	常総型	7
第89図の35	手捏ね	(7.1)	4.3	(3.6)	白色砂含む	褐色	—	431
第89図の36	土師器 甕	(8.8)	—	—	白色砂含む	褐色	内面に粘土紐輪積み痕	218
第89図の37	土師器 甕	(8.4)	—	—	白色砂含む	褐色	内面に粘土紐輪積み痕	64、485
第89図の38	紡錘車	長径4.3	短径—	厚さ1.5	—	橙褐色	土師器転用	447
第89図の39	紡錘車	長径5.4	短径3.8	厚さ2.9	白色砂含む	暗褐色	土師器転用	60
第89図の40	不明土製品	長さ4.9	—	—	砂混入	褐色	—	149
第89図の41	鉋	残存長 8.0	幅1.3	—	鉄製品	—	—	195
第89図の42 ・44	鉄鏃	鏃身幅 0.6	—	—	—	—	—	205
第89図の43	刀子	残存長 3.0	—	—	鉄製品	—	—	262
第89図の45 ・46	鉋	残存長 (9.0)	—	—	鉄製品	—	—	263
第89図の47	不明鉄製品	残存長 5.9	—	—	—	—	—	428
第89図の48	不明鉄製品	残存長 2.9	—	—	—	—	—	420
第89図の49	刀子	残存長 8.4	—	—	鉄製品	—	—	408
第89図の50	刀子	残存長 9.0	—	—	鉄製品	—	—	289
第89図の51	刀子	残存長 14.6	—	—	鉄製品	—	木質部残存	239

### I 053 (第90・91図、図版26・131・167・168・169・172)

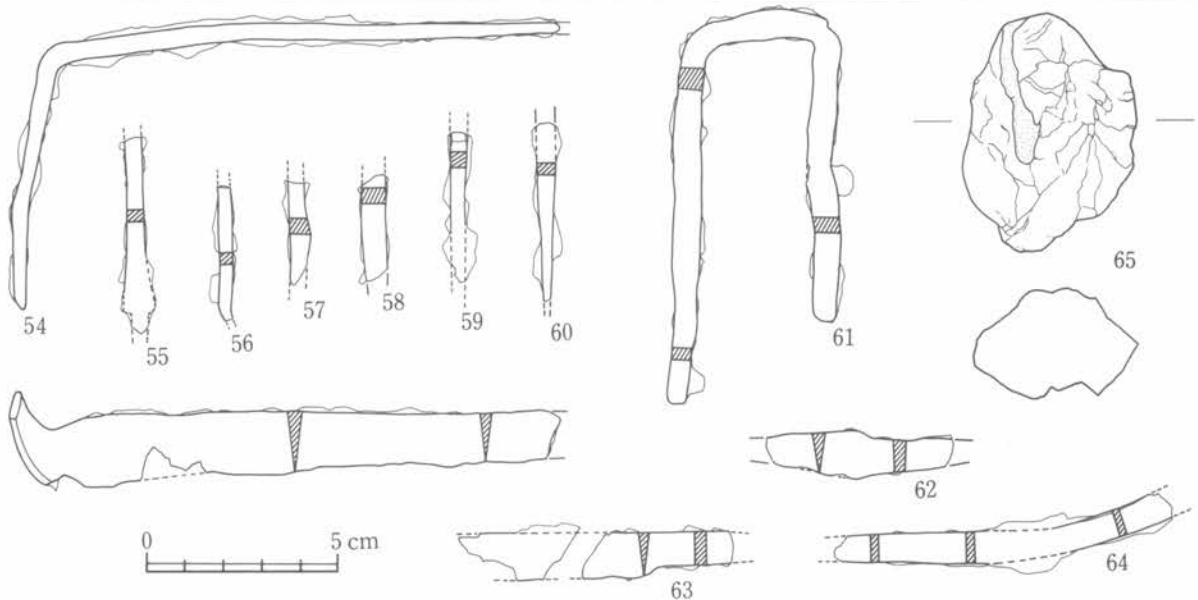
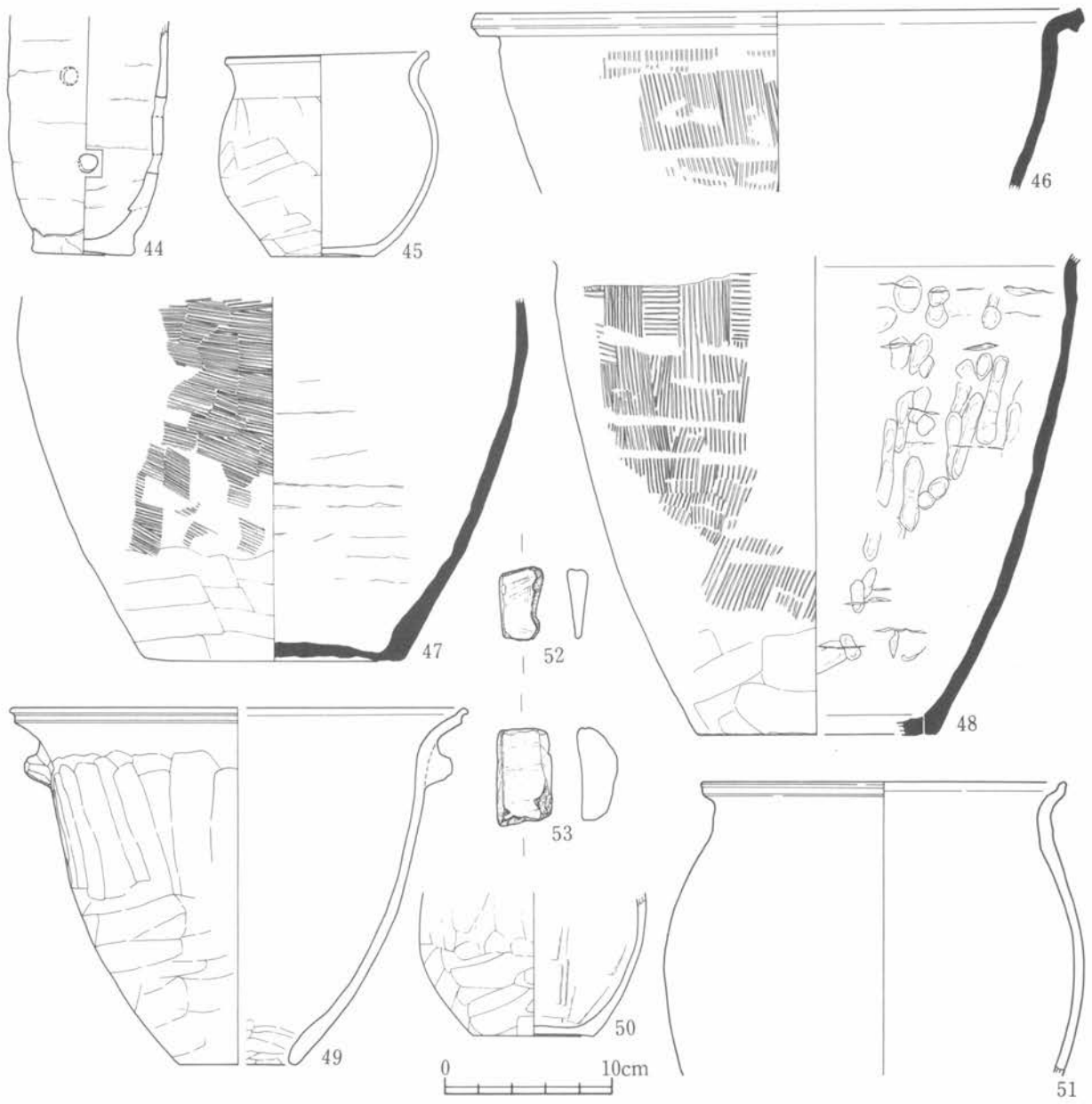
南側壁が大きく外側に湾曲し、張り出す住居である。張り出した部分の床面には硬く締った山砂が「い」の字状に残っており、さらにその中央には出入り口ピットを1つ確認した。住居埋土は人為的埋戻しによるもので、混入する遺物の出土量も多い。竈の袖の遺存状態は良好ではない。「犬」や「太」の墨書土器が多く見られる。54は刀子の可能性のある鉄製品で、刀身部と茎部の境で直角に折れ曲がっている。61はコの字形の完形品であるが、先端が鋭利になっていない。この2点は住居中央の床面直上から近接して出土した。65の石英は火打ち石のような細かな擦痕が見られない。住居中央の床面直上から出土した。その他の鉄製品は埋土中から出土した。

表78 I 053

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第90図の1	須恵器 杯	13.3	4.6	6.8	長石・石英・雲母含む	灰色	墨書(底内)「大」	280
第90図の2	須恵器 杯	12.7	4.2	6.6	長石・石英・雲母含む	灰色	—	85、263、362
第90図の3	須恵器 杯	13.6	4.4	7.1	長石・石英・雲母含む	灰色	常陸産	158
第90図の4	須恵器 杯	(13.0)	4.4	(8.2)	長石・石英含む	灰色	—	293
第90図の5	須恵器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体外)「  」	362
第90図の6	須恵器 杯	(15.0)	5.9	6.4	砂粒・白色砂含む	灰白色	線刻(体外)「卍」	324、362
第90図の7	須恵器 蓋	—	—	—	—	—	—	157
第90図の8	須恵器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底外)「×」	363
第90図の9	土師器 杯	12.1	4.3	5.5～ 6.0	砂粒・スコリア・雲母含む	暗褐色	—	330



第90图 I 053(1)



第91图 I 053(2)

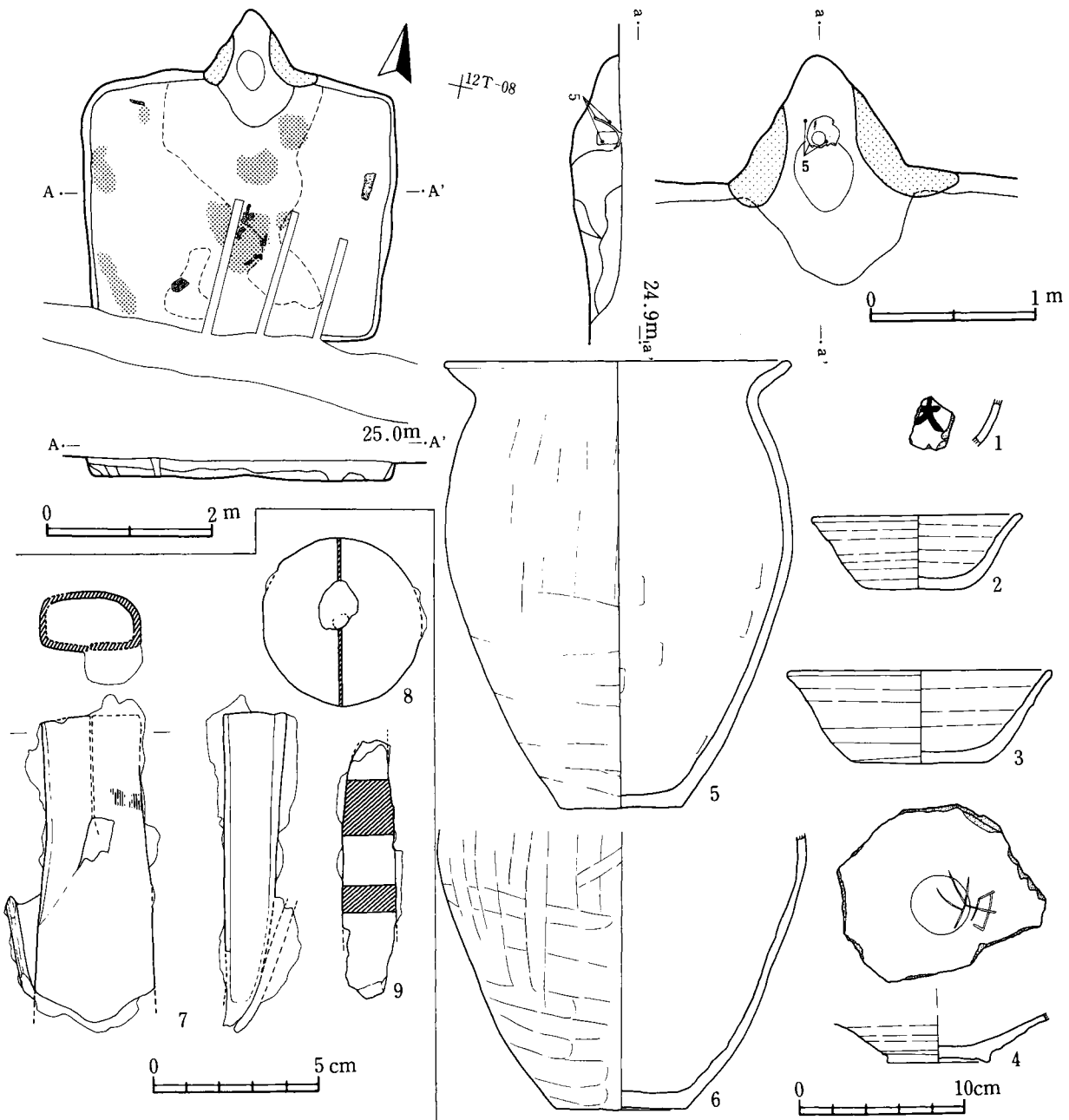
第90図の10	土師器	杯	12.0	4.2	5.5~6.0	砂粒・スコリア・雲母含む	明褐色	墨書(体外)「犬」 墨書(底内)「大」	150、152、209
第90図の11	土師器	杯	-	(2.3)	(6.0)	-	-	墨書(底内)「犬」	363
第90図の12	土師器	杯	(14.5)	-	-	-	-	墨書(体外)「犬」	310、362
第90図の13	土師器	杯	11.8	3.9	5.9	長石・石英・スコリア・雲母含む	褐色	墨書(体外)「犬」 墨書(底内)「犬」	53
第90図の14	土師器	杯	(10.5)	3.5	(6.0)	長石・石英・雲母・スコリア含む	褐色	墨書(底内)「千」 墨書(底外)「千」	104、360
第90図の15	土師器	杯	-	-	(5.8)	-	-	墨書(底内)「犬」	58
第90図の16	土師器	杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「□」	360
第90図の17	土師器	杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「犬」	362
第90図の18	土師器	鉢	-	-	-	-	-	内黒、墨書(体外)「因」	360
第90図の19	土師器	杯	(11.4)	3.5	(6.9)	砂粒・スコリア・雲母・長石・石英含む	褐色	墨書(体外)「大」or「犬」	288
第90図の20	土師器	杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「□」	360
第90図の21	土師器	杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「犬」	362
第90図の22	土師器	杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「大」	362
第90図の23	土師器	杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「□」	52
第90図の24	土師器	杯	-	-	-	-	-	線刻(体外)「□」	363
第90図の25	土師器	杯	-	-	-	-	-	墨書(体内)「□」 墨書(体外)「犬」	363
第90図の26	土師器	杯	(10.5)	3.9	6.9	長石・石英・雲母・スコリア含む	褐色	線刻(底内)「大加」	102、203
第90図の27	土師器	碗	(16.1)	-	-	-	-	内黒、墨書(体外)「犬」	93、361
第90図の28	土師器	杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「太」	363
第90図の29	土師器	杯	(11.5)	4.0	(5.9)	長石・石英・雲母・スコリア含む	褐色	墨書(体外)「大」	71、363
第90図の30	土師器	杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「犬」	362
第90図の31	土師器	杯	(11.7)	3.9	(6.3)	長石・石英・雲母・スコリア含む	褐色	墨書(底内)「犬」	90
第90図の32	土師器	杯	(14.2)	4.2	(7.0)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色		332、336
第90図の33	土師器	杯	(13.0)	4.1	(5.6)	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色		5
第90図の34	土師器	杯	11.4	3.4	7.4	スコリア含む	橙褐色		281
第90図の35	土師器	杯	(12.4)	4.2	(6.4)	砂粒・スコリア含む	明褐色		205、362、363
第90図の36	土師器	杯	12.1	4.1	5.9	砂粒・スコリア含む	明褐色		351、
第90図の37	土師器	杯	(11.8)	3.6	6.5~7.0	砂粒含む	暗褐色		169、200、201、226、361
第90図の38	土師器	杯	(11.0)	3.9	(5.0)	砂粒・スコリア含む	橙褐色		360、362
第90図の39	土師器	鉢	20.7	7.1	8.5	長石・石英・雲母含む	外面褐色、内面黒色	内黒	159、188、192、217、222、233、362
第90図の40	土師器	杯	(13.6)	3.8	(6.7)	砂粒・雲母・スコリア含む	明褐色		6、364
第90図の41	土師器	蓋	(12.8)	-	-	長石・石英・スコリア含む	褐色	内黒	78、199、363
第90図の42	灰釉陶器	皿	(14.3)	2.9	(8.0)	砂粒含む	灰色		319
第90図の43	土師器	甕?	10.6	-	-	長石・石英・スコリア含む	灰褐色~褐色		170、266
第91図の44	土師器	甕?	-	-	(6.2)	長石・石英・スコリア・雲母含む	褐色	底外木葉痕、胴部孔有	44、322、362、370、371、403
第91図の45	土師器	甕	(11.8)	12.2	6.1	長石・石英・スコリア・雲母含む	赤褐色		140、360、364
第91図の46	須恵器	甕	(36.1)	-	-	長石・石英・雲母含む	褐色~暗褐色		276、279
第91図の47	須恵器	甕	-	-	15.6	長石・石英・雲母含む	黒灰色		194、254
第91図の48	須恵器	甕	-	-	(14.0)	雲母・石英含む	-		359、340
第91図の49	土師器	甕	(26.7)	20.7	(7.0)	雲母・スコリア含む	淡褐色		347、356、358
第91図の50	土師器	甕	-	-	(8.4)	長石・石英・雲母・スコリア含む	褐色~暗褐色		273
第91図の51	土師器	甕	21.3	-	-	雲母・石英含む	暗褐色		120、127、161、182、203、224、225、227、264、305、313、316、327、361、362
第91図の52	砥石	重さ 15.8g	-	-	-	凝灰岩	-		183
第91図の53	砥石	重さ 56.6g	-	-	-	凝灰岩	-		360
第91図の54	不明鉄製品	残存長 14.5	-	-	-	-	-	刃部あり	151
第91図の55 ・56	鉄鏃	残存長 5.1	残存長 3.5	-	-	-	-		109
第91図の57	不明鉄製品	残存長 2.8	-	-	-	-	-		74
第91図の58	不明鉄製品	残存長 2.9	-	-	-	-	-		189
第91図の59	鉄鏃	残存長 4.0	-	-	-	-	-		134
第91図の60	鉄鏃	残存長 4.6	-	-	-	-	-		191 b



第91図の61	不明鉄製品	最大長 10.0	最大幅 4.4	-	-	-	-	135
第91図の62	刀子	残存長 4.9	-	-	-	鉄製品	-	191 a
第91図の63	刀子	残存長 5.1	-	-	-	鉄製品	-	269
第91図の64	不明鉄製品	最大長 10.0	最大幅 4.4	-	-	-	-	97
第91図の65	石英	幅 4.4	長さ6.2	重さ 69.8g	-	-	細かな打痕はないが、火打ち石か？	325

I 054 (第92図、図版27・131・169・172)

一部耕作や溝によって削平されている住居である。竈の遺存状況は悪く、袖は一部を残すのみである。竈内では支脚が、その上に甕の胴部(6)を逆にして被せた状態で検出されたが、その支脚は、竈床面から浮いた状態であった。住居埋土中から炭化材や焼土塊が出土しており、焼失家屋と判断される。「中万」と



第92図 I 054

書かれた線刻土師器高台付皿(4)や、ほぼ完形の鉄斧(7)が出土している。この鉄斧には別個体の鉄製品が密着している。8の紡錘車は軸部が欠損している。9は上下端を欠損する鉄製品で、断面方形であるが、下方に向かって厚さが薄くなる。鉄製品は3点とも住居北西隅の床面直上から出土した。

表79 I 054

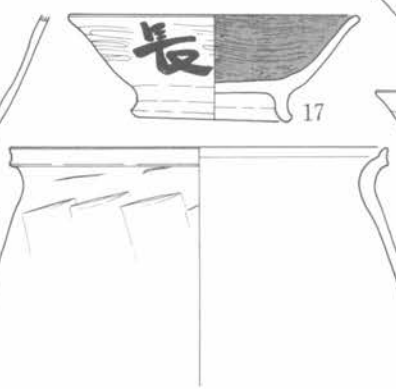
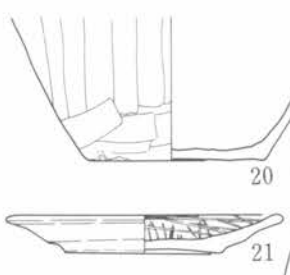
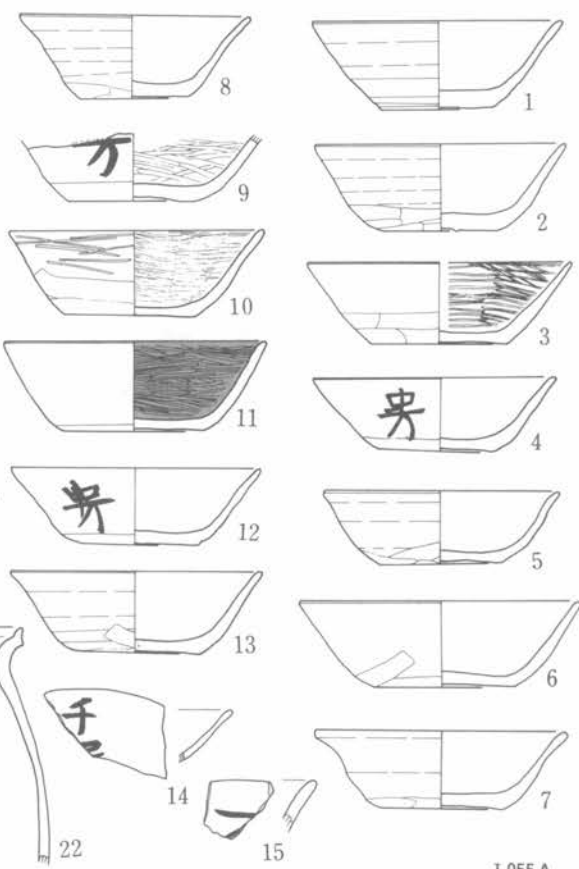
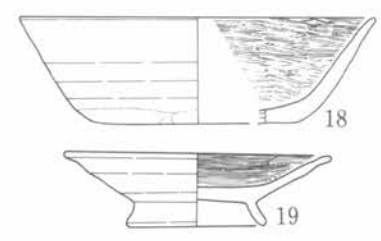
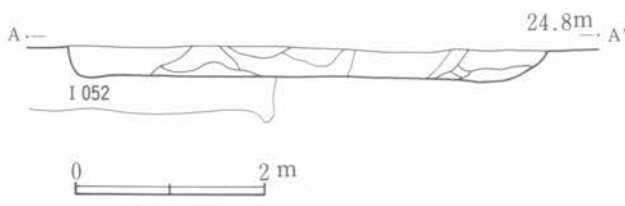
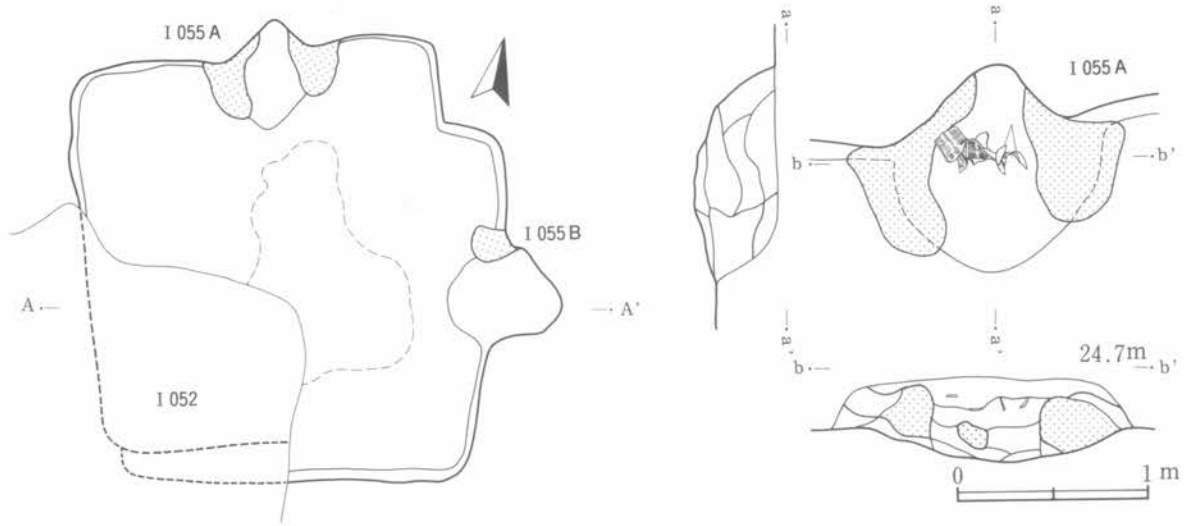
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第92図の1	土師器 杯	16.1	5.6	8.3	雲母・スコリア含む	褐色	内黒	10
第92図の2	土師器 杯	12.9	4.4	5.9	雲母・スコリア含む	褐色		51
第92図の3	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「大」	78
第92図の4	土師器 高台付皿	-	-	6.2	スコリア・雲母・長石含む	橙褐色	線刻(底内)「中万」	26
第92図の5	土師器 甕	-	-	7.9	スコリア・長石含む	褐色	付着物あり	59、73、74
第92図の6	土師器 甕	21.3	26.8	7.5	スコリア・砂含む	茶褐色	付着物あり	8、11、12、46、54、55、56、58、60、62、63、70、72、77、78、11T-2
第92図の7	鉄斧	幅 3.7	長さ9.0	厚さ1.9	-	-		35
第92図の8	紡錘車	直径5.0	-	-	鉄製品	-		32
第92図の9	不明鉄製品	残存長 7.6	-	-	-	-		31

I 055 A・055 B (第93図、図版25・132・168・172)

2軒の住居が、重複している。竈袖の残存状況から055Aの方が055Bに比べて新しいと考えられる。各々の住居の床面にレベル差がなく、いずれも浅く、壁溝・柱穴は確認できない。遺物は埋土中に分散して出土する。土師器杯が非常に多い。「中万」の合わせ字や、「長」などの墨書土器がある。

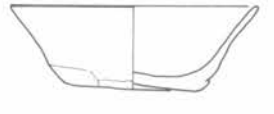
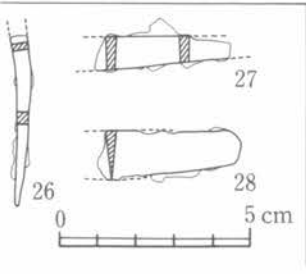
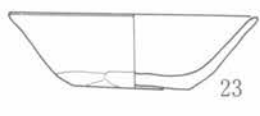
表80 I 055

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第93図の1	土師器 杯	(13.2)	4.6	5.9	石英・雲母含む	赤褐色		99、202、203
第93図の2	土師器 杯	(13.7)	4.5	(6.0)	雲母含む	橙褐色		9
第93図の3	土師器 杯	(13.9)	4.3	(7.2)	雲母含む	橙褐色		47
第93図の4	土師器 杯	12.8	3.8	6.0	雲母・石英含む	橙褐色	墨書(体外)「中万」	12
第93図の5	土師器 杯	12.6	3.8	6.5	白色砂含む	淡褐色		4
第93図の6	土師器 杯	14.8	4.5	7.4	白色砂含む	赤褐色		38
第93図の7	土師器 杯	13.2	4.1	6.4	砂粒多い	褐色		55、171、202、203
第93図の8	土師器 杯	12.3	4.4	5.7	石英・雲母含む	赤褐色		96
第93図の9	土師器 杯	-	(3.5)	6.8	雲母・砂粒含む	赤褐色	墨書(体外)「万」	31
第93図の10	土師器 杯	13.4	4.5	7.0	石英・雲母含む	赤褐色		27
第93図の11	土師器 杯	(13.8)	4.7	(7.2)	砂粒含む	外面赤褐色 内面黒色	内黒	5、6
第93図の12	土師器 杯	13.2	4.0	6.2	雲母・長石含む	橙褐色	墨書体外「中万」	16、22、202
第93図の13	土師器 杯	13.3	4.3	6.7	石英・雲母含む	赤褐色		61
第93図の14	土師器 皿	-	-	-	-	-	墨書(体外)「千□」	150
第93図の15	土師器 椀	-	-	-	-	-	墨書(体外)「因」	202
第93図の16	土師器 皿	-	-	5.8	-	-	墨書(底内)「中万」	129
第93図の17	土師器 杯	15.4	5.6	7.8	雲母・砂粒含む	内面黒色	内黒 墨書(体外)「長」	144
第93図の18	土師器 杯	(18.9)	(5.6)	(10.8)	雲母含む	赤褐色		15
第93図の19	土師器 高台付皿	13.7	3.8	7.0	雲母・長石含む	褐色		158、204
第93図の20	土師器小型甕	-	-	9.3	雲母含む	暗褐色		73、74、75、76、77、133、200
第93図の21	土師器 皿	15.0	2.0	8.3	長石・雲母含む	淡褐色		112
第93図の22	土師器 甕	20.0	-	-	雲母・長石・砂含む	淡赤褐色		177、179、195、199、200
第93図の23	土師器 杯	(13.1)	4.0	6.1	石英・雲母含む	赤褐色		184、201
第93図の24	土師器 杯	13.2	4.3	6.9	雲母・砂粒含む	淡褐色	墨書(底内)「千万」	180
第93図の25	須恵器 甌	(26.2)	-	-	石英・砂粒含む	褐色～灰褐色		186、187、188、201
第93図の26	鉄鏃	残存長 4.4	-	-	-	-		175
第93図の27	刀子	残存長 3.6	-	-	鉄製品	-		143
第93図の28	刀子	残存長 3.8	-	-	鉄製品	-		56



I 055 A

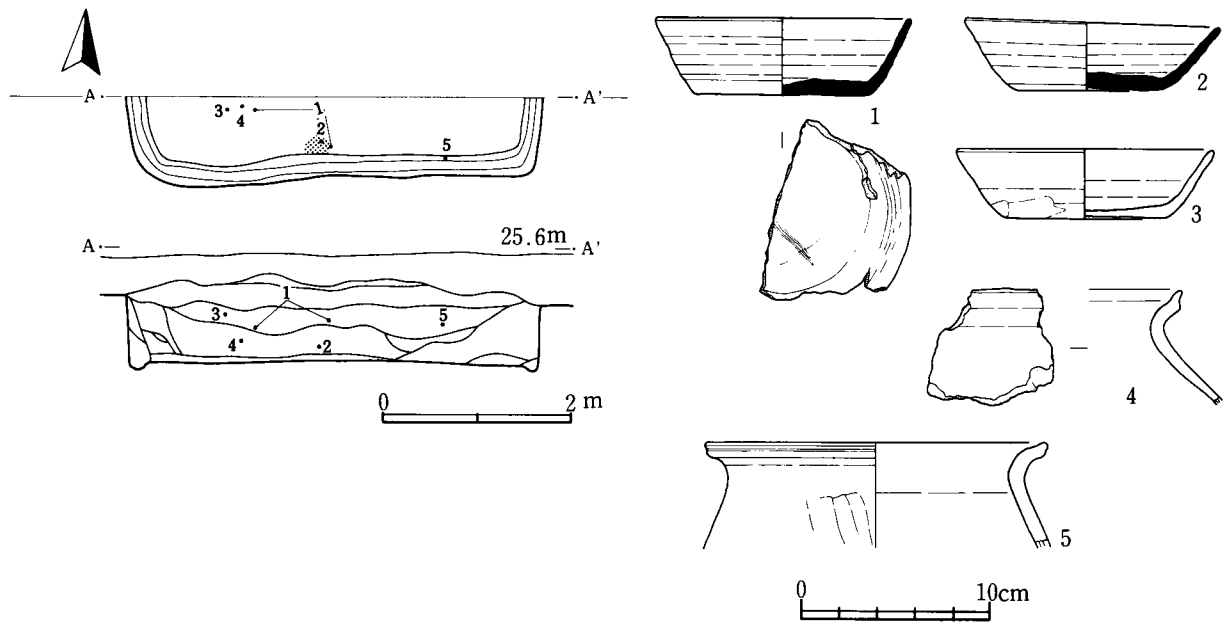
I 055 B



第93図 I 055 A・055 B

I 056 (第94図、図版27・132)

大半が調査区域外となる住居である。床面の掘込みはかなり深く、周溝も明瞭である。遺物量は少ない。



第94図 I 056

表81 I 056

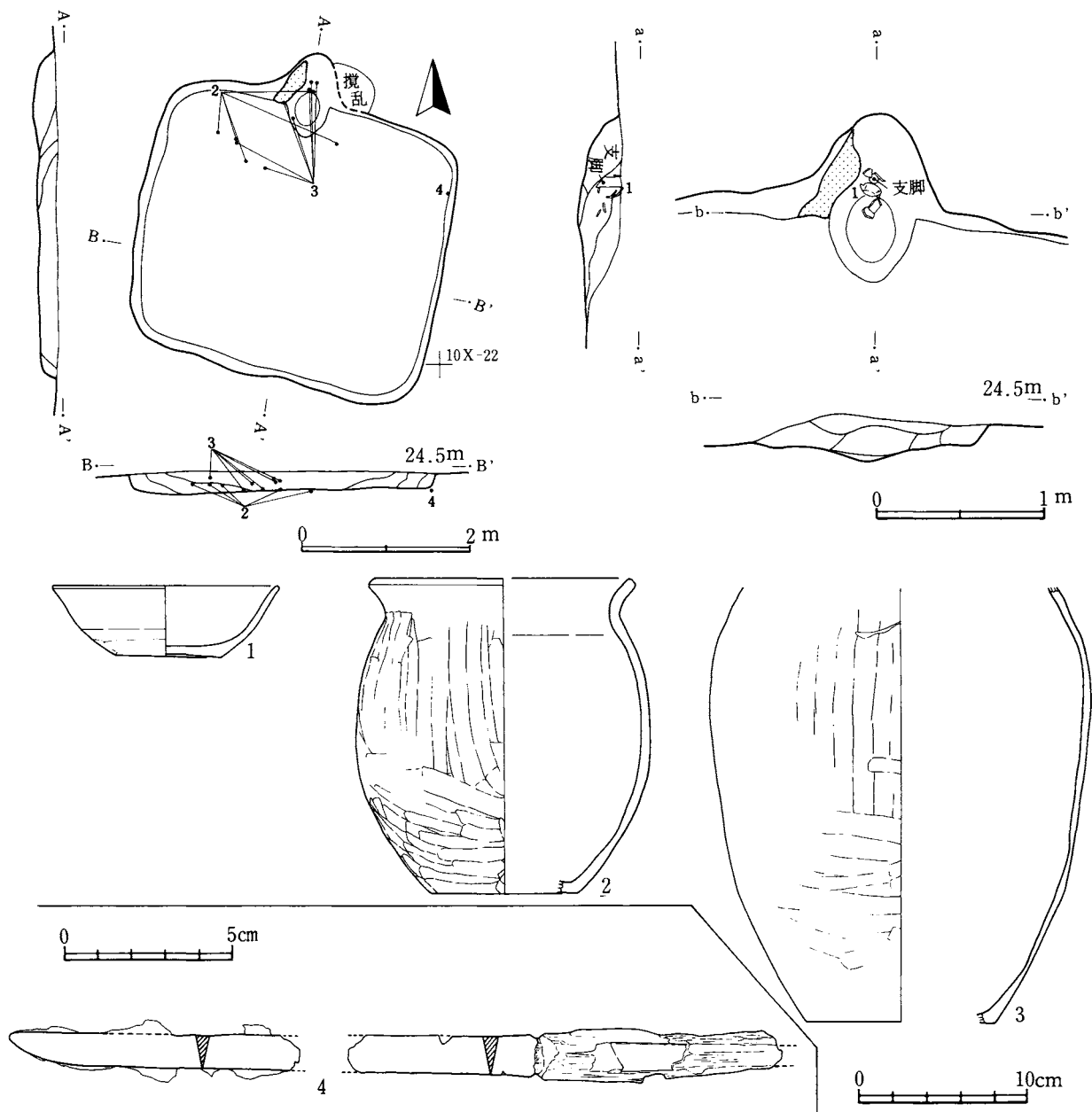
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第94図の1	須恵器 杯	(13.4)	4.1	(9.2)	雲母含む	灰白色	線刻(底外)「×」	3、14
第94図の2	須恵器 杯	(13.5)	(3.3)	7.4	雲母含む	灰褐色		19、25
第94図の3	土師器 杯	(13.6)	3.6	8.8	雲母含む	橙褐色		2
第94図の4	土師器 甕	—	—	—	雲母含む	暗褐色		21
第94図の5	土師器 甕	(18.0)	(5.5)	—	雲母含む	褐色		6

I 057 (第95図、図版27・132・169)

ほぼ正方形のプランの住居である。掘込みが浅く、壁溝・柱穴はない。竈内から支脚と土師器杯、及び甕片が出土している。茎部の木質の残る刀子が住居北東コーナー床面直上から出土している。

表82 I 057

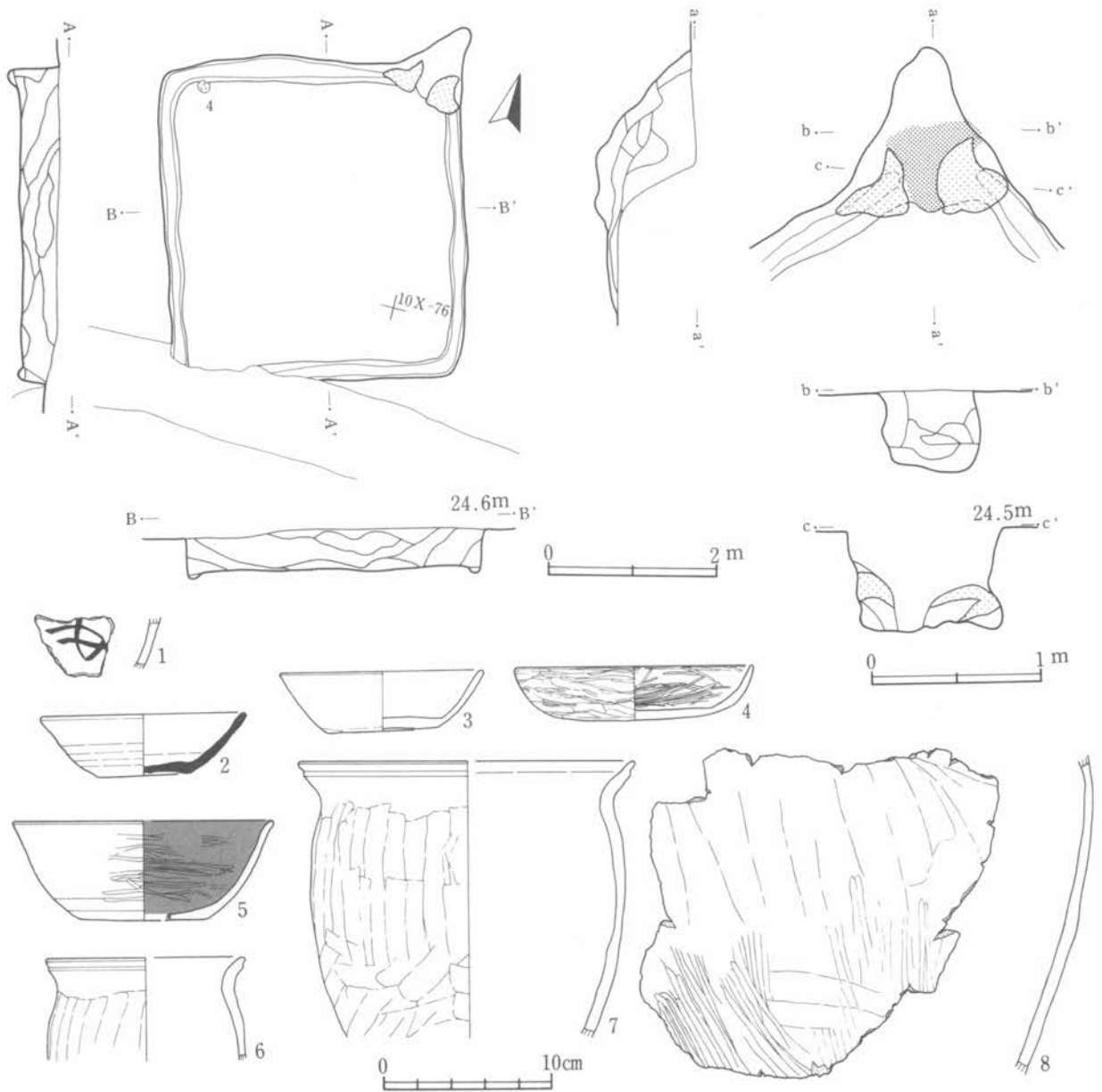
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第95図の1	土師器 杯	13.3	4.2	6.2	雲母含む	褐色～橙褐色		3、26
第95図の2	土師器小型甕	(17.2)	(18.4)	(8.8)	石英・砂含む	暗褐色		17、18、21、22、31、10X-01-1
第95図の3	土師器 甕	—	—	(11.2)	白色砂含む	淡褐色		16、20、23、24、25、26、28、10X-01-1
第95図の4	刀子	残存長 8.7	残存長 12.8	—	鉄製品	—	木質部残存	5



第95図 I 057

I 058 (第96図、図版28・132)

正方形のプランの住居で、南西コーナーを溝で削平される。壁溝は全周するが、柱穴はない。北東コーナーの隅竈は袖の残りは良くないものの、火床面は良く焼けている。住居埋土は人為的に埋められたものと判断される。遺物は住居ほぼ中央の埋土中層から上層にかけて出土している。



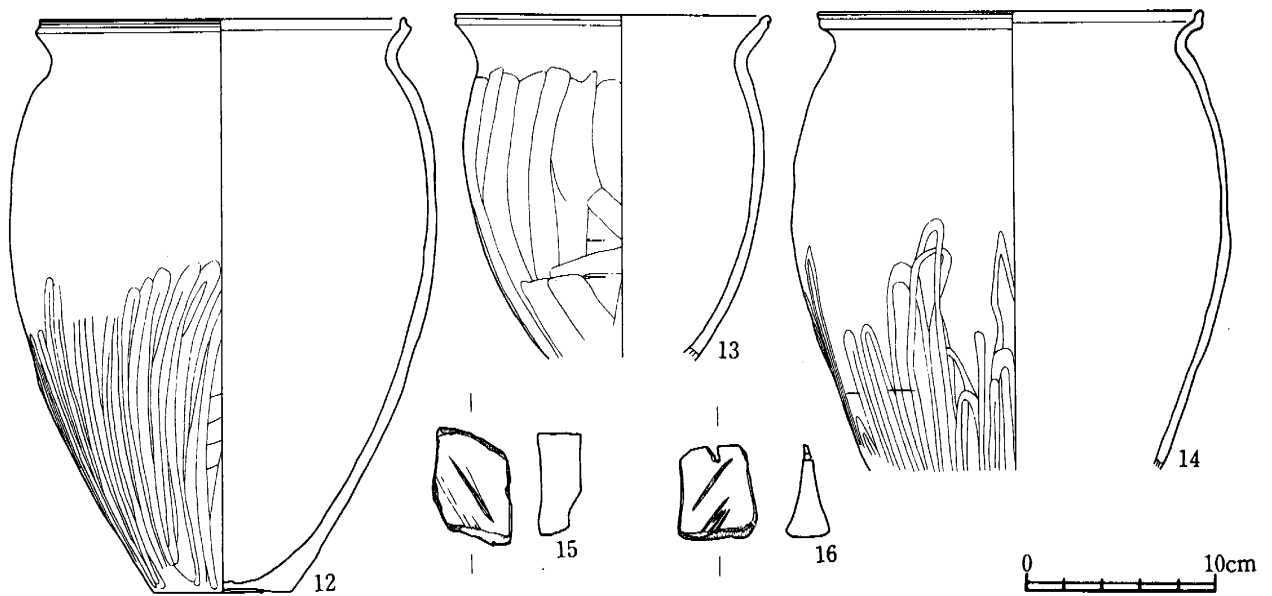
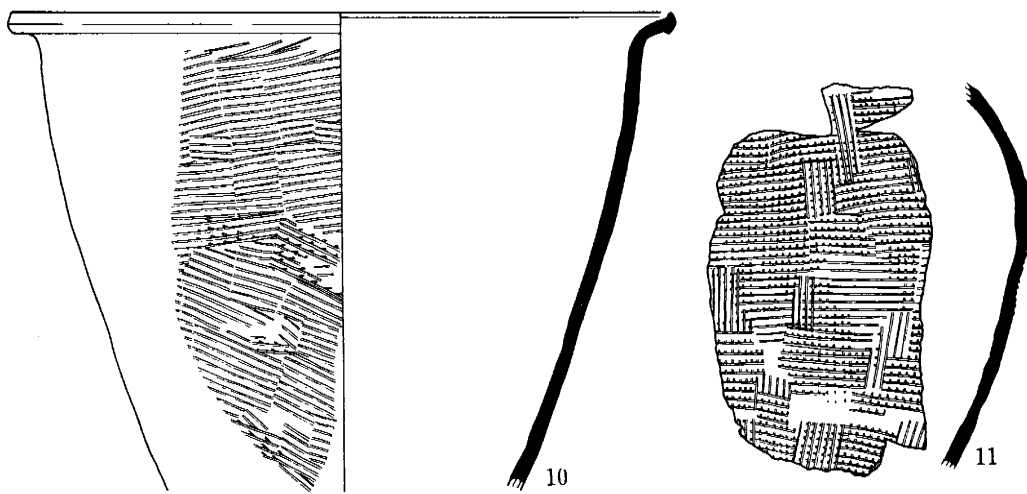
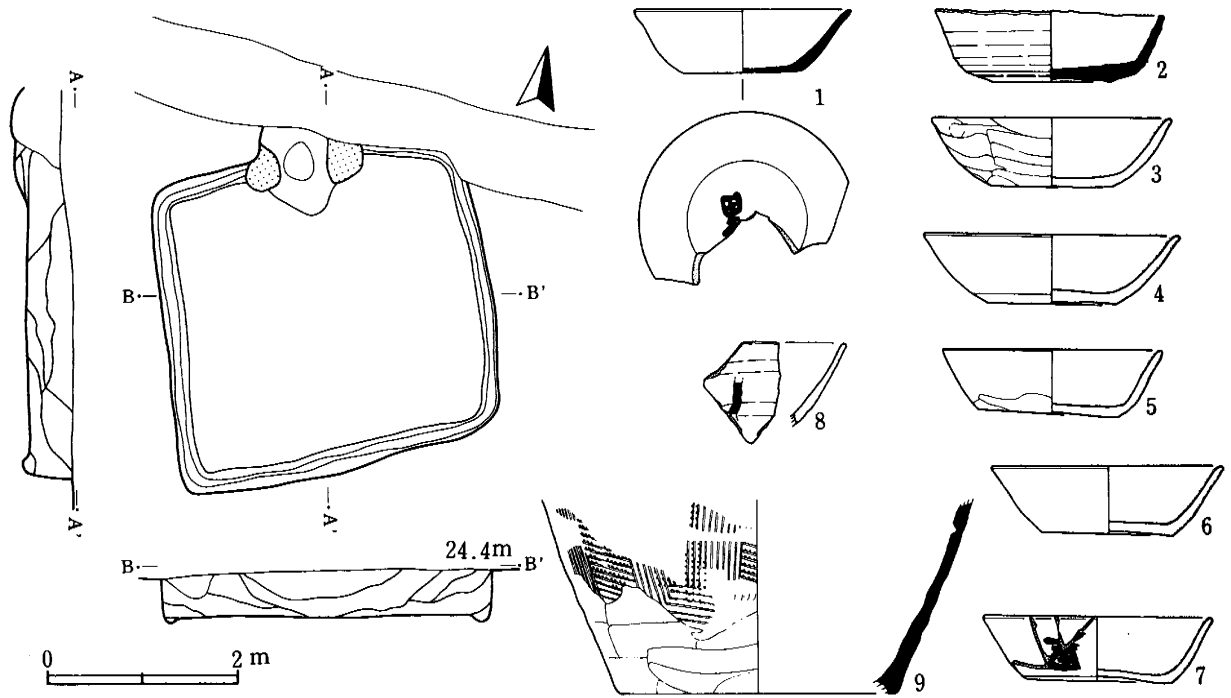
第96図 I 058

表83 I 058

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第96図の1	土師器 甕	-	-	-	-	-	墨書(体外) □	52
第96図の2	須恵器 杯	11.9	3.8	5.6	白色砂含む	青灰色		90
第96図の3	土師器 杯	11.9	3.5	6.5	雲母含む	淡褐色		1、18
第96図の4	土師器 杯	14.1	2.2	-	白色砂含む	褐色		94
第96図の5	土師器 杯	(15.4)	5.8	(7.4)	雲母含む	外面淡褐色 内面黒色	内黒	1、4、92
第96図の6	土師器小型甕	(11.4)	-	-	雲母含む	褐色		80、81、96、104
第96図の7	土師器 甕	(19.8)	-	-	雲母含む	暗褐色		1、23、24、114
第96図の8	土師器 甕	-	-	-	雲母・長石・石英含む	褐色		1、20、50、53、55、57、 58、59、60、61、62、63、 64、65、66、67、68、102

I 059 (第97図、図版28・132・167・172)

正方形プランの住居で、北側コーナーを溝で削平されている。壁溝は竈を除き全周するが、柱穴はない。掘り方面の調査では二重の壁溝を確認しており、一度拡張しているものと考えられる。住居埋土は人為的な埋戻しと判断される。また、竈前の床面直上からは、12・13・14の土師器甕がまとめて出土している。



第97图 I 059

表84 I 0 5 9

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第97図の1	須恵器 杯	(11.3)	3.4	6.3	長石・石英含む	青灰色	墨書(底外)「里」	87、153
第97図の2	須恵器 杯	11.9	3.8	11.2	長石・石英含む	暗灰色	口縁端磨減	61、81、152
第97図の3	土師器 杯	12.2	4.4	7.0	長石・石英・雲母・スコリア含む	褐色		1、155、165、167、175
第97図の4	土師器 杯	11.5	3.9	7.4	長石・石英・スコリア含む	褐色		2、3、42、60、137
第97図の5	土師器 杯	(12.4)	3.7	6.5	長石・石英含む	暗褐色		106
第97図の6	土師器 杯	(13.2)	3.6	6.8	長石・石英・スコリア含む	灰褐色		1、2、76、88、112、119
第97図の7	土師器 杯	11.9	7.6	3.4	雲母・石英含む	灰褐色	墨書(体外)「里」	2、3、104、125、127、151
第97図の8	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「□」	99
第97図の9	須恵器 甕	—	—	(14.7)	長石・石英・雲母・スコリア含む	黒灰色		112、154
第97図の10	須恵器 甕	—	—	—	長石・石英・雲母・スコリア含む	黒灰色		2、5、56、66、122、123
第97図の11	須恵器 甕	—	—	—	長石・石英・雲母・スコリア含む	灰褐色		150、162、164、169、182
第97図の12	土師器 甕	19.2	29.9	(7.2)	長石・石英・雲母・スコリア含む	暗褐色	常総型	13、149、156、157、158、159、160、177、185、199、203
第97図の13	土師器 甕	17.4	—	—	長石・石英・雲母・スコリア含む	赤褐色		67、170、174、181、184、189、193
第97図の14	土師器 甕	20.1	—	—	長石・石英・雲母・スコリア含む	暗褐色	常総型	4、190
第97図の15	磁石	重さ 71.2g	—	—	凝灰岩	—		113
第97図の16	磁石	重さ 39.6g	—	—	凝灰岩	—	1孔	206

## I 060 (第98図、図版28・29・133)

正方形プランの非常に小型の住居である。支柱穴は南側の2本のみ確認できた。壁溝は、竈の下に至るまで造られている。竈内からはまとまって遺物が出土している。硯に転用した須恵器片が出入口ピット直上から出土している。

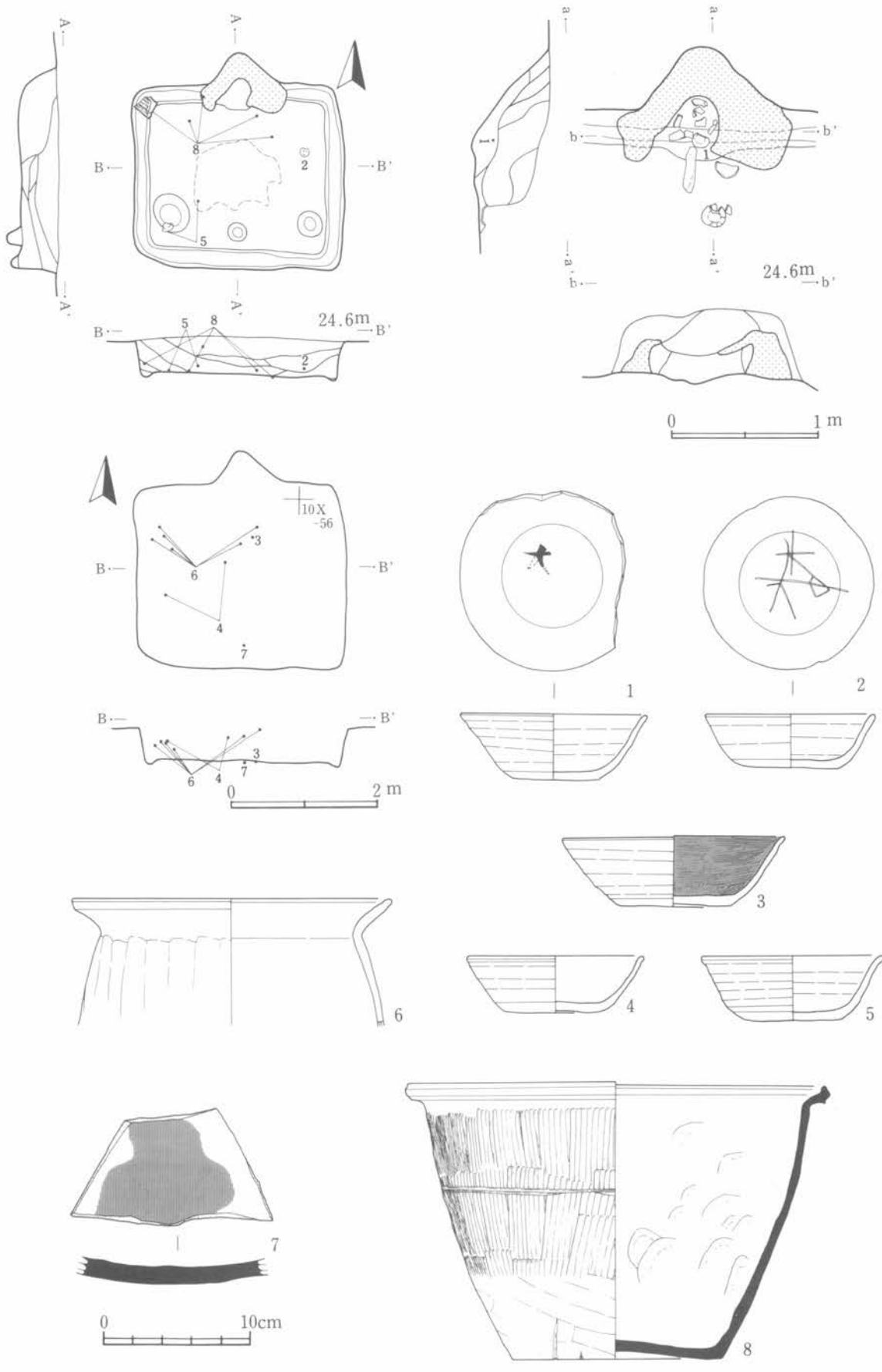
表85 I 0 6 0

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第98図の1	土師器 杯	(12.9)	4.4	6.0	長石・スコリア含む	褐色	墨書(底内)「大」	58
第98図の2	土師器 杯	11.6	3.6	6.5	雲母・スコリア含む	赤褐色	線刻(底内)「大加」	51
第98図の3	土師器 杯	15.2	4.9	7.9	雲母含む	黒褐色	内黒	54
第98図の4	土師器 杯	(12.2)	3.8	6.4	スコリア含む	赤褐色		3、22、31
第98図の5	土師器 杯	12.5	4.3	6.9	雲母・スコリア含む	赤褐色		3、4、33、53
第98図の6	土師器 甕	21.9	—	—	雲母・長石含む	赤褐色		4、20、26、27、28、29、43、73
第98図の7	転用硯	縦 8.0 横 14.0	—	—	石英含む	青灰色	須恵器甕胴部内面使用	50
第98図の8	須恵器 甕	29.0	14.3	18.7	石英・砂含む	青灰色		1、15、24、42、52、56

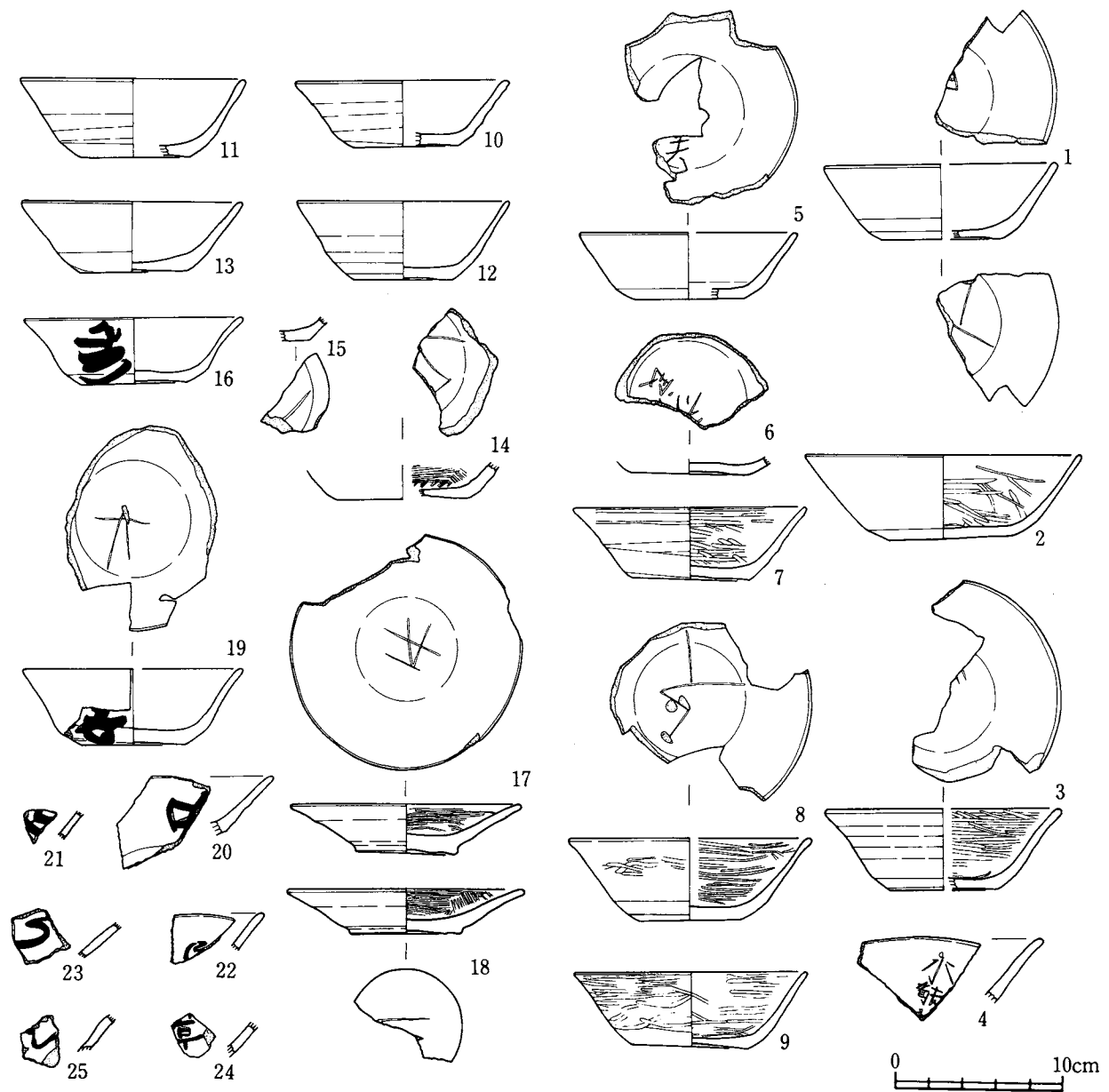
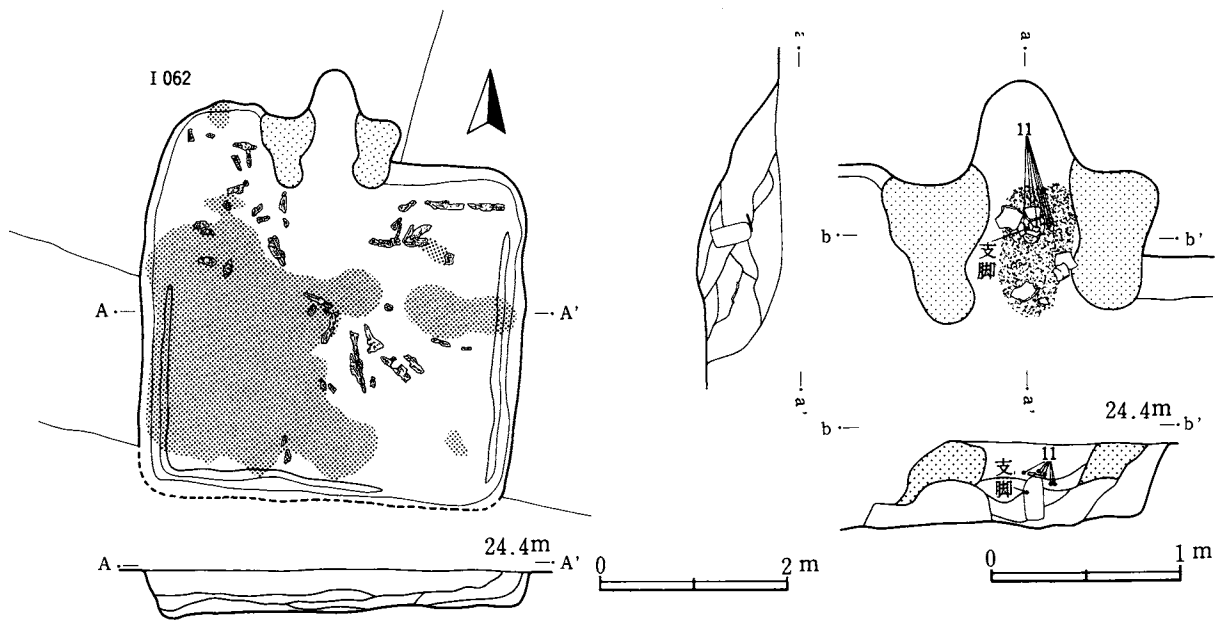
## I 061 (第99・100図、図版29・133・165・168・169・172)

多量の焼土と炭化材が遺存しているので、焼失家屋と判断できる。竈左側壁が外側に大きく張り出している。竈内には直立した支脚の上に、土師器杯と皿が伏せて置いてあった。遺物は、土師器杯の出土量が多い。32は鉄釘と考えられ、住居東側床面直上から出土した。33は先端が欠損しているが、鏃と考えられる。住居南壁際から出土した。34の刀子の刀身部から茎部片は、竈前面の床面からやや浮いた状態で、また35の紡錘車は住居北壁際埋土上層中から出土した。「久祢良」の線刻土器、「千万」の墨書土器をはじめとして、多くの文字資料が見られる。

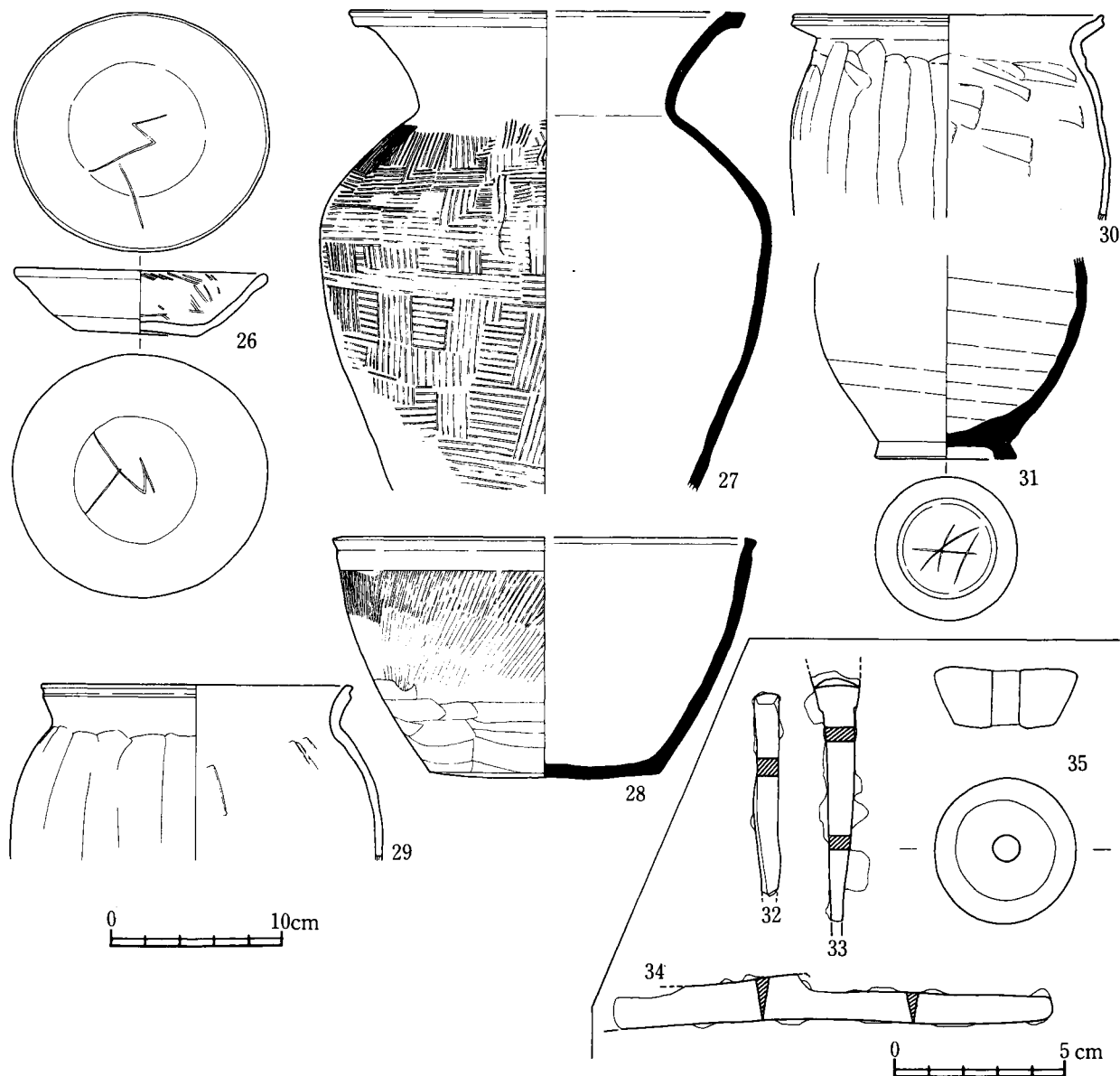




第98图 I 060



第99图 I 061(1)  
— 124 —



第100図 I 061(2)

表86 I 061

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第99図の1	土師器 杯	(13.5)	4.4	(7.2)	雲母・長石含む	褐色	線刻(底内)  線刻(底外) 	4、8、111
第99図の2	土師器 杯	16.3	4.9	7.3	雲母・長石・石英・スコリア含む	暗褐色		4、76、196、202、207、210
第99図の3	土師器 杯	(13.7)	4.8	(3.3)	雲母・長石・スコリア含む	褐色	線刻(底内) 	4、72
第99図の4	土師器 皿	-	-	-	-	-	線刻(体外) 「水」 	99
第99図の5	土師器 杯	(12.8)	3.9	6.5	雲母・スコリア含む	褐色	線刻(底内) 「千万」	1、4、82、84
第99図の6	土師器 杯	-	-	6.3	-	-	線刻(底内) 「久弥良」	64
第99図の7	土師器 杯	13.9	4.3	6.9	雲母・長石・石英・スコリア含む	暗褐色		2、4、28、148、189、191
第99図の8	土師器 杯	(14.2)	4.8	6.1	雲母・長石・スコリア含む	褐色	線刻(底内) 「久」	3、38、39、95、157
第99図の9	土師器 杯	13.8	4.4	6.8	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		188
第99図の10	土師器 杯	12.4	3.9	6.2	雲母・長石・スコリア含む	褐色		4、61、69、134
第99図の11	土師器 杯	13.2	4.6	6.5	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		198、199、200、201、204、205、206、210
第99図の12	土師器 杯	(12.6)	4.6	5.8	雲母・石英・長石・スコリア含む	明褐色		13
第99図の13	土師器 杯	12.9	4.2	6.4	雲母・石英・長石・スコリア含む	褐色		3、106
第99図の14	土師器 杯	-	-	(7.8)	-	-	線刻(底内) 	31

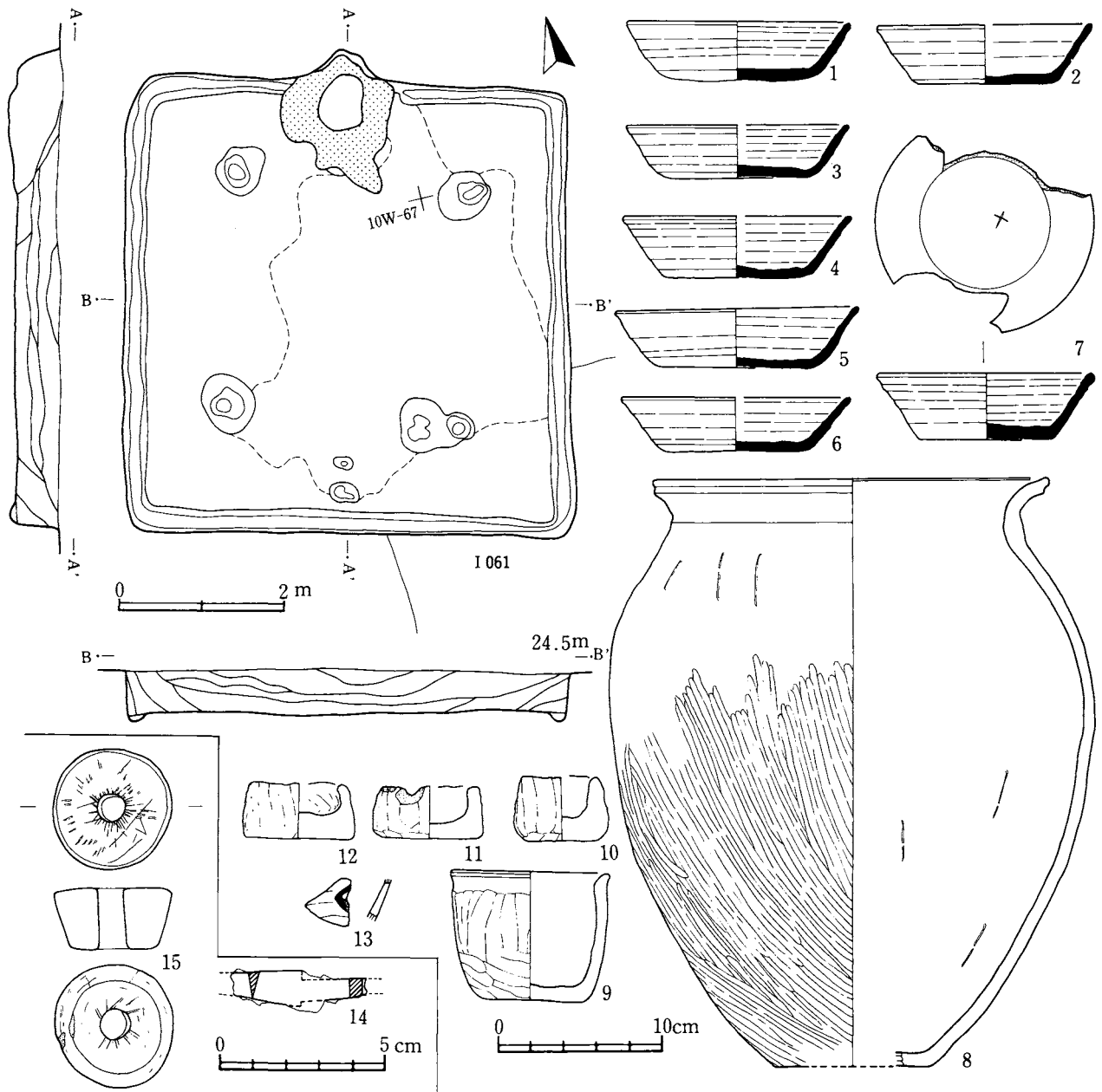
第99図の15	土師器 杯	—	—	—	—	—	ヘラ書き (底外) 「□」	3
第99図の16	土師器 杯	(12.8)	3.9	6.3	雲母・長石・スコリア含む	褐色	墨書 (体外) 「千万」	1、4、184、193
第99図の17	土師器 高台付皿	13.6	2.9	6.1	雲母・石英・長石含む	赤褐色	線刻 (底内) 「□」	202、203、210
第99図の18	土師器 皿	(13.9)	2.6	(6.7)	雲母・長石含む	褐色	線刻 (底外) 「□」	3、107
第99図の19	土師器 杯	(12.8)	4.4	6.1	雲母・長石・スコリア含む	褐色	線刻 (底内) 「大」 墨書 (体外) 「□万」	3、8
第99図の20	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書 (体外) 「中」	2
第99図の21	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書 (体外) 「□」	1
第99図の22	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書 (体外) 「□」	4
第99図の23	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書 (体外) 「□」	1
第99図の24	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書 (体外) 「□」	1
第99図の25	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書 (体外) 「□」	4
第100図の26	土師器 杯	14.6	3.7	7.2	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色	線刻 (底内) 「久」 線刻 (底外) 「久」	187
第100図の27	須恵器 甕	(22.8)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	灰褐色		1、2、3、4、57、75、81、113、114、151、162
第100図の28	須恵器 鉢	(23.5)	13.8	(13.5)	長石含む	暗褐色		2、3、32、140、165、172、194
第100図の29	土師器 甕	(18.1)	—	—	雲母・長石・砂・スコリア含む	暗褐色		1、17、18、37、102、210
第100図の30	土師器 甕	17.8	—	—	雲母・石英・スコリア含む	暗褐色		1、11、195、197
第100図の31	須恵器長頸瓶	—	—	8.2	長石・スコリア含む	灰色		122、10W-76-1
第100図の32	釘?	残存長 5.8	—	—	鉄製品	—		182
第100図の33	鉄鏃	残存長 7.2	—	—	—	—		164
第100図の34	刀子	残存長 12.8	—	—	鉄製品	—		178
第100図の35	紡錘車	上端径 4.2	下端径 3.0	厚さ2.7	片岩、43.3g	—		94

## I 062 (第101図、図版29・133・165)

極めて整った正方形プランの大型住居で、4本の支柱穴と壁溝及び出入口ピットが明瞭に確認できる。竈袖を構成する灰白色砂は、つぶれて、ドーナツ状に分布している。須恵器杯が多いことと手捏ね土器が出土していることが特徴である。3個体の手捏ね土器は、床面上からの出土であるが、集中して出土はしていない。15の紡錘車は住居北東側柱穴脇の床面上から出土した。8の土師器甕は床面上から破片で分散して出土した。

表87 I 062

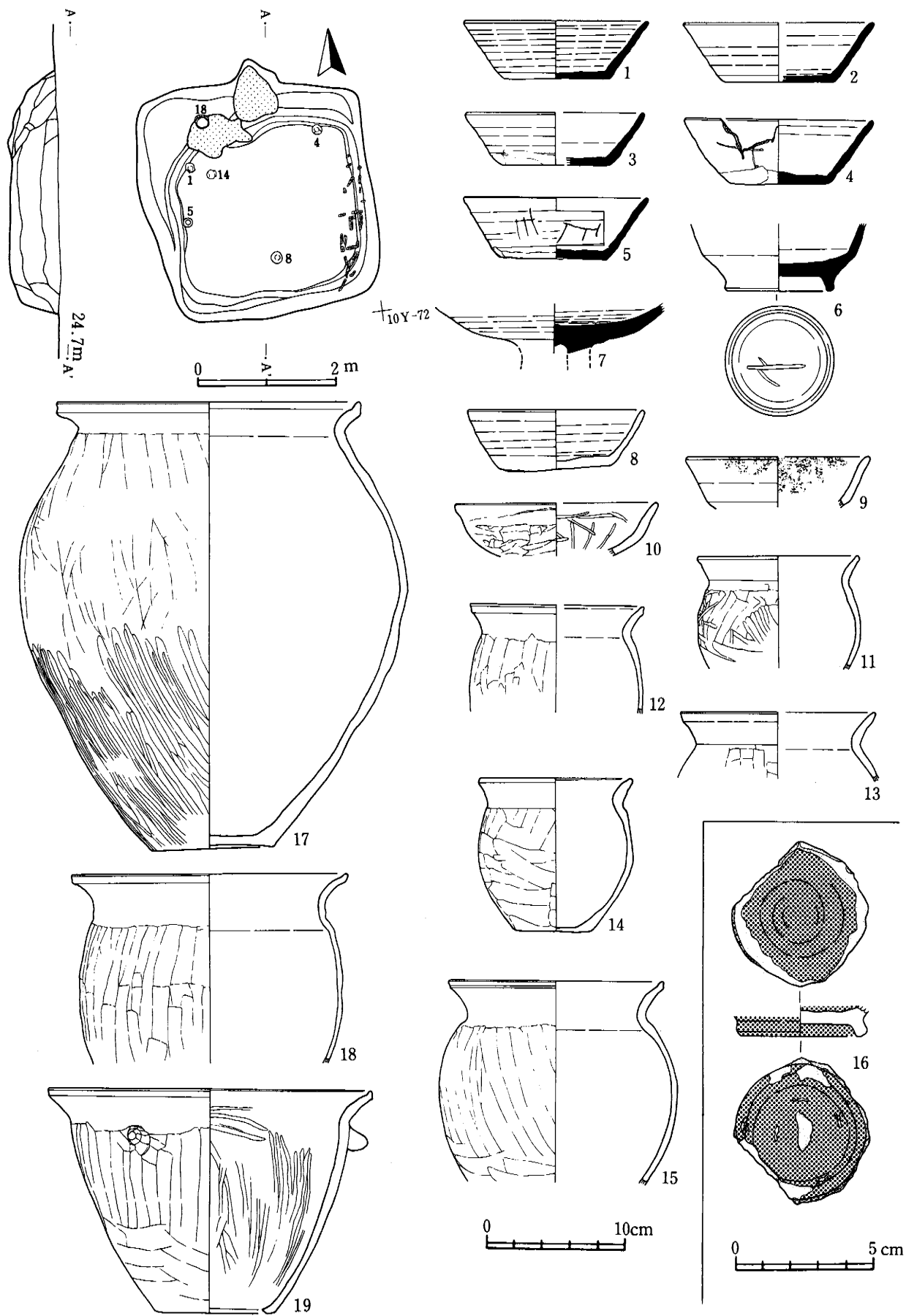
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第101図の1	須恵器 杯	13.7	3.6	9.5	石英・長石・雲母・スコリア含む	灰白色	常陸産	109、144、180、194、196
第101図の2	須恵器 杯	(13.2)	3.6	(8.2)	雲母・長石・石英含む	灰白色	常陸産	137、191、198、10W-56-1
第101図の3	須恵器 杯	(13.5)	3.3	9.0	雲母・長石・石英・スコリア含む	灰白色	常陸産	12、46
第101図の4	須恵器 杯	(13.9)	3.6	(9.2)	雲母・長石・石英・スコリア含む	灰白色	常陸産	79、83、129、一括
第101図の5	須恵器 杯	14.9	3.6	9.6	雲母・長石・石英含む	灰白色	常陸産	60、132、135、一括
第101図の6	須恵器 杯	(14.0)	3.1	8.9	雲母・長石・石英含む	灰白色	常陸産	23、32?、52、56、161
第101図の7	須恵器 杯	13.3	4.0	8.3	石英・スコリア含む	淡褐色	線刻 (底内) 「+」 常陸産	157、171、176、一括
第101図の8	土師器 甕	24.0	35.2	(9.4)	石英・長石・雲母含む	褐色		34、43、44、45、57、60、62、64、66、67、69、70、72、78、116、150、152、154、155、178、179、180、183、186、192、197、198
第101図の9	土師器小型甕	9.8	7.7	6.2	雲母・長石・石英含む	橙褐色		20、47、84、85、90、130、131、166、一括
第101図の10	手捏ね	(4.6)	4.9	4.8	白色砂含む	赤褐色	焼成不良	6、8
第101図の11	手捏ね	(5.9)	3.2	(6.0)	白色砂含む	赤褐色	焼成不良	93、96
第101図の12	手捏ね	(5.8)	(3.4)	6.4	白色砂含む	赤褐色	焼成不良	142
第101図の13	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書 (体外) 「□」	一括
第101図の14	刀子	残存長 4.2	—	—	鉄製品	—		163
第101図の15	紡錘車	上端幅 3.6	下端幅 2.5	厚さ1.9	滑石、39.3g	—		193



第101図 I 062




I 063 (第102図、図版30・133・134)

小型の方形プランの住居で、新旧2つの竈を有し、内側の竈の方が新しい。竈構築とともに住居の規模が変わっており、この場合はその規模を縮小したことになる。新旧竈ともに袖の範囲が不明瞭で、ほとんど山砂塊の様相を呈する。比較的良好的な遺物が多い。17は竈前面の床面直上から出土している。二彩の壺の底部片が埋土中から出土している。



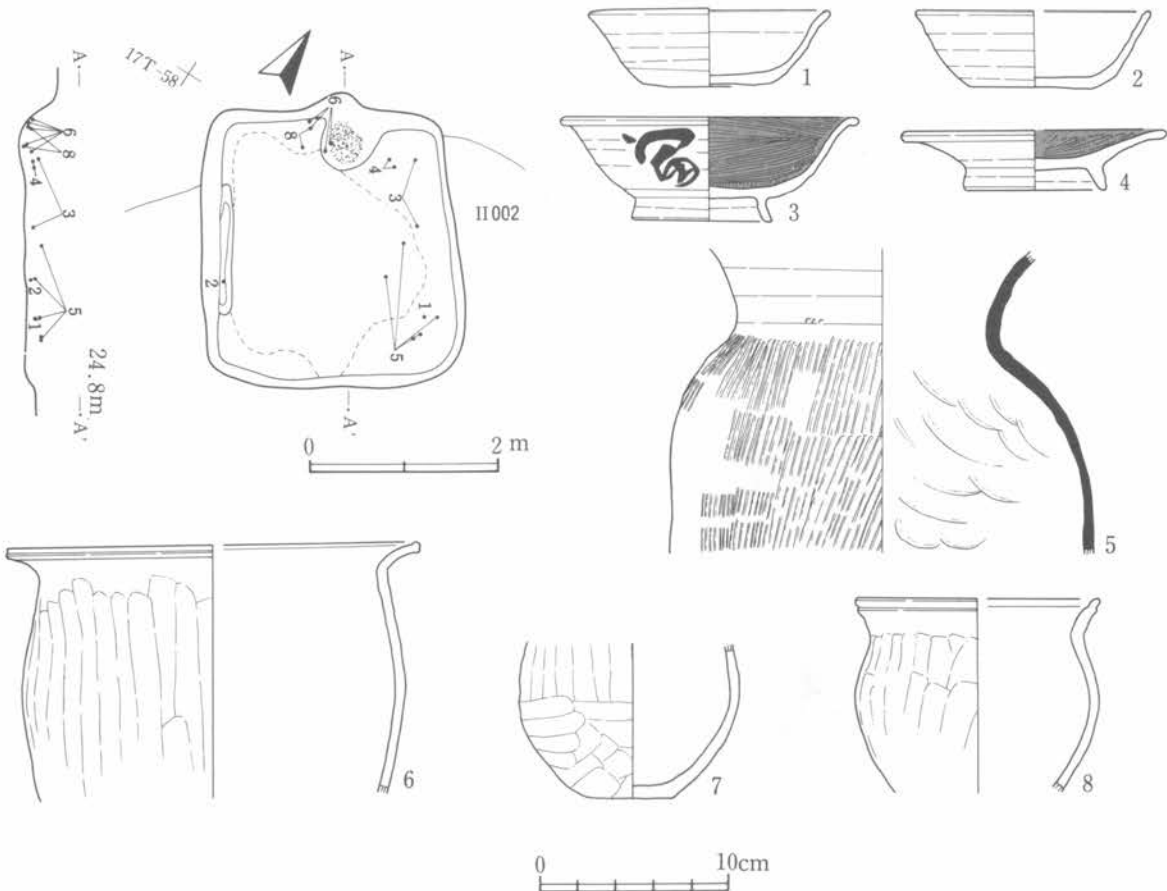
第102图 I 063

表88 I 0 6 3

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第102図の1	須恵器 杯	13.3	4.2	7.7	雲母・石英含む	黄褐色	常陸産	190
第102図の2	須恵器 杯	(13.6)	4.3	(7.7)	雲母・石英含む	灰褐色	常陸産	17、18、48、134、139
第102図の3	須恵器 杯	(12.7)	3.9	(7.8)	雲母・石英含む	灰色		4、32、33、40
第102図の4	須恵器 杯	13.6	4.8	7.2	雲母・石英含む	橙褐色	線刻(体外) 	186
第102図の5	須恵器 杯	13.3	4.4	7.8	石英・長石含む	灰色	線刻(体外) 	188
第102図の6	須恵器 高台付椀	-	-	7.4	雲母・長石・石英含む	淡褐色	ヘラ書き(底外) 	131、184
第102図の7	須恵器 高杯	-	-	-	石英・長石多量に含む	灰色		162
第102図の8	土師器 杯	12.8	4.4	8.1	石英含む	橙褐色		187
第102図の9	土師器 杯	(13.0)	-	-	砂粒含む	淡褐色	口縁に油煙付着、灯明具	1、26
第102図の10	土師器 杯	(14.6)	-	-	砂粒・白色針状物含む	黒褐色		40
第102図の11	土師器 小型甕	11.4	-	-		暗褐色		4、160、175、185
第102図の12	土師器 小型甕	(12.5)	-	-	砂粒含む	暗褐色		189
第102図の13	土師器 小型甕	(14.0)	-	-	石英・砂粒含む	暗褐色		4、15、21、29
第102図の14	土師器 小型甕	10.9	10.8	5.7	砂粒多く含む	暗褐色		189
第102図の15	土師器 壺	15.4	-	-	雲母・砂・スコリア含む	暗褐色		1、4、27、39、49、60、61、71、76、88、89、96、98、127、129、169、170、171、176、177、179、180
第102図の16	二彩 小型壺	-	-	4.2	砂粒少し含む	胎土は白色で、軟質	内面白濁釉、外面緑灰色釉	2
第102図の17	土師器 甕	21.7	32.0	(8.6)	雲母・石英含む	暗褐色		4、5、9、10、11、12、13、24、25、38、42、43、44、45、54、55、56、63、64、65、66、67、69、70、71、72、78、79、80、81、82、83、84、85、87、91、92、93
第102図の18	土師器 甕	19.7	-	-	雲母・砂粒・石英含む	暗褐色		4、142
第102図の19	土師器 甕	23.2	15.8	8.7	雲母・スコリア含む	暗褐色		95、101、102、125、130、173

II001 (第103図、図版33・134・172)

小型の方形プランの住居で、主柱穴はなく、西壁際にのみ浅い壁溝を確認できる。竈の遺存状態は不良である。内面黒色処理の土師器高台付椀(3)の体部外面に「富」の墨書が見られる。



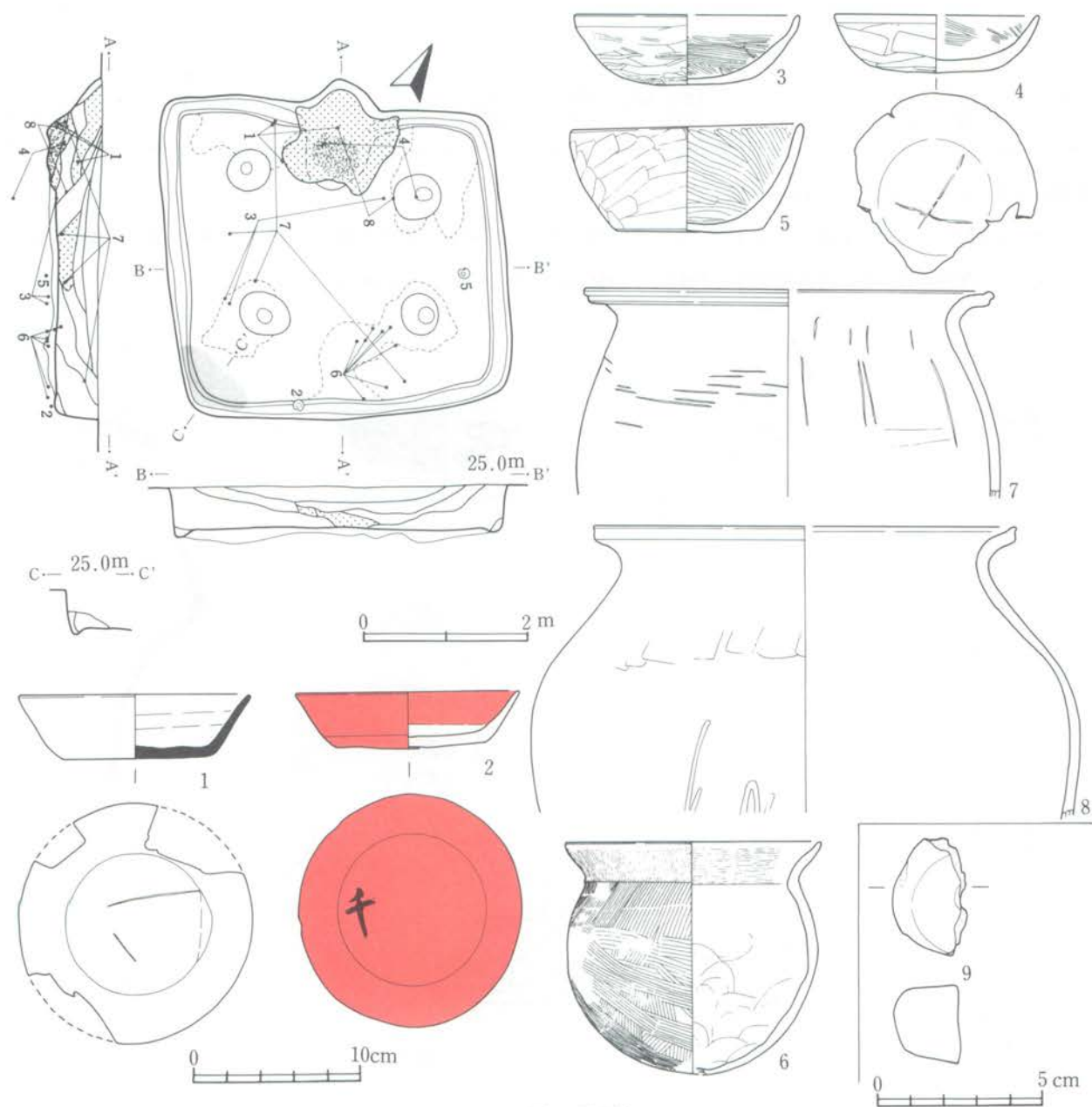
第103図 II001

表89 II 0 0 1

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第103図の1	土師器 杯	12.9	4.1	7.0	砂粒・スコリア含む	淡褐色		44
第103図の2	土師器 杯	(12.4)	4.0	6.1	石英・長石・スコリア含む	黄褐色		29、II002-2
第103図の3	土師器 高台付碗	15.8	5.4	7.5	雲母・石英・長石・スコリア含む	外面橙褐色 内面黒色	内黒、墨書(体外)「富」	3、52
第103図の4	土師器 皿	(14.0)	3.2	7.6	雲母・石英・長石・スコリア含む	外面橙褐色 内面黒褐色	内黒	1、5、6、II002-2
第103図の5	須恵器 甕	-	-	-	長石多く含む	褐灰色	外面平行タタキ目	1、42、43、45、48、51、
第103図の6	土師器 甕	(21.8)	-	-	長石・砂粒・スコリア含む	暗褐色		1、13、16、55、57、64、 II002-2
第103図の7	土師器小型甕	-	-	4.6	雲母・砂粒・スコリア含む	茶褐色		1、26、II002-2
第103図の8	土師器小型甕	(12.8)	-	-	雲母・長石・スコリア含む	淡褐色		16、67

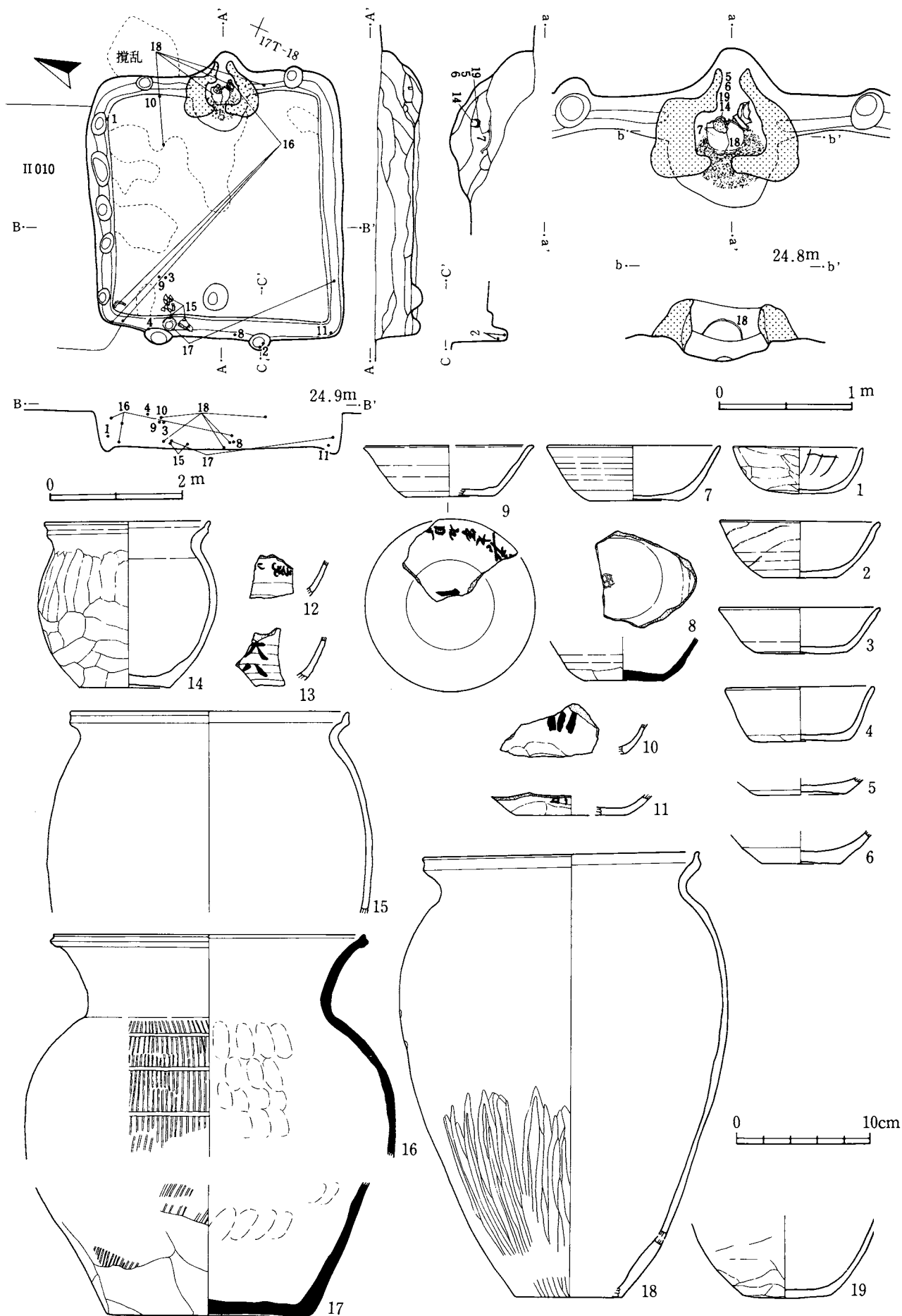
II003 (第104図、図版33・134・135)

主柱穴を4本有する掘込みの明瞭な住居である。北側コーナーの床面上には灰白色粘土が堆積していた。また、竈は意識的に壊されていた。床の硬化面は、柱穴の周辺から壁の方向に沿って見られた。床面直上から貼床面にかけて、ハケ目調整の丸底甕(6)が出土している。



第104図 II003





第105图 II 004

表90 II 0 0 3

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第104図の1	須恵器 杯	13.8	3.85	8.8	雲母・長石・スコリア含む	褐灰色	ヘラ書き(底外)「□」	9、71、81
第104図の2	土師器 杯	13.4	3.4	9.1	—	明褐色	内外面赤彩 墨書(底外)「千」	90
第104図の3	土師器 杯	(13.8)	4.1	—	石英・長石・スコリア含む	褐色		37、65、66
第104図の4	土師器 杯	(12.3)	3.4	(7.0)	石英・長石・砂粒・スコリア含む	明褐色	ヘラ書き(底外)「×」	86、92
第104図の5	土師器 鉢	13.8	6.3	9.0	石英・長石・砂粒・スコリア含む	赤褐色		48
第104図の6	土師器小型甕	15.3	13.8	—	石英・長石含む	浅黄褐色	外面ハケ目、丸底	2、53、55、56、58、69、85、88、89、94
第104図の7	土師器 甕	(23.3)	(12.3)	—	雲母・長石・砂粒・スコリア含む	暗褐色～褐色		1、5、11、52、64
第104図の8	土師器 甕	(25.4)	(17.05)	—	雲母・長石・砂粒・スコリア含む	暗褐色～赤褐色	常総型	1、15、87、91
第104図の9	紡錘車	—	(2.3)	—	長石・砂粒含む			1

## II004 (第105図、図版34・35・135・172)

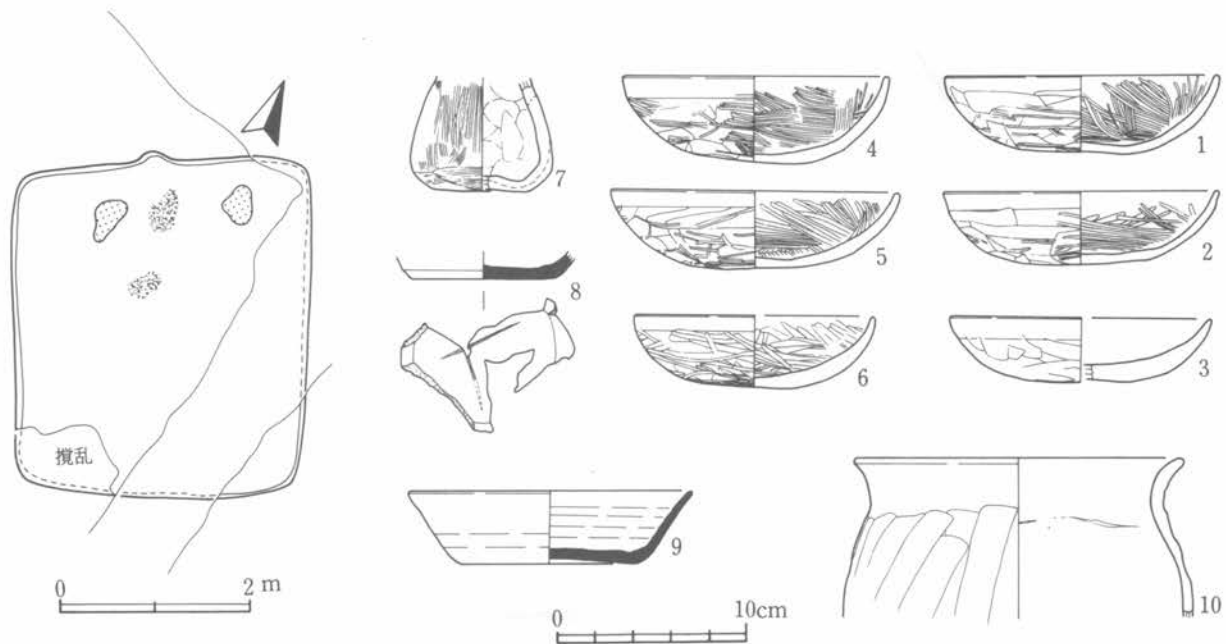
出入口ピットと壁柱穴をもつ住居である。竈火床部から、倒位の小型甕の上に3枚の甕破片を重ねた状態の転用支脚を確認した。遺物には、墨書で「弘仁九年九月廿」と読める土師器杯(9)が住居埋土上層から出土している。

表91 II 0 0 4

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第105図の1	土師器 杯	9.7	3.4	6.0	砂粒・雲母含む	淡褐色	灯明皿、線刻(体内)「卍」	12
第105図の2	土師器 杯	10.8	4.3	5.6	砂粒・雲母・スコリア含む	橙褐色	粘土紐痕跡	75、80
第105図の3	土師器 杯	(12.0)	3.4	(7.0)	砂粒含む	橙褐色		3、56
第105図の4	土師器 杯	(11.0)	4.0	(7.2)	砂粒・スコリア含む	橙褐色		3、4、19
第105図の5	土師器 杯	—	—	(6.2)	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		70
第105図の6	土師器 杯	—	—	(5.8)	雲母・長石・スコリア含む	明褐色		70
第105図の7	土師器 杯	(12.8)	4.0	(6.7)	砂粒・雲母含む	褐色		66、70
第105図の8	須恵器 杯	—	—	(6.0)	雲母・長石・石英含む	暗灰色	線刻(底内)「田」、常陸産	21
第105図の9	土師器 杯	(12.7)	3.7	(16.7)	長石・石英・スコリア・雲母含む	褐色	墨書(体外)「弘仁九年九月廿」	3、17
第105図の10	土師器 杯	—	—	—	砂粒含む	暗褐色	墨書(体外)「小」	6
第105図の11	土師器 杯	—	—	(8.2)	砂粒・雲母含む	淡褐色	墨書(体外)「□」	23
第105図の12	土師器 杯	—	—	—	雲母・スコリア含む	淡褐色	墨書(体外)「家□」	85
第105図の13	土師器 杯	—	—	—	砂粒・雲母含む	淡褐色	墨書(体外)「大八」	1
第105図の14	土師器 甕	12.3	12.3	6.7	砂粒・スコリア含む	褐色		70
第105図の15	土師器 甕	(20.5)	—	—	砂粒・長石・石英・雲母含む	淡褐色		4、20、74、77
第105図の16	須恵器 甕	(23.0)	—	—	砂粒・雲母含む	暗褐色	常陸産	58、59、65、73
第105図の17	須恵器 甕	—	—	14.7	長石・石英・雲母含む	灰色～暗褐色	常陸産	2、48、78
第105図の18	土師器 甕	20.5	32.8	(8.0)	礫・長石・石英含む	褐色		1、2、3、6、11、44、66、69
第105図の19	土師器 甕	—	—	6.7	砂粒多く含む	橙褐色		70

## II005 (第106図、図版35・135)

方形プランの、非常に掘込みの浅い住居である。そのため、竈はほとんど遺存しない。住居中央寄りに、竈火床面とは別の被熱面がある。柱穴、周溝ともに確認できない。明瞭な底部をもたないヘラミガキを施す土師器杯が多いのが特徴である。また、外面にハケ目調整を施す袋状の埴型土器が出土している。



第106図 II005

表92 II005

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第106図の1	土師器 杯	14.3	4.0	-	石英・スコリア含む	明褐色		1、7、8、49、51、52、54、61、64
第106図の2	土師器 杯	14.4	3.8	-	スコリア含む	明褐色		10、27、61
第106図の3	土師器 杯	13.5	3.4	-	長石・砂粒・スコリア含む	明褐色		1、17、23、41、43、61、66
第106図の4	土師器 杯	13.8	4.5	-	長石・スコリア含む	明褐色		1、10、28、30、40、61
第106図の5	土師器 杯	15.0	4.0	-	石英・長石・スコリア含む	明褐色		1、8、10、11、12、50、60、61
第106図の6	土師器 杯	12.6	3.9	-	石英・長石・スコリア含む	明赤褐色		1、35、39、40
第106図の7	土師器 埴	-	-	(5.2)	長石・スコリア含む	褐色	外面ヘラミガキ、ミニチュア	1、3、13
第106図の8	須恵器 杯	-	-	7.5	雲母・長石・砂粒含む	灰黄色	ヘラ書き(底外) □□	9、10、63
第106図の9	須恵器 杯	14.9	3.8	9.4	雲母・長石・砂粒含む	灰黄色		5、36、44、45、47、61
第106図の10	土師器 甕	17.1	-	-	石英・長石・砂粒・スコリア含む	赤褐色		24、34

II006 (第107図、図版36・135)

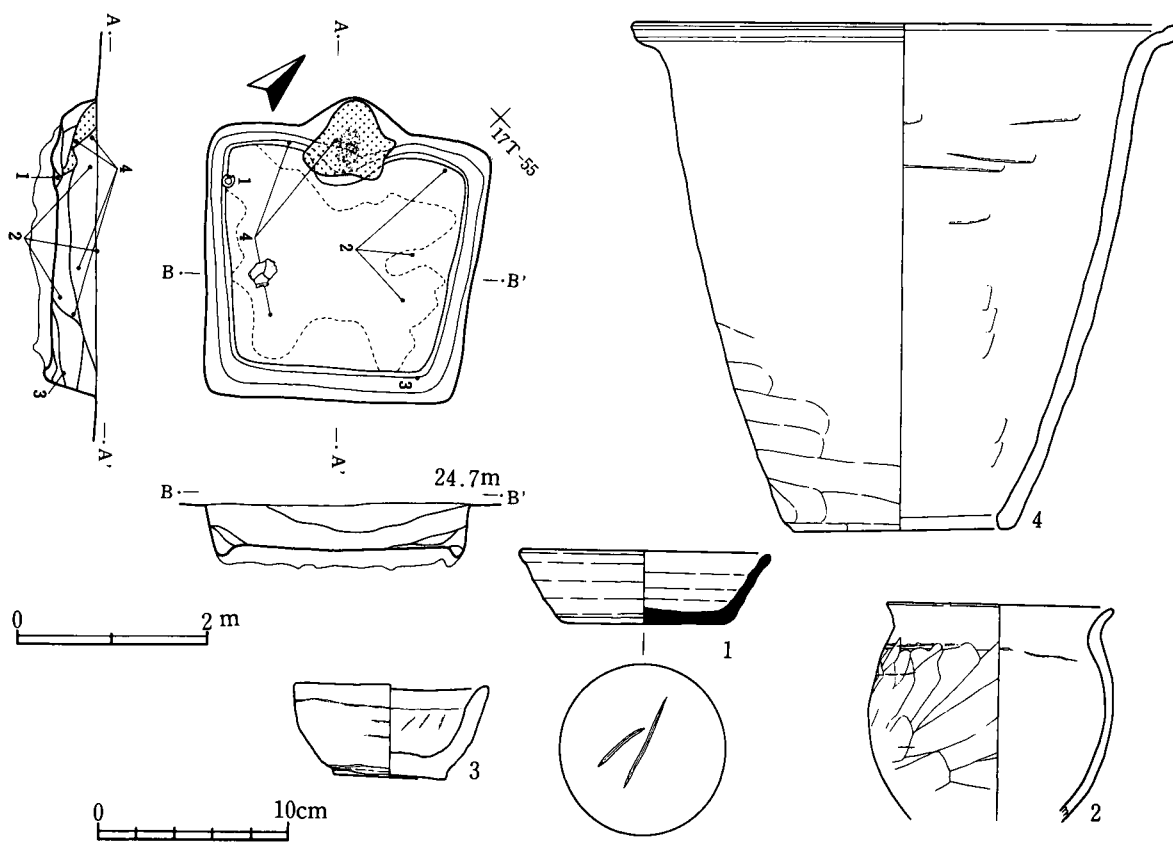
台形プランの小型の住居である。支柱穴はないが、全周する壁溝は、竈下まで掘られている。床面全体が貼床となっている。遺物量は少ない。

表93 II006

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第107図の1	須恵器 杯	13.4	3.8	8.8	石英・長石・スコリア含む	淡灰白色	ヘラ書き(底外) □□	26、36
第107図の2	土師器小型甕	11.8	-	-	雲母・石英・長石含む	褐色		2、5、7、12
第107図の3	土師器 鉢	10.3	5.2	4.9	雲母・石英・長石・砂粒含む	淡褐色	底外木葉痕	15
第107図の4	土師器 甕	28.8	26.8	11.6	雲母・石英・長石・スコリア含む	淡黄褐色		1、3、4、21、25、27、30、36

II007 (第108図、図版36・135・136・167・168・173)

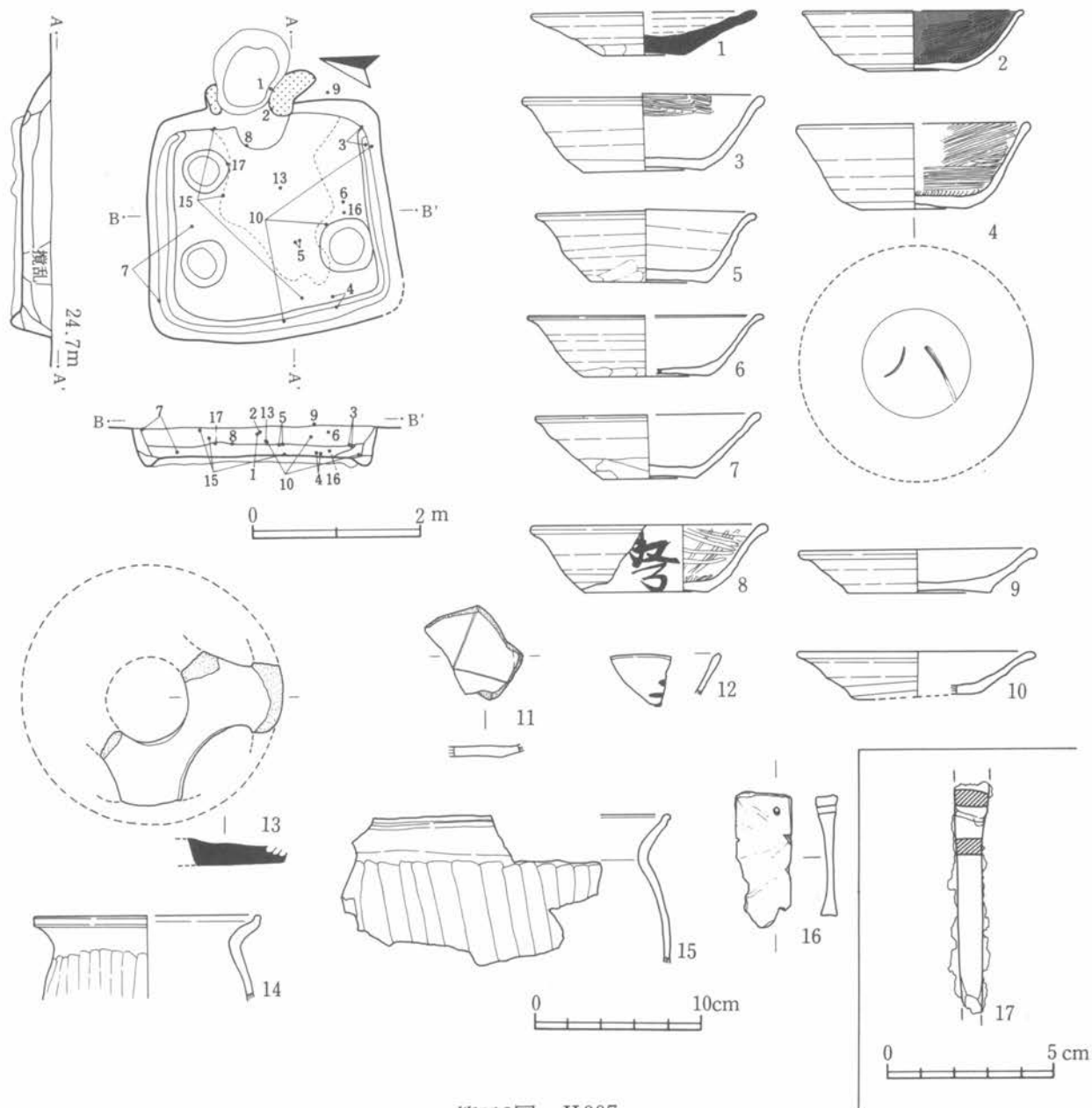
方形の小型の住居で、竈側壁溝は確認できない。3か所の円形の柱穴は、貼床除去後に確認したものであり、住居廃絶時には柱穴はなかったものと判断される。竈は土坑により大半が削平されている。埋土中からの遺物の出土が多い。鉄鏃の筥被か茎部の破片が埋土中から出土している。



第107図 II006

表94 II007

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第108図の1	須恵器 皿	(13.6)	2.6	5.0	雲母・石英・長石・スコリア含む	淡褐色	常陸産	94
第108図の2	土師器 杯	(13.2)	3.6	5.3	雲母・石英・長石・スコリア含む	外面茶褐色 内面黒色	内黒	1、66
第108図の3	土師器 杯	14.5	4.7	7.3	雲母・砂粒・スコリア含む	淡黄褐色		1、7、8
第108図の4	土師器 杯	(14.0)	5.1	6.4	雲母・石英・長石・スコリア含む	橙褐色	ヘラ書き(底外)「八」	2、4、24、25
第108図の5	土師器 杯	13.4	4.4	7.1	雲母・石英・長石・スコリア含む	橙褐色		2、30、72
第108図の6	土師器 杯	(14.2)	3.6	(7.4)	長石・石英・スコリア含む	赤褐色		1、4、88
第108図の7	土師器 杯	(13.6)	3.7	5.6	雲母・白色砂粒含む	褐色		43、63
第108図の8	土師器 杯	14.3	4.0	7.5	雲母・石英・長石含む	茶褐色	墨書(体外)「板了」	4、49
第108図の9	土師器 皿	14.3	2.6	8.1	雲母・砂粒含む	黄褐色		5
第108図の10	土師器 皿	14.3	(2.8)	(7.9)	雲母・スコリア含む	橙褐色		2
第108図の11	土師器 杯	-	-	(5.4)	スコリア・雲母含む	淡褐色	線刻(底内) □	1
第108図の12	土師器 杯	-	-	-	雲母・白色砂粒含む	茶褐色	墨書(体外) □	100
第108図の13	須恵器 飯	-	-	-	スコリア含む	橙褐色	5孔	67
第108図の14	土師器 小型甕	(13.6)	-	-	雲母・砂粒・スコリア含む	明橙褐色		4、98
第108図の15	土師器 甕	-	-	-	雲母・白色砂含む	赤褐色		46、53、61
第108図の16	磁石	22.7g	-	-	凝灰岩	-	4面に磁面あり	1、81
第108図の17	鉄鏃?	残存長 6.7	-	-	-	-	上下両端欠損	51



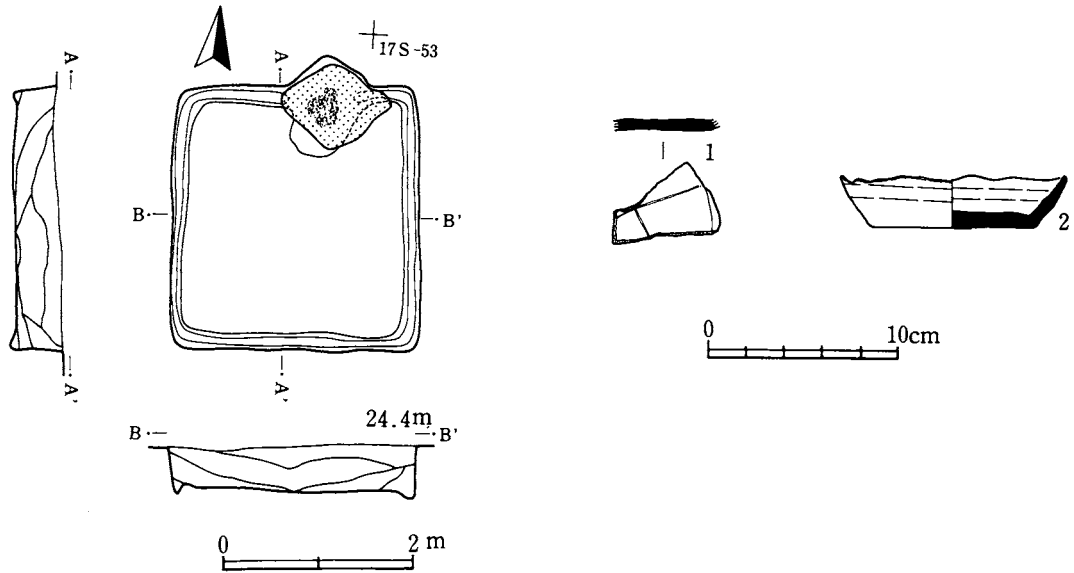
第108図 II007

II008 (第109図、図版36)

小型の方形プランの住居で、壁溝は竈を除いて全周する。柱穴はない。竈右袖脇には破碎された支脚を確認した。住居埋土は人為的な埋戻しと判断される。遺物は極めて少ない。

表95 II008

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第109図の1	須恵器 杯	—	—	—	雲母・長石・スコリア含む	灰オリーブ色	ヘラ書き(底外) □□	4
第109図の2	須恵器 杯	(11.8)	(2.8)	8.5	雲母・長石・砂粒・スコリア含む	灰褐色		4



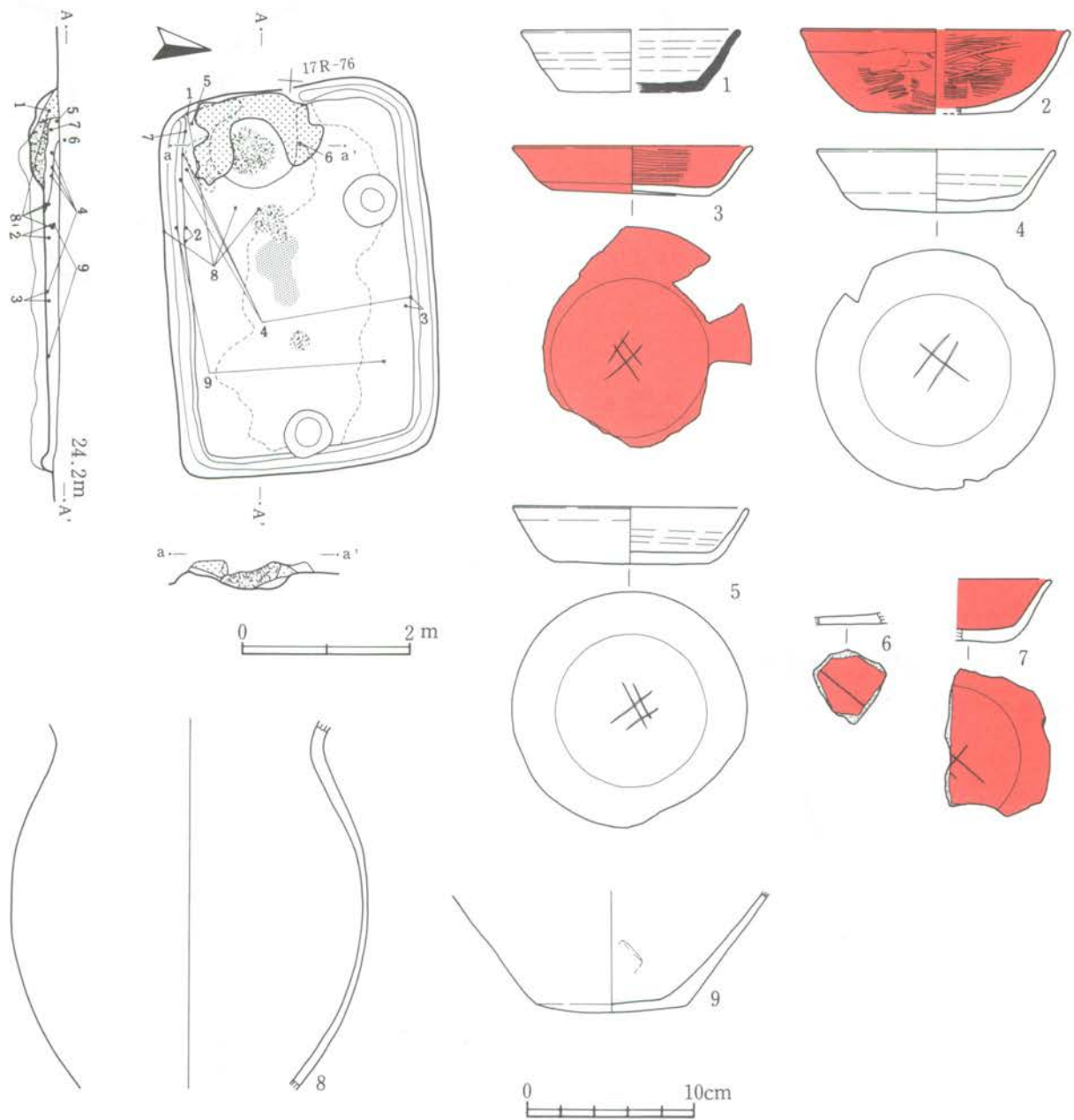
第109図 II008

II009 (第110図、図版37・136)

主軸が横軸に比較してかなり長い長方形プランの住居で、竈下を除いて壁溝が全周する。確認したピットのうち北側のものは、柱穴かどうか判然としない。竈煙道部は壁までは掘り込まれていない。燃焼部は赤褐色に焼け、極めて強く被熱している。「井」の線刻や、赤彩土師器杯が多い。

表96 II009

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第110図の1	須恵器 杯	(12.8)	3.7	(8.7)	長石含む	灰色		43
第110図の2	土師器 杯	(15.7)	5.1	(8.9)	雲母・長石・砂粒含む	暗赤褐色	内外面赤彩	22、23
第110図の3	土師器 杯	14.2	2.9	9.4	長石・砂粒含む	暗赤褐色	内外面赤彩、線刻(底外) 「井」	2、3
第110図の4	土師器 杯	14.0	3.7	9.0	雲母・石英・長石含む	赤褐色	線刻(底外)「井」	3、15、16、17
第110図の5	土師器 杯	6.8	3.4	9.0	石英・長石・スコリア含む	暗赤褐色	線刻(底外)「井」	13
第110図の6	土師器 杯	-	-	-	長石・砂粒・スコリア含む	赤褐色	内外面赤彩 線刻(底外)「井」	36
第110図の7	土師器 杯	-	-	-	長石・砂粒・スコリア含む	暗赤褐色	内外面赤彩、線刻(底外) 「井」	14
第110図の8	土師器 甕	-	-	-	長石・砂粒含む	赤褐色～褐色		20、26、28、43
第110図の9	土師器 甕	-	-	9.0	石英・長石・砂粒含む	暗褐色		1、19



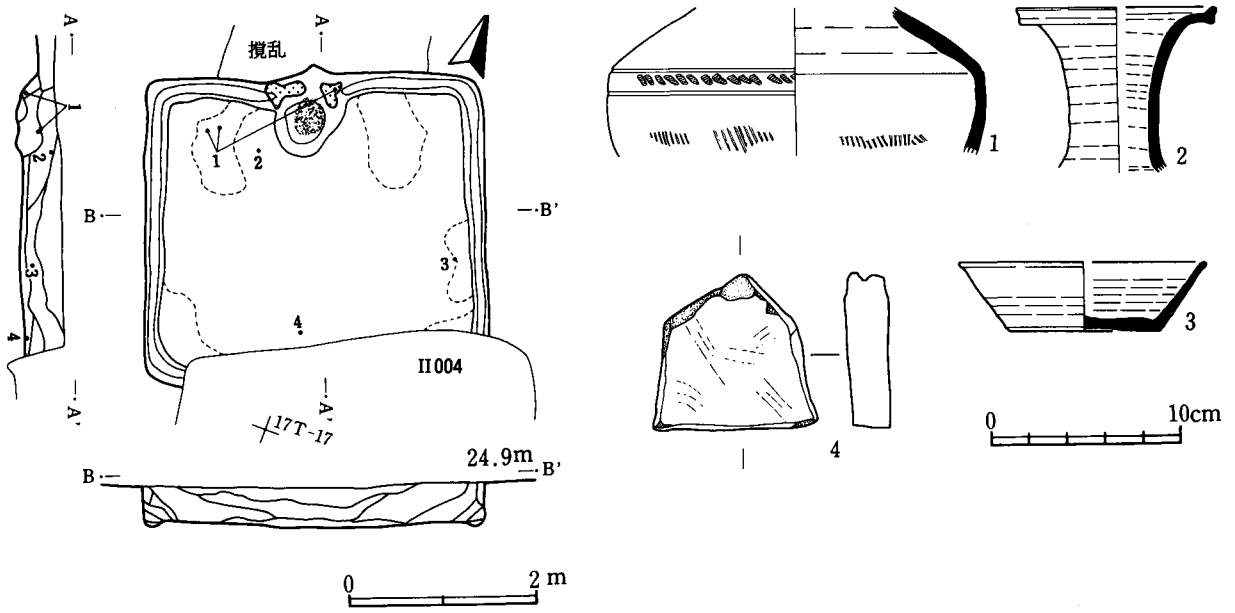
第110図 II009

II010 (第111図、図版37・167)

整った正方形を呈する、掘込みのしっかりした住居であるが、南側をII004により削平される。竈袖の遺存状況は極めて悪い。柱穴はない。住居埋土は人為的な埋戻しのようなのである。遺物は少ない。

表97 II010

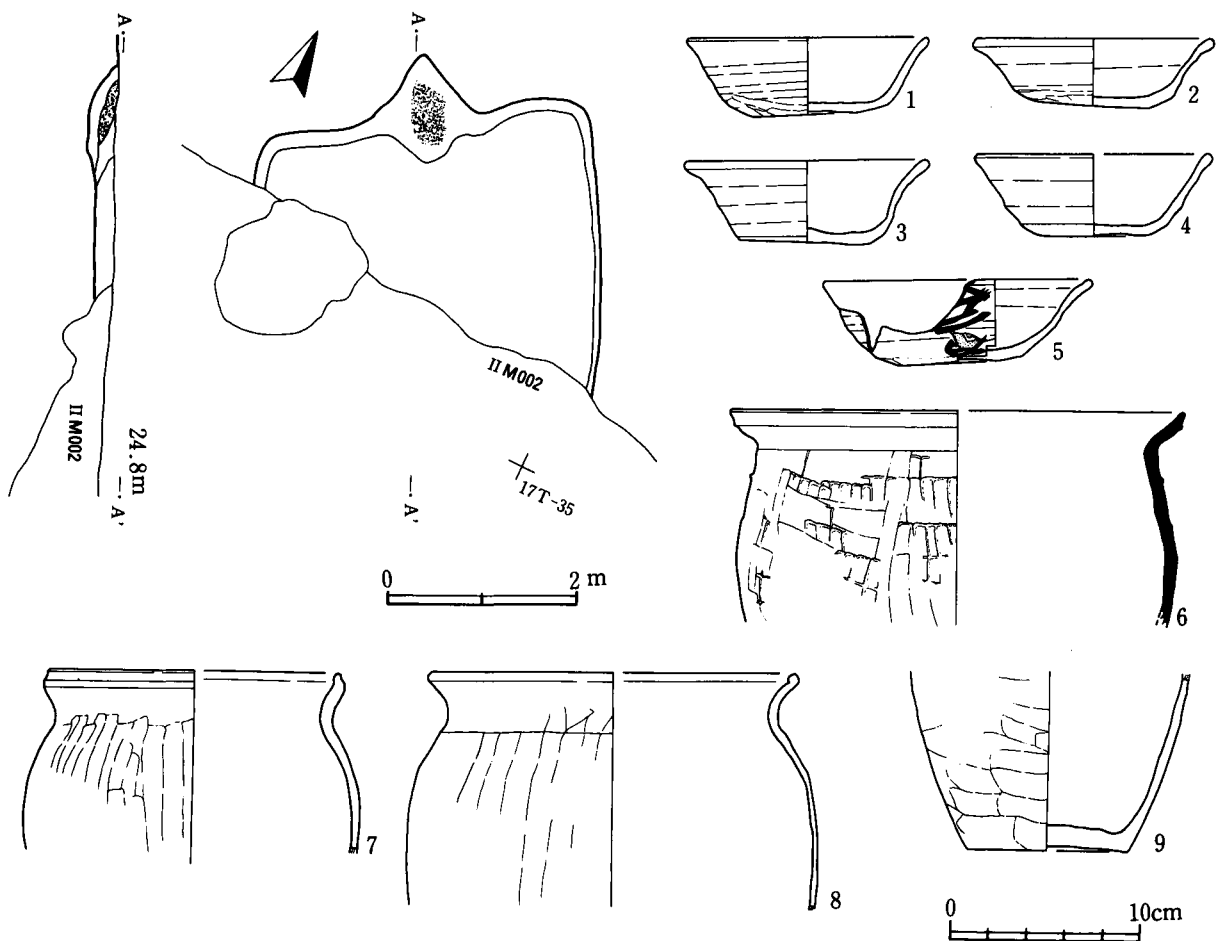
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第111図の1	須恵器 壺	-	(7.8)	-	石英・長石・砂粒含む	灰褐色	内外面とも平行タタキ目	24、25、29
第111図の2	須恵器長頸瓶	(10.4)	(8.7)	-	石英・長石・砂粒含む	灰黄色		23
第111図の3	須恵器 杯	(13.0)	3.6	8.0	長石・砂粒含む	灰色		19
第111図の4	砥石	242.0g	-	-	砂岩	-		26



第111図 II010

II011 (第112図、図版37・136)

浅い掘込みの住居で、南側半分がII M002によって削平される。柱穴・周溝は確認できない。竈内及び住居床面やや上からの遺物の出土が見られる。



第112図 II011



表98 II 0 1 1

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第112図の1	土師器 杯	12.5	4.1	5.4	雲母・砂粒・スコリア含む	橙褐色		51、58、61
第112図の2	土師器 杯	12.3	4.6	6.2	雲母・石英含む	橙褐色		2、56、67
第112図の3	土師器 杯	12.6	4.6	7.0	石英・長石・スコリア含む	淡橙褐色		36
第112図の4	土師器 杯	(12.2)	4.3	(6.0)	石英・長石・スコリア含む	淡黄褐色		52
第112図の5	土師器 杯	14.0	4.3	5.3	石英・長石・スコリア・砂粒含む	淡黄褐色	墨書(体外) □□□	24、25、26、27、28、43
第112図の6	須恵器 甕	(23.9)	—	—	砂粒含む	褐色		1、8、53、60、67
第112図の7	土師器 甕	(15.2)	—	—	雲母・石英・長石・砂粒含む	暗黄褐色		29
第112図の8	土師器 甕	(19.2)	—	—	スコリア・砂粒含む	褐色		65、67
第112図の9	土師器 甕	—	—	(9.0)	雲母・石英・長石・砂粒含む	暗褐色		10、11、13、39、II013-19

## II012 (第113図、図版38・136)

掘込みのしっかりとした小型方形プランの住居で、竈下を除いて壁溝が全周する。柱穴はない。竈火床部の焼土直上からは、直立する支脚の先端に、土器破片を4枚重ね、さらに、土師器甕を倒位に被せた状況が確認できた。この甕は口縁に欠損が見られ、胴部も強い熱を受けたため、ヒビが入り、歪んでいる。おそらく、このような状況で支脚として使われていたのであろう。

表99 II 0 1 2

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第113図の1	土師器 杯	(11.8)	3.9	6.0	長石・スコリア含む	明褐色	線刻(底内) □□	43
第113図の2	土師器 杯	—	—	6.2	雲母・長石・スコリア・砂粒含む	暗赤褐色	線刻(底内) □□□	58
第113図の3	土師器小型甕	(13.4)	11.7	7.3	雲母・長石・スコリア・砂粒含む	暗赤褐色		55
第113図の4	土師器 甕	(19.4)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	褐色		17
第113図の5	土師器 甕	19.4	—	—	雲母・長石・砂粒含む	黄褐色		4、6、9、10、11、12、23、25、27、28、32、44、47、48
第113図の6	須恵器 甕	—	—	—	雲母・長石・スコリア含む	明褐色～灰褐色		49、51、53、62
第113図の7	砥石	19.8g	—	—	凝灰岩	—	1孔	22

## II013 (第114図)

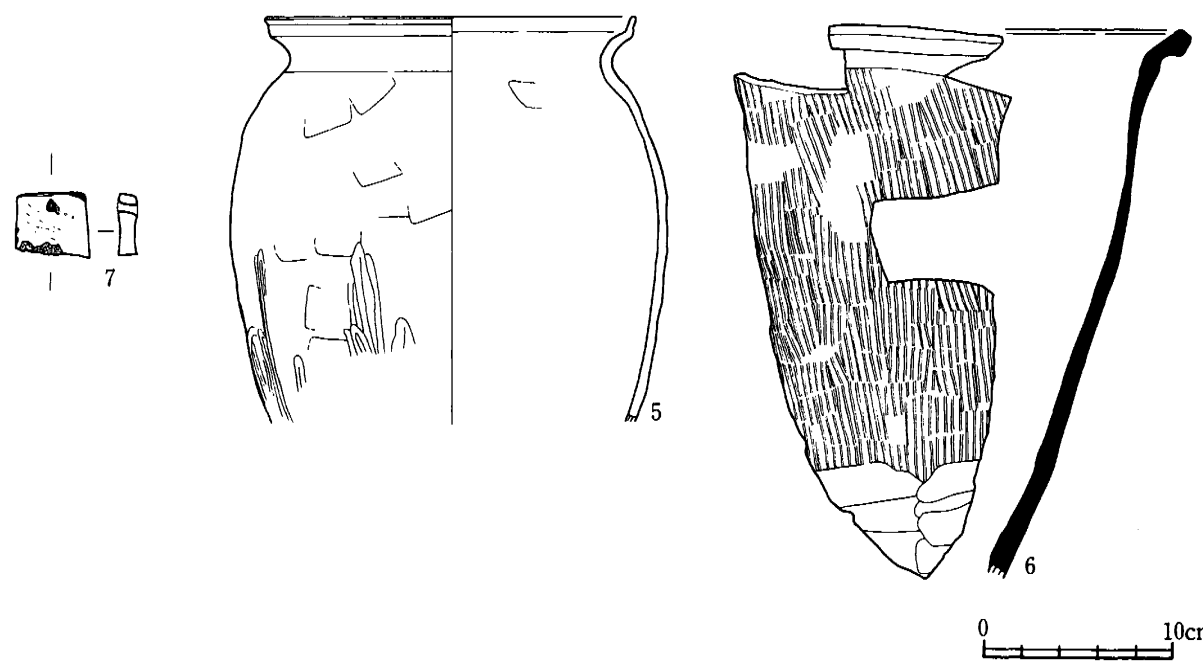
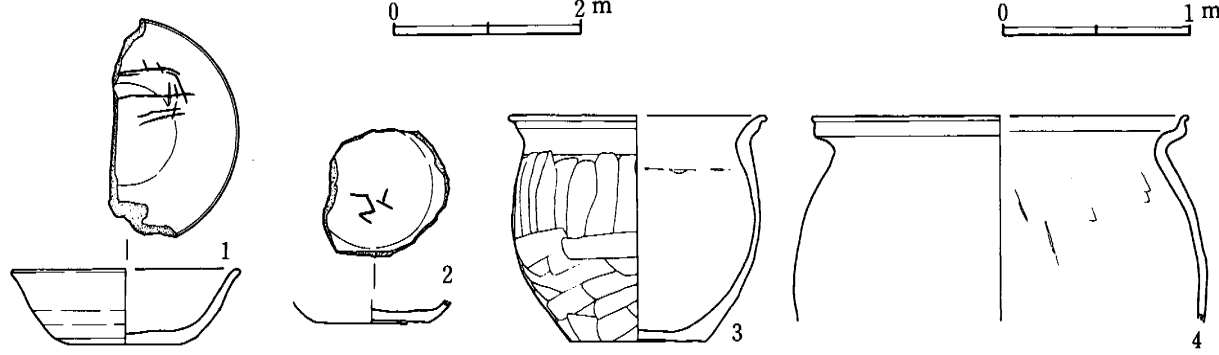
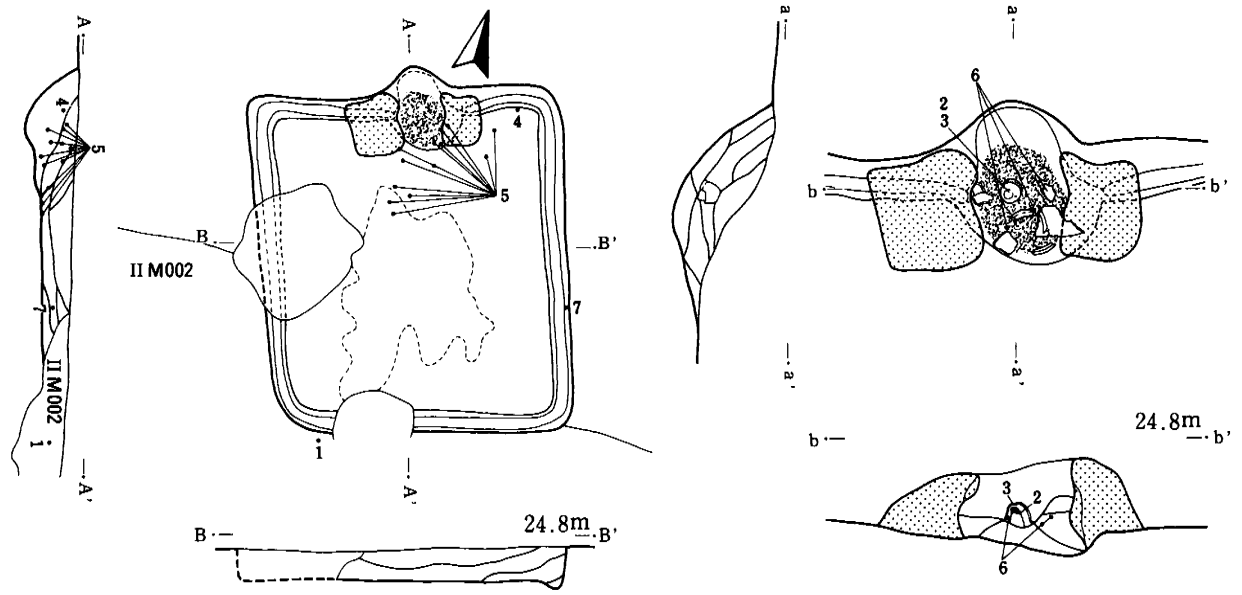
北半分がIIM002により削平された住居で、床面の掘込みは極めて浅い。II011と同時期の土師器が出土しており、おそらく、溝によって削平された箇所に竈があったと想定される。

表100 II 0 1 3

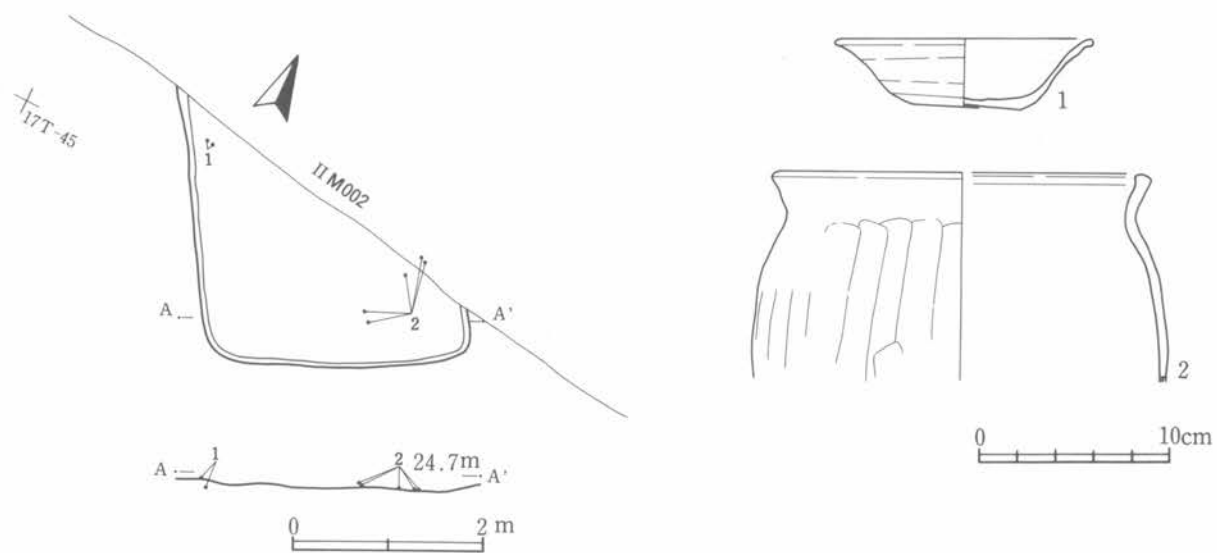
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第114図の1	土師器 杯	13.0	3.6	6.0	長石・スコリア含む	明褐色		1、10、42
第114図の2	土師器 甕	(19.0)	—	—	石英・長石・スコリア含む	暗褐色～褐色		1、28、29、34、35、36、IIM002-5

## II014 (第115図、図版38・136・167)

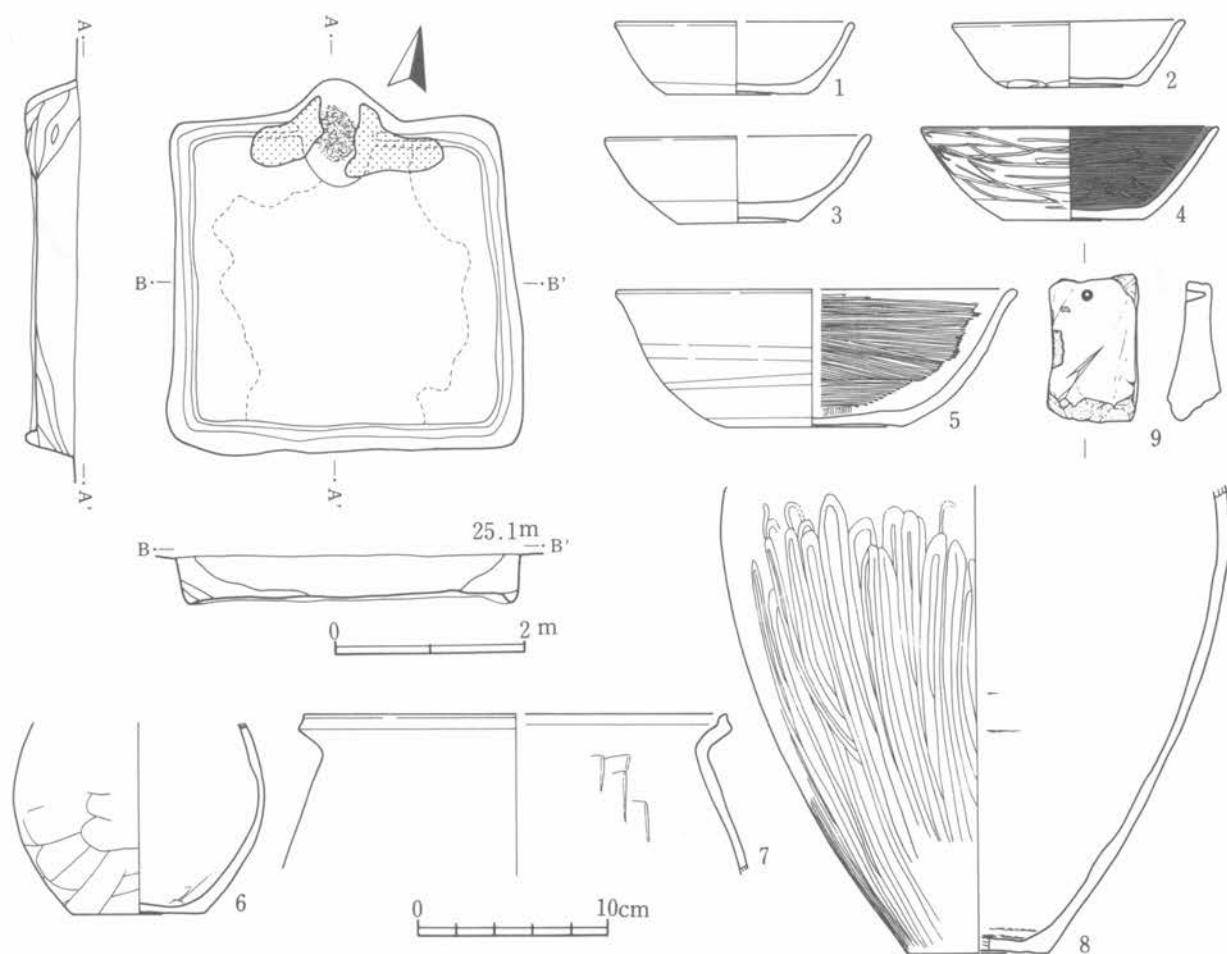
掘込みのしっかりした方形プランの住居で、壁溝は竈下を除いて全周する。柱穴はない。遺物は5の土師器鉢を除いて、ほとんどが埋土中層中からの出土である。



第113图 II012



第114图 II013



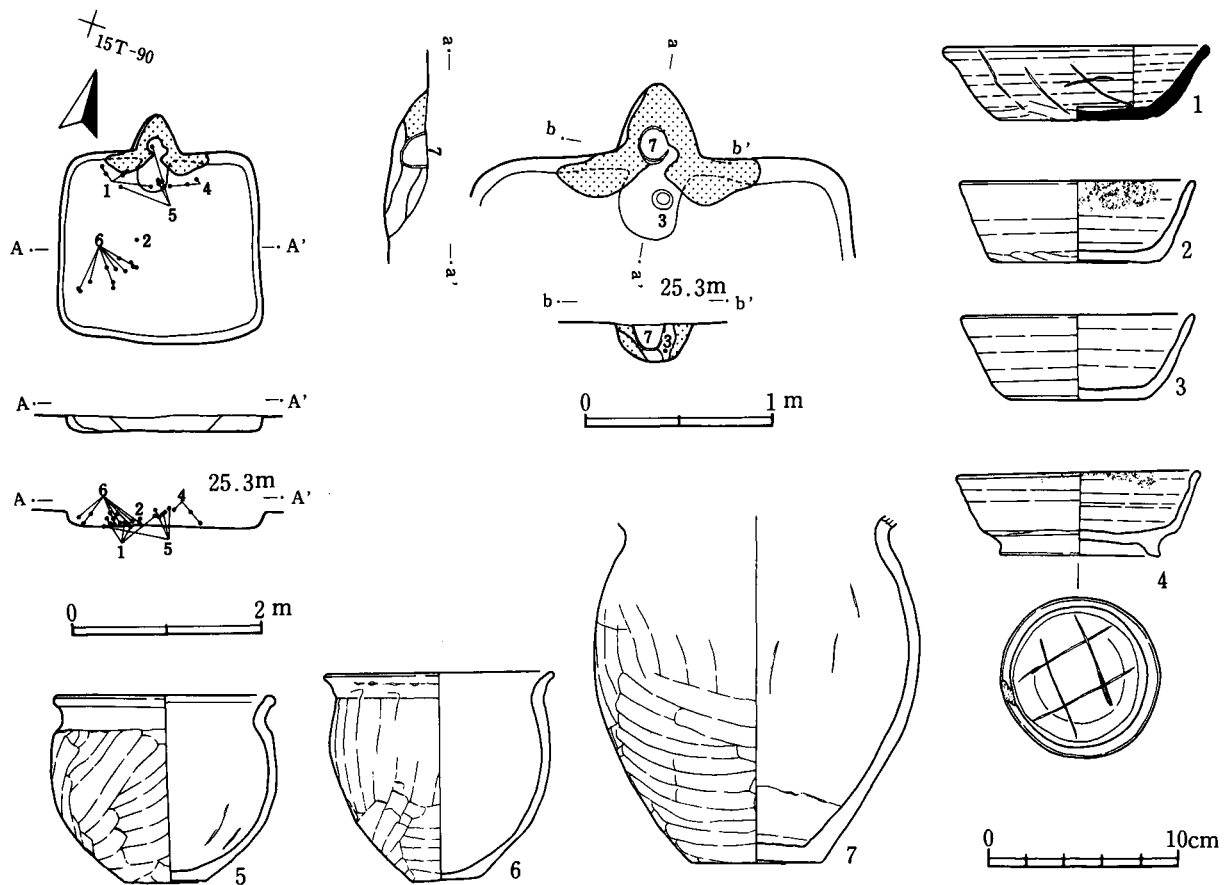
第115图 II014

表101 II 0 1 4

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第115図の1	土師器 杯	(12.3)	3.8	7.4	雲母・長石・スコリア・砂粒含む	明褐色		72、75、92
第115図の2	土師器 杯	12.1	3.5	(6.8)	長石・砂粒・スコリア・雲母含む	赤褐色		69、81、89、95
第115図の3	土師器 杯	(13.8)	4.4	6.4	雲母・長石含む	褐色		4、5、78、85
第115図の4	土師器 杯	15.3	4.8	7.4	雲母・長石・スコリア含む	外面褐色 内面黒色	内黒	45、71、124
第115図の5	土師器 鉢	(20.7)	7.2	9.2	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		3、4、60、63、98、107、124、125
第115図の6	土師器小型壺	—	—	7.0	長石・砂粒・スコリア含む	赤褐色		111、112、124
第115図の7	土師器 甕	(22.1)	—	—	雲母・石英・長石・砂粒含む	赤褐色		29、35
第115図の8	土師器 壺	—	—	(8.4)	雲母・長石・砂粒含む	褐色	底外木葉痕	1、39、40、42、47、61、75、76
第115図の9	砥石	123.1g	—	—	凝灰岩	—	1孔	18

II015 (第116図、図版39・136)

非常に小型の方形プランの住居である。柱穴はない。電煙道部は壁から0.4mほど大きく外側に張り出している。電火床面直上からは、土師器甕(7)が直立した状況で出土している。また、その前面では、土師器杯(3)が倒位の状況で確認されている。電火床面の被熱層の薄さや、住居床面に硬化面が見られないことを考えると、短期間のうちに廃絶した住居と考えられる。灯明具の土師器杯(2・4)が見られる。



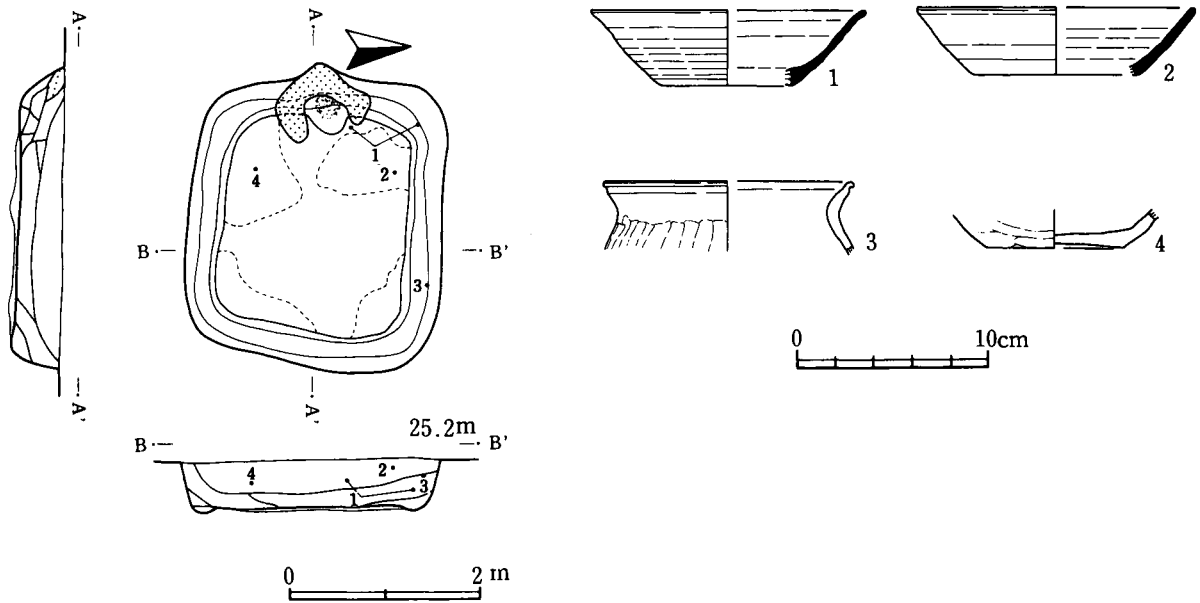
第116図 II015

表102 II 0 1 5

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第116図の1	須恵器 杯	13.7	3.8	8.3	雲母・石英・長石含む	灰白色	線刻(体外) □	5、7、31、32、34
第116図の2	土師器 杯	12.2	4.3	8.8	石英・長石・スコリア含む	橙褐色	灯明具	23
第116図の3	土師器 杯	12.1	4.4	7.1	石英・長石・砂粒含む	褐色～黒褐色		33
第116図の4	土師器 高台付杯	12.6	4.5	8.3	石英・長石含む	—	線刻(底外)「井」、灯明具	2、3、27
第116図の5	土師器小型甕	11.1	9.9	4.2	雲母・スコリア含む	暗褐色		1、4、6、28、29、30
第116図の6	土師器小型甕	11.9	10.8	2.4	雲母・砂粒含む	橙褐色		8、9、10、12、13、14、 15、16、17、19、20、21
第116図の7	土師器 甕	—	—	7.0	雲母・石英・長石含む	橙褐色		36

II016 (第117図、図版39)

規模は小さいが、壁溝の掘込み幅が広い住居である。遺物量は少なく、竈内からは遺物は出土していない。



第117図 II016

表103 II 0 1 6

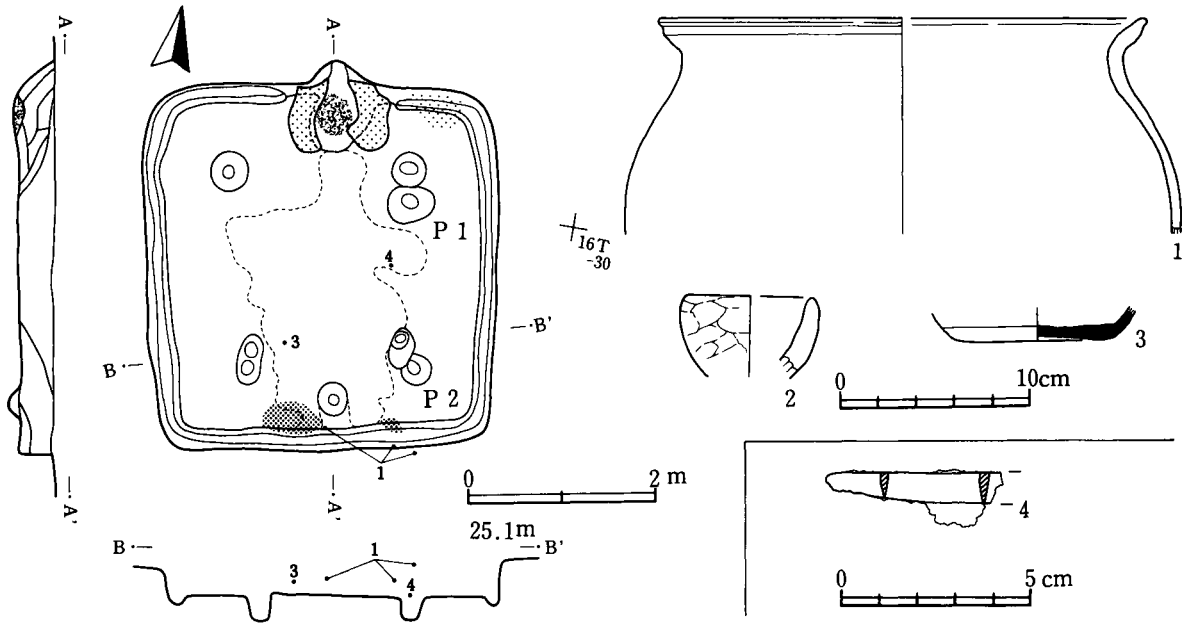
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第117図の1	須恵器 杯	(14.4)	3.9	(6.8)	雲母多量に含む	灰色		18、21
第117図の2	須恵器 杯	(14.6)	3.5	(8.7)	—	灰白色		19
第117図の3	土師器小型甕	(13.0)	—	—	石英・長石・スコリア含む	暗黄褐色		6
第117図の4	土師器小型甕	—	—	(7.2)	—	—		12

II017 (第118図、図版39)

整った正方形を呈する住居である。貼床除去後に2本の柱穴(P1・P2)を検出しており、少なくとも1回の住居の建替えが想定される。出入口ピットの両脇には、埋土中に焼土層を確認している。遺物量は少ない。住居中央床面直上から刀子身部片が出土した。

表104 II 0 1 7

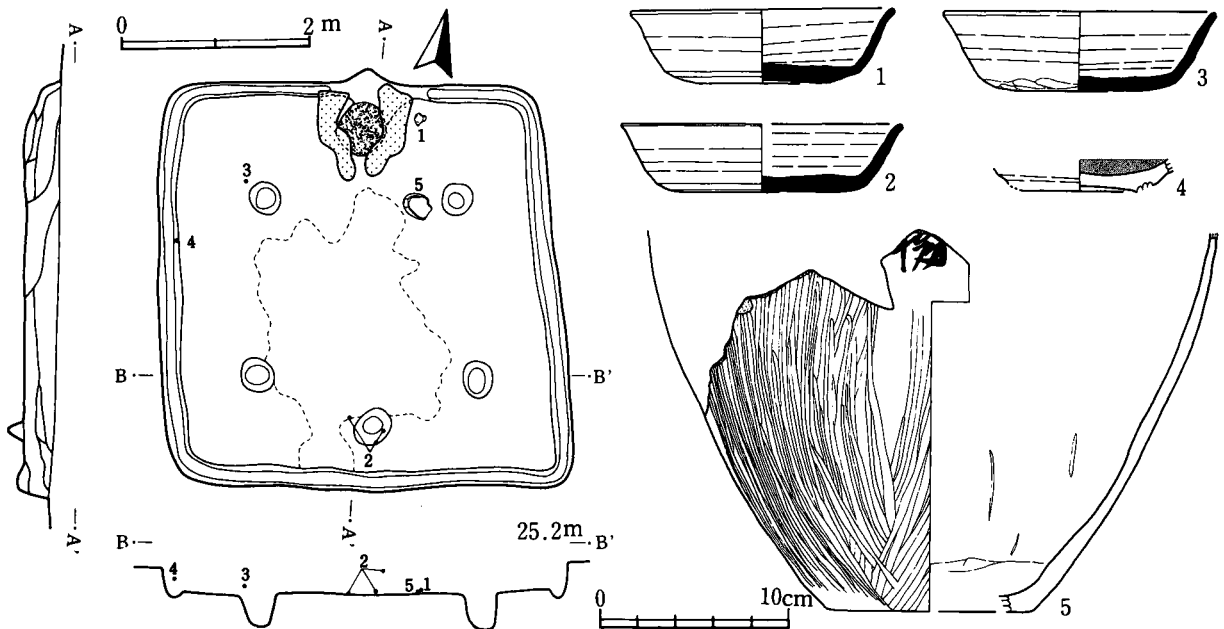
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第118図の1	土師器 甕	(25.4)	—	—	雲母・石英・長石多く含む	橙色		2、3、23、32、43、49
第118図の2	手捏ね	(6.6)	—	—	スコリア含む	黄褐色		48
第118図の3	須恵器 杯	—	—	(6.7)	雲母・石英・長石含む	灰色		19
第118図の4	刀子	残存長 4.6	—	—	鉄製品	—		40



第118図 II017

II018 (第119図、図版40・136・137・173)

4本の柱穴と1本の出入口ピット、竈以外を全周する壁溝が確認できる大型の住居である。胴部に墨書した常総型土師器甕が竈前面床直上から出土した。



第119図 II018




表105 II018

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第119図の1	須恵器 杯	13.7	3.8	7.0	雲母・石英・長石多量に含む	灰白色		6
第119図の2	須恵器 杯	14.3	4.2	6.8	雲母・石英・長石多量に含む	灰白色		2、11、12、14
第119図の3	須恵器 杯	(14.8)	(3.4)	(8.0)	雲母多量に含む	灰白色		18
第119図の4	土師器 高台付杯	-	-	6.1	石英・長石多量に含む	外面橙褐色 内面黒色	内黒	16
第119図の5	土師器 甕	-	-	(11.0)	雲母・石英・長石多量に含む	褐色	常総型 墨書(体外) □	5

II020 (第120・121図、図版40・41・137・165・166・168・169・173)

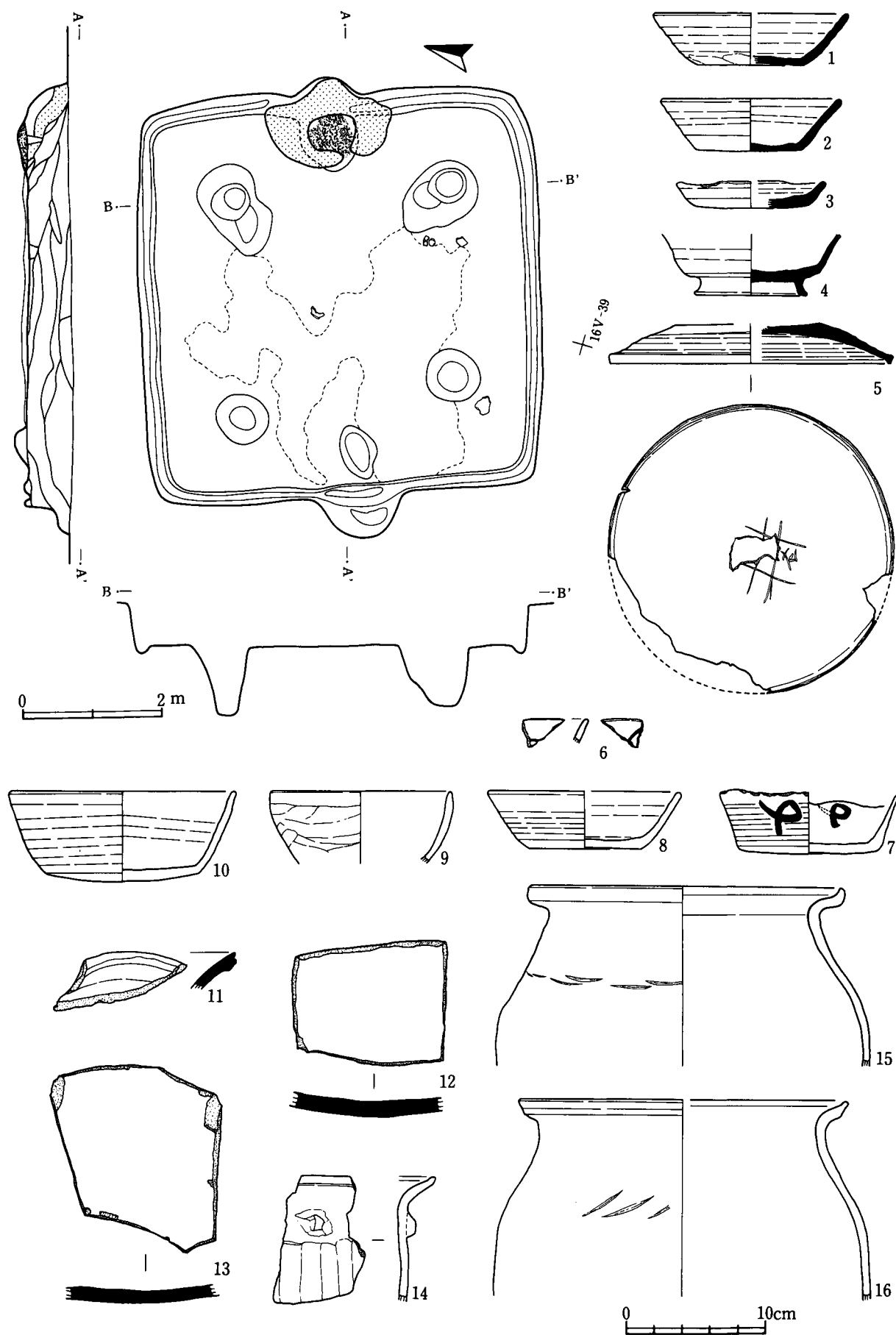
正方形プランで掘込みのしっかりした住居である。主柱穴は4本で、壁溝は全周する。竈内火床面直上からは、直立した状態の支脚を検出している。また、竈内と竈上面からは多量の甕の破片が出土している。出入口ピットに接する壁面は階段状になっており、出入口施設に伴う掘り方と考えられる。柱は全て抜き取られている。遺物量は多く、埋土のレベルに関係なく均一に出土している。特に埋土上層から青銅製の帯金具(29)が出土している点が注目される。床面直上から28の紡錘車、26の鉄鏃が出土している。

表106 II020

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第120図の1	須恵器 杯	(13.8)	3.8	(7.6)	雲母・石英多量に含む	灰色		57
第120図の2	須恵器 杯	12.7	3.8	7.6	石英多量に含む	灰色		2、4、66、101、149
第120図の3	須恵器 杯	(4.1)	2.7	(3.4)	雲母・石英・長石多量に含む	灰白色		3、4
第120図の4	須恵器 高台付杯	-	-	7.9	石英多量に含む	灰色		3、98
第120図の5	須恵器 蓋	19.9	-	-	雲母多量に含む	灰色	線刻(体内)「井右」	3、209、353、391、408、418
第120図の6	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)  墨書(体内) 	4
第120図の7	土師器 杯	12.7	4.3	9.9	石英・スコリア含む	橙褐色	墨書(体外)「Q」 墨書(体内)「Q」	460
第120図の8	土師器 杯	(13.6)	4.0	(8.1)	石英・スコリア含む	橙褐色		2、42、289
第120図の9	土師器 碗	12.8	-	-	スコリア含む			3、4、86、246、471
第120図の10	土師器 杯	15.9	7.3	11.0	石英・砂粒多量に含む	橙褐色		3、315、371、475、477
第120図の11	須恵器 甕	-	-	-	石英・長石含む	青灰色		295、414
第120図の12	須恵器 甕	-	-	-	石英・長石含む	灰色	転用碗、内面磨減	351
第120図の13	須恵器 甕	-	-	-	砂粒含む	灰色	転用碗、内面磨減	474
第120図の14	土師器 甕	-	-	-	雲母・スコリア多量に含む	黄褐色		71、72、77
第120図の15	土師器 甕	22.5	-	-	雲母・石英・長石・スコリア多量に含む	橙褐色		1、2、3、4、33、49、122、123、131、196、217、226、233、235、251、253、341、431、477、480
第120図の16	土師器 甕	(23.7)	-	-	雲母・石英・長石・砂粒多量に含む	橙褐色		3
第121図の17	土師器 甕	-	-	-	雲母・石英・長石・砂粒多量に含む	淡褐色		3、4、53、54、60、163、164、167、190、199、231、275、358、359、362、364、365、366、373
第121図の18	土師器 甕	23.2	-	-	雲母・石英・長石・砂粒多量に含む	橙褐色		434、463、464、467
第121図の19	土師器 甕	22.5	-	-	雲母・石英・長石・砂粒多く含む	茶褐色		3、142、435、450、457、459、465、466、468、469、471
第121図の20	土師器 甕	-	-	8.6	雲母・石英・長石・砂粒多量に含む	橙褐色		438、439、442、449、453、454、472
第121図の21	手捏ね	-	-	-	石英・長石含む	暗橙褐色		480
第121図の22	手捏ね	(4.3)	1.5	(4.0)	砂粒含む	褐色		480
第121図の23	手捏ね	(4.1)	2.7	(3.4)	砂粒・スコリア含む	暗黄褐色		3
第121図の24	土師器 甕?	-	-	-	雲母・砂粒含む	橙褐色	線刻(底外) 	3
第121図の25	土師器 甕	21.4	-	-	雲母・石英・長石・砂粒多量に含む	橙褐色		232、419、426、433、439、458、463、476
第121図の26	鉄鏃	残存長 8.6	-	-	-	-		411
第121図の27	鉄鏃	残存長 8.1	-	-	-	-		281
第121図の28	紡錘車	長さ 8.75	直径4.9	軸径 0.45~0.55	鉄製品		棒軸は断面丸型	440
第121図の29	帯金具	幅 2.8	高さ1.3	厚さ0.5	青銅製品		3か所で帯に留める	97

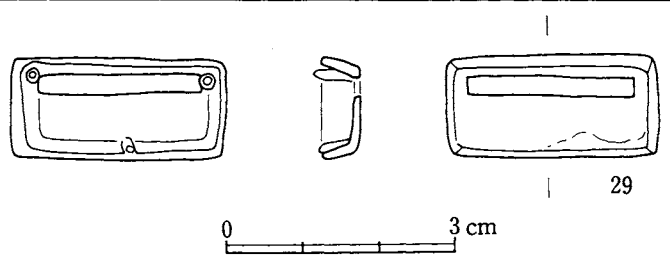
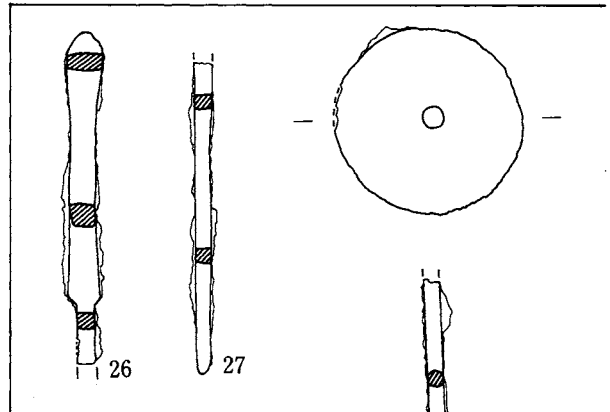
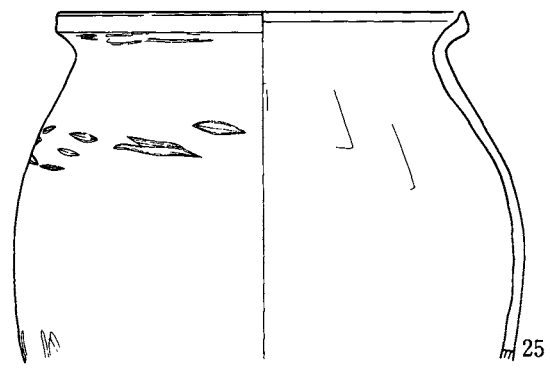
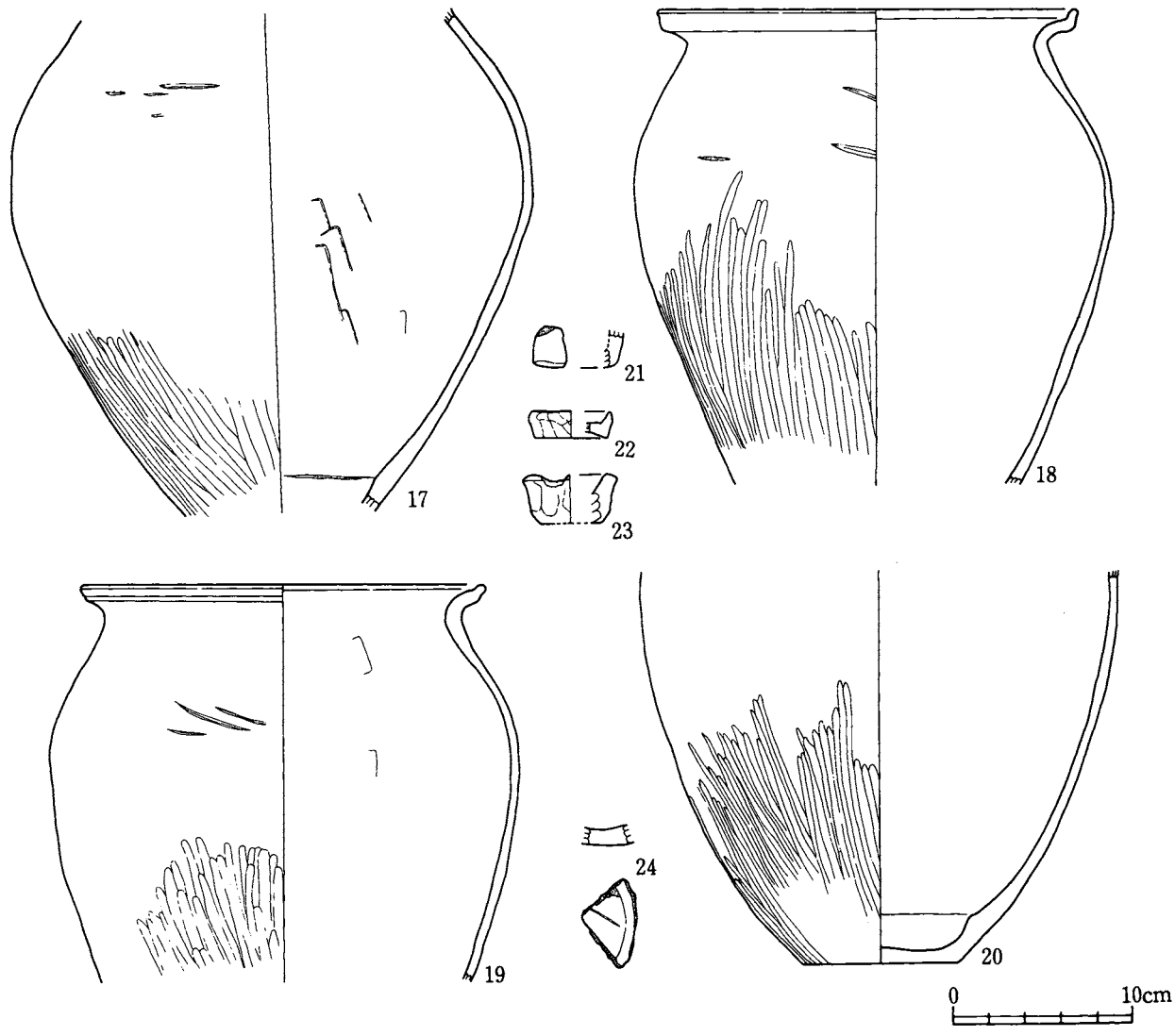
II021 (第122図、図版41・137・138)

台形プランの住居で、炭化材や焼土が多量に検出された。炭化材は壁際から住居中央に向かって収束するように出土している。壁溝は全周するが、主柱穴はない。竈火床面中央には、倒位の土師器甕の底部に、さらに杯を被せていた状況が見られた。小型甕が多く出土している。

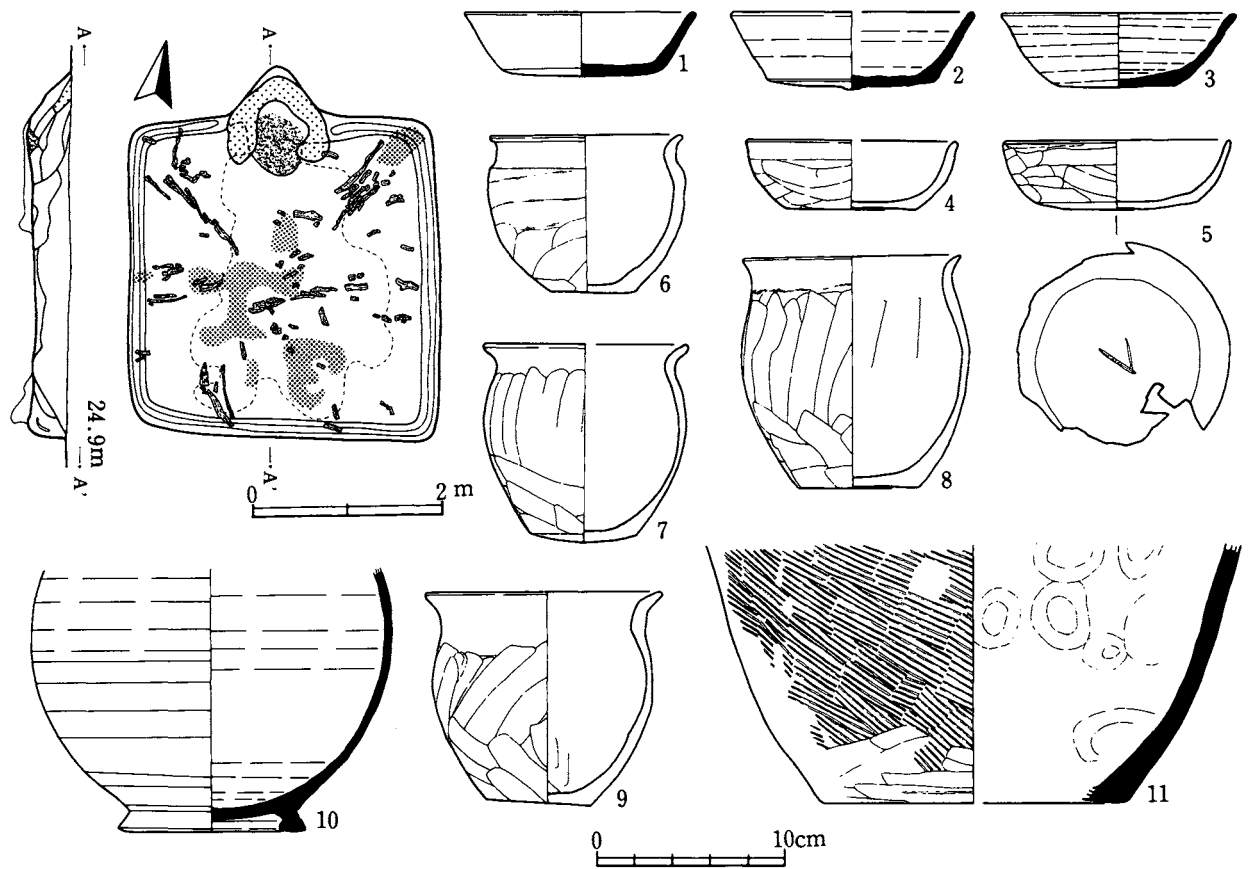


第120图 II020(1)





第121图 II020(2)



第122図 II021

表107 II021

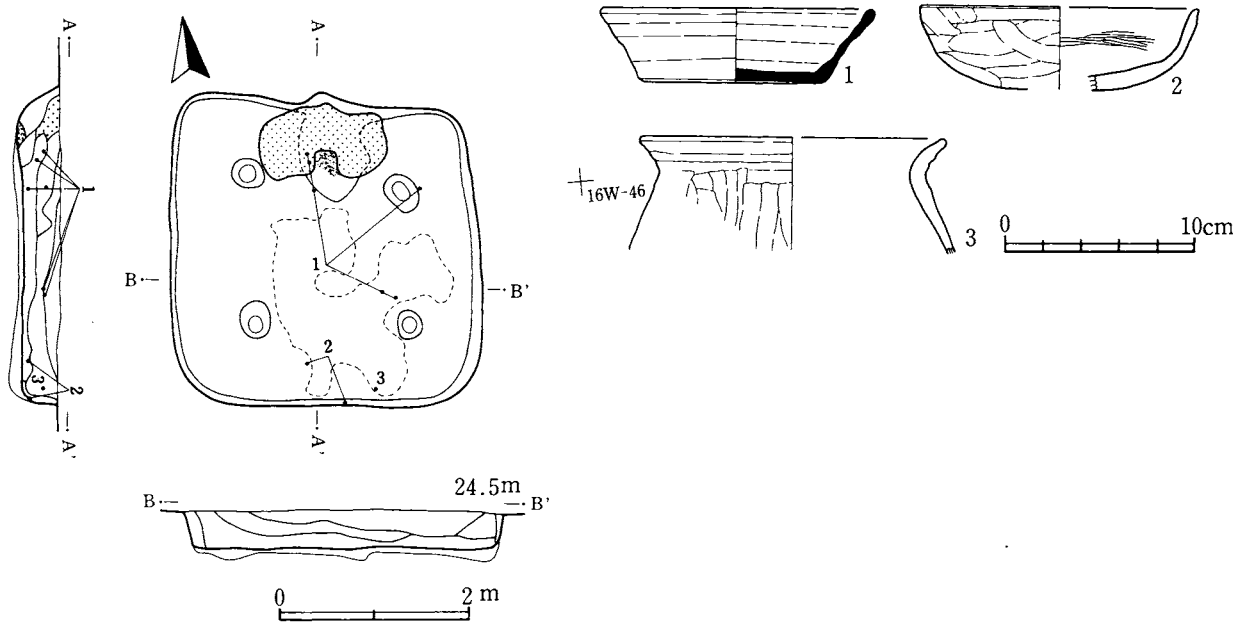
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第122図の1	須恵器 杯	12.1	3.4	8.2	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		57、58、67、68、69
第122図の2	須恵器 杯	(12.6)	4.1	(8.7)	乳白色微砂粒含む	灰色		2、12、14
第122図の3	須恵器 杯	12.2	3.9	6.3	雲母含む	暗黄褐色		59
第122図の4	土師器 杯	(11.0)	3.7	(6.8)	雲母多量に含む	暗褐色		1、2、3、13、38
第122図の5	土師器 杯	(11.8)	3.7	8.6	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色	ヘラ書き(底外) □	44、71、77
第122図の6	土師器小型甕	10.1	8.4	4.5	石英・長石・スコリア含む	黒褐色		1、4、61
第122図の7	土師器小型甕	(10.6)	10.3	(5.7)	長石・スコリア含む	赤褐色～黒褐色		3、10、19、24、35、36、41
第122図の8	土師器小型甕	11.4	12.0	6.4	雲母・石英・長石・スコリア含む	暗褐色		72
第122図の9	土師器小型甕	(12.4)	10.9	5.5	雲母・石英・長石含む	暗褐色		3、56、57
第122図の10	須恵器長頸瓶	-	-	9.9	長石・砂粒含む	灰褐色		62、63、64
第122図の11	須恵器 甕	-	-	(16.0)	雲母・長石・スコリア含む	灰褐色		66、68、73

II022 (第123図、図版42・165)

やや歪んだ正方形プランの住居で、貼床除去後に4本の柱穴を確認している。遺物は比較的少ない。

表108 II022

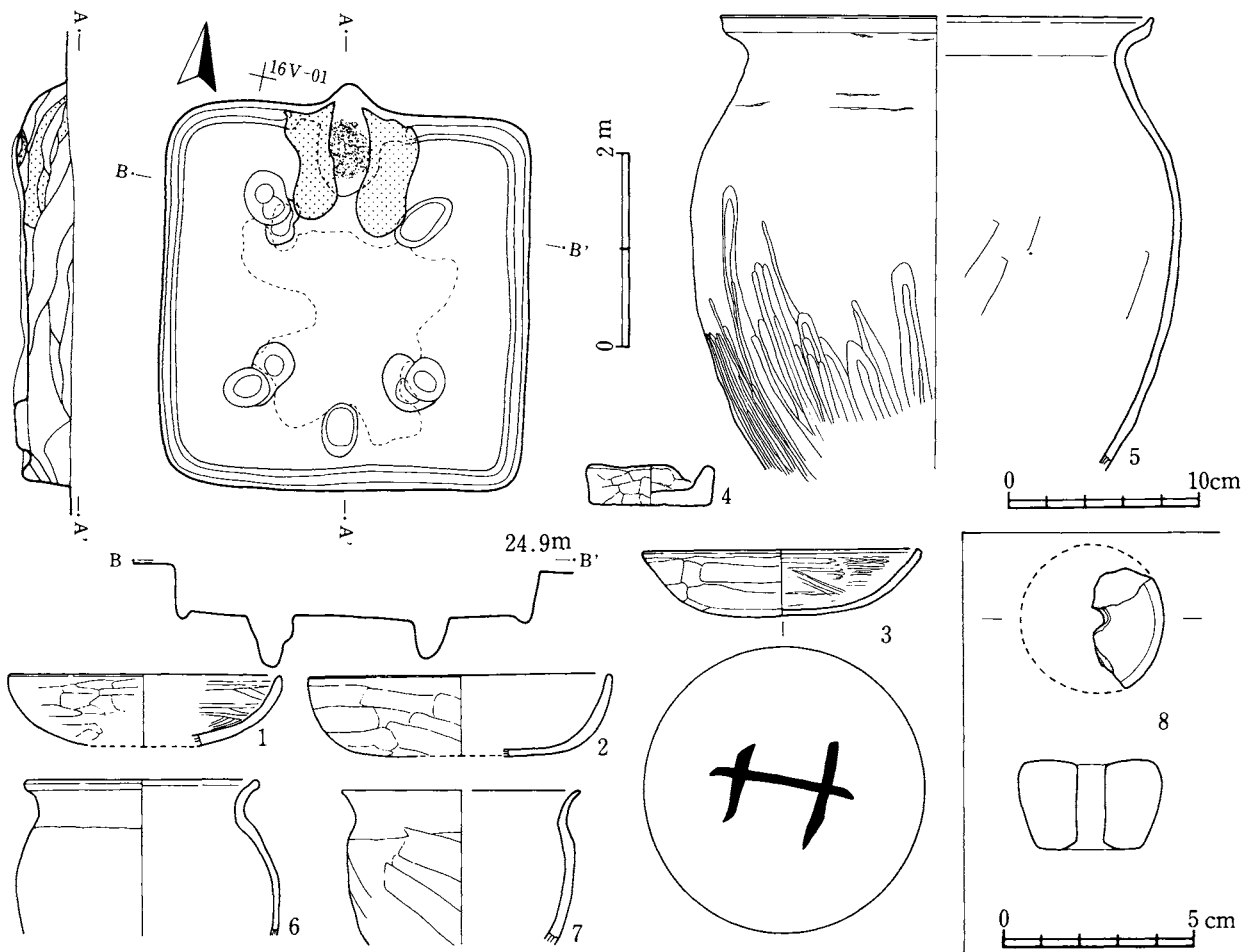
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第123図の1	須恵器 杯	14.2	4.0	9.6	雲母・石英・長石多量に含む	灰白色		6、7、40、68、69、70
第123図の2	土師器 杯	(14.6)	(4.3)	-	石英・長石含む	橙褐色		20、21、16W-65-1
第123図の3	土師器 甕	(15.8)	-	-	砂粒含む	褐色～暗褐色		17



第123図 II022

II025 (第124図、図版42・138・173)

正方形プランの掘込みの明瞭な住居である。支柱穴は4本であるが、貼床除去後にその内側に新たに柱穴を検出した。少なくとも1回の建替えを行っている。遺物は多くはない。



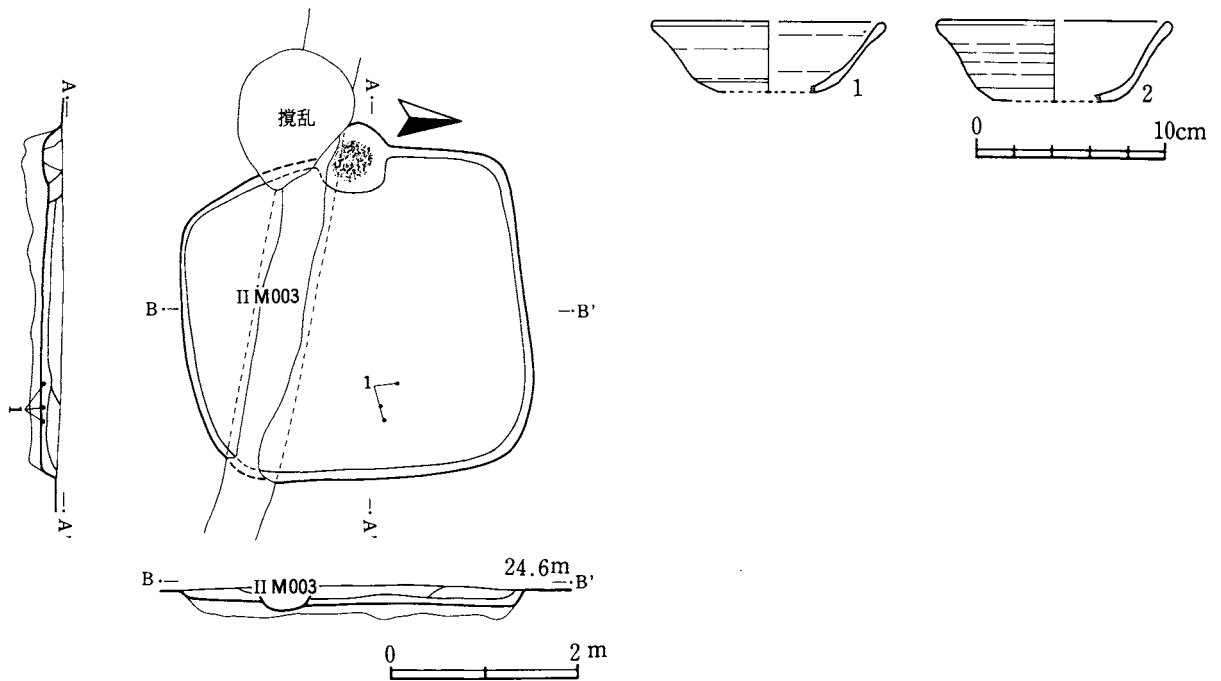
第124図 II025

表109 II 0 2 5

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第124図の1	土師器 杯	(14.4)	3.7	(10.5)	砂粒含む	茶褐色		60
第124図の2	土師器 杯	16.0	(4.2)	11.5	砂粒含む	橙褐色		3、7、10、11
第124図の3	土師器 杯	14.8	3.3	9.0	砂粒含む	淡橙褐色	墨書(底外)「十」	4、47、55、59
第124図の4	手捏ね	(6.2)	2.1	(6.1)	雲母・石英・長石含む	淡褐色	底外木葉痕	60
第124図の5	土師器 甕	(22.8)	—	—	雲母・石英多量に含む	橙褐色	常総型	4、7、44、49、50、53、56、57、58、62
第124図の6	土師器小型甕	12.5	—	—	砂粒多く含む	暗褐色		2、3、5、7、29、30、35
第124図の7	土師器小型甕	(12.6)	—	—	石英・長石・スコリア含む	暗黄褐色		2、17、18、21、41
第124図の8	紡錘車	直径(7.8)	厚さ2.4	—	砂粒含む	橙褐色		1

II026 (第125図、図版43)

非常に掘込みの浅い不整形の住居である。柱穴・壁溝ともない。II M003により攪乱を受ける。竈の遺存状況は極めて悪い。遺物量も少ない。



第125図 II026

表110 II 0 2 6

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第125図の1	土師器 杯	(12.0)	(3.6)	(5.1)	石英・長石多量に含む	淡褐色		2、17、18、19
第125図の2	土師器 杯	(11.9)	(4.2)	(6.4)	石英・長石多量に含む	暗褐色		5

II027・028・029・030 (第126図、図版43・44・138・139・169・173)

II027・028・029・030住居が南北方向に重複して造られている。各々の新旧関係を埋土の切合い、竈の遺存状況から判断すると、古い順に029、028、027となる。030は027に比べ古い、028、029との関係は不明確である。027は掘込みが極めて浅く、竈袖基部を残すのみである。竈火床面直上から直立した支脚が出土している。遺物は竈前面に集中している。028は掘込みのしっかりした正方形プランの住居で、4本の主柱穴が南北の壁際に造られている。竈火床面直上には倒位の甕(7)を検出した。029は北側の一部を残すの

みである。竈の遺存状況も不良である。030は柱穴をもたない住居で、貼床除去後に、一回り小さく廻る壁溝を確認した。おそらく、拡張されたものであろう。竈右袖脇から若干遺物が出土した。

表111 II027・028・029・030

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第126図の1	須恵器 高台付杯	(10.2)	(5.1)	6.8	石英・長石含む	灰色		116、117
第126図の2	須恵器 甕	-	-	-	-	-	ヘラ書き(底外)「前」	7
第126図の3	須恵器 杯	(12.9)	4.0	7.4	石英・長石含む	灰色		71、159、163、179、181
第126図の4	須恵器 杯	13.5	3.8	8.5	雲母・石英・長石多量に含む	灰色		85
第126図の5	土師器 杯	(11.8)	(4.4)	(8.3)	石英多量に含む	橙褐色		174、179
第126図の6	土師器 杯	12.2	3.3	9.1	石英・長石・砂粒多量に含む	橙褐色		2、3、4、140、184
第126図の7	土師器小型甕	12.8	10.0	5.9	雲母・スコリア含む	茶褐色		175
第126図の8	土師器小型甕	12.0	(10.8)	-	スコリア多く含む	茶褐色		1、154、166
第126図の9	土師器 杯	12.8	3.6	6.9	雲母多量に含む	橙褐色		40、49、51、52
第126図の10	土師器 杯	13.8	4.3	7.0	雲母・石英・長石多量に含む	褐色～暗褐色		45、47、63、64
第126図の11	土師器 杯	13.8	3.9	6.1	雲母多量に含む	-		40、52、57、59、60、63
第126図の12	土師器 杯	(11.8)	3.4	(7.0)	石英・長石多量に含む	橙褐色		46、63
第126図の13	土師器 杯	(13.8)	3.2	-	雲母・砂粒含む	赤褐色	内外面赤彩	17、21
第126図の14	土師器 甕	-	-	10.1	スコリア多く含む	灰褐色		44、46、48、54、61、63、II030-1、20
第126図の15	土師器 杯	14.6	(5.8)	10.0	砂粒含む	赤褐色	内外面赤彩	II027-20、II028-3、129、179、182、II030-27、29、31
第126図の16	土師器 杯	-	-	7.8	砂粒含む	外面赤褐色 内面黒色	内黒	1、18
第126図の17	土師器 甕	13.7	-	-	雲母多く含む	黄橙褐色		1、4、23、24、26、32、II027-41、42

II031 (第127図、図版45・139・166・168)

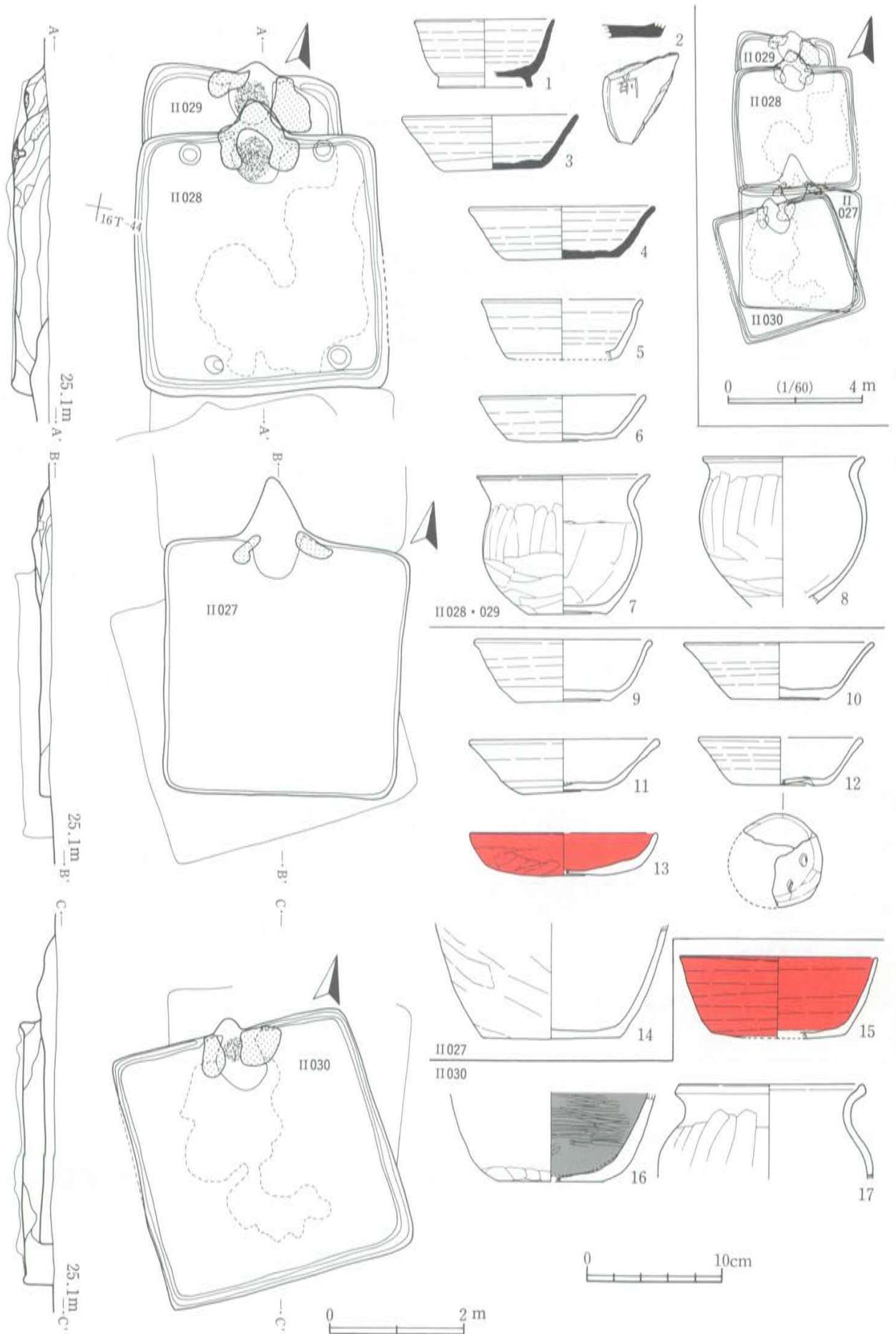
台形プランの掘込みの浅い住居である。竈前面の円形の掘込み中の埋土は、焼土を含み、下部は被熱している。住居床面直上や埋土中からは炭化材や焼土塊が出土している。

表112 II031

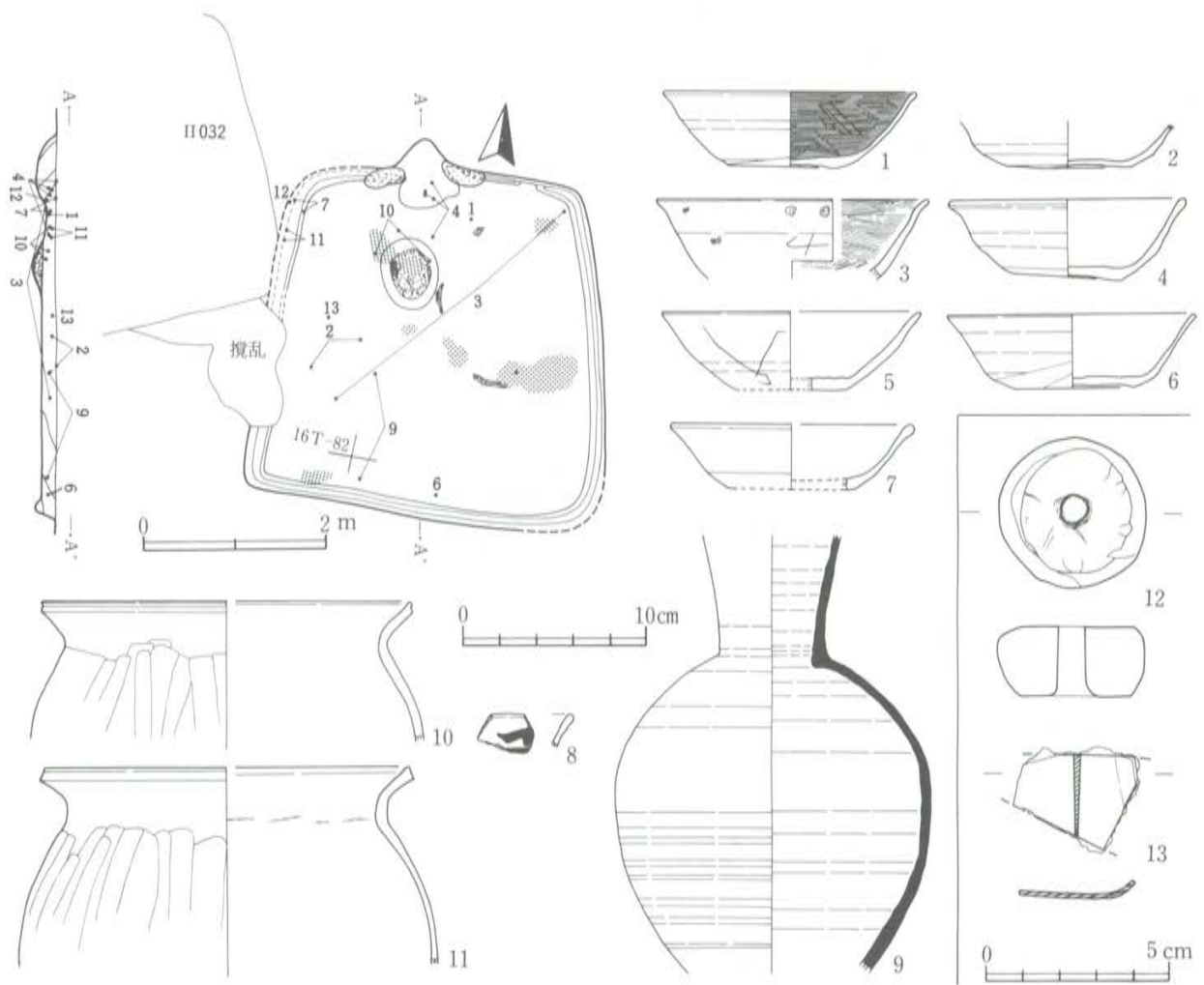
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第127図の1	土師器 杯	13.3	4.2	6.2	雲母多く含む	内面黒色	内黒	57
第127図の2	土師器 杯	-	(2.9)	6.9	雲母含む	-		27、29
第127図の3	土師器 杯	14.8	-	-	雲母少し含む	橙褐色	線刻(体外)「□」	26、111
第127図の4	土師器 杯	12.8	4.4	6.1	砂粒多く含む	褐色		70、72、81、86、92、101
第127図の5	土師器 杯	14.2	4.2	6.0	雲母含む	-	線刻(体外)「∩」	1、4
第127図の6	土師器 杯	13.6	3.9	6.8	スコリア・砂粒含む	橙褐色		2、85
第127図の7	土師器 杯	13.2	3.5	6.8	雲母含む	橙褐色		43、44
第127図の8	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	3
第127図の9	須恵器長頸瓶	-	-	-	黒色斑多い	灰色	自然釉付着	24、28
第127図の10	土師器 甕	(19.8)	-	-	石英・長石含む	橙褐色		2、4、60、93、105
第127図の11	土師器 甕	19.9	-	-	スコリア多く含む	茶褐色		41、95
第127図の12	紡錘車	上端幅 4.0	下端幅 3.3	最大高 2.0	滑石、56.9g	-		73
第127図の13	鎌	残存長 3.4	-	-	鉄製品	-		31

II032 (第128図、図版45・139・167)

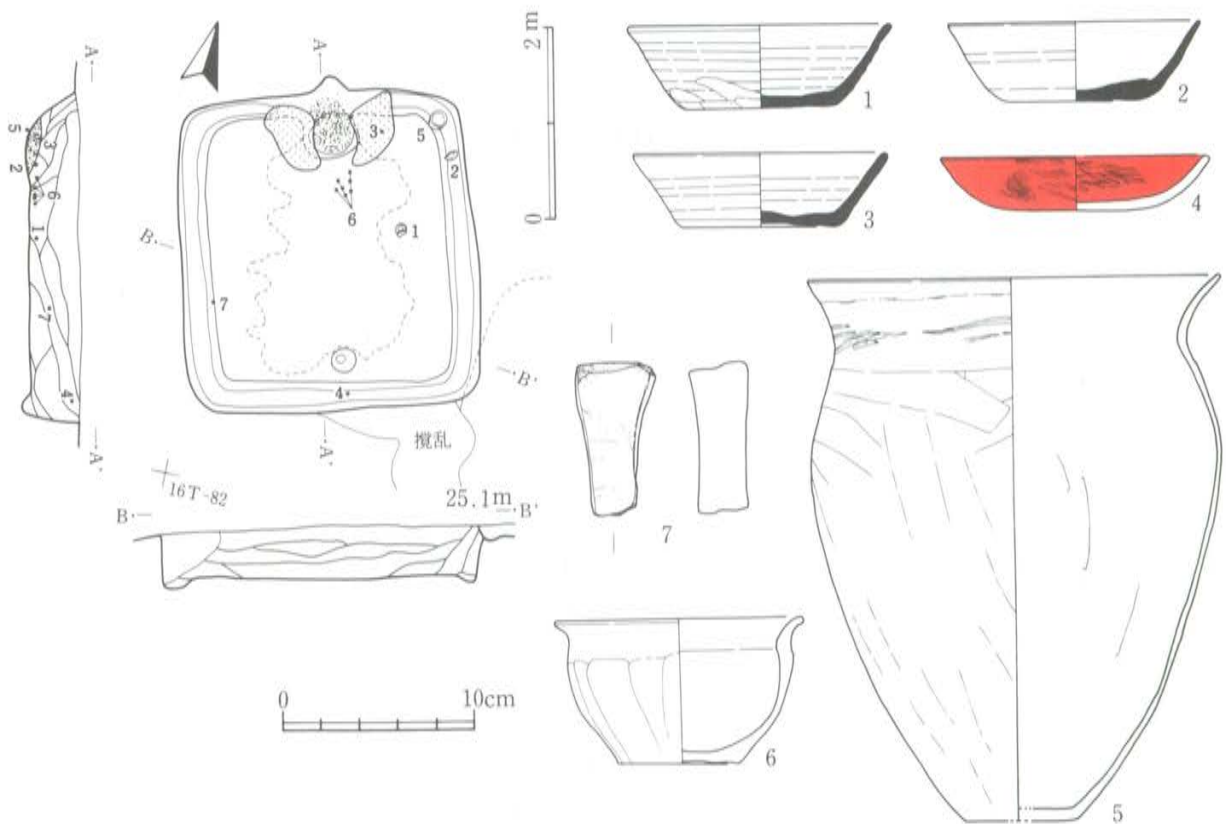
掘込みのしっかりした方形プランの住居である。北東コーナーからは、ほぼ完形の武蔵型土師器甕が直立した状態で出土している。



第126图 II 027 • 028 • 029 • 030



第127图 II031



第128图 II032

表113 II 0 3 2

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第128図の1	須恵器 杯	13.7	4.3	7.8	白色砂粒多く含む	灰色		52
第128図の2	須恵器 杯	13.2	4.1	7.4	雲母多く含む	灰色		49
第128図の3	須恵器 杯	13.2	3.8	8.0	白色砂粒多く含む	灰色		51
第128図の4	土師器 杯	13.8	2.8	7.0	砂粒含む	赤褐色	内外面赤彩	2、37、53
第128図の5	土師器 甕	21.8	28.0	(5.9)	雲母・スコリア・白色砂粒含む	橙褐色	武蔵型	50
第128図の6	土師器小型甕	13.1	7.5	6.3	石英・長石・スコリア含む	茶褐色		42、43、44、45、46、47、48
第128図の7	磁石	132.6g	-	-	凝灰岩	-		9

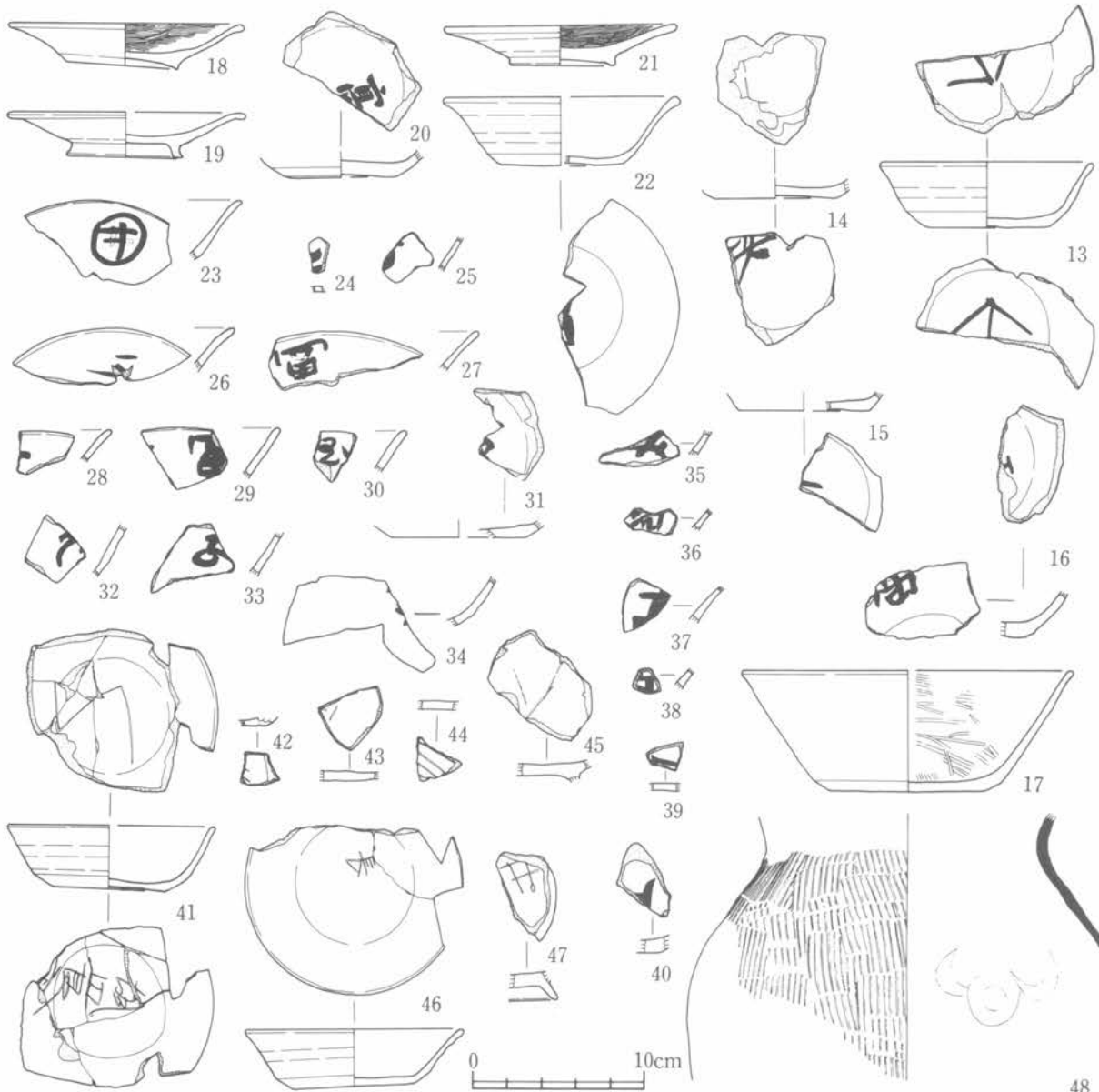
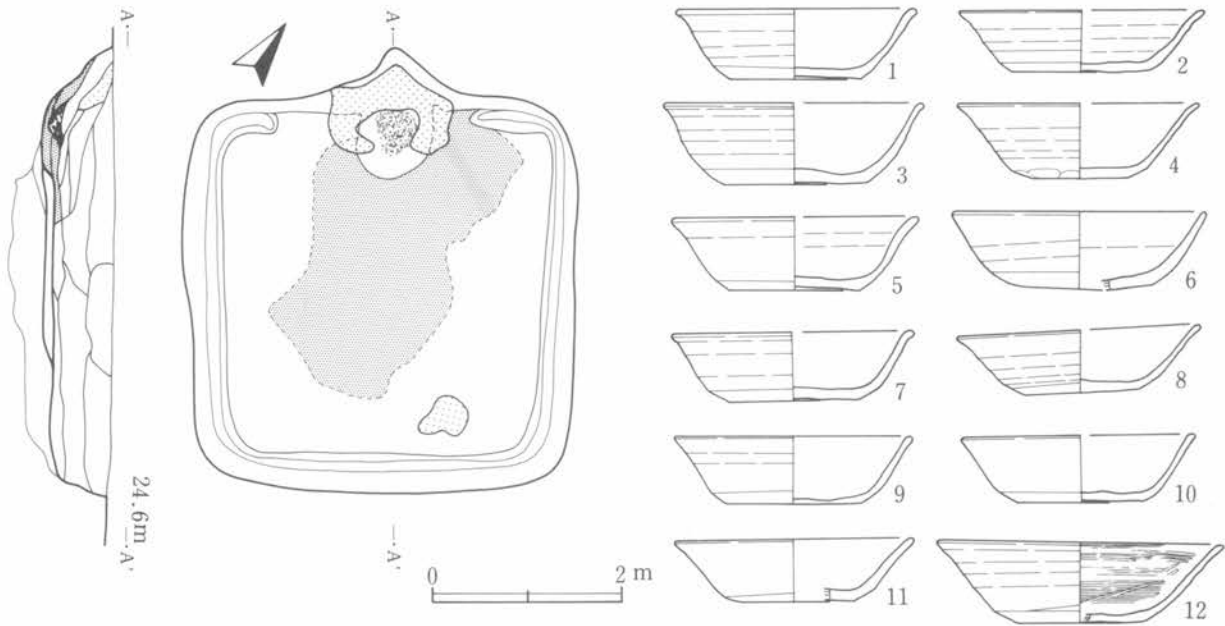
## II033 (第129・130図、図版46・139・169・173)

方形プランの住居で、柱穴はない。床面には山砂を一面に敷いている。一度建て替えられており、貼床除去後に、古い竈火床面を検出した。竈の平面位置及び住居の規模はほとんど変わらない。遺物は埋土中からの出土がほとんどで、土師器杯の量が多い。破片ではあるが、墨書土器や線刻土器が多く出土している。55の鉄製品は留金具状のもので、先端部が湾曲し、交差している。床面よりやや浮いた状態で出土した。

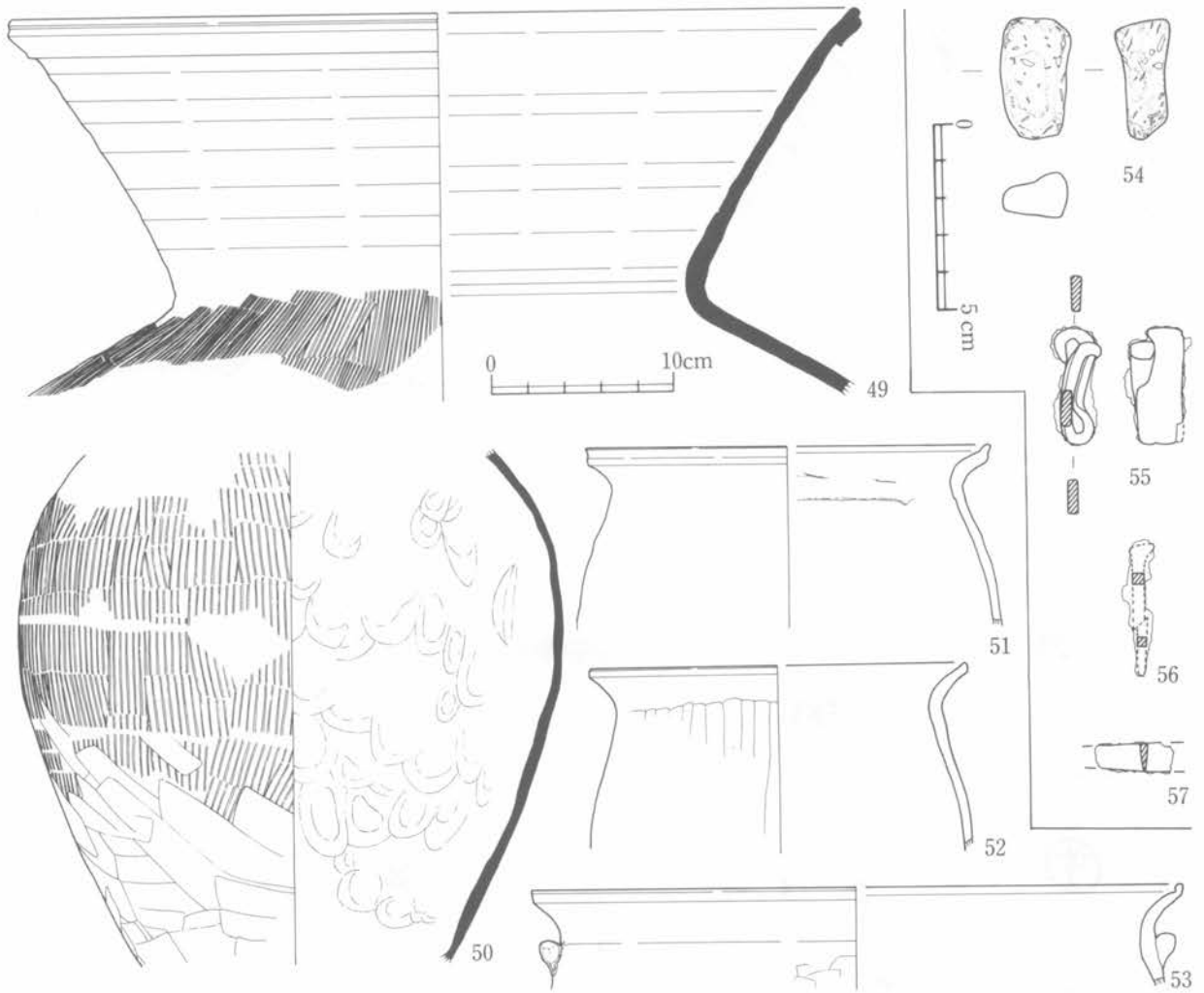
表114 II 0 3 3

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第129図の1	土師器 杯	14.2	3.7	6.9	雲母多量に含む	淡褐色		209、652
第129図の2	土師器 杯	(12.3)	3.3	7.2	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		2、3、22、330
第129図の3	土師器 杯	(13.4)	4.4	7.6	雲母・長石・スコリア含む	淡褐色		1、641、693、703、781
第129図の4	土師器 杯	(12.6)	4.0	5.1	雲母・長石・スコリア含む	淡褐色		587
第129図の5	土師器 杯	(12.7)	3.8	7.0	雲母多量に含む	明褐色		789
第129図の6	土師器 杯	13.1	3.9	7.5	雲母・長石・スコリア含む	明褐色		2、3、4、191、230、281、346、410、412
第129図の7	土師器 杯	(12.4)	3.6	(6.8)	雲母・砂粒多量に含む	明褐色		3、88、402、446
第129図の8	土師器 杯	(12.6)	3.3	6.0	雲母・長石・砂粒含む	暗褐色～赤褐色		127、129、730
第129図の9	土師器 杯	12.3	3.5	7.1	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		3、550、557、580、583、669
第129図の10	土師器 杯	12.8	4.4	6.1	雲母多量に含む	暗褐色		2、3、4、320、345、752、757
第129図の11	土師器 杯	12.5	3.3	6.0	雲母・長石・砂粒・スコリア含む	明赤褐色		4、68、598
第129図の12	土師器 杯	14.7	4.4	6.6	雲母多量に含む	明褐色		3、4、101、188、422、551、586、749
第129図の13	土師器 杯	(12.2)	3.7	(7.2)	雲母多量に含む	褐色	墨書(底内)「个」 墨書(底外)「个」	735、750
第129図の14	土師器 杯	-	-	(7.0)	雲母・長石・スコリア含む	明赤褐色	線刻(底内)「口」 墨書(底外)「口」	637
第129図の15	土師器 杯	-	-	(7.6)	-	-	墨書(底外)「口」	741
第129図の16	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「口」 墨書(体外)「高」	742
第129図の17	土師器 鉢	(19.0)	6.9	(9.1)	雲母多量に含む	明褐色		4、125、440、813
第129図の18	土師器 高台付皿	13.3	2.4	6.4	雲母多量に含む	明褐色		3、4、241、507、574、586
第129図の19	土師器 高台付皿	(14.0)	3.0	6.6	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		227
第129図の20	土師器 杯	-	-	5.8	雲母多量に含む	褐色	墨書(底内)「高」	111
第129図の21	土師器 高台付皿	13.4	2.3	5.9	白色針状物多い	黒色～明褐色		463
第129図の22	土師器 杯	(13.3)	3.9	7.2	スコリア多量に含む	明褐色	墨書(底外)「口」	2、49、112、118、123、339
第129図の23	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「⊕」	411、510
第129図の24	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「口」	4
第129図の25	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「口」	809
第129図の26	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「口」	3、497
第129図の27	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「富」	328、611
第129図の28	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「口」	3
第129図の29	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「富」	500
第129図の30	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体内)「玉」	809
第129図の31	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「口」	1、2
第129図の32	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「依」	4





第129图 II033(1)



第130図 II033(2)

第129図の33	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「子」	247
第129図の34	土師器 杯	-	-	-	-	-	内黒 墨書 (体外) 「口」	4、686
第129図の35	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「口」	4
第129図の36	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「高」	1
第129図の37	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「高」	1
第129図の38	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「口」	4
第129図の39	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「口」	2
第129図の40	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「口」	4
第129図の41	土師器 杯	(11.9)	3.6	6.5	雲母多量に含む	明褐色	ヘラ書き (底外) 「口」 「口」、線刻 (底内) 「口」	2、3、17、63、319、494
第129図の42	土師器 杯	-	-	-	-	-	ヘラ書き (底外) 「口」	1
第129図の43	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「口」	3
第129図の44	土師器 杯	-	-	-	-	-	ヘラ書き (底外) 「口」	1
第129図の45	土師器 高台付皿	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「×」	369
第129図の46	土師器 杯	12.3	3.3	7.0	砂粒多く含む	暗褐色	線刻 (底内) 「長」	4、775、808
第129図の47	土師器 高台付皿	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「井」	624
第129図の48	須恵器 甕	-	-	-	長石・砂粒含む	灰褐色		1、3、4、103、261、383、589
第130図の49	須恵器 甕	(45.8)	-	-	長石・砂粒・スコリア含む	暗赤褐色	千葉市域産	190、259、325、464、484、645、788
第130図の50	須恵器 甕	-	-	-	長石・石英・スコリア含む	暗褐色	千葉市域産	3、71、244、396、422、579、810、811
第130図の51	土師器 甕	(21.8)	-	-	雲母・長石・砂粒含む	暗褐色		4、99、260、264、379
第130図の52	土師器 甕	(20.4)	(10.0)	-	-	-		2、3、651、674、726、727
第130図の53	土師器 甕	(35.3)	(5.5)	-	長石・砂粒・スコリア含む	褐色		2、134、311、656

第130図の54	軽石	長さ 3.3	幅 1.8		3.5g	-		1
第130図の55	不明鉄製品	最大長 3.1	最大幅 1.2	厚さ 1.2	-	-		622
第130図の56	鉄釘	残存長 3.5	-	-	-	-		692
第130図の57	刀子	残存長 1.9	-	-	鉄製品	-		341

## II034 (第131図、図版46・47・139・166)

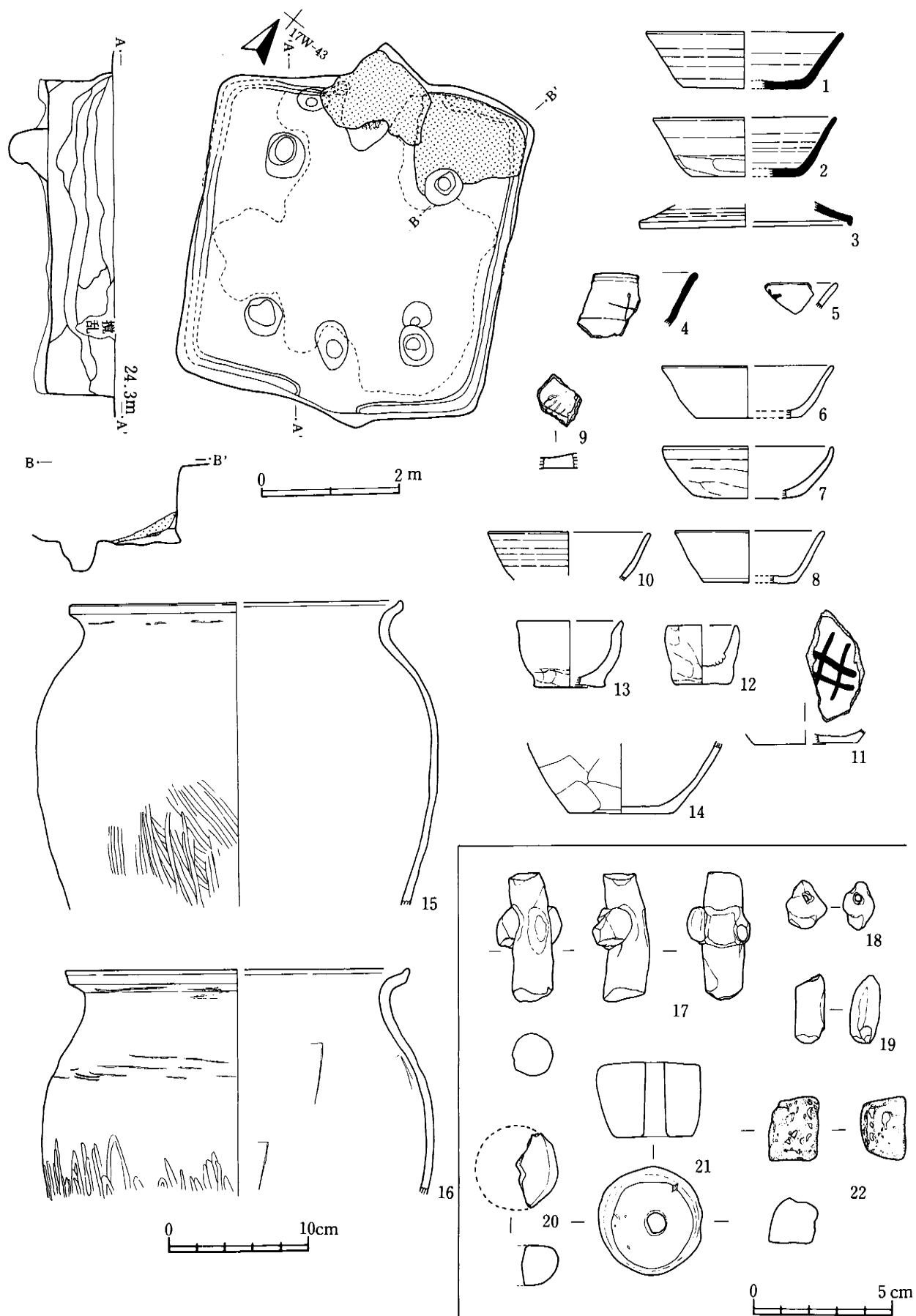
非常に掘込みの深い住居で、支柱穴4本、出入口ピット1か所を検出した。床面は硬化しており、埋土も締まりが強い。出入口ピット付近で壁溝が途切れ、若干壁が外側に張り出す。手捏ね土器や動物形土製品と考えられる2本の脚をもつ円筒形の破片(17)が出土している。上端・下端が欠損しており、動物は特定できない。出土位置は不明である。

表115 II034

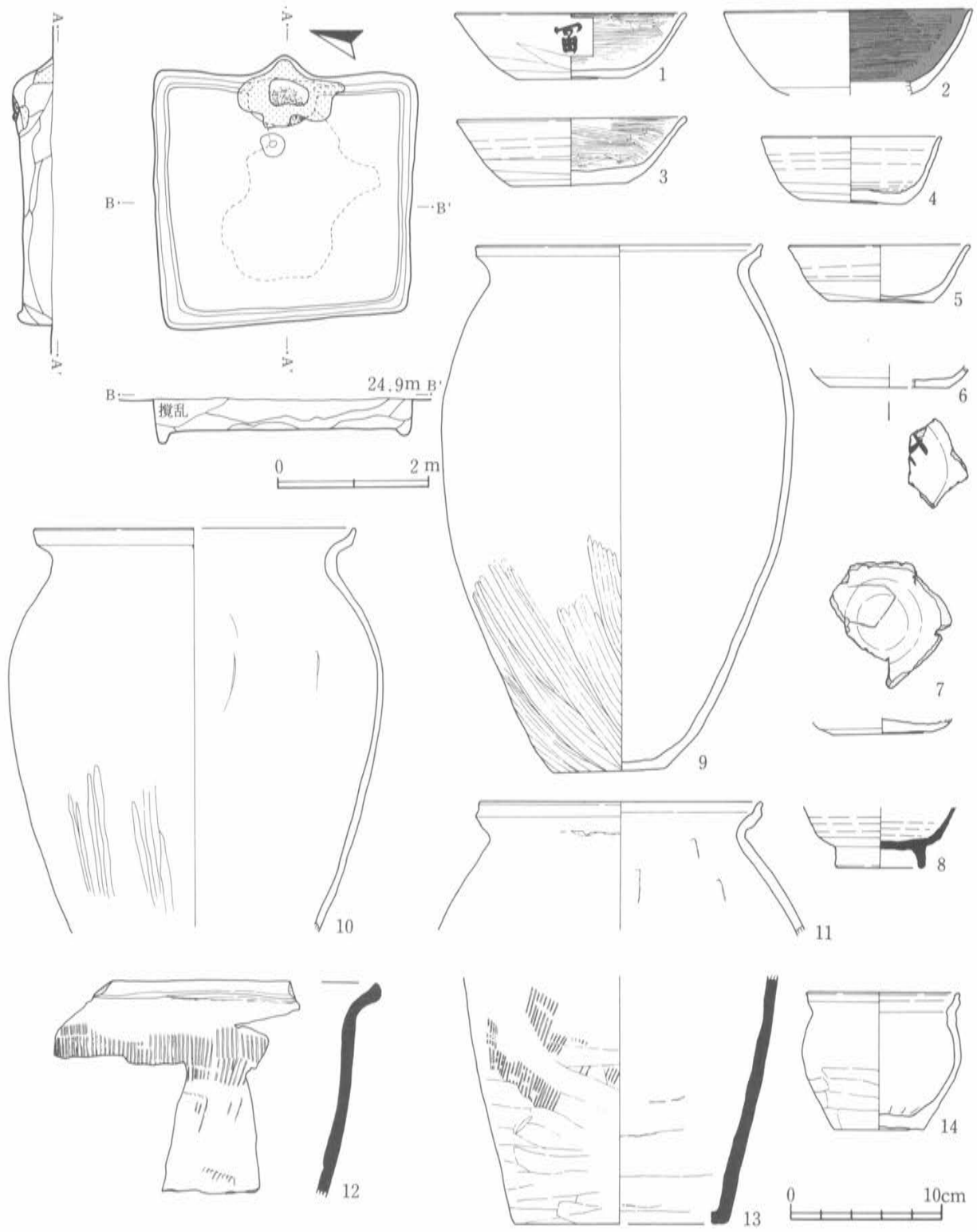
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第131図の1	須恵器 杯	(14.2)	4.1	(8.6)	雲母・砂粒含む	灰色	新治産	83
第131図の2	須恵器 杯	(13.2)	4.3	(7.8)	雲母・砂粒含む	灰白色	新治産	139、144
第131図の3	須恵器 蓋	(15.2)	-	-	長石・石英含む	灰色		189、190
第131図の4	須恵器 杯	-	-	-	-	-	千葉市域産、線刻(体外) 「+」	71
第131図の5	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	4
第131図の6	土師器 杯	(12.4)	3.7	(7.6)	雲母多量に含む	明褐色		1、2、183
第131図の7	土師器 杯	(12.2)	(3.6)	(8.0)	砂粒含む	橙褐色		169
第131図の8	土師器 杯	(10.8)	3.7	(6.6)	雲母多量に含む	褐色		4、26、38、44
第131図の9	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「□」	5
第131図の10	土師器 杯	(11.6)	-	-	雲母多く含む	明褐色		1、2、176
第131図の11	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「井」	97
第131図の12	手捏ね	(7.5)	(4.7)	(5.2)	砂粒含む	橙褐色		4
第131図の13	手捏ね	(4.9)	(4.2)	4.0	砂粒含む	褐色～黒色		1、121
第131図の14	土師器 甕	-	-	7.6	-	明褐色		205、206、216
第131図の15	土師器 甕	(23.6)	-	-	雲母・長石多量に含む	明褐色		1、2、81、194、198、199、212、213、214、215、217
第131図の16	土師器 甕	(24.8)	-	-	雲母・砂粒多く含む	明褐色		125、218
第131図の17	土製品	残存長 4.5	直径1.5	-	砂粒含む	橙褐色	動物形	4
第131図の18	土製品	長さ1.7	幅 1.5	-	砂粒含む	淡褐色	孔1	16
第131図の19	土製品	残存長 2.4	直径1.1	-	砂粒含む	-	棒状	4
第131図の20	紡錘車	直径 (3.0)	厚さ1.4	-	-	橙褐色		4
第131図の21	紡錘車	直径 (3.7)	厚さ 2.5	-	砂粒・スコリア含む	明褐色		196
第131図の22	軽石	幅 1.8	長さ1.6	-	2.8g	-		210

## II035 (第132図、図版47・140)

方形プランの住居で、壁溝は全周するが、柱穴をもたない。竈火床部上から、いずれも底部付近の破片を倒位で重ねた状態の3点の甕が出土した。小型甕は、埋土内の出入口近辺の床面から出土した口縁部付近などと接合する。他の甕は、いわゆる常総型の甕で、竈内及び住居内の、かなり広範囲から出土した破片と接合する。竈内の重なった土器片は、いずれも二次的な被熱を受けている。おそらく、支脚の一部として機能していたのであろう。床面直上から埋土中層にかけて遺物が出土している。



第131图 II034



第132図 II035

表116 II 0 3 5

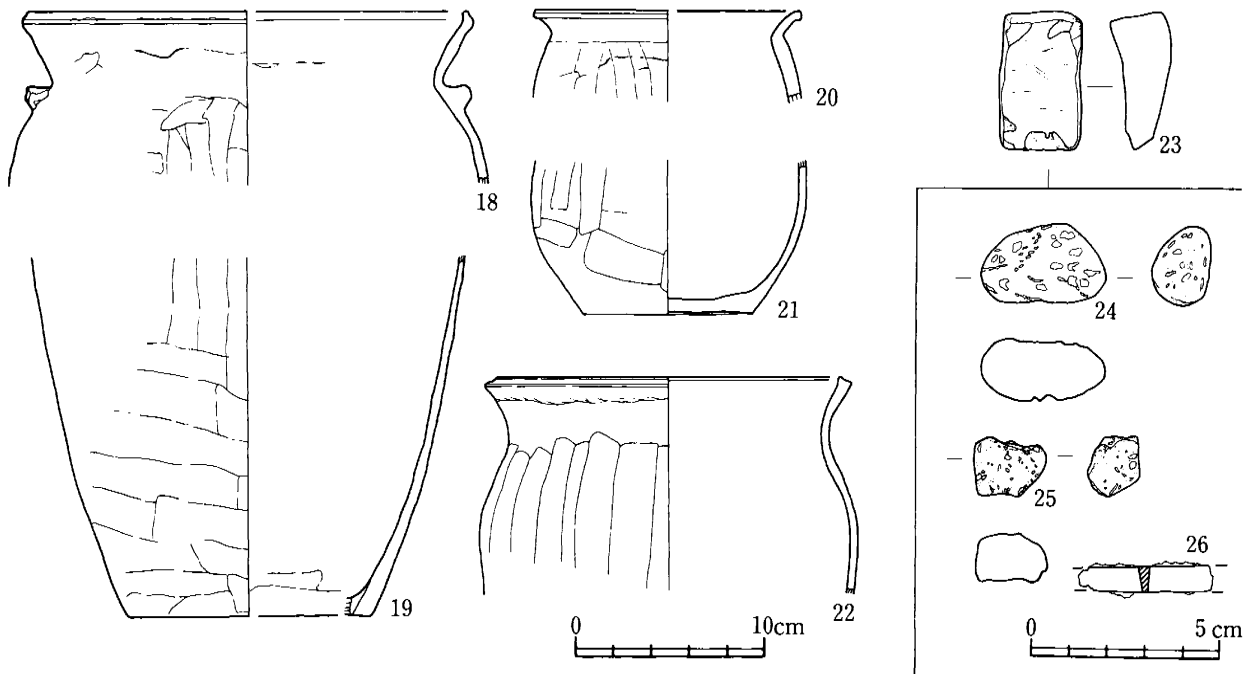
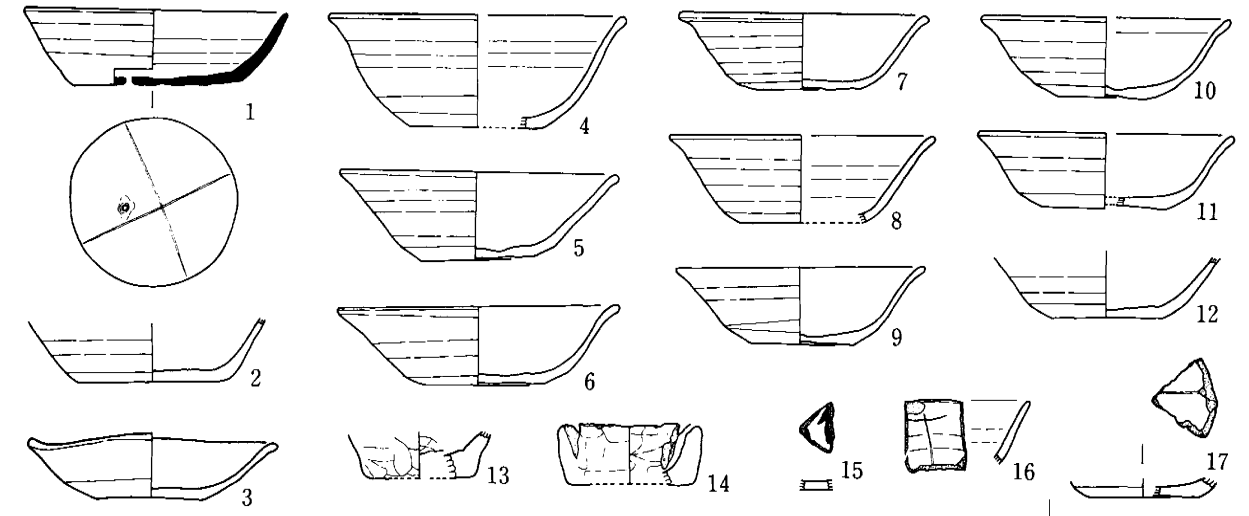
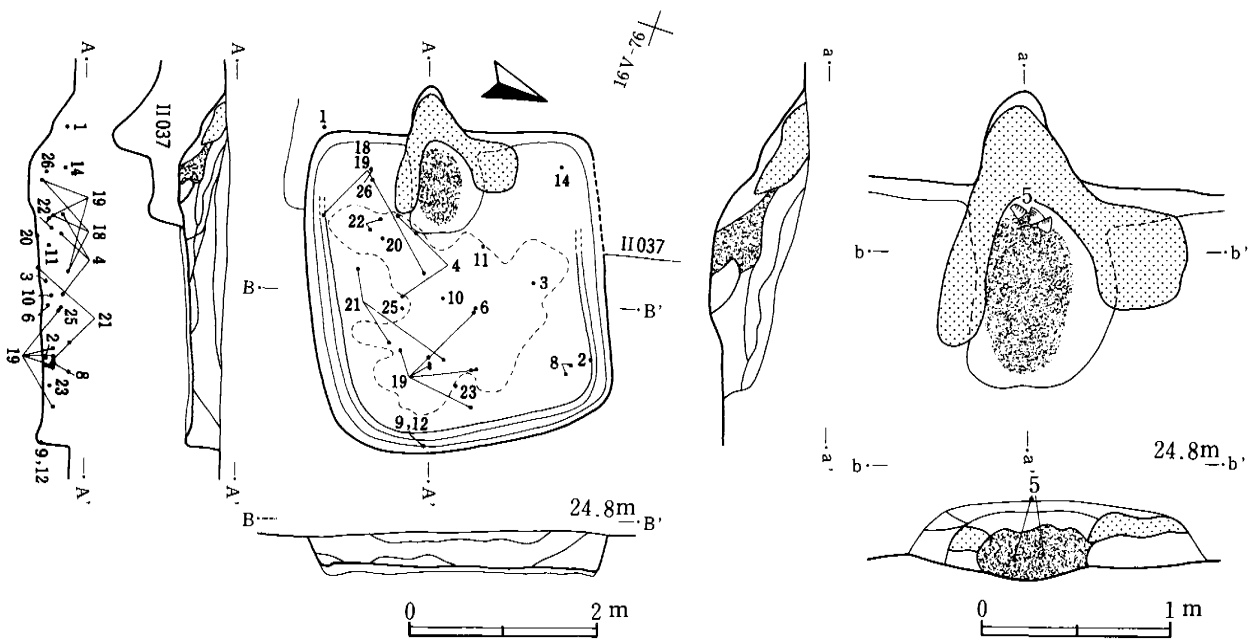
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第132図の1	土師器 杯	15.2	4.4	7.2	雲母・砂粒多量に含む	橙褐色	墨書(体外)「富」	3、77
第132図の2	土師器 杯	(16.4)	—	—	雲母多量に含む	外面橙褐色 内面黒色	内黒	2、10
第132図の3	土師器 杯	15.1	4.6	6.7	雲母多量に含む	暗褐色		2、3、4、7、74、84、 85、113
第132図の4	土師器 杯	11.8	4.5	6.8	雲母・スコリア多量に含む	橙褐色		3、117、118、119、128
第132図の5	土師器 杯	11.8	3.7	6.9	雲母多量に含む	淡褐色		2、49
第132図の6	土師器 杯	—	—	(7.8)	—	—	墨書(底外)「□」	3
第132図の7	土師器 杯	—	—	6.5	—	—	線刻(底内)「□」	1、3、57
第132図の8	須恵器 高台付杯	—	—	5.5	雲母多量に含む	灰白色～灰色	新治産	12
第132図の9	土師器 甗	18.9	34.2	7.5	雲母・石英・長石多量に含む	橙褐色	常総型	1、2、4、50、55、59、 62、69、70、85、92、94、 102、107、110、111、122、 124、126、130、132、134、 136、137、138、139、140、 146、148
第132図の10	土師器 甗	(21.8)	—	—	雲母・石英・長石多量に含む	橙褐色	常総型	3、6、17、24、28、66、 68、77
第132図の11	土師器 甗	(18.5)	—	—	雲母・石英・長石多量に含む	明橙褐色	常総型	3、4、104、117、147、148
第132図の12	須恵器 甗	—	—	—	石英・長石多量に含む	灰色		2、3、14、41、42、151
第132図の13	須恵器 甗	—	—	(14.1)	石英・長石多量に含む	灰色	単孔	2、3、13、63、100、121、 142、148
第132図の14	土師器 小型甗	10.2	8.9	5.9	石英・長石・砂粒含む	明橙褐色		2、3、23、145、150

II036 (第133図、図版48・140・167)

竈付近はII037の埋土を切って造られている。そのため、重複する範囲では、壁面及び周溝が不明確になっている。柱穴はない。埋土中層から下層にかけて、遺物の出土量が多い。

表117 II 0 3 6

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第133図の1	須恵器 杯	13.8	3.8	9.4	石英・長石・砂粒含む	淡灰色	新治産、線刻(底外)「十」	22
第133図の2	土師器 杯	—	—	7.8	砂粒含む	明褐色		114
第133図の3	土師器 杯	12.8	3.5	5.7	砂粒含む	褐色		178
第133図の4	土師器 杯	(15.4)	5.8	(7.0)	砂粒含む	橙褐色		25、107、157
第133図の5	土師器 杯	14.5	4.6	6.0	スコリア含む	橙褐色		191、194、199
第133図の6	土師器 杯	14.6	4.1	6.2	スコリア多く含む	褐色		173
第133図の7	土師器 杯	12.8	3.9	6.1	砂粒含む	淡褐色		204
第133図の8	土師器 杯	(13.8)	(4.5)	—	砂粒含む	明褐色		1、54、82
第133図の9	土師器 杯	13.2	4.1	5.4	砂粒含む	淡褐色		3、203
第133図の10	土師器 杯	(13.0)	4.1	5.0	スコリア含む	淡褐色		3、161
第133図の11	土師器 杯	(13.2)	3.9	(6.5)	スコリア含む	橙褐色		1、2、127
第133図の12	土師器 杯	—	—	(5.8)	砂粒含む	淡橙褐色		3、203
第133図の13	手捏ね	—	(2.3)	(5.6)	砂粒含む	黒褐色		1、II037-1
第133図の14	手捏ね	(7.2)	3.1	(6.5)	砂粒含む	暗褐色		1、143、II037-1
第133図の15	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「□」	4
第133図の16	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体外)「□」	1
第133図の17	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「□」	2
第133図の18	土師器 甗	(23.0)	—	—	石英・長石・スコリア含む	橙褐色		101、141、145
第133図の19	土師器 甗	—	—	(12.6)	—	—		2、3、8、57、59、60、 75、80、96、135
第133図の20	土師器 小型甗	(14.0)	—	—	雲母・砂粒・スコリア含む	暗褐色		146、202、205
第133図の21	土師器 甗	—	—	8.8	砂粒含む	暗褐色		1、4、10、155、165、202
第133図の22	土師器 甗	(19.4)	—	—	雲母・砂粒含む	淡褐色		104、142、202
第133図の23	軽石	幅 3.3	高さ1.6	—	3.1g	—		167
第133図の24	軽石	幅 1.9	高さ1.4	—	1.2g	—		1
第133図の25	刀子	残存長 3.4	—	—	鉄製品	—		15
第133図の26	砥石	120.7g	—	—	凝灰岩	—		131



第133图 II036

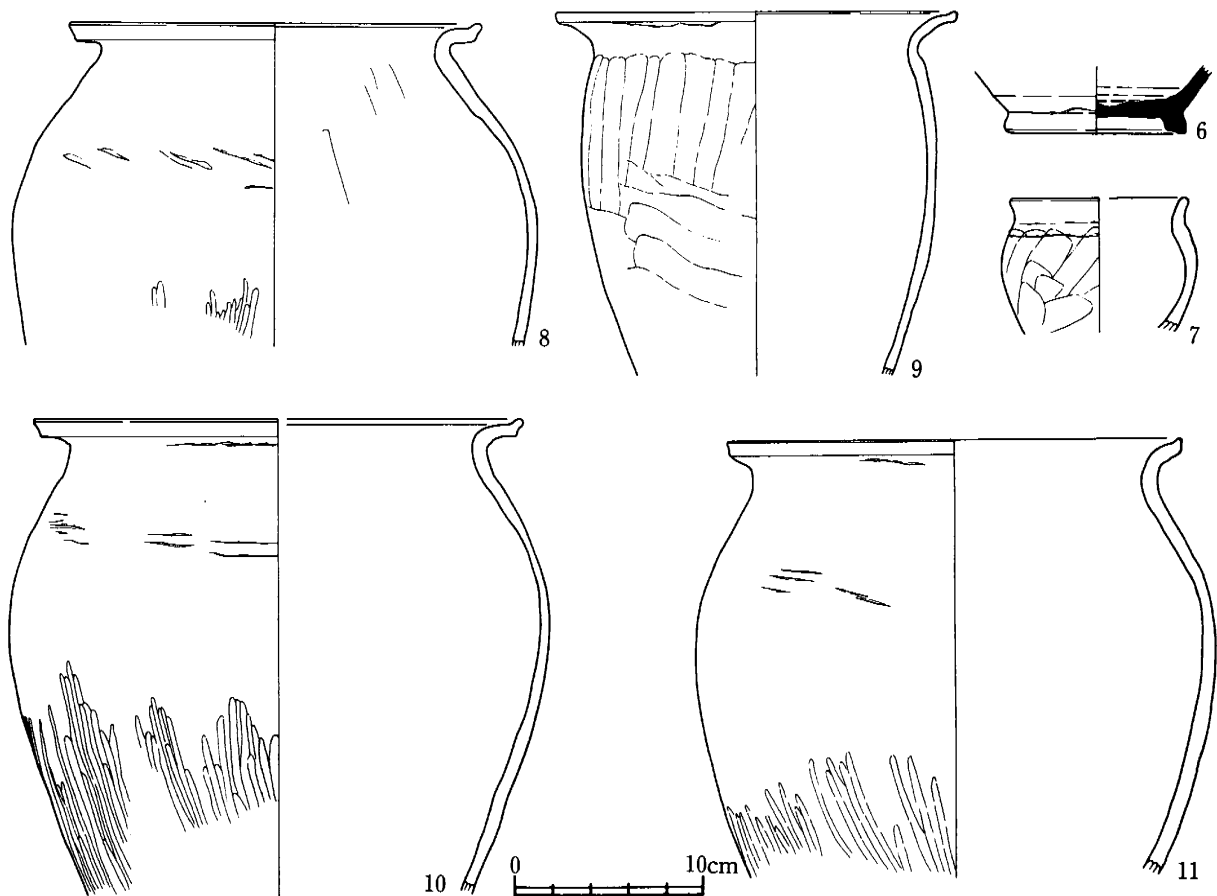
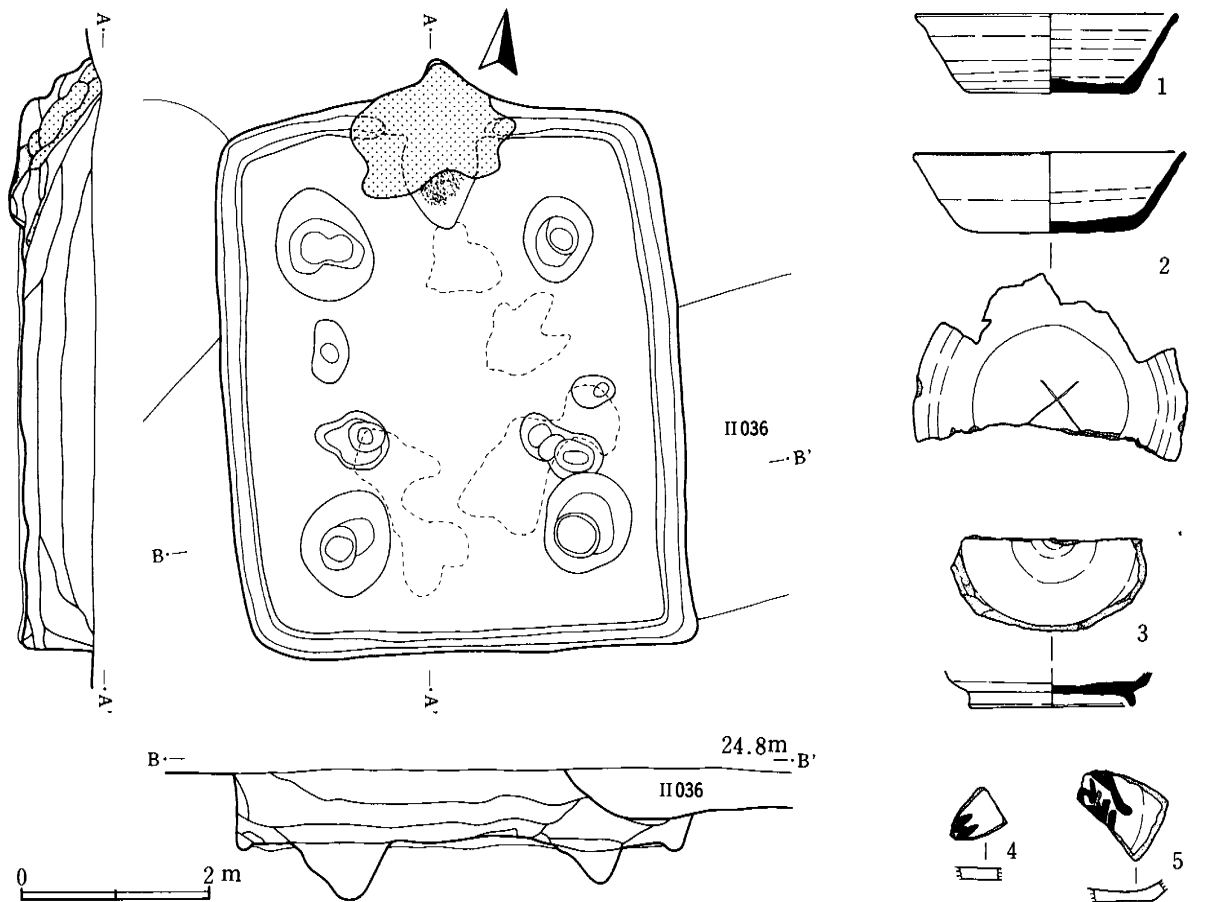
II037 (第134・135図、図版48・140・166・168)

主軸が横軸に比べてやや長い、長方形プランの住居である。支柱穴は4本であるが、貼床除去後に小ピットを検出した。住居埋土にはローム粒・ブロックが多く混入している。II034同様、手捏ね土器や土製品が出土している。21は上端を欠損した棒状の土製品で、下端を横に小さくつまみ出しているが、何かを模したようには見えない。22は先端がややとがった粘土塊で、下方から1か所、側面から3か所棒を差し込んで穴をあけている。2点とも埋土中層から出土している。23～26は刀子で、埋土上層から出土している。27は鎌身が非常に小さい鉄鎌である。

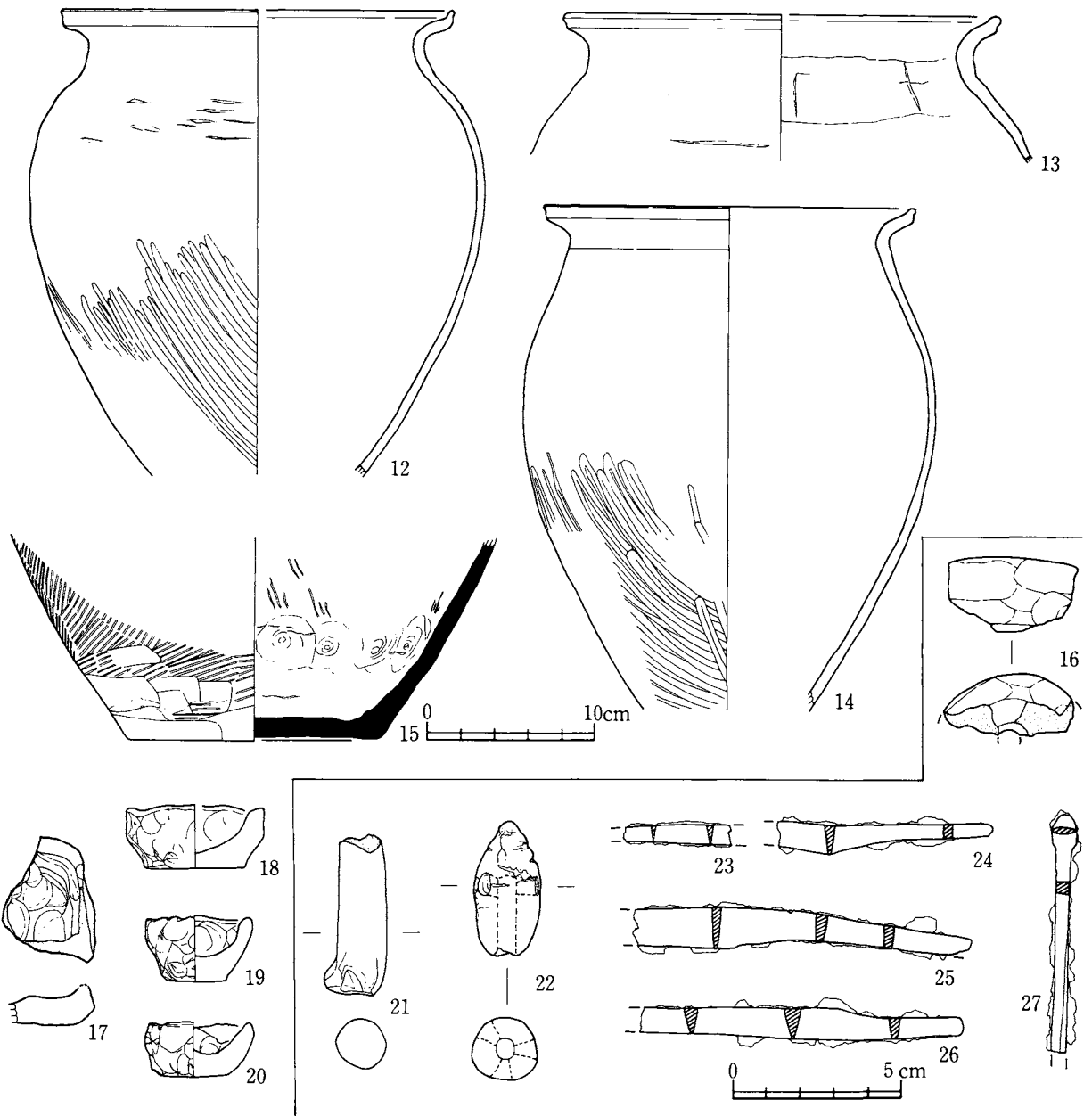
表118 II037

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第134図の1	須恵器 杯	(13.6)	4.3	8.5	雲母・石英・長石多量に含む	灰色	新治産	484
第134図の2	須恵器 杯	14.1	4.3	8.1	雲母・石英・長石多量に含む	灰白色	線刻(底外)「十」	83、178、433
第134図の3	須恵器 高台付杯	—	—	8.4	—	—	転用硯か	268、341
第134図の4	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「□」	1
第134図の5	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	142
第134図の6	須恵器 壺	—	—	9.3	砂粒含む	灰色	東海系	16、29
第134図の7	土師器 小型甕	9.0	—	—	長石・砂粒・スコリア含む	明褐色		162、165、193
第134図の8	土師器 甕	21.3	—	—	雲母含む	明褐色		541
第134図の9	土師器 甕	21.0	—	—	石英・長石多量に含む	暗褐色		1、2、384、387、480、490、561、563
第134図の10	土師器 甕	(25.4)	—	—	雲母・長石・砂粒・スコリア含む	暗褐色		1、94、318、326、415、503、521、523、539
第134図の11	土師器 甕	24.0	—	—	雲母・石英・長石多く含む	明橙褐色	常総型	4、95、96、293、409、418、419、483、491、493、494、500、502、514、531、535、16V-66-1
第135図の12	土師器 甕	(23.3)	—	—	雲母・石英・長石多く含む	茶褐色～橙褐色	常総型	392、546、560、563
第135図の13	土師器 甕	(26.0)	—	—	雲母・長石・石英多量に含む	—		340
第135図の14	土師器 甕	(21.8)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	褐色		4、5、249、377、378、389、404、498、506、533
第135図の15	須恵器 甕	—	—	14.8	雲母・長石・石英多量に含む	灰白色		5、63、105、356、357、381、548
第135図の16	紡錘車	—	—	—	長石・砂粒・スコリア含む	褐色	破片	562
第135図の17	手捏ね	—	—	—	長石・砂粒含む	赤褐色		42
第135図の18	手捏ね	(7.9)	3.7	(6.0)	砂粒多く含む	褐色		50
第135図の19	手捏ね	5.9	3.8	3.5	長石・スコリア含む	明褐色		118、125
第135図の20	手捏ね	—	3.2	6.1	雲母・長石・スコリア含む	黄褐色		220
第135図の21	土製品	直径1.5	—	—	長石・砂粒含む	褐色	棒状	298
第135図の22	土製品	長さ3.9	直径2.0	—	石英・長石・砂粒含む	淡褐色	4孔	534
第135図の23	刀子	残存長 3.2	—	—	鉄製品	—		563
第135図の24	刀子	残存長 6.3	—	—	鉄製品	—		111
第135図の25	刀子	残存長 10.0	—	—	鉄製品	—		98
第135図の26	刀子	残存長 9.6	—	—	鉄製品	—		451
第135図の27	鉄鎌	鎌身幅 0.8	鎌身長 1.0	残存長 6.9	—	—		73





第134图 II037(1)



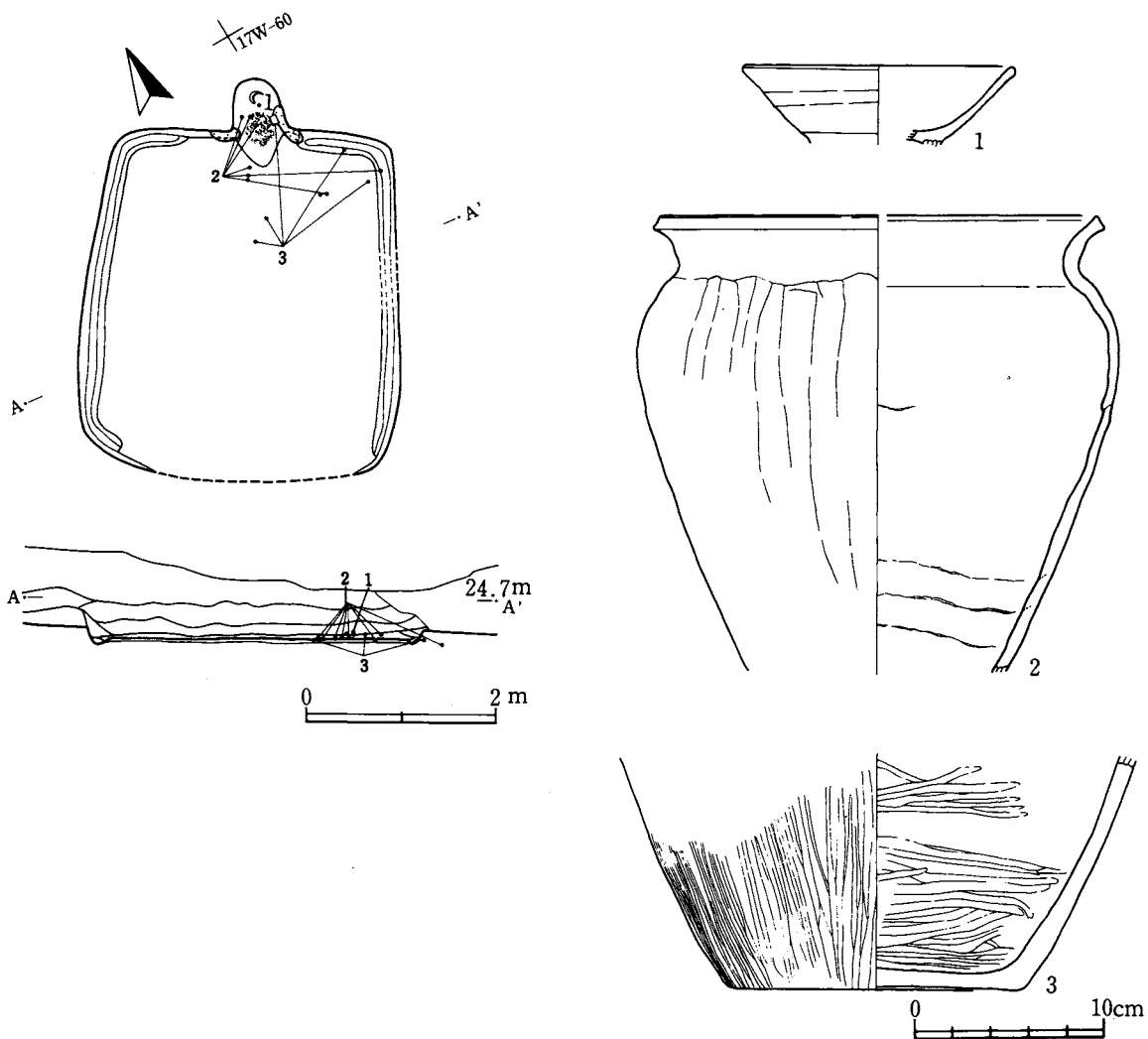
第135図 II037(2)

II038 (第136図、図版48・140)

掘込みが極めて浅く、甕の遺存も良くない。遺物量は少ない。

表119 II038

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第136図の1	土師器 高台付杯	14.1	(4.2)	-	雲母・砂粒多量に含む	暗褐色		1、14、28、30
第136図の2	土師器 甕	(22.9)	-	-	雲母・スコリア多量に含む	暗褐色		1、2、5、6、17、18、 20、22、23、24、25
第136図の3	土師器 甕	-	-	(15.2)	雲母多量に含む	暗褐色		3、4、8、10、29



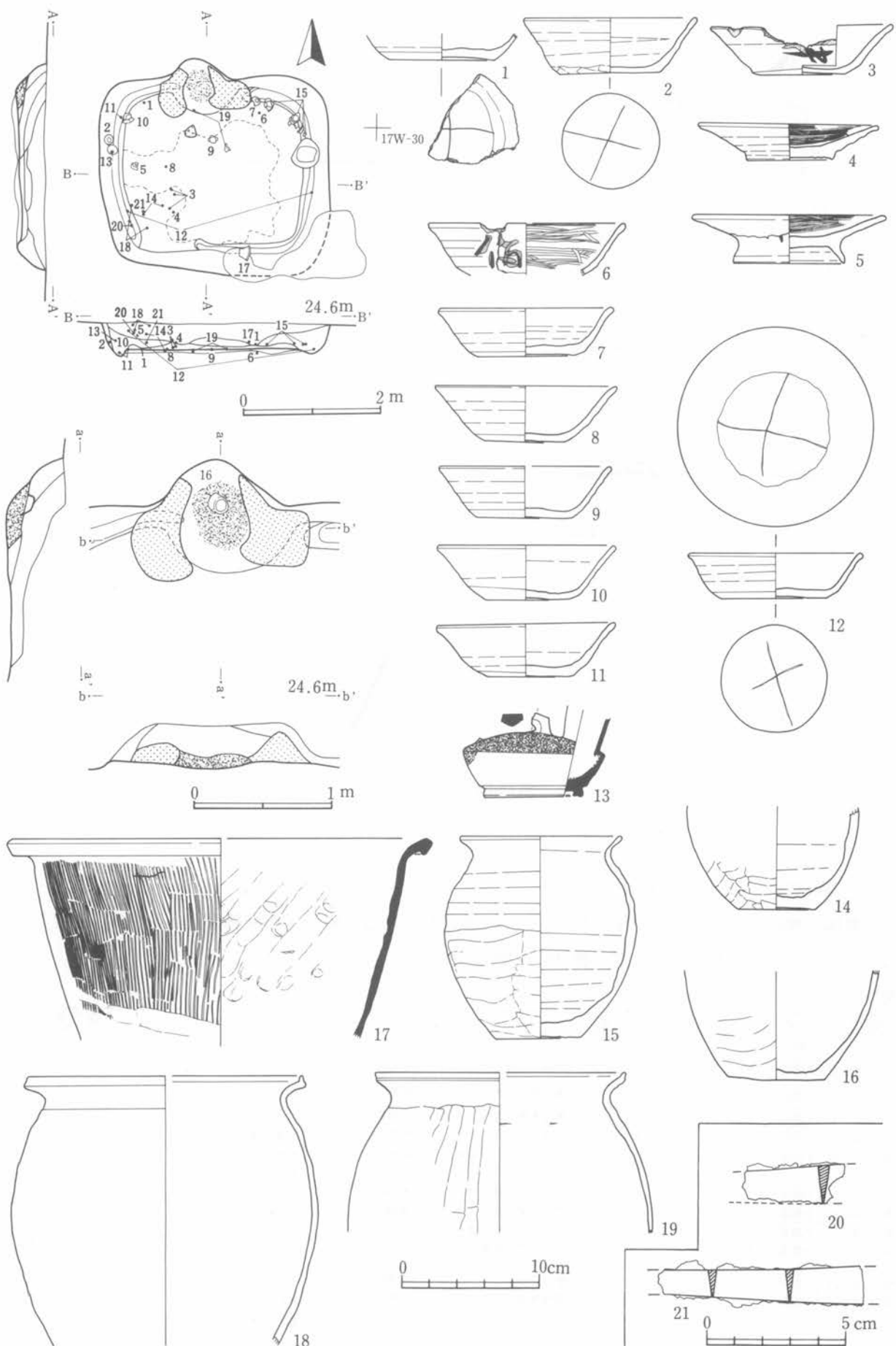
第136図 II038

II043 (第137図、図版49・50・142・168)

南東隅が攪乱を受ける、やや歪んだプランの小型住居である。竈火床部被熱面直上からは、直立した支脚の上に逆さに被せた状態の小型の甕(16)を検出した。

表120 II043

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第137図の1	土師器 杯	—	—	(7.6)	—	—	線刻(底外)「+」	75
第137図の2	土師器 杯	12.2	4.1	7.1	スコリア含む	暗褐色	線刻(底外)「+」	92
第137図の3	土師器 杯	(13.0)	3.8	6.1	雲母多量に含む	橙褐色	墨書(体外)「□」	1、3、32、35、41
第137図の4	土師器 皿	(13.8)	2.9	6.0	雲母多量に含む	暗褐色		3、17
第137図の5	土師器 皿	(13.6)	3.4	7.9	雲母多量に含む	橙褐色	墨書(体外)「□」	2、94
第137図の6	土師器 杯	(14.2)	(3.6)	—	雲母・スコリア多量に含む	橙褐色	墨書(体外)「佰」 重ね書き	78、120
第137図の7	土師器 杯	12.3	3.6	7.0	スコリア多量に含む	橙褐色		96
第137図の8	土師器 杯	(13.2)	3.9	5.7	雲母多量に含む	暗褐色		4、87
第137図の9	土師器 杯	(12.2)	3.7	6.8	雲母・スコリア含む	淡褐色		1、3、95、120
第137図の10	土師器 杯	12.7	3.9	6.1	白色針状物多量に含む	橙褐色		4、73、85、86、91、106、120
第137図の11	土師器 杯	12.7	3.8	5.8	雲母含む	橙褐色		84、91
第137図の12	土師器 杯	12.2	3.3	7.6	雲母多量に含む	橙褐色	線刻(底内)「+」 線刻(底外)「+」	1、3、24、44、120

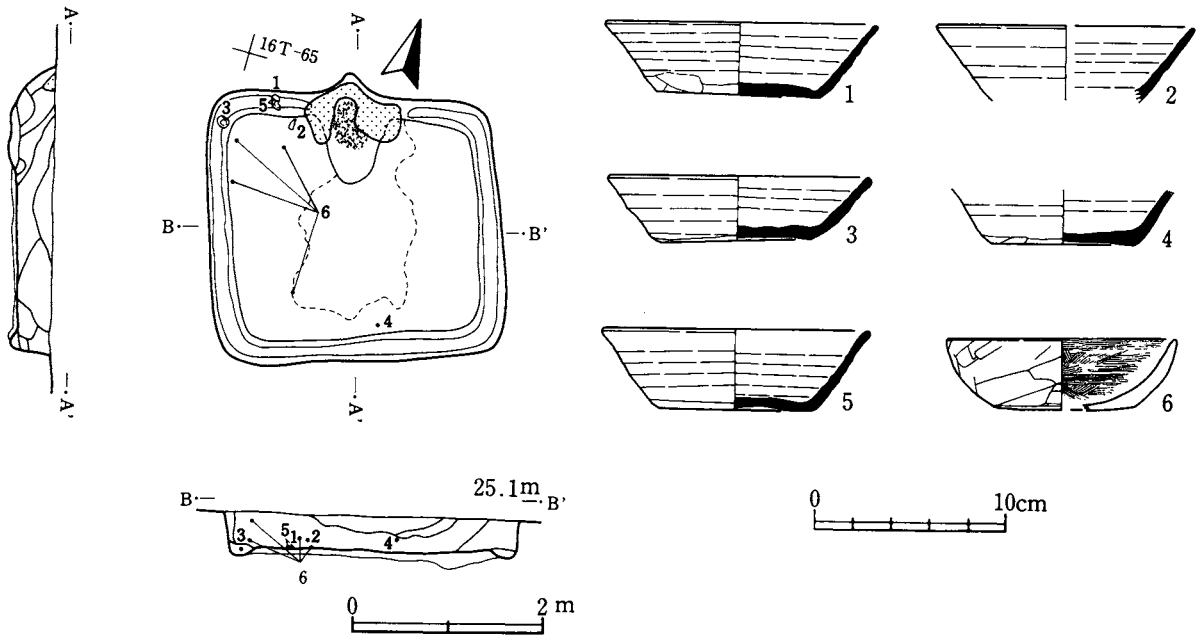


第137图 II043

第137図の13	灰釉陶器水滴	10.4	(6.5)	7.1	長石含む	灰白色	折戸53号窯式	93
第137図の14	土師器小型甕	-	(7.3)	5.5	雲母多量に含む	暗褐色		10、16
第137図の15	土師器小型甕	11.5	4.3	4.1	雲母多量に含む	暗褐色		1、97、98、99、100
第137図の16	土師器小型甕	-	(7.8)	7.0	石英・長石・砂粒含む	暗褐色		108
第137図の17	須恵器 鉢	(30.0)	14.3	-	石英・長石多量に含む	暗赤褐色		103
第137図の18	土師器 甕	(19.6)	(19.1)	-	雲母多量に含む	橙褐色～暗褐色		3、6、12、14
第137図の19	土師器 甕	(18.0)	(11.3)	-	雲母多量に含む	淡褐色～暗褐色		72、104
第137図の20	刀子	残存長 3.5	-	-	鉄製品	-		27
第137図の21	刀子	残存長 7.2	-	-	鉄製品	-		38

## II044 (第138図、図版50・142)

やや歪みをもった正方形プランの小型住居である。竈の遺存状況は良好である。遺物は少ない。



第138図 II044

表121 II044

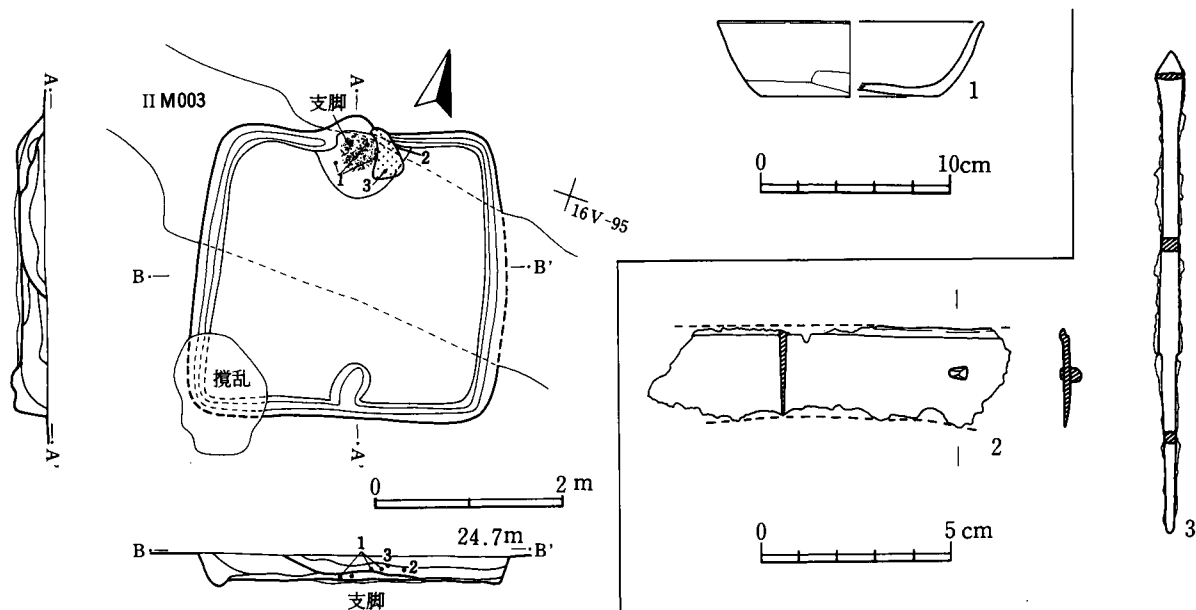
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第138図の1	須恵器 杯	14.2	3.8	8.7	雲母・長石多く含む	灰白色	新治産	1、40
第138図の2	須恵器 杯	(13.3)	-	-	雲母・長石含む	灰褐色～黒褐色	新治産	2、36
第138図の3	須恵器 杯	13.7	3.4	8.0	長石含む	灰色		37、41
第138図の4	須恵器 杯	-	-	7.5	雲母・長石多く含む	灰色	新治産	15
第138図の5	須恵器 杯	13.9	4.2	8.0	雲母・長石含む	灰褐色	新治産	38、39
第138図の6	土師器 杯	11.9	3.7	7.5	石英・長石含む	暗褐色		20、25、26、28

## II045 (第139図、図版50・168・169)

IIM003により竈から住居中央にかけて、大きく攪乱を受ける。遺物量は少ない。ほぼ完形の鉄身幅の狭い鉄鎌が竈右袖上から、また、目釘の残る穂摘具状の鉄製品が同じ竈右袖脇から出土している。

表122 II045

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第139図の1	土師器 杯	(13.9)	4.0	9.3	長石・白色針状物含む	赤褐色		1、23、25、26、30
第139図の2	不明鉄製品	残存長 8.2	-	-	-	-		21
第139図の3	鉄鎌	長さ 12.7	鎌身幅 0.8	-	-	-		21



第139図 II045

II048 (第140図、図版51・142・143・168)

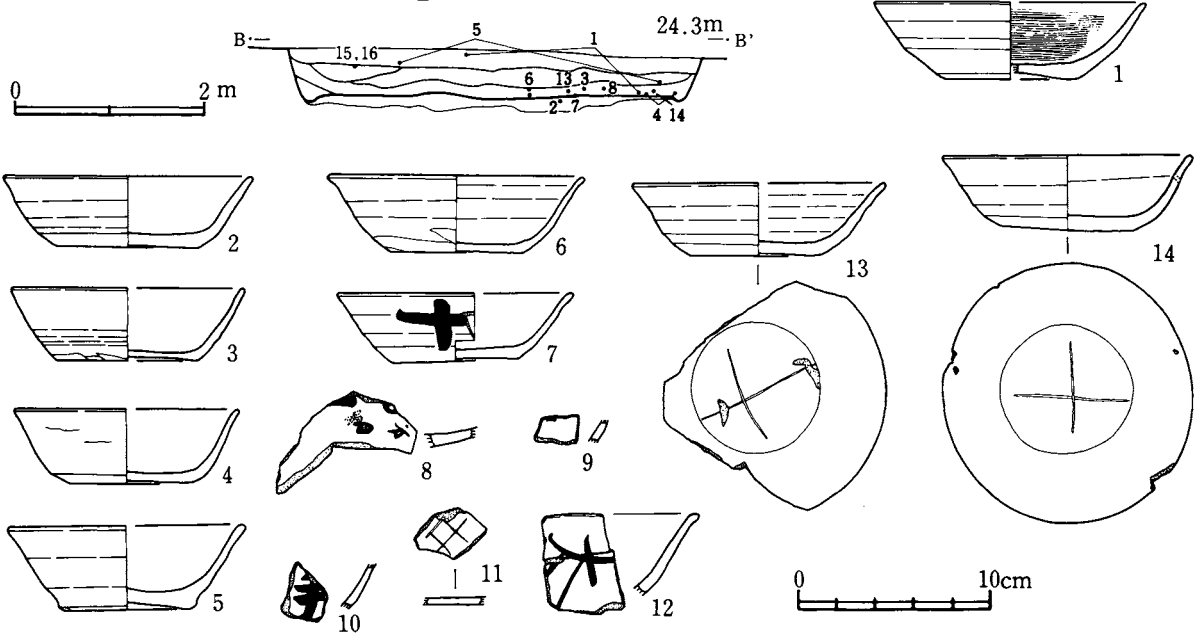
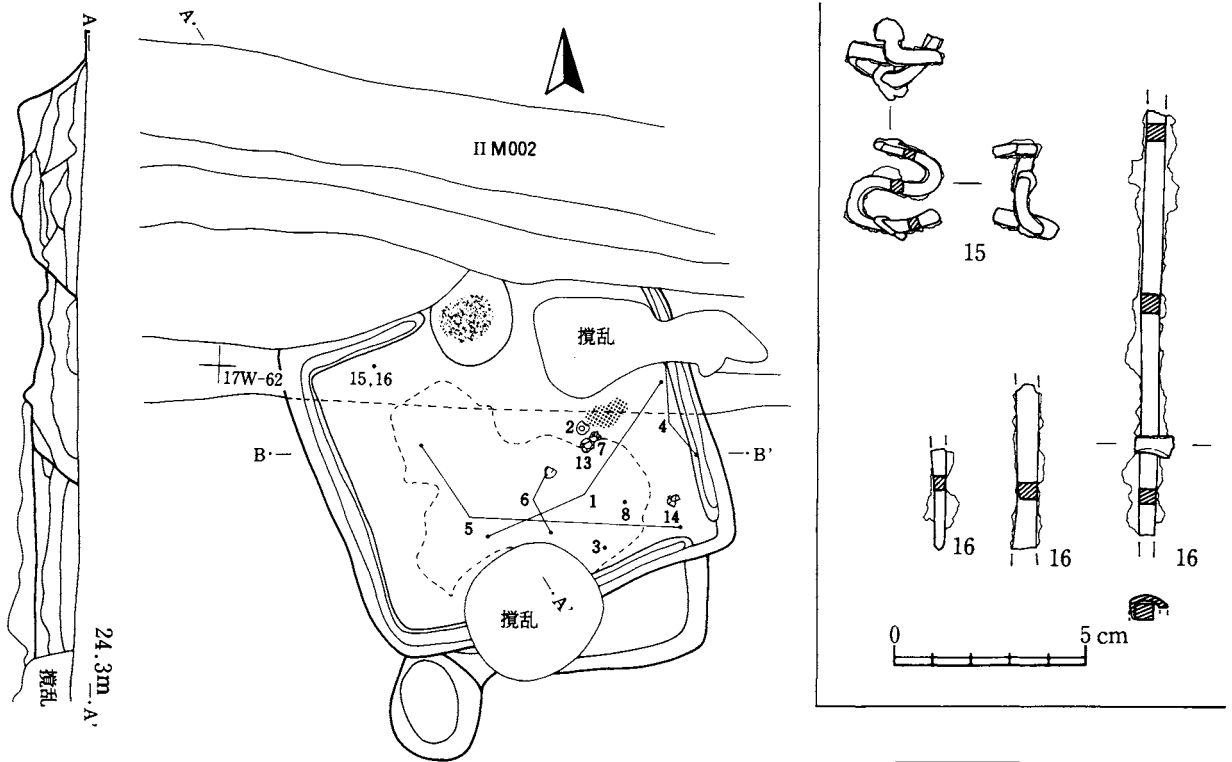
北側壁と竈をIIM002によって大きく削平されている。掘込みは深いので、床面は良好に遺存している。柱穴はない。15は鉄鏝をS字に曲げたもので、先端部を欠き、環状の留金具が残る。16は鉄鏝または銚の基部から筥被部片と考えられ、環状の留金具が残っている。2点とも住居北西コーナー埋土上層から出土している。

表123 II048

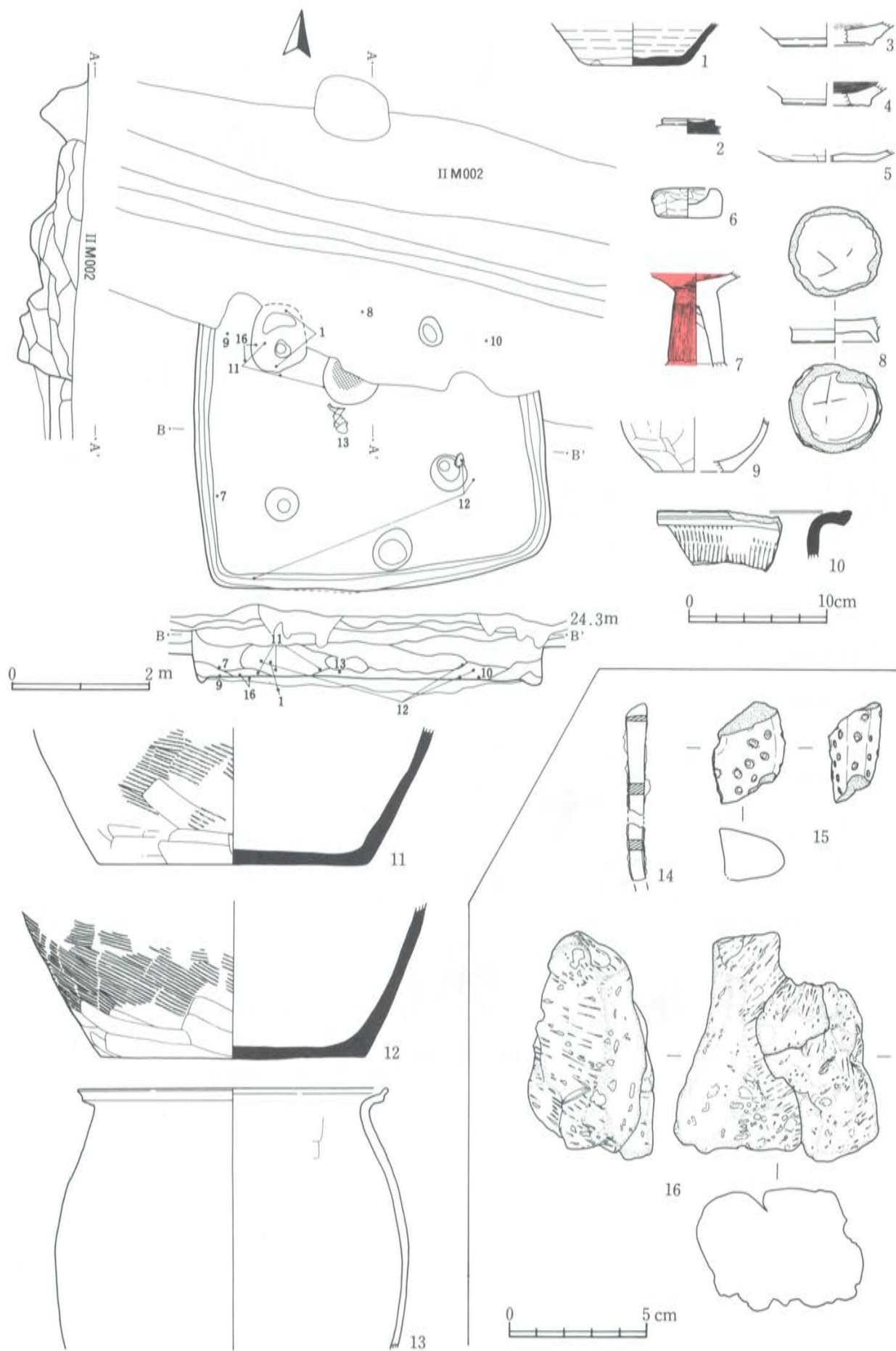
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第140図の1	土師器 杯	(14.1)	4.0	(6.8)	雲母・長石・スコリア含む	明褐色		121、IIM002-025
第140図の2	土師器 杯	12.8	3.7	7.4	雲母・長石・スコリア含む	明赤褐色		154
第140図の3	土師器 杯	(12.0)	3.8	(7.4)	スコリア含む	灰褐色		2、109
第140図の4	土師器 杯	(11.5)	3.8	6.4	雲母多く含む	明褐色		131、132
第140図の5	土師器 杯	(12.1)	4.4	6.5	雲母・長石・スコリア含む	明褐色		2、12、124
第140図の6	土師器 杯	13.2	4.0	6.9	雲母多く含む	明褐色		2、44、155
第140図の7	土師器 杯	(12.2)	3.6	6.6	雲母・長石・スコリア含む	黄褐色	墨書(体外)「+」	2、153
第140図の8	土師器 皿	-	-	-	-	-	墨書(体外) 「□・万・□・□」	107、159
第140図の9	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	2
第140図の10	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「手」	156
第140図の11	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「井」	1
第140図の12	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「大□」	1、2
第140図の13	土師器 杯	(13.1)	3.8	7.3	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色	線刻(底外)「+」	152
第140図の14	土師器 杯	13.4	3.9	7.1	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色	線刻(底外)「+」 底外穿孔2	2、151
第140図の15	不明鉄製品	幅 2.5	高さ2.5	-	-	-	S字状に曲がる。鉄鏝を曲げたものか	66
第140図の16	鉄鏝または銚	残存長 2.6	残存長 4.3	残存長 11.1	-	-		66

II049 (第141図、図版51・143・168)

北側約1/2がIIM002により削平されている。竈は削平された北側壁にあったものと考えられる。支柱穴は4本、出入口ピット1か所を確認した。大型の軽石が、北西側柱穴付近から出土している。





第140图 II048



第141图 II049



表124 II 0 4 9

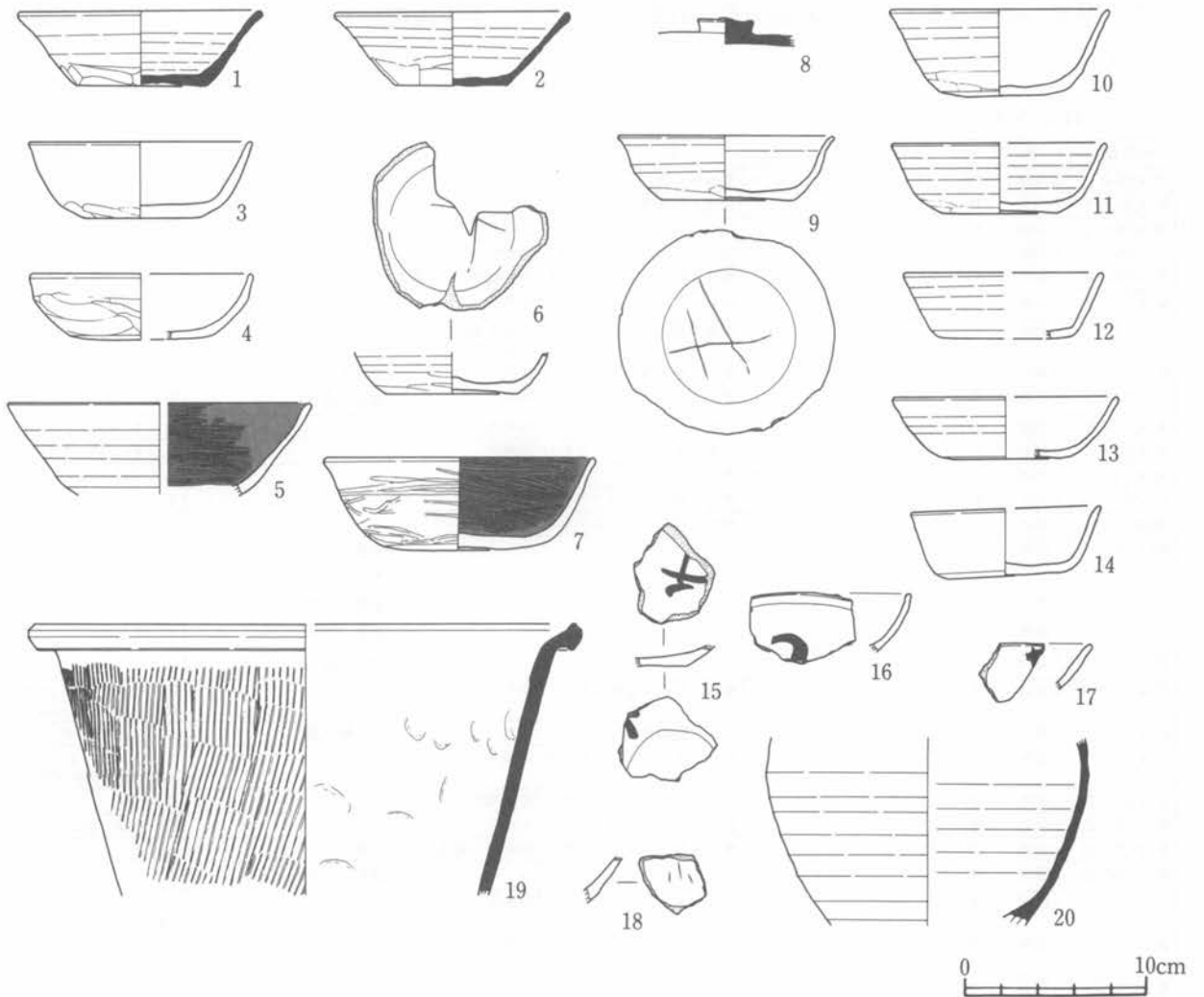
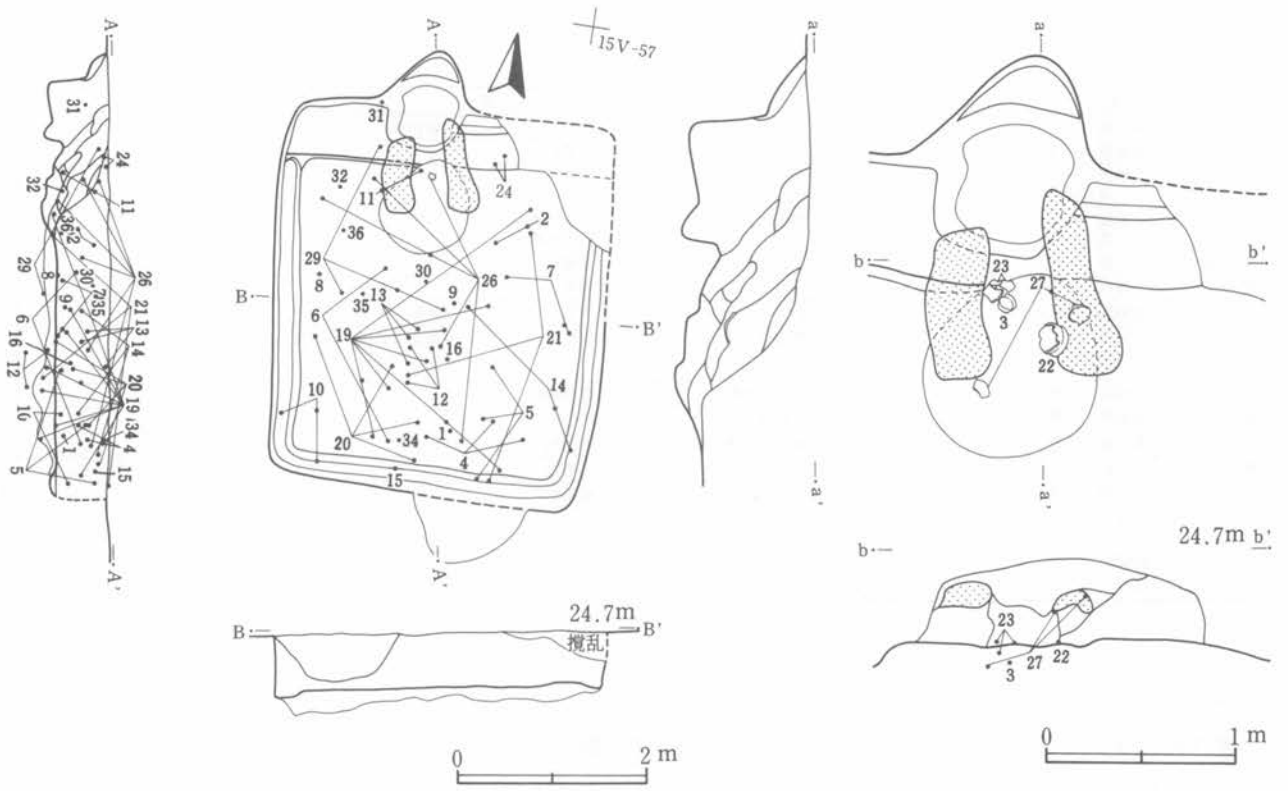
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第141図の1	須恵器 杯	—	—	7.3	雲母・長石多く含む	灰色	新治産	22、28
第141図の2	須恵器 蓋	—	—	—	長石含む	灰褐色		1
第141図の3	土師器 高台付皿	—	—	(6.4)	長石・スコリア含む	明褐色		2
第141図の4	土師器 高台付杯	—	—	(6.1)	雲母・長石含む	外面赤褐色 内面暗褐色	内黒	1
第141図の5	土師器 杯	—	—	(7.1)	雲母・長石含む	淡褐色		1、II M002-25
第141図の6	手捏ね	4.1	2.2	4.5	雲母・長石・スコリア含む	褐色		46
第141図の7	土師器 高杯	—	—	—	石英・長石・スコリア含む	赤色	赤彩	48
第141図の8	土師器 高台付皿	—	—	(6.2)	雲母多く含む	淡褐色	線刻(底内)  線刻(底外) 	42
第141図の9	土師器 小型甕	—	—	(5.6)	長石・砂粒・スコリア含む	暗赤褐色		38
第141図の10	須恵器 甕	—	—	—	長石含む	灰色		3
第141図の11	須恵器 甕	—	—	(19.6)	雲母・石英・長石含む	灰褐色～灰色	新治産	14、25、29
第141図の12	須恵器 甕	—	—	(19.1)	雲母・長石・スコリア含む	灰褐色		47、53、54、57、168
第141図の13	土師器 甕	22.2	—	—	長石多く含む	暗褐色		44
第141図の14	鉄鏃	残存長 (6.3)	—	—	—	—		2
第141図の15	紡錘車	—	—	—	長石含む	暗褐色	刺突文	45
第141図の16	軽石	長径7.8	短径7.5	高さ4.6	43.0g	—		2

## II056 (第142・143図、図版52・143・168・169)

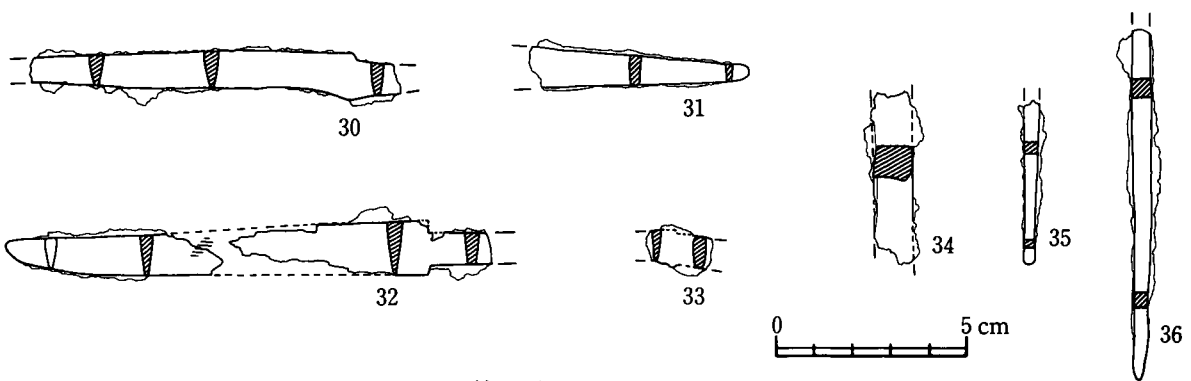
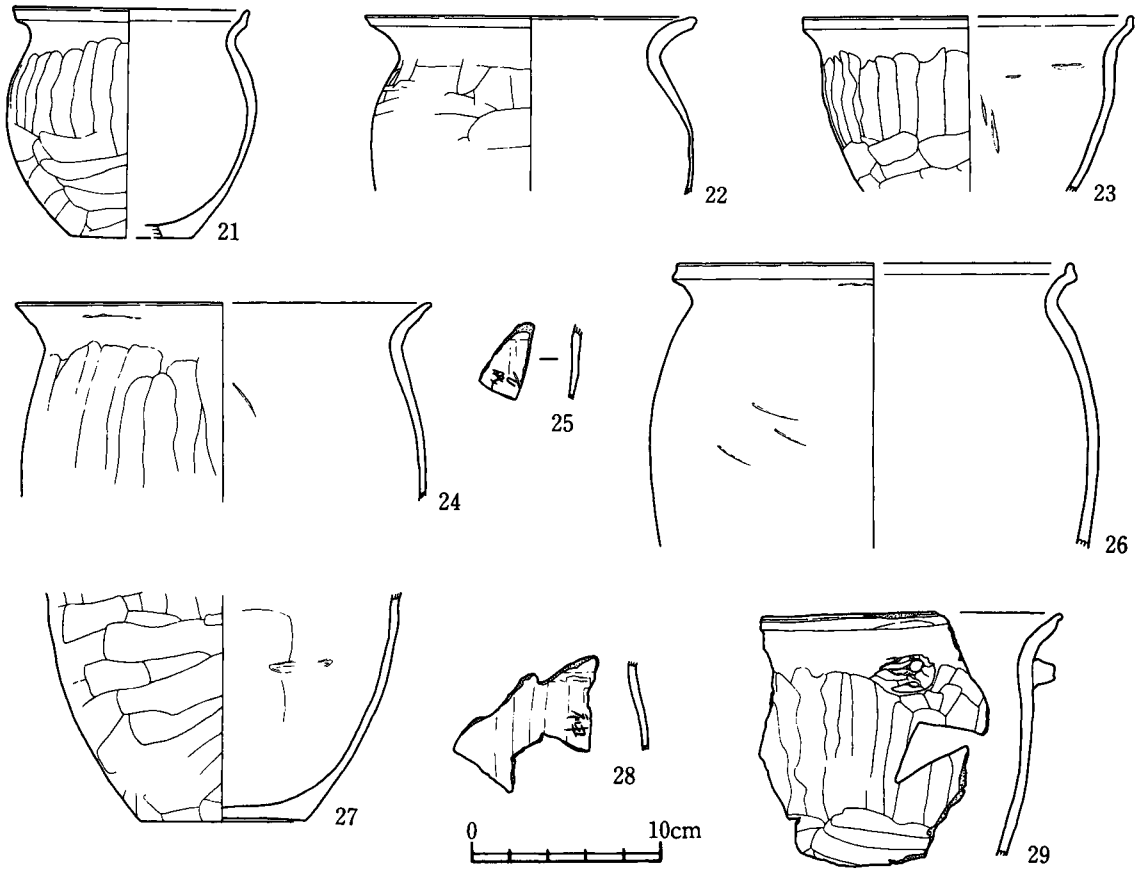
建替えによって規模を小さくした住居で、その痕跡が竈北側に、一段テラス状に高く残っている。竈も住居の改築に伴い、造り替えられている。竈内からは多くの土器片が出土している。30～33は刀子の刀身部及び基部の破片である。34は断面方形の鉄製品であるが、上下両端を欠損している。35・36は鉄鏃の茎部であろう。

表125 II 0 5 6

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第142図の1	須恵器 杯	13.0	4.0	7.0	雲母多く含む	灰色	新治産	300
第142図の2	須恵器 杯	12.7	4.0	6.1	雲母・石英含む	灰色	新治産	1、35、261
第142図の3	土師器 杯	12.0	4.1	7.3	長石・スコリア含む	赤褐色		331
第142図の4	土師器 杯	11.9	3.7	(7.8)	雲母・長石・スコリア含む	黒褐色		4、50、96、168、367
第142図の5	土師器 杯	(16.4)	5.0	—	雲母・長石・スコリア含む	外面褐色、内面黒色	内黒	2、97、108、203
第142図の6	土師器 杯	—	—	7.3	長石・スコリア含む	赤褐色	線刻(底内) 	161、169
第142図の7	土師器 杯	14.7	5.0	9.2	雲母・長石含む	外面赤褐色 内面黒色	内黒	86、260、282
第142図の8	須恵器 蓋	—	—	—	雲母・長石含む	灰色	新治産	297
第142図の9	土師器 杯	11.6	3.4	7.2	長石・スコリア含む	褐色	線刻(底外) 	309
第142図の10	土師器 杯	11.8	4.7	6.9	石英・長石・スコリア含む	赤褐色		3、4、217、219、252
第142図の11	土師器 杯	(11.5)	3.8	6.2	石英・長石・スコリア含む	赤褐色		2、4、249、329、368
第142図の12	土師器 杯	(10.8)	3.6	(7.4)	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		350、351、353
第142図の13	土師器 杯	(12.1)	3.5	5.9	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		3、4、63、117、118
第142図の14	土師器 杯	(10.3)	3.6	6.3	雲母・長石・スコリア含む	褐色		2、57、197、278
第142図の15	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)  墨書(底外) 	229
第142図の16	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) 	5、30
第142図の17	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) 	2
第142図の18	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体内) 	2
第142図の19	須恵器 甕	(29.6)	—	—	雲母・長石・砂粒含む	灰色		105、112、175、262、308、313、354、356、358
第142図の20	須恵器 壺	—	—	—	長石・砂粒含む	灰色	自然軸付着	2、4、136、140、191、236
第143図の21	土師器 小型甕	12.3	12.1	(6.5)	長石・スコリア・砂粒含む	赤褐色		1、2、3、4、55、346、352、365、366、367、368
第143図の22	土師器 甕	17.2	—	—	長石・砂粒・スコリア含む	暗赤褐色		326
第143図の23	土師器 小型甕	(17.0)	—	—	長石・スコリア含む	赤褐色		327、328、332
第143図の24	土師器 甕	(21.5)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色～褐色	武蔵型	1、4、26、27
第143図の25	土師器 甕	—	—	—	—	—	線刻(体外) 	4
第143図の26	土師器 甕	(20.4)	—	—	長石・スコリア含む	暗褐色	常総型	11、143、155、208、269、316、338
第143図の27	土師器 甕	—	—	8.6	長石・スコリア含む	明褐色		1、3、4、315、323、334、338
第143図の28	土師器 甕	—	—	—	—	—	線刻(体外) 	3、338



第142图 II056(1)

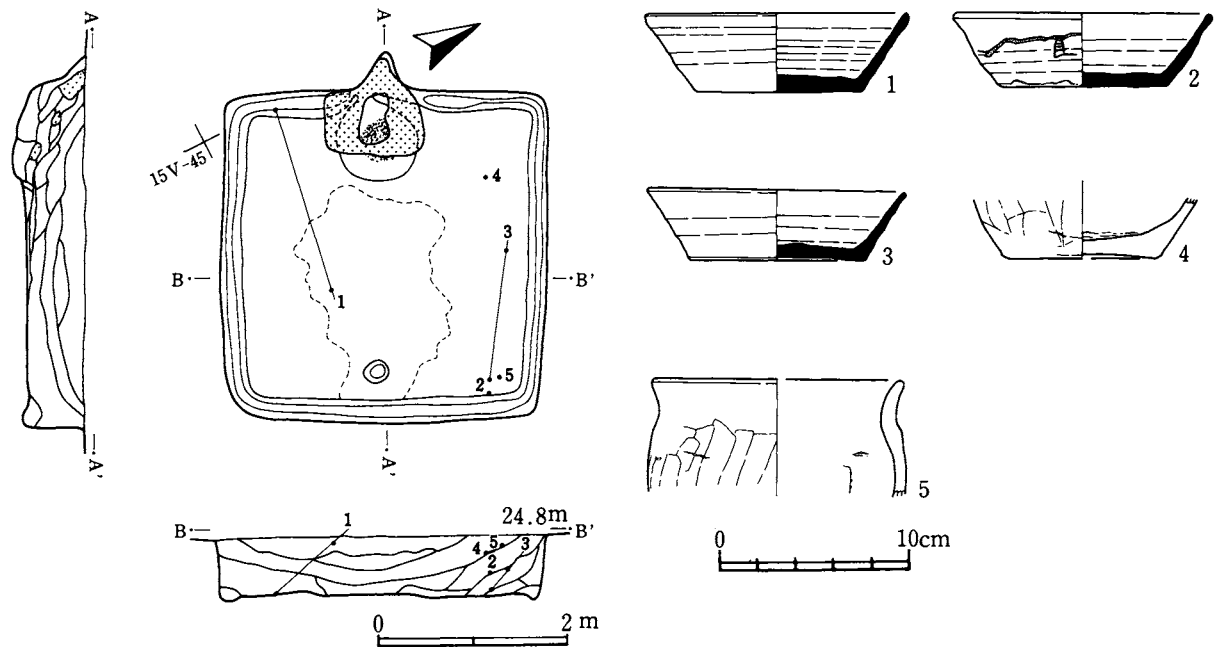


第143図 II056(2)

第143図の29	土師器 甔	-	-	-	長石・スコリア含む	褐色		15、283、342、364、365
第143図の30	刀子	残存長 9.7	-	-	鉄製品	-		81
第143図の31	刀子	残存長 5.7	-	-	鉄製品	-		337
第143図の32	刀子	残存長 (12.8)	-	-	鉄製品	-	2点を図面上で復元	152
第143図の33	刀子	残存長 1.7	-	-	鉄製品	-		4
第143図の34	不明鉄製品	残存長 4.9	-	-	-	-		59
第143図の35	鉄鏃	残存長 4.2	-	-	-	-		294
第143図の36	鉄鏃	残存長 9.1	-	-	-	-		153

II057 (第144図、図版53)

方形プランの小型の住居で、出入口ピット1か所を確認した。竈内及び住居埋土から、遺物はあまり出土しなかった。



第144図 II057

表126 II057

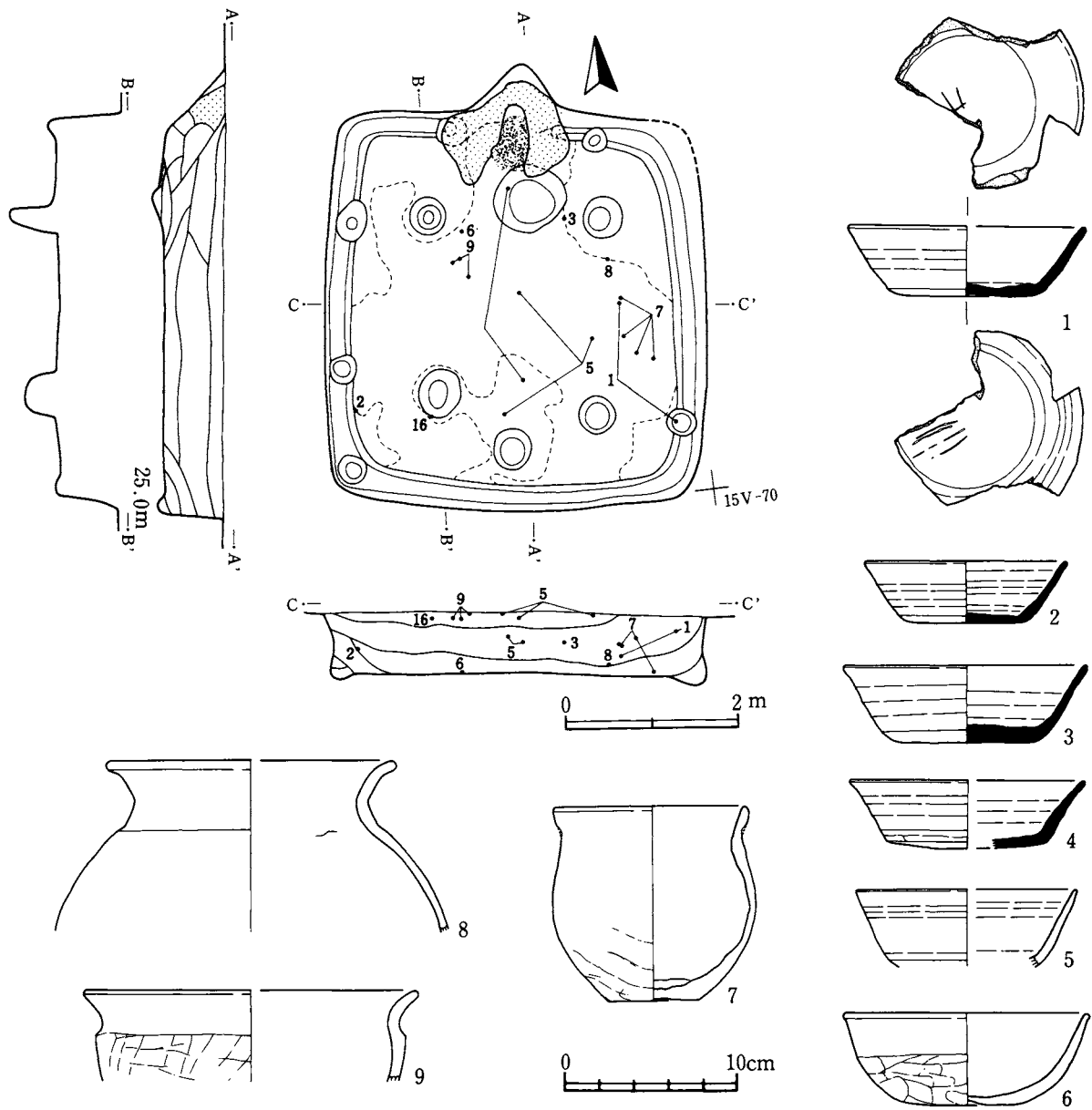
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第144図の1	須恵器 杯	13.7	4.2	8.7	雲母・石英・長石多く含む	灰色～灰褐色	新治産	3、4、28、53
第144図の2	須恵器 杯	(13.4)	(4.0)	8.8	雲母・長石・石英多く含む	灰色	新治産、線刻(体外)	52
第144図の3	須恵器 杯	(13.6)	(3.6)	9.1	雲母多く含む	灰白色	新治産	18、48
第144図の4	土師器小型甕	—	—	(7.6)	砂粒多く含む	暗褐色		14
第144図の5	土師器小型甕	(13.0)	—	—	雲母多量に含む	暗褐色		2、35

II058 (第145図、図版53・143)

4本の支柱穴以外に、壁柱穴を6本検出した。そのうち2本は竈両袖脇に掘られていた。深さは0.3mほどになる。遺物は6・8を除いて、ほとんど埋土中からの出土である。

表127 II058

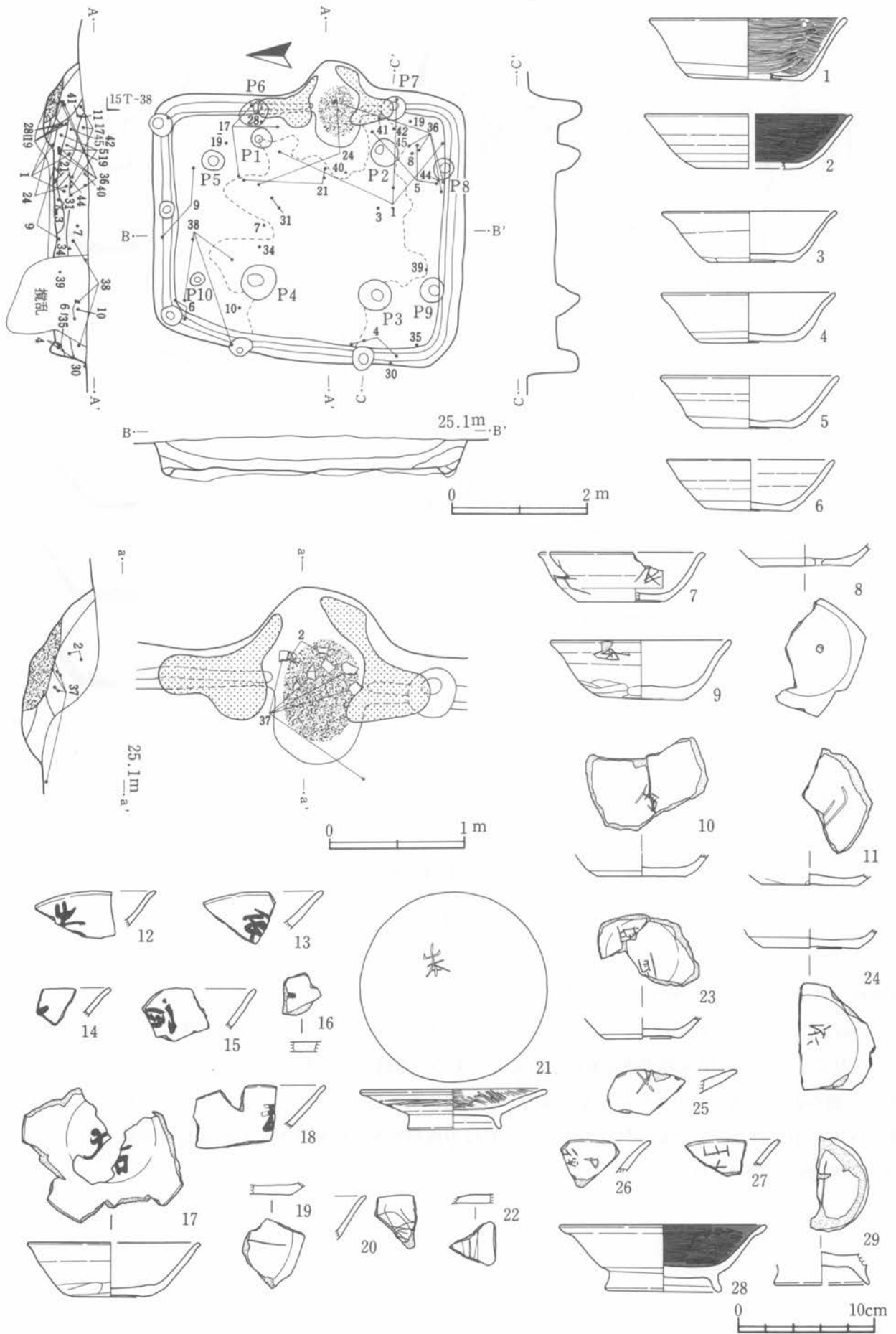
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第145図の1	須恵器 杯	(13.4)	4.0	8.0	雲母・長石・石英含む	灰色	線刻(底内) 線刻(底外)	2、46、164
第145図の2	須恵器 杯	(11.5)	3.5	6.6	雲母多く含む	灰白色	新治産	71
第145図の3	須恵器 杯	13.9	4.4	8.0	雲母・長石・石英多く含む	灰白色	新治産	91
第145図の4	須恵器 杯	(13.4)	3.9	(9.2)	雲母多く含む	灰白色	新治産	107、118
第145図の5	土師器 杯	(12.7)	—	—	雲母含む	橙色～褐色		2、3、7、29、153
第145図の6	土師器 杯	13.9	5.3	7.5	雲母・石英・長石多く含む	赤褐色	底外木葉痕	144
第145図の7	土師器小型甕	(9.1)	11.0	5.2	雲母・石英・長石含む	暗褐色～灰褐色		2、49、50、130、150
第145図の8	土師器 甕	(16.0)	—	—	石英・長石多く含む	橙褐色		104
第145図の9	土師器小型甕	(19.0)	—	—	石英・長石多く含む	暗褐色		4、37、38、85



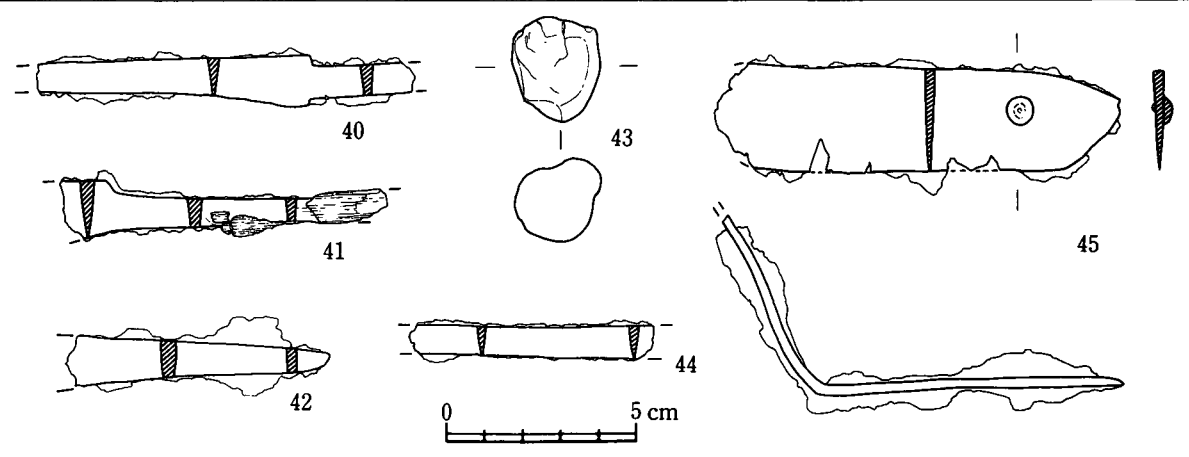
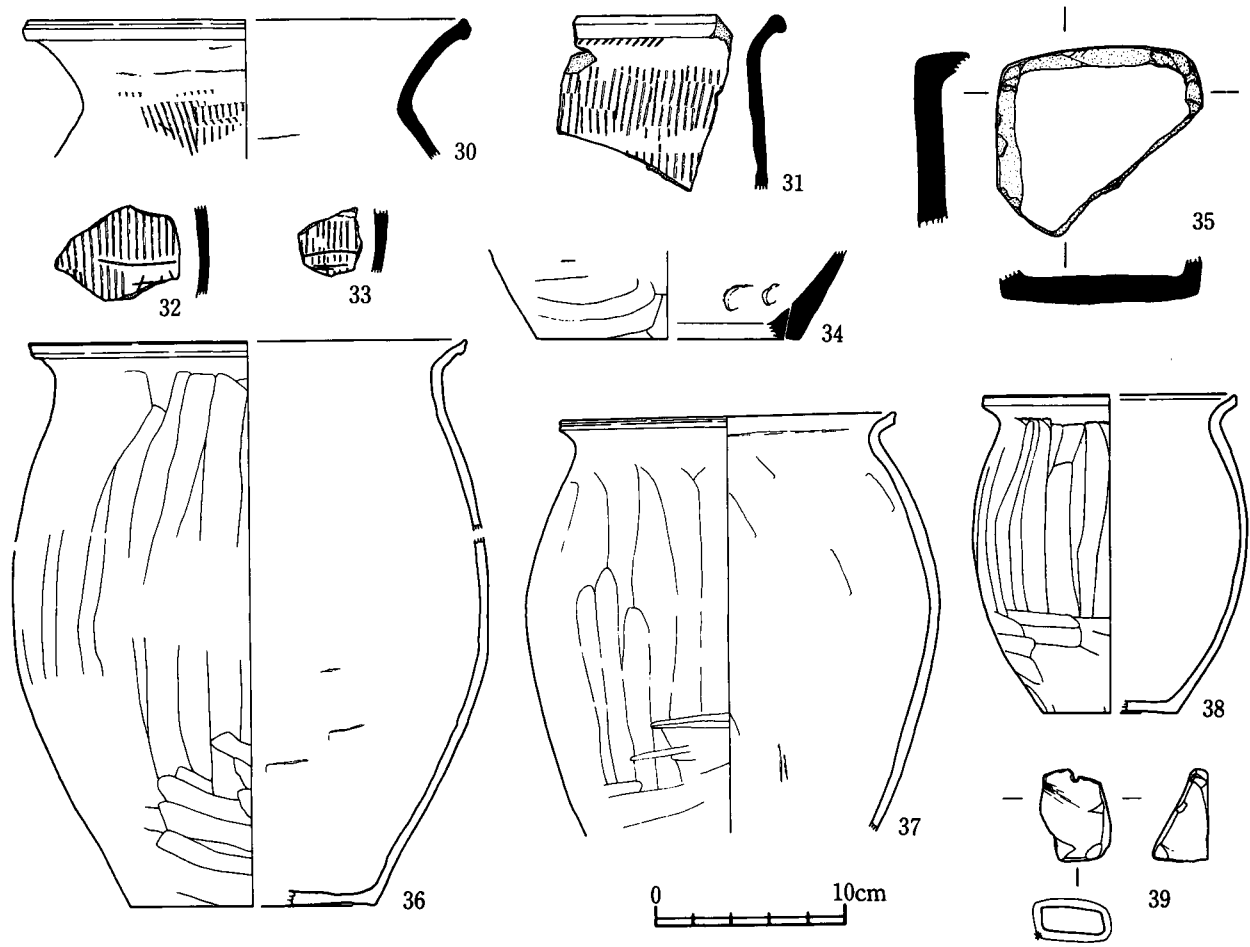
第145図 II058

II059 (第146・147図、図版53・143・144・166~169・173)

主軸に対して横軸が長くなる、やや歪んだプランの住居である。支柱穴は4本 (P1~P4) である。P5~P10のピットは、貼床除去後に確認したものである。墨書で「山本」、「依」や、線刻で「山本」、「依」などと書かれた土器片が出土している。また、須恵器の風字硯(35)が出土している。40~42・44はいずれも刀子で、41には基部の木質が残存している。45は刀部が大きく折れ曲がった鉄製品で図面下方に刃がつき、刀部途中には錨が付く。



第146图 II059(1)



第147图 II059(2)

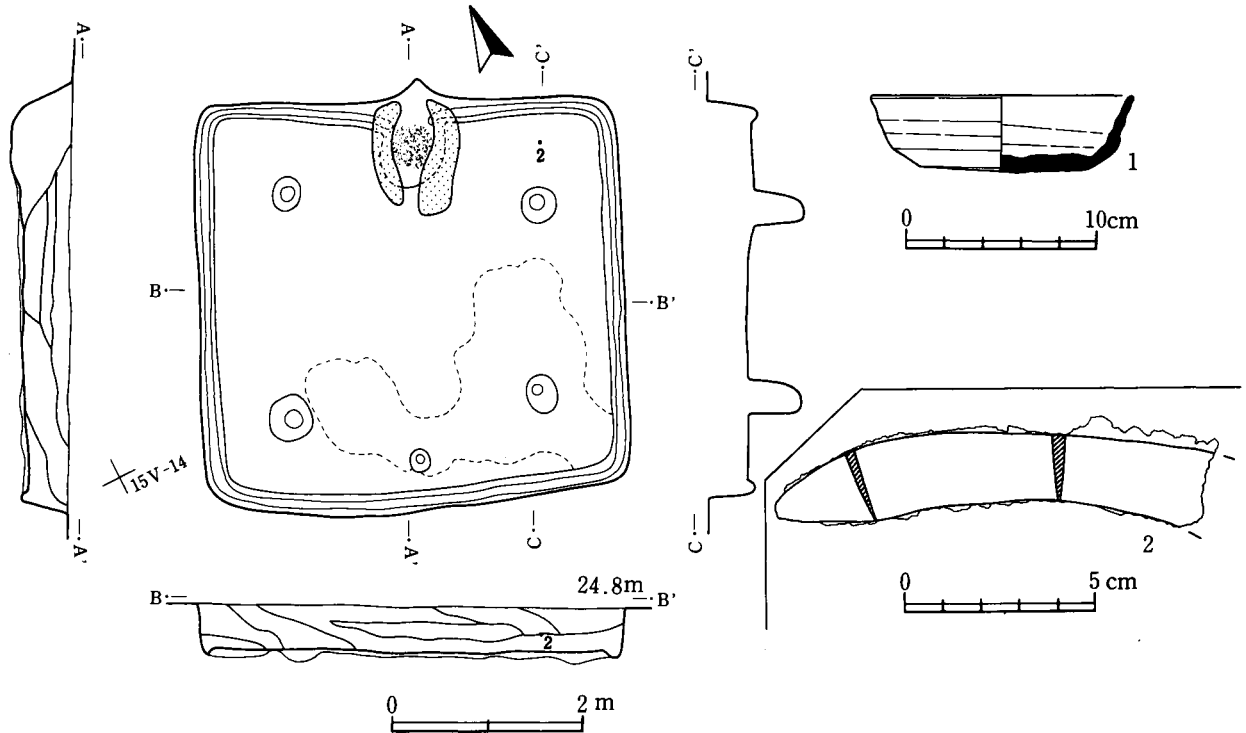
表128 II 0 5 9

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第146図の1	土師器 杯	14.1	4.6	8.4	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		4、20、141、153、158
第146図の2	土師器 杯	(14.9)	4.0	7.6	雲母・長石・スコリア含む	外面明褐色 内面黒色	内黒	253、255
第146図の3	土師器 杯	12.5	3.6	6.1	雲母・長石含む	褐色		1、168
第146図の4	土師器 杯	12.6	3.6	7.0	雲母・長石・スコリア含む	灰褐色～赤褐色		2、120、122、237
第146図の5	土師器 杯	12.8	3.8	6.8	雲母・長石・スコリア含む	褐色		109、156、162
第146図の6	土師器 杯	12.2	3.7	6.2	雲母・長石・スコリア含む	灰褐色		3、4、130、191
第146図の7	土師器 杯	11.7	3.7	6.4	雲母・長石・スコリア含む	明赤褐色	線刻(体外)「依」	1、214
第146図の8	土師器 杯	—	—	6.6	雲母・長石含む	灰褐色	底部孔1	1、3、107
第146図の9	土師器 杯	12.9	4.2	6.2	雲母・長石・スコリア含む	褐色	線刻(体外)「由」	4、146、186
第146図の10	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「里」	64、259
第146図の11	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「口」	80
第146図の12	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「山本」	1
第146図の13	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「依」	2
第146図の14	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「口」	4
第146図の15	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「富」	2
第146図の16	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「口」	3
第146図の17	土師器 杯	(12.2)	3.9	6.1	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色	墨書(底内)「大加」	4、77、90、178
第146図の18	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「口」	1、2
第146図の19	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底外)「口」	182
第146図の20	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体内)「口」	3
第146図の21	土師器 高台付皿	13.4	2.9	6.6	雲母多く含む	明褐色	線刻(底内)「山本」	171、172、240
第146図の22	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底外)「口」	3
第146図の23	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「酒」「酒」	2、4
第146図の24	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底外)「山本」	86、250
第146図の25	土師器 皿	—	—	—	—	—	線刻(体外)「十」	4
第146図の26	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体外)「部得」	3
第146図の27	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体外)「山本」	1
第146図の28	土師器 高台付杯	(15.0)	4.8	9.0	雲母・長石含む	外面明赤褐色 内面黒褐色	内黒	177
第146図の29	土師器 高台付碗	—	(2.4)	(6.9)	—	—	線刻(底内)「口」	2、108
第147図の30	須恵器 甕	(22.9)	—	—	雲母・石英・長石・スコリア含む	黒灰色		47
第147図の31	須恵器 甕	—	—	—	雲母多く含む	灰色		139、174
第147図の32	須恵器 甕	—	—	—	—	—	線刻(体外)「口」	257
第147図の33	須恵器 甕	—	—	—	—	—	線刻(体外)「口」	257
第147図の34	須恵器 甕	—	—	(13.8)	雲母・長石多く含む	灰色		137
第147図の35	風字硯	(縦)9.7 (高さ) (2.8)	(横)10.5	(12.7)	石英・長石多く含む	灰色	墨痕あり(広範囲)、新治産	118
第147図の36	土師器 甕	(22.8)	(29.4)	(12.7)	長石・スコリア含む	明褐色	図面上で接合	1、3、4、14、111、155 157、249、250、257
第147図の37	土師器 甕	17.6	—	—	長石・砂粒含む	褐色		166、241、244、245、246、 249、252、257、259
第147図の38	土師器小型甕	(13.1)	16.5	(7.0)	長石・スコリア含む	赤褐色		3、4、60、66、125、135、 202、260
第147図の39	砥石	38.0g	—	—	砂岩	—		114
第147図の40	刀子	残存長 9.8	—	—	鉄製品	—		101
第147図の41	刀子	残存長 8.5	—	—	鉄製品	—		152
第147図の42	刀子	残存長 6.6	—	—	鉄製品	—		100
第147図の43	土製品	長さ2.8	幅 2.3	—	長石含む	淡褐色		3
第147図の44	刀子	残存長 6.2	—	—	鉄製品	—		102
第147図の45	鎌?	残存長 13.2	—	—	鉄製品	—		100



II060 (第148図、図版54・169)

非常に整った方形プランの住居で、掘込みもしっかりしている。出土遺物は極めて少ない。住居埋土中にはローム粒・ロームブロックが多量に混入する。人為的な埋戻しであろう。竈右脇埋土中層から鉄鎌の先端部が出土している。



第148図 II060

表129 II060

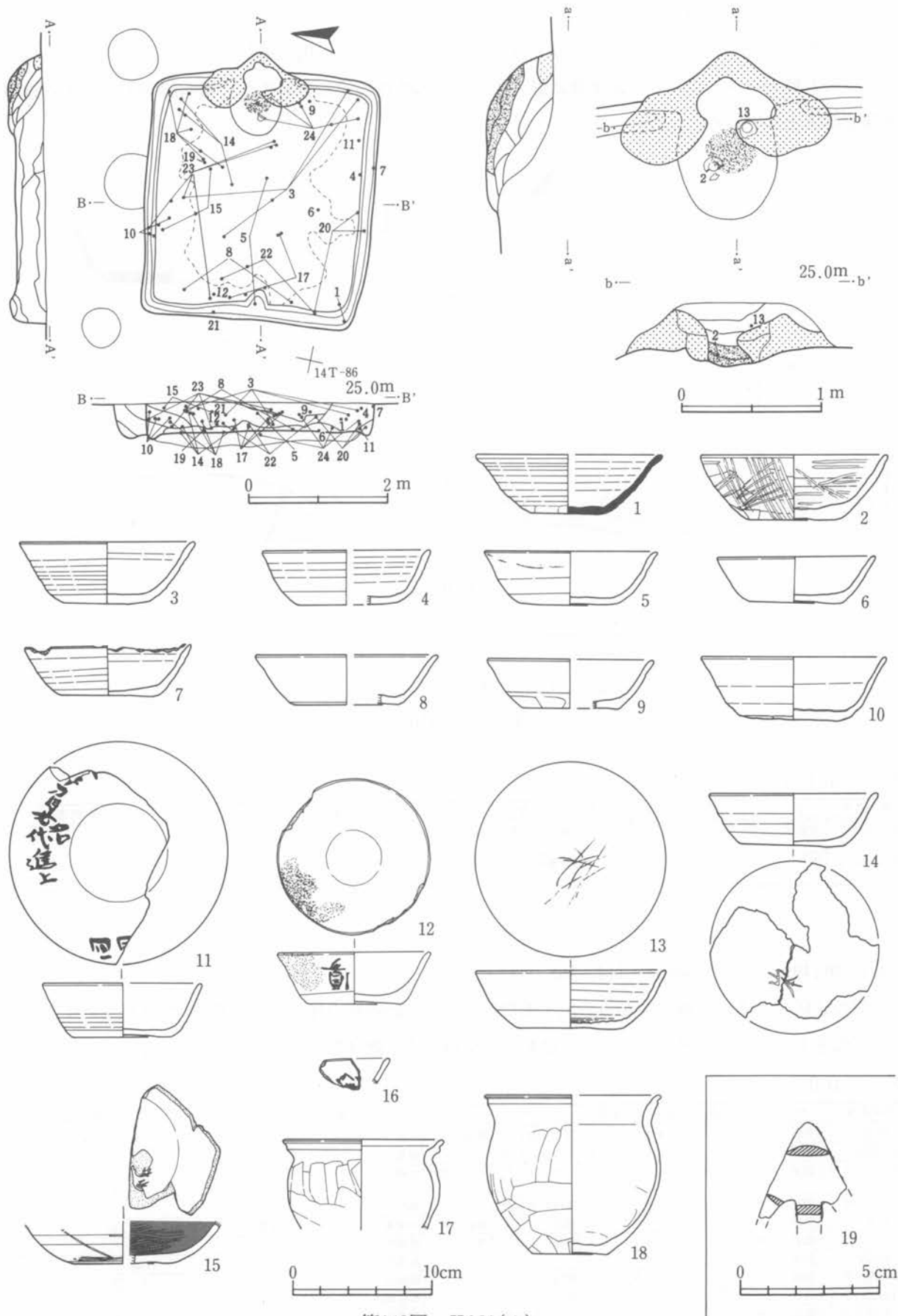
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第148図の1	須恵器 杯	-	-	-	雲母・石英・長石・スコリア含む	灰白色		18
第148図の2	鎌	残存長 11.5	-	-	鉄製品	-		5

II061 (第149・150図、図版54・144・168・173・174)

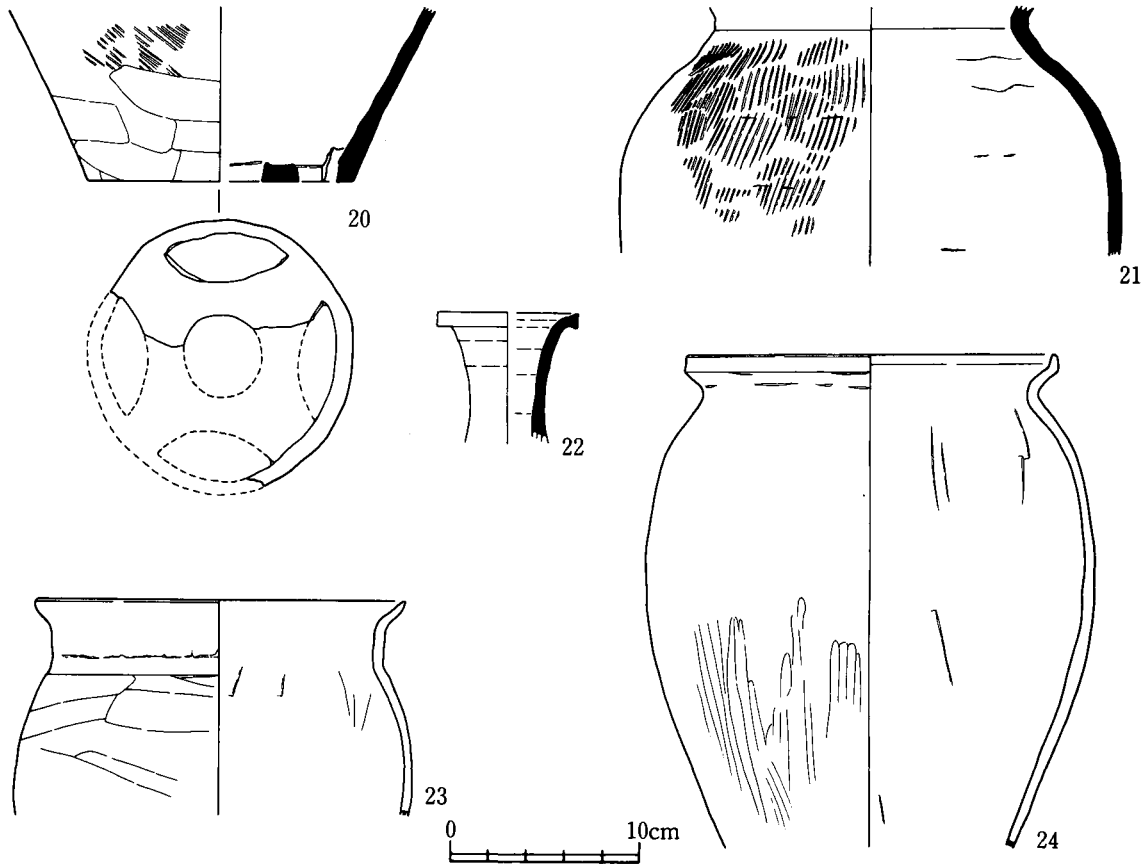
小型の住居であるが、埋土中からの出土遺物が多い。土師器杯の体部外面に墨書で「同□……□[刃]部刀自女召代進上」の文字が書かれていた。逆刺の一部残存する鉄身部(19)が床面直上から出土している。

表130 II061

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第149図の1	須恵器 杯	13.0	4.2	5.6	雲母・長石・石英含む	灰色		2、61、116
第149図の2	土師器 杯	13.2	4.6	6.6	石英・長石含む	黄褐色		176、189
第149図の3	土師器 杯	12.0	4.3	6.3	石英・スコリア・長石含む	明褐色		1、2、19、130、131、150、158、199
第149図の4	土師器 杯	(11.8)	3.8	(7.2)	雲母・長石含む	褐色		10
第149図の5	土師器 杯	12.4	3.7	6.9	雲母・スコリア含む	明黄褐色	スス附着	45、149
第149図の6	土師器 杯	11.4	3.4	6.3	雲母・スコリア含む	橙褐色	灯明具	146
第149図の7	土師器 杯	11.6	3.6	7.0	-	赤褐色		135
第149図の8	土師器 杯	(13.1)	3.8	(7.3)	雲母・スコリア含む	橙褐色		2、53、114
第149図の9	土師器 杯	(11.8)	3.5	(6.8)	雲母含む	暗赤褐色		144
第149図の10	土師器 杯	13.0	4.4	8.1	雲母・砂粒含む	暗褐色		3、76、77、78、79、108
第149図の11	土師器 杯	11.5	3.9	7.0	-	-	墨書(体外)「同□……□[刃]部刀自女召代進上」	134



第149图 II061(1)

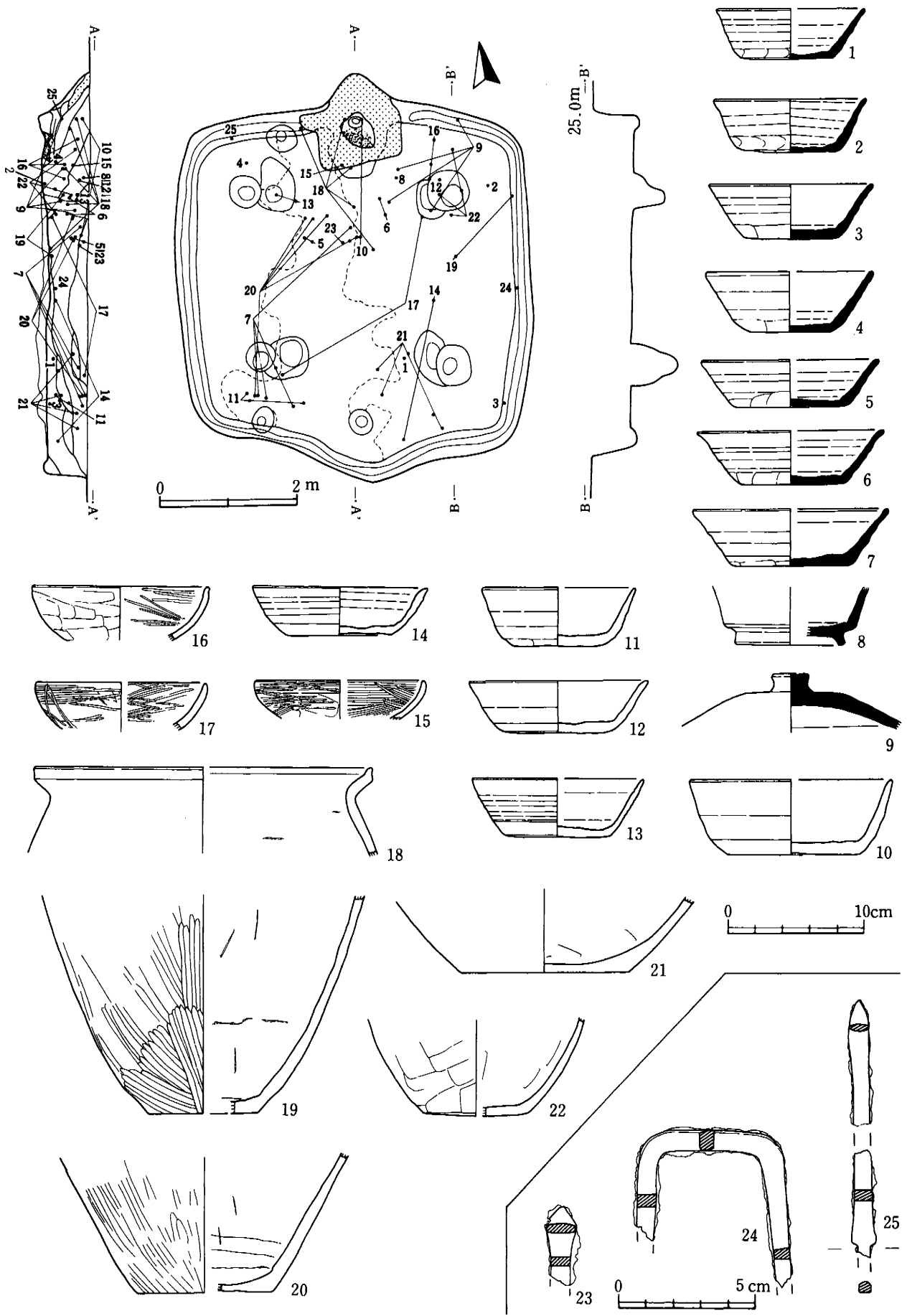


第150図 II061(2)

第149図の12	土師器 杯	10.8	3.65	6.7	雲母・長石・砂含む	明褐色	灯明具 墨書(体外)「酒万」	65
第149図の13	須恵器 杯	13.4	4.1	7.5	雲母含む	暗褐色	線刻(底内)「神」	188
第149図の14	土師器 杯	11.8	3.7	7.5	雲母・スコリア含む	明赤褐色	線刻(底内)「山本」	4、30、87、90、103
第149図の15	土師器 杯	-	-	(6.8)	-	-	内黒 線刻(底内)「□任」	23、33、67
第149図の16	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「法」	3
第149図の17	土師器小型甕	(11.3)	-	-	石英・長石含む	橙褐色		2、3、14、44、48、113、153
第149図の18	土師器小型甕	(12.3)	11.2	5.3	石英・長石含む	赤褐色		2、4、41、42、72、91、100
第149図の19	鉄鏃	鏃身幅 (4.0)	鏃身長 (3.8)	-	-	-		140
第150図の20	須恵器 甕	-	-	(14.0)	雲母・石英・長石含む	灰褐色	5孔	60、62、63
第150図の21	須恵器 甕	-	-	-	石英・長石含む	灰色		110
第150図の22	須恵器長頸瓶	(7.4)	-	-	長石含む	灰色		54、55、60、14T-65-1
第150図の23	土師器 甕	(19.0)	-	-	石英・長石含む	明赤褐色		4、108、109、120、148、158、162、169
第150図の24	土師器 甕	(19.1)	-	-	雲母・石英・長石含む	橙褐色		1、125、126、129、132、172、187

II062 (第151図、図版55・144・166・168・169)

4本の支柱穴をもつ大型の住居で、出入口ピット際の南側壁が大きく外側に張り出す。貼床除去後に、4本の支柱穴の内側に1本ずつの柱穴を検出した。土師器杯・須恵器杯の出土量が多い。逆刺のない鉄身幅の狭い鉄鏃が、住居壁際(25)と埋土上層(23)から出土している。また、鋌形の鉄製品(24)が住居壁際から出土している。



第151图 II062

表131 II 0 6 2

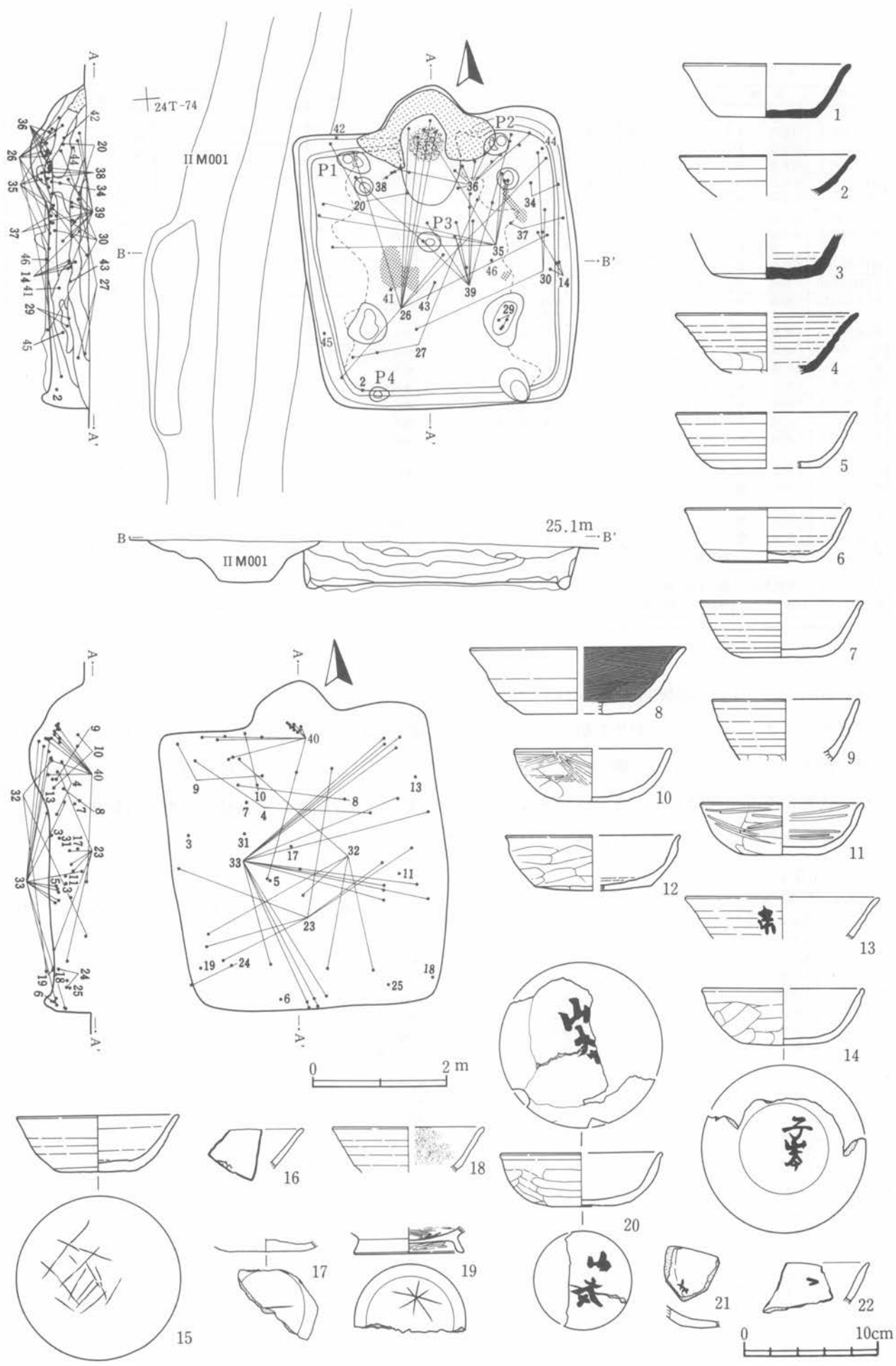
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第151図の1	須恵器 杯	(10.6)	3.8	6.6	雲母・石英・長石含む	暗灰色		227
第151図の2	須恵器 杯	11.0	3.9	6.9	雲母・石英・長石含む	灰色		140
第151図の3	須恵器 杯	12.0	4.1	6.8	雲母・石英・長石含む	灰色		125
第151図の4	須恵器 杯	(12.1)	4.4	5.6	雲母・石英・長石含む	灰色		124、130
第151図の5	須恵器 杯	12.6	3.5	8.2	雲母・石英・長石含む	灰白色		30、61
第151図の6	須恵器 杯	13.4	3.9	7.6	石英・長石含む	灰色		10、66
第151図の7	須恵器 杯	14.0	4.1	8.4	雲母・石英・長石含む	灰色		3、46
第151図の8	須恵器 高台付杯	—	—	8.0	雲母・石英・長石含む	灰色		7
第151図の9	須恵器 蓋	—	—	—	雲母・石英・長石含む	灰白色		1、14、92、141、159
第151図の10	土師器 杯	(14.4)	5.5	9.8	石英・長石・スコリア含む	赤褐色		187、213
第151図の11	土師器 杯	(11.0)	4.2	6.8	雲母・長石・石英・スコリア含む	赤褐色		3、95、122、123
第151図の12	土師器 杯	13.0	3.8	8.0	石英・長石・スコリア含む	明赤褐色		1、5、233
第151図の13	土師器 杯	(12.5)	4.3	7.8	石英・長石・スコリア含む	淡橙褐色		4、27、73
第151図の14	土師器 杯	12.7	3.5	7.5	石英・長石・スコリア含む	橙色		2、96、210
第151図の15	土師器 杯	(12.0)	2.9	—	砂粒含む	黄褐色		4、83
第151図の16	土師器 杯	(12.4)	3.9	—	石英・長石・スコリア含む	橙色		1、99、103、110
第151図の17	土師器 杯	12.2	—	—	石英・長石含む	橙色		2、45、93
第151図の18	土師器 甕	(24.4)	—	—	雲母・石英・長石・砂粒含む	橙褐色		4、157、169、195、197、211
第151図の19	土師器 甕	—	—	7.8	雲母・石英・長石含む	黒褐色		1、94、134
第151図の20	土師器 甕	—	—	9.7	雲母・石英・長石・砂粒含む	明褐色		4、23、25、26、60、70、192
第151図の21	土師器 甕	—	—	12.2	石英・長石・砂粒含む	明褐色		2、50、51、53、87、178
第151図の22	土師器 甕	—	—	7.8	石英・長石・砂粒含む	明橙褐色		64、80、98、115
第151図の23	鉄鍔	鎌身幅 1.2	残存長 2.9	—	—	—		20
第151図の24	不明鉄製品	縦 5.8	横 5.8	—	—	—		119
第151図の25	鉄鍔	鎌身幅 0.8	残存長 (9.3)	—	—	—	2点を図面上で復元	139

## II063 (第152～154図、図版55・144・165・168・169)

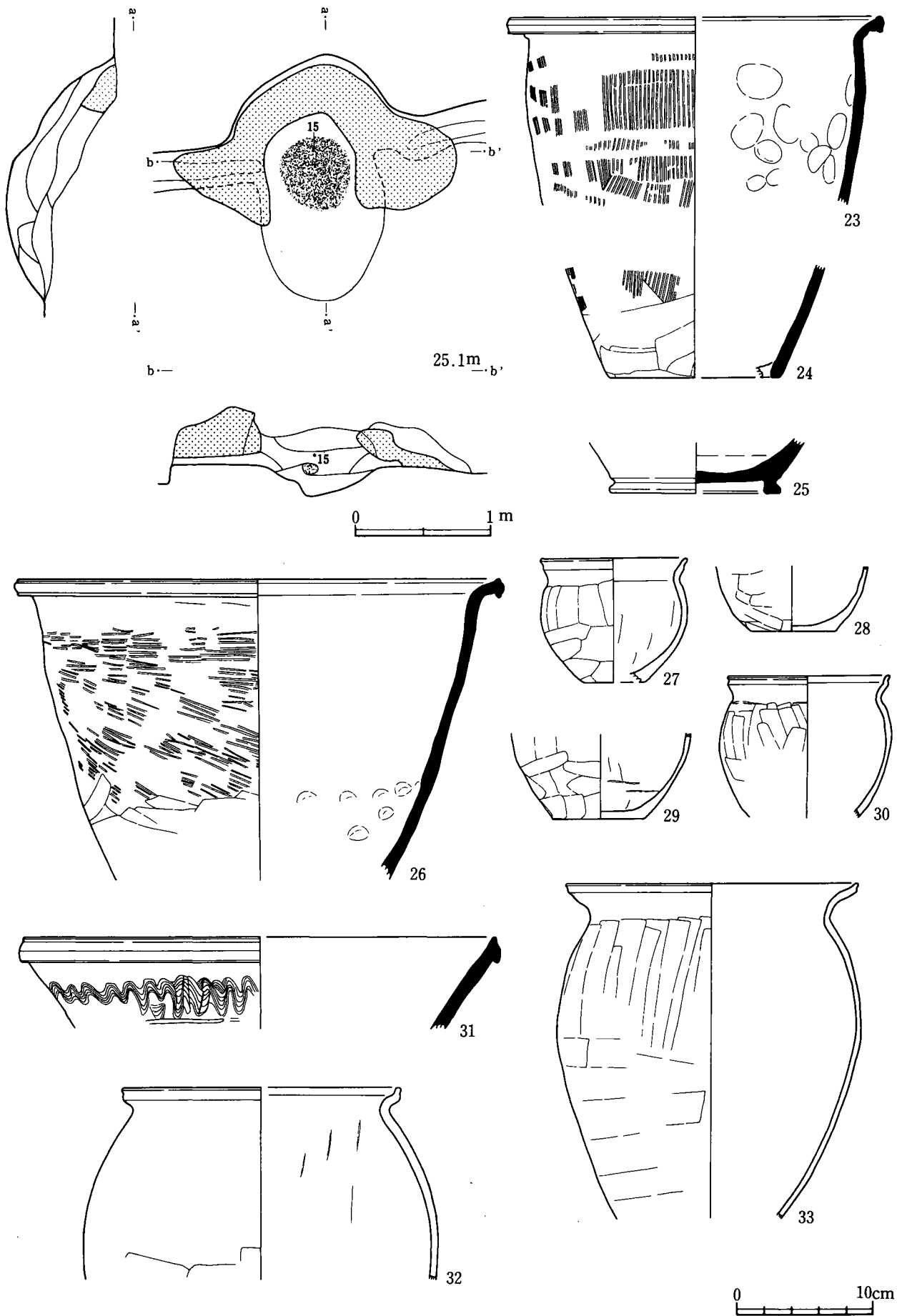
主柱穴を4本もつ住居で、南北を結ぶ柱穴線の外側の床面には砂が貼られていた。P1～P4は、貼床除去後に検出したピットである。竈内の火床面上からは、焼土ブロックの上に、杯や甕底部・土器片などを重ねた状態の支脚を確認した。また住居床面中央やや東寄りで、青銅製の帯金具(46)を1点検出した。また、先端部を曲げてリング状にした鉄製品(45)が壁際から出土している。

表132 II 0 6 3

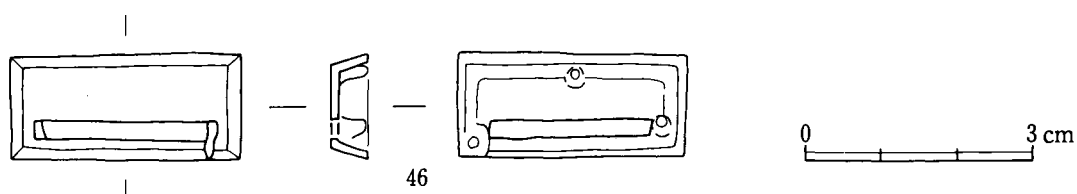
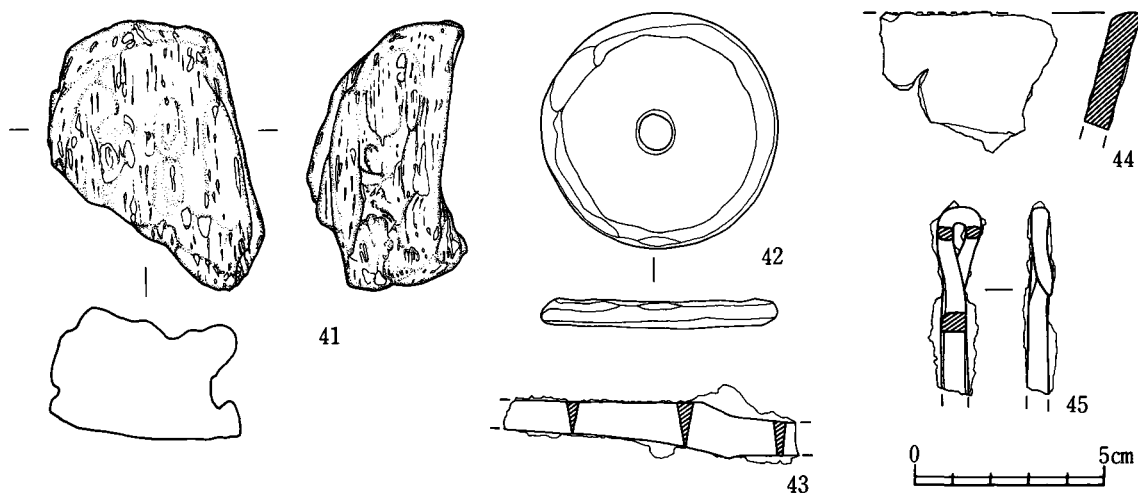
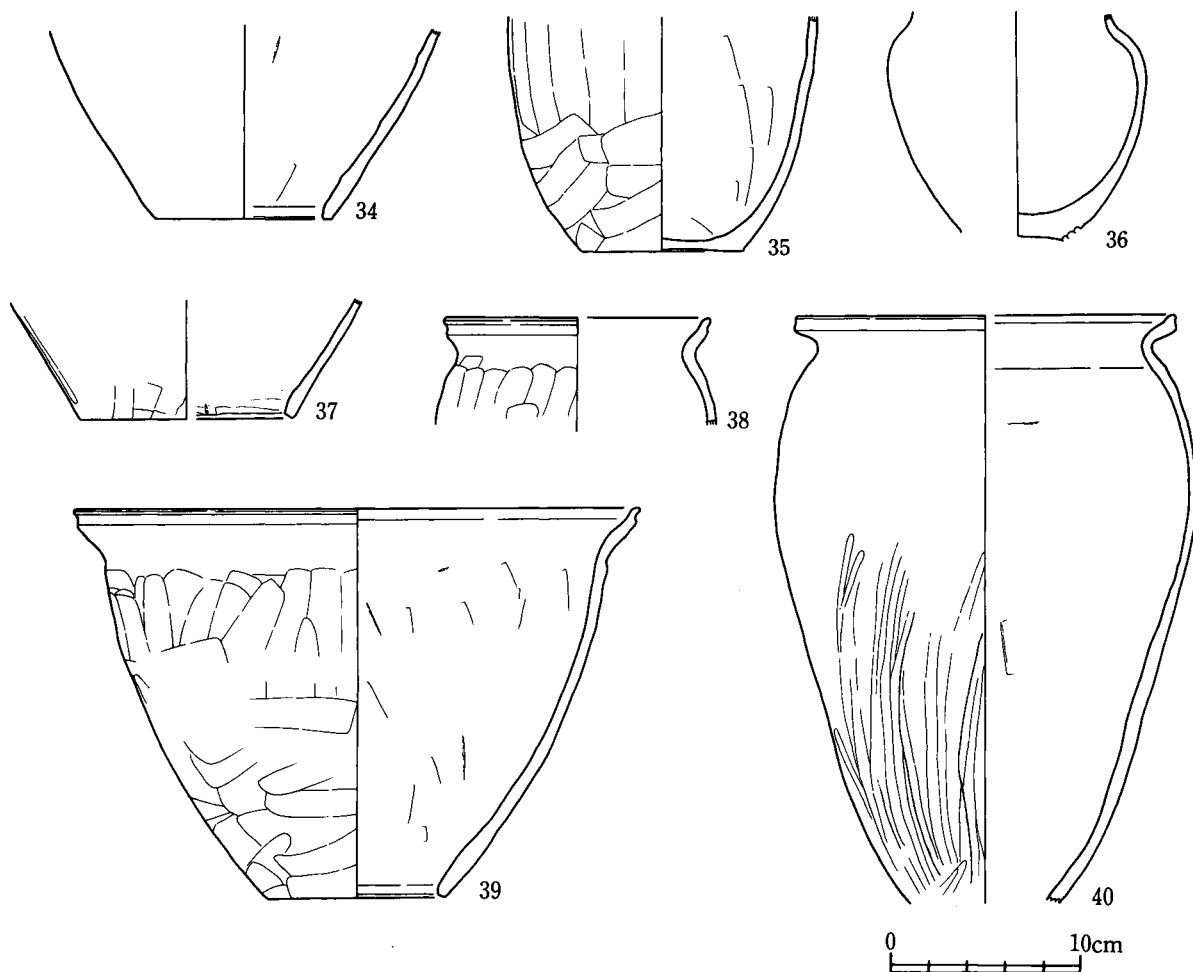
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第152図の1	須恵器 杯	(11.9)	4.1	7.2	雲母・砂粒含む	灰白色		3、4
第152図の2	須恵器 杯	(12.8)	—	—	石英・長石含む	灰色		256
第152図の3	須恵器 杯	—	—	(8.2)	長石・砂粒含む	青灰色		101
第152図の4	須恵器 杯	(13.1)	—	—	雲母・長石含む	灰色		103、169
第152図の5	土師器 杯	(13.2)	4.2	(7.8)	雲母・スコリア含む	黄褐色		3、322
第152図の6	土師器 杯	12.1	4.0	7.6	雲母・スコリア含む	橙色		321、1
第152図の7	土師器 杯	12.0	4.1	6.0	雲母・スコリア含む	黒褐色		94
第152図の8	土師器 杯	(15.5)	4.9	(8.0)	雲母・長石含む	外面黄褐色 内面黒色	内黒	1、21、88
第152図の9	土師器 杯	(10.8)	—	—	雲母・石英・長石含む	明赤褐色		1、2、153、285
第152図の10	土師器 杯	(11.3)	3.8	5.2	スコリア含む	褐色		4、154、156
第152図の11	土師器 杯	11.6	4.0	6.2	長石・スコリア含む	褐色		1、126、396
第152図の12	土師器 杯	(12.8)	4.1	(8.7)	雲母・スコリア含む	橙色		3、383
第152図の13	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「山本」	1、174
第152図の14	土師器 杯	(11.8)	4.2	6.5	スコリア含む	褐色	墨書(底外)「子山本」	19、127、293、332
第152図の15	土師器 杯	11.6	4.1	5.7	雲母・石英・長石含む	橙色	線刻(底外)「□」	386
第152図の16	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体外)「□」	1、2
第152図の17	土師器 杯	—	—	—	—	—	ヘラ書き(底外)「□」	306
第152図の18	土師器 杯	(11.2)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色	漆紙付着	259
第152図の19	土師器 高台付杯	—	—	8.0	スコリア含む	褐色	線刻(底外)「□」	255
第152図の20	土師器 杯	(11.8)	3.8	7.2	スコリア含む	褐色	墨書(底内)「山本」、墨書(底外)「山本」	1、57、221、229、394
第152図の21	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「丈」	3



第152图 II063(1)




第153图 II063(2)



第154图 II063(3)





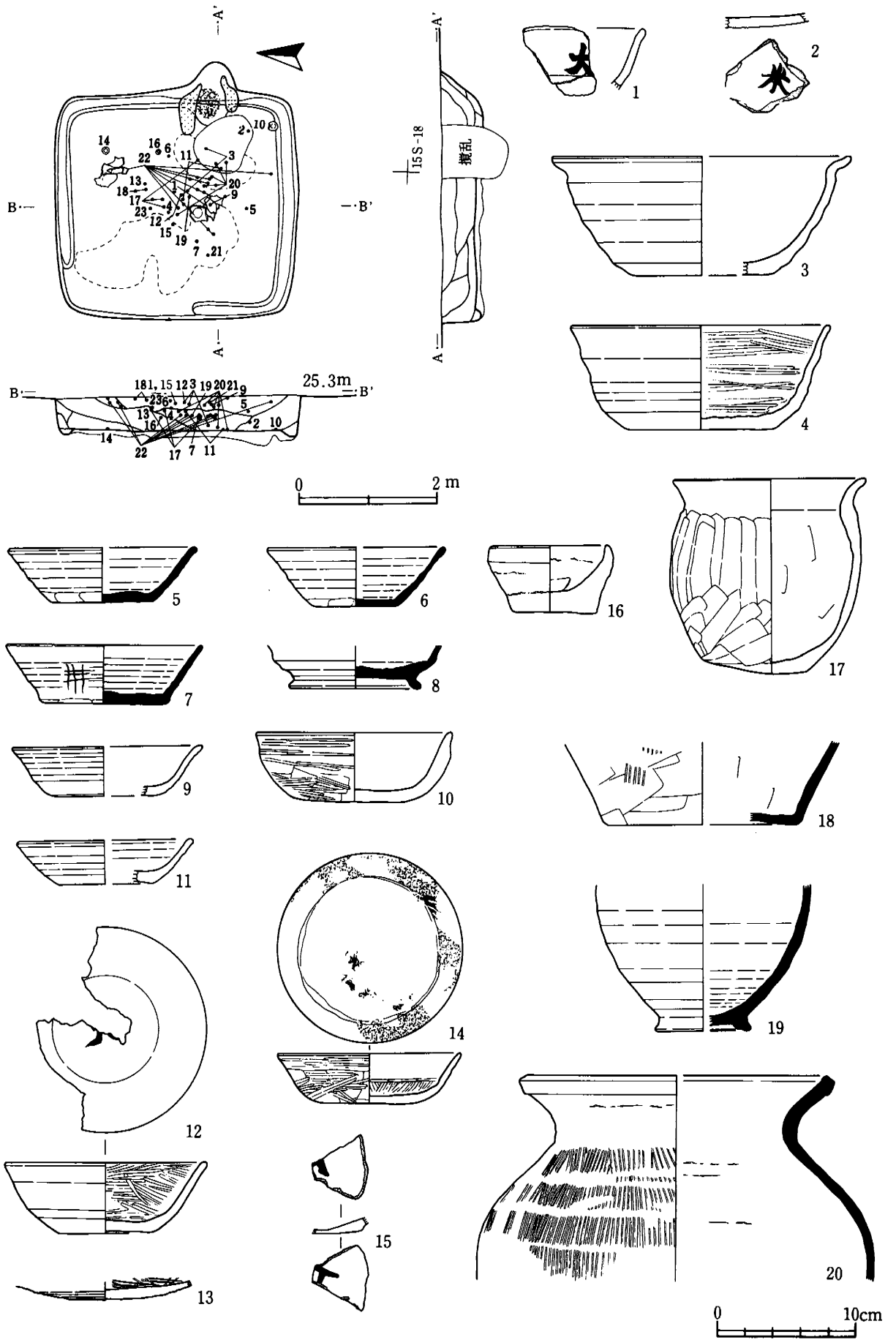
第152図の22	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 	2
第153図の23	須恵器 甕	(27.1)	-	-	雲母・石英・長石含む	灰色	24と同一個体	2、4、116、222、230、264、295、297
第153図の24	須恵器 甕	-	-	(12.2)	同上	同上		3、115、190
第153図の25	須恵器 壺	-	-	12.4	長石含む	青灰色	東海系	137、398
第153図の26	須恵器 甕	(35.5)	-	-	雲母・石英・長石含む	橙褐色		3、27、253、267、270、331、359、371、388、392、394、396
第153図の27	須恵器小型甕	10.6	-	-	石英・長石含む	橙褐色		4、21、40、211
第153図の28	土師器小型甕	-	-	6.1	スコリア含む	黒褐色		1、396
第153図の29	土師器小型甕	-	-	(6.8)	石英・長石含む	黄褐色		2、133、134、135、185
第153図の30	土師器小型甕	(11.7)	-	-	石英・長石含む	橙褐色		1、175、176、198、224、394、396
第153図の31	須恵器 甕	(34.6)	-	-	石英・長石・砂粒含む	灰色		150、14T-66-1
第153図の32	土師器 甕	(19.9)	-	-	雲母・石英・長石含む	黄褐色		2、49、206、311、379、380
第153図の33	土師器 甕	(21.2)	-	-	雲母・石英・長石・スコリア含む	赤褐色		1、2、3、125、147、178、179、180、189、237、266、273、274、275、277、280、308、315、318、319、340、343、396
第154図の34	土師器 甕	-	-	(9.2)	長石・石英含む	橙褐色		1、195、262、396
第154図の35	土師器 甕	-	-	(8.4)	石英・長石含む	橙褐色		102、152、327、373、374、375、376、396
第154図の36	土師器小型甕	-	-	(4.7)	雲母・石英・長石含む	赤褐色		1、216、228、235、241、242、245、246、248、250、265、348、394
第154図の37	土師器 甕	-	-	(11.1)	石英・長石含む	橙褐色		2、167、261、399
第154図の38	土師器小型甕	(6.9)	-	-	石英・長石含む	赤褐色		4、214、215、216、378、394
第154図の39	土師器 甕	29.3	20.2	(9.2)	石英・長石含む	橙褐色		2、12、13、24、26、63、71、74、91、121、163、201、344、394
第154図の40	土師器 甕	(19.6)	-	-	雲母・石英・長石含む	橙色		4、46、104、158、205、207、251、287、361、362、363、364、366、367、368、369、370、372、390、394
第154図の41	軽石	縦 7.0	横 5.1	厚さ 4.2	21.2 g	-		323
第154図の42	紡錘車	長径6.3	短径0.7	短径6.2	-	-	土師器杯転用	220
第154図の43	刀子	残存長 7.8	-	-	-	鉄製品	-	338
第154図の44	不明鉄製品	残存高 2.1	-	-	-	-	-	5
第154図の45	不明鉄製品	残存長 4.9	-	-	-	-	-	110
第154図の46	帯金具	縦 1.3	横 3.0	厚さ 0.5	青銅製、巡方	-	-	395

## II064 (第155・156図、図版56・145)

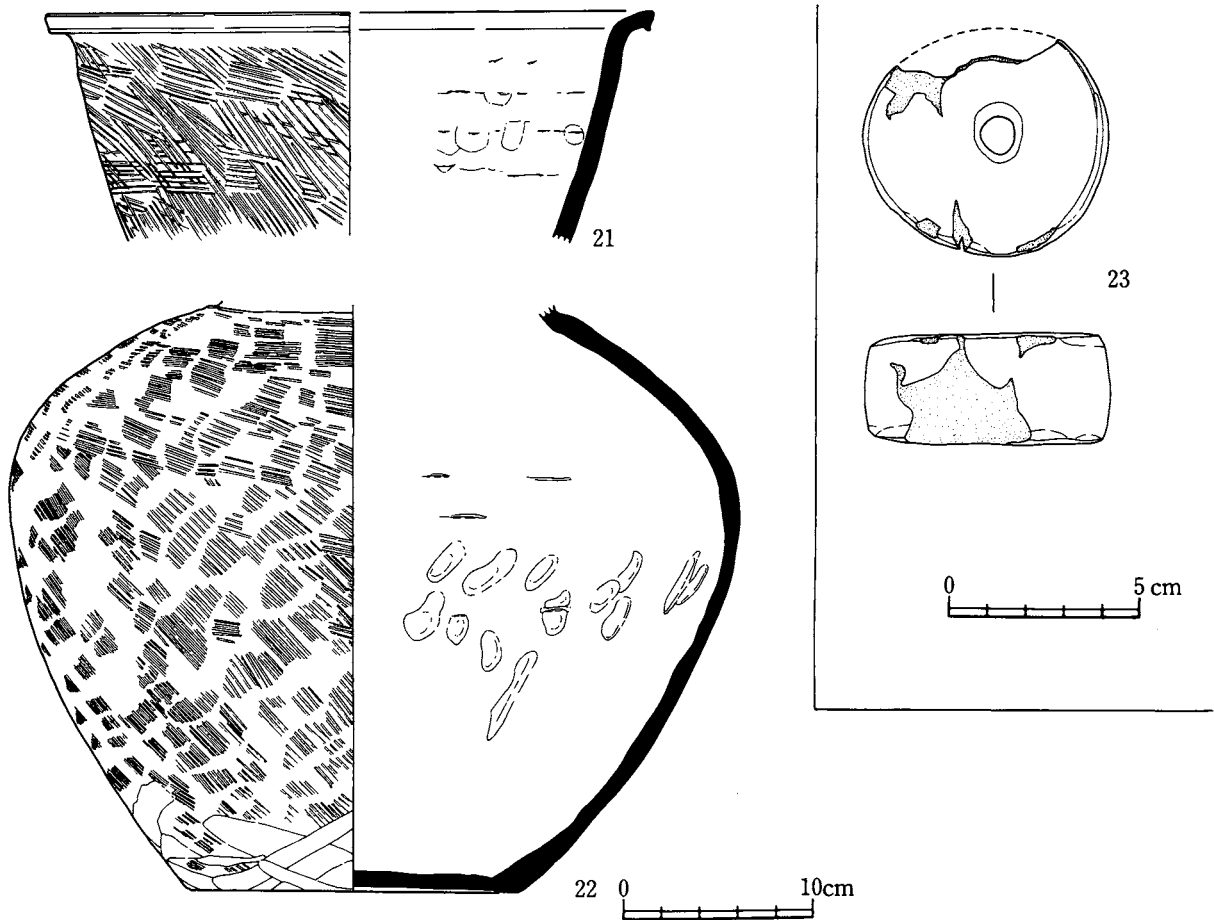
柱穴・出入口ピットをもたない方形の住居である。竈前面に攪乱を受けている。住居中央の埋土中からの遺物の出土量が多い。墨書には「大」や「山本」が見られる。

表133 II064

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第155図の1	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「大」	4、26
第155図の2	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底外) 「山本」	51
第155図の3	土師器 鉢	21.2	8.6	-	雲母・スコリア含む	橙色		27、29、66、107
第155図の4	土師器 椀	(18.3)	7.5	10.4	スコリア含む	橙色		49、II M002-29
第155図の5	須恵器 杯	(13.0)	3.9	7.2	石英・長石含む	灰色		45
第155図の6	須恵器 杯	(12.6)	4.2	6.0	雲母・長石含む	灰色		4、43
第155図の7	須恵器 杯	14.2	4.1	9.0	-	灰色	線刻 (体外) 「井」	59
第155図の8	須恵器 高台付杯	-	-	9.4	雲母・砂粒含む	灰白色		270
第155図の9	土師器 杯	(13.0)	-	-	雲母・スコリア含む	橙色		1、3、4、85、86
第155図の10	土師器 杯	14.0	5.0	8.0	雲母・石英・長石含む	暗褐色		98
第155図の11	土師器 杯	(12.2)	3.1	-	-	-		3、4、80、103
第155図の12	土師器 杯	14.4	5.0	9.0	砂粒含む	橙色	墨書 (底内) 「因」	4、27、107
第155図の13	土師器 皿	-	-	-	雲母・石英・スコリア含む	橙色		23
第155図の14	土師器 杯	13.0	3.5	-	-	橙色	灯明具	1、100
第155図の15	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底外)  墨書 (底内) 	16



第155図 II064(1)

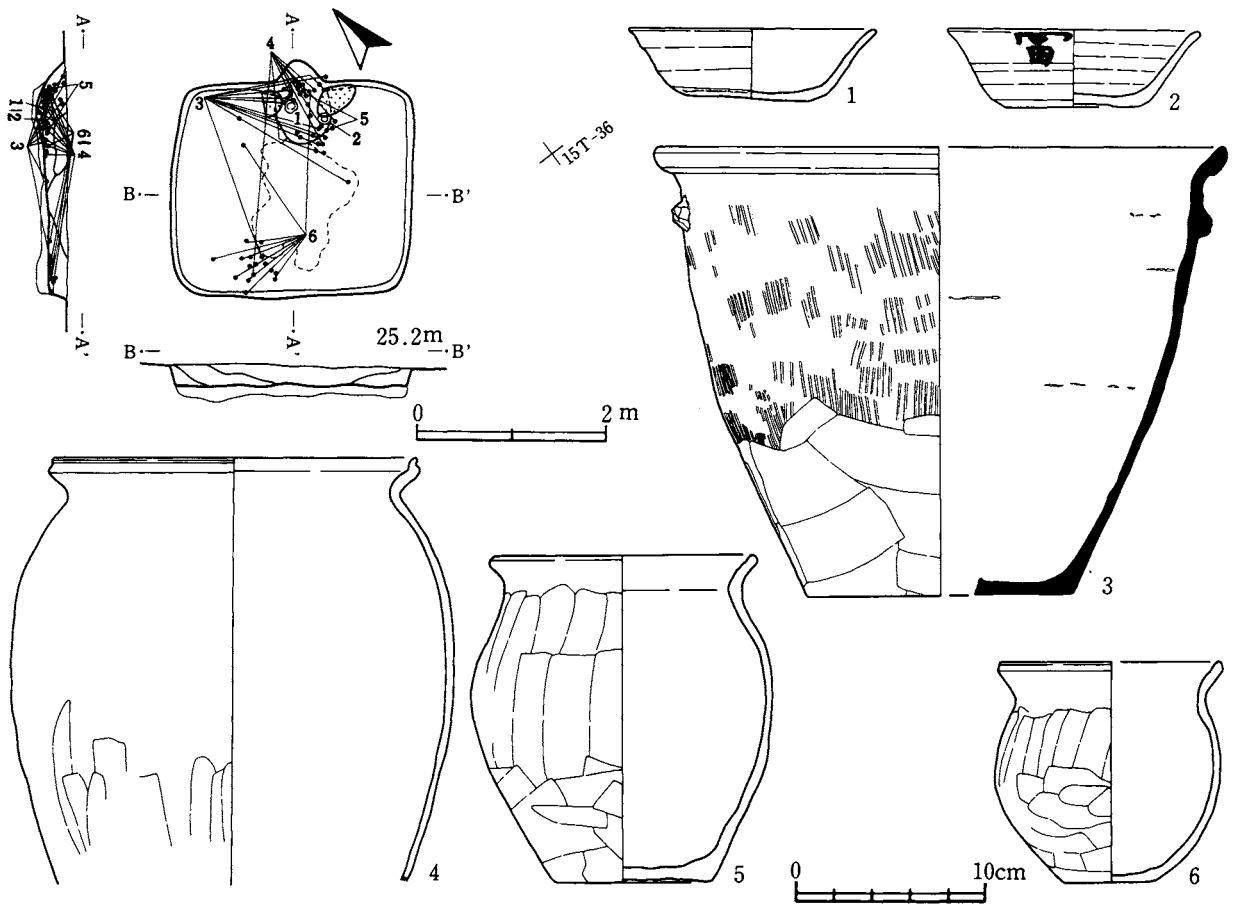


第156図 II064(2)

第155図の16	手捏ね	8.4	4.8	5.8	スコリア含む	黒色	底外木葉痕	99
第155図の17	土師器小型甕	13.6	13.8	7.4	石英・長石含む	橙褐色		3、4、52、71、89、92
第155図の18	須恵器 甕	-	-	(13.4)	長石含む	灰色		20、21
第155図の19	須恵器長頸瓶	-	-	6.7	長石含む	灰色		1、4、93、107
第155図の20	須恵器 甕	(21.4)	-	-	雲母・石英・長石含む	灰色		36、38、40、53、60、104、105、107
第156図の21	須恵器 甕	(31.6)	-	-	長石含む	灰色		46
第156図の22	須恵器 甕	-	-	17.1	石英・長石含む	灰色		4、32、33、34、35、39、47、54、57、62、72、73、74、75、76、77、81、96、97、107
第156図の23	紡錘車	長径6.5	厚さ2.9	-	長石・スコリア含む	明褐色		18

II065 (第157図、図版56・145)

柱穴・出入口ピット・周溝をもたない、小型の住居である。竈内から破片ではあるが、土器片が多量に出土している。墨書には「冨」がある。



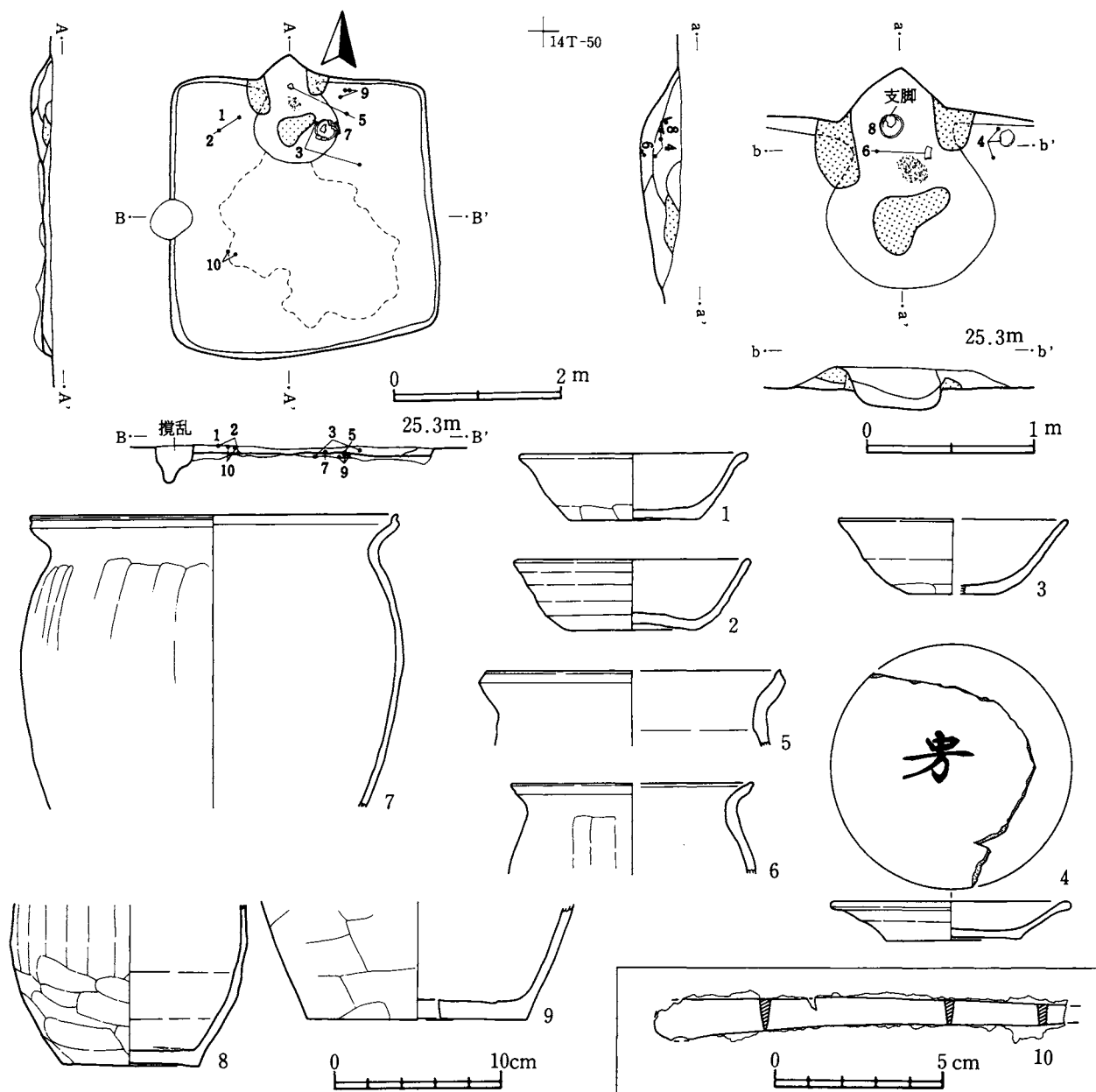
第157図 II065

表134 II065

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第157図の1	土師器 杯	13.0	3.8	6.5	長石・石英含む	橙褐色		61
第157図の2	土師器 杯	12.8	4.3	6.9	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「富」	60
第157図の3	須恵器 甕	29.6	23.5	13.9	石英・長石含む	橙褐色	5孔	5、14、32、50、53、54、55、56、57、58、59、63、65、70、73、80、82、86、92、93
第157図の4	土師器 甕	(18.6)	—	—	雲母・長石・石英含む	明褐色		1、11、26、31、44、51、62、63、66、69、71、72、76、77、78、79、80、82、86、92、93
第157図の5	土師器小型甕	11.5	11.5	4.9	石英・長石含む	明褐色～黒褐色		28、30、74
第157図の6	土師器小型甕	13.7	17.0	8.2	石英・長石含む	明赤褐色	底外縄目状圧痕	3、6、8、9、10、11、12、13、33、37、38、40、41、42、45、46、48、83、89、94、95

II066 (第158図、図版56・57・145・168)

掘込みの非常に浅い住居である。竈内の被熱面直上からは、甕の底部片の上に支脚を載せた状態が確認された。「中万」の合わせ字の墨書土器が出土している。刀子の刀身から茎部片(10)が住居中央付近から出土している。



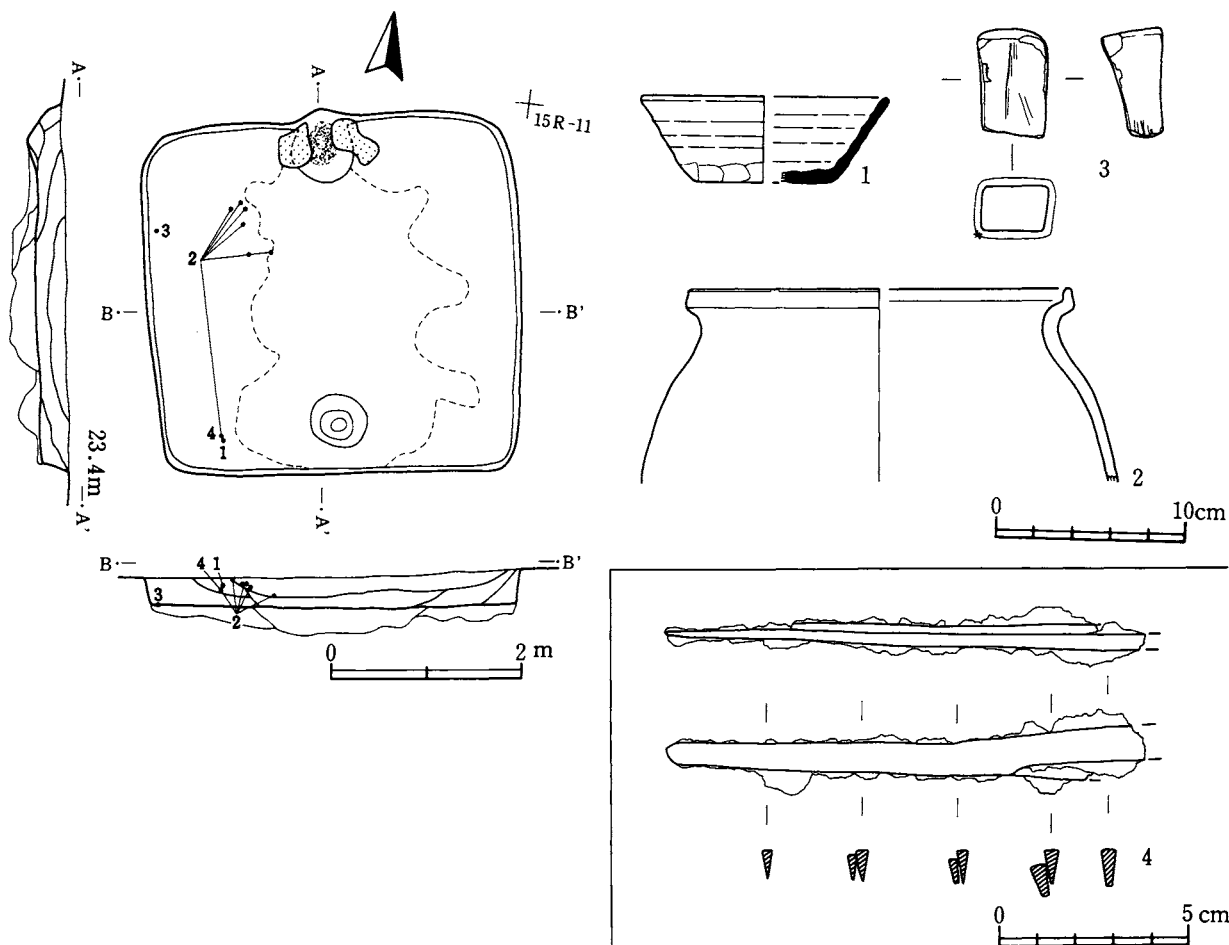
第158図 II066

表135 II066

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第158図の1	土師器 杯	(13.4)	3.9	7.7	雲母・石英・長石含む	橙色		18
第158図の2	土師器 杯	(13.7)	4.2	7.5	雲母・石英・長石含む	明褐色		4、16、18、51
第158図の3	土師器 杯	(13.4)	4.5	6.2	石英・長石含む	赤褐色		11、36
第158図の4	土師器 皿	14.0	2.3	8.1	—	橙色	墨書(底内)「中万」	39、43、44、45、50
第158図の5	土師器 甕	(17.7)	—	—	雲母・石英・長石含む	明褐色		13、27
第158図の6	土師器小型甕	(14.2)	—	—	石英・長石含む	橙褐色		1、24、26、51
第158図の7	土師器 甕	(21.5)	—	—	石英・長石含む	橙褐色		1、22
第158図の8	土師器小型甕	—	—	(8.2)	石英・長石含む	橙褐色		40
第158図の9	土師器 甕	—	—	(13.2)	石英・長石含む	橙褐色	5孔	1、46、48、49、51
第158図の10	刀子	残存長 12.3	—	—	鉄製品	—		19、20

II067 (第159図、図版57・167・168)

床面中央を深く掘込み、その上に貼床した住居である。柱穴、壁溝はない。竈の対面の南側壁近くに、掘込みの大きな、直径0.6m、深さ0.2mのピットを1つ検出した。密着した2点の刀子(4)が埋土中層から出土している。断面観察から左側が刀身部、右側が基部と考えられ、2点とも同一向きになる。



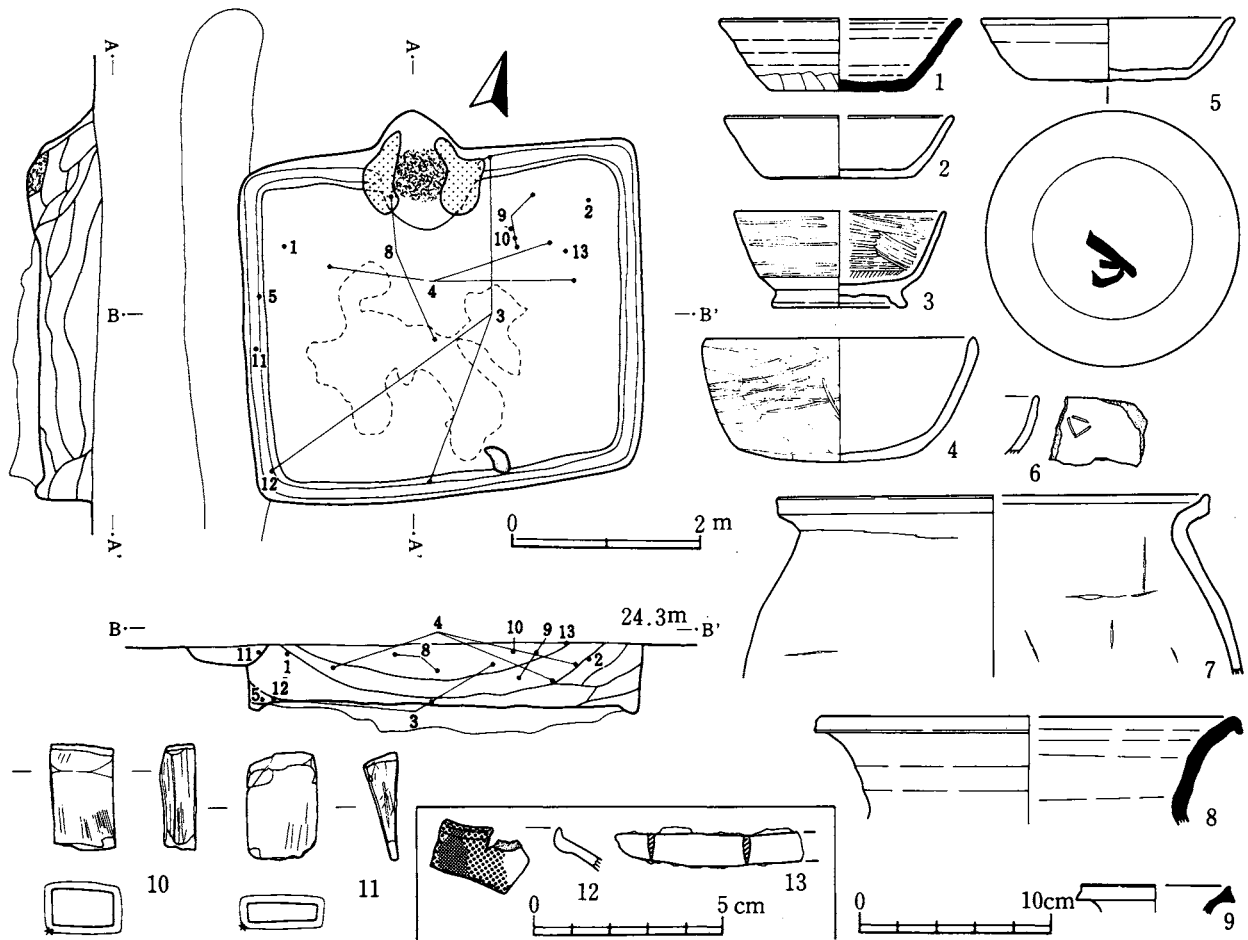
第159図 II067

表136 II067

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第159図の1	須恵器 杯	(12.7)	4.5	7.0	雲母・長石含む	灰色		58
第159図の2	土師器 甕	(19.8)	-	-	雲母・石英・長石含む	明褐色		4、7、8、9、10、41、49、57
第159図の3	砥石	86.5g	-	-	凝灰岩	-		56
第159図の4	刀子	残存長 12.7	-	-	鉄製品	-	2本密着	57

II068 (第160図、図版57・145・146・167)

柱穴をもたない、掘込みの深い住居である。遺物量はさほど多くはないが、住居南西コーナーから奈良三彩の小壺の口縁部破片が1点出土した。



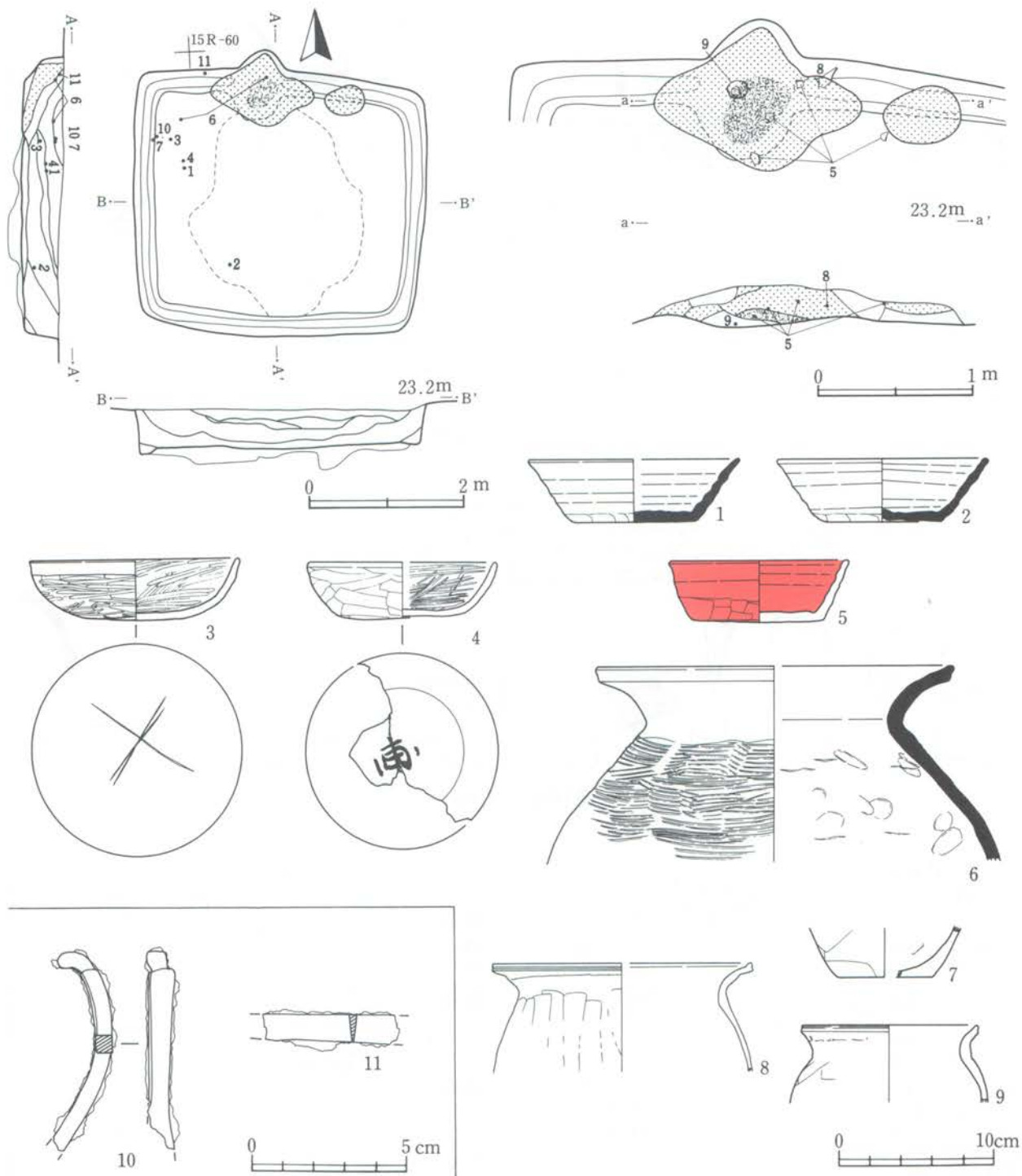
第160図 II068

表137 II 0 6 8

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第160図の1	須恵器 杯	(12.4)	3.9	7.0	石英・長石含む	暗灰色		1、34、68
第160図の2	土師器 杯	(11.7)	3.4	7.9	スコリア含む	橙色		3、4、6
第160図の3	土師器 高台付杯	(10.8)	4.9	6.9	雲母・スコリア含む	橙色		3、42、48、62
第160図の4	土師器 鉢	14.0	6.5	-	雲母・石英・長石・スコリア含む	赤褐色		2、14、15、33
第160図の5	土師器 杯	13.2	3.4	8.4	-	-	墨書(底内)「万」	1、59、68
第160図の6	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(体内)「□」	2
第160図の7	土師器 壺	(22.3)	-	-	雲母・石英・長石含む	橙褐色		64
第160図の8	須恵器 壺	(21.4)	-	-	雲母含む	灰色		30、60
第160図の9	須恵器 壺	(7.6)	-	-	砂粒含む	灰オリーブ色		9、18、19
第160図の10	砥石	61.0g	-	-	凝灰岩	-		20
第160図の11	砥石	38.0g	-	-	凝灰岩	-		47
第160図の12	三彩小壺	-	-	-	口縁部片	胎土は白色で軟質	乳白色、茶色、緑色に発色	48
第160図の13	刀子	残存長 5.0	-	-	鉄製品	-		54

II069 (第161図、図版58・146・169・173)

柱穴をもたない、掘込みの深い方形プランの住居である。竈内やその周辺での遺物の出土量が多い。10は緩やかに湾曲する断面方形の鉄製品であるが、用途は不明である。



第161図 II069

表138 II069

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第161図の1	須恵器 杯	13.5	4.0	8.0	石英・長石含む	暗灰色		19
第161図の2	須恵器 杯	13.3	4.0	7.4	雲母・石英・長石含む	暗灰色		3、25
第161図の3	土師器 杯	13.2	3.9	-	長石・スコリア含む	褐色	線刻(底外)「十」	30
第161図の4	土師器 杯	12.0	3.5	8.1	-	橙色	墨書(底外)「南」	4、18
第161図の5	土師器 杯	11.3	4.0	8.3	石英・長石・スコリア含む	赤褐色	内外面赤彩	4、42、45、46、52、54
第161図の6	須恵器 甕 (22.4)	-	-	-	砂粒・スコリア含む	灰白色		5、37
第161図の7	土師器小型甕	-	-	6.1	石英・長石含む	橙褐色		4、20
第161図の8	土師器 甕 (16.7)	-	-	-	長石・スコリア含む	明褐色		4、53、54
第161図の9	土師器小型甕	11.2	-	-	石英・長石含む	明褐色		1、51
第161図の10	不明鉄製品	長さ6.4	幅 0.5	-	-	-		21
第161図の11	刀子	残存長 4.4	-	-	鉄製品	-		22



II070 (第162・163図、図版58・146)

小型の住居であるが、南西コーナーからは貼床除去後に、直径1.1m、深さ0.5mのピットを1つ検出した。この埋土中から多くの遺物(1・2・7・12)が出土している。また、住居埋土からの遺物の出土量も多い。19の甕は住居中央やや東寄りの、床面直上からつぶれた状態で出土した。24は密着した2点の刀子と考えられる。

表139 II070

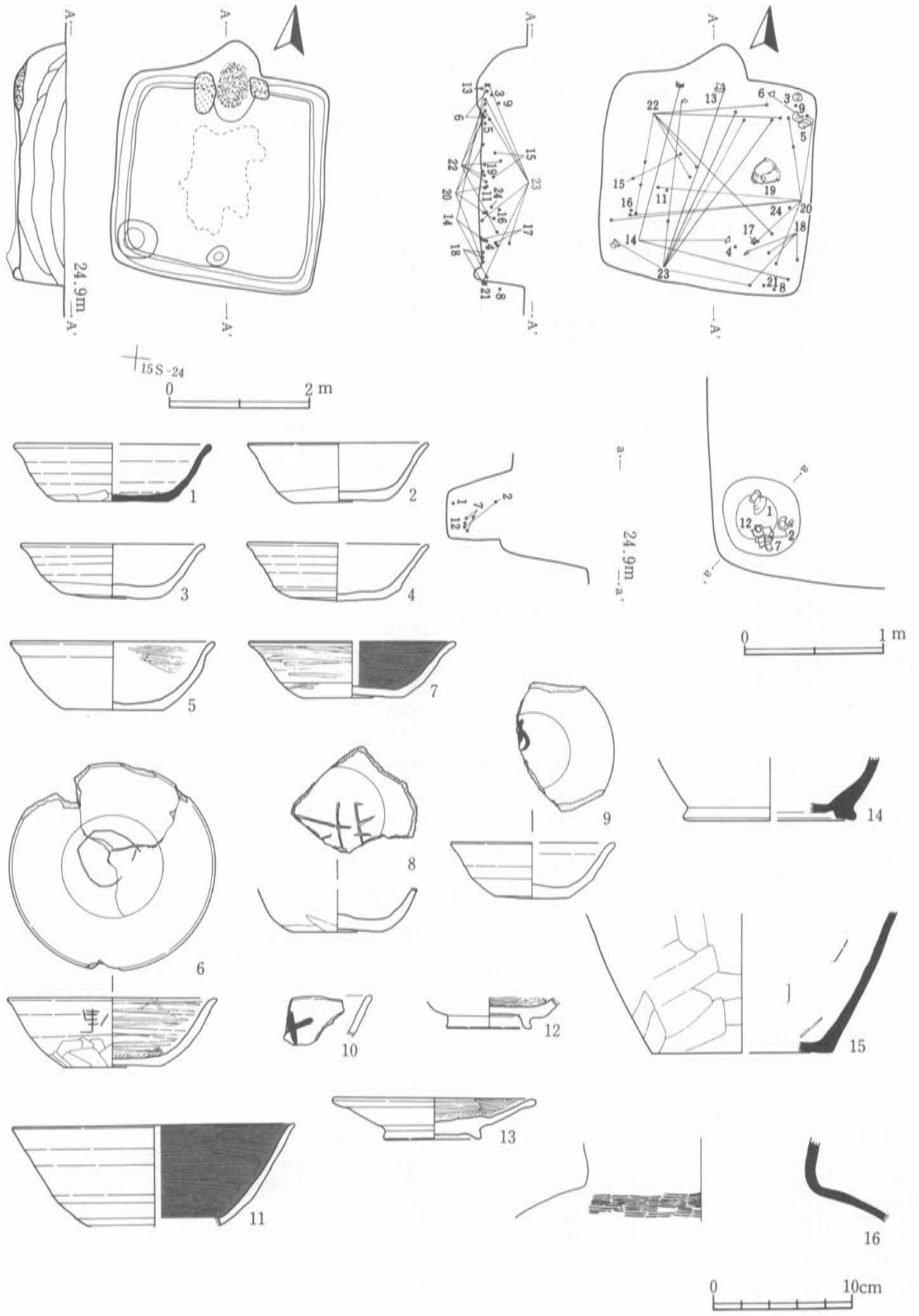
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第162図の1	須恵器 杯	13.6	4.1	7.8	石英・長石含む	灰褐色		139
第162図の2	土師器 杯	12.8	4.2	6.8	雲母含む	橙色		2、131、136
第162図の3	土師器 杯	12.9	3.8	6.6	雲母・長石・スコリア含む	におい橙色		110
第162図の4	土師器 杯	(12.7)	4.1	6.6	雲母・スコリア含む	黄褐色		2、13
第162図の5	土師器 杯	14.4	4.9	6.8	雲母含む	赤褐色		112
第162図の6	土師器 杯	14.7	4.9	6.9	雲母・砂粒含む	黒褐色	線刻(体外)「里」 線刻(底内)「口」	107、111
第162図の7	土師器 杯	(14.4)	4.0	6.9	石英・長石含む	黒色	内黒	132、133、135
第162図の8	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「山」	47
第162図の9	土師器 杯	(11.6)	3.9	5.3	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底内)「丙」	85
第162図の10	土師器 杯	—	—	—	—	橙色	墨書(底外)「十」	1
第162図の11	土師器 杯	(19.8)	—	—	スコリア含む	外面褐色 内面黒色	内黒	2、65
第162図の12	土師器 高台付皿	—	—	6.0	雲母・スコリア含む	橙色		138
第162図の13	土師器 高台付皿	14.0	2.8	7.0	雲母・スコリア含む	褐色		125
第162図の14	須恵器 壺	—	—	(12.0)	長石含む	灰赤色		46、94、102
第162図の15	土師器 甕	—	—	(12.8)	石英・スコリア含む	橙色		10、38
第162図の16	須恵器 甕	—	—	—	雲母・長石含む	灰色		2、12
第163図の17	須恵器 甕	—	—	—	雲母・長石・石英含む	灰白色		1、2、14、96
第163図の18	須恵器 甕	—	—	(19.2)	雲母・長石含む	灰色		1、2、49、77、95、118
第163図の19	須恵器 甕	32.5	28.4	16.5	—	灰褐色	底外網代状圧痕	116
第163図の20	須恵器 甕	—	—	—	長石・砂粒含む	暗灰色		1、2、42、53、56、58、 64、97、113、121、142
第163図の21	土師器 甕	(23.6)	—	—	石英・長石含む	橙褐色		1、2、48
第163図の22	土師器 甕	(22.9)	—	—	雲母・長石・石英含む	明褐色		1、2、11、27、52、62、 59、66、67、109
第163図の23	土師器 甕	(20.1)	—	—	雲母・長石・石英含む	橙褐色		1、2、5、21、23、25、 49、73、101、103
第163図の24	刀子	残存長 4.0	残存長 2.0	—	鉄製品	—	2点が密着	74

II071 (第164図、図版59・146・168)

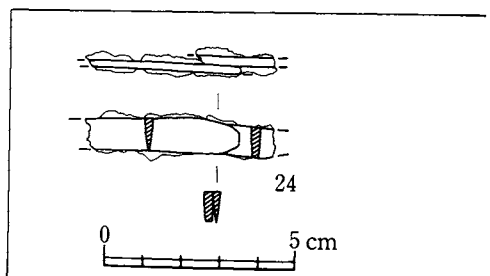
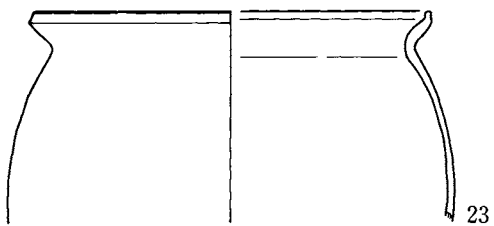
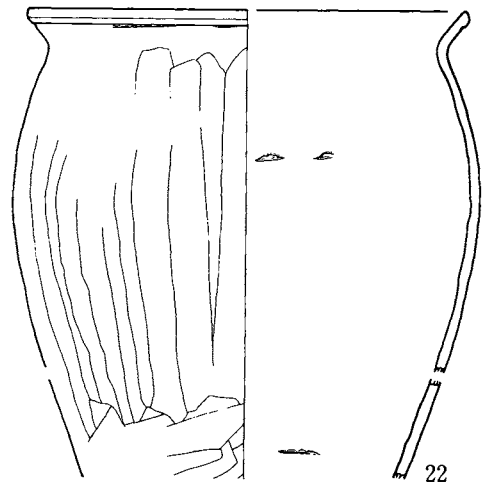
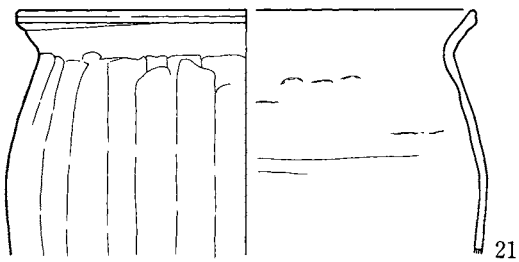
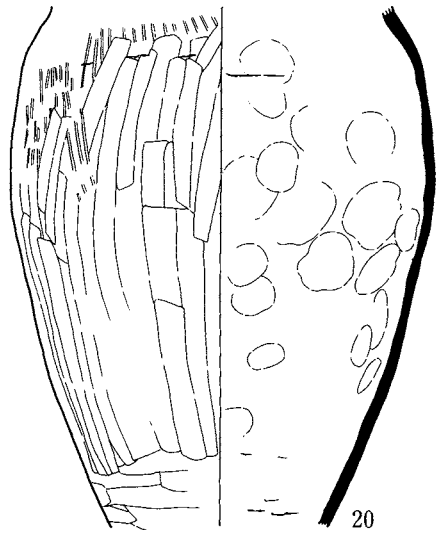
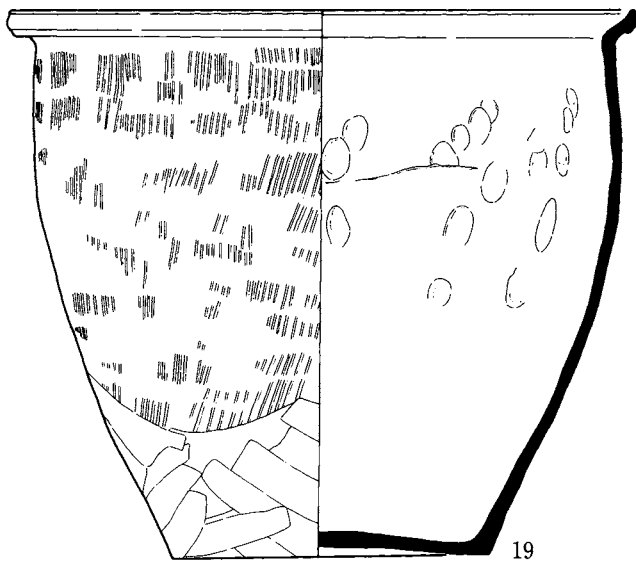
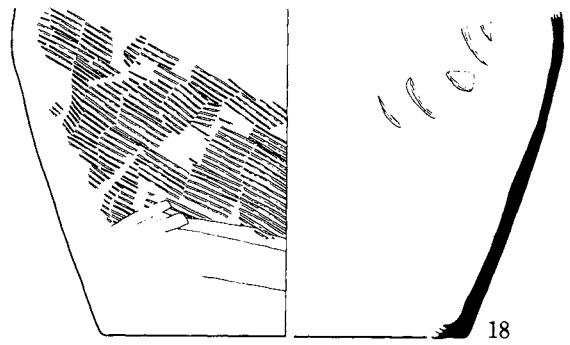
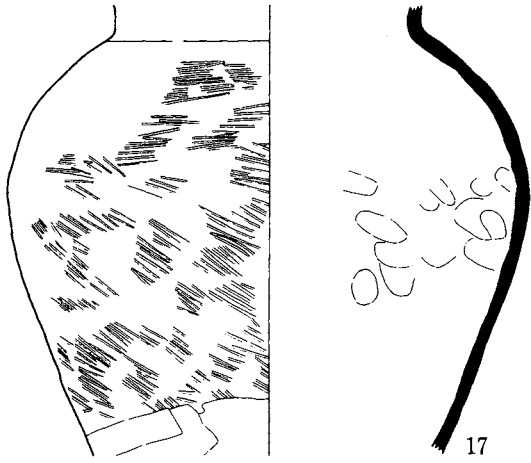
4本の主柱穴をもつ大型の住居で、出入口ピット際の南側壁が大きく外側に張り出す。住居埋土は分層できず、ローム粒・ロームブロックを多く含むので、一時期に人為的に埋め戻したものであろう。P1～P5以外は、貼床除去後に検出した。何回かの建替えがあったものと思われる。内面に漆紙の付着した須恵器杯(6)が出土しているのをはじめ、出土遺物には完形に近いものが多い。9の鉄鏃、10の刀子片はいずれも住居床面直上から出土している。

表140 II071

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第164図の1	土師器 杯	12.8	3.9	—	スコリア含む	橙色	線刻(底内)「大」	104
第164図の2	土師器 杯	12.0	3.9	—	石英・長石・スコリア含む	橙色	内外面赤彩	69
第164図の3	土師器 杯	10.3	4.1	6.0	スコリア含む	橙色		103
第164図の4	土師器 杯	(14.2)	—	—	雲母・石英・スコリア含む	暗褐色		91
第164図の5	須恵器 杯	13.2	3.8	8.2	雲母・石英・長石含む	暗灰色		95
第164図の6	須恵器 杯	13.3	4.7	7.3	雲母・石英含む	灰白色	内部に漆紙付着	3、94、150
第164図の7	須恵器 杯	(14.4)	4.0	8.1	雲母・長石含む	灰色		25、67
第164図の8	土師器小型甕	(11.9)	—	—	石英・長石含む	暗褐色		3、89、90、96
第164図の9	鉄鏃	鏃身幅 0.9	残存長 12.3	—	—	—		29
第164図の10	刀子	残存長 5.6	—	—	鉄製品	—		98



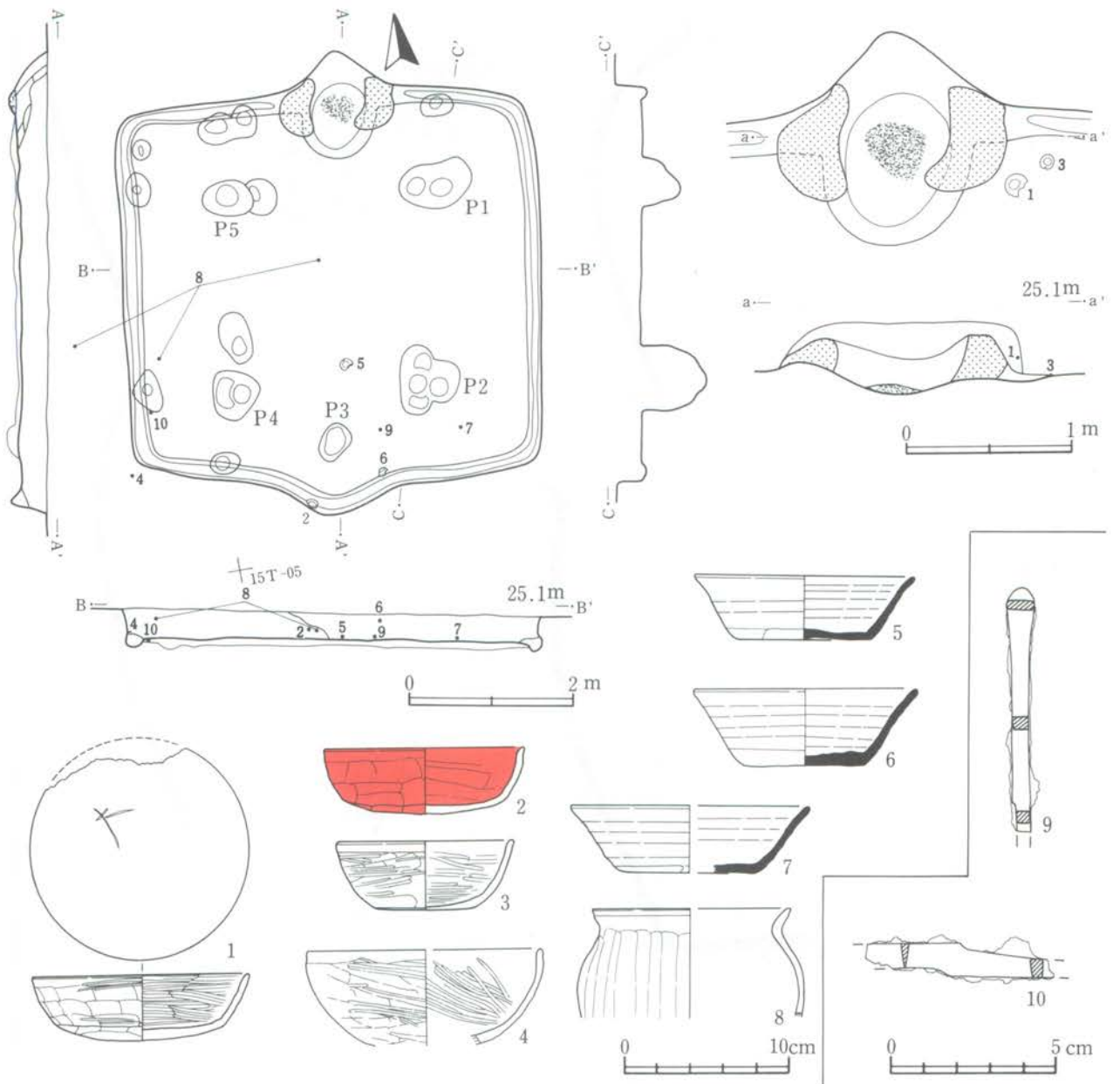
第162图 II070(1)



0 10cm

0 5cm

第163图 II070(2)



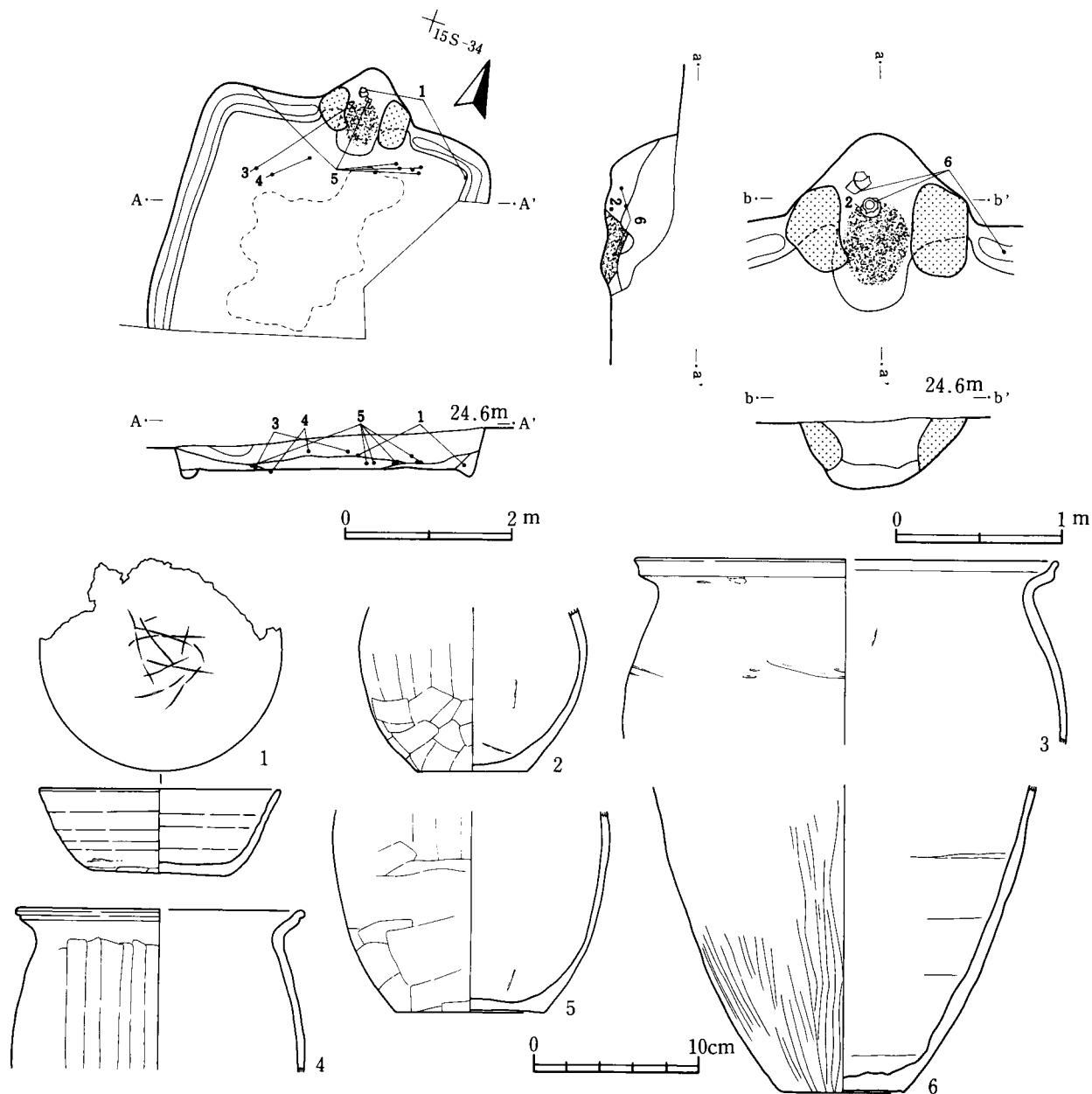
第164図 II071

II073 (第165図、図版59・146)

調査区域の境界上に位置する住居である。竈内の火床面最奥部には、逆さにした小型甕に、杯を被せた状態の支脚を検出した。

表141 II073

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第165図の1	土師器 杯	14.1	5.1	8.2	石英・長石含む	橙色	線刻(底内) □□	27、44、48
第165図の2	土師器小型甕	-	-	6.6	雲母・スコリア含む	明褐色		43
第165図の3	土師器 甕	(25.0)	-	-	雲母・長石・石英含む	橙褐色		41、48、49
第165図の4	土師器 甕	(16.8)	-	-	石英・長石含む	褐色		12、36
第165図の5	土師器小型甕	-	-	(8.8)	石英・長石含む	明褐色		15
第165図の6	土師器 甕	-	-	7.4	雲母・石英・長石含む	橙褐色		19、42、45



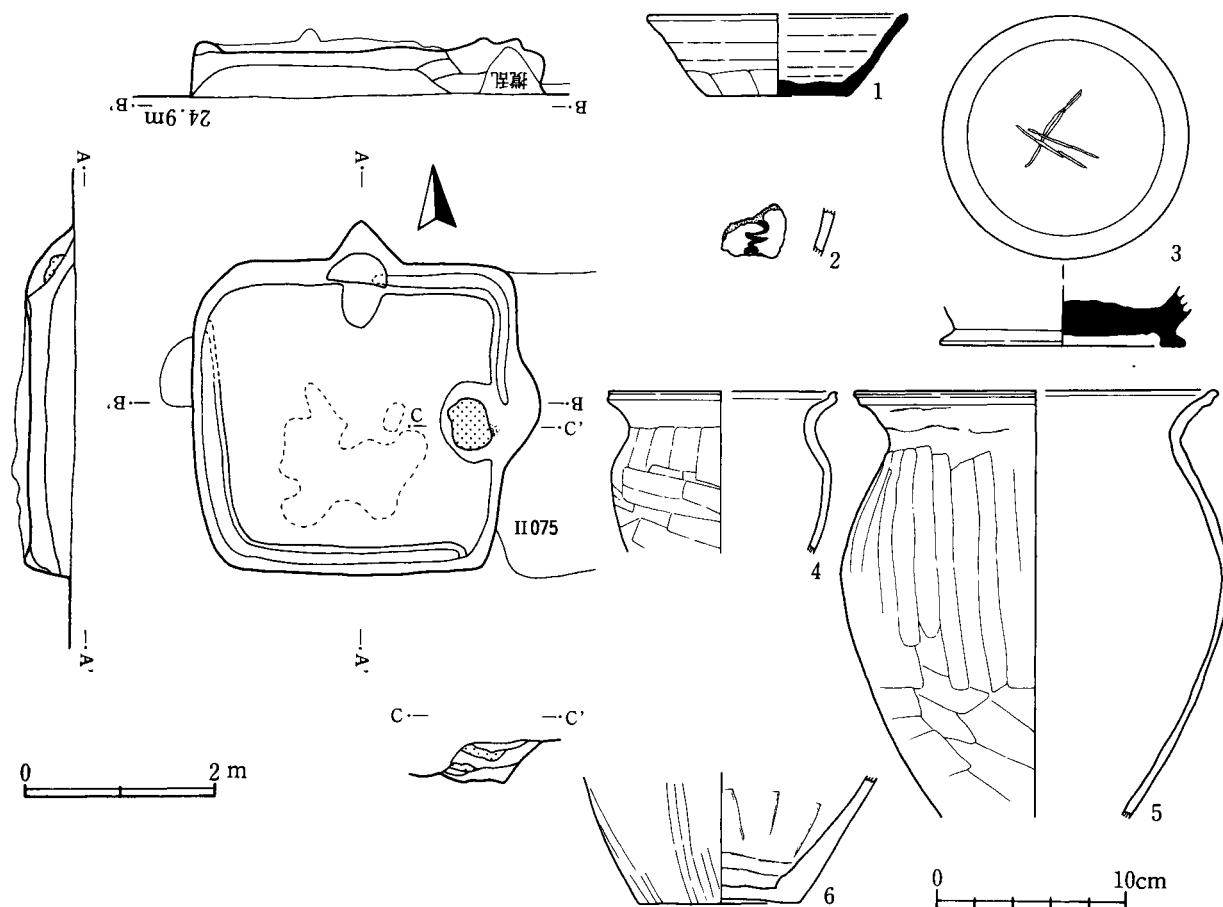
第165図 II073

II074 (第166図、図版59・146)

II075と東側壁付近が重複するが、攪乱を受けているため、切合い関係は不明である。北側壁と東側壁に各々1基、計2基の竈が遺存する。2基とも遺存状況が不良で、新旧関係ははっきりしない。

表142 II074

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第166図の1	須恵器 杯	(13.6)	4.4	7.4	雲母・石英・長石含む	灰色		58
第166図の2	土師器 甕	-	-	-	-	-	墨書(体外) [ ]	3
第166図の3	須恵器 壺	-	-	12.9	長石含む	灰色	ヘラ書き(底外) [ ]	87、88
第166図の4	土師器 小型甕	(11.8)	-	-	石英・長石含む	赤褐色		1、49、53、77
第166図の5	土師器 甕	(19.2)	-	-	雲母・石英・長石含む	橙褐色		1、2、3、13、63、71、96、97、111、120、121、122、123、128、131
第166図の6	土師器 甕	-	-	(8.5)	雲母・石英・長石含む	明褐色		2、4、36、45、89、116



第166図 II074

II075 (第167図、図版60・146)

極めて掘込みの浅い住居である。プランもあまり整っていない。東壁側で少し外に張り出したように竈堀り方を検出した。遺物量も少ない。

表143 II075

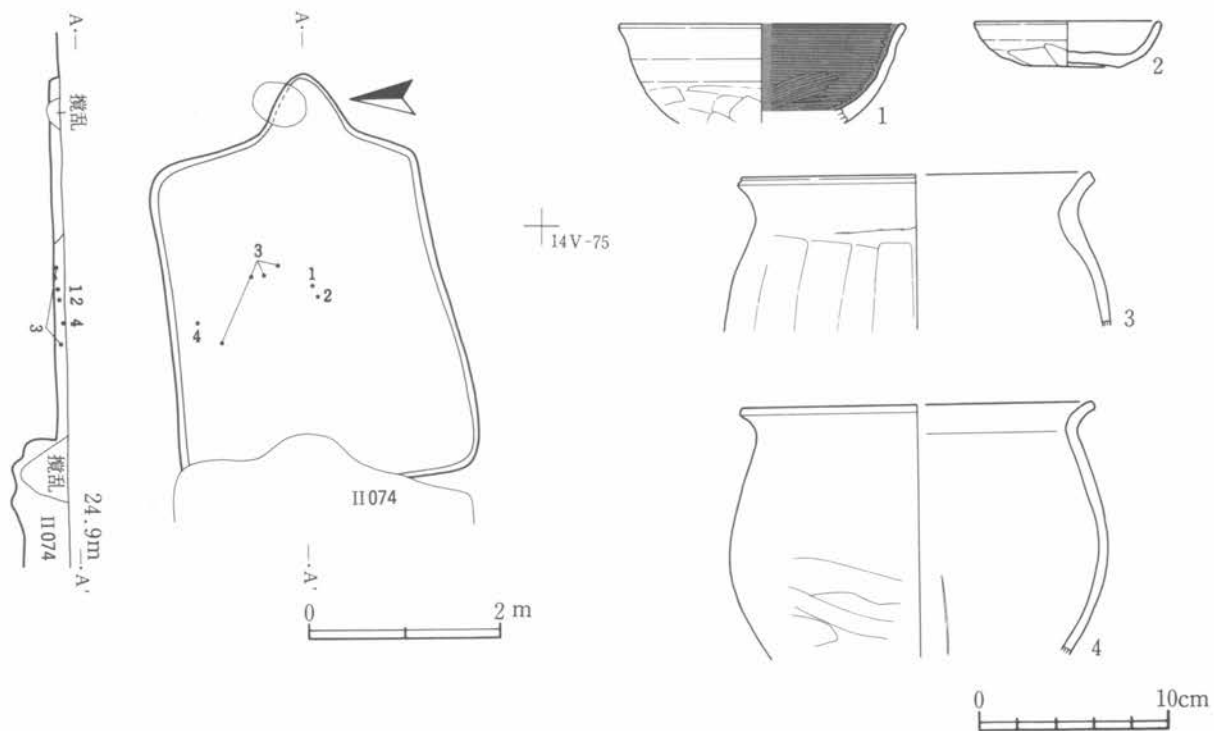
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第167図の1	土師器 杯	(14.2)	—	—	雲母・長石・石英・スコリア含む	黒褐色	内黒	34
第167図の2	土師器 杯	9.6	2.5	5.0	石英・長石・スコリア含む	暗褐色		33
第167図の3	土師器 甕	(18.2)	—	—	石英・長石含む	褐色		1、2、14、20、21、38
第167図の4	土師器 甕	(18.0)	—	—	スコリア含む	暗褐色		1、4、26

II076 (第168図、図版60)

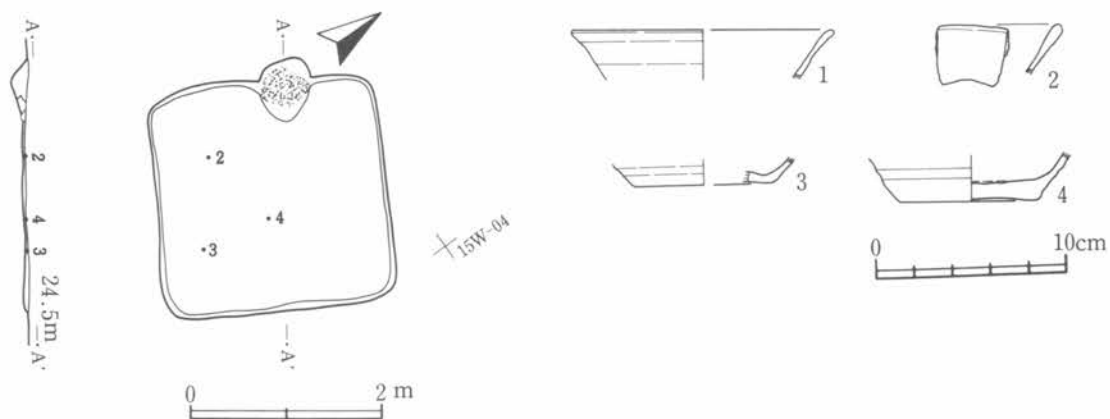
極めて掘込みの浅い住居である。北西の壁側に竈を検出した。遺物量も少ない。

表144 II076

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第168図の1	土師器 杯	(13.7)	—	—	雲母・長石含む	赤褐色		1
第168図の2	土師器 杯	—	—	—	雲母・長石・スコリア含む	褐色		9
第168図の3	土師器小型甕	—	—	(7.2)	雲母・スコリア・長石含む	暗褐色		2、5
第168図の4	土師器 甕	—	—	(7.2)	石英含む	暗褐色		7



第167図 II075



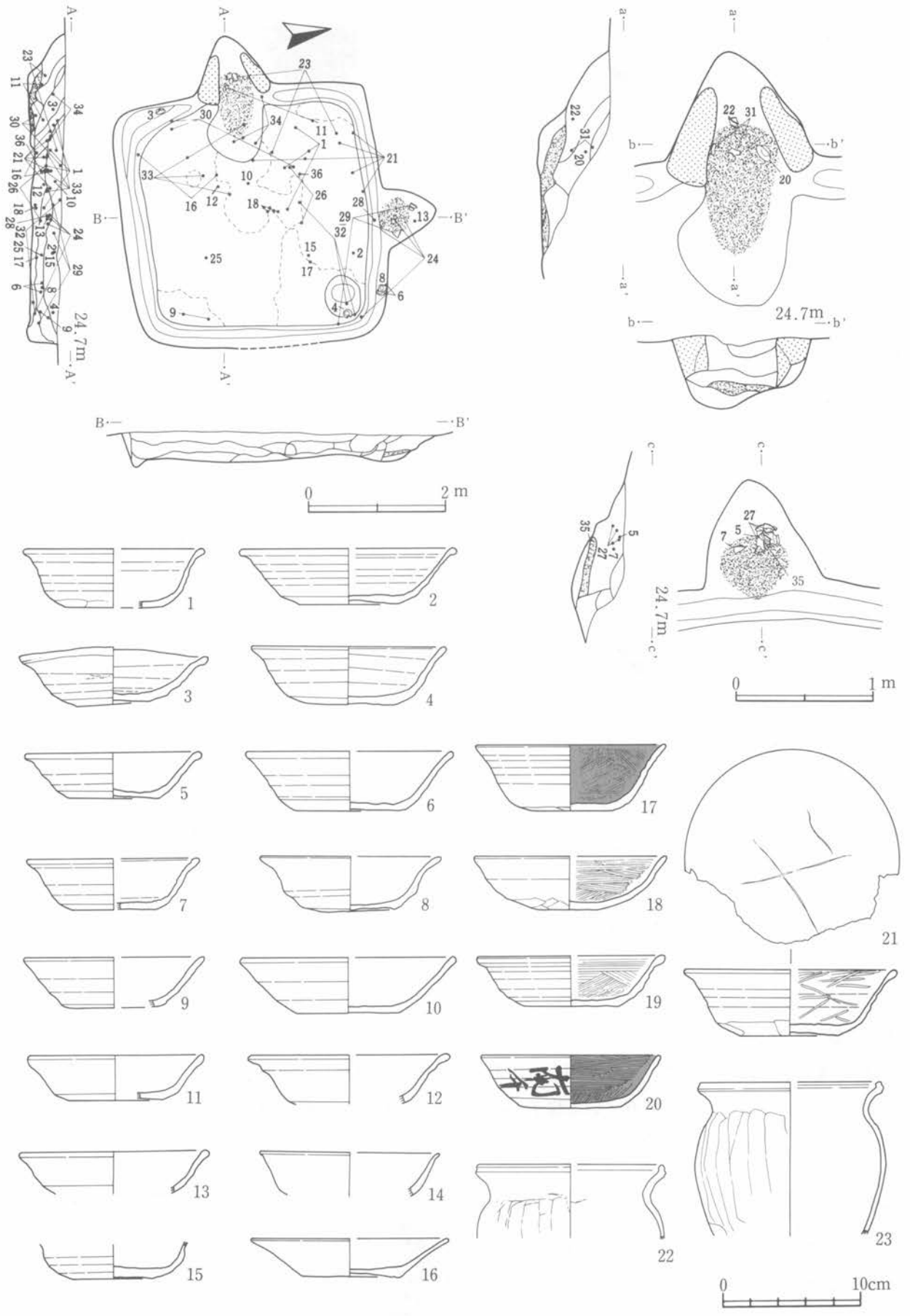
第168図 II076

II077 (第169・170図、図版60・147・174)

2基の竈をもつ住居である。竈は北側の方が古く、袖は全く遺存していなかった。古い北側の竈には、直立した支脚の上に土器片を載せている様子が確認できた。新しい西側の竈内と周辺からも多くの遺物が出土している。土師器杯の量が非常に多い。35は中心が凹んだ土師質の土製品である。

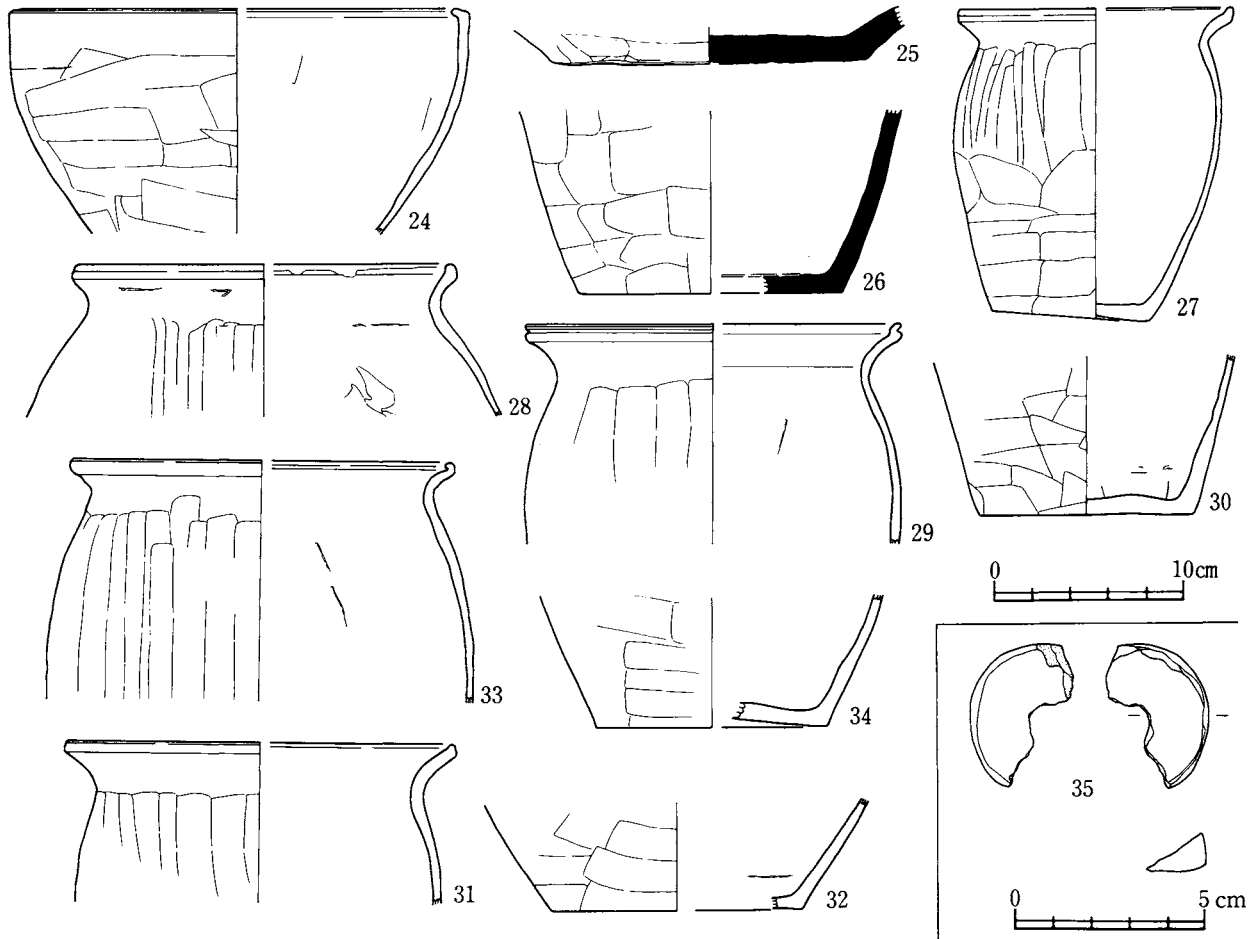
表145 II077

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第169図の1	土師器 杯	(12.7)	4.2	(7.0)	砂粒含む	暗褐色		1、69、75、79、81
第169図の2	土師器 杯	(15.2)	4.0	7.2	雲母含む	橙褐色		2、42
第169図の3	土師器 杯	13.4	4.1	5.2	雲母・スコリア含む	褐色		164
第169図の4	土師器 杯	13.9	4.1	6.2	雲母・長石・スコリア含む	褐色		175
第169図の5	土師器 杯	12.2	3.3	6.4	石英・長石含む	黄褐色		224、228
第169図の6	土師器 杯	(14.6)	4.2	7.8	長石含む	橙褐色		230、231



第169图 II077(1)



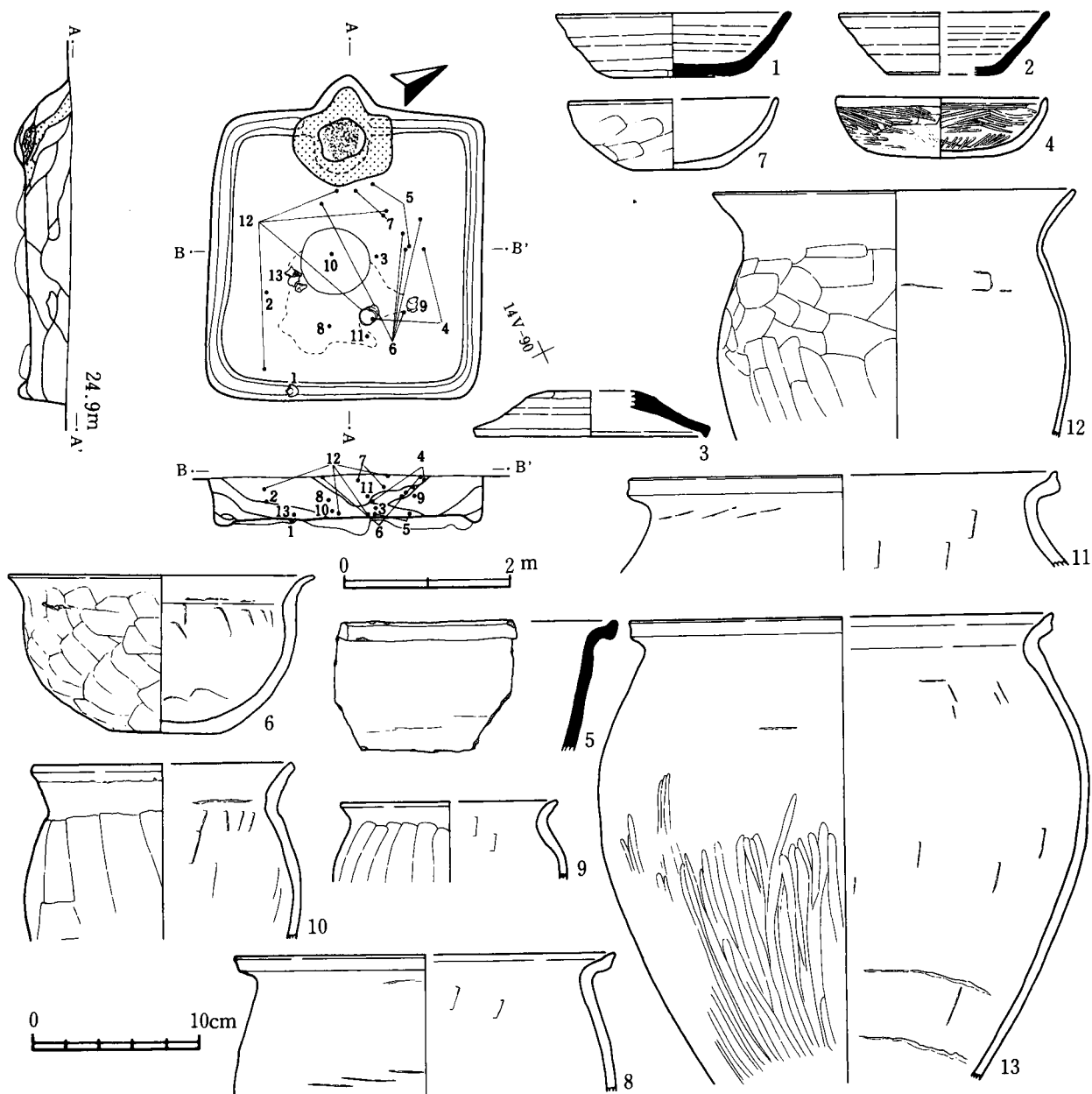


第170図 II077(2)

第169図の7	土師器	杯	(12.2)	3.7	6.0	雲母・石英・長石・スコリア含む	橙色			220、228
第169図の8	土師器	杯	(12.7)	4.0	6.6	石英・長石・スコリア含む	橙色			230
第169図の9	土師器	杯	(12.9)	3.6	(7.6)	雲母含む	暗褐色			45、87
第169図の10	土師器	杯	(15.2)	4.0	7.4	長石・スコリア含む	橙褐色			1、54
第169図の11	土師器	杯	(12.2)	3.3	(6.7)	雲母・石英・長石含む	橙色			1、95、184
第169図の12	土師器	杯	(14.0)	-	-	石英・長石含む	暗褐色			1、68
第169図の13	土師器	杯	(13.2)	-	-	長石・スコリア含む	黄褐色			1、226
第169図の14	土師器	杯	(12.9)	-	-	スコリア含む	橙褐色			2、228
第169図の15	土師器	杯	-	-	5.8	雲母・スコリア含む	橙褐色			44
第169図の16	土師器	皿	(14.1)	2.7	7.1	スコリア含む	橙褐色			4、11、119
第169図の17	土師器	杯	(13.4)	4.7	6.0	雲母・スコリア含む	外面橙色、内面黒色	内黒		2、84
第169図の18	土師器	杯	(13.7)	3.8	4.4	雲母・長石含む	黒褐色～黒色			1、2、108、109、110、111、112
第169図の19	土師器	杯	(13.2)	3.6	6.8	雲母・長石・スコリア含む	橙褐色			1
第169図の20	土師器	杯	12.7	3.8	7.5	雲母・スコリア含む	外面橙褐色 内面黒色	内黒 墨書(体外)「南千」		210
第169図の21	土師器	杯	(15.0)	4.7	7.2	雲母・長石・石英・スコリア含む	橙色	線刻(底内) □□		1、64、78、89、91、92、138
第169図の22	土師器	小型甕	(13.2)	-	-	雲母・石英・長石含む	-			207
第169図の23	土師器	小型甕	(13.4)	-	-	雲母・スコリア含む	橙色			1、2、24、93、208、229
第170図の24	土師器	鉢	(24.0)	-	-	雲母・石英含む	黄褐色			126、176、190、193、200、217、228
第170図の25	須恵器	甕	-	-	(16.6)	雲母・長石・石英含む	灰白色			169
第170図の26	須恵器	甕	-	-	(13.8)	-				74、174
第170図の27	土師器	小型甕	(14.3)	16.4	8.3	スコリア含む	黄褐色			218、221、222、223、228
第170図の28	土師器	小型甕	(19.2)	-	-	石英・長石含む	橙褐色			1、188
第170図の29	土師器	甕	(19.1)	-	-	雲母・スコリア含む	橙褐色			128、129、214
第170図の30	土師器	甕	-	-	(11.0)	-	暗褐色			22、130、131
第170図の31	土師器	甕	(19.9)	-	-	雲母・長石・スコリア含む	橙褐色			186、187、229
第170図の32	土師器	甕	-	-	(13.3)	雲母含む	暗褐色			2、38、177、178
第170図の33	土師器	甕	(19.6)	-	-	雲母・石英・長石含む	橙褐色			1、53、59、65、155
第170図の34	土師器	甕	-	-	(12.0)	スコリア含む	橙褐色			1、34、145、162、163
第170図の35	不明土製品	直径 (4.4)	最大厚 1.0	-	-	雲母多量に含む	灰褐色			76

II078 (第171図、図版61・147)

整った方形プランの住居である。床面中央には住居より古い円形のピットが残っている。住居床面付近からは倒位の甕上半部(12)をはじめとして、比較的まとまった遺物が出土している。



第171図 II078

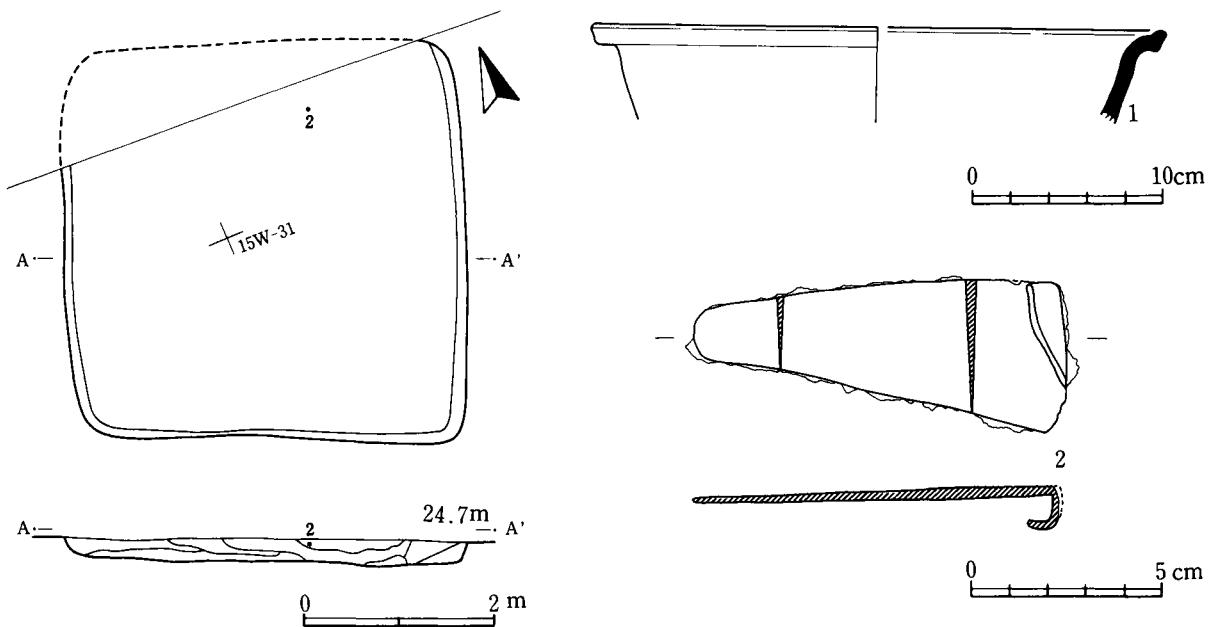
表146 II078

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第171図の1	須恵器 杯	14.1	3.9	7.1	石英・長石含む	灰色		70
第171図の2	須恵器 杯	(12.6)	3.8	7.1	長石含む	灰色		13
第171図の3	須恵器 蓋	(14.1)	-	-	雲母・石英・長石含む	灰色		58
第171図の4	土師器 杯	12.6	3.6	-	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		45、67
第171図の5	須恵器 甕	-	-	-	雲母・石英・長石含む	灰白色		54、68
第171図の6	土師器 鉢	17.8	9.3	6.6	雲母・石英・長石含む	黒褐色		9、28、65、66、73、74
第171図の7	土師器 杯	(12.4)	4.1	4.8	雲母・石英・長石・スコリア含む	明赤褐色		48、63
第171図の8	土師器 甕	(22.7)	-	-	雲母・石英・スコリア含む	褐色		16

第171図の9	土師器小型甕	(12.8)	-	-	雲母含む	黒褐色		75
第171図の10	土師器 甕	(15.2)	-	-	雲母・スコリア含む	赤褐色		62
第171図の11	土師器 甕	(25.4)	-	-	-	-		52
第171図の12	土師器 甕	(21.7)	-	-	スコリア・砂含む	橙褐色		1、20、30、40、73、78
第171図の13	土師器 甕	(25.4)	-	-	雲母・長石・石英含む	黒褐色		69

## II079 (第172図、図版61・169)

北側壁を攪乱された住居である。埋土中には竈構築材となる山砂は全く検出されなかったが、出土遺物から見ると竈を有する時期なので、おそらく削平された北側壁にあったのであろう。遺物量は少ない。2は鉄鎌で、使用によるためか、基部の大きさに比べ、刀身部がかなり小さくなっている。



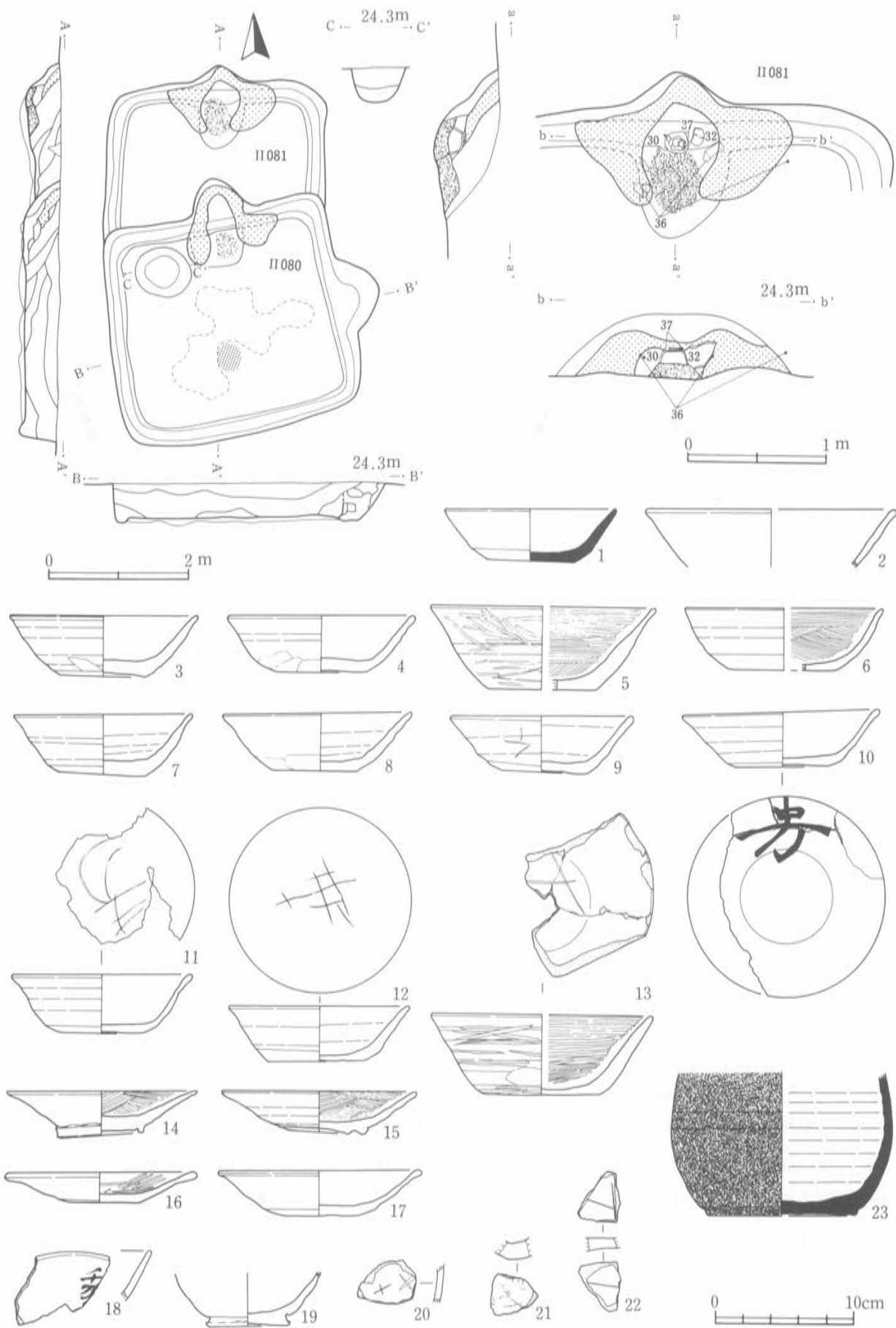
第172図 II079

表147 II079

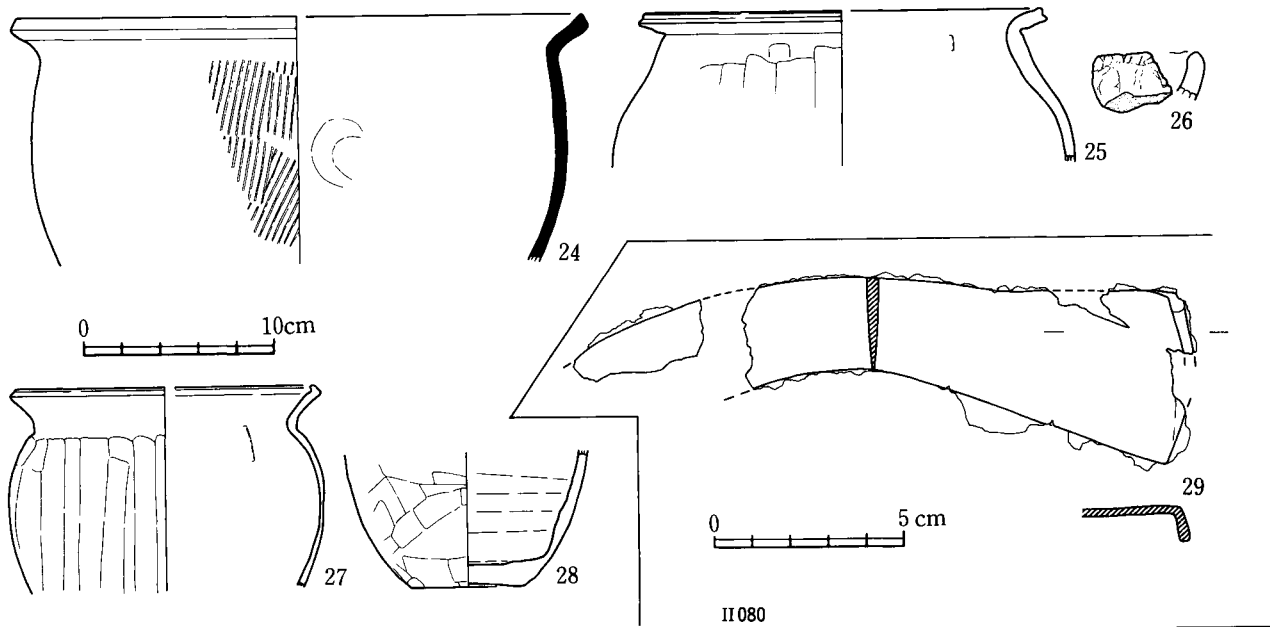
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第172図の1	須恵器 甕	(29.8)	-	-	長石含む	灰色		3
第172図の2	鎌	残存長 9.8	-	-	鉄製品	-		8

## II080・081 (第173・174図、図版61・62・147・169)

081の南側埋土を一部掘り込むようにして、080が造られている。すなわち080の方が081より新しい。080には北側と東側に各々1基ずつ、計2基の竈があるが、遺存状況から北竈の方が新しい。081の竈火床面直上には、甕の底部を倒位にして、その上に土器片を並べた支脚を確認した。遺物は両住居とも床面から埋土上層に至るまで広く分布している。土師器皿や杯の出土量が多い。29の鎌は2点で1個体になると考えられるが、埋土上層からかなり離れて出土している。



第173图 II080(1)·081(1)



第174図 II080(2)・081(2)

表148 II080・081

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第173図の1	須恵器 杯	12.2	3.7	6.3	雲母・石英・長石・スコリア含む	赤褐色		2、3、11、51
第173図の2	土師器 杯	(17.6)	—	—	雲母・スコリア含む	暗褐色		33
第173図の3	土師器 杯	13.3	4.1	6.1	雲母・石英・スコリア含む	赤褐色		2、3、40、41、42、43、55
第173図の4	土師器 杯	13.2	4.0	6.2	雲母・スコリア含む	暗褐色		148、150、151、166
第173図の5	土師器 杯	(16.1)	5.9	(7.9)	雲母・石英・長石・スコリア含む	暗褐色		4、96、112、113、132
第173図の6	土師器 杯	13.9	4.4	7.6	スコリア含む	黄褐色		73
第173図の7	土師器 杯	12.6	4.2	6.2	雲母・スコリア含む	橙色		168
第173図の8	土師器 杯	12.8	4.0	6.0	雲母・石英・スコリア含む	赤褐色		128

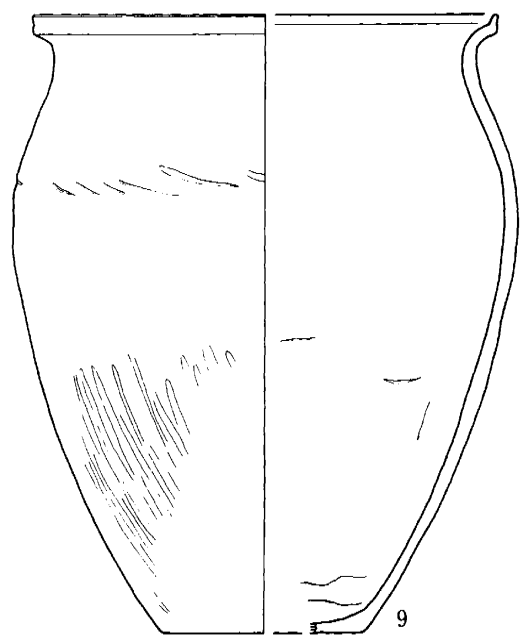
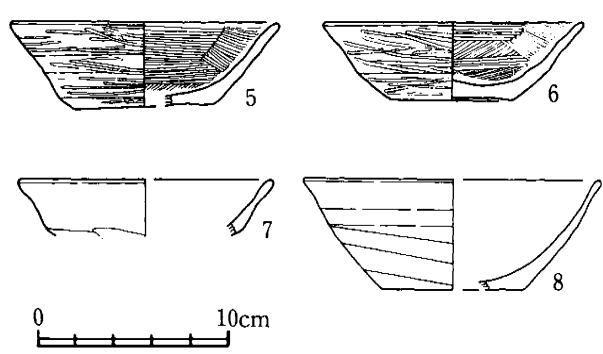
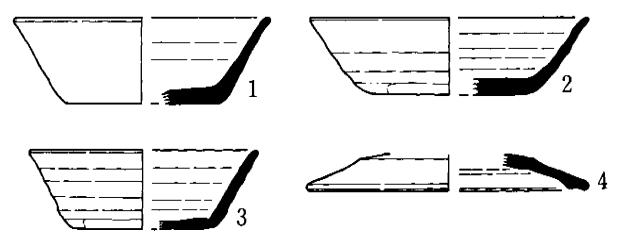
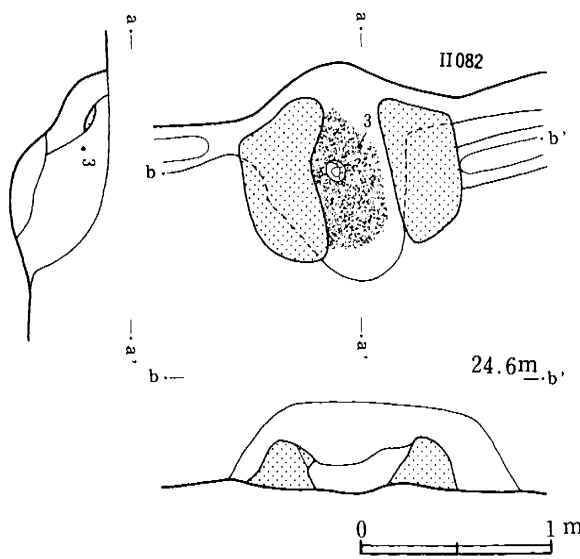
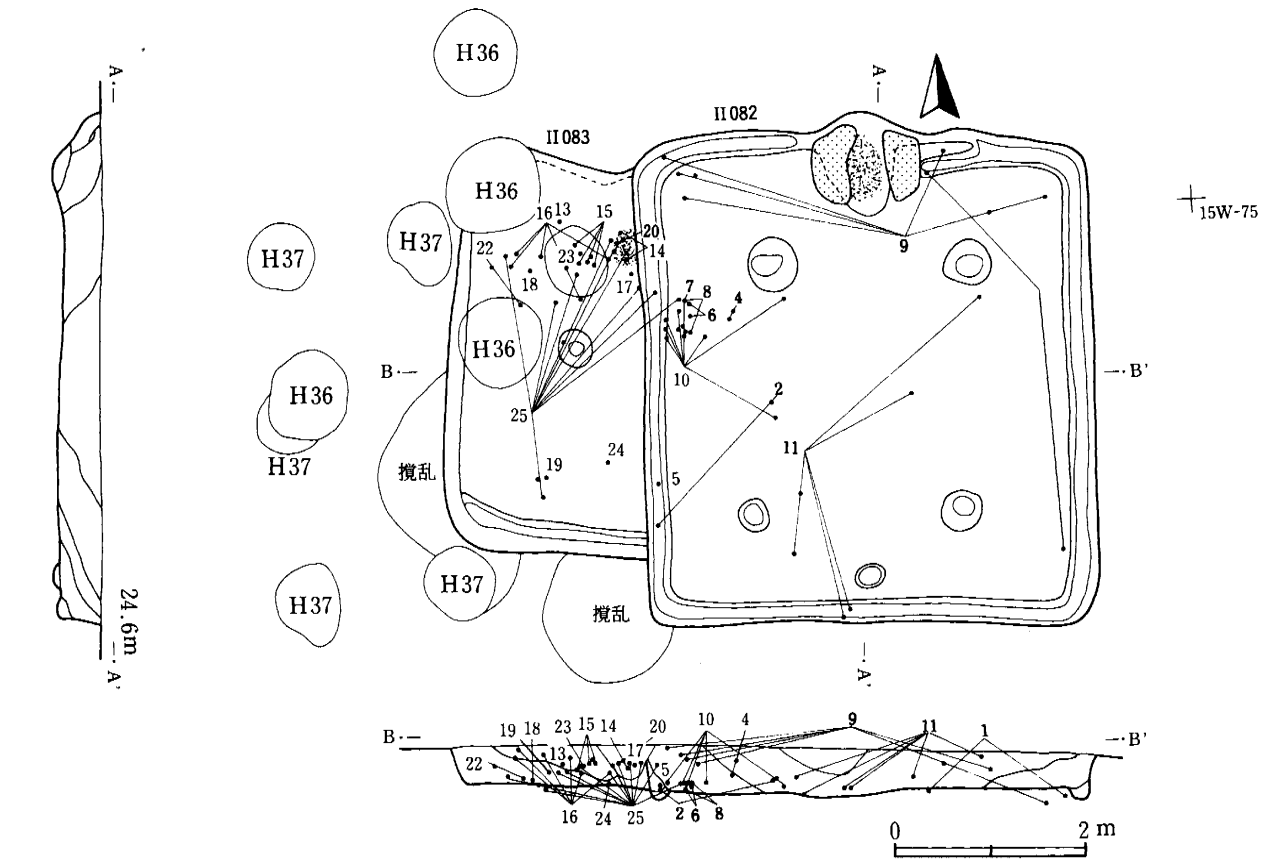
第173図の9	土師器 杯	12.8	4.1	6.0	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(体外) 「□」	4、98、124、127、167
第173図の10	土師器 杯	13.8	3.9	6.8	—	橙色	墨書(体外) 「中万」	2、143
第173図の11	土師器 杯	12.5	4.7	5.8	雲母・石英・スコリア含む	橙色	線刻(底内) 「千万」	1、103、126、167
第173図の12	土師器 杯	12.7	4.0	7.0	雲母・スコリア含む	赤褐色	線刻(底内) 「□」	1、158
第173図の13	土師器 杯	(16.0)	5.8	(8.4)	雲母・スコリア含む	暗褐色	ヘラ書き(底内) 「□」	2、48、49
第173図の14	土師器 高台付皿	13.4	2.9	6.1	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		2、4、89
第173図の15	土師器 高台付皿	13.7	2.6	5.6	雲母・スコリア含む	橙色		52、58
第173図の16	土師器 皿	13.2	2.1	5.7	雲母含む	黒褐色		1、3、4、108、109
第173図の17	土師器 皿	(14.2)	3.2	5.2	雲母・スコリア含む	黒褐色		3、4、37、38、39、100
第173図の18	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) 「千万」	2
第173図の19	土師器 杯	—	—	(6.0)	雲母・スコリア含む	赤褐色		1、4、5
第173図の20	土師器小型甕	—	—	—	—	—	線刻(体外) 「□」	2
第173図の21	手捏ね	—	—	—	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		2
第173図の22	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内) 「□」 線刻(底外) 「□」	167
第173図の23	灰釉陶器瓶類	—	—	10.7	スコリア含む	灰白色		1、2、45、60、91、104、139
第174図の24	須恵器 甕	(29.8)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		2
第174図の25	土師器 甕	(20.6)	—	—	雲母・石英・長石含む	明褐色		3、4、96、133
第174図の26	手捏ね	—	—	—	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		3
第174図の27	土師器小型甕	(15.7)	—	—	石英・長石・スコリア含む	明褐色		2、6、93、105、140、144、145
第174図の28	土師器小型甕	—	—	5.8	スコリア含む	橙褐色		1、2、34、81
第174図の29	鎌	残存長 (16.4)	—	—	鉄製品	—	2点を図面上で復元	146
第174図の30	土師器 杯	(14.3)	—	—	雲母・長石含む	暗褐色		97
第174図の31	土師器 杯	(14.1)	4.0	7.4	雲母・石英・長石・スコリア含む	橙色		8、77、99
第174図の32	土師器 杯	(12.4)	3.6	6.5	雲母・スコリア含む	暗褐色		88
第174図の33	須恵器 甕	—	—	—	雲母・長石・スコリア含む	褐色		2、22、24、45、99
第174図の34	土師器 甕	(15.9)	—	—	—	—		2、64、70、71、77、81、85、89、99
第174図の35	土師器 甕	—	—	7.2	雲母・長石・スコリア含む	黒褐色		1、2、33、57、72、73、81、83、99
第174図の36	須恵器 甕	—	—	—	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		59、96、98、99
第174図の37	須恵器 甕	—	—	11.5	雲母・長石・スコリア含む	灰色		92、93
第174図の38	砥石	31.3g	—	—	凝灰岩	—		25
第174図の39	紡錘車	直径 (5.2)	厚さ 2.1	—	土製	赤褐色		3

## II082・083 (第175・176図、図版62・147・166)

082は主軸を南北方向にとる方形の住居で、4本の柱穴と出入口ピット1か所を有する。083は、この082に東側半分を削平され、さらに、IIH36にも攪乱され、遺存状況は極めて不良である。082の竈火床面には、原位置で支脚が直立していた。083の竈は北側にあったが、ほとんど削平されている。12の土製品は断面が半円形で、表面に指頭痕が顕著である。上端が欠損している。

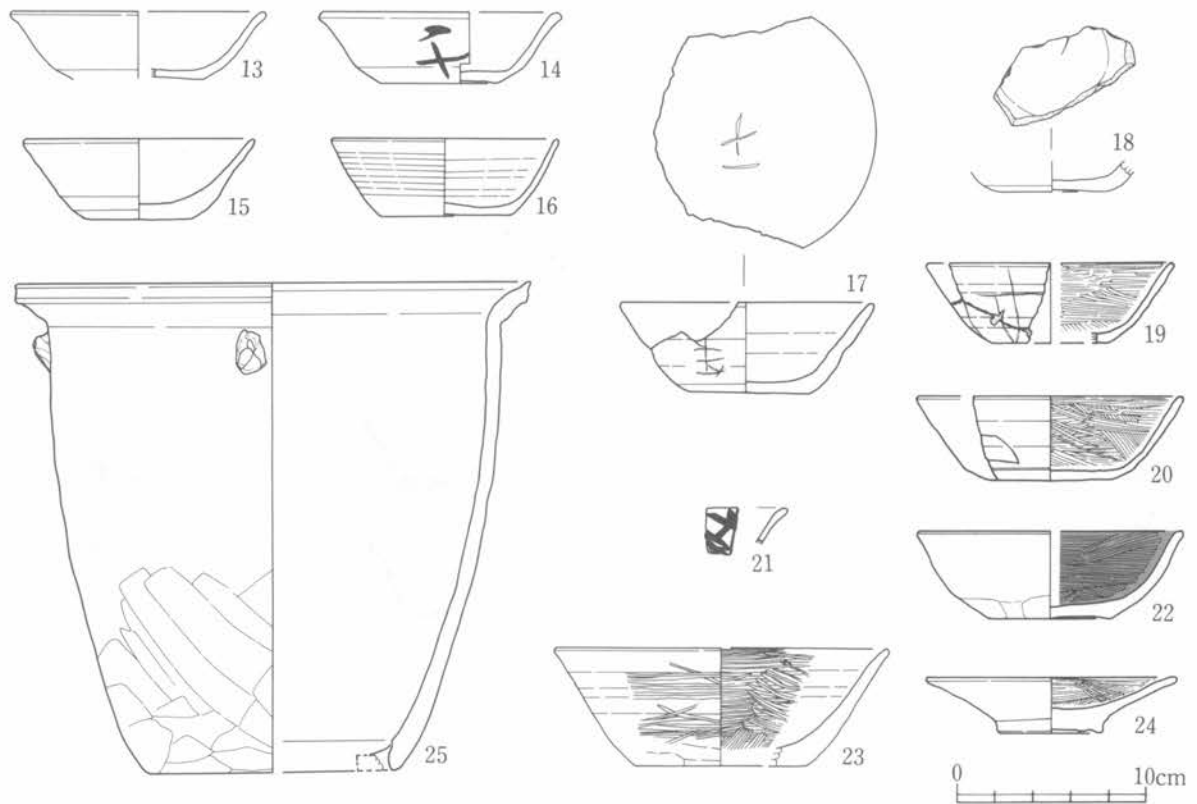
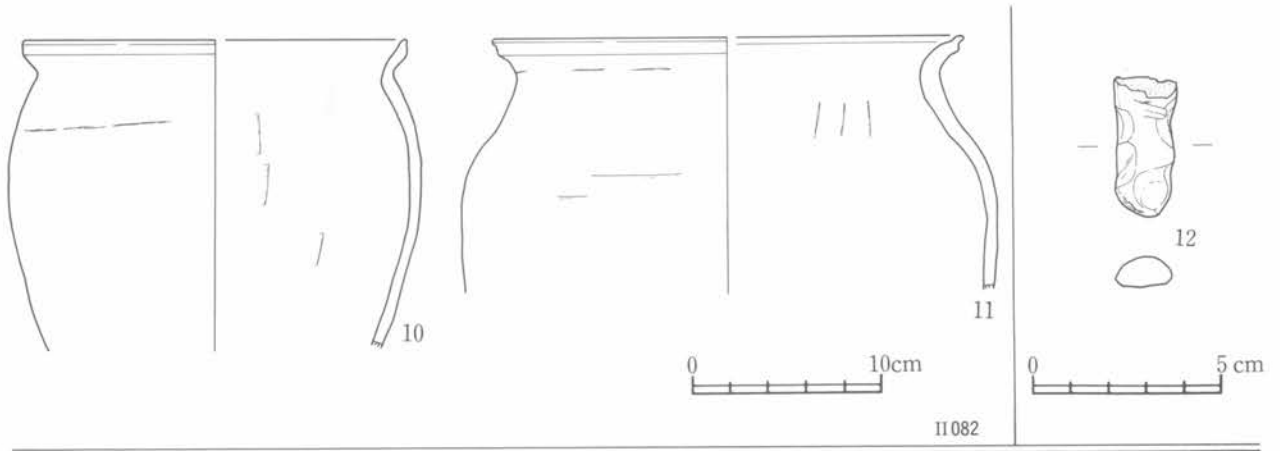
表149 II082・083

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第175図の1	須恵器 杯	(13.0)	4.5	8.0	長石含む	灰色		2、82、137
第175図の2	須恵器 杯	(14.4)	4.0	7.4	雲母・長石含む	灰白色		3、48、116
第175図の3	須恵器 杯	(11.8)	4.1	(7.6)	雲母・石英・長石含む	灰白色		136
第175図の4	須恵器 蓋	(14.8)	—	—	雲母・長石含む	灰色		33、60
第175図の5	土師器 杯	13.7	4.5	7.2	雲母含む	赤褐色		3、114
第175図の6	土師器 杯	13.4	4.0	6.4	雲母含む	暗褐色		4、65、93、104
第175図の7	土師器 杯	(12.2)	—	—	雲母・長石含む	黒褐色		104
第175図の8	土師器 椀	(15.4)	5.8	(7.3)	雲母・長石含む	褐色		2、4、63、104
第175図の9	土師器 甕	(24.2)	32.1	(10.4)	雲母・石英・長石含む	明褐色		34、35、36、44、69、120、149
第176図の10	土師器 甕	(20.0)	—	—	雲母・スコリア含む	黄褐色		4、53、59、64、88、94、95、96、97、98、104、109、110
第176図の11	土師器 甕	(24.6)	—	—	雲母・石英・長石含む	橙褐色		3、23、24、51、75、99、100
第176図の12	土製品	縦 3.9 横 1.5 厚さ 0.8	—	—	長石・スコリア含む	赤褐色	指圧痕顕著	1
第176図の13	土師器 杯	(13.2)	3.5	(6.8)	雲母含む	褐色		1、4、88
第176図の14	土師器 杯	(12.4)	3.7	6.1	雲母・長石・スコリア含む	淡褐色	墨書(体外) 「千」	2、62、77
第176図の15	土師器 杯	11.8	4.2	5.8	雲母・スコリア含む	橙色		1、43、45、46、47、68



第175图 II082(1)・083(1)

II082



第176図 II082(2)・083(2)

第176図の16	土師器 杯	11.8	4.1	6.8	砂粒含む	黒褐色		1、4、38、40、42、49、80、85
第176図の17	土師器 杯	13.2	4.6	6.4	雲母・スコリア含む	橙色	ヘラ書き(体外) ヘラ書き(底内)	57
第176図の18	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)	71
第176図の19	土師器 杯	12.8	4.1	6.2	雲母・スコリア含む	黒褐色	線刻(体外)	19、92
第176図の20	土師器 杯	13.8	4.4	6.4	雲母・石英・スコリア含む	黒色	線刻(体外)	60、89
第176図の21	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)	1
第176図の22	土師器 杯	(13.7)	4.5	6.4	雲母・スコリア含む	外面褐灰色 内面黒色	内黒	34、36
第176図の23	土師器 杯	(17.5)	6.1	(9.0)	雲母含む	暗褐色		44
第176図の24	土師器 高台付皿	13.0	2.7	5.5	雲母含む	赤褐色		10
第176図の25	土師器 瓶	26.9	25.4	(12.9)	—	明褐色		16、51、61、64、69、72、73、79、80、83、II082-66、108、125

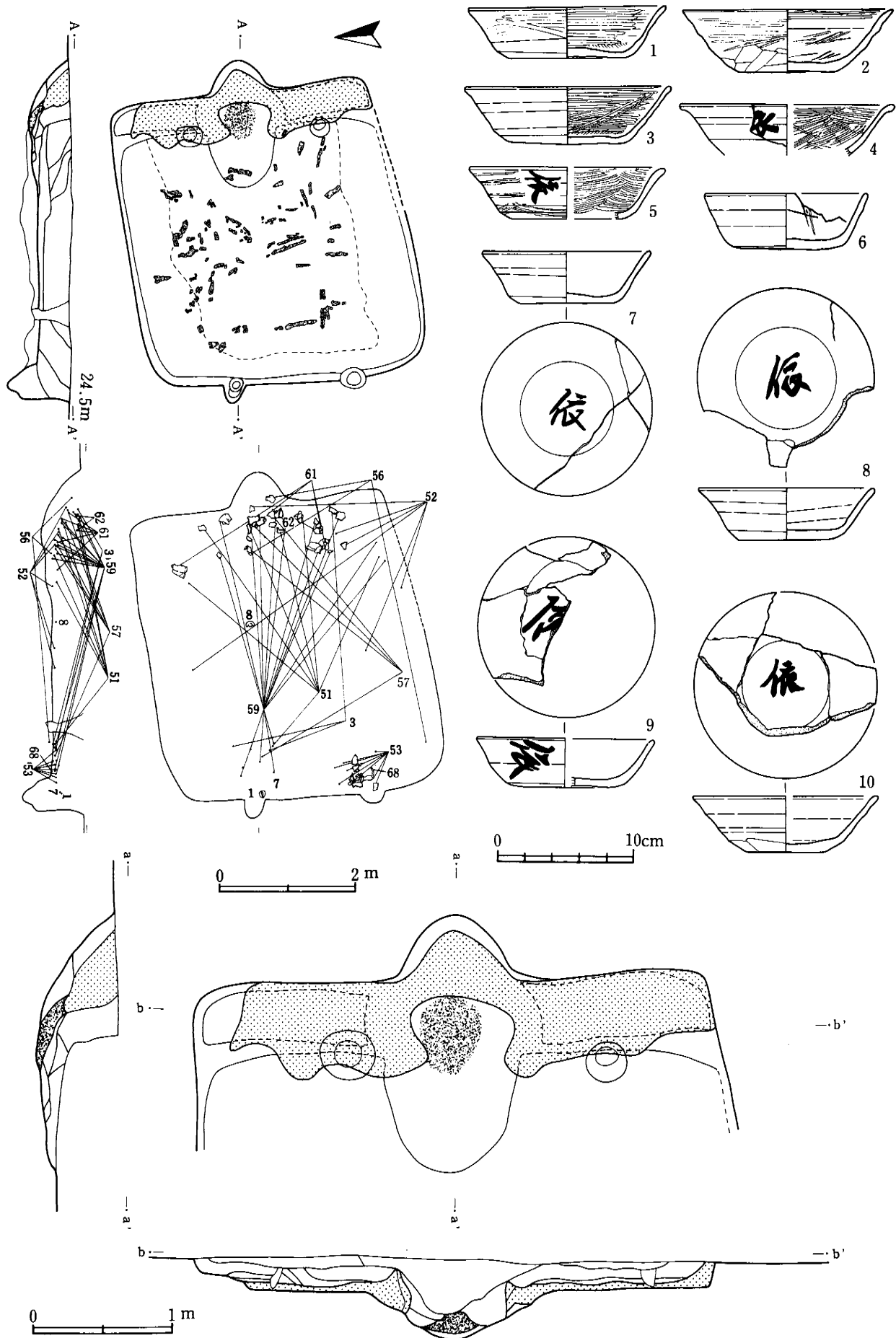


II084 (第177~180図、図版63・147・148・168・169)

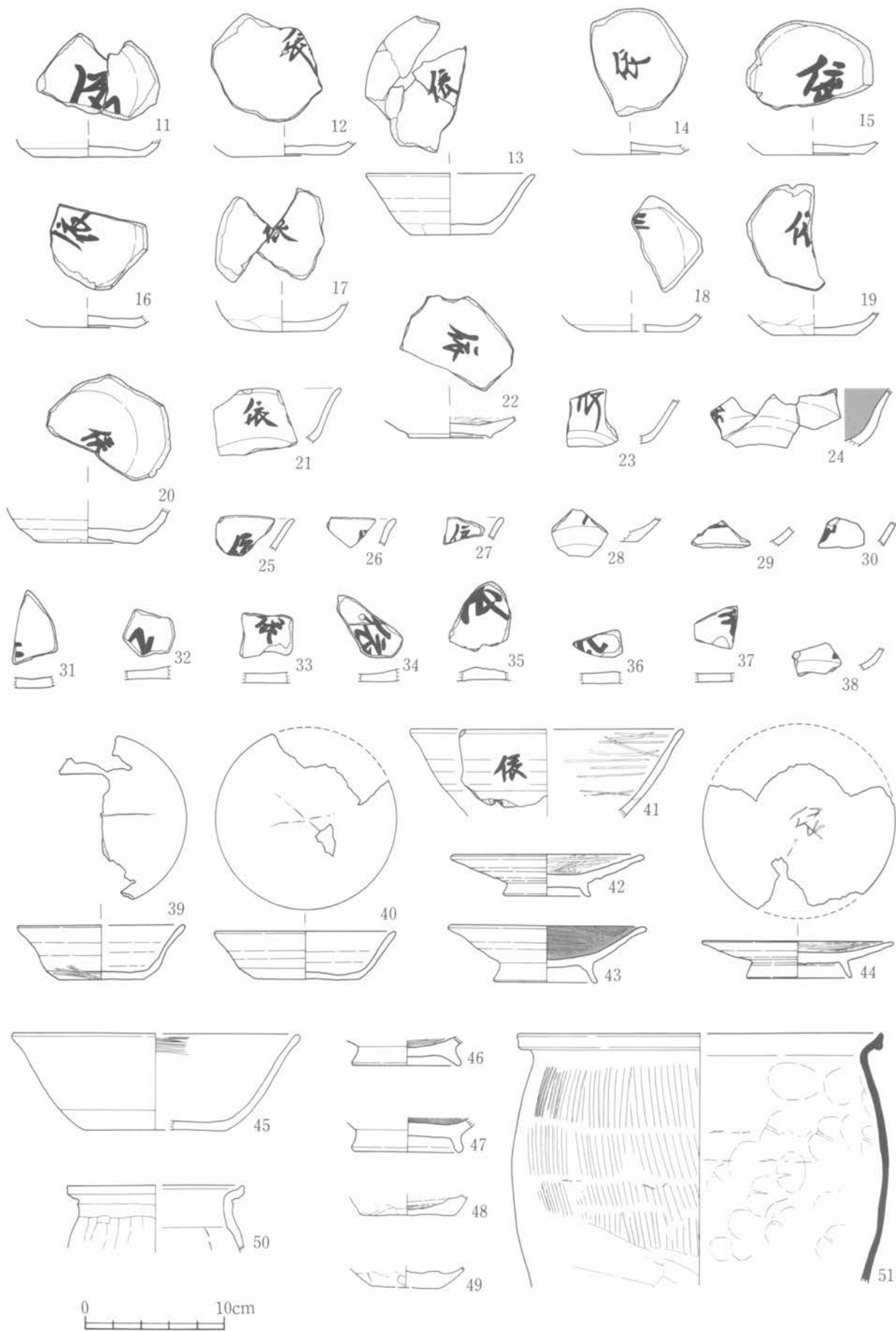
東側壁に竈を敷設し、その両側にテラス状に張り出した施設をもつ住居である。竈構築材と張出し施設に敷いた砂質粘土が一体化している。住居埋土からは多量の炭化材や焼土が出土している。柱穴はテラス前面の竈両脇に2本と、対面の西側壁に2本の計4本を確認した。土師器杯・皿・甕が非常に多く、特に「依」の墨書土器が多く見受けられる。65の断面長方形の鉄製品は鋸状に両端が同一方向に曲がっているが、両端とも欠損している。住居中央床面直上から出土している。68の完形の鎌は53の須恵器甕と同一地点の床面直上から出土している。

表150 II084

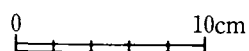
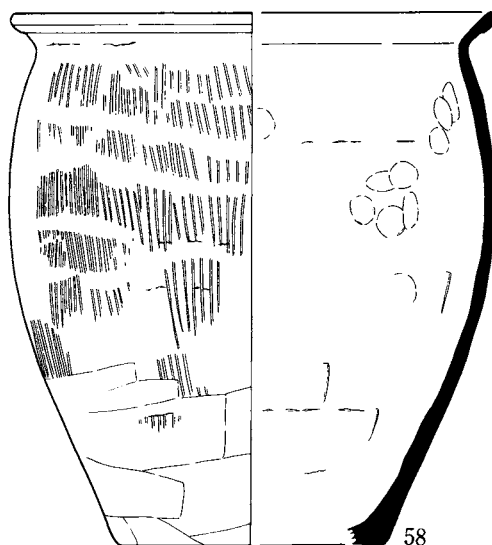
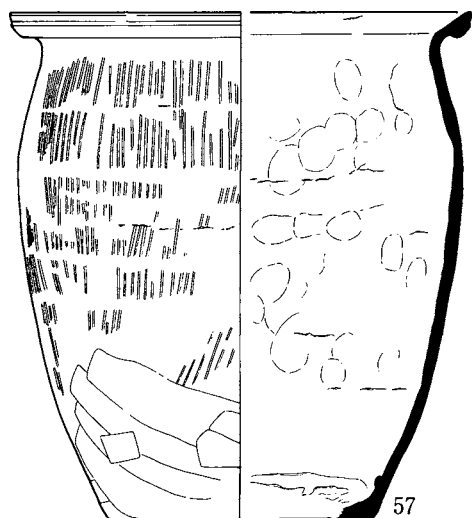
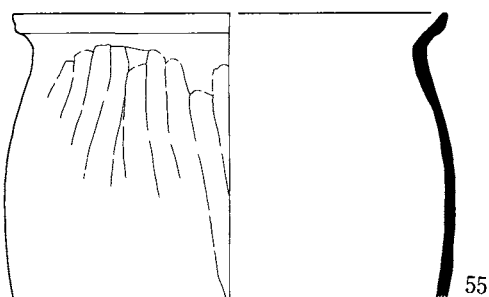
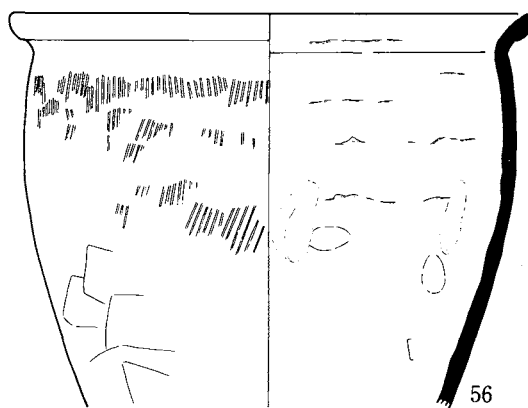
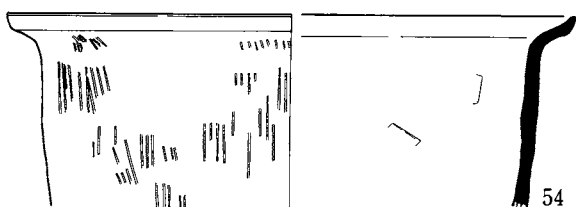
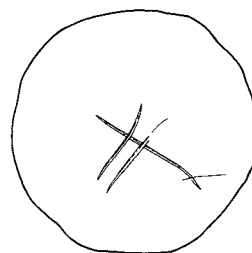
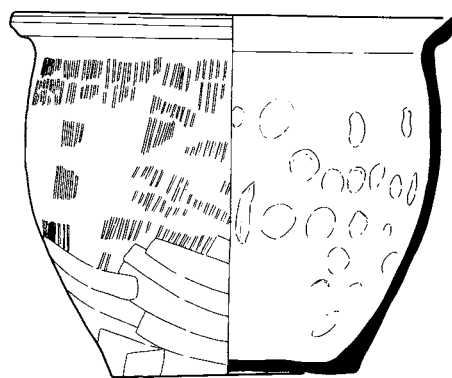
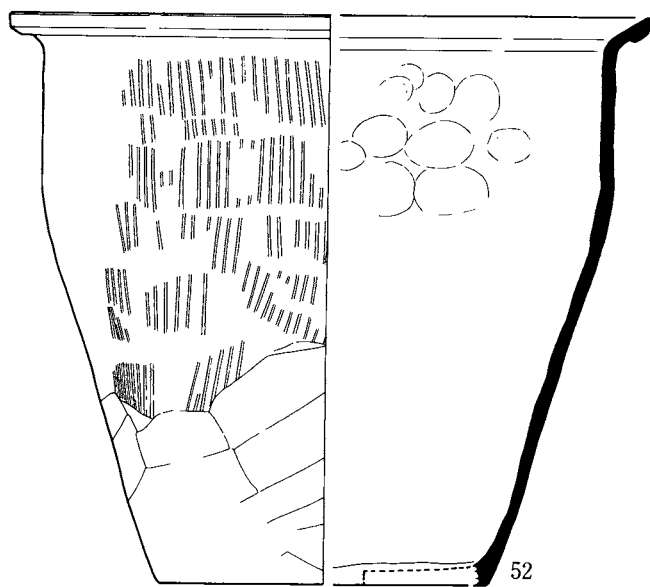
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第177図の1	土師器 杯	14.4	3.7	8.6	雲母多く含む	暗褐色		437
第177図の2	土師器 杯	15.1	4.6	7.0	スコリア含む	赤褐色		236、250
第177図の3	土師器 杯	14.8	4.3	8.2	スコリア多く含む	橙色		2、3、296、393、464
第177図の4	土師器 杯	(15.6)	—	—	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「依」	1、2、268、490
第177図の5	土師器 杯	(14.4)	(3.8)	(8.0)	—	橙色	墨書(体外)「依」	589
第177図の6	土師器 杯	11.6	4.2	6.5	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(体内)「□」	2、53、109、201
第177図の7	土師器 杯	12.2	3.7	7.5	スコリア含む	橙色	墨書(底内)「依」	438
第177図の8	土師器 杯	12.8	4.2	7.0	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底内)「依」	4、440
第177図の9	土師器 杯	12.9	3.5	6.2	雲母含む	橙色	墨書(底内)「依」 墨書(体外)「依」	2、210、305、355
第177図の10	土師器 杯	(13.4)	4.0	5.6	雲母含む	橙色	墨書(底内)「依」	132、278、381
第178図の11	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	539、589
第178図の12	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	26
第178図の13	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	1、253
第178図の14	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	48
第178図の15	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	365
第178図の16	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	90
第178図の17	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	331、538
第178図の18	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	80
第178図の19	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	79
第178図の20	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	426
第178図の21	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「依」	411
第178図の22	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	131
第178図の23	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「依」	4
第178図の24	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「依」	2、4、568
第178図の25	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「依」	522
第178図の26	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「□」	2
第178図の27	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「依」	3
第178図の28	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「□」	3
第178図の29	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「□」	2
第178図の30	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「□」	486
第178図の31	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「□」	423
第178図の32	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「□」	3
第178図の33	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	2
第178図の34	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	2、3
第178図の35	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	157
第178図の36	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	2
第178図の37	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	2
第178図の38	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「□」	499
第178図の39	土師器 杯	11.8	4.0	6.0	雲母・長石・スコリア含む	橙色	線刻(底内)「□」	2、108
第178図の40	土師器 杯	12.2	3.4	7.4	雲母・スコリア含む	黄褐色	線刻(底内)「+」	2、3、280、398、399
第178図の41	土師器 碗	(19.6)	—	—	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「依」	12、100、167、486
第178図の42	土師器 高台付皿	13.8	2.9	6.2	雲母・長石・スコリア含む	橙色		2、313、340



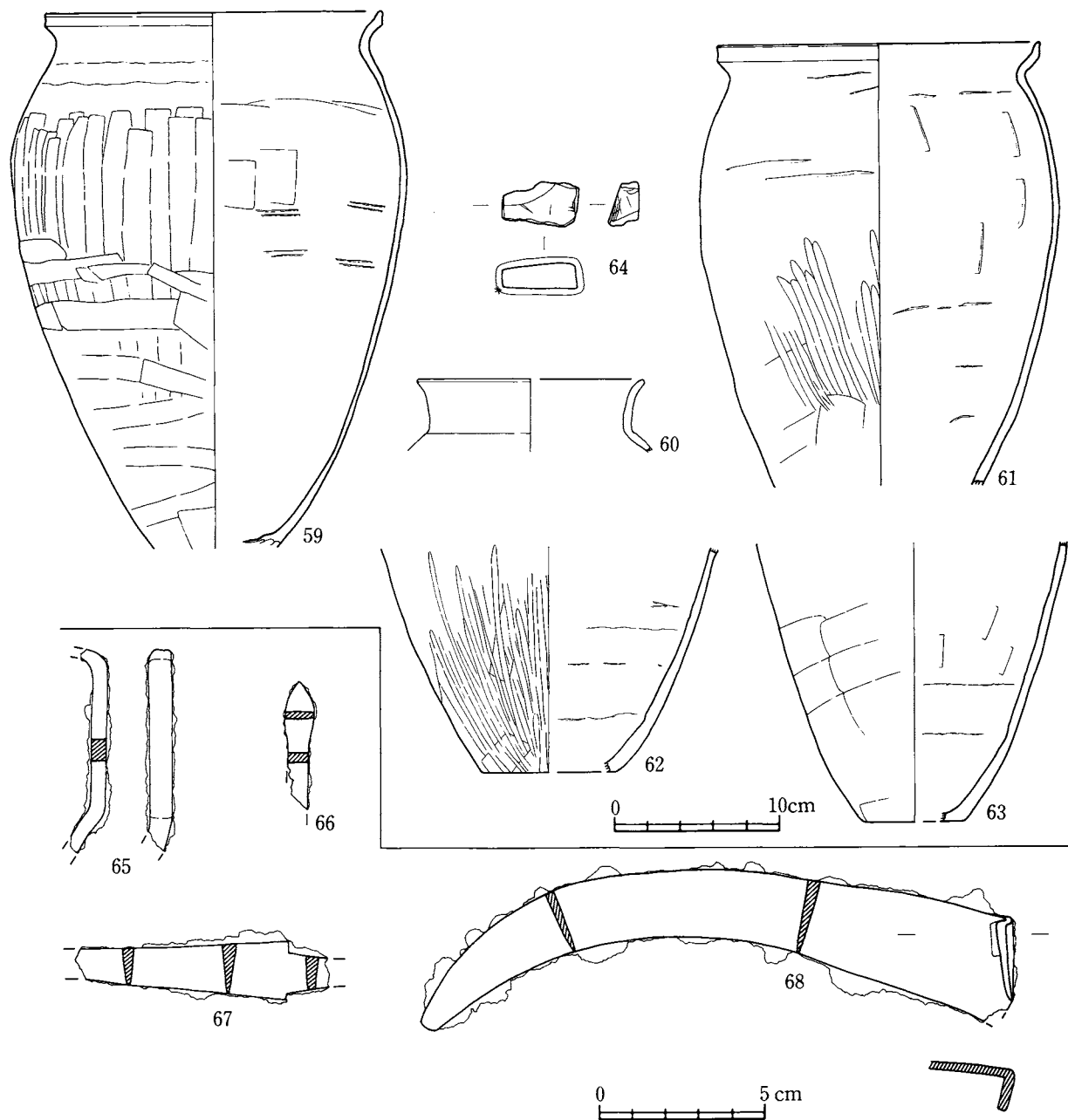
第177图 II084(1)



第178图 II084(2)



第179图 II084(3)



第180図 II084(4)

第178図の43	土師器 高台付皿	13.7	4.1	7.3	雲母・石英含む	外面橙色 内面黒色	内黒	3、70、271
第178図の44	土師器 高台付皿	13.5	2.6	7.3	—	橙色		300、511、584
第178図の45	土師器 椀	(20.5)	6.8	(10.1)	雲母多量に含む	淡橙色		78、136、138、231
第178図の46	土師器 高台付皿	—	—	7.8	スコリア含む	赤褐色		54
第178図の47	土師器 高台付杯	—	—	7.0	スコリア含む	外面橙色 内面黒色	内黒	303
第178図の48	土師器小型甕	—	—	6.8	雲母多く含む	褐色～暗褐色		575、576、582
第178図の49	土師器小型甕	—	—	5.0	雲母多く含む	褐色～暗褐色		573、574
第178図の50	土師器小型甕	(12.6)	—	—	雲母多量に含む	暗褐色		588
第178図の51	須恵器 甕	(25.8)	—	—	—	—		205、217、395、442、448、 473、478、485、486
第179図の52	須恵器 甕	(33.4)	29.9	(17.2)	石英・長石・砂粒含む	淡橙褐色	底部5孔	3、192、225、276、292、455、 474、487
第179図の53	須恵器 甕	22.9	19.1	12.8	石英・長石含む	淡橙褐色	線刻(底外)「井」	2、298、299、300、344、348、 353、435

第179図の54	須恵器 甕	(29.8)	—	—	雲母含む	黒褐色		3、24、58、115、166、221、545
第179図の55	須恵器 甕	(22.9)	—	—	雲母多量に含む	灰色		2、4、15、31、99、173、187
第179図の56	須恵器 甕	27.0	—	—	雲母・スコリア含む	明赤褐色～灰褐色		361、447、483、487
第179図の57	須恵器 甕	(23.8)	26.3	(13.5)	雲母・スコリア含む	橙色		405、432、445、446、449、456、461
第179図の58	須恵器 甕	(27.5)	27.6	14.0	スコリア含む	灰色		1、2、34、40、149、162、177、184、200、207、213、215、258、304、306、314
第180図の59	土師器 甕	20.0	—	—	石英・長石・スコリア含む	赤褐色		2、3、216、218、288、302、367、392、397、441、444、450、457、458、459
第180図の60	土師器 甕	(13.6)	—	—	雲母・石英・長石多く含む	—		2、512、584
第180図の61	土師器 甕	19.2	—	—	雲母・石英・長石多く含む	黒褐色	常総型	2、4、439、451、456、469、470、471、476、487
第180図の62	土師器 甕	—	—	(8.0)	雲母・石英・長石多く含む	暗褐色	常総型	468、472、487
第180図の63	土師器 甕	—	—	(6.0)	雲母・石英・長石・スコリア含む	灰白色～黒褐色		4、47、509、513、532、564
第180図の64	砥石	23.9g	—	—	流紋岩	—		584
第180図の65	不明鉄製品	残存長 6.1	—	—	—	—		290
第180図の66	鉄鏃	残存長 3.8	鏃身幅 0.9	—	—	—		501
第180図の67	刀子	残存長 7.5	—	—	鉄製品	—		106
第180図の68	鎌	残存長 17.9	—	—	鉄製品	—	ほぼ完形	436

## II088 (第181図、図版64・148)

やや歪んだ台形状プランの住居である。4本の支柱穴と1本の出入口ピット以外に、小ピットを1か所検出した。竈右袖脇には、中空の土製支脚(11)が置かれていた。床面中央にはわずかに炭化材が遺存していた。

表151 II088

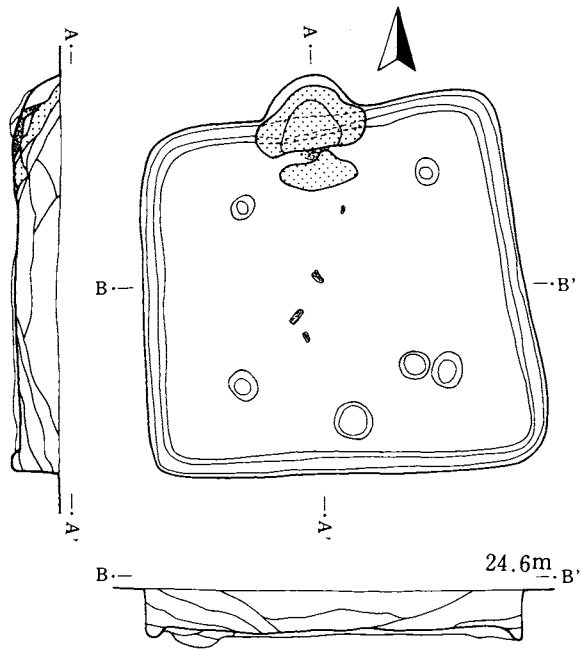
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第181図の1	須恵器 杯	(13.2)	4.7	7.0	雲母・長石含む	灰色		3、5、96
第181図の2	須恵器 杯	(13.3)	3.6	6.9	雲母・石英・長石含む	暗灰色		3、103
第181図の3	手捏ね	(4.8)	(3.4)	(4.4)	雲母・スコリア含む	明褐色		4
第181図の4	須恵器 高台付杯	(13.8)	5.4	(8.8)	雲母・石英・長石含む	灰色		2、75、99、107、109
第181図の5	須恵器 高台付杯	—	—	8.8	—	—	転用硯?	125
第181図の6	須恵器 甕	—	—	(15.8)	雲母・石英・長石含む	灰色		6、24、27、31、41、44、47、50、123、127
第181図の7	須恵器 甕	—	—	—	雲母・石英・長石含む	明灰色		28、36
第181図の8	土師器小型甕	15.4	19.7	7.9	雲母・石英・長石・スコリア含む	黄褐色		1、2、25、39、69、88、97、98、128、155
第181図の9	土師器 甕	(21.5)	—	—	雲母・長石含む	暗褐色		5、8、9、59
第181図の10	土師器 甕	—	—	9.0	雲母・長石含む	橙褐色		1、52、63、82、83、89、114、126、129、143、145、149
第181図の11	支脚	上端幅 9.6	下端幅 13.0	最大長 22.7	長石・砂粒含む	褐色	底面木葉痕、空洞、8孔	130

## II090 (第182・183図、図版64・148・167)

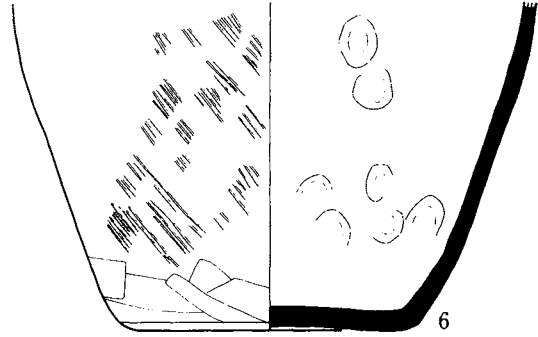
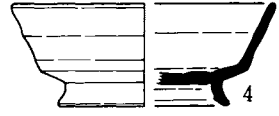
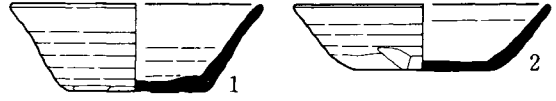
IIH10と重複するが、確認面で掘立柱建物の柱穴プランを確認できたことからH10の方が新しいと判断した。住居の規模は比較的大型で、掘込みが深い。住居廃絶後の埋土は人為的な埋戻しによるものである。遺物は多いが、破片がほとんどで、手捏ね土器(23・24)やかえりが若干遺存する須恵器蓋(4・5)がある。いずれも床面直上から出土している。文字資料には「依」、「大」、「国」の墨書土器がある。

表152 II090

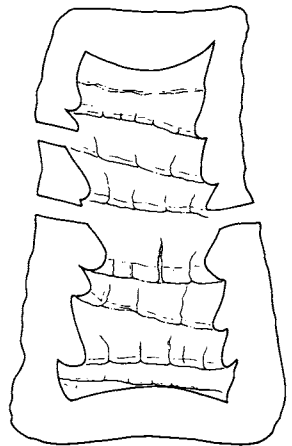
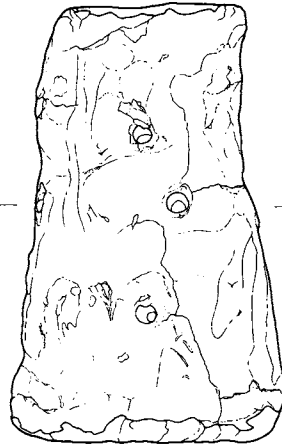
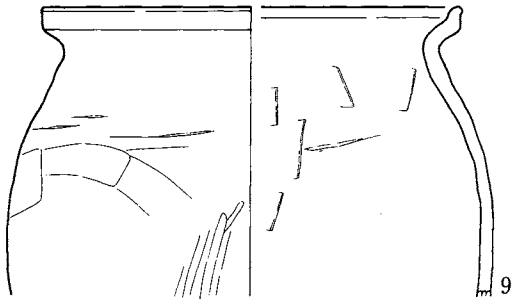
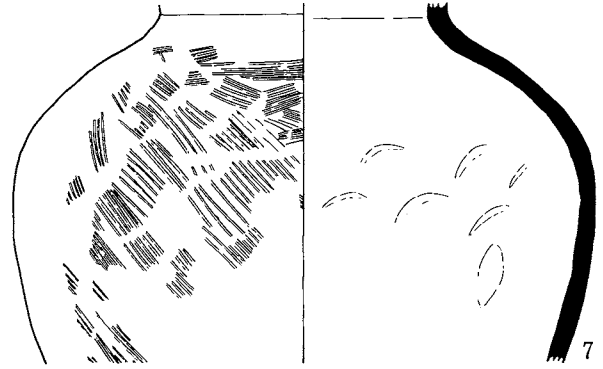
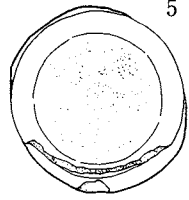
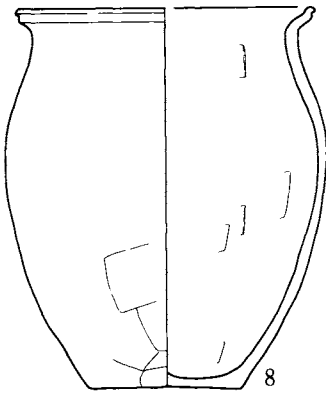
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第182図の1	須恵器 杯	—	—	(9.3)	雲母・長石含む	灰色		202
第182図の2	須恵器 杯	(14.2)	—	—	砂粒含む	灰白色		20、131、296、365
第182図の3	須恵器 杯	(13.8)	3.0	7.4	雲母・石英・長石含む	灰黄色		194、242
第182図の4	須恵器 蓋	15.0	2.6	—	雲母・石英・長石含む	灰色		246、392、393



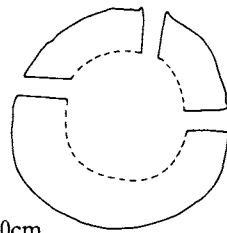
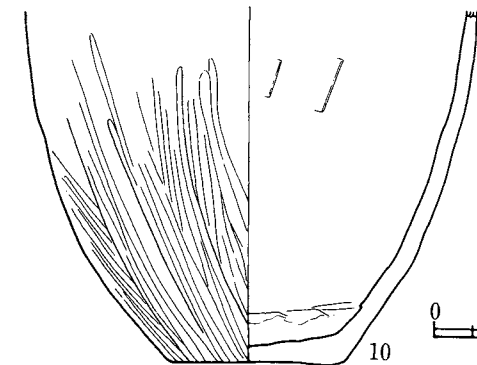
+16W-00



0 2 m



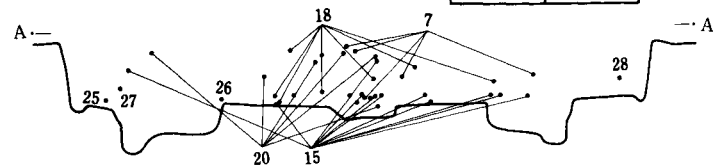
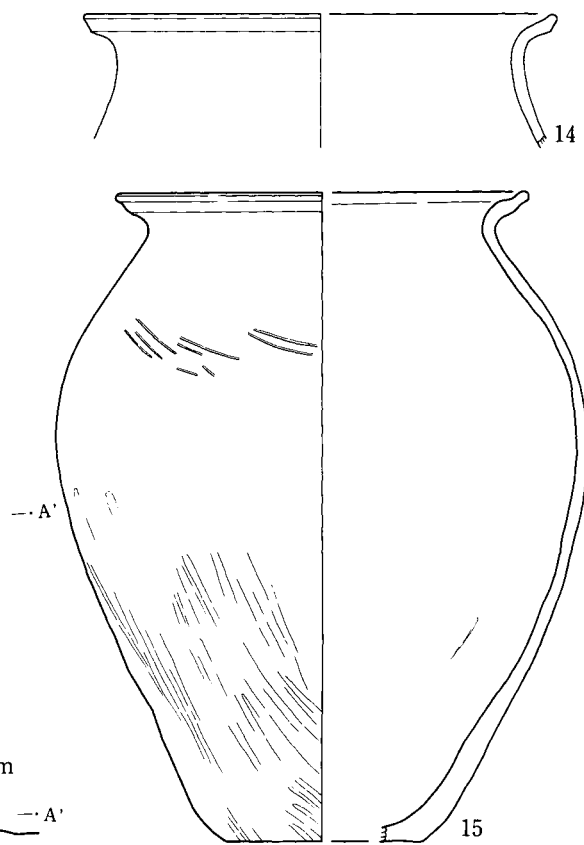
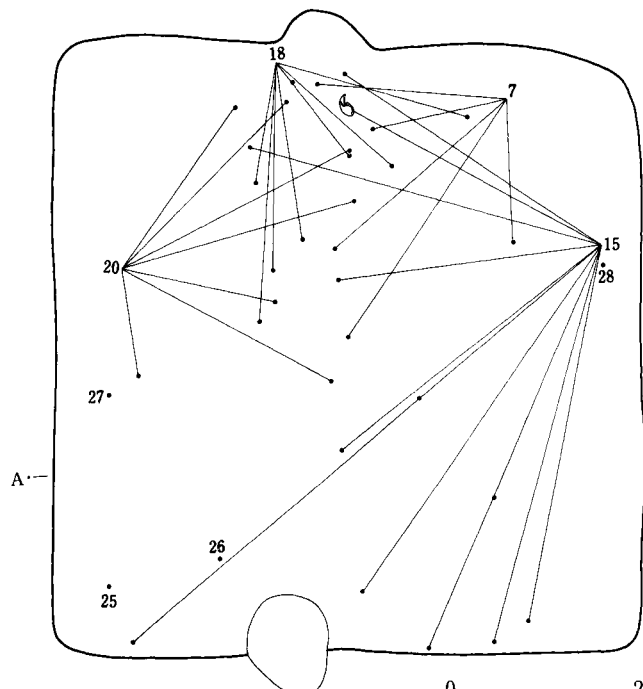
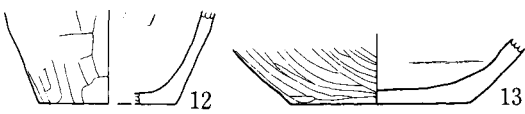
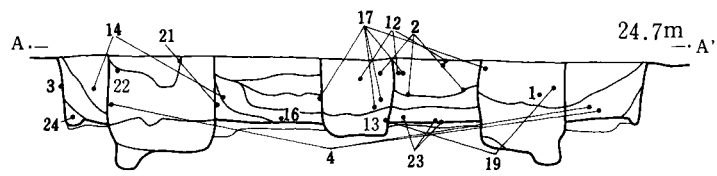
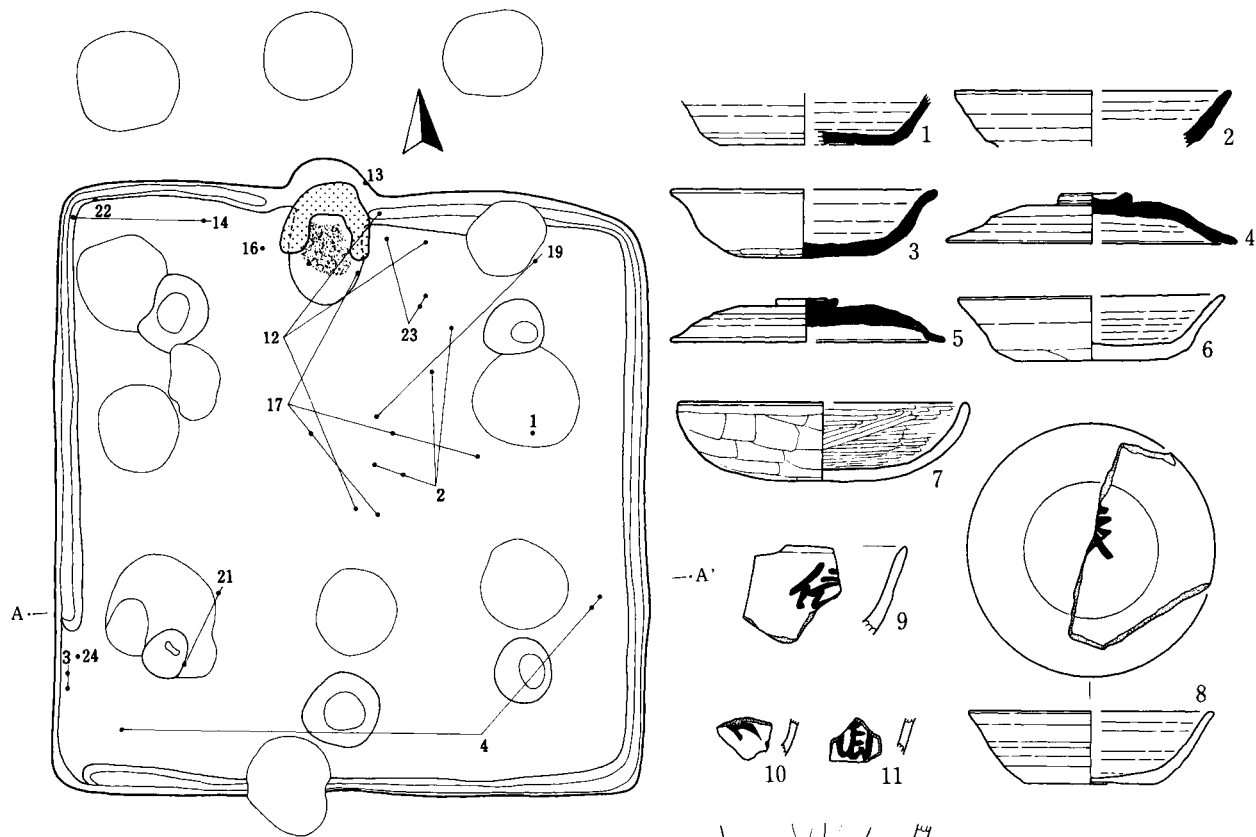
11



0 10cm

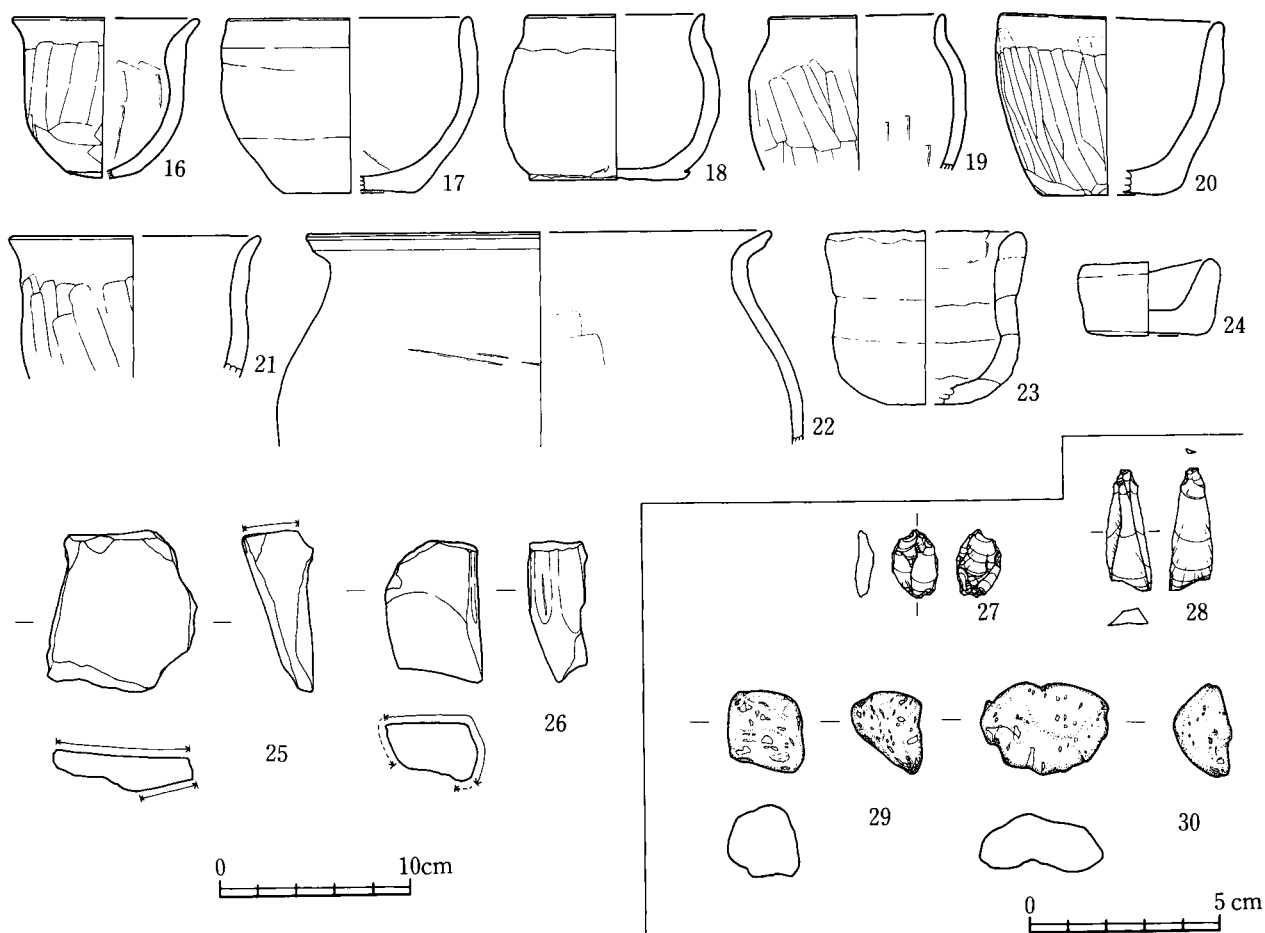


第181图 II088



第182图 II090(1)



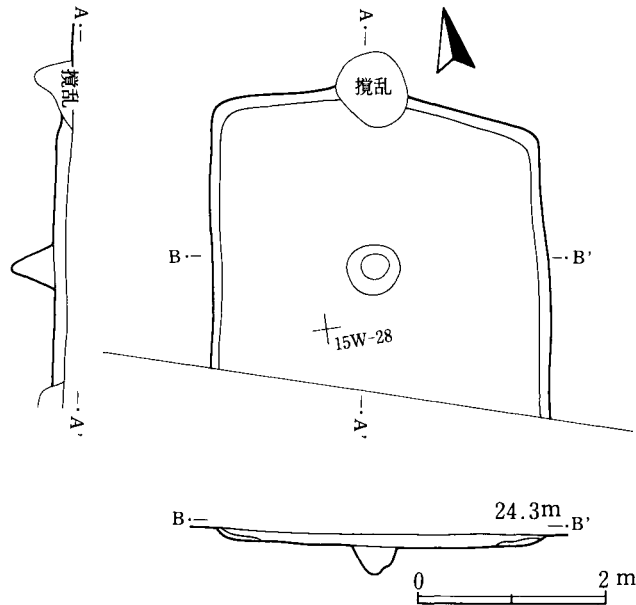


第183図 II090(2)

第182図の5	須恵器 蓋	14.2	2.3	—	石英・長石含む	暗青灰色		324、505
第182図の6	土師器 杯	(13.7)	3.4	8.0	スコリア含む	橙褐色		507、517
第182図の7	土師器 杯	(15.0)	4.1	—	スコリア含む	橙色		7、128、227、259、298、401、517、522
第182図の8	土師器 杯	(12.6)	3.8	7.0	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底内)「依」	519
第182図の9	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「依」	3
第182図の10	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「大」	12
第182図の11	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「國」	11
第182図の12	土師器小型甕	—	—	(7.2)	長石含む	赤褐色		7、273、501、517
第182図の13	土師器 甕	—	—	9.2	雲母・石英・長石含む	黄褐色		474
第182図の14	土師器 甕	(24.7)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	明褐色		2、3、249、418
第182図の15	土師器 甕	(21.2)	33.6	(10.1)	雲母・石英・長石含む	褐色		2、3、10、11、157、197、212、215、217、220、225、248、368、415、499、514、515、516、517、II088-1
第183図の16	土師器小型甕	9.6	—	—	雲母・石英・長石含む	橙褐色		468
第183図の17	土師器小型甕	(12.4)	9.4	—	石英・長石含む	橙褐色	底外木葉痕	4、187、284、297、366、500
第183図の18	土師器小型甕	(9.2)	8.8	8.0	雲母・石英・長石含む	赤褐色		1、2、5、6、85、120、173、231、338、346、414、476
第183図の19	土師器小型甕	(8.9)	—	—	石英・長石含む	赤褐色		373、427、504、510
第183図の20	土師器小型甕	(11.5)	9.9	(6.2)	石英・長石含む	明褐色		2、72、230、305、319、330、332、410
第183図の21	土師器小型甕	(12.9)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	暗赤褐色		10、191、450
第183図の22	土師器 甕	(24.4)	—	—	雲母・スコリア含む	暗褐色		267
第183図の23	手捏ね	(9.4)	8.9	(7.3)	長石・スコリア含む	暗褐色		262、263、489
第183図の24	手捏ね	6.6	3.9	6.4	長石・スコリア含む	赤褐色		281
第183図の25	砥石	167.3g	—	—	凝灰岩	—		142
第183図の26	砥石	131.4g	—	—	砂岩	—		451
第183図の27	楔形石器	最大幅 11.4mm	最大高 17.5mm	最大厚 5.6mm	黒曜石、0.97g	—		507
第183図の28	剝片	最大幅 11.3mm	最大高 31.5mm	最大厚 3.7mm	珪質頁岩、1.29g	—		142
第183図の29	軽石	幅 2.1	高さ2.2	—	2.2g	—		3
第183図の30	軽石	幅 3.4	高さ2.5	—	2.2g	—		10

II092 (第184図、図版64)

大きな攪乱により、南側が壊されている。おそらく正方形プランになると考えられる。掘込みは浅く、床面は軟質である。竈・炉などの付帯施設は認められない。遺物は極めて少ない。



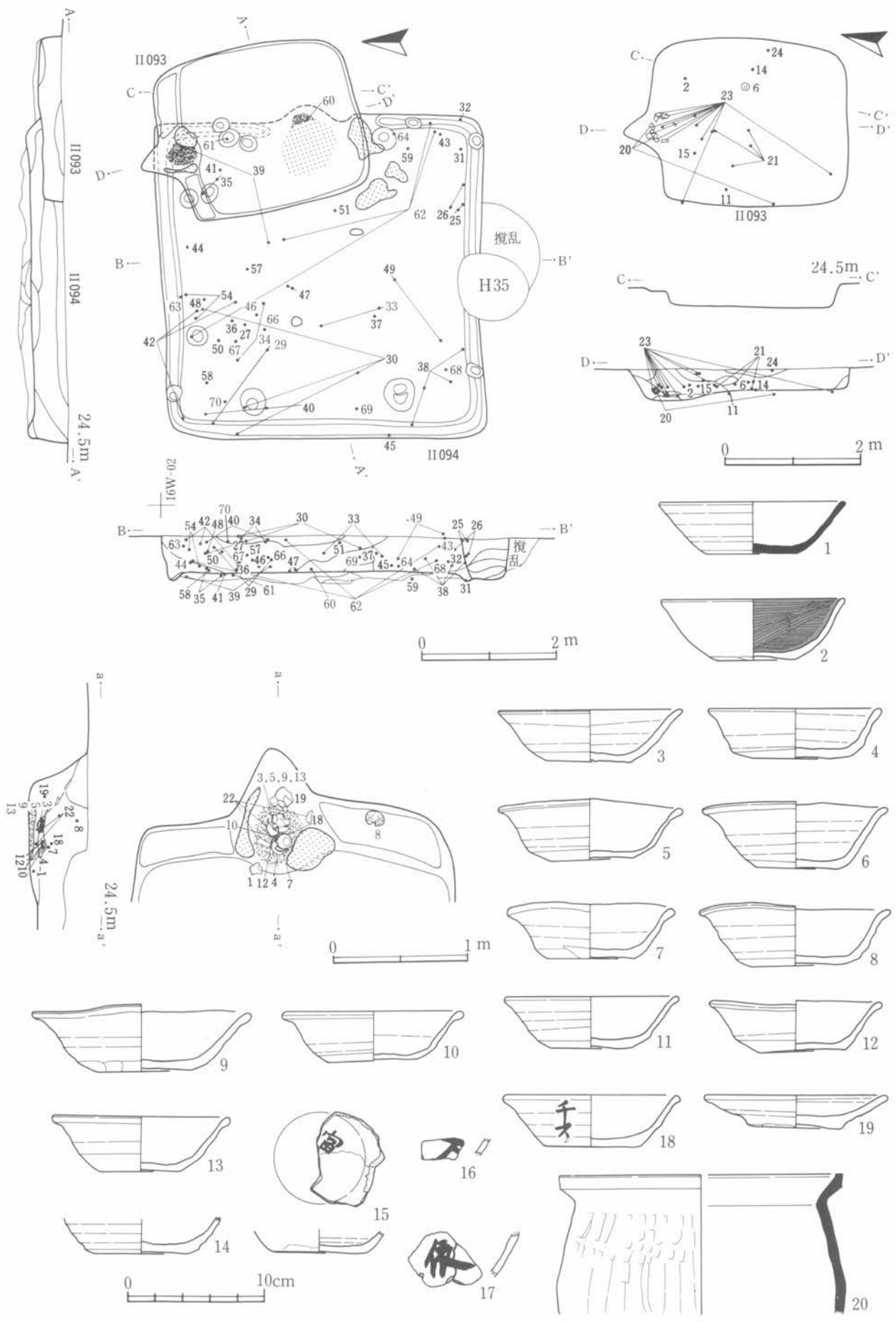
第184図 II092

II093・094 (第185～187図、図版65・148・149・168・169・174)

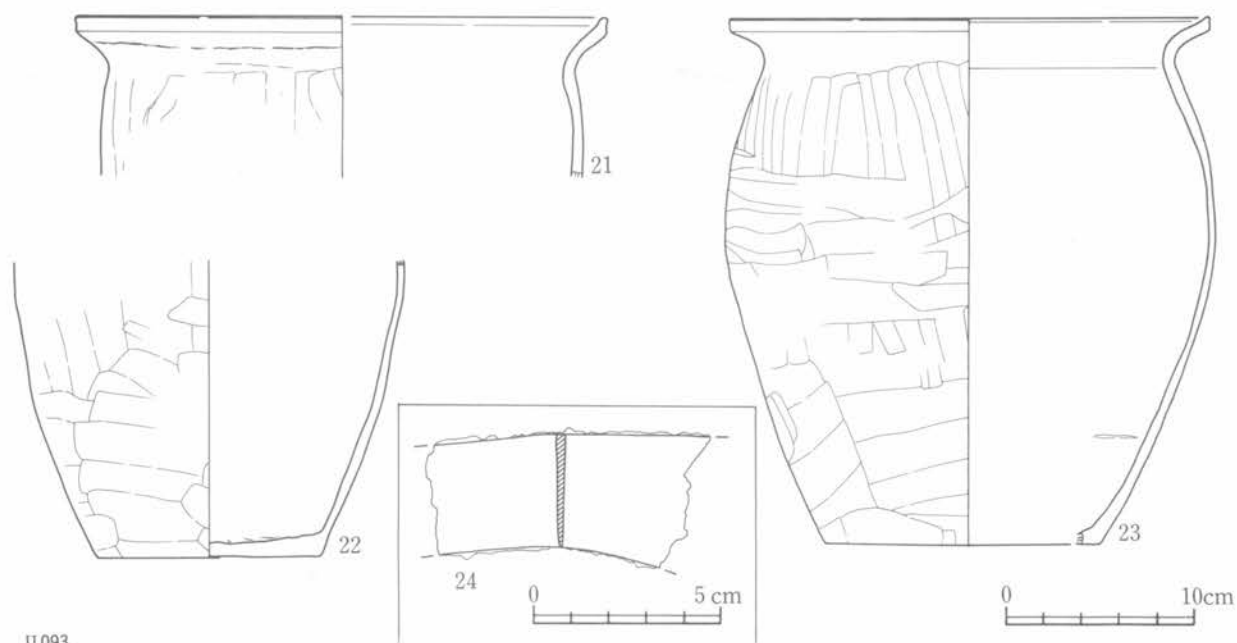
重複する2軒の住居で、093の方が新しい。093は小型で、竈側に張出し棚を設ける。ただし、砂質粘土を敷き詰めてはいない。また竈側壁面にも粘土は認められない。竈は壊されており、竈内には大量の遺物が遺存していた。倒位の杯類が5枚重ねや、3枚重ねの状態を検出された。ほかにも竈内のほとんど全面から遺物が出土した。棚にも遺物が遺棄されていた。094の竈部分は093により削平される。わずかに093床面以下で、構築材の残骸が遺存していた。支柱穴が主軸方向の壁近くに寄っている。壁柱穴があり、並びは不規則である。埋土に小規模な砂質粘土ブロックを含む。墨書土器が非常に多い。67・68の鉄鏃のうち67は完形で、鏃身は逆刺のない三角形となる。69・70の刀子のうち70は完形で刀身長が7.3cmを測る。いずれの鉄製品も埋土中層から上層にかけて出土している。

表153 II093

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第185図の1	須恵器 杯	(13.2)	3.8	6.5	長石・スコリア含む	暗褐色		76、78
第185図の2	土師器 杯	13.3	4.4	5.6		褐色	内黒	1、27、78
第185図の3	土師器 杯	13.4	3.9	6.2	雲母・長石・スコリア含む	褐色		73
第185図の4	土師器 杯	12.5	3.7	7.4	雲母含む	橙色		53
第185図の5	土師器 杯	13.1	4.4	6.1	石英・スコリア含む	明褐色		71、72、78
第185図の6	土師器 杯	13.2	4.8	6.0	雲母・長石含む	黒褐色		45
第185図の7	土師器 杯	11.9	4.0	6.4	雲母・長石・スコリア含む	橙色		52
第185図の8	土師器 杯	13.8	4.0	6.6	雲母・石英含む	赤褐色～黒褐色		44
第185図の9	土師器 杯	15.6	4.8	5.8	雲母・石英・長石含む	黒褐色		71
第185図の10	土師器 杯	13.0	3.7	6.7	雲母・長石・スコリア含む	橙色		54
第185図の11	土師器 杯	12.4	3.8	5.9	石英・長石・スコリア含む	黄褐色		3、4、16
第185図の12	土師器 杯	12.1	3.8	6.2	雲母・長石・スコリア含む	明赤褐色		55
第185図の13	土師器 杯	12.6	4.1	6.0	長石含む	黒褐色		57、78
第185図の14	土師器 杯	—	—	(6.8)	雲母・石英・長石・スコリア含む	黒褐色		1、2、40

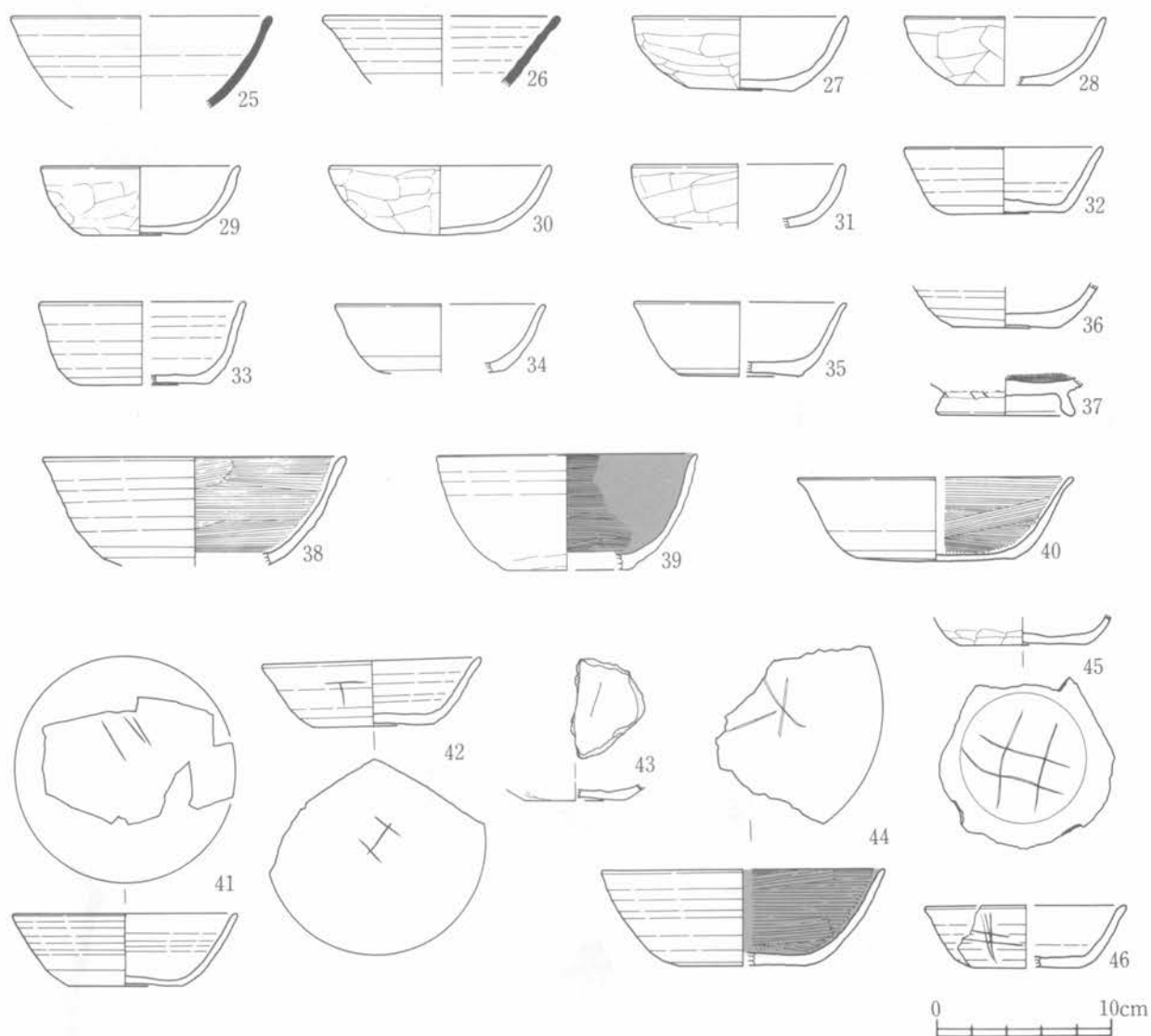


第185図 II093(1)・094(1)

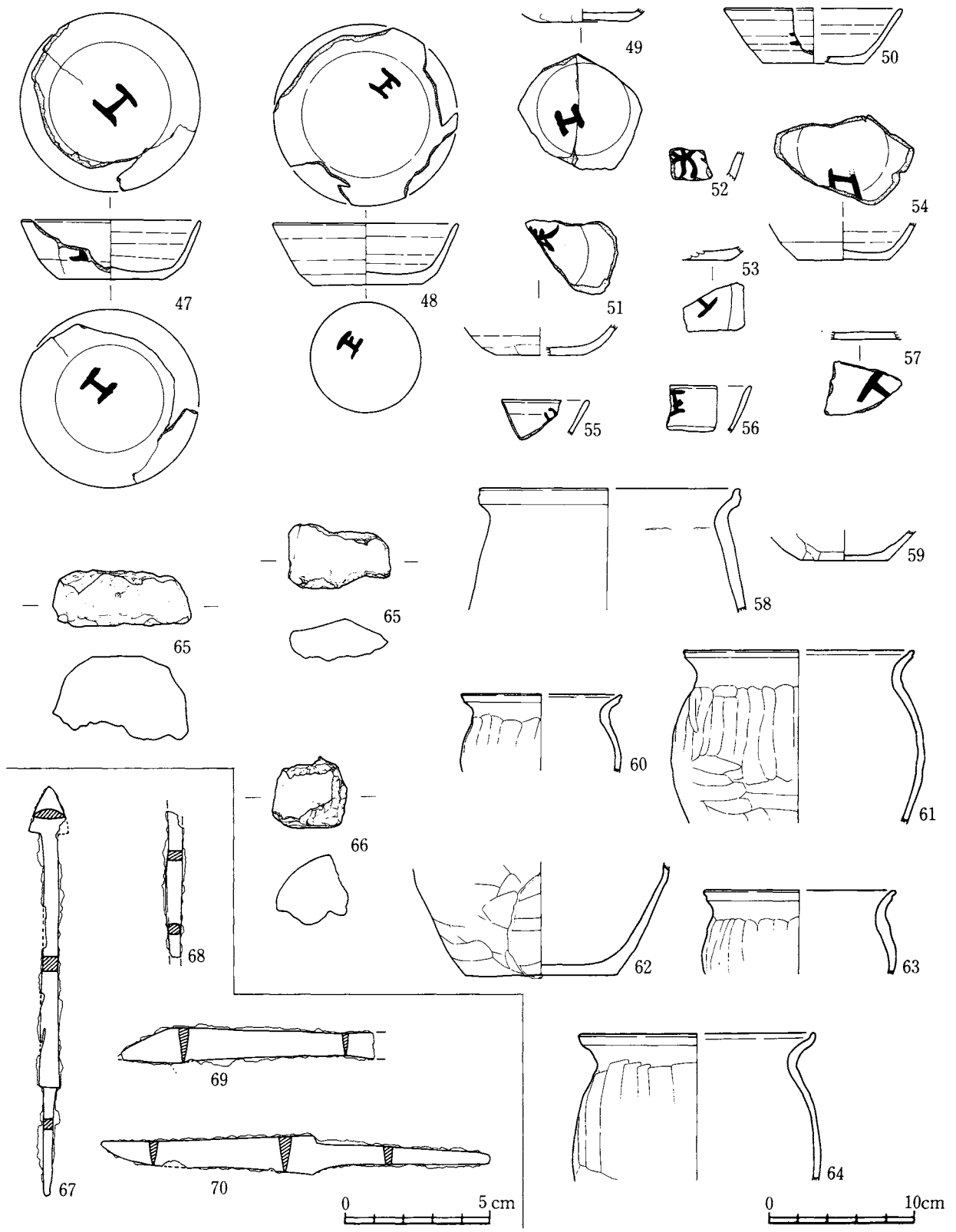


II 093

II 094



第186图 II 093(2) · 094(2)



第187图 II094(3)

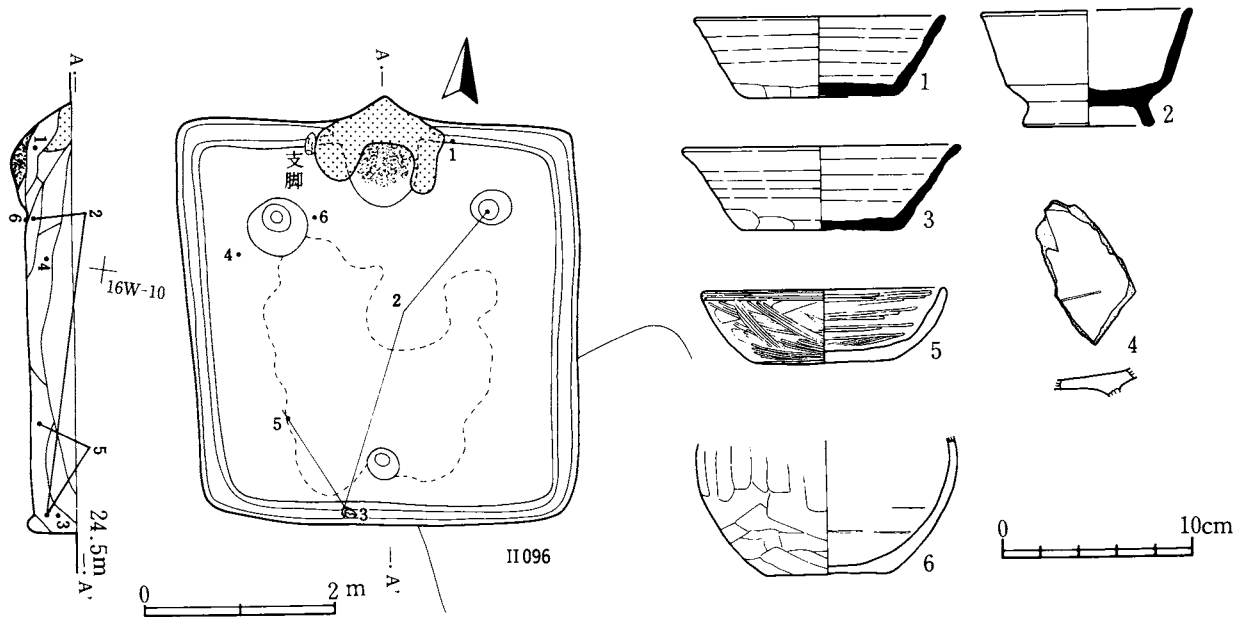
第185図の15	土師器	杯	—	—	—	—	—	—	墨書(底内)「富」	23
第185図の16	土師器	杯	—	—	—	—	—	—	墨書(体外)「大」or「万」	1
第185図の17	土師器	杯	—	—	—	—	—	—	墨書(体外)「依」	4、79
第185図の18	土師器	杯	12.4	3.8	7.0	雲母・スコリア含む	黒褐色	—	墨書(体外)「千万」	46
第185図の19	土師器	皿	13.2	2.5	7.0	雲母・石英・長石含む	赤褐色	—	—	59
第185図の20	須恵器	甕	(19.8)	—	—	雲母・石英・長石含む	黒褐色	—	—	1、49、63、78、II094-136
第186図の21	土師器	甕	(27.8)	—	—	雲母・石英・長石含む	橙褐色	—	—	4、18、36、37、39
第186図の22	土師器	甕	—	—	11.6	—	橙褐色	—	—	47、66、67、78
第186図の23	土師器	甕	24.9	28.1	14.4	雲母・石英・長石・スコリア含む	褐色	—	—	22、24、32、34、48、51、56、60、62、64、68、69、74、75、77、78、II094-29、137
第186図の24	鐵	残存長 7.4	—	—	—	鐵製品	—	—	—	5

表154 II 0 9 4

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第186図の25	須恵器 杯	(14.6)	—	—	石英・長石含む	灰白色	南比企産?	1、89、90
第186図の26	須恵器 杯	(13.2)	—	—	石英・長石含む	灰色	—	91、178
第186図の27	土師器 杯	12.0	4.2	6.1	石英・長石・スコリア含む	赤褐色	—	3、76
第186図の28	土師器 杯	(11.3)	3.8	(5.4)	スコリア含む	暗褐色	—	3
第186図の29	土師器 杯	(11.5)	3.7	5.9	長石・スコリア含む	黄褐色	—	3、108、131
第186図の30	土師器 杯	12.4	3.8	—	スコリア含む	橙褐色	—	2、3、60、95、110、128
第186図の31	土師器 杯	(11.9)	3.5	—	石英・長石・スコリア含む	褐色	—	2、233
第186図の32	土師器 杯	11.0	3.7	6.7	雲母・石英・長石・スコリア含む	褐色	—	244
第186図の33	土師器 杯	(11.3)	4.2	(7.6)	石英・長石・スコリア含む	赤褐色	—	3、58、214
第186図の34	土師器 杯	(11.8)	3.9	(7.4)	雲母・スコリア含む	褐色	—	3、9、12
第186図の35	土師器 杯	(12.0)	4.1	(7.0)	雲母含む	褐色	—	98、198
第186図の36	土師器 杯	—	—	6.0	雲母・スコリア含む	褐色	—	203
第186図の37	土師器 高台付杯	—	—	7.5	雲母含む	外面黄褐色 内面黒色	内黒	57
第186図の38	土師器 杯	16.9	—	—	長石含む	褐色	—	2、83、175、188、220
第186図の39	土師器 碗	(14.8)	6.4	(7.0)	雲母・スコリア含む	外面褐色 内面黒色	内黒	118、207
第186図の40	土師器 杯	(15.0)	4.7	8.8	スコリア含む	暗褐色	—	80、130
第186図の41	土師器 杯	12.5	4.0	6.5	雲母含む	橙褐色	線刻(底内)「≡」	4、126
第186図の42	土師器 杯	12.3	3.6	6.8	雲母・スコリア含む	褐色	線刻(底外)「王」 線刻(体外)「丁」	3、74、120、133
第186図の43	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「一」	43
第186図の44	土師器 杯	16.0	5.4	7.2	雲母含む	外面黄褐色 内面黒色	内黒 線刻(底内)「大」	201
第186図の45	土師器 杯	—	—	7.2	—	—	線刻(底外)「井」	189
第186図の46	土師器 杯	(11.3)	3.9	6.0	雲母・スコリア含む	褐色	線刻(体外)「口」	119
第187図の47	土師器 杯	12.2	4.0	7.2	雲母・石英・長石・スコリア含む	橙褐色	墨書(体外)「工」 墨書(底内)(底外)「工」	202、215
第187図の48	土師器 杯	12.5	4.2	7.5	雲母・石英・長石・スコリア含む	橙褐色	墨書(底外)「王」 墨書(底内)「王」	3、75
第187図の49	土師器 杯	—	—	6.2	石英・長石含む	橙褐色	墨書(底外)「工」	25、85
第187図の50	土師器 杯	(12.0)	3.8	(6.8)	雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書(体外)「口」	3、77
第187図の51	土師器 杯	—	—	(6.0)	スコリア含む	橙褐色	墨書(底内)「依」	50
第187図の52	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「中万」	2
第187図の53	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底外)「工」	3
第187図の54	土師器 杯	—	—	6.2	雲母・スコリア含む	褐色	墨書(底内)「工」	151、154
第187図の55	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「口」	2
第187図の56	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「王」	3
第187図の57	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底外)「口」	102
第187図の58	土師器 甕	(17.4)	—	—	雲母・石英・長石含む	赤褐色	—	206
第187図の59	土師器小型甕	—	—	6.0	雲母・石英・長石含む	赤褐色	—	230
第187図の60	土師器小型甕	(10.7)	—	—	雲母・石英・長石含む	明褐色	—	227
第187図の61	土師器 甕	(15.4)	—	—	石英・長石含む	赤褐色	—	4、195
第187図の62	土師器 甕	—	—	(10.5)	石英・長石含む	橙褐色	—	1、26、92、168、181、229
第187図の63	土師器小型甕	(12.6)	—	—	石英・長石含む	赤褐色	—	3、153、235
第187図の64	土師器 甕	(15.7)	—	—	石英・長石含む	明褐色	—	1、2、191、235
第187図の65	支脚	—	—	—	土製	—	—	234
第187図の66	支脚	—	—	—	土製	—	—	71
第187図の67	鉄鏃	鏃身幅 1.1	鏃身長 1.6	全長 13.9	—	—	—	125
第187図の68	鉄鏃	残存長 5.0	—	—	—	—	—	176
第187図の69	刀子	残存長 8.7	—	—	鐵製品	—	—	139
第187図の70	刀子	刀身長 7.3	全長 13.3	—	鐵製品	—	—	37

II095 (第188図、図版65・149・167・168)

II096と重複するが095の方が新しい。出入口ピット以外に、住居中央から竈寄りに2本の柱穴を確認した。竈脇に支脚が遺棄されていた。



第188図 II095

表155 II095

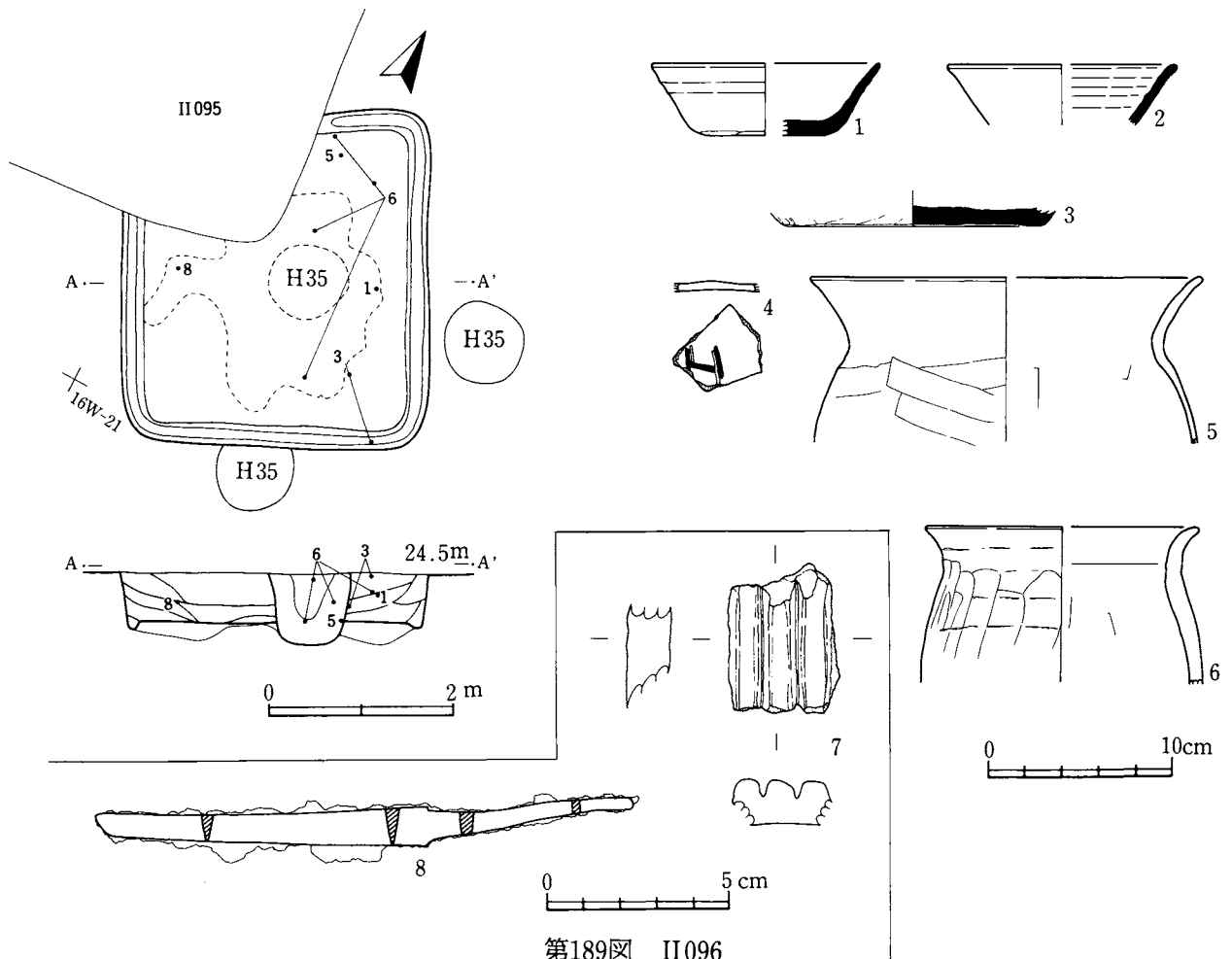
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第188図の1	須恵器 杯	12.8	4.2	8.0	雲母・石英・長石含む	灰色		1、45、
第188図の2	須恵器 高台付杯	(10.7)	5.9	6.8	石英・長石含む	灰色		60、67
第188図の3	須恵器 杯	14.3	4.4	8.3	雲母・石英含む	灰色		66
第188図の4	土師器 高台付皿	-	-	-	-	-	線刻(底内) □□	4、25
第188図の5	土師器 杯	12.4	3.8	7.2	雲母・スコリア含む	黒褐色		3、21、67
第188図の6	土師器 甕	-	-	(6.4)	石英・長石含む	褐色		1、53

II096 (第189図、図版66・149・168)

II095、II H35と重複するが、いずれも096の方が古い。小型の住居で竈の部分は095により削平されている。瓦塔片(7)が出土している点が注目される。8の刀子は刀身部と茎部をはほぼ完全に残している。

表156 II096

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第189図の1	須恵器 杯	(12.1)	3.9	(6.4)	雲母・石英・長石含む	灰色		6
第189図の2	須恵器 杯	(12.0)	-	-	雲母・長石含む	灰白色		42
第189図の3	須恵器 甕	-	-	13.8	雲母・石英・長石含む	灰褐色	新治産	3、25
第189図の4	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外) □□	2
第189図の5	土師器 甕	(20.9)	-	-	雲母・石英・長石含む	橙褐色		1、2、38
第189図の6	土師器 甕	(14.5)	-	-	石英・長石含む	褐色		1、2、20、22、27、37
第189図の7	瓦塔	-	-	-	-	橙褐色	屋根瓦の破片	2
第189図の8	刀子	刀身長 9.0	全長 14.6	-	鉄製品	-		40



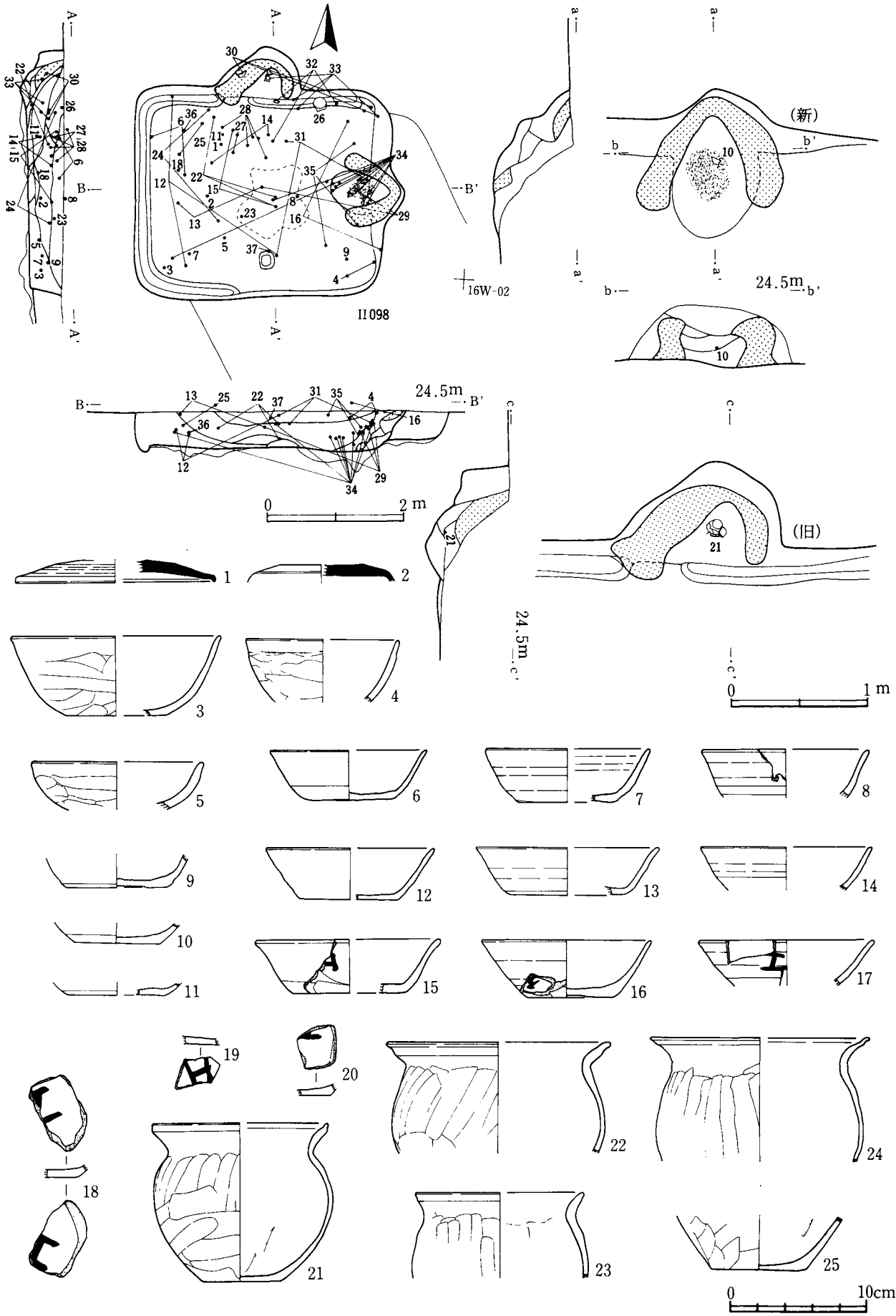
II 097 (第190・191図、図版66・149・167・168)

II 098と重複するが、097の方が新しい。竈は新旧2基ある。北竈の方が古く、旧竈を移設したのち、旧竈部分にも壁溝を巡らしている。埋土中から多量の土師器杯・甕が出土している。

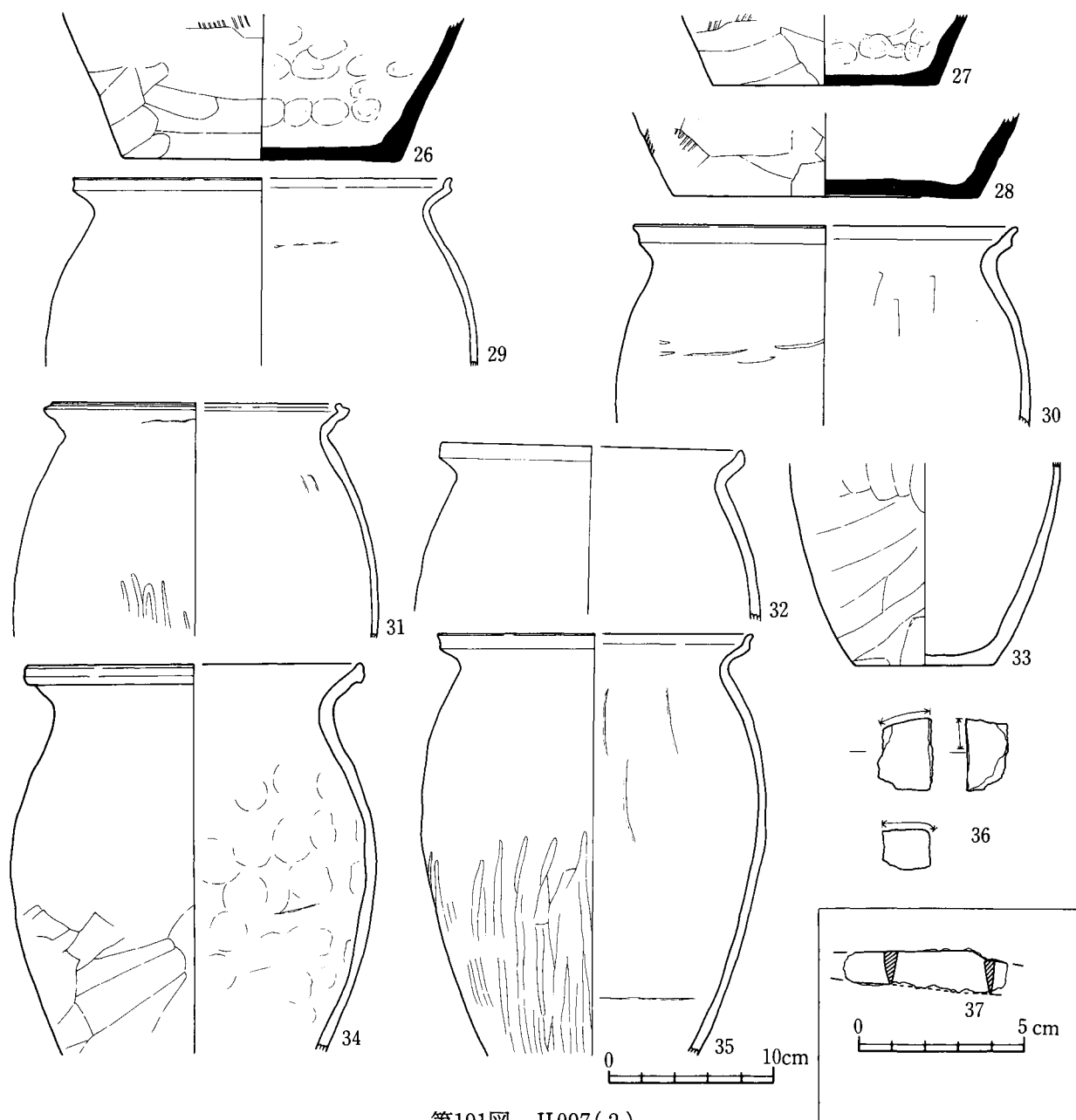
表157 II 097

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第190図の1	須恵器 蓋	(14.5)	-	-	雲母・長石含む	灰色		73
第190図の2	須恵器 蓋	-	-	-	長石含む	灰褐色		232
第190図の3	土師器 椀	(15.1)	5.7	(7.2)	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		2、4、161
第190図の4	土師器 椀	(11.1)	-	-	雲母・長石含む	赤褐色		21、24
第190図の5	土師器 杯	(12.3)	-	-	スコリア含む	明褐色		198
第190図の6	土師器 杯	(11.4)	3.7	6.1	雲母・スコリア含む	橙色		4、120、121
第190図の7	土師器 杯	(11.9)	3.9	(7.4)	雲母・長石・スコリア含む	黒褐色		159
第190図の8	土師器 杯	(12.8)	-	-	雲母含む	黄褐色		2、4、241
第190図の9	土師器 杯	-	-	(7.2)	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		90
第190図の10	土師器 杯	-	-	(6.2)	雲母・長石含む	褐色		264
第190図の11	土師器 杯	-	-	(6.9)	雲母・長石・スコリア含む	灰褐色		4、153
第190図の12	土師器 杯	(12.1)	3.7	(7.2)	雲母・長石含む	赤褐色		4、173、175、225
第190図の13	土師器 杯	(13.4)	3.4	(8.7)	雲母・長石・スコリア含む	黒褐色		3、4、104、236
第190図の14	土師器 杯	(12.4)	-	-	雲母・長石・スコリア含む	明褐色		108、169
第190図の15	土師器 杯	13.4	3.9	8.2	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外) 	4、111、227
第190図の16	土師器 杯	12.2	4.2	6.2	雲母・スコリア含む	褐色	墨書(体外) 	1、25、39
第190図の17	土師器 杯	(12.6)	-	-	スコリア含む	橙色	墨書(体外) 	3、4
第190図の18	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)  墨書(底外) 	248
第190図の19	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外) 	2
第190図の20	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) 	1





第190图 II097(1)



第191図 II097(2)

第190図の21	土師器小型甕	(12.4)	11.5	5.4	石英・長石含む	明褐色		3、272、279
第190図の22	土師器小型甕	(16.2)	—	—	雲母・石英・長石含む	赤褐色		1、3、192、238、239
第190図の23	土師器小型甕	(12.1)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		3、102
第190図の24	土師器小型甕	(15.7)	—	—	長石・スコリア含む	黄褐色		3、4、100、154
第190図の25	土師器小型甕	—	—	7.0	雲母・長石含む	明褐色		1、58、138
第191図の26	須恵器 甕	—	—	(16.1)	雲母・石英・長石含む	灰色		162
第191図の27	須恵器 甕	—	—	(13.6)	石英・長石含む	灰色		74、106
第191図の28	須恵器 甕	—	—	(18.3)	雲母・石英・長石含む	灰色		44、46、56、128、146
第191図の29	土師器 甕	(22.6)	—	—	雲母・長石含む	褐色	常総型	104、247、256、262、277、280
第191図の30	土師器 甕	(22.6)	—	—	雲母・長石・石英含む	橙褐色	常総型	86、167、177、268、274
第191図の31	土師器 甕	(17.2)	—	—	雲母・長石含む	褐色	常総型	1、66、209、225
第191図の32	土師器 甕	(18.2)	—	—	雲母・長石含む	褐色		1、4、151、189、275、279、281
第191図の33	土師器 甕	—	—	8.3	雲母・石英・長石含む	赤褐色		4、167、202、203、271、278
第191図の34	土師器 甕	(20.0)	—	—	雲母・石英・長石含む	橙褐色		1、2、160、180、181、182、216、217、219、221、222、227、246、259、266、277、280
第191図の35	土師器 甕	(19.0)	—	—	雲母・石英・長石含む	明赤褐色	常総型	28、168、178、279、280
第191図の36	砥石	50.0g	—	—	砂岩	—		148
第191図の37	刀子	残存長 4.9	—	—	鉄製品	—		63

II101 (第192・193図、図版67・68・150)

II100と重複するが、100のほうが古い。平面形は、竈側でやや「ばち型」に開く。竈は解体されており、すぐ脇に解体した竈部材を放置している。竈内には、遺物の遺存が目立つ。解体した竈前面に、倒位の小型甕(18)を置いている。

表158 II 1 0 1

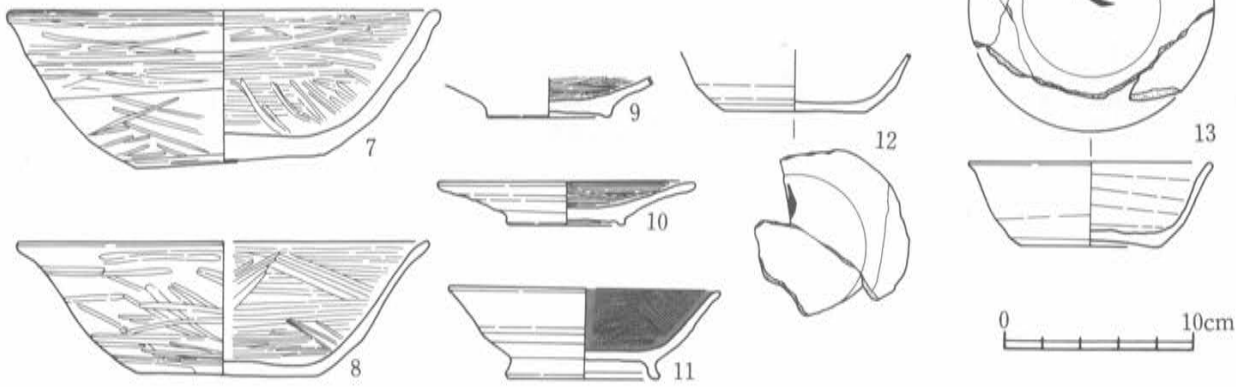
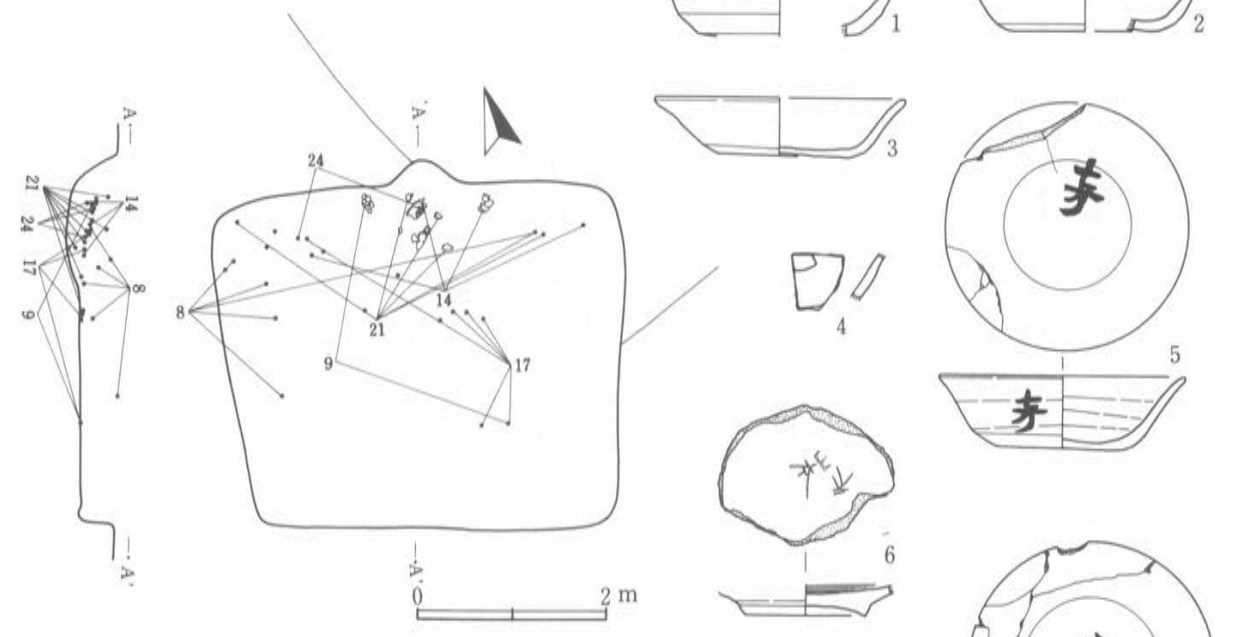
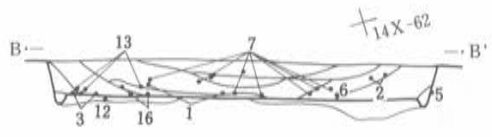
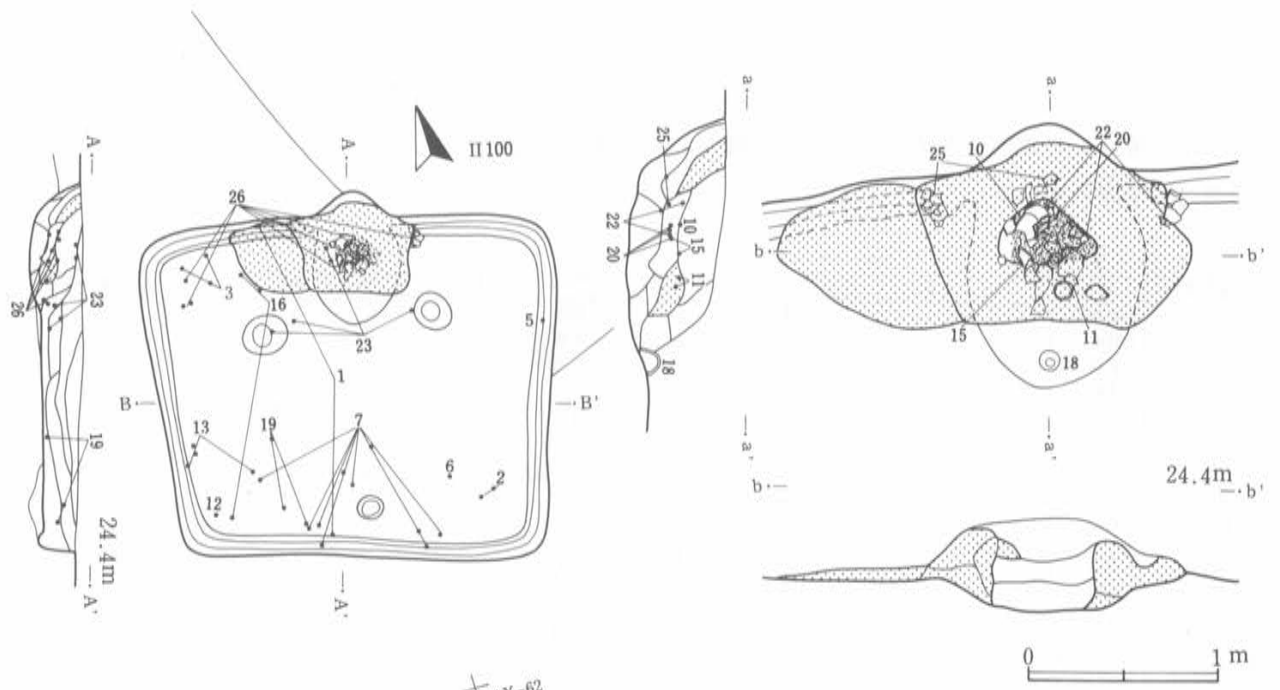
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第192図の1	土師器 杯	13.4	4.1	8.4	雲母・スコリア含む	橙色		84、110
第192図の2	土師器 杯	14.0	3.7	7.6	雲母・長石含む	暗褐色		2、8、10
第192図の3	土師器 杯	13.1	3.0	6.9	雲母・砂粒含む	黒褐色		1、3、56、59、63、145
第192図の4	土師器 杯	—	—	—	—	—	内黒線刻(体外)「□」	3
第192図の5	土師器 杯	12.9	3.8	6.8	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「七万」 墨書(底内)「七万」	82
第192図の6	土師器 高台付皿	—	—	6.2	—	明赤褐色	線刻(底内)「山本□」	14
第192図の7	土師器 鉢	22.4	7.9	9.9	雲母・スコリア含む	橙色		19、22、23、24、25、26、 27、29、86、101
第192図の8	土師器 鉢	21.2	7.0	9.4	雲母・スコリア含む	赤褐色		4、35、48、50、52、53、77
第192図の9	土師器 高台付皿	—	—	6.6	雲母・スコリア含む	橙色		16、143
第192図の10	土師器 高台付皿	13.2	2.3	3.2	雲母・砂粒含む	黒褐色		132、145
第192図の11	土師器 高台付杯	14.4	4.8	8.2	雲母多く含む	外面橙色 内面黒色	内黒	113、114
第192図の12	土師器 杯	—	—	7.4	—	—	墨書(底外)「□」	93、145
第192図の13	土師器 杯	12.6	4.4	7.2	スコリア含む	橙色	墨書(底内)「之」	3、4、30、32、88、89
第193図の14	土師器小型甕	14.7	14.7	6.4	スコリア・砂粒含む	赤褐色		81、123、129、138、140、 144、145
第193図の15	土師器小型甕	(16.2)	—	—	長石・スコリア含む	暗褐色		4、116、136、145
第193図の16	須恵器 甕	(21.4)	—	—	石英・長石含む	灰褐色		31、67、91
第193図の17	須恵器 甕	—	—	13.6	雲母・石英・長石含む	暗赤褐色	底外網代伏圧痕	1、2、16、18、65、70、71、 72、83、108
第193図の18	土師器小型甕	—	—	6.0	雲母・石英・長石・スコリア含む	赤褐色		146
第193図の19	須恵器 甕	(30.6)	—	—	長石・砂粒含む	灰褐色		3、28、36、85
第193図の20	須恵器 甕	—	—	(15.5)	長石・砂粒含む	灰色		131、133、135、145
第193図の21	土師器 甕	19.5	31.1	8.2	雲母・石英・長石含む	橙褐色	常総型	3、41、42、54、62、70、77、 78、120、121、124、141、 145
第193図の22	土師器 甕	—	—	(9.0)	雲母・長石・砂粒含む	黒褐色～褐色	常総型	126、140、144、145
第193図の23	土師器 甕	—	—	—	長石・スコリア含む	暗褐色		4、43、44、73、98、99
第193図の24	土師器 甕	(20.4)	—	—	雲母・石英・長石・砂粒含む	明赤褐色	胴部1孔	3、4、107、134、140、145
第193図の25	土師器 甕	(20.6)	—	—	雲母・石英・長石・砂粒含む	橙褐色		130、143、147
第193図の26	土師器 甕	(24.2)	—	—	雲母・長石・砂粒含む	褐色	常総型	4、51、57、95、117、122、 127、140、142、144、145

II105 (第194図、図版70・150)

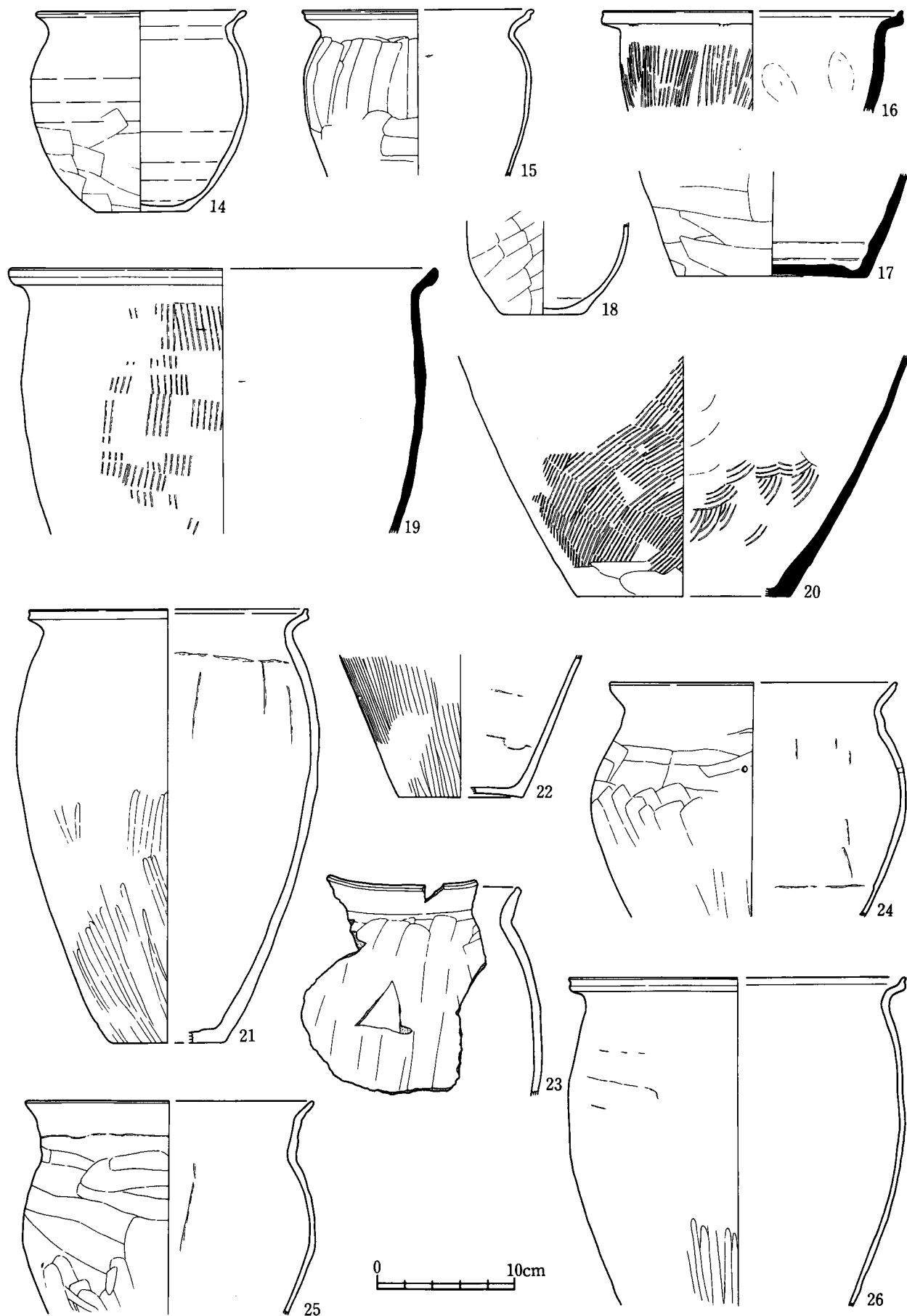
方形プランの住居で、支柱穴はない。遺物は少ない。竈前面は、大きな攪乱により壊されている。

表159 II 1 0 5

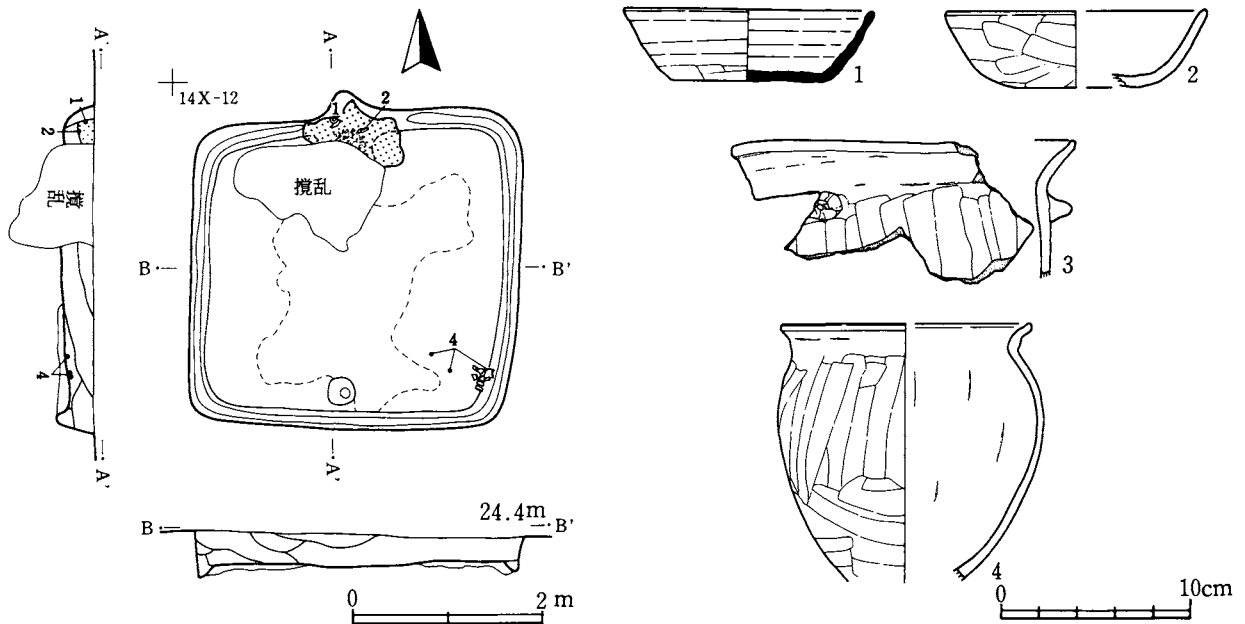
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第194図の1	須恵器 杯	13.2	3.8	8.0	石英・長石含む	灰色		18
第194図の2	土師器 杯	(13.6)	4.1	(6.5)	雲母・スコリア含む	暗褐色		17
第194図の3	土師器 甕	—	—	—	雲母・長石・スコリア含む	褐色		15、19
第194図の4	土師器小型甕	(12.9)	—	—	雲母・石英・長石含む	明褐色		2、11、12、14



第192图 II101(1)



第193图 II101(2)



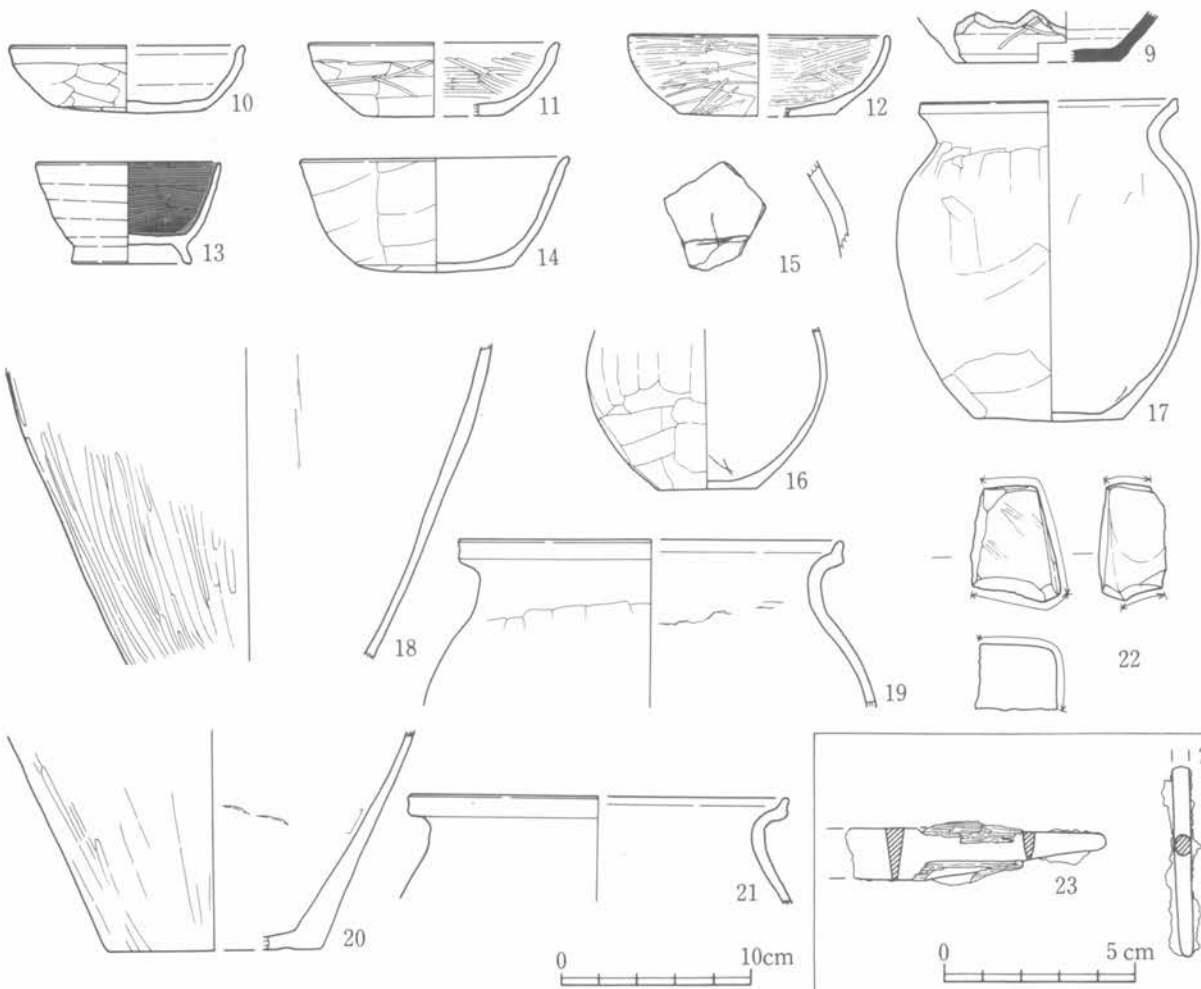
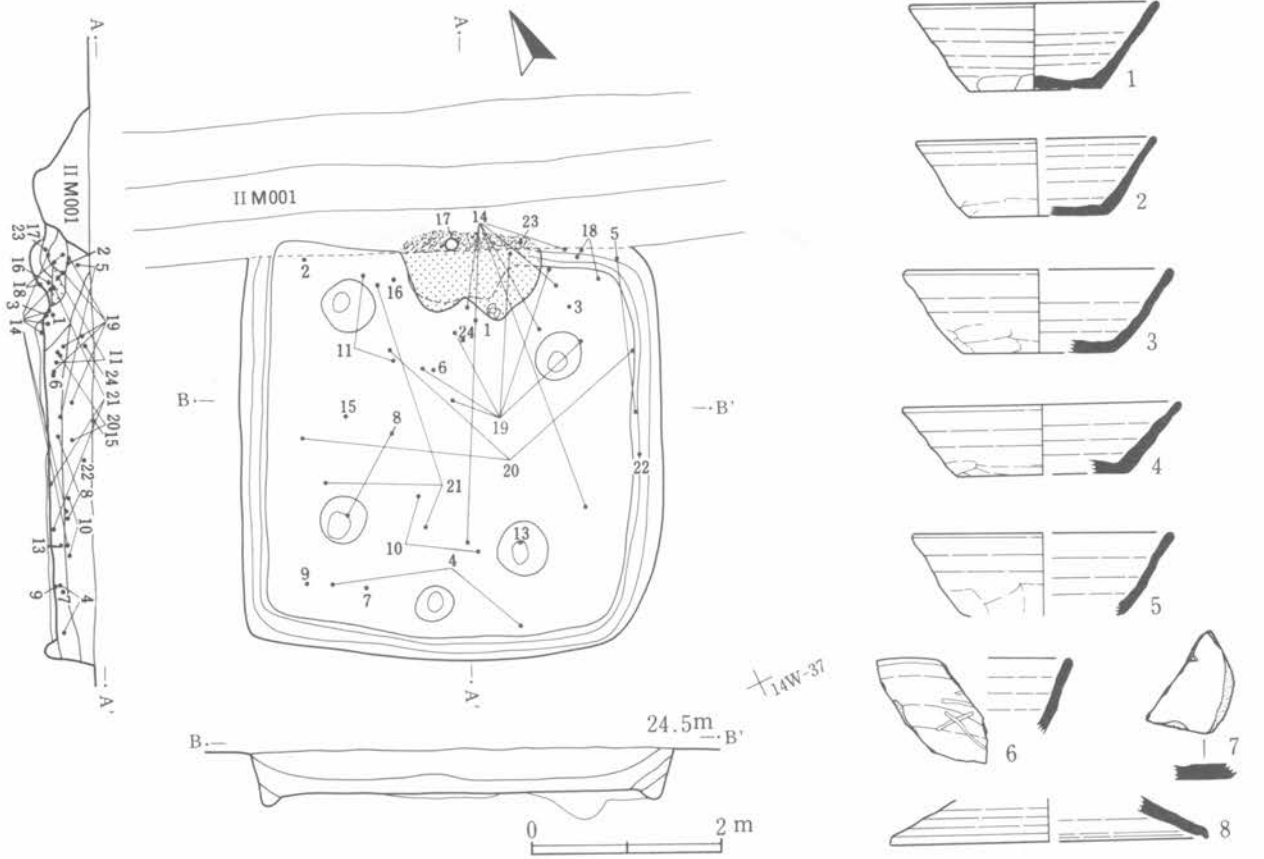
第194図 II105

II106 (第195図、図版70・150・151・167・168)

II M001に北側の一部を削平される。竈火床面最奥部に倒位の小型甕(17)が出土した。この土器には、胴下半部から底部にかけて二次的な焼成が見られ、口縁部から胴上半部は二次的な焼成はなく、灰が付着している。竈内での支脚転用の小型甕であろう。ほかに、須恵器杯(1)が竈袖部から倒位で出土した。出土した層位が袖部底面であるので、袖部構築時の心材の可能性が高い。一部の土器を除いて遺存状況の良い土器の出土が多い。23は茎部に木質を残す刀子片である。

表160 II106

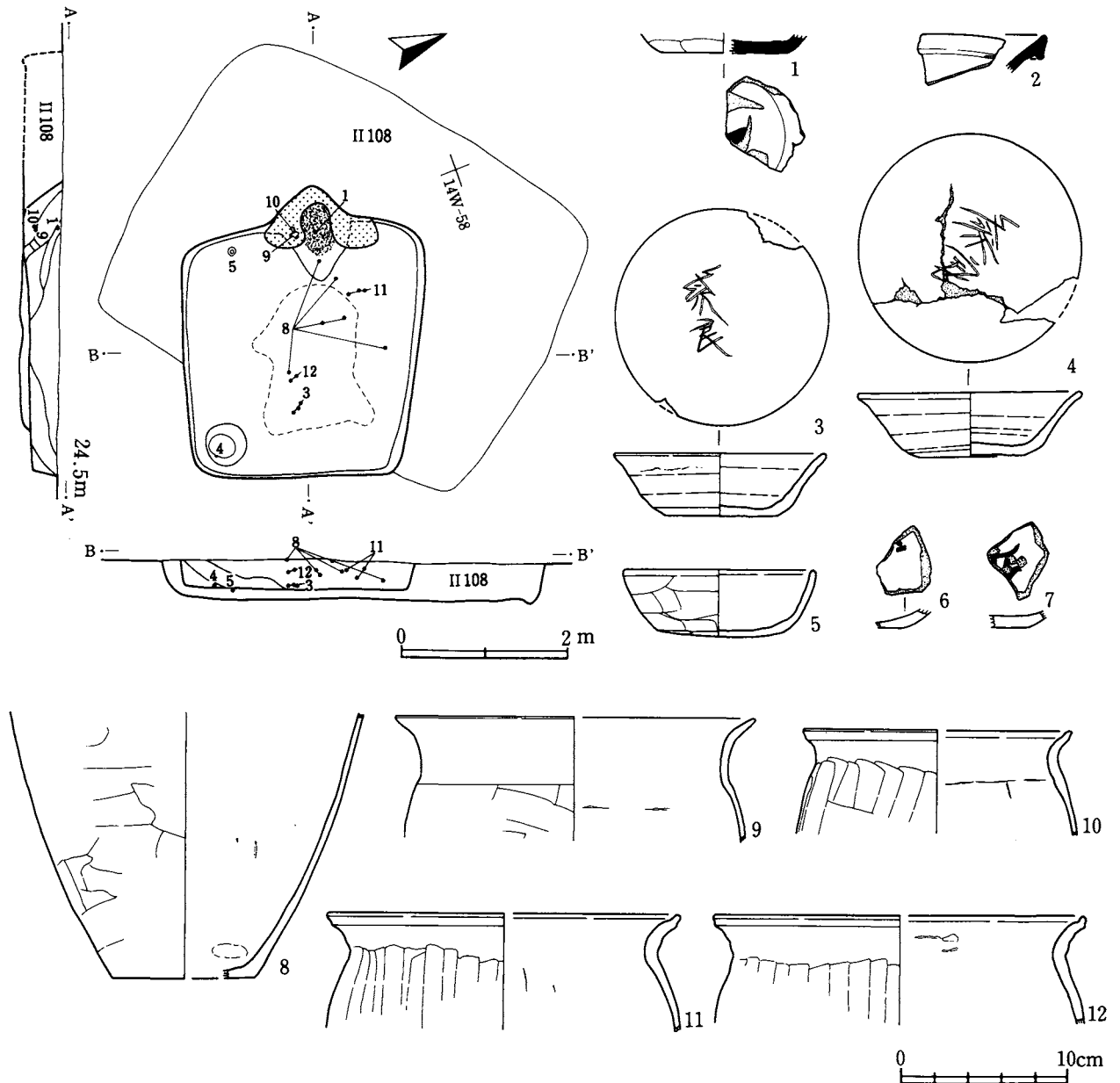
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第195図の1	須恵器 杯	12.6	4.6	6.8	雲母・長石含む	灰白色		395
第195図の2	須恵器 杯	(12.4)	4.2	(7.2)	長石・石英含む	灰色		4、322
第195図の3	須恵器 杯	(13.8)	4.2	7.8	雲母・長石・石英含む	灰色	新治産	1、283
第195図の4	須恵器 杯	(14.4)	3.7	(8.8)	石英・長石含む	灰色		3、186、224
第195図の5	須恵器 杯	(13.5)	-	-	雲母・長石・石英含む	灰色		295、341
第195図の6	須恵器 杯	-	-	-	-	-	線刻(体外) [文]	234
第195図の7	須恵器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内) [口]	193
第195図の8	須恵器 蓋	(16.6)	-	-	雲母・長石・石英含む	灰色		123、229
第195図の9	須恵器 杯	-	-	-	-	-	線刻(体外) [文]	314
第195図の10	土師器 杯	(12.0)	3.5	7.9	石英・長石・スコリア含む	橙色		2、102、128
第195図の11	土師器 杯	(12.7)	3.8	(7.0)	雲母・スコリア含む	黄褐色		4、243、324
第195図の12	土師器 杯	(13.8)	4.2	8.2	スコリア含む	橙色		404
第195図の13	土師器 高台付碗	9.6	5.2	6.1	雲母・石英・長石含む	外面黄褐色 内面黒色	内黒	2、104
第195図の14	土師器 鉢	13.8	5.9	8.5	雲母・石英・スコリア含む	橙褐色		103、106、278、281、346、348、385、400
第195図の15	土師器 甕	-	-	-	-	-	線刻(胴外) [口]	50
第195図の16	土師器小型甕	-	-	5.1	雲母・石英・長石含む	明褐色		4、381、400
第195図の17	土師器小型甕	(13.8)	16.5	7.7	石英・長石含む	橙褐色		396、400
第195図の18	土師器 甕	-	-	-	雲母・長石・石英含む	明褐色		3、338、339、345
第195図の19	土師器 甕	(19.7)	-	-	雲母・石英・長石含む	橙褐色		179、237、273、311、353、371、400
第195図の20	土師器 甕	-	-	(11.0)	雲母・石英・長石含む	明褐色		4、141、242、287
第195図の21	土師器 甕	(19.4)	-	-	雲母・石英・長石含む	赤褐色		303、316、326
第195図の22	砥石	135.7g	-	-	砂岩	-		91
第195図の23	刀子	残存長 6.7	-	-	鉄製品	-	木質部残存	399
第195図の24	鉄鏃	残存長 4.9	-	-	-	-		351



第195图 II106

II 107 (第196図、図版70・151)

方形プランの小型の住居である。南東隅にピットがあるが、用途不明である。「久弥良」の線刻土器が出土している。



第196図 II 107

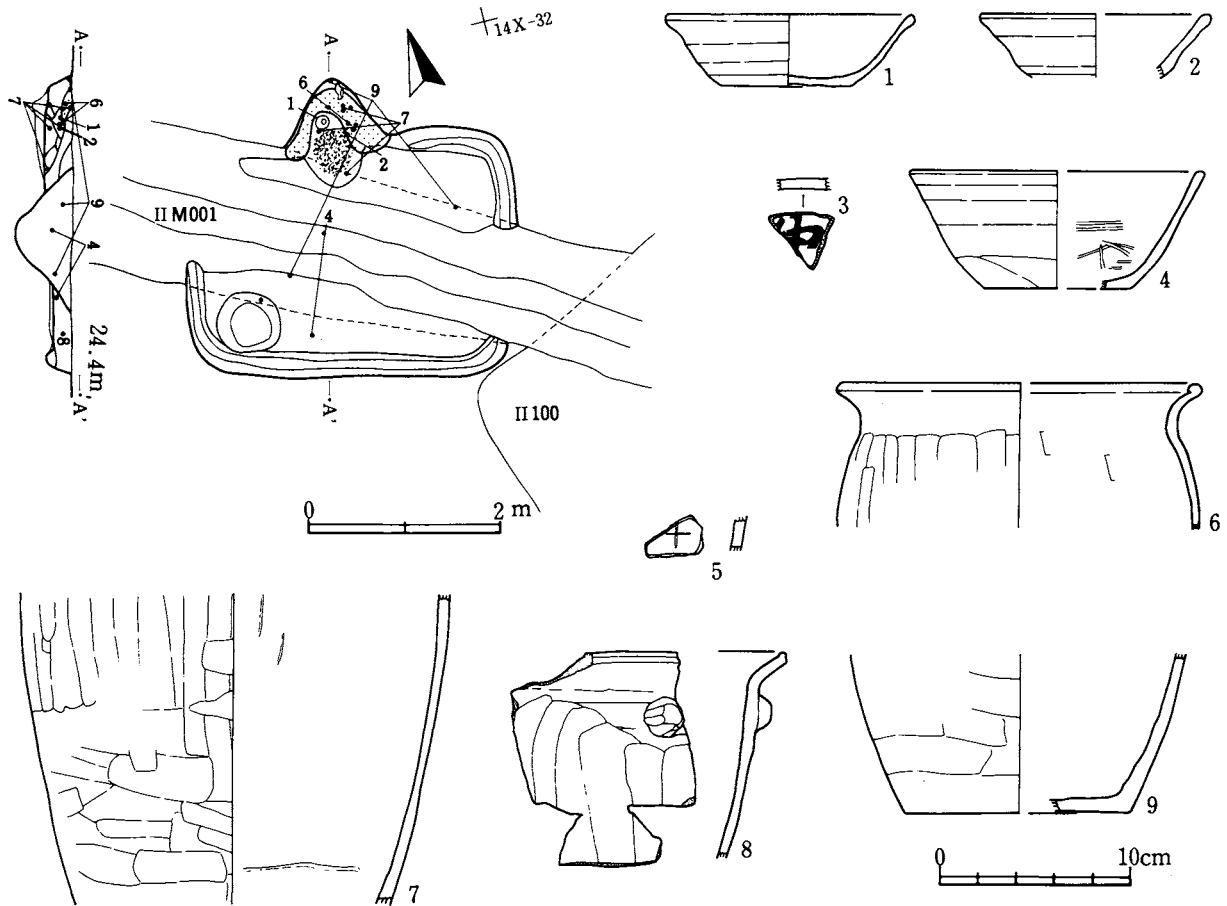
表161 II 107

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第196図の1	須恵器 杯	-	-	(7.5)	-	-	墨書(底外) □□	68
第196図の2	須恵器 甕	-	-	-	長石・砂粒含む	灰色		4
第196図の3	土師器 杯	12.3	3.7	6.7	雲母・スコリア含む	赤褐色	線刻(底内) 「久弥良」	31、38、39
第196図の4	土師器 杯	13.0	3.8	6.4	雲母・スコリア含む	赤褐色	線刻(底内) 「久弥良」	69、90
第196図の5	土師器 杯	11.2	4.0	7.4	雲母・スコリア含む	暗褐色		70
第196図の6	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) □□	2
第196図の7	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) □□	3
第196図の8	土師器 甕	-	-	(8.6)	長石・石英含む	黒褐色		1、4、14、20、35、61、63、67
第196図の9	土師器 甕	(21.4)	-	-	雲母・長石含む	褐色		82
第196図の10	土師器 甕	(15.8)	-	-	石英・長石・スコリア含む	赤褐色		84
第196図の11	土師器 甕	(20.9)	-	-	雲母・石英・長石含む	黒褐色		13、26、36
第196図の12	土師器 甕	(21.8)	-	-	雲母・石英・長石含む	黒褐色		29、30



II109 (第197図、図版71・151)

II M001が住居中央を横切る。竈対面隅にピットがあり、貯蔵穴と考えられる。竈周辺からまとまって土器が出土している。



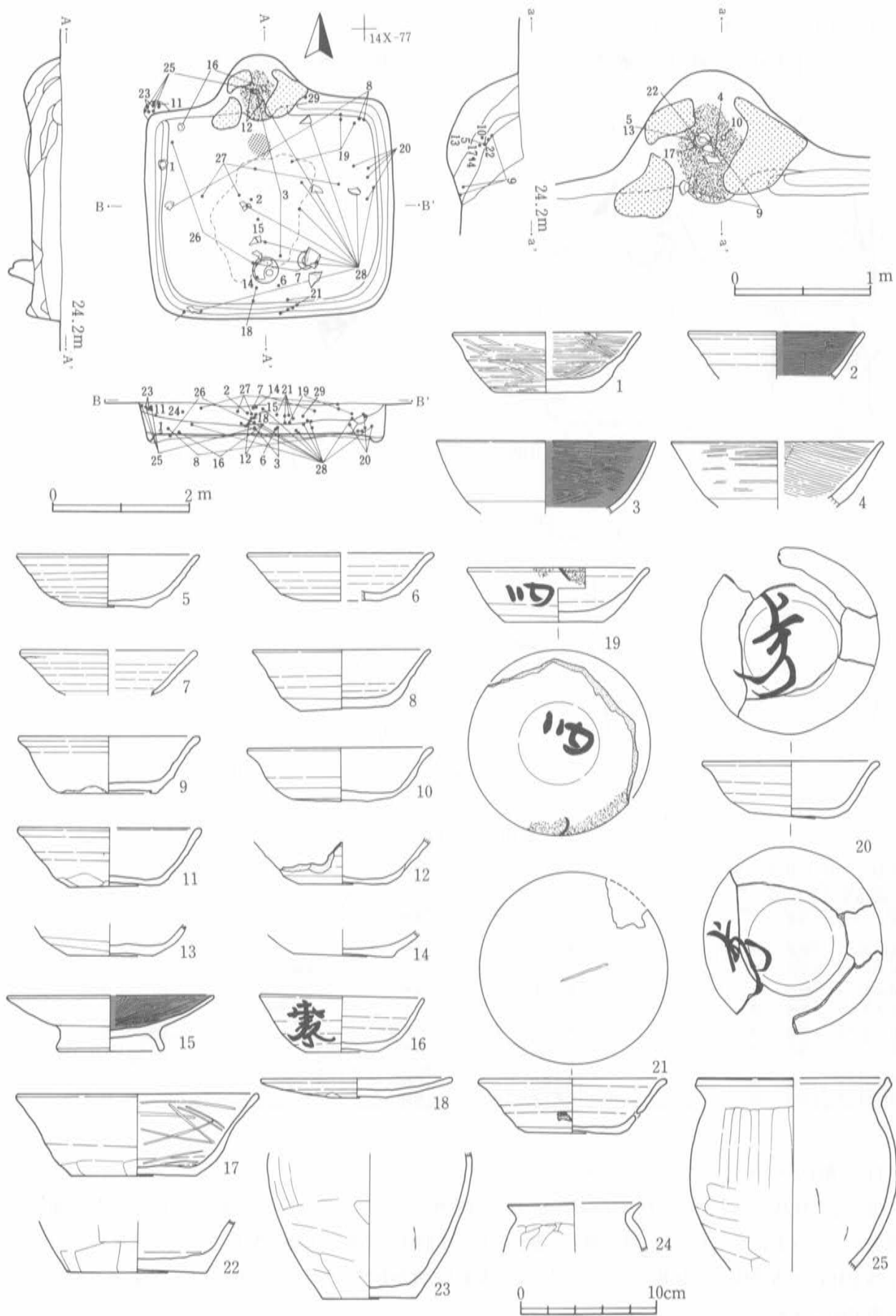
第197図 II109

表162 II109

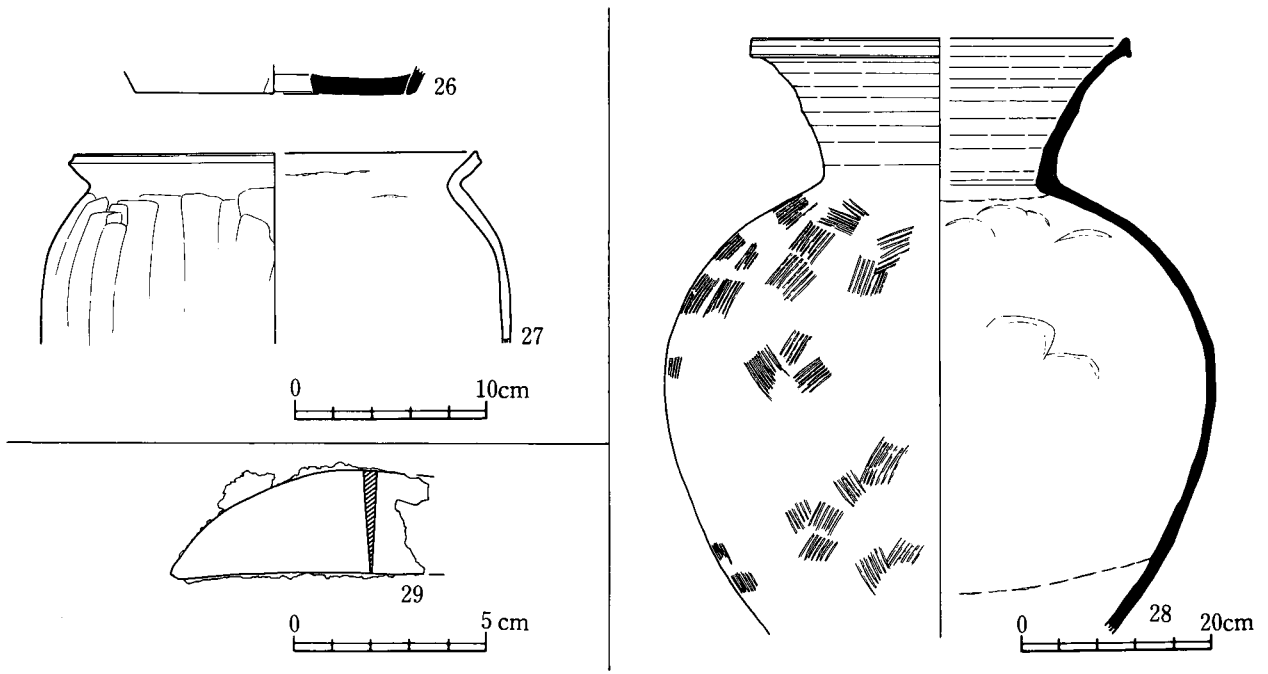
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第197図の1	土師器 杯	12.6	3.7	6.7	雲母・石英・長石・スコリア含む	橙褐色		64
第197図の2	土師器 杯	(12.0)	-	-	雲母・長石含む	黄褐色～褐色		62
第197図の3	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外) 「仲」	1
第197図の4	土師器 杯	(13.0)	6.1	(7.8)	雲母・長石含む	暗褐色		1、2、7、48
第197図の5	土師器 甕	-	-	-	-	-	線刻(胴外) 「+	2
第197図の6	土師器 甕	(18.3)	-	-	雲母・石英・長石含む	淡橙褐色		66、74、80
第197図の7	土師器 甕	-	-	-	雲母・石英・長石含む	橙褐色		1、60、63、70、71、75、77、79、80
第197図の8	土師器 甕	-	-	-	長石含む	赤褐色		1、12
第197図の9	土師器 甕	-	-	(11.4)	石英・長石含む	橙褐色		10、34、68、73

II110 (第198・199図、図版71・151・169・174・175)

焼失した住居である。炭化材は屋根材の一部の可能性ある。焼土を床面全域に確認した。杯が竈火床部奥から5枚重ねで出土した。焼土層の上部からは、1個体の須恵器大甕が割れた状態で出土した。また、土師器杯には体部外面に墨書の合わせ文字で、「本家」と書かれていたものが出土した。合わせ文字としては典型的な字形である。



第198图 II110(1)



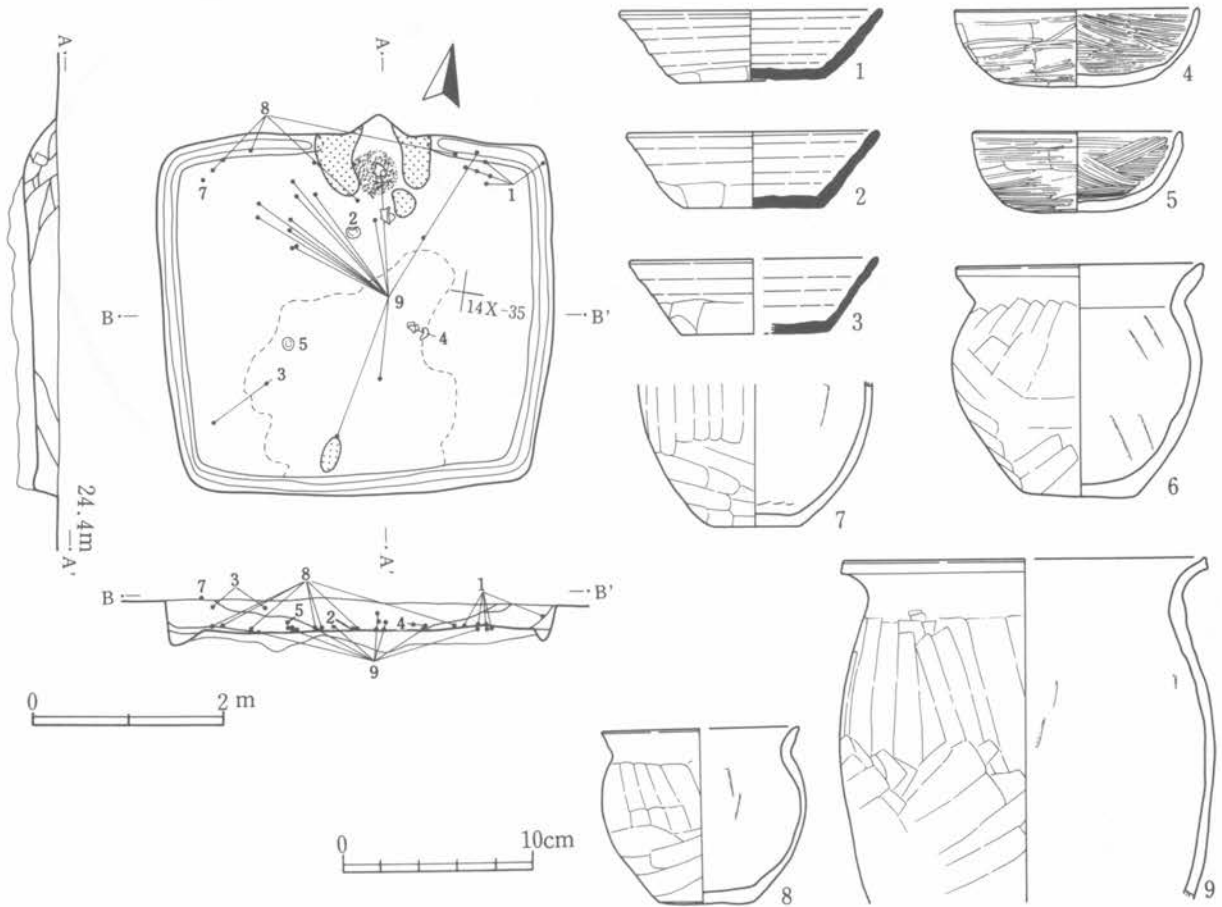
第199図 II110(2)

表163 II 1 1 0

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第198図の1	土師器 杯	(13.8)	4.4	6.7	雲母含む	赤褐色	体内外付着物有り	167
第198図の2	土師器 杯	(12.7)	—	—	長石・砂粒含む	外面赤褐色 内面黒色	内黒	130
第198図の3	土師器 杯	(15.9)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	外面黄褐色 内面黒色	内黒	84、174
第198図の4	土師器 杯	(15.5)	—	—	雲母多く含む	赤褐色		172
第198図の5	土師器 杯	13.2	3.9	5.8	長石・砂粒・スコリア含む	橙色		186
第198図の6	土師器 杯	(13.4)	3.5	(5.6)	スコリア含む	橙色		2、3、83
第198図の7	土師器 杯	(12.5)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		24、115
第198図の8	土師器 杯	12.8	4.4	6.3	雲母・スコリア含む	赤褐色		4、102、112、166
第198図の9	土師器 杯	12.9	4.2	7.6	雲母・スコリア含む	赤褐色		177、178、188
第198図の10	土師器 杯	13.4	4.0	7.3		明赤褐色		182、188、190
第198図の11	土師器 杯	(13.2)	4.3	6.5	雲母・スコリア・砂粒含む	暗褐色		81、99
第198図の12	土師器 杯	—	—	6.4	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		145、187
第198図の13	土師器 杯	—	—	6.2	雲母・長石含む	明赤褐色		187
第198図の14	土師器 杯	—	—	7.4	雲母・スコリア含む	褐色		113
第198図の15	土師器 高台付皿	(15.0)	4.1	7.5	石英・スコリア含む	外面明黄褐色 内面黒色	内黒	3、4、125
第198図の16	土師器 杯	11.8	4.1	5.3	砂粒・スコリア含む	灰褐色	墨書(体外)「本家」(合 せ字)	168、176
第198図の17	土師器 鉢	17.3	5.9	9.0	雲母含む	橙色		185
第198図の18	土師器 皿	(14.0)	1.4	4.2	石英・砂粒含む	明黄褐色		1、2、3、138、140
第198図の19	土師器 杯	13.2	4.0	7.2	砂粒含む	明赤褐色	墨書(体外)「四」 墨書(体内)「四」	1、7、8、9、55
第198図の20	土師器 杯	12.8	4.2	6.3	スコリア・砂粒・雲母含む	黄褐色	墨書(体外)「上万」 墨書(底外)「上万」	76、93、94、103、135
第198図の21	土師器 杯	13.5	3.9	6.9	砂粒・スコリア含む	明黄褐色	ヘラ書き(底内)「一」	32、104、108、109、110
第198図の22	土師器 小型甕	—	—	9.9	石英・長石・砂粒含む	赤褐色～橙褐色		2、184
第198図の23	土師器 小型甕	—	—	6.8	雲母・石英・長石含む	暗褐色		4、50、79、80
第198図の24	土師器 小型甕	(9.6)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	黄褐色～褐色		111
第198図の25	土師器 小型甕	(13.7)	—	—	石英・長石含む	暗褐色		4、47、48、80、98、174
第199図の26	須恵器 甕	—	—	(14.6)	長石・砂粒含む	明褐色		4、91、139
第199図の27	土師器 甕	(20.3)	—	—	雲母・石英・長石含む	明赤褐色～暗褐色		17、131、133、146
第199図の28	須恵器 大甕	(19.6)	—	—	—	—		2、69、103、141、142、145、 148、149、150、153、154、 156、157、158、161、163、 165
第199図の29	鎌	残存長 6.6	—	—	鉄製品	—		171

II111 (第200図、図版72・151)

方形プランの住居である。支柱穴はない。竈内の倒位の小型甕(6)は、火床部最奥の中位よりやや浮いた状態で出土した。



第200図 II111

表164 II111

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第200図の1	須恵器 杯	13.6	3.9	7.6	石英・長石多量に含む	青灰色		40、41、42、44、47、50
第200図の2	須恵器 杯	12.8	4.0	8.4	石英・長石多量に含む	青灰色		57
第200図の3	須恵器 杯	(12.8)	3.9	(7.6)	石英・長石多量に含む	青灰色		28、29
第200図の4	土師器 杯	12.7	4.2	8.0	スコリア・砂粒含む	橙色		2、55、56
第200図の5	土師器 杯	11.0	4.2	5.0	スコリア・砂粒含む	黒褐色		59
第200図の6	土師器小型甕	13.0	12.0	6.2	雲母・スコリア・石英・長石含む	明赤褐色		68
第200図の7	土師器小型甕	—	—	4.6	石英・長石・スコリア・砂粒含む	橙色		5
第200図の8	土師器小型甕	(10.4)	9.0	5.0	砂粒・スコリア含む	黒褐色～黄褐色		3、4、32、33、34、37、38、39、60
第200図の9	土師器 甕	(18.6)	—	—	雲母・石英・長石・砂粒含む	明赤褐色		2、4、10、11、12、13、14、15、24、35、36、51、58、62、65、66、67、79

II113 (第201図、図版73・151・175)

IIH15と重複するが、H15のほうが古い。方形プランの住居で、支柱穴はない。床面直上から完形に近い遺物が多く出土している。




表165 II 1 1 3

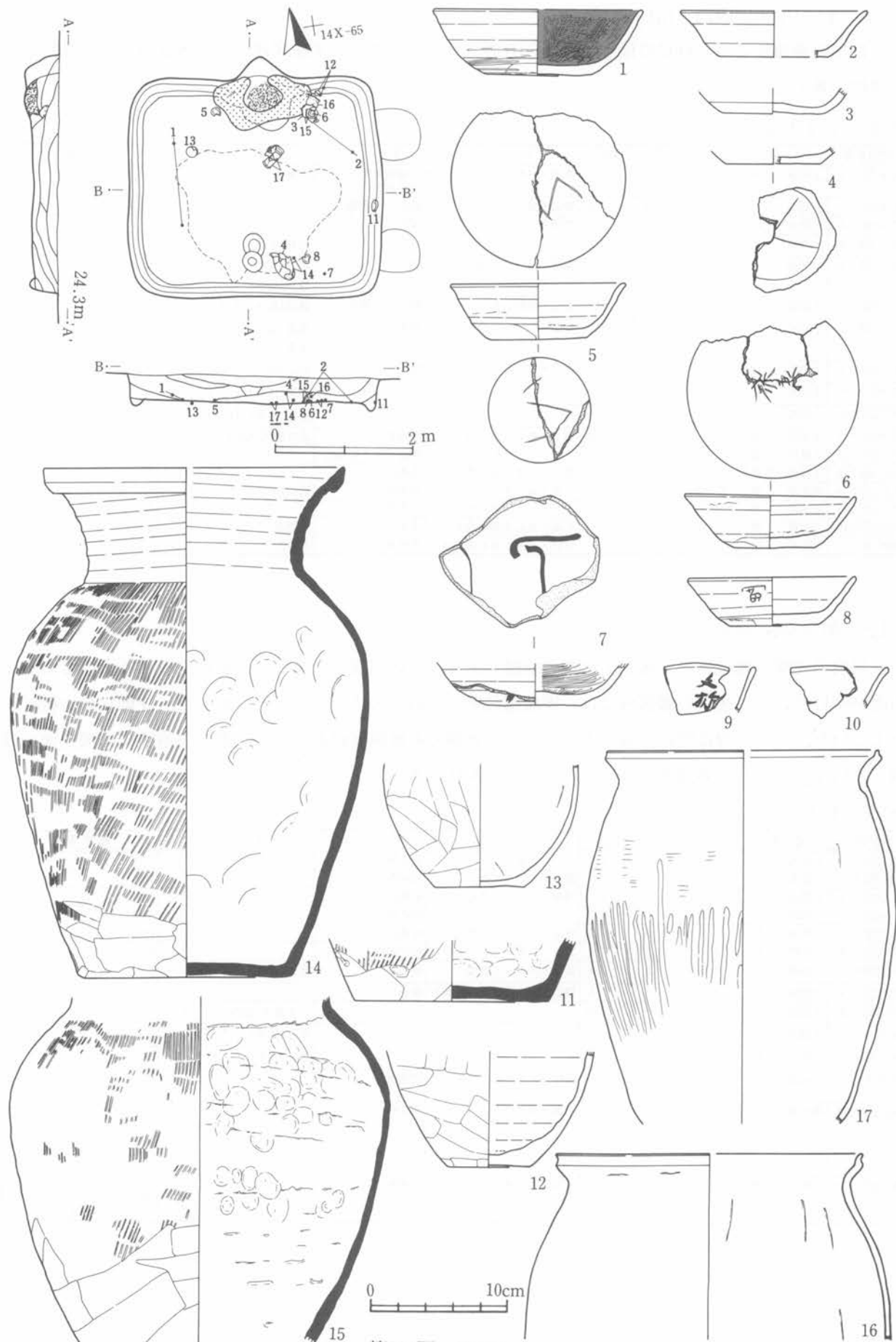
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第201図の1	土師器 杯	(14.8)	5.0	7.7	雲母・砂粒・スコリア含む	外面明黄褐色 内面黒色	内黒	16、17
第201図の2	土師器 杯	(13.2)	3.4	(7.8)	雲母多量に含む	橙色～明赤褐色		1、9、42
第201図の3	土師器 杯	—	—	7.2	雲母多く含む	褐色		42
第201図の4	土師器 杯	—	—	(6.8)	—	—	線刻(底外) 	2、37
第201図の5	土師器 杯	12.4	4.0	6.4	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(底内)  線刻(底外) 	29
第201図の6	土師器 杯	12.2	3.8	5.9	雲母・砂粒含む	橙色～赤褐色	線刻(底内) 「久弥良」	1、39
第201図の7	土師器 杯	—	3.0	7.2	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)  墨書(底内) 	2、21
第201図の8	土師器 杯	11.9	3.4	6.5	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(体外) 「富」	36
第201図の9	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) 「久弥」	2
第201図の10	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) 	3
第201図の11	須恵器 壺	—	—	14.0	石英・長石多量に含む	橙褐色	底外網代状圧痕	35
第201図の12	土師器 小型甕	—	8.3	6.0	スコリア・砂粒含む	明黄褐色～黒褐色		1、6、7、38
第201図の13	土師器 小型甕	—	—	6.5	雲母・石英・長石含む	赤褐色		30
第201図の14	須恵器 甕	(21.6)	36.5	14.8	石英・長石多く含む	橙褐色	底外網代状圧痕	11、37
第201図の15	須恵器 甕	—	—	—	雲母・石英・長石含む	明褐色		40、42
第201図の16	土師器 甕	(21.4)	—	—	石英・長石多量に含む	赤褐色	常総型	41、49
第201図の17	土師器 甕	(19.6)	—	—	雲母・石英・長石多く含む	淡橙褐色	常総型	1、28、34

II115 (第202図、図版74・152)

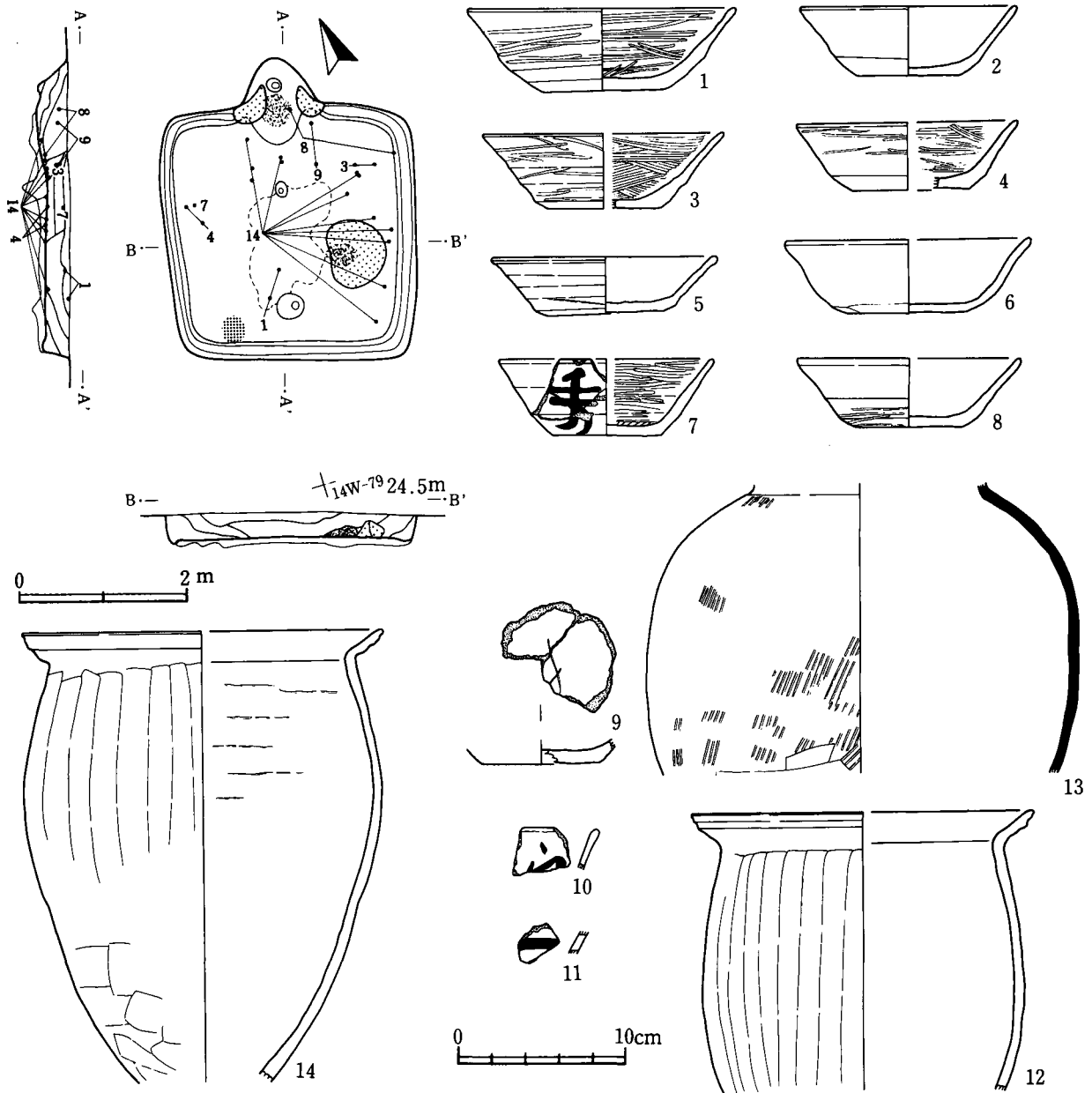
住居内の通常の竈以外に、床面上に竈の痕跡がある。住居内部の一部に、砂質粘土を積み上げており、内面が焼けている。通常の竈部分には、火床部最奥・煙道口の位置に小ピットがあり、支脚状の土製品を立てていた。ピット内は焼けておらず、ピットの外側のみ被熱熱があったが、竈内の遺物には被熱部分は残っていなかった。内外面をヘラミガキする土師器杯が多い。

表166 II 1 1 5

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第202図の1	土師器 杯	15.8	5.1	7.2	スコリア含む	明赤褐色		3、4、29、100
第202図の2	土師器 杯	12.8	4.2	6.0	雲母・スコリア含む	暗褐色		110
第202図の3	土師器 杯	(14.4)	4.5	(6.8)	雲母・スコリア含む	赤褐色		1、2、21、23
第202図の4	土師器 杯	(13.0)	—	(7.2)	スコリア多く含む	明赤褐色		3、71、72
第202図の5	土師器 杯	13.0	3.5	7.0	雲母・石英・長石含む	暗褐色		109、116、157
第202図の6	土師器 杯	(14.4)	4.3	7.0	雲母・石英・スコリア含む	明赤褐色		94、98、185
第202図の7	土師器 杯	(12.6)	4.5	6.4	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外) 「千万」	3、4、43
第202図の8	土師器 杯	(13.2)	4.0	6.4	雲母・スコリア・砂粒含む	橙色		1、113、150
第202図の9	土師器 杯	—	—	(7.0)	—	—	ヘラ書き(底内) 	5、105
第202図の10	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) 	2
第202図の11	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) 	188
第202図の12	土師器 甕	(20.1)	—	—	雲母・石英・長石含む	明褐色		2、42、59、64、120、129、134、136、145、146
第202図の13	須恵器 甕	—	—	—	石英・長石含む	褐灰色		1、4、6、14、39、48、60、106、159、160、161、162、164、165、166、167、172、174、177、178、179、182、184、188
第202図の14	土師器 甕	(20.6)	—	—	石英・長石多く含む	明褐色		1、2、3、4、12、18、40、58、77、84、85、99、107、108、115、140、148



第201图 II113



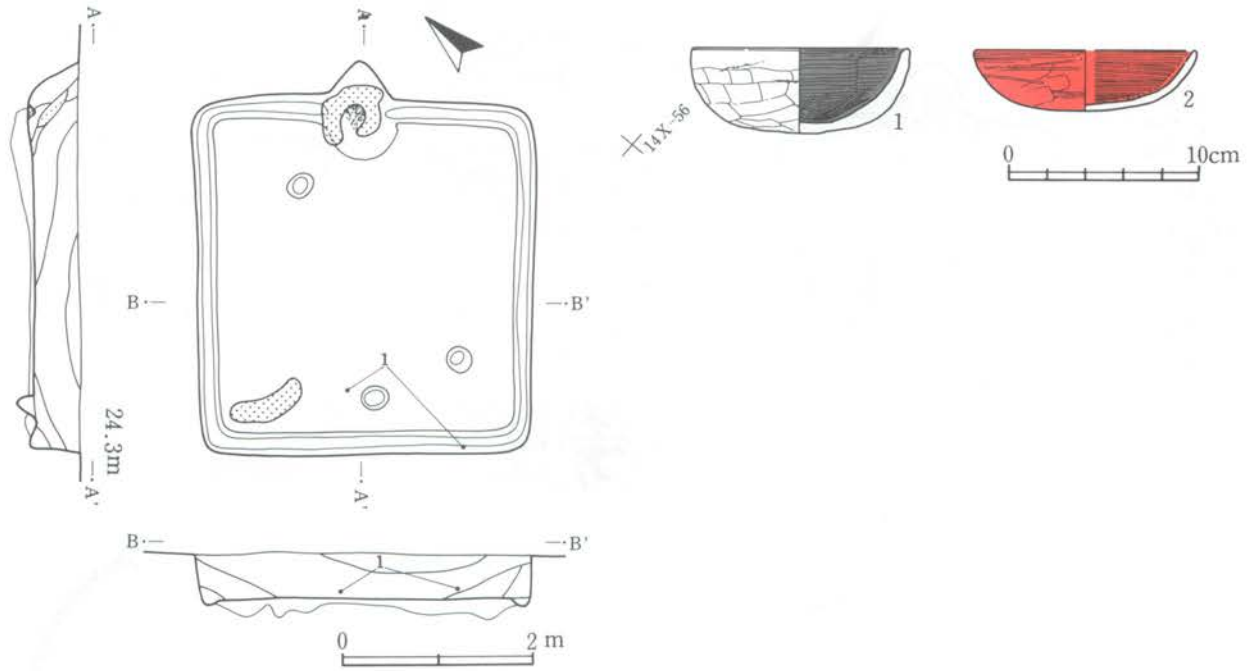
第202図 II115

II116 (第203図、図版74・152)

非常に整った方形プランの住居で、主軸が北東から南西方向を指す。支柱穴は南北の対角線上で2本確認したのみである。西コーナーでは、床面よりやや浮いた位置に、帯状の山砂の堆積が見られた。

表167 II116

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第203図の1	土師器 杯	11.2	4.6	-	スコリア含む	外面黒褐色 内面黒色	内黒	14、24
第203図の2	土師器 杯	11.4	3.3	-	砂粒含む	赤褐色	内外面赤彩	3、27



第203図 II 116

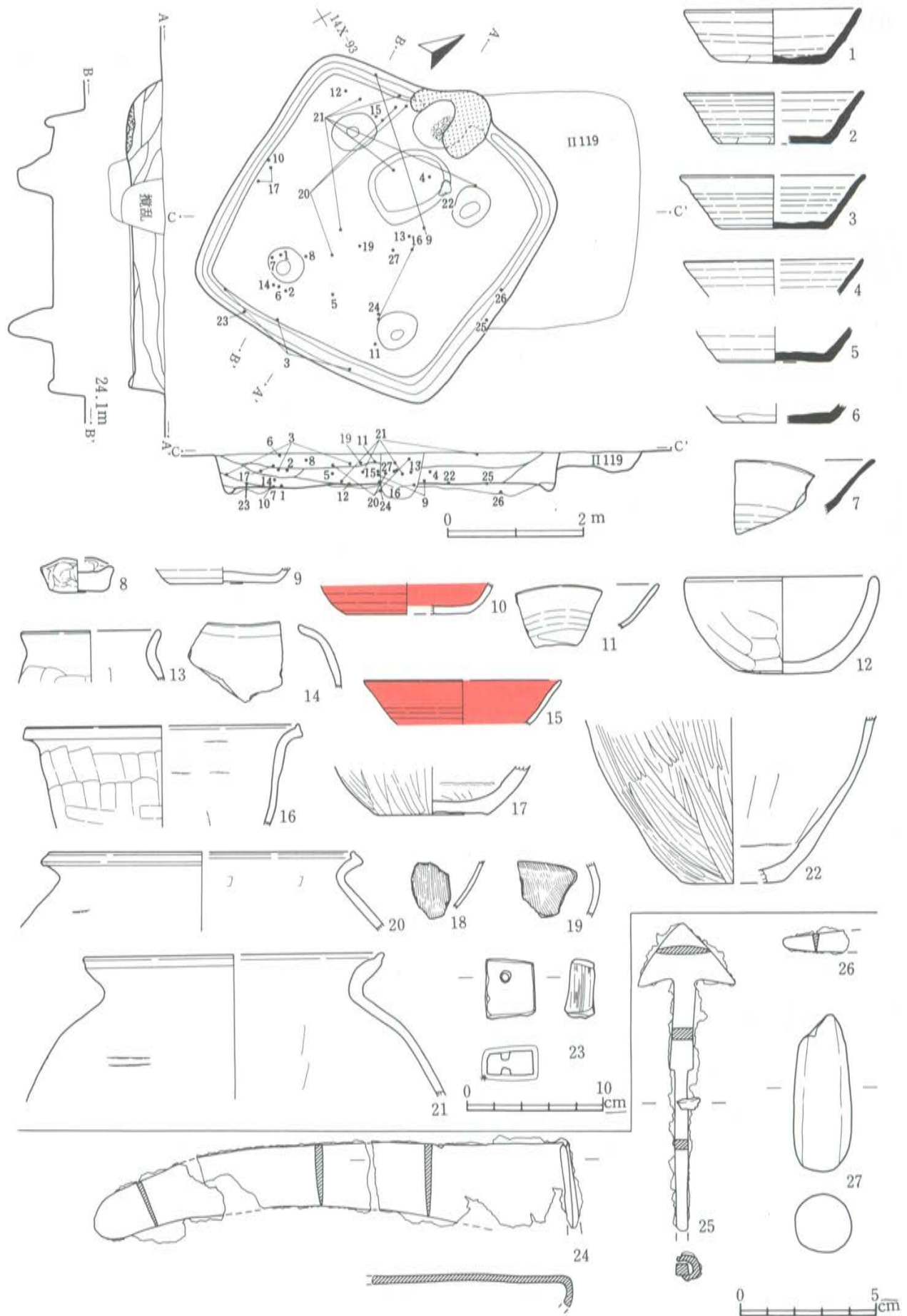
II 118 (第204図、図版75・166・168・169)

II 119と重複するが、本遺構のほうが新しい。竈前面には比較的大きなピットがあるが、埋土観察では、住居の最終段階には既に埋まっていたものと判断される。遺物は小剥片が多い。18・19は外面にハケ目調整を施す甕で、畿内周辺からの搬入品の可能性が高い。24は3片に割れているが、ほぼ完形に復元できる鎌、25はわずかに逆刺が見られる鉄鎌で、茎部に環状の留金具が残っている。

表168 II 118

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第204図の1	須恵器 杯	12.8	4.1	7.4	雲母・石英・長石含む	灰色		144
第204図の2	須恵器 杯	(13.0)	-	(8.2)	石英・長石含む	灰色		3、75
第204図の3	須恵器 杯	(13.2)	3.8	7.6	雲母・石英・長石含む	灰白色		2、3、7、79、102、106
第204図の4	須恵器 杯	(13.1)	-	-	雲母多量を含む	灰色～赤褐色	新治産	185
第204図の5	須恵器 杯	-	-	8.0	雲母・長石含む	灰色		2、161、200
第204図の6	須恵器 杯	-	-	(7.9)	雲母・長石含む	灰色	新治産	25
第204図の7	須恵器 杯	-	-	-	雲母・石英・長石含む	灰白色	新治産	86
第204図の8	手捏ね	(4.9)	2.5	4.2	雲母・長石・スコリア含む	褐色		11
第204図の9	土師器 杯	-	-	7.7	長石・スコリア含む	褐色		147、188
第204図の10	土師器 杯	-	-	(9.0)	雲母・長石含む	赤褐色	内外面赤彩	2、4、132
第204図の11	土師器 杯	-	-	-	雲母・長石含む	赤褐色		29
第204図の12	土師器 碗	(13.7)	7.0	7.4	雲母・スコリア・砂粒含む	橙色		141
第204図の13	土師器小型甕	(9.9)	-	-	雲母・スコリア含む	橙色～黒褐色		2、114
第204図の14	土師器 鉢	-	-	-	長石・スコリア含む	明赤褐色	鉄鉢形	91
第204図の15	土師器 杯	(14.2)	-	-	雲母・長石含む	赤褐色	内外面赤彩	63
第204図の16	土師器 甕	(19.7)	-	-	石英・長石・スコリア含む	明黄褐色～黒褐色		123、131
第204図の17	土師器 甕	-	3.5	9.8	石英・長石多量を含む	橙色～黄褐色	底外木葉痕	41、44
第204図の18	土師器 甕	-	-	-	雲母・長石含む	淡褐色	外面ハケ目	一括
第204図の19	土師器 甕	-	-	-	雲母・長石含む	淡褐色	外面ハケ目	166
第204図の20	土師器 甕	(22.2)	-	-	石英・長石多量を含む	暗橙色	常総型	54、58、65、142
第204図の21	土師器 甕	(22.0)	10.4	-	雲母・石英・長石多量を含む	橙色	常総型	0、56、72、73、80、183、200
第204図の22	土師器 甕	-	-	(7.6)	雲母・石英・長石多量を含む	橙色	常総型	198
第204図の23	砥石	48.3g	-	-	凝灰岩	-		103
第204図の24	鎌	残存長 17.3	-	-	鉄製品	-	図面上で接合、ほぼ完形	201
第204図の25	鉄鎌	鎌身幅 3.6	残存長 2.2	残存長 11.1	-	-		149
第204図の26	刀子	残存長 2.2	-	-	鉄製品	-		163
第204図の27	不明土製品	最大径 2.1	残存長 5.6	-	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色	棒状	111





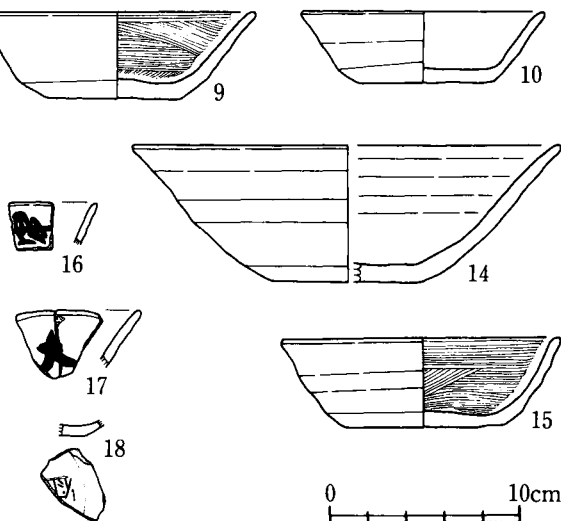
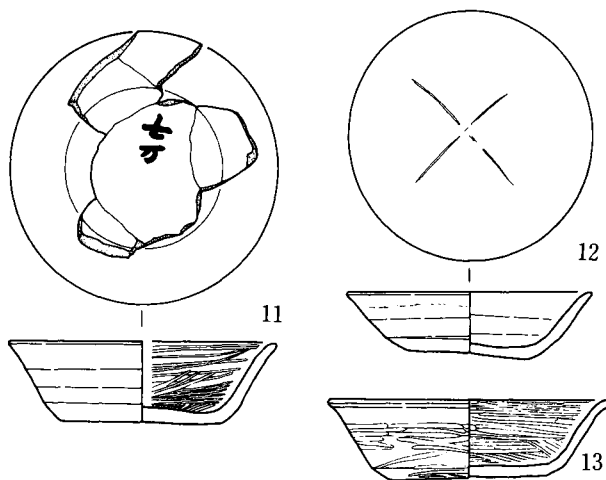
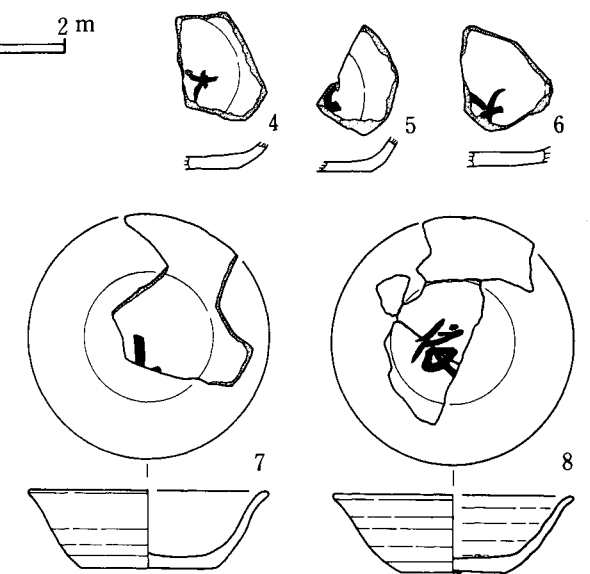
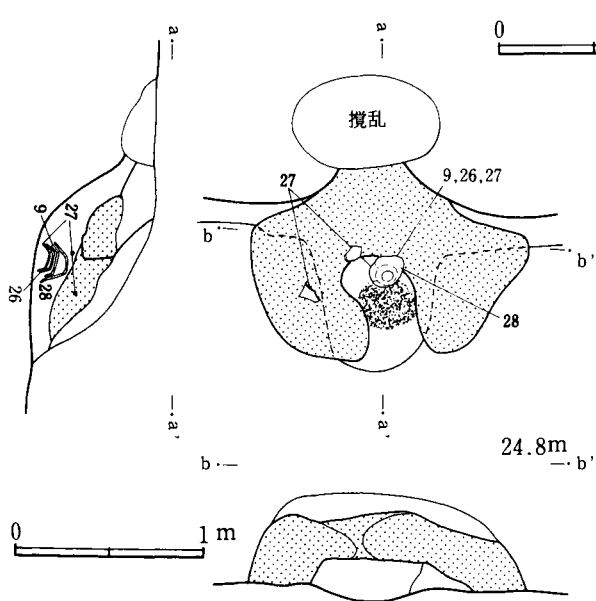
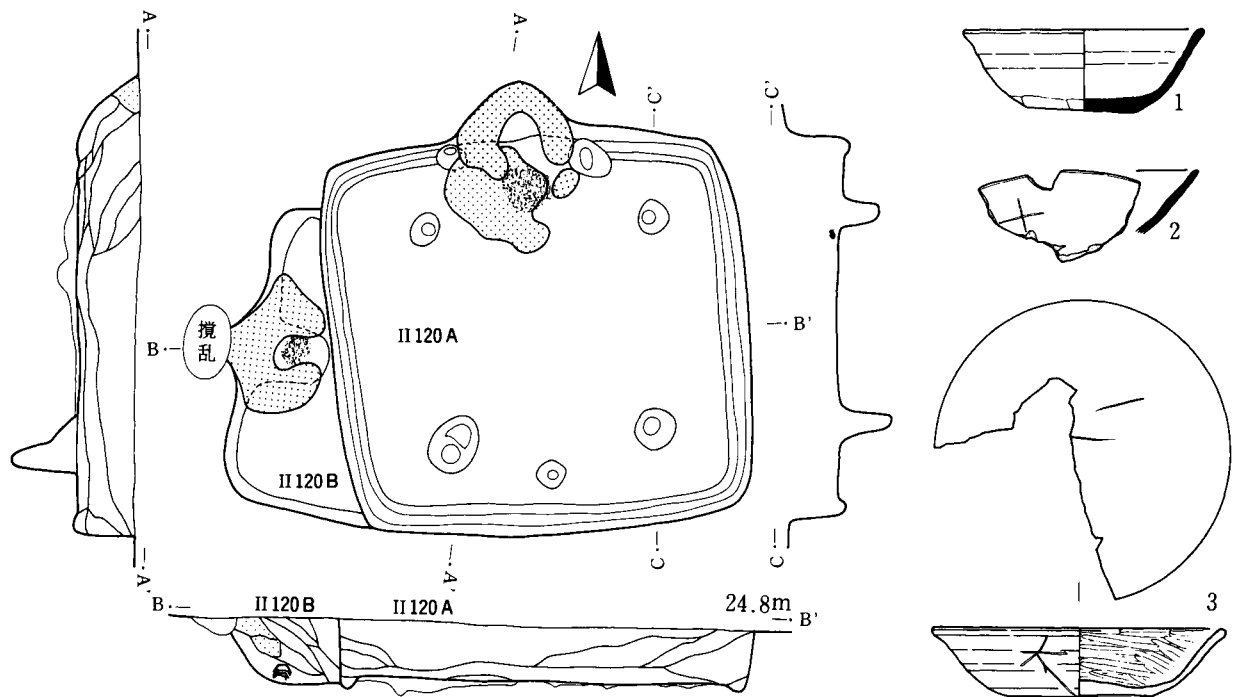
第204图 II118

II 120A・120B (第205・206図、図版75・76・167～169)

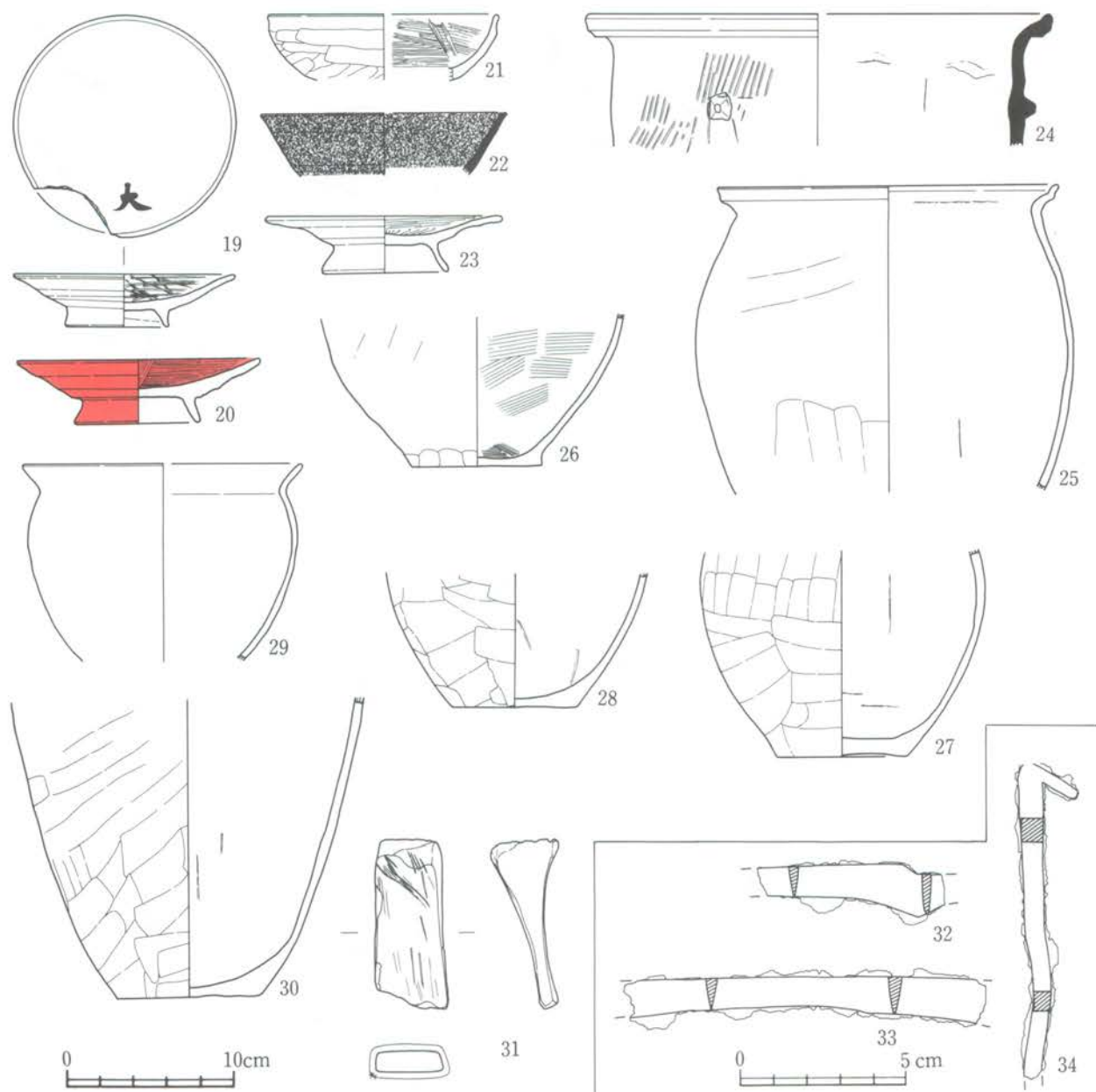
120Aが120Bより新しい。120Aでは4本の支柱穴と竈袖脇に2本の柱を検出した。120Bの竈内火床部最奥では、下から順に甕・甕・杯・小型甕を4点重ねた状況が見られた。「七万」、「大」、「依」の墨書土器が見られる。杯は大半が土師器である。31は細かな線状の砥ぎ跡が残る砥石である。34は先端が鋭角に折れ曲がった釘で、断面が方形となる。床面直上から出土している。なお、遺物の分布は、120Aの西半分から120Bの全域と、かなり偏りが見られる。

表169 II 120A・120B

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第205図の1	須恵器 杯	12.4	4.4	5.6	雲母・砂粒・スコリア含む	灰褐色		3、132、134、138
第205図の2	須恵器 杯	-	-	-	-	-	線刻(体外) 「田」	1、3
第205図の3	土師器 杯	15.1	3.6	7.6	雲母・スコリア・砂粒含む	明黄褐色	線刻(体外) 「大」 線刻(底内) 「口」	3、4、8、159、162
第205図の4	土師器 杯	-	-	(6.0)	-	-	墨書(底内) 「大」	56
第205図の5	土師器 杯	-	-	(7.6)	-	-	墨書(底内) 「因」	20
第205図の6	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) 「大」	37
第205図の7	土師器 杯	(12.4)	4.0	7.6	雲母・スコリア含む	橙褐色	墨書(底内) 「因」	3、4、50、91
第205図の8	土師器 杯	(12.2)	4.0	5.4	雲母多く含む	橙色	墨書(底内) 「依」	2、3、87、89、207
第205図の9	土師器 杯	7.2	4.5	7.1	雲母・砂粒含む	明赤褐色		4、232
第205図の10	土師器 杯	12.7	3.7	6.9	雲母・砂粒・スコリア含む	暗褐色		200
第205図の11	土師器 杯	(13.6)	4.0	8.4	雲母・砂粒・スコリア含む	橙色	墨書(体内) 「七万」	1、2、3、176
第205図の12	土師器 杯	12.7	3.2	6.4	雲母多量に含む	橙色	線刻(底内) 「十」	201
第205図の13	土師器 杯	14.4	4.1	8.2	雲母・スコリア・砂粒含む	明赤褐色～暗褐色		205
第205図の14	土師器 鉢	(22.4)	7.0	(8.0)	雲母・スコリア・砂粒含む	橙色		113、143
第205図の15	土師器 杯	14.4	4.5	8.1	雲母・スコリア・砂粒含む	橙色		3、4、15、59、72、74、192
第205図の16	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) 「申牛」 (合わせ字)	4
第205図の17	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) 「大」	3、4
第205図の18	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底外) 「口」	4
第206図の19	土師器 高台付皿	13.0	3.1	6.0	雲母・砂粒含む	明赤褐色	墨書(体内) 「大」	202
第206図の20	土師器 高台付皿	14.2	7.4	13.2	雲母・スコリア・砂粒含む	橙色	内外面赤彩	4、198
第206図の21	土師器 杯	(13.6)	-	-	-	-		75
第206図の22	灰釉陶器塊	(14.7)	-	-	砂粒含む	外面灰白色 内面緑灰色	猿投窯産	4
第206図の23	土師器 高台付皿	13.9	3.5	7.4	-	-		3、4、126、182
第206図の24	須恵器 甕	(28.0)	8.0	-	-	灰色		32、57、68、242
第206図の25	土師器 甕	20.4	-	-	石英・長石・砂粒多量に含む	黄褐色		3、4、82、199、209、212、213、214、215、216、218、220、221、222、223、229、233、239、246、248、253
第206図の26	土師器 甕	-	-	7.9	-	橙色	底内ハケ目 底外木葉痕	233
第206図の27	土師器 甕	-	-	7.8	雲母・石英・長石・スコリア含む	橙色		234、237、240
第206図の28	土師器 甕	-	-	7.4	石英・長石・砂粒多量に含む	明赤褐色～黒褐色		217
第206図の29	土師器 小型甕	(16.6)	-	-	長石・砂粒含む	褐色～暗褐色		1、14、180
第206図の30	土師器 甕	-	-	8.5	雲母・石英・長石含む	橙褐色		3、6、7、160、211、229
第206図の31	砥石	137.4g	-	-	凝灰岩	-		150
第206図の32	刀子	残存長 5.6	-	-	鉄製品	-		170
第206図の33	刀子	残存長 10.5	-	-	鉄製品	-		226
第206図の34	釘	残存長 9.2	-	-	鉄製品	-	断面方形	63



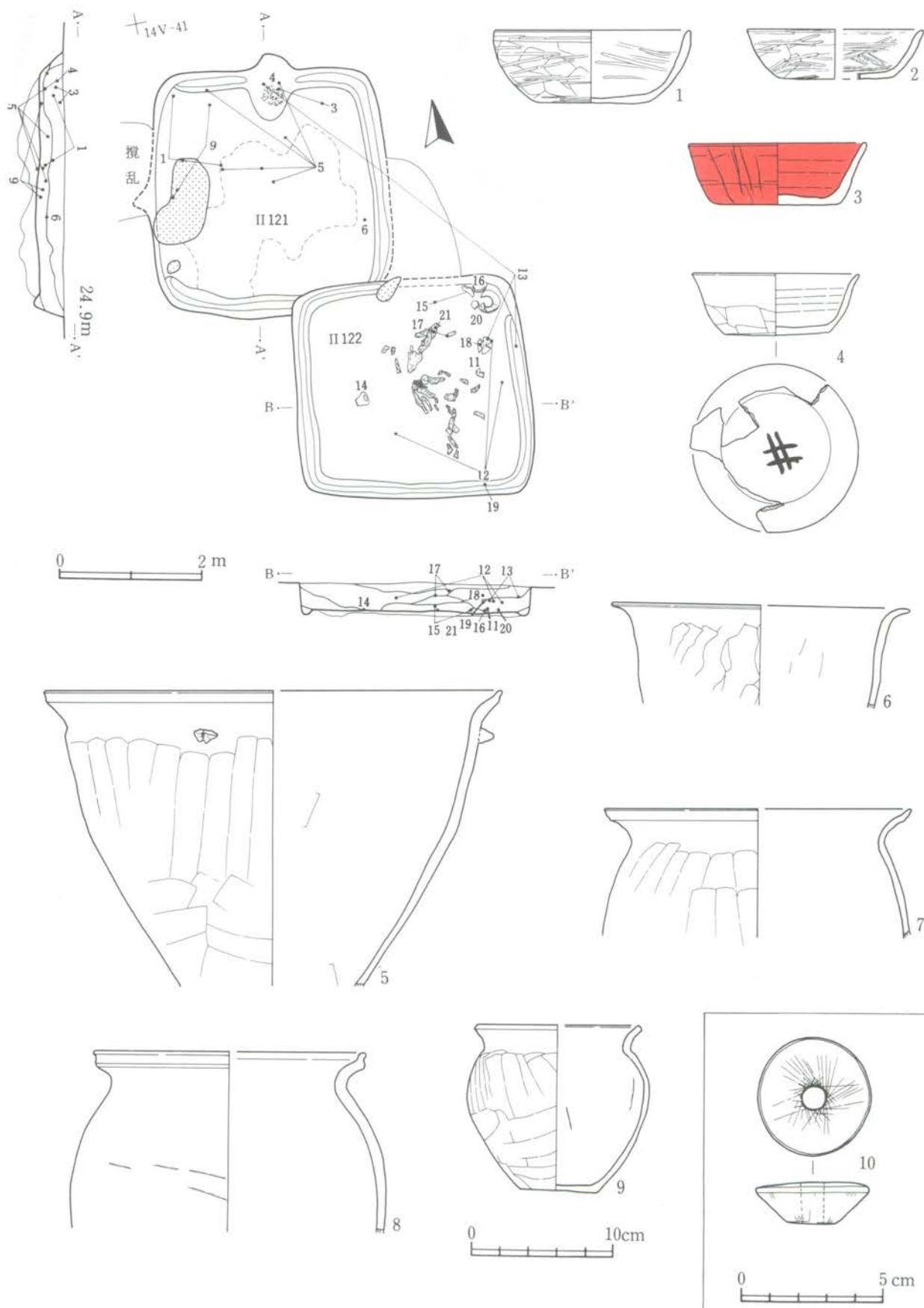
第205図 II 120A (1)・120B (1)



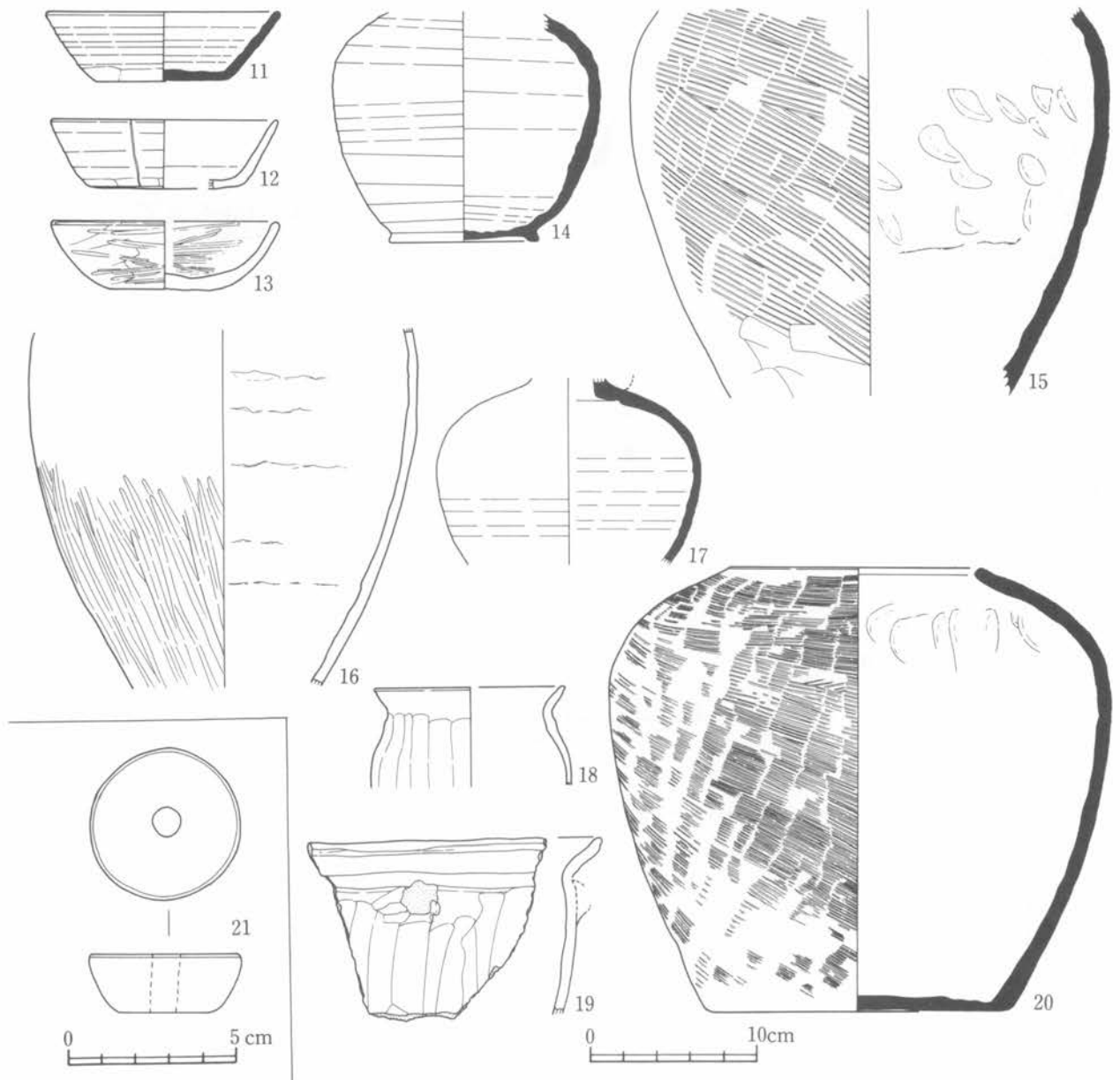
第206図 II120A(2)・120B(2)

II121・122 (第207・208図、図版76)

121の南東壁と122の北西壁が重複する。重複箇所には攪乱が入っており、切合い関係ははっきりしない。121は北壁及び西壁に竈を有するが、袖の遺存状況から見て、西竈の方が新しい。掘り方は深く、厚く床を貼っている。122の竈は左袖の基底部分が遺存するのみである。また、床面に近い位置から炭化材や焼土が大量に出土している。



第207图 II 121(1) · 122(1)



第208図 II121(2)・122(2)

表170 II121

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第207図の1	土師器 杯	13.8	5.1	8.2	スコリア多量に含む	明赤褐色		14、18、33、一括
第207図の2	土師器 杯	(12.4)	3.5	(8.0)	砂粒含む	褐色～黒褐色		一括
第207図の3	土師器 杯	12.2	4.3	8.6	砂粒含む	赤褐色	線刻(体外) □ 内外面赤彩	0、7、21、一括
第207図の4	土師器 杯	11.4	4.3	7.4	—	暗橙色	墨書(底外) 「井」	20、一括、II122-3、一括
第207図の5	土師器 甕	(31.8)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		10、11、13、20、24、25、37、一括
第207図の6	土師器 甕	(20.9)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	淡褐色		27、一括
第207図の7	土師器 甕	(21.2)	—	—	雲母・砂粒含む	黒褐色		一括、II122-24
第207図の8	土師器 甕	(19.0)	—	—	石英・長石多量に含む	暗褐色		8、一括
第207図の9	土師器小型甕	(11.3)	11.6	5.4	雲母・石英・長石・砂粒含む	黒褐色～明赤褐色		15、16、19、一括
第207図の10	紡錘車	上面径 4.0	最大高 1.5	下面径 1.7	滑石、33.1g	—		0

表171 II 1 2 2

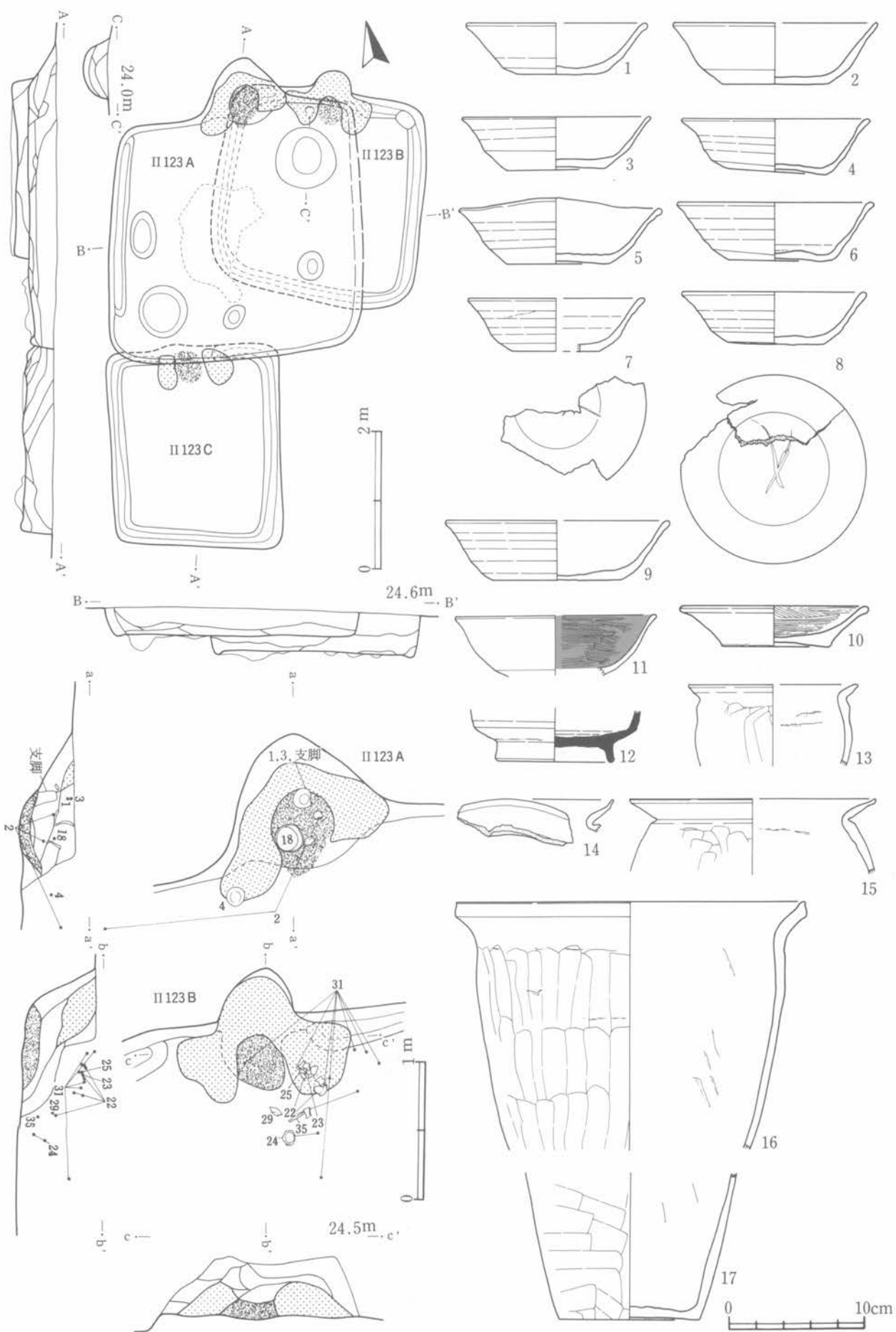
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第208図の11	須恵器 杯	13.4	4.3	7.5	雲母多量に含む	灰色		26
第208図の12	土師器 杯	13.2	4.2	(8.9)	砂粒少し含む	明赤褐色	線刻(体外) □□	3、5、15、21、25
第208図の13	土師器 杯	(13.4)	4.0	6.6	雲母・砂粒含む	暗褐色		1、10、16、II 121-22
第208図の14	須恵器 壺	—	—	8.8	長石・砂粒含む	灰白色		32
第208図の15	須恵器 甕	—	—	—	雲母・長石含む	灰色		7、29
第208図の16	土師器 甕	—	—	—	雲母・石英・長石多く含む	明褐色～暗褐色	常総型	28
第208図の17	須恵器 壺	—	—	—	長石・砂粒含む	灰色～灰白色		8、31
第208図の18	土師器 小型甕	(11.0)	—	—	雲母・砂粒含む	黒褐色		17
第208図の19	土師器 甕	—	—	—	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色～暗褐色		18
第208図の20	須恵器 甕	14.8	26.1	17.9	雲母多量に含む	暗青灰色～青灰色	底外網代状圧痕	1、27
第208図の21	紡錘車	上面径 4.5	最大高 1.7	下面径 2.7	滑石、54.3g	—		33

II 123A・123B・123C (第209～211図、図版77・78・167・168)

3軒の住居が重複しているが、123Aが最も新しい。支柱穴はいずれの住居でも確認していない。123Aの竈内には直立した支脚の上に、杯・甕片・甕片・杯の順で被せた状況が見られた。支脚の高さを調整したものであろう。123Bは住居西側の半分以上を削平されるが、床面はかろうじて残っている。竈周辺の遺物量が多い。28・32の土師器は竈と反対側の住居南側床面直上から出土した。35の大形の刀子は竈上面の埋土中から出土している。竈前面の大きな円形ピットは埋土中に、焼土粒や山砂を少量含んでいる。123Cは遺物から見ても3軒中最も古い住居である。遺物量は少ないが、竈内(37)及び袖脇(36)から正位の状態の杯が出土した。また、南西コーナー付近から正位の甕(38)が出土した。埋土上層からは39の鉄製紡錘車が出土した。

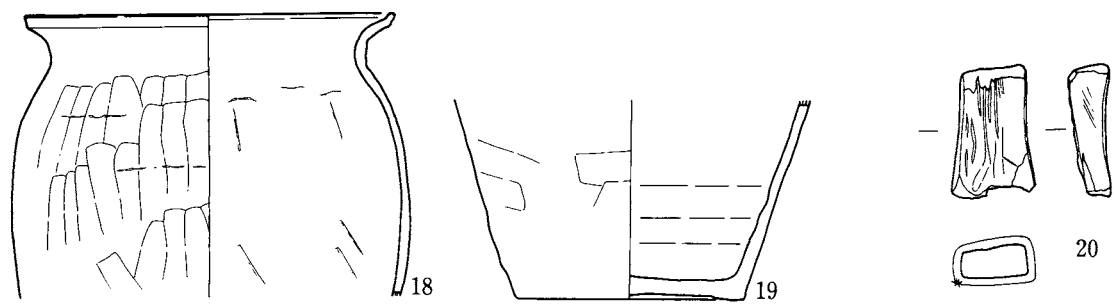
表172 II 1 2 3 A・B・C

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第209図の1	土師器 杯	(13.2)	3.8	5.8	石英・スコリア含む	明黄褐色		233
第209図の2	土師器 杯	(14.8)	4.6	7.8	長石・砂粒・スコリア含む	暗褐色		64、228、229、239
第209図の3	土師器 杯	13.8	4.0	7.2	雲母・スコリア・砂粒含む	暗褐色		230、239
第209図の4	土師器 杯	13.4	4.2	7.0	雲母・スコリア・砂粒含む	褐色		219
第209図の5	土師器 杯	14.6	4.8	7.4	雲母・石英・長石スコリア含む	褐色		1、3、71、73、146、149、158、240
第209図の6	土師器 杯	14.0	4.3	6.8	雲母・スコリア含む	褐色		3、4、183
第209図の7	土師器 杯	(12.7)	3.9	(6.5)	雲母・砂粒含む	明褐色	線刻(底外) □□	2、90、121、207
第209図の8	土師器 杯	13.2	3.8	7.1	—	褐色	ヘラ書き(底外) □□	210、211
第209図の9	土師器 杯	(16.2)	4.4	9.4	砂粒多く含む	明黄褐色		55、60、62、220、234、239
第209図の10	土師器 皿	13.4	2.9	7.8	雲母・砂粒含む	暗褐色		32、44
第209図の11	土師器 杯	14.6	—	—	白色針状物・スコリア含む	外面淡褐色 内面黒色	内黒	2、3、195、196
第209図の12	須恵器 高台付杯	—	—	8.4	長石・砂粒含む	緑灰色		147
第209図の13	土師器 小型甕	(12.4)	—	—	長石・スコリア含む	明褐色		3、189
第209図の14	土師器 小型甕	—	—	—	長石・砂粒含む	褐色		86
第209図の15	土師器 甕	(10.0)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	褐色		21
第209図の16	土師器 甕	25.5	—	—	雲母・砂粒・スコリア含む	暗黄褐色		182
第209図の17	土師器 甕	—	—	10.2	雲母・砂粒・スコリア含む	明黄褐色～黒褐色		48、224、226、235
第210図の18	土師器 甕	19.4	15.0	—	雲母・石英・長石・砂粒含む	明赤褐色		221
第210図の19	土師器 甕	—	10.5	11.8	雲母多く含む	明赤褐色		141、142、143、144、II 123 B-59、60
第210図の20	砥石	71.7g	—	—	凝灰岩			7
第210図の21	土師器 杯	14.4	4.6	6.6	雲母・石英・スコリア含む	黒褐色		138
第210図の22	土師器 杯	13.5	4.2	(6.1)	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		47、50、53、54、II 123 A-1、168
第210図の23	土師器 杯	(13.9)	3.6	5.9	長石・スコリア含む	明褐色～暗褐色		61
第210図の24	土師器 杯	(13.6)	4.1	7.4	雲母・長石・スコリア含む	褐色		45、46、68、69
第210図の25	土師器 杯	13.1	3.8	6.8	雲母・長石・スコリア含む	褐色		62
第210図の26	須恵器 杯	13.7	4.2	7.9	雲母・長石含む	灰色	線刻(底外) □女	2、26、27、28、68
第210図の27	土師器 杯	12.5	3.7	6.3	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		49、64、II 123 A-78
第210図の28	土師器 杯	13.2	4.0	9.3	長石・スコリア含む	褐色		67
第210図の29	土師器 皿	13.0	3.1	7.8	雲母・スコリア含む	褐色～暗褐色		48、II 123 A-4
第210図の30	土師器 小型甕	(11.0)	9.7	(6.0)	石英・長石・スコリア含む	褐色～暗褐色		II 123 A-2、128



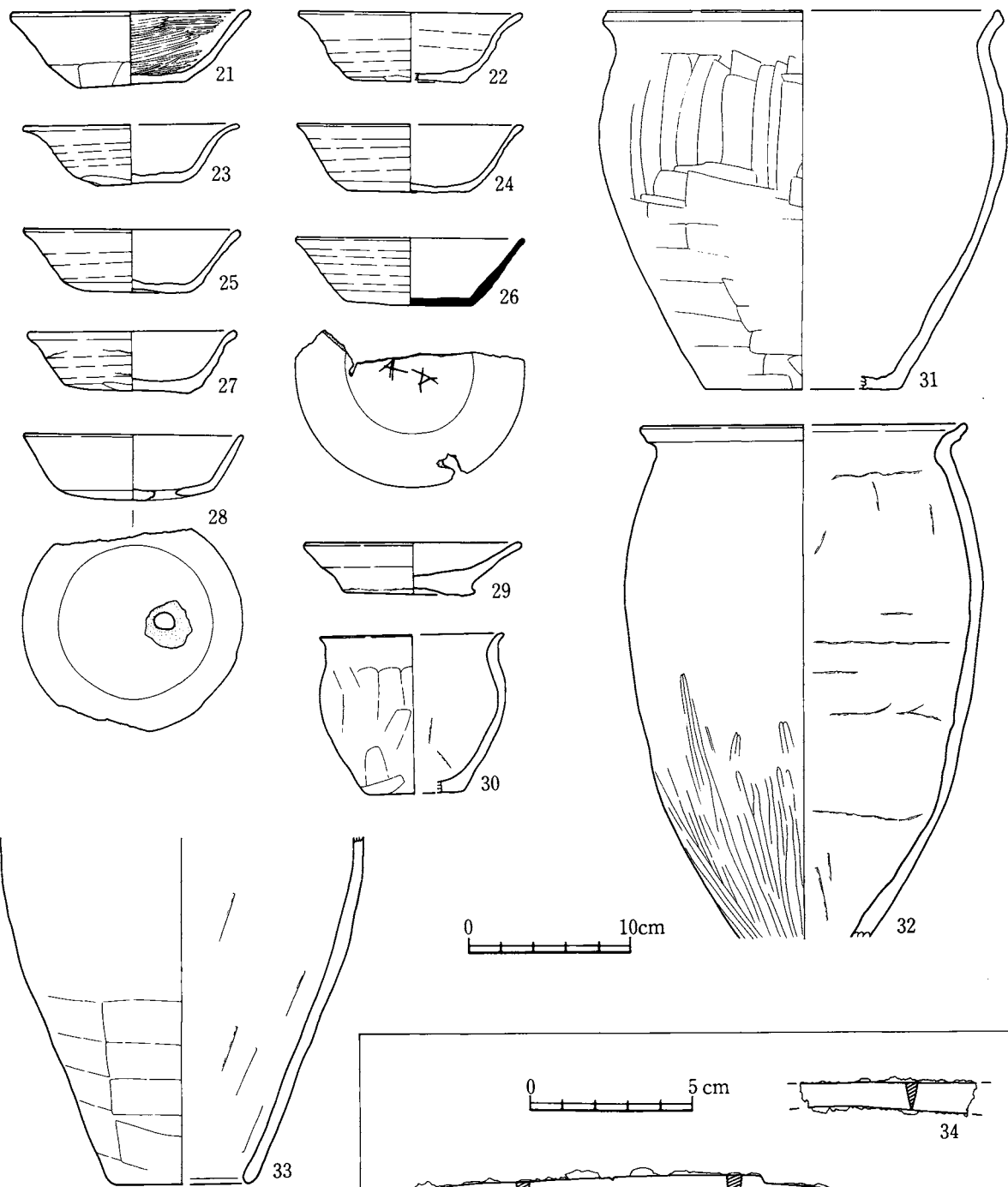
第209図 II 123A(1)・123B(1)・123C(1)



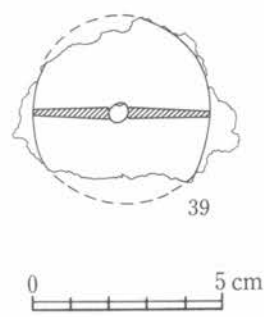
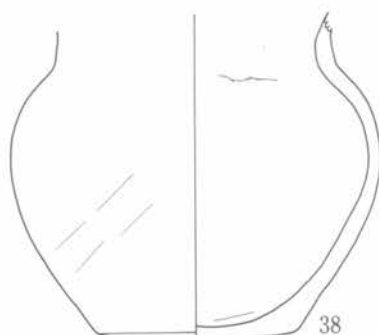
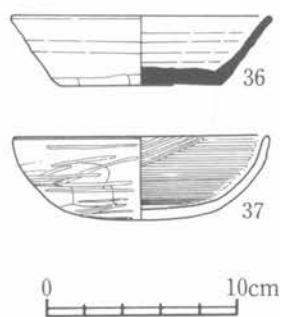


II 123A

II 123B



第210图 II 123A(2) · 123B(2)



第211図 II123C(2)

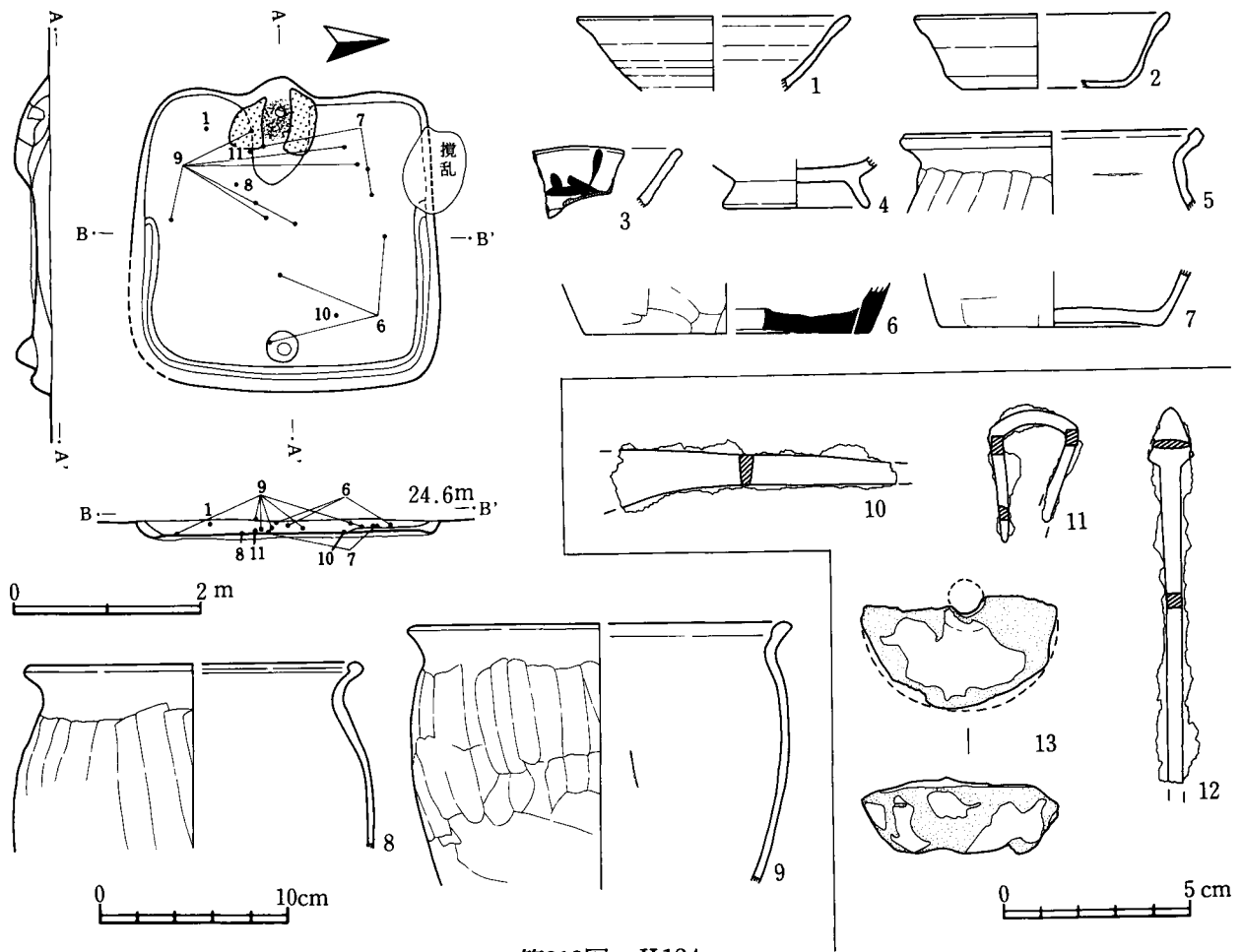
第210図の31	土師器	壺	(23.9)	22.9	(12.0)	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		5、52、64、68、II123A-132、137、139、140、145、172
第210図の32	土師器	壺	(9.7)	-	-	石英・長石多く含む	暗褐色	常総型	66
第210図の33	土師器	瓶	-	-	(8.0)	雲母・長石・石英多く含む	暗褐色		2、23、42、43
第210図の34	刀子	残存長 5.4	-	-	-	鉄製品	-		41
第210図の35	刀子	残存長 18.5	-	-	-	鉄製品	-		63
第211図の36	須恵器	杯	13.3	3.7	8.4	石英・長石・雲母多く含む	灰色		19、23、II123A-240
第211図の37	土師器	杯	13.2	4.5	-	砂粒・スコリア含む	暗褐色		23
第211図の38	土師器	壺	-	-	10.4	スコリア多量に含む	赤褐色		21
第211図の39	紡錘車	直径 4.6 厚さ 0.3	-	-	-	鉄製品	-		11

II124 (第212図、図版78・168・169)

掘込みの浅い住居で、遺存状況は良くない。竈火床面から直立した状態の支脚を検出した。遺物は残存状況の不良なものが多いが、鉄製品が3点出土している。11は断面が長方形で、U字型を呈する。先端が細くなっている。

表173 II124

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第212図の1	土師器 杯	(14.5)	-	-	砂粒含む	赤褐色		4、42、93
第212図の2	土師器 杯	(13.9)	4.0	(9.0)	雲母・石英・スコリア含む	橙色		一括
第212図の3	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「支」	一括
第212図の4	土師器 高台付皿	-	-	-	雲母・スコリア含む	橙色~明赤褐色		一括
第212図の5	土師器小型壺	(15.5)	-	-	-	-		0
第212図の6	須恵器 瓶	-	-	(15.2)	長石・砂粒・スコリア含む	褐色		9、15、90
第212図の7	土師器 壺	-	-	11.8	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		61、63、78
第212図の8	土師器 壺	(17.3)	-	-	雲母・石英・長石含む	暗褐色		4、55
第212図の9	土師器 壺	(19.5)	-	-	雲母・石英・長石含む	暗褐色		3、32、39、64、65、87、89、91
第212図の10	刀子	残存長 7.4	-	-	鉄製品	-	茎のみ	54
第212図の11	不明鉄製品	縦 3.5 横 2.4	-	-	-	-	断面長方形	77
第212図の12	鉄鏃	鏃身幅 1.1	鏃身長 1.5	残存長 9.8	-	-		2
第212図の13	紡錘車	-	-	-	砂粒含む	-	剝離著しい	0



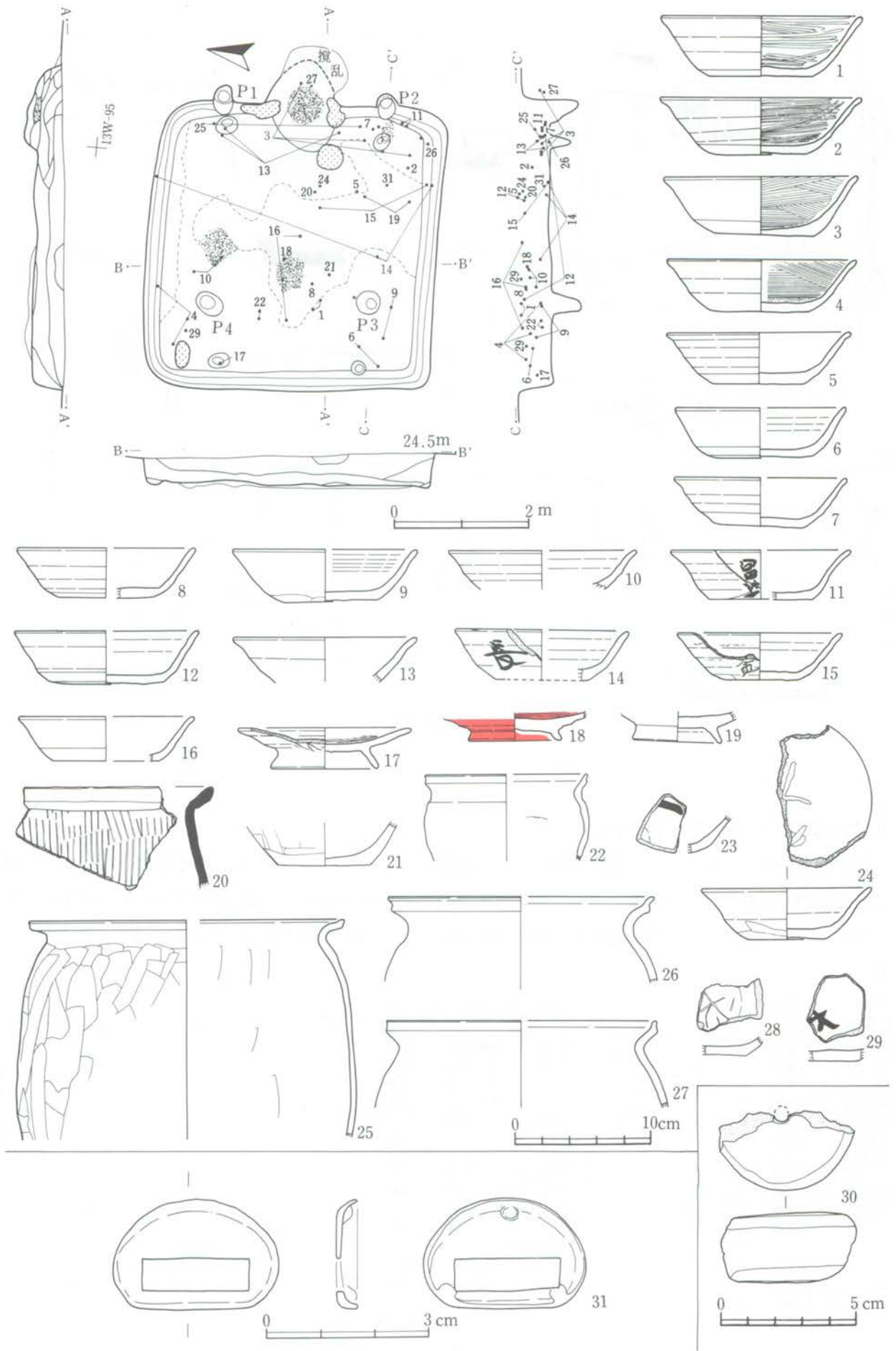
第212図 II124

II125 (第213図、図版78・79・165・175)

北側壁を挟り込むように住居側に内傾した柱穴が掘られていた。これらと対になるのはP3とP4で、非常に変則的な位置に柱穴がある。この4本の柱穴以外のピットは貼床除去後に検出されたものである。埋土中から3つの脚鉾をもつ青銅製の帯金具(丸柄)が出土している。杯はほとんどが土師器で占められている。

表174 II125

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第213図の1	土師器 杯	14.2	4.5	7.4	スコリア・砂粒含む	橙色		1、280、281
第213図の2	土師器 杯	14.6	4.3	7.1	雲母・スコリア・砂粒含む	暗橙色		60
第213図の3	土師器 杯	14.0	4.6	7.8	雲母・スコリア・砂粒含む	暗橙色		200、206、258、327
第213図の4	土師器 杯	(13.8)	3.8	7.2	スコリア・砂粒含む	明黄褐色		110、162、188
第213図の5	土師器 杯	13.2	3.8	6.7	雲母・スコリア・砂粒含む	明赤褐色		83
第213図の6	土師器 杯	(12.4)	3.5	7.8	雲母・スコリア含む	橙色		40、43
第213図の7	土師器 杯	(12.6)	3.5	6.7	雲母・スコリア・砂粒含む	橙色		255、315、329
第213図の8	土師器 杯	(12.8)	3.7	(7.0)	雲母・スコリア・砂粒含む	橙色		305
第213図の9	土師器 杯	(13.4)	3.9	6.8	雲母・スコリア・砂粒含む	黒褐色		103、182
第213図の10	土師器 杯	(13.7)	—	—	雲母・砂粒含む	暗褐色		1、155、266、267
第213図の11	土師器 杯	(13.0)	3.6	(7.6)	雲母・スコリア多く含む	橙褐色	墨書(体外)「富」 or「富」	204、227、329
第213図の12	土師器 杯	(13.2)	—	8.4	雲母多量に含む	橙色		2、95、203
第213図の13	土師器 杯	13.4	—	—	雲母・スコリア・砂粒含む	橙色		234、235、320、329
第213図の14	土師器 杯	(12.4)	—	—	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「長」	2、194、293、294
第213図の15	土師器 杯	12.0	3.4	5.8	雲母・長石・スコリア含む	暗橙色～黒褐色	線刻(体外)「益」	289、296



第213图 II125

第213図の16	土師器 杯	(12.6)	3.3	(6.8)	雲母・スコリア・砂粒含む	橙色		27、28、115
第213図の17	土師器 高台付皿	12.3	3.0	7.5	雲母・長石・石英・スコリア含む	橙色	線刻(体外) 「□」	146
第213図の18	土師器 高台付皿	—	—	6.8	雲母・長石・石英・スコリア含む	暗褐色	体内外赤彩	3、272
第213図の19	土師器 高台付皿	—	—	6.7	雲母・スコリア・砂粒含む	橙色		0、69、71
第213図の20	須恵器 甕	—	—	—	長石・白色針状物含む	暗赤褐色		290
第213図の21	土師器小型甕	—	—	6.8	雲母・長石・スコリア含む	褐色		1、87
第213図の22	土師器小型甕	(11.7)	—	—	雲母・石英・長石多量に含む	橙褐色		3、139、140
第213図の23	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体内) 「□」	0
第213図の24	土師器 杯	12.1	3.7	5.6	雲母・長石・石英・砂粒含む	暗橙色	線刻(底内) 「□」	292
第213図の25	土師器 甕	(22.6)	—	—	雲母・長石・石英多量に含む	淡橙褐色		244、256、329
第213図の26	土師器 甕	(19.0)	—	—	雲母・石英・長石多量に含む	淡橙褐色	常総型	202
第213図の27	土師器 甕	(19.7)	—	—	雲母・石英・長石多量に含む	褐色	常総型	328、329
第213図の28	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内) 「大」	1
第213図の29	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内) 「大」	22
第213図の30	紡錘車	—	最大高 2.5	—	雲母・長石・スコリア含む	褐色		2
第213図の31	帯金具	横 3.0	縦 2.0	厚さ0.4	青銅製品、丸納	—	3か所で留める	196

## II 126 (第214・215図、図版79)

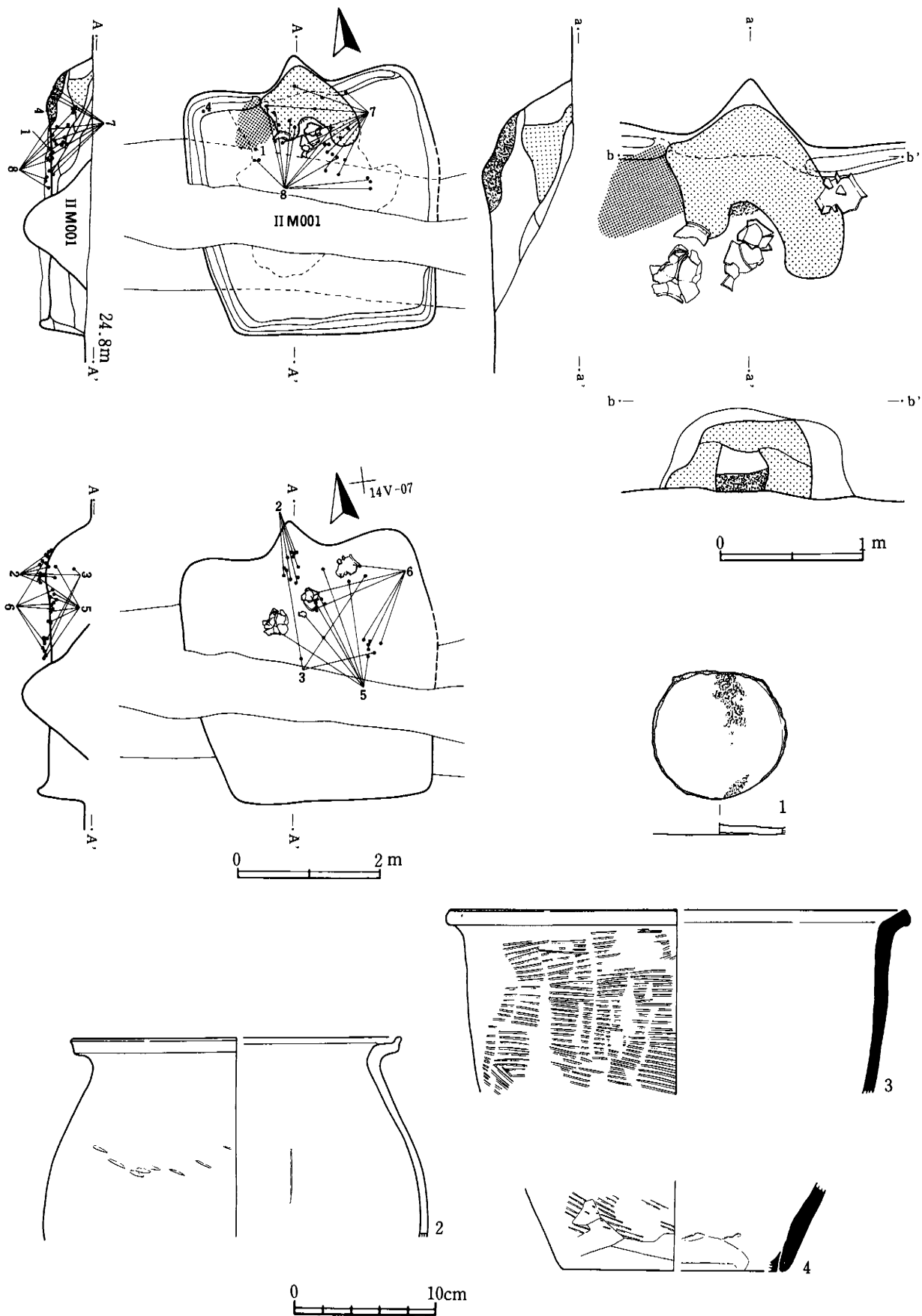
住居中央部を東西方向にII M001が横切っている。竈内及び竈前面に甕の出土量が多い。

表175 II 1 2 6

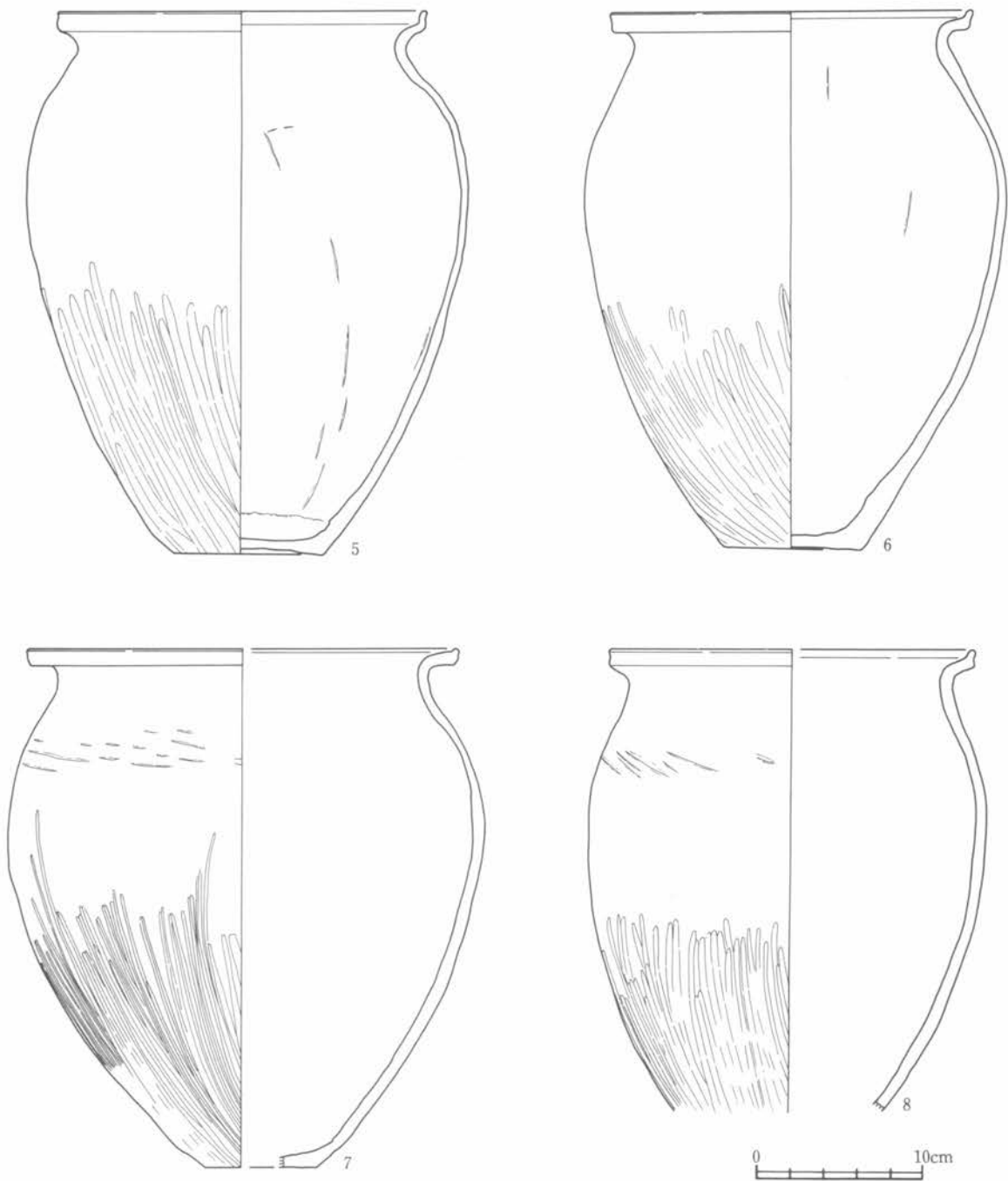
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第214図の1	土師器小型甕	—	—	—	雲母・長石・スコリア含む	褐色	底内タール状の付着物有り	31
第214図の2	土師器 甕	(22.8)	—	—	雲母・石英・長石含む	褐色	常総型	63、72、73、74、75、76、78、79、80、81、84、86
第214図の3	須恵器 甕	(31.9)	—	—	雲母・長石・石英多く含む	暗灰色	新治産、4と同一個体の可能性有り	20、39、42、44、45
第214図の4	須恵器 甕	—	—	(15.6)	長石多く含む	灰褐色	新治産	35
第215図の5	土師器 甕	22.0	32.5	9.0	雲母・石英・長石多く含む	橙褐色	常総型	11、12、18、39、50、52、53、56、57、60、61、69
第215図の6	土師器 甕	21.5	32.3	8.1	雲母・石英・長石・砂粒多く含む	淡橙褐色	常総型	10、13、23、24、25、27、40、41、58、61、62
第215図の7	土師器 甕	(25.6)	31.0	(6.6)	石英・長石多く含む	橙褐色	常総型	5、8、16、21、22、28、34、39、47、49、55、59、67、70、80、85、86
第215図の8	土師器 甕	(21.7)	—	—	雲母・石英・長石多く含む	褐色	常総型	6、9、14、18、19、30、34、36、37、38、40、46、54、64、65、66、85

## II 127 (第216・217図、図版80・154)

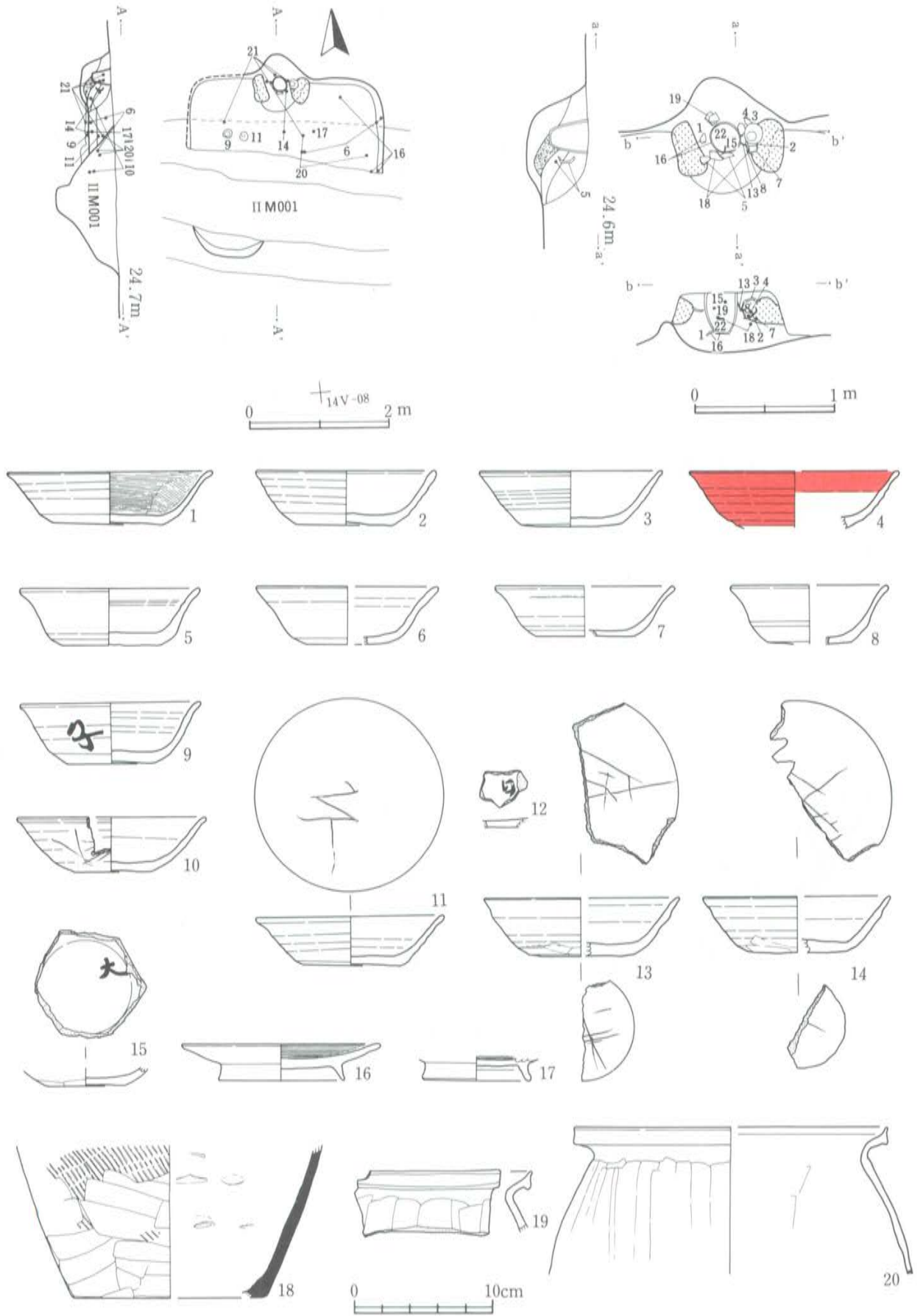
南側半分をII M001により削平される住居である。竈内では火床部に甕が正位で立ち、甕の周りには杯類を押し込めているような状況が見られた。この甕は遺構確認の際に、口縁部を削り取られている。



第214图 II126(1)

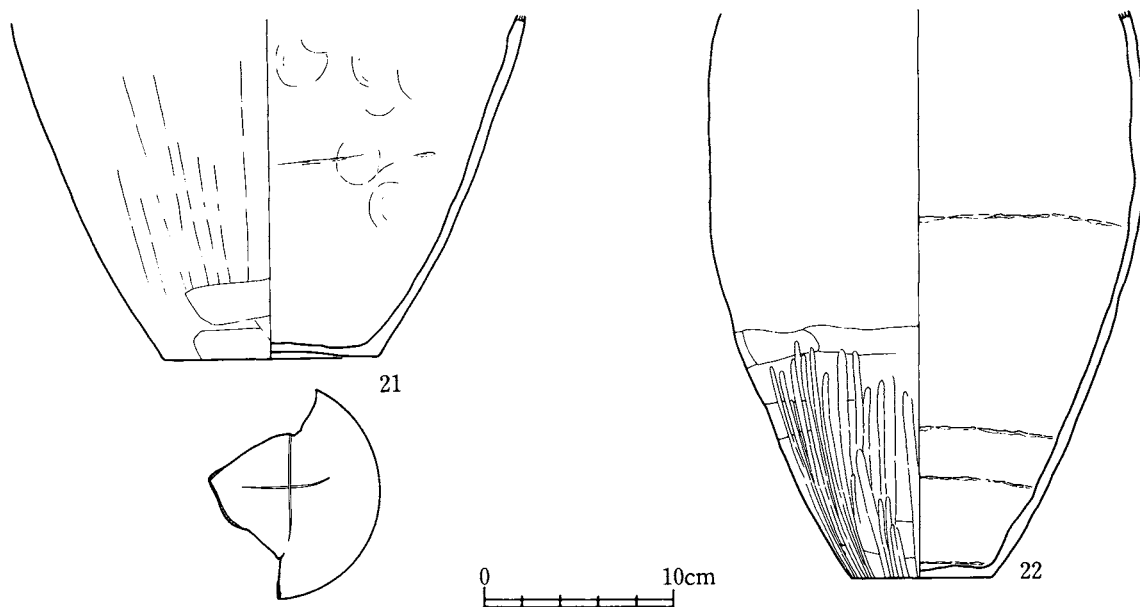


第215図 II126(2)



第216图 II127(1)





第217図 II127(2)

表176 II 1 2 7

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第216図の1	土師器 杯	14.0	3.5	7.7	雲母・スコリア含む	明赤褐色		52、55
第216図の2	土師器 杯	12.6	3.8	6.8	雲母・砂粒含む	橙色		47
第216図の3	土師器 杯	12.9	3.9	7.2	雲母含む	褐色～橙色		39
第216図の4	土師器 杯 (14.7)	—	4.0	—	雲母・砂粒含む	明黄褐色	赤彩	2、46
第216図の5	土師器 杯	6.6	4.0	7.0	雲母・長石・スコリア含む	黒褐色～赤褐色		33、53
第216図の6	土師器 杯 (12.8)	4.1	(5.8)	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		1、2、13、22、24	
第216図の7	土師器 杯 (12.6)	3.6	(7.0)	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		45	
第216図の8	土師器 杯 (11.0)	4.2	(6.0)	雲母・スコリア含む	明赤褐色		44、55	
第216図の9	土師器 杯	12.8	4.2	6.2	砂粒含む	明赤褐色	墨書(体外) 「子」	7
第216図の10	土師器 杯	13.4	3.9	5.3	雲母・砂粒含む	明黄褐色	線刻(体外) □	18、31、32
第216図の11	土師器 杯	13.2	3.9	6.9	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(底内) □	8
第216図の12	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内) □	2
第216図の13	土師器 杯 (13.9)	4.1	(6.5)	雲母・長石含む	橙色	線刻(底内) □ 線刻(底外) □	41	
第216図の14	土師器 杯 (13.3)	4.0	(7.0)	雲母・石英・長石含む	橙色	線刻(底内) □ 線刻(底外) □	30、42	
第216図の15	土師器 杯	—	—	5.5	—	—	墨書(底内) 「大」	50
第216図の16	土師器 高台付皿	7.0	2.5	9.4	雲母・砂粒・スコリア含む	黒褐色		51、52、55
第216図の17	土師器 高台付皿	—	—	7.7	雲母・砂粒含む	橙色		14
第216図の18	須恵器 甕	—	—	(13.5)	雲母・長石・砂粒含む	灰褐色		34、48
第216図の19	土師器 甕	—	—	—	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		38
第216図の20	土師器 甕 (22.2)	—	—	—	雲母・石英・長石・砂粒含む	赤褐色		10、11、26
第217図の21	土師器 甕	—	—	11.2	石英・長石・砂粒含む	橙褐色	ヘラ書き(底外) □	1、10、35、36、37、40、52、55
第217図の22	土師器 甕	—	—	7.3	雲母・石英・長石含む	—	常総型	50、51、57

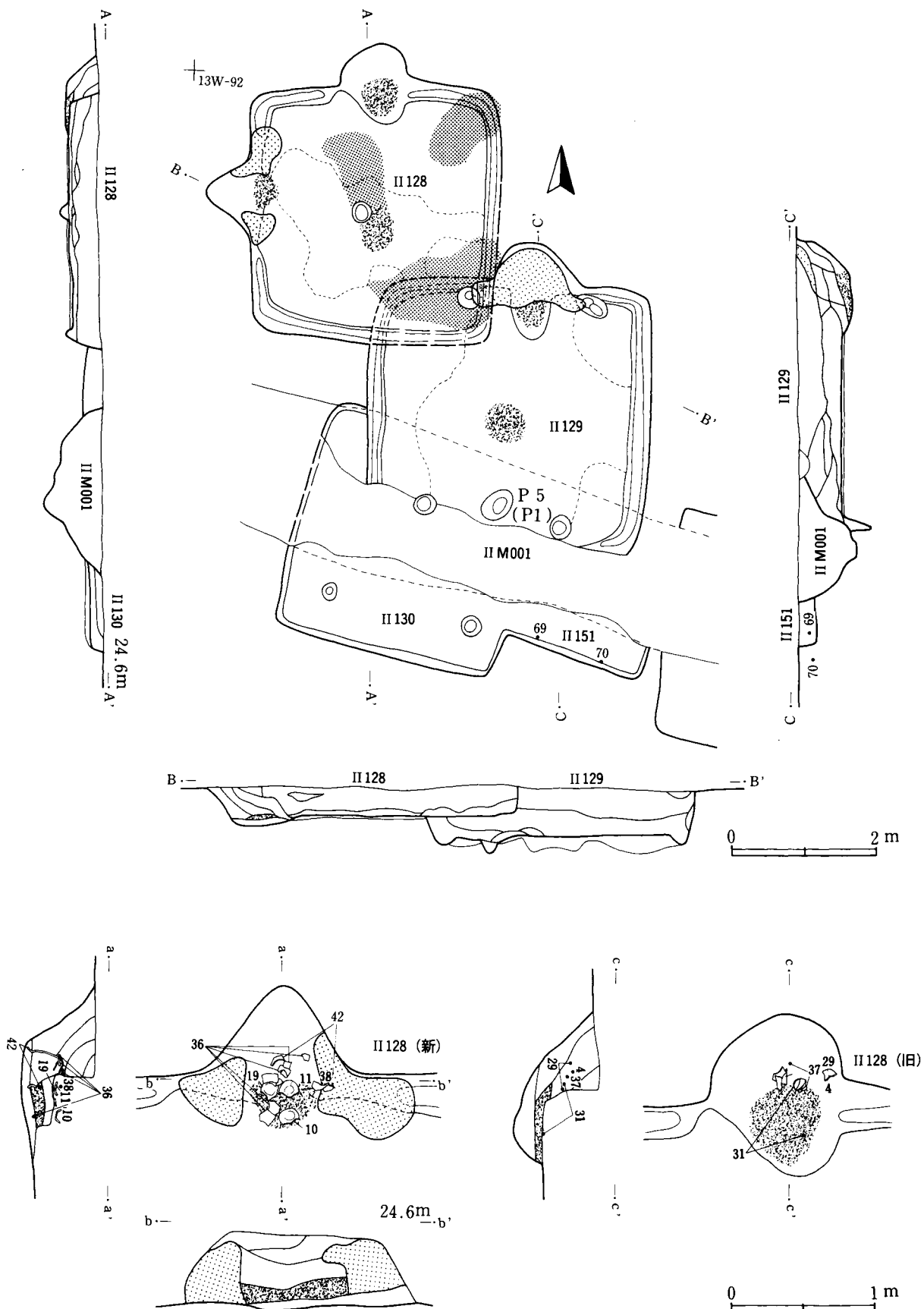
II128・129・130・151 (第218～221図、図版80・81・154・155・165・168・169)

4軒の住居が重複し、さらにII M001が128を除く3軒を削平している。切合い関係からみて最も新しいのが128で、次いで129、最も古いのが130と151である。128には北壁と西壁に1基ずつの竈があるが、袖の残りからみて、西竈の方が新しい。住居埋土には大量の焼土が含まれ、埋土内の遺物が極めて多いのが特徴である。竈内には倒位の甕や杯類が遺存していた。129は支柱穴が竈側及びその対面の壁面に寄っている。

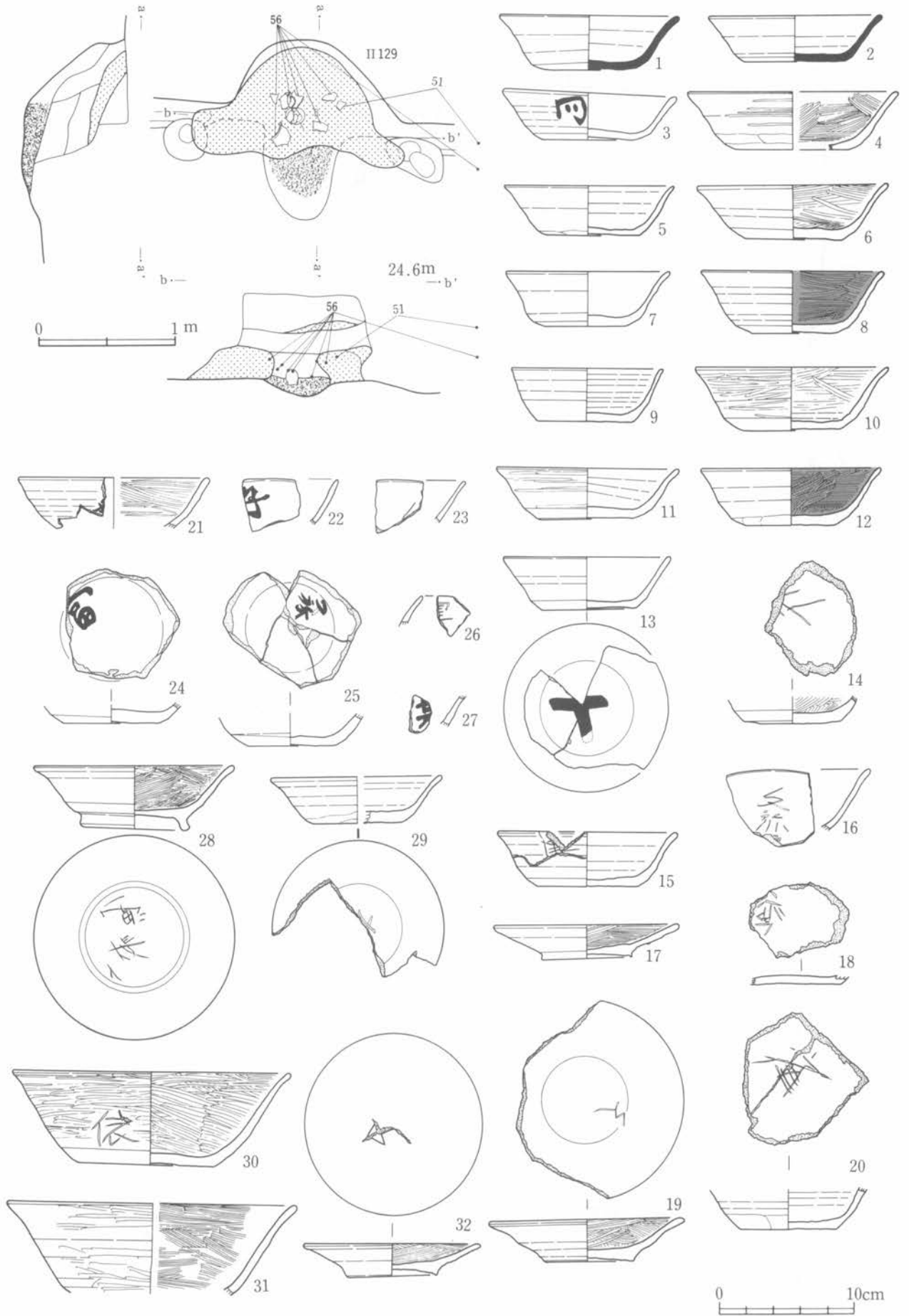
竈側の柱穴は、竈袖部のすぐ脇に位置する。竈内の火床部最奥の底面に、小型甕が倒位で出土した。竈内には、ほかにも甕類の出土が目立つ。57の鉄製品は先端が大きく折れ曲がり、欠損している。58の鉄鍬は埋土中層から出土した。130の竈は129に壊され遺存しない。柱穴の3本が遺存する。うちP1は、129のP5と重なる。このため、129のP5は、掘込みがひとまわり大きい。130は掘込みが浅く、床面のみを残す住居である。151は南側の一部のみが遺存する。67・68の鉄製紡錘車は、床面直上から一括して出土している。また、同地点から66の木質部を残す鉄製品が出土している。

表177 II 128・129・130・151

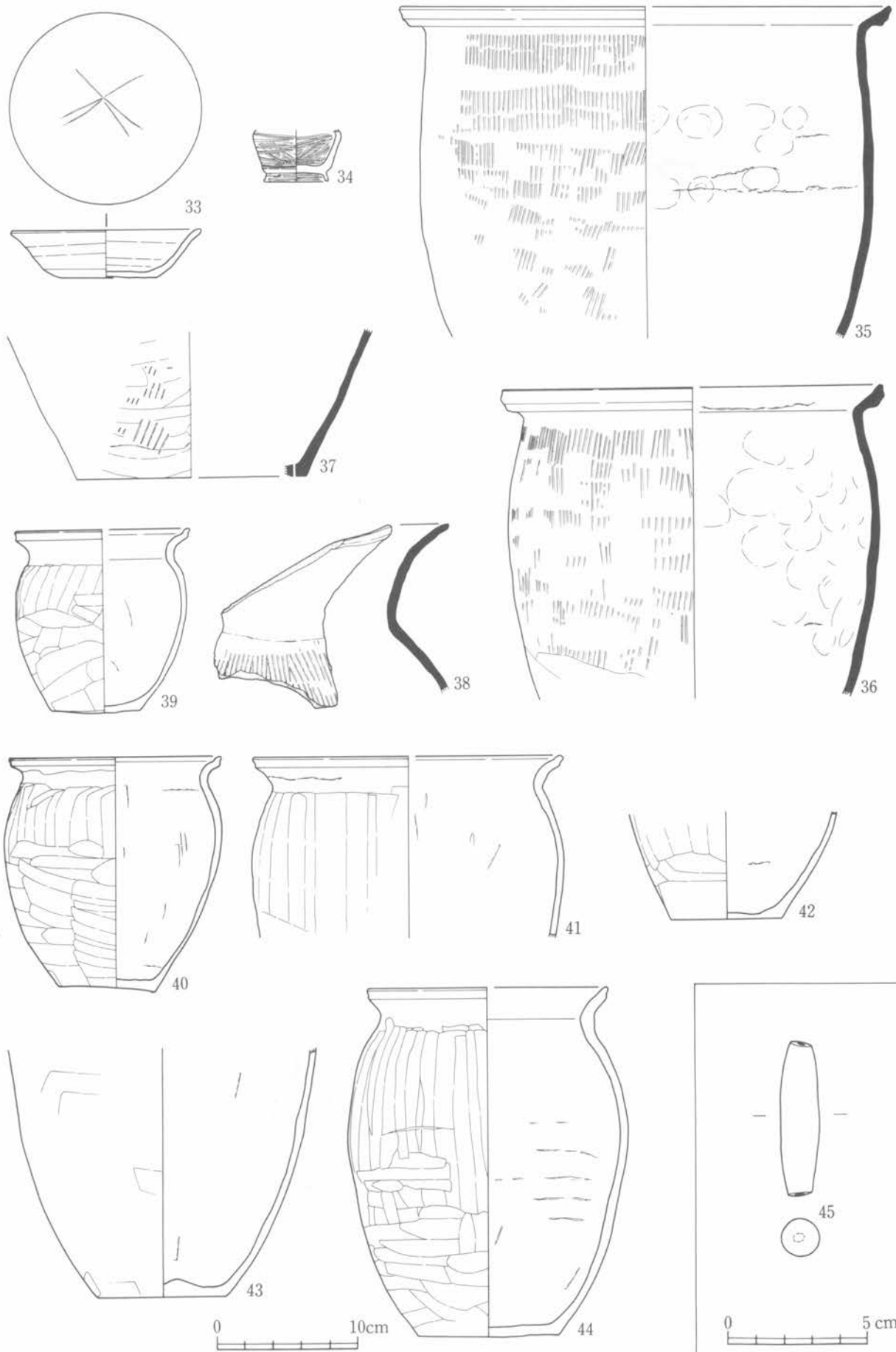
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第219図の1	須恵器 杯	12.9	4.1	6.9	雲母・長石・スコリア含む	黒褐色～赤褐色		4、175、185、187
第219図の2	須恵器 杯	12.3	3.4	7.2	雲母・スコリア含む	橙色		62
第219図の3	土師器 杯	12.5	3.7	5.7	雲母多く含む	黄褐色	墨書(体外) 「III」	1、149、150
第219図の4	土師器 杯	(15.2)	4.3	(8.4)	雲母・長石・スコリア含む	明赤褐色		310
第219図の5	土師器 杯	12.4	3.7	6.9	雲母・スコリア含む	明赤褐色		1、2、3、24、40、131、132、189
第219図の6	土師器 杯	13.8	4.1	7.0	雲母・スコリア含む	橙色		305
第219図の7	土師器 杯	(12.0)	4.0	5.9	雲母・石英・長石・スコリア含む	橙色		1、4、203
第219図の8	土師器 杯	(13.2)	4.6	6.2	石英・長石・スコリア含む	外面橙色 内面黒色	内黒	4、313
第219図の9	土師器 杯	11.0	3.8	7.0	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		1、103、104、114
第219図の10	土師器 杯	14.0	4.6	7.2	雲母・石英・長石含む	明赤褐色		266
第219図の11	土師器 杯	13.2	3.8	6.6	雲母・スコリア含む	褐色		273
第219図の12	土師器 杯	13.0	4.2	6.6	スコリア多量に含む	外面橙色 内面黒色	内黒	307
第219図の13	土師器 杯	12.2	3.9	6.7	雲母・スコリア・砂粒含む	暗褐色	墨書(底外) 「+」	3、63、75
第219図の14	土師器 杯	—	—	7.0	—	—	線刻(底内) 「□」	61
第219図の15	土師器 杯	12.9	3.9	7.2	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(体外) 「□」	3、22、202、222
第219図の16	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体外) 「久弥良」	100
第219図の17	土師器 皿	13.6	2.5	6.7	石英・長石・スコリア含む	橙色		176、188
第219図の18	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内) 「久弥良」	112
第219図の19	土師器 皿	13.9	3.0	6.3	雲母・砂粒・スコリア含む	褐色	線刻(底内) 「久」	269
第219図の20	土師器 杯	—	—	6.9	—	—	線刻(底内) 「□」	1、77、89
第219図の21	土師器 杯	(13.8)	—	—	雲母含む	明赤褐色	墨書(体外) 「□□」	1、5
第219図の22	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) 「子」	140
第219図の23	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体外) 「□」、内黒	4
第219図の24	土師器 杯	—	—	7.0	—	—	墨書(底内) 「富」	74
第219図の25	土師器 杯	—	—	6.4	—	—	墨書(底内) 「久弥」	
第219図の26	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体内) 「里」、内黒	1
第219図の27	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) 「七万」	3
第219図の28	土師器 高台付杯	14.4	4.7	7.2	雲母含む	明赤褐色	線刻(底外) 「富長」	306
第219図の29	土師器 杯	(12.3)	3.4	(6.4)	石英・スコリア含む	褐色	へら書き(底外) 「大」	261、264、312
第219図の30	土師器 鉢	20.0	6.8	10.0	雲母・石英・長石・スコリア含む	黒褐色～赤褐色	線刻(体外) 「依」	167、172、173、175
第219図の31	土師器 鉢	20.9	—	—	雲母・長石含む	赤褐色		239、262
第219図の32	土師器 高台付皿	8.6	2.4	6.4	—	—	線刻(底内) 「□」	3、39、135
第220図の33	土師器 杯	13.2	3.4	6.6	雲母・スコリア含む	明赤褐色	線刻(底内) 「□」	294
第220図の34	土師器 壺	—	3.8	4.5	雲母・砂粒・スコリア含む	褐色		161
第220図の35	須恵器 甕	(35.0)	—	—	石英・長石・砂粒多く含む	明赤褐色		267、268、286、288、290、299
第220図の36	須恵器 甕	(26.8)	—	—	石英・長石・砂粒含む	明褐色		105、298
第220図の37	須恵器 甕	—	—	(16.4)	雲母・長石・スコリア含む	灰褐色		257
第220図の38	須恵器 甕	—	—	—	長石・白色針状物含む	赤褐色		279
第220図の39	土師器 小型甕	(12.2)	12.9	6.3	石英・長石・砂粒含む	褐色		127、128、129、164
第220図の40	土師器 小型甕	14.6	16.2	6.8	雲母多く含む	褐色		2、307、308、309
第220図の41	土師器 甕	(21.8)	12.8	—	雲母・石英・長石含む	橙褐色		99、251、278、280
第220図の42	土師器 小型甕	—	—	7.8	雲母・石英・長石・砂粒含む	明褐色		283、291、311
第220図の43	土師器 甕	—	—	9.0	石英・長石・砂粒含む	淡橙褐色		143、166、250、270、272、274、275、276、277、281、282、285、311
第220図の44	土師器 甕	(16.9)	24.5	10.0	雲母・石英・長石・砂粒含む	赤褐色		128、186、291、292、295、296、300、303、304、311、316
第220図の45	土錘	最大径 1.4	長さ5.4	—	長石・砂粒含む	黒褐色		227



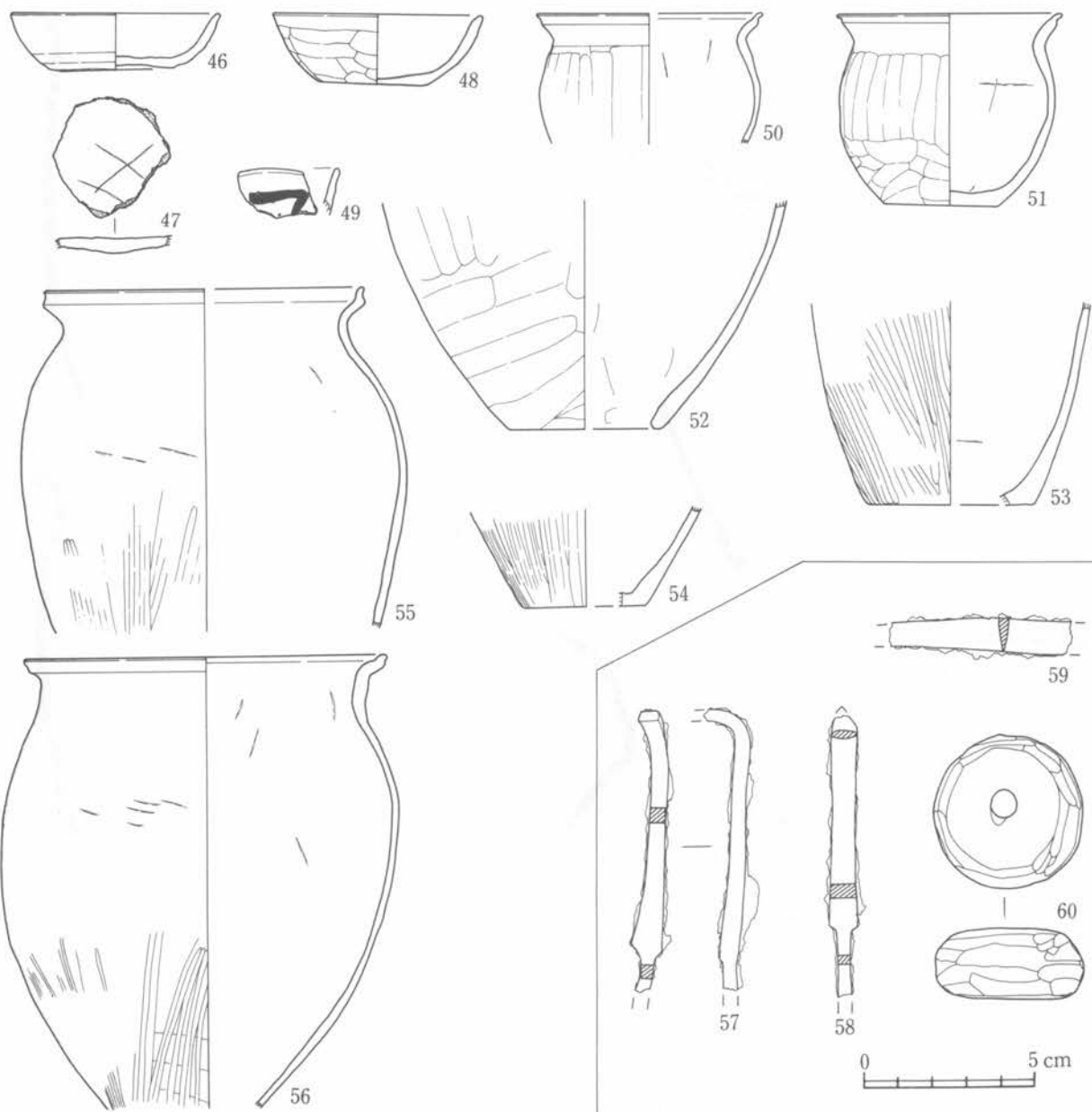
第218図 II 128(1)・129(1)・130(1)・151(1)



第219图 II 128(2) · 129(2)

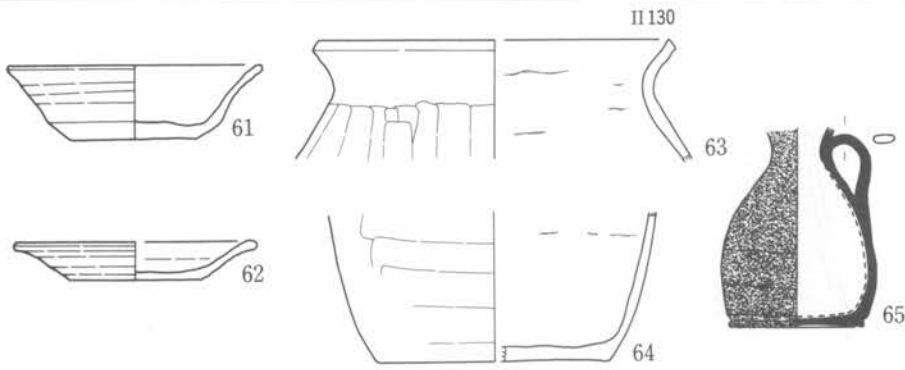


第220图 II128(3)



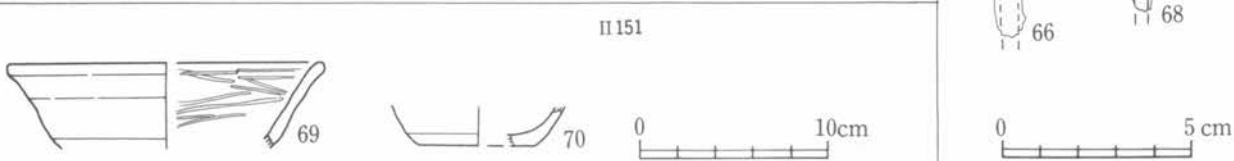
II 129

II 129



II 130

II 130



II 151

0

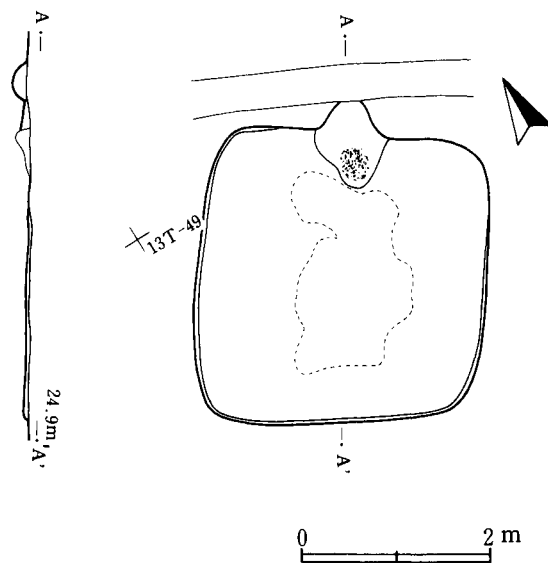
5 cm

第221図 II 129(3)・130(2)・151(2)

第221図の46	土師器	杯	11.8	3.4	7.2	雲母・スコリア含む	橙色		1、138
第221図の47	土師器	杯	—	—	—	—	—	線刻(底外) □	134
第221図の48	土師器	杯	12.0	4.1	6.3	雲母・長石・スコリア含む	明黄褐色		71
第221図の49	土師器	杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) □	167
第221図の50	土師器	小型甕	(13.1)	—	—	雲母・石英・長石含む	明赤褐色		1、3、109
第221図の51	土師器	小型甕	12.8	11.4	6.7	石英・長石含む	明褐色		156
第221図の52	土師器	甕	—	—	(8.9)	石英・長石含む	明赤褐色		68、72、78、85、86、87、97、98
第221図の53	土師器	甕	—	—	(9.8)	雲母・長石含む	暗褐色	常総型	4、47、50、111、II128-65
第221図の54	土師器	甕	—	—	(7.1)	石英・長石多く含む	明褐色	常総型	63、161
第221図の55	土師器	甕	(18.5)	—	—	雲母・石英・長石・砂粒含む	褐色	常総型	139、142、143、164
第221図の56	土師器	甕	20.7	—	—	石英・長石・砂粒多く含む	明褐色～暗褐色	常総型	64、147、149、150、151、152、153、154、155、157、162、164、II128-226
第221図の57	不明鉄製品	残存長	7.2	—	—	—	—	断面方形	7
第221図の58	鉄鏃	鏃身幅	0.8	残存長	8.1	—	—	—	127
第221図の59	刀子	残存長	5.3	—	—	鉄製品	—	—	73
第221図の60	紡錘車	最大径	4.4	最大高	2.0	長石・砂粒含む	黒色	—	52
第221図の61	土師器	杯	13.0	3.9	6.6	—	橙色	—	33
第221図の62	土師器	杯	(12.6)	2.0	6.8	—	暗赤褐色	—	30
第221図の63	土師器	甕	(18.4)	—	—	石英・長石・スコリア含む	橙褐色	—	12
第221図の64	土師器	甕	—	—	(12.0)	石英・長石・砂粒含む	明褐色～黒褐色	—	26、27、28、29
第221図の65	灰釉陶器	手付水注	—	—	7.0	長石含む	灰色	—	38
第221図の66	不明鉄製品	残存長	4.1	—	—	—	—	—	9
第221図の67	紡錘車	直径	3.8	厚さ	0.3	鉄製品	—	—	9
第221図の68	紡錘車	軸幅	0.5	—	—	鉄製品	—	—	9
第221図の69	土師器	杯	(16.4)	—	—	砂粒含む	赤褐色	—	2
第221図の70	土師器	杯	—	—	(6.0)	雲母・スコリア含む	橙色	—	3

## II 131 (第222図、図版81)

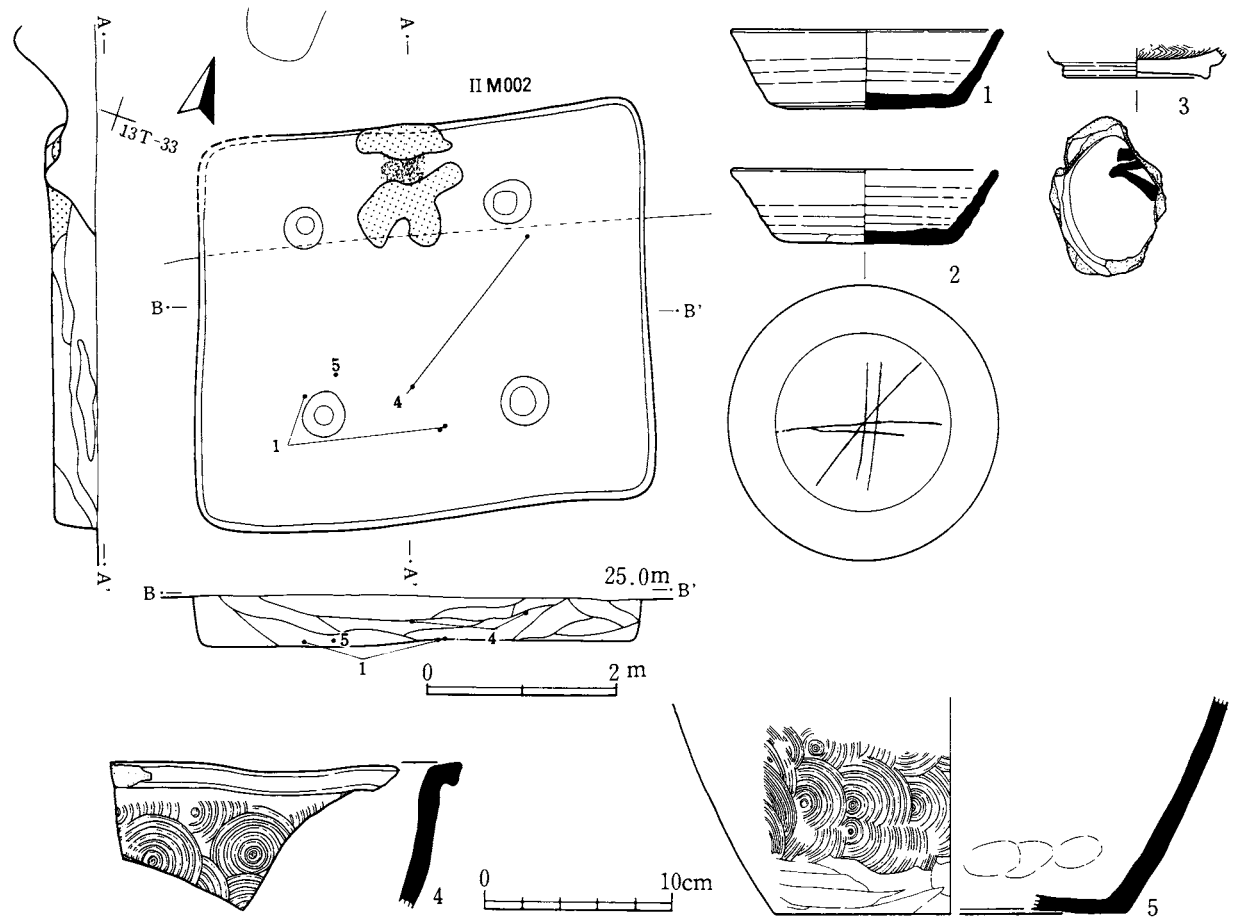
掘込みが非常に浅いため、壁の立上りが不明瞭な住居である。北東壁側に竈の痕跡がある。



第222図 II 131

II 132 (第223図、図版81)

II M002に西側を削平される住居である。掘込みは浅く、4本の支柱穴をもつが、壁溝はなく、遺物量は、さほど多くない。



第223図 II 132

表178 II 1 3 2

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第223図の1	須恵器 杯	14.1	4.2	9.5	雲母多く含む	暗灰色		2、5、8、23
第223図の2	須恵器 杯	13.8	3.8	9.0	長石含む	黄灰色	線刻(底外) 「□」	18
第223図の3	土師器 高台付杯	-	-	7.4	-	-	墨書(底外) 「之」	1
第223図の4	須恵器 甕	-	-	-	石英・長石含む	暗青灰色		10、20
第223図の5	須恵器 甕	-	-	(18.4)	石英・長石含む	暗青灰色		7

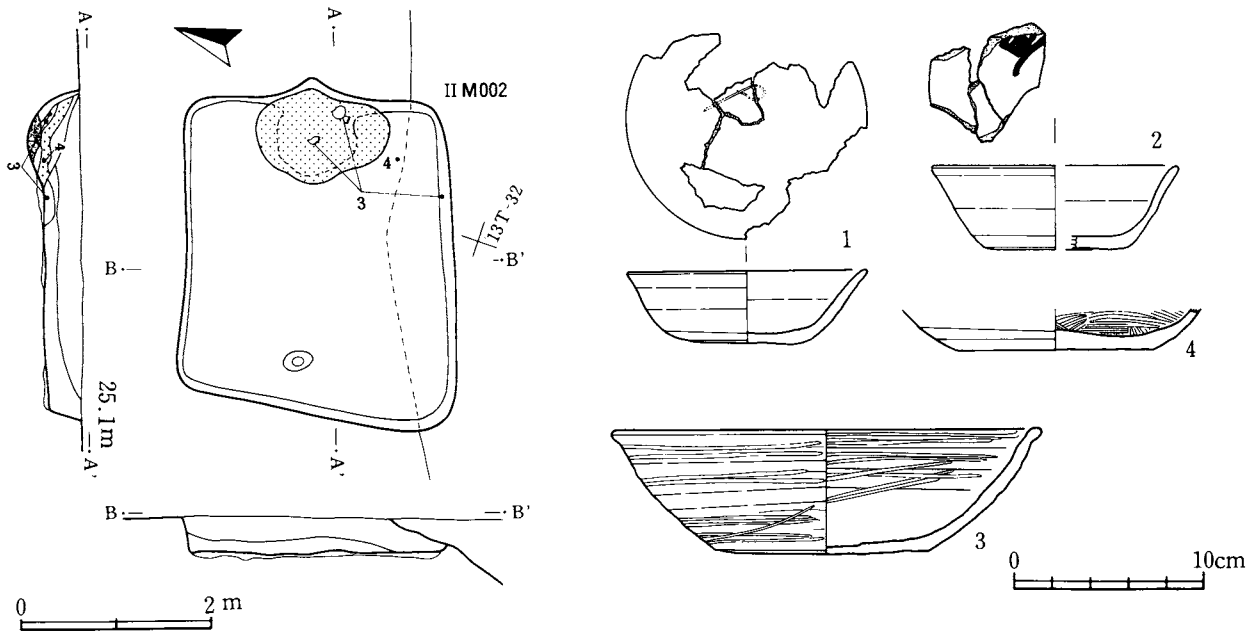
II 133 (第224図、図版82・155)

II M002に南側を削平される住居である。小型で長方形を呈する。竈内から土師器碗が出土した。

表179 II 1 3 3

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第224図の1	土師器 杯	12.3	3.8	5.7	雲母・砂粒含む	明赤褐色	線刻(底内) 「□」	3、13、15
第224図の2	土師器 杯	(12.8)	4.4	(7.4)	雲母・砂粒含む	橙色	墨書(底内) 「里」	1、2
第224図の3	土師器 碗	21.1	6.5	11.0	雲母・砂粒含む	橙色		9、10、11、12、13
第224図の4	土師器 碗	-	-	10.2	石英・長石含む	黄褐色		8

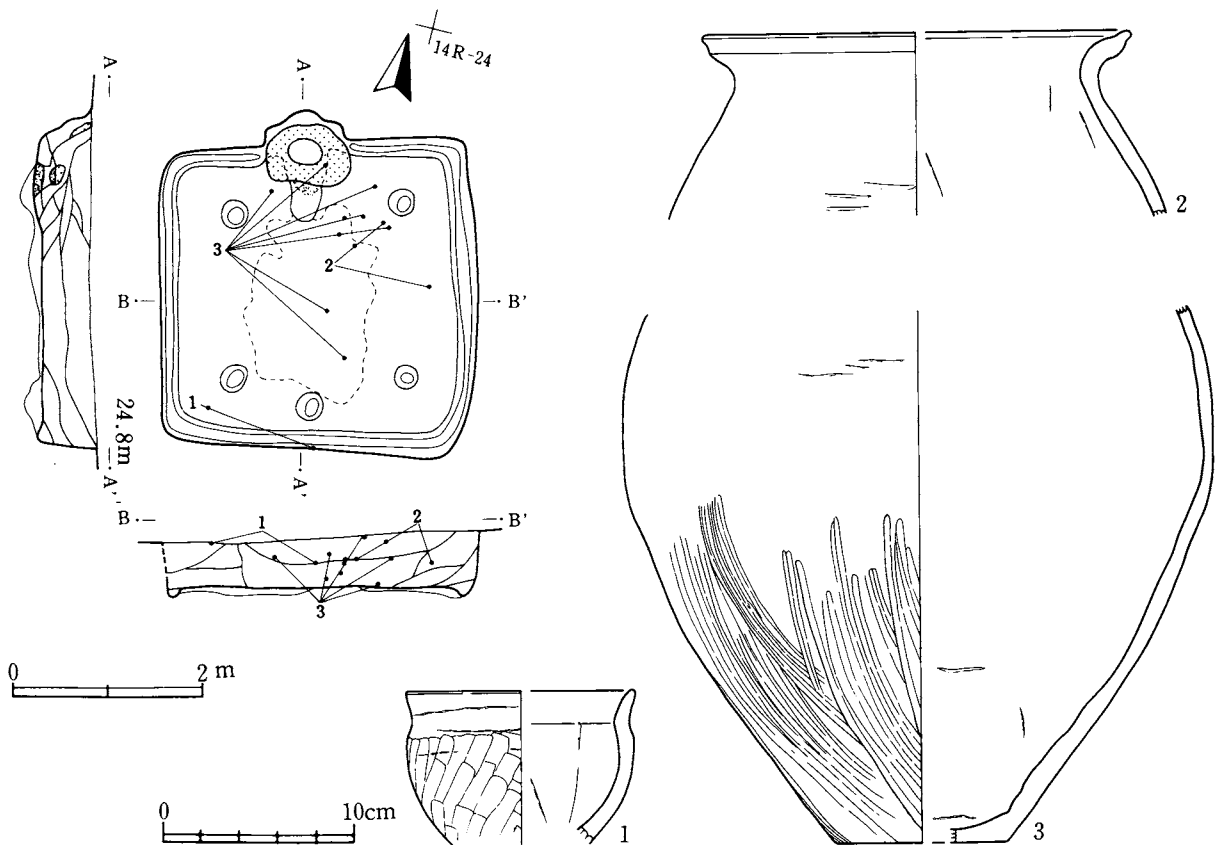




第224図 II133

II134 (第225図、図版82・155)

しっかりした掘込みで、整った形の住居である。竈の掘り方は、左右両袖部分が壁を大きく挟り込んでいる。また、土層の観察から、煙道部と火床部の境になると考えられる埋戻しによる段差を確認した。



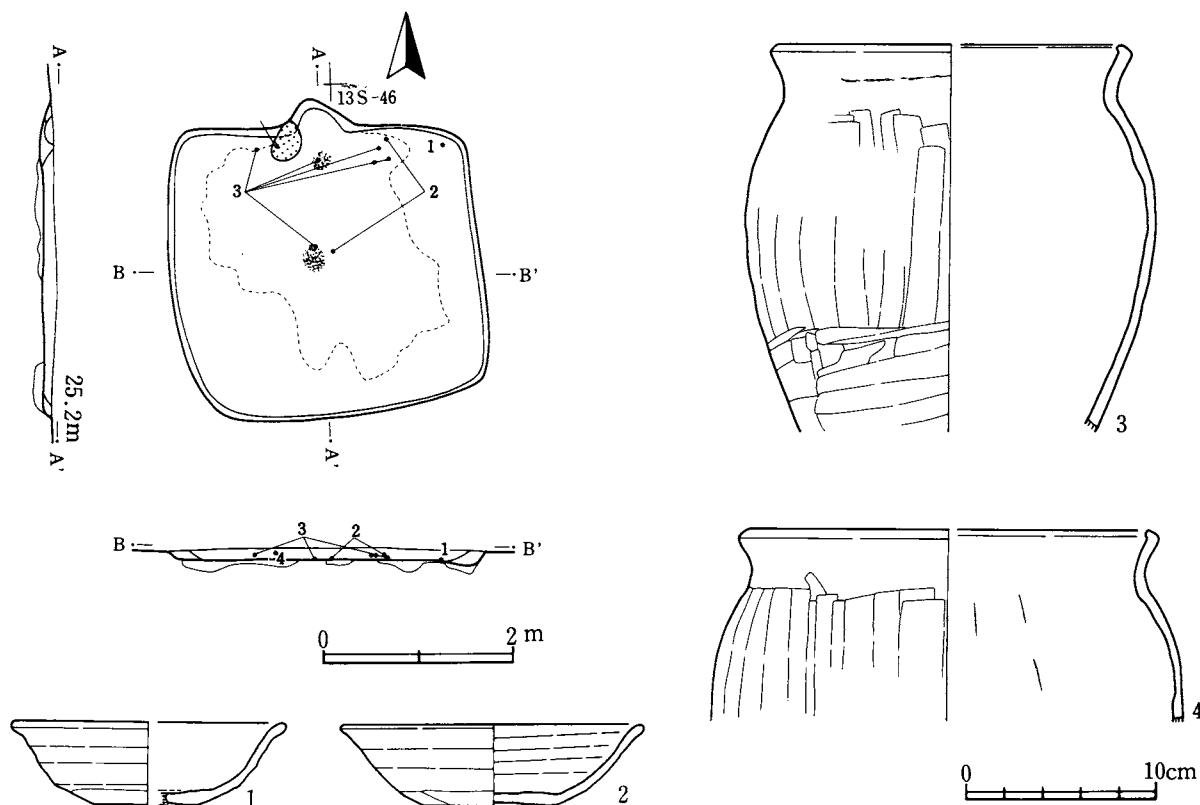
第225図 II134

表180 II 1 3 4

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第225図の1	土師器小型壺	(11.8)	—	—	石英・長石・砂粒含む	明褐色		2、18、19
第225図の2	土師器 壺	(22.0)	—	—	雲母・長石・石英多く含む	褐色	常総型	6、12、13
第225図の3	土師器 壺	—	—	(8.8)	雲母・長石・石英多く含む	橙褐色	常総型	4、7、10、20、23、27、28、29、35、80

II 135 (第226図、図版82・155)

掘込みが極めて浅く、竈の遺存も悪い住居である。床面の中央付近に、円形に近い被熱痕がある。遺物量も少ない。



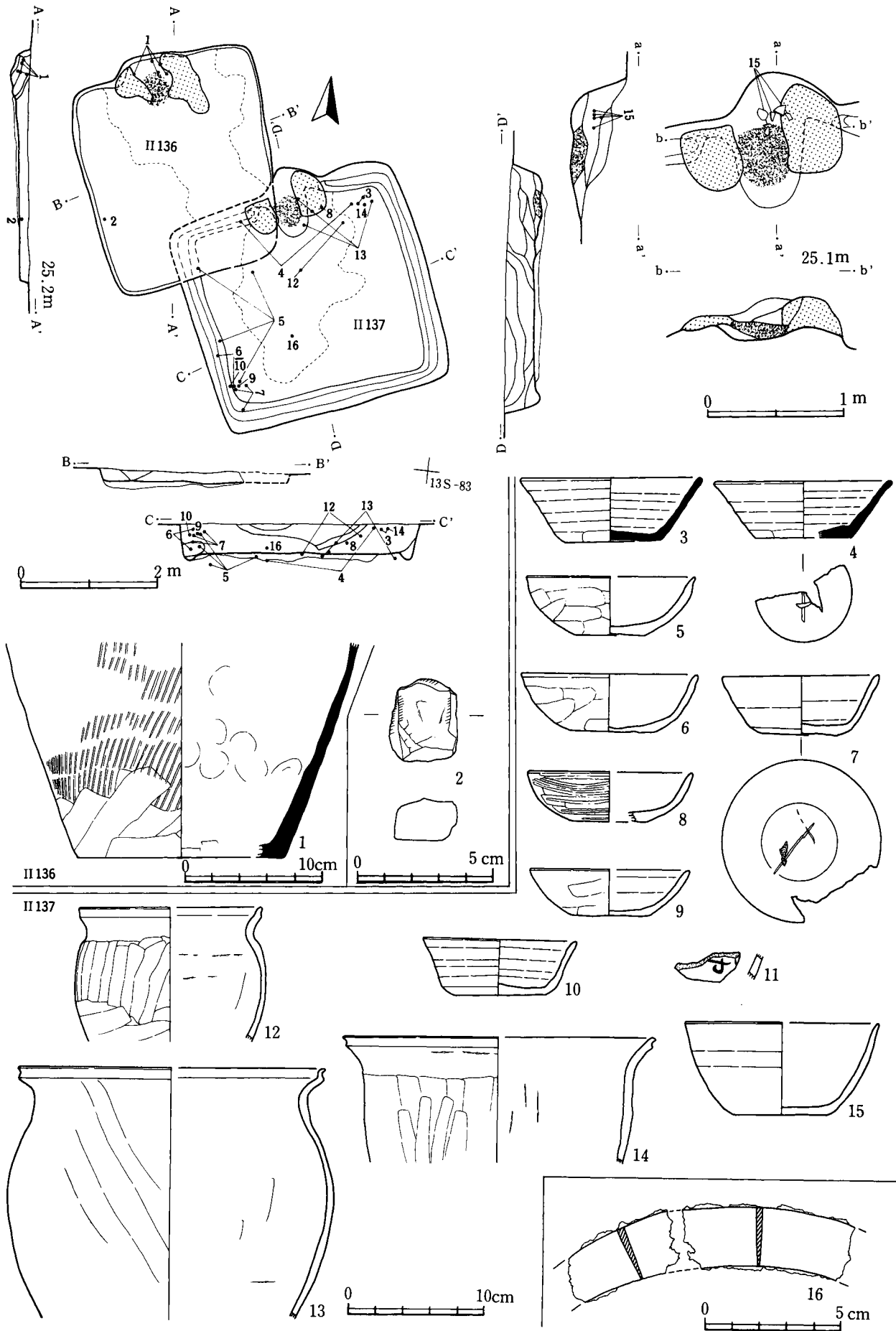
第226図 II135

表181 II 1 3 5

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第226図の1	土師器 杯	(14.2)	4.3	(5.6)	—	赤褐色		25
第226図の2	土師器 杯	15.8	4.2	7.0	雲母・スコリア含む	暗褐色		17、26
第226図の3	土師器 壺	(18.0)	—	—	石英・長石・砂粒含む	橙褐色		18、19、21、28、33、38、44
第226図の4	土師器 壺	(20.8)	—	—	雲母・石英・長石・砂粒含む	赤褐色		47

II 136・137 (第227図、図版83・155・167・169)

2軒の住居が重複し、136の方が新しい。136はプランは不整形で、掘込みも浅い。137は断面観察では、竈側コーナーの掘り方が、周辺よりやや深く掘り込まれていることや、東側に1段周溝状に深く掘り込まれている部分が断片的に確認できた。このことから、本遺構は少なくとも1回の建替えが行われた可能性がある。



第227图 II 136 · 137

表182 II 136・137

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第227図の1	須恵器 甗	—	—	(14.9)	砂粒多く含む	明褐色		1、4、25、26、30、31、33
第227図の2	火打ち石	縦 3.0	横 2.5	18.2g	石英	—		8
第227図の3	須恵器 杯	12.8	4.7	6.9	雲母・石英・長石含む	黒灰色		1、14、15、59
第227図の4	須恵器 杯	12.6	4.1	(7.0)	石英・長石多く含む	灰色	線刻(底外) 「□」	12、II136-40
第227図の5	土師器 杯	(12.2)	4.2	5.0	石英・スコリア含む	褐色～黒褐色		23、29、30、39
第227図の6	土師器 杯	12.6	4.2	6.3	スコリア含む	黒褐色		3、24、37
第227図の7	土師器 杯	11.2	4.4	5.4	長石含む	明黄褐色	ヘラ書き(底外) 「□」	3、22、26、32
第227図の8	土師器 杯	(11.9)	3.6	5.4	砂粒含む	暗褐色		9
第227図の9	土師器 杯	(11.6)	3.3	5.4	雲母・スコリア含む	明赤褐色		3、31
第227図の10	土師器 杯	10.9	4.1	6.7	雲母・スコリア含む	橙色		28
第227図の11	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) 「文部」	4
第227図の12	土師器小型甕	(13.0)	—	—	雲母・石英・長石・砂粒含む	明褐色		10、17
第227図の13	土師器 甕	(22.0)	—	—	石英・長石多く含む	橙褐色		8、36、42、46、59、一括
第227図の14	土師器 甕	(22.5)	—	—	石英・長石含む	橙褐色		16
第227図の15	土師器 鉢	(13.8)	6.6	6.8	雲母・砂粒・スコリア含む	褐色		1、50、52、53、57
第227図の16	鎌	残存長 (10.4)	—	—	鉄製品	—	図面上で2点接合	30

II 138・139 (第228図、図版83・155・175)

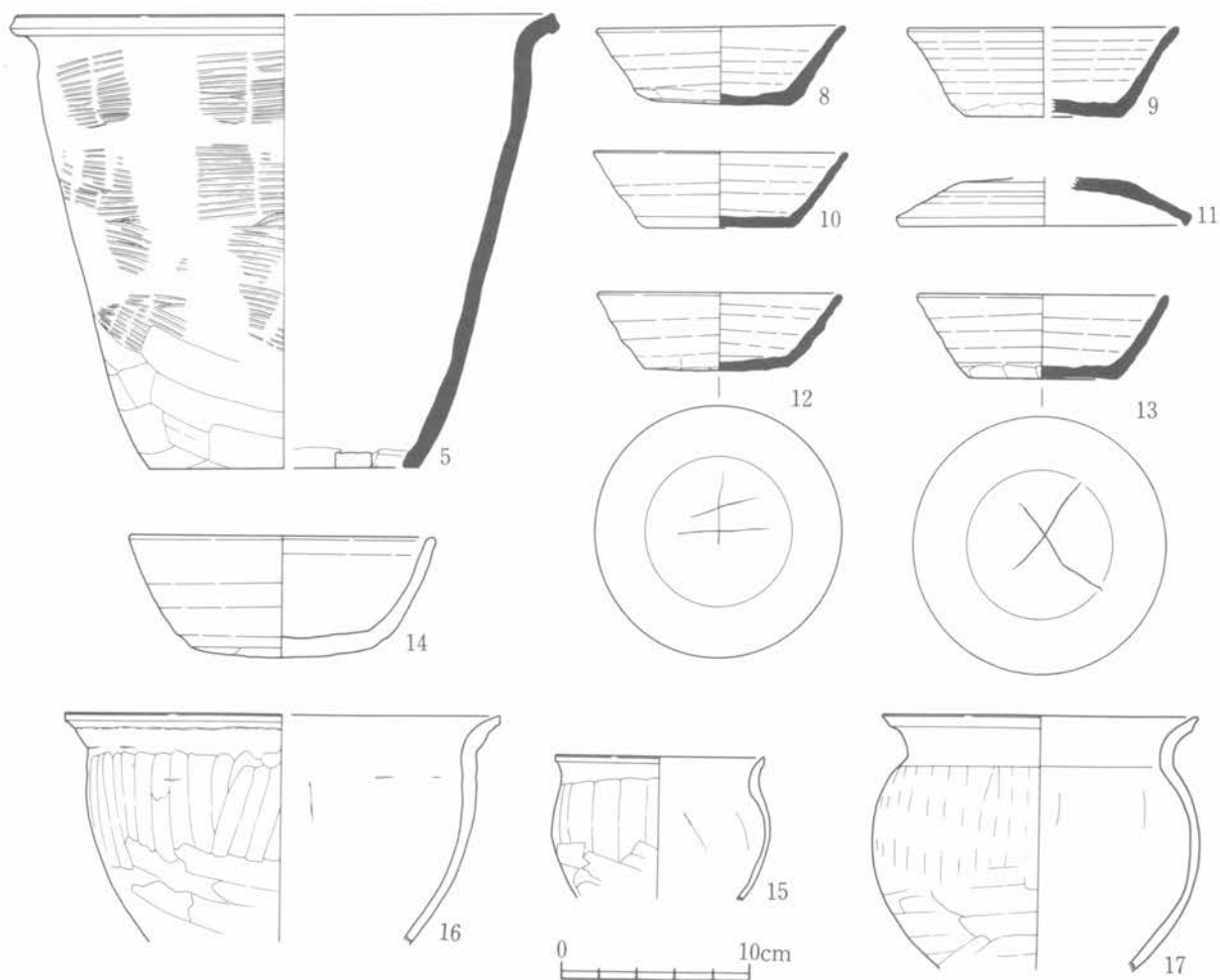
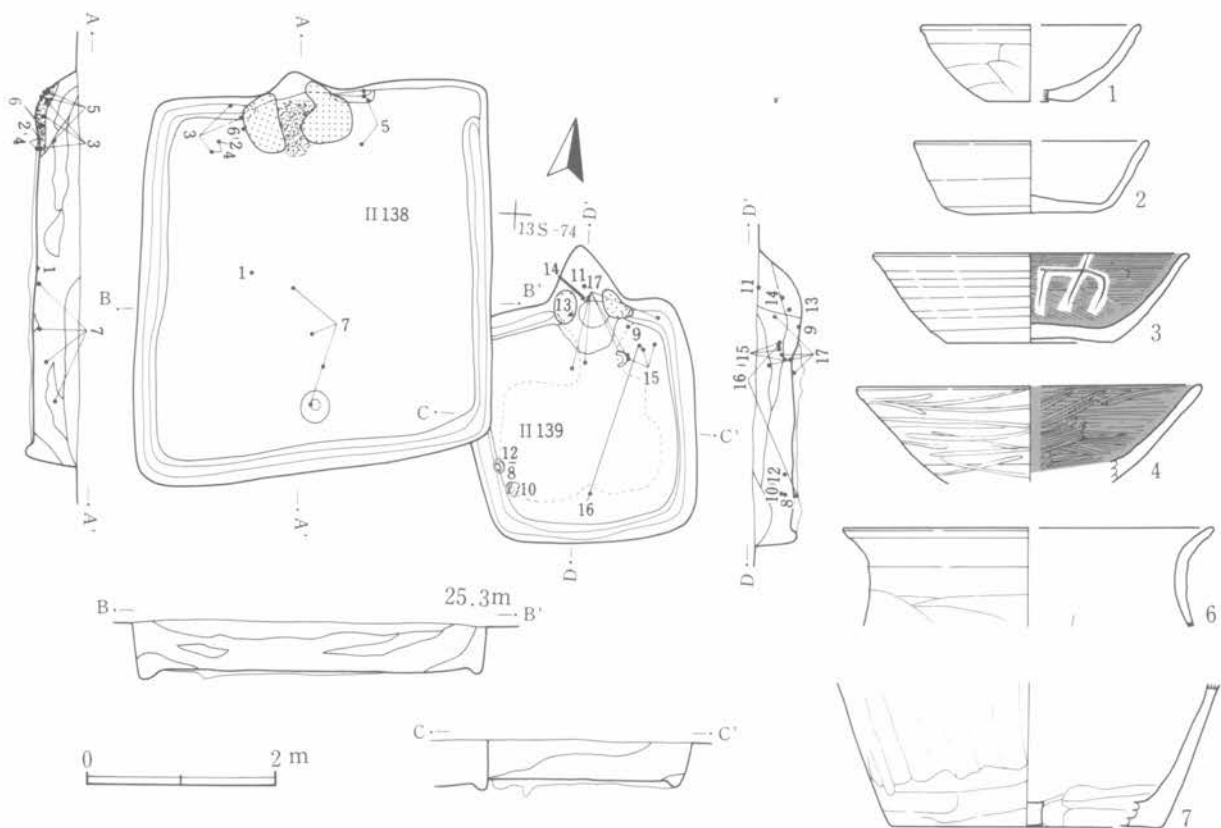
2軒の住居が重複し、138の方が新しい。138は掘込みは深い、出入口ピットを1か所有するのみで、主柱穴はない。139は竈内からほぼ完形の杯が2点出土した。

表183 II 138・139

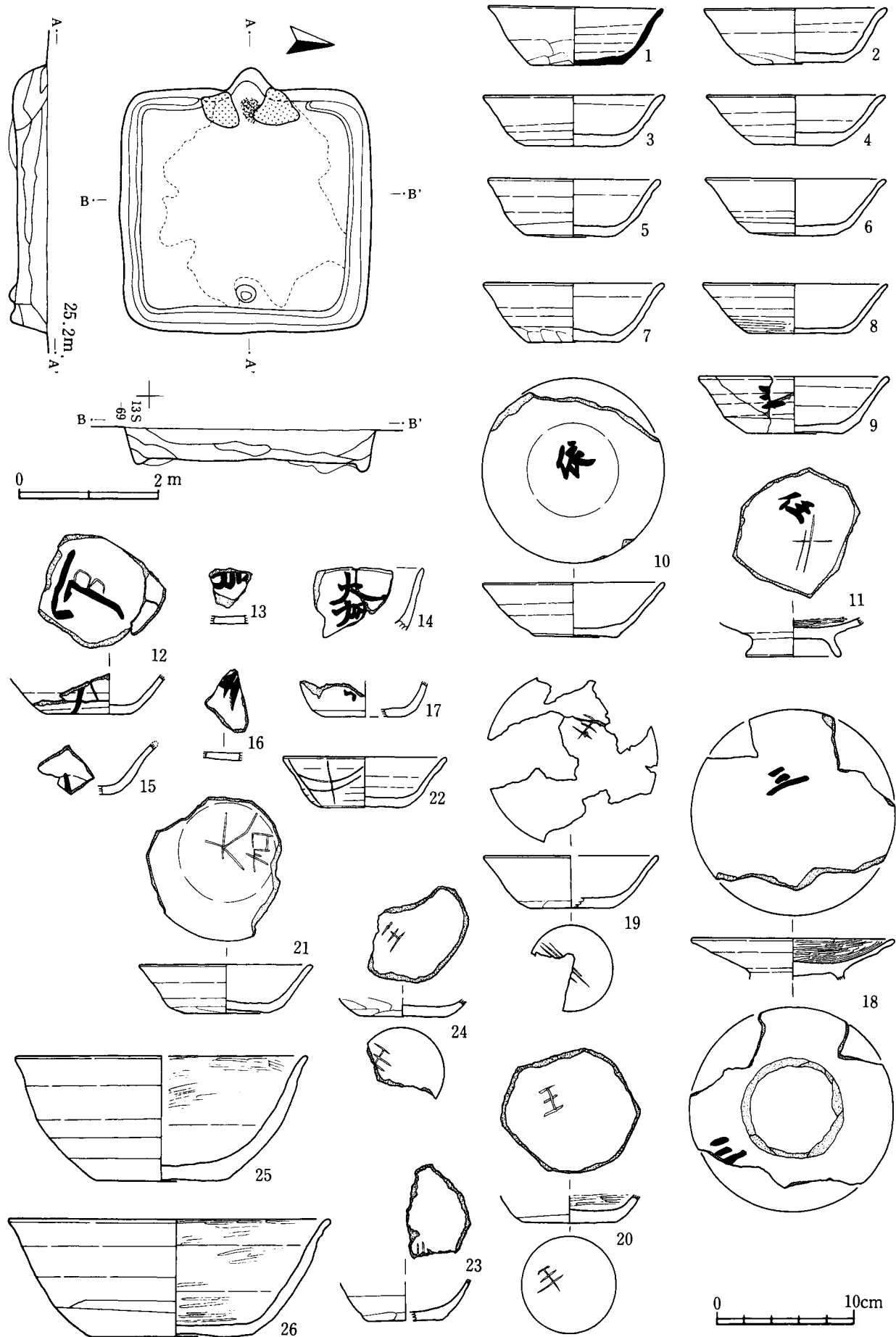
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第228図の1	土師器 杯	(11.3)	4.0	(4.9)	石英・長石・スコリア含む	橙色		7
第228図の2	土師器 杯	(12.0)	3.9	6.3	雲母・スコリア含む	明褐色		2、9
第228図の3	土師器 杯	16.0	4.6	8.6	—	外面黒色～黄褐色 内面黒色	線刻(体内) 「中」	8、12、13
第228図の4	土師器 杯	(17.8)	5.0	—	砂粒含む	外面暗褐色 内面黒色	内黒	8、9
第228図の5	須恵器 甗	(28.2)	23.8	(14.1)	雲母・石英・長石多く含む	明褐色	5孔	1、2、14、18、19、21
第228図の6	土師器 甕	(19.2)	—	—	砂粒多く含む	橙褐色	武蔵型	11
第228図の7	土師器 甗	(14.0)	—	—	雲母・石英・長石含む	橙褐色		3、5、6、16、17
第228図の8	須恵器 杯	12.9	4.0	7.8	石英・長石多く含む	灰褐色～灰色		32、II138-2
第228図の9	須恵器 杯	(14.0)	4.7	(8.2)	石英・長石多く含む	灰色		33、34、II138-2
第228図の10	須恵器 杯	13.2	4.0	7.6	スコリア多く含む	灰褐色		29
第228図の11	須恵器 蓋	14.8	—	—	石英・長石多く含む	暗灰色		18、II137-2
第228図の12	須恵器 杯	12.6	4.0	7.6	石英・長石多く含む	灰色	線刻(底外) 「十」	28
第228図の13	須恵器 杯	13.0	4.3	7.7	石英・長石多く含む	灰色	線刻(底外) 「十」	27
第228図の14	土師器 杯	15.8	6.3	9.5	雲母・石英・長石含む	赤褐色		26
第228図の15	土師器小型甕	11.0	—	—	石英・長石多く含む	明褐色～暗褐色		1、6、7、10
第228図の16	土師器 甕	(22.8)	—	—	石英・長石・砂粒含む	赤褐色		1、8、13
第228図の17	土師器小型甕	16.3	—	—	雲母・石英・長石含む	明褐色		1、2、5、9、10、16、21、30

II 140 (第229・230図、図版84・155・156・165)

掘込みのしっかりした、方形プランの住居で、主柱穴はない。竈内からつぶれた状態の甕の上半部(31)が出土した。遺物は土師器杯が多く、床面直上から埋土上層にかけて分布し、特に集中する場所は無い。また、「依」、「三」、「大加」などの墨書土器や、「王」などの線刻土器が多くみられる。



第228图 II 138 · 139



第229图 II140(1)

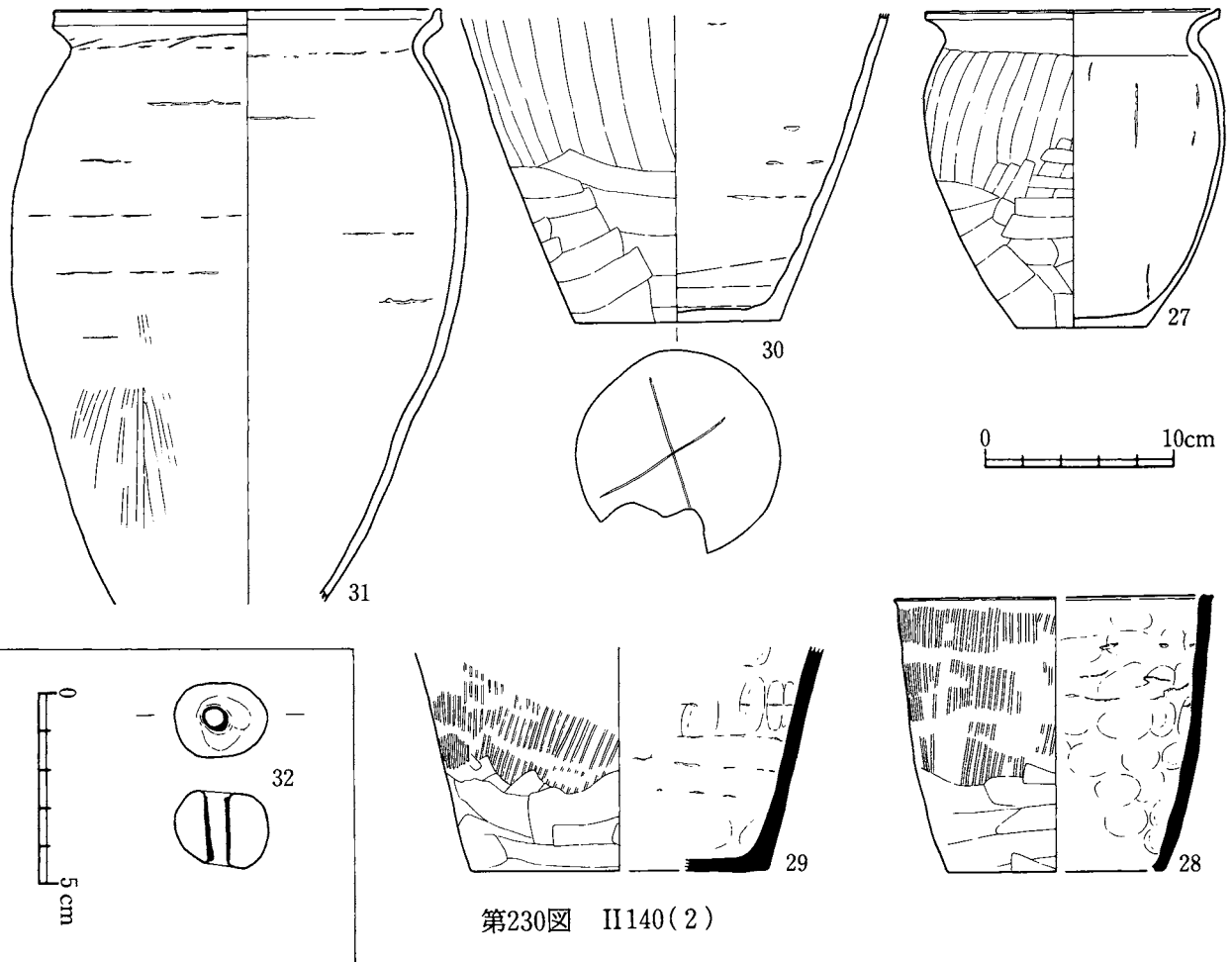


表184 II 1 4 0

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第229図の1	須恵器 杯	12.4	4.3	6.6		灰白色		12
第229図の2	土師器 杯	12.8	4.1	6.5	雲母・長石・スコリア含む	橙色		7、49、96、一括
第229図の3	土師器 杯	13.0	3.7	6.9	雲母・スコリア含む	橙色		154、155、156、一括
第229図の4	土師器 杯	12.8	3.6	5.8	雲母・スコリア・砂粒含む	明赤褐色		18、85、一括
第229図の5	土師器 杯	12.0	4.2	6.5	雲母含む	橙色		158、159
第229図の6	土師器 杯	13.0	4.2	6.3	雲母・石英・長石・スコリア含む	橙色		196、210、218、一括
第229図の7	土師器 杯	12.9	4.2	6.4	石英・スコリア多く含む	橙色		72
第229図の8	土師器 杯	(13.3)	3.5	7.0	雲母含む	明赤褐色		69、183、236、一括
第229図の9	土師器 杯	13.8	4.1	6.8	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外) 「国」	61、63、121、145、165、206、一括
第229図の10	土師器 杯	13.0	4.1	5.8	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底内) 「依」	188
第229図の11	土師器 高台付皿	-	-	-	-	-	墨書(底内) 「任」	259
第229図の12	土師器 杯	-	-	6.1	雲母多く含む	橙色	墨書(底内) □ 墨書(体外) □ 線刻(底内) 同	73、一括
第229図の13	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) 「加」	一括
第229図の14	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) 「大加」	11、一括
第229図の15	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) □	一括
第229図の16	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) □	217
第229図の17	土師器 杯	-	-	(5.8)	-	-	墨書(体外) □	223
第229図の18	土師器 高台付皿	14.4	-	2.9	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底内) 「三」 墨書(体外) 「三」	54、120、126、一括
第229図の19	土師器 杯	(12.4)	3.8	(6.0)	石英・長石含む	明黄褐色	線刻(底内) 「手」 線刻(底外) □	109、129、139、146、一括
第229図の20	土師器 杯	-	-	6.7	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(底内) 「王」 線刻(底外) 「手」	130
第229図の21	土師器 杯	12.3	3.6	6.2	長石・石英・スコリア・雲母含む	褐色	線刻(底内) 「大加」	264

第229図の22	土師器 杯	11.8	3.6	6.4	雲母・スコリア含む	褐色	線刻(体外)「□」	22
第229図の23	土師器 杯	—	—	(5.5)	—	—	線刻(底内)「□」	41
第229図の24	土師器 杯	—	1.4	6.2	雲母・砂粒含む	橙色	線刻(底内)「王」 線刻(底外)「王」	107
第229図の25	土師器 鉢	(20.7)	8.9	9.2	雲母・スコリア含む	橙色		67、76、81、111、112、131
第229図の26	土師器 鉢	22.8	8.4	11.7	雲母・スコリア含む	橙色		55、110、111、241
第230図の27	土師器小型甕	15.4	16.8	6.8	石英・長石多く含む	淡橙褐色		185、190、235、237、一括
第230図の28	須恵器 甕	(16.8)	14.4	(11.5)	石英・長石・砂粒含む	灰色		267
第230図の29	須恵器 甕	—	—	(15.7)	雲母・石英・長石含む	灰色		133、193、195、一括
第230図の30	土師器 甕	—	—	10.8	雲母・スコリア多く含む	明褐色	ヘラ書き(底外)「+」	152、160、161、238、一括
第230図の31	土師器 甕	20.2	—	—	石英・長石多く含む	橙褐色	常総型	263
第230図の32	土玉	短径1.9	長径2.4	最大長2.0	雲母多く含む	褐色		177

## II141 (第231図、図版84・156)

新治産の須恵器杯(1～5)、蓋(10～12)、盤(15)、壺(13・14)などの遺物が、住居床面や竈脇、竈内底面から多く出土しており、良好な一括資料である。4本の支柱穴のうち、竈側の2本が壁溝に寄る住居である。

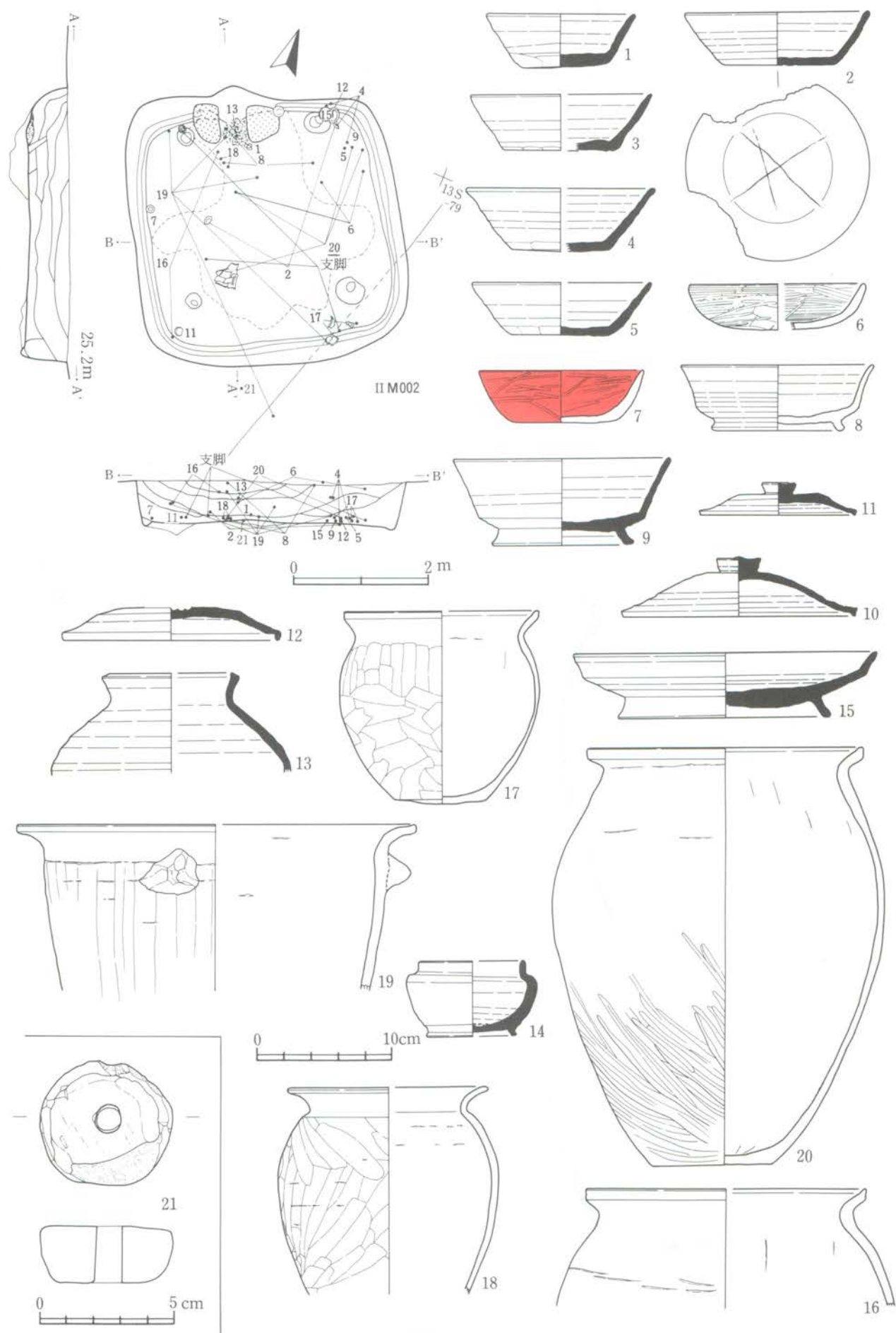
表185 II 1 4 1

挿入番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第231図の1	須恵器 杯	10.8	4.1	6.7	雲母・石英・長石多く含む	灰色	新治産	64
第231図の2	須恵器 杯	13.2	4.0	8.1	石英・長石多く含む	暗灰色	線刻(底外)「□」 新治産	77、84
第231図の3	須恵器 杯	(13.2)	4.2	(8.0)	石英・長石含む	青灰色	新治産	2
第231図の4	須恵器 杯	(13.8)	4.7	(7.3)	雲母多く含む	黒灰色	新治産	1、23、24、35、84
第231図の5	須恵器 杯	(13.2)	3.8	7.4	雲母・石英・長石多く含む	灰白色	新治産	37
第231図の6	土師器 杯	(13.0)	3.4	—	長石・砂粒含む	褐色		17、22、47
第231図の7	土師器 杯	12.0	3.8	7.6	—	赤褐色	内外面赤彩	78
第231図の8	土師器 高台付杯	14.0	4.8	9.1	雲母・砂粒含む	赤褐色		4、16、49、72
第231図の9	須恵器 高台付杯	15.8	6.4	10.4	スコリア多く含む	青灰色		81
第231図の10	須恵器 蓋	17.0	4.4	—	石英・長石・スコリア多く含む	青灰色	新治産	88
第231図の11	須恵器 蓋	11.4	2.4	—	石英・長石含む	青灰色	新治産	75
第231図の12	須恵器 蓋	15.6	—	—	雲母多く含む	灰白色	新治産	82
第231図の13	須恵器 壺	(9.1)	—	—	石英・長石含む	灰色	新治産	1、2、4、15
第231図の14	須恵器 小壺	(7.7)	5.5	6.6	雲母・石英・長石含む	灰色	新治産	79
第231図の15	須恵器 高台付盤	22.2	4.7	15.1	雲母多く含む	灰色	新治産	1、80
第231図の16	土師器 甕	(20.4)	—	—	雲母・石英・長石含む	淡橙褐色	常総型	4、5、21
第231図の17	土師器小型甕	(14.3)	14.2	6.9	石英・長石・砂粒含む	暗褐色		2、65、68、69、70
第231図の18	土師器小型甕	(14.2)	—	—	スコリア多く含む	明褐色		60、61
第231図の19	土師器 甕	(29.3)	—	—	石英・長石・砂粒含む	橙褐色		10、50、53、63、71
第231図の20	土師器 甕	20.0	30.6	8.2	石英・長石・砂粒多く含む	明褐色	常総型	1、3、36、43、47、53、74
第231図の21	紡錘車	上面径5.0	最大高2.1	下面径4.0	スコリア多く含む	橙褐色	57.6g	52

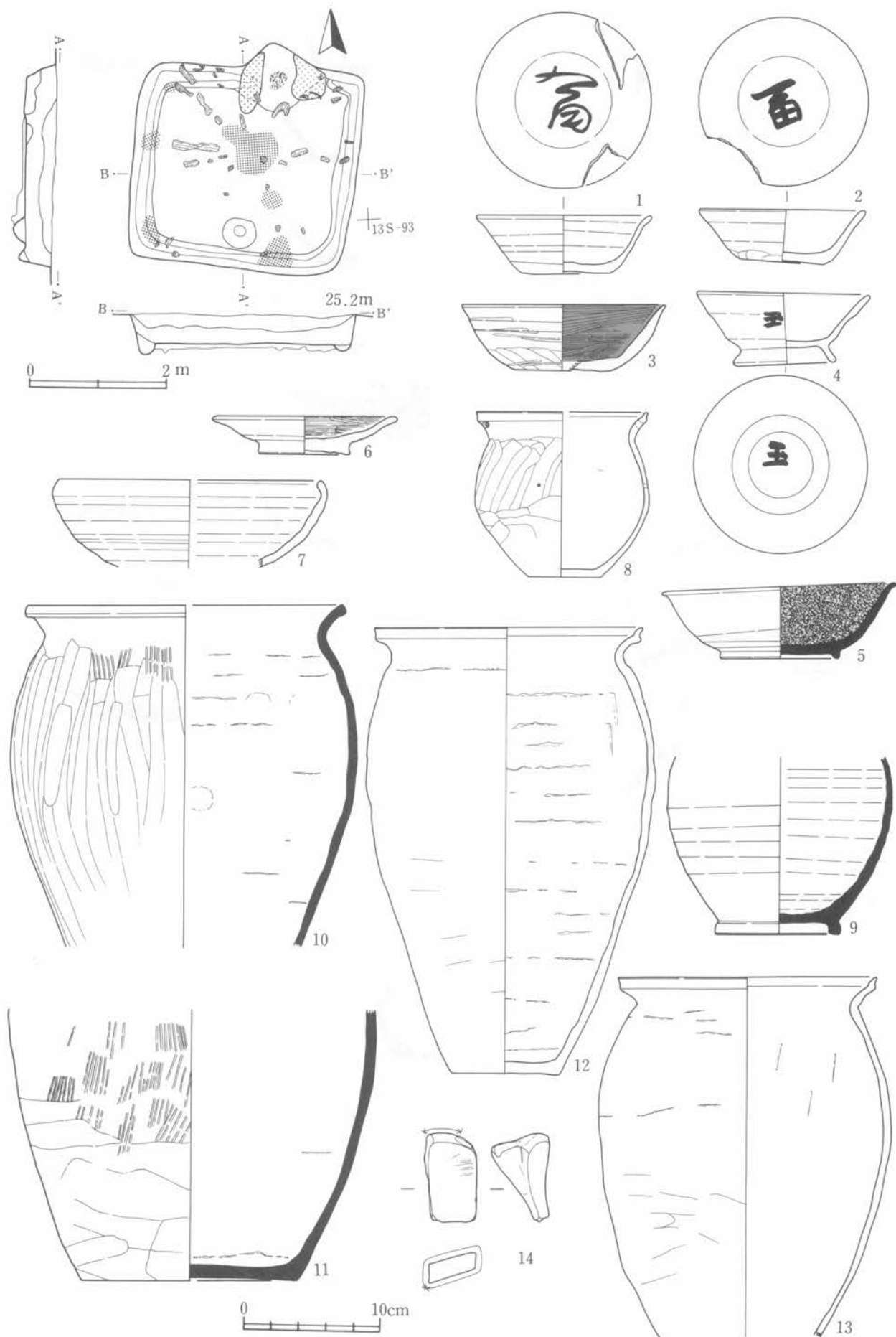
## II142 (第232・233図、図版85・156・157・167～169)

方形プランの住居で、焼土塊や炭化材が出土している。焼失家屋の可能性はある。遺物量は豊富で、灰釉陶器碗(5)や土師器鉄鉢型土器(7)の小破片、「冨」、「玉」の墨書土器が出土している。また、竈内には土師器甕(13)が火床面直上から出土しているが、大型土器(10・11・12・13)は、破片となっており、出土位置も分散している。15は遺存状態が良好な鉄先で、住居西側の床面直上から出土した。17の滑石製紡錘車は竈前面の床面直上から出土した。

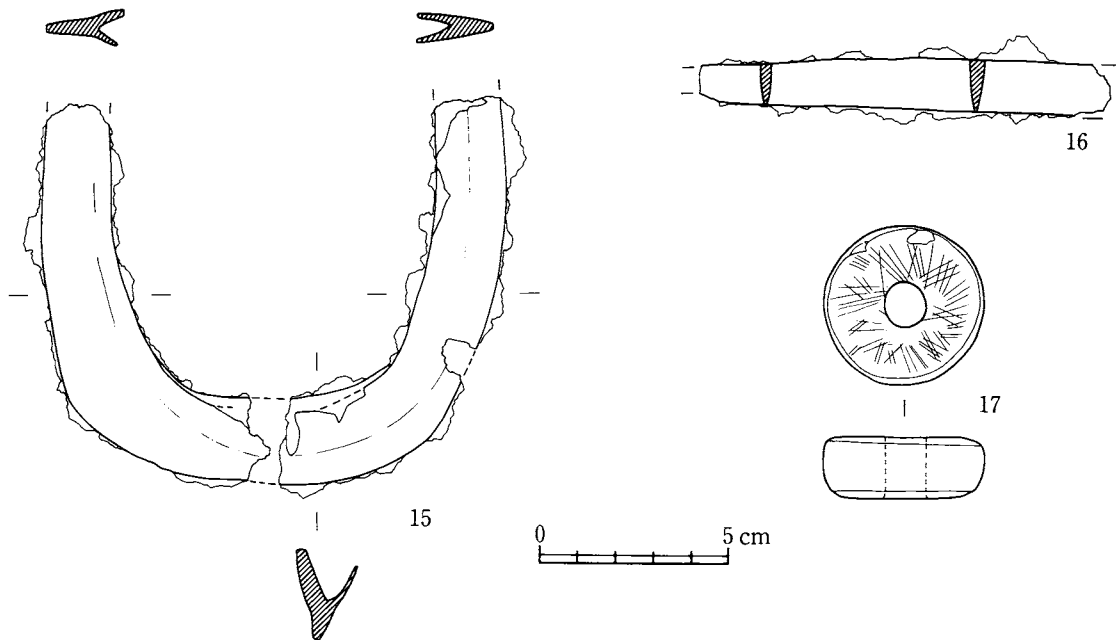




第231图 II141  
— 275 —



第232図 II142(1)



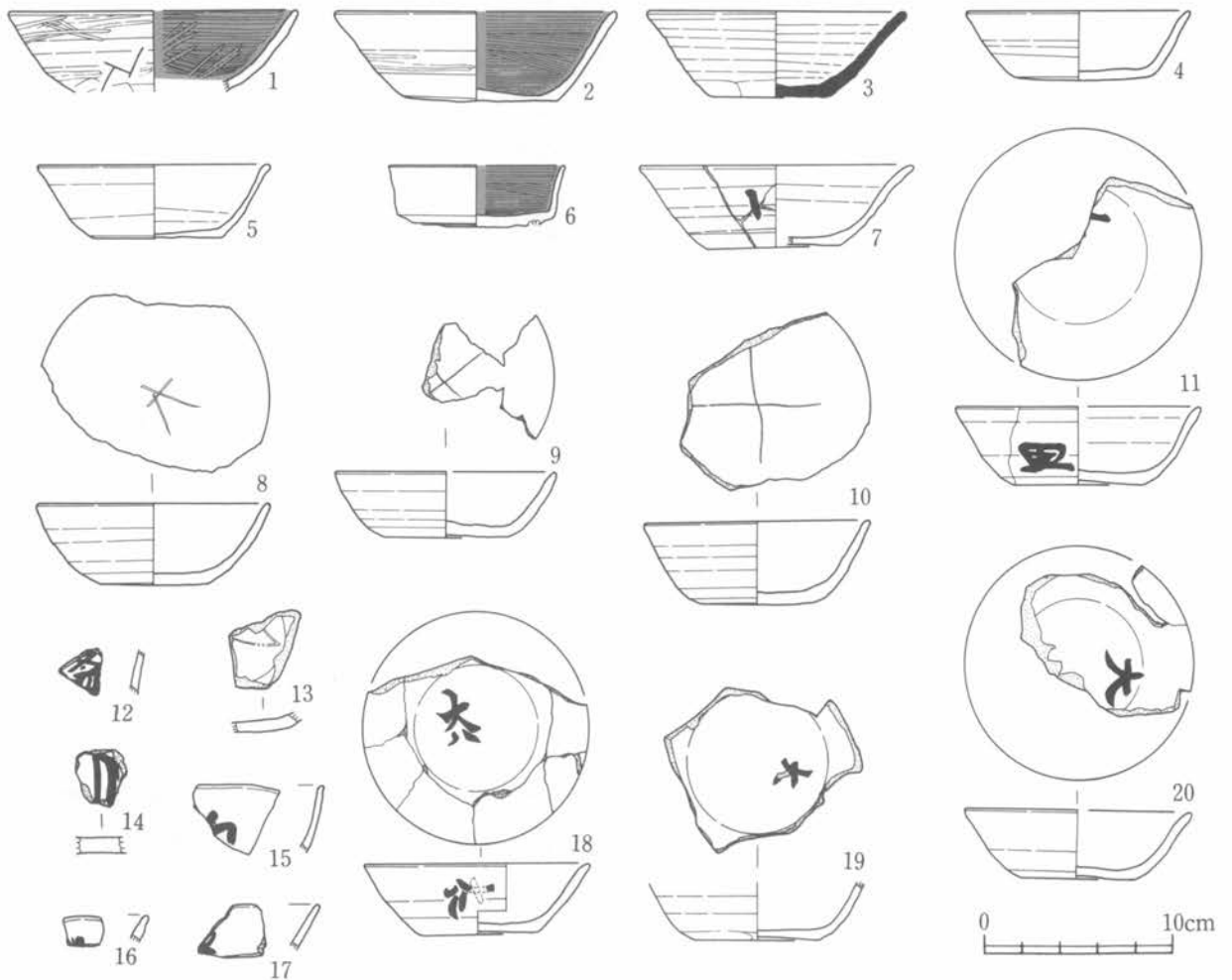
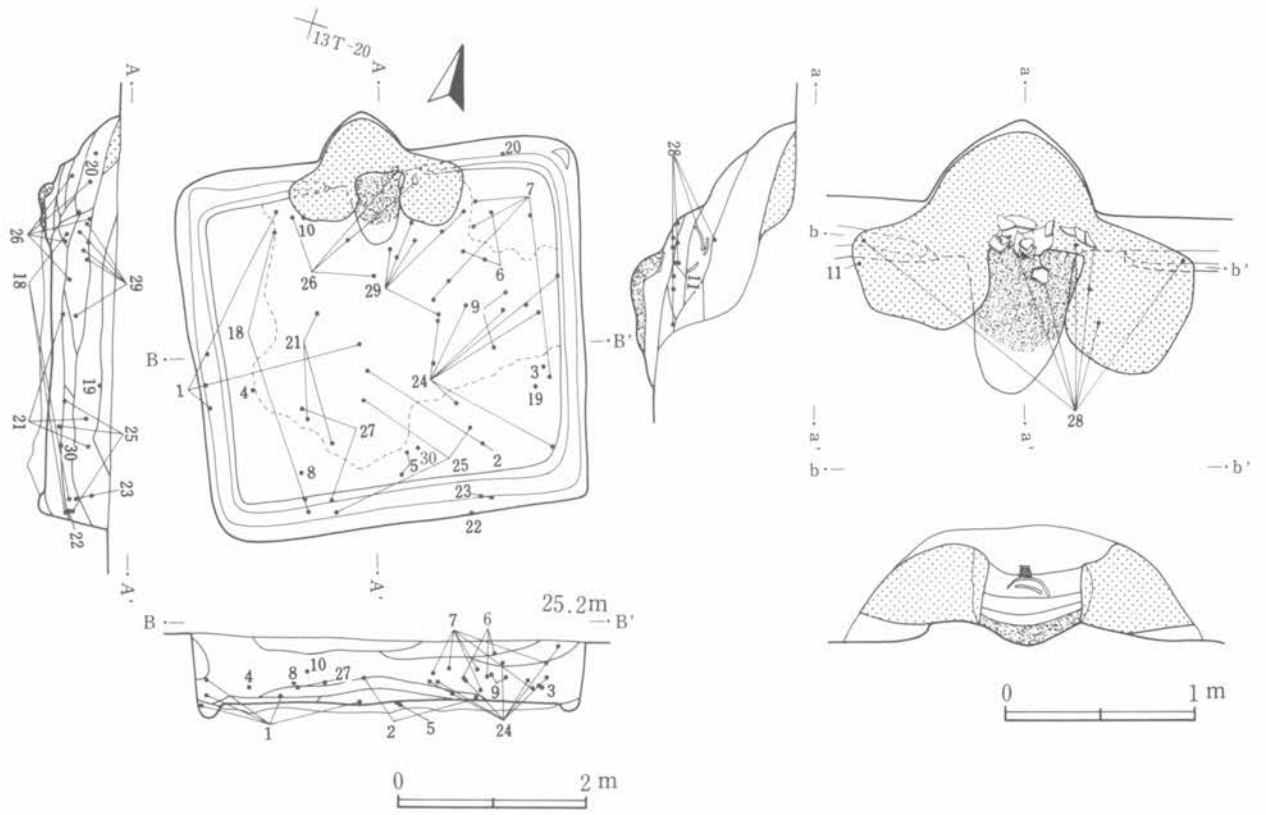
第233図 II142(2)

表186 II 1 4 2

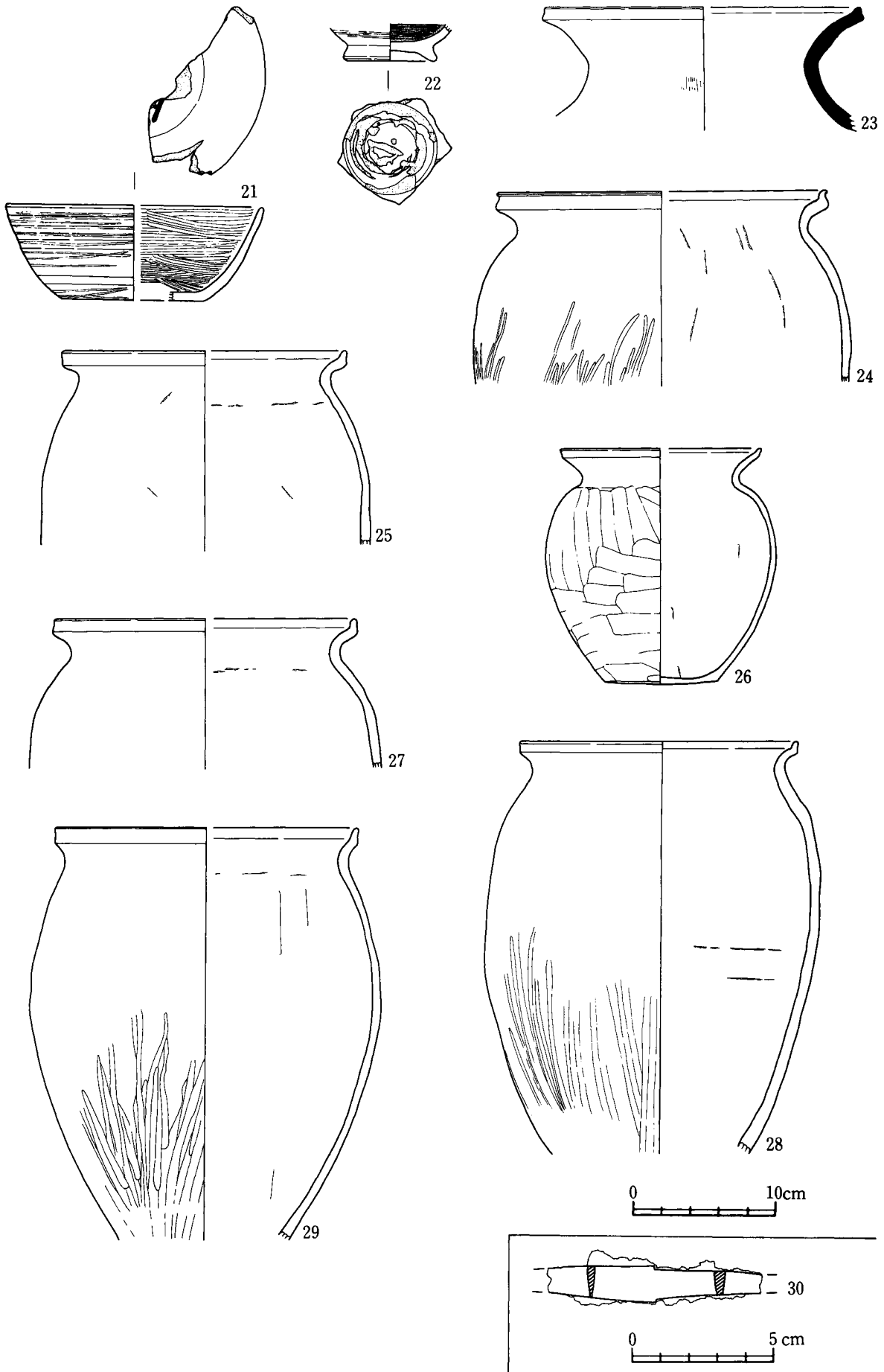
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第232図の1	土師器 杯	12.8	4.2	6.7	スコリア含む	橙色	墨書(底内)「富」	32、40
第232図の2	土師器 杯	12.2	3.4	6.0	雲母・スコリア・長石含む	橙褐色	墨書(底内)「富」	62
第232図の3	土師器 杯	14.8	4.3	7.0	雲母・スコリア含む	外面橙色 内面黒色	内黒	1、9、11、69、94
第232図の4	土師器 高台付杯	12.6	5.4	7.0	砂粒含む	褐色	墨書(体外)「玉」 墨書(底外)「玉」	48
第232図の5	灰釉陶器 埴	17.1	5.1	8.5	砂粒含む	内面緑灰色 外面灰色	内面に灰釉、トチン痕有	42
第232図の6	土師器 高台付皿	13.6	2.7	6.6	雲母含む	暗褐色～明赤褐色		64
第232図の7	土師器 鉢	(19.0)	—	—	雲母・砂粒含む	明赤褐色	鉄鉢形	12
第232図の8	土師器 小型壺	12.5	12.0	5.4	石英・長石・砂粒含む	明褐色～赤褐色		60
第232図の9	須恵器 長頸瓶	—	—	8.9	石英・長石・スコリア含む	灰色		35、36、37、38
第232図の10	須恵器 壺	(22.8)	—	—	石英・長石・スコリア含む	橙褐色	外面タタキ後ヘラケズリ	1、23、27、28、33、41、54、58、74、76、79、80、83、85、92
第232図の11	須恵器 壺	—	—	15.6	石英・長石・砂粒含む	明褐色		29、31、35、43、44、45、53、55
第232図の12	土師器 壺	19.4	32.2	7.8	雲母・石英・長石・砂粒多く含む	淡橙褐色		1、66、71、72、73、77、81、85、90、91、92
第232図の13	土師器 壺	(18.8)	—	—	雲母・石英・長石・砂粒多く含む	橙褐色	常総型	1、16、17、19、56、85、86、87、88、89、92
第232図の14	砥石	80.7g	—	—	流紋岩	—		91
第233図の15	鍬	最大高 10.0	最大幅 12.1	最大厚 1.6	鉄製品	—		24
第233図の16	刀子	残存長 10.8	—	—	鉄製品	—		59
第233図の17	紡錘車	最大径 4.2	最大高 1.6	—	滑石、50.0g	—		50

II143 (第234・235図、図版85・157・168・175)

床面は砂質粘土を敷き詰め、硬化している。しっかりした掘込みで、遺物量も多い住居である。竈内の中位層では、大型の甕類の胴部を伏せて置き、その上におびただしい土器小破片を、積み重ねた状況が見られた。竈の使用状況も良好で、火床部内面が良好に確認できた。「大」、「大八」、「久弥」の墨書土器が見られる。



第234图 II143(1)



第235图 II143(2)

表187 II 1 4 3

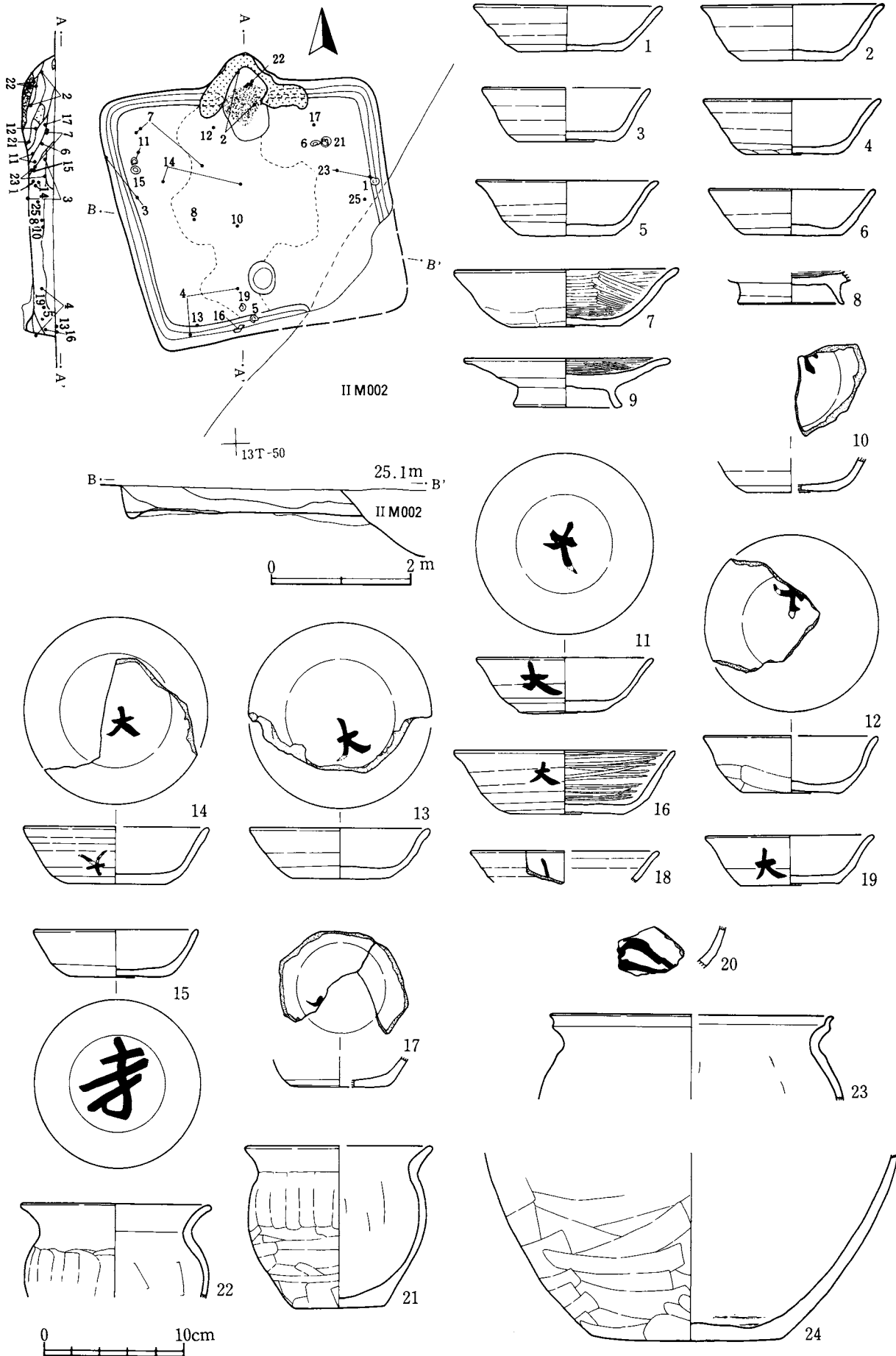
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第234図の1	土師器 杯	15.1	-	-	-	外面明黄褐色 内面黒色	線刻(体外) □□ 内黒	3、4、274、275、278、285、292
第234図の2	土師器 杯	14.8	4.6	8.3	雲母・スコリア含む	外面橙色 内面黒色	内黒	2、3、4、140、168
第234図の3	須恵器 杯	13.4	4.5	6.5	-	暗灰色		1、157
第234図の4	土師器 杯	11.8	3.6	6.9	雲母・スコリア含む	赤褐色		144
第234図の5	土師器 杯	12.0	3.8	6.7	雲母・スコリア含む	橙色		3、243、272、425
第234図の6	土師器 高台付杯	10.2	-	-	雲母・スコリア含む	外面黒褐色 内面黒色	内黒	1、52、82、126
第234図の7	土師器 杯	14.4	4.4	7.1	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外) □□	1、11、43、50、119、131、197
第234図の8	土師器 杯	12.0	4.3	5.7	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(底内) ㊦	145
第234図の9	土師器 杯	11.5	3.4	6.6	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(底内) □□	105、114
第234図の10	土師器 杯	11.8	4.3	5.9	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(底内) 十	245、247
第234図の11	土師器 杯	(12.4)	4.2	6.8	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外) 里 墨書(底内) □□	249
第234図の12	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) 久弥	3
第234図の13	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内) □□	2
第234図の14	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) □□	4
第234図の15	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) □□	3
第234図の16	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) □□	4
第234図の17	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) □□	2
第234図の18	土師器 杯	11.8	3.8	6.4	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外) 大八 墨書(底内) 大八	210、216、217
第234図の19	土師器 杯	-	-	6.6	スコリア含む	橙色	墨書(底内) 大	1、2、13
第234図の20	土師器 杯	(11.8)	3.5	6.0	雲母含む	橙色	墨書(底内) 大	205
第235図の21	土師器 杯	(18.1)	6.5	(10.0)	雲母含む	橙色～明赤褐色	墨書(底内) □□	67、69、283
第235図の22	土師器 杯	-	-	(6.6)	雲母含む	外面黄褐色 内面黒色	内黒 転用硯	106
第235図の23	須恵器 甗	(22.3)	-	-	雲母多く含む	明黄褐色	常総型	21、83
第235図の24	土師器 甗	(22.9)	-	-	石英・長石多く含む	明褐色	常総型	1、11、54、75、96、112、116、173、176、189、335
第235図の25	土師器 甗	(19.6)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	橙褐色	常総型	3、148、154、170
第235図の26	土師器 小型甗	(13.7)	16.3	7.8	砂粒多く含む	明褐色		4、208、222、349、410、420
第235図の27	土師器 甗	(20.2)	-	-	石英・長石多く含む	明褐色		143、147
第235図の28	土師器 甗	19.3	-	-	雲母・石英・長石・砂粒多く含む	橙褐色	常総型	4、220、290、375、376、378、399、400、401、405、414、423、424
第235図の29	土師器 甗	(21.0)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	明褐色	常総型	1、4、46、49、76、118、330、336
第235図の30	刀子	残存長 7.6	-	-	鉄製品	-		180

II 144 (第236図、図版86・157・168)

II M002に南東コーナーを削平される。住居内の数か所で、床面近くと床面直上から、遺物が集中して出土した。墨書土器には「寺」、「大」などがある。

表188 II 1 4 4

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第236図の1	土師器 杯	13.0	3.4	7.5	雲母・スコリア含む	橙色		145、149
第236図の2	土師器 杯	12.8	4.0	7.1	雲母・スコリア含む	明褐色		2、110、124、148
第236図の3	土師器 杯	11.8	3.9	7.1	雲母・スコリア含む	橙色～暗褐色		62、113
第236図の4	土師器 杯	12.4	4.0	6.4	雲母含む	橙色		14、67
第236図の5	土師器 杯	12.7	4.0	7.0	雲母・スコリア含む	明赤褐色		139
第236図の6	土師器 杯	11.5	3.3	7.0	雲母・スコリア含む	暗黄褐色		143
第236図の7	土師器 杯	15.8	4.0	8.0	スコリア含む	橙色		34、43、44、148
第236図の8	土師器 高台付皿	-	-	7.2	雲母・スコリア含む	橙色		100
第236図の9	土師器 高台付皿	14.2	3.5	7.8	-	橙色		2、135、149
第236図の10	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) ㊦	97
第236図の11	土師器 杯	12.6	3.9	6.3	スコリア含む	橙色	墨書(底内) 大 墨書(体外) 大	66、142
第236図の12	土師器 杯	(12.3)	4.0	(6.8)	雲母・石英・長石含む	明橙褐色	墨書(底内) 大	111

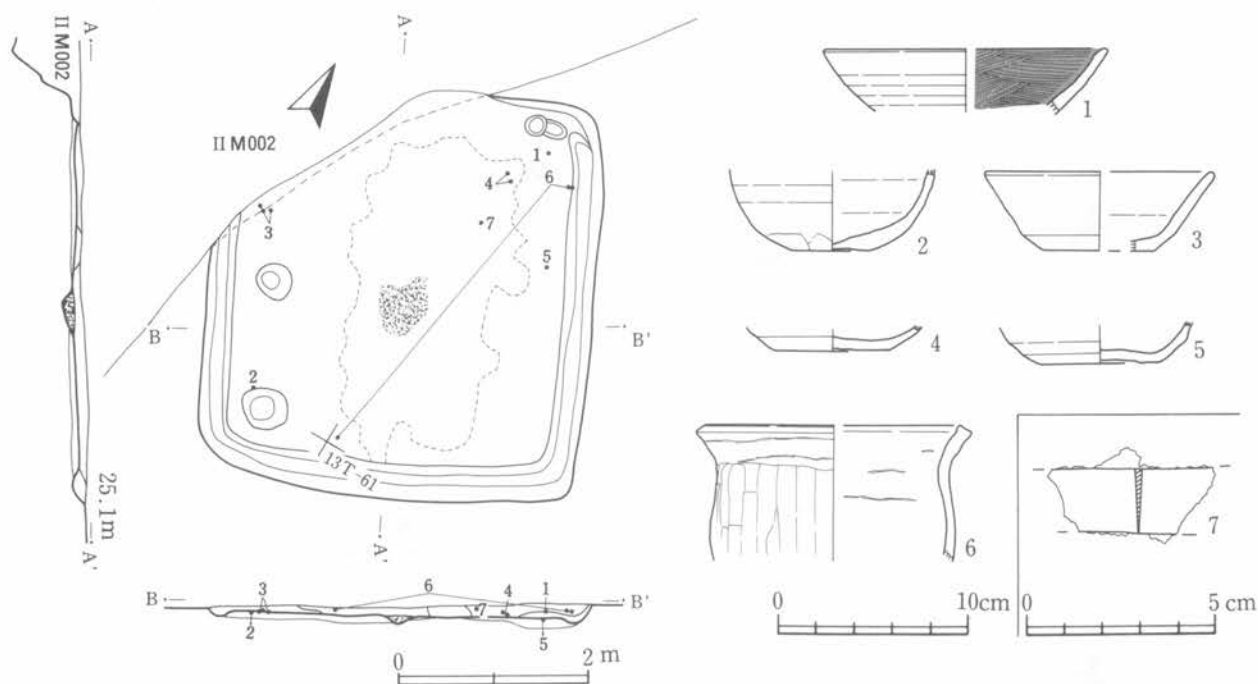


第236图 II144

第236図の13	土師器 杯	12.6	3.6	7.1	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底内)「大」	5
第236図の14	土師器 杯	(13.0)	4.0	(7.0)	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底内)「大」 墨書(体外)「大」	24、32
第236図の15	土師器 杯	11.6	3.4	6.9	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「寺」	141
第236図の16	土師器 杯	15.8	4.5	8.1	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「大」	3、56、138
第236図の17	土師器 杯	—	—	7.1	雲母含む	橙色	墨書(底内)「大」	74、148
第236図の18	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「口」	3、148
第236図の19	土師器 杯	11.8	3.6	7.0	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「大」	3、140
第236図の20	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「口」	1
第236図の21	土師器小型甕	12.8	11.5	6.2	石英・長石・砂粒含む	橙褐色		144
第236図の22	土師器小型甕	(13.2)	—	—	雲母・石英・長石含む	橙褐色		128、129、130、131
第236図の23	土師器 甕	(19.8)	—	—	雲母・石英・長石多く含む	橙褐色	常総型	80、88、149
第236図の24	土師器 甕	—	—	13.5	石英・長石・砂粒多く含む	橙褐色		105、137

## II145 (第237図、図版86)

極めて掘込みの浅い住居で、埋土中には竈砂は確認できないものの、出土遺物から判断して、竈を有していた住居と考えられる。おそらく、竈はIIM002により削平されたものと思われる。被熱面が住居床面のほぼ中央に残っている。



第237図 II145

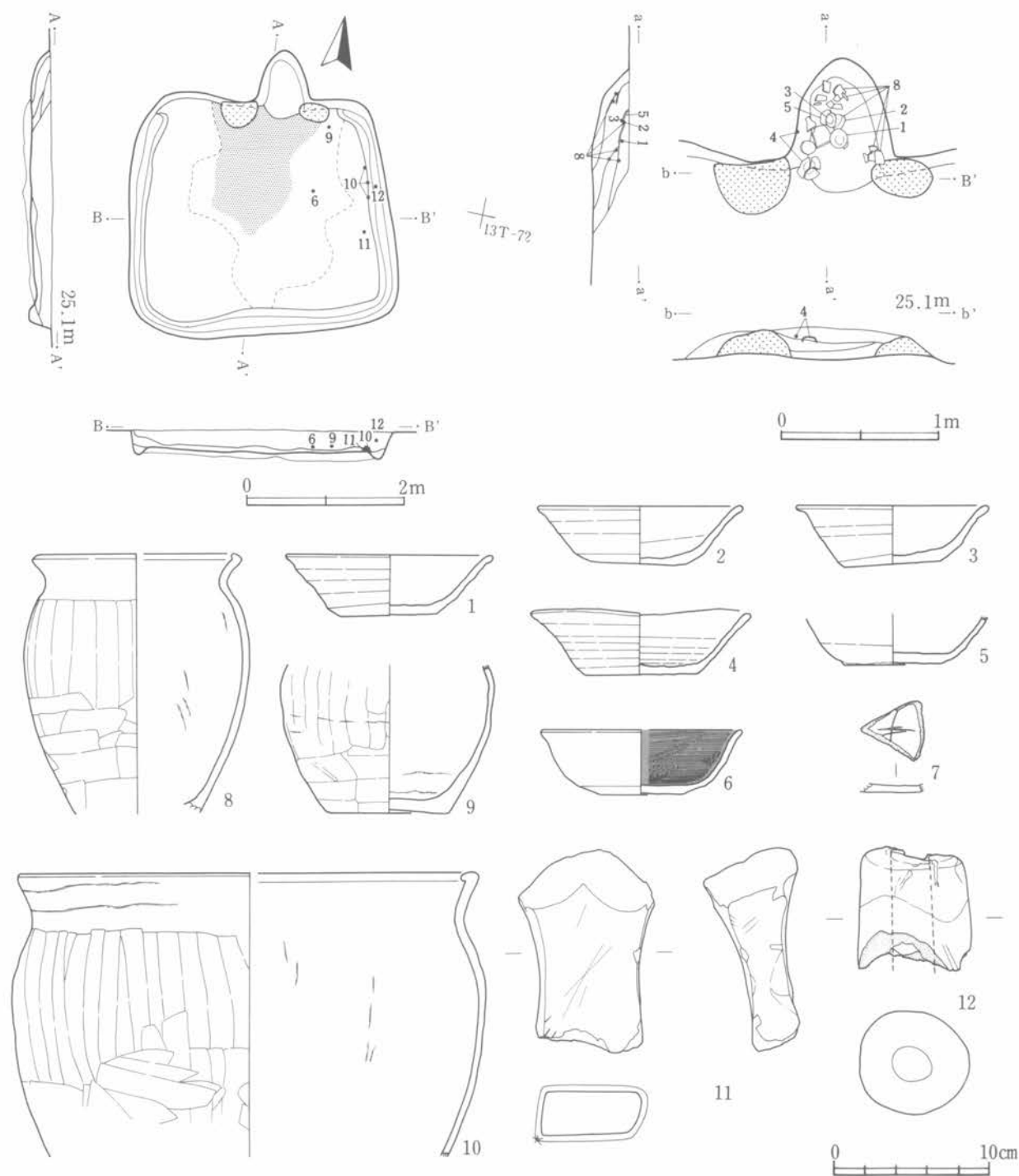
表189 II145

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第237図の1	土師器 杯	(14.6)	—	—	石英・長石含む	外面橙色 内面黒色	内黒	6
第237図の2	土師器 鉢	—	—	(4.0)	スコリア含む	橙色		24
第237図の3	土師器 杯	(11.8)	4.1	(5.8)	雲母含む	暗褐色		38、39、40
第237図の4	土師器 杯	—	—	6.0	スコリア含む	褐色		13、14
第237図の5	土師器 杯	—	—	6.2	雲母・スコリア含む	橙色		43
第237図の6	土師器 甕	(13.0)	—	—	石英・長石含む	明褐色		8、29、45
第237図の7	刀子	残存長 4.3	—	—	鉄製品	—		17



II146 (第238図、図版86・157・167)

台形プランの住居で、竈内の中位層からは多くの杯が出土した。正位や倒位や斜位などさまざま、流れ込んだように見える。鉄が付着した羽口が出土したが、住居内には炉などの工房的な施設はない。竈前の床面上に、砂質粘土を敷き詰めた痕跡があった。



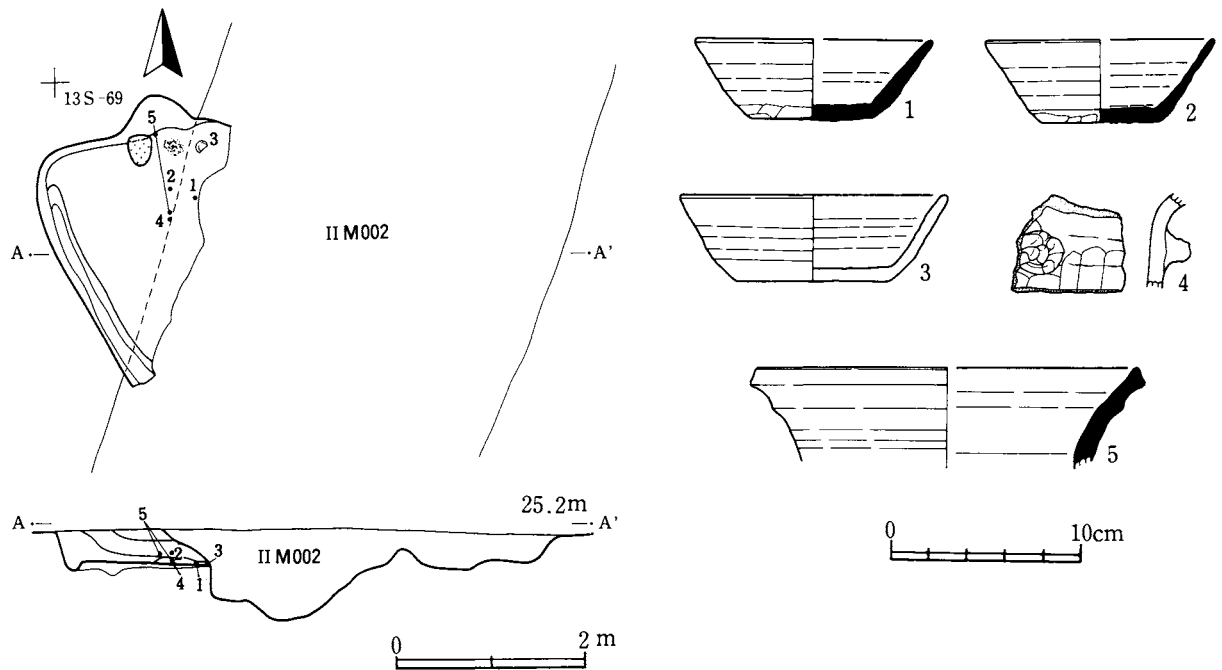
第238図 II146

表190 II 1 4 6

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第238図の1	土師器 杯	13.0	4.0	6.0	雲母・石英・長石含む	橙色		33
第238図の2	土師器 杯	12.8	3.6	5.9	雲母・スコリア含む	黄褐色		37
第238図の3	土師器 杯	12.0	3.8	6.0	雲母・石英・長石・スコリア含む	暗褐色～黄褐色		35、一括
第238図の4	土師器 杯	13.6	4.1	7.2	雲母・スコリア含む	赤褐色		27、28
第238図の5	土師器 杯	—	—	6.4	雲母・スコリア含む	赤褐色		50
第238図の6	土師器 杯	(12.6)	4.0	5.6	雲母・石英・長石含む	外面明黄褐色 内面黒色	内黒	10
第238図の7	土師器 杯	—	(0.6)	—	—	—	線刻(底内) □□	1
第238図の8	土師器小型甕	(12.4)	—	—	石英・長石多く含む	明褐色		1、37、44、45、46、47、48、 一括
第238図の9	土師器小型甕	—	—	(7.8)	石英・長石含む	明褐色～黒褐色		11
第238図の10	土師器 甕	(13.7)	—	—	石英・長石含む	橙褐色		5、7、8
第238図の11	砥石	578.2g	—	—	砂岩	—		25
第238図の12	支脚	直径6.5	孔径2.2	—	—	—	羽口転用支脚	26

II147 (第239図、図版87・158)

II M002に、全体の3/4程度削平される。残存する部分から、比較的小型の住居であったことが推定できる。竈は袖部をほとんど解体されているが、正位の土師器杯が出土した。



第239図 II147

表191 II 1 4 7

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第239図の1	須恵器 杯	(12.4)	4.1	6.4	長石多く含む	灰色		10
第239図の2	須恵器 杯	(11.8)	4.2	6.2	石英・長石多く含む	青灰色		5
第239図の3	土師器 杯	13.8	4.5	8.0	石英・長石多く含む	明赤褐色		11
第239図の4	土師器 甕	—	—	—	スコリア・砂粒含む	赤褐色		8
第239図の5	須恵器 甕	(19.7)	—	—	長石・石英含む	灰色		7

II148 (第240図、図版87・158・167)

支柱穴をもたない、方形プランの住居である。遺物は竈内及び住居の竈側の東コーナーと、対面の西コーナーにまとまって出土している。竈内では、伏せた状態の杯・甕類の底部が出土している。

表192 II 1 4 8

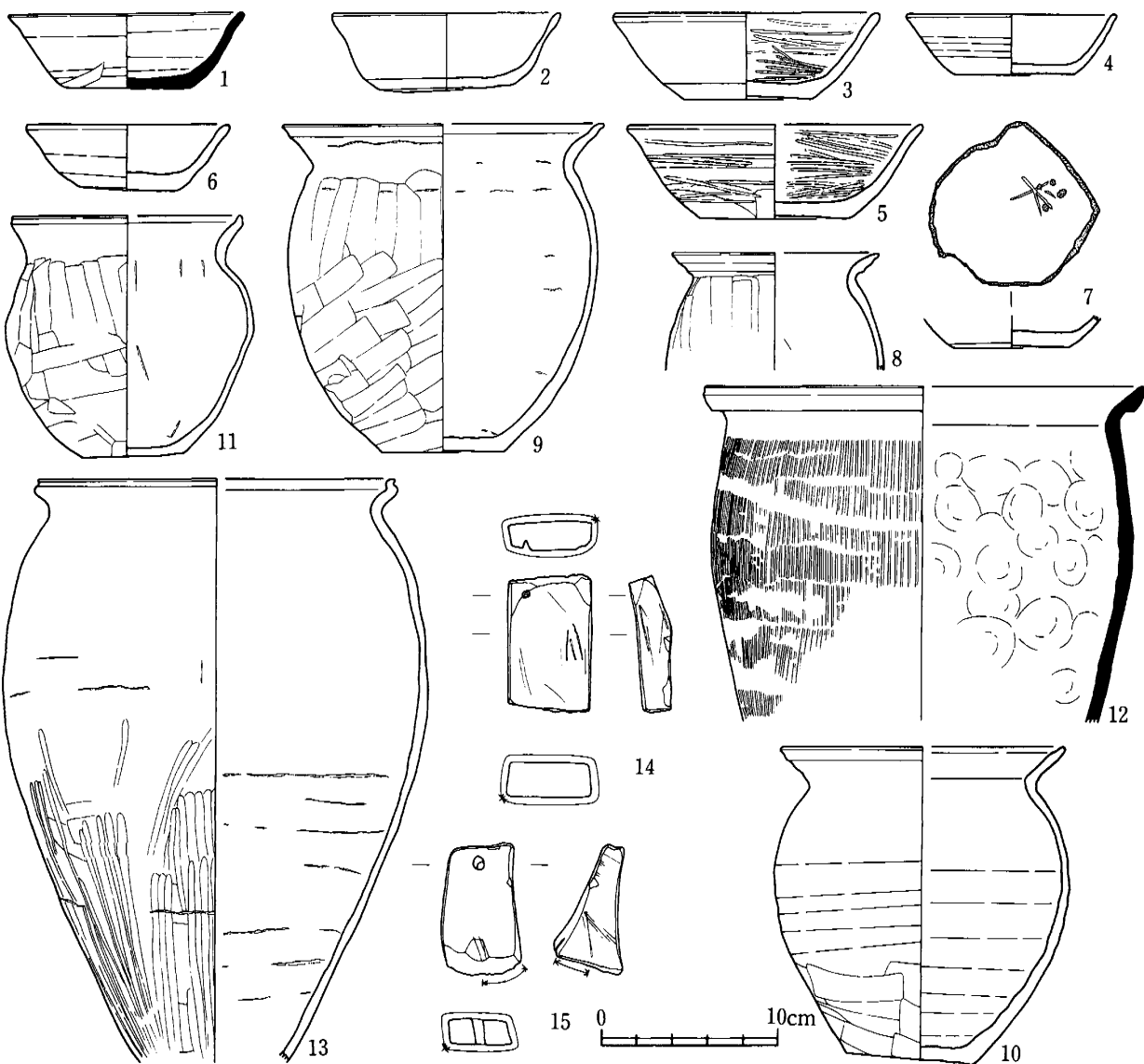
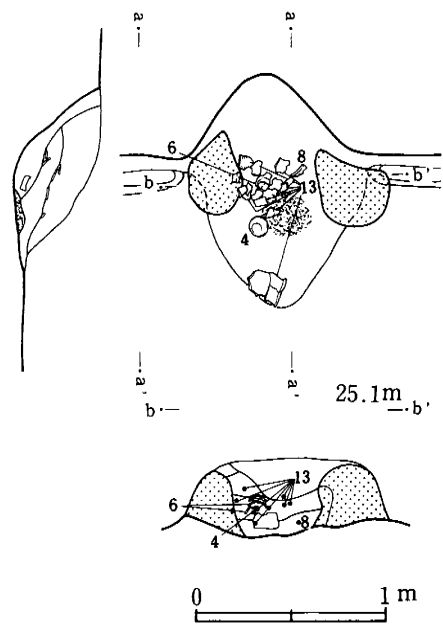
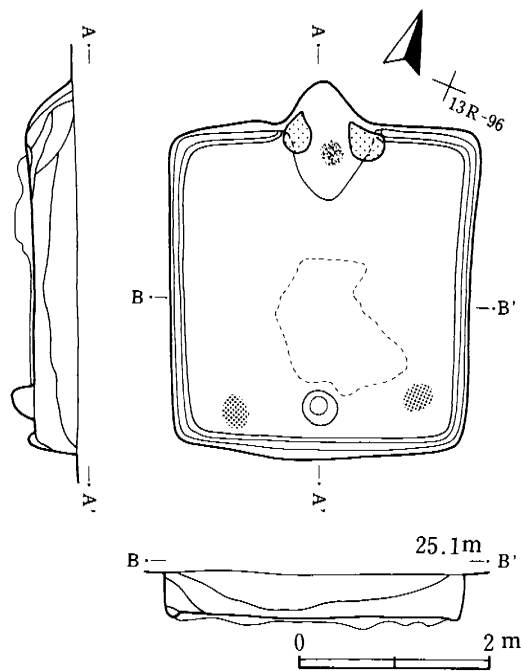
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第240図の1	須恵器 杯	13.0	4.2	7.0	石英・長石・スコリア含む	暗青灰色		1、4、38
第240図の2	土師器 杯	12.7	4.4	7.7	雲母・スコリア含む	橙色		1、36
第240図の3	土師器 杯	14.8	4.9	7.2	雲母・スコリア含む	橙色		2、10、18、19
第240図の4	土師器 杯	11.7	3.4	6.8	雲母・石英・スコリア含む	明赤褐色		46
第240図の5	土師器 杯	(16.5)	5.2	8.5	雲母・スコリア含む	明赤褐色		1、13、34、40、41
第240図の6	土師器 杯	11.2	3.6	5.4	雲母・石英・長石・スコリア含む	橙色		70、71、76、77
第240図の7	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「大」	33
第240図の8	土師器小型甕	(11.5)	—	—	石英・長石含む	淡褐色		75、77
第240図の9	土師器小型甕	(18.1)	18.2	6.8	石英・長石含む	明褐色		28、53、68、69、73、74、77
第240図の10	土師器小型甕	15.9	17.4	7.2	石英・長石・砂粒多く含む	明褐色		1、2、3、11、17、50、56、63、64、65、71、77
第240図の11	土師器小型甕	(12.7)	13.5	5.6	石英・長石含む	明赤褐色		1、2、3、20、21、31、32、39、40
第240図の12	須恵器 甕	(24.7)	—	—	砂粒含む	褐色		12、32、41、48、73、74
第240図の13	土師器 甕	(19.8)	—	—	雲母・石英・長石多く含む	淡橙褐色	常総型	45、47、51、54、55、59、61、66、67、77
第240図の14	砥石	118.1g	—	—	凝灰岩	—	孔1	5
第240図の15	砥石	128.1g	—	—	凝灰岩	—	孔1	29

II149 (第241図、図版88・158・167)

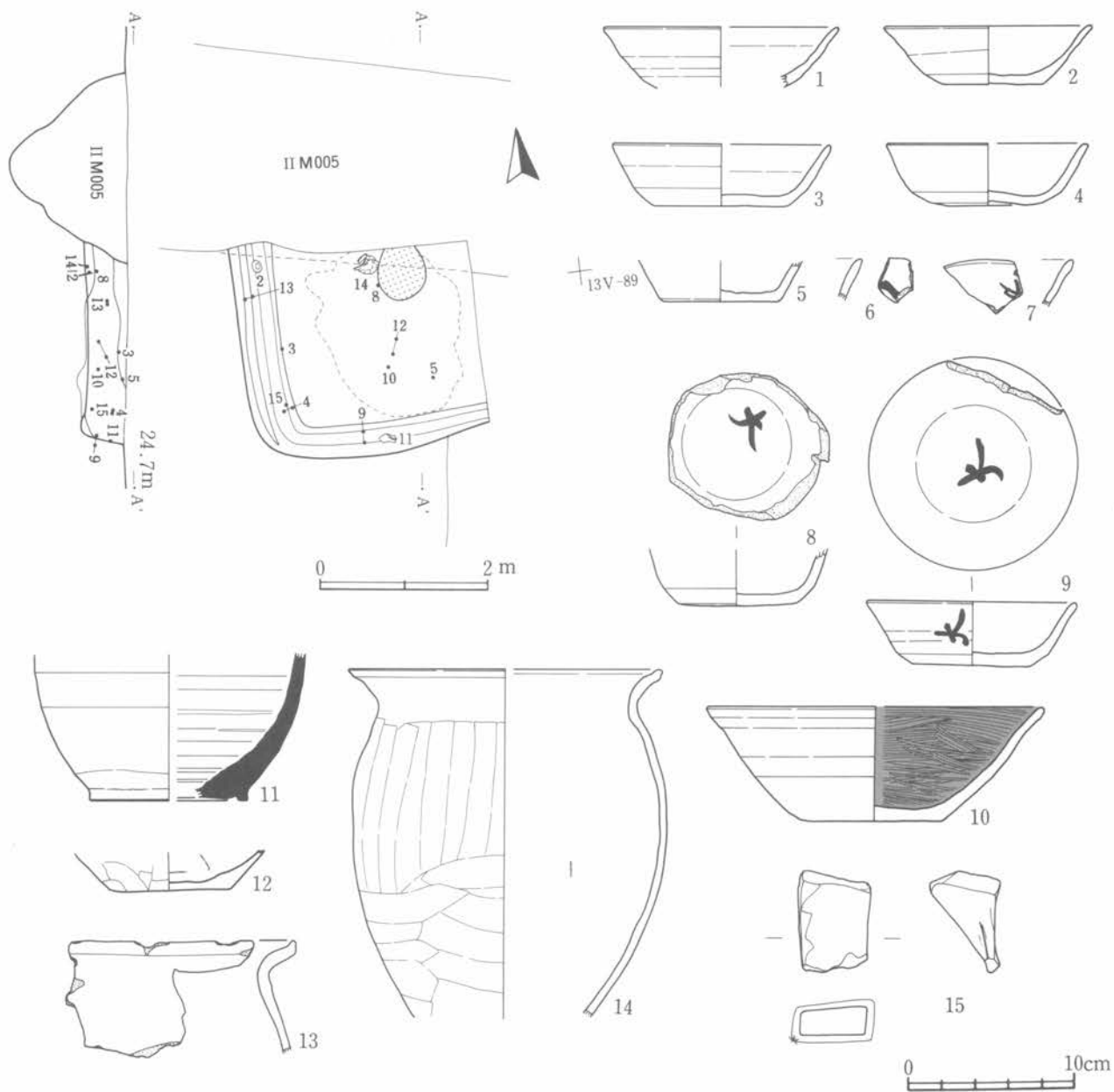
東側及び北側を大きく削平され、遺構全体で1/3程度のみ遺存している住居である。西側の壁溝は、立上がり面よりやや内側に廻る。「大」の墨書土器が出土している。

表193 II 1 4 9

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第241図の1	土師器 杯	(13.8)	—	—	砂粒多く含む	暗褐色		92、IIM005-8
第241図の2	土師器 杯	12.2	3.6	6.0	雲母含む	黄褐色		90
第241図の3	土師器 杯	(12.8)	3.8	8.0	雲母・スコリア含む	暗褐色		1、23
第241図の4	土師器 杯	(11.8)	3.8	4.6	雲母・スコリア含む	橙色		28、55
第241図の5	土師器 杯	—	—	(6.7)	—	明赤褐色		1、84
第241図の6	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体内)「□」	1
第241図の7	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「加」	1
第241図の8	土師器 杯	—	—	7.0	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底内)「大」	1、50
第241図の9	土師器 杯	12.4	3.8	7.0	雲母多く含む	橙色	墨書(体外)「大」 墨書(底内)「大」	39、40
第241図の10	土師器 鉢	(19.6)	6.8	8.0	雲母・スコリア含む	外面黄褐色 内面黒色	内黒	48
第241図の11	須恵器 壺	—	—	9.2	石英・長石含む	灰色		91
第241図の12	土師器 甕	—	—	(7.1)	石英・長石含む	橙褐色		1、44、45
第241図の13	土師器 甕	—	(6.7)	—	雲母・長石含む	暗褐色		19、20
第241図の14	土師器 甕	(18.4)	—	—	石英・長石多く含む	明褐色		1、89、IIM005-8
第241図の15	砥石	95.0g	—	—	凝灰岩	—		67



第240图 II148



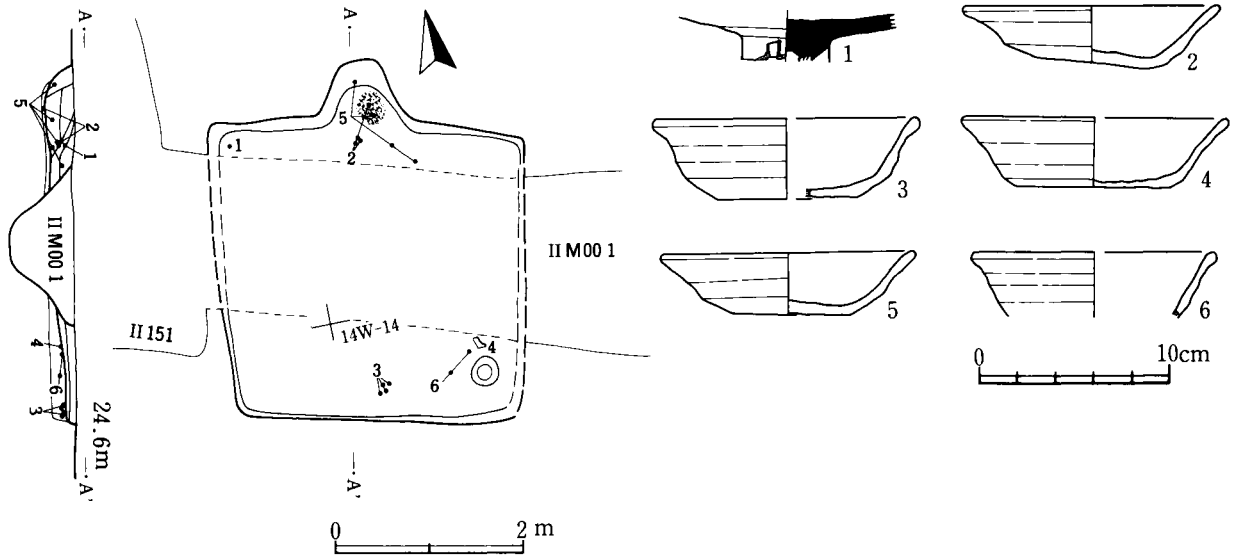
第241図 II149

II150 (第242図、図版88・158)

住居中央を東西方向にII M001が横切る。竈は掘り方のみが遺存しており、解体されていたようである。

表194 II150

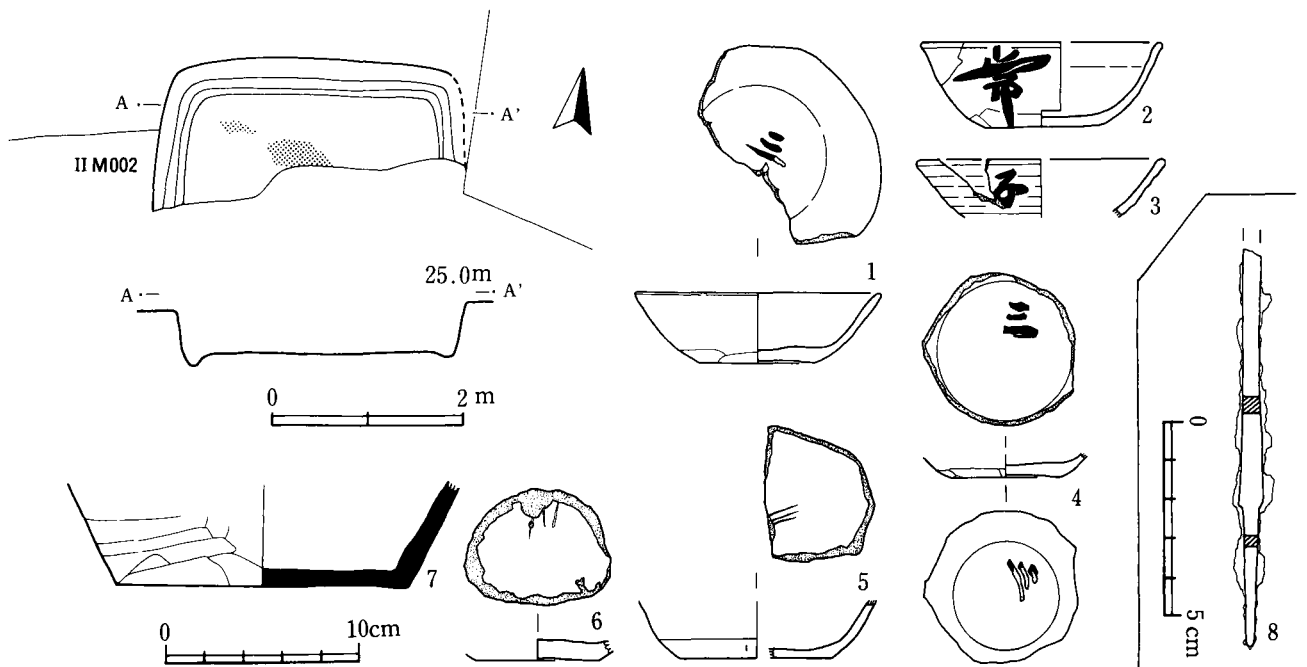
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第242図の1	須恵器 高盤	—	—	—	石英・長石含む	青灰色		13
第242図の2	土師器 杯	13.2	3.4	5.9	雲母・石英・スコリア含む	橙色		3、37、39、40、44
第242図の3	土師器 杯	(13.8)	4.2	(7.4)	雲母・石英・長石含む	橙色		32、33、34、35
第242図の4	土師器 杯	13.4	3.8	8.0	雲母・石英・スコリア含む	橙色		31
第242図の5	土師器 杯	13.0	3.4	6.3	雲母・石英・スコリア含む	明赤褐色		3、21、23、46、52、47
第242図の6	土師器 杯	(12.4)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	橙色		2、25、26



第242図 II150

II155 (第243図、図版88・168・175)

II M002に削平され、全体の1/2程度が遺存している。確認した一辺から比較的小型の住居であることが確認できる。床面には焼土の堆積があり、焼失住居と考えられる。竈は遺存しないが、東側に少量の砂質粘土が確認できたことから、東側に竈があったと想定される。「常」や「三」の墨書土器が見られる。8の鉄鏝の篋被から基部片は、焼土塊直下の床面直上から出土した。



第243図 II155

表195 II 155

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第243図の1	土師器 杯	(12.8)	3.6	6.0	スコリア含む	橙色	墨書(底内)「三」	1、4
第243図の2	土師器 杯	(12.4)	4.4	6.4	スコリア含む	橙色	墨書(体外)「常」	6
第243図の3	土師器 杯	(12.6)	-	-	-	橙色	線刻(体外)「子」	1
第243図の4	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「三」 墨書(底外)「三」	22
第243図の5	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「口」	13
第243図の6	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「口」	17
第243図の7	須恵器 甕	-	-	(15.2)	石英・長石・雲母多く含む	-	底外網代状圧痕	18、21
第243図の8	鉄鏃	残存長 10.2	-	-	-	-	-	23

## II 156 (第244図、図版89・158・168)

主軸に対して横軸が長い住居で、掘込みはしっかりしている。4本の支柱穴と比較的大きな出入口ピットを1つ有する。住居の大きさに比べ、遺物量はさほど多くない。手捏ね土器が2点出土している。

表196 II 156

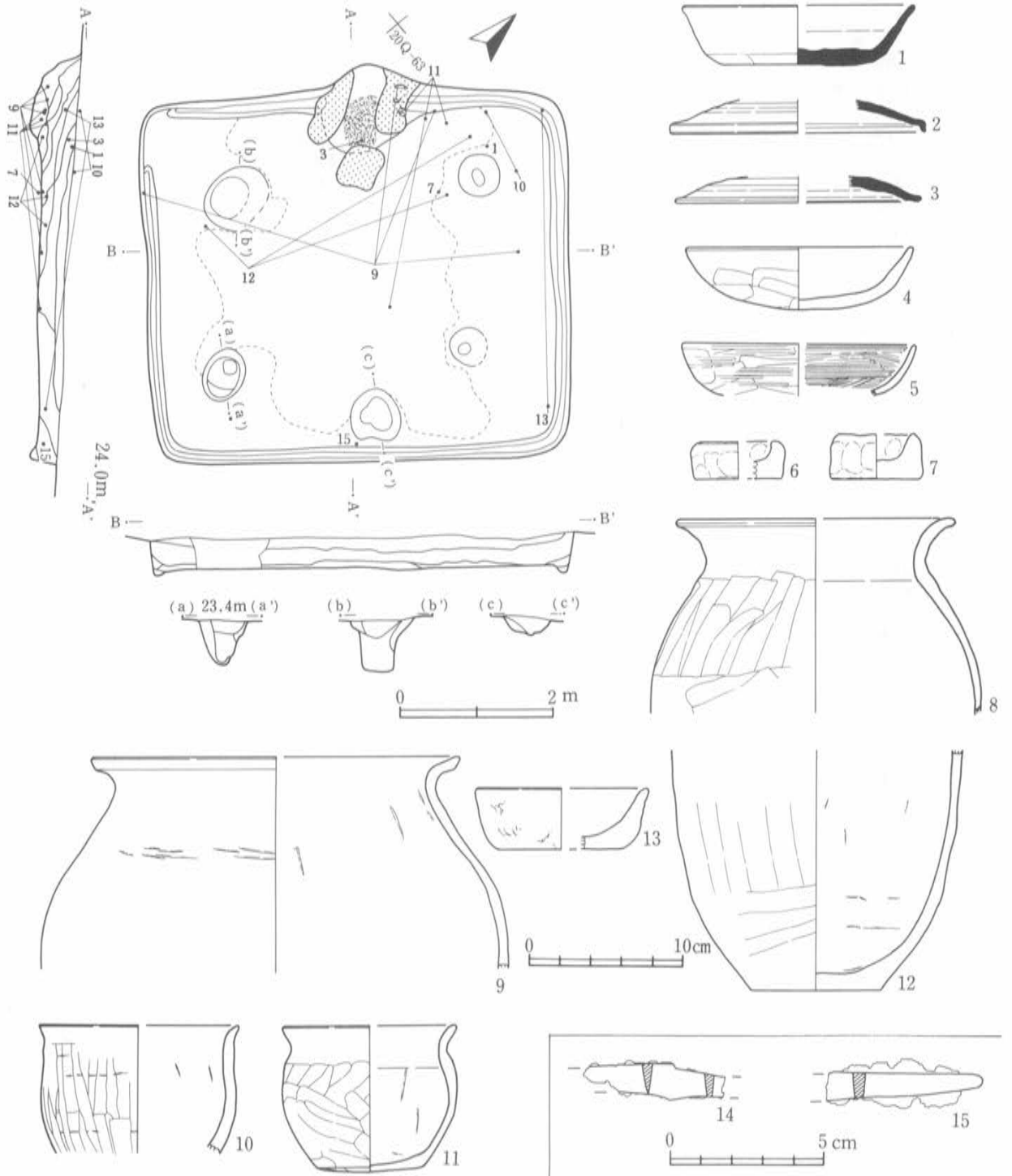
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第244図の1	須恵器 杯	(14.8)	3.9	9.6	雲母・長石・スコリア含む	暗灰色		1、3、10
第244図の2	須恵器 蓋	(16.2)	-	-	砂粒含む	灰白色		2
第244図の3	須恵器 蓋	(15.8)	-	-	雲母多く含む	灰黄色		73
第244図の4	土師器 杯	14.8	4.0	-	長石・スコリア含む	明赤褐色		87
第244図の5	土師器 杯	(14.8)	-	-	砂粒含む	明赤褐色		85、88
第244図の6	手捏ね	(5.4)	2.4	5.6	砂粒含む	褐色		4
第244図の7	手捏ね	(4.8)	2.9	5.4	砂粒含む	明赤褐色		1、46
第244図の8	土師器 甕	(17.3)	-	-	石英・長石多く含む	明赤褐色		86
第244図の9	土師器 甕	(23.4)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	淡橙褐色		50、53、60、89
第244図の10	土師器小型甕	(12.6)	-	-	石英・長石・スコリア含む	暗褐色		1、3、11、33
第244図の11	土師器小型甕	(10.9)	9.2	(6.7)	石英・長石含む	淡黄褐色		2、51、54、85
第244図の12	土師器 甕	-	-	8.4	石英・長石含む	明赤褐色	底外木葉痕	50、53、60、89
第244図の13	土師器 杯	(11.0)	3.8	(8.0)	スコリア多く含む	明赤褐色		35、64
第244図の14	刀子	残存長 4.4	-	-	鉄製品	-		2
第244図の15	刀子	残存長 5.1	-	-	鉄製品	-		76

## II 157 (第245図、図版89・158・175)

掘込みは深い、壁溝は確認できない住居である。杯類に新治産の須恵器が多い(1~8)。特に、底部に「日下部吉人」と人名がヘラ書きされた文字が確認できる杯が出土しており、注目される。遺物は住居西コーナーに集中し、重なって出土したものもある。重なった杯には同じ位置が割れたものも存在する。

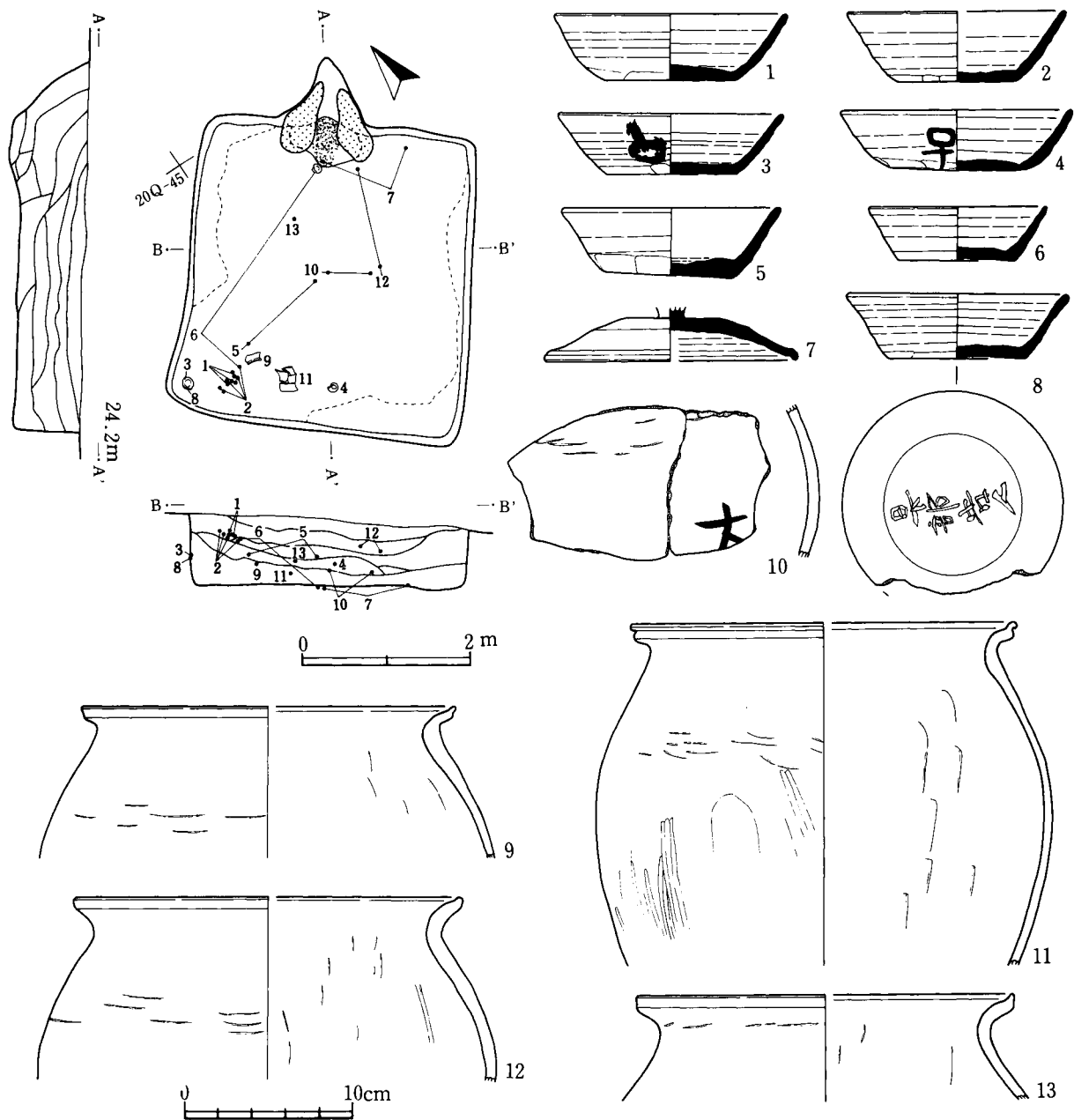
表197 II 157

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第245図の1	須恵器 杯	13.8	4.0	7.8	雲母・石英・長石多く含む	灰色	新治産	3、13、14、16、17、27
第245図の2	須恵器 杯	(13.0)	4.2	7.0	雲母・石英・長石含む	灰白色	新治産	3、12、15、26、28、29
第245図の3	須恵器 杯	13.2	3.7	7.7	雲母・石英・長石含む	灰色	墨書(体外)「〇」新治産	58
第245図の4	須恵器 杯	13.6	3.7	8.2	石英・長石多く含む	灰色	墨書(体外)「早」新治産	62
第245図の5	須恵器 杯	12.8	4.1	7.8	石英・長石多く含む	灰黄色	新治産	10、30
第245図の6	須恵器 杯	10.4	3.1	6.9	長石・スコリア含む	新治産	新治産	12、64
第245図の7	須恵器 蓋	(14.8)	-	-	石英・雲母・スコリア含む	灰色	新治産	34、65
第245図の8	須恵器 杯	12.9	3.9	8.1	雲母・石英・長石含む	灰色	ヘラ書き(底外)「日下部吉人」、新治産	59
第245図の9	土師器 甕	(22.4)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	明褐色	常総型	60
第245図の10	土師器 甕	-	-	-	-	-	墨書(体外)「大」、常総型	38、54
第245図の11	土師器 甕	(22.6)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	淡橙褐色	常総型	61
第245図の12	土師器 甕	(21.8)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	淡橙褐色	常総型	33、36
第245図の13	土師器 甕	(22.0)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	淡橙褐色	常総型	24



第244图 II156

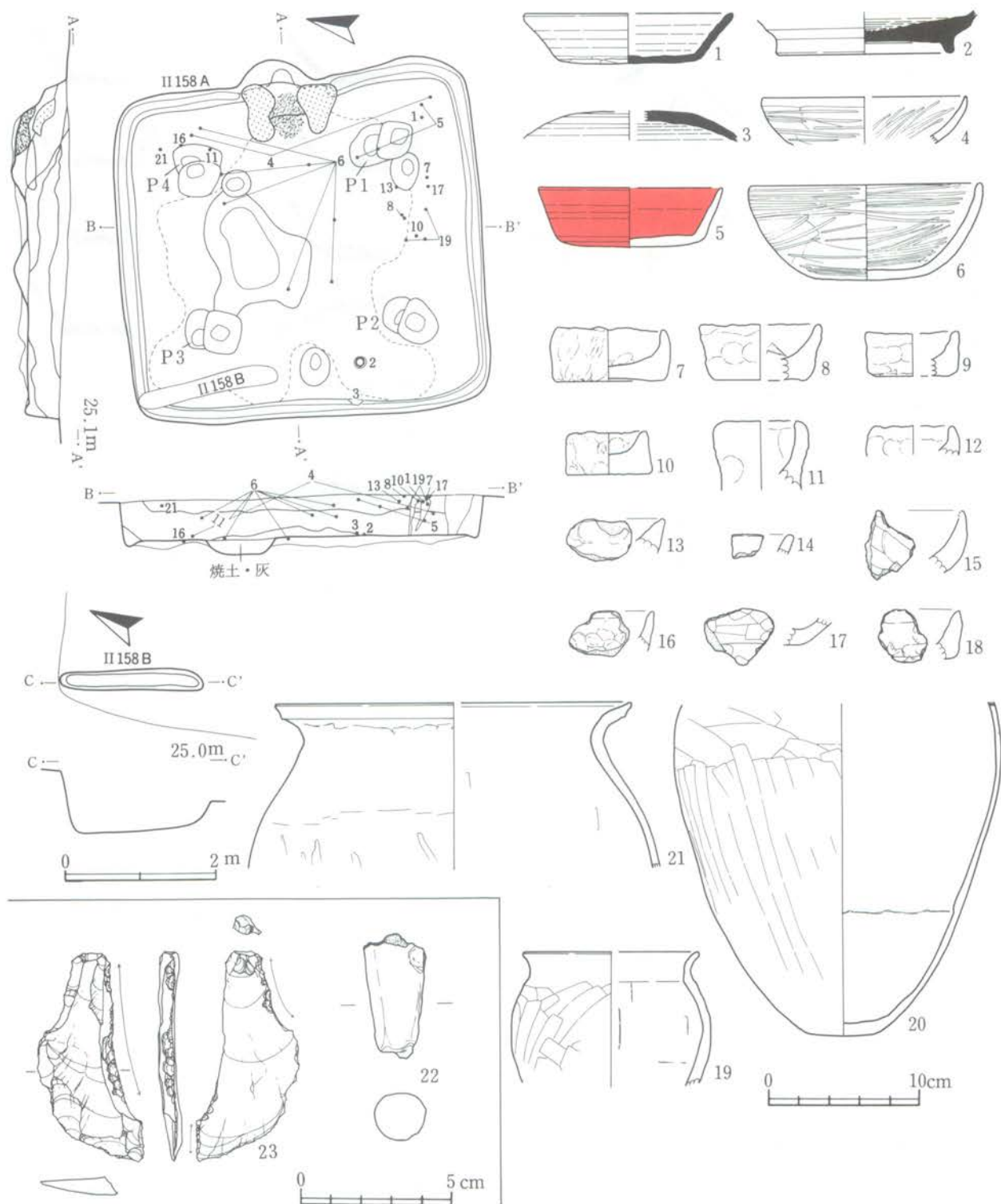




第245図 II157

II158 A (第246図、図版90・91・159・166・167)

比較的しっかりした掘込みの住居で、貼床除去後に1組(4本, P1~P4)の柱穴を新たに検出した。丁寧な貼床である。住居中央付近では、床面下から、灰・焼土を埋めた土坑を検出した。遺物は比較的多く、特に指頭痕の顕著な手捏ね土器片が住居東側の埋土上層からまとまって出土している。



第246図 II158A・158B

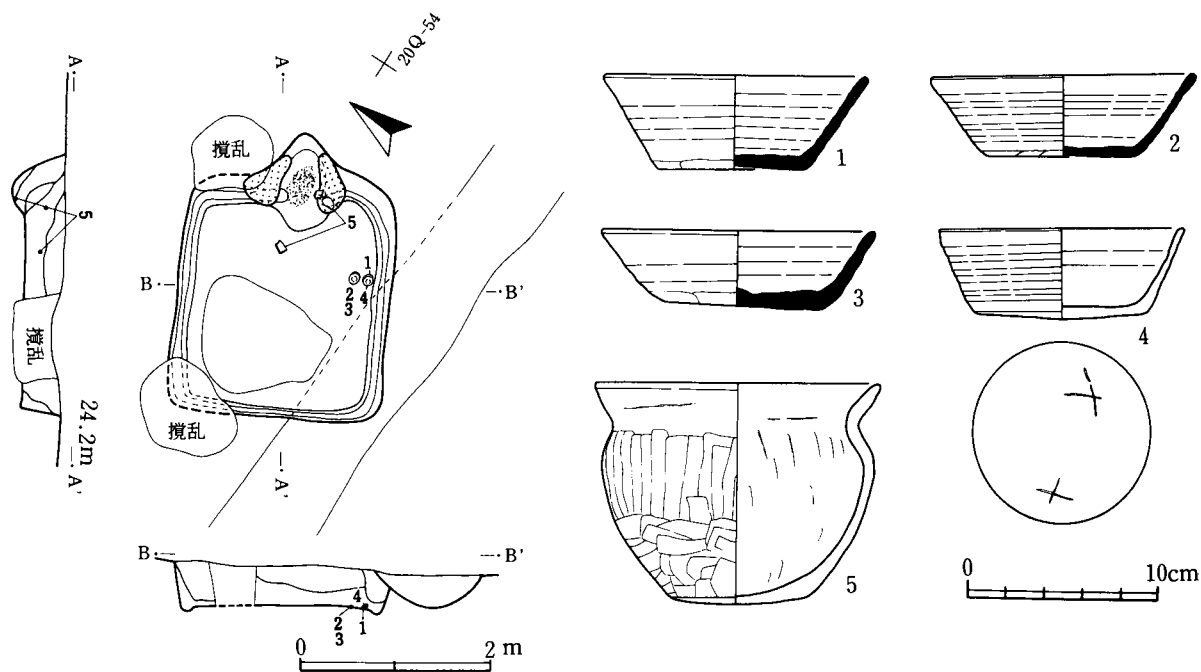
表198 II 158

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第246図の1	須恵器 杯	(13.7)	3.3	8.1	石英・長石多く含む	灰色		39
第246図の2	須恵器 壺	-	-	11.6	石英・長石多く含む	灰色		176
第246図の3	須恵器 蓋	-	-	-	雲母・石英・長石・スコリア含む	灰黄色		177
第246図の4	土師器 杯	(13.3)	-	-	長石・スコリア含む	橙色		88、130
第246図の5	土師器 杯	(12.0)	3.9	9.0	スコリア含む	明赤褐色	内外面赤彩	30、34、89
第246図の6	土師器 杯	15.2	6.2	-	雲母・スコリア含む	明赤褐色		1、4、54、98、107、123、124、132、153

第246図の7	手捏ね	6.9	3.4	7.0	石英含む	明褐色	底外木葉痕	43
第246図の8	手捏ね	(7.8)	3.6	(6.0)	雲母含む	黒褐色		51、52
第246図の9	手捏ね	(5.6)	2.9	(5.0)	雲母・長石含む	明黄褐色		178
第246図の10	手捏ね	5.0	2.7	5.2	石英・長石含む	明褐色		145
第246図の11	手捏ね	(4.6)	—	—	長石含む	明黄褐色		65
第246図の12	手捏ね	(5.0)	—	—	雲母含む	褐色～黒褐色		1
第246図の13	手捏ね	—	—	—	—	—		46
第246図の14	手捏ね	—	—	—	—	—		2
第246図の15	手捏ね	—	—	—	—	—		2
第246図の16	手捏ね	—	—	—	—	—		129
第246図の17	手捏ね	—	—	—	—	—		45
第246図の18	手捏ね	—	—	—	—	—		4
第246図の19	土師器小型甕	(11.4)	—	—	石英・長石多く含む	褐色～黒褐色		50、142、146
第246図の20	土師器 甕	—	—	4.6	石英・長石多く含む	橙褐色		114、136、172、177
第246図の21	土師器 甕	(23.4)	—	—	雲母・石英・長石多く含む	淡褐色	常総型	14
第246図の22	不明土製品	最大径 2.0	—	—	—	淡褐色	棒状	173
第246図の23	スクレイパー	最大幅 33.0mm	最大高 68.0mm	最大厚 5.3mm	頁岩、10.2g	—		178

## II161 (第247図、図版91・159)

非常に小型の住居で、著しく攪乱されており、遺構の遺存状況は不良である。壁際の床面近くから、杯が2点ずつ正位で重なって、2列に並んだ状態で出土した。その他、ほぼ完形になる小型甕が出土している程度で、遺物量としては少ない。



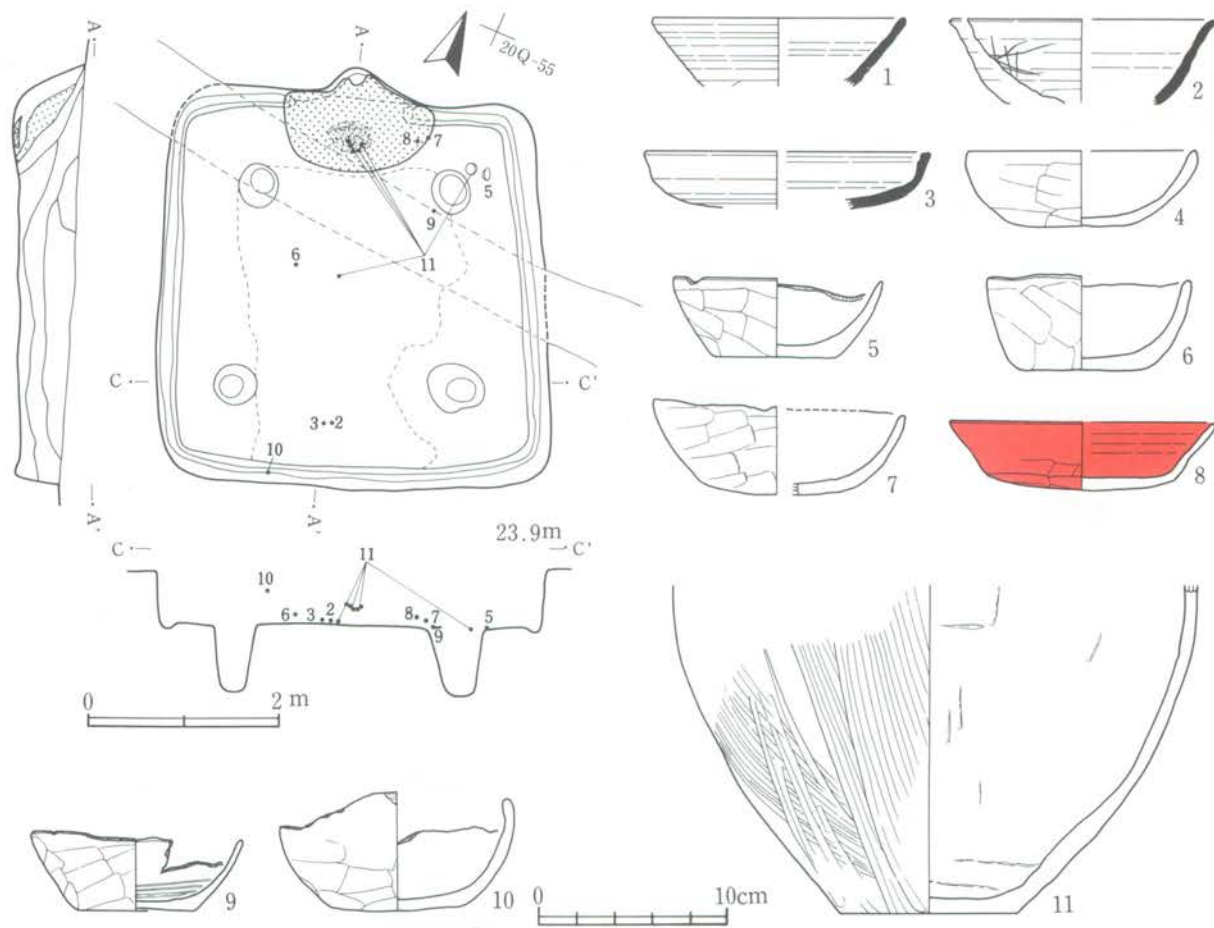
第247図 II161

表199 II161

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第247図の1	須恵器 杯	13.7	4.9	7.7	雲母・長石含む	灰白色		7
第247図の2	須恵器 杯	13.7	4.5	7.8	雲母・石英・長石含む	灰褐色		4、8
第247図の3	須恵器 杯	14.2	4.1	8.2	雲母・石英・長石多く含む	灰白色		9
第247図の4	土師器 杯	12.7	4.7	9.2	雲母・スコリア含む	褐色	線刻(底外)「十十」	5、6
第247図の5	土師器小型甕	14.7	11.5	7.2	石英・長石含む	明赤褐色		5、12、13

II162 (第248図、図版91・159)

しっかりした掘込みの住居である。北コーナー寄りの柱穴脇の床面上から、杯が2点出土している。竈脇には頭部を欠損した支脚が遺存していた。竈の遺存状況や煙道部の切込みなどに特徴があり、竈は遺構確認の段階で煙道口が確認できた。火床部は良く焼けている。



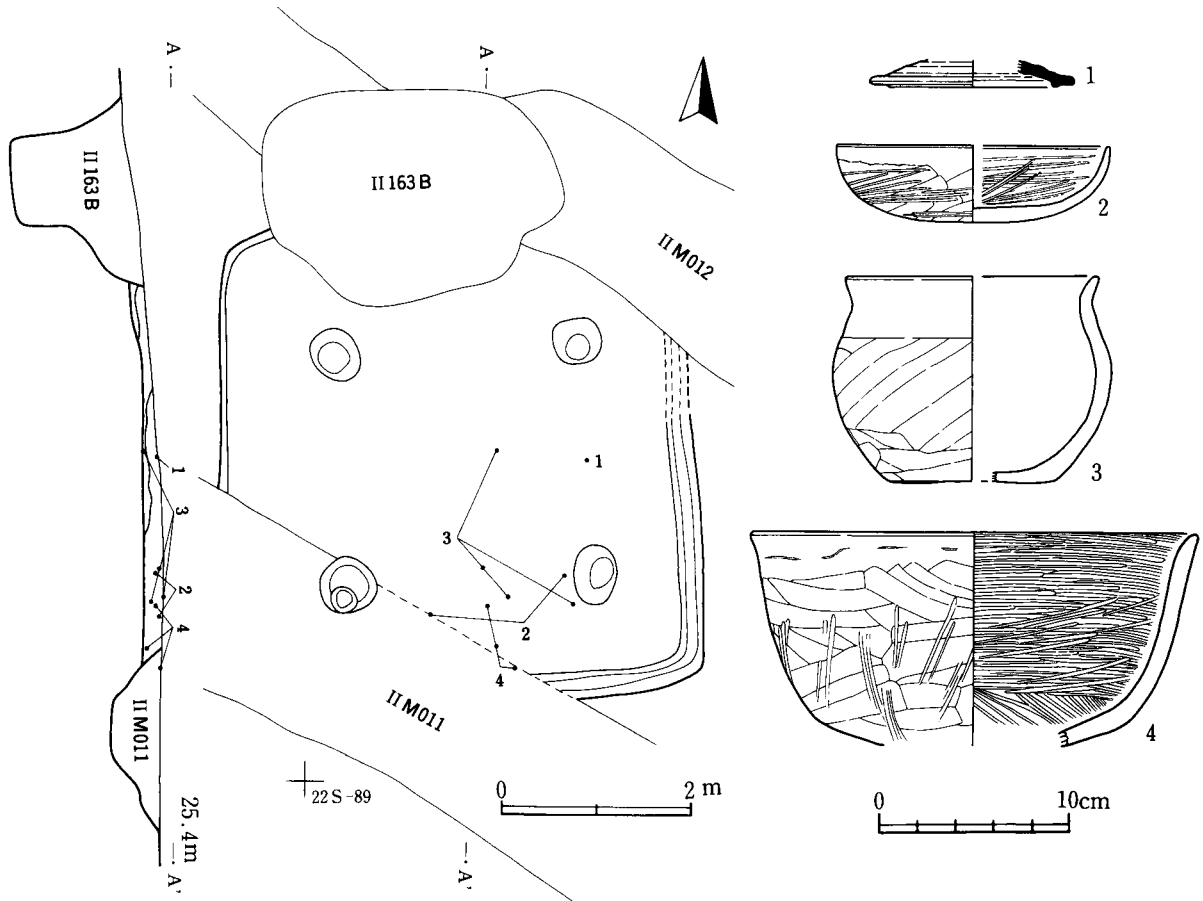
第248図 II162

表200 II162

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第248図の1	須恵器 杯	(13.1)	—	—	砂粒含む	灰白色	永田窯産	1
第248図の2	須恵器 杯	(13.7)	—	—	長石多く含む	灰色	線刻(体外) □□	9
第248図の3	須恵器 皿	(15.0)	—	—	砂粒含む	灰白色		10、II157-25
第248図の4	土師器 杯	(12.0)	3.9	(5.3)	雲母含む	橙色		4、3、26
第248図の5	土師器 杯	(11.0)	4.1	6.4	—	黒褐色～黄褐色		6
第248図の6	土師器 杯	10.4	4.8	6.4	雲母・スコリア含む	橙色		14
第248図の7	土師器 杯	(13.1)	4.5	—	スコリア含む	明黄褐色		1、23、24、26
第248図の8	土師器 杯	(13.9)	3.5	8.9	雲母・石英・長石含む	黒褐色	内外面赤彩	1、25、26
第248図の9	土師器 杯	11.0	4.2	6.1	スコリア含む	橙色		7
第248図の10	土師器 杯	—	—	7.0	雲母・スコリア含む	明黄褐色		12
第248図の11	土師器 甕	—	—	(9.2)	雲母・石英・長石多く含む	橙褐色	常総型	1、4、17、18、19、20、21

II163A (第249図、図版92・159)

IIM012、II163B(地下式坑)、IIM011に部分的に削平される。163Bによって竈は完全に削平されている。遺物量は少ない。



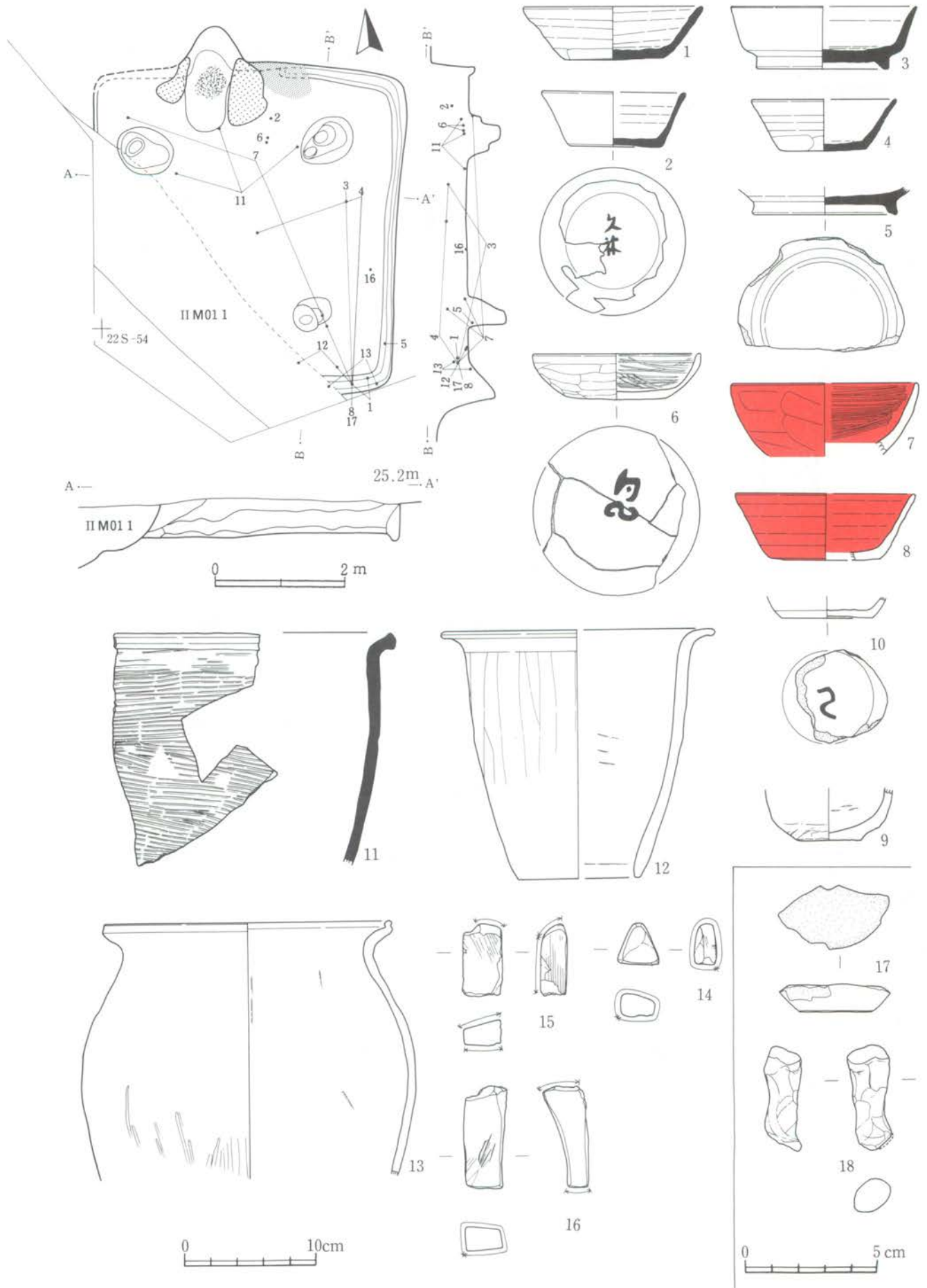
第249図 II163A

表201 II163A

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第249図の1	須恵器 蓋	(8.7)	-	-	雲母・石英・長石含む	灰白色		20
第249図の2	土師器 杯	(14.2)	4.0	-	雲母・石英・長石・スコリア含む	明赤褐色		5、23、IIM011-1
第249図の3	土師器小型甕	(12.9)	10.7	8.6	石英・長石含む	明赤褐色		1、3、9、14、16
第249図の4	土師器 鉢	23.0	-	-	石英・長石含む	淡橙褐色		11、12、13、IIM001-1、2

II164 (第250図、図版92・159・166~168・175)

調査区境界に位置する。IIM011に一部削平される。赤色塗彩土師器杯(7・8)や凝灰岩の砥石が出土している。また、18は上部に剝離痕を残す獣足型土製品である。



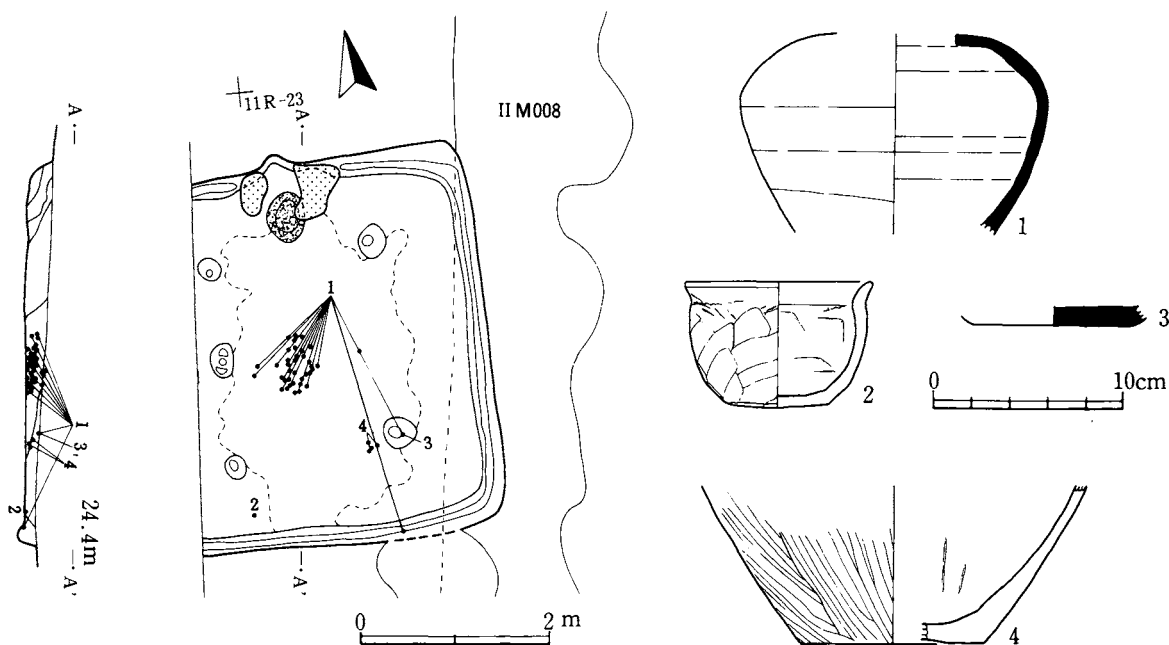
第250図 II164

表202 II 164

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第250図の1	須恵器 杯	13.6	4.1	7.7	長石多く含む	灰色		62、63
第250図の2	須恵器 杯	11.0	4.2	7.0	—	—	墨書(底外)「久弥」	1、3、82
第250図の3	須恵器 高台付杯	(14.0)	4.8	9.6	石英・長石多く含む	灰色		1、62、86
第250図の4	須恵器 杯	(10.8)	4.0	6.7	雲母・石英・長石多く含む	灰色		3、23、62、86
第250図の5	須恵器 高台付杯	—	—	11.0	スコリア・砂粒含む	灰白色	転用礪(底外)	66
第250図の6	土師器 杯	12.6	3.5	—	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底外)「白〇」?	2、83、84
第250図の7	土師器 杯	(14.0)	—	—	砂粒含む	橙色	内外面赤彩	7、35、39、62
第250図の8	土師器 杯	(13.3)	5.0	(8.1)	砂粒多く含む	明赤褐色	内外面赤彩	62
第250図の9	土師器 椀	—	—	5.0	雲母・石英・長石含む	明褐色	底外木葉痕	3
第250図の10	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底外)「〇」	2
第250図の11	須恵器 甕	—	—	—	石英・長石多く含む	灰色		1、3、12、17、81
第250図の12	土師器 甕	(20.3)	18.6	9.3	砂粒多く含む	明褐色		3、47、52、62
第250図の13	土師器 甕	(21.4)	—	—	雲母・石英・長石多く含む	淡橙褐色	常総型	3、54、65
第250図の14	砥石	18.4g	—	—	凝灰岩	—		2
第250図の15	砥石	49.1g	—	—	凝灰岩	—		2
第250図の16	砥石	80.9g	—	—	凝灰岩	—		43
第250図の17	紡錘車	—	—	—	安山岩	—	破片	62
第250図の18	土製品	残存長 4.0	—	—	雲母・長石含む	褐色	獣足型 上部剥離痕	2

II165 (第251図、図版93・159)

調査区の北西端に当たり、II M008に一部攪乱される。4本の支柱穴以外に小ピットが1か所ある。床面の硬質面から判断すると、出入口は竈対面になると想定されるので、出入口ピットではないようである。



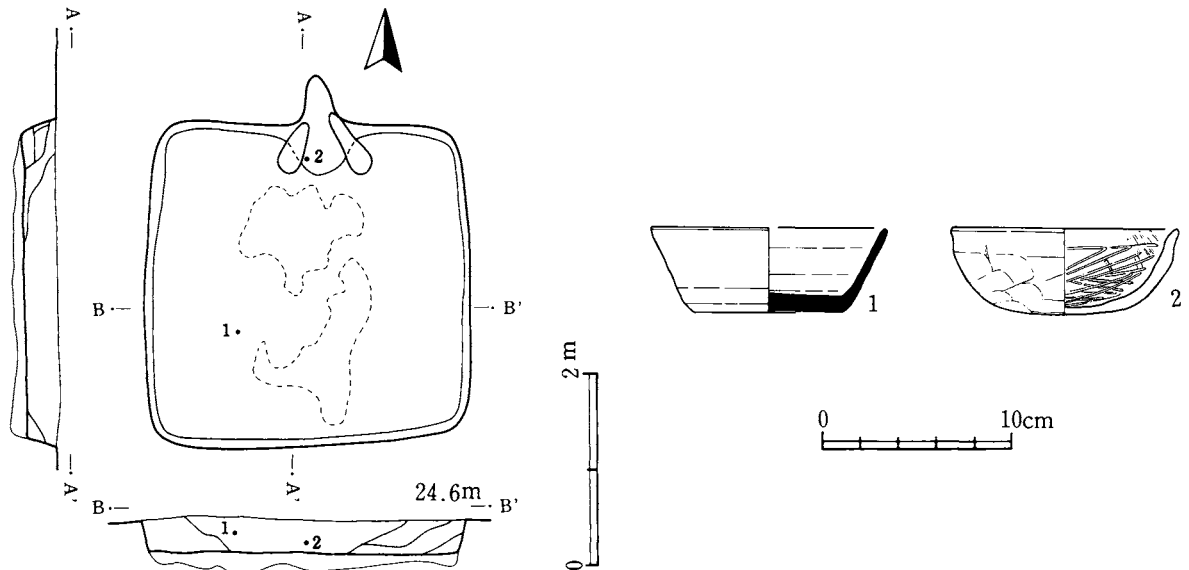
第251図 II165

表203 II 165

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第251図の1	須恵器 壺	—	—	—	石英・長石・黒色粒子含む	灰色	自然袖付着	1、5、9、10、13、14、15、16、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54
第251図の2	土師器 小型甕	9.6	6.5	5.5	スコリア含む	暗褐色		6
第251図の3	須恵器 杯	—	—	—	雲母含む	灰白色		1
第251図の4	土師器 甕	—	—	(9.6)	雲母・石英・長石多く含む	明褐色	常総型	2、3、4、8

N195 (第252図、図版111・160)

調査区北東端に位置する住居である。攪乱や重複もなく、遺構の遺存度は良好であるが、遺物が極めて少ない。竈内から、完形の土師器杯が横位で出土した。竈は煙道部の切込みが深い。埋土の状態は、単一層ではないが、おそらく短期間のうちに埋め戻しているのであろう。



第252図 N195

表204 N195

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第252図の1	須恵器 杯	(12.2)	4.4	7.0	雲母・長石・石英・スコリア含む	灰色		2
第252図の2	土師器 杯	11.8	4.4	-	雲母・スコリア含む	橙色～黒色		3

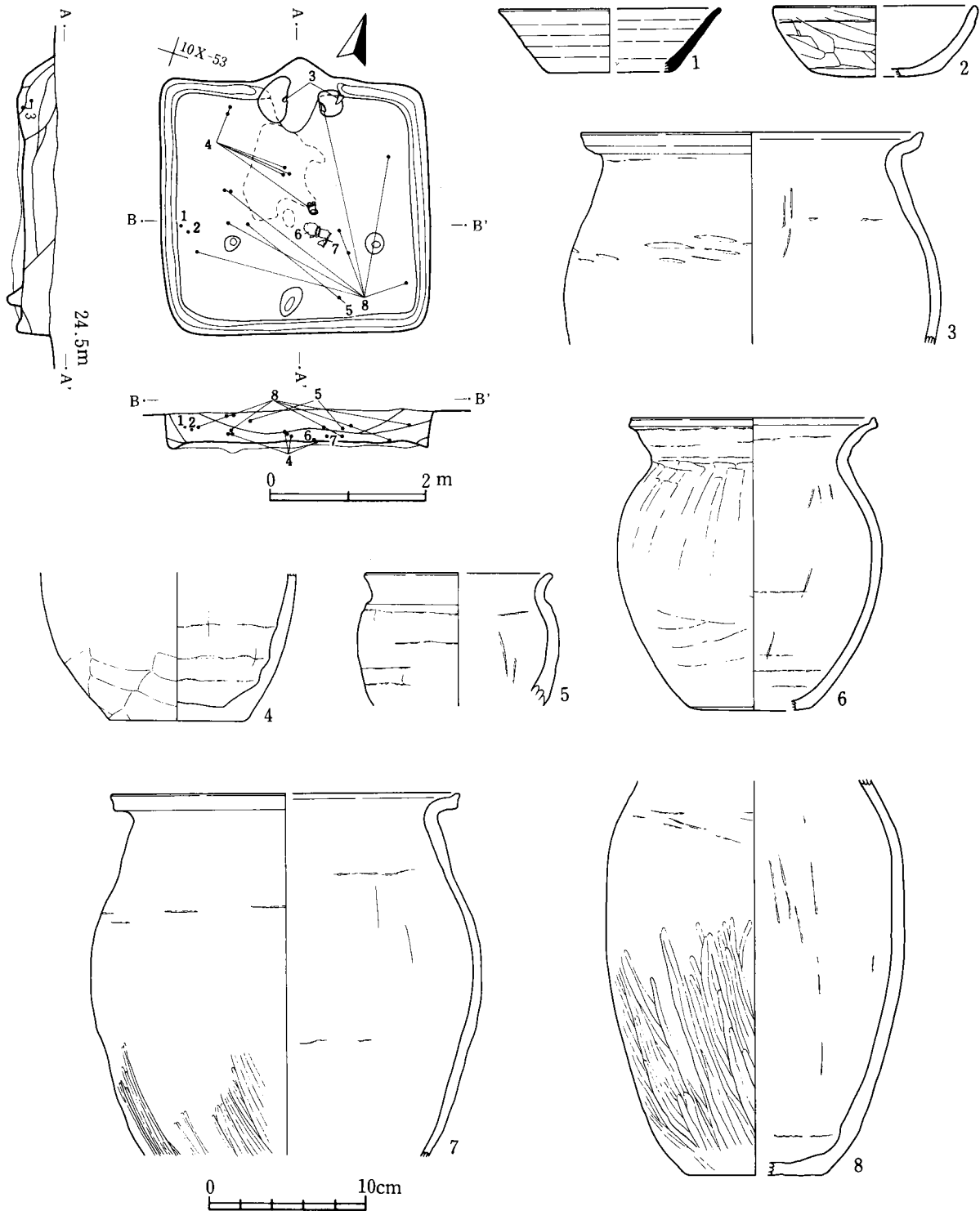
N196 (第253図、図版112)

比較的整った方形プランの住居である。掘込みもしっかりしている。竈対面に出入口ピットを、出入口側の2か所に柱穴をもつ。住居ほぼ中央に当たる位置の床面上から、小型甕や甕類の底部片などの遺物を検出した。

表205 N196

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第253図の1	須恵器 杯	(14.2)	4.1	(8.0)	雲母・長石含む	灰色		25
第253図の2	土師器 杯	(12.9)	(4.6)	(8.8)	長石・スコリア含む	暗褐色		26
第253図の3	土師器 甕	(21.8)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	明褐色	常総型	34、38、39
第253図の4	土師器 甕	-	-	8.6	雲母・石英・長石多く含む	明褐色		15、17、23、24、36、37
第253図の5	土師器 小型甕	12.2	4.4	7.0	石英・長石・砂粒含む	暗褐色		4、7、29
第253図の6	土師器 甕	15.3	(18.6)	(8.0)	石英・長石・砂粒含む	明褐色		35
第253図の7	土師器 甕	(22.0)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	明褐色	常総型	2、4、36
第253図の8	土師器 甕	-	-	(8.6)	雲母・石英・長石多く含む	淡褐色	常総型	5、8、9、11、21、27、28、33、9X-71-1

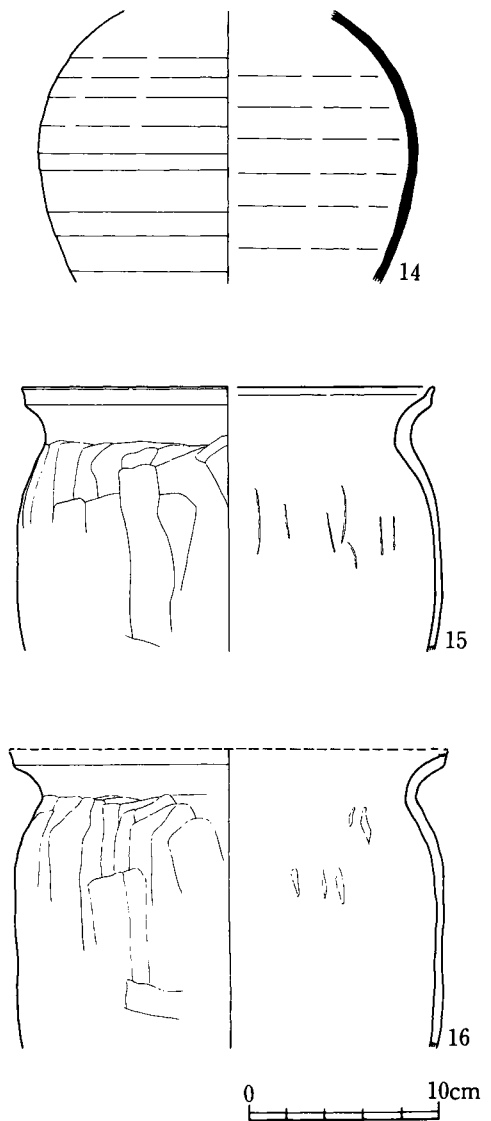
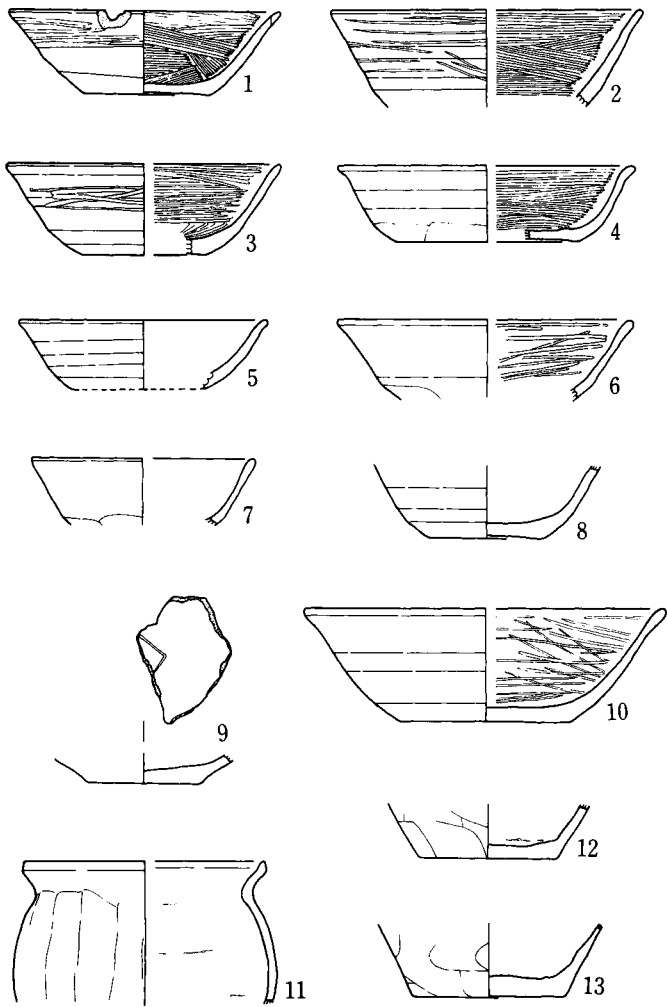
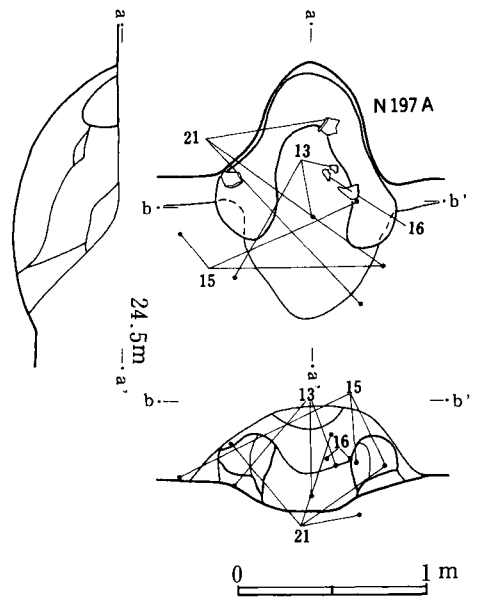
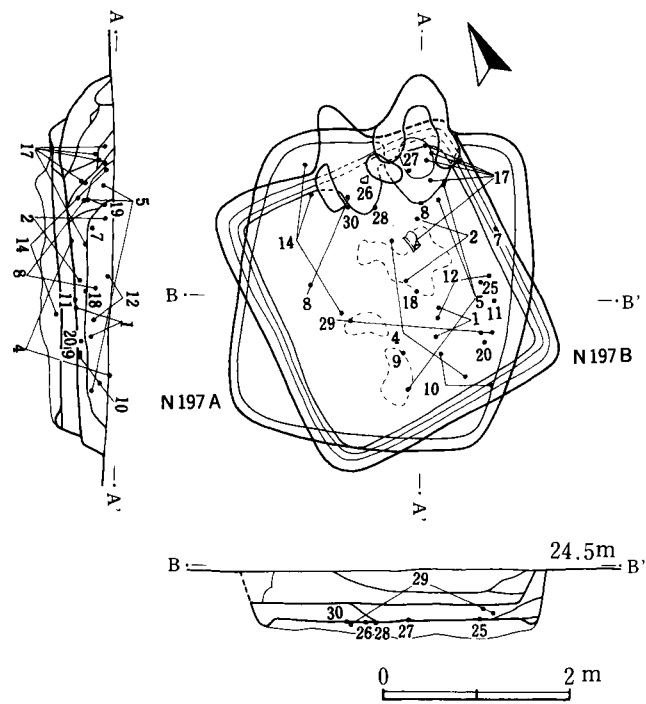




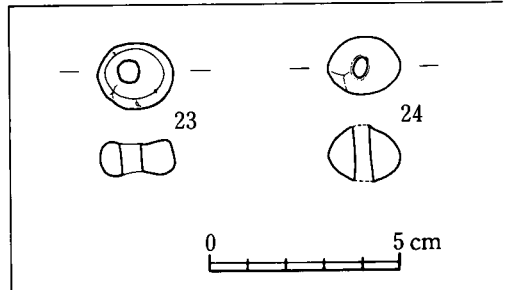
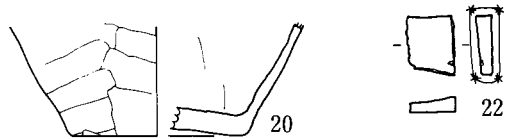
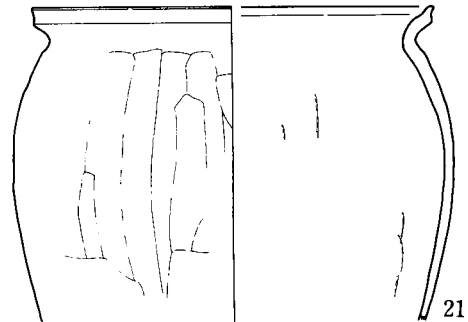
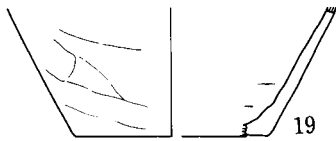
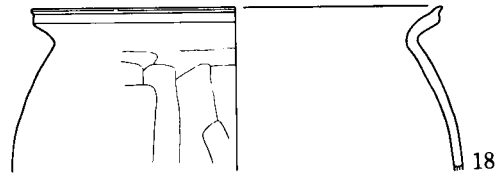
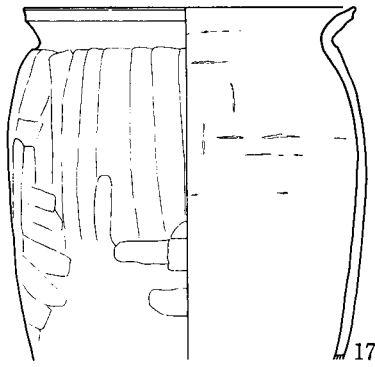
第253図 N196

N197A・197B (第254・255図、図版112・113・160・165)

住居の中心を回転の軸として、主軸の方位を異にする2軒の住居が重複する。197Aの方が197Bに対して新しい。Aは壁溝がないが、遺物量は比較的多い。197Bは197Aの床面下で確認した。Bの方が深いため、遺構全体の形状を確認することができた。197Aには内面をヘラミガキする土師器杯が多く見られる。23・24の土玉は埋土中からの出土である。

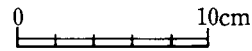
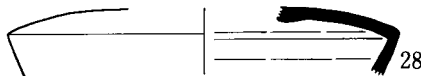
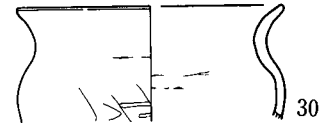
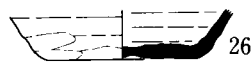


第254图 N197A(1)·197B(1)



N197A

N197B



第255図 N197A(2)・197B(2)

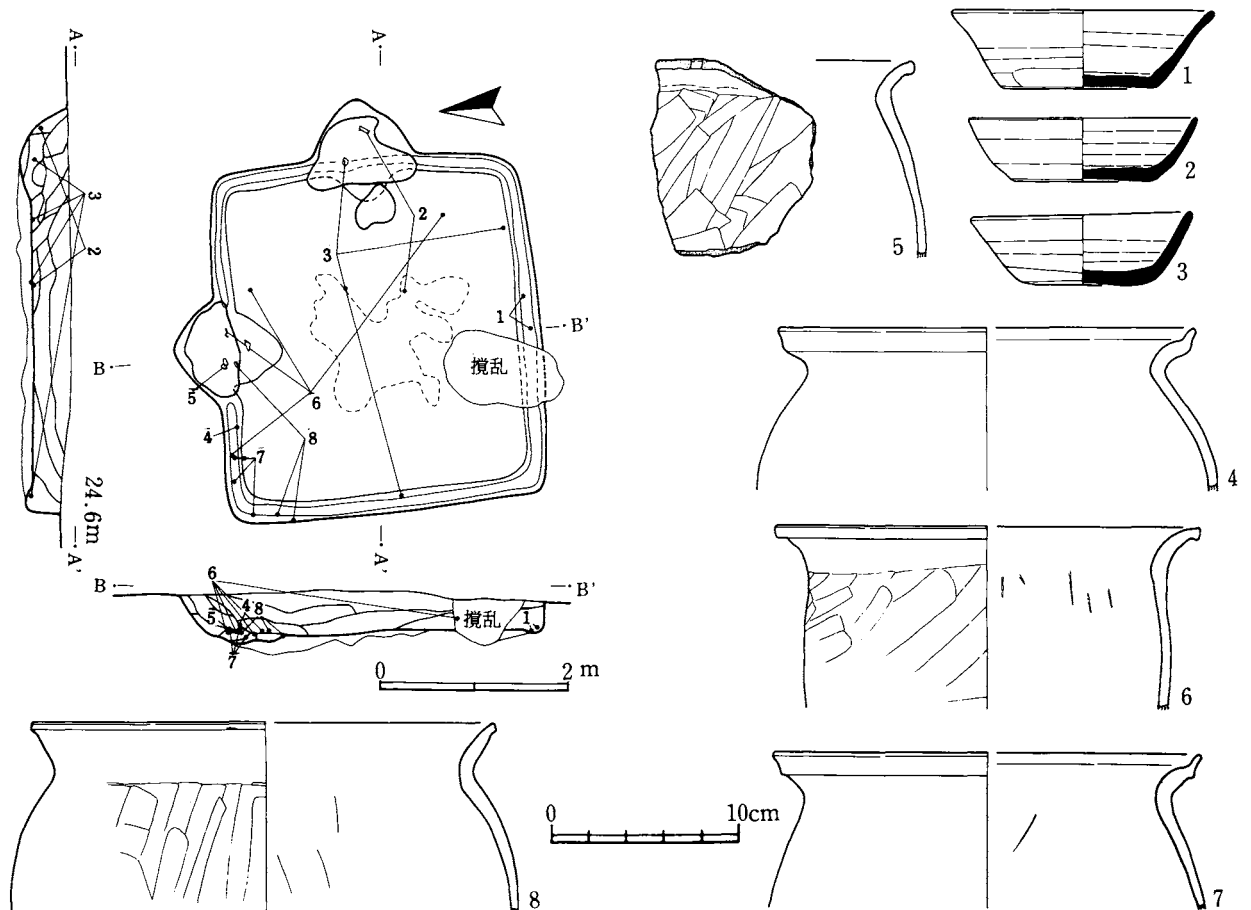
表206 N197A・197B

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第254図の1	土師器 杯	14.1	4.3	6.5	雲母・砂粒含む	赤褐色～黒色	口縁部に穿孔有り	2、33、44
第254図の2	土師器 杯	(16.4)	—	—	雲母・砂粒含む	黒褐色		1、3、48、51、79
第254図の3	土師器 杯	(14.0)	4.8	(6.4)	雲母・スコリア含む	明赤褐色		1、3、79
第254図の4	土師器 杯	(15.6)	4.0	9.6	雲母・スコリア含む	黄褐色		2、11、24
第254図の5	土師器 杯	12.8	3.6	(7.0)	雲母・スコリア含む	暗褐色		1、6、22、54
第254図の6	土師器 杯	(15.4)	—	—	雲母・砂粒含む	明黄褐色		3、4
第254図の7	土師器 杯	(11.5)	—	—	雲母・砂粒含む	黒褐色		3、18
第254図の8	土師器 杯	—	—	6.0	雲母・スコリア含む	明赤褐色		26、58
第254図の9	土師器 皿	—	—	—	—	—	線刻(底内) □□	36
第254図の10	土師器 杯	(19.0)	5.8	9.0	雲母・スコリア含む	明黄褐色		2、12、43
第254図の11	土師器 小型甕	(12.2)	—	—	雲母・石英・長石含む	淡橙褐色		2、39
第254図の12	土師器 小型甕	—	—	7.2	雲母・石英・長石含む	黒褐色～褐灰色		1、2、4、15、45
第254図の13	土師器 甕	—	—	7.8	石英・長石・砂粒多く含む	暗褐色		70、72、81
第254図の14	須恵器 瓶	—	—	—	石英・長石含む	灰色	自然釉付着	28、35、II197B-7
第254図の15	土師器 甕	(21.6)	—	—	雲母・石英・長石含む	淡橙褐色		61、63、74
第254図の16	土師器 甕	(22.6)	—	—	石英・長石・砂粒多く含む	淡褐色		71、73

第255図の17	土師器	甕	17.2	—	—	雲母・石英・長石多く含む	淡褐色		3、60、62、64、65、66、68、79、80
第255図の18	土師器	甕	(21.3)	—	—	雲母・石英・長石含む	明赤褐色		3、47、79
第255図の19	土師器	甕	—	—	(10.1)	雲母多く含む	橙褐色		53
第255図の20	土師器	甕	—	—	(9.0)	石英・長石・砂粒含む	淡橙褐色		13
第255図の21	土師器	甕	(20.4)	—	—	雲母・石英・長石・砂粒多く含む	橙褐色		1、61、70、77、78、II197 B-13
第255図の22	砥石		8.7g	—	—	凝灰岩	—		79
第255図の23	土玉		長径1.9	短径1.8	厚さ0.9	—	—		75
第255図の24	土玉		長径1.9	短径1.5	厚さ1.5	—	—		30
第255図の25	須恵器	杯	13.8	4.0	8.5	雲母・石英・長石多く含む	灰色	新治産	3
第255図の26	須恵器	杯	—	—	7.8	雲母・石英・長石多く含む	灰白色	新治産	14
第255図の27	土師器	杯	—	—	7.2	雲母・スコリア含む	明赤褐色		12、II197 A-3
第255図の28	須恵器	長頸瓶	—	—	—	長石含む	灰色	自然釉付着	10
第255図の29	土師器	甕	—	—	(6.7)	石英・長石多く含む	明褐色		1、2、5、II197 A-2
第255図の30	土師器	小型甕	(16.8)	—	—	長石・スコリア含む	黒褐色		9

### N198 (第256図、図版113・160)

N199に隣接しており、主軸方向がほぼ同じである。住居の床面積も同規模になる。比較的整った方形プランで、掘込みもしっかりしている。新旧2つの竈があって、北から東へ移設している。東にある新竈には、土製支脚が火床部最奥に直立したまま遺存していた。全体的に遺物は少ない。



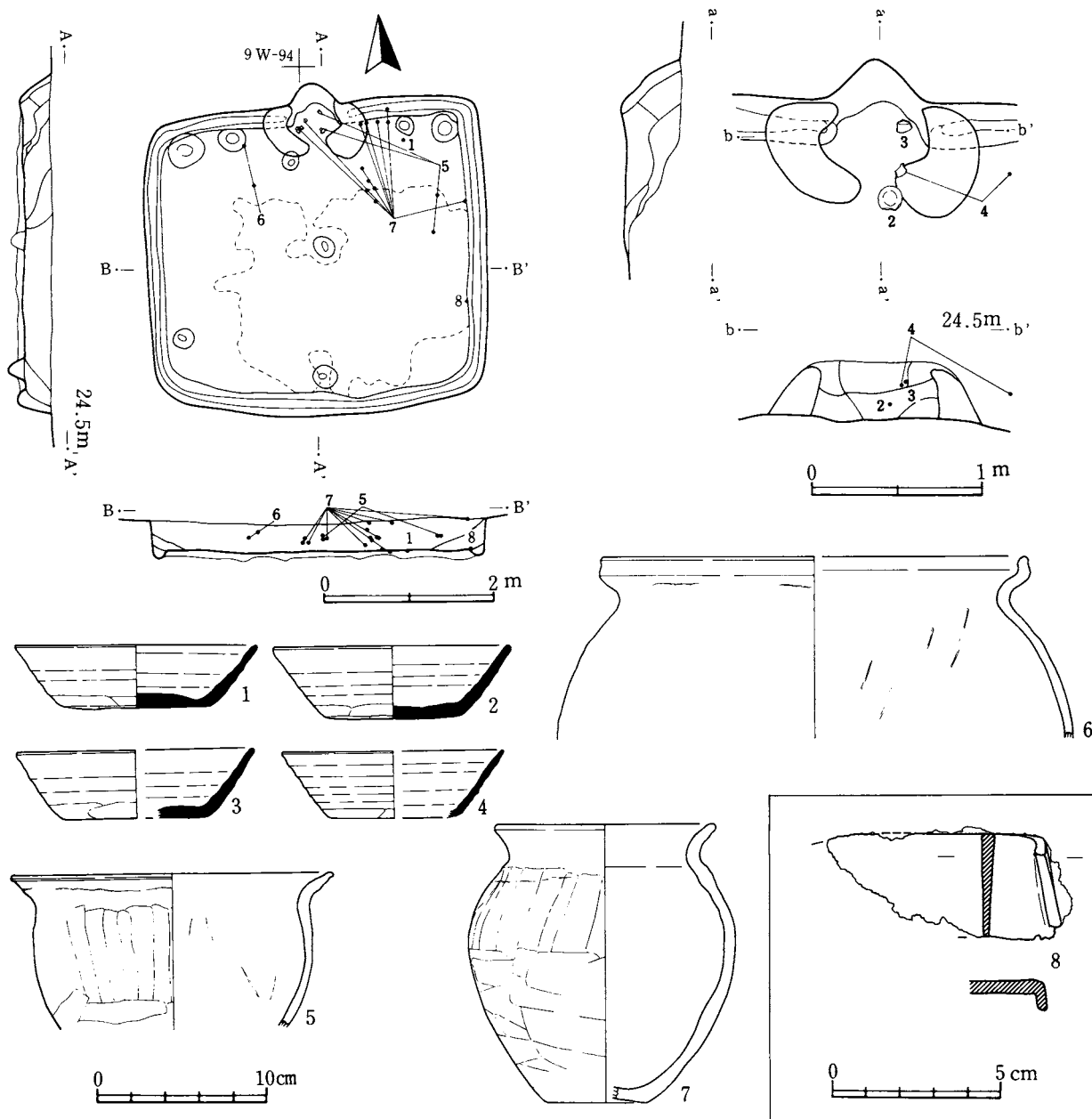
第256図 N198

表207 N198

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第256図の1	須恵器 杯	13.6	4.1	10.0	石英・長石多く含む	青灰色		51、55
第256図の2	須恵器 杯	11.8	3.3	7.0	長石・スコリア含む	青灰色		23、64、65、69
第256図の3	須恵器 杯	11.4	3.6	5.4	長石・スコリア含む	灰色		19、34、46、62、65
第256図の4	土師器 甕	(21.8)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	橙褐色	常総型	29
第256図の5	土師器 甕	-	-	-	石英・長石多く含む	明褐色		61
第256図の6	土師器 甕	(22.2)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	橙褐色		1、20、45、56、57、66
第256図の7	土師器 甕	(22.3)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	橙褐色	常総型	30、35、40、49
第256図の8	土師器 甕	(27.8)	-	-	雲母・石英・長石含む	橙褐色		42、48、59

N199 (第257図、図版113・160・169)

N198の南側に隣接する。平面プランは南北方向に比べ若干東西方向に長い。出入口に伴うピットを1つ確認した。それ以外のピットは床面除去後のものである。竈脇の両側に5本、住居中央に1本、それ以外に1本ある。竈内から須恵器の杯が正位で出土した。竈構築材は、砂質粘土をベースにして黒色土を混ぜている。



第257図 N199

表208 N199

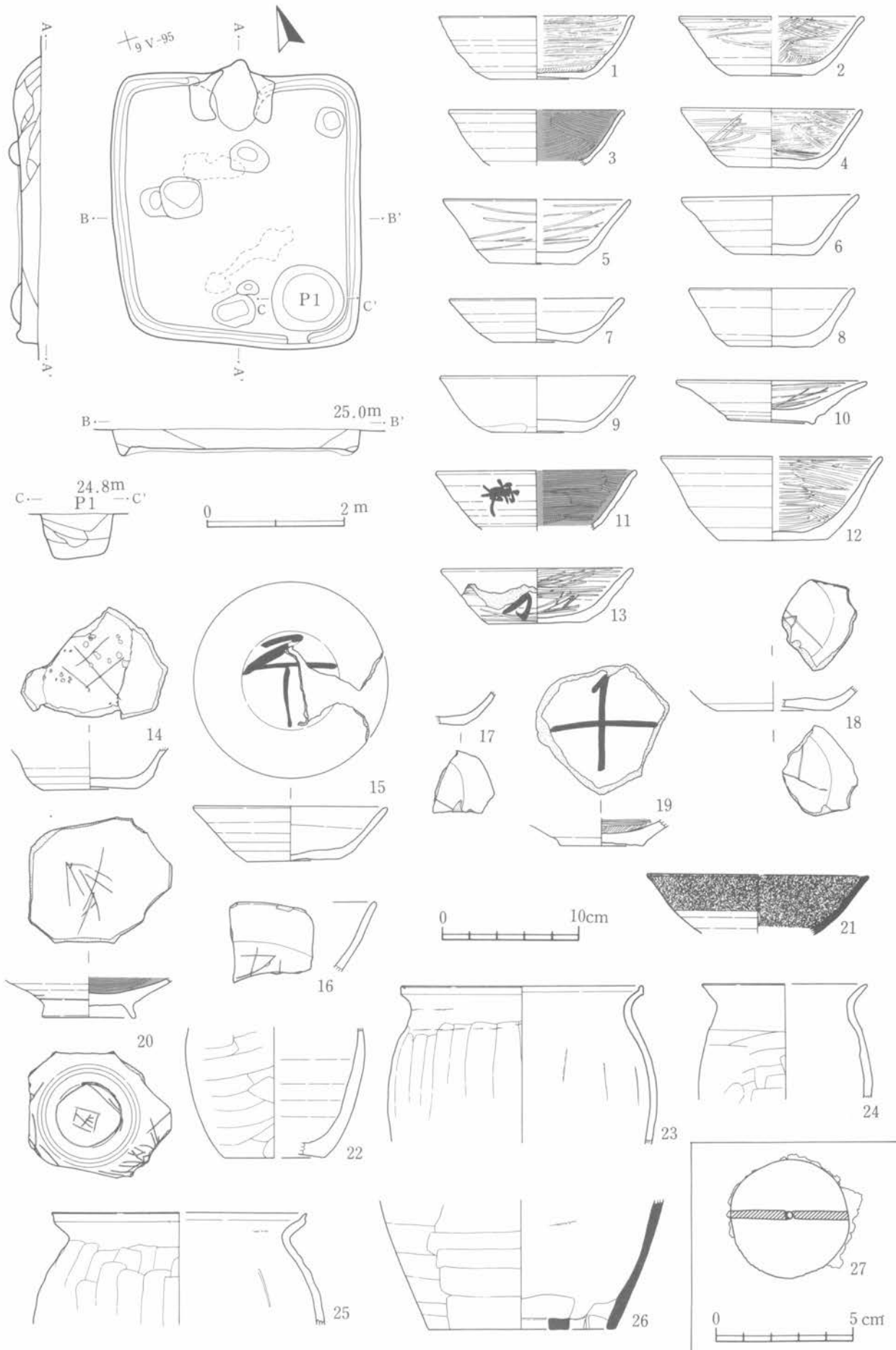
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第257図の1	須恵器 杯	14.0	3.6	8.6	雲母・石英・長石含む	灰黄色	新治産	33
第257図の2	須恵器 杯	13.8	4.2	8.0	雲母・石英・長石多く含む	灰黄色	新治産	40
第257図の3	須恵器 杯	(13.8)	4.0	(8.2)	雲母・石英・長石含む	灰色	新治産	50
第257図の4	須恵器 杯	(12.8)	3.9	(7.8)	石英・長石多く含む	灰色	新治産	36、41、52
第257図の5	土師器小型甕	18.6	—	—	雲母・石英・長石含む	明褐色		1、6、7、46、51、52
第257図の6	土師器 甕	(24.6)	—	—	雲母・石英・長石多く含む	明黄褐色	常総型	20、22
第257図の7	土師器小型甕	12.7	16.2	(6.0)	石英・長石・砂粒多く含む	明黄褐色		1、5、8、9、10、11、14、27、28、34、35、37、42、45、47、49
第257図の8	鎌	残存長 7.4	—	—	鉄製品	—		32

N200 (第258・259図、図版114・160・168・169・176)

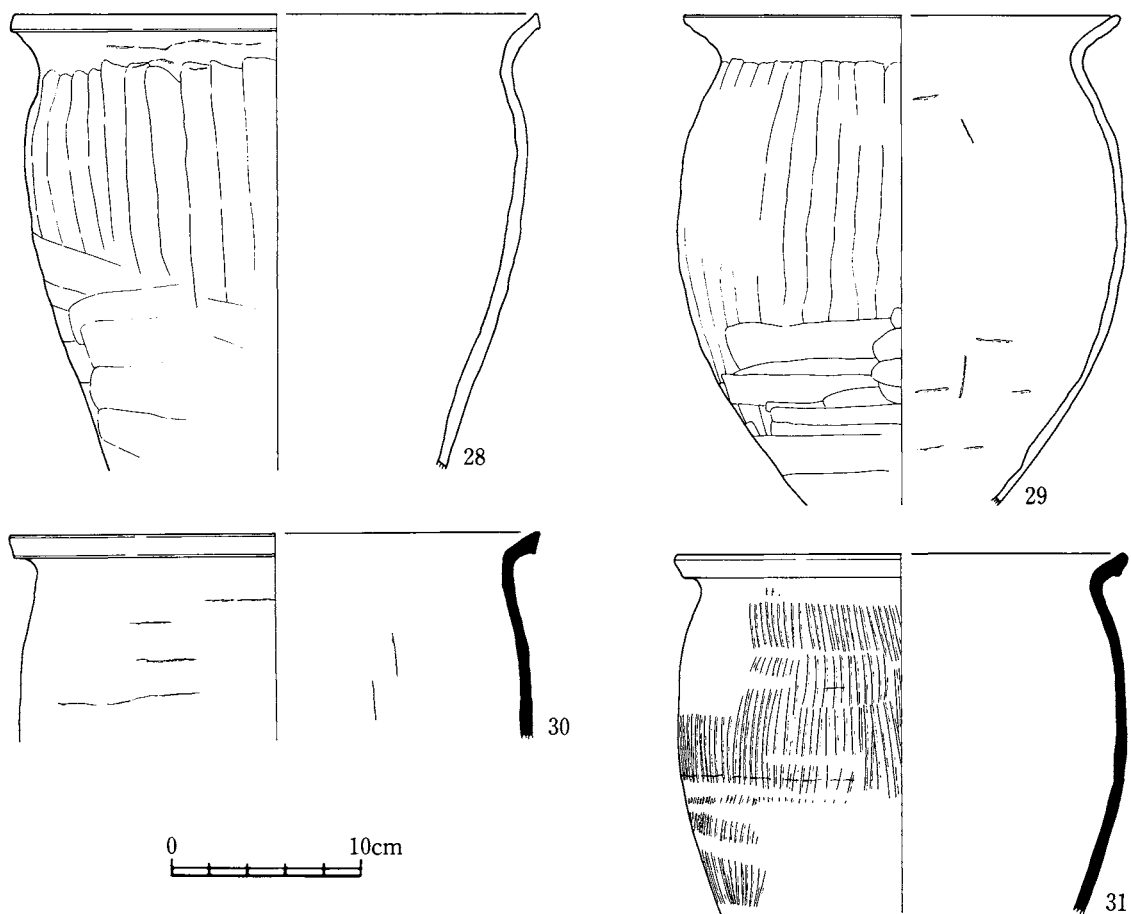
I 041・042に近接する住居である。南東隅にP1とした大きな土坑状の掘込みがあり、住居に伴うようである。用途は不明であるが、遺物は土師器杯・甕が多く出土している。その他、貼床除去後、複数のピットを検出した。墨書土器や線刻土器が多く出土している。

表209 N200

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第258図の1	土師器 杯	(14.0)	4.5	(6.6)	スコリア含む	橙色		2、19、85、212
第258図の2	土師器 杯	(13.2)	4.3	6.0	雲母・スコリア含む	橙色		185
第258図の3	土師器 杯	(12.7)	—	—		内面黒色	内黒	198、9V-94-1
第258図の4	土師器 杯	13.0	4.5	6.6	長石・スコリア含む	褐色		139
第258図の5	土師器 杯	13.5	4.4	6.3	雲母・スコリア含む	外面褐色 内面黒色		160、210
第258図の6	土師器 杯	12.9	4.1	5.8	雲母多く含む	明赤褐色		144、199
第258図の7	土師器 杯	12.6	3.1	6.4	スコリア含む	明黄褐色		2、91
第258図の8	土師器 杯	11.8	4.2	6.0	スコリア含む	明赤褐色		2、200、210
第258図の9	土師器 杯	14.0	4.1	6.6	スコリア含む	橙色		1、11、116、128
第258図の10	土師器 高台付皿	13.6	3.1	6.1	雲母・スコリア含む	明赤褐色		2、3、4、164
第258図の11	土師器 杯	14.4	—	—	石英・長石含む	外面橙色 内面黒色	内黒 墨書(体外)「最」	215
第258図の12	土師器 碗	15.8	6.0	8.0		明橙褐色		1、23、163
第258図の13	土師器 杯	14.0	4.0	7.2	雲母・スコリア含む	明赤褐色	墨書(体外)「万」	3、140
第258図の14	土師器 杯	—	—	6.8	スコリア多く含む	橙色	線刻(底内) □□	1、115、120
第258図の15	土師器 杯	13.8	3.9	6.9	雲母・スコリア含む	赤褐色	墨書(底内) □□	180、202、208、210
第258図の16	土師器 碗	—	—	—	—	—	線刻(体外) □□	201
第258図の17	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底外) □□	4
第258図の18	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内) □□ 線刻(底外) □□	38
第258図の19	土師器 高台付杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「千」	54
第258図の20	土師器 高台付皿	—	—	6.6	雲母・長石含む	外面淡褐色 内面黒色	内黒 線刻(底内) □□ 線刻(底外) □□ 線刻(体外) □□	?
第258図の21	灰釉陶器 塊	(15.9)	—	—	砂粒含む	灰色		134
第258図の22	土師器小型甕	—	—	7.2	雲母・石英・長石含む	橙褐色		4、42、83
第258図の23	土師器 甕	17.5	—	—	石英・長石・砂粒含む	褐色		0、1、3、4、27、141、142、147、146、177
第258図の24	土師器小型甕	(11.7)	—	—	雲母・石英・長石含む	橙褐色		2、3、66、110、121
第258図の25	土師器 甕	(18.4)	—	—	雲母・石英・長石含む	明黄褐色		3、51、57、78、9V-94-1
第258図の26	須恵器 甕	—	—	13.7	雲母・石英・長石含む	明褐色	千葉市域産 5孔	3、67、70、71、72、76、122、123、124
第258図の27	紡錘車	直径 4.3	厚さ 0.3	孔径 0.2	鉄製品	—		118
第259図の28	土師器 甕	(27.4)	—	—	雲母・石英・長石含む	橙褐色		61、63、73、80、82、92
第259図の29	土師器 甕	(32.6)	—	—	雲母・石英・長石含む	暗褐色		1、2、3、14、16、130、161、174、175、176、178、192、216
第259図の30	須恵器 甕	(27.8)	—	—	砂粒多く含む	明褐色		70、74、75
第259図の31	須恵器 甕	(23.3)	—	—	石英・長石・砂粒含む	明褐色		8、24、154、179、181、193、194、195



第258图 N200(1)



第259図 N200(2)

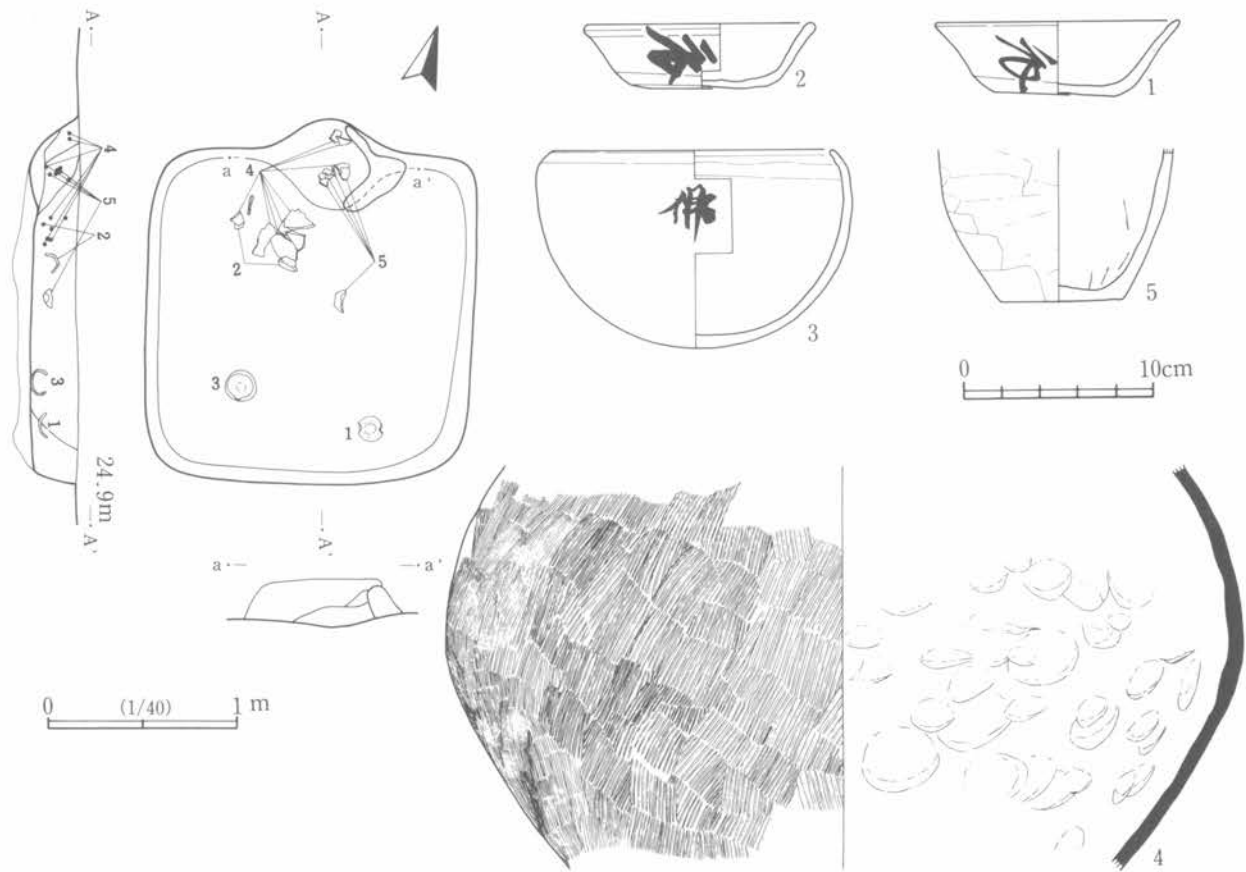
N201 (第260図、図版114・160・176)

方形プランの、支柱穴、壁溝をもたない住居である。遺物総量は少ないが、完形に近い土器が多い。須恵器甕破片が、床面に刺さった状態で出土している。周辺の須恵器と同一個体であると考えられる。小型甕の底部が、住居埋土内から出土し、それ以外の部品が竈内から出土している。特に、「佛」と墨書された鉄鉢型土器が床面直上から出土していることが注目される。

表210 N201

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第260図の1	土師器 杯	12.3	3.5	7.2	砂粒・雲母・スコリア含む	乳橙色	墨書(体外)「衣」	4、11、25
第260図の2	土師器 杯	12.9	3.9	6.4	雲母・砂粒含む	橙褐色	墨書(体外)「衣」	1、24、25、26
第260図の3	土師器 鉢	14.7	10.4	—	砂粒・スコリア含む	乳橙色	墨書(体外)「佛」	2
第260図の4	須恵器 甕	—	—	—	雲母・石英・長石・砂粒含む	褐灰色		5、6、7、8、9、10、20、22、23、25
第260図の5	土師器 小型甕	—	—	6.4	雲母・石英・長石含む	淡橙褐色		3、14、15、16、17、18、19





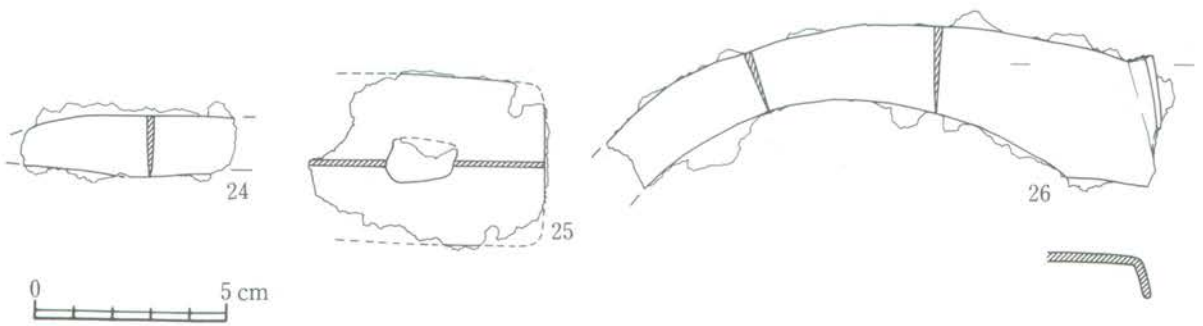
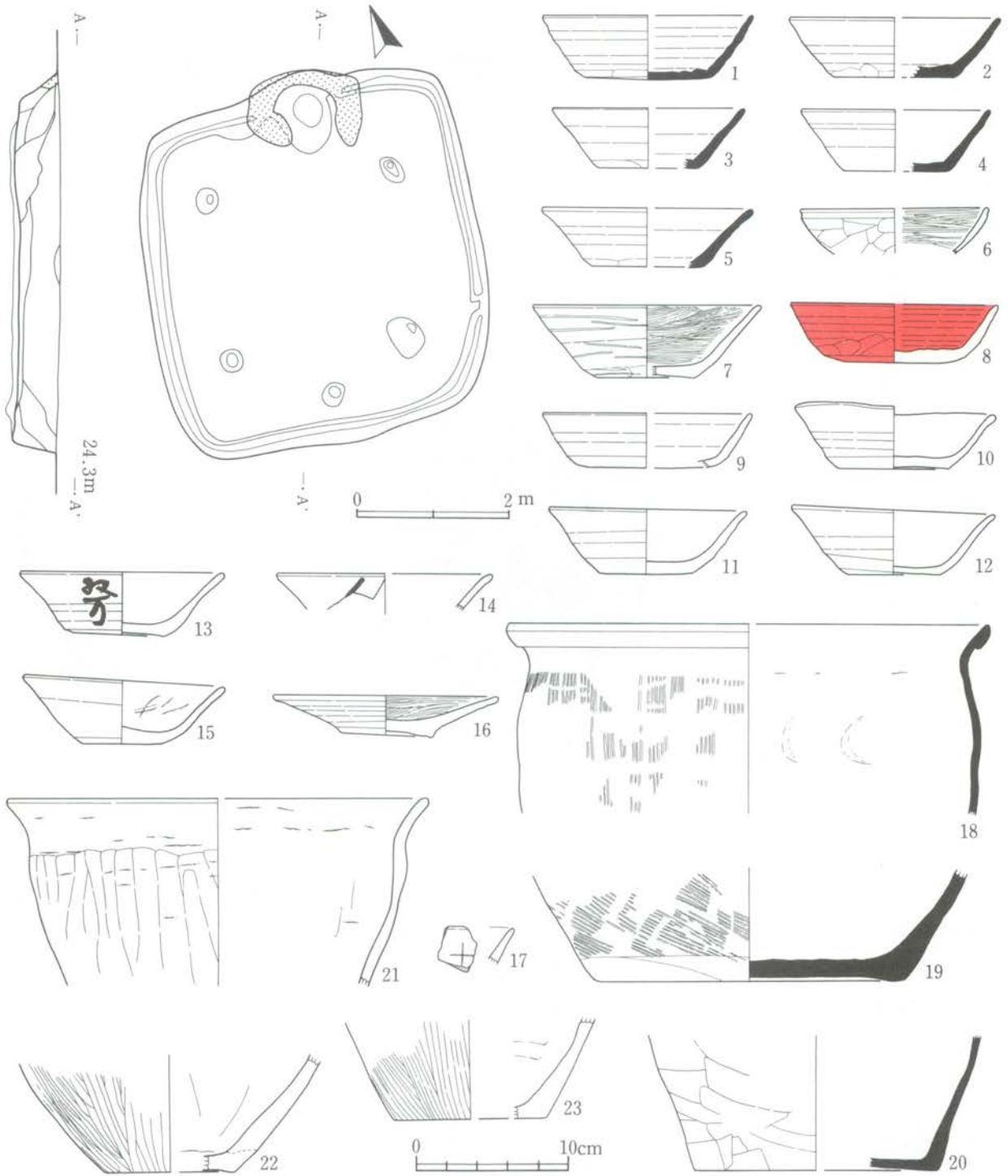
第260図 N201

III170 (第261図、図版109・161・169・176)

やや歪みをもった隅丸方形プランの住居である。支柱穴は4本で、出入口ピットを1つ有する。竈火床面には倒位の杯3枚(10・11・12)を重ね、さらにその上に杯の破片と甕の破片を載せた状態の支脚を検出した。26の鎌は先端部を欠損しているが、住居北西隅床面直上から出土した。25は方形の板状鉄製品で、中央部が不整形に穿孔されている。住居北西隅床面直上から出土した。

表211 III170

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第261図の1	須恵器 杯	(13.6)	4.3	8.3	雲母・石英・長石含む	灰白色～灰色	新治産	4、57、200、218、384
第261図の2	須恵器 杯	(13.4)	3.9	(7.6)	雲母・石英・長石含む	灰色	新治産	133、197
第261図の3	須恵器 杯	(12.3)	3.9	(6.5)	雲母・石英・長石含む	灰黄色	新治産	2、3、119、384
第261図の4	須恵器 杯	(12.2)	4.0	(6.8)	雲母・石英・長石含む	灰黄色	新治産	2、8、242、300
第261図の5	須恵器 杯	(13.4)	3.9	(7.2)	雲母・石英・長石含む	灰白色	新治産	2、170
第261図の6	土師器 杯	(12.0)	—	—	雲母・砂粒含む	明赤褐色～黒褐色		128、149
第261図の7	土師器 杯	14.6	4.6	6.5	雲母・スコリア含む	明褐色		2、4、156、236、241、315、337、368、384
第261図の8	土師器 杯	(13.4)	3.7	9.2	雲母・スコリア含む	橙色	内外面赤彩	2、212、383
第261図の9	土師器 杯	(13.4)	(3.5)	(9.2)	長石・スコリア含む	暗褐色～赤褐色		2、160
第261図の10	土師器 杯	12.6	4.2	7.2	雲母・スコリア含む	橙色～明黄褐色		374
第261図の11	土師器 杯	12.6	4.1	6.0	雲母・スコリア含む	橙色		375
第261図の12	土師器 杯	13.1	4.1	6.0	雲母・砂粒含む	橙色		376、377
第261図の13	土師器 杯	12.9	4.1	5.8	雲母含む	橙色	墨書(体外) [□万]	250
第261図の14	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) [□]	4
第261図の15	土師器 杯	12.7	4.5	5.1	雲母・スコリア含む	橙色		2、3、185、210、211、283、313、314、321
第261図の16	土師器 皿	14.6	2.6	6.0	雲母・スコリア含む	橙色		3、244
第261図の17	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体外) [十]	1
第261図の18	須恵器 甕	(31.1)	—	—	石英・長石・砂粒含む	明黄褐色	千葉市城産	2、3、46、168、201、229、231



第261图 III170

第261図の19	須恵器	甕	-	-	19.6	雲母・石英・長石多く含む	灰色～明褐色	新治産	12、72、273、274、327、355
第261図の20	須恵器	甕	-	-	(15.8)	雲母・石英・長石・スコリア含む	橙褐色		3、50、53、63、74、86、151、263
第261図の21	土師器	甕	(26.8)	-	-	雲母・石英・長石含む	淡橙褐色		279、358、359、361、362、363、364、367
第261図の22	土師器	甕	-	-	8.3	雲母・石英・長石多量を含む	淡橙褐色	常総型	32、193、286、336
第261図の23	土師器	甕	-	-	9.8	雲母・石英・長石含む	明褐色～黒褐色	常総型	13、94、99、101、104、186
第261図の24	刀子	残存長 5.5	-	-	-	鉄製品	-		226
第261図の25	不明鉄製品	縦 4.3	厚さ0.15	-	-	-	-		246
第261図の26	鎌	残存長 14.7	-	-	-	鉄製品	-		225、299

### Ⅲ173 (第262図、図版109・161・176)

小型の方形プランの住居である。南東隅の小ピットは、貼床除去後に検出した。竈内及び竈前面から、良好な遺存状態の遺物が多く出土した。「光」の墨書や線刻が見られる。

表212 Ⅲ173

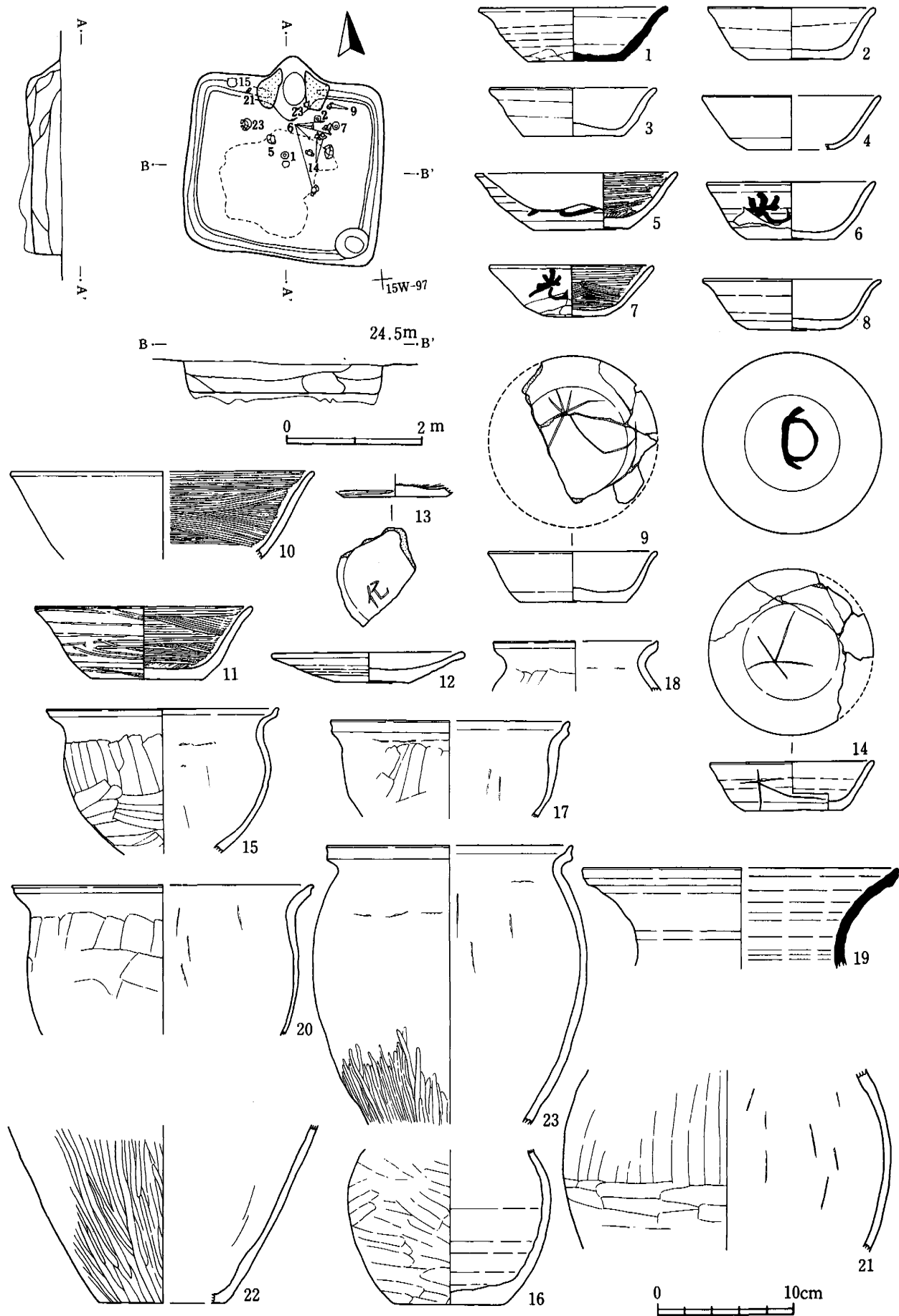
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第262図の1	須恵器 杯	13.6	4.0	6.9	雲母・石英・長石スコリア含む	黒褐色	千葉市域産	86
第262図の2	土師器 杯	12.0	3.9	7.0	雲母・砂粒含む	黒褐色		97
第262図の3	土師器 杯	12.0	3.5	7.3	雲母・スコリア含む	黒褐色		4、70、87、89、90
第262図の4	土師器 杯	12.8	4.0	6.2	雲母・スコリア含む	橙色		2、54、81
第262図の5	土師器 杯	14.6	4.2	6.8	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「光」	4、6、85、96、121
第262図の6	土師器 杯	12.2	4.1	6.6	雲母・スコリア多く含む	淡橙褐色	墨書(体外)「光」	71、74、88、93、94、96、98
第262図の7	土師器 杯	11.9	3.7	4.6	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「光」	95
第262図の8	土師器 杯	12.8	3.7	6.9	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底外)「Q」	2、4、88
第262図の9	土師器 杯	12.1	3.5	7.8	雲母多く含む	橙色	線刻(底内)「光」	1、72、73、99、100
第262図の10	土師器 鉢	(22.0)	-	-	雲母・スコリア含む	橙色		4、8、108
第262図の11	土師器 碗	15.6	5.2	8.1	雲母・砂粒含む	暗褐色～褐色		4、88、89、90、92
第262図の12	土師器 皿	14.0	2.3	5.5	雲母・スコリア含む	橙色		103
第262図の13	土師器 碗	-	-	-	-	-	線刻(底外)「□」	57
第262図の14	土師器 杯	11.8	3.6	7.1	雲母・スコリア含む	暗褐色～橙色	線刻(底内)「大」 線刻(体外)「大」	4、89、91、92、99
第262図の15	土師器 小型甕	16.8	-	-	石英・長石多く含む	明褐色		4、82、87
第262図の16	土師器 小型甕	-	-	8.3	雲母・石英・長石含む	明褐色		1、3、4、5、8、9、14、32、33、45、46、47、48、49、84、121、123
第262図の17	土師器 小型甕	(17.4)	-	-	石英・長石・スコリア含む	淡橙褐色		19、20、77
第262図の18	土師器 小型甕	(11.8)	-	-	石英・長石含む	暗褐色		30
第262図の19	須恵器 甕	(23.1)	-	-	雲母・石英・長石含む	灰色～青灰色	千葉市域産	34、35
第262図の20	土師器 甕	(21.8)	-	-	石英・長石・砂粒多く含む	明褐色		3、21、23、41、43、58、60、65、79
第262図の21	土師器 甕	-	-	-	石英・長石多量を含む	暗褐色		4、63、83、105、106、107、110、111、112、115、117、119、121
第262図の22	土師器 甕	-	-	(9.0)	-	-	常総型	1、4、87、118、121
第262図の23	土師器 甕	(17.9)	-	-	雲母・石英含む	明褐色～暗褐色	常総型	3、4、69、84、101、102、104、113、120、121、123

### Ⅲ175 (第263・264図、図版109・161・166)

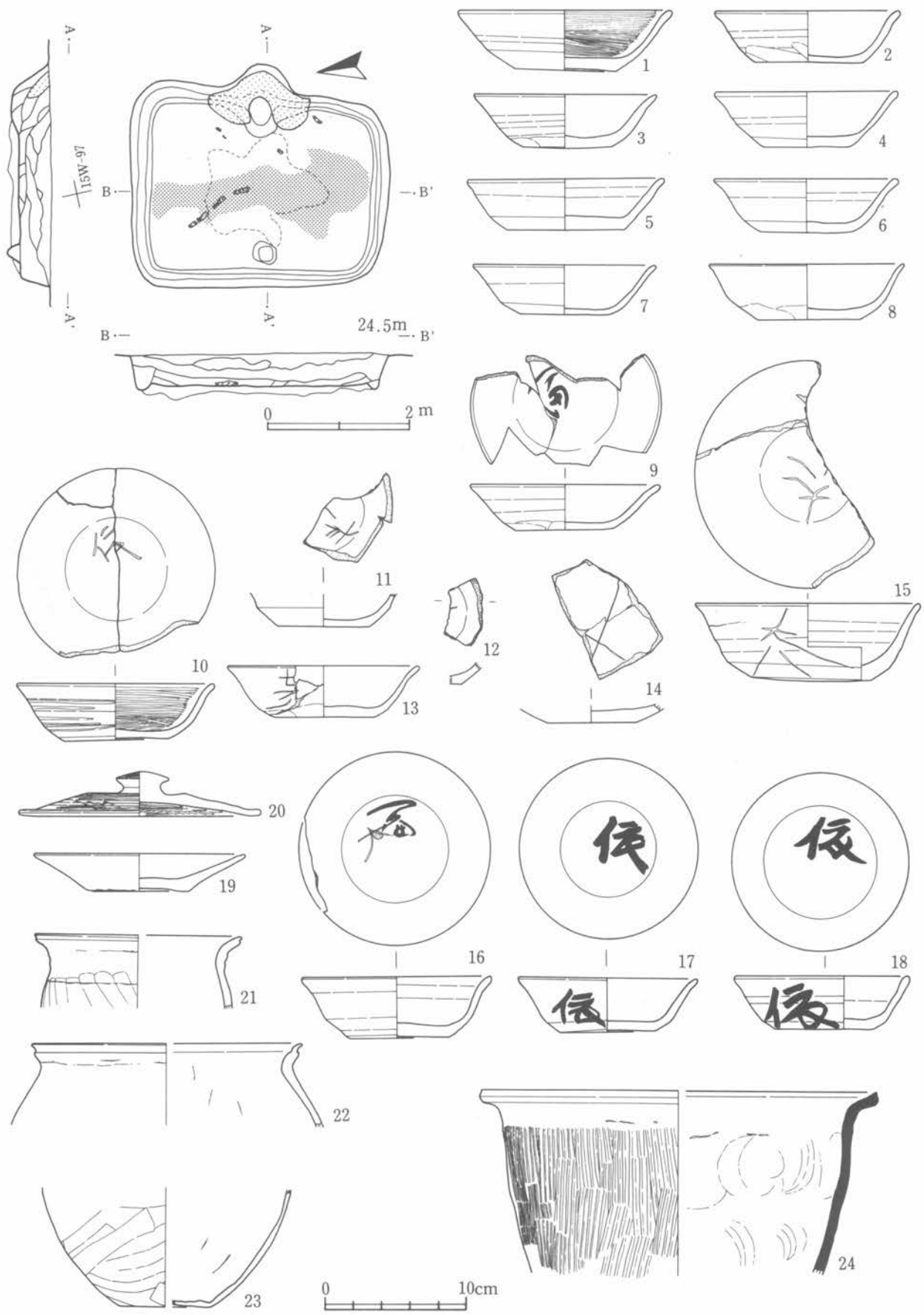
東壁に竈をもつ、主軸の短い住居である。床面には焼土塊や炭化材、完形に近い遺物が多く出土している。「依」や「冨」の墨書や、「大八」、「依」の線刻土器が多い。

表213 Ⅲ175

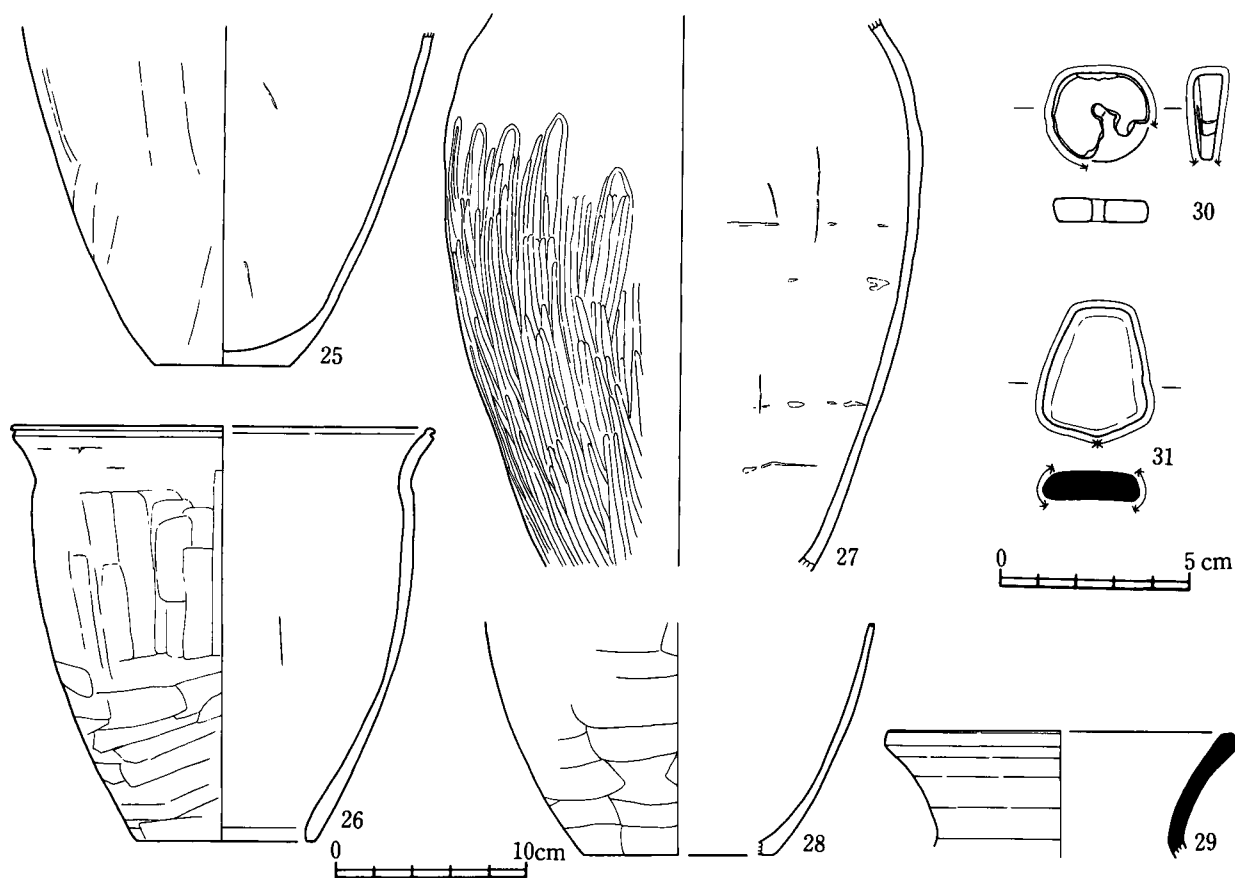
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第263図の1	土師器 杯	14.8	4.3	7.1	-	橙色		1、31、32、43
第263図の2	土師器 杯	12.8	3.2	7.6	雲母・スコリア含む	橙色		97
第263図の3	土師器 杯	12.6	3.4	6.2	雲母・スコリア含む	橙色		1、89、99、100
第263図の4	土師器 杯	12.6	4.1	5.9	雲母・スコリア含む	橙色		2、3、4、94、107
第263図の5	土師器 杯	13.6	3.5	8.3	雲母・スコリア含む	橙色		1、42、102



第262図 III173



第263图 III175(1)

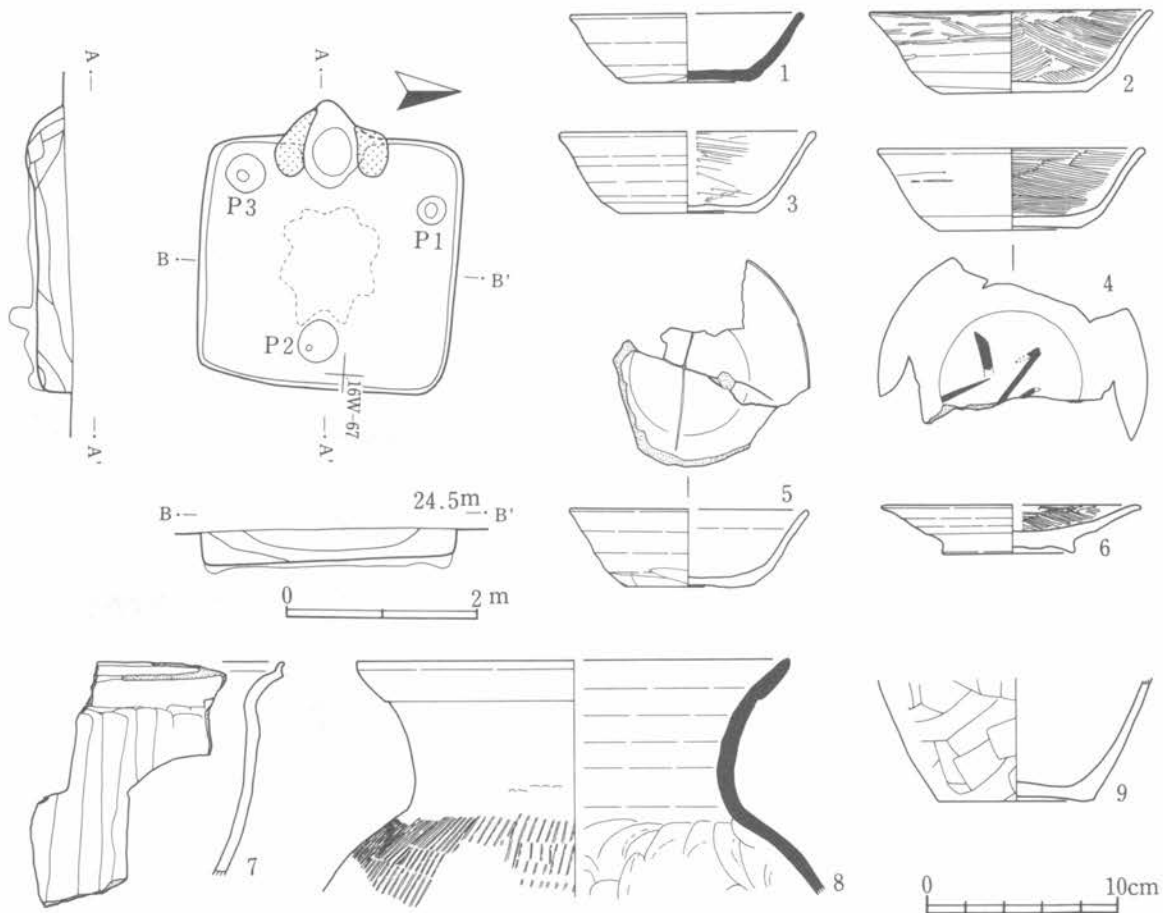


第264図 III175(2)

第263図の6	土師器	杯	12.8	3.7	6.4	雲母・スコリア含む	橙色		2, 91
第263図の7	土師器	杯	12.6	3.5	6.3	雲母・スコリア含む	明赤褐色		96
第263図の8	土師器	杯	13.6	3.9	7.2	雲母・スコリア含む	橙色		72
第263図の9	土師器	杯	13.3	3.2	6.9	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底内)「富」	3, 4, 33, 86, 133
第263図の10	土師器	杯	13.8	4.0	7.4	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(底内)「依」	3, 63, 76
第263図の11・12	土師器	杯	-	-	(6.4)	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(底内)「大加」 □	4
第263図の13	土師器	杯	13.2	3.6	7.0	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(体外)「七万」	3
第263図の14	土師器	杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「十」	4, 57
第263図の15	土師器	椀	15.7	5.5	8.4	スコリア含む	橙色	線刻(体外)「大八」 線刻(底内)「大八」	4, 80, 81
第263図の16	土師器	杯	13.2	4.3	6.9	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底内)「富」 線刻(底内)「大」	99, 133
第263図の17	土師器	杯	12.4	3.8	6.1	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底内)「依」 墨書(体外)「依」	92
第263図の18	土師器	杯	12.4	3.8	6.8	雲母・石英含む	橙色	墨書(底内)「依」 墨書(体外)「依」	93
第263図の19	土師器	皿	14.8	2.6	7.0	雲母・スコリア含む	赤褐色		111, 112
第263図の20	土師器	蓋	17.1	3.1	-	雲母・白色針状物含む	黄褐色～黒色		98
第263図の21	土師器	小型壺	(14.3)	-	-	砂粒多く含む	暗褐色		1, 79, 118
第263図の22	土師器	壺	(18.7)	-	-	雲母・石英・長石含む	淡橙褐色	常総型	59
第263図の23	土師器	壺	-	-	6.2	砂粒多く含む	明赤褐色		18, 24, 30, 85
第263図の24	須恵器	壺	(27.8)	-	-	雲母・石英・長石含む	灰色		62, 95
第264図の25	土師器	壺	-	-	7.0	雲母・石英・長石多く含む	橙褐色～暗褐色		2, 4, 60, 61, 68, 73, 74, 75, 133
第264図の26	土師器	甗	(21.8)	21.5	9.3	砂粒・長石・石英多く含む	明赤褐色		3, 4, 9, 11, 53, 54, 55, 56, 78, 106, 108, 114, 118, 120, 121, 123, 133, 136
第264図の27	土師器	壺	-	-	-	雲母・石英・長石多量に含む	明褐色	常総型	8, 64, 65, 66, 67
第264図の28	土師器	壺	-	-	(10.0)	石英・長石多く含む	暗褐色		1, 4, 35, 40, 133
第264図の29	須恵器	壺	(18.0)	-	-	石英・長石含む	灰色		4, 109
第264図の30	砥石		31.7g	-	-	凝灰岩	-	紡錘車使用後に砥石に転用	90
第264図の31	転用砥石	最大幅 3.3	厚さ0.8	-	-	-	-	須恵器転用	2

III178 (第265図、図版110・161・169)

掘込みはしっかりしているが、非常に小型の住居で、壁溝はない。床面上にはピットが3か所確認できるが、配置に規格性をもたない。P1は深さ0.1mほど、P2は深さ0.2m、P3は深さ0.2mである。遺物は少ない。



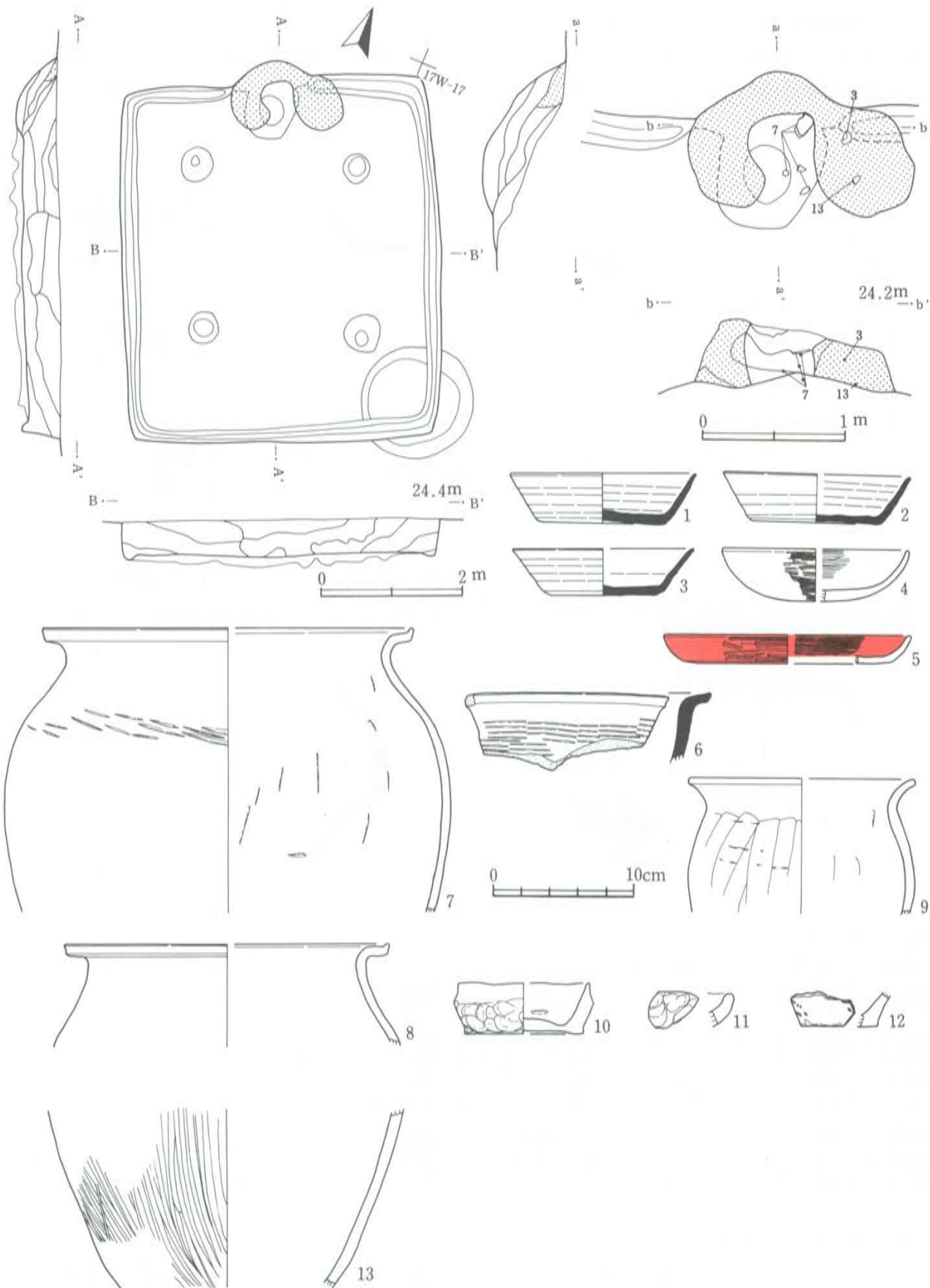
第265図 III178

表214 III178

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第265図の1	須恵器 杯	(12.1)	3.6	6.4	長石・砂粒含む	黒褐色		43
第265図の2	土師器 杯	14.6	4.3	7.6	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		60、67、106、107、110、111、III179-266
第265図の3	土師器 杯	(13.1)	4.3	7.1	雲母・長石・スコリア含む	褐色		2、25、68、90、95
第265図の4	土師器 杯	13.7	4.3	7.5	雲母・長石・スコリア含む	褐色	墨書(底外)「衣」	4、36、37、49
第265図の5	土師器 杯	(12.4)	4.0	6.6	雲母・長石・スコリア含む	褐色	線刻(底内)「十」	3、13、52、122
第265図の6	土師器 高台付皿	(13.0)	2.5	6.8	雲母・長石・スコリア含む	褐色～明褐色		115、122、124
第265図の7	土師器 甕	—	—	—	白色針状物多く含む	褐色		113、114
第265図の8	須恵器 甕	(22.7)	—	—	長石・砂粒含む	明赤褐色		17、88、109、117、119
第265図の9	土師器 甕	—	—	8.2	長石・スコリア含む	褐色		7、23、100

III180 (第266図、図版110)

掘込みのしっかりした、比較的大型の住居で、4本の支柱穴をもつ。出入口ピットはない。南東コーナーを、大型の円形土坑により攪乱される。竈内からは甕の破片が出土している。ほかに、指頭痕が顕著な手捏ね土器片が見られる。



第266图 III180



表215 III 1 8 0

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第266図の1	須恵器 杯	(13.1)	3.4	9.0	雲母・長石含む	灰色		98
第266図の2	須恵器 杯	13.0	3.5	9.1	雲母・長石含む	灰色		2、65、85、117、Ⅲ185-136、 ⅡM002-99
第266図の3	須恵器 杯	(12.6)	3.3	(6.6)	雲母・長石含む	灰色	新治産	115
第266図の4	土師器 杯	(12.9)	3.7	—	雲母・長石・スコリア含む	明褐色		4、93
第266図の5	土師器 盤	(15.1)	1.95	(12.3)	長石・スコリア含む	赤褐色	内外面赤彩	59
第266図の6	須恵器 甕	—	—	—	雲母・長石・砂粒含む	灰色	新治産	54
第266図の7	土師器 甕	(25.9)	(19.8)	—	雲母・長石・砂粒多く含む	淡褐色	常総型	109、110、111、112、113、 117
第266図の8	土師器 甕	(22.5)	—	—	雲母・長石・砂粒多く含む	明褐色	常総型	9、24、25
第266図の9	土師器小型甕	(15.6)	—	—	砂粒・スコリア含む	黒褐色		20
第266図の10	手捏ね	(9.3)	3.6	(8.5)	長石・スコリア含む	暗褐色	底外木葉痕	1、74
第266図の11	手捏ね	—	—	—	長石・スコリア含む	明褐色		4
第266図の12	弥生土器 甕	—	—	—	長石・スコリア含む	黒褐色	R L 単節縄文	1
第266図の13	土師器 甕	—	—	—	雲母・長石・砂粒含む	暗褐色	常総型	114、118

## (2) 掘立柱建物

### I H01 (第267図、図版30)

13V-07グリッドに位置する。北側をIIM001により、削平されている。したがって全体の規模は不明確であるが、南側梁行2間(4.0m)×東側桁行2間以上の建物であろう。いずれの柱穴にも柱痕を確認している。柱穴の掘り方は隅丸方形で、南東コーナーのものは一辺0.9m×1.1m×深さ0.4mを測る。柱痕はおおよそ直径0.2mほどである。桁行主軸方位はN-15°-Wである。

### I H02 (第267図、図版30)

13V-26グリッドに位置する。南側梁行2間(5.0m)×東側桁行3間(5.3m)の建物である。ただし、北側梁行は3間となる。11本の柱穴のうち、6本の柱穴に柱痕を確認した。柱穴の掘り方は隅丸方形で、南東コーナーのものは、一辺0.7m×0.9m×深さ0.6mを測る。柱痕はおおよそ直径0.15m~0.3mである。桁行主軸方位はN-16°-Wである。

### I H03 (第268図、図版31)

13V-34グリッドに位置する。西側梁行2間(4.3m)×北側桁行3間(6.4m)の総柱建物である。1本の柱穴に柱痕を確認した。ほとんどの柱穴の掘り方は隅丸方形であるが、南西コーナー及び南東コーナーのものは、いくぶん小型である。桁行主軸方位はN-65°-Eである。

表216 I H03

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第268図の1	土師器 杯	-	-	-	砂粒少し含む	橙色	線刻(底外) □□	3

### I H04 (第268図、図版31)

10Y-22グリッドに位置する。西側梁行2間(3.9m)×南側桁行3間(5.4m)の建物である。8本の柱穴に柱痕を確認した。柱穴の掘り方は円筒形で、北東隅のものは、他に比べて大きい。桁行主軸方位はN-4°-Wである。

表217 I H04

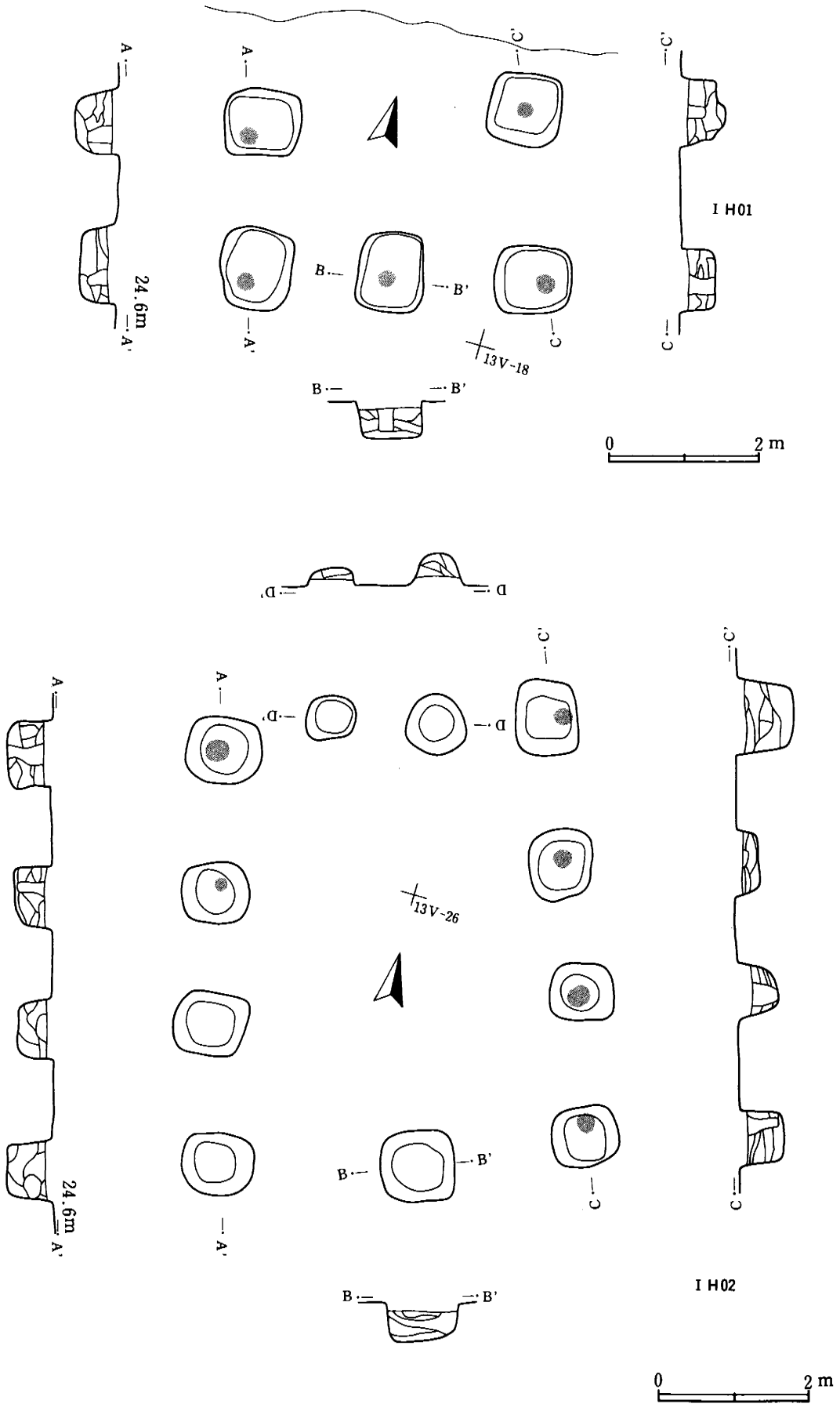
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第268図の2	土師器 杯	-	-	(7.2)	石英・長石・砂粒含む	外面暗褐色 内面黒褐色	内黒	2

### I H05 (第269図、図版31)

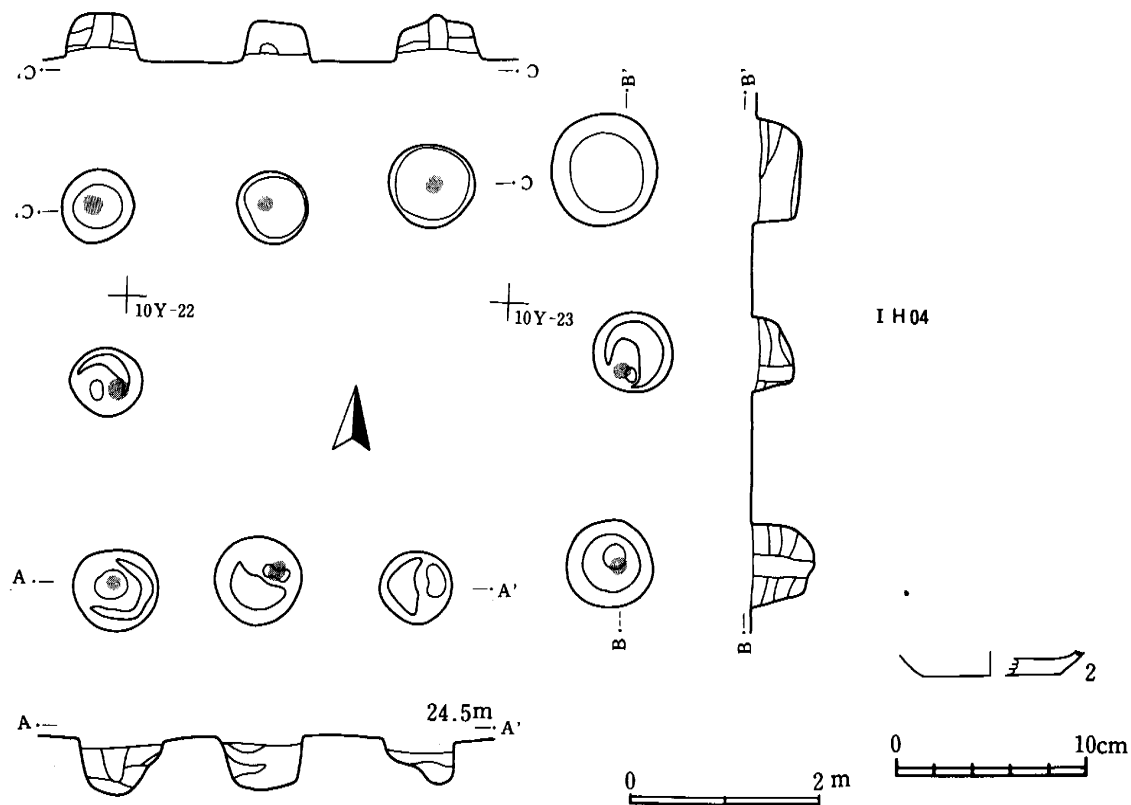
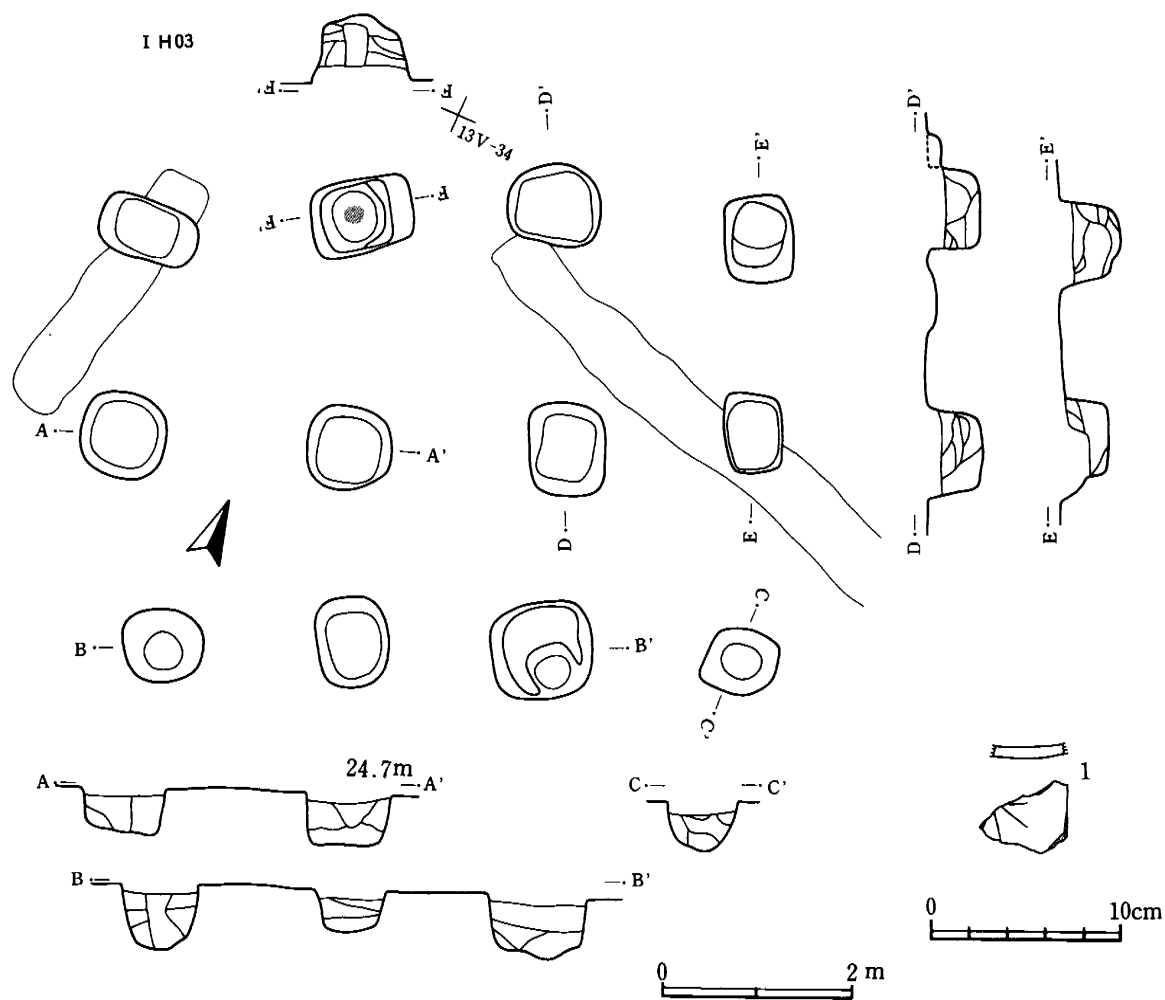
10X-47グリッドに位置する。南北1間(2.8m)×東西1間(2.4m)の小型の建物である。いずれの柱穴も円形プランで、柱痕を残している。掘込みはかなり浅い。建物の軸は南北の方位とほぼ一致する。

### I H06 (第269図、図版31)

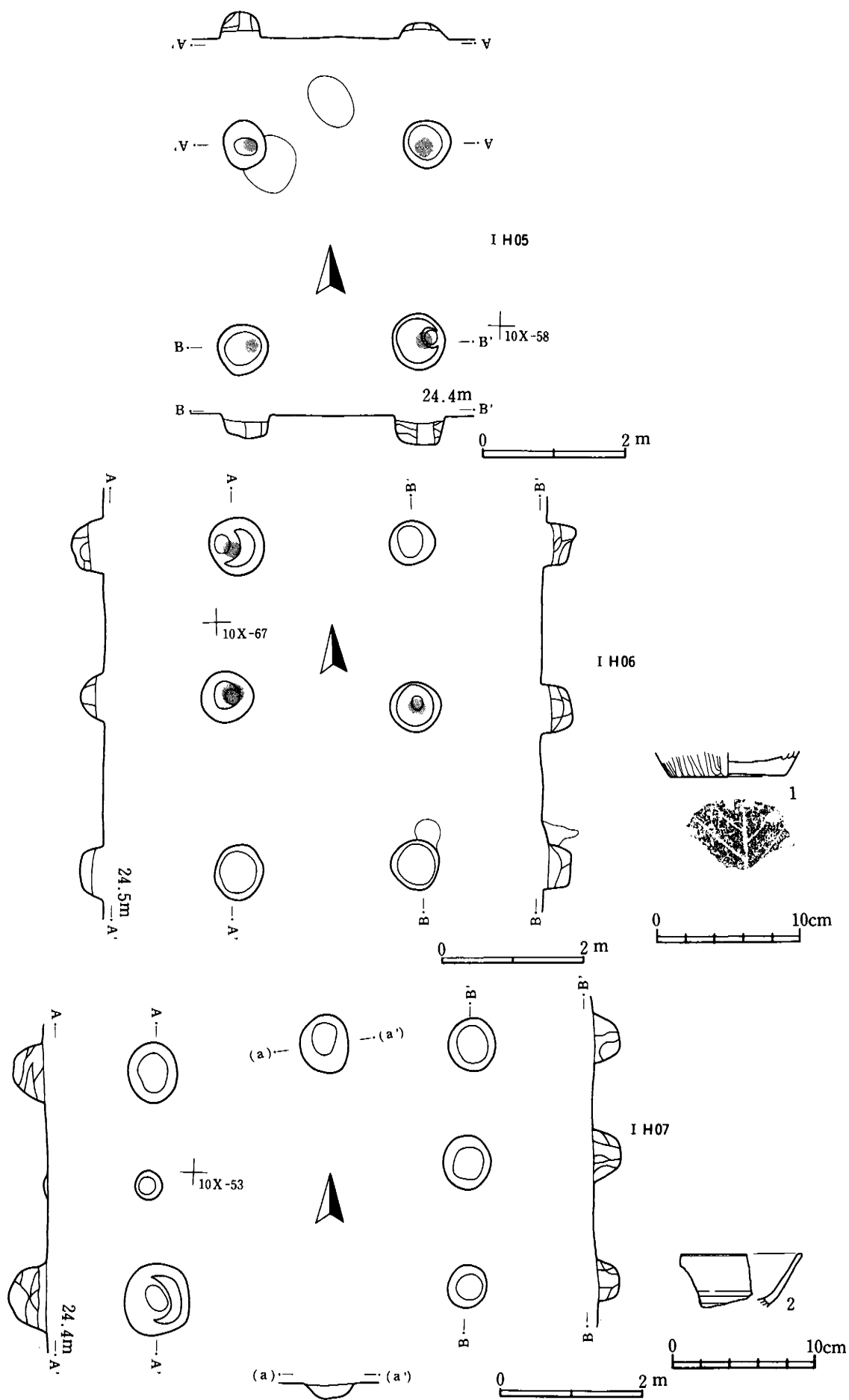
10X-67グリッドに位置する。13V-26グリッドに位置する。南側梁行1間(2.7m)×西側桁行2間(4.4m)の建物である。いずれの柱穴も円形プランで、3本の柱穴で柱痕を確認した。桁行主軸方位はN-3°-Eである。遺物には、土師器の甕の底部片がある。



第267图 I H01・02



第268图 I H03·04



第269图 I H05 · 06 · 07

表218 I H 0 6

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第269図の1	土師器 甕	-	-	(8.0)	石英・長石多量に含む	灰褐色	常総型	1

## I H 07 (第269図、図版32)

10X-53グリッドに位置する。南北2間(3.2m)×東西1間(4.4m)～2間(4.5m)の建物である。円形プランの柱穴であるが、南側中央の柱穴は確認できなかった。建物の軸は南北の方位にはほぼ一致する。遺物には、土師器杯の体部片がある。

表219 I H 0 7

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第269図の2	土師器 杯	-	-	-	白色針状物多く含む	褐色		1

## II H 08 (第270図、図版94)

15T-29グリッドに位置する。北側梁行2間(2.7m)×東側桁行3間(4.4m)の建物である。いずれの柱穴も底面がすぼまる円形の掘り方である。南側の梁行及び西側の桁行の軸がかなり歪んでいる。桁行主軸方位はN-8°-Eである。遺物には、土師器甕の底部片がある。

## II H 09 (第270図、図版94)

15T-14グリッドに位置する。梁行2間(3.6m)×桁行2間(3.6m)の建物である。柱穴の掘り方は円筒形で、浅い。桁行主軸方位はN-6°-Eである。

## II H 10 (第271図、図版94)

15V-88グリッドに位置する。II 090と重複するが、090より新しい。梁行2間(4.0m)×桁行3間(5.7m)の建物である。円筒形の掘り方で、掘込みが深く、しっかりしている。底面にはさらに小さなピットをもつものがある。桁行主軸方位はN-1°-Eである。

## II H 11 (第272図、図版95・169)

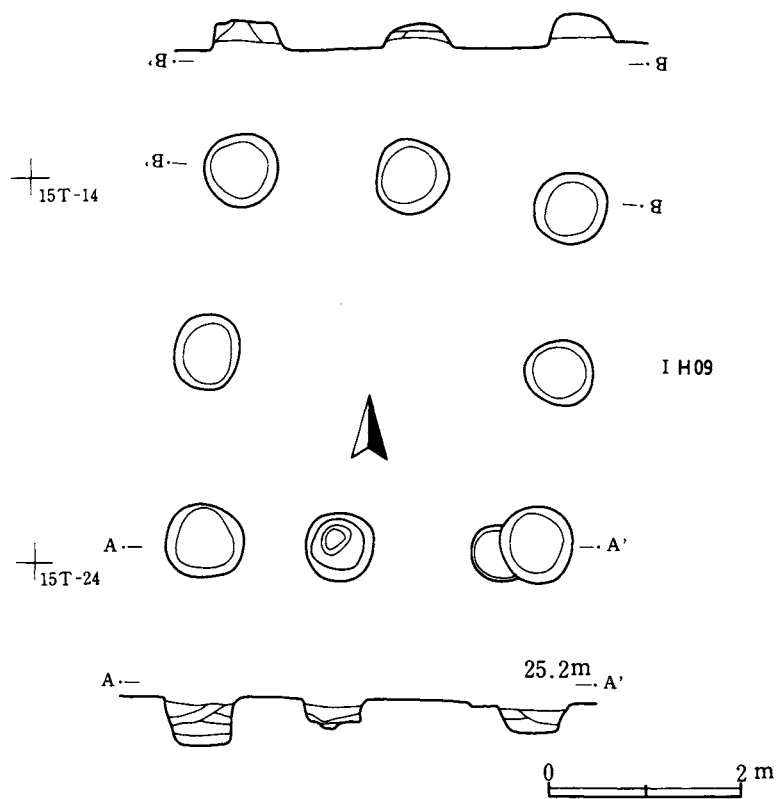
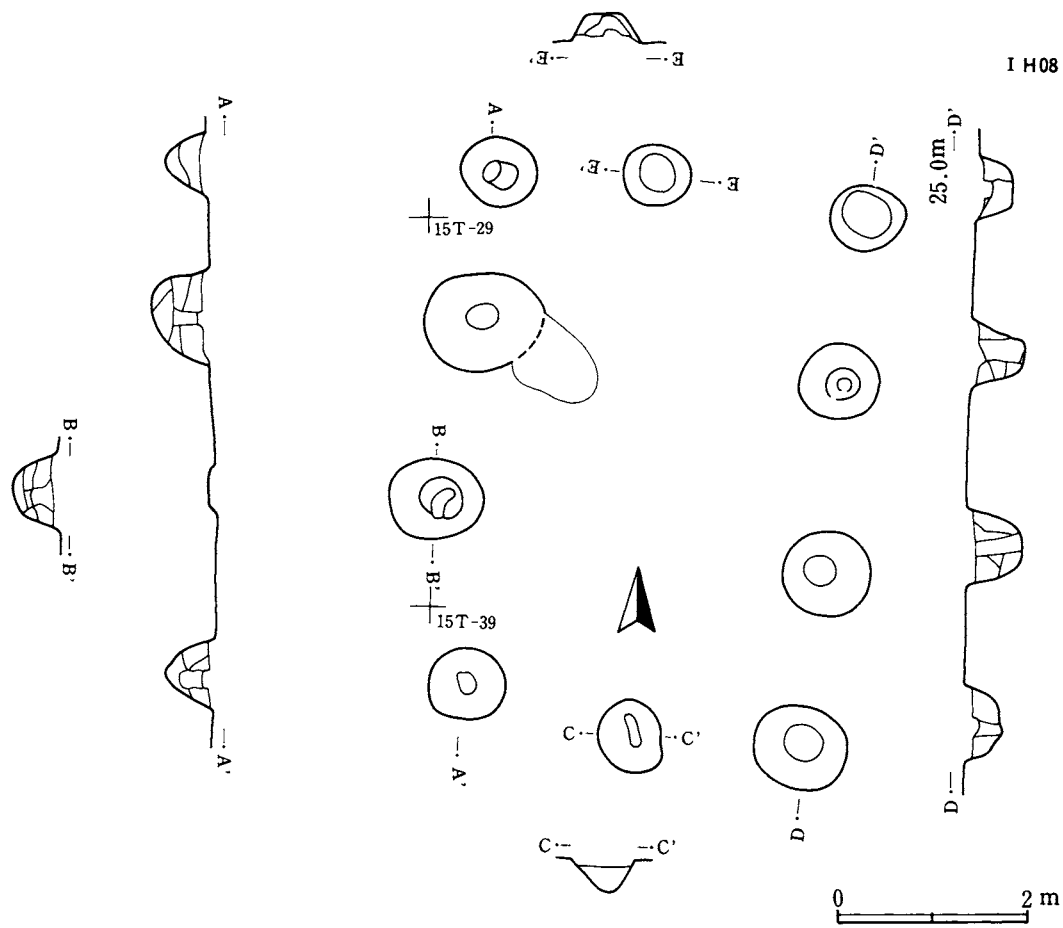
15W-80グリッドに位置する。II H 12と一部重複する。12の方が新しいと考えられる。南側梁行2間(4.0m)×西側桁行3間(5.0m)の建物である。柱穴は円形プランの掘り方である。桁行主軸方位はN-20°-Wである。一括遺物には、土師器杯片や先端部を欠損した鉄鎌片がある。

表220 II H 1 1

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第272図の1	土師器 杯	(12.4)	3.6	(8.2)	砂粒含む	明赤褐色～褐色		3
第272図の2	土師器 甕	-	-	9.2	砂粒多く含む	暗褐色～黒褐色		13
第272図の3	鎌	残存長 14.3	-	-	鉄製品	-		5

## II H 12 (第273図、図版95・168)

15W-71グリッドに位置する。II H 11と一部重複する。東側梁行2間(3.8m)×南側桁行3間(5.0m)の建物である。柱穴は円形プランである。桁行主軸方位はN-82°-Eである。遺物には、土師器や鉄製品がある。4は刀子の先端部で、5・6は鉄鎌の基部と考えられる。



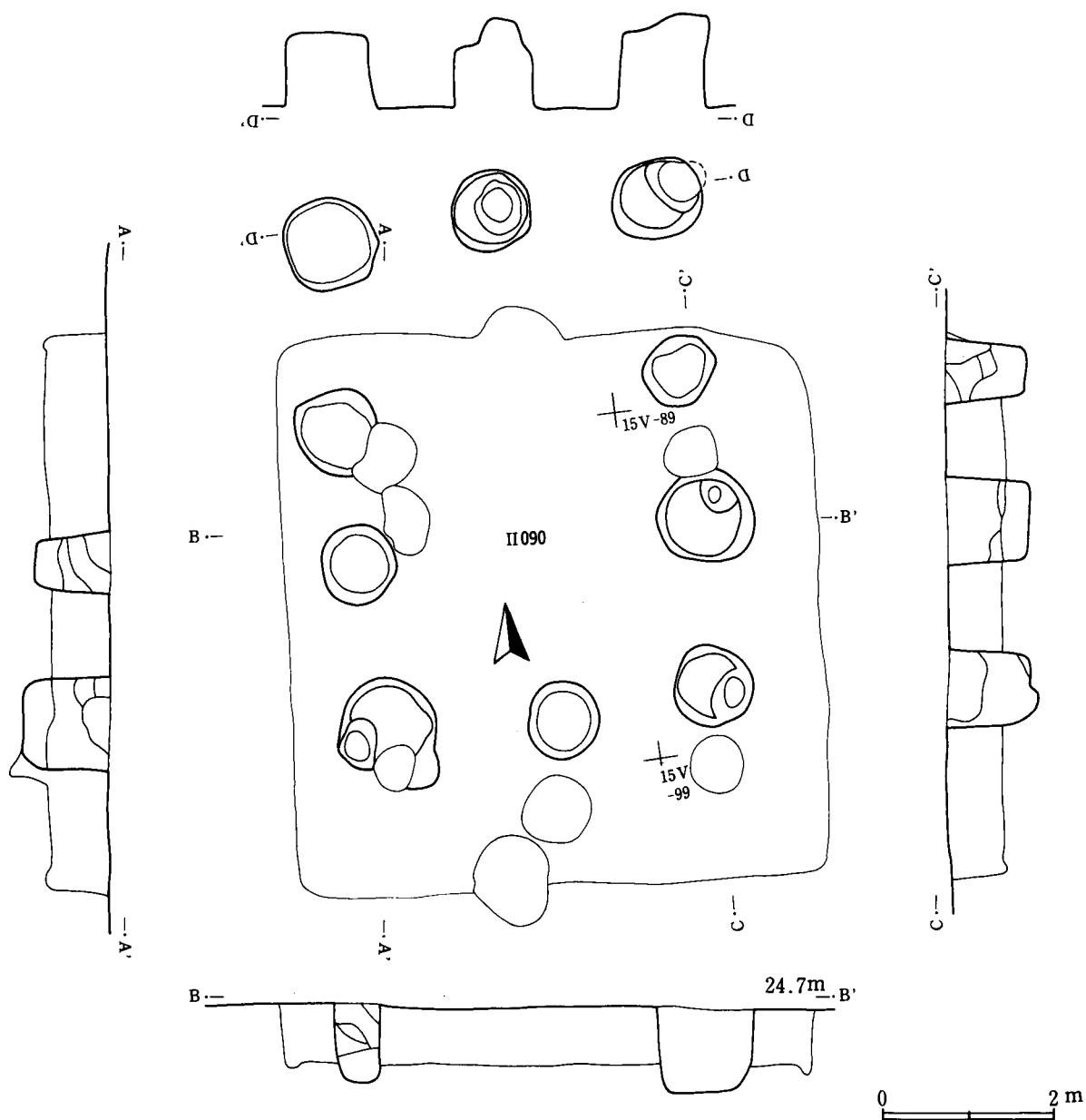
第270图 II H08·09

表221 II H 1 2

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第273図の1	土師器 椀	-	-	-	砂粒含む	暗褐色~褐色		8
第273図の2	土師器 甕	-	-	(8.1)	雲母・石英・長石含む	明褐色		2
第273図の3	石器	長さ9.1	幅 6.0	厚さ2.1	絹雲母片岩	-		2
第273図の4	刀子	残存長 8.8	-	-	鉄製品	-		1
第273図の5	鉄鏃	残存長 7.0	-	-	-	-		9
第273図の6	鉄鏃	残存長 5.3	-	-	-	-		9

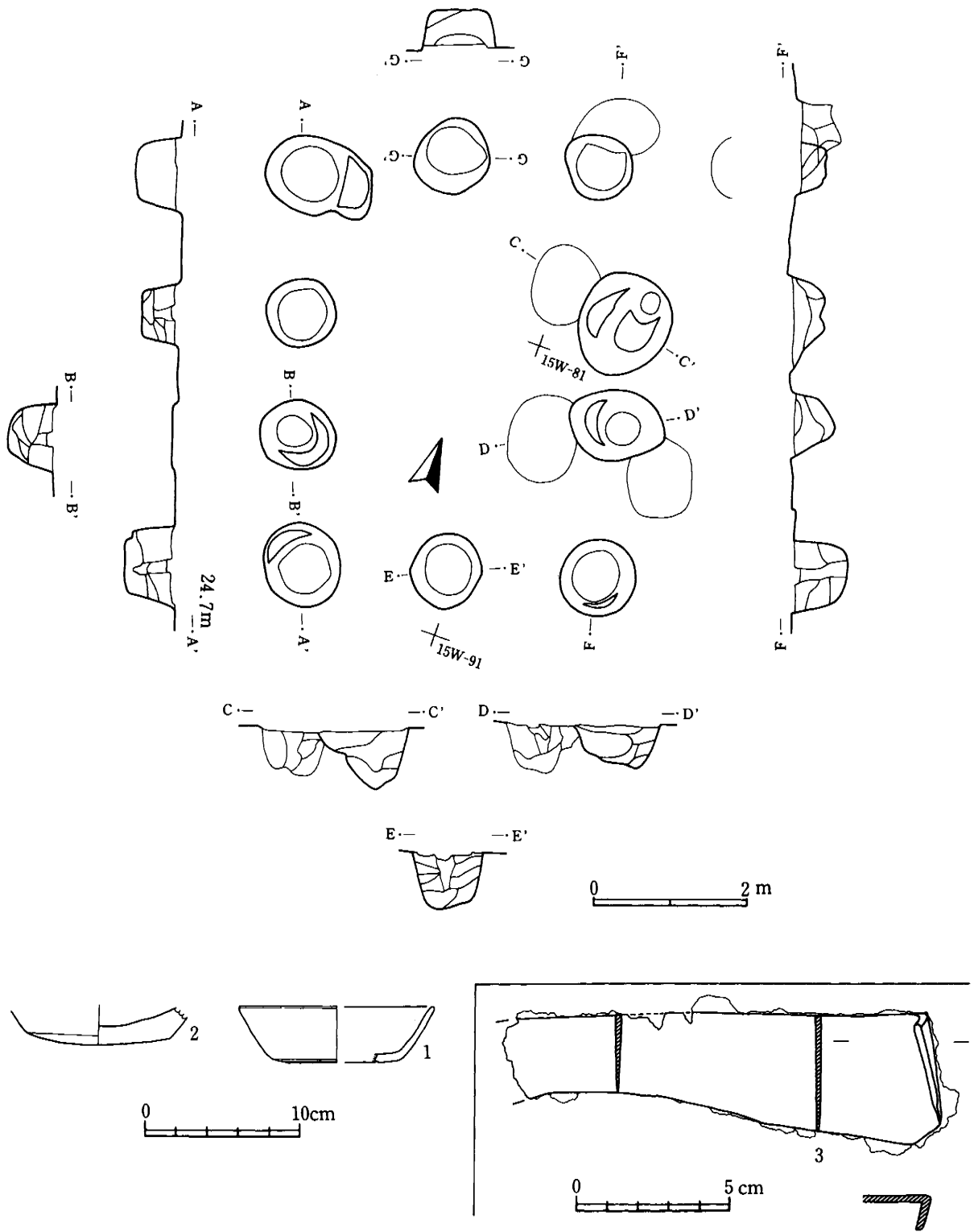
II H 13 (第273図、図版96)

15V-56グリッドに位置する。東側梁行2間(4.0m)×南側桁行3間(5.0m)の建物である。柱穴は円筒形の掘り方である。桁行主軸方位はN-77°-Eである。遺物には、須恵器杯がある。

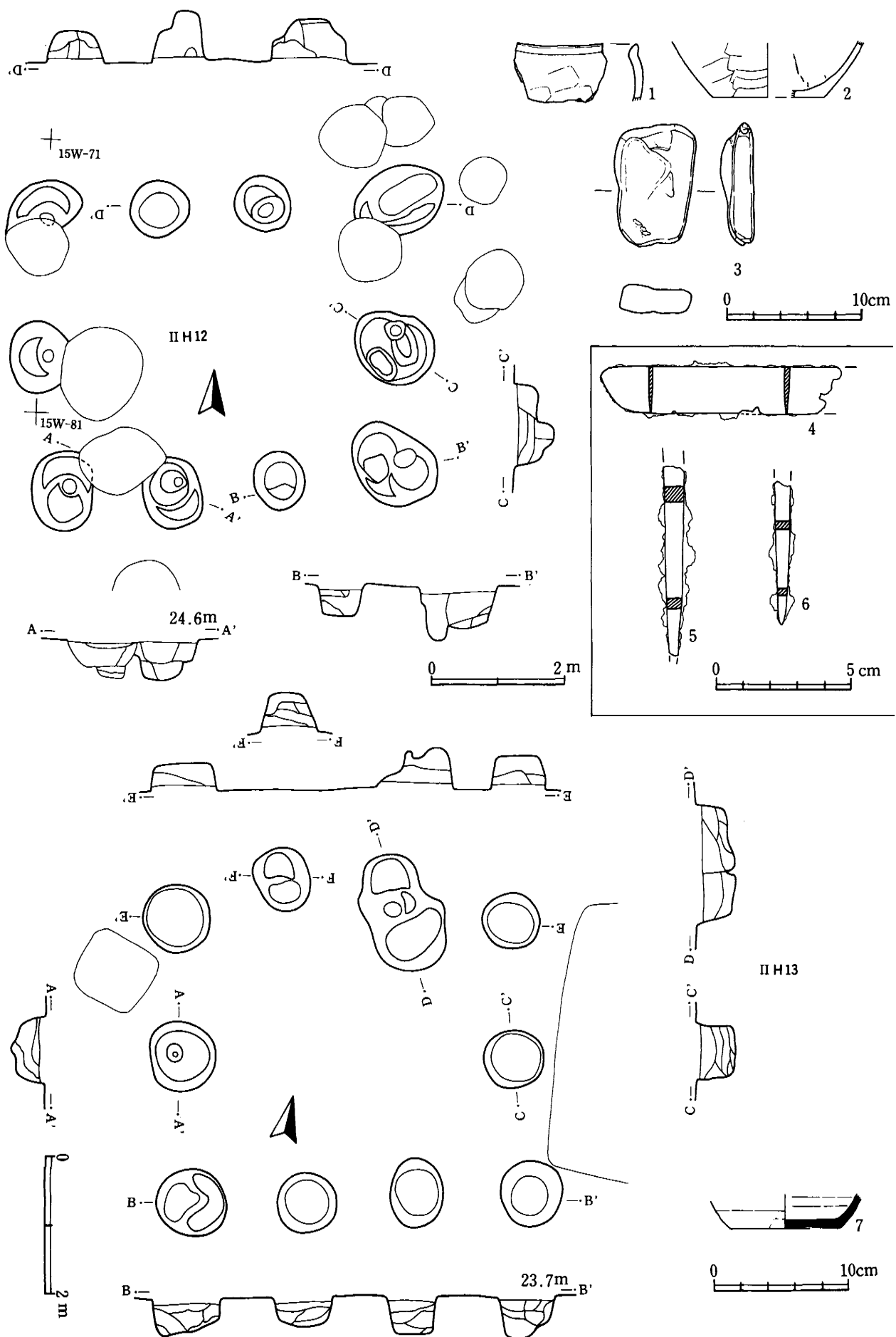


第271図 II H 10





第272図 IIH11



第273图 II H12·13

表222 II H 1 3

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第273図の7	須恵器 杯	-	-	8.0	雲母・長石含む	灰色	新治産	11

## II H 14 (第274図、図版96)

15T-09グリッドに位置する。東西2間(3.8m)×南北2間(3.5m)の建物である。柱穴は円筒形の掘り方である。

## II H 15 (第274図、図版96)

14X-62グリッドに位置する。他の掘立柱建物とは離れて、台地縁辺に近い。II113に北側を削平される。西側梁行2間(3.6m)×南側桁行3間(4.7m)の建物である。柱穴は小型の円形プランの掘り方である。桁行主軸方位はN-76°-Wである。

## II H 16 (第275図、図版97・168)

15V-85グリッドに位置する。西側梁行3間(4.7m)×南側桁行3間(6.6m)の建物である。掘込みのしっかりした円筒形の柱穴である。桁行主軸方位はN-77°-Eである。一括遺物には、須恵器片や鉄製品がある。3及び4は刀子の基部から刀部にかけての破片と考えられる。

表223 II H 1 6

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第275図の1	須恵器 杯	(13.2)	(3.9)	(7.6)	長石多く含む	灰色	新治産	5
第275図の2	須恵器 蓋	(22.3)	-	-	雲母・砂粒含む	灰色	新治産	6
第275図の3	刀子	残存長 10.2	-	-	鉄製品	-		3
第275図の4	刀子	残存長 6.2	-	-	鉄製品	-		3

## II H 17 (第275図、図版97)

13S-70グリッドに位置する。掘立柱建物の集中地点から離れて、台地奥に位置する。西側梁行2間(3.3m)×南側桁行2間(3.8m)の建物である。柱穴は小型で円形ないしは隅丸方形プランである。桁行主軸方位はN-85°-Eである。

## II H 18 (第276図、図版97)

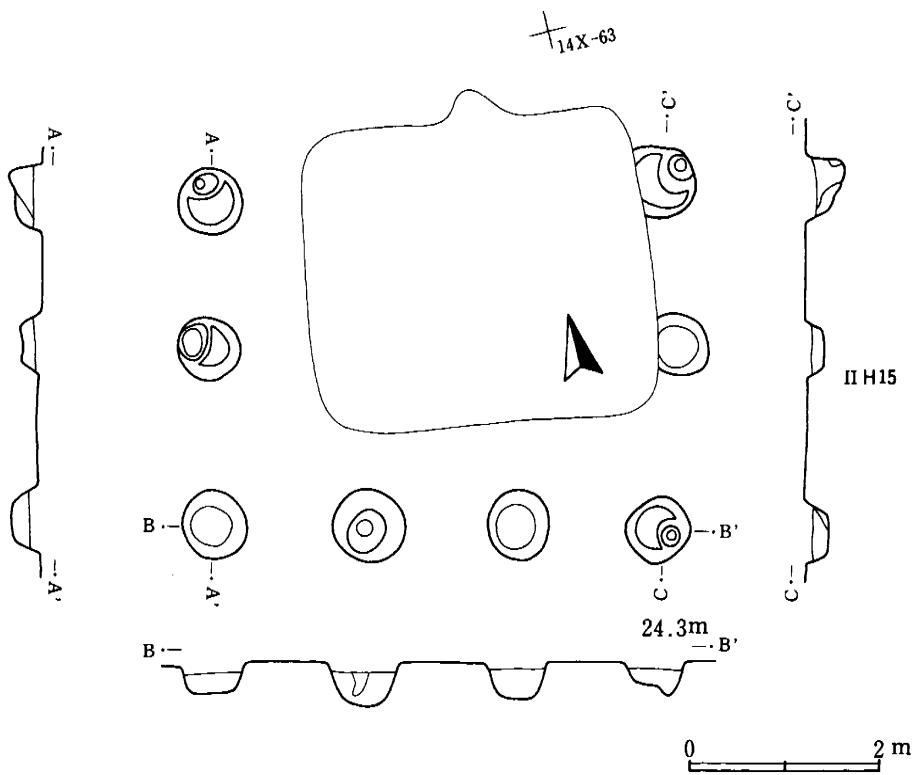
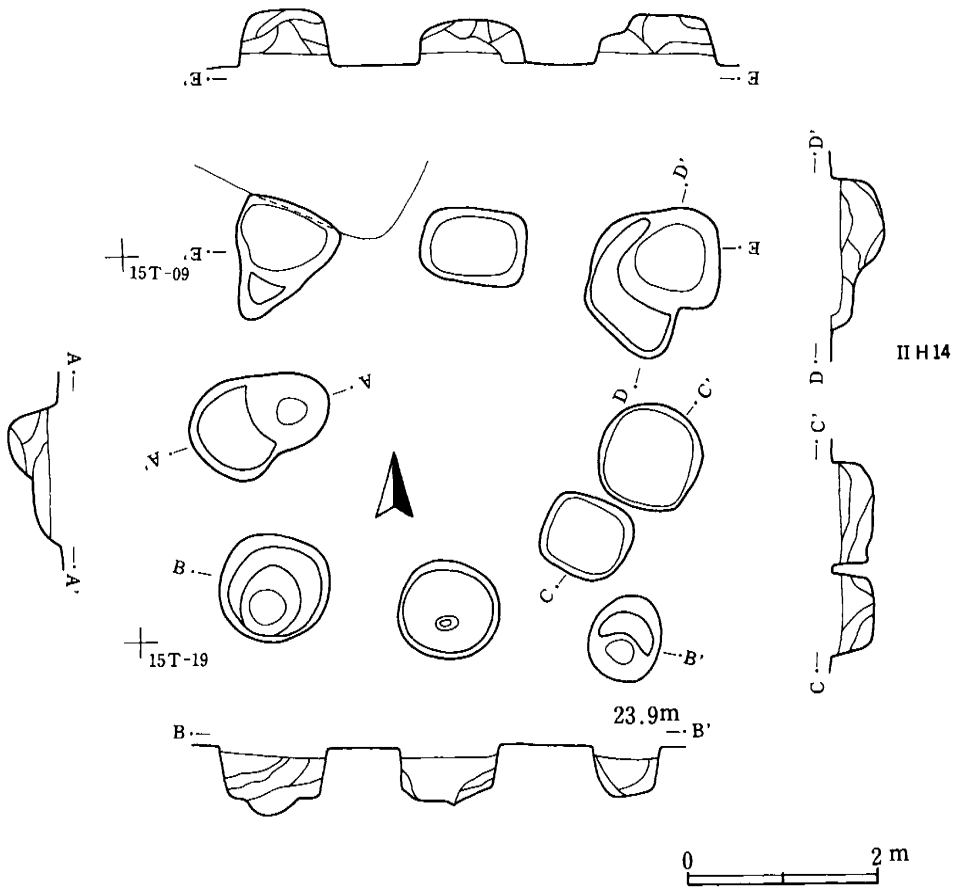
15W-41グリッドに位置する。II091と重複するが、091より古い。東側梁行2間(4.3m)×南側桁行2間(4.2m)の建物である。桁行主軸方位はN-15°-Wである。

表224 II H 1 8

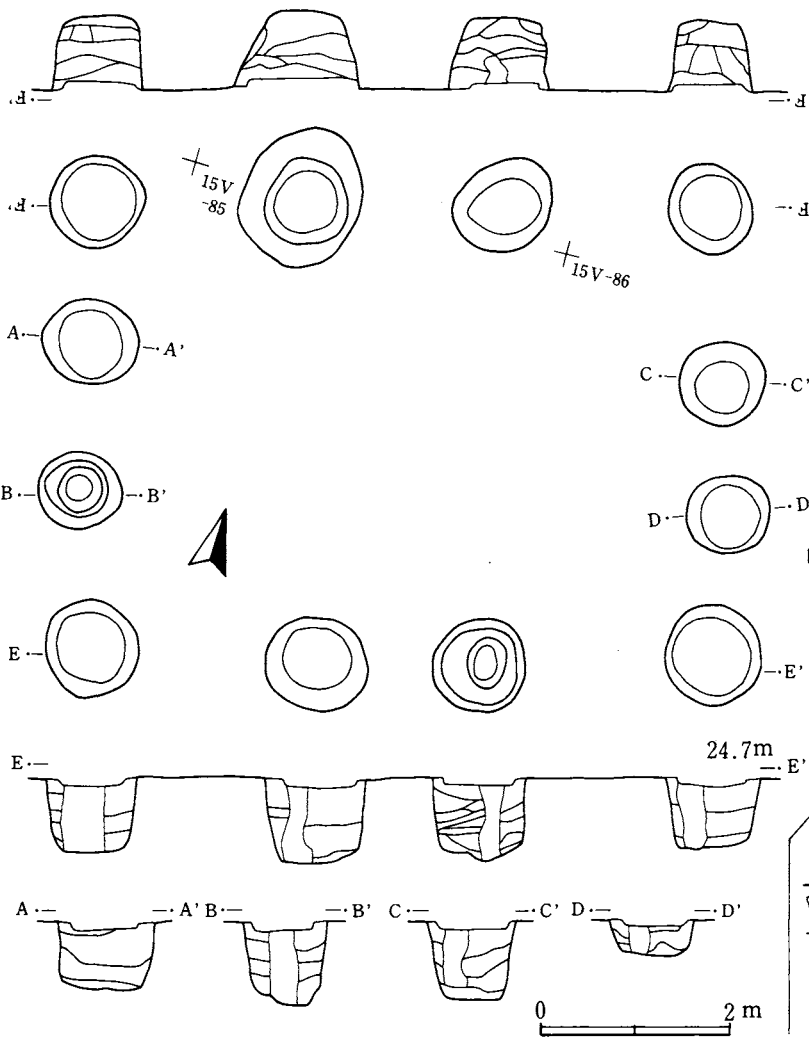
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第276図の1	手捏ね	(3.6)	-	-	砂粒含む	暗褐色		2
第276図の2	土師器 甕	-	-	-	雲母・石英・長石多く含む	暗褐色	常総型	3

## II H 19 (第276図、図版98)

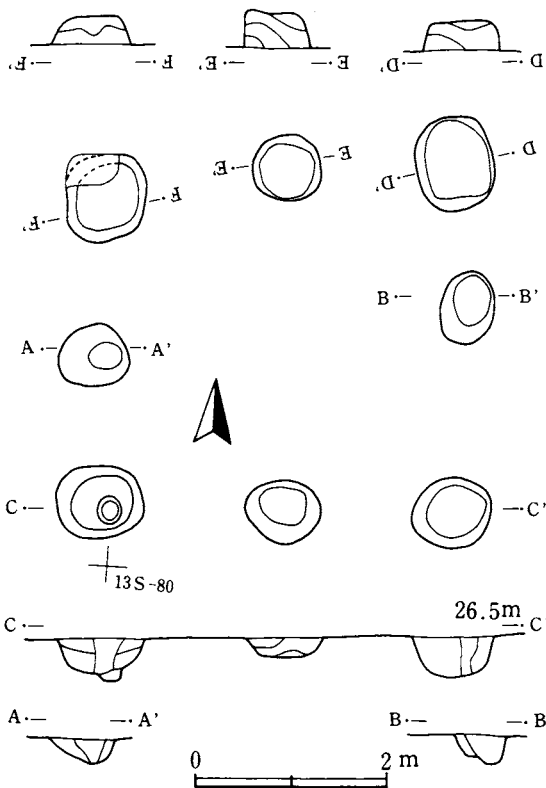
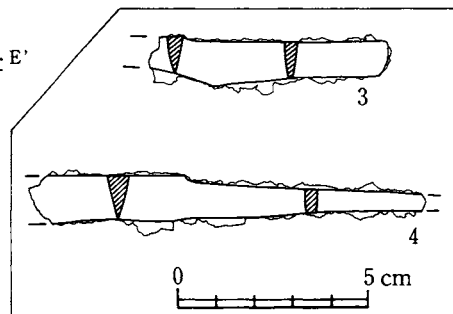
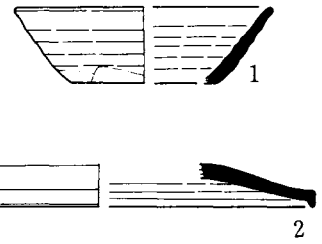
16W-14グリッドに位置する。東側梁行3間(4.9m)×南側桁行3間(6.2m)の建物である。柱穴は円筒形の掘り方である。桁行主軸方位はN-83°-Eである。北西端の柱穴はII094と重複するため、確認できなかった。



第274图 IIH14·15

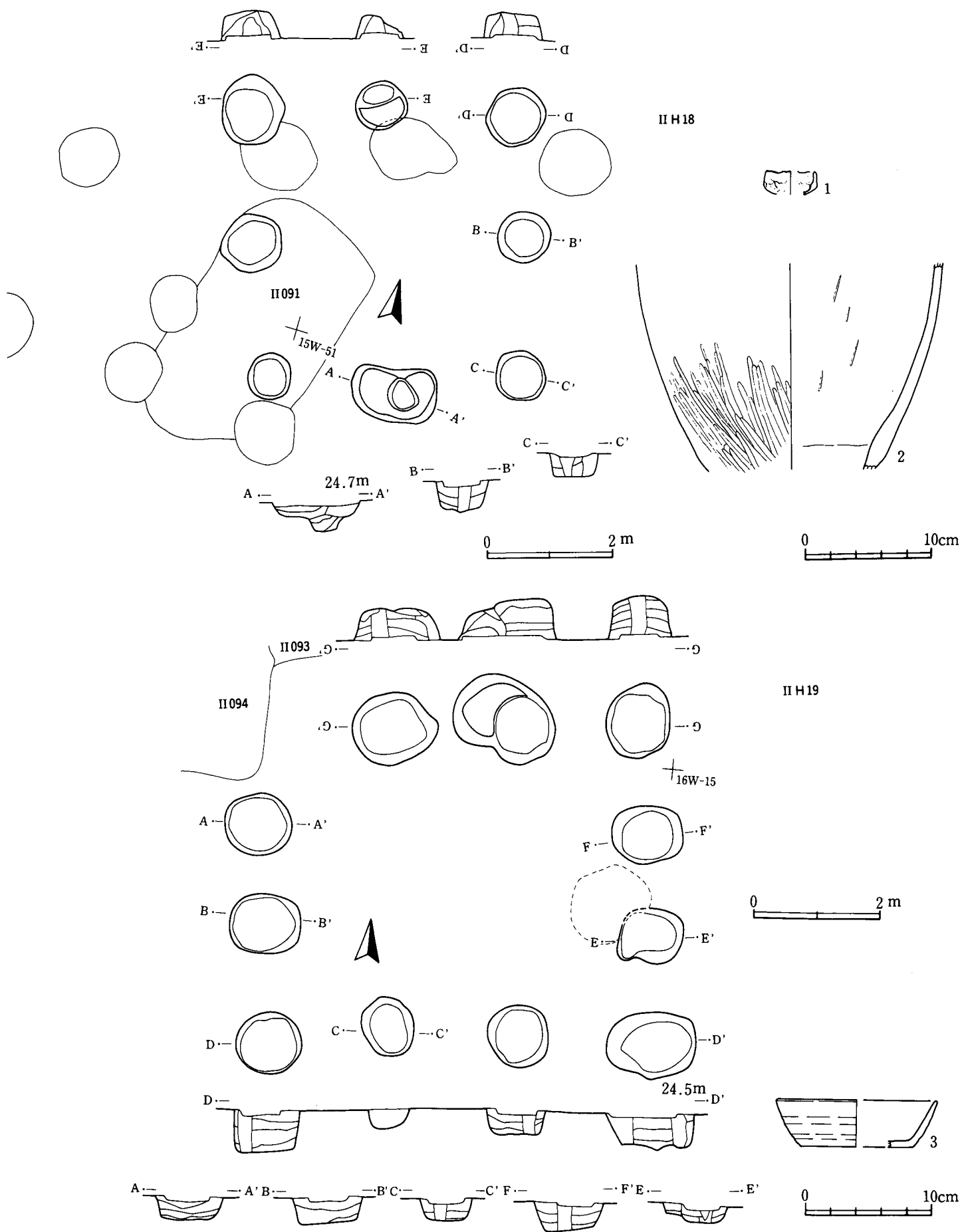


IIH16



IIH17

第275图 IIH16·17



第276图 IIH18·19

表225 II H 1 9

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第276図の3	土師器 杯	(12.6)	3.6	(8.8)	石英・長石含む	赤褐色		4

## II H 20 (第277図、図版98)

14T-92グリッドに位置する。南側梁行2間(3.4m)×東側桁行2間(3.6m)の建物である。柱穴はすべて円筒形のしっかりした掘り方である。桁行主軸方位はN-2°-Wである。遺物には、須恵器片がある。

表226 II H 2 0

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第277図の1	須恵器 甕	-	-	-	長石・砂粒含む	灰色		6

## II H 21 (第278図、図版98・162・167)

15W-50グリッドに位置する。南側梁行2間(4.7m)×西側桁行2間(4.5m)の建物である。柱穴はしっかりした掘り込みの円筒形である。桁行主軸方位はN-8°-Eである。多くの土器が出土している。

表227 II H 2 1

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第278図の1	土師器 杯	(12.2)	3.2	(7.0)	雲母多く含む	明黄褐色		1
第278図の2	土師器 杯	(12.8)	4.0	(6.0)	スコリア多く含む	橙色		2、6
第278図の3	土師器 杯	12.8	3.3	6.8	雲母多く含む	褐色～黒色		1
第278図の4	土師器 杯	(11.8)	3.7	6.1	スコリア含む	橙色		1
第278図の5	土師器 杯	(11.8)	3.8	4.6	雲母多く含む	明黄褐色		1
第278図の6	土師器 杯	(12.4)	3.1	(6.6)	白色針状物多く含む	赤褐色		1
第278図の7	土師器 高台付皿	-	-	-	砂粒少し含む	褐色		1
第278図の8	土師器 高台付皿	-	-	7.1	雲母・砂粒含む	外面橙色 内面黒色	内黒	1
第278図の9	土師器 皿	(13.8)	2.2	(6.7)	雲母多く含む	明赤褐色		1
第278図の10	須恵器 甕	-	-	-	石英・長石含む	明褐色	千葉市域産	1
第278図の11	土師器 甕	-	-	-	雲母・石英・長石多く含む	橙褐色	常総型	1
第278図の12	須恵器 甕	(26.7)	-	-	石英・長石多く含む	明黄褐色～暗褐色		1
第278図の13	土師器 甕	(16.0)	-	-	石英・長石含む	-		2
第278図の14	土師器 甕	(20.1)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	明褐色	常総型	1

## II H 22 (第277図、図版99)

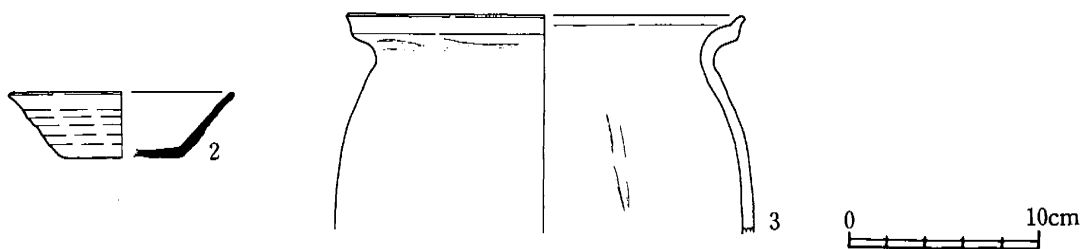
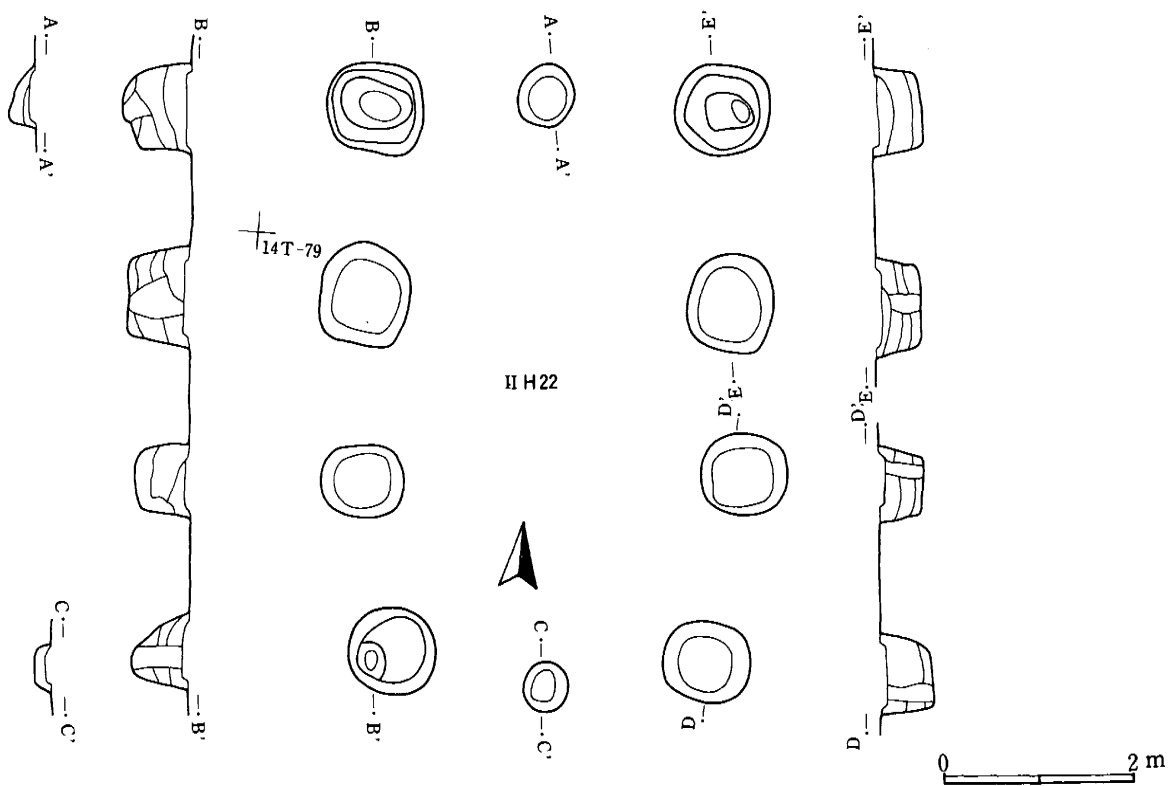
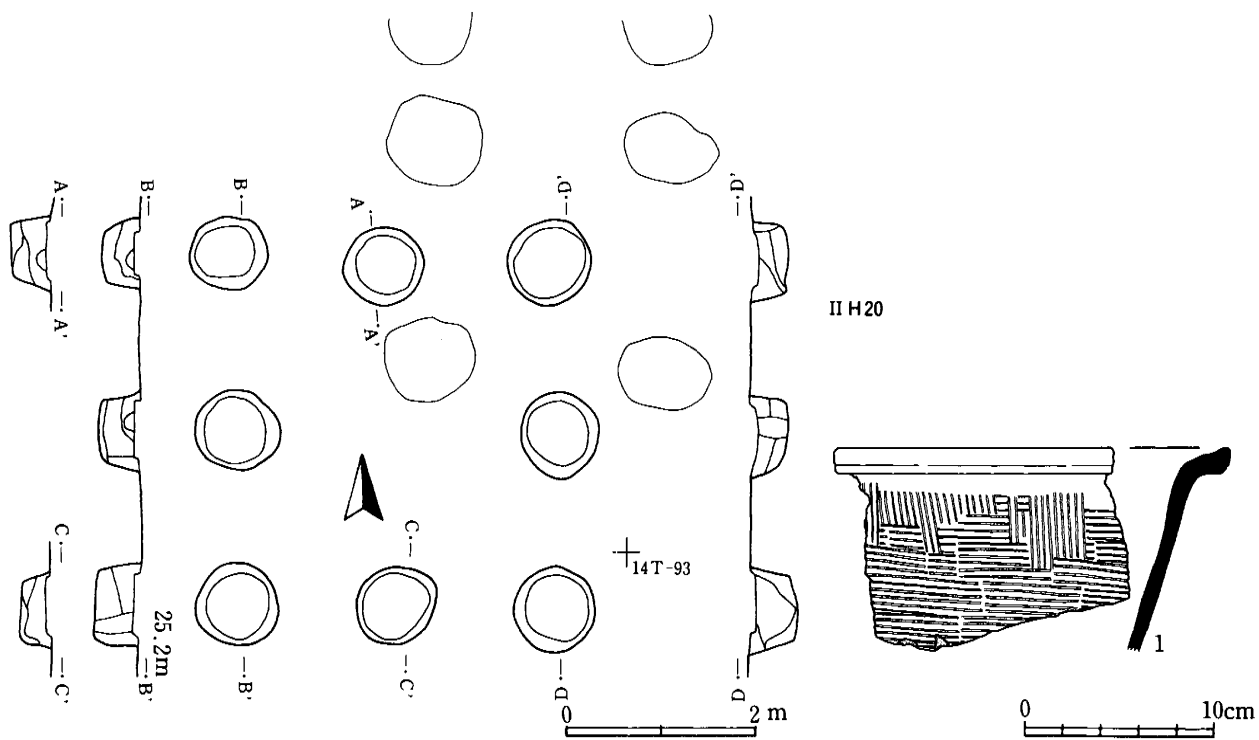
14T-79グリッドに位置する。北側梁行2間(3.8m)×東側桁行3間(5.8m)の建物である。主軸上の2本の柱穴が他の柱穴に比べ、著しく小型で、掘り込みも浅い。桁行主軸方位はN-2°-Wである。

表228 II H 2 2

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第277図の2	須恵器 杯	(11.5)	3.4	(6.4)	雲母・長石含む	灰色		8
第277図の3	土師器 甕	(20.6)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	明褐色	常総型	2

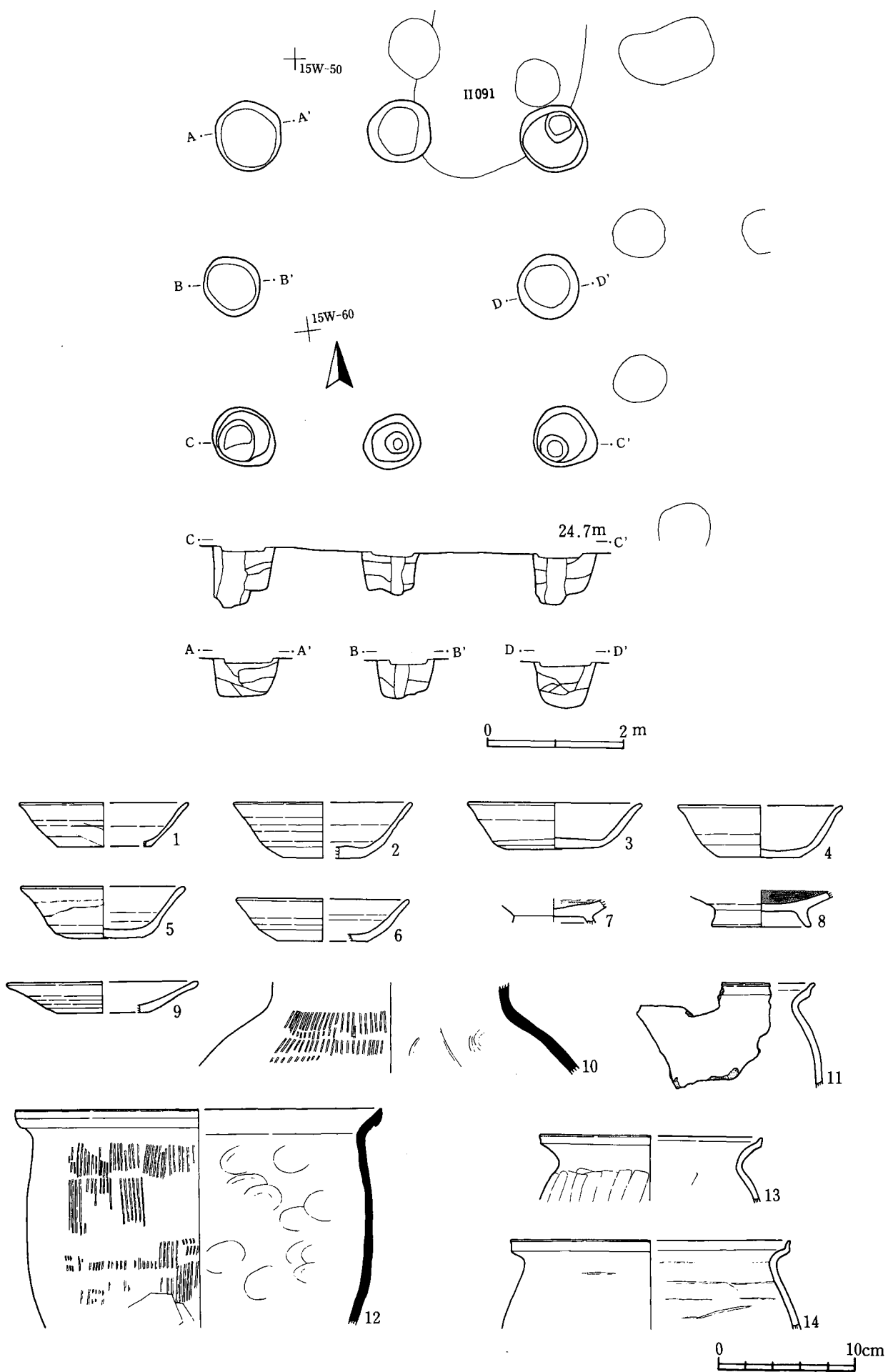
## II H 23 (第279図、図版99)

14T-67グリッドに位置する。西側梁行2間(4.2m)×南側桁行3間(6.5m)の建物である。柱穴は円筒形の掘り方である。柱は柱痕を残すものと、抜き取られたものが見られる。桁行主軸方位はN-87°-Eである。

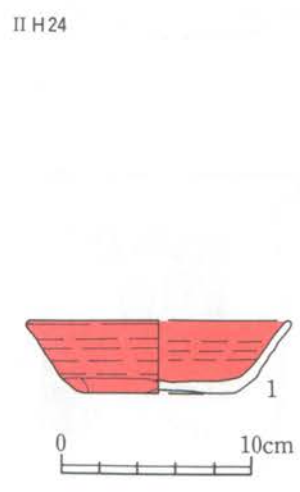
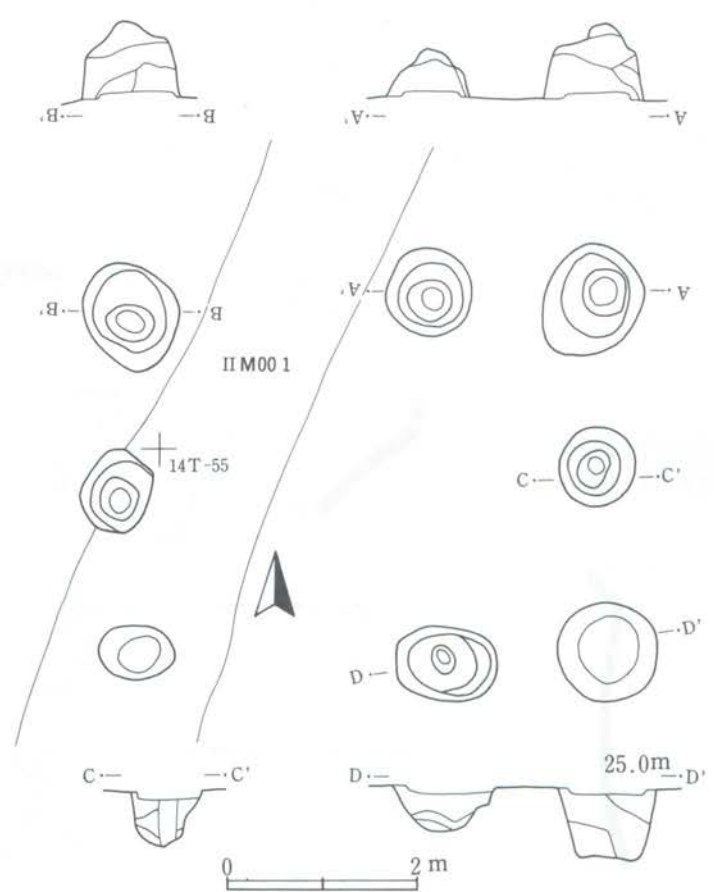
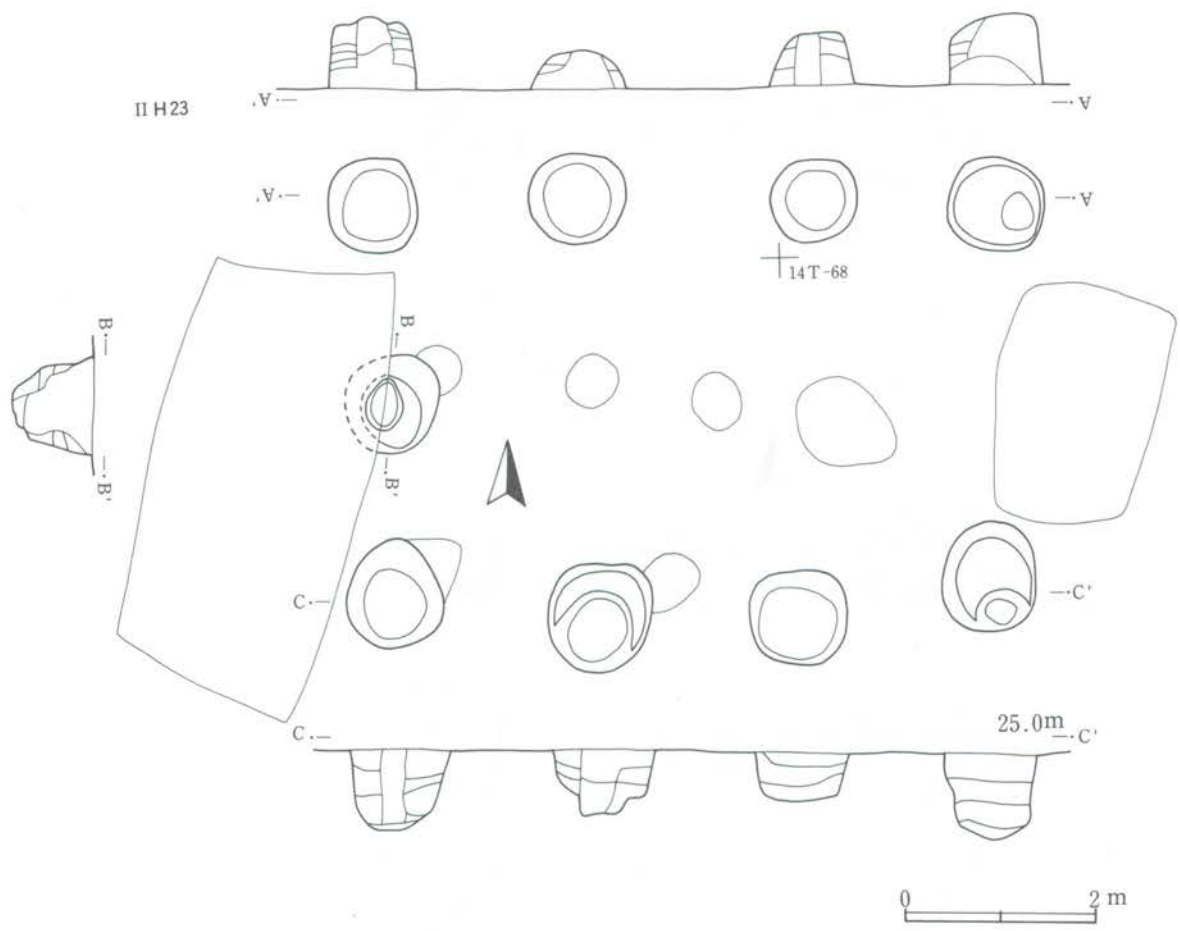


第277图 II H20 · 22





第278图 II H21



第279图 II H23 · 24

II H24 (第279図、図版99)

14T-55グリッドに位置する。IIM001により一部攪乱を受ける。おそらく東側梁行2間(3.6m)×北側桁行3間(5.0m)の建物になると考えられる。柱穴は円形プランで、底面中央がやや窪む。桁行主軸方位はN-87°-Eである。遺物には、赤彩土師器杯がある。

表229 II H 2 4

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第279図の1	土師器 杯	(13.7)	3.8	(8.0)	長石・砂粒含む	赤褐色	内外面赤彩	5

II H25 (第280図、図版100)

14T-74グリッドに位置する。II H24のすぐ南側に位置する。IIM001により西側を攪乱される。東側梁行2間(3.7m)×南側桁行3間(5.2m)の建物である。柱穴は円筒形の掘り方である。桁行主軸方位はN-87°-Eである。

II H26 (第280図、図版100)

14T-27グリッドに位置する。南側梁行2間(4.2m)×西側桁行3間(5.7m)の建物である。柱穴は円筒形の掘り方である。桁行主軸方位はN-2°-Eである。

II H27 (第281図、図版100)

15W-61グリッドに位置する。II H21に接し、II H36と重複する。小型で並びの整わない建物で、北側梁行2間(4.0m)×東側桁行2間(4.2m)になる。柱を抜き取った痕跡が見られる柱穴がある。桁行主軸方位はN-5°-Wである。

II H28 (第281図、図版101)

15T-13グリッドに位置する。IIM001により中央を南北方向に削平される。南側梁行2間(4.0m)×東側桁行2間(4.3m)の規模になると考えられる。北側の2本の柱穴に比べて、南側の4本の柱穴が浅い。桁行主軸方位はN-4°-Eである。

II H29 (第282図、図版101)

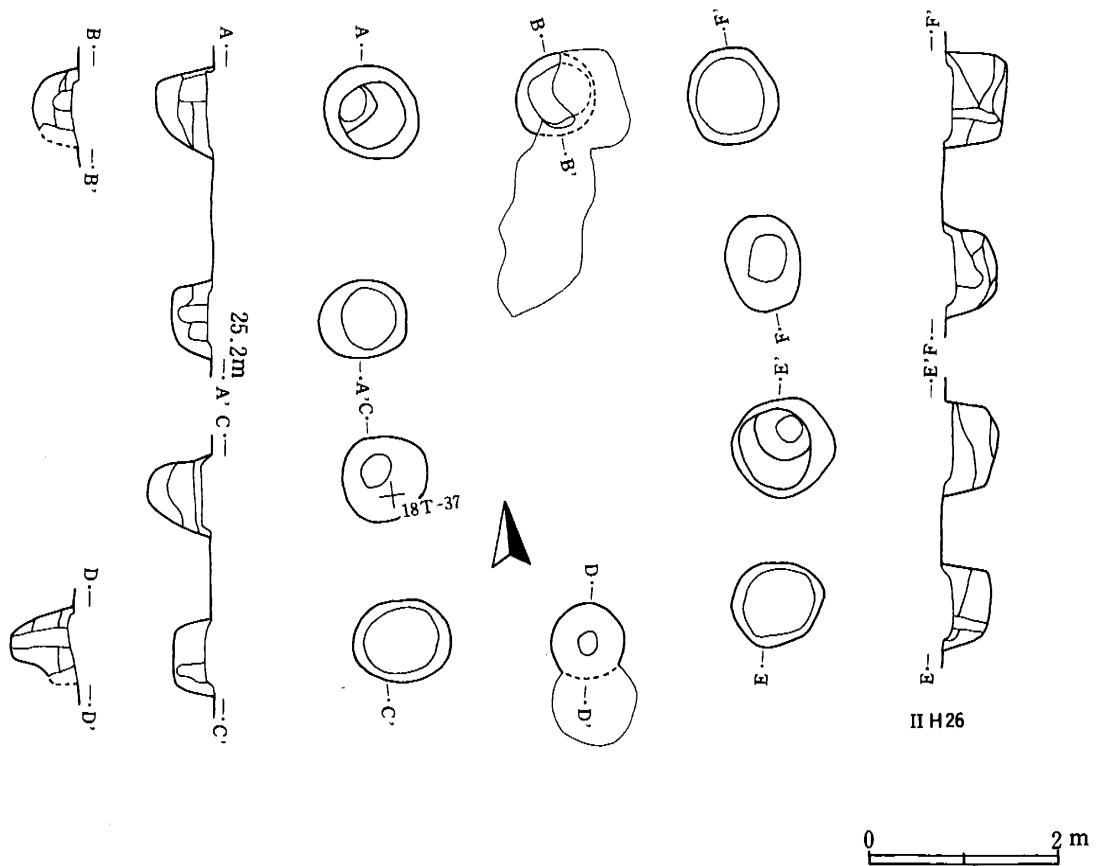
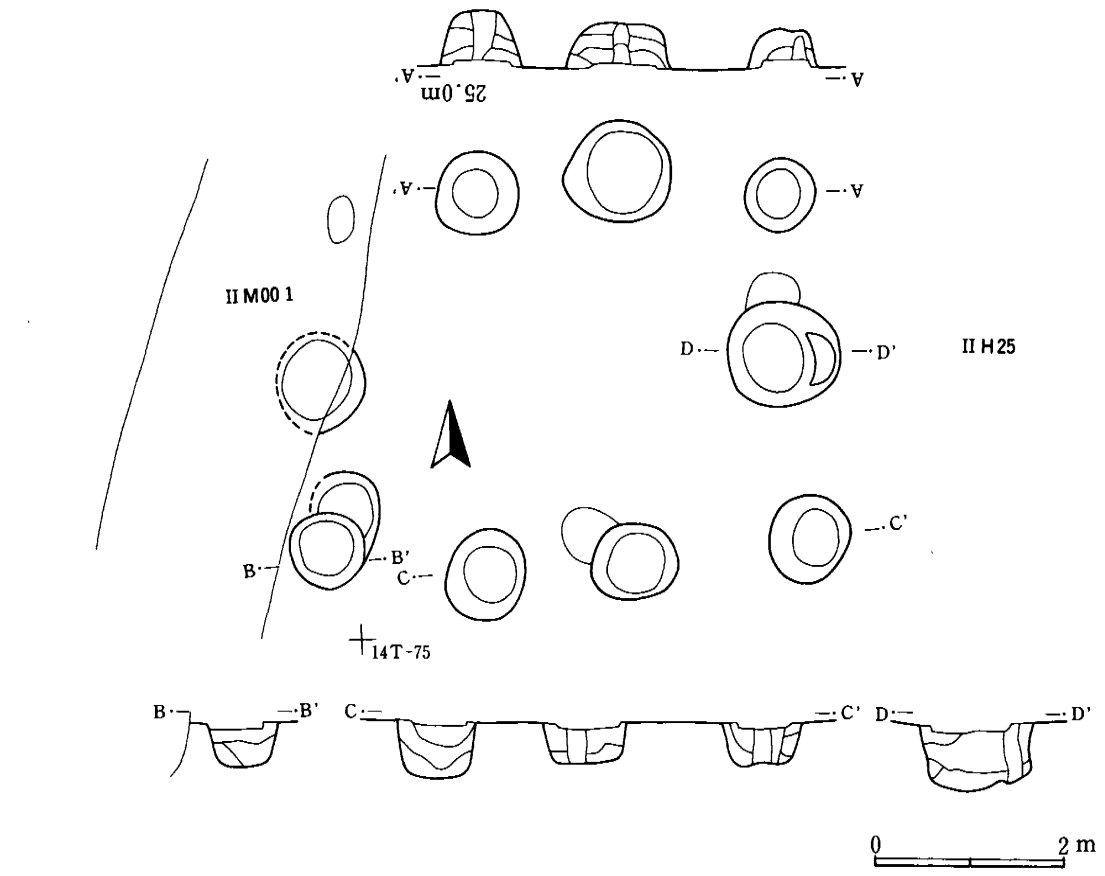
15T-10グリッドに位置する。II H38に接する。南側梁行1間(2.4m)×東側桁行2間(4.0m)の建物である。柱穴は円筒形の掘り方である。桁行主軸方位はN-2°-Wである。

II H30 (第282図、図版101)

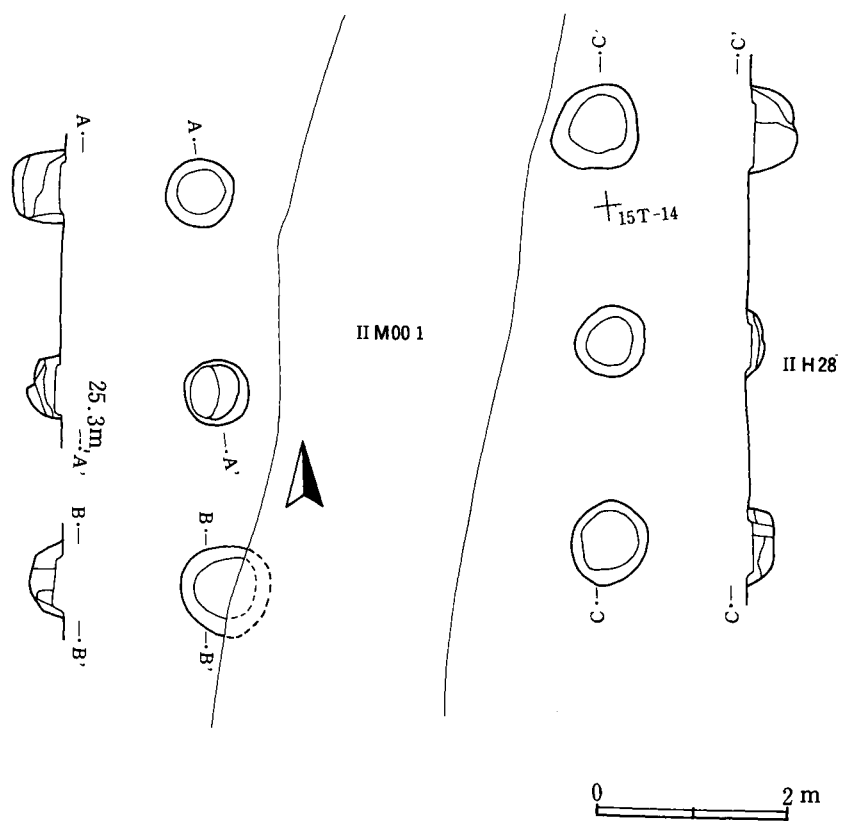
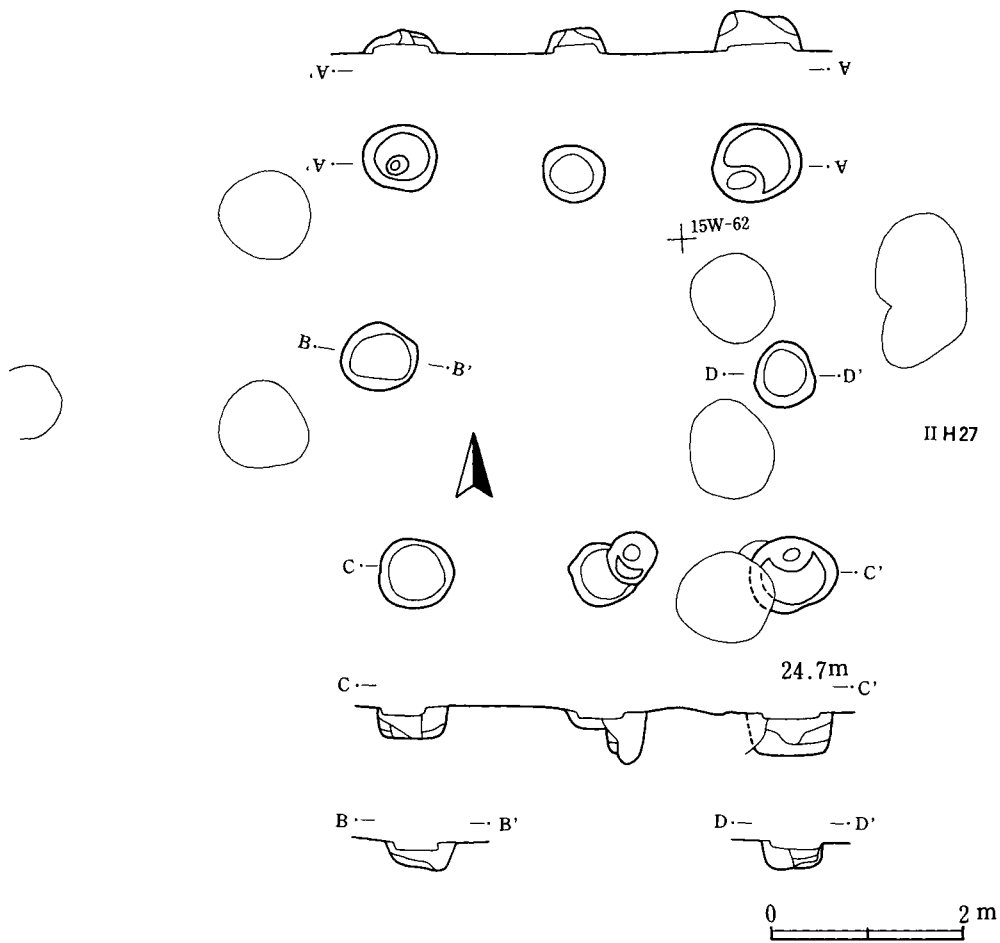
15T-31グリッドに位置する。東側をIIM001により削平される。北側梁行2間(4.5m)×西側桁行2間(4.7m)の建物である。柱穴は円筒形の掘り方である。桁行主軸方位はN-10°-Wである。

II H31 (第283図、図版102)

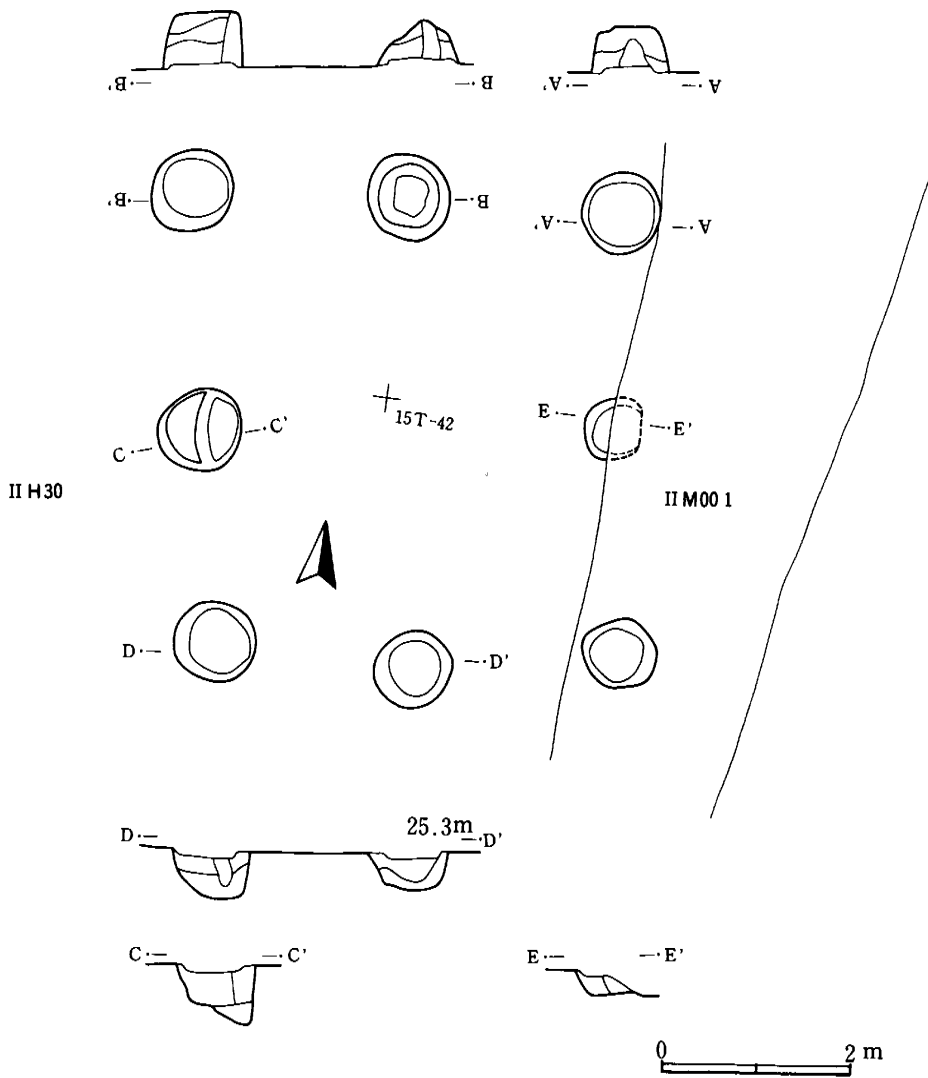
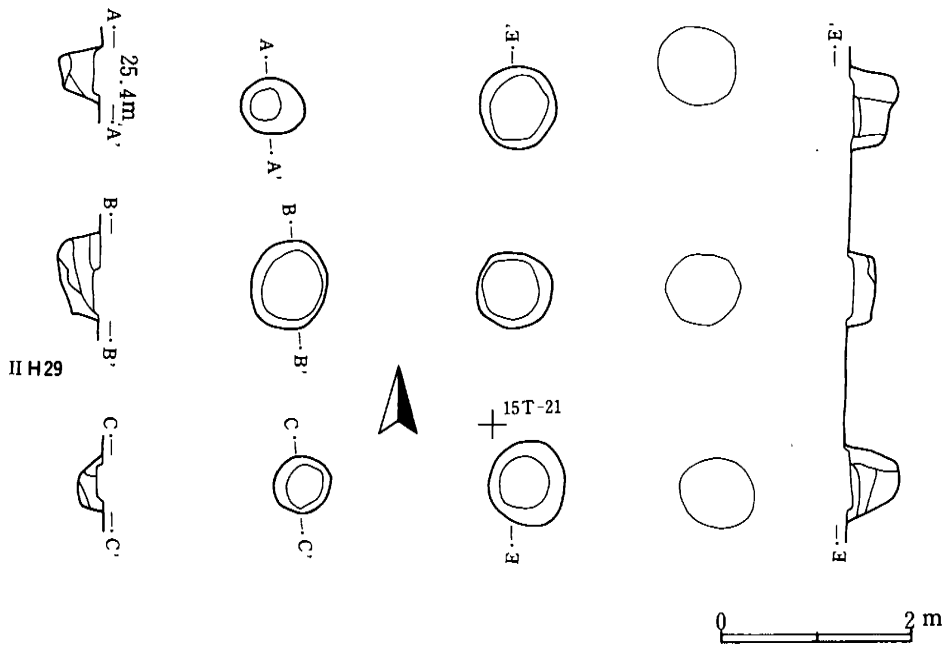
15W-65グリッドに位置する。II H32と一部重複するが、新旧関係は不明である。西側梁行2間(3.5m)×南側桁行3間(5.1m)の建物である。桁行主軸方位はN-83°-Wである。



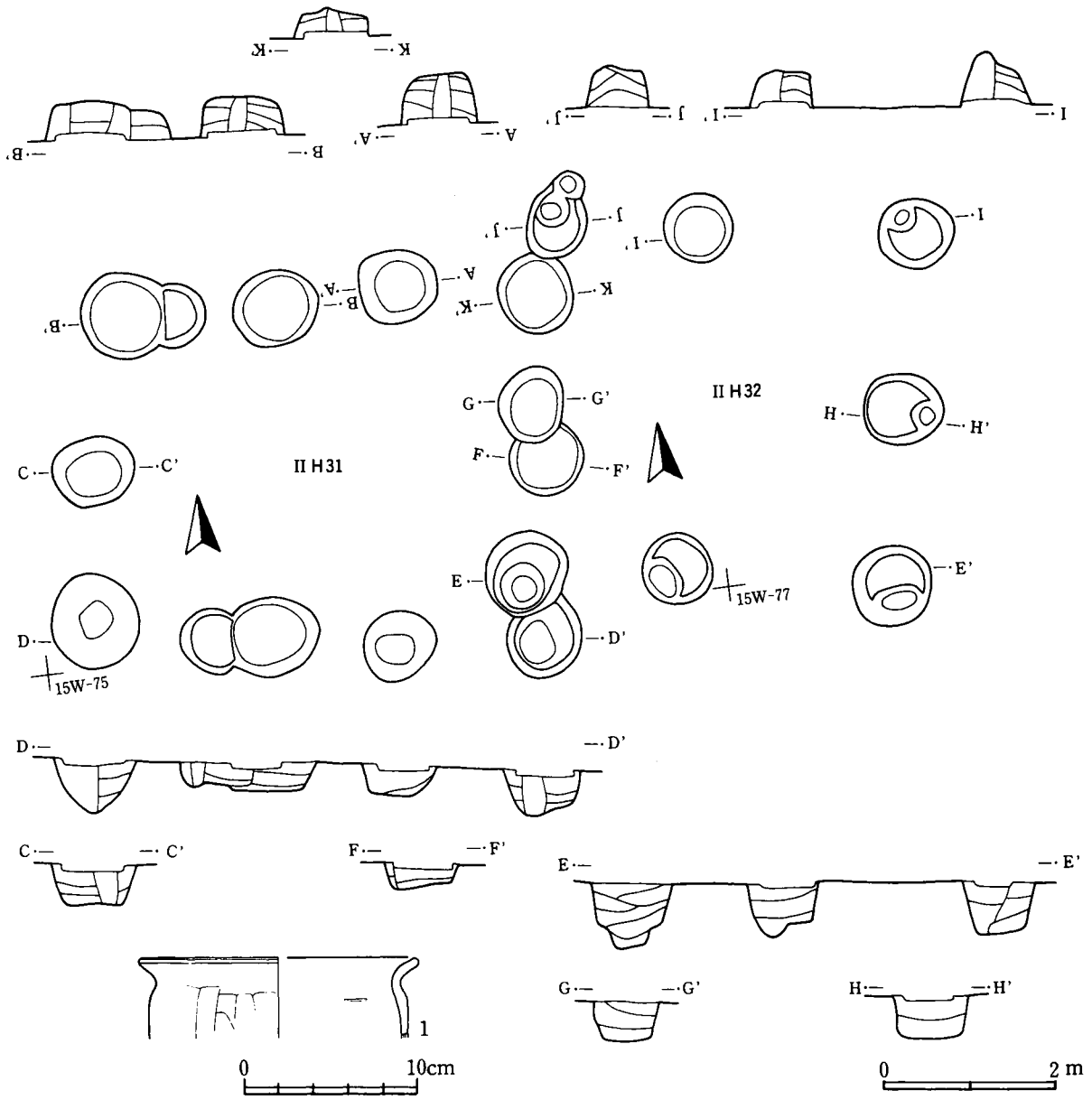
第280图 II H25 · 26



第281图 II H27·28

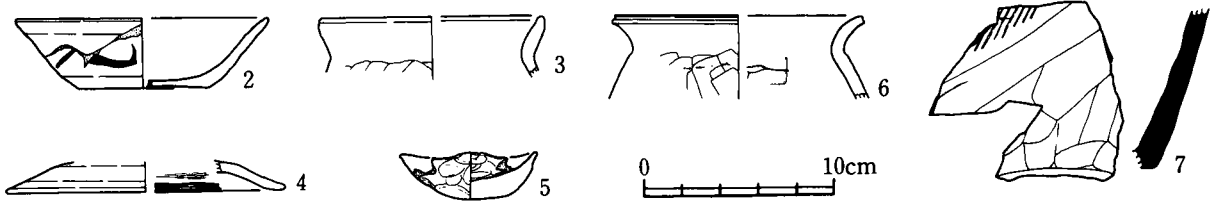


第282図 II H29・30



II H31

II H32



第283图 II H31 · 32

表230 II H 3 1

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第283図の1	土師器小型甕	(15.6)	—	—	雲母・石英・長石含む	明褐色		1

## II H 32 (第283図)

15W-66グリッドに位置する。北側梁行2間(4.2m)×東側桁行2間(4.1m)の建物である。桁行主軸方位はN-10°-Eである。

表231 II H 3 2

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第283図の2	土師器 杯	(13.0)	3.6	(6.8)	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「光」	3
第283図の3	土師器小型甕	(11.4)	—	—	長石・スコリア含む	黒褐色～暗赤褐色		8
第283図の4	土師器 蓋	(14.4)	(2.6)	—	雲母・長石・白色針状物含む	褐色		5
第283図の5	手捏ね	(7.2)	2.5	—	長石・スコリア含む	明褐色		1
第283図の6	土師器小型甕	(12.8)	—	—	雲母・長石・スコリア含む	褐色		5
第283図の7	須恵器 甕	—	(8.2)	—	長石・砂粒含む	灰色		5

## II H 33 (第284図、図版102)

14T-87グリッドに位置する。南側梁行2間(4.0m)×東側桁行2間(4.5m)の建物である。円形プランの柱穴である。桁行主軸方位はN-12°-Eである。

## II H 34 (第284図、図版102)

14T-81グリッドに位置する。II H 20と重複する。南側梁行1間(2.5m)×東側桁行2間(3.9m)の建物だが、南側2本の柱穴と中央の2本の柱穴の間隔が大きく、組み合わせとしては整わない。また、東側の柱穴列と西側の柱穴列では、掘り方の形態が異なる。桁行主軸方位はN-1°-Eである。

## II H 35 (第284図、図版103)

16W-22グリッドに位置する。東側にII H 19が並ぶ。東側梁行2間(4.3m)×南側桁行3間(5.4m)の建物である。掘り方は円筒形で、柱痕の残るものもある。北西コーナーの柱穴はII 096と重複するため不明である。桁行主軸方位はN-77°-Eである。

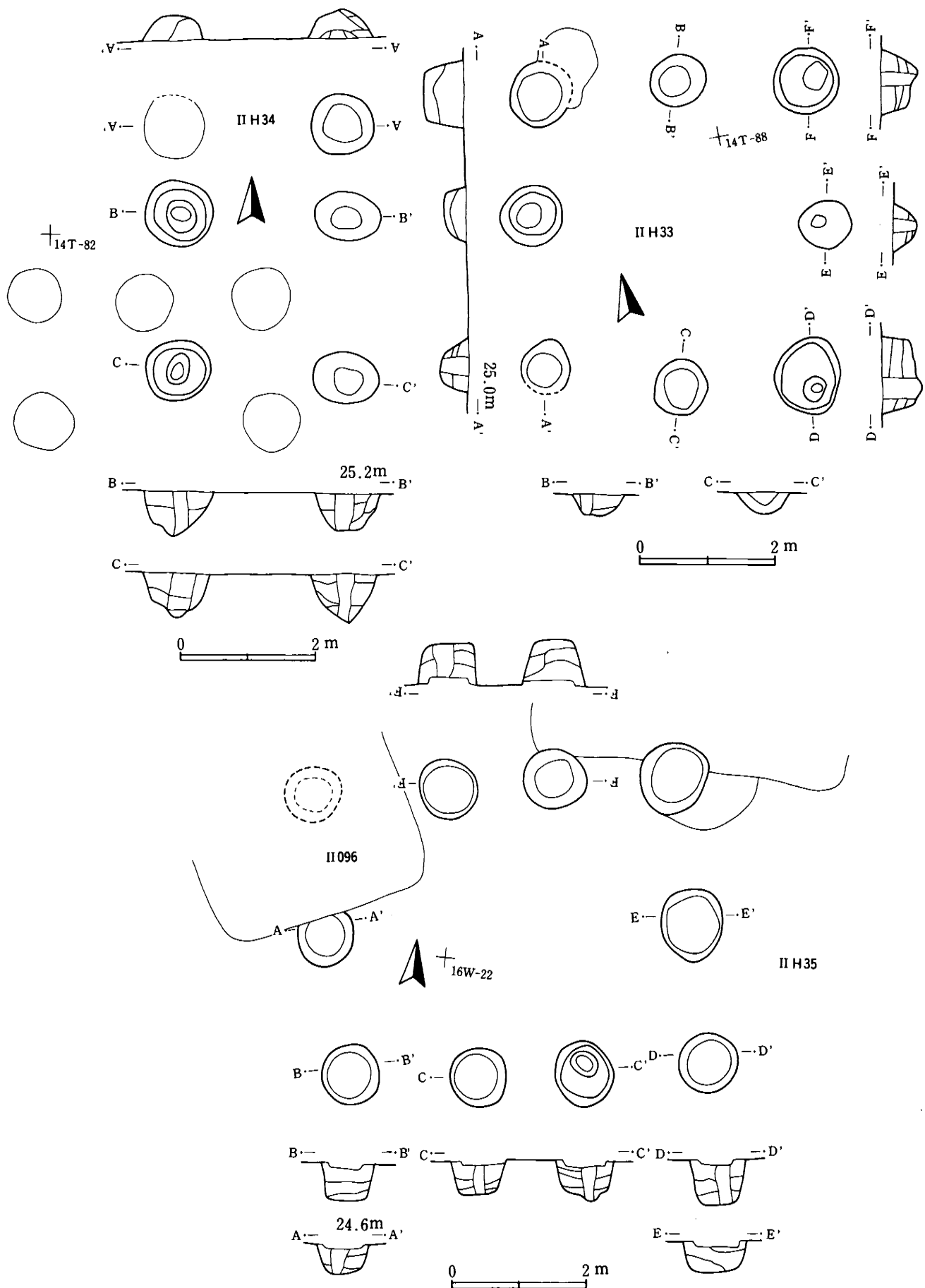
## II H 36 (第285図、図版103)

15W-62グリッドに位置する。南側梁行2間(4.0m)×東側桁行3間(4.9m)の建物である。柱穴は円筒形の掘り方で、中央列の2本の柱穴が、やや外側に出ている。桁行主軸方位はN-1°-Wである。II H 27やII H 12、II H 37と重複するが、H 37、H 36の方が新しい。

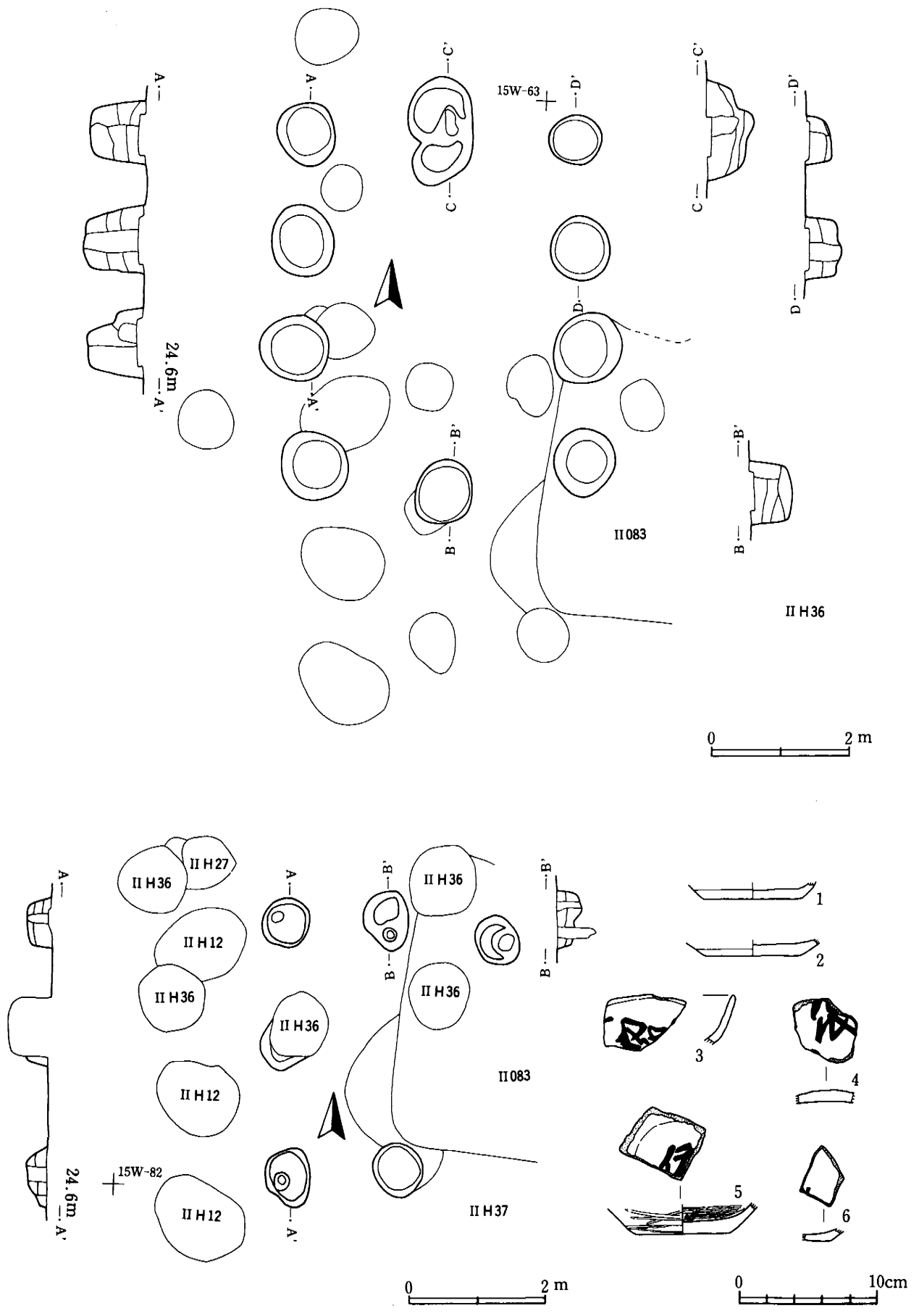
## II H 37 (第285図、図版103)

15W-72グリッドに位置する。他の掘立柱建物(II H 36)や竪穴住居(II 083)と重複し、組み合わせが不明瞭である。南北2間、東西2間以上の建物である。





第284图 II H33 · 34 · 35



第285图 II H36 · 37

表232 II H 3 7

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第285図の1	土師器 杯	—	—	7.0	雲母・スコリア含む	橙色		1
第285図の2	土師器 杯	—	—	6.8	砂粒含む	暗褐色		2
第285図の3	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) □□□	1
第285図の4	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「依」	1
第285図の5	土師器 杯	—	—	(6.4)	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(底内)「依」	1
第285図の6	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内) □□	1

## II H 38 (第286図、図版101)

15T-12グリッドに位置する。南側梁行1間(1.8m)×西側桁行2間(4.5m)の建物である。西側に同規模のII H 29が平行して並び、それらを組み合わせて、南北2間、東西3間の総柱建物の可能性もある。

## II H 39 (第286図)

調査区北東端に近い台地縁辺部の10Y-72グリッドに位置する。II H 40と一部重複する。西側梁行2間(3.5m)×南側桁行3間(4.0m)の建物である。北側列の中央の2つの柱穴は、非常に掘込みが浅い。桁行主軸方位はN-90°-Eである。

## II H 40 (第286図)

II H 39と同様、調査区北東端に近い台地縁辺部の10Y-72グリッドに位置する。東側が調査区域外となるため、全体の規模は不明である。西側梁行2間(3.1m)×北側桁行1間(1.5m)以上の建物である。

## II H 41 (第287図、図版104)

13T-06グリッドに位置する。西側が調査区域外となるため、全体の規模は不明である。柱穴の掘り方は円筒形である。

## II H 42 (第288図、図版104)

14T-76グリッドに位置する。掘立柱建物が密集する地点で、他の柱穴との重複や攪乱が著しく、規模が不明確であるが、おそらく西側梁行2間(4.0m)×南側桁行3間(5.8m)の建物になるであろう。掘立柱建物の柱穴としては掘込みが浅い。桁行主軸方位はN-89°-Wである。

表233 II H 4 2

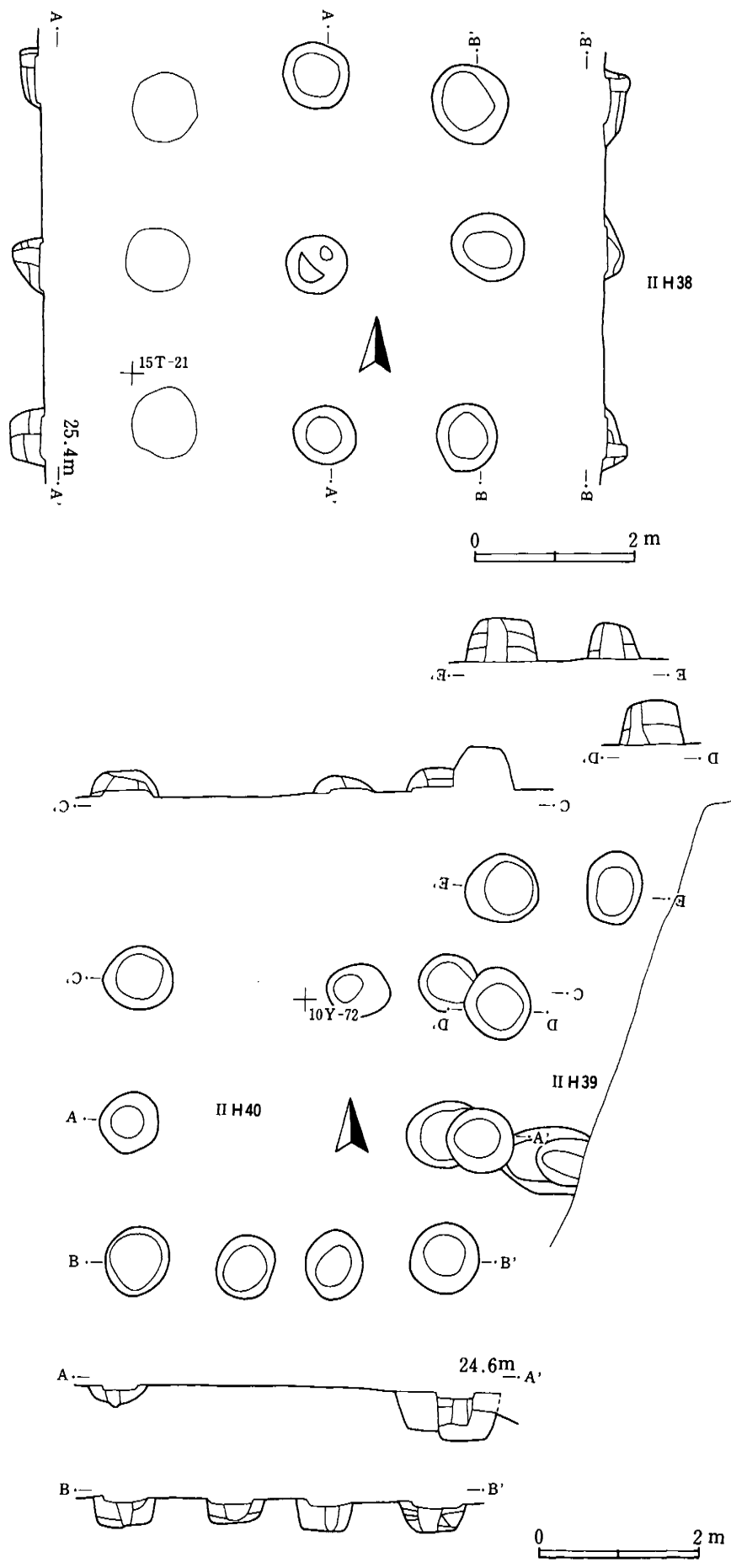
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第288図の1	須恵器 甕	(24.6)	—	—	石英・長石含む	灰色～暗灰色		8
第288図の2	須恵器 甕	(22.2)	—	—	雲母・石英・長石多量に含む	灰白色～灰色		2、3、II061-83、4

## II H 43 (第288図、図版104・162)

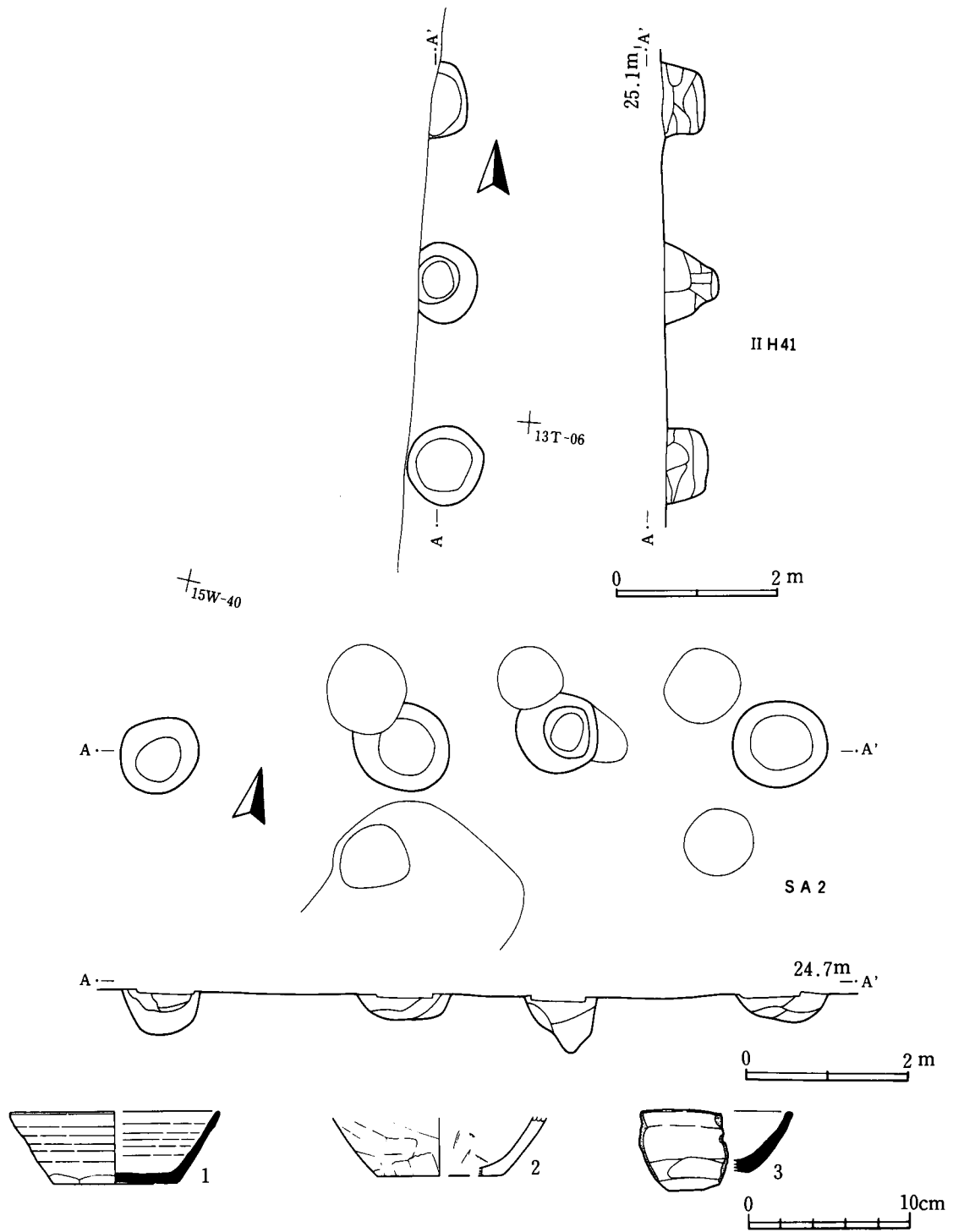
14T-78グリッドに位置する。II H 42の東側に位置し、H 42と主軸線を一致させた建物で、東側梁行2間(3.6m)×南側桁行3間(5.2m)の規模である。掘立柱建物の柱穴としては、掘り方が浅い。H 42と併せて1棟の大型建物の可能性もある。

表234 II H 4 3

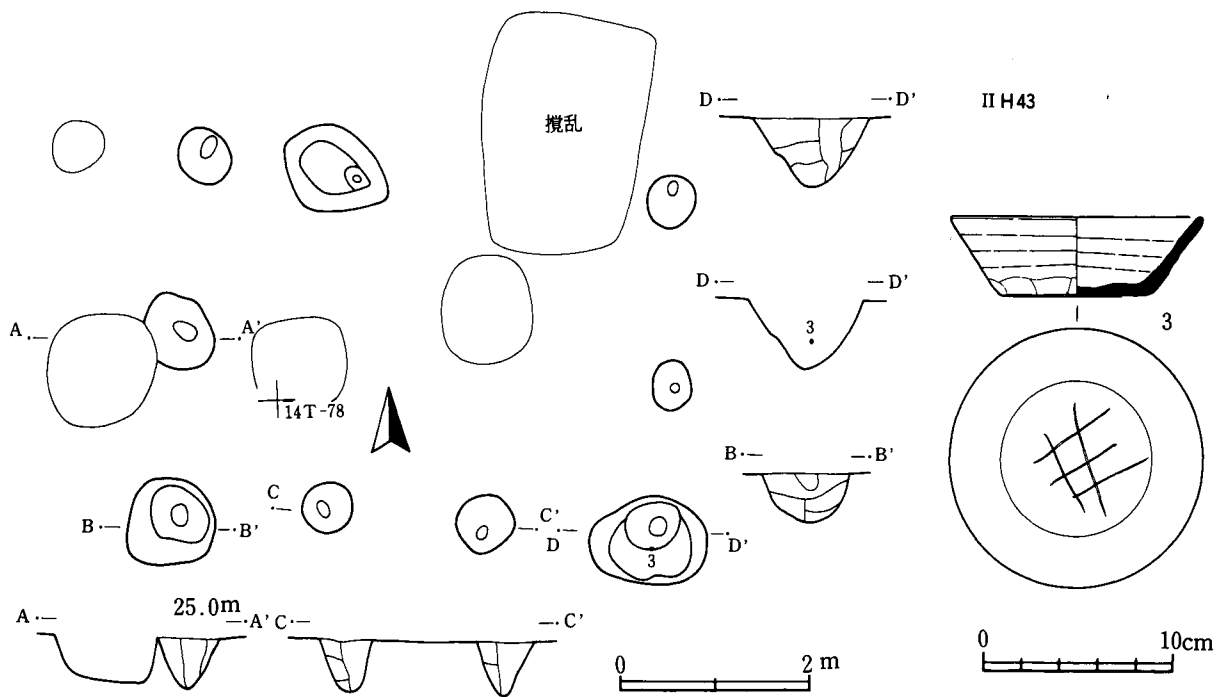
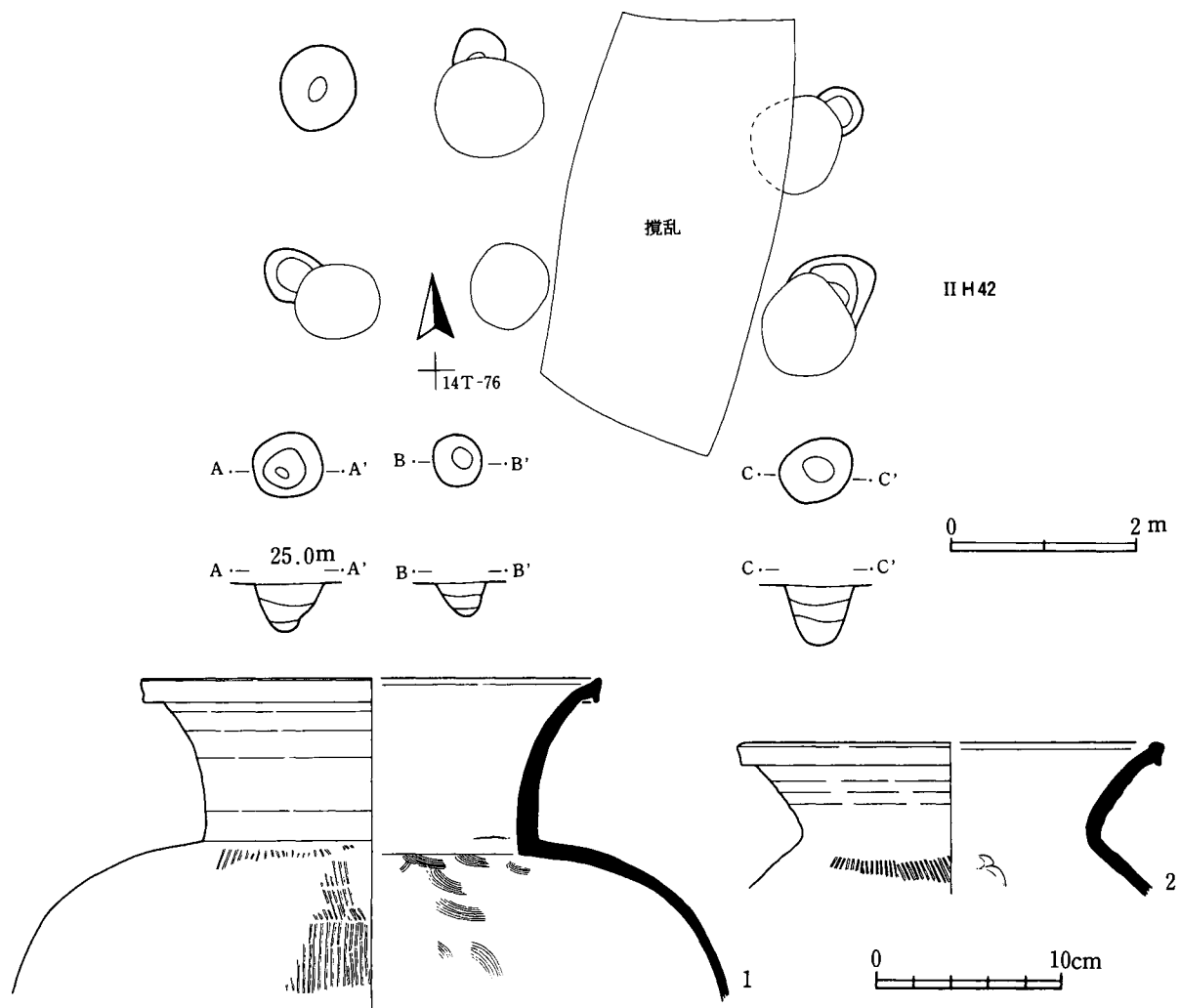
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第288図の3	須恵器 杯	13.0	4.1	8.0	雲母多く含む	灰黄色～黒灰色	線刻(底外)「非」	5



第286图 II H38 · 39 · 40



第287图 II H41 · SA 2



第288图 II H42·43

II S A 2 (第287図、図版104)

15W-40グリッドに位置する。掘立柱建物の組合わせに当てはまらない柱穴列である。両端の心々距離で7.7mを測る。

表235 II S A 2

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第287図の1	須恵器 杯	(12.9)	4.5	7.7	雲母・石英・長石含む	明褐色	新治産	3
第287図の2	土師器 甕	-	-	(7.8)	石英・長石含む	明褐色	-	3
第287図の3	須恵器 杯	-	-	-	雲母多く含む	灰色	-	4

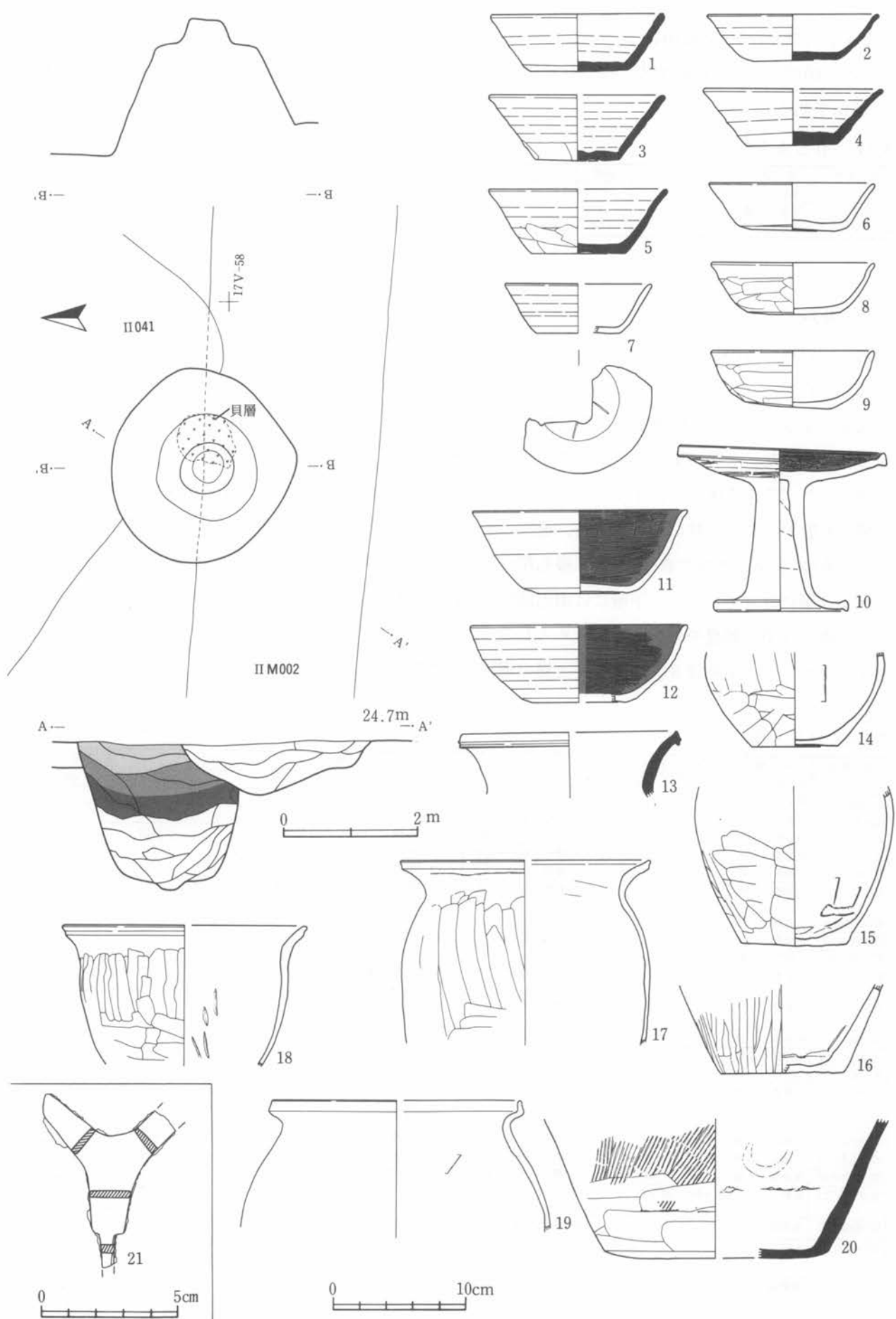
(3) 井戸

II 040 (第289~291図、図版108・140・141・168)

17V-47グリッドに位置する。平面プランは円形で、底部に近くなるに従って徐々に狭まり、一旦平坦な底面となるが、さらに中央部が円形に掘り込まれる。埋土中位層から上位層にかけて多量の土器が出土している。また、土器が集中して出土するレベルの直下からは馬と考えられる獣骨が、一方、土器の上からは、ハマグリを主体とし、オキシジミ、サルボウガイ、キサゴなどが混入する貝層が確認された。この遺構は形態から見ると井戸と考えられ、遺物の出土状況から何らかの祭祀があったことが想定される。確認面で直径2.6m、底面で直径1.4m、最も深い部分で2.0mを測る。遺物の出土層位をさらに下層・中層・上層の3層に分けて見ると、下層には須恵器杯、土師器高杯、内黒土師器碗、体部ヘラケズリの杯が含まれ、中層には須恵器甕や墨書土器が認められる。さらに、上層では土師器杯、皿が出土している。下層から中層にかけての遺物は8世紀後半、上層の遺物は9世紀第1四半期末ころと考えられ、2時期に分かれる。

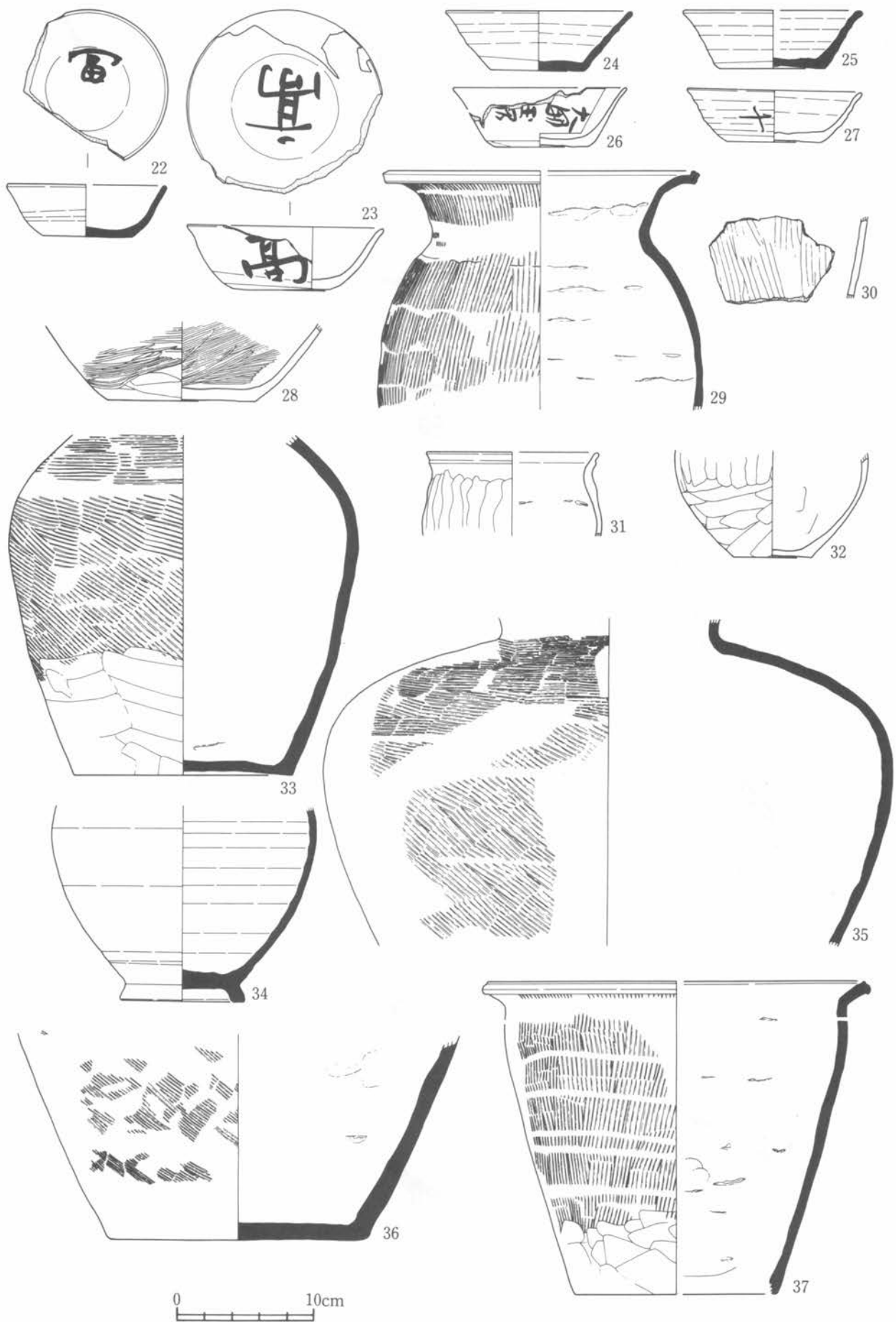
表236 II 0 4 0

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第289図の1	須恵器 杯	12.7	4.4	7.3	石英・長石・スコリア含む	暗灰色		2、342、352、405
第289図の2	須恵器 杯	12.5	3.5	6.2	長石・砂粒含む	灰色		418
第289図の3	須恵器 杯	(12.8)	4.9	6.2	雲母多量を含む	灰色		326
第289図の4	須恵器 杯	(13.2)	4.3	6.7	雲母・長石・砂粒含む	灰色		419
第289図の5	須恵器 杯	(13.1)	4.8	(7.0)	雲母・長石・砂粒含む	灰色		2、327
第289図の6	土師器 杯	12.2	3.6	6.2	雲母・砂粒・スコリア含む	明褐色		288
第289図の7	土師器 杯	(10.8)	3.6	(6.2)	雲母・長石・砂粒・スコリア含む	褐色	ヘラ書き(底外)「+」	267、320
第289図の8	土師器 杯	12.1	4.0	6.8	石英・長石・スコリア含む	明赤褐色		2、42、211
第289図の9	土師器 杯	12.0	4.1	6.6	雲母・長石・スコリア含む	明褐色		286
第289図の10	土師器 高盤	15.2	11.9	9.7	-	-	内黒	283
第289図の11	土師器 碗	15.9	6.1	6.1	白色針状物多く含む	外面明褐色 内面黒色	内黒	289
第289図の12	土師器 碗	(15.9)	5.7	(6.8)	雲母・長石・砂粒含む	外面褐色 内面黒色	内黒	335
第289図の13	須恵器 甕	(15.9)	(4.8)	-	長石・砂粒含む	灰色		287
第289図の14	土師器小型甕	-	(6.9)	6.4	石英・長石・スコリア含む	暗褐色		417
第289図の15	土師器 甕	-	(11.8)	7.9	雲母・長石・スコリア含む	褐色		420
第289図の16	土師器 甕	-	(6.5)	9.2	長石多く含む	褐色	底外木葉痕 常総型	414、415
第289図の17	土師器 甕	(18.6)	(13.6)	-	長石・砂粒・スコリア含む	暗褐色		2、311、329
第289図の18	土師器小型甕	(17.9)	(10.4)	-	長石・スコリア含む	明褐色~黒褐色		334
第289図の19	土師器 甕	(18.5)	9.5	-	雲母・長石・スコリア含む	明褐色		266、336
第289図の20	須恵器 甕	-	(10.2)	(16.6)	雲母・長石・砂粒含む	灰褐色		337
第289図の21	鉄鏃	鏃身幅 4.9	鏃身長 5.2	-	-	-		353
第290図の22	須恵器 杯	(11.5)	3.8	6.6	雲母・石英・スコリア含む	明黄褐色	墨書(底内)「富」	404
第290図の23	土師器 杯	14.2	4.6	7.0	雲母・石英・スコリア含む	明褐色	墨書(底内)「高」 墨書(体外)「高」	2、294
第290図の24	須恵器 杯	13.6	4.5	6.8	長石・砂粒・スコリア含む	暗灰色		407
第290図の25	須恵器 杯	(12.9)	4.3	7.7	スコリア含む	灰色		281

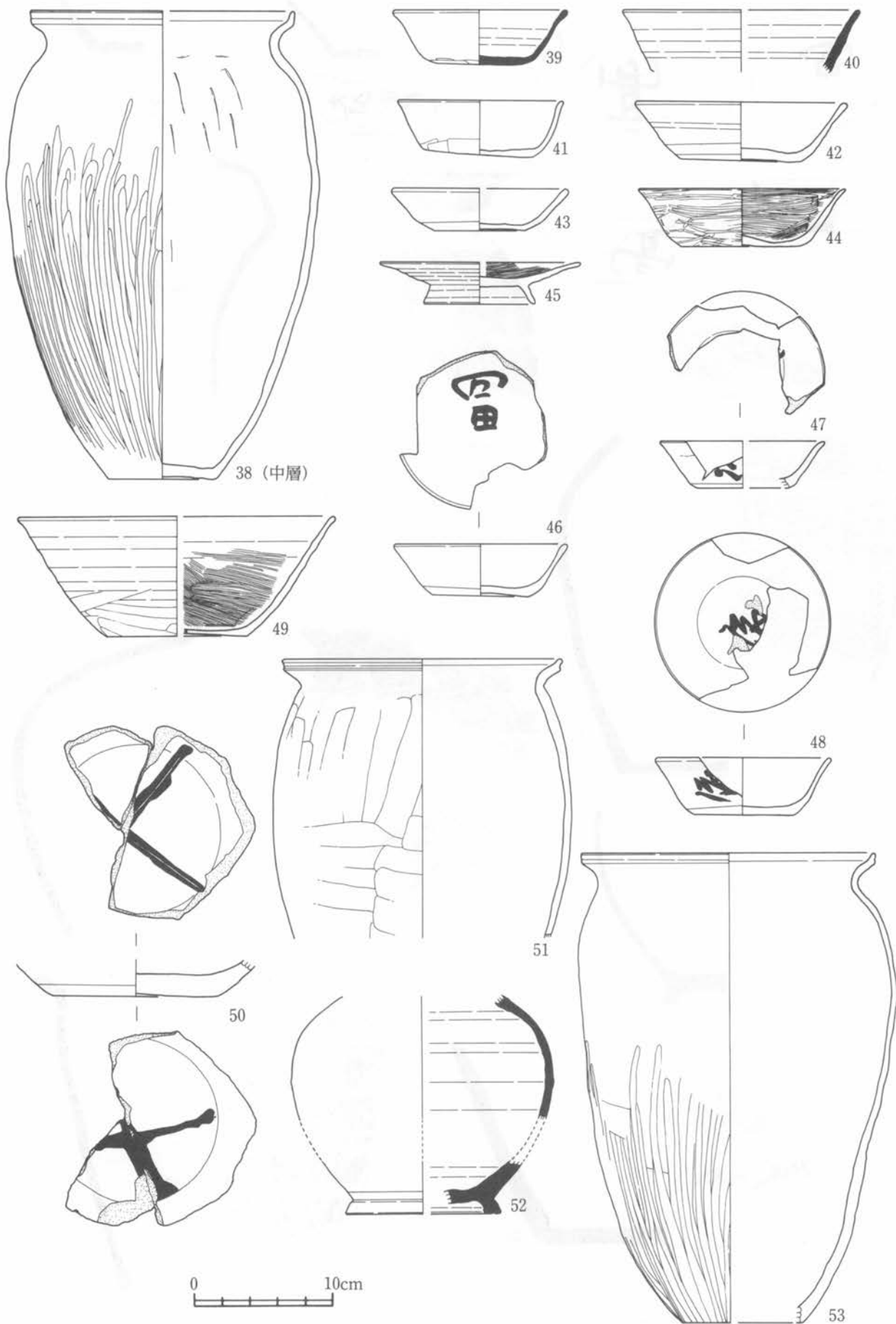


第289圖 II040(1)下層出土遺物





第290图 II040(2)中層出土遺物



第291図 II040(3)中層・上層出土遺物

第290図の26	土師器	杯	(12.6)	4.4	6.9	長石・石英・雲母含む	褐色	墨書(体外) 「大國玉罪」	393
第290図の27	土師器	杯	12.6	3.8	7.0	雲母・長石・スコリア含む	明褐色	墨書(体外)「田」	403
第290図の28	土師器	鉢	—	(5.7)	10.7	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		384
第290図の29	須恵器	甕	(22.2)	(17.3)	—	雲母多量に含む	暗灰色～灰褐色		278、293
第290図の30	土師器	甕	—	(5.9)	—	長石多量に含む	灰褐色～暗灰色		386
第290図の31	土師器	小型甕	(12.4)	6.2	6	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		299
第290図の32	土師器	小型甕	—	7.7	5.8	長石・スコリア含む	暗褐色		387
第290図の33	須恵器	甕	—	(24.7)	16.0	雲母・長石・砂粒含む	暗灰色		375、378、389、390、391、392、402
第290図の34	須恵器	壺	—	(14.0)	9.0	長石・砂粒含む	灰色		61、92、291
第290図の35	須恵器	甕	—	(23.7)	—	雲母・長石・スコリア含む	灰色～灰褐色		2、75、206、221、259、314、328、330、409
第290図の36	須恵器	甕	—	(15.8)	(19.3)	長石・砂粒含む	灰色		298、385
第290図の37	須恵器	甕	(27.6)	22.7	(14.8)	雲母含む	暗褐色		225、374、380、406
第291図の38	土師器	甕	(18.9)	33.9	(7.8)	雲母多く含む	褐色	常総型	2、151、332、383、388、395、396、398、399
第291図の39	須恵器	杯	12.6	4.0	6.2	石英・長石・砂粒含む	黒褐色		31、33、35、64 II041-6
第291図の40	須恵器	高台付杯	(17.0)	(4.6)	—	雲母多く含む	灰色～灰褐色		103、235
第291図の41	土師器	杯	12.0	3.9	8.1	石英・長石・スコリア含む	褐色		2、30、223
第291図の42	土師器	杯	15.1	4.3	8.7	雲母多量に含む	明褐色		55、76、79、89、96 II041-6
第291図の43	土師器	杯	(12.6)	3.1	6.6	雲母・砂粒・スコリア含む	暗褐色		2、6、115、117、139
第291図の44	土師器	杯	14.8	4.2	8.7	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		15、16、II041-6
第291図の45	土師器	高台付皿	(14.5)	3.0	8.2	雲母・長石・スコリア含む	暗赤褐色		2、6、217
第291図の46	土師器	杯	(12.3)	3.2	7.0	雲母・長石・スコリア含む	灰褐色	墨書(底内)「富」	2、189、245
第291図の47	土師器	杯	(11.9)	3.4	(6.7)	雲母・長石・砂粒含む	赤褐色	墨書(底内)「田」 墨書(底外)「田」	63、159
第291図の48	土師器	杯	12.5	4.1	7.2	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色	墨書(底内)「依」 墨書(体外)「依」	2、154、158、160、367、369、 IIH002-24
第291図の49	土師器	鉢	(22.6)	7.5	(10.1)	雲母・長石・スコリア含む	褐色		2、6、185、187、229
第291図の50	土師器	杯	—	(1.3)	6.0	—	—	墨書(底内・外)「+」 線刻(底内・外)「+」 「+」	2、181
第291図の51	土師器	甕	20.1	(19.9)	—	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		2、6、38、69、74、82、116、 119、133、136、143、170、 177、180
第291図の52	須恵器	短頸壺	—	(11.1)	(15.6)	長石・砂粒含む	灰色	猿投産	2、24、34、50、186、239、 300、426
第291図の53	土師器	甕	21.1	33.6	(8.7)	長石多く含む	赤褐色	常総型	2、14、18、19、20、22、24、 25、42、44、49、55、57、 58、59、60、62、66、67、 76、77、78、80、87、91、 95、100、104、107、123、 124、125、144、145、171、 172、184、230、231、236、 243、244、254、263、II041- 6

#### (4) 土坑

##### I 201・202・203・204 (第292図、図版23)

11V-61グリッドに位置する。西南西から東北東方向に連なる遺構で、西から204、201、202、203の順に並ぶ。201と202はI 046A・046Bと重複する。202と204は円形プラン、203は隅丸方形プラン、201は不整形プランである。一見すると、掘立柱建物の柱穴列のように見えるが、他に対応する柱穴はない。出土遺物から、奈良・平安時代の土坑とした。

##### I 205 (第292図、図版32)

11W-11グリッドに位置する。直径1.8m、深さ0.8mの円筒形の土坑である。底面は平坦で硬く締まっている。出土遺物から、奈良・平安時代の土坑とした。

表237 I 202・203・205

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第292図の1	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	一括
第292図の2	土師器 甕	-	-	-	-	-	線刻(体外)「□」	一括
第292図の3	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	7
第292図の4	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「大加」	7
第292図の5	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	7
第292図の6	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「大加」	7
第292図の7	土師器 甕	-	-	-	-	-	ヘラ書き(体外)「□」	7
第292図の8	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	7
第292図の9	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「大」	7
第292図の10	土師器 杯	-	-	6.6	雲母・長石含む	褐色	線刻(底内)「久弥良」	4
第292図の11	土師器 杯	(11.6)	3.1	7.5	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色	線刻(底内)「因」	5
第292図の12	土師器小型甕	(16.0)	-	-	長石・スコリア含む	暗褐色～明褐色		2
第292図の13	土師器小型甕	(12.1)	-	-	長石・スコリア含む	赤褐色～暗褐色		3、7

## I 210 (第292図、図版32)

10Y-40グリッドに位置する。直径1.1m、深さ0.2mの浅い土坑で、覆土中に多量の山砂を含んでいる。焼土は含まない。

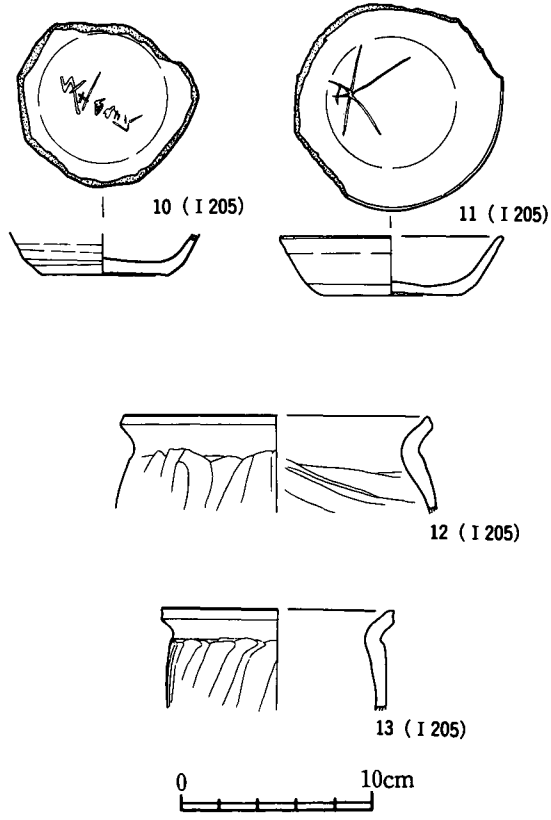
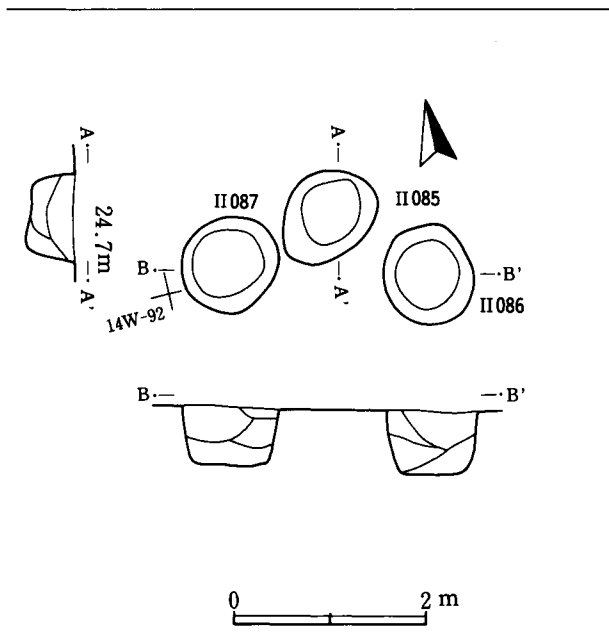
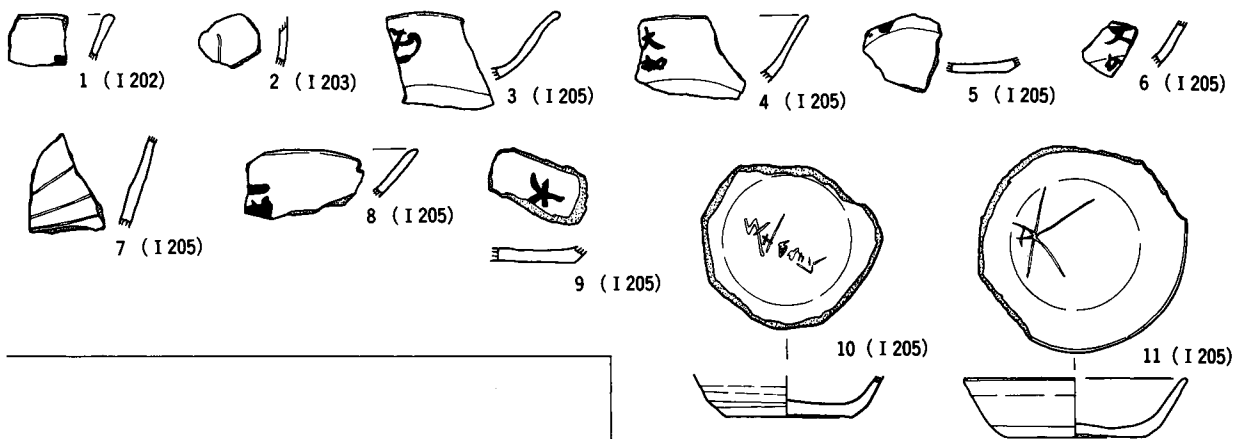
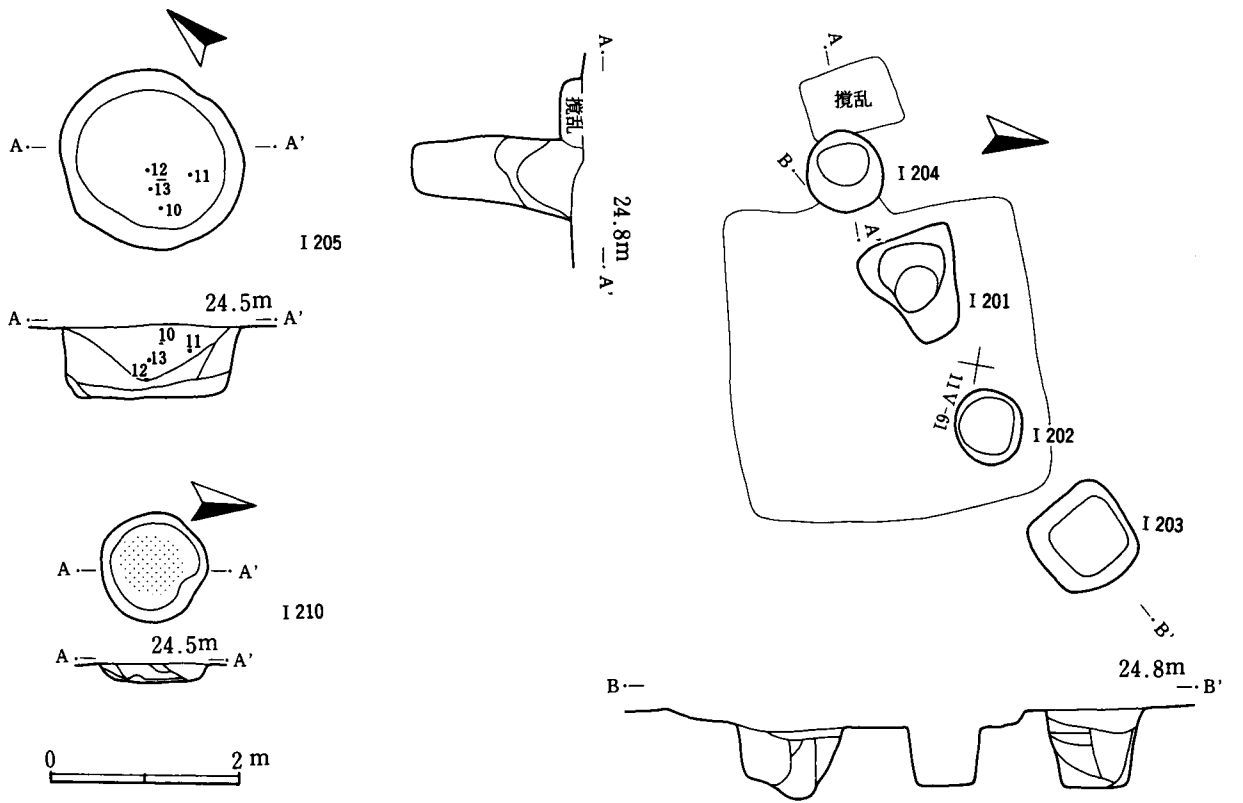
## II 085・086・087 (第292図、図版107)

14W-82グリッドに位置する。いずれも、円形の掘り方の土坑で、大きさは085が直径1.0m、深さ0.5m、086が直径1.0m、深さ0.6m、087も086と同規模である。埋土には柱痕は確認できない。

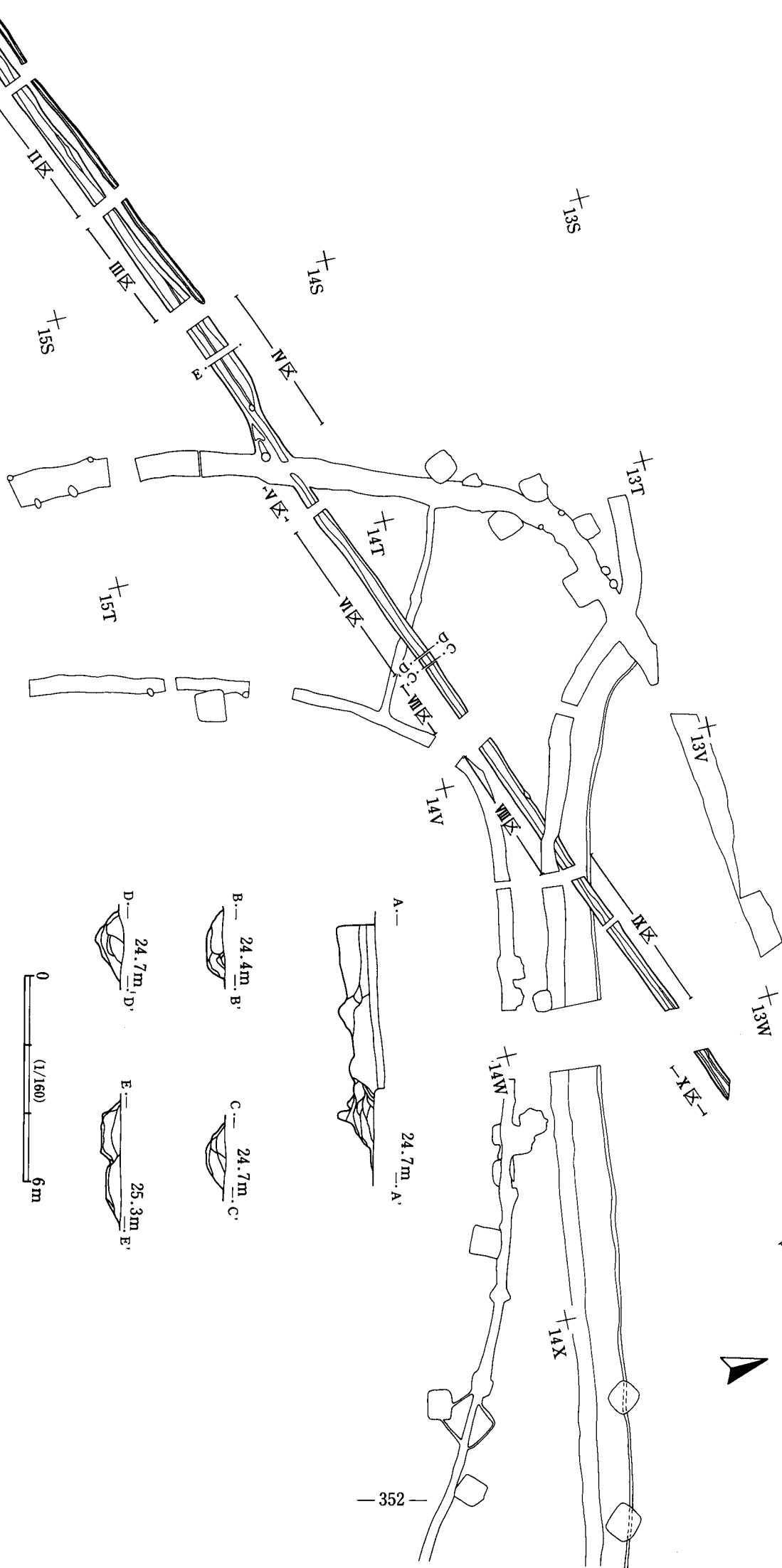
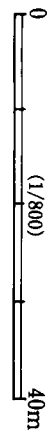
## (5) 道路

## II M004 (第298～306図、図版162・163・164・165・168・176)

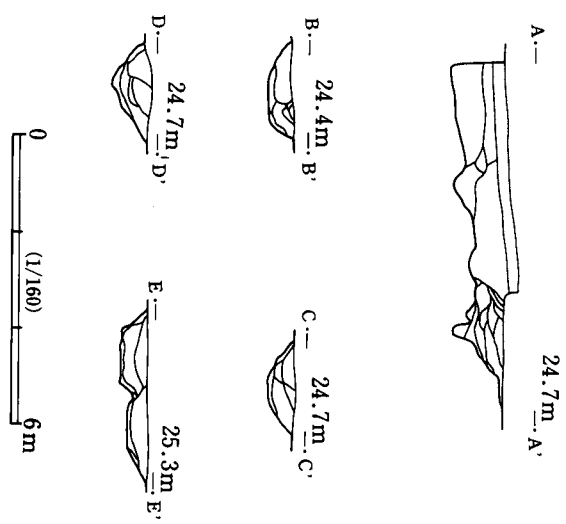
東北東から西南西の方向へ一直線に延びる遺構で、東側ではそのまま斜面下に降りて行く。断面は逆台形で、比較的平坦な底面には、硬化した面も確認できる。したがって、この遺構は道路として機能していたものと考えられる。道路幅は上端で2.0m～2.4m、下端で0.9m～1.1m、深さは0.5m～0.7mを測る。この埋土中からは多量の遺物が出土しているが、出土レベルは底面からかなり高い位置である。おそらく、道路としての機能を失った後、多量の遺物を廃棄したものであろう。竪穴住居に近い地点で遺物出土量が多い傾向が見てとれる。出土遺物中に東海産の須恵器や、新治産の須恵器が目立ち、年代的にはほぼ8世紀半ばから9世紀はじめころのもので占められる。埋土はII M002に切られる。なお、この遺構はさらに西進し、白井谷奥遺跡でも検出されている。遺物には多量の須恵器杯、土師器杯、土師器甕、須恵器甕をはじめ長頸瓶や大型の須恵器、手捏ね土器などが、破片ではあるが、比較的良好的な形に復元できるものが多い。韃の羽口片や椀形滓などの鍛冶・製鉄関係の遺物も見られる。

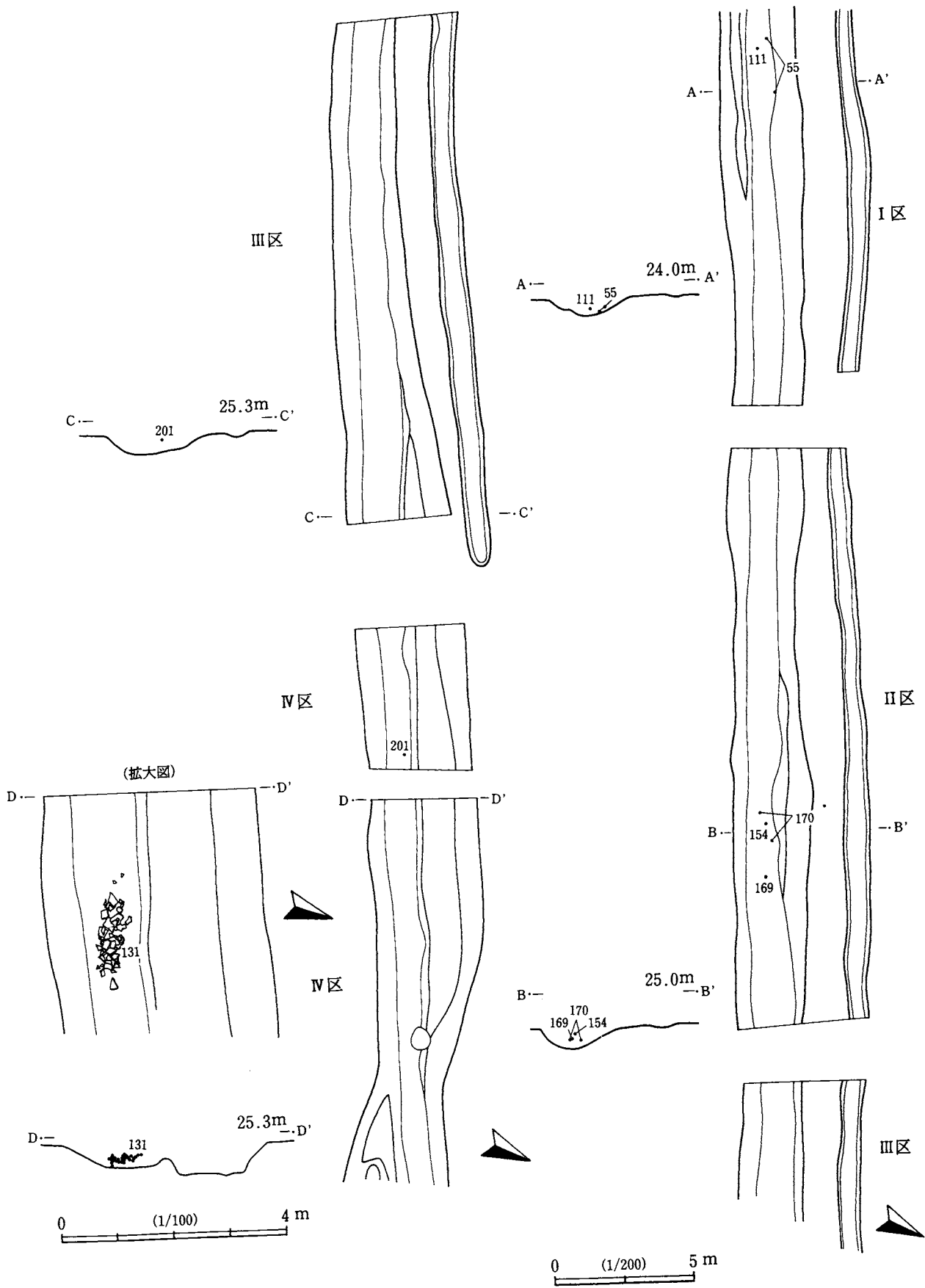


第292図 I 201・202・203・204・205・210, II085・086・087



第293图 IIM004(1)

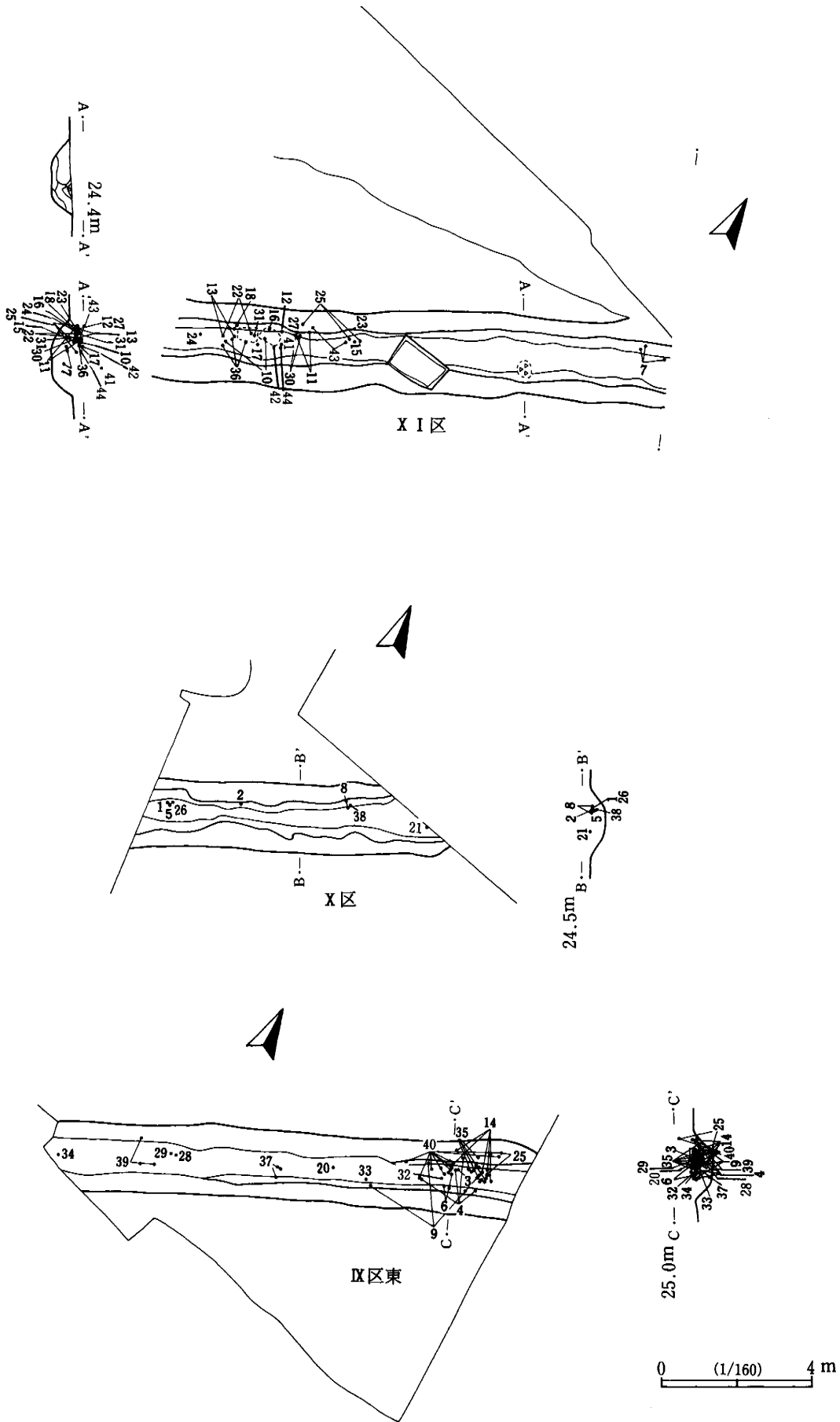




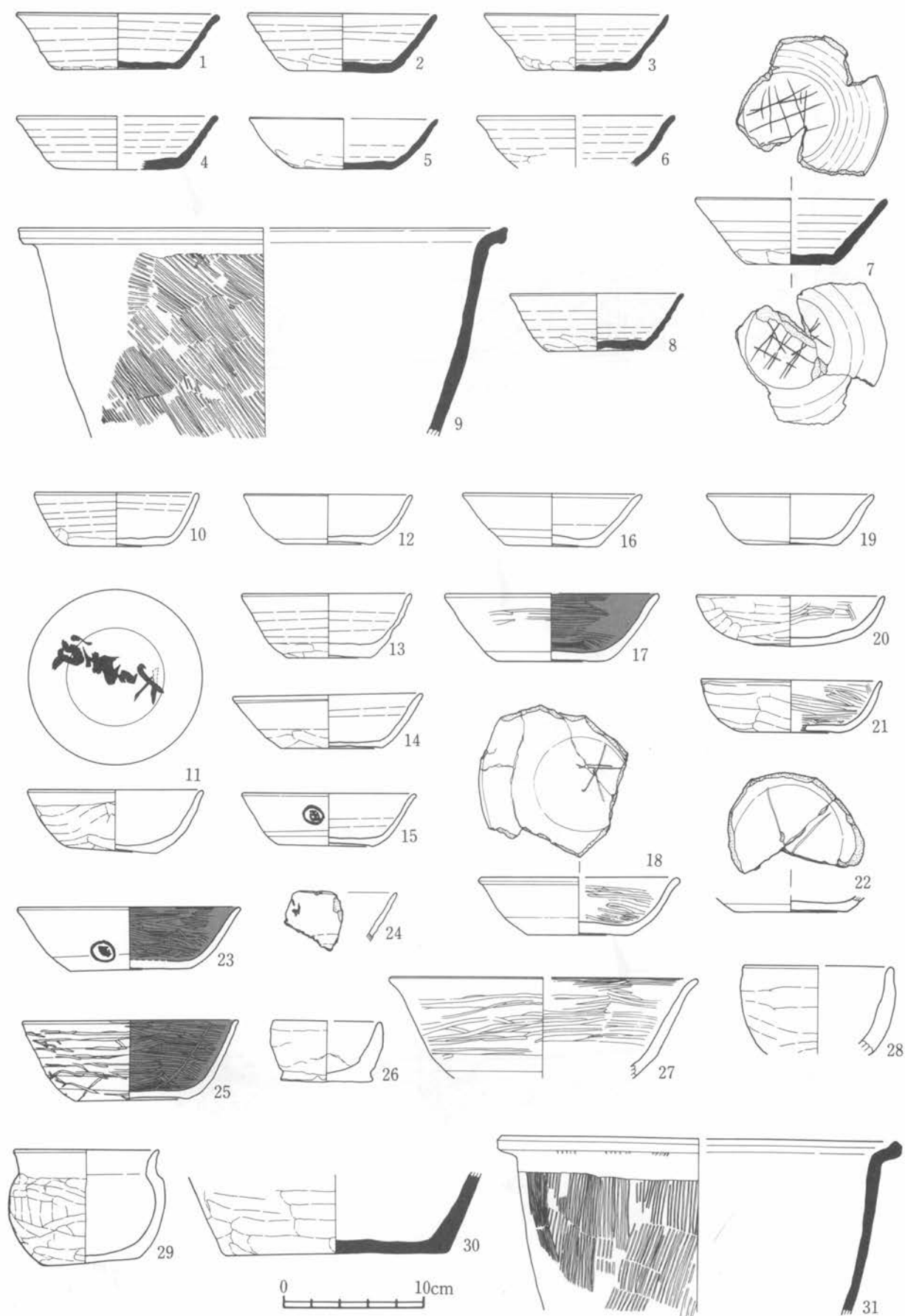
第294図 IIM004(2)



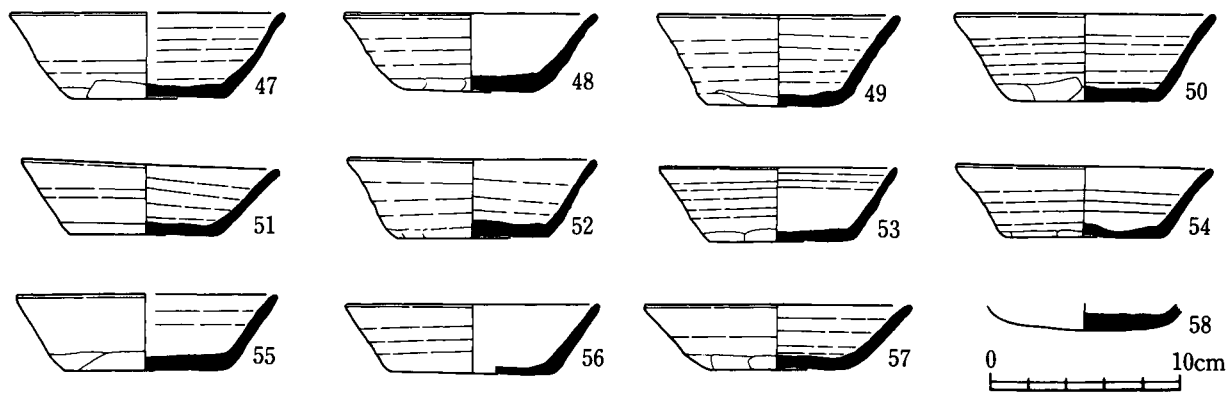
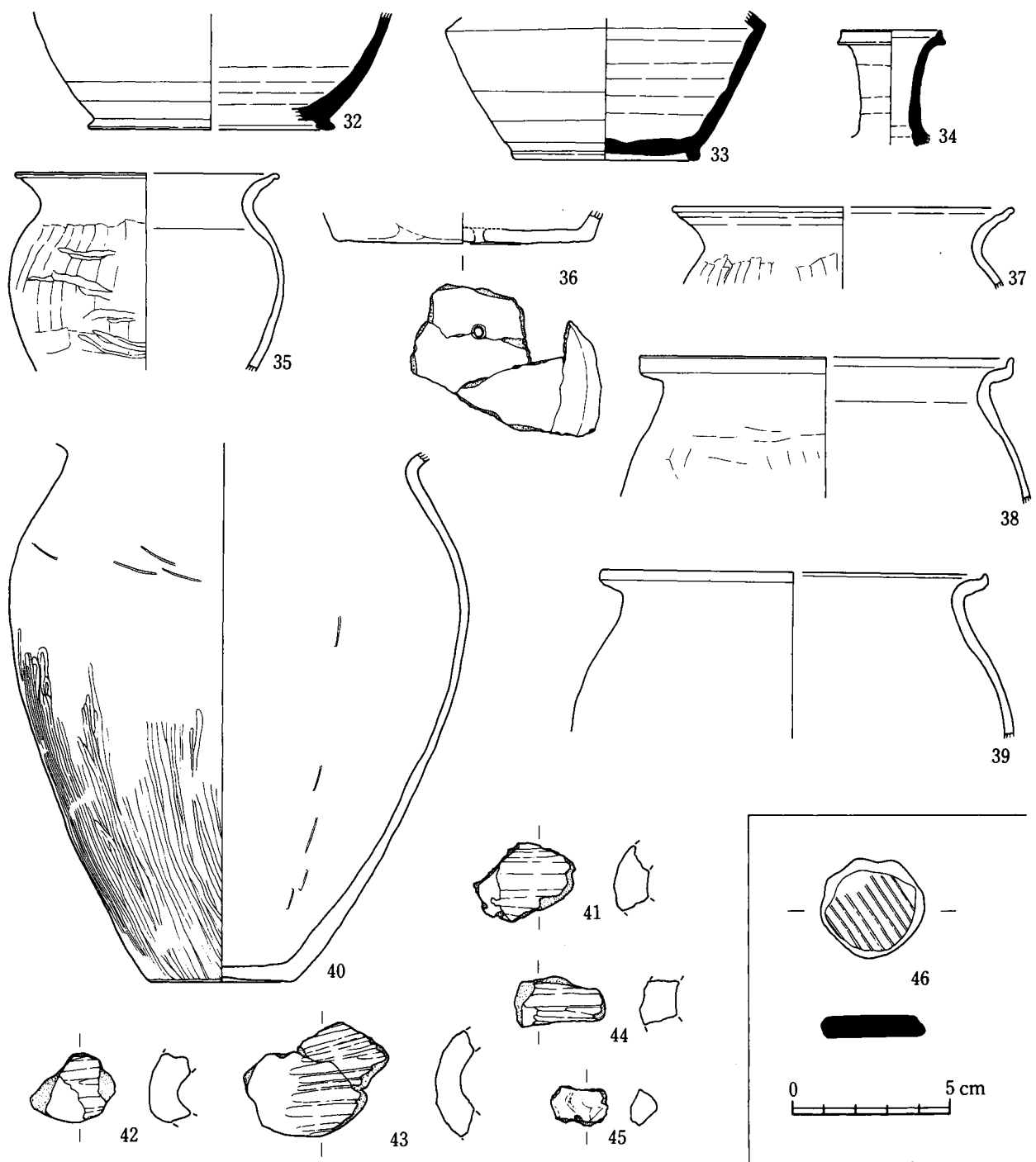




第296図 IIM004(4)










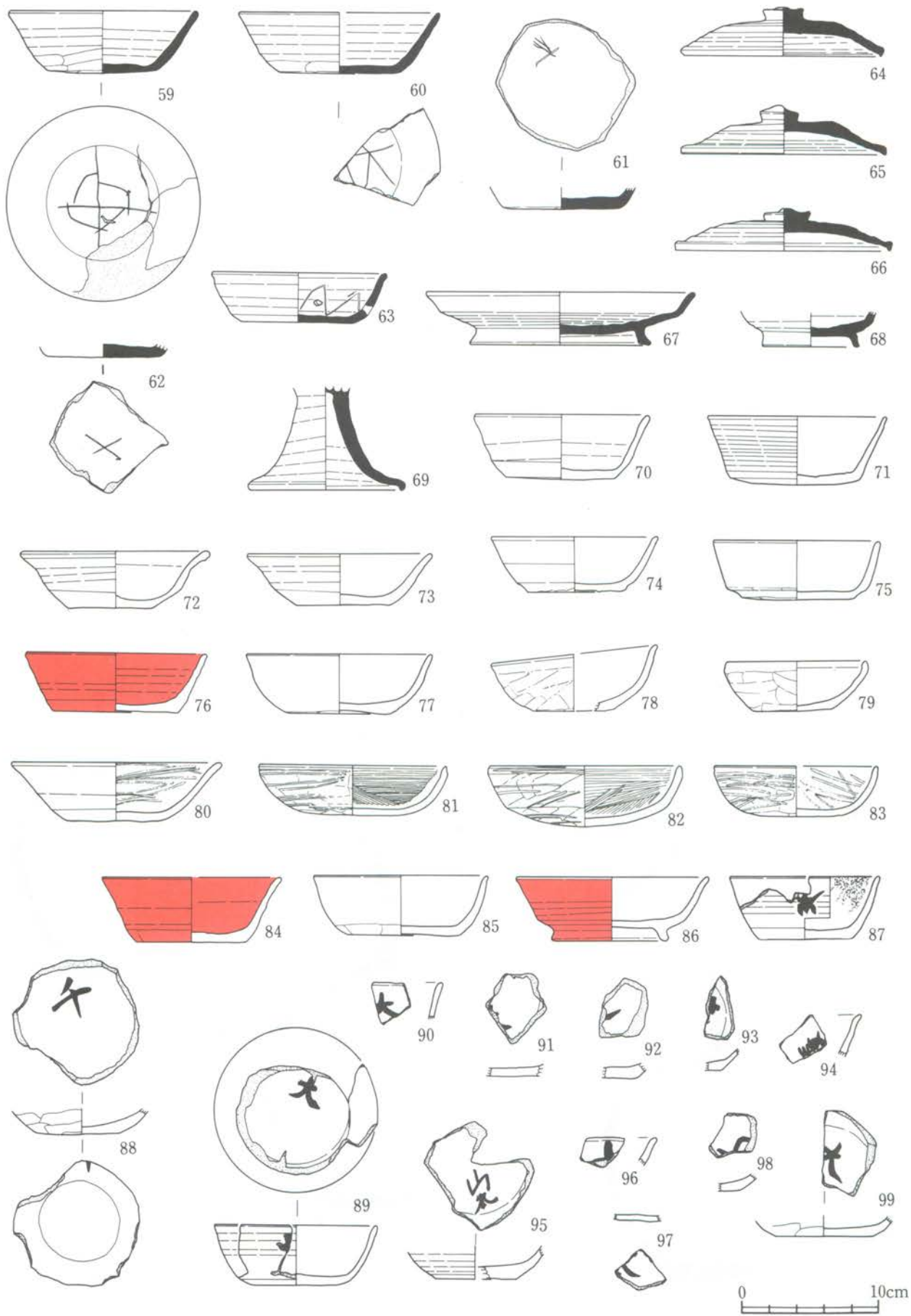
第297图 IIM004(5)



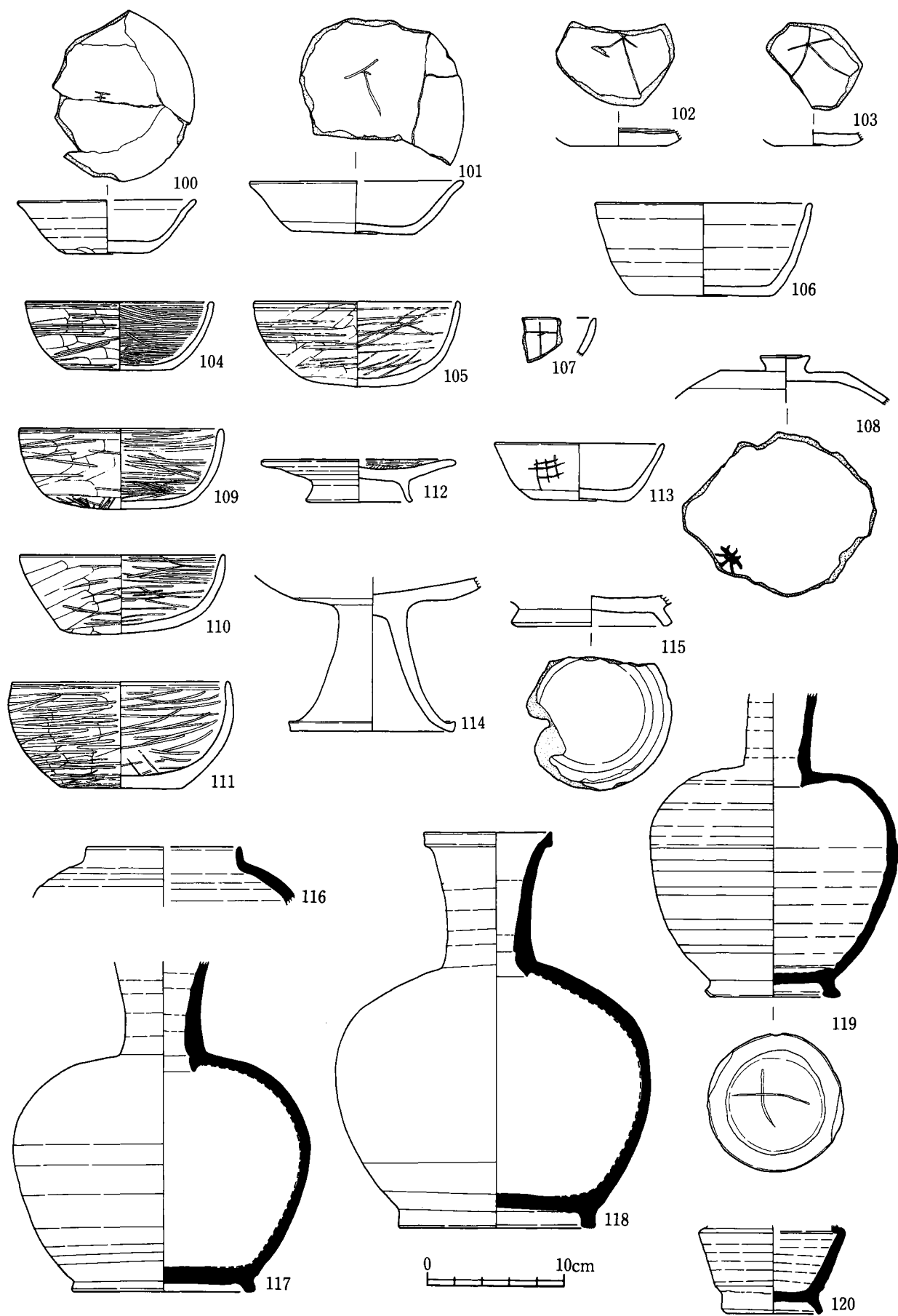
第298图 IIM004(6)

表238 IIM004

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第297図の1	須恵器 杯	14.1	4.1	8.8	石英・長石・雲母含む	青灰色	新治産	335
第297図の2	須恵器 杯	13.5	4.2	7.4	石英・長石多量に含む	灰色	新治産	329
第297図の3	須恵器 杯	13.2	4.1	8.4	石英・長石多量に含む	青灰色	新治産	16
第297図の4	須恵器 杯	14.2	4.3	6.8	雲母・石英・長石多量に含む	灰色	新治産	74、76、81、91
第297図の5	須恵器 杯	(13.5)	3.5	6.9	石英・長石含む	灰白色	新治産	339
第297図の6	須恵器 杯	14.1	—	—	雲母・石英・長石含む	黒褐色	新治産	18、28、29
第297図の7	須恵器 杯	13.6	4.7	6.3	雲母・石英・長石含む	灰白色	新治産 線刻(底内)  線刻(底外) 	300、307、308
第297図の8	須恵器 杯	12.4	4.1	6.8	石英・長石含む	灰色	新治産	321、322、344
第297図の9	須恵器 鉢	(35.0)	—	—	雲母・石英・長石含む	灰色	新治産	10、39、46、71
第297図の10	土師器 杯	11.5	3.8	7.0	長石多量に含む	橙褐色		130、165、219
第297図の11	土師器 杯	12.3	4.5	6.4	スコリア多く含む	淡褐色	墨書(底内) 	187、195
第297図の12	土師器 杯	12.0	3.5	3.7	雲母・白色針状物含む	黄褐色		172
第297図の13	土師器 杯	12.1	4.6	5.9	雲母多量に含む	黄褐色		234、235、240
第297図の14	土師器 杯	13.5	3.9	8.4	石英・長石・スコリア含む	褐色		1、20、67、68、98、100、101、111、113
第297図の15	土師器 杯	12.4	3.7	7.8	石英・長石・スコリア含む	橙褐色	墨書(体外) 	197
第297図の16	土師器 杯	12.8	3.7	6.7	雲母多量に含む	淡橙褐色		209
第297図の17	土師器 杯	15.1	4.8	11.9	白色針状物含む	外面暗橙褐色 内面黒色	内黒	160
第297図の18	土師器 杯	14.1	4.1	7.4	雲母多く含む	橙褐色	線刻(底内) 「大」	221、248
第297図の19	土師器 杯	11.8	3.6	6.5	雲母・スコリア多量に含む	橙褐色		129、130
第297図の20	土師器 杯	13.4	3.6	—	— 砂粒含む	暗褐色		48
第297図の21	土師器 杯	12.8	3.7	7.0	砂粒多く含む	褐色		342
第297図の22	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内) 	215、235
第297図の23	土師器 杯	15.6	4.6	8.7	雲母含む	外面暗黄褐色 内面黒褐色	内黒 墨書(体外) 	130、202
第297図の24	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外) 	247
第297図の25	土師器 杯	15.2	5.9	8.0	白色針状物含む	外面黒褐色 内面黒色	内黒	101、130、191、198、200
第297図の26	手握ね	(7.5)	(4.3)	6.5	雲母多量に含む	黒褐色～淡灰褐色		334
第297図の27	土師器 碗	22.0	—	—	雲母・白色針状物含む	橙褐色		129、130、188
第297図の28	土師器 碗	(10.6)	—	—	雲母多量に含む	暗褐色		118
第297図の29	土師器 小型壺	10.2	8.1	6.8	雲母・石英・長石含む	暗褐色		61
第297図の30	須恵器 壺	—	—	15.8	雲母・石英・長石多量に含む	灰色	新治産	230、254
第297図の31	須恵器 壺	(28.4)	—	—	雲母・石英・長石含む	灰白色	新治産	214
第298図の32	須恵器 壺	—	—	(15.4)	石英・長石含む	暗黄褐色～暗褐色		25
第298図の33	須恵器 長頸瓶	—	—	11.6	—	—		47
第298図の34	須恵器 長頸瓶	6.3	—	—	— 砂粒含む	灰色		128
第298図の35	土師器 壺	(16.4)	—	—	雲母・白色針状物多量に含む	橙褐色～暗褐色		7、11、13、14、69、70、73、96、97、99、107
第298図の36	土師器 壺	—	—	(16.6)	雲母・石英・長石多量に含む	淡灰褐色	底部孔 1	144、218、223
第298図の37	土師器 壺	(21.4)	—	—	雲母・石英・長石含む	褐色～黒褐色		51、52、119
第298図の38	土師器 壺	(23.6)	—	—	雲母・石英・長石多量に含む	橙褐色	常総型	340
第298図の39	土師器 壺	(24.4)	—	—	雲母・石英・長石多量に含む	暗褐色	常総型	62、64、86
第298図の40	土師器 壺	—	—	9.0	石英・長石多量に含む	暗黄褐色	常総型	1、2、21、22、23、24、36、37、66、78、79、80、82、89、90、103
第298図の41	羽口	残存長 6.5	—	—	長石・砂粒含む	赤褐色～灰褐色		253
第298図の42	羽口	残存長 5.3	—	—	長石・砂粒含む	赤褐色～灰褐色		252
第298図の43	羽口	残存長 9.1	—	—	長石・砂粒含む	赤褐色	外面ヘラナデ	194、255
第298図の44	羽口	残存長 5.9	—	—	長石・砂粒含む	赤褐色		156
第298図の45	羽口	残存長 3.6	—	—	長石・砂粒含む	暗青灰色		130
第298図の46	土製円盤	長径3.4	短径3.1	厚さ0.7	雲母・長石含む	灰色	須恵器壺転用	129
第298図の47	須恵器 杯	14.3	4.5	8.1	雲母・石英・長石含む	灰白色		313
第298図の48	土師器 杯	13.1	4.1	7.2	雲母・石英・長石多く含む	褐色～黒褐色	新治産	228
第298図の49	須恵器 杯	12.4	4.6	7.2	長石含む	青灰色		330
第298図の50	須恵器 杯	13.4	4.6	7.7	雲母多く含む	暗灰色	新治産	175
第298図の51	須恵器 杯	13.4	3.6	7.7	雲母・石英・長石含む	灰色	新治産	236、318
第298図の52	須恵器 杯	12.6	4.1	7.8	雲母・石英・長石含む	灰色	新治産	195
第298図の53	須恵器 杯	12.3	3.8	7.5	石英・長石多く含む	灰色		140
第298図の54	須恵器 杯	13.3	3.7	8.2	石英・長石多く含む	灰色		207、230

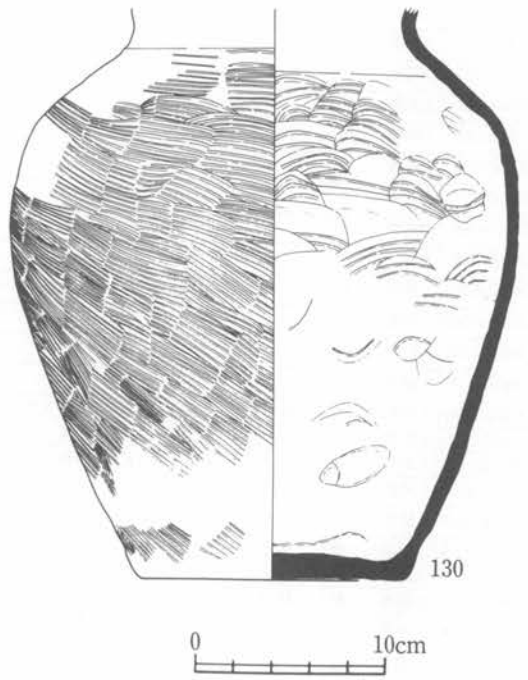
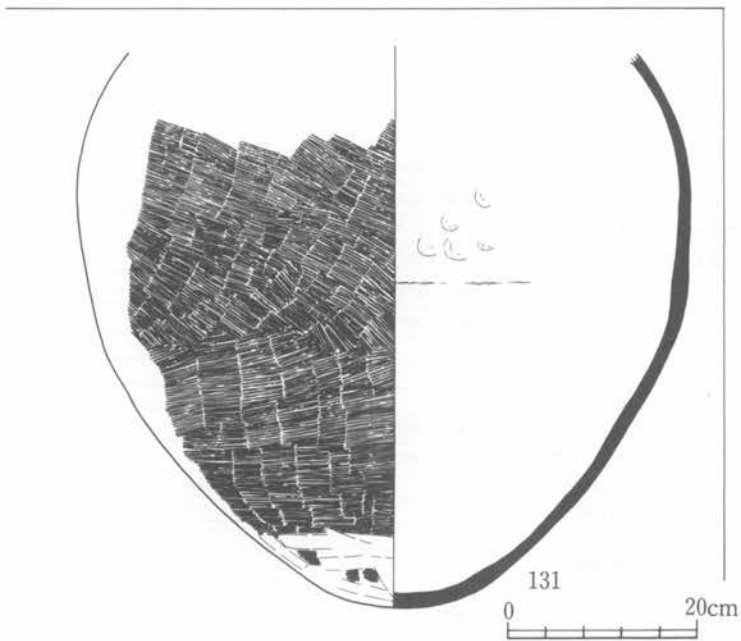
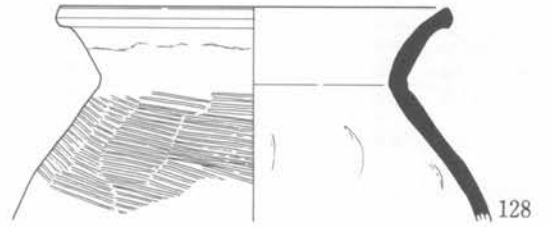
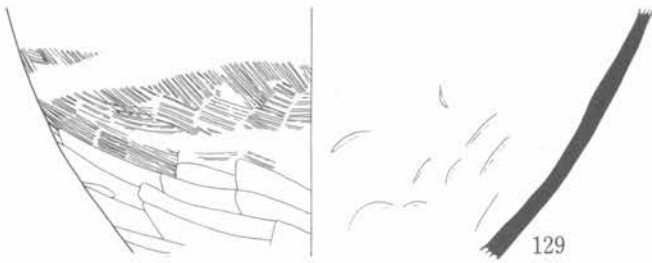
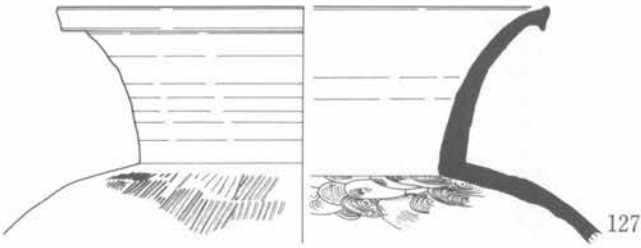
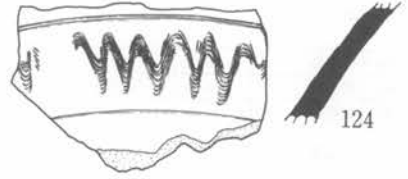
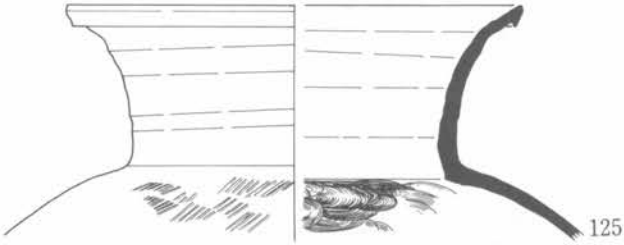
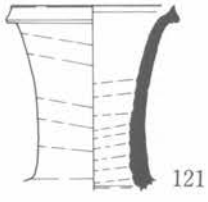


第299图 IIM004(7)



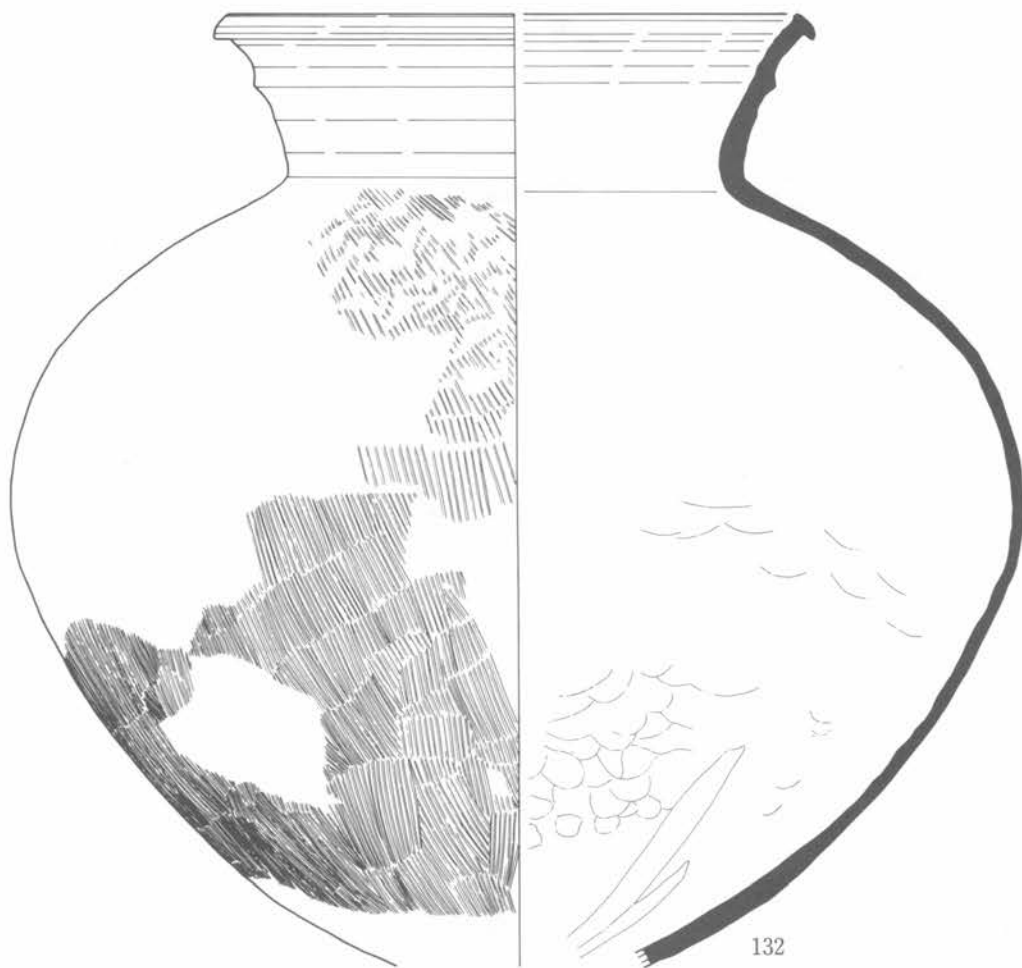
第300图 IIM004(8)

第298図の55	須恵器 杯	13.4	3.9	8.6	雲母・石英・長石含む	灰白色	新治産	8、10
第298図の56	須恵器 杯	13.0	3.6	8.4	石英・長石多く含む	灰色		230
第298図の57	須恵器 杯	13.8	3.4	7.2	雲母・石英・長石多く含む	灰色	新治産	230、233
第298図の58	須恵器 杯	—	—	—	長石・スコリア含む	灰色		293
第299図の59	須恵器 杯	13.4	4.5	7.9	長石多く含む	灰色	線刻(底外)「□」	289
第299図の60	須恵器 杯	(15.3)	4.5	8.8	雲母・石英・長石含む	灰色	線刻(底外)「大□」	338
第299図の61	須恵器 杯	—	—	8.6	スコリア含む	灰白色	線刻(底内)「大□」	316
第299図の62	須恵器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底外)「+」	269
第299図の63	須恵器 杯	12.4	3.6	8.0	スコリア・砂粒含む	灰色	線刻(体内)「□」 体部穿孔	337
第299図の64	須恵器 蓋	14.2	3.5	—	石英・長石多量に含む	暗灰色		225
第299図の65	須恵器 蓋	14.7	3.6	—	石英・スコリア多く含む	灰色		225
第299図の66	須恵器 蓋	15.4	3.0	—	雲母・石英・長石・スコリア含む	灰色	新治産	251、257、318
第299図の67	須恵器 盤	19.3	3.7	13.0	雲母・石英・長石・スコリア含む	灰色	新治産	225、229
第299図の68	須恵器 高台付杯	—	—	6.8	石英・長石含む	灰色		252
第299図の69	須恵器 高盤	—	—	10.8	石英・長石含む	灰色		296
第299図の70	土師器 杯	12.3	4.7	7.8	砂粒多く含む	明赤褐色		115、126、141、144、229
第299図の71	土師器 杯	12.6	4.9	9.4	雲母・スコリア含む	明赤褐色		228
第299図の72	土師器 杯	13.2	4.0	6.0	スコリア含む	明褐色		320
第299図の73	土師器 杯	13.0	3.6	6.8	雲母・石英・スコリア含む	橙色		136、229
第299図の74	土師器 杯	11.8	3.9	6.9	—	褐色～黒色		167、230
第299図の75	土師器 杯	11.8	4.2	8.2	砂粒多く含む	明赤褐色		318、319
第299図の76	土師器 杯	12.8	4.2	9.0	石英・長石・スコリア含む	赤褐色	内外面赤彩	151、229
第299図の77	土師器 杯	13.1	4.3	6.7	スコリア含む	赤褐色		225、226
第299図の78	土師器 杯	12.0	2.4	5.0	雲母・長石・スコリア含む	赤褐色		230、233
第299図の79	土師器 杯	10.0	3.6	5.6	スコリア多く含む	橙色		331
第299図の80	土師器 杯	14.8	4.1	7.0	雲母・スコリア含む	橙色		115
第299図の81	土師器 杯	13.2	3.5	—	—	橙色		190、230
第299図の82	土師器 杯	13.6	4.3	—	雲母・スコリア含む	橙色		306、310、319
第299図の83	土師器 杯	(11.7)	3.6	7.3	石英・長石・スコリア含む	褐色～黒褐色		257、258、318
第299図の84	土師器 杯	12.6	4.6	7.8	長石・スコリア含む	明赤褐色	内外面赤彩	320
第299図の85	土師器 杯	12.4	4.3	8.2	雲母含む	褐色		229
第299図の86	土師器 高台付杯	13.7	4.6	8.2	雲母・スコリア・長石含む	外面橙色 内面黒褐色	外面赤彩	226
第299図の87	土師器 杯	10.9	4.5	6.7	雲母・スコリア含む	橙色	墨書(体外)「山本」 内面油煙付着	164
第299図の88	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「千」 墨書(体外)「□」	229
第299図の89	土師器 杯	11.6	4.3	6.0	スコリア含む	橙色	墨書(底内)「大」 墨書(体外)「因」	318
第299図の90	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「大」	318
第299図の91	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「□」	318
第299図の92	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「□」	318
第299図の93	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「因」	337
第299図の94	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「長」	274
第299図の95	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「山本」	28、82
第299図の96	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「因」	229
第299図の97	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底外)「因」	318
第299図の98	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「□」	336
第299図の99	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「大」	318
第300図の100	土師器 杯	(12.6)	3.8	6.1	雲母・スコリア含む	褐色	線刻(底内)「国」	127、229
第300図の101	土師器 杯	(15.2)	3.8	9.0	雲母・スコリア含む	褐色	線刻(底内)「下」	115、229
第300図の102	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「因」	234
第300図の103	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「大」	229
第300図の104	土師器 碗	13.0	4.9	7.4	スコリア含む	褐色		230
第300図の105	土師器 鉢	14.4	6.1	—	石英・スコリア含む	明赤褐色		337、338
第300図の106	土師器 鉢	15.3	6.6	8.8	雲母・スコリア含む	褐色		177
第300図の107	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体内)「才」	229
第300図の108	土師器 蓋	—	—	—	—	—	墨書(体内)「山本」	170
第300図の109	土師器 碗	14.2	5.7	—	スコリア含む	明黄褐色		308、319、339
第300図の110	土師器 碗	14.6	5.6	—	雲母・スコリア含む	明黄褐色		255、318
第300図の111	土師器 鉢	15.4	7.7	8.2	—	—		7、112、124、125、229
第300図の112	土師器 高台付皿	(13.4)	3.1	7.2	雲母含む	明黄褐色		137、229
第300図の113	土師器 杯	12.0	4.1	7.1	雲母・石英・長石・スコリア含む	褐色	線刻(体外)「井」	128

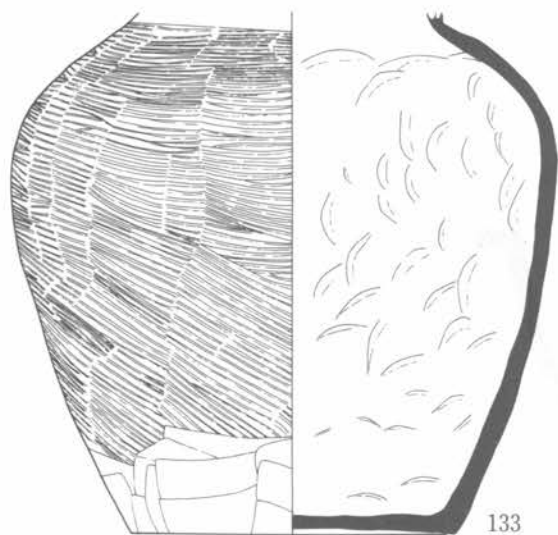


第301图 IIM004(9)

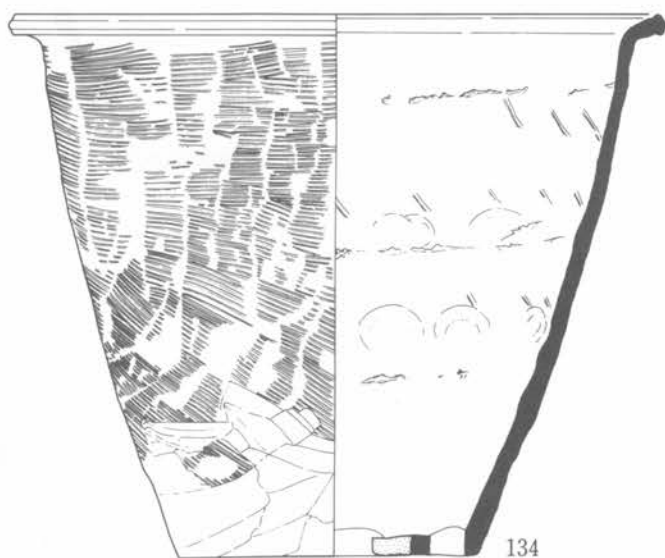




132



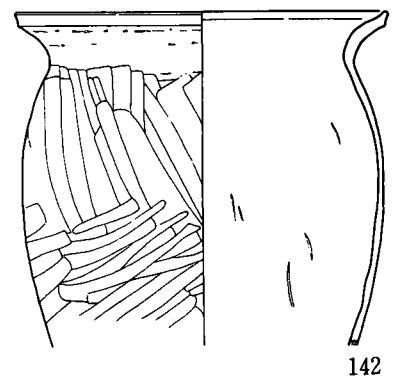
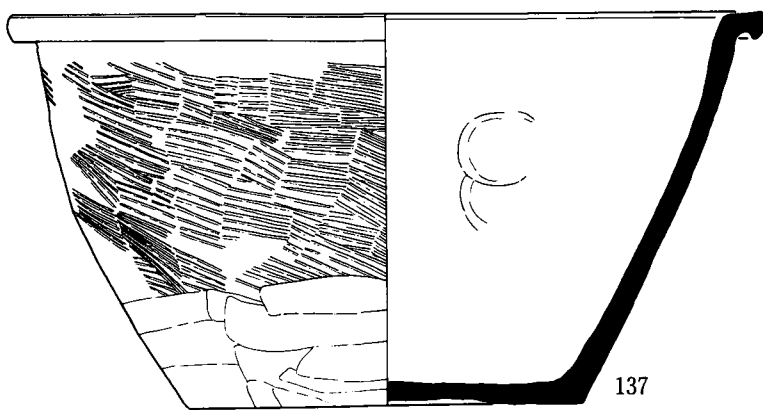
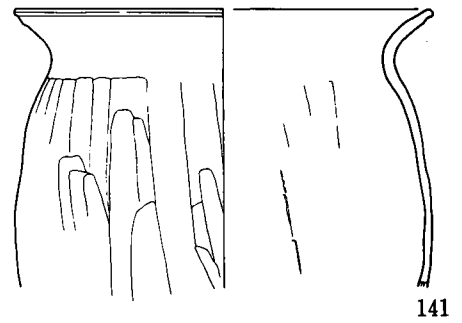
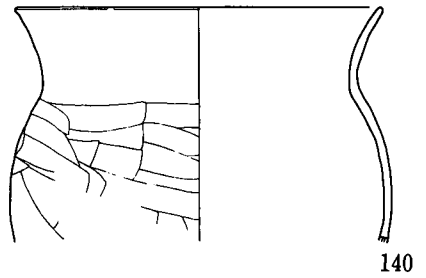
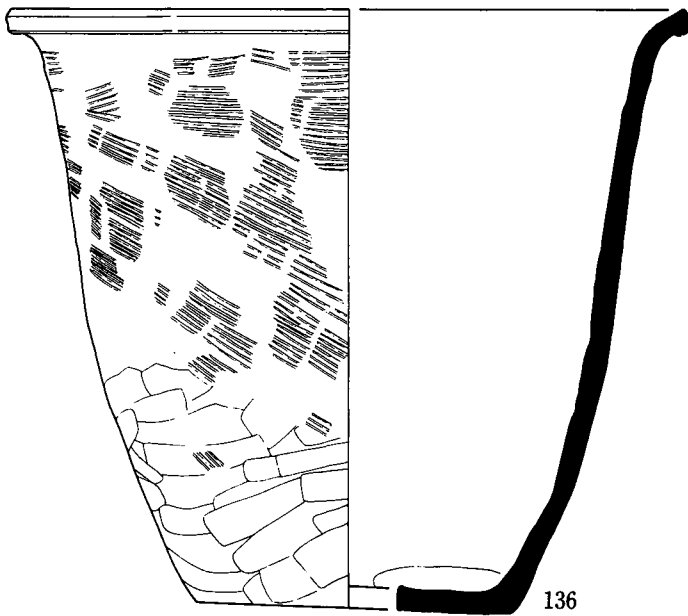
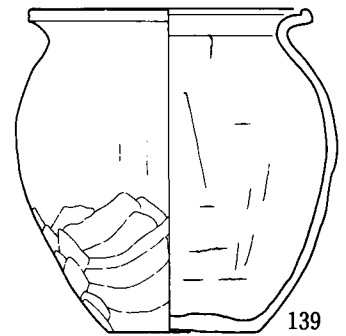
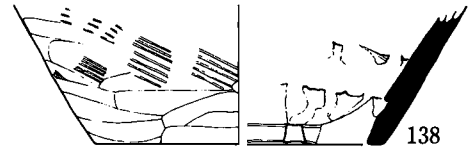
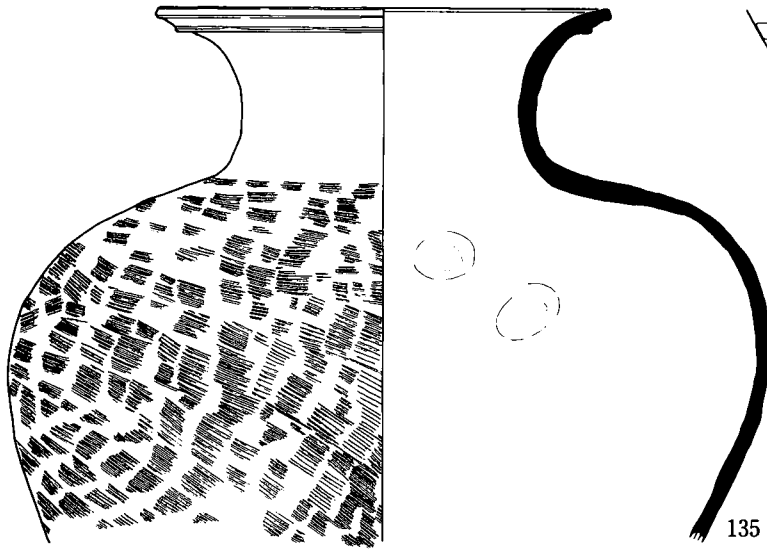
133



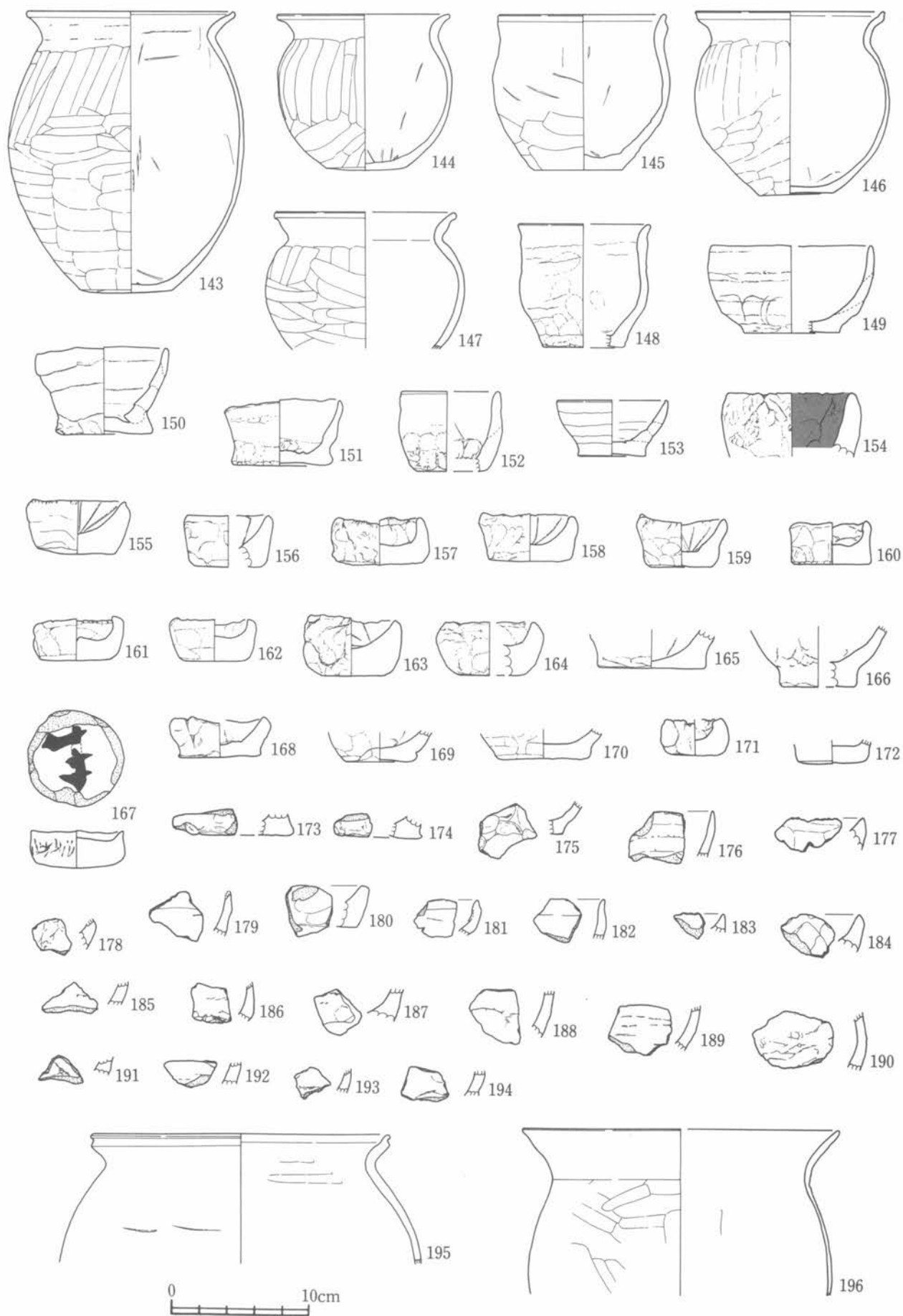
134

0 10cm

第302図 IIM004(10)

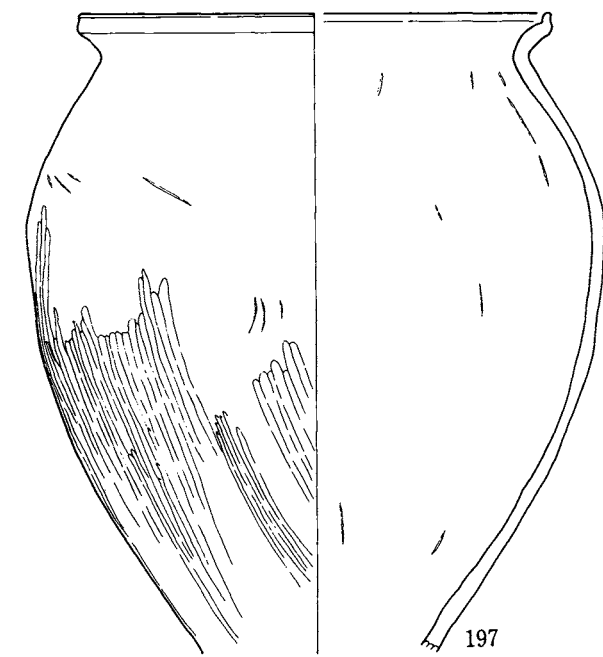


第303图 IIM004(11)

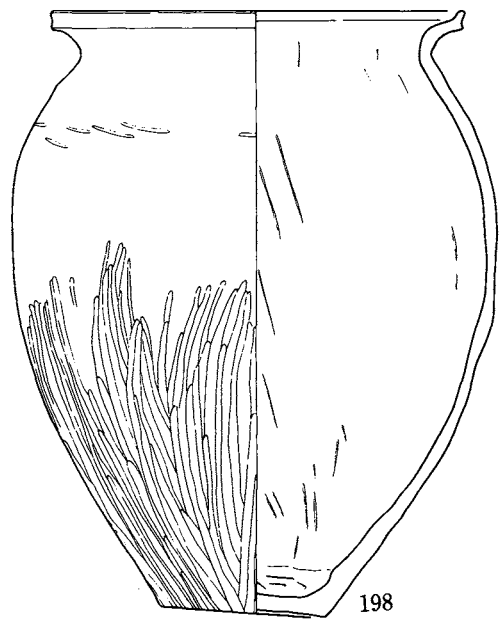


第304图 IIM004(12)

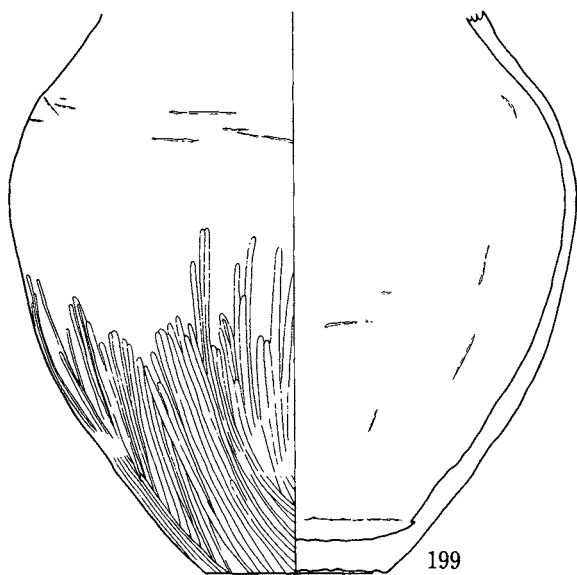
第300図の114	土師器 高盤	-	-	11.8	砂粒多く含む	明褐色		83
第300図の115	土師器 高台付杯	-	-	-	砂粒含む	橙色～明赤褐色	底外墨痕 転用硯	318
第300図の116	須恵器短頸壺	(10.9)	-	-	石英・長石含む	灰色		110
第300図の117	須恵器長頸瓶	-	-	13.1	石英・長石含む	灰色	自然釉付着 東海系	332
第300図の118	須恵器長頸瓶	9.1	28.2	14.2	石英・長石含む	灰色	自然釉付着 東海系	176、187
第300図の119	須恵器長頸瓶	-	-	9.7	石英・長石含む	灰色	自然釉付着 ヘラ書き(底外)「十」	160、183、230
第300図の120	須恵器 高台付壺	-	-	6.5	雲母・石英・長石多く含む	灰色	新治産	146
第301図の121	須恵器 壺	8.4	-	-	石英・長石含む	灰色	自然釉付着	335
第301図の122	須恵器 壺	-	-	-	石英・長石含む	灰色		318
第301図の123	須恵器 壺	-	-	-	石英・長石多く含む	灰色	簡描波状文	259
第301図の124	須恵器 壺	-	(6.3)	-	長石・白色針状物含む	灰色		214
第301図の125	須恵器 壺	(24.0)	-	-	砂粒含む	灰色	東海系	106、229
第301図の126	須恵器 壺	(22.0)	-	-	砂粒多く含む	灰色	外面自然釉付着	98
第301図の127	須恵器 壺	(25.7)	-	-	砂粒含む	灰色	東海系	132、147、149
第301図の128	須恵器 壺	(20.4)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	灰色	新治産	119、120、229
第301図の129	須恵器 壺	-	-	-	雲母・石英・長石多く含む	灰色	新治産	192、230
第301図の130	須恵器 壺	-	-	14.3	雲母・石英・長石含む	灰色	新治産	96、225、227、228、229
第301図の131	須恵器 大壺	-	-	-	石英・長石多く含む	灰色		38、39、40、41、42、43、 44、45、46、47、48、49、 50、51、53、54、57、58、 59、60、61、62、64、65
第302図の132	須恵器 大壺	(30.0)	-	-	石英・長石含む	灰色	自然釉付着	229、251、257、318
第302図の133	須恵器 壺	-	-	16.8	雲母・石英・長石多く含む	灰色	新治産	182、183、185、230
第302図の134	須恵器 甌	33.6	27.8	15.7	石英・長石多く含む	灰色	新治産 底部5孔	261、262、263、265、268、 318
第303図の135	須恵器 壺	23.7	-	-	雲母・石英・長石含む	灰色	新治産	261、269
第303図の136	須恵器 甌	(35.2)	31.0	16.5	雲母・石英・長石多く含む	灰色	底部5孔 新治産	173、192、207、230
第303図の137	須恵器 鉢	39.4	20.2	20.7	雲母・石英・長石含む	青灰色	新治産	192、197、198、230、233
第303図の138	須恵器 甌	-	-	(15.0)	雲母・石英・長石多く含む	灰色	新治産	274、319
第303図の139	土師器小型壺	14.3	16.7	7.9	雲母・石英・長石・砂粒含む	暗褐色	底外木葉痕	118
第303図の140	土師器 壺	19.1	-	-	石英・長石・砂粒多く含む	明赤褐色		302、310
第303図の141	土師器 壺	(21.8)	-	-	石英・長石・砂粒含む	明赤褐色	武蔵型	228、286、287、288、319
第303図の142	土師器 壺	19.4	-	-	石英・長石・砂粒含む	明赤褐色		243、258、318
第304図の143	土師器小型壺	15.0	20.5	6.7	雲母・石英・長石含む	明褐色		191
第304図の144	土師器小型壺	12.3	11.5	5.9	石英・長石・砂粒含む	明褐色		186、188、190、230
第304図の145	土師器小型壺	11.7	11.4	6.4	雲母・石英・長石多く含む	淡黄褐色		193、194、195、230
第304図の146	土師器小型壺	13.5	13.6	5.6	雲母・石英・長石含む	暗褐色		337
第304図の147	土師器小型壺	(12.8)	-	-	石英・長石・砂粒含む	明褐色		172
第304図の148	土師器 壺	(9.6)	8.9	6.0	砂粒含む	明赤褐色	ミニチュア 底外木葉痕	202、217
第304図の149	手捏ね	(11.4)	6.2	(7.0)	スコリア含む	橙色	底外木葉痕	230
第304図の150	手捏ね	9.3	6.3	7.0	雲母・長石・スコリア含む	橙色	底外木葉痕	94
第304図の151	手捏ね	8.2	4.8	7.1	石英・長石・スコリア含む	橙色	底外木葉痕	93
第304図の152	土師器 壺	7.4	6.0	4.9	スコリア含む	黒褐色	ミニチュア	229
第304図の153	土師器 鉢	7.9	4.0	7.0	石英含む	橙色～明赤褐色	ミニチュア 底外木葉痕	107
第304図の154	手捏ね	-	-	-	-	-		21
第304図の155	手捏ね	6.7	3.9	5.8	砂粒含む	暗褐色～橙色	内面ヘラ調整	253、318
第304図の156	手捏ね	(5.9)	3.7	(4.8)	スコリア含む	橙色		318
第304図の157	手捏ね	6.0	3.4	6.2	雲母含む	橙色		250
第304図の158	手捏ね	6.4	3.4	6.0	砂粒含む	橙色		242
第304図の159	手捏ね	6.0	3.2	4.8	雲母含む	橙色		241
第304図の160	手捏ね	5.4	3.0	5.6	砂粒含む	黄褐色		337
第304図の161	手捏ね	5.7	3.0	5.0	砂粒含む	褐色		244
第304図の162	手捏ね	5.2	3.0	4.6	スコリア含む	明赤褐色		246
第304図の163	手捏ね	6.1	4.1	4.5	雲母含む	橙色		245
第304図の164	手捏ね	(6.4)	3.8	(5.1)	スコリア含む	橙色		318
第304図の165	手捏ね	-	-	-	-	-		28
第304図の166	手捏ね	-	-	-	-	-		318
第304図の167	手捏ね	6.8	2.7	-	雲母含む	橙褐色	墨書(底内)「□」	334
第304図の168	手捏ね	6.4	2.9	6.0	砂粒含む	橙色	内面ヘラ調整	245
第304図の169	手捏ね	-	-	-	-	-		26
第304図の170	手捏ね	-	-	6.4	砂粒含む	明赤褐色	底外木葉痕	20、23
第304図の171	手捏ね	3.8	2.6	3.6	砂粒含む	灰黄色		28
第304図の172	手捏ね	-	-	(5.0)	-	-		230
第304図の173	手捏ね	-	-	-	-	-		229
第304図の174	手捏ね	-	-	-	-	-		229
第304図の175	手捏ね	-	-	-	-	-		82



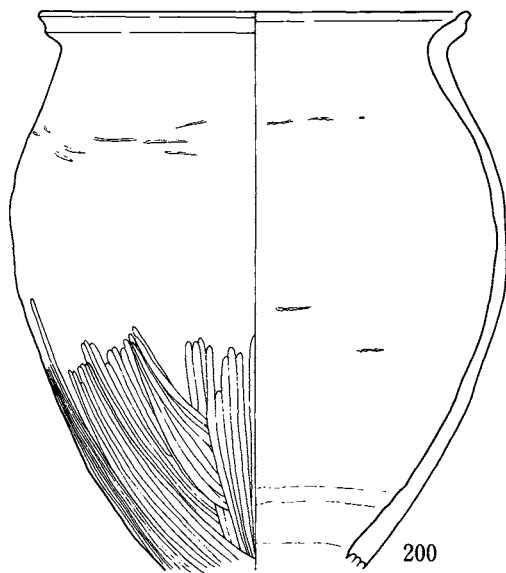
197



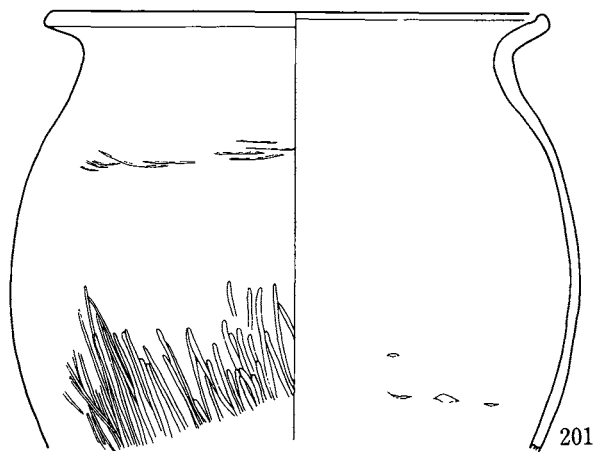
198



199

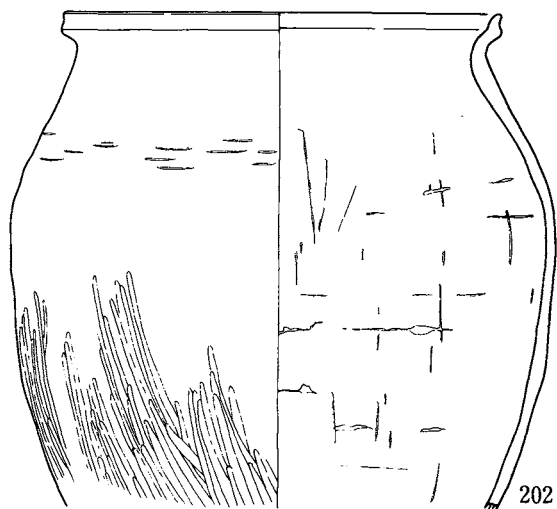


200



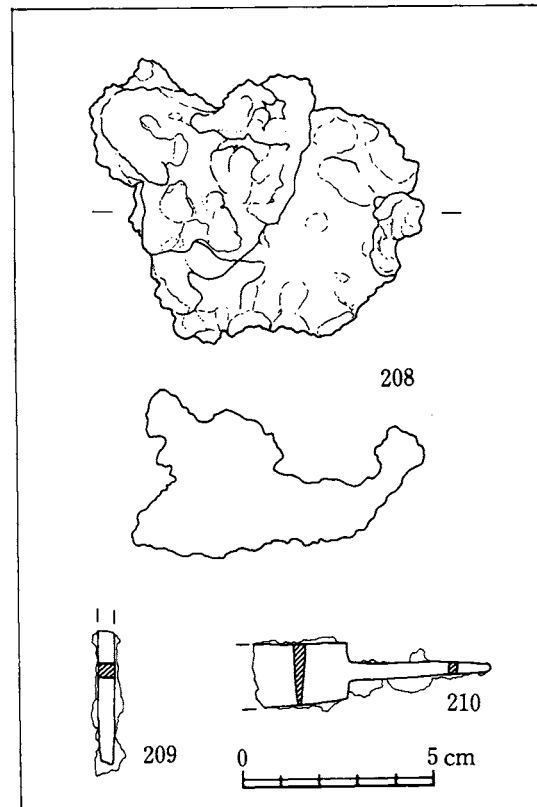
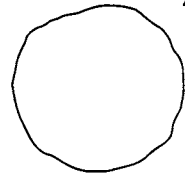
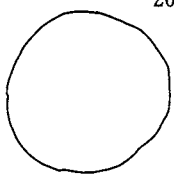
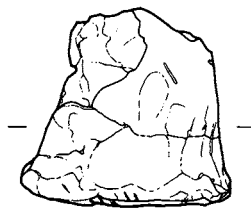
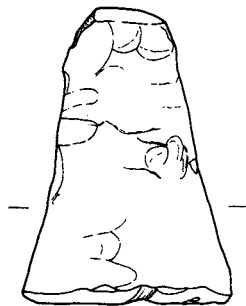
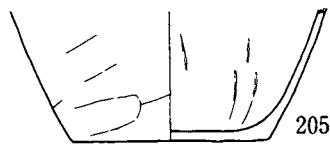
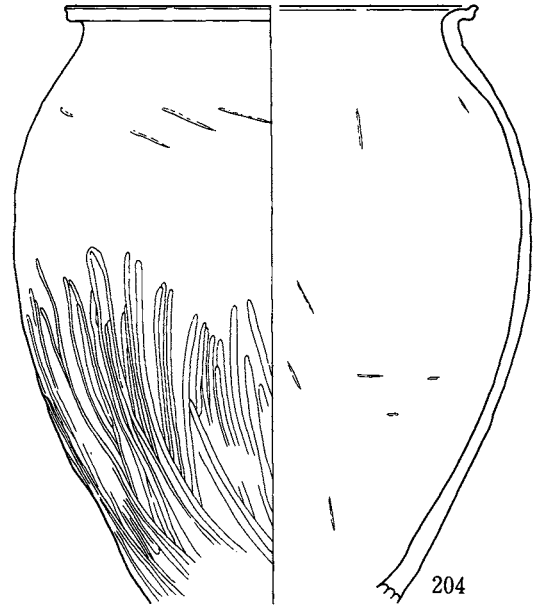
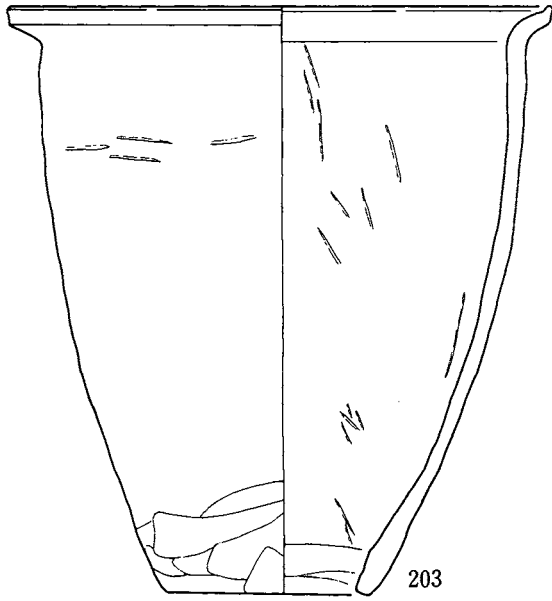
201

0 10cm



202

第305図 IIM004(13)



第306图 IIM004(14)

第304図の176	手捏ね	-	-	-	-	-	-	229	
第304図の177	手捏ね	-	-	-	-	-	-	318	
第304図の178	手捏ね	-	-	-	-	-	-	337	
第304図の179	手捏ね	-	-	-	-	-	-	28	
第304図の180	手捏ね	-	-	-	-	-	-	28	
第304図の181	手捏ね	-	-	-	-	-	-	229	
第304図の182	手捏ね	-	-	-	-	-	-	28	
第304図の183	手捏ね	-	-	-	-	-	-	337	
第304図の184	手捏ね	-	-	-	-	-	-	333	
第304図の185	手捏ね	-	-	-	-	-	-	28	
第304図の186	手捏ね	-	-	-	-	-	-	28	
第304図の187	手捏ね	-	-	-	-	-	-	28	
第304図の188	手捏ね	-	-	-	-	-	-	28	
第304図の189	手捏ね	-	-	-	-	-	-	16	
第304図の190	手捏ね	-	-	-	-	-	-	230	
第304図の191	手捏ね	-	-	-	-	-	-	28	
第304図の192	手捏ね	-	-	-	-	-	-	28	
第304図の193	手捏ね	-	-	-	-	-	-	230	
第304図の194	手捏ね	-	-	-	-	-	-	82	
第304図の195	土師器 甕	21.4	-	-	-	雲母・石英・長石多く含む	淡橙褐色	常総型	162、166、181、184、191、203
第304図の196	土師器 甕 (22.8)	-	-	-	-	雲母・石英・長石含む	橙褐色	武蔵型	278、319
第305図の197	土師器 甕 (24.3)	-	-	-	-	雲母・石英・長石多く含む	淡橙褐色	常総型	198、204、205、220、230
第305図の198	土師器 甕	21.2	30.6	8.5	-	雲母・石英・長石多く含む	明褐色	常総型	228、229
第305図の199	土師器 甕	-	-	9.4	-	雲母・石英・長石含む	明黄褐色	常総型 底外木葉痕	157、171、336
第305図の200	土師器 甕	22.1	-	-	-	雲母・石英・長石多く含む	暗褐色	常総型	103、225、226、227、228、229
第305図の201	土師器 甕	25.5	-	-	-	雲母・石英・長石含む	淡橙褐色	常総型	37
第305図の202	土師器 甕	22.5	-	-	-	雲母・石英・長石多く含む	橙褐色	常総型	227、283、284、314、319
第306図の203	土師器 甕	28.2	30.7	10.5	-	雲母・石英・長石多く含む	淡橙褐色	常総型甕と同一胎土	290、295、298、301、303、315、319
第306図の204	土師器 甕	21.4	-	-	-	雲母・石英・長石多く含む	明褐色	常総型	228、229
第306図の205	土師器 甕	-	-	10.0	-	石英・長石・砂粒含む	明赤褐色		243、258、318
第306図の206	支脚	長径 11.0	短径 (5.0)	長さ 15.4	-	長石・砂粒含む	褐色		277
第306図の207	支脚	長径 11.6	-	-	-	-	-		256
第306図の208	碗形滓	縦 7.3	幅 8.7	厚さ 4.3	206.0g	-	-		329
第306図の209	鉄鏝	残存長 3.5	-	-	-	-	-		333
第306図の210	刀子	残存長 6.2	-	-	-	鉄製品	-		267

表239 竪穴住居跡計測表 (奈良・平安時代)

遺構番号	主軸長×横軸長(m)	方 位	電の基数	電の位置	壁高浅～深 (cm)	主柱穴数	グリッド
I 003	3.4 × 2.0	N-103° -E	1	E	20~30	0	13X-38
I 004	3.7 × 3.2	N- 89° -E	1	E	40~50	0	13X-03
I 005	3.1 × 3.0	N- 49° -W	1	NW	50~60	0	13X-17
I 006	2.8 × 2.9	N- 48° -W	1	NW	40~50	0	13X-15
I 007	3.7 × 3.7	N-101° -W	2	N,W	50	0	13W-39
I 009	4.0 × 4.0	N- 5° -W	1	N	40	4	13X-21
I 011	3.5 × 3.5	N- 2° -E	1	N	30	4	13X-60
I 013	3.4 × 3.4	N-71° -E	1	E	20~30	0	13W-48
I 014	3.0 × 2.9	N- 2° -E	1	N	30	0	13X-42
I 015	3.3 × 3.3	N- 3° -E	1	N	20~30	0	13X-65
I 016	3.6 × 3.7	N- 38° -W	1	NW	30	0	13X-80
I 018	3.3 × 3.6	N- 97° -W	1	W	40	0	13W-37
I 019	4.0 × 3.8	N- 21° -W	1	N	40	6	13W-37
I 020	3.5 × 3.7	N- 20° -W	1	N	40	0	13X-60
I 022	3.2 × 3.4	N- 16° -E	1	N	30	0	13X-75
I 023	2.5 × 2.7	N- 23° -E	1	N	40	0	13X-75
I 024	3.2 × 3.3	N-114° -W	1	W	20~25	0	13W-18
I 025	3.7 × -	N- 20° -W	1	N	10~15	0	13W-18
I 026	3.5 × -	N- ° -	-	-	20	-	13W-11
I 027	3.4 × 3.5	N- 20° -W	1	N	50	2	11X-00
I 028	3.6 × 3.5	N- 6° -E	1	N	40~50	0	11W-25
I 029	3.8 × 4.0	N- 4° -E	2	N,W	20~30	8	11W-43
I 030	4.6 × -	N- 8° -E	1	N	30	4	11W-53
I 031	3.1 × 3.3	N-10° -W	1	N	30	0	10W-86
I 032	3.0 × 3.1	N- 3° -W	1	N	30	0	12S-32
I 033	3.9 × 3.6	N- 2° -E	1	N	40	0	12S-24
I 034	4.0 × 4.1	N- 18° -W	1	N	40	0	12S-26
I 035	4.1 × 3.8	N- 18° -W	1	N	50	4	11S-07
I 036	3.7 × 3.8	N- 86° -E	1	E	15	0	11S-88
I 037	3.5 × 3.4	N- 8° -E	1	N	30	0	11S-55
I 038	2.8 × 3.1	N- 9° -W	1	N	30	0	11S-36
I 039	2.7 × 2.7	N- 6° -W	1	N	30	0	11S-35
I 040	4.2 × 4.5	N- 0° -	1	N	40	4	11S-32
I 041	2.7 × 3.2	N- 22° -E	1	N	40	0	10W-10
I 042	3.9 × 3.7	N- 6° -E	1	N	20	0	10V-29
I 043	3.0 × 3.1	N- 3° -W	1	N	30	0	11V-15
I 044	4.2 × 4.5	N- 88° -W	1	W	40	4	11W-50
I 045	5.4 × 5.2	N- 8° -W	1	N	60	4	11V-99
I 046	3.2 × 3.2	N-108° -W	1	W	10	0	11V-41
I 047A	5.8 × 5.6	N- 14° -W	1	N	40	4	11V-70
I 047B	5.3 × 4.9	N- 14° -W	-	-	40	4	11V-70
I 048	3.3 × 4.5	N-10° -W	1	N	30~40	4	11V-58
I 049	3.5 × 4.4	N-10° -W	1	N	30	3	11T-48
I 050	3.4 × 3.7	N- 1° -W	1	N	30	0	11T-76
I 051	3.2 × 3.5	N- 2° -W	1	N	40	0	11T-62
I 052	5.5 × 5.5	N- 1° -W	1	N	60	4	11T-98
I 053	6.0 × 5.0	N- 3° -E	1	N	60	4	11T-78
I 054	3.1 × 3.8	N-10° -W	1	N	15	0	12T-06
I 055A	4.0 × 4.0	N- 15° -W	1	N	20	0	11T-89
I 055B	3.8 × 3.8	N- 82° -E	1	E	20	0	11V-80
I 056	4.4 × -	N- ° -	-	-	60	-	12S-74
I 057	3.3 × 3.7	N- 8° -E	1	N	20	0	10X-11
I 058	3.8 × 3.6	N- 14° -W	1	N	40	0	10X-65
I 059	3.3 × 3.5	N- 17° -W	1	N	50	0	10X-72
I 060	2.5 × 2.8	N- 1° -W	1	N	50	2	10X-55
I 061	4.1 × 4.0	N- 2° -W	1	N	40	0	10W-66
I 062	5.4 × 5.4	N- 14° -E	1	N	50	4	10W-56
I 063	3.4 × 3.2	N- 5° -W	1	N	20~70	0	10Y-61
II 001	2.9 × 2.7	N- 34° -W	1	N	10~20	0	17T-58
II 002	- × -	N- ° -	0	-	10	0	17T-68
II 003	3.8 × 4.1	N- 35° -W	1	N	50	4	17T-19
II 004	4.0 × 3.8	N- 65° -E	1	E	50	4	17T-17
II 005	3.6 × 3.1	N- 24° -W	1	N	10	0	16T-98
II 006	2.8 × 2.8	N- 42° -W	1	NW	40	0	15T-55
II 007	2.7 × 2.9	N- 73° -E	1	E	30	0	17T-52
II 008	2.8 × 2.6	N- 7° -E	1	N	50	0	17S-52
II 009	4.5 × 3.2	N- 99° -W	1	W	20	0	17R-66
II 010	3.2 × 3.6	N- 19° -W	1	N	40	0	17T-06
II 011	- × 3.7	N- 27° -W	1	W	20	0	17T-15
II 012	3.6 × 3.3	N- 18° -W	1	W	30	0	17T-27



遺構番号	主軸長×横軸長(m)	方位	電の基数	電の位置	壁高浅～深(cm)	主柱穴数	グリッド
II 013	— × 2.8	N-30° -W	—	—	5	—	17T-45
II 014	3.4 × 3.6	N-11° -W	1	N	40	0	15T-96
II 015	2.0 × 2.1	N-16° -W	1	N	15	0	15T-90
II 016	3.0 × 2.7	N-86° -W	1	W	50	0	16T-15
II 017	3.8 × 3.7	N-11° -W	1	N	40	7	16S-39
II 018	4.3 × 4.3	N-13° -W	1	N	30	4	16T-52
II 020	5.7 × 5.8	N-71° -E	1	E	60	4	16V-28
II 021	3.4 × 3.3	N-13° -W	1	N	35	0	15V-81
II 022	3.1 × 3.3	N-11° -E	1	N	40	4	16W-45
II 025	3.9 × 3.8	N-8° -W	1	N	50	7	16V-01
II 026	3.4 × 3.6	N-100° -W	1	W	20	0	17W-00
II 027	3.6 × 3.5	N-10° -W	1	N	10	0	16T-44
II 028	3.7 × 3.6	N-13° -W	1	N	50	4	16T-44
II 029	— × 2.9	N-13° -W	1	N	30	0	16T-34
II 030	3.7 × 3.7	N-27° -W	1	N	45	0	16T-54
II 031	3.8 × 3.5	N-4° -W	1	N	15	0	16T-73
II 032	3.2 × 3.1	N-18° -W	1	N	50	0	16T-72
II 033	4.1 × 4.0	N-37° -W	1	N	60	0	17W-20
II 034	4.8 × 4.5	N-27° -W	1	N	90	5	17W-43
II 035	3.2 × 3.4	N-72° -E	1	E	30	0	16V-21
II 036	3.3 × 3.1	N-114° -W	1	W	40	0	16V-76
II 037	5.7 × 4.4	N-9° -W	1	N	70	8	16V-76
II 038	3.7 × 3.4	N-32° -E	1	N	30	0	17V-69
II 043	2.8 × 3.3	N-4° -W	1	N	40	0	16W-29
II 044	2.7 × 3.0	N-19° -W	1	N	30	0	16T-65
II 045	3.0 × 3.3	N-9° -W	1	N	20	0	16V-94
II 048	3.4 × 4.0	N-18° -W	1	N	50	0	17W-62
II 049	— × 5.0	N-° -	—	—	40	4	17W-64
II 056	4.0 × 3.5	N-5° -W	1	N	50	0	15V-66
II 057	3.4 × 3.4	N-63° -W	1	W	60	0	15V-45
II 058	4.5 × 4.4	N-8° -E	1	N	70	4	15T-69
II 059	4.0 × 4.6	N-91° -E	1	E	50	4	15T-37
II 060	4.2 × 4.4	N-23° -E	1	N	50	4	15V-04
II 061	3.5 × 3.3	N-87° -E	1	E	40	0	14T-76
II 062	5.5 × 5.2	N-12° -E	1	N	60	8	14T-96
II 063	4.1 × 4.1	N-1° -E	1	N	60	4	14T-74
II 064	3.3 × 3.5	N-83° -E	1	E	50	0	15S-08
II 065	2.2 × 2.5	N-43° -E	1	N,E	20	0	15T-35
II 066	3.3 × 3.2	N-6° -W	1	N	10	0	14S-59
II 067	3.7 × 3.9	N-10° -W	1	N	30	0	15R-10
II 068	3.6 × 4.2	N-15° -W	1	N	70	0	15R-30
II 069	3.4 × 3.8	N-6° -E	1	N	40	0	15R-60
II 070	3.0 × 3.0	N-3° -W	1	N	70	0	15S-14
II 071	4.8 × 5.1	N-8° -E	1	N	30	8	14T-95
II 073	— × 3.6	N-4° -W	1	N	30~50	—	15S-33
II 074	3.2 × 3.7	N-4° -E	2	N,E	40~50	0	14V-63
II 075	3.6 × 2.9	N-83° -E	1	E	10	0	14V-64
II 076	2.4 × 2.4	N-60° -W	1	W	5	0	15W-03
II 077	3.8 × 3.8	N-86° -W	2	N,W	40	0	14W-82
II 078	3.4 × 3.3	N-62° -W	1	W	50	0	14T-99
II 079	— × 4.2	N-° -	—	—	20	0	15W-31
II 080	3.1 × 3.3	N-8° -W	2	N,E	50	0	15W-19
II 081	— × 3.2	N-4° -E	1	N	40	0	15W-09
II 082	5.0 × 4.8	N-1° -E	1	N	40	4	15W-74
II 083	4.0 × —	N-° -	1	N	40	1	15W-73
II 084	4.3 × 4.1	N-82° -E	1	E	50	4	15W-92
II 088	3.8 × 4.0	N-5° -W	1	N	40	4	16V-09
II 090	6.2 × 6.2	N-6° -E	1	N	60	4	15V-88
II 092	— × 3.6	N-° -	—	—	10	0	15W-18
II 093	2.9 × 2.5	N-14° -W	1	N	30	0	16W-03
II 094	4.7 × 4.7	N-92° -W	1	E	50	0	16W-02
II 095	4.2 × 4.1	N-12° -W	1	N	50	2	16W-10
II 096	3.6 × 3.3	N-29° -W	—	—	60	0	16W-11
II 097	3.0 × 3.7	N-6° -W	2	N,E	50	0	15W-91
II 101	3.6 × 4.1	N-14° -E	1	N	40	2	14X-51
II 105	3.3 × 3.4	N-0° -	1	N	30	0	14X-12
II 106	4.4 × 4.4	N-22° -E	1	N	50	4	14W-26
II 107	3.0 × 2.8	N-69° -W	1	W	30	0	14W-58
II 109	2.5 × 3.4	N-15° -E	1	N	20	0	14X-31
II 110	3.2 × 3.6	N-3° -W	1	N	45	0	14X-76
II 111	3.7 × 4.1	N-11° -W	1	N	30	0	14X-34
II 113	3.2 × 3.7	N-10° -E	1	N	35	0	14X-62

遺構番号	主軸長×横軸長(m)	方位	竈の基数	竈の位置	壁高浅～深 (cm)	主柱穴数	グリッド
II 115	3.1 × 3.0	N- 23° -E	1	N	30	0	14W-69
II 116	3.8 × 3.5	N- 45° -E	1	NE	50	0	14X-45
II 118	4.3 × 4.3	N- 25° -W	1	N	45	4	14X-93
II 120A	4.3 × 4.4	N- 6° -W	1	N	55	4	16V-06
II 120B	- × -	N- ° -	1	N	55	-	14V-06
II 121	3.3 × 3.5	N- 85° -W	2	N,W	40	0	14V-41
II 122	3.1 × 3.3	N- 10° -E	1	N	40	0	14V-51
II 123A	3.6 × 3.7	N- 15° -E	1	N	40	0	14W-54
II 123B	3.1 × 3.1	N- 17° -E	1	N	60	0	14W-55
II 123C	2.8 × 2.5	N- 10° -E	1	N	40	0	14W-64
II 124	3.2 × 3.2	N- 87° -W	1	W	15	0	14W-13
II 125	4.2 × 4.2	N- 88° -E	1	E	40	2	13W-94
II 126	3.6 × 3.5	N- 2° -W	1	N	50	0	13V-96
II 127	2.6 × 2.8	N- 4° -E	1	N	35	0	13V-97
II 128	(3.5) × 3.5	N- 94° -W	2	N,W	40	0	13W-92
II 129	(3.6) × 3.9	N- 4° -W	1	N	65	4	14W-03
II 130	- × -	N- ° -	-	-	30	0	14W-02
II 131	3.0 × 3.1	N- 30° -E	1	N	5	0	13T-49
II 132	4.1 × 4.8	N- 16° -W	1	N	50	4	13T-33
II 133	3.4 × 2.8	N- 71° -E	1	E	40	0	13T-21
II 134	3.1 × 3.3	N- 16° -W	1	N	50	4	14R-23
II 135	3.0 × 3.3	N- 0° -	1	N	10	0	13S-45
II 136	2.7 × 3.2	N- 30° -W	1	N	15	0	13S-61
II 137	3.3 × 3.5	N- 24° -W	1	N	40	0	13S-72
II 138	4.0 × 3.7	N- 11° -W	1	N	50	0	13S-71
II 139	2.5 × 2.4	N- 18° -W	1	N	40	0	13S-74
II 140	3.5 × 3.6	N- 97° -W	1	W	40	0	13S-58
II 141	4.0 × 4.0	N- 22° -W	1	N	60	4	13S-78
II 142	2.9 × 3.3	N- 9° -E	1	N	40	0	13S-82
II 143	3.9 × 4.2	N- 20° -W	1	N	65	0	13T-20
II 144	3.6 × 3.8	N- 13° -W	1	N	30	0	13T-40
II 145	4.3 × 4.0	N- 24° -W	1	N	10	0	13T-51
II 146	2.9 × 3.3	N- 12° -W	1	N	30	0	13T-71
II 147	- × -	N- ° -	-	-	35	-	13S-69
II 148	3.5 × 3.1	N- 22° -W	1	N	40	0	13R-95
II 149	- × -	N- ° -	-	-	50	-	13V-88
II 150	3.2 × 3.2	N- 8° -E	1	N	20	0	14W-04
II 151	- × -	N- ° -	-	-	-	-	14W-03
II 155	- × -	N- ° -	-	-	50	-	13T-17
II 156	4.7 × 5.5	N- 45° -W	1	NW	40	4	20Q-63
II 157	3.6 × 3.4	N- 50° -E	1	NE	80	0	20Q-45
II 158	4.4 × 4.8	N- 73° -E	1	E	50	4	21S-81
II 161	2.3 × 2.2	N- 61° -E	1	NE	40	0	20Q-53
II 162	4.1 × 3.9	N- 22° -W	1	N	60	4	20Q-54
II 163A	(5.0) × (5.0)	N- ° -	-	-	20	4	22S-79
II 164	4.9 × 4.5	N- 5° -E	1	N	60	(4)	22S-44
II 165	4.0 × -	N- 2° -E	1	N	25	4	11R-23
II 166	3.1 × 4.1	N- ° -	-	-	20	-	22T-54
II 167A	- × 3.9	N- ° -	-	-	20	3	22T-73
N 195	3.4 × 3.5	N- 3° -E	1	N	30	0	9Y-72
N 196	3.3 × 3.4	N- 18° -W	1	N	40	2	10X-53
N 197A	3.3 × 3.1	N- 35° -E	1	N	40	0	9X-90
N 197B	3.0 × 2.8	N- 0° -	1	N	50	0	9X-90
N 198	3.7 × 3.4	N- 90° -E	2	N, E	40	0	9W-84
N 199	3.6 × 4.0	N- 4° -E	1	N	35	0	9W-93
N 200	3.9 × 3.6	N- 20° -E	1	N	30	0	9V-95
N 201	1.7 × 1.7	N- 18° -W	1	N	25	0	9V-37
III 170	4.4 × 4.4	N- 13° -E	1	N	50	4	15X-02
III 173	2.6 × 2.9	N- 10° -E	1	N	40	0	15W-86
III 175	2.8 × 3.6	N-100° -E	1	E	40	0	15W-97
III 178	2.6 × 2.6	N- 85° -W	1	W	35	0	16W-66
III 180	5.0 × 4.5	N- 22° -W	1	N	50	4	17W-16

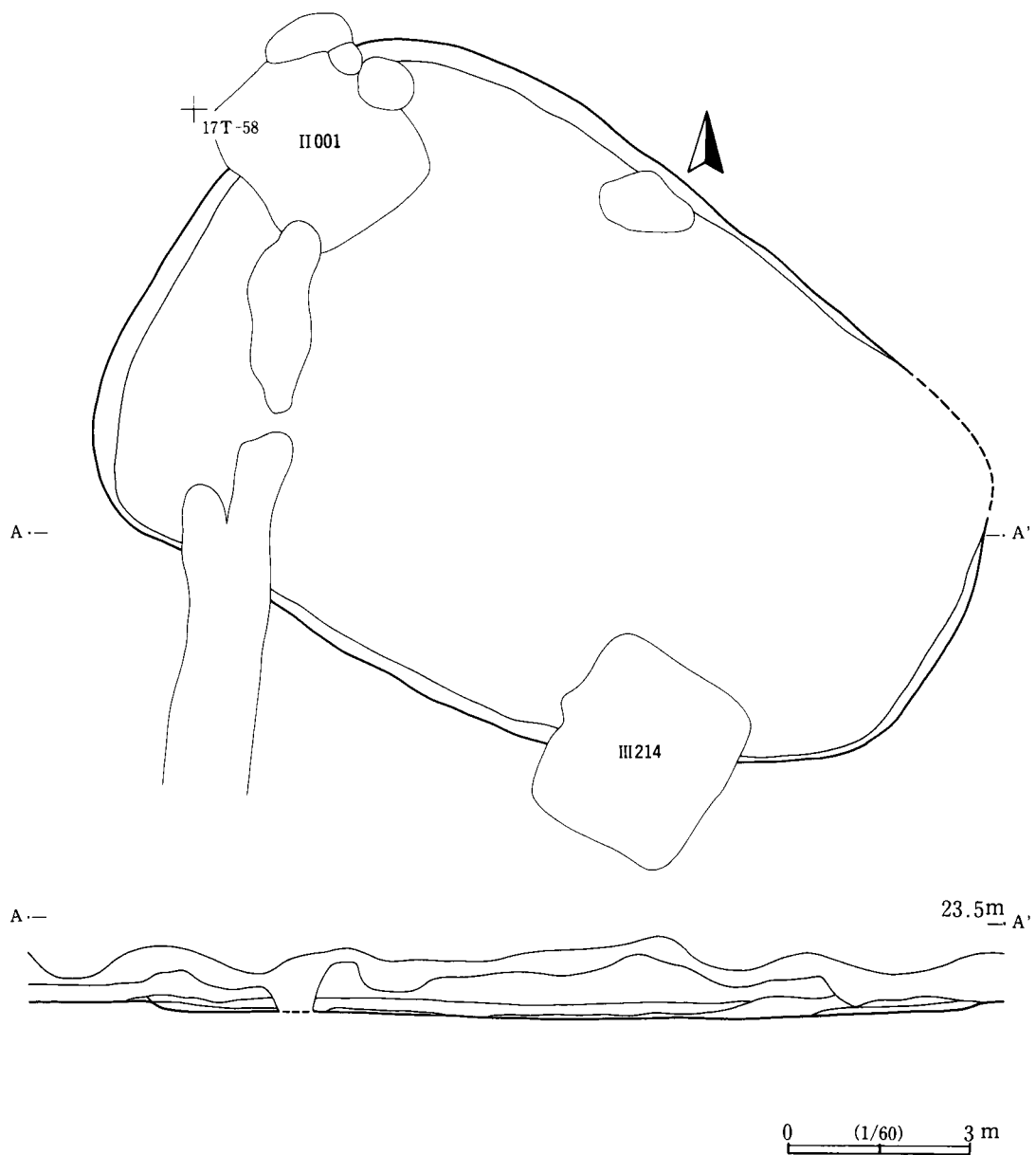
## 第5節 中近世

### (1) 土坑

中近世の土坑は総数8基で、うち6基は台地東端の斜面に面する位置(15W、17W大グリッド)に分布する。他の2基は別地点であるが、その分布は、やはり南へ傾斜する浅い斜面に面している。

#### II002 (第307図、図版33)

17T-69グリッドに位置する。床面が非常に浅く、プランが不整形の遺構である。II001、III214の覆土を切り、溝の削平を受ける。炉や柱穴などの遺構は確認できず、床面も硬化した部分は認められない。遺物は極めて少ない。



第307図 II002

II047・053・054・055・091・099・163B・167B（第316図、図版51・107・159）

047は隅丸方形で、床面が平坦な土坑である。規模は1.8m×1.9m×深さ0.8mである。埋土中層の壁際から骨片が出土しており、土坑墓と考えられる。17W-22グリッドに位置する。053、054は近接する土坑である。埋土は比較的締まりがあり、焼土は含まない。中世の土坑と考えられる。規模は053が2.4m×2.6m×深さ0.6mで、054が1.6m×2.4m×深さ0.5mである。053は17W-24グリッドに位置する。054は17W-15グリッドに位置する。055はIIM001より新しい方形土坑である。規模は2.0m×2.2mである。17W-03グリッドに位置する。091はIIH18及びIIH21掘立柱建物を切って造られている。中世の方形竪穴であろう。規模は2.3m×4.2m×深さ0.4mである。15W-40グリッドに位置する。099は中世の井戸で、規模は1.0m×1.8m×深さ2.3mの楕円形プランの遺構である。15W-83グリッドに位置する。163Bは中世地下式坑である。主室天井部は崩落していた。構造的に見てIIM012より古いと考えられる。出入口部は幅1.4m、深さ1.4m、主室は主軸方向で奥行1.8m、幅2.1m、確認面からの深さ2.0mを測る。22S-69グリッドに位置する。167BはM012と重複するが、新旧関係は不明である。馬骨(歯)が出土している。規模は直径1.4m×深さ0.8mである。22T-63グリッドに位置する。

表240 II053

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第308図の1	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底外)「+」	1

II166（第309図）

22T-54グリッドに位置する。掘込みが浅く、床面も硬化せず、多少凹凸がある。壁の立上がりも不明瞭である。住居埋土はロームが主体で、焼土・炭化物を含まない。奈良・平安時代の土師器甕が出土している。

表241 II166

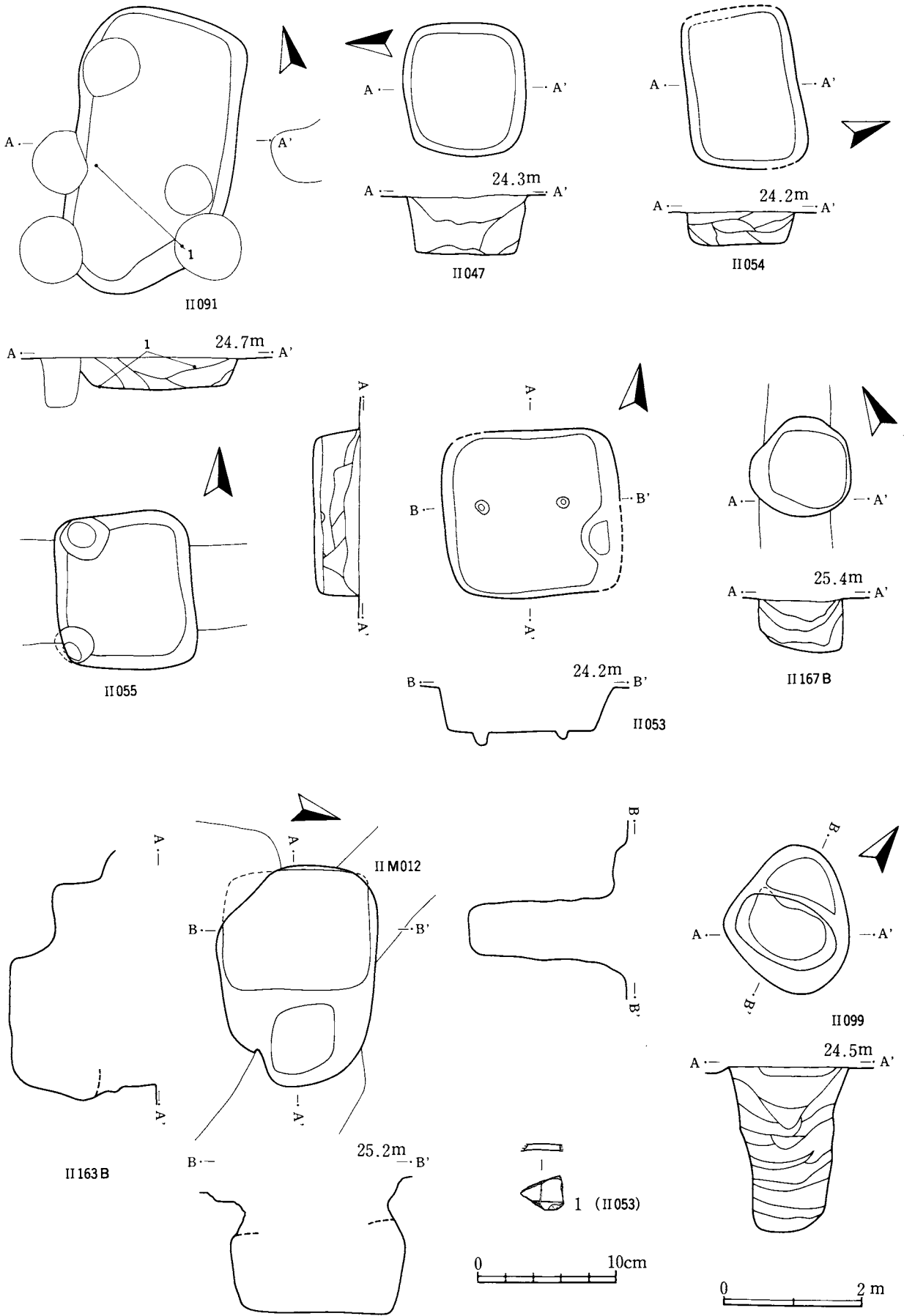
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第309図の1	土師器 甕	(18.4)	-	-	雲母・石英・長石多く含む	橙褐色	常総型	5

II167A（第310図、図版93）

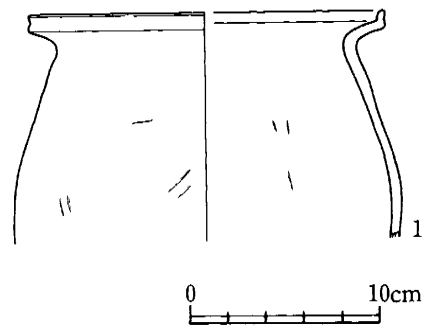
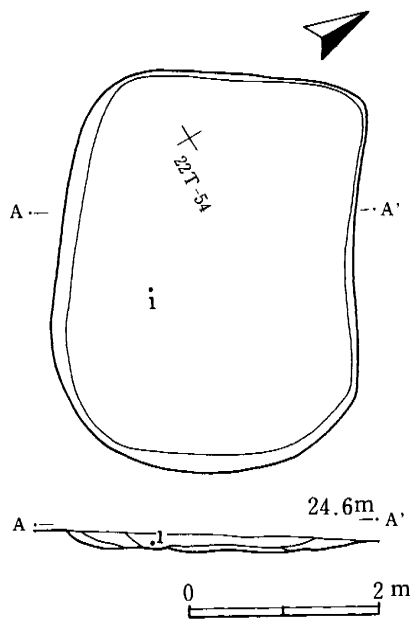
2T-73グリッドに位置する。IIM012と重複する。方形に近い掘込みの遺構である。3つの支柱穴と考えられるピットを確認したが、それ以外の大きめのピットについては、本遺構に伴うかは不明である。遺物は奈良・平安時代のものが多い。

表242 II167A

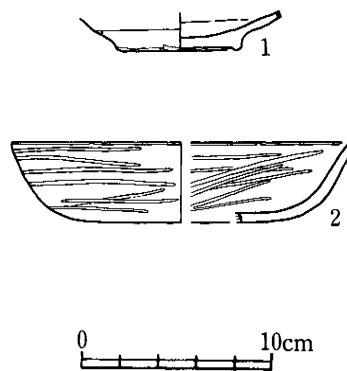
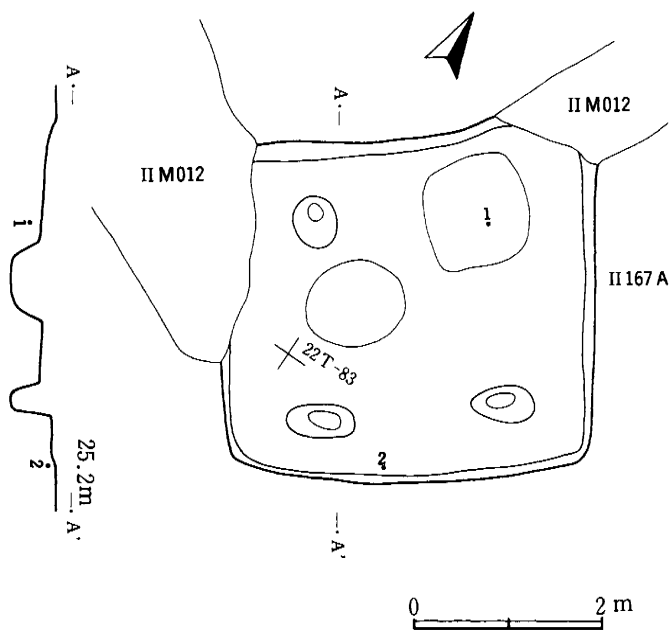
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第310図の1	土師器 高台付皿	-	-	6.0	砂粒含む	黄褐色～橙色		9
第310図の2	土師器 杯	(17.7)	4.3	-	砂粒含む	橙色		7



第308图 II047·053·054·055·091·099·163B



第309図 II166



第310図 II167A

(2) 溝

IIM001・002・003・006 (第311～317図、図版116・162・164～166・168・169・176)

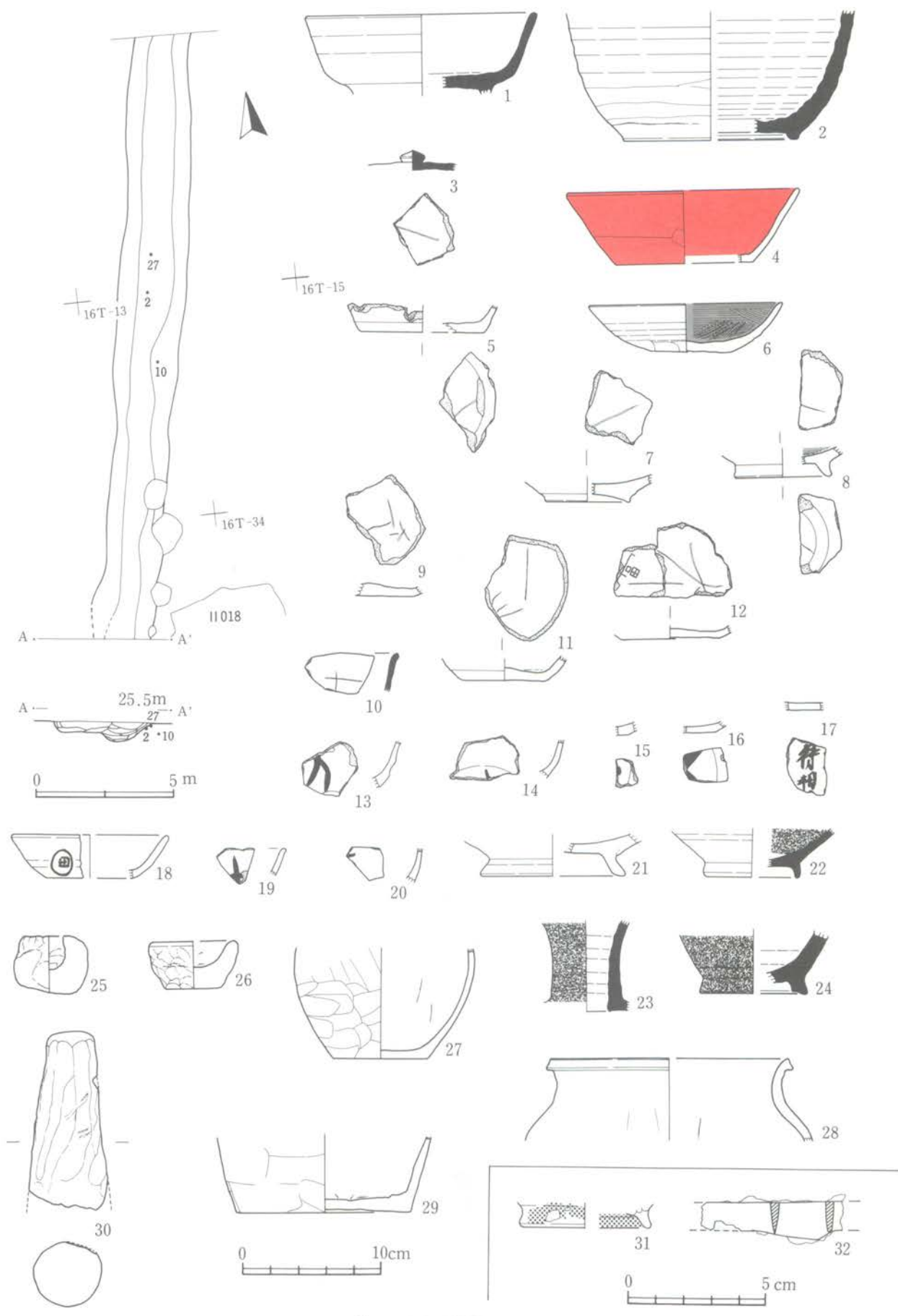
001は台地の一部をコの字型に取り囲むように巡る溝で、南及び北側の溝間の距離はおよそ120mになる。東側は調査区域外となり未調査ではあるが、おそらく、台地斜面部に沿って溝が巡るであろう。一度造り替えられており、古い段階では逆台形の断面形態であり、新しい段階では、浅い方形となっている。002は、001の外側を巡る溝で、南及び北側の溝間の距離は約170mに達する。001と異なり、東側で斜面方向に落ちて行く。一度造り替えられており、断面は逆三角形状を呈する。その側面上には、不規則にピットが掘られている。003は001と002を横切る小規模な溝である。006は001と002を結ぶ小規模な溝である。これら4条の溝は有機的に連結しており、ほぼ同時期に機能していたものであろう。002の出土遺物はほとんど9世紀代のもので占められるが、IIM004道路遺構と異なり、破片が多く、一括性に乏しい。また、9世紀代の遺物が多いが、これは重複し、削平された住居のほとんどが、この時期に当たることが理由と考えられる。したがって、この溝はおそらく早くとも集落が終焉する10世紀の半ばより後に造られたのであろう。IIM006では近世の灯明具が出土しており、中世末期以降近世に至る溝としておく。

表243 IIM001

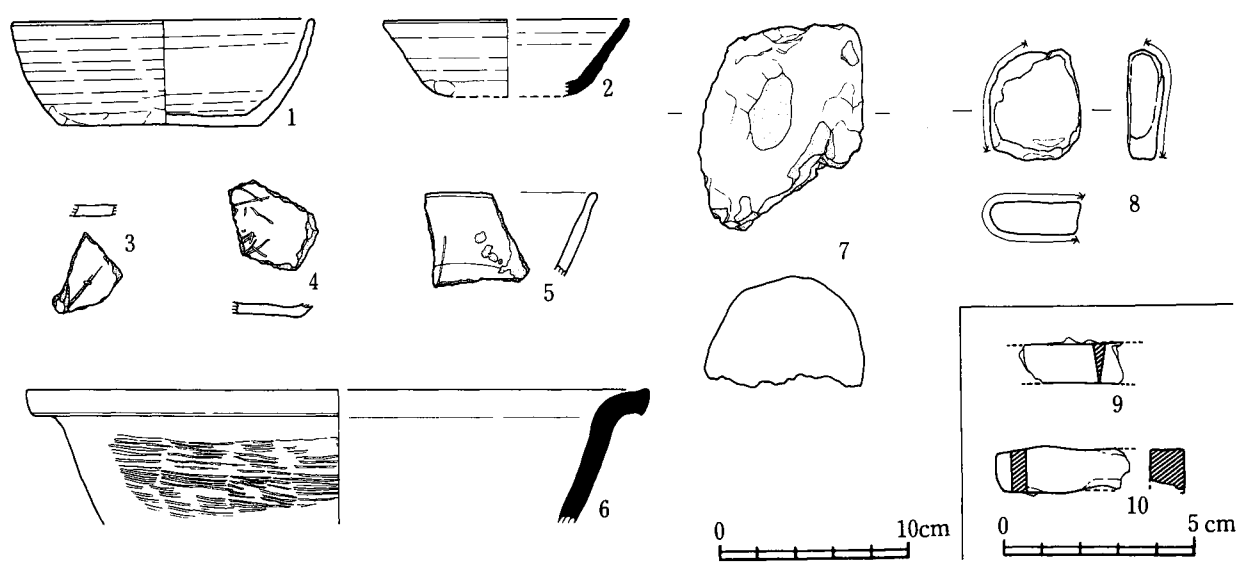
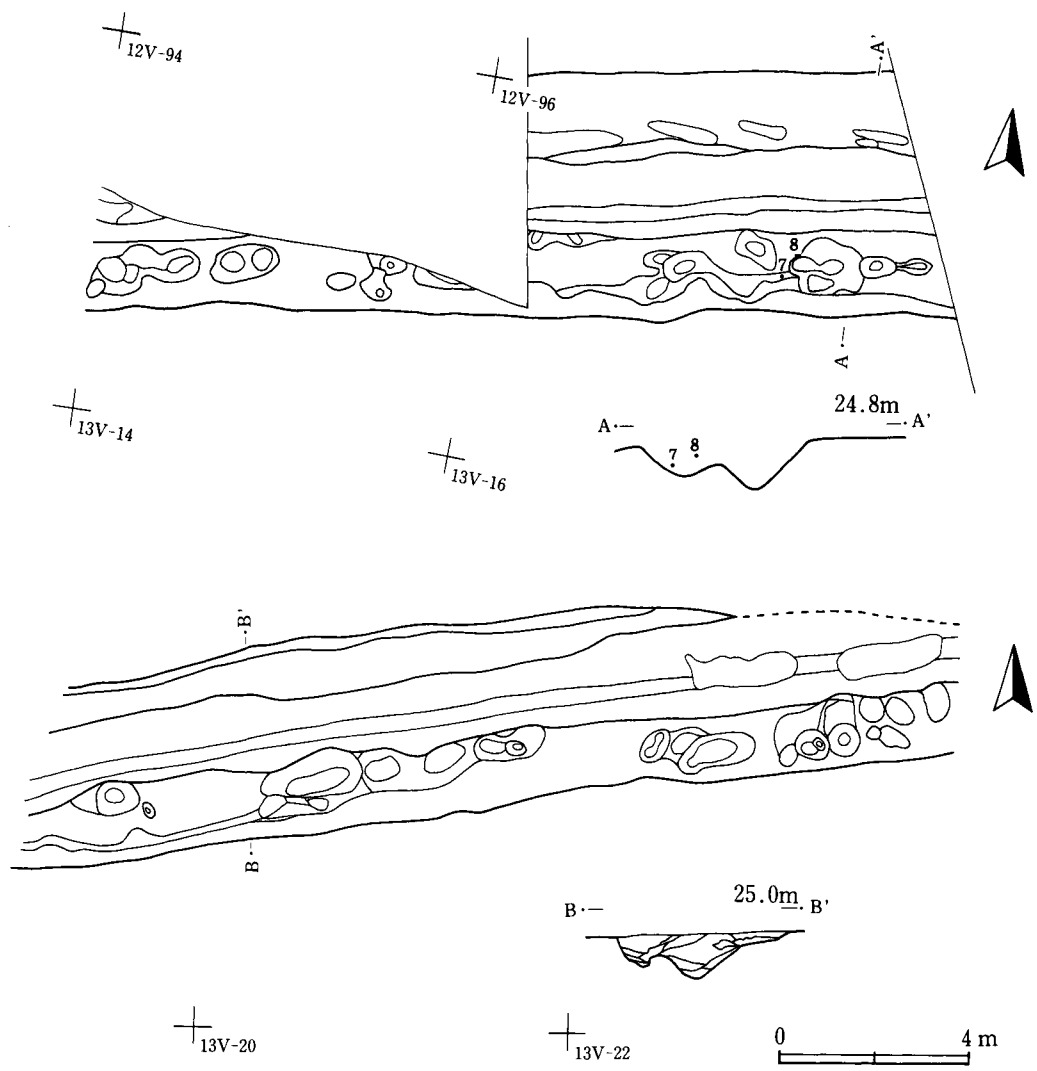
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第312図の1	須恵器 高台付杯	(16.4)	6.3	9.6	長石含む	灰色		42
第312図の2	須恵器 瓶	-	-	(12.4)	石英・長石多く含む	灰色		3、6
第312図の3	須恵器 蓋	-	-	-	-	-	線刻(底内) □	2
第312図の4	土師器 杯	(16.0)	5.2	(9.8)	長石・スコリア含む	赤褐色	赤色塗彩	33
第312図の5	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底外) □	2
第312図の6	土師器 杯	(13.8)	3.4	5.9	スコリア含む	外面明黄褐色 内面黒色	内黒	32
第312図の7	土師器 皿	-	-	-	-	-	ヘラ書き(底内) □	37
第312図の8	土師器 高台付杯	-	-	-	-	-	線刻(底内) □ 線刻(底外) □	38
第312図の9	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内) 「大八」	37
第312図の10	須恵器 杯	-	-	-	-	-	線刻(体外) □	19
第312図の11	土師器 杯	-	-	6.0	雲母・スコリア含む	橙色	線刻(底内) □	44
第312図の12	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内) 「木富」	38
第312図の13	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) 「丙」	49
第312図の14	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) □	49
第312図の15	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外) □	38
第312図の16	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外) □	38
第312図の17	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外) 「得」	34
第312図の18	土師器 杯	(11.0)	3.1	(6.4)	雲母多く含む	橙色	墨書(体外) 「甲」	49
第312図の19	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) □	49
第312図の20	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) □	3
第312図の21	土師器 高台付椀	-	-	(10.2)	石英・長石・スコリア含む	明赤褐色		48
第312図の22	灰釉陶器 碗	-	(3.5)	(6.6)	長石含む	灰色	内面ハケ塗り	49
第312図の23	灰釉陶器 瓶類	-	-	-	長石含む	緑灰色		51
第312図の24	灰釉陶器 瓶類	-	-	(7.6)	長石含む	緑灰色		48
第312図の25	手捏ね	3.0	4.1	-	スコリア含む	黄褐色		42
第312図の26	手捏ね	5.8	3.4	4.0	スコリア含む	黄褐色		42
第312図の27	土師器 甕	-	-	6.8	雲母・石英・長石含む	淡橙褐色		5
第312図の28	土師器 甕	(17.0)	-	-	石英・長石・砂粒含む	明赤褐色		34
第312図の29	土師器 甕	-	-	12.6	雲母・石英・長石・スコリア含む	明褐色		32
第312図の30	支脚	高さ 12.9	-	-	雲母・石英・長石含む	明赤褐色		49
第312図の31	二彩? 小壺	-	(0.9)	(4.7)	砂粒含む	非常に薄い黄褐色 で、軟質である。	底外面まで緑釉掛かる。釉 薬が薄い部分有	38
第312図の32	刀子	残存長 5.3	-	-	鉄製品	-		40







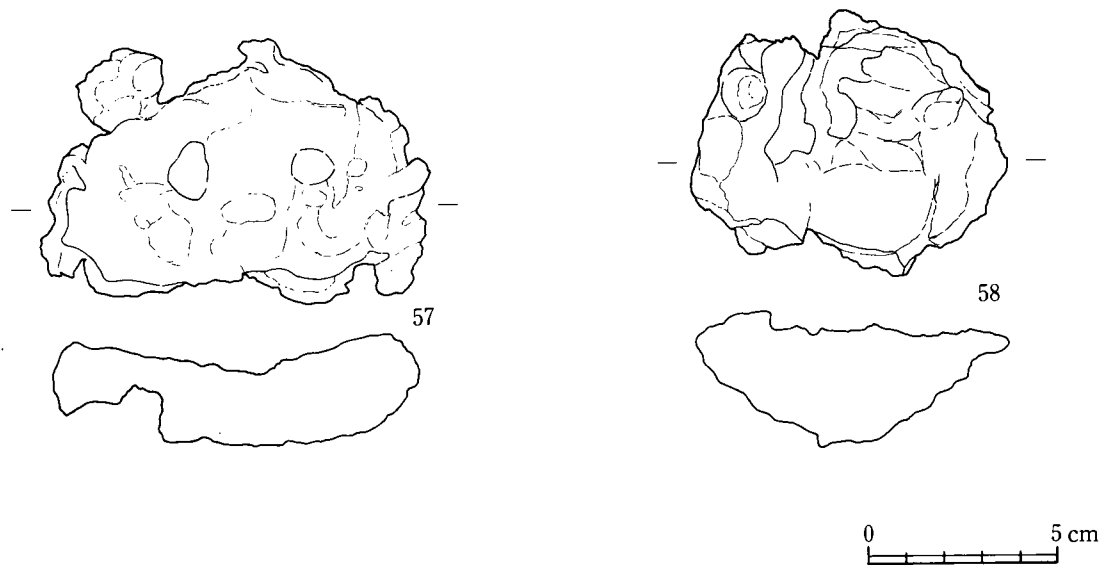
第312图 II M001



第313图 IIM002(1)



第314图 IIM002(2)



第315図 IIM002(3)

表244 IIM002

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第313図の1	土師器 杯	15.6	5.5	10.5	砂粒多く含む	橙褐色		一括
第313図の2	須恵器 杯	13.0	4.0	—	石英・長石多量に含む	灰色		117
第313図の3	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底外)「□」	187
第313図の4	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「弥良」	117
第313図の5	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(体内)「□」	117
第313図の6	須恵器 甕	(32.8)	—	—	雲母・石英・長石含む	灰色		0
第313図の7	支脚	—	—	—	砂粒多量に含む	橙褐色		114
第313図の8	砥石	76.8g	—	—	砂岩	—		109
第313図の9	刀子	残存長 2.8	—	—	鉄製品	—		117
第313図の10	不明鉄製品	残存長 3.6	—	—	—	—		119
第314図の11	須恵器 杯	(13.8)	4.0	(7.8)	雲母・長石含む	灰色		27
第314図の12	須恵器 杯	—	—	(8.4)	スコリア含む	灰白色	ヘラ書き(体外)「久」	29
第314図の13	土師器 杯	(13.8)	4.7	7.2	雲母・スコリア含む	明赤褐色		24
第314図の14	土師器 杯	(11.7)	3.8	(6.2)	長石・スコリア含む	暗褐色		35
第314図の15	土師器 杯	(12.6)	3.8	6.5	長石・石英・スコリア・雲母含む	明褐色	墨書(底内)「大加」	36
第314図の16	須恵器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「□」	32
第314図の17	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(底外)「□」	37
第314図の18	土師器 杯	—	—	—	—	—	線刻(底内)「□」	29
第314図の19	土師器 杯	(12.6)	3.8	6.6	長石・石英・スコリア・雲母含む	褐色	墨書(底内)「千俣」	36
第314図の20	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書・線刻(底外)「□」 墨書・線刻(底内)「□」	24
第314図の21	土師器 高台付皿	—	2.1	—	—	—	墨書(底外)「久弥良」 線刻(底内)「久弥良」	32
第314図の22	土師器 杯	—	—	—	—	—	墨書(体外)「鳥」	31
第314図の23	土師器 杯	—	—	6.8	スコリア含む	橙色	墨書(底内)「高」	24
第314図の24	土師器 杯	—	—	6.4	スコリア含む	黄褐色	墨書(底内)「富」	24
第314図の25	土師器 高台付杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「□」 底外墨痕	5

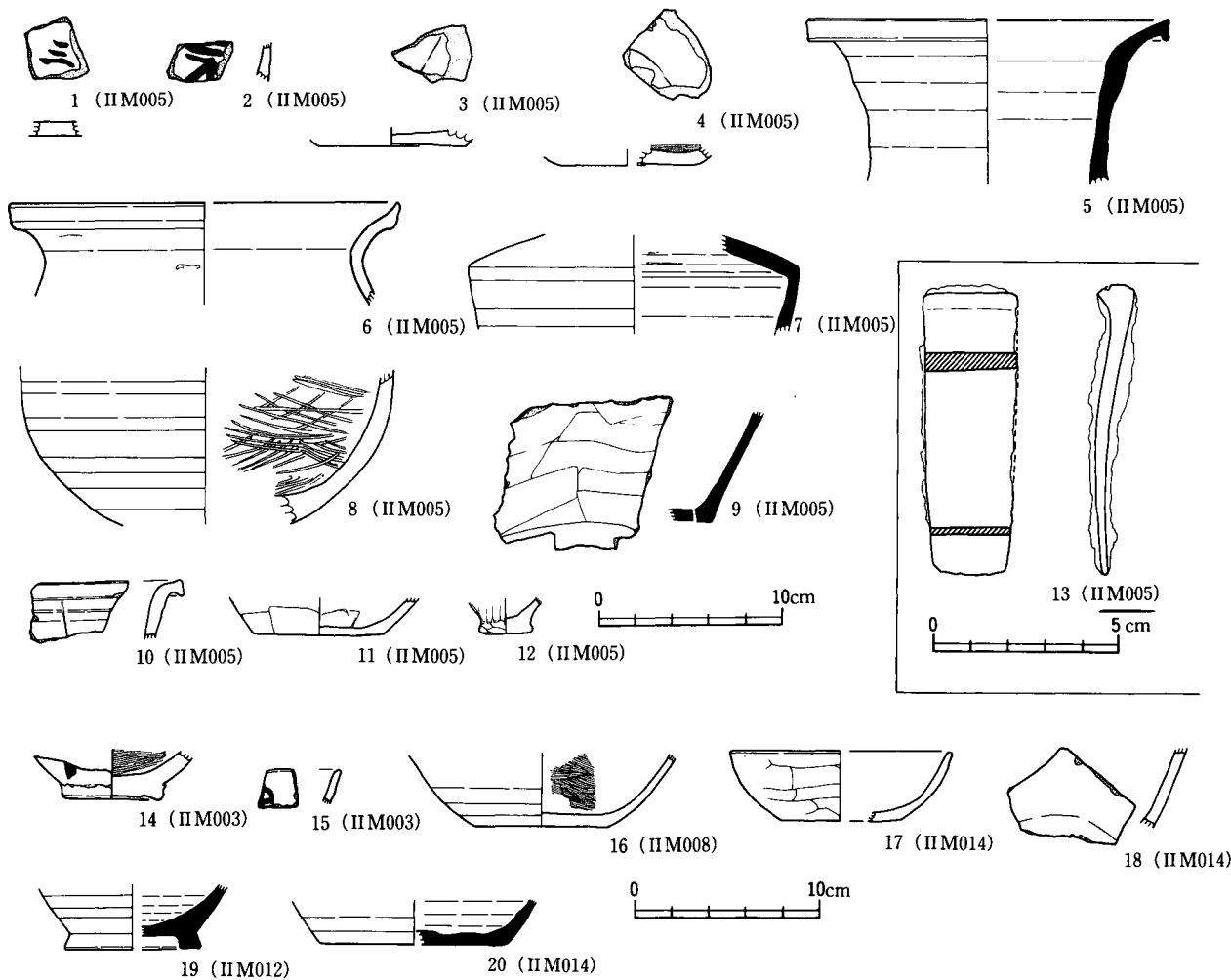
第314図の26	土師器 高台付杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「大」	37
第314図の27	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「口」	35
第314図の28	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「大」	37
第314図の29	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「大」	32
第314図の30	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「井」	24
第314図の31	土師器 高台付杯	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「大」	36
第314図の32	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「七万」	32
第314図の33	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「口」	32
第314図の34	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「太」	1
第314図の35	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「口」	1
第314図の36	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻 (底外) 「口」	3
第314図の37	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「大」	37
第314図の38	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「口」	32
第314図の39	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「口」	32
第314図の40	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (底内) 「口」	35
第314図の41	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻 (底外) 「中」	4
第314図の42	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「口」	22
第314図の43	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「大」	35
第314図の44	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「口」	32
第314図の45	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻 (体内) 「七」	32
第314図の46	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「口」	4
第314図の47	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「大」	2
第314図の48	灰釉陶器 手付小瓶	-	-	-	砂粒含む	外面緑灰色 内面灰白色		25
第314図の49	須恵器 壺	-	-	-	-	-	ヘラ書き (底外) 「口」	30
第314図の50	土師器 高台付皿	(14.3)	-	-	雲母・スコリア含む	橙色		36
第314図の51	須恵器 甕	-	-	-	雲母・長石含む	青灰色		32、35
第314図の52	土製品	-	厚さ (1.2)	-	雲母・長石・スコリア含む	褐色	土師器杯を転用 中央部穿孔	29
第314図の53	紡錘車	直径4.9	軸径0.7	-	鉄製品	-		52
第314図の54	紡錘車	5.8	2.9	-	長石・スコリア含む	赤褐色		29
第314図の55	土錘	長さ6.5	最大幅 2.9	-	長石・砂粒含む	淡褐色		36
第314図の56	刀子	残存長 4.0	-	-	鉄製品	-		4
第315図の57	椀形滓	縦 7.0	幅 10.2	厚さ2.5	251.5 g	-		12
第315図の58	椀形滓	縦 7.0	幅 8.5	厚さ3.2	236.8 g	-		36

## II M005 (第316・318図、図版117・169)

近世野馬土手に伴う野馬堀と考えられる。野馬土手はわずかにその高まりを確認できる程度で、遺存状況は悪い。堀は断面が逆台形で、底面には、さらに小さな浅いピットが等間隔で掘られていた。この溝の北側4mには対応する細い溝が平行して掘られている。遺物は土師器や須恵器の小破片に混じって、鉄製の楔(13)が出土している。

## II M008・009・010・011・012・013・014・015・016 (第316・317・319図)

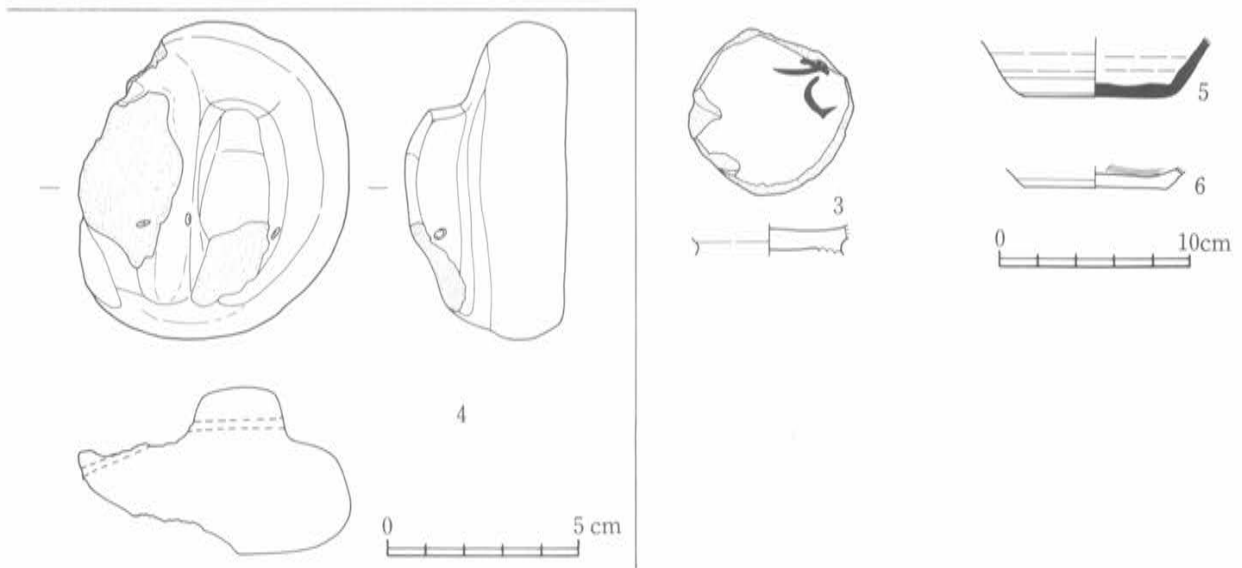
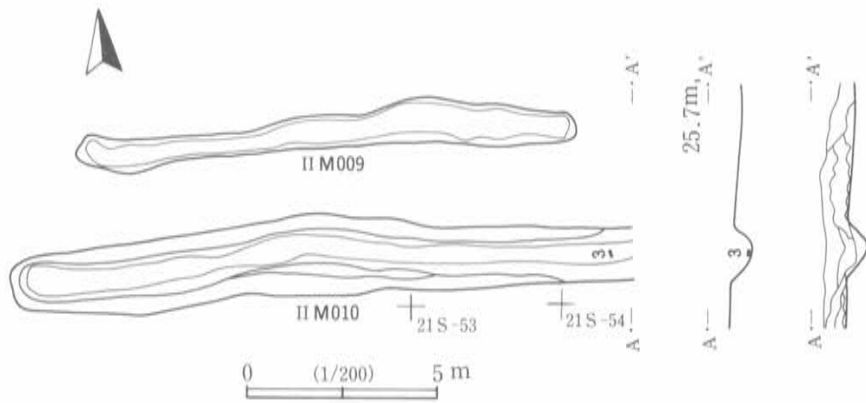
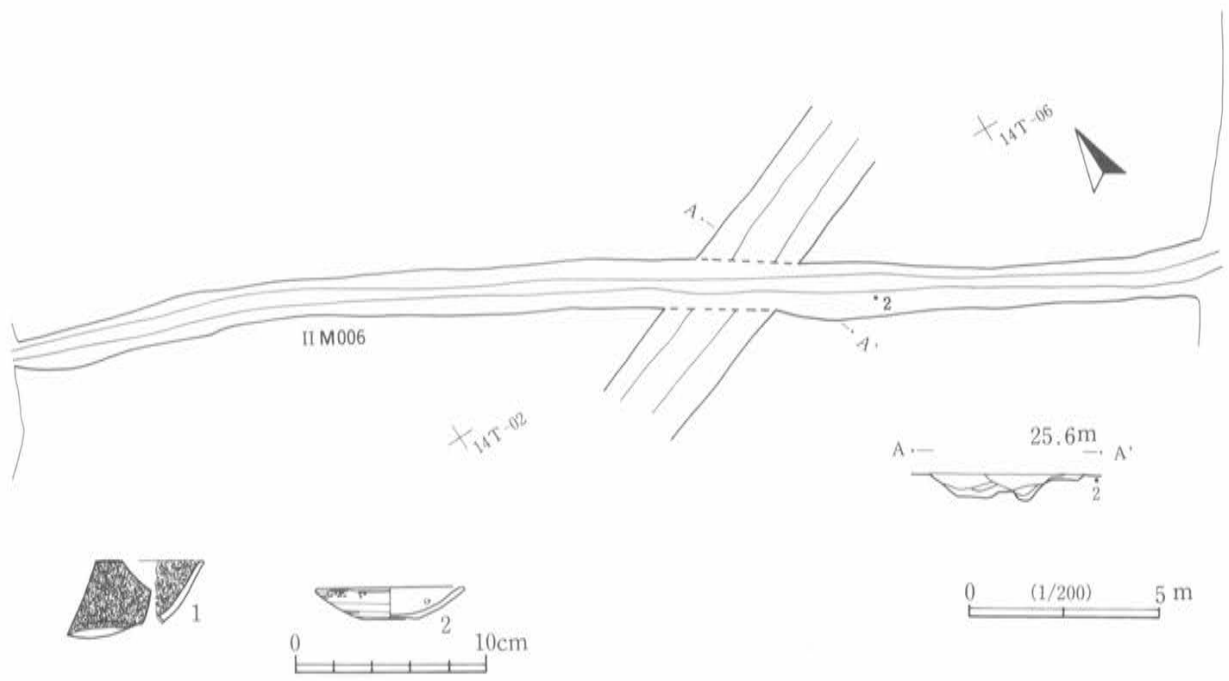
M008は現道路脇に平行して検出された溝で、底面にも不規則に小ピットを掘ることから、中近世の溝(道路)と考えられる。009と010は東西方向に平行して延びる溝である。011と012も同様に平行して延びる溝である。013と014は不整形で、掘り方も一定していない。015は009、010と同じ形態である。他と離れた地点にある016は現代の道路に規制されているように見受けられる。確実に中近世といえる溝は009、010、013、014、015、016で、011と012は不明確である。009の埋土中からスタンプ型の土製品が出土している。これには上面に2か所把手状の張り出しを設け、各々1本ずつの細い孔をあけている。



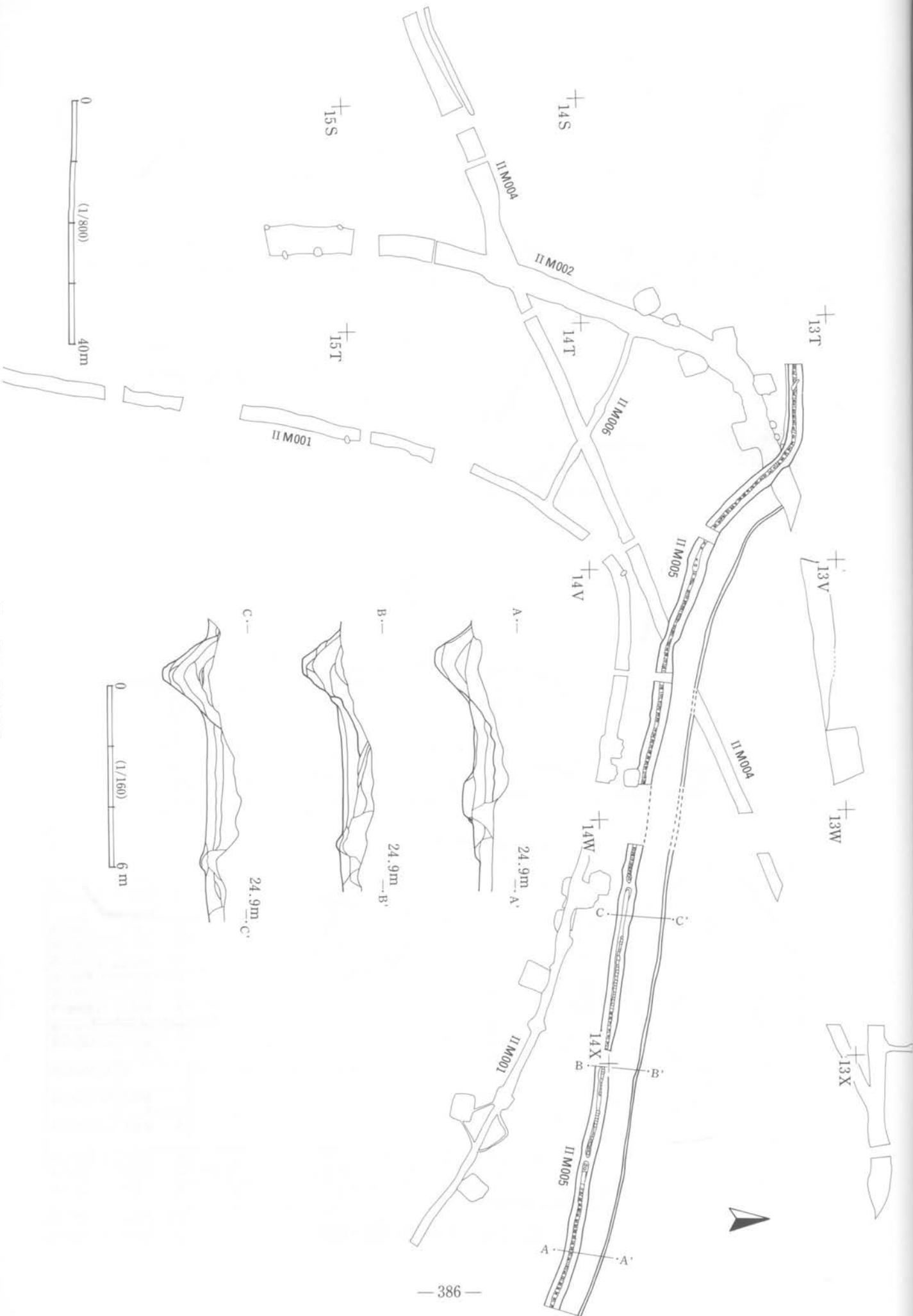
第316図 IIM003・005・008・012・014

表245 IIM003・005・008・012・014

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第316図の1	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「三」	13
第316図の2	土師器 杯	-	-	-	-	-	内黒 墨書(体外)「依」	13
第316図の3	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「口」	9
第316図の4	土師器 杯	-	-	-	-	-	内黒 線刻(底内)「口」	3
第316図の5	須恵器 壺	(19.3)	-	-	石英・長石含む	褐灰色	東海系	4
第316図の6	土師器 壺	(20.7)	-	-	雲母・長石含む	黄褐色～赤褐色		8
第316図の7	須恵器 平瓶	-	-	-	長石・砂粒含む	灰色	自然釉付着	9
第316図の8	土師器 小型壺	-	-	-	雲母含む	-		4
第316図の9	須恵器 甌	-	-	-	雲母・長石含む	灰色	新治産	8
第316図の10	土師器 壺	-	-	-	-	-	線刻(体外)「口」	9
第316図の11	土師器 小型壺	-	-	7.0	雲母・長石・スコリア含む	淡褐色		8
第316図の12	土師器 ミニチュア	-	-	(2.9)	雲母・長石・スコリア含む	暗褐色		4
第316図の13	楔	長さ 7.7 幅 2.0～2.6	-	厚さ 1.0	鉄製品	-		6
第316図の14	土師器 高台付杯	-	-	5.4	-	橙色	墨書(体外)「口」	2
第316図の15	土師器 杯	-	-	-	-	-	内黒 墨書(体外)「口」	6
第316図の16	土師器 杯	-	-	(7.2)	長石・砂粒含む	黒褐色～淡褐色		1
第316図の17	土師器 杯	(11.7)	3.7	(6.4)	長石・スコリア含む	淡褐色		2
第316図の18	陶器 鉢	-	-	-	砂粒含む	内面灰色 外面淡黄色	内外面施釉	2
第316図の19	須恵器 小型壺	-	-	(7.1)	長石・砂粒含む	灰色		2
第316図の20	須恵器 杯	-	-	(10.2)	雲母・長石含む	灰白色		1

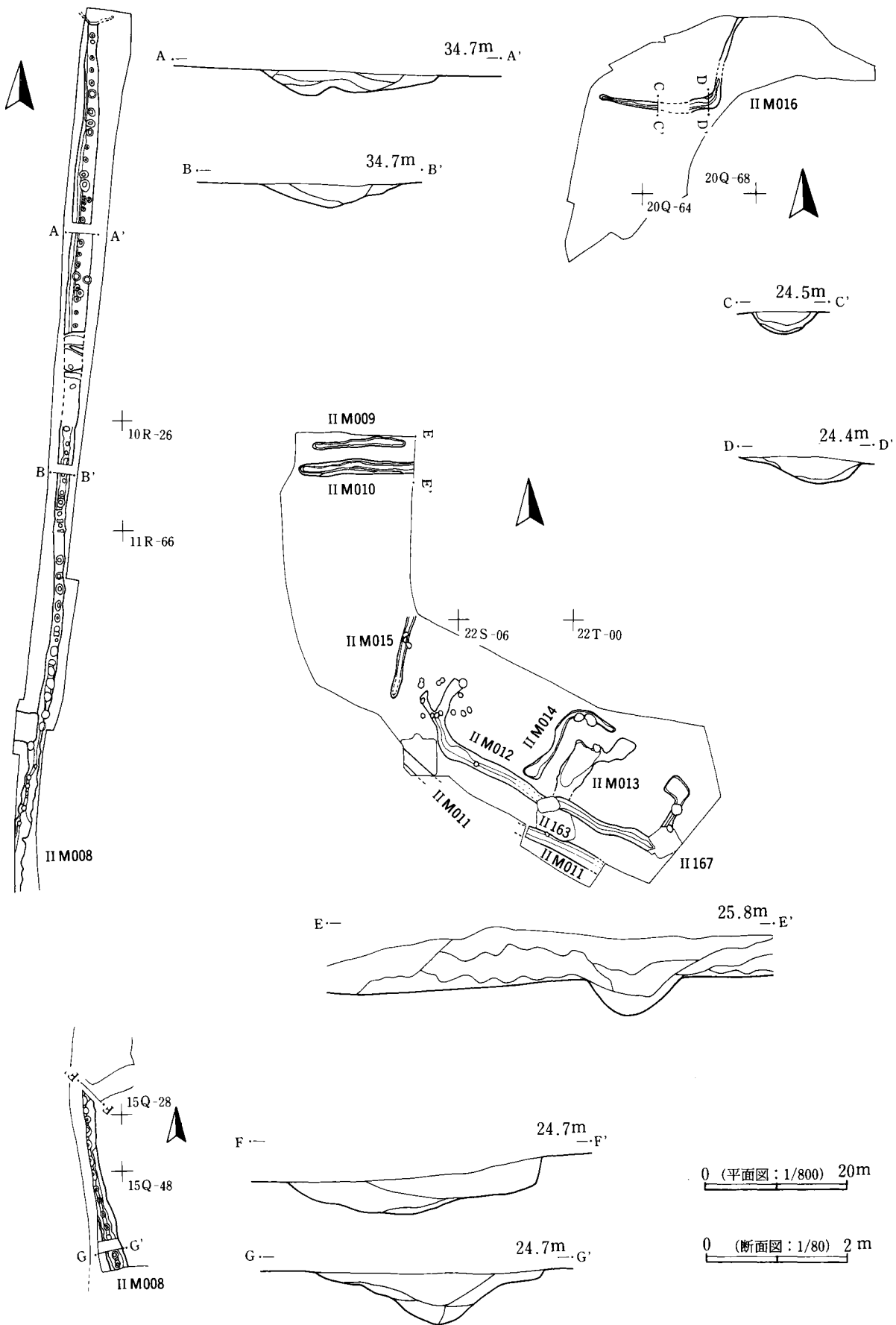


第317图 II M006 · 009 · 010



第318图 II M005





第319図 II M008・009・010・011・012・013・014・015・016

表246 IIM006

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第317図の1	灰釉陶器 碗	—	(3.2)	—	長石含む	灰色		1
第317図の2	陶器 燈明皿	7.7	1.6	2.2	砂粒含む	外面灰白色 内面緑灰色	灰釉掛ける	3

表247 IIM009・010

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第317図の3	土師器 高台付杯	—	—	—	—	—	墨書(底内)「光」	0
第317図の4	不明土製品	最大径 8.2	高さ 4.3	—	雲母・長石含む	赤褐色～黒色	スタンプ型 孔1	0
第317図の5	須恵器 杯	—	—	(7.4)	雲母・長石含む	灰色		2、3
第317図の6	土師器 杯	—	—	(7.5)	雲母・長石・スコリア含む	褐色		1

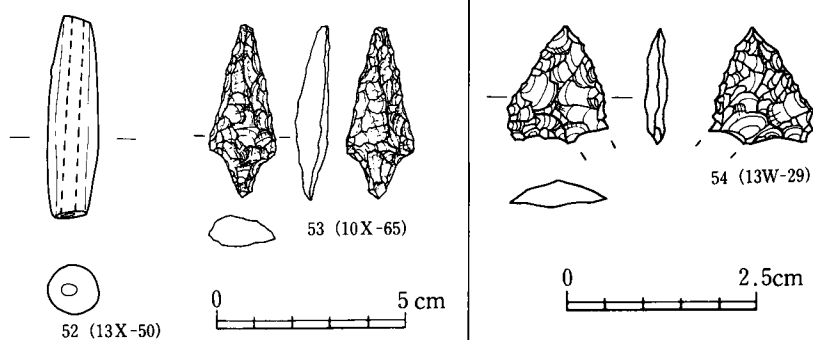
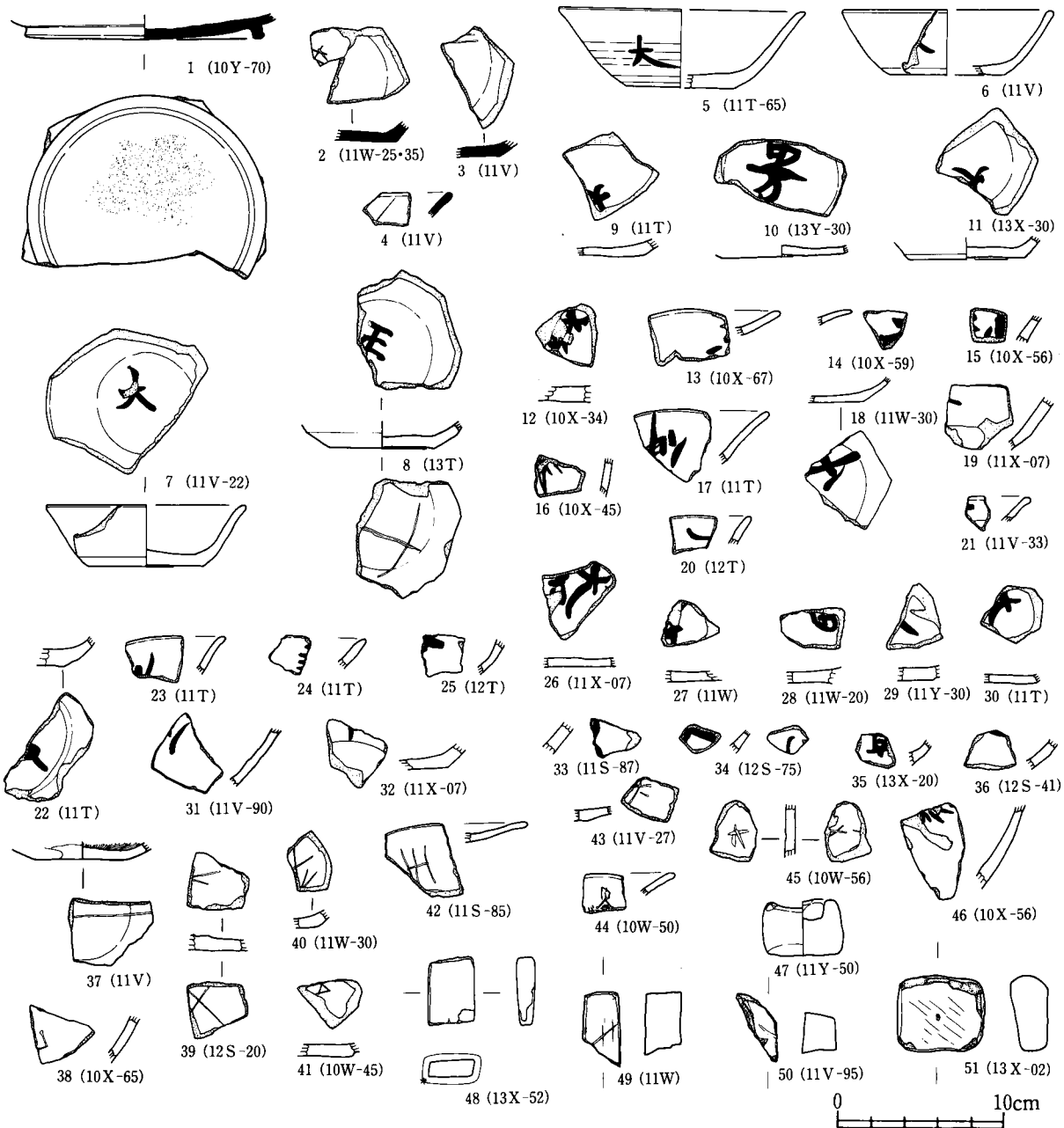
## 第6節 その他表採遺物

ここでは、遺構に伴わない資料を、I、II、N各地点ごとに、出土グリッド単位で、とりまとめて扱った。

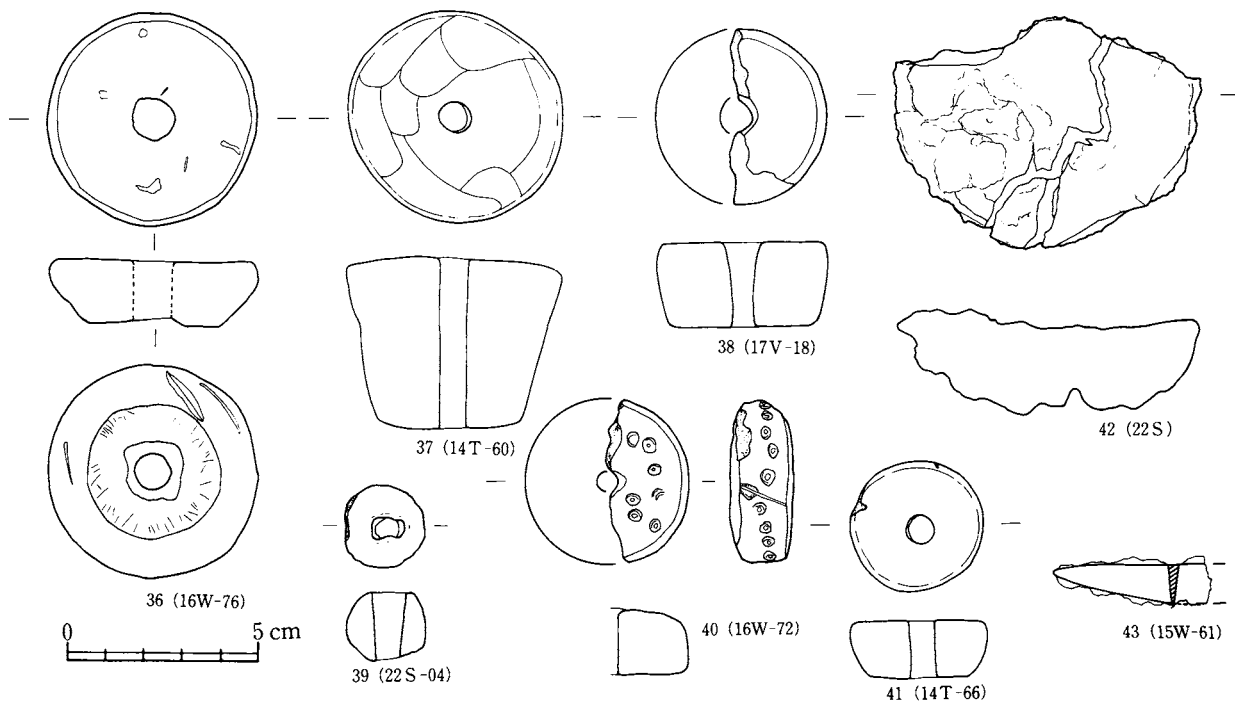
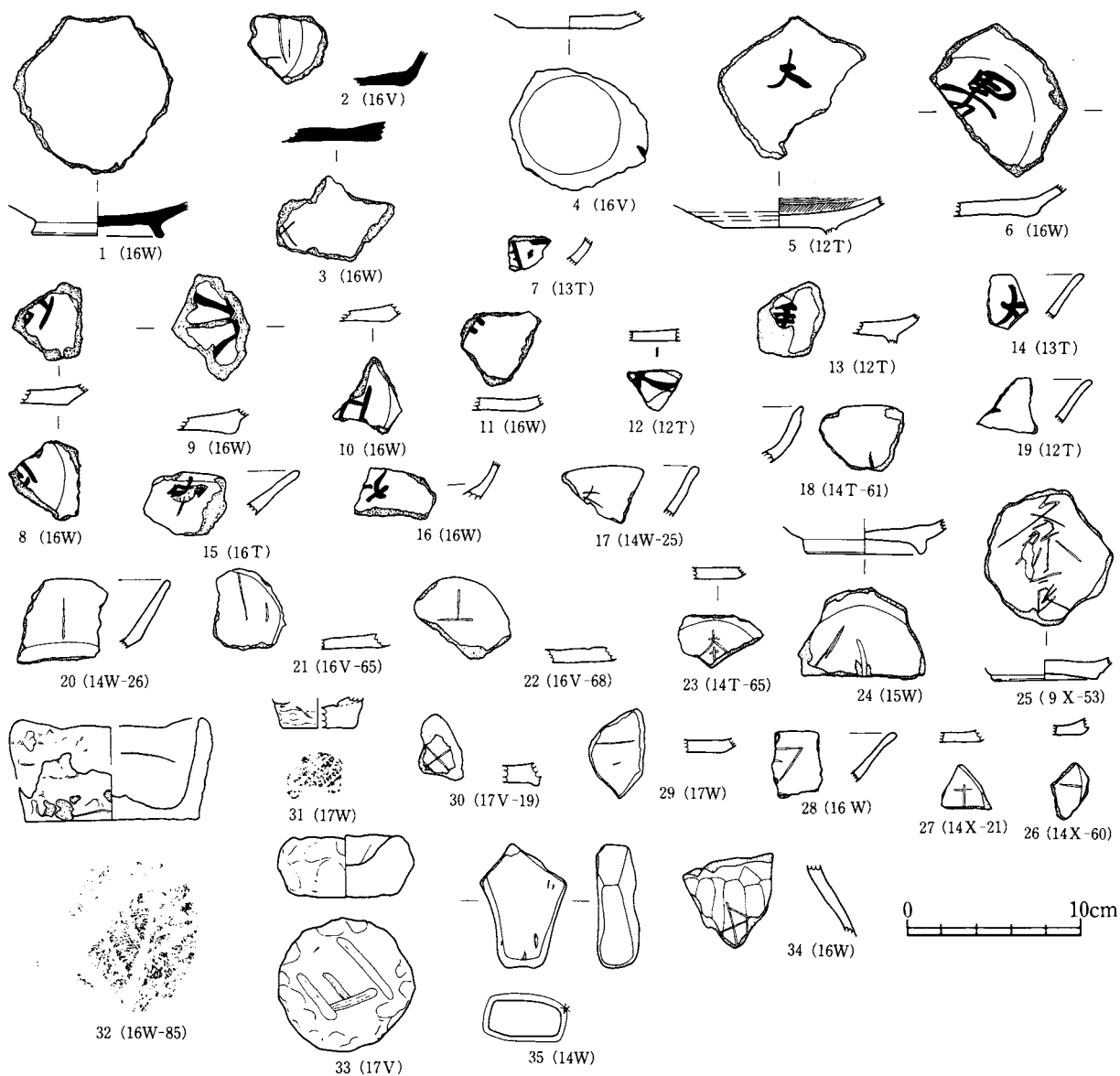
遺物には、文字資料が多数含まれる他、尖頭器、石鏃や剥片などの石器類、帯金具、紡錘車、鉄製品、手捏ね土器などが見られる。

表248 グリッド(I)

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第320図の1	須恵器 高台付盤	-	-	13.9	長石・砂粒含む	灰色	転用碗(高台裏)	10Y-70-1
第320図の2	須恵器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「大」	11W-25-1 11W-35-1
第320図の3	須恵器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「□」	11V-1
第320図の4	須恵器 杯	-	-	-	-	-	線刻(体外)「□」	11V-1
第320図の5	土師器 杯	(14.7)	4.7	(6.4)	長石・砂粒含む	褐色	墨書(体外)「大」	11T-65-1
第320図の6	土師器 杯	(12.4)	4.0	(6.8)	雲母・長石・スコリア含む	褐色	墨書(体外)「□」	11V-33-1
第320図の7	土師器 杯	(11.7)	3.6	(6.8)	雲母・長石・スコリア含む	褐色	墨書(底内)「大」	11V-22-1
第320図の8	土師器 杯	-	-	(6.4)	雲母・長石・スコリア含む	灰褐色	墨書(底内)「王」 線刻(底外)「□」	13T-1
第320図の9	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「大」	11T-2
第320図の10	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「中万」	13Y-30-1
第320図の11	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「大」	13X-30-1
第320図の12	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「大加」	10X-34-1
第320図の13	土師器 皿	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	10X-67-1
第320図の14	土師器 皿	-	-	-	-	-	墨書(体内)「□」	10X-59-1
第320図の15	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	10X-56-1
第320図の16	土師器 甕	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	10X-45-1
第320図の17	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「仲」	11T-2
第320図の18	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外)「千」	11W-30-1
第320図の19	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	11X-07-1
第320図の20	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	12T-1
第320図の21	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	11V-33-1
第320図の22	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外)「□」	11T-1
第320図の23	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	11T-2
第320図の24	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	11T-1
第320図の25	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	12T-1
第320図の26	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「大加」	11X-07-1
第320図の27	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「大」	11W-14
第320図の28	土師器 皿	-	-	-	-	-	墨書(底内)「田」	11W-20-1
第320図の29	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「□」	11Y-30-1
第320図の30	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内)「大」	11T-2
第320図の31	土師器 鉢	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	11V-90-1
第320図の32	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	11X-07-1
第320図の33	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体内)「□」	11S-87-1
第320図の34	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体内)「□」 墨書(体外)「□」	12S-75-1
第320図の35	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	13X-20-1
第320図の36	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	12S-41-1
第320図の37	土師器 皿	-	-	-	-	-	線刻(底外)「□」 内黒	11V-62-1
第320図の38	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(体外)「□」	10X-65-1
第320図の39	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「□」 線刻(底外)「□」	12S-20-1
第320図の40	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内)「□」	11W-30-1
第320図の41	土師器 皿	-	-	-	-	-	線刻(底内)「□」	10W-45-1
第320図の42	土師器 高台付皿	-	-	-	-	-	線刻(体外)「王」	11S-85-1
第320図の43	土師器 皿	-	-	-	-	-	線刻(体内)「大」	11V-27-1
第320図の44	土師器 皿	-	-	-	-	-	線刻(体外)「□」	10W-50-1
第320図の45	土師器 甕	-	-	-	-	-	線刻(体外)「□」 線刻(体内)「□」	10W-56-1
第320図の46	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外)「□」	10X-56-1
第320図の47	手捏ね	3.6	3.4	4.2	雲母・長石・スコリア含む	褐色		11Y-50-1

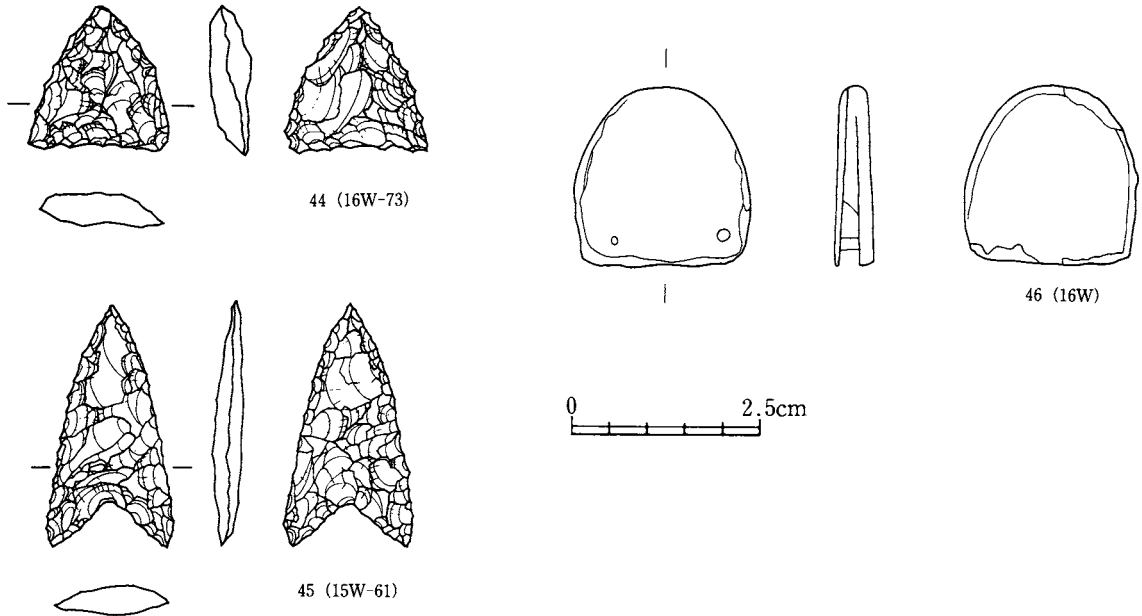


第320図 グリッド出土遺物(I)



第321図 グリッド出土遺物(II)-1

第320図の48	砥石	20.9 g	-	-	砂岩	-	13X-52-1
第320図の49	砥石	28.4 g	-	-	凝灰岩	-	11W-7
第320図の50	砥石	14.0 g	-	-	凝灰岩	-	11V-95-1
第320図の51	砥石	77.2 g	-	-	凝灰岩	-	13X-02-1
第320図の52	土鏃	長さ5.2	最大径 1.3	最小径 0.8	長石・砂粒含む	黒褐色	13X-20-1
第320図の53	有舌尖頭器	最大幅 18.0mm	最大高 44.2mm	最大厚 8.1mm	安山岩、5.18 g	-	10X-65
第320図の54	石鏃	最大幅 13.0mm	最大高 14.7mm	最大厚 3.0mm	黒曜石、0.46 g	-	13W-29-1

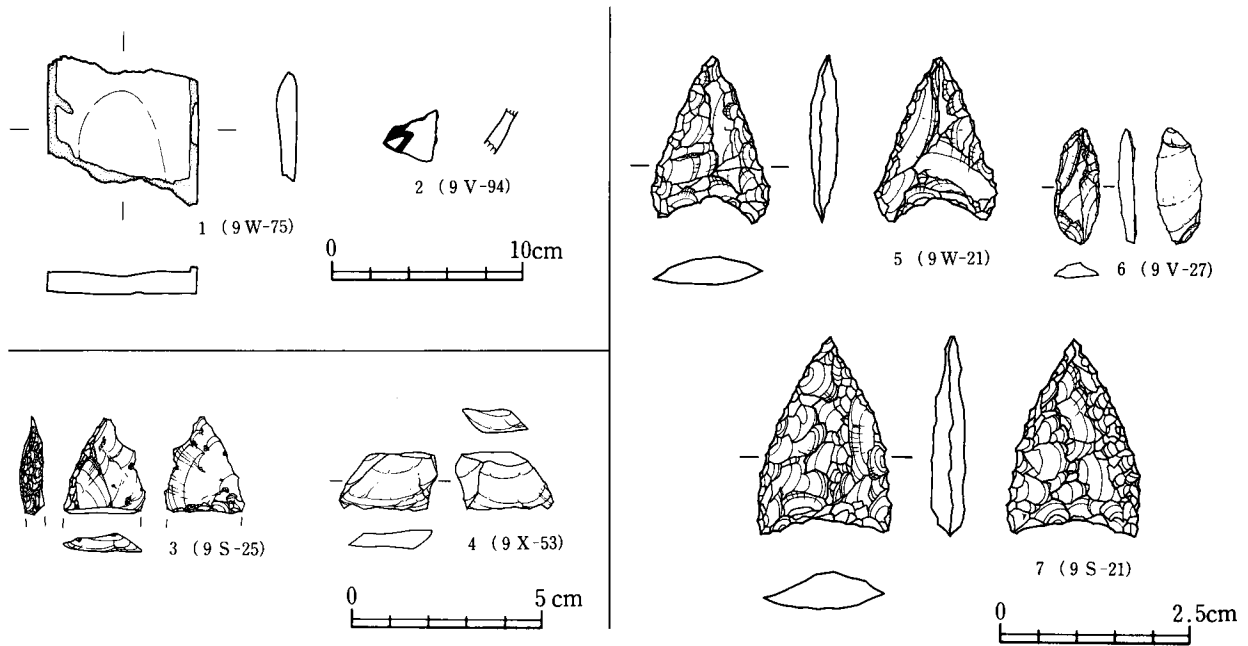


第322図 グリッド出土遺物(II) - 2

表249 グリッド(II)

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第321図の1	須恵器 高台付皿	-	-	7.2	長石・砂粒含む	-	転用硯	16W-95-1
第321図の2	須恵器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内) □	16V-68-1
第321図の3	須恵器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底内) □	16W-84-1 16W-85-1
第321図の4	土師器 杯	-	-	5.6	-	-	墨書(底外) □	16V-65-1
第321図の5	土師器 高台付皿	-	-	-	-	-	墨書(底内) 「大」	12T-1
第321図の6	土師器 皿	-	-	-	-	-	墨書(底内) 「里」 □	16W-86-1
第321図の7	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) □	13T
第321図の8	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) □ 墨書(底外) □	16W-72-1
第321図の9	土師器 皿	-	-	-	-	-	墨書(底内) □	16W-85-1
第321図の10	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外) □	16W-55-1
第321図の11	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底内) □	16W-83-1
第321図の12	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外) 「大」	12T-1
第321図の13	土師器 高台付皿	-	-	-	-	-	墨書(底内) 「手」	12T-1
第321図の14	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(底外) 「大」	13T
第321図の15	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) 「中」	16T-68-1
第321図の16	土師器 皿	-	-	-	-	-	墨書(体外) 「大」	16W-86-1
第321図の17	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(体外) 「大」	14W-25-1
第321図の18	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体内) □	14T-61-1
第321図の19	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書(体外) □	12T-1
第321図の20	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(体外) □	14W-26-1
第321図の21	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底外) □	16V-65-1
第321図の22	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底外) 「」	16V-68-1
第321図の23	土師器 杯	-	-	-	-	-	線刻(底外) 「本」	14T-65-1
第321図の24	灰釉陶器 高台付塊	-	-	(6.6)	-	-	線刻(底内) □ 転用硯	15W-16-1
第321図の25	土師器 杯	-	-	5.8	雲母・長石含む	赤褐色	線刻(底内) 「久弥良」	9X-53

第321図の26	土師器	杯	-	-	-	-	-	線刻 (底外) 「□」	14X-60-1		
第321図の27	土師器	杯	-	-	-	-	-	線刻 (底外) 「+」	14X-21		
第321図の28	土師器	杯	-	-	-	-	-	線刻 (体外) 「□」	16W-86-1		
第321図の29	土師器	杯	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「□」	17W		
第321図の30	土師器	高台付皿	-	-	-	-	-	線刻 (底内) 「□」	17V-19-1		
第321図の31	手捏ね		-	-	-	-	-	底外木葉痕	17W		
第321図の32	手捏ね		(10.5)	5.3	10.0	雲母・石英・長石含む	褐色	底外木葉痕	16W-85-1		
第321図の33	手捏ね		6.0	3.5	5.0	雲母・長石・スコリア含む	淡褐色	底外棒状工具圧痕	17V		
第321図の34	土師器	甕	-	-	-	-	-	線刻 (体外) 「□」	16W-71-1		
第321図の35	砥石		86.7g	-	-	凝灰岩	-	-	14W		
第321図の36	紡錘車	上面径	6.5	下面径	3.5	最大高	1.7	雲母・長石・スコリア含む	黒色	16W-76	
第321図の37	紡錘車	上面径	3.5	下面径	3.9	最大高	4.4	長石・石英・スコリア・砂粒含む	-	14T-60-1	
第321図の38	紡錘車	上面径	4.6	下面径	3.8	最大高	2.2	長石・砂粒含む	黒褐色	17V-18-1	
第321図の39	土玉	直径	2.1	高さ	1.9	重量	6.5g	-	-	22S-04	
第321図の40	紡錘車	最大径	4.3	最大孔径	0.5	最大高	1.7	スコリア・雲母・長石含む	淡褐色	刺突文	16W-72-1
第321図の41	紡錘車	上面径	3.5	下面径	2.6	最大高	1.5	滑石	-	-	14T-66-1
第321図の42	椀形滓	縦	6.0	幅	8.1	厚さ	2.4	157.20g	-	-	22S-04-1
第321図の43	刀子	残存長	4.1	-	-	-	-	鉄製品	-	-	15W-61-1
第322図の44	石鏃	最大幅	18.2mm	最大高	18.7mm	最大厚	5.9mm	チャート、1.79g	-	-	16W-73
第322図の45	石鏃	最大幅	16.6mm	最大高	31.3mm	最大厚	4.2mm	チャート、1.65g	-	-	15W-61
第322図の46	帯金具	縦	2.3	横	2.3	厚さ	0.5	青銅製品、鉈尾	-	-	16W



第323図 グリッド出土遺物(N)

表250 グリッド(N)

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第323図の1	碗	最大長 5.4	最大幅 7.9	最大厚 1.4	粘板岩	-		9W-75-1
第323図の2	土師器 杯	-	-	-	-	-	墨書 (体外) 「□」	9V-94-1
第323図の3	ナイフ形石器	最大幅 20.1mm	最大高 24.5mm	最大厚 6.4mm	黒曜石、0.46g	-	先端部破片	9S-25-1
第323図の4	剥片	最大幅 15.3mm	最大高 25.4mm	最大厚 6.6mm	安山岩、2.03g	-		9X-53-1
第323図の5	石鏃	最大幅 14.7mm	最大高 20.8mm	最大厚 3.8mm	チャート、0.92g	-		9W-21-1
第323図の6	尖頭器	最大幅 11.9mm	最大高 30.1mm	最大厚 4.7mm	珪質頁岩、1.81g	-		9V-27-1
第323図の7	石鏃	最大幅 17.5mm	最大高 25.1mm	最大厚 4.7mm	黒曜石、1.56g	-		9S-21-1





### 第3章 白井谷奥遺跡

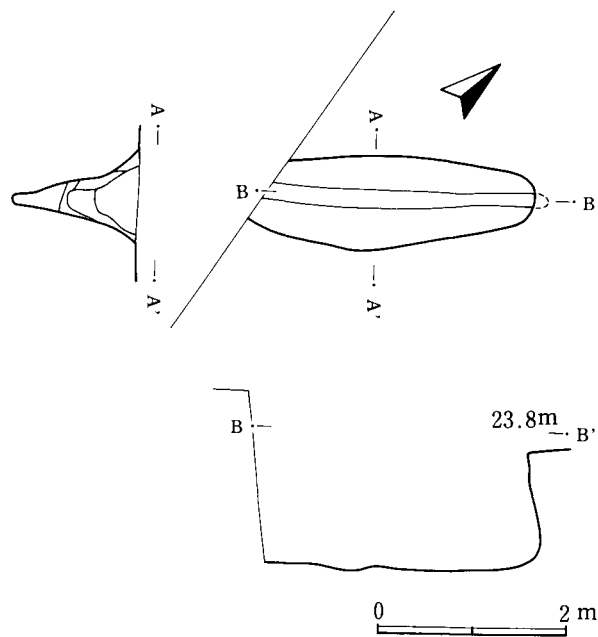
白井谷奥遺跡は、台地中央を南北に延びる現道を境として、鳴神山遺跡の西側に立地する遺跡である。したがって、鳴神山遺跡とは、同一の遺跡と捉えられる。

調査区は、面積が2,244m<sup>2</sup>と、鳴神山遺跡の調査面積に比較してかなり狭く、また、全体的に周辺の遺構密度が低いからか、検出遺構数は極めて少ない。加えて、非常に広い範囲で、後世の攪乱を受けている。

#### 第1節 縄文時代

##### 003 (第325図、図版177)

縄文時代の遺構は、陥穴が1基である。調査区西端の境界線に検出した。確認面で、推定長軸3.6m、短軸1.0m、深さ1.2mである。

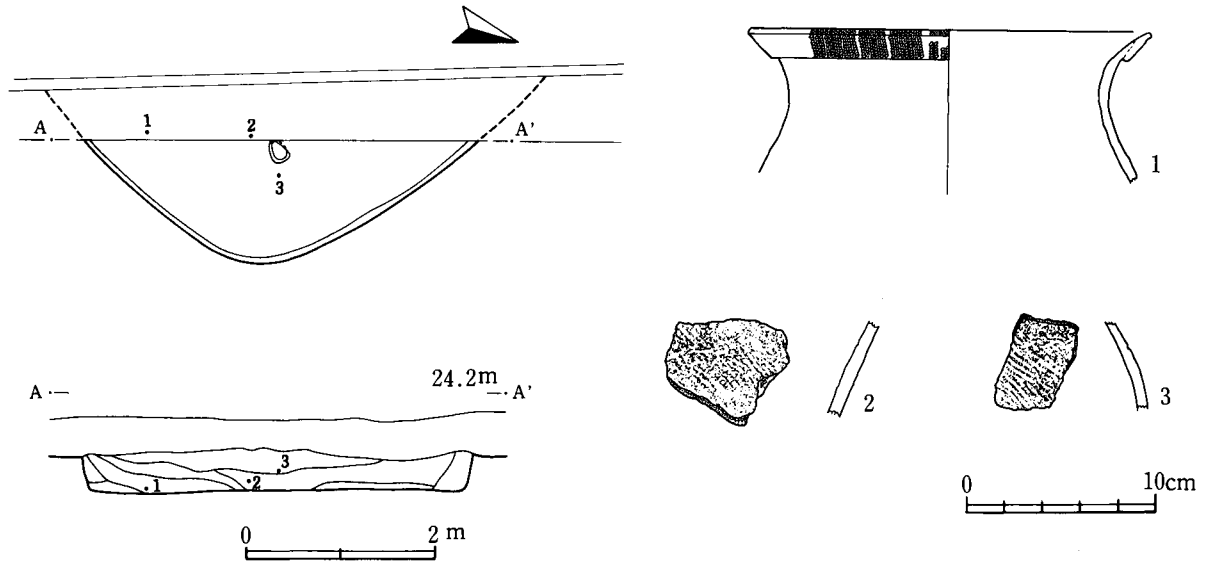


第325図 003

## 第2節 弥生時代後期

### 002 (第326図、図版177)

調査区南西端で、その一部を検出した。確認面からの深さは0.3mと浅い。遺物には甕がある。



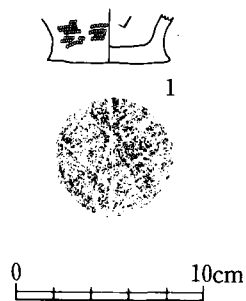
第326図 002

表251 002

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第326図の1	弥生土器 甕	(21.0)	(7.6)	-	雲母、石英、長石含む	淡赤褐色		8
第326図の2	弥生土器 甕	-	(4.7)	-	長石多量に含む	黒褐色		7
第326図の3	弥生土器 甕	-	(4.5)	-	雲母、長石、スコリア含む	淡褐色		2

### グリッド出土土器 (第327図)

16Lグリッドで、弥生土器甕の底部が出土している。



第327図 グリッド出土土器

表252 16Lグリッド

挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第327図の1	弥生土器 甕	-	(2.5)	(6.5)	雲母、石英、長石含む	暗褐色	底外木葉痕	1

### 第3節 奈良・平安時代

#### 001 (第328・329図、図版177・178)

掘込みのしっかりした、隅丸方形の、やや小型の竪穴住居である。主柱穴はないが、壁溝は竈下を除いて全周する。床面は東及び西壁際を除いて、硬く締まっている。竈は袖部が比較的良く残っている。竈内及び竈前面から、土師器甕の破片が、まとまって出土している。遺物には、須恵器甕の胴部片を硯に転用したものや、小型甕などが出土している。また、土師器杯の体部外面には「中」の墨書が見られるものもある。8世紀の後半ごろの住居と考えられる。

表253 001

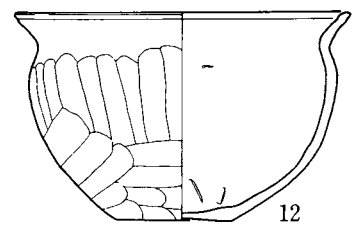
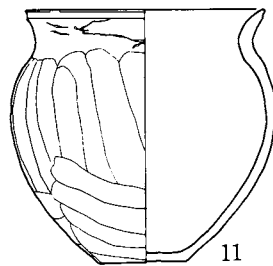
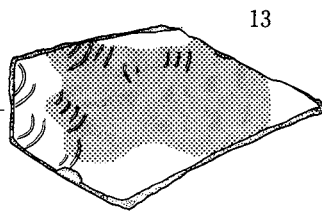
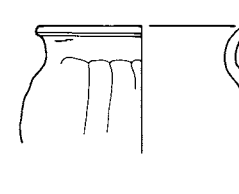
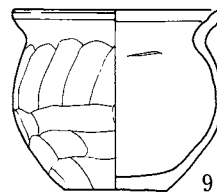
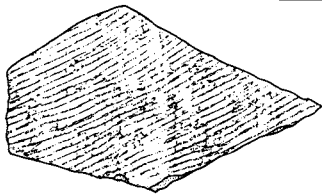
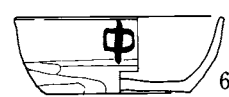
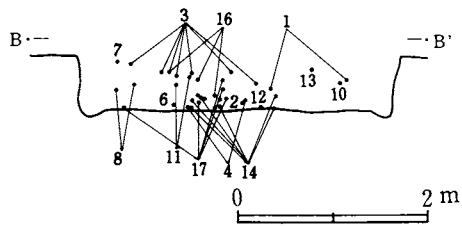
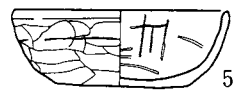
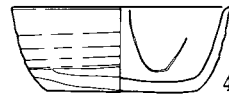
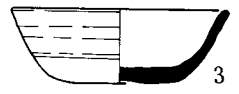
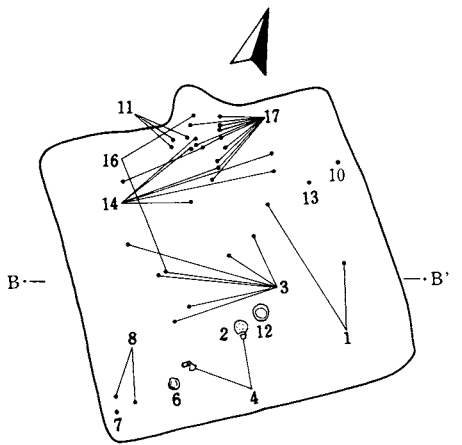
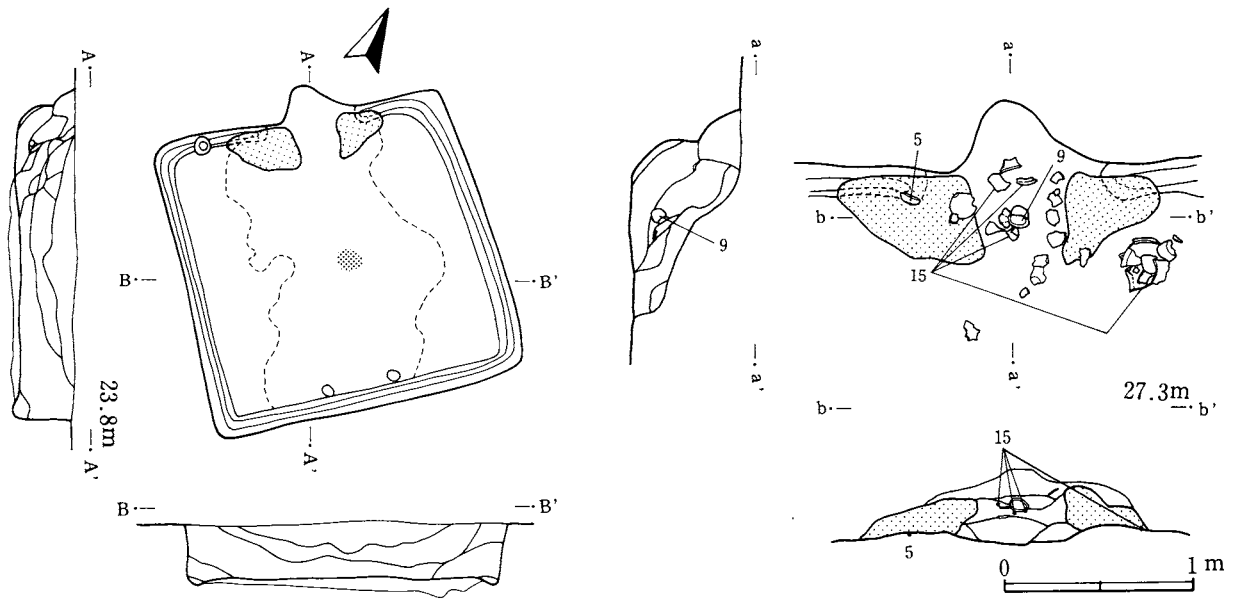
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第328図の1	須恵器 高盤	(19.6)	-	-	石英、長石多く含む	青灰色		11、48
第328図の2	須恵器 杯	12.7	4.2	8.6	雲母、長石、スコリア含む	淡青灰色		54
第328図の3	須恵器 杯	11.3	3.7	5.4	長石含む	青灰色		1、8、9、19、27、28、51、52
第328図の4	土師器 杯	11.4	4.3	8.0	雲母、長石、スコリア含む	淡褐色	線刻(体内)「□」	55、56、85
第328図の5	土師器 杯	11.2	3.9	6.9	雲母、石英、長石、スコリア含む	淡褐色	線刻(体内)「+」	58
第328図の6	土師器 杯	11.1	4.0	7.6	雲母、長石、スコリア含む	淡褐色	墨書(体外)「中」or「申」	57
第328図の7	土師器小型甕	(10.6)	-	-	雲母、長石、スコリア含む	暗褐色		21
第328図の8	土師器小型甕	-	-	6.6	雲母、長石、スコリア含む	暗褐色		23、24
第328図の9	土師器小型甕	10.8	9.4	5.5	雲母、石英、長石、砂粒含む	淡褐色		75
第328図の10	土師器小型甕	(10.8)	-	-	雲母、長石、スコリア含む	淡褐色		36
第328図の11	土師器小型甕	12.5	13.1	4.5	雲母、長石、スコリア含む	明褐色		40、59、60
第328図の12	土師器小型甕	17.5	10.9	6.2	雲母、石英、長石、スコリア含む	淡褐色		53
第328図の13	転用硯	-	-	-	長石、砂粒含む	灰色	須恵器甕胴部片	13
第329図の14	土師器 甕	19.7	25.2	8.2	雲母、長石、スコリア含む	灰褐色		33、61、63、71、72、77
第329図の15	土師器 甕	(19.0)	-	-	雲母、長石、スコリア含む	淡褐色		63、70、79、83、84
第329図の16	土師器 甕	(19.8)	-	-	石英、長石、雲母多く含む	淡褐色		1、50、51、78
第329図の17	土師器 甕	-	-	(6.1)	石英、長石、砂粒多く含む	淡褐色		3、30、64、66、67、68、69、74、76、77、79、82、84

#### 004 (第330図、図版177・178)

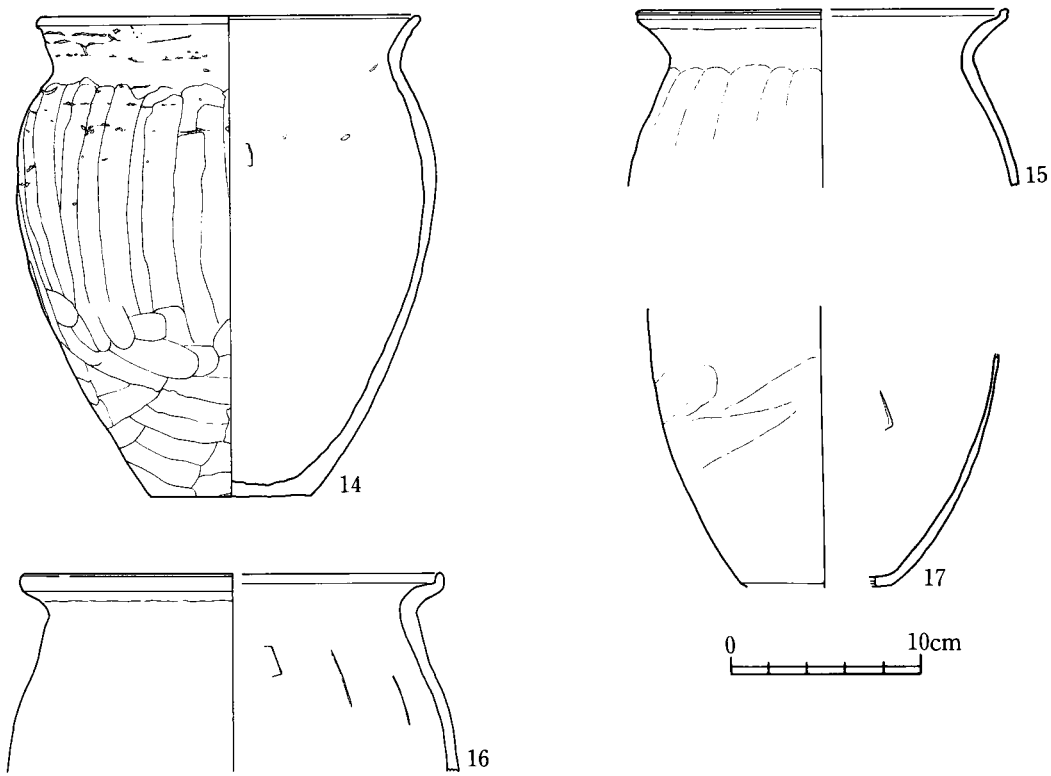
この遺構は、鳴神山遺跡のIIM004道路遺構の延長に当たる。一度中心線をずらして造り替えられている。掘込みは浅く、立上がりも緩やかである。幅は2mほどで、調査区東端で大きく攪乱を受けている。遺物には、手捏ね土器片が覆土中層より多く出土している。

表254 004

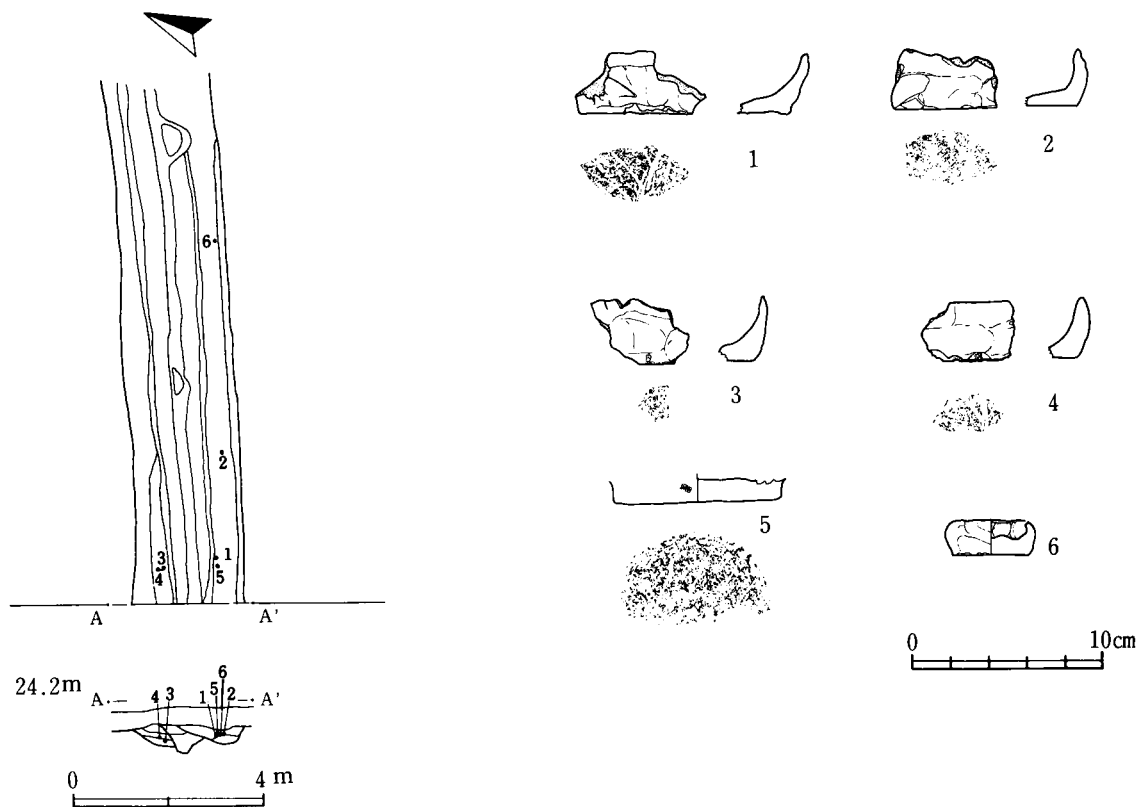
挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	遺物番号
第330図の1	手捏ね	-	(2.2)	-	雲母、長石、石英、スコリア含む	淡褐色		9
第330図の2	手捏ね	-	(2.0)	-	雲母、長石、スコリア含む	淡褐色		13
第330図の3	手捏ね	-	(2.3)	-	雲母、長石、スコリア含む	淡褐色		3
第330図の4	手捏ね	-	(2.0)	-	スコリア多量に含む	淡褐色		4
第330図の5	弥生土器 甕	-	(1.3)	(9.9)	長石多量に含む	暗褐色	底部木葉痕	8
第330図の6	手捏ね	4.2	1.8	4.0	長石、スコリア含む	暗褐色		18



第328图 001(1)



第329图 001(2)



第330图 004

## 第4章 まとめ

### 第1節 奈良・平安時代の集落

鳴神山遺跡の調査では202軒の奈良・平安時代の竪穴住居を検出した。また、隣接する白井谷奥遺跡では同時期の竪穴住居を1軒検出した。同一の遺跡としてとらえられる両遺跡における、主体をなす奈良・平安時代の竪穴住居の所属年代及び集落の展開を、その出土遺物や検出遺構の新旧関係を基に、周辺の他の遺跡の遺物の年代観や研究成果<sup>1)</sup>を参考にしてまとめてみる。

まず、8世紀初頭の特徴的な遺物には、盤状杯や口縁の内側にかえりをもつ須恵器杯蓋などがあげられる。8世紀の第3から第4四半期の遺物は、箱形をしたロクロ土師器杯の出現が基準となる。ロクロ未使用の土師器は次第に少なくなり、9世紀第2四半期ごろには消滅する。8世紀末から9世紀初頭には内面を黒色処理した杯が出現し、杯に関しては、それまで支配的であった須恵器の割合が極めて少なくなる。8世紀を通して甕は、雲母や石英・長石を多量に含む、体部をヘラミガキするいわゆる常総型が主体をなす。8世紀後半から9世紀前葉にかけて茨城県新治窯で須恵器生産がピークを迎え、この時期に下総国まで多量に供給される。9世紀第2四半期以降は皿形の土師器が出現する。逆に言えば、それ以前には、皿形の土師器は伴わないことになる。また、次第に常総型の甕は見られなくなる。9世紀第3四半期には杯はほとんどが土師器になる。この杯は口径に比べて底径が小さく、口縁端が外側へ引き出されるような形状である。以上の点を考慮して作成したのが表6である。

サンプリング遺構数は、比較的まとまった資料が出土した183軒である。時代を四半世紀ごとに区切って表を作成し、各時期の遺構数を最下欄に合計した。しかし、竪穴住居からの出土遺物から見ると年代的にかなり幅が見られるため、1軒の住居が数時期にわたるものがほとんどで、単純に四半世紀内におさめることはできない。したがって、表最下欄の数値を単純に合計すると、遺構数を遙かに上回ってしまうことをあらかじめ断っておく。

この結果、時代ごとの住居数を概観すると、7世紀代（古墳時代後期）の住居はわずかに2軒を数えるのみである。これが、次期の集落へ直接発展するとは考えにくい。8世紀第1四半期には住居は25軒となり、この時期に集落の形成が始まる。つづく第2四半期には34軒、第3四半期には57軒と着実にその規模が大きくなっていく。そして、最も集落規模が大きくなるのは9世紀第2四半期の97軒である。以後、第3四半期には66軒とやや規模を小さくし、第4四半期には20軒と激減する。そして10世紀第2四半期をもって、集落の終焉を迎える。

集落の展開を、遺構の配置から見ると、8世紀第1四半期の両遺跡における集落の発生期には、特に著しく遺構が集中する地点はない。強いて言えば、調査区北端及び調査区南端に多い傾向にある。

集落の最も繁栄する9世紀第2四半期には竪穴住居はほぼ調査区全域を覆い尽くすようになる。すなわち、それまで余り見られなかった台地奥部への展開、調査区北側の、東から入り込む浅い谷津に面した地点など、広範囲に集落が展開する様子が窺える。

急速に衰退する集落は、10世紀第2四半期ころには小型の住居が散在するのみとなる。

表255 主な古墳時代後期から奈良・平安時代竪穴住居年代

鳴神山遺跡	600	700	800	900
I003				
I004				
I005				
I006				
I007				
I008				
I009				
I011				
I012				
I013				
I014				
I015				
I018				
I019				
I020				
I022				
I023				
I024				
I025				
I027				
I028				
I029				
I030				
I031				
I032				
I033				
I034				
I035				
I036				
I037				
I038				
I039				
I040				
I041				
I042				
I043				
I044				
I045				
I046				
I047 A				
I047 B				
I048				
I049				
I050				
I051				
I052				
I053				
I054				
I055				
I056				
I057				
I058				
I059				
I060				
I061				
I062				
I063				
H001				
H003				
H004				
H005				
H006				
H007				
H009				
H011				
H012				
H013				
H014				
H015				
H018				
H020				
H021				
H022				
H025				
H026				
H027				
H028				
H030				
H031				
H032				
H033				
H034				
H035				
H036				
H037				
H038				
H040				
H043				
H044				
H048				
H049				
H056				
H057				

鳴神山遺跡	600	700	800	900										
II058														
II059														
II061														
II062														
II063														
II064														
II065														
II066														
II068														
II069														
II070														
II071														
II073														
II074														
II077														
II078														
II080														
II081														
II082														
II083														
II084														
II088														
II090														
II093														
II094														
II095														
II096														
II097														
II101														
II105														
II106														
II107														
II109														
II110														
II111														
II113														
II115														
II118														
II120														
II121														
II122														
II123 A														
II123 B														
II123 C														
II124														
II125														
II126														
II127														
II128														
II129														
II130														
II132														
II133														
II134														
II135														
II137														
II138														
II139														
II140														
II141														
II142														
II143														
II144														
II145														
II146														
II147														
II148														
II149														
II150														
II155														
II156														
II157														
II158														
II161														
II162														
II163														
II164														
N195														
N196														
N197 A														
N197 B														
N198														
N199														
N200														
N201														
III170														
III173														
III175														
III180														
白井谷奥遺跡														
001														
合計	2	2	2	2	25	34	57	51	67	97	66	20	4	4

## 第2節 出土文字資料

鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡から発見された遺構や遺物のうち、これまでの大きな成果の一つに、膨大な数の出土文字資料（記号も含める）<sup>2)</sup>があげられる<sup>3)</sup>。千葉県内の奈良・平安時代の遺跡から出土した出土文字資料は、墨書・ヘラ書き・線刻<sup>3)</sup>土器がその大半を占めており、全国的に見ても出土量が飛び抜けて多い県であるが<sup>4)</sup>、その中でも、一つの遺跡単位から出土した資料として、鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡は県内でも有数な遺跡である。

調査の結果、総数985点の墨書・線刻・ヘラ書き土器及び土器片が発見された。内訳は墨書のみ567点、線刻のみ367点、ヘラ書きのみ36点、墨書と線刻のある土器13点、線刻とヘラ書きのある土器2点である。また、1つの土器に複数の文字(文)が書かれている場合があり、文字組数としては総数1,095組(墨書643組、線刻414組、ヘラ書き39組)となる。

鳴神山遺跡 ( )内は組数、□は不明文字1文字を表す

### 1) 4文字以上の墨書・ヘラ書き

別に説明

### 2) 3文字以内の墨書

久弥良、久弥又は弥良(7)、丈部(1)、丈尼(1)、方代(1)、知益(1)、名足(1)、权了(1)、本家(1)、申牛(1)、最(1)、佛(1)、光(5)、得(1)、大八(4)、大加(17)、大(118)、加(3)、千万(7)、中万(13)、七(1)、万(7)、千(8)、南千(1)、大または万(1)、七万(4)、上万(2)、富(16)、酒方(1)、酒(1)、井(4)、⊕ (1)、又(1)、有(1)、田(2)、⊕ (5)、庚(2)、里(5)、支(7)、久(1)、依(49)、衣(5)、太(3)、犬(12)、成(2)、弓(4)、入(1)、伴(2)、王(3)、玉(3)、手(3)、長(3)、中(3)、小(1)、高(7)、子(3)、佰(1)、法(1)、丈(1)、国(1)、之(2)、仲(2)、任(1)、寺(1)、常(1)、鳥(1)、山本(8)、子山本(1)、山□(1)、天または大(1)、□大(1)、大□(2)、□足(1)、大または犬(1)、千□(1)、□万(2)、家□(1)、□大加(1)、里□(1)、四または卍(3)、富+□または富卍(?) (1)、□…万…□…□(1)、+(7)、+(1)、三(6)、白~(1)、~(1)、↑または↓(2)、工(12)、王(3)、𠂇(1)、早(1)、𠂇(3)、|𠂇| (1)、□□(4)、□(191)

### 3) 線刻

久弥良(14)、大加(30)、大(32)、山本(6)、千万(3)、中万(1)、七万(2)、七(1)、大八(2)、万(1)、富(4)、富長(1)、井右(1)、方代(1)、部得(1)、山方(1)、木富(1)、王(6)、玉(1)、久(8)、之(1)、又(2)、田(1)、畠(1)、里(3)、千または丈(2)、神(3)、酒(2)、支(1)、長(1)、依(3)、文(1)、益(1)、太(1)、弓(1)、子(1)、光(1)、中(1)、下(1)、才(1)、本(1)、□□大□(1)、鬼□(1)、水□□(1)、𠂇(1)、□任(1)、山本□(1)、□女(1)、大□(2)、×または+(40)、卍(7)、+(6)、-または| (3)、≡(1)、井(7)、三(2)、|| (1)、卍(2)、卍(1)、卍(1)、↑または↓(1)、×(1)、𠂇(1)、工(1)、丁(2)、巾(1)、手(2)、□(174)、□□(2)

### 4) ヘラ書き

大(1)、久(1)、前(1)、万(2)、×または+(5)、八(2)、-または| (2)、⊕(1)、□□



□□(1)、□(22)

白井谷奥遺跡( )内は組数、□は不明文字1文字を表す

1) 墨書

中または申(1)

2) 線刻

王(1)、□(1)

さらにこれらの出土文字資料には、幾つの特徴がある。それらは、現在の出土文字資料の中の墨書・ヘラ書き・線刻土器研究<sup>9)</sup>の、良好な素材となる要素をほとんど網羅しているといっても過言ではない。この多量の資料の中から、特徴のある幾つかの資料を紹介する。

(1) 主な多文字の墨書土器・ヘラ書き土器

1はI014(竪穴住居)から出土した8世紀第3四半期の土師器杯である。内外面とも全面赤色塗彩をしている。墨書は体部外面・内面に記載されている。(第331図、図版170)

「丈尼 丈部山城方代奉」(体部外面 倒位・横位)

「丈尼」(体部内面 倒位)

複数(2名)の人名を書いた墨書土器である。「方代奉」は、八千代市萱田遺跡群北海道遺跡から発見された墨書土器に「丈部乙刀自女形代」があり、おそらく同じ意味であろう。同様な「方代」は6の小型甕の小破片にも線刻されている。これに加えて、未接合であるが同一個体と考えている別破片に「神」の線刻もある。これらのことから、おそらく6も多文字の線刻土器であり、人名も書かれていたのではないかと考えられる。1が出土した竪穴住居からは、住居の廃絶に伴って、祭祀用の鉢や小型甕が、まとめて一定の場所から出土しており、この墨書土器との関連性が想定できる。

2はII061(竪穴住居)から出土した9世紀第1四半期の土師器杯である。墨書は体部外面に記載されている。(第331図、図版174)

「同□[ ] 因鬮刀自女召代進上」(体部外面 横位)

「同」以下のかんりの文字数が、土器の欠損のため不明である。「進上」の次に数文字分の空白があり「同□」が書かれることから、この墨書は「同□」から始まると判断した。全体で11文字を確認した。欠損した部分にも文字が存在したと考えられ、復元するとおそらく20数文字が書かれていたと想定できる。「召代」の「召」は、図で示したとおり「女代」と書いたあとに書き足している。人名が書かれていたことは間違いないが、固有名部分は欠損している。I029(竪穴住居)からも土師器杯の底部外面に、「□文刀自女」と墨書された資料が出土している。(図版170)

この墨書土器に関連する資料として、芝山町庄作遺跡から見つかった杯の内面に人面を墨書し、体部外面に、「丈部真次□〔召カ〕代国神奉」と記載したものがある。この遺跡の出土文字資料の解説を担当した

平川南氏によれば、「召」だとすると「招代」であり、丈部真次という人物が、「人面土器を招代として国神をまねき、その神に饗応することを意味している<sup>6)</sup>」と解釈している。2の欠損部分にどのような文字が想定できるか判然としないが、村の祭祀行為を具体的に示す資料の一つとして注目できよう。

3は9世紀第1四半期の土師器杯である。(第331図、図版173)

「大国玉罪」(体部外面 横位)

この墨書土器は、井戸状遺構とした土坑(II040)から、大量の土器、馬と考えられる獣骨の歯と顎の一部分の骨、貝ブロックなどと一緒に一括出土したものの一点である。この井戸状遺構については、湧水を求めるのではなく擬制的な井戸<sup>7)</sup>であり、水に関わる国神への祭祀に使用したものであると考えられる。土器が欠損していることから、4文字以外に墨書があったかは不明であるが、記載した位置と方向から判断して、これ以外にも書かれていた可能性が高い。出土した大量の土器の中には、村の通常の食器としては異質の土師器の高盤もある。また獣骨が歯と顎骨のみであることや、遺構の大きさ・形状から、この大型獣は頭部のみが土坑の中にあったようである。これらのことから、井戸状遺構の周辺で何らかの祭祀を行い、遺構の中にまず大型動物の頭部を投げ込み、続いて墨書土器を含めて祭祀に使用した土器を投棄し、最後に貝殻をブロック状に廃棄したと想定している。その祭祀は、国神へ何らかの罪を逃れるために行った祭祀であり、水に関わる祭祀の可能性もあろう。おそらく戸の祭祀ではなく村単位の祭祀ではなかろうか。

国神(国玉神)に関しては、5の資料も注目できる。(第331図、図版117)

「国玉神 上奉 丈部鳥 万呂」

I006(竪穴住居)から出土した土師器甕の体部外面に4行、10文字の墨書を確認した。「国玉神」のうち、「玉」と「神」については土器の黒斑部分に記載しているため肉眼では全く見えず、赤外線照射で確認し、釈文を決定した。「丈部鳥万呂」が「国玉神」に対して、この土器を使用し、何らかの祈願を行っている。

4は年月日を記載した墨書である。II004(竪穴住居)から出土した土師器杯の体部外面と底部外面の2か所に墨書している。(第331図、図版172)

「□弘仁九年九月廿ヵ [ ]」(体部外面 横位)

「□」(底部外面)

体部外面の墨書については、年紀の前に文字の残画が存在すると考えられ、年紀から始まるのではないことになり、文字内容にも大いに関わってくる。また土器の遺存は年紀部分のみではあるが、記載位置と方向から年紀以外にも多文字が墨書されていた可能性が高い。この土器は年紀以外に祭祀に関わる文字を記載し、何らかの祭祀行為に用いた土器であると考えられる。とすれば、年紀の日付はその祭祀を執り行った日であろうと想定される。

10はI044(竪穴住居)から出土した土師器杯で(第331図、図版171)

「馬牛子皮カ身體カ」(底部内面)

と墨書されているが、残念ながら全く意味不明である。

8は溝(II M002)出土の土師器杯である。底部内面に墨書で「千俣」と記載されている。(第331図、図版176)千俣は、下総国匝瑳郡千俣郷を示す地名であると考えられている<sup>8)</sup>。これまでも県内の幾つかの遺跡から発見されている。現在まで、市川市下総国分寺跡(下総国葛飾郡)、印西市大森天神台遺跡(下総国印旛郡言美郷)、小見川町古屋敷遺跡(下総国香取郡)、八日市場市柳台遺跡(下総国匝瑳郡千俣郷)、東金市久我台遺跡(上総国山邊郡菅屋郷)と鳴神山遺跡で、計6遺跡<sup>9)</sup>となる。すなわち、下総国の広範囲と、匝瑳郡に隣接する上総国北部で出土している。

9はII 157(竪穴住居)出土の須恵器杯である。底部外面に「日下部吉人」と人名をヘラ書きする。(第331図、図版175)時期は8世紀第3四半期で、生産地は常陸国新治窯群である。焼成前のヘラ書きなので、記載した場所は明らかに生産地の新治窯跡群になる。また、鳴神山遺跡から発見された出土文字資料の人名は、ほとんどが「丈部」姓であるが、唯一異なる「日下部」姓である。新治窯跡から大量にもたらされた須恵器の中の1点の人名資料は、窯元の工人名、あるいはそれを管理した人物の名前と考えることができる。

この土器を初めとして、須恵器については圧倒的な量比で常陸国新治窯産が多く、須恵器供膳形態(杯・碗・皿類)で8割以上、煮炊形態(甕類)でも5割程度を占める。ほかには千葉市域産や北武蔵(比企窯跡群)、上総産(永田窯跡群)、東海地方産などを確認している。その他遠来の土器には、I 048(竪穴住居)のハケ目調整の丸底甕、II 118(竪穴住居)のハケ目調整の甕片が、畿内周辺のものである可能性がある。

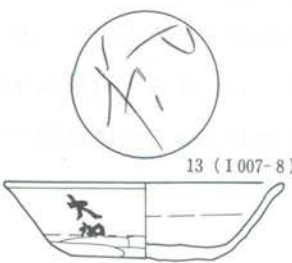
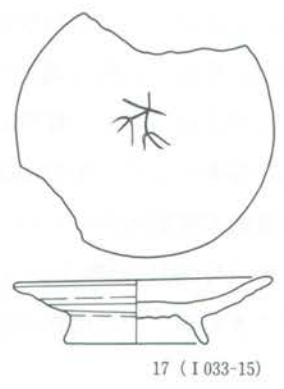
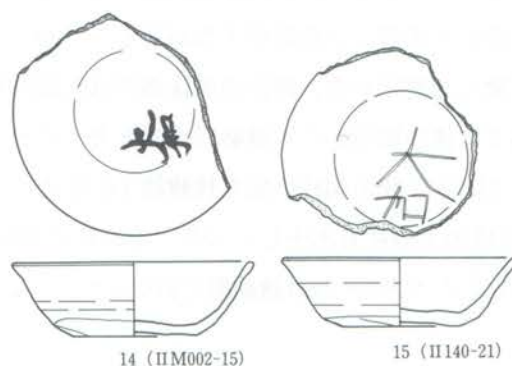
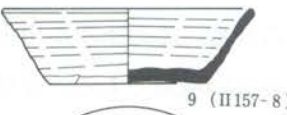
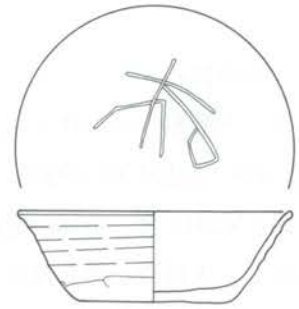
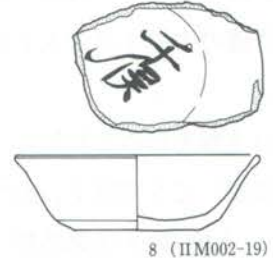
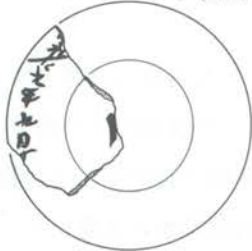
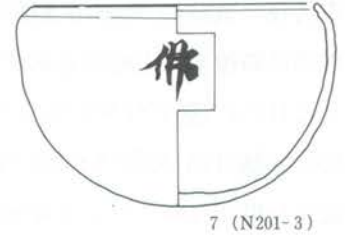
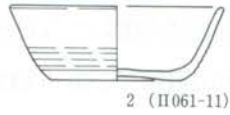
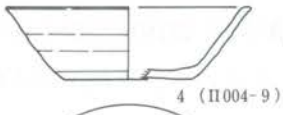
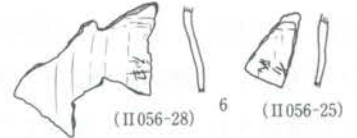
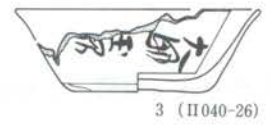
## (2) その他の文字

7は、土師器のいわゆる「鉄鉢(仏鉢)形」の土器である。体部外面に正位で「佛」と墨書している。(第331図、図版176)時期は、他の供伴土器から9世紀第1四半期と考えられる。この土器が出土した竪穴住居(N201)は、鳴神山遺跡の調査区北端に位置し、周辺には全く遺構のない地点である。非常に小型の住居で、床面積が畳2枚分より狭い。本遺跡の奈良・平安時代の竪穴住居の中で、最も小型の住居に属す。また、竈の使用痕跡などから、その存続期間は、通常の他の住居より短かったことも想定できる。これらのことから、この住居は1棟のみで構成され、周辺の建物とは、やや隔離された建物であった可能性が高い。そして、出土遺物に「佛」と墨書した鉄鉢形土器があることから、居住者に僧侶がいたと考えることができる。また、建物の存続した期間から、僧侶の居住期間は比較的短期間であると考えられる。

なお参考として、鳴神山遺跡では他の場所からも鉄鉢形土器と考えられる遺物が出土している(II 142)。また遺構の密集地点の一つに、3間×3間の側柱の掘立柱建物(II H019)が存在する。そのすぐ近くの竪穴住居(II 096)の埋土から、瓦塔の小破片も出土しており、このII H019を、いわゆる「村落内寺院」と想定できるが、先に僧侶の住居としたN201とは直線距離で270mと、かなり離れている点に疑問が残る。

## (3) 字形の変化と合わせ字

字形の変化と合わせ字に関しては、東金市久我台遺跡で「立合」の例が良く知られるところである<sup>10)</sup>。



第331図 文字資料

鳴神山遺跡では、第331図の13～17の「大加」と記載する文字資料に、良好な字形の変化と合わせ文字の例がある。まず墨書や線刻で、正しく2文字書いた資料がある。13（体部外面）・14・15である。さらに詳細に観察すると、13の「大加」は、「大」と「加」を明瞭に分けて、楷書体で記載している。ところが14の「大加」は2文字を寄せて書いている。これが16の「大加」になると、「大」の2画目と3画目を利用して「加」の2画目と4画目としている。さらに17になると、「大」も「加」も文字ではなくなり、もはや一個の活字風になっている。つまり、正字としての「大加」という認識は全くなくなってしまう。出土文字資料の字形に関して、上記のようなことは既に多くの指摘があり<sup>1)</sup>、墨書土器の量の多さをもって、村落内の文字の普及のバロメーターにはならないことを表す具体例である。また、「大加」の字形の変化が、どのような動きをするのか興味あるところである。鳴神山遺跡の「大加」は「大」とともに、遺跡全体を代表する文字であり、出土点数が最も多い。また、集落内のある一定の地点に集中する文字ではなく、遺跡内で広範囲に出土する文字である。このことと字形の変化とは、何らかの関係があると仮定している。

それに関連して、13の土器には底部内面にも線刻があり、こちらは16のような字形である。一つの土器に、正字の「大加」と字形が変化した「大加」が2か所に記載される。このことは土器に文字を書くことが、必ずしも一過性のものばかりではないことを示唆していよう。

また、字形の変化と合わせ文字に関しては、11・12の「久弥良」もその例である。本遺跡では、ほかに「山本」という合わせ文字がある。一つの遺跡で、数種類の字形の変化が段階的にたどれるのも、鳴神山遺跡の特徴の一つである。

以上簡単にまとめたが、今回掲載した鳴神山遺跡Ⅰ・Ⅱ・N・Ⅲの一部以外に、鳴神山遺跡Ⅲ地点及び白井谷奥遺跡の大半が、現在この報告書とは別個に整理作業を実施している段階である。これらの整理が完了した時点で、今回の整理結果を含めて、遺跡全体のより緻密な分析ができるものとする。

## 注

- 1) 史館同人 1983 『房総における奈良・平安時代の土器』 史館同人・市立市川考古博物館  
藤岡孝司 1985 『八千代市北海道遺跡』 (財)千葉県文化財センター  
藤岡孝司 1987 「第3章 まとめ」『八千代市井戸向遺跡』 (財)千葉県文化財センター  
藤岡孝司 1987 「八千代市北海道遺跡(旧印旛郡)」『房総における歴史時代土器の研究』 房総歴史考古学研究会  
郷堀英司 1987 「下総に対するコメント」『房総における歴史時代土器の研究』 房総歴史考古学研究会  
藤岡孝司 1990 「八千代市萱田遺跡群の歴史時代土器」『研究連絡誌』第30号 (財)千葉県文化財センター  
笹生 衛 1990 「房総における黒色土器の展開と終焉」『東国土器研究』第3号 東国土器研究会  
郷堀英司・小林信一 1994 『研究紀要』第14号 (財)千葉県文化財センター  
古代生産史研究会 1997 『東国の須恵器—関東地方における歴史時代須恵器の系譜—』 古代生産史研究会  
赤井博之 1998 「古代常陸国新治寮の基礎的研究(1)～奈良・平安時代の須恵器編年を中心に～」『婆良岐考古』第20号 婆良岐考古同人会
- 2) 田形孝一 1997 「下総国印旛郡船穂郷の歴史景観」『千葉史学』第31号 千葉歴史学会 を加筆・訂正した。
- 3) 土器などの遺物に刻んで記載した文字の場合、記載した文字が焼成前の刻みであるか焼成後の刻みであるかに

よって、記載した文字の解釈には明確な相違がある。このため千葉県では、便宜的に、焼成前の刻みを「へら書き」、焼成後の刻みを「線刻」と呼び区分している。

房総歴史考古学研究会編 1991 『房総における奈良・平安時代の出土文字資料Ⅰ』

4) 最新の集成では、千葉県内全体で一万点を超える出土点数である。千葉県 1996『千葉県の歴史 資料編 古代』

5) 平川 南・天野 努・黒田正典 1989 「古代集落と墨書土器」『国立歴史民俗博物館研究報告』第22集 国立歴史民俗博物館

平川 南 1991 「墨書土器とその字形」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集 国立歴史民俗博物館

平川 南 1993 「地下から発見された文字」『新版 古代の日本10 古代資料研究の方法』

6) 平川 南 1990 「庄作遺跡出土の墨書土器」『千葉県芝山町 小原子遺跡群』山武考古学研究所

7) 田形孝一 1996 「集落から村落へ(1)」『研究連絡誌』第47号 (財)千葉県文化財センター

なおその後、栃木県の中山晋氏から、台地上の井戸状遺構について、氷室である可能性を御教示いただいた。温暖な千葉県にも同様な遺構の類例は多く、すべてが氷室であるという積極的な支持は現段階ではできないが、何らかの室である可能性は否定できない。今後、検討していきたい。

中山 晋 1996 「古代日本の「氷室」の実体」『立正史学』第79号

8) 栗田則久 1994 一II 移動する墨書土器「千俣」— 「出土文字資料と地名」『千葉県史研究』第2号 千葉県

9) 市川市立市川考古博物館 1995 『下総国分寺』 第27回企画展展示図録

10) 萩原恭一 1988 『東金市久我台遺跡』 (財)千葉県文化財センター

11) 平川 南 1991 「墨書土器とその字形—古代村落における文字の実相—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集

表256 古墳時代後期から奈良・平安時代堅穴住居遺構別出土土器片数

遺構	土師器				須恵器				黒色土器	灰釉陶器	その他	総計	時期
	杯・皿・碗	甕・壺・瓶	その他	/全体	杯・皿・碗	甕・壺・瓶	その他	/全体					
I 003	22	73		66%		44		31%	4			143	9C I~9C II
I 004	54	160		77%		64		23%			1	279	9C I~9C II
I 005	0	90		92%	6	2		8%				98	8C
I 006	2	29	3	94%	2			6%				36	8C末~9C初
I 007	303	419	10	87%	14	88		12%			4	838	9C I~9C II
I 008	40	145		92%	2	5		3%	9		1	202	7C
I 009	127	570		88%	7	56		8%	31		4	795	9C前半
I 011	125	199		91%		25		7%	7	1		357	9C III~10C前半
I 012	6	107		100%				0%				113	7C
I 013	18	66		73%	13	2		13%	3		13	115	8C III~8C IV
I 014	21	267		96%	6	3		3%			2	299	8C後半~9C I
I 015	188	353		89%	1	57		10%	6		3	608	9C II~9C IV
I 016	23	11		100%				0%				34	
I 018	172	472		85%	4	88		12%	12		9	757	9C II~9C IV
I 019	122	251		89%	3	31		8%	10		1	418	9C前半
I 020	55	267		98%	1	6		2%				329	8C IV~9C I
I 022	231	266	2	88%		56		10%	12	1		568	9C I~9C II
I 023	7	7		56%	10	1		44%				25	8C前半
I 024	57	141		98%		1		0%	2		1	202	9C後半
I 025	27	93	1	99%				0%	1			122	9C前半
I 026		17		81%	1	3		19%				21	
I 027	24	26		71%	6	11		24%	3			70	9C II~9C III
I 028	143	232		81%	13	64		17%	12			464	9C前半
I 029	117	427		90%	32	23		9%	4		1	604	8C後半
I 030	72	254	3	90%	25	9		9%	1			364	8C III
I 031	45	274		85%	23	23		12%	6		3	374	9C前半
I 032	96	211	1	81%	33	36		18%	5			382	9C前半
I 033	307	634		93%	26	27		5%	13			1,007	9C II~9C III
I 034	407	623	6	85%	19	58		6%	102		1	1,216	8C後半
I 035	102	490		84%	55	58		16%	1		1	707	8C後半
I 036	70	44		79%	1	29		21%	1			145	9C II~9C III
I 037	13	75		80%	20	1		19%			1	110	8C
I 038	20	52		71%	24	6		29%				102	8C後半
I 039	67	210		89%	2	19		7%	11		1	310	9C前半
I 040		149		71%	21	40		29%				210	8C後半
I 041	23	214		51%	211	11		48%	5			464	9C前半
I 042	87	84		78%	4	26		14%		2	15	218	9C中葉
I 043	88	75		86%	2	25		14%				190	9C II~9C III
I 044	607	494		84%	24	143		13%	32		4	1,304	9C II~9C III
I 045	68	70		68%	60	3		31%			3	204	8C IV~9C II
I 046 A・B	82	79		93%	4	6		6%	3			174	9C II~9C III
I 047 A	1,985	1,914		80%	62	840		19%	61		7	4,869	9C II~9C III
I 047 B	35	61		83%		19		16%	1			116	9C I~9C III
I 048	14	36		58%	31	3		40%			2	86	8C II~8C III
I 049	222	219		86%	13	35		9%	16	1	6	512	9C II~9C III
I 050	317	389		90%	8	57		8%	11			782	9C II~9C III
I 051	53	288		85%	23	32		14%	6			402	9C前半
I 052	307	1,905	1	77%	433	211		22%	15		16	2,888	9C II~9C III
I 053	517	1,248	2	75%	217	318		23%	39		1	2,342	9C I~9C III
I 054	141	160		83%	9	47		15%	4			362	9C前半
I 055 A・B	377	482		82%	31	135		16%	21			1,046	9C II~9C IV
I 056	2	23		68%	11	1		32%				37	8C III~9C I
I 057	6	43		89%	2	4		11%				55	9C
I 058	36	53		64%	6	28		25%	15			138	9C前半
I 059	83	369		84%	10	70		15%	6			538	8C IV~9C II
I 060	11	78		74%	20			17%	11			120	9C I~9C III
I 061	650	675		92%	86	19		7%	2		1	1,433	9C II~9C IV
I 062	17	379		85%	60	7		14%	1		4	468	8C後半
I 063	47	267		93%	18	5		7%		1		338	8C後半
II 001	41	123		69%	8	60		29%	4			236	9C II~9C III
II 003	15	331		95%	17	1		5%			1	365	8C後半
II 004	169	327		83%	50	43		16%	6		1	596	9C前半
II 005	111	87		92%	18			8%				216	8C前半
II 006	2	57	2	87%	9			13%				70	8C
II 007	131	296		78%	6	94		18%	7	10		544	9C前半
II 008	4	9		62%	4			19%			4	21	
II 009	33	80		93%	4	4		7%			1	122	8C中葉
II 010	5	77		80%	14	5		19%	1			102	
II 011	32	199		95%	3	8		5%			1	243	9C IV~10C前半

遺構	土 師 器				須 恵 器				黒色 土器	灰釉 陶器	その他	総計	時 期
	杯・皿・碗	壺・壺・瓶	その他	/全体	杯・皿・碗	壺・壺・瓶	その他	/全体					
II 012	31	137		72%	9	50		25%	4		1	232	9C前半
II 013	27	82		97%		1		1%	2			112	9CⅣ～10C前半
II 014	38	293	1	84%	20	10		8%	31			393	9C前半
II 015	9	34		80%	10	1		20%				54	8C後半～9CⅠ
II 016	14	40		64%	28	2		36%				84	
II 017	9	114		87%	8	9		12%			2	142	
II 018	12	89		82%	13			11%	9			123	
II 020	84	1,309	12	86%	165	53		13%			5	1,628	8CⅡ～8CⅢ
II 021	43	171		85%	20	17		15%			1	252	8C後半
II 022	13	119	1	83%	26	1		17%				160	8C
II 025	47	167		86%	18			7%			18	250	8C前半
II 026	84	159		91%	16	8		9%				267	9C後半
II 027	78	173		91%	19	6		9%				276	8C後半
II 028	63	356		84%	51	26		16%				496	9C前半
II 029		5		100%				0%				5	
II 030	7	48		81%	7	4		16%	2			68	8C後半
II 031	93	206	1	94%	3	12		5%	4			319	9C前半
II 032	306	9		94%	18	2		6%				335	8CⅠ～8CⅢ
II 033	994	2,076	1	89%	17	364		11%	4	1		3,457	9C前半
II 034	229	909		83%	165	63		17%	4	5		1,375	9C前半
II 035	102	413		86%	20	60		13%	5			600	9C前半
II 036	449	435		84%	119	33		14%	14			1,050	9C後半
II 037	174	1,700	12	85%	214	93		14%	6	8		2,207	8C前半
II 038	21	67		99%	1			1%				89	9C前半
II 043	81	319		92%	5	27	1	8%				433	9CⅡ～9CⅢ
II 044	30	55		67%	41			33%				126	8C前半
II 045	12	86		91%	7	2		8%		1		108	
II 048	463	811		91%	33	89		9%	4			1,400	9CⅠ～9CⅢ
II 049	141	513		83%	69	65		17%	4			792	9CⅡ～9CⅢ
II 056	235	1,230		86%	119	93		12%	27			1,704	8C後半
II 057	11	99		87%	11	5		13%				126	8CⅡ～8CⅣ
II 058	15	504		68%	233	6		31%		5		763	9C前半
II 059	497	565	1	74%	123	218		24%	29			1,433	9CⅠ～9CⅢ
II 060	7	21		74%	9	1		26%				38	
II 061	139	269		84%	17	55		15%	7			487	9C前半
II 062	622	125		80%	68	92		17%	1	21		929	8C後半
II 063	177	872	1	84%	82	91		14%	23	5		1,251	8C後半
II 064	68	109		58%	12	105		38%	1	9		304	8C後半
II 065	27	153		86%	3	27		14%				210	9CⅠ～9CⅢ
II 066	52	201		100%				0%		1		254	9CⅡ～9CⅢ
II 067	8	204		98%		3	1	2%				216	
II 068	39	135		79%	16	22		17%		2	5	219	8CⅣ
II 069	41	142		78%	35	16		22%				234	8C後半
II 070	168	320		71%	14	179		28%	6			687	9CⅠ～9CⅢ
II 071	66	255		72%	63	64		28%				448	8CⅡ～8CⅢ
II 073	5	75		93%	4	2		7%				86	8C後半～9CⅠ
II 074	75	322		88%	39	13		12%				449	9C前半
II 075	31	113		89%	12	5		10%	1			162	
II 076	24	11		95%			2	5%				37	
II 077	288	482	10	93%	13	24		4%	24	2		843	9C後半
II 078	20	123		82%	21	9	1	18%				174	8C中葉
II 079	9	18		77%	3	5		23%				35	
II 080	310	27		74%	48	67		25%	5	1		458	9CⅡ～9CⅢ
II 081	53	232		85%	11	39		15%		1		336	9C前半
II 082	88	293		85%	50	17		15%		1		449	9CⅡ～9CⅢ
II 083	175	115		83%	7	42		14%	11			350	9CⅡ～9CⅢ
II 084	741	1,119		84%	27	294		14%	34			2,215	9CⅡ～9CⅢ
II 088	32	376		78%	60	54		22%		1		523	8C後半
II 090	169	1,265	3	87%	103	98		12%	13	3		1,654	8C前半
II 092	38	104		87%	14	7		13%				163	
II 093	281	142		95%		24		5%				447	9CⅣ～10C前半
II 094	311	727		83%	102	100		16%	7	2		1,249	8CⅣ～9CⅡ
II 095	26	151		85%	18	13		15%		1		209	8C中葉
II 096	13	92		72%	36	4		27%		1		146	9CⅠ～9CⅢ
II 097	319	844		85%	67	130		14%	10			1,370	8CⅣ～9CⅠ
II 101	113	302	5	90%		27		6%	18			465	9CⅡ～9CⅢ
II 105	3	38		79%	7	3		19%	1			52	8C後半
II 106	126	842		84%	57	124		16%	4	1		1,154	8C後半
II 107	37	160		77%	19	40		23%	1			257	9CⅠ～9CⅢ
II 109	81	236		94%	3	17		6%	1			338	9C後半
II 110	202	336		81%	10	110		18%	8			666	9CⅡ～9CⅢ



遺構	土師器					須恵器					黒色土器	灰釉陶器	その他	総計	時期
	杯・皿・碗	壺・壺・瓶	その他	/全体	杯・皿・碗	壺・壺・瓶	その他	/全体							
II 111	29	128	3	84%	21	7		15%	3			191	8C II~8C III		
II 113	63	282		96%		14		4%				359	9C前半		
II 115	299	206		74%	4	174		26%			1	684	9C II~9C IV		
II 116	27	44		83%		3		3%	12			86			
II 118	53	417		77%	114	17		21%			13	614	8C後半		
II 120A・B	126	788	3	86%	60	75		13%	8	2		1,062	9C I~9C III		
II 121	78	220		94%	5	14		6%				317	8C後半		
II 122	24	50	1	38%	14	110		62%			1	200	8C IV~9C I		
II 123A	322	473		92%	15	43		7%	6		1	860	9C中葉		
II 123B	39	140	2	83%	23	10		15%	2		1	217	9C前半		
II 123C	5	51		85%	9	1		15%				66	8C前半		
II 124	130	405		92%	3	27		5%	13		1	579	9C II~9C III		
II 125	328	952	4	91%	17	97		8%	15		1	1,414	9C II~9C III		
II 126	14	268		96%	1	8		3%	2		2	295	8C		
II 127	103	136		98%				0%	5			244	9C II~9C III		
II 128	404	880	5	84%	13	213		15%	23			1,538	9C II~9C IV		
II 129	180	882	4	90%	19	96		10%	8		1	1,190	9C前半		
II 130	28	98		95%	1	5		5%		1		133	8C IV~9C I		
II 131	3	11		100%				0%				14			
II 132	20	60		70%	11	22		29%	1		1	115	8C I~8C III		
II 133	31	73		83%	8	14		17%				126	9C前半		
II 134		61	3	74%	21	1		26%				86	8C		
II 135	58	100		96%	1	5		4%				164	9C後半		
II 136	1	55		62%		35		38%				91			
II 137	43	85		90%	10	3		9%	2			143	9C前半		
II 138	42	19		62%	5	10		15%	22			98	9C I~9C III		
II 139	5	81		86%	14			14%				100	8C後半		
II 140	273	456	1	85%	30	95		15%	3		1	859	9C II~9C III		
II 141	54	301	4	82%	58	18		17%			4	439	9C前半		
II 142	17	195		80%		45		17%	7	1		265	9C I~9C III		
II 143	177	569	1	73%	35	164		20%	72			1,018	9C I~9C III		
II 144	159	312	2	79%	56	51		18%	16			596	9C II~9C III		
II 145	46	96		90%	2	12		9%	2			158	9C前半		
II 146	75	104		93%	5	6		6%	1		1	192	9C前半		
II 147	8	5		76%	2	2		24%				17	8C IV~9C I		
II 148	43	214		72%	14	84		28%				355	9C前半		
II 149	136	320		88%	18	33		10%	13			520	9C II~9C III		
II 150	60	96		86%	2	18		11%	5			181	9C後半		
II 151	2	1		75%		1		25%				4			
II 155	64	43		86%		16		13%	2			125	9C I~9C III		
II 156	12	481		90%	21	18		7%			17	549	8C前半		
II 157	6	203		81%	48	2		19%				259	8C I~8C III		
II 158A	59	463		95%	12	14		5%				548	8C III		
II 161	4	57		68%	20	9		32%				90	8C後半		
II 162	44	195	2	90%	24	2		10%			1	268	8C I~8C III		
II 163A	15	79		90%	4	7		10%				105	8C I~8C III		
II 164	184	870		76%	194	138		24%			4	1,390	8C IV		
II 165	4	8		20%	2	46		80%				60			
III 170	268	660		73%	221	125		27%			4	1,278	9C II~9C III		
III 173	117	237		89%	8	24		8%	10			396	9C II~9C III		
III 175	175	266		91%	5	30		7%	10			486	9C II~9C III		
III 178	113	236		89%	2	39		11%				390			
III 180	30	349		78%	61	29		19%	2		12	483	8C II~8C III		

# 写真図版



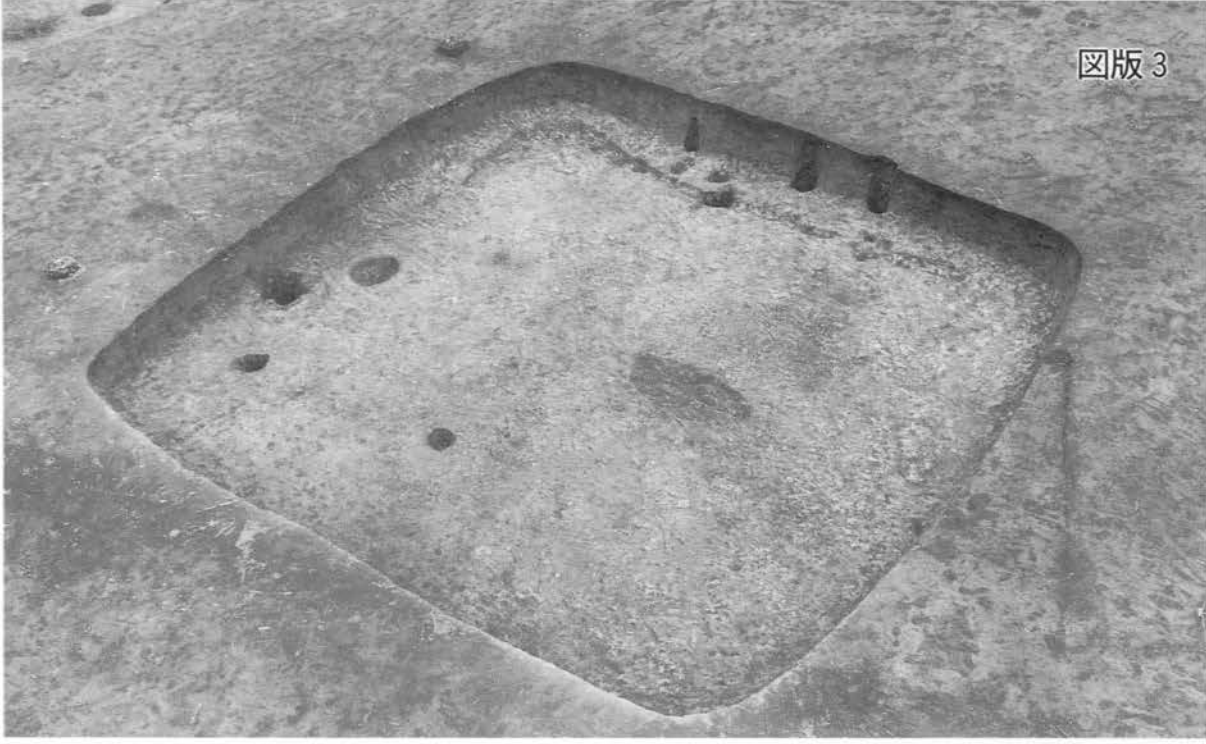
鳴神山遺跡

白井谷奥遺跡

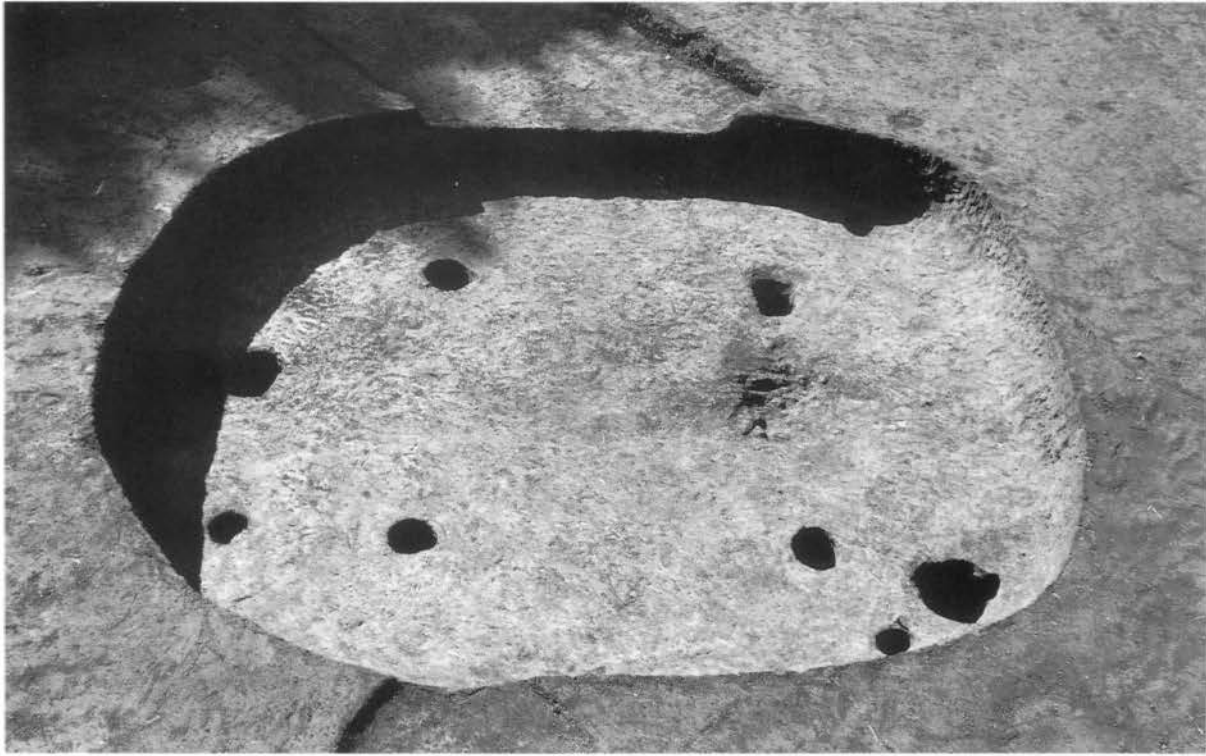


鳴神山遺跡

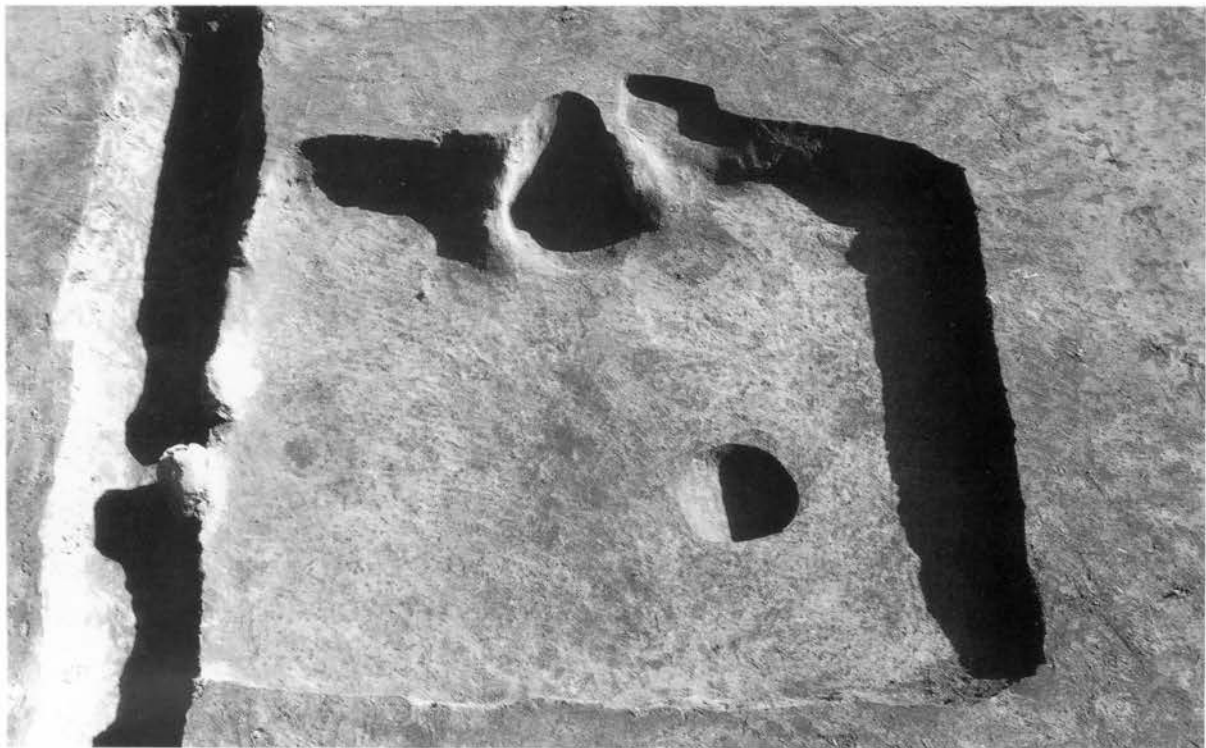
白井谷奥遺跡



1. I 001



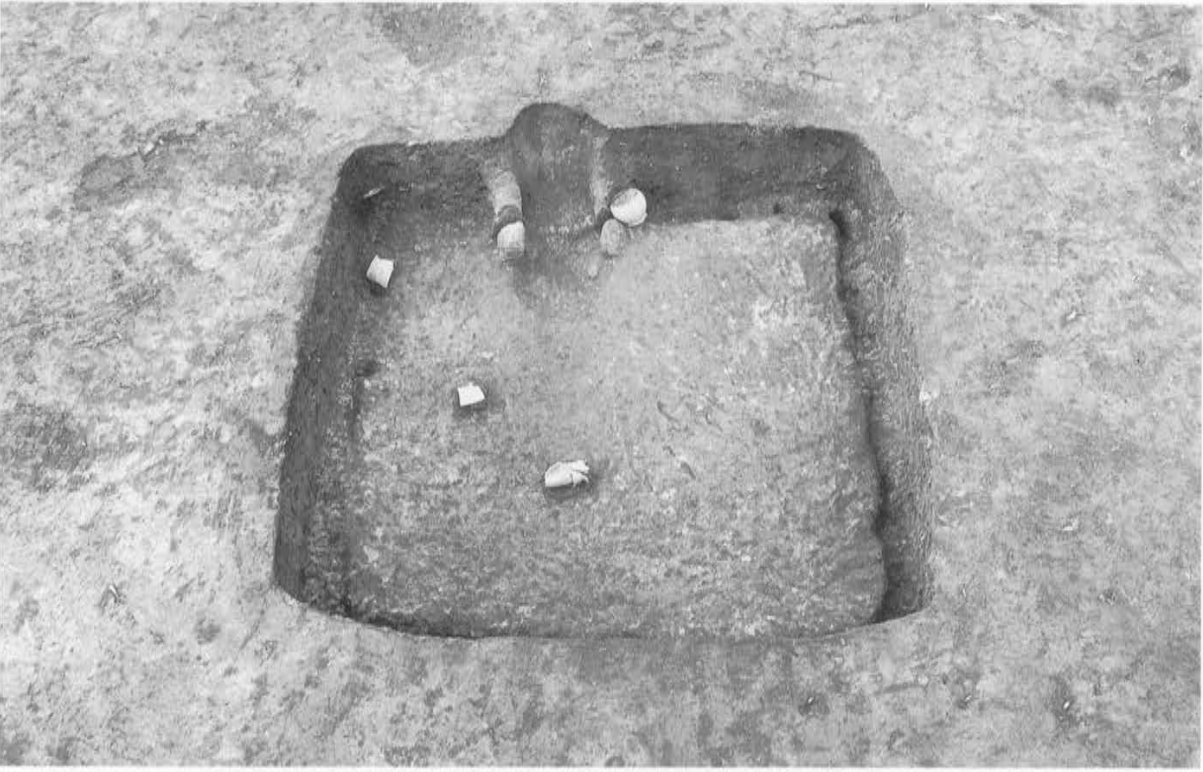
2. I 002



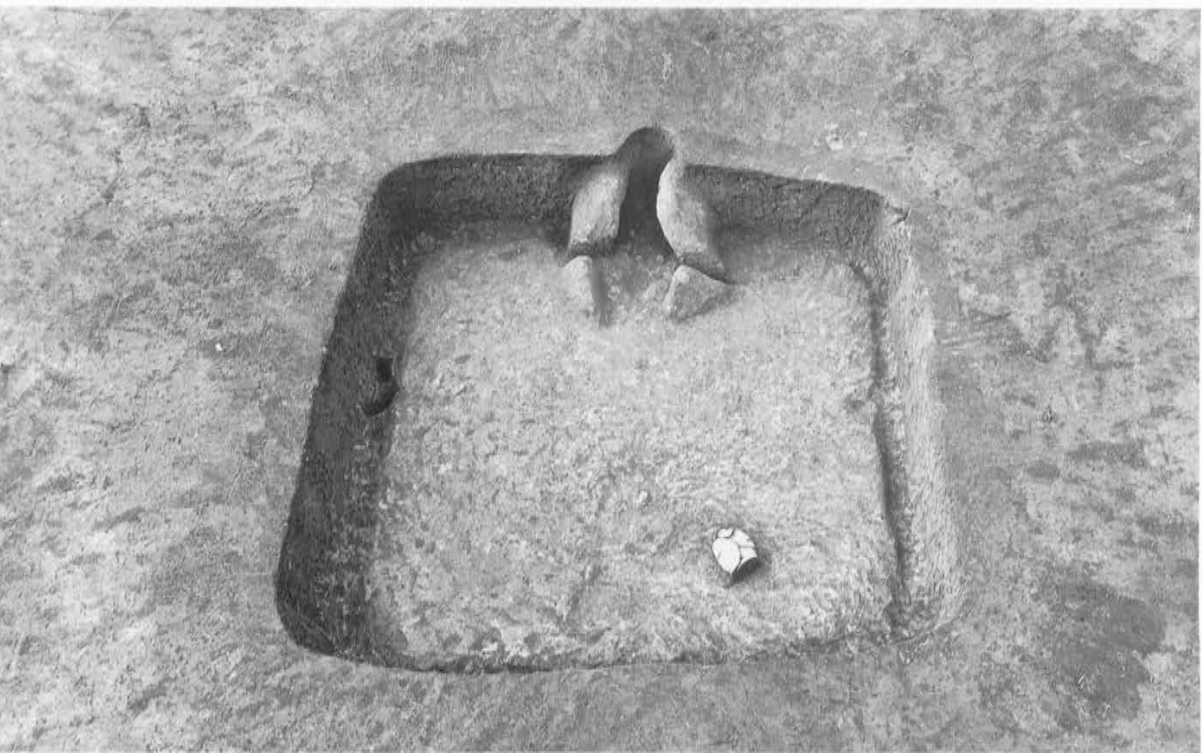
3. I 003



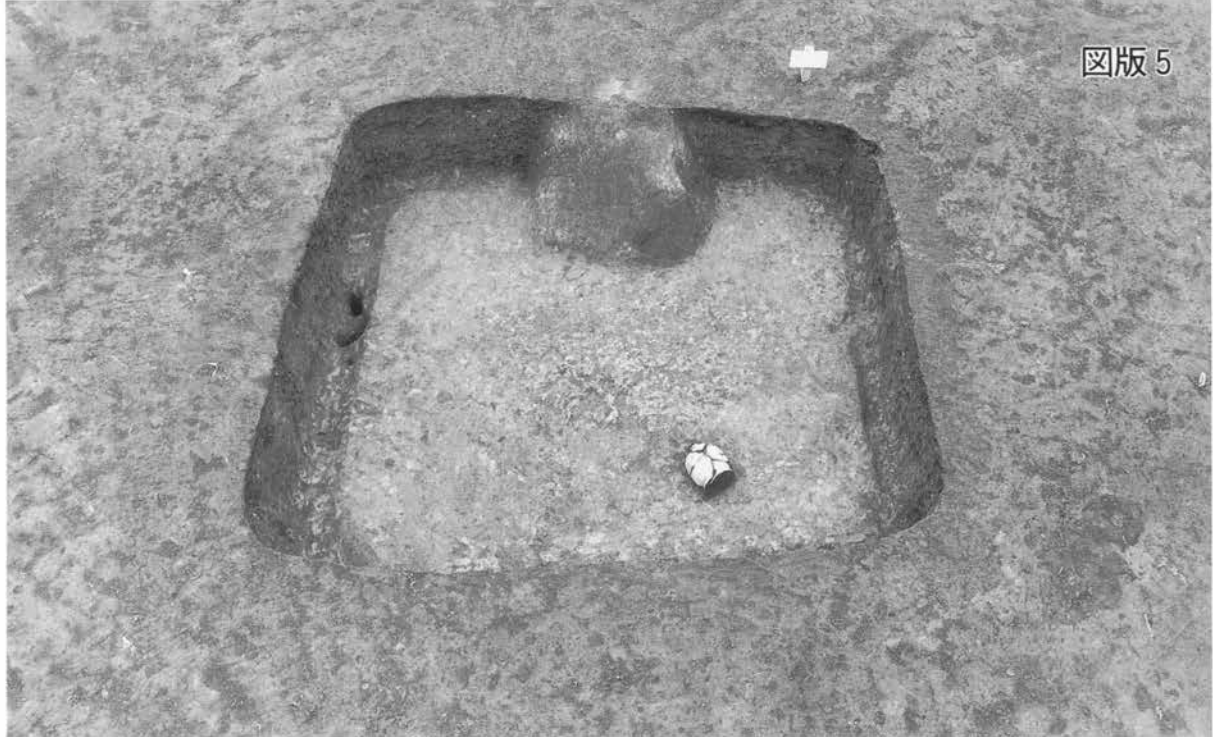
1. I 004



2. I 005



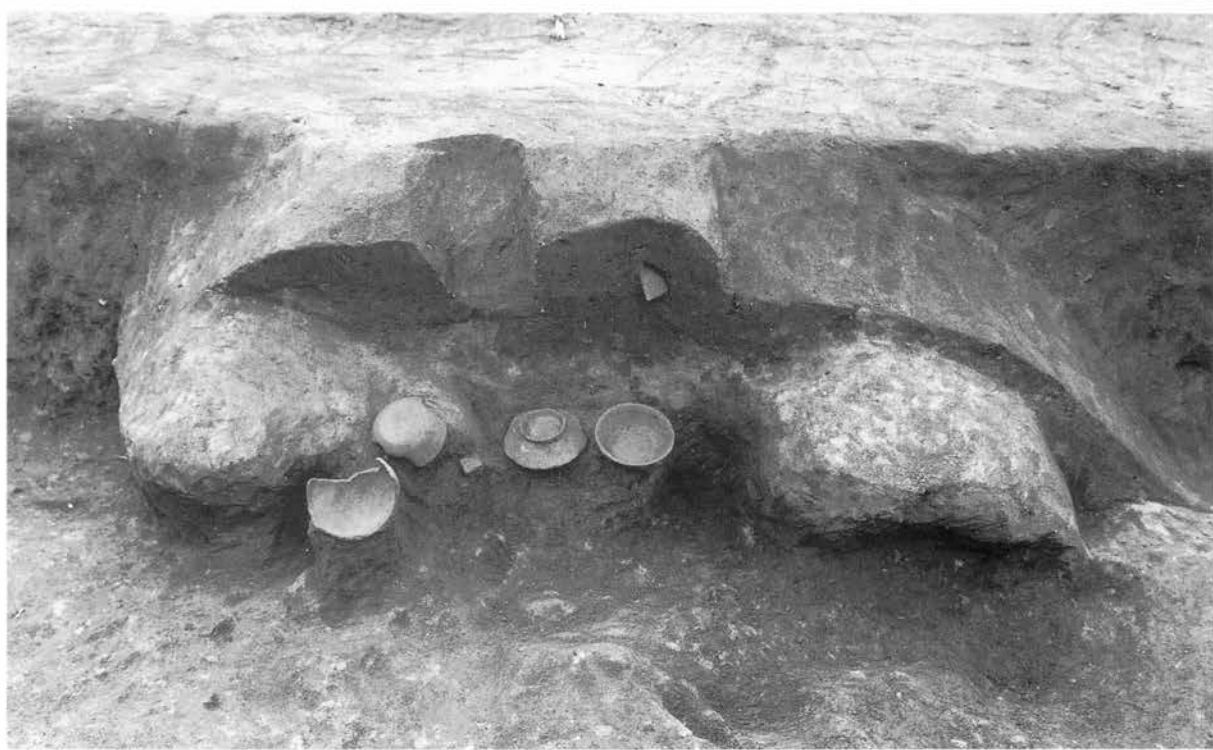
3. I 006



1. I 006



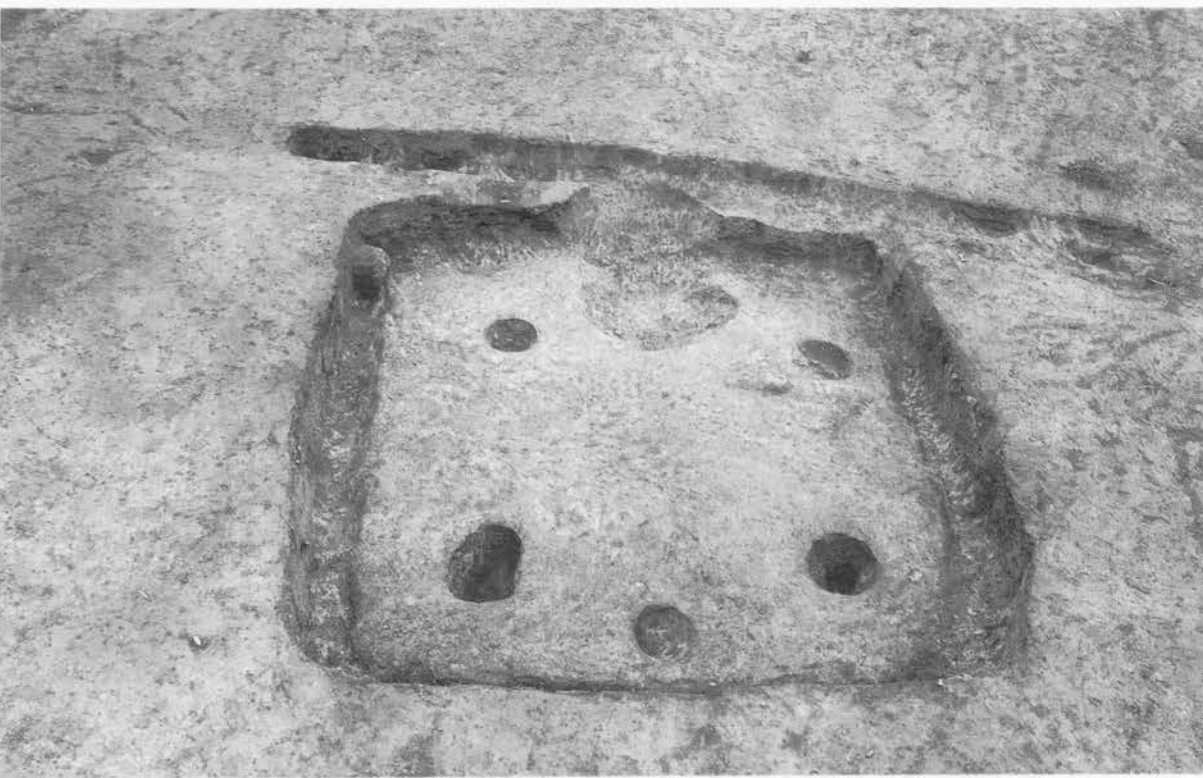
2. I 007



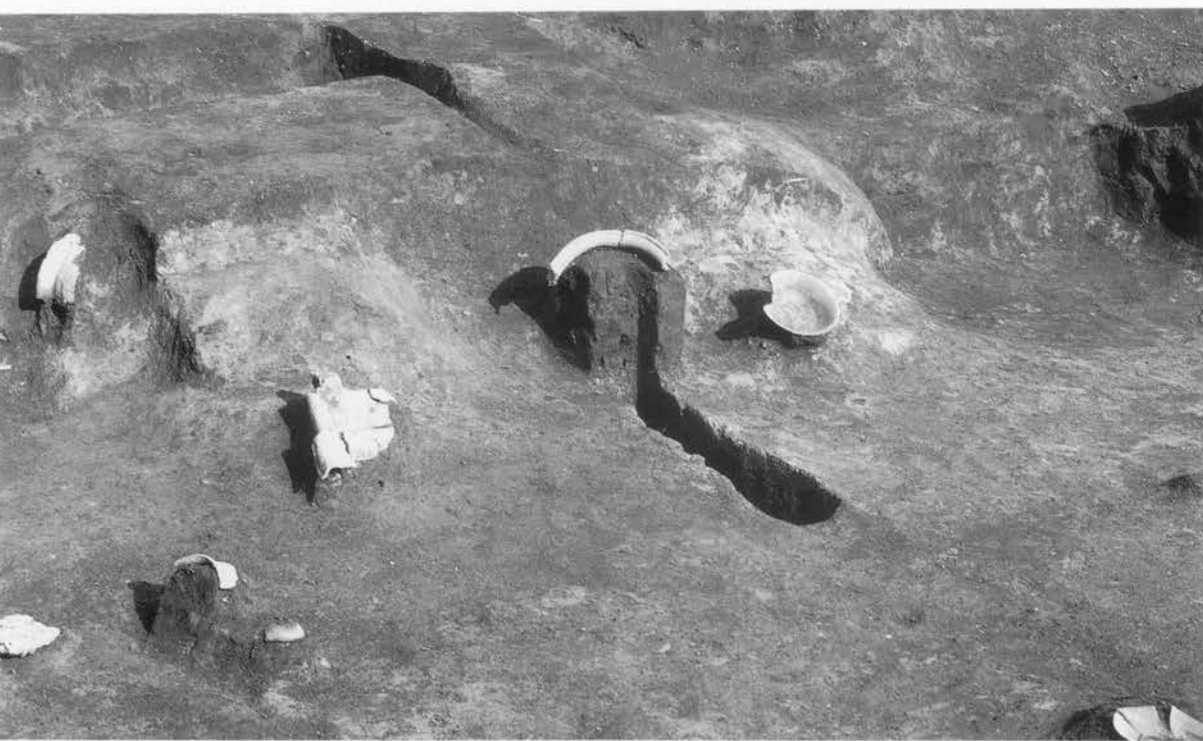
3. I 007



1. I 008



2. I 009

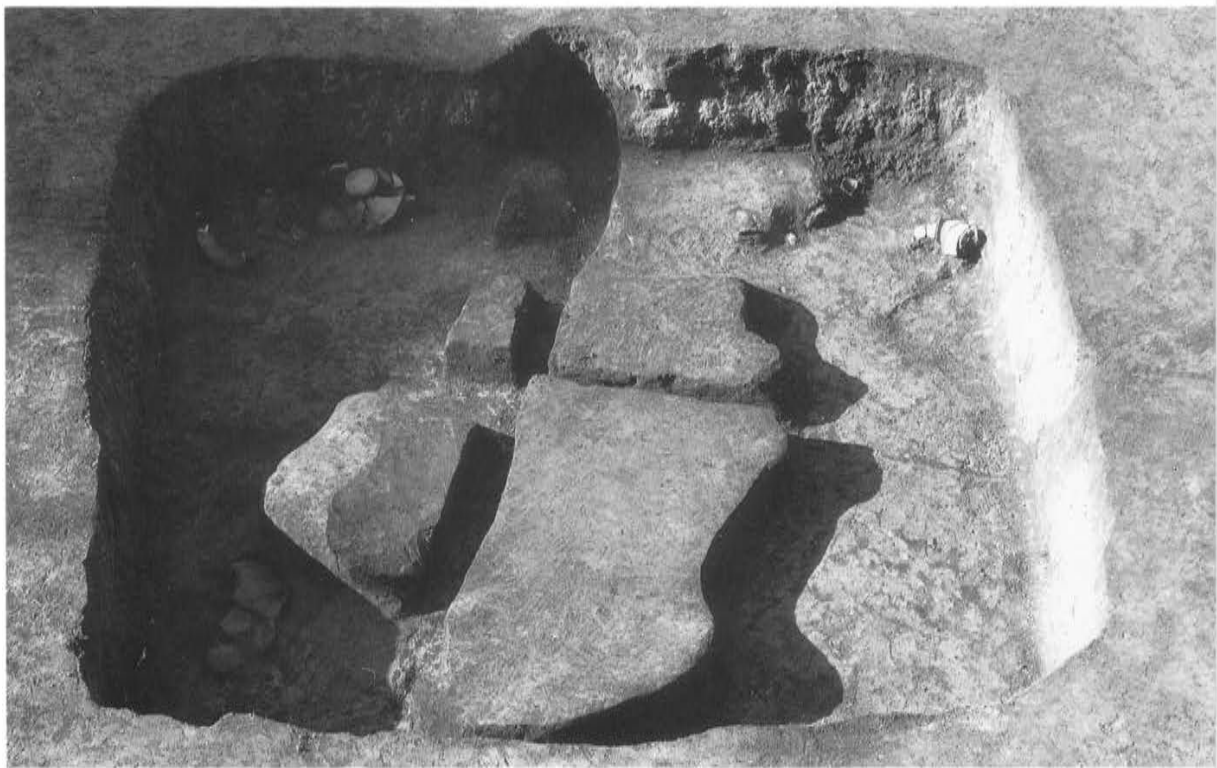


3. I 009





1. I 010



2. I 012



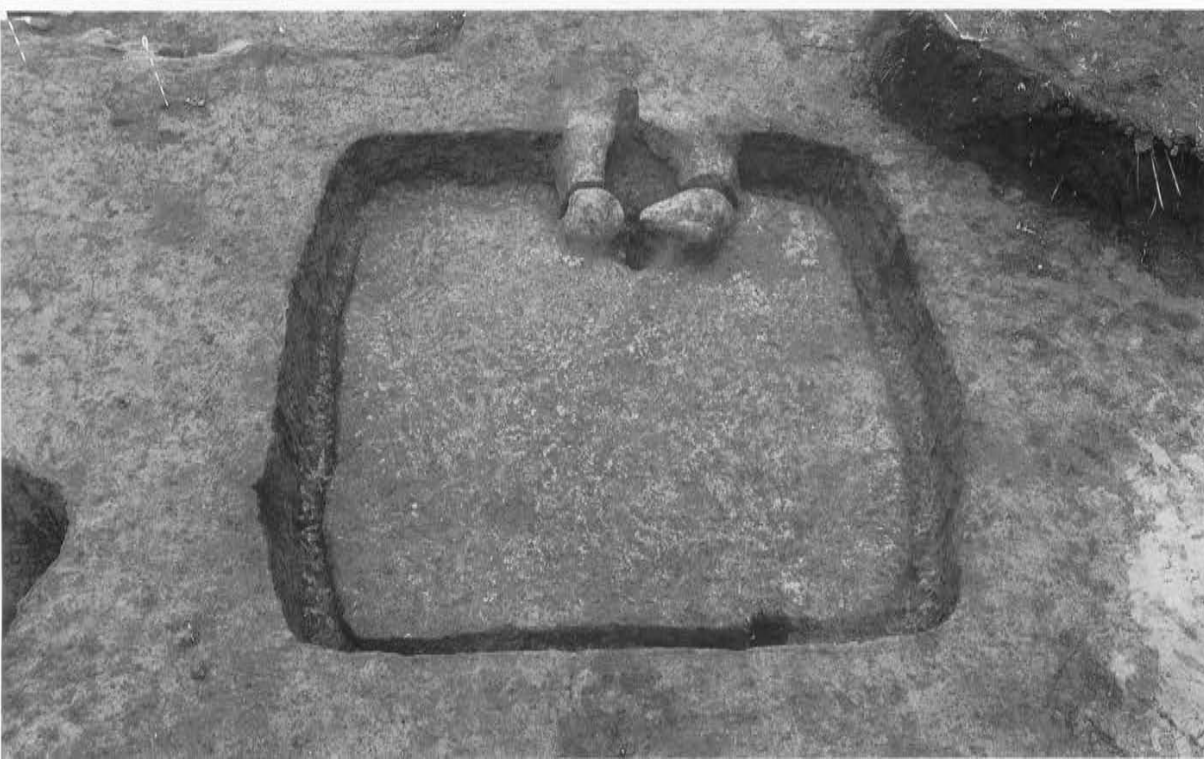
3. I 010  
I 012



1. I 010  
I 012



2. I 011



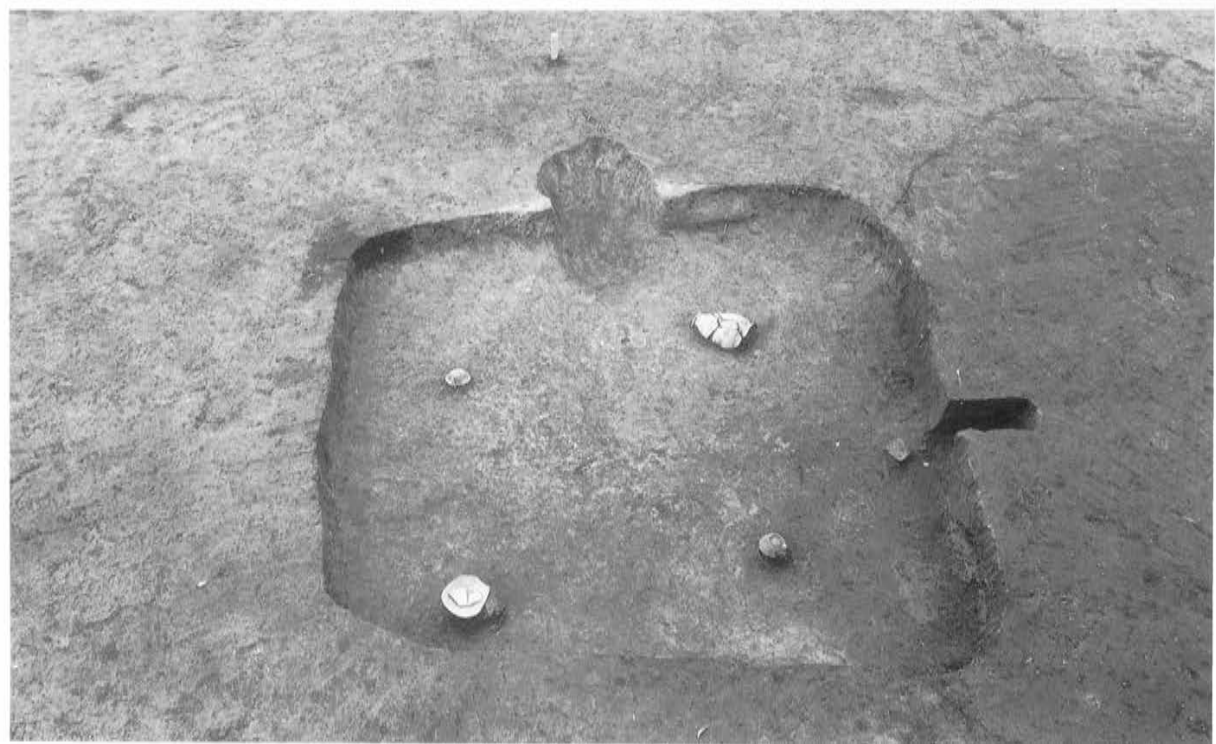
3. I 013



1. I 014



2. I 014



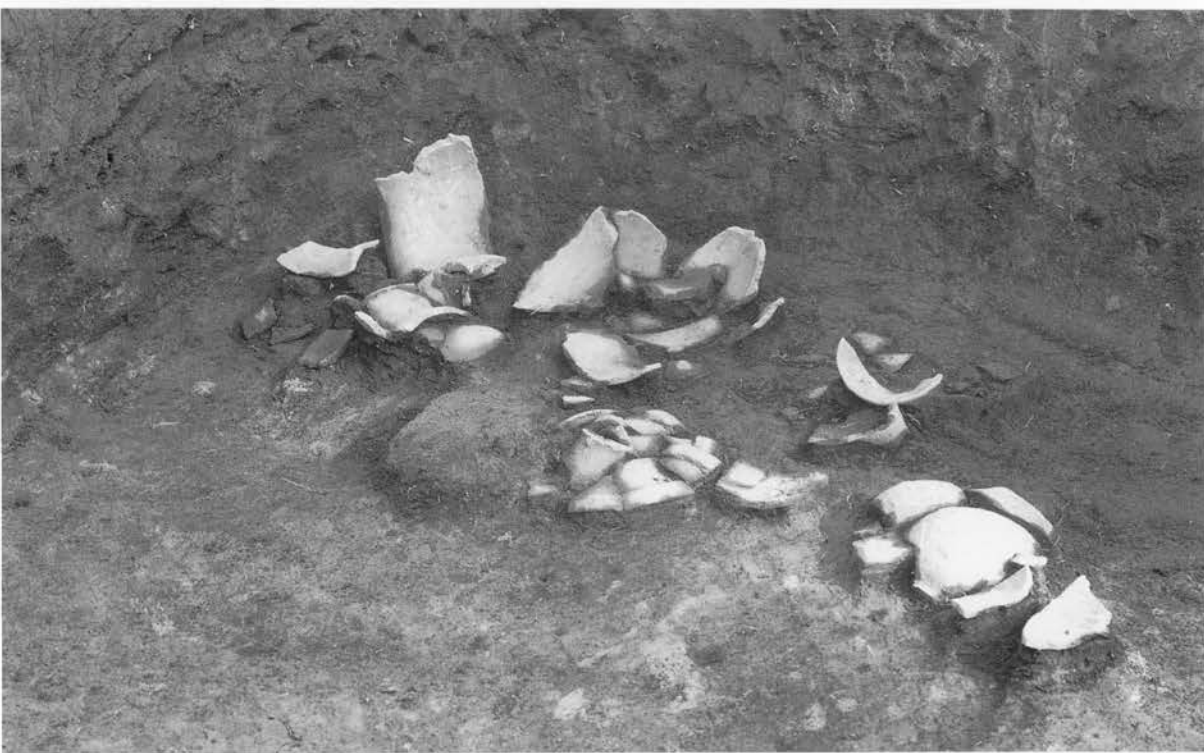
3. I 015



1. I 016



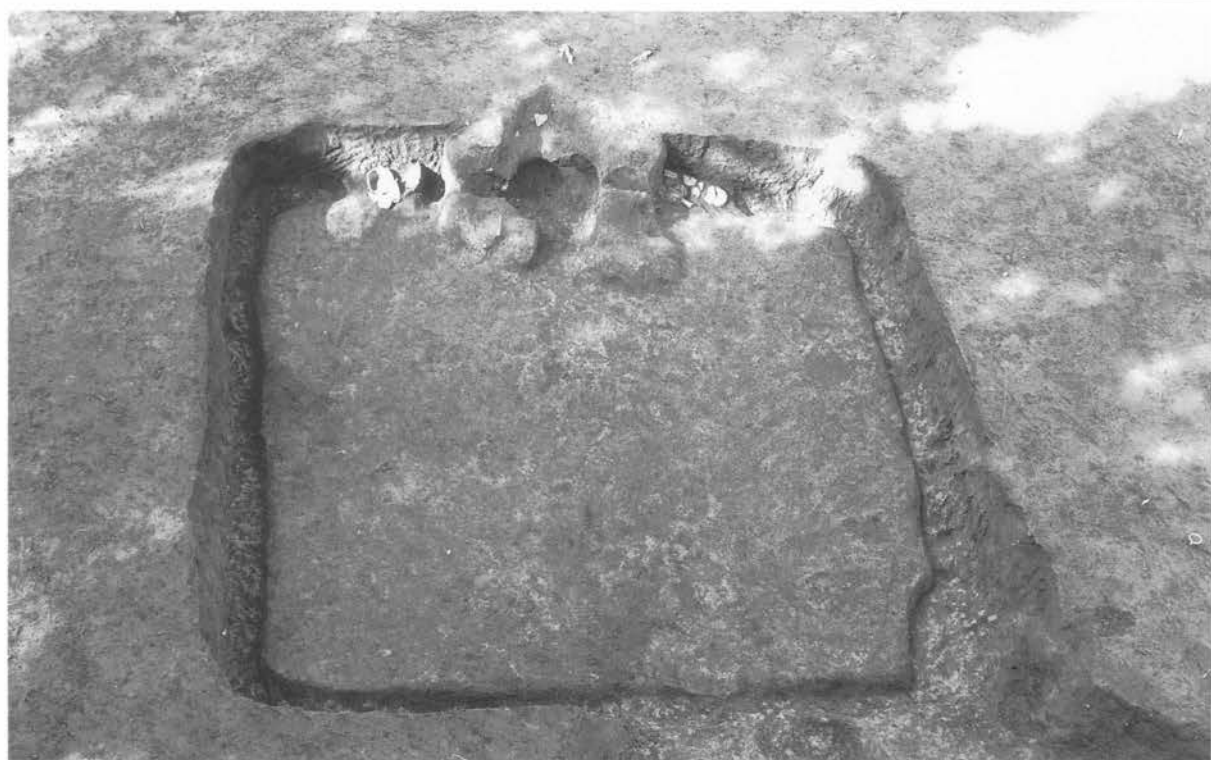
2. I 017



3. I 017



1. I 018  
I 019



2. I 020



3. I 021



1. I 021



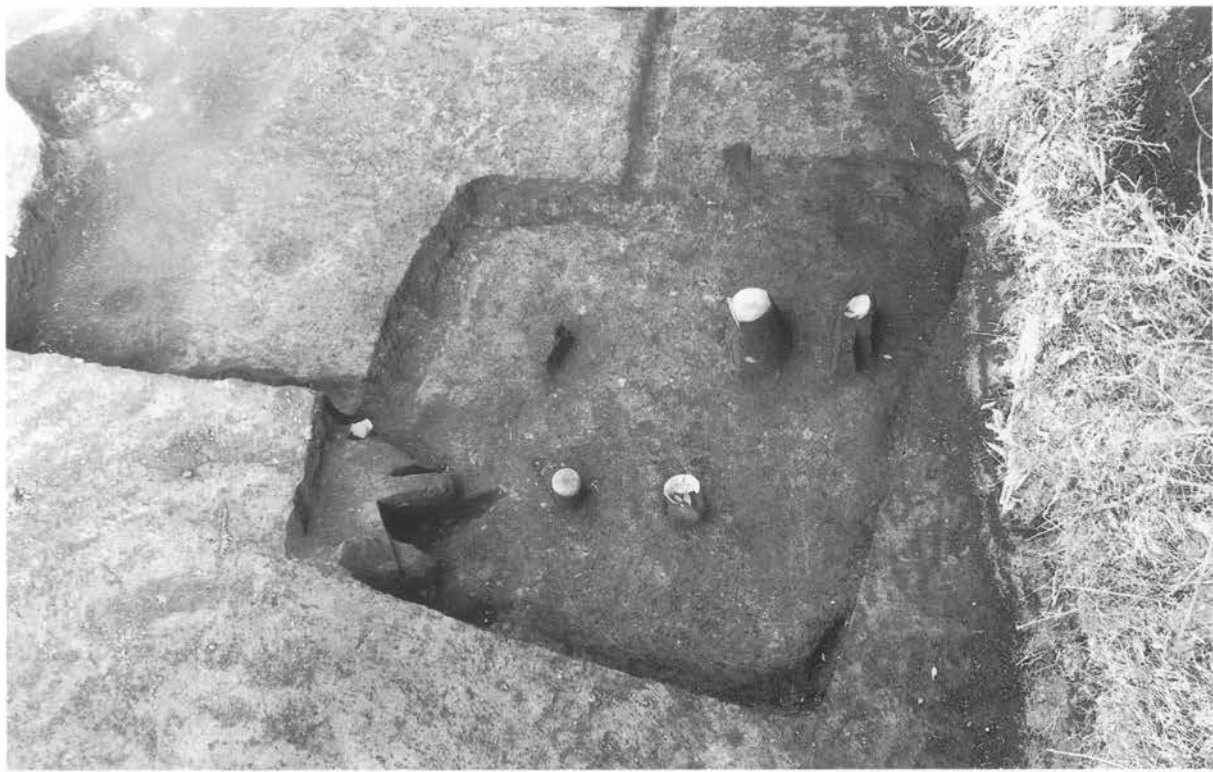
2. I 022



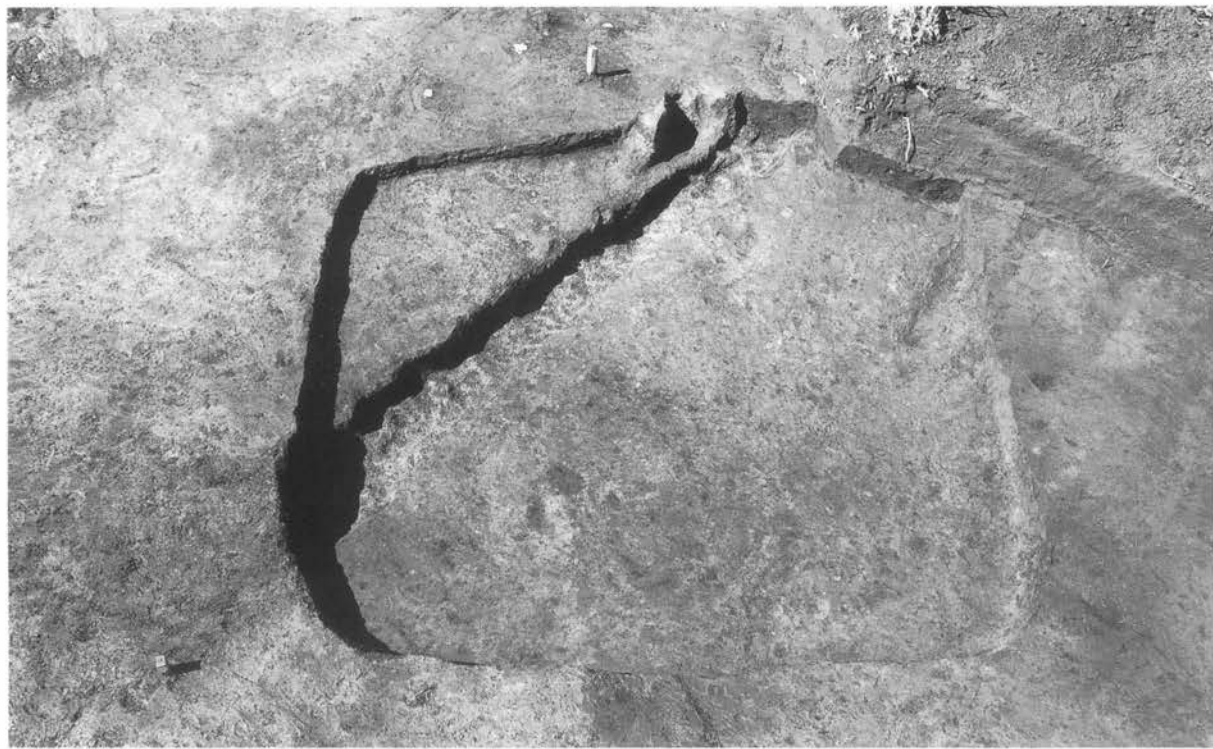
3. I 022



1. I 023



2. I 023



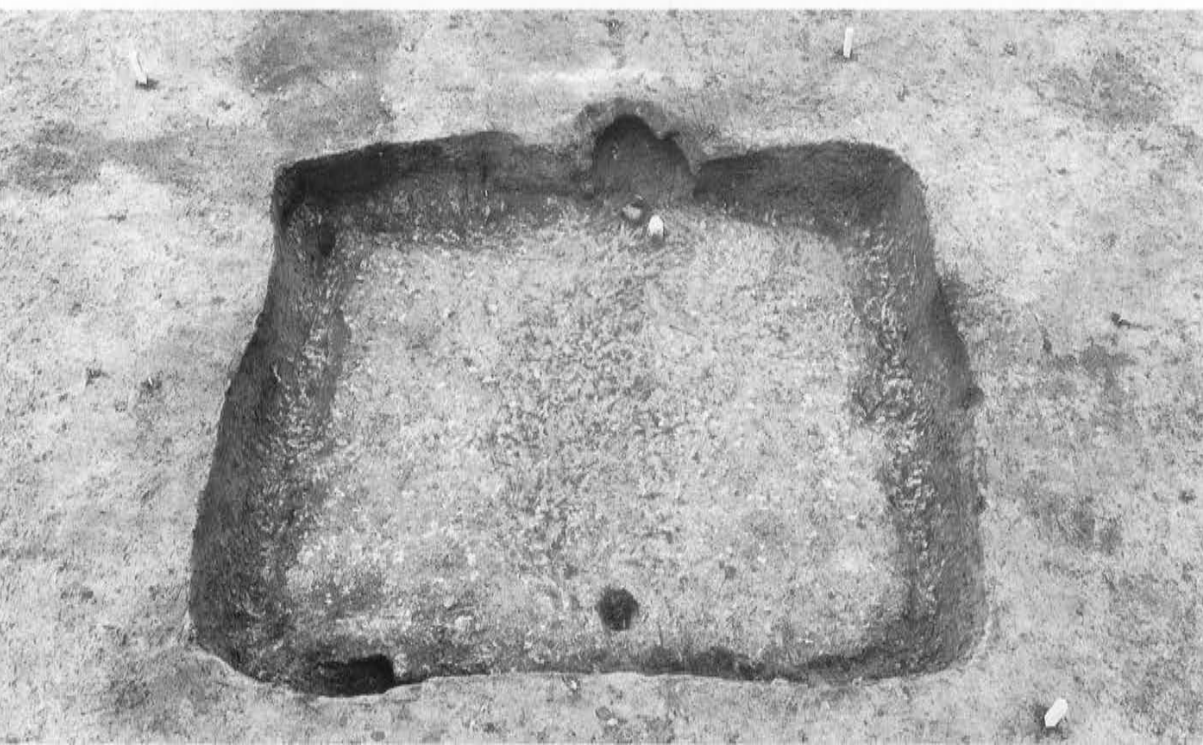
3. I 024



1. I 026



2. I 027



3. I 028





1. I 028



2. I 029  
I 030



3. I 029



1. I 031



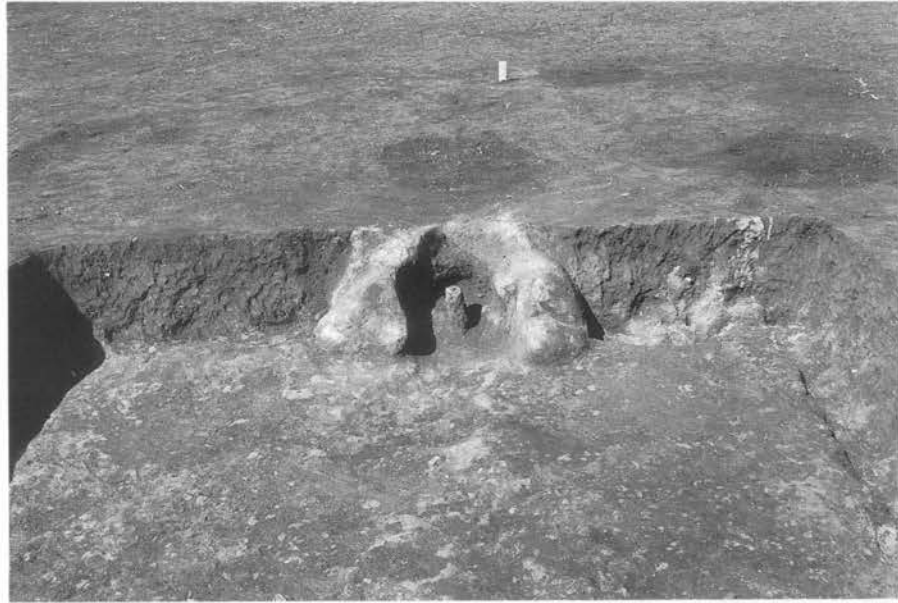
2. I 031



3. I 031



1. I 032



2. I 032



3. I 033



1. I 033



2. I 034



3. I 034



1. I 034



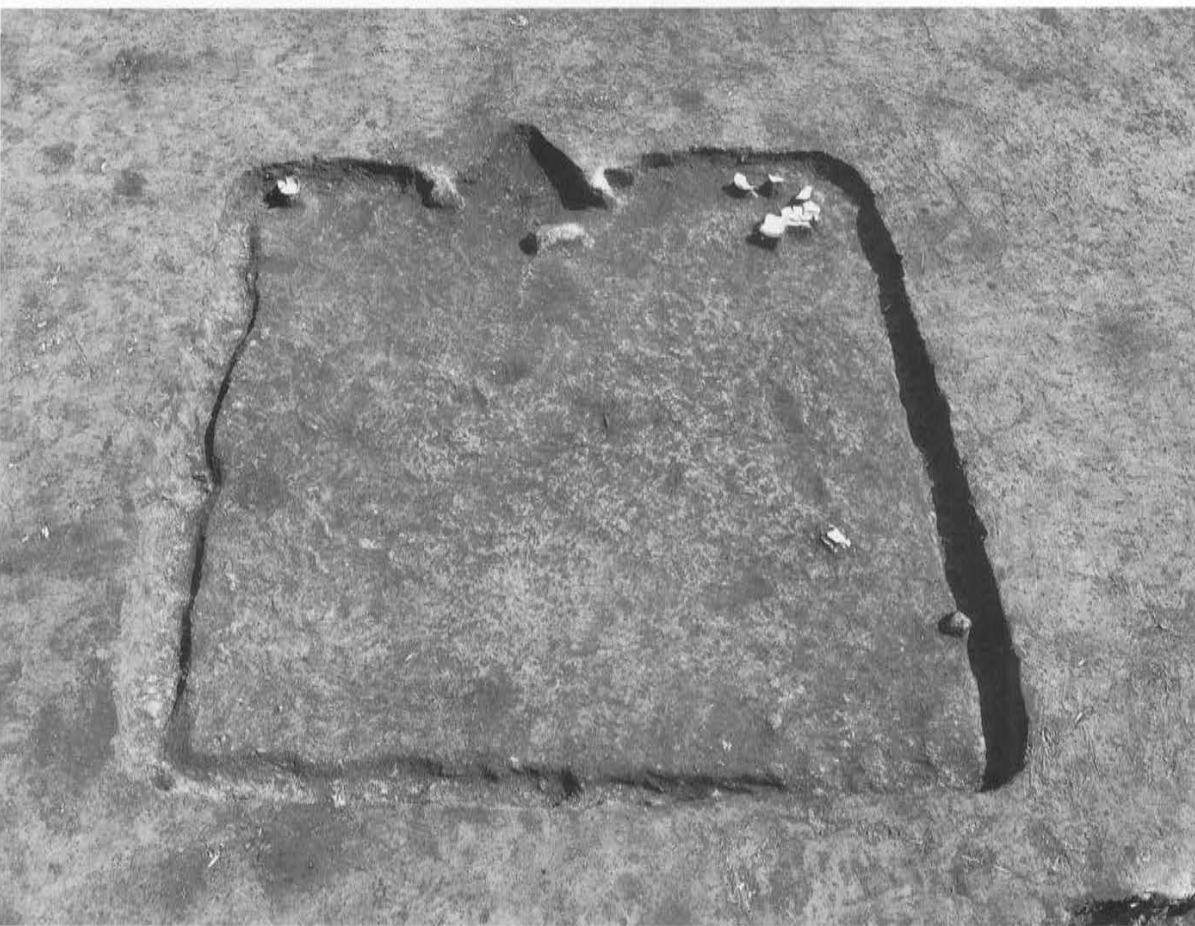
2. I 035



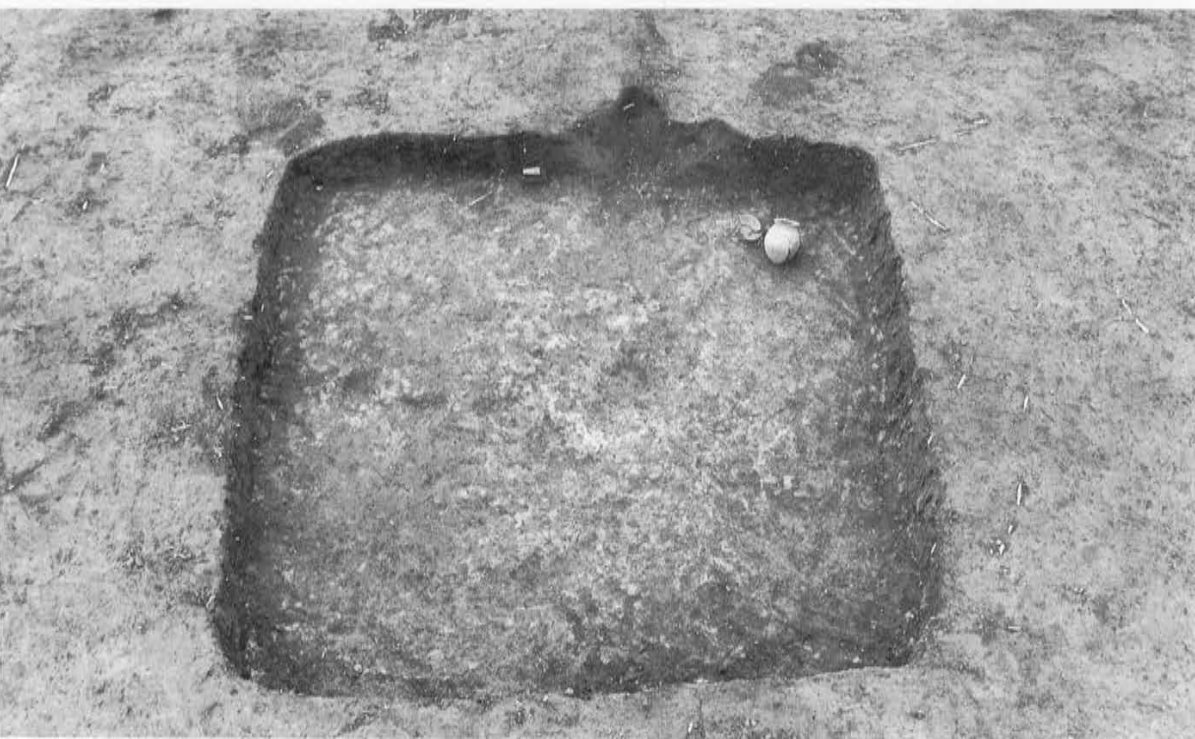
3. I 035



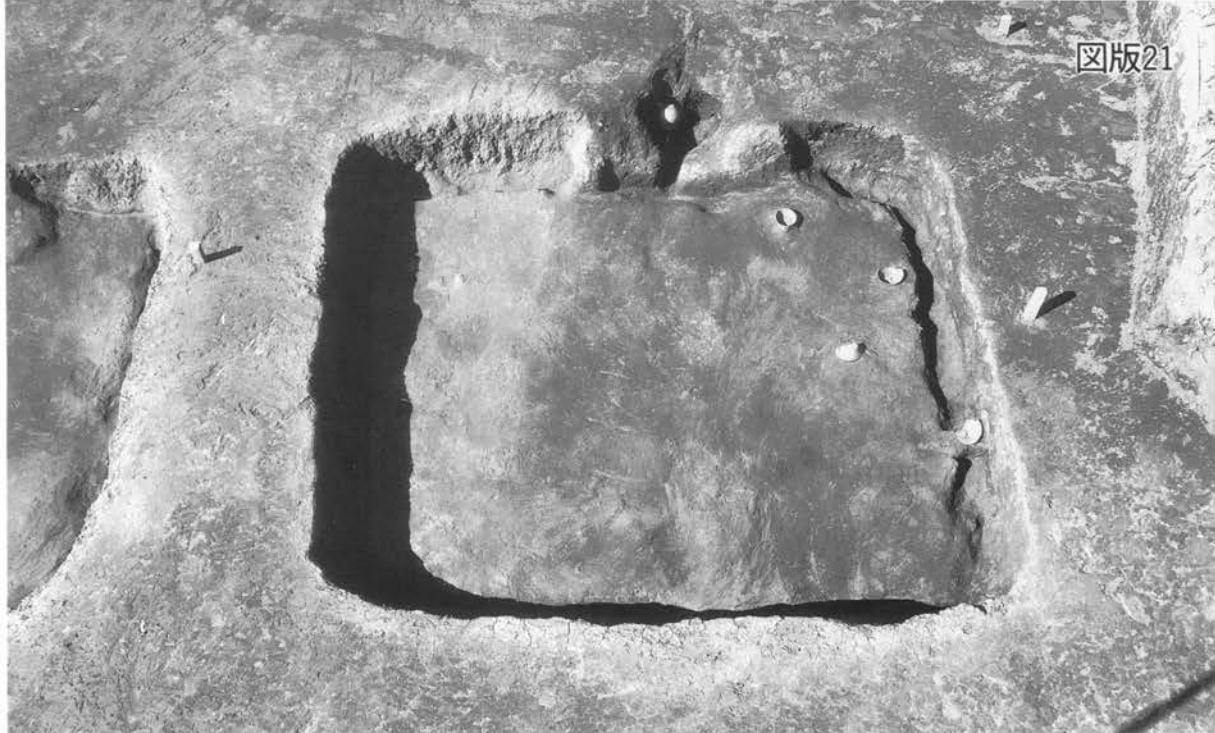
1. I 035



2. I 036



3. I 037



1. I 038



2. I 039



3. I 040

I 041

I 042



1. I 041  
I 042



2. I 043



3. I 044

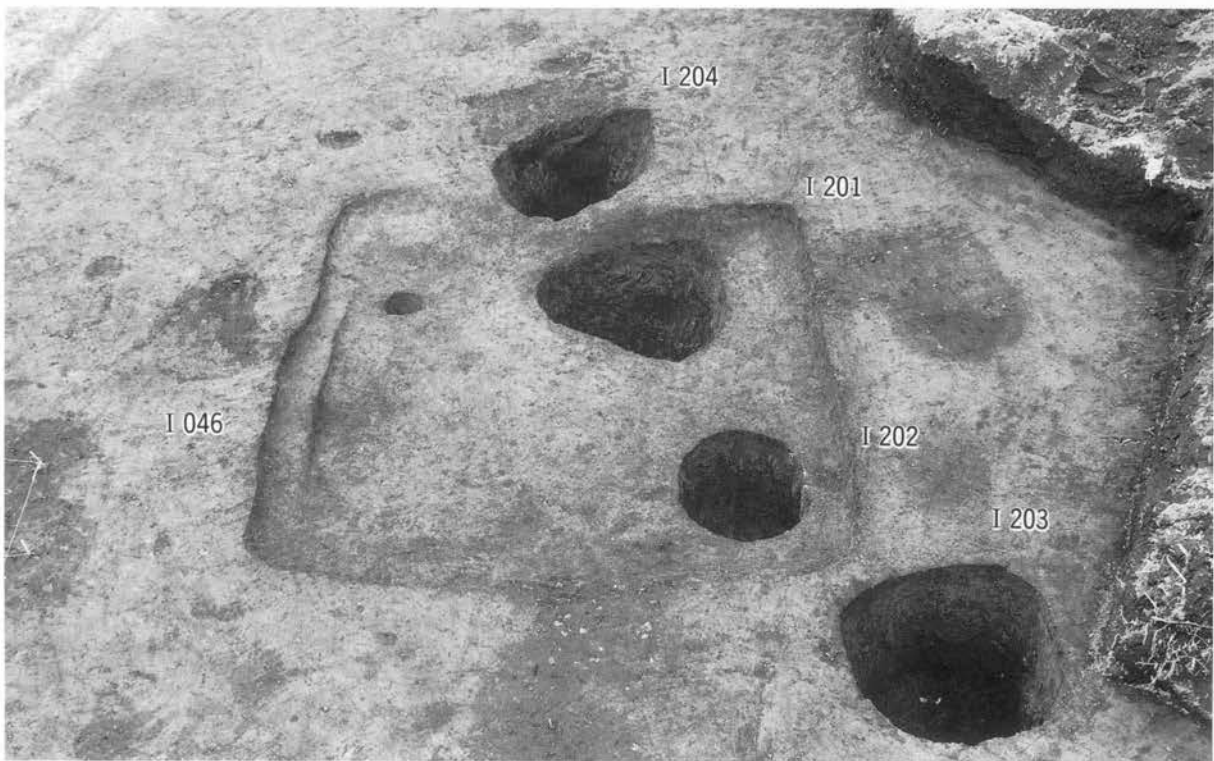




1. I 044



2. I 045



3. I 046  
I 201  
I 202  
I 203  
I 204



1. I 047



2. I 048



3. I 049



1. I 050



2. I 051



3. I 052  
I 055



1. I 052



2. I 052



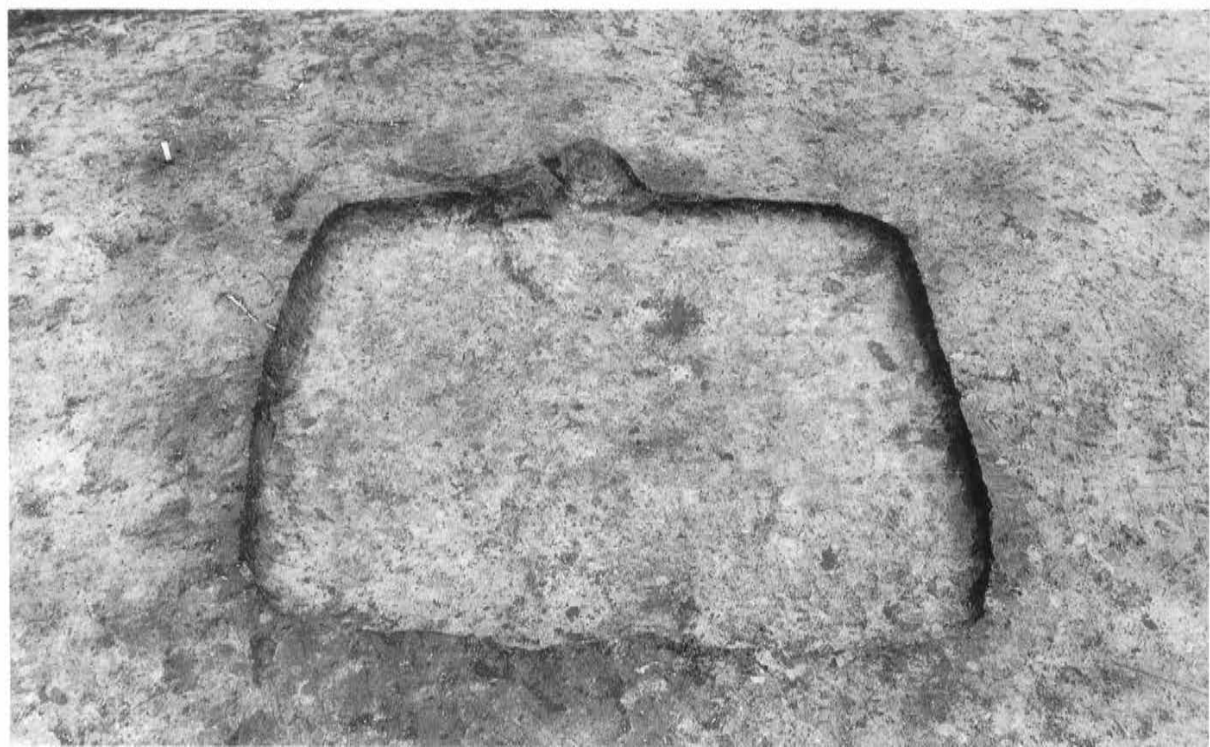
3. I 053



1. I 054



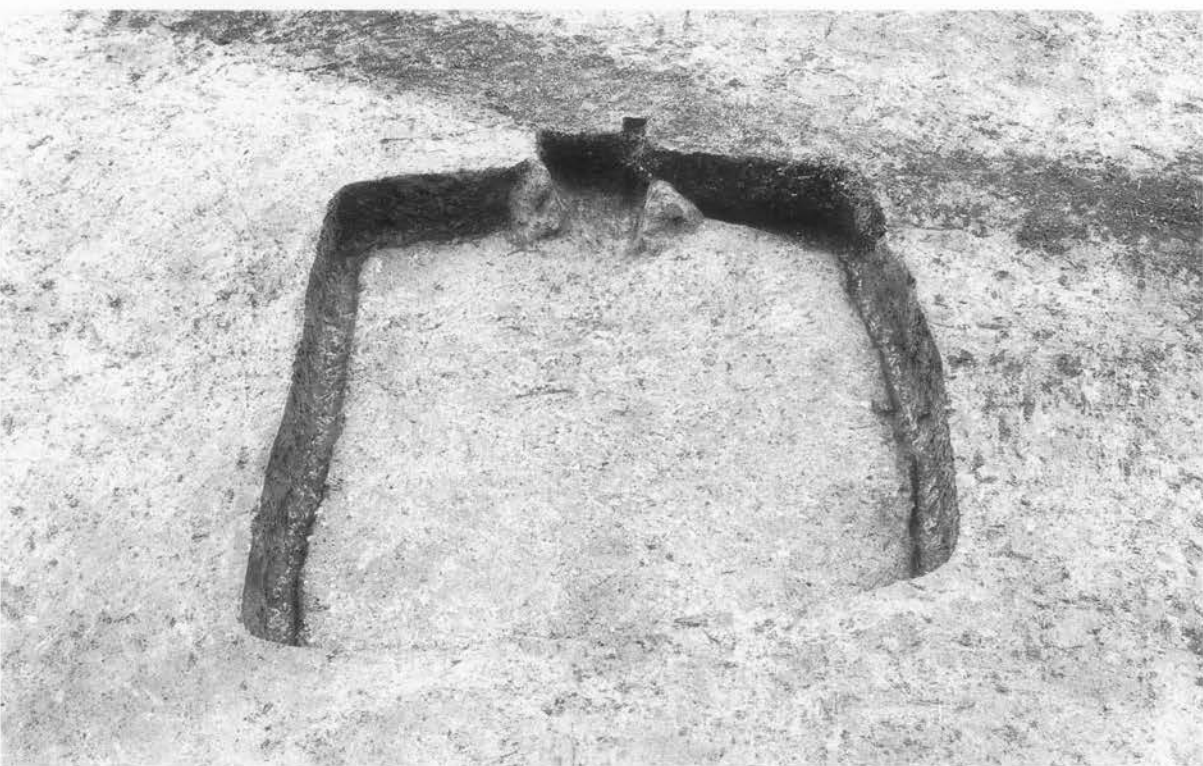
2. I 056



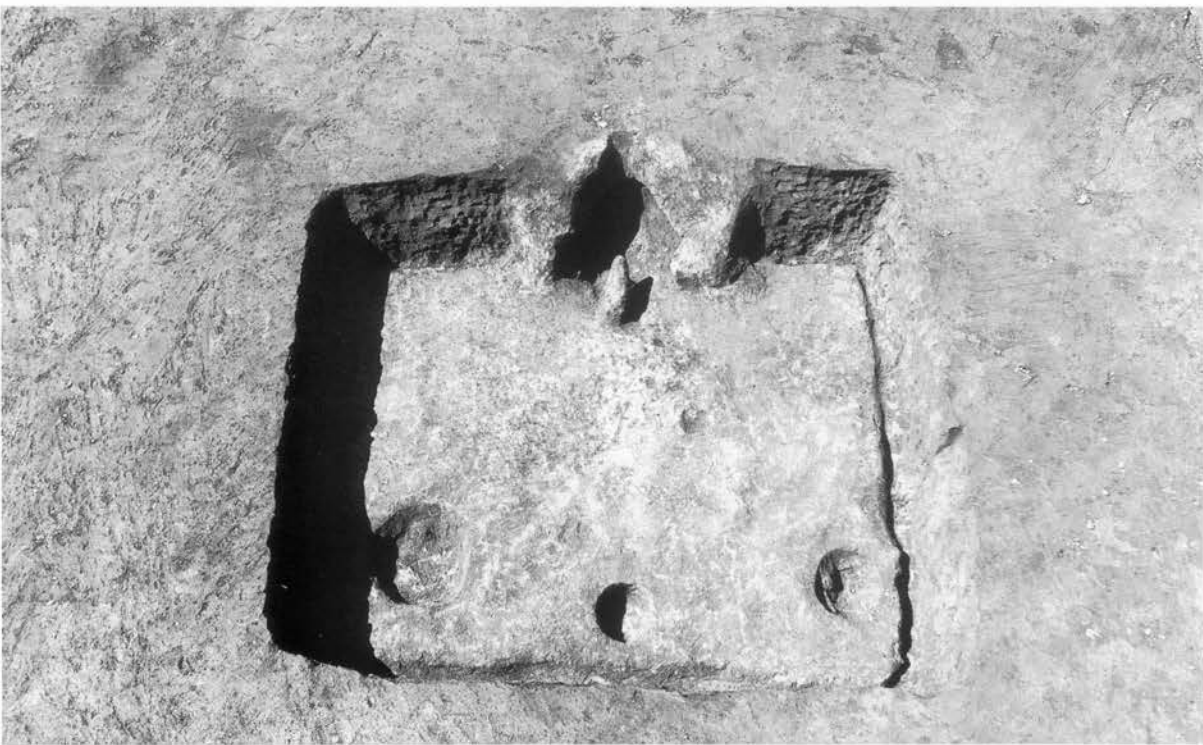
3. I 057



1. I 058



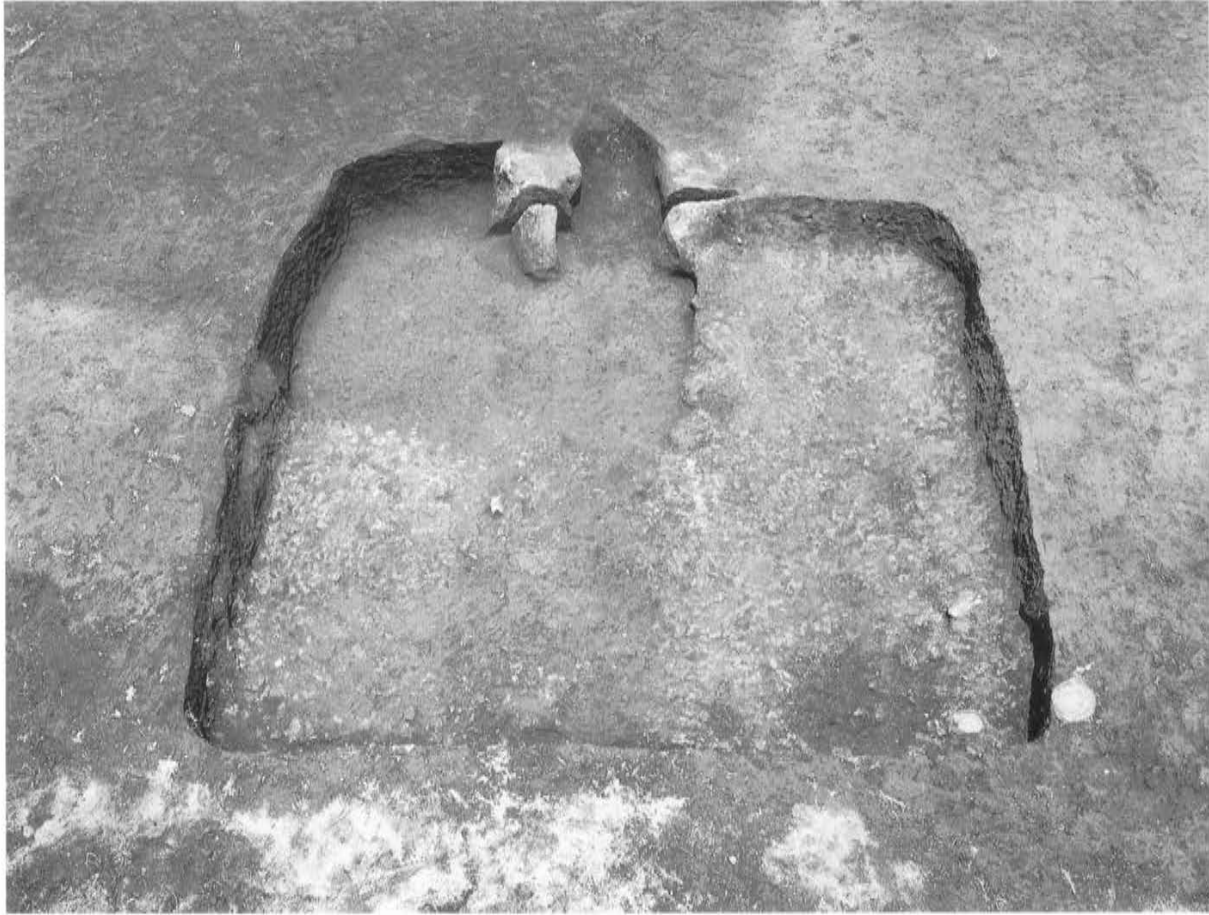
2. I 059



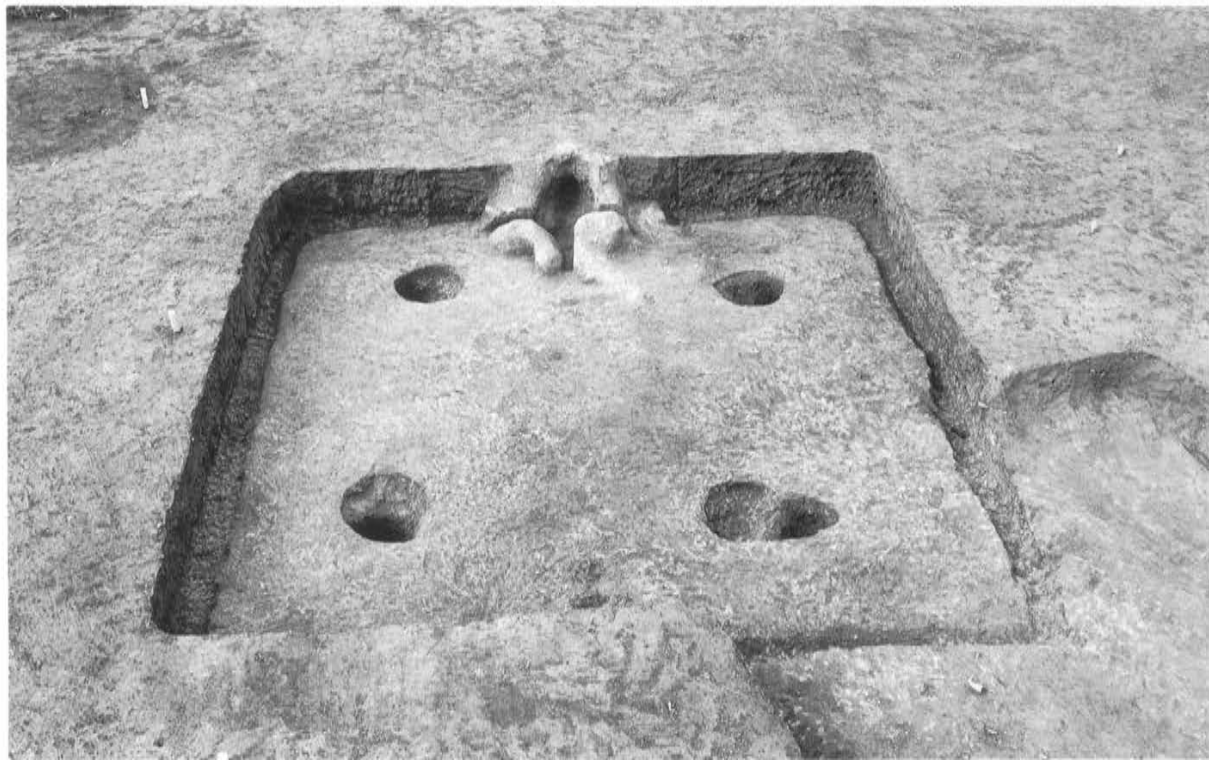
3. I 060



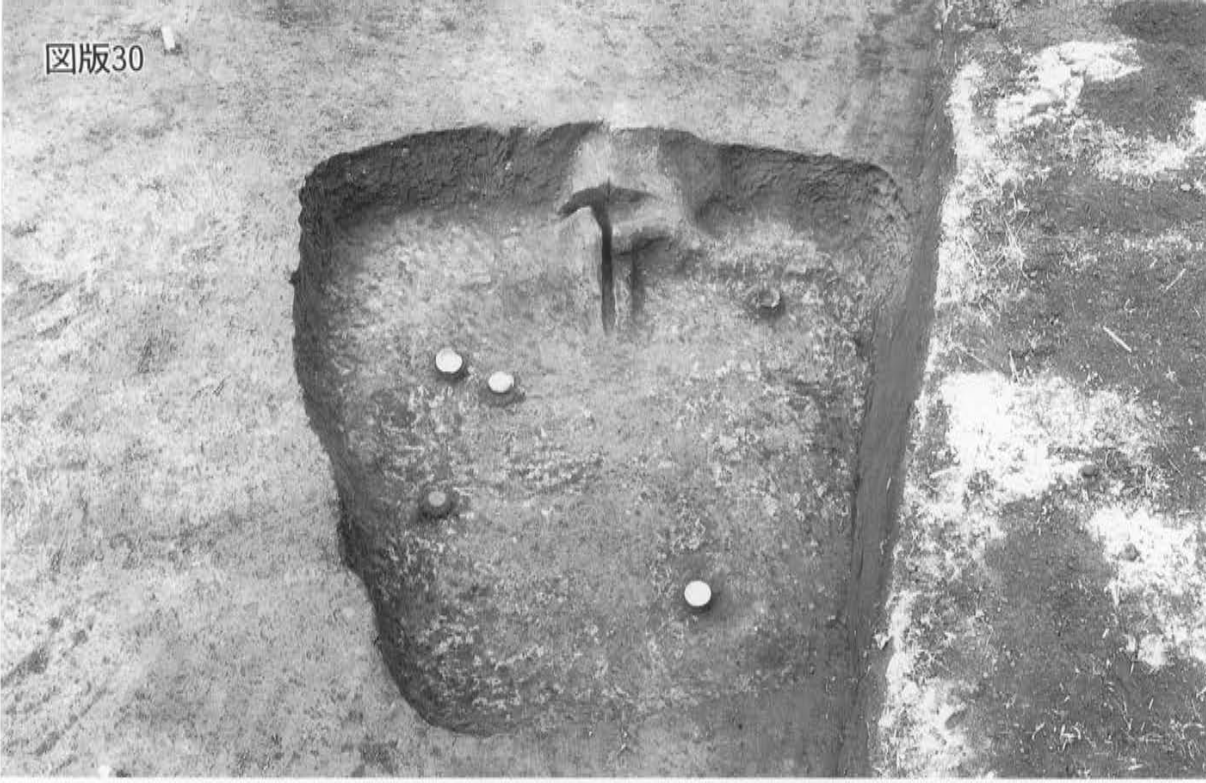
1. I 060



2. I 061



3. I 062



1. I 063



2. I H01



3. I H02

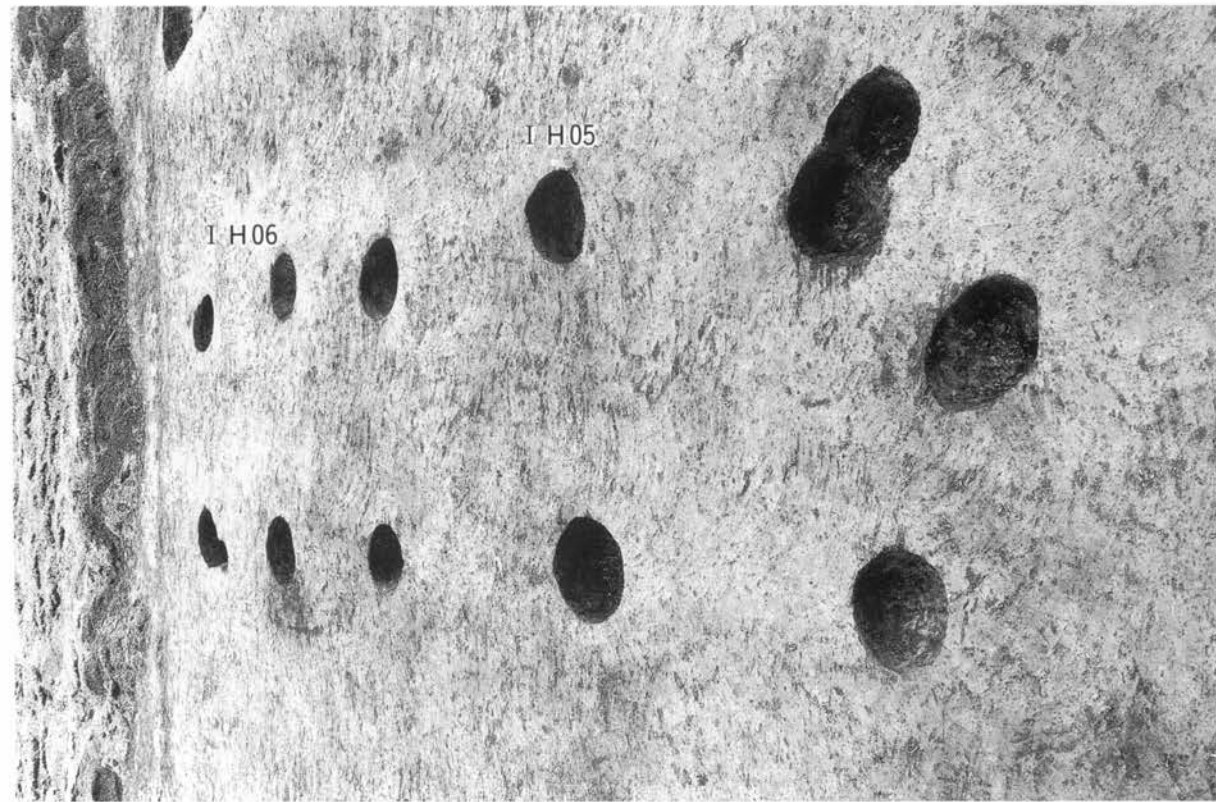




1. I H03



2. I H04



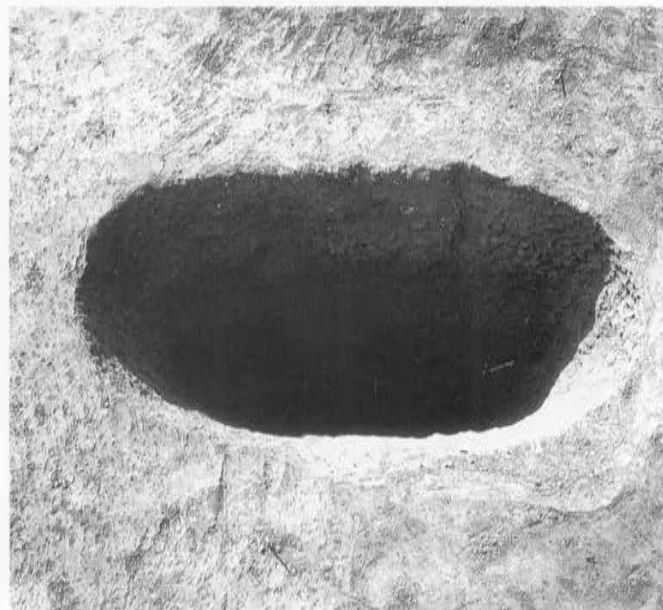
3. I H05  
I H06



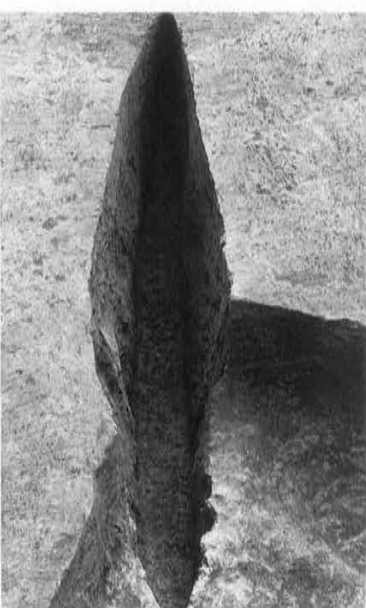
1. I H07



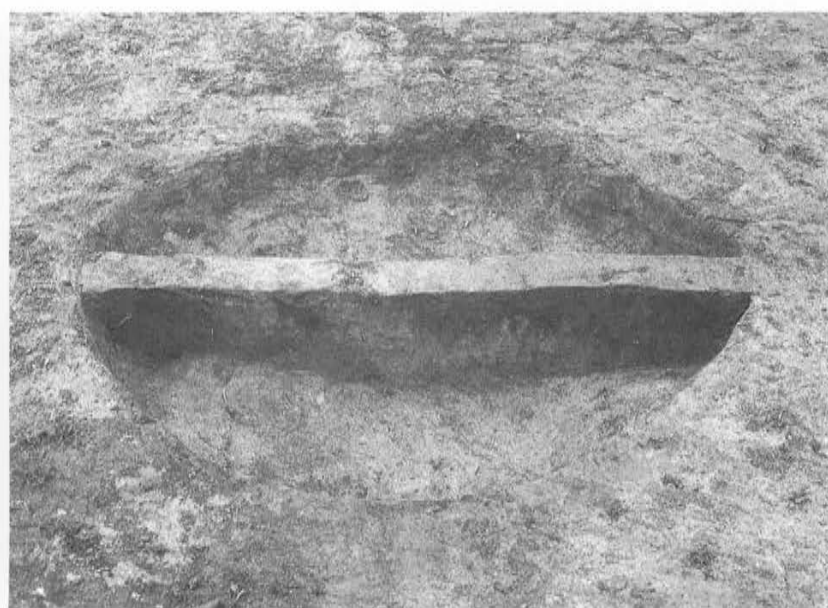
2. I 205



3. I 206



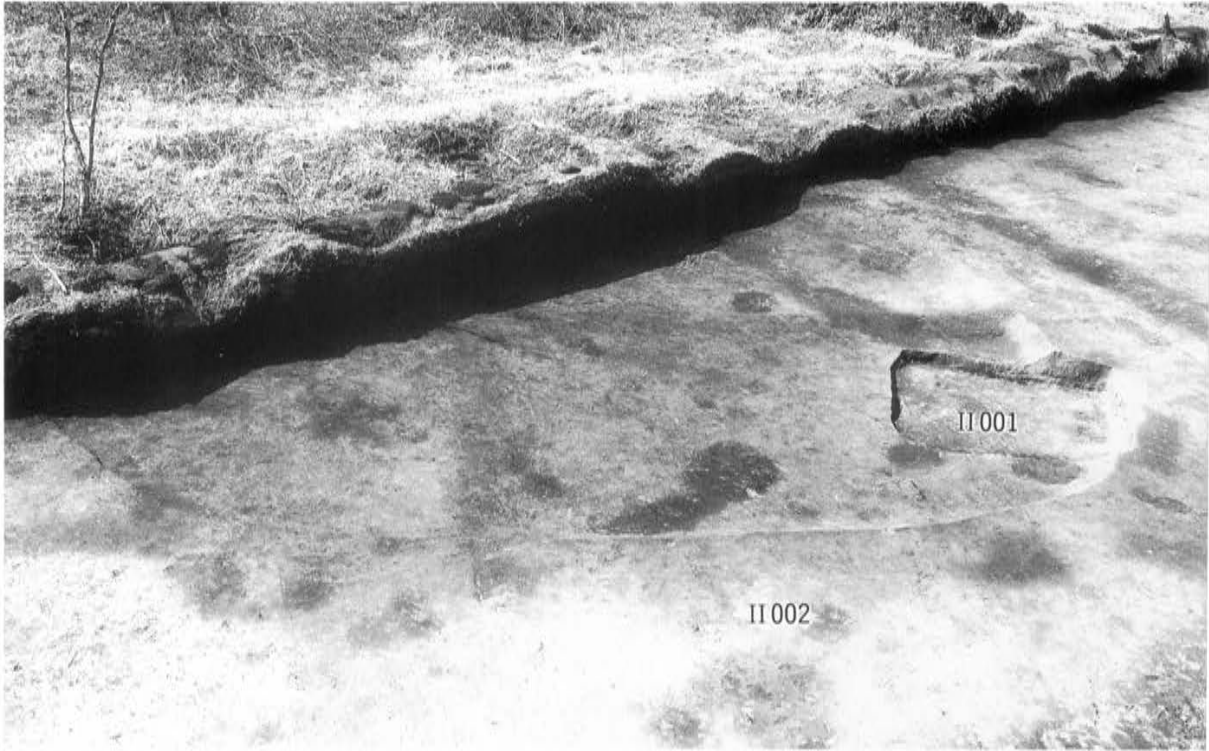
4. I 208



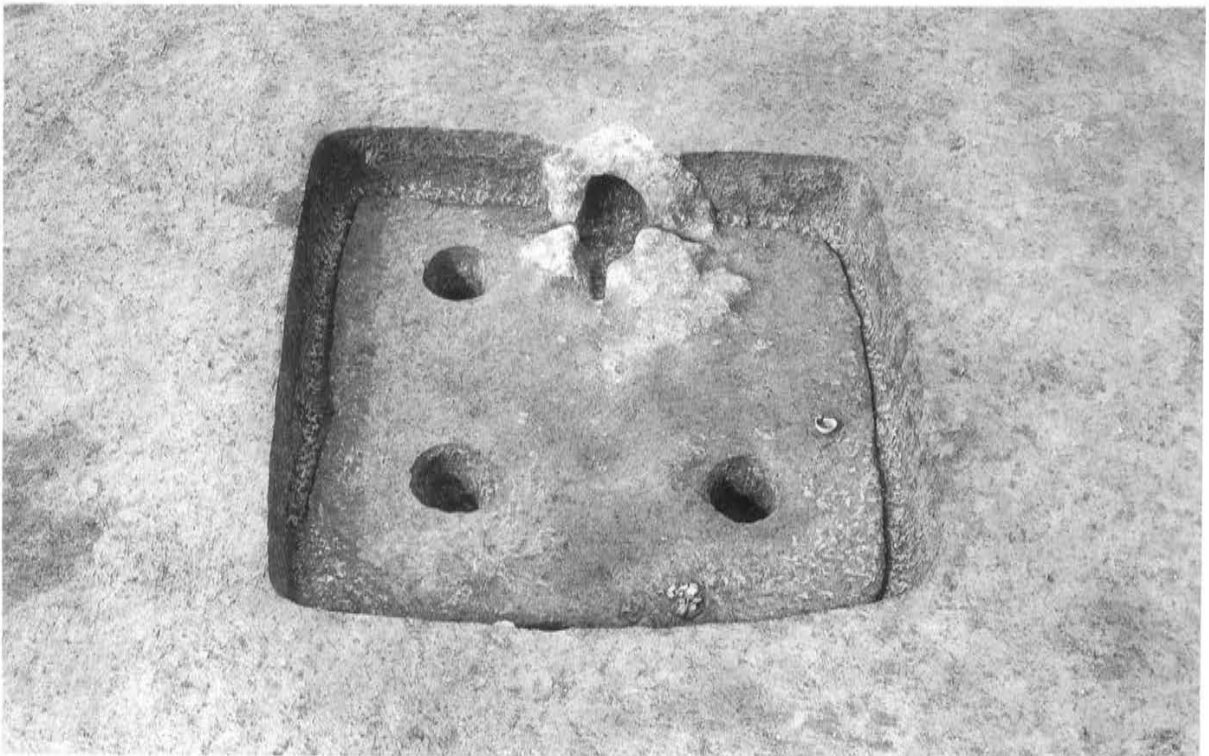
5. I 210



1. II001



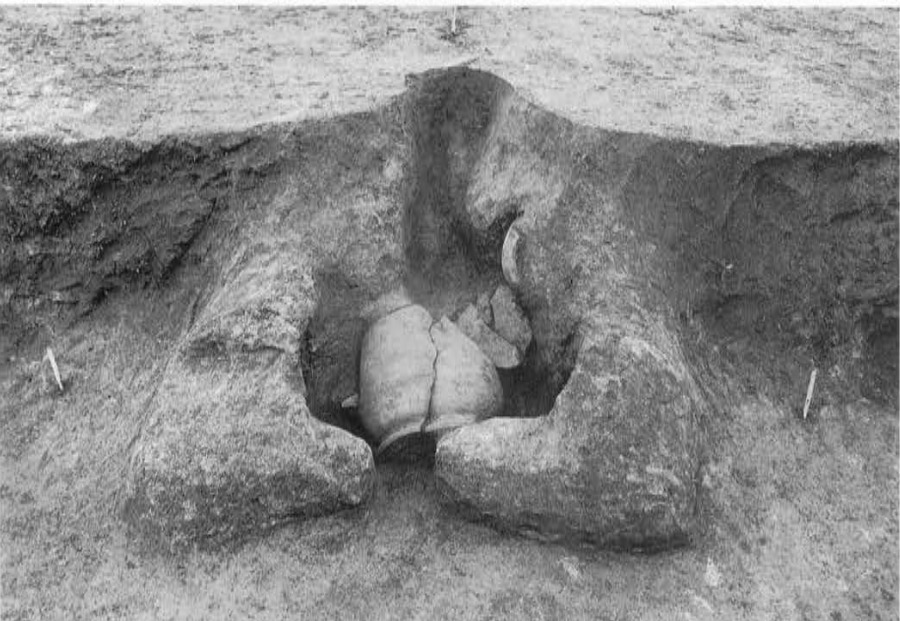
2. II001  
II002



3. II003



1. II004



2. II004



3. II004



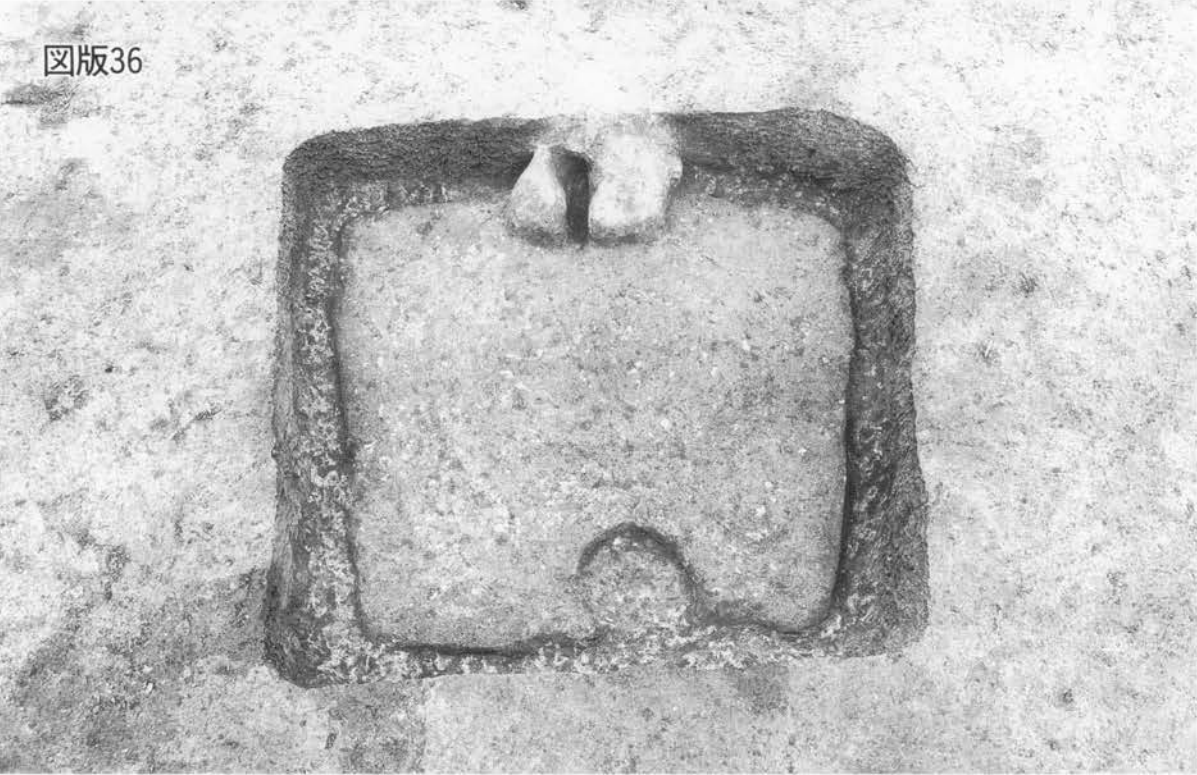
1. II004



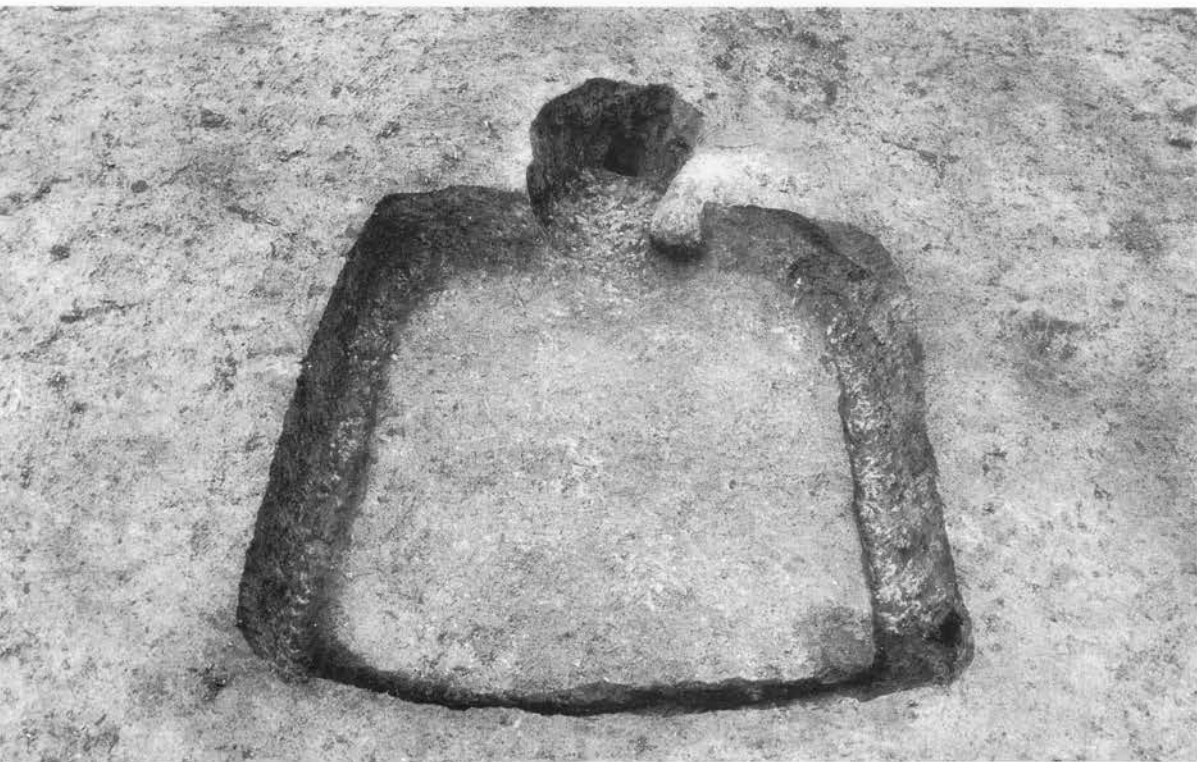
2. II005



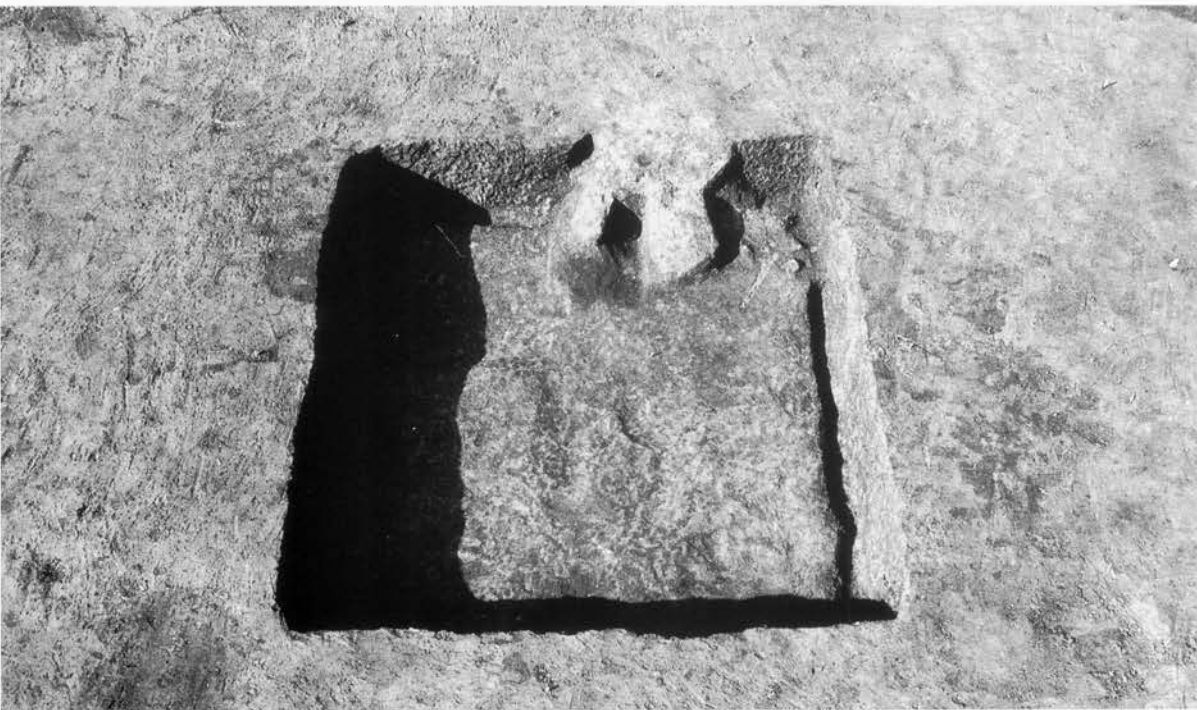
3. II005



1. II006



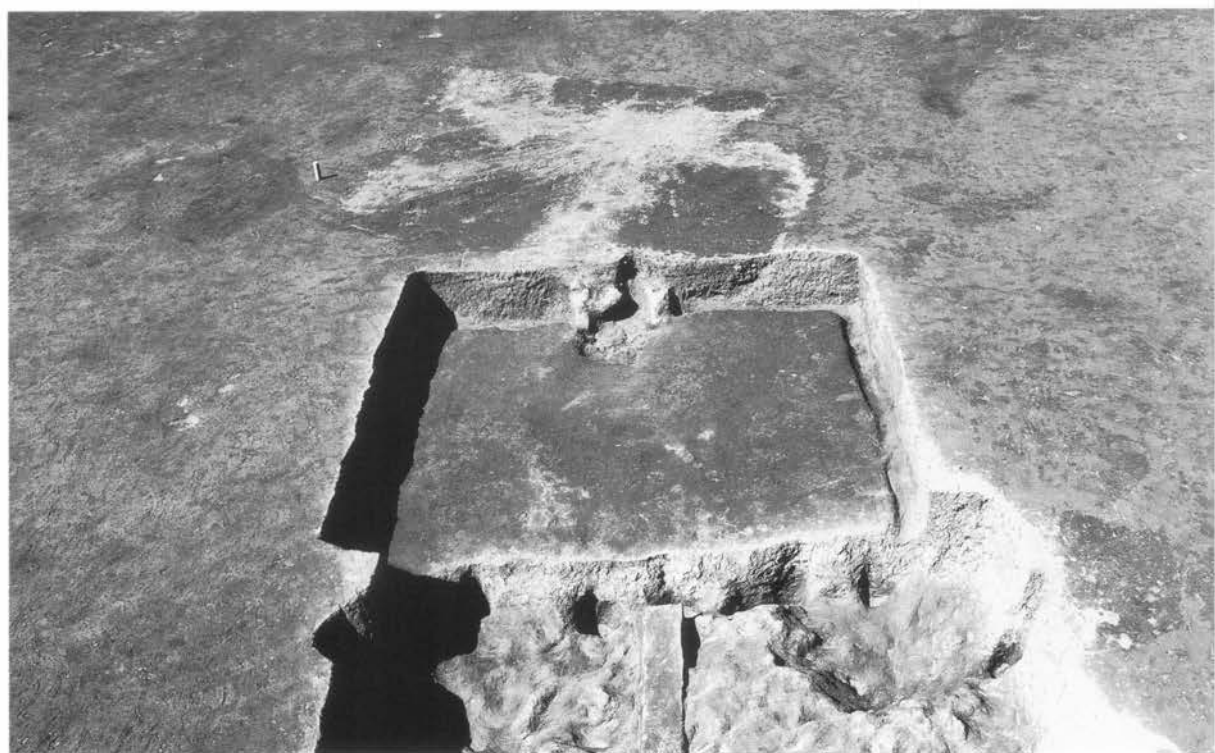
2. II007



3. II008



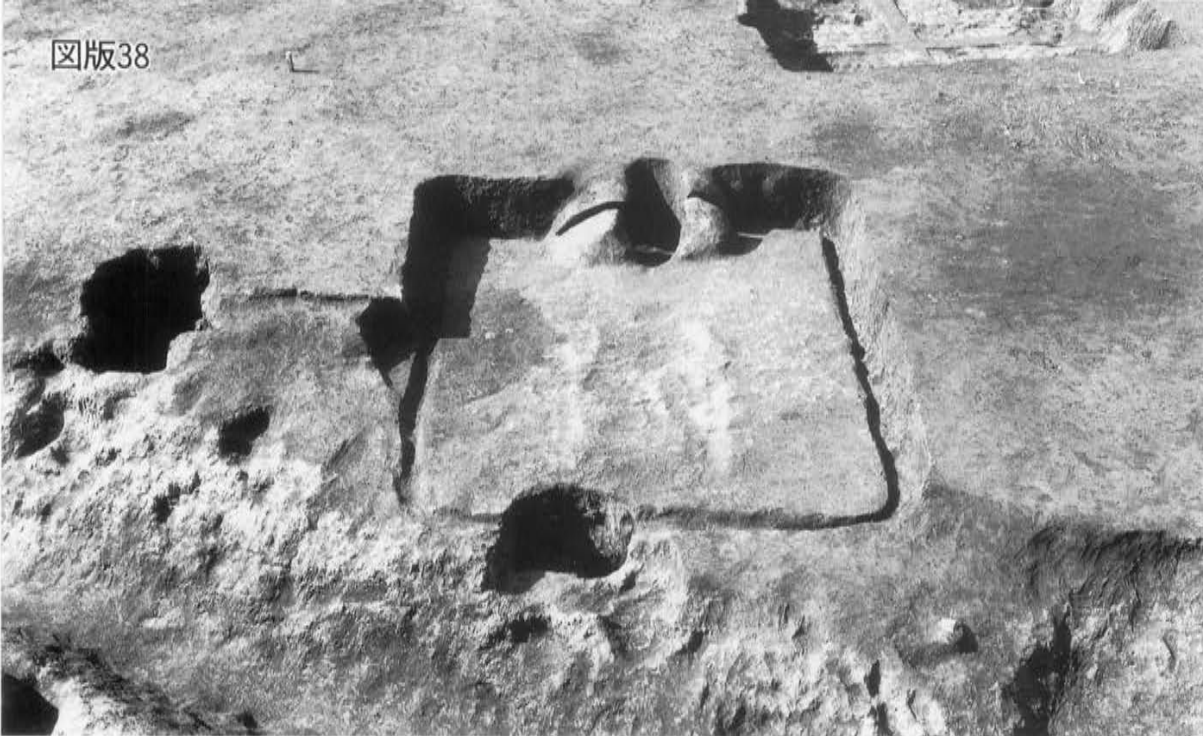
1. II009



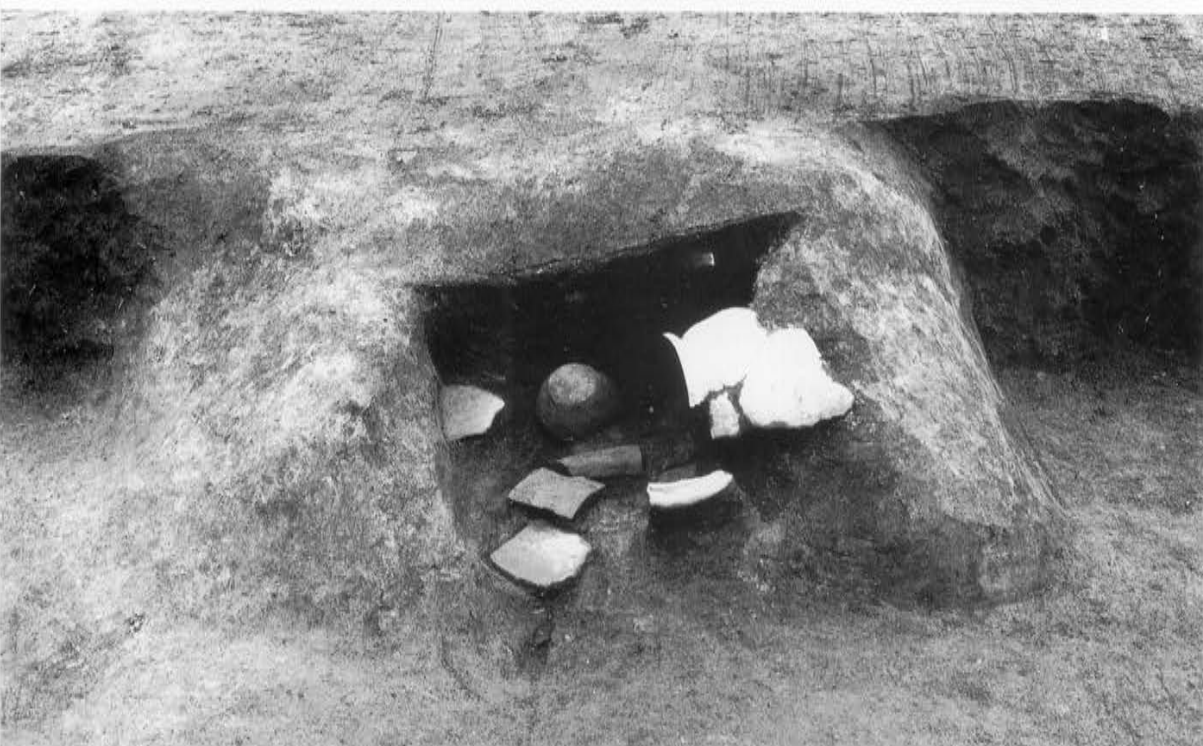
2. II010



3. II011



1. II012



2. II012

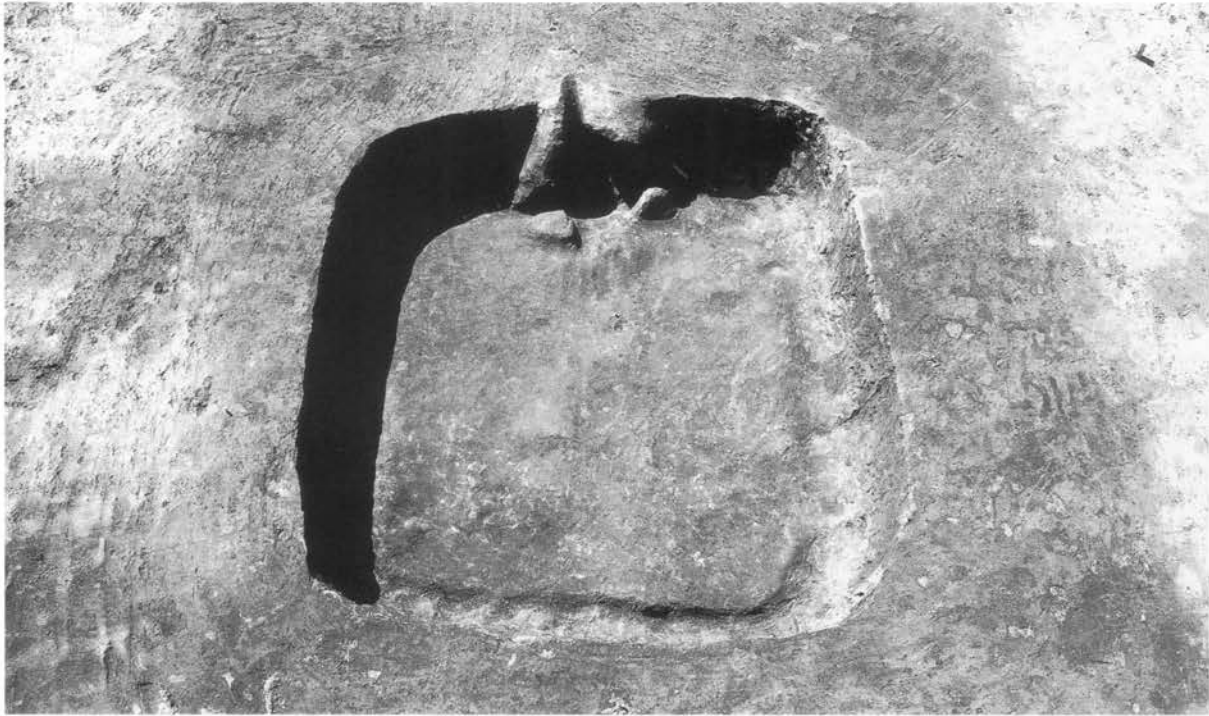


3. II014

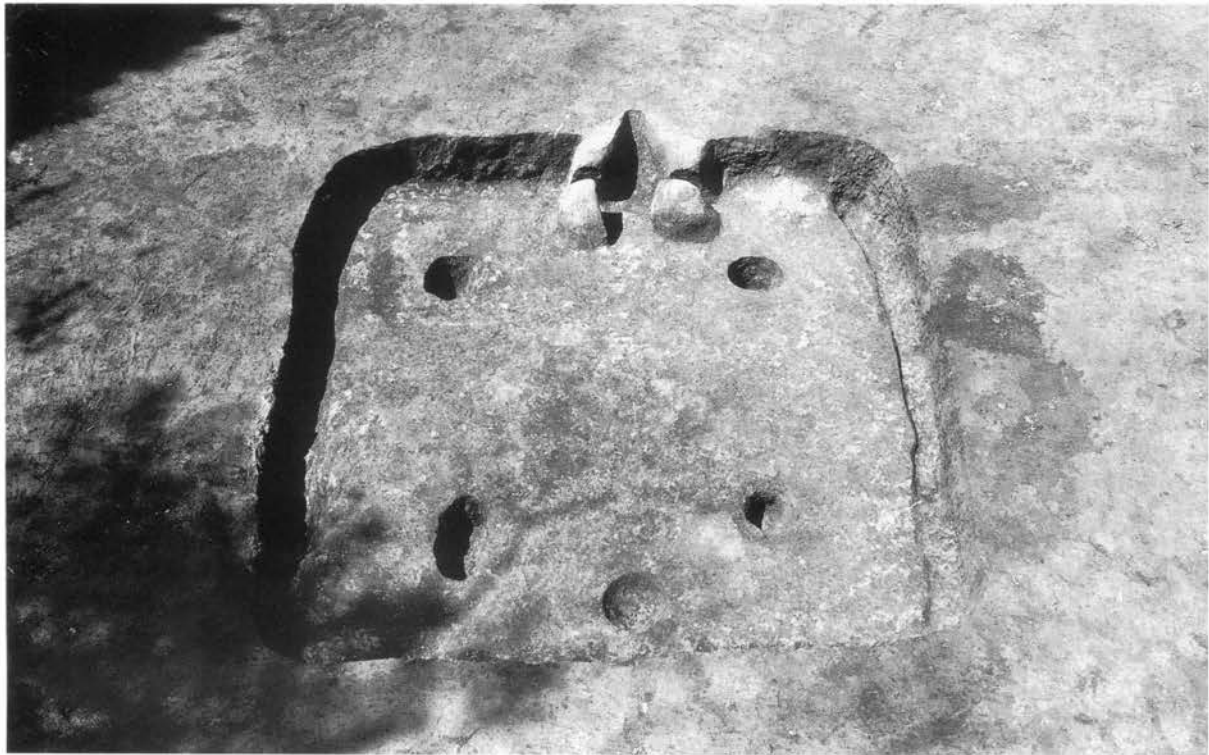




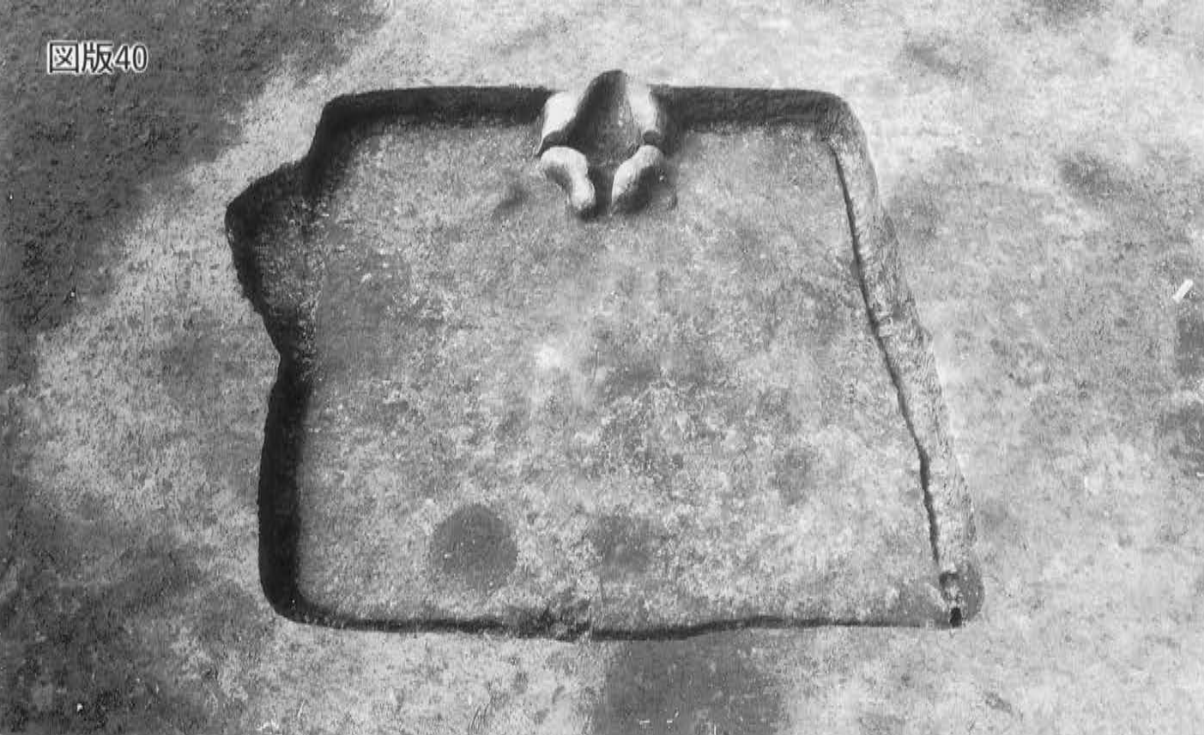
1. II015



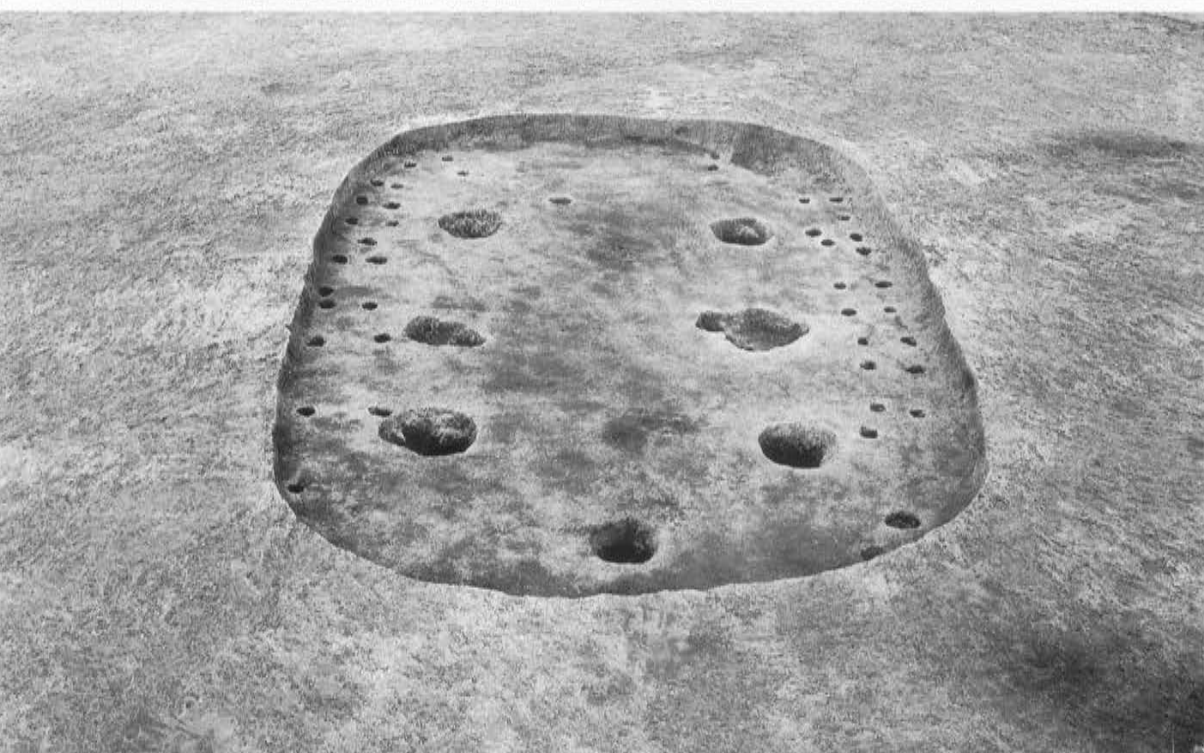
2. II016



3. II017



1. II018



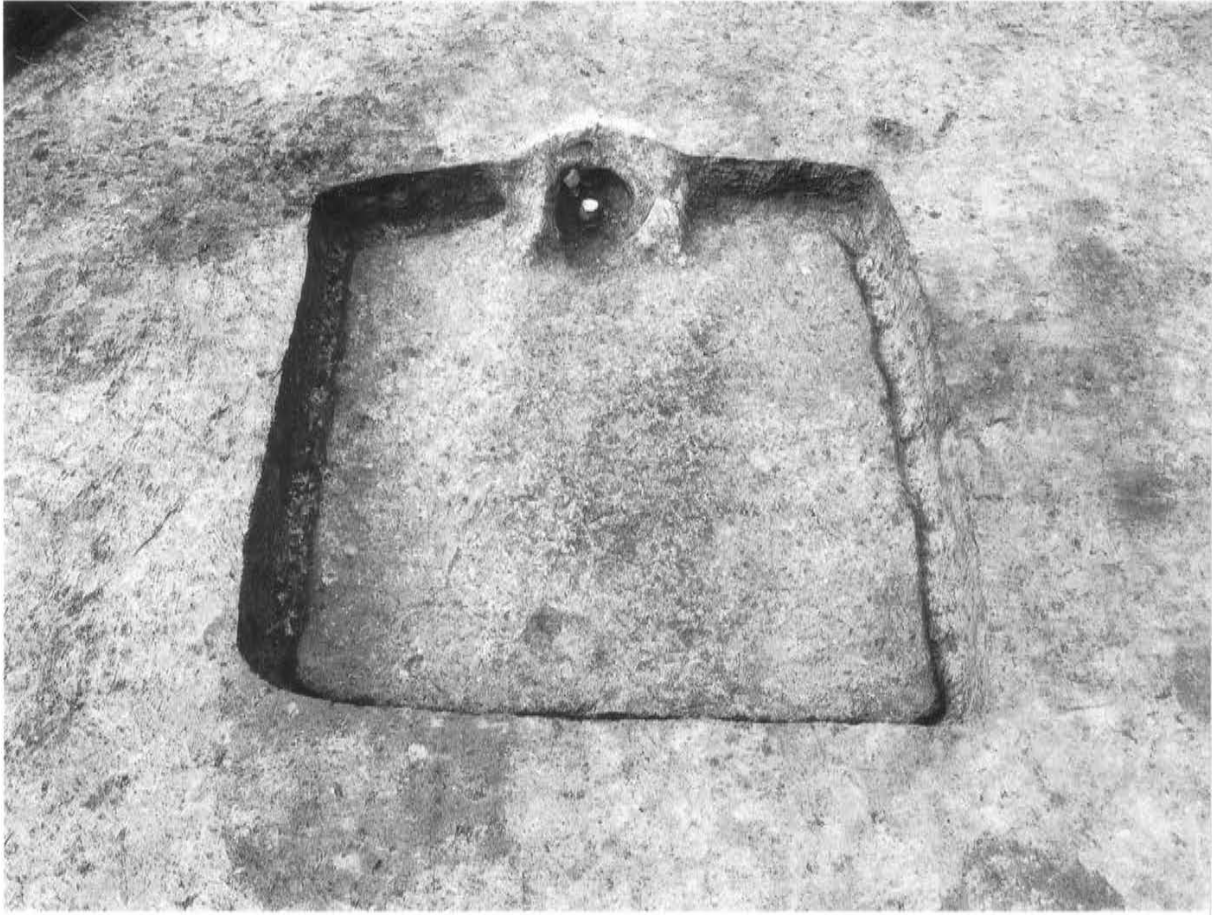
2. II019



3. II020



1. II020



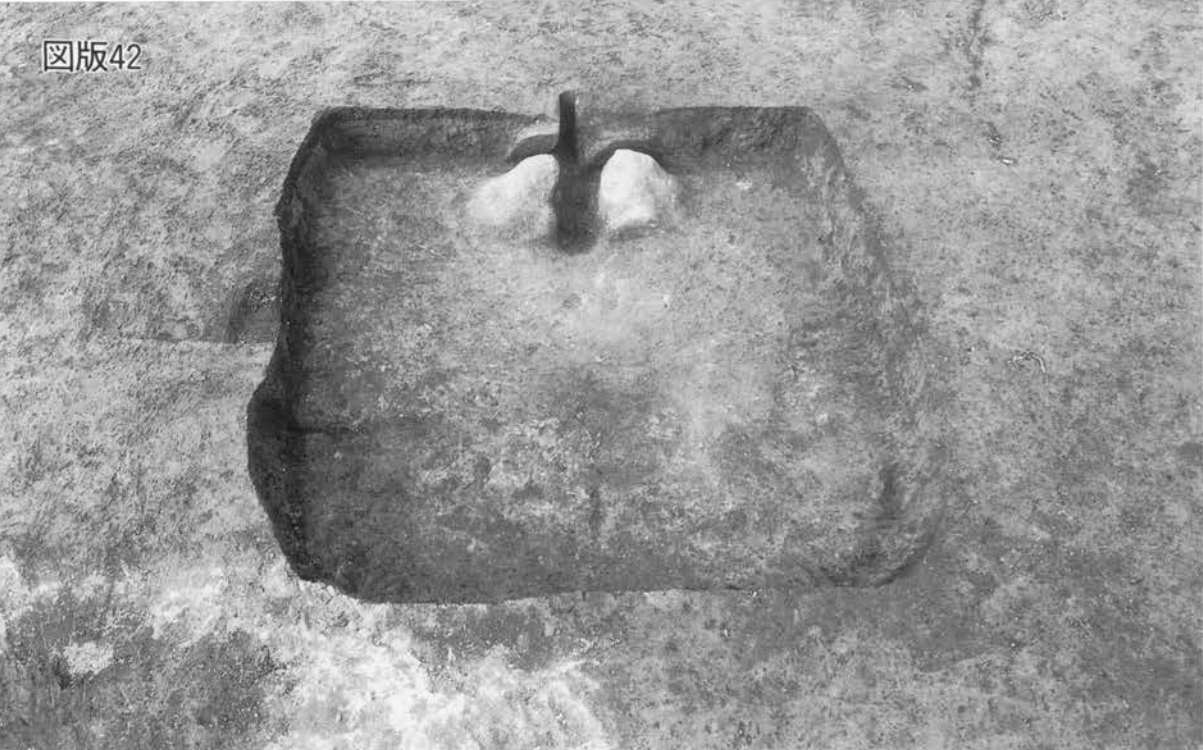
2. II021



3. II021



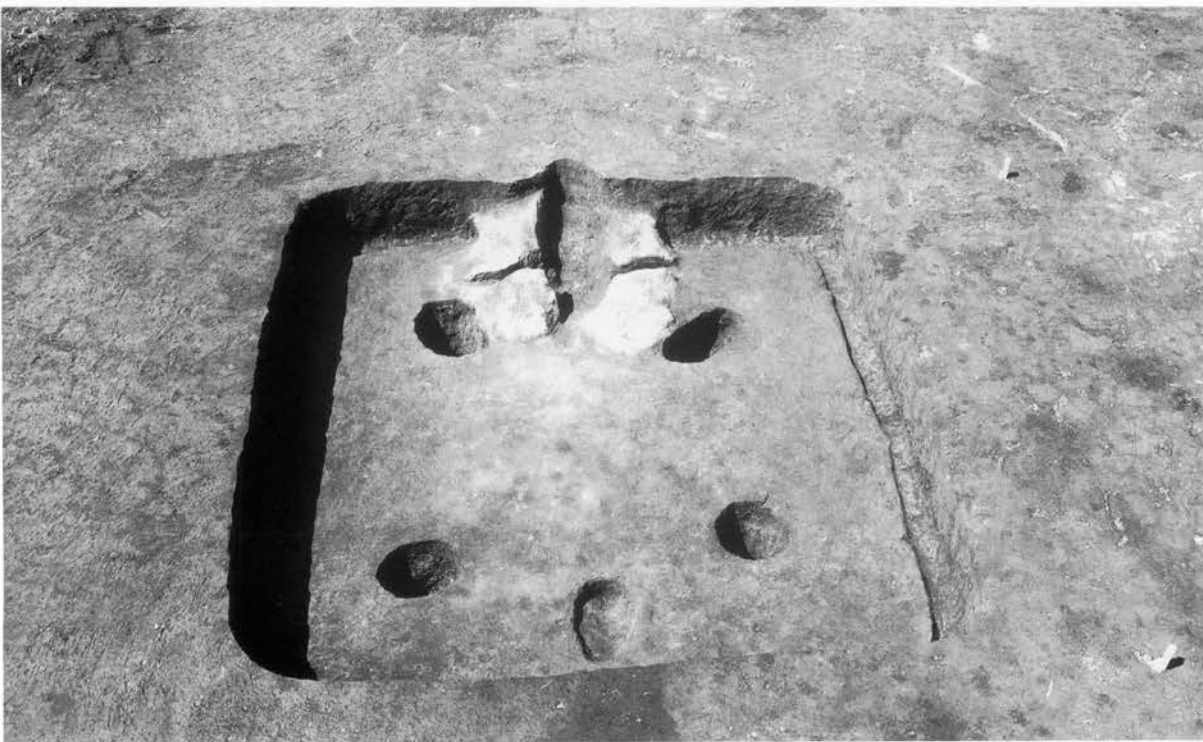
4. II021



1. II022



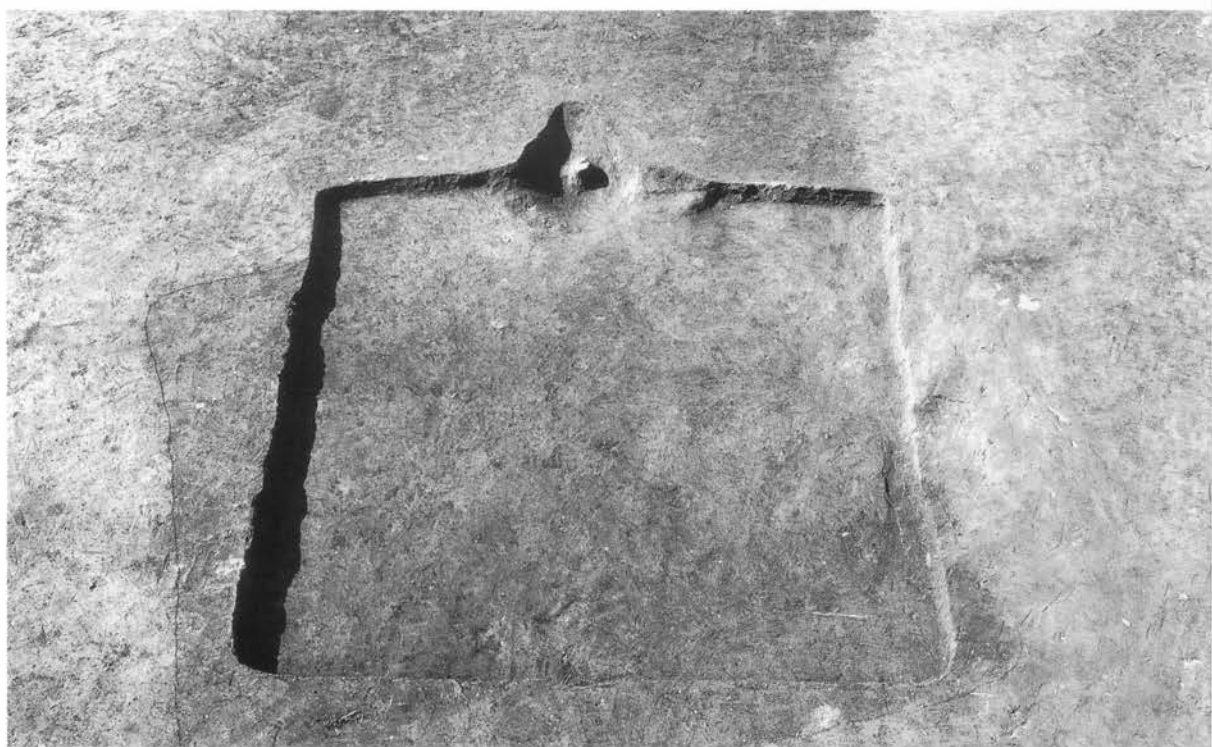
2. II023



3. II025



1. II026



2. II027



3. II028



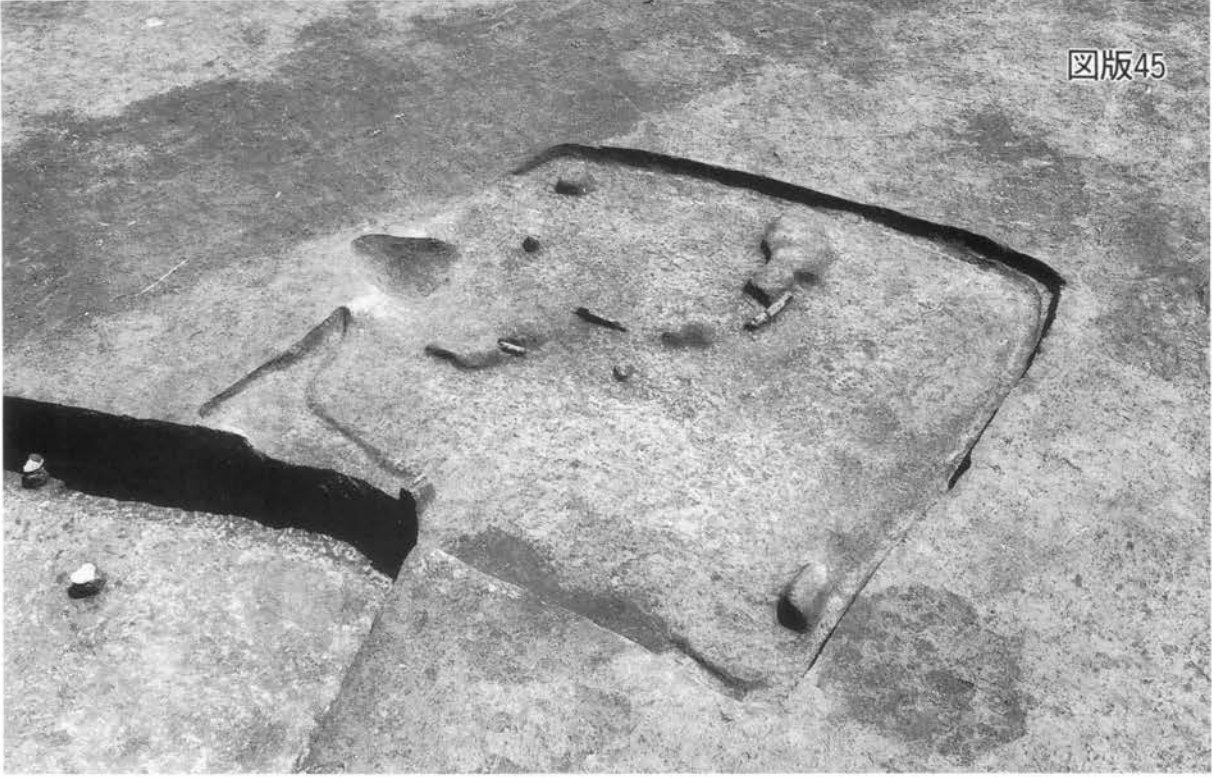
1. II028



2. II028  
II029



3. II030



1. II031



2. II032



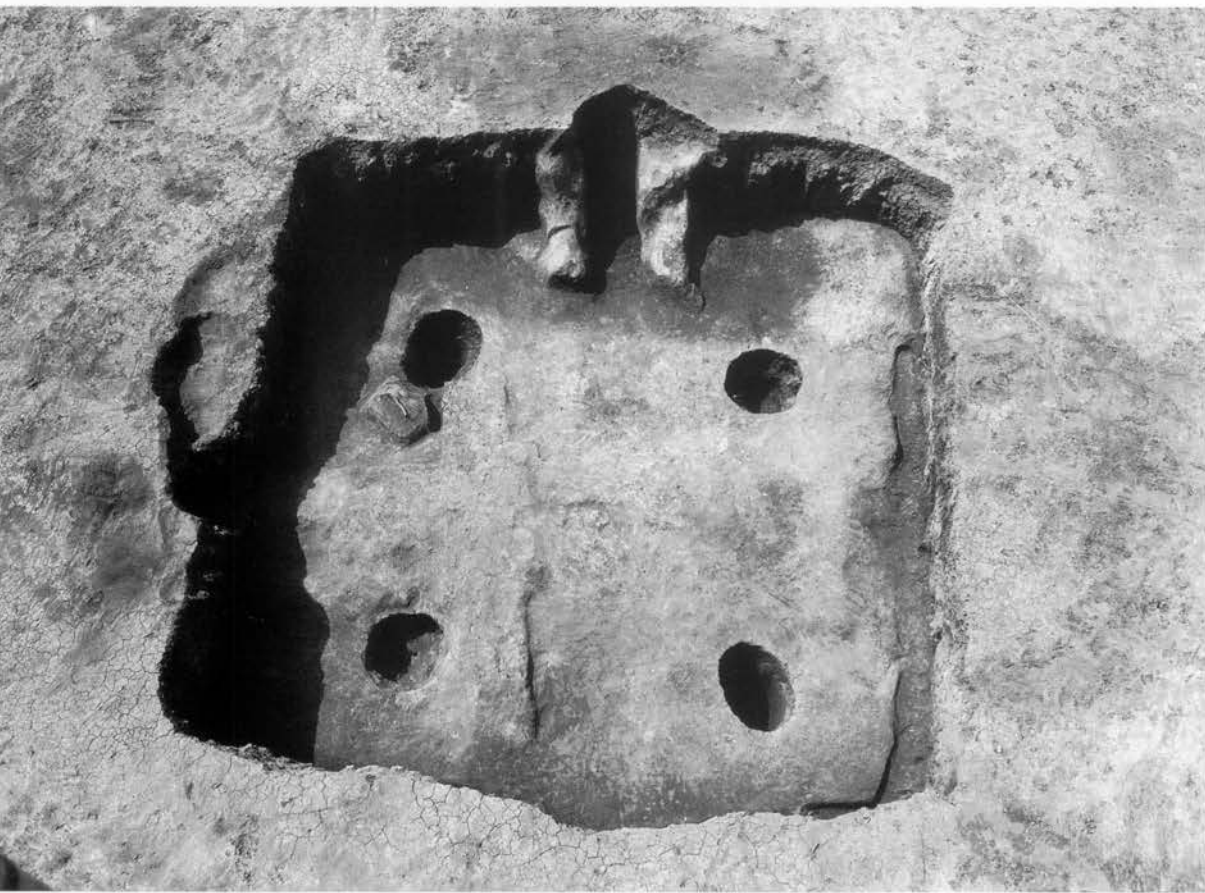
3. II032



1. II033



2. II033

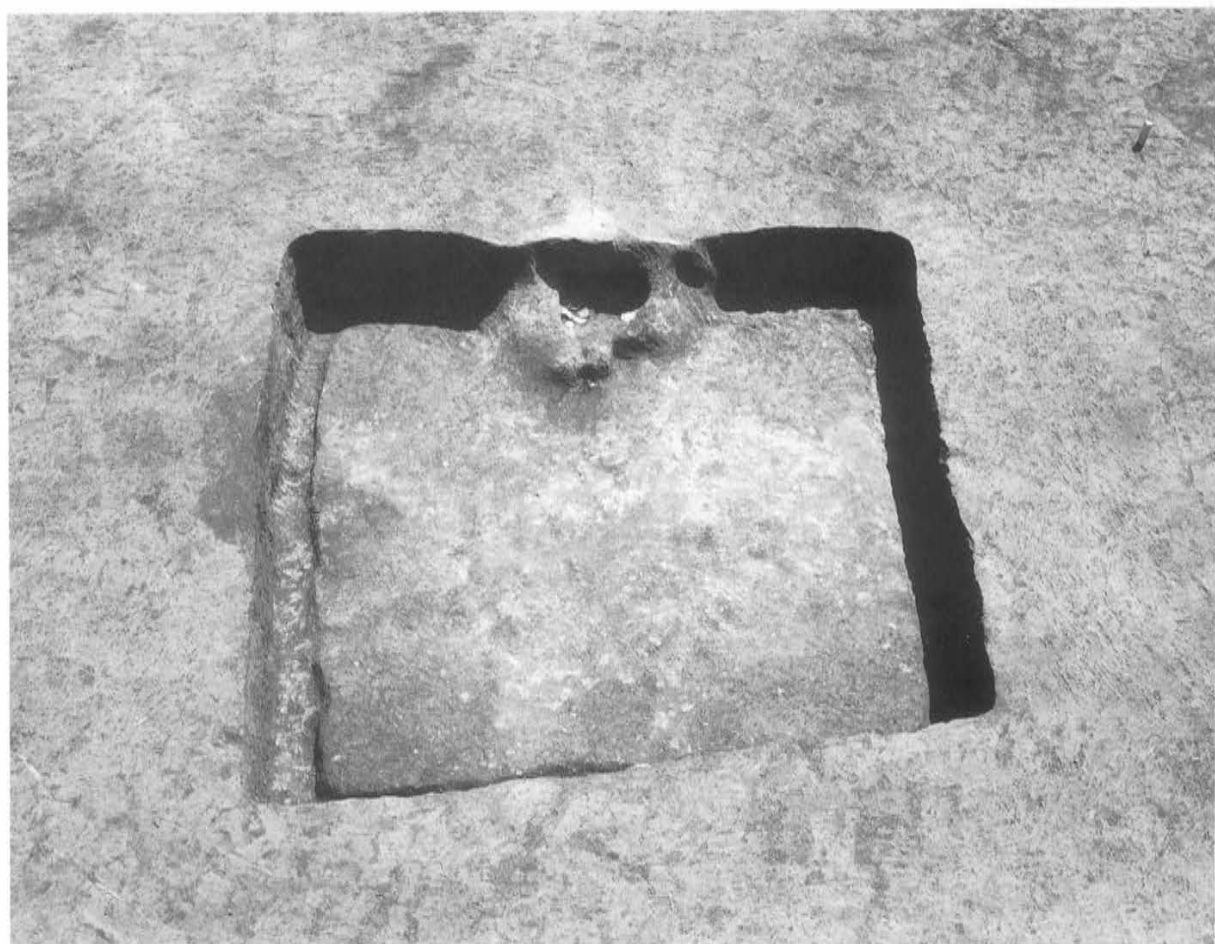


3. II034

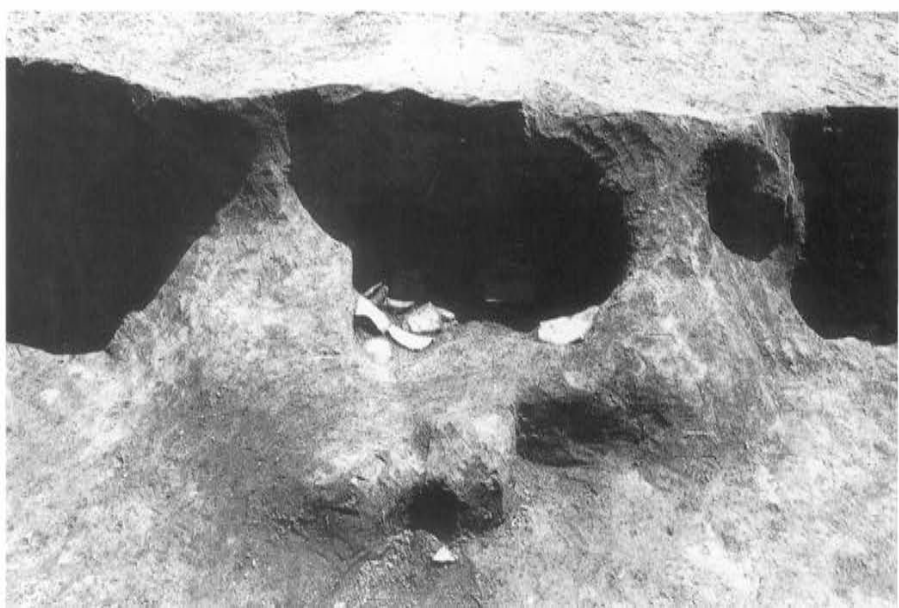




1. II034



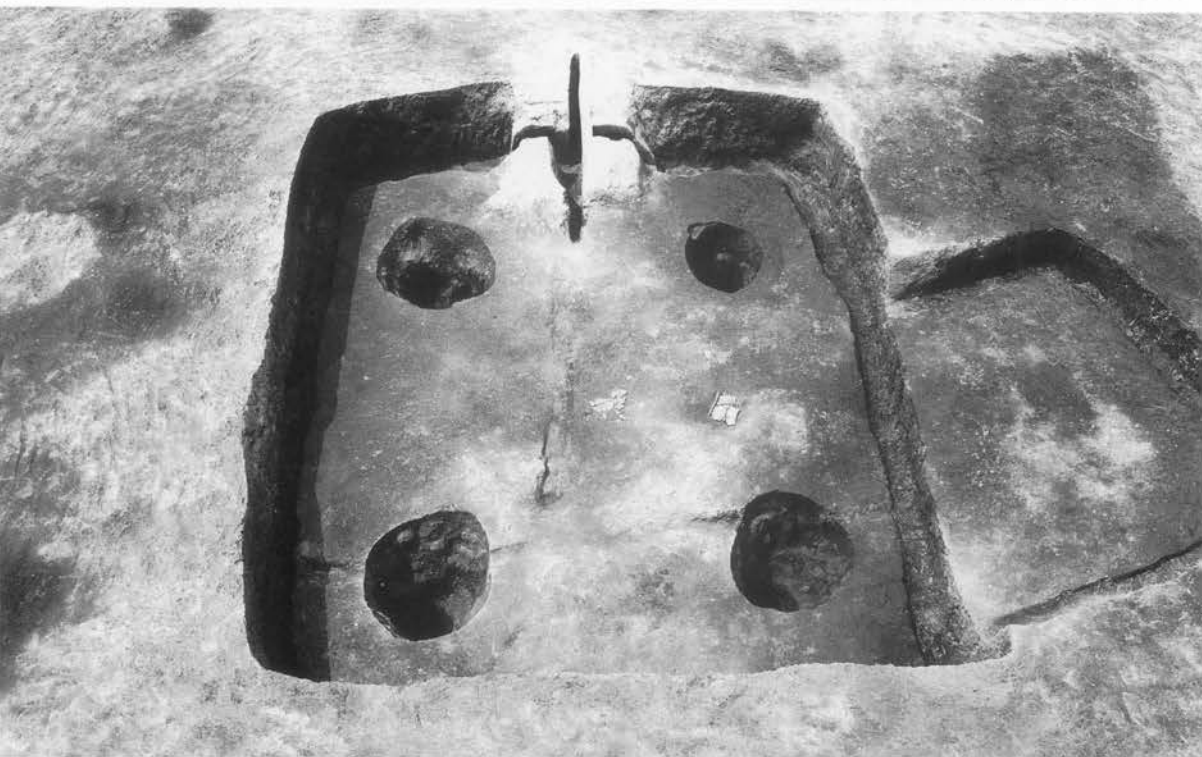
2. II035



3. II035



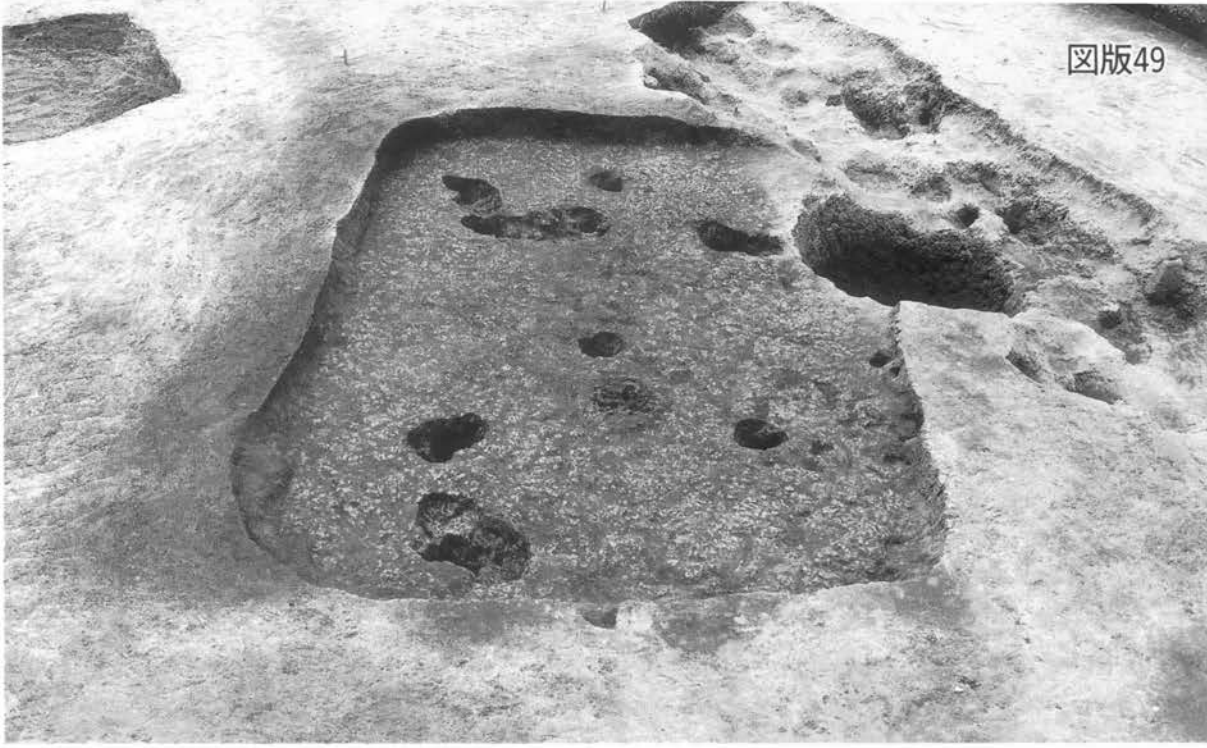
1. II036



2. II037



3. II038



1. II041



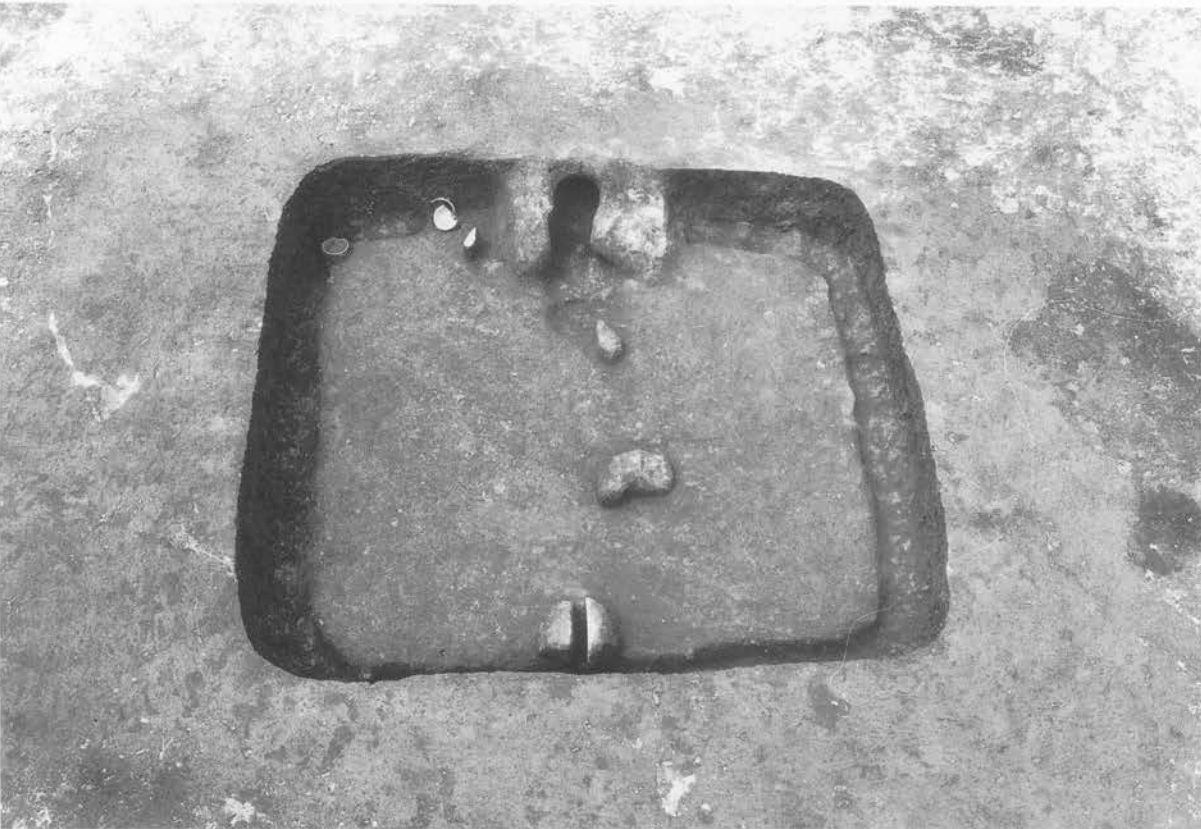
2. II042



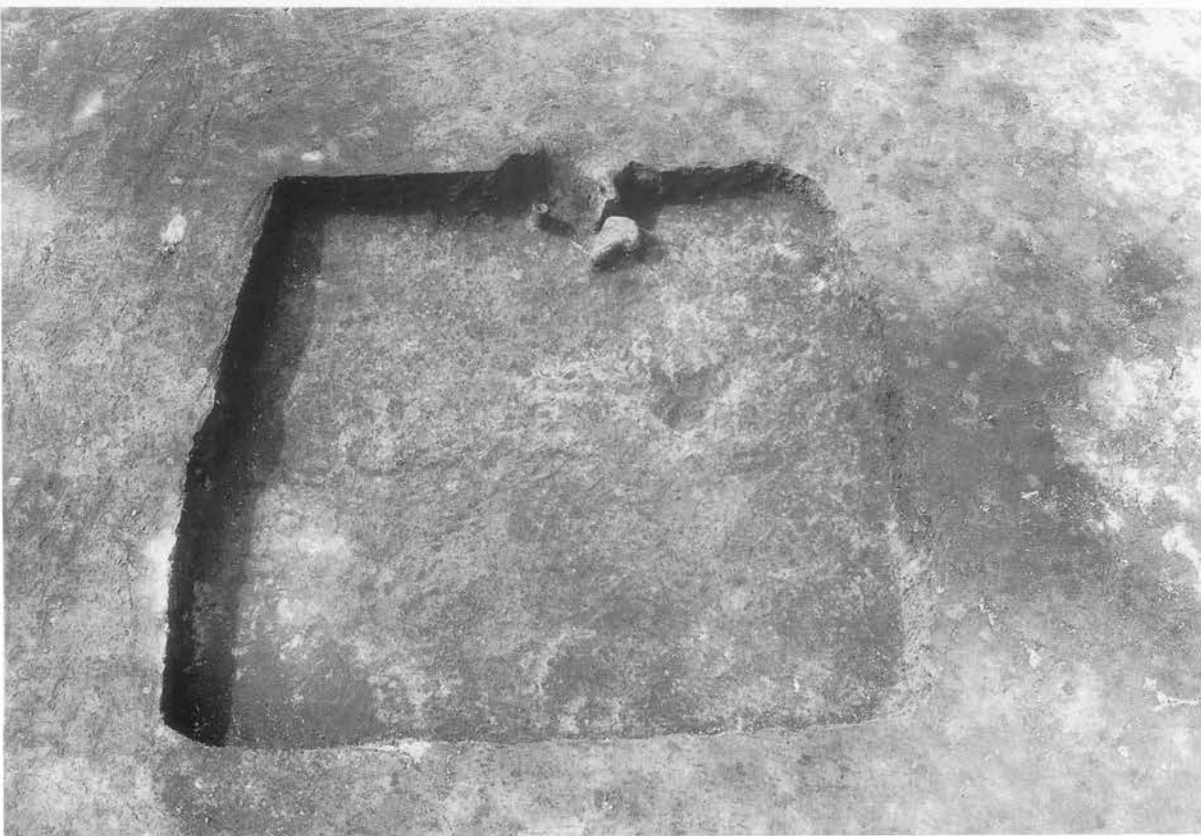
3. II043



1. П043



2. П044



3. П045



1. II047  
II053  
II054  
II055



2. II048



3. II049



1. II051  
II052



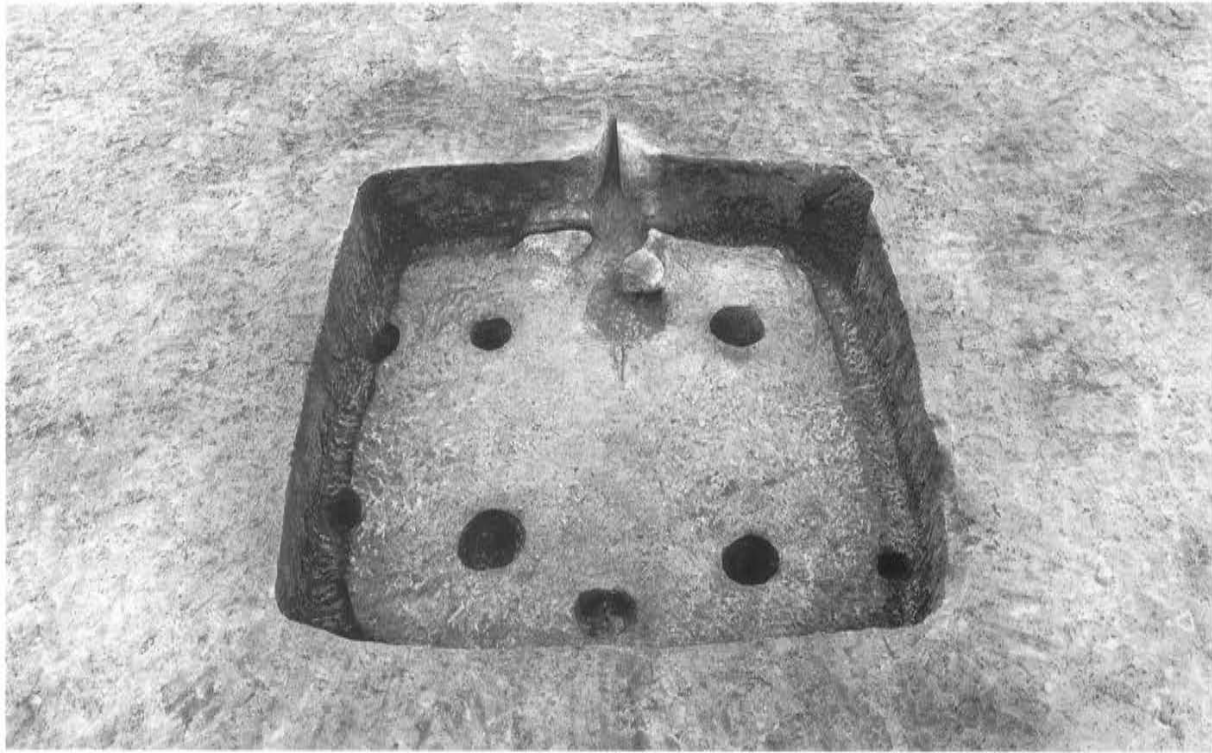
2. II056



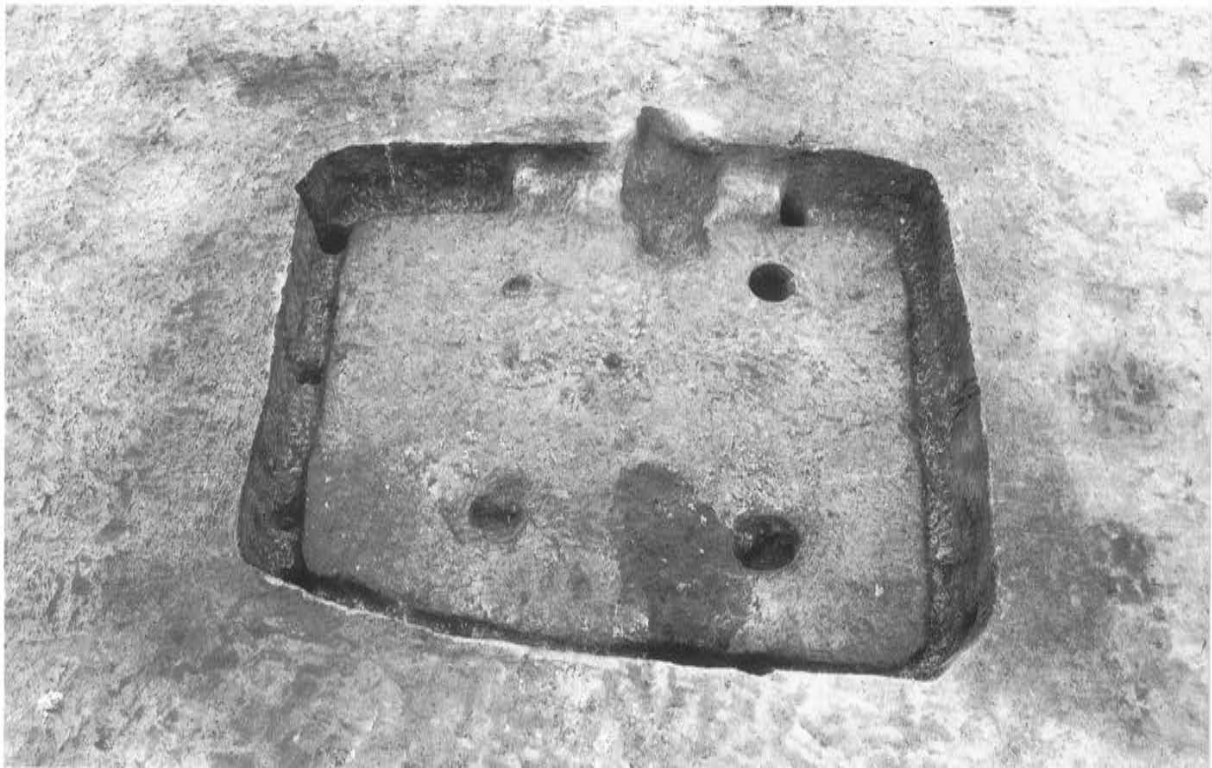
3. II056



1. II057



2. II058



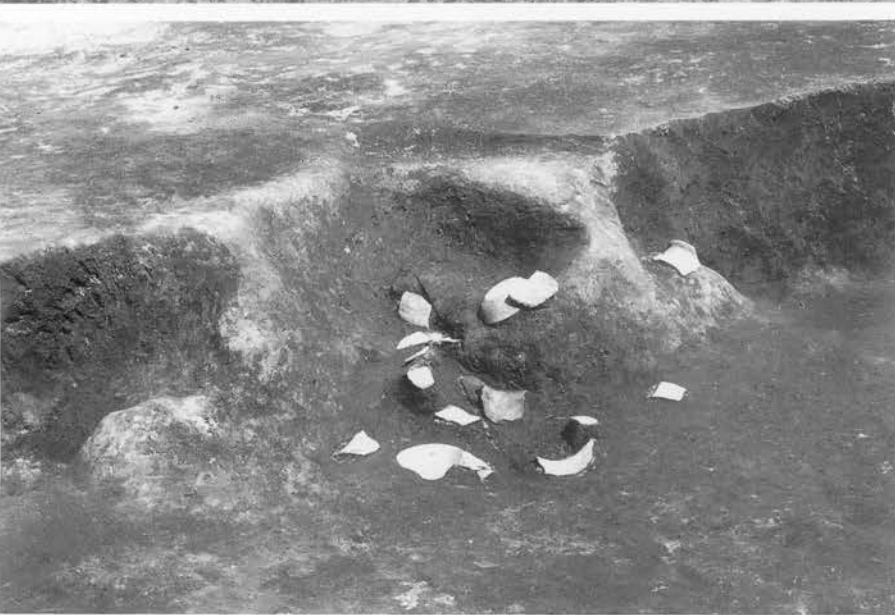
3. II059



1. II060

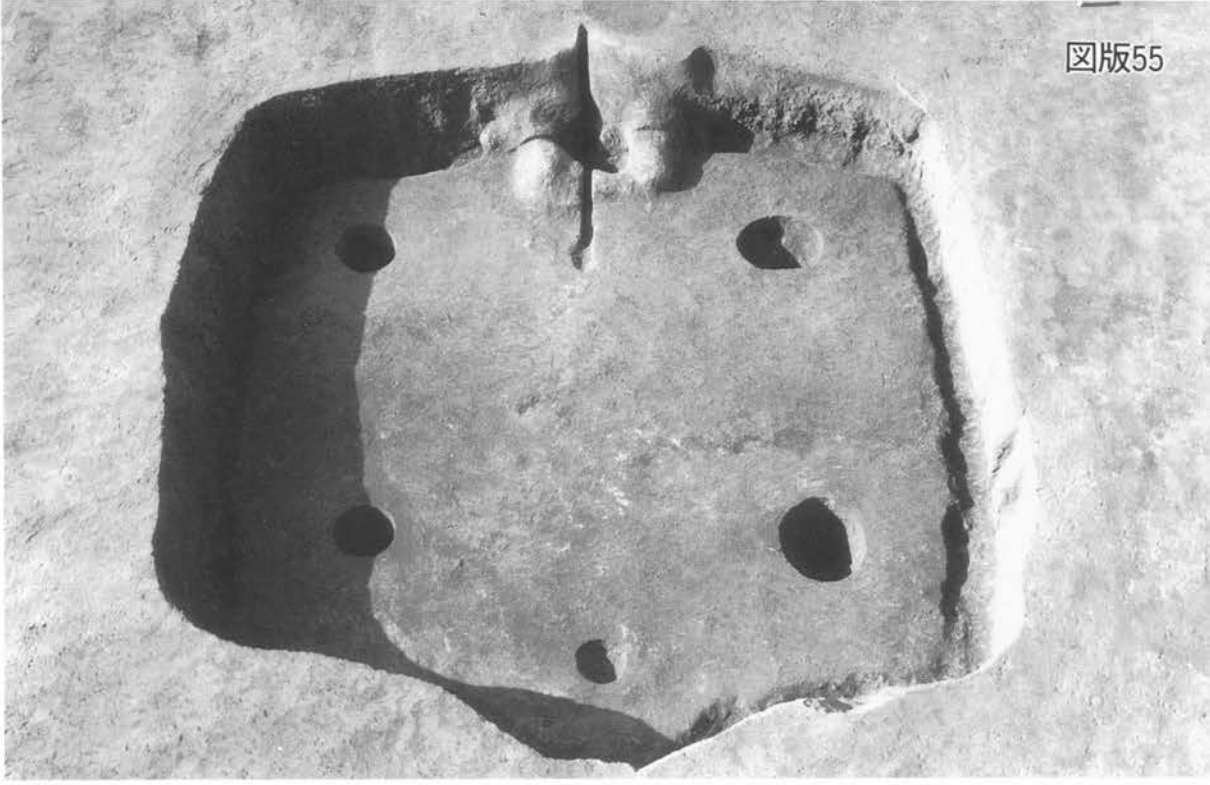


2. II061



3. II061





1. II062



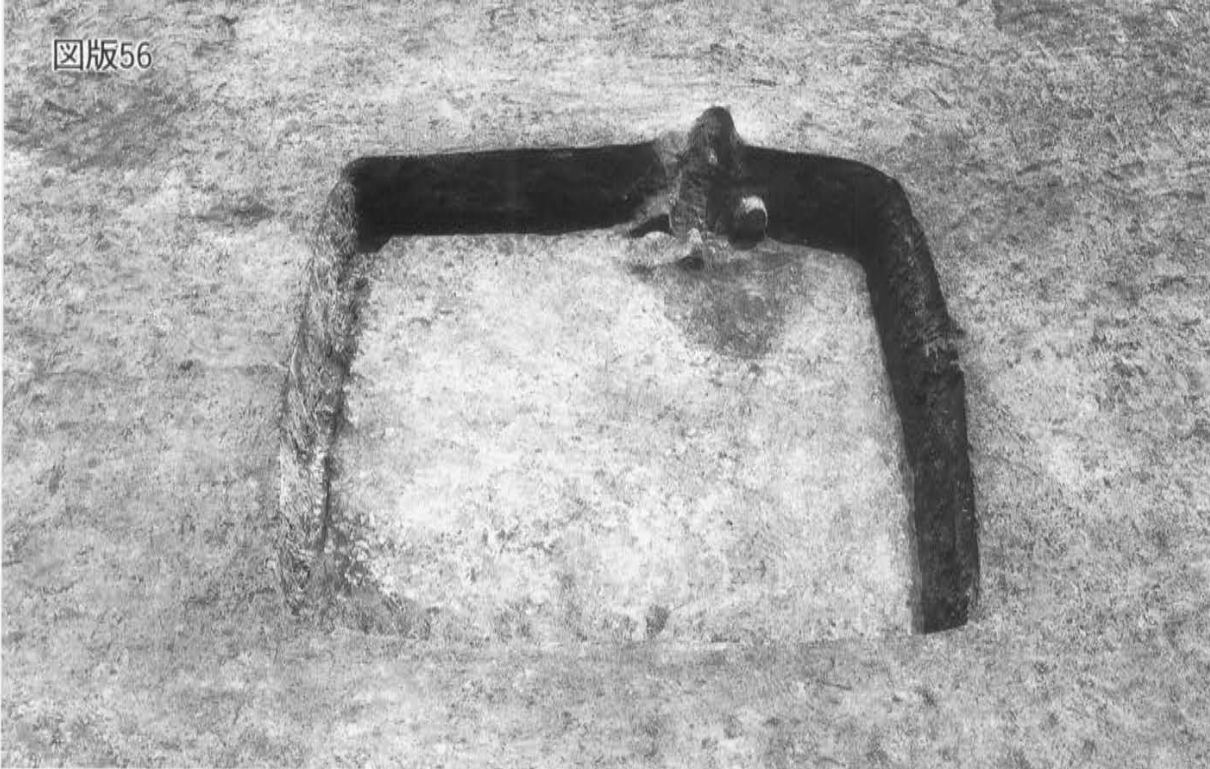
2. II063



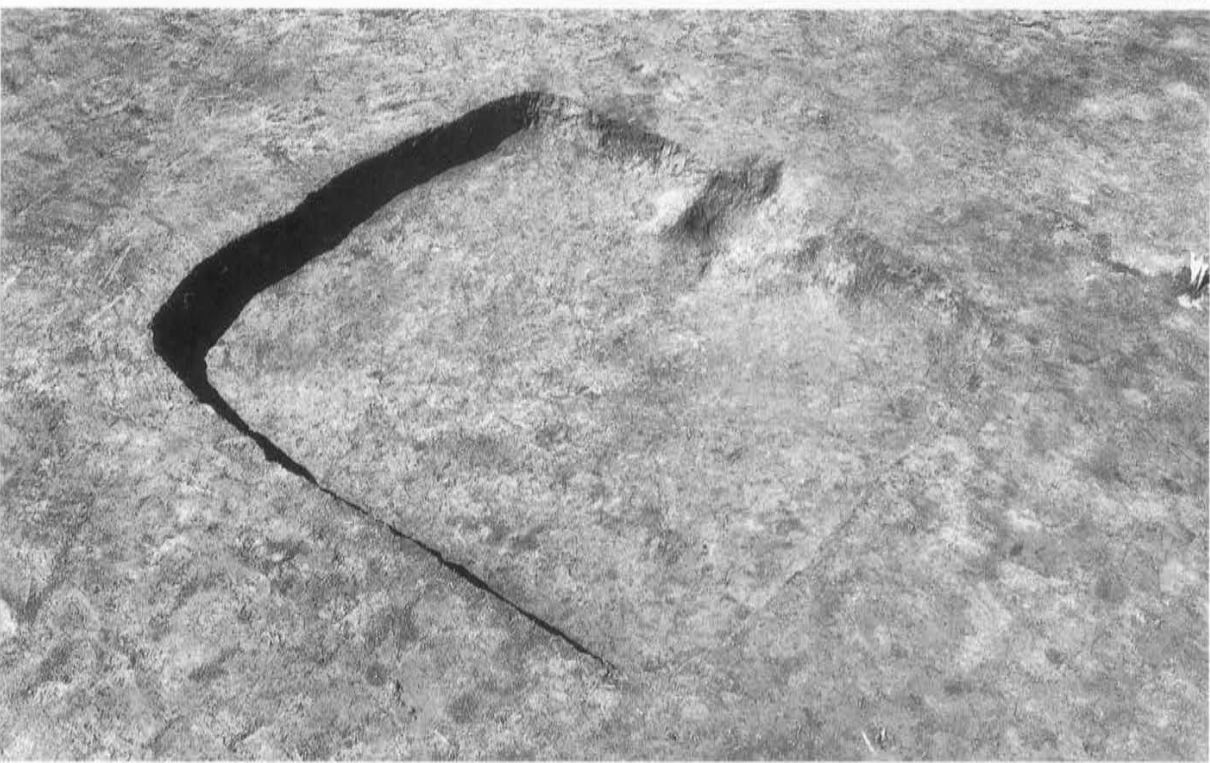
3. II063



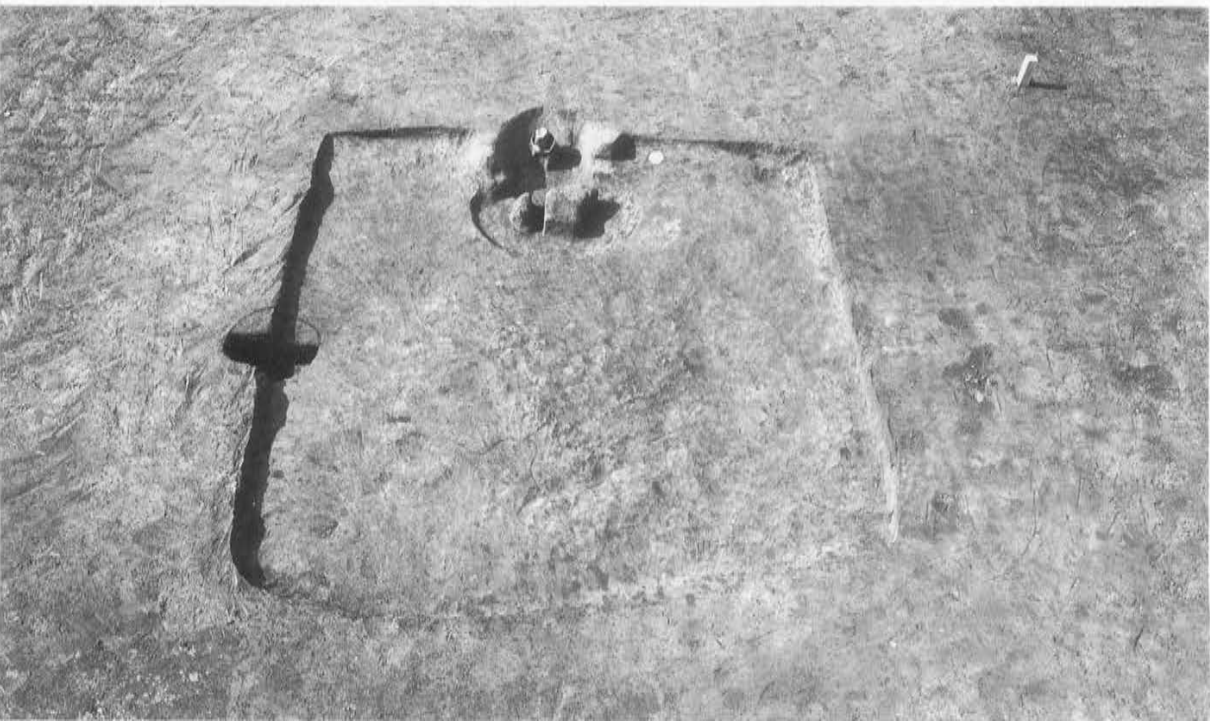
4. II063



1. II064



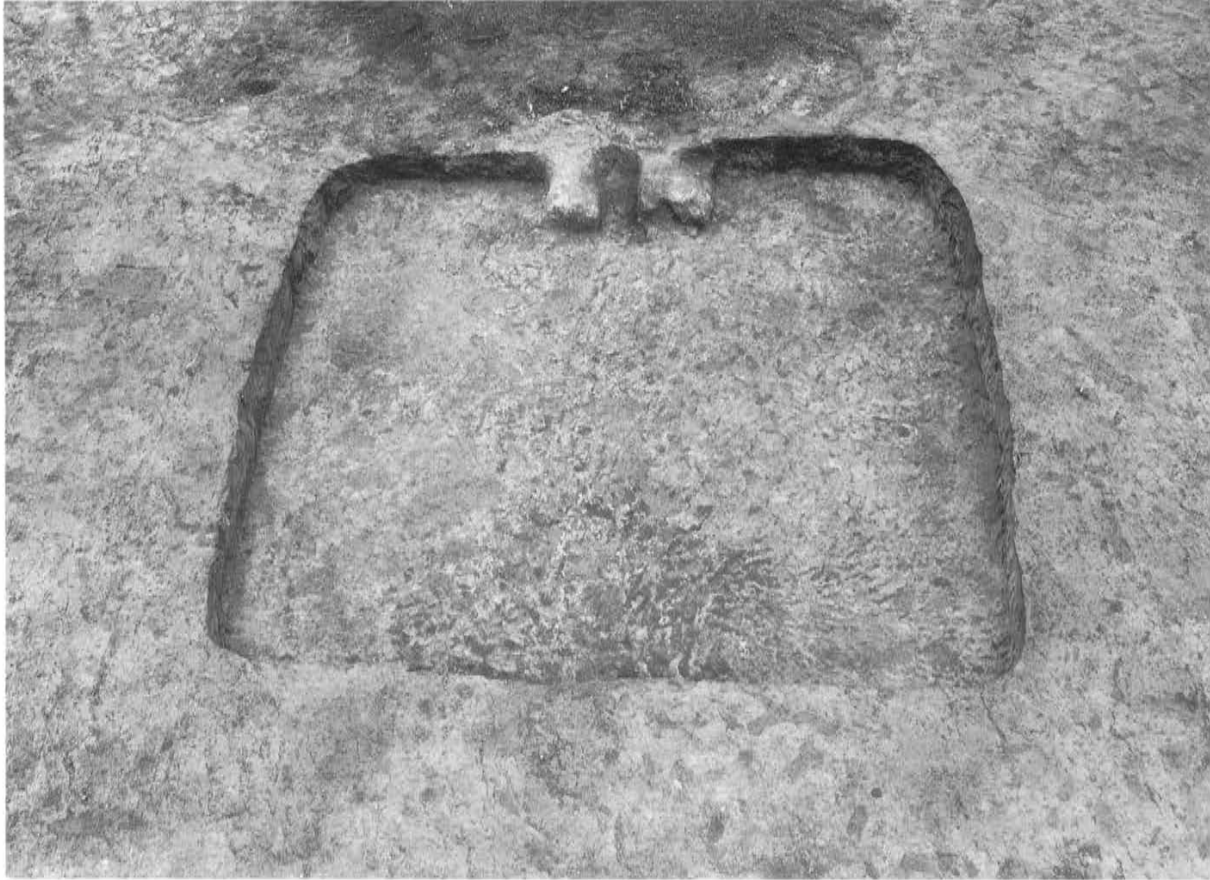
2. II065



3. II066



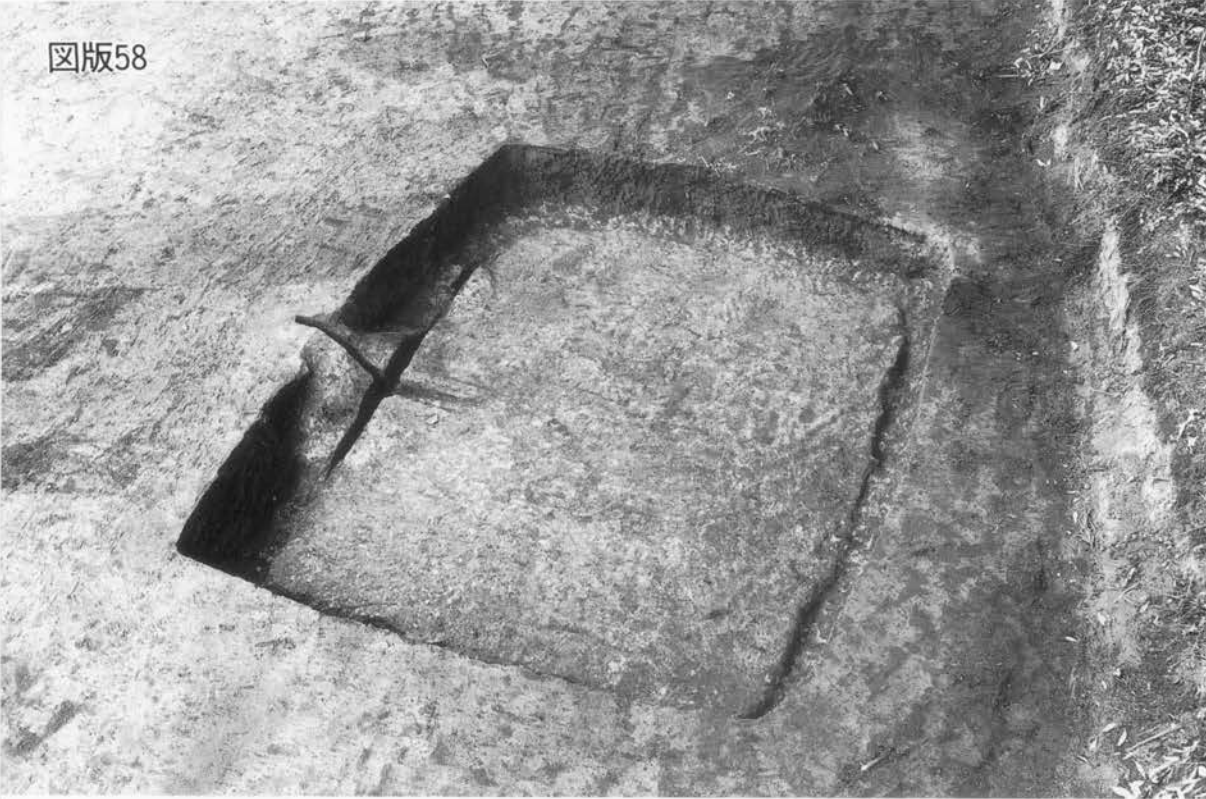
1. II066



2. II067



3. II068



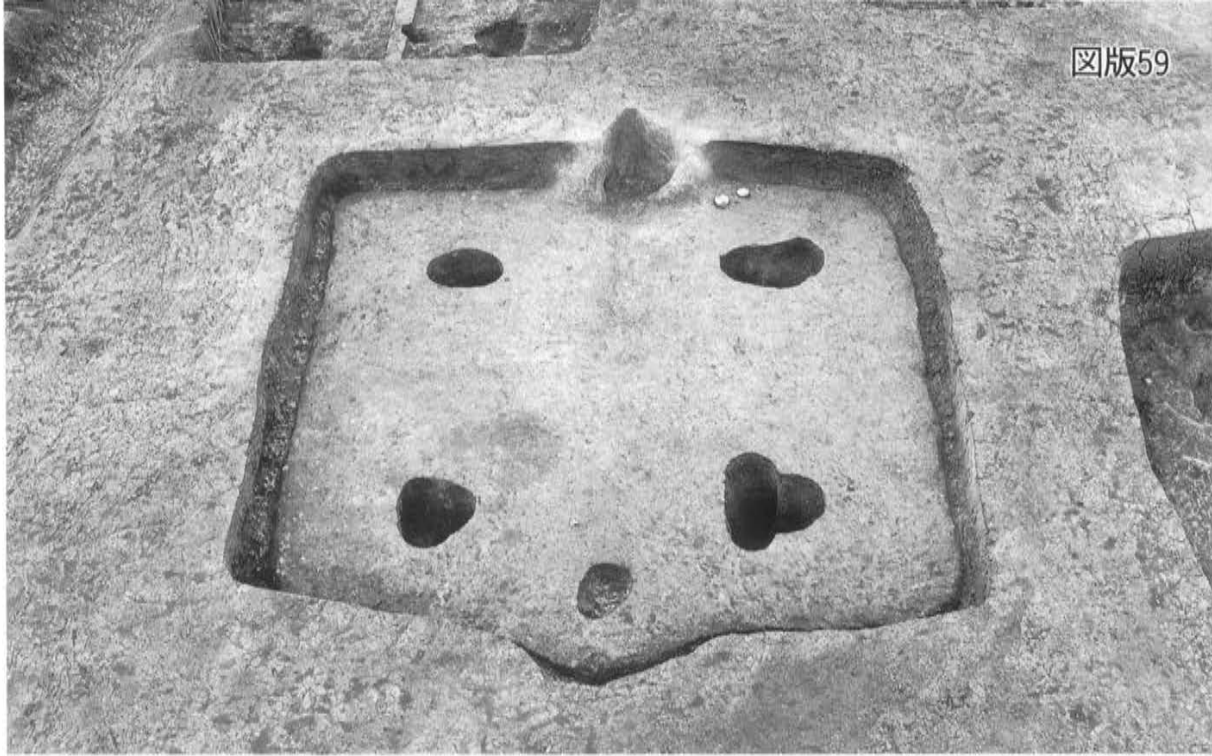
1. II069



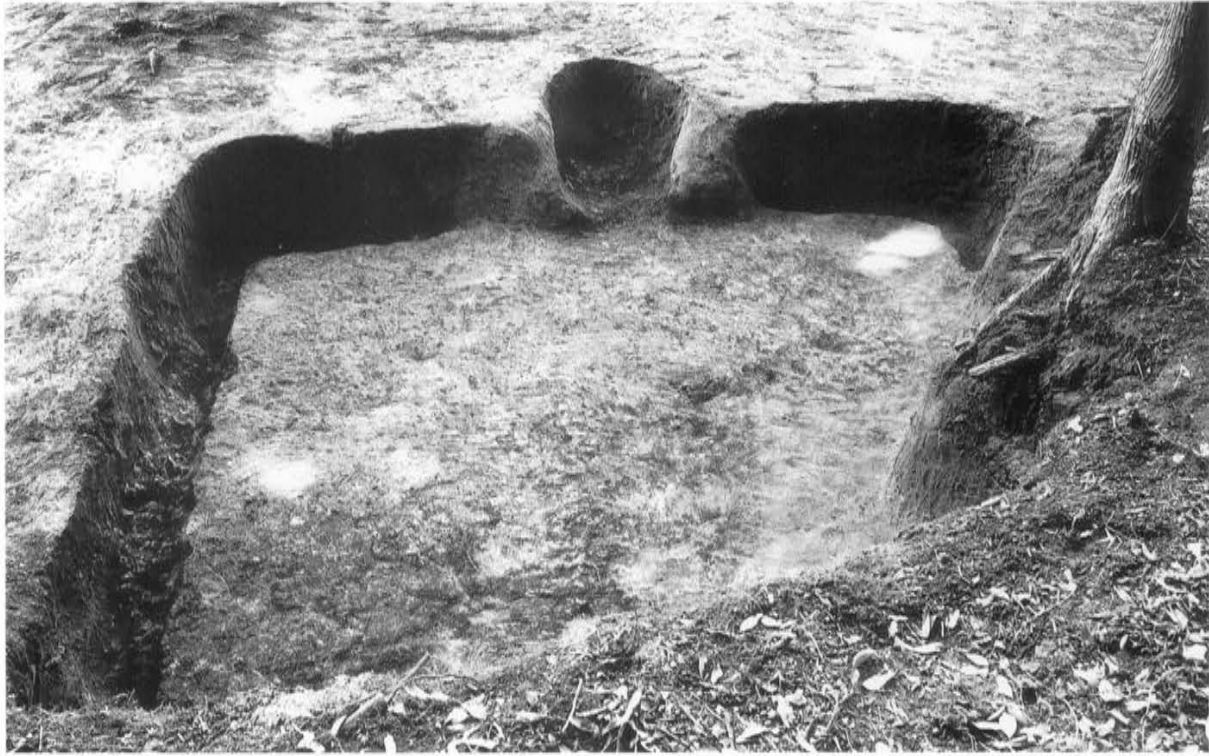
2. II070



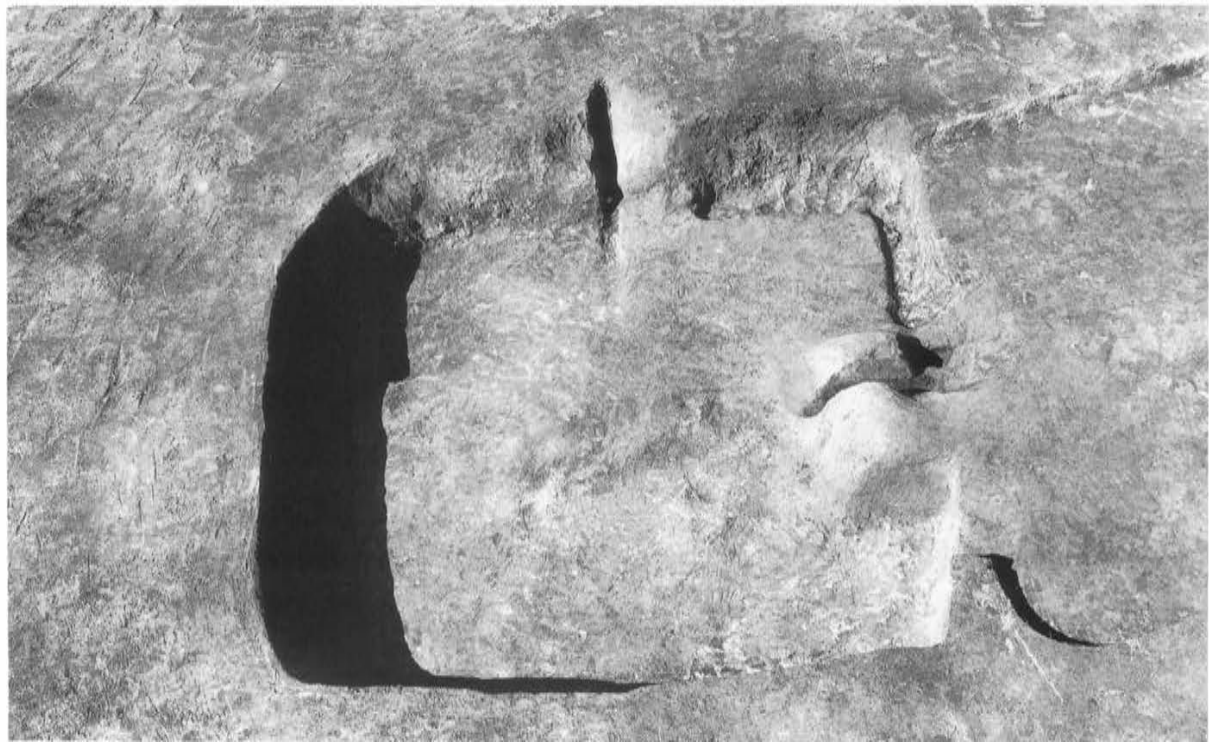
3. II070



1. II071



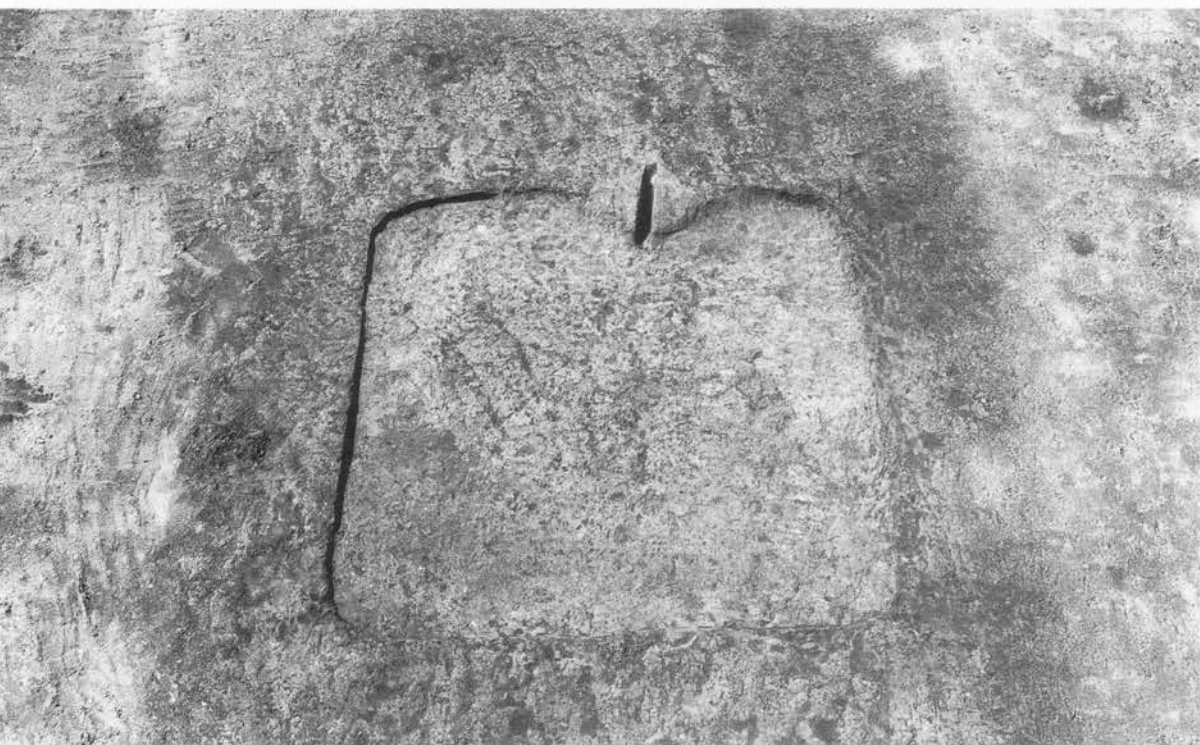
2. II073



3. II074



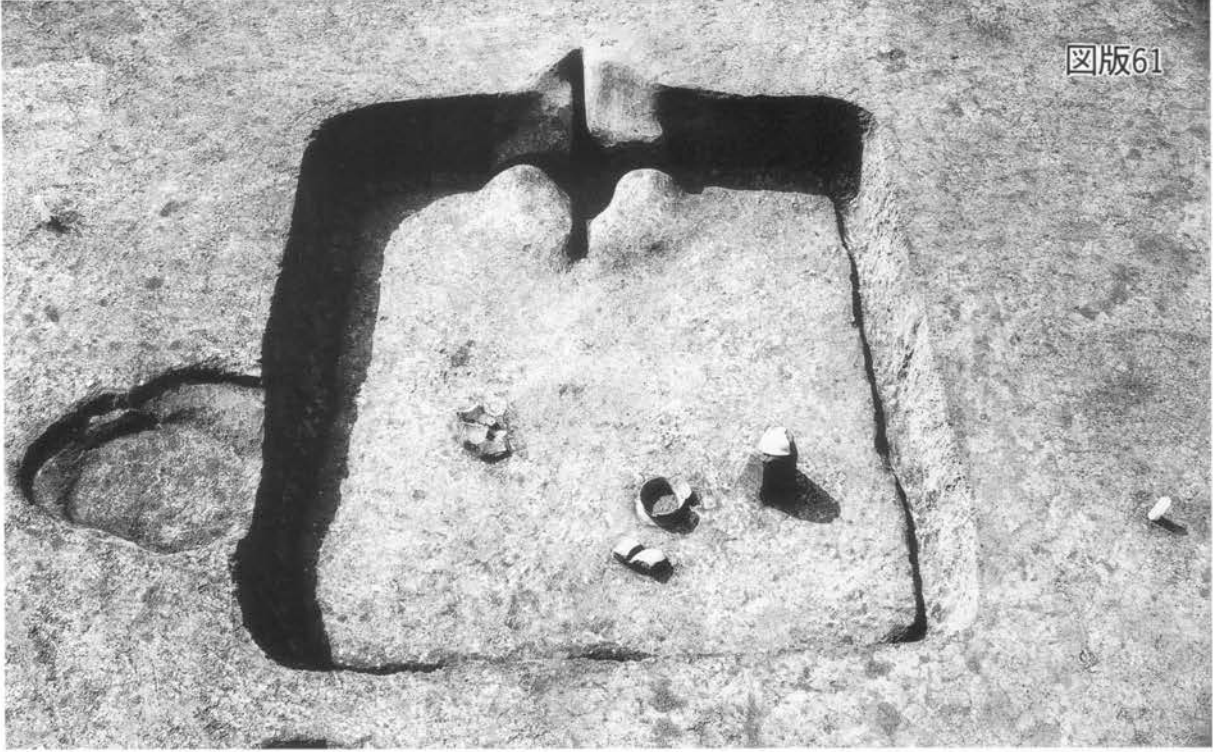
1. II075



2. II076



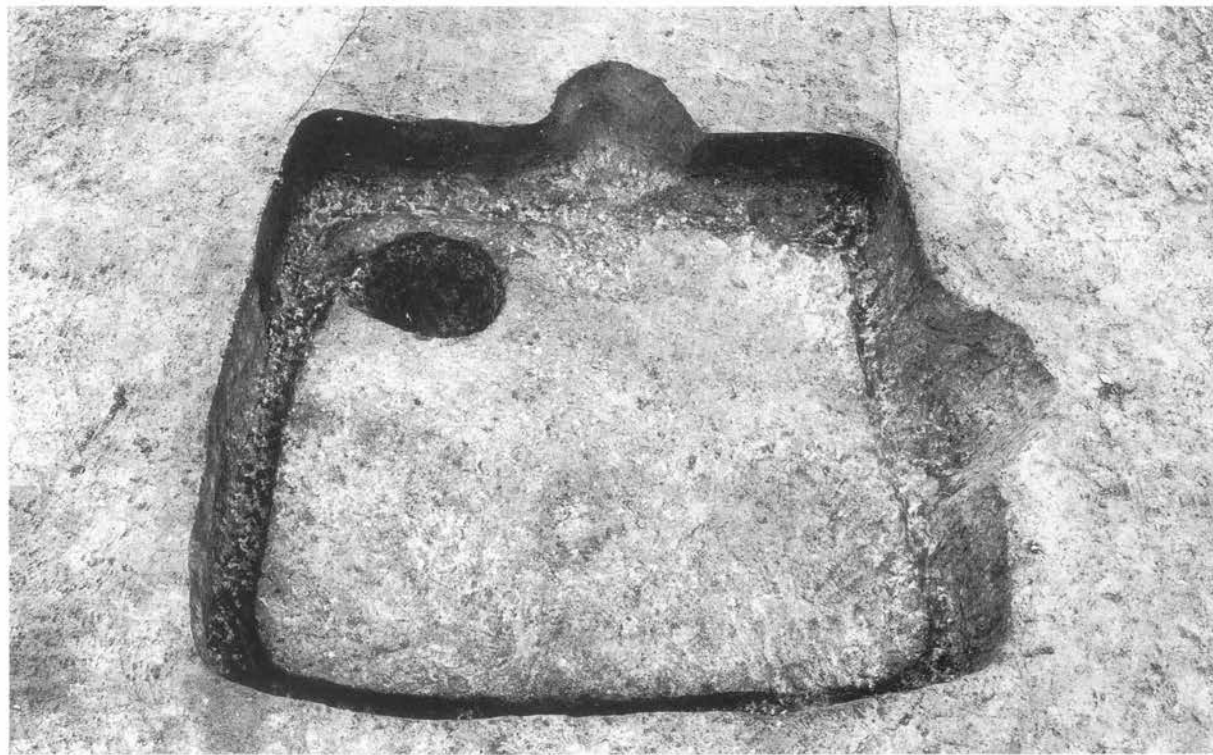
3. II077



1. II078



2. II079



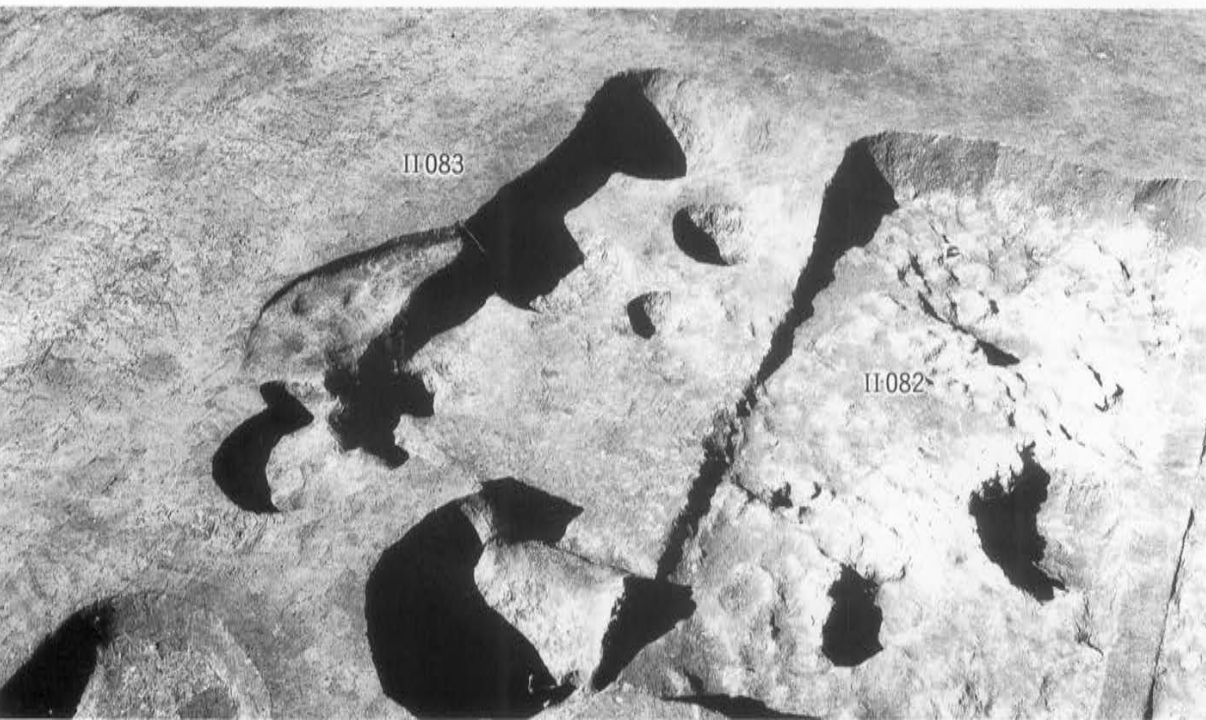
3. II080



1. II080  
II081

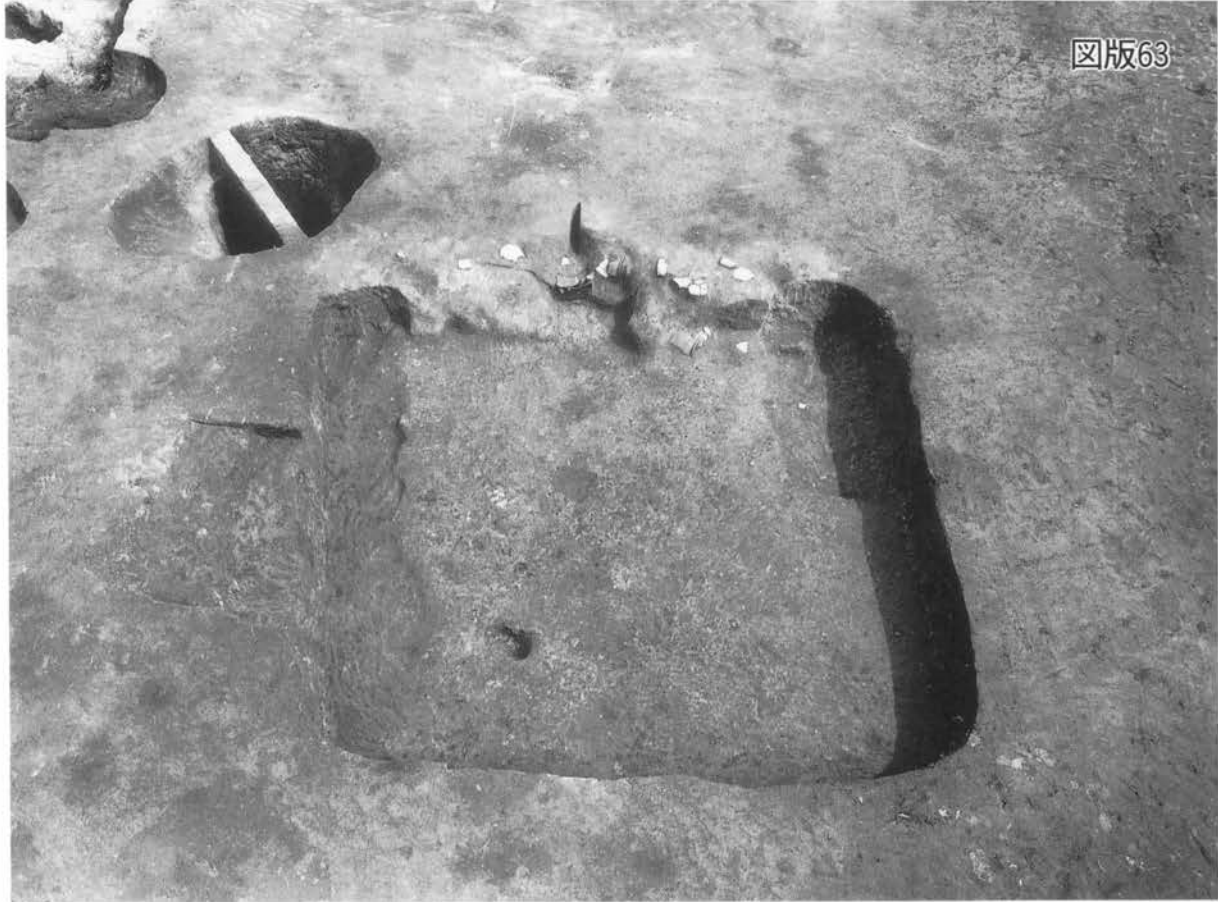


2. II082



3. II082  
II083

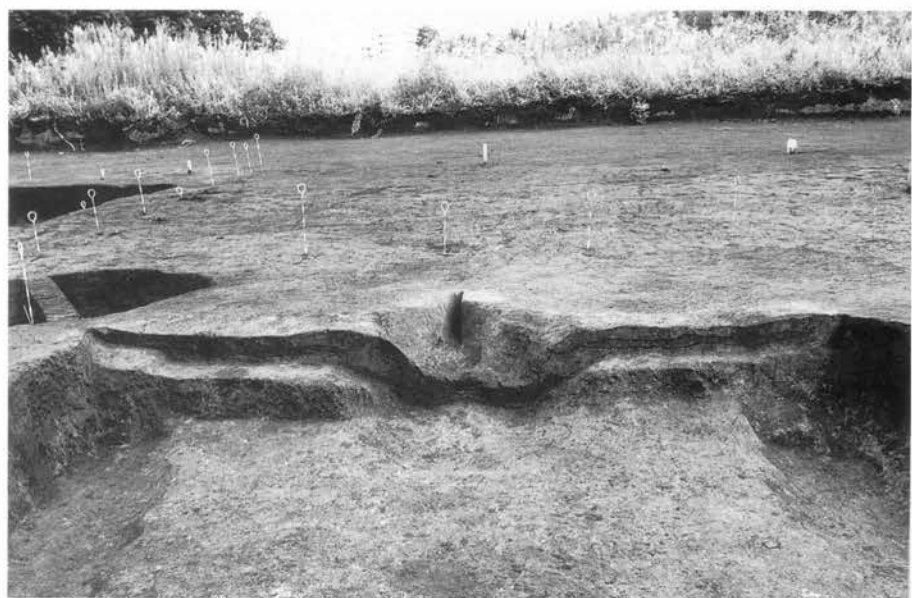




1. II084



2. II084



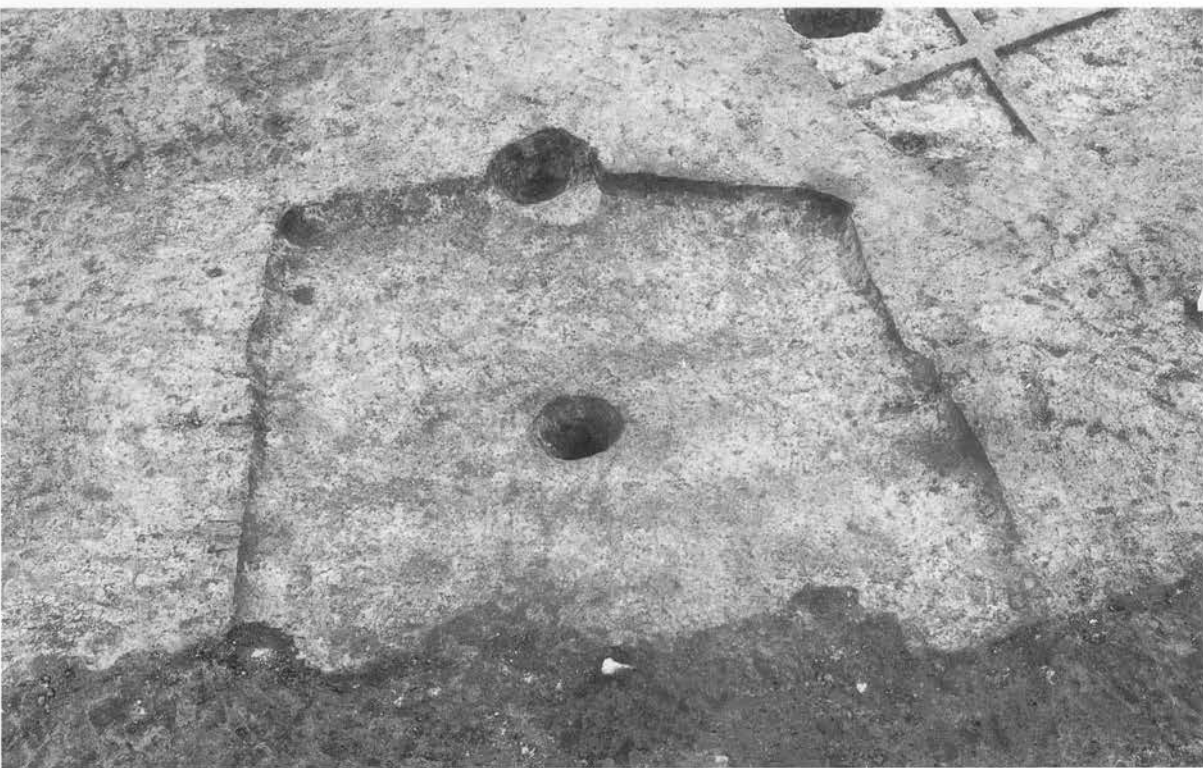
3. II084



1. II088



2. II090



3. II092



1. II093



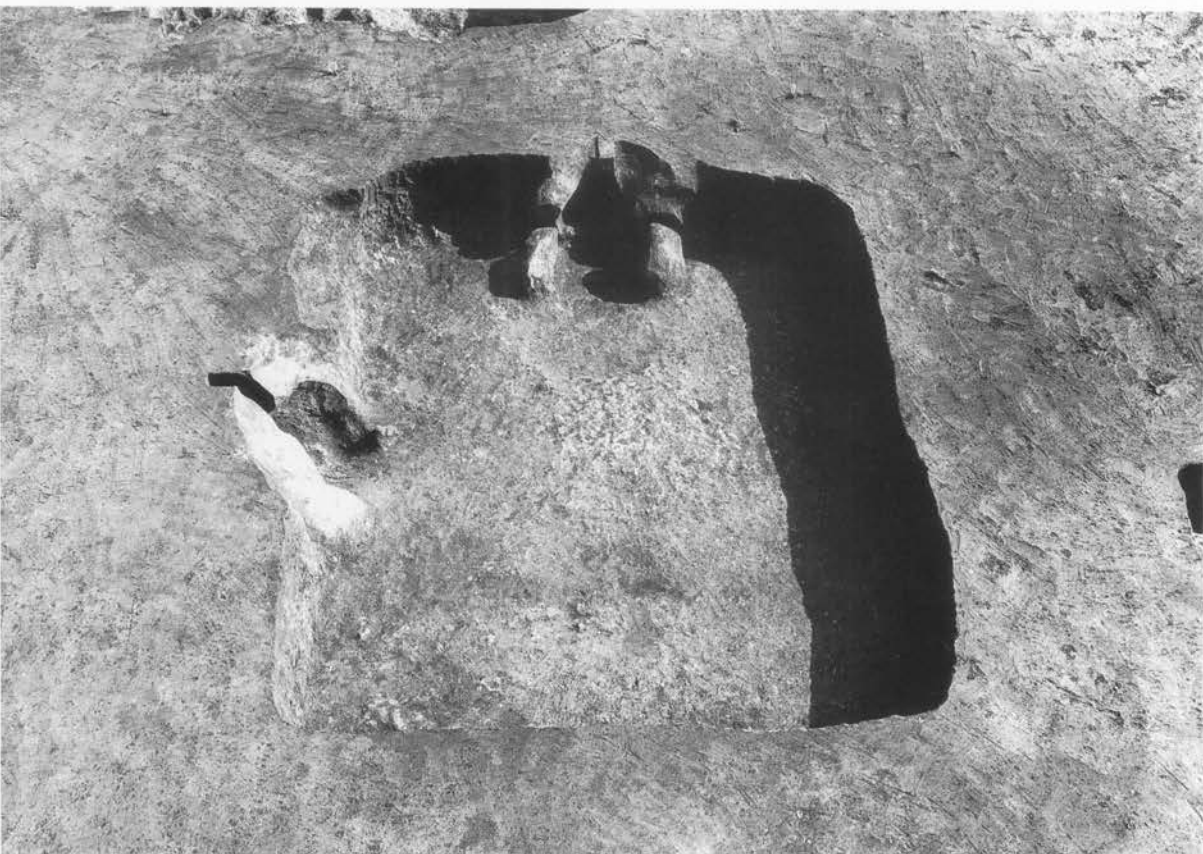
2. II094



3. II095



1. II096



2. II097



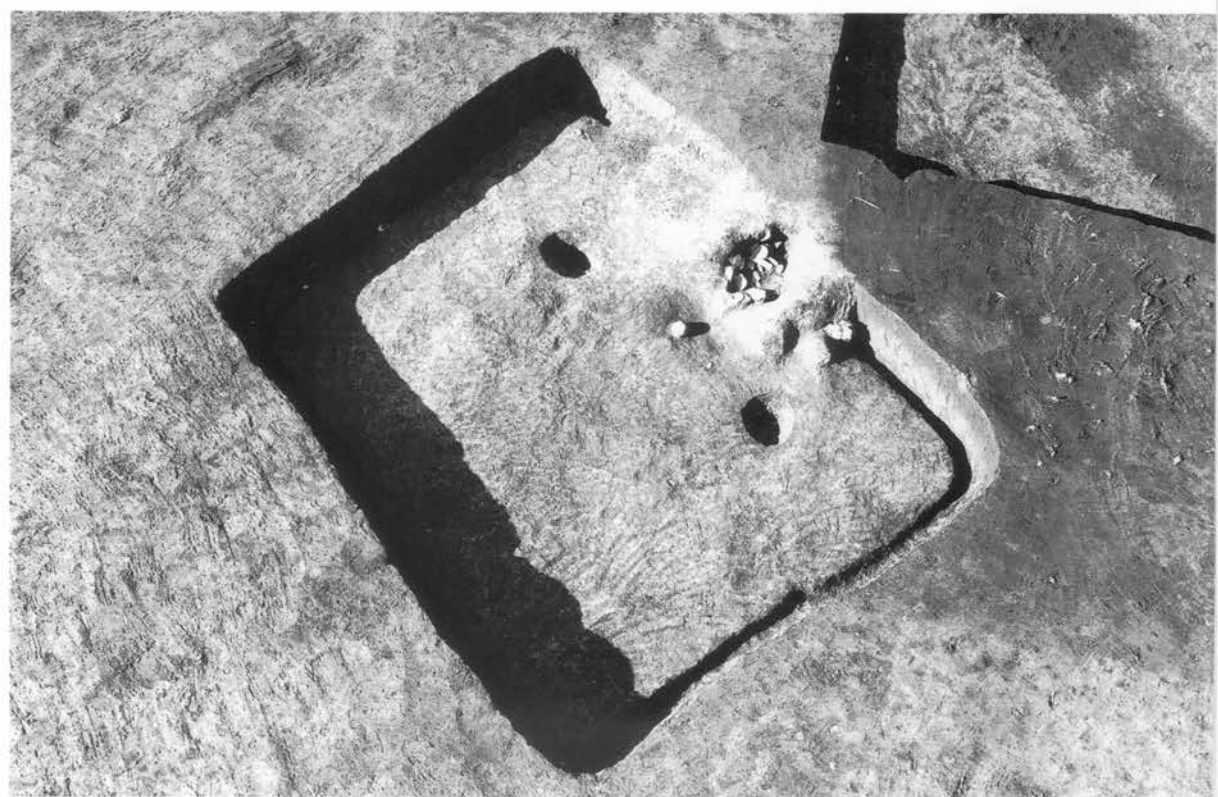
3. II097



1. II 097  
II 098



2. II 100



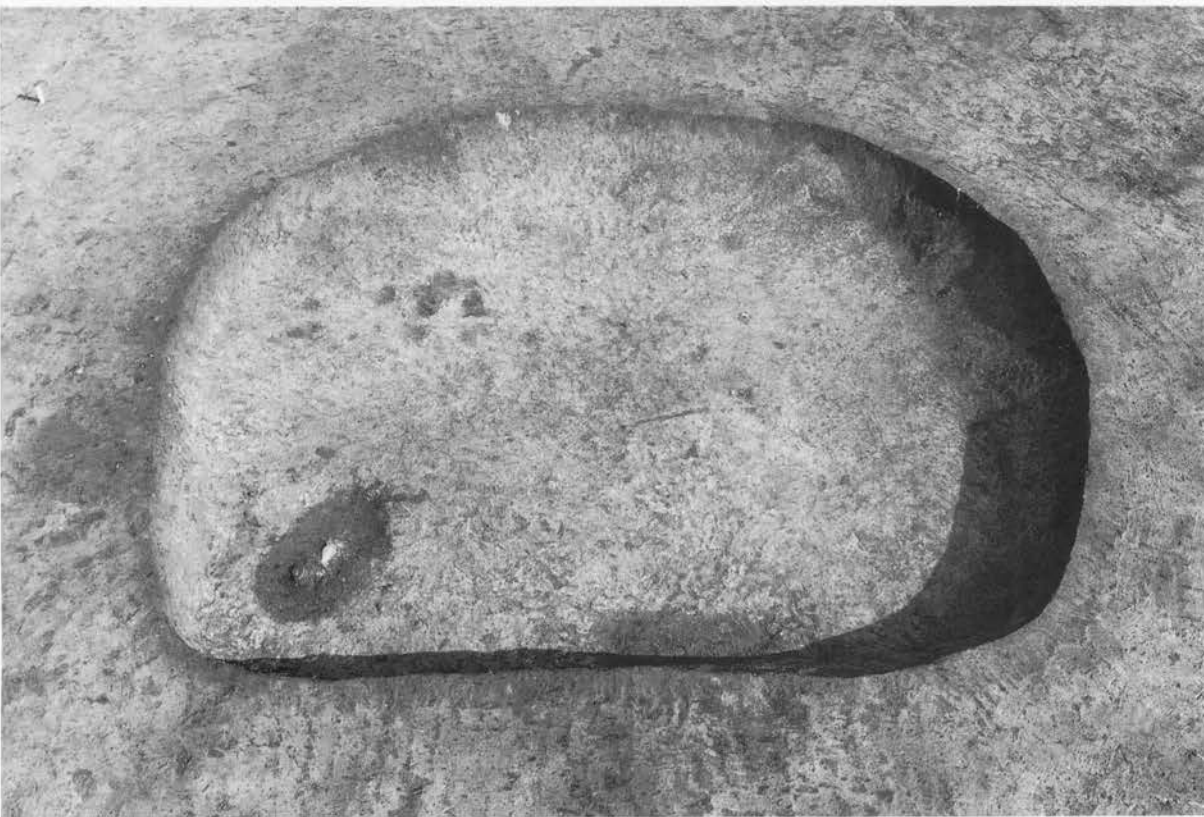
3. II 101



1. II101



2. II102



3. II103



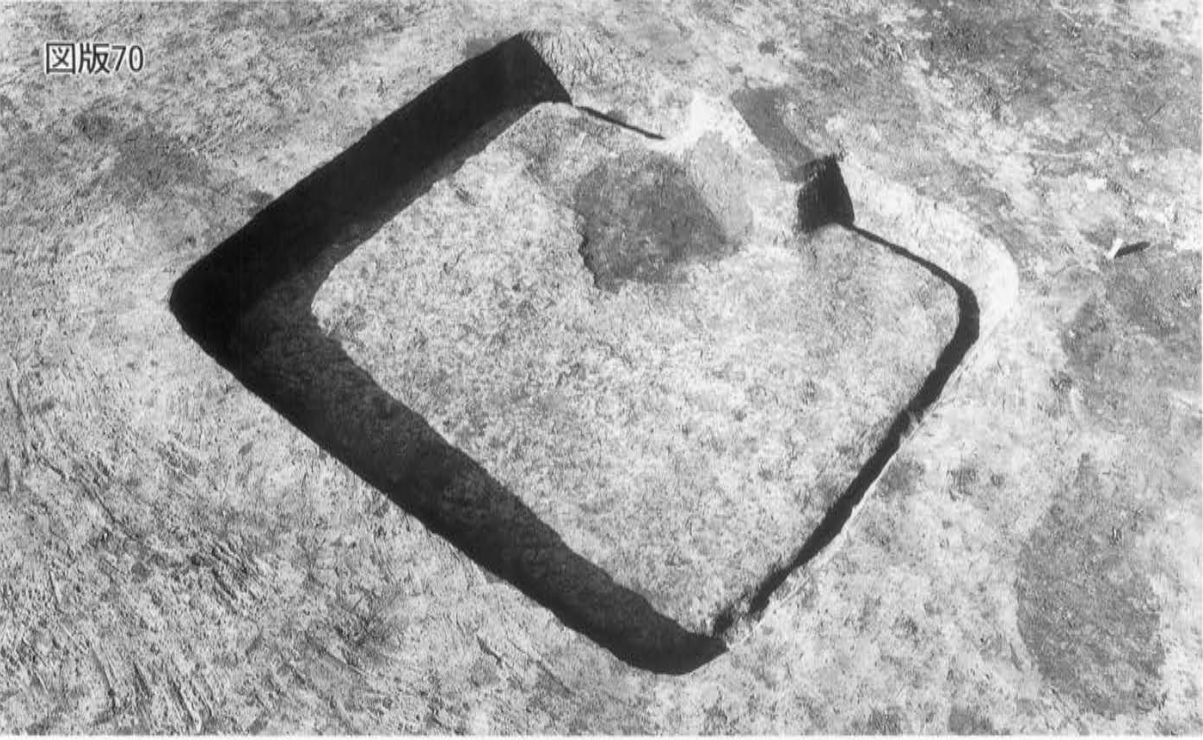
1. II103



2. II103



3. II104



1. II105

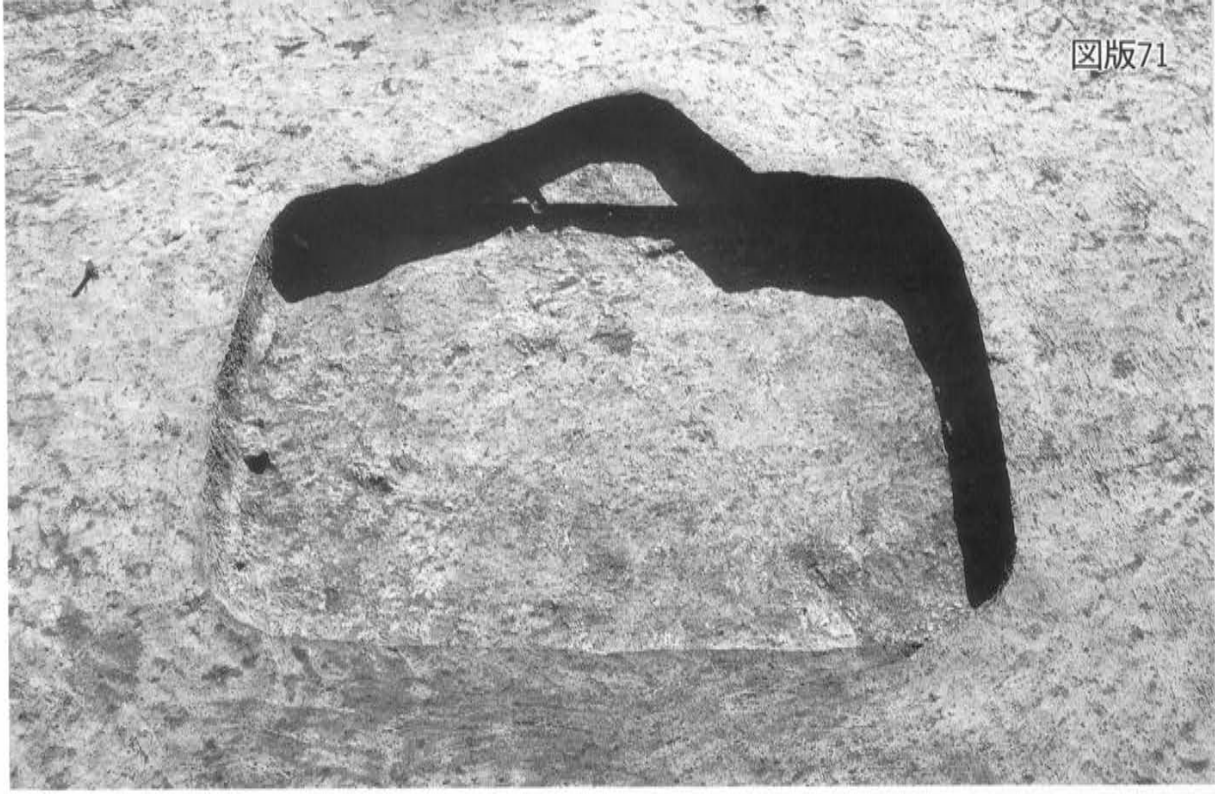


2. II106

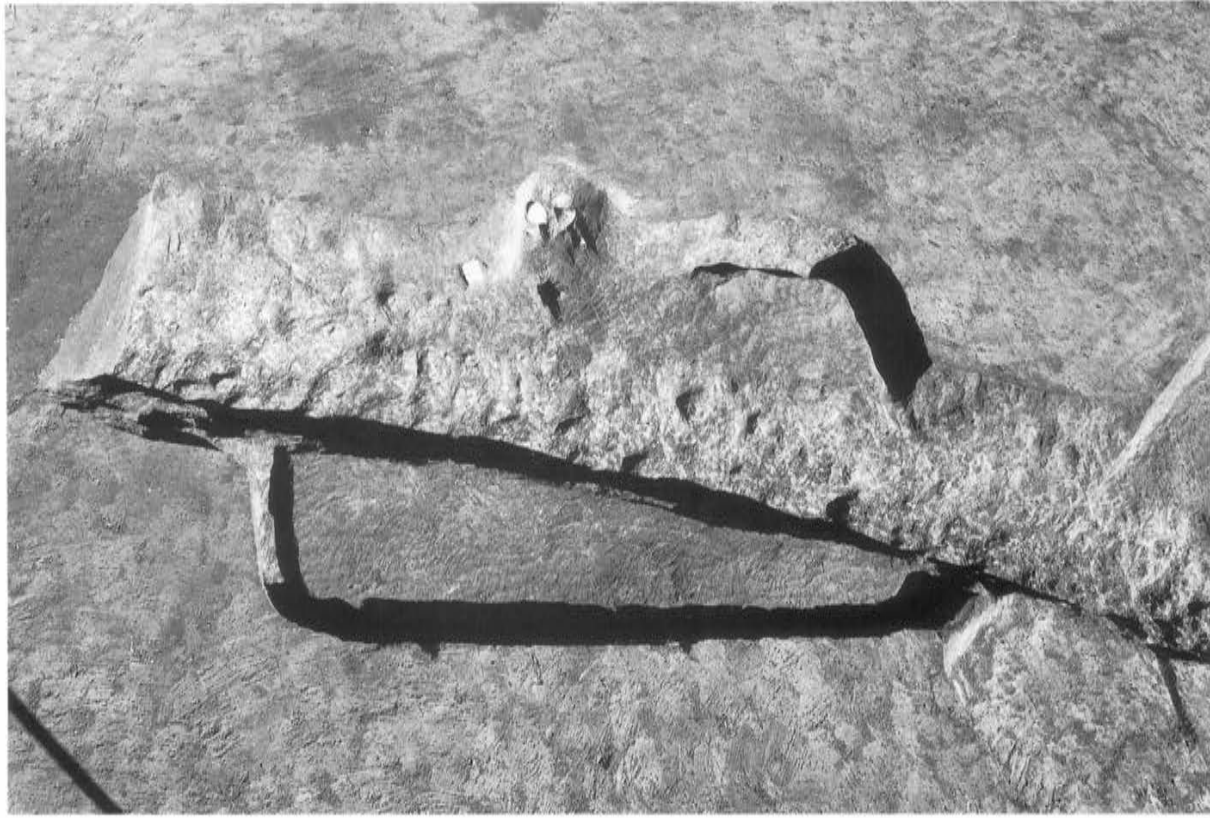


3. II107





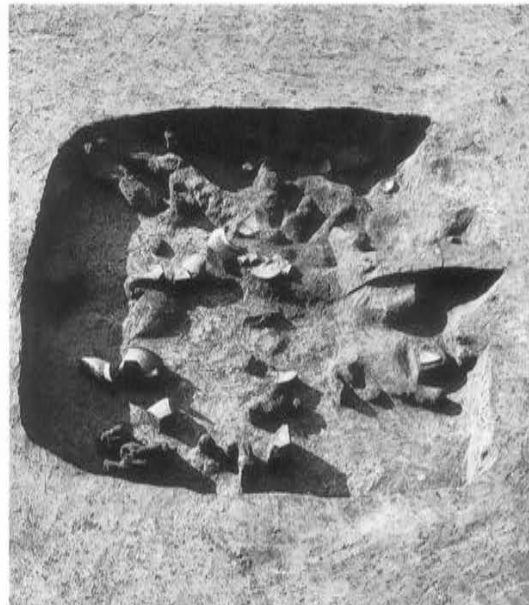
1. II108



2. II109



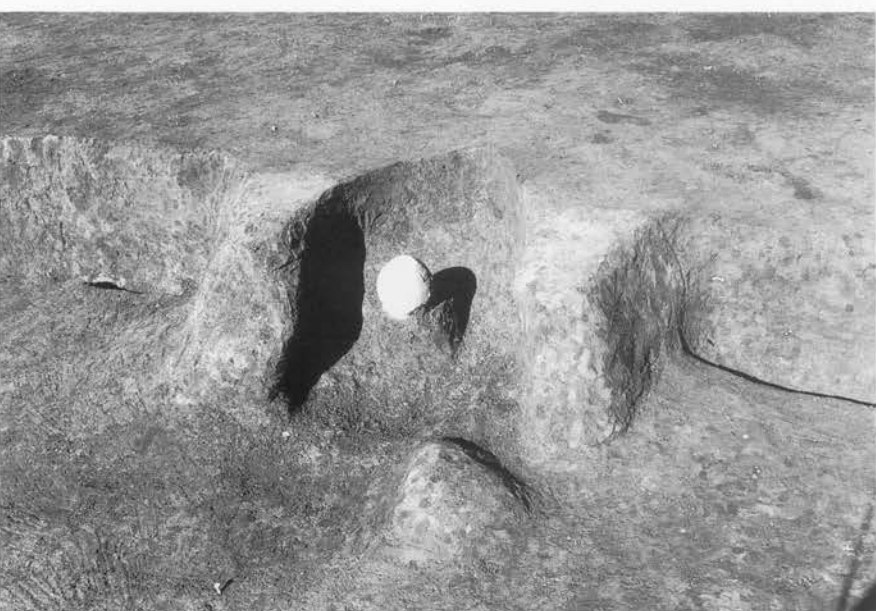
3. II110



4. II110



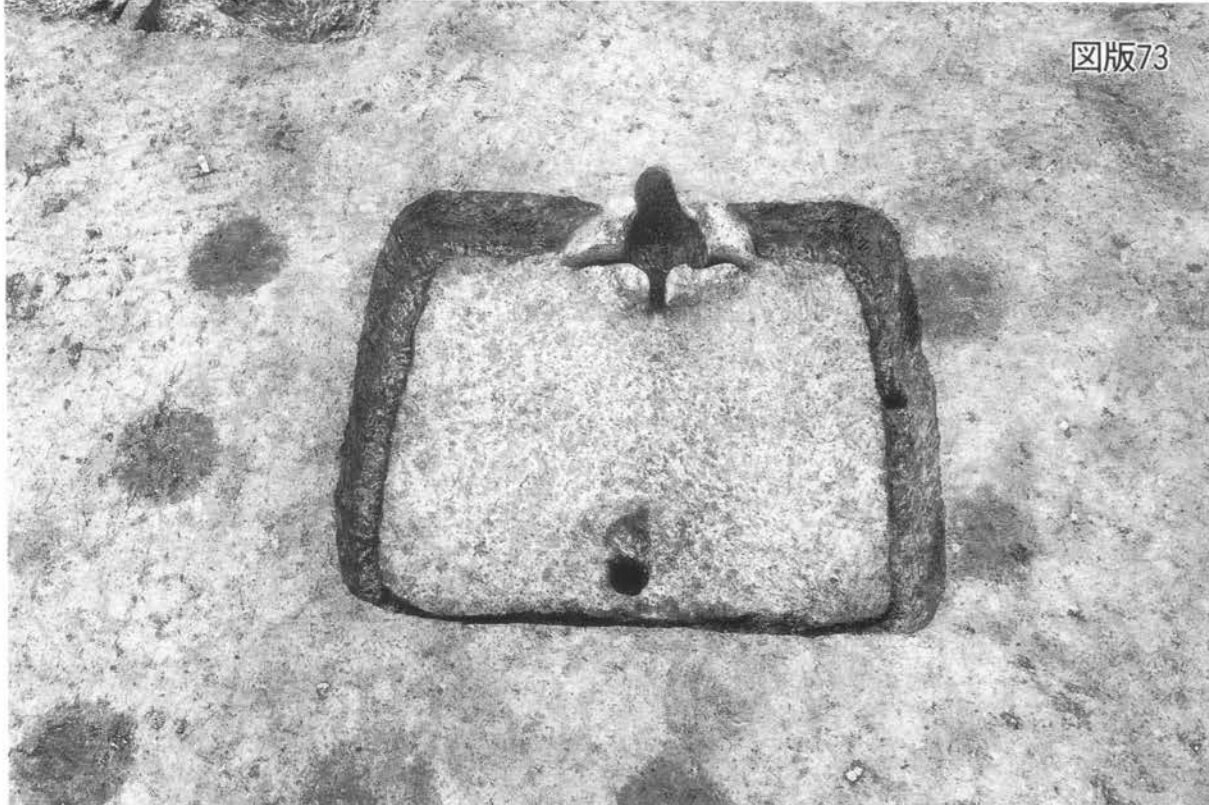
1. II111



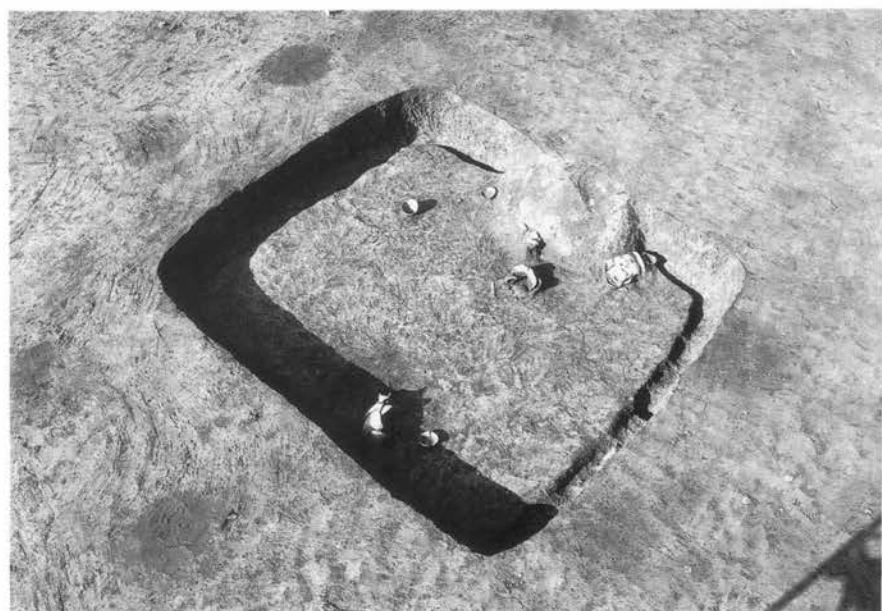
2. II111



3. II112



1. II113



2. II113



3. II114



1. II115



2. II116



3. II117



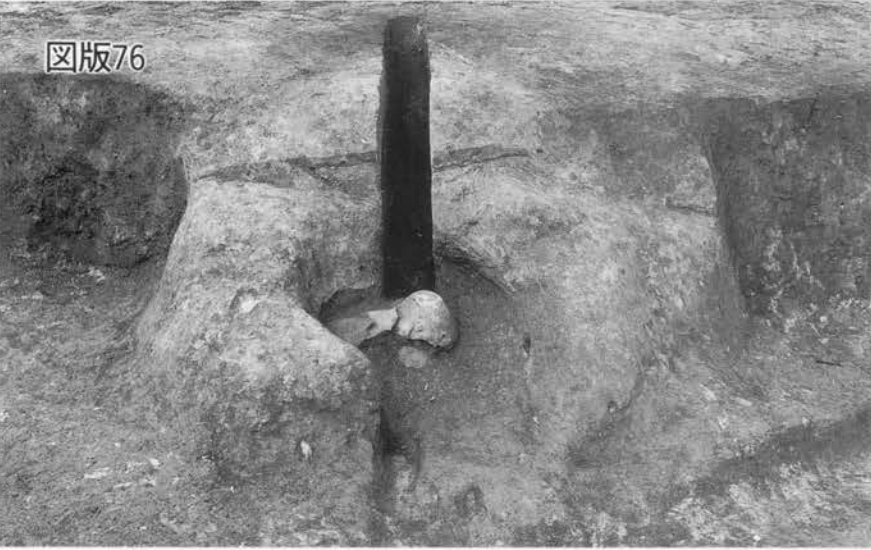
1. II118



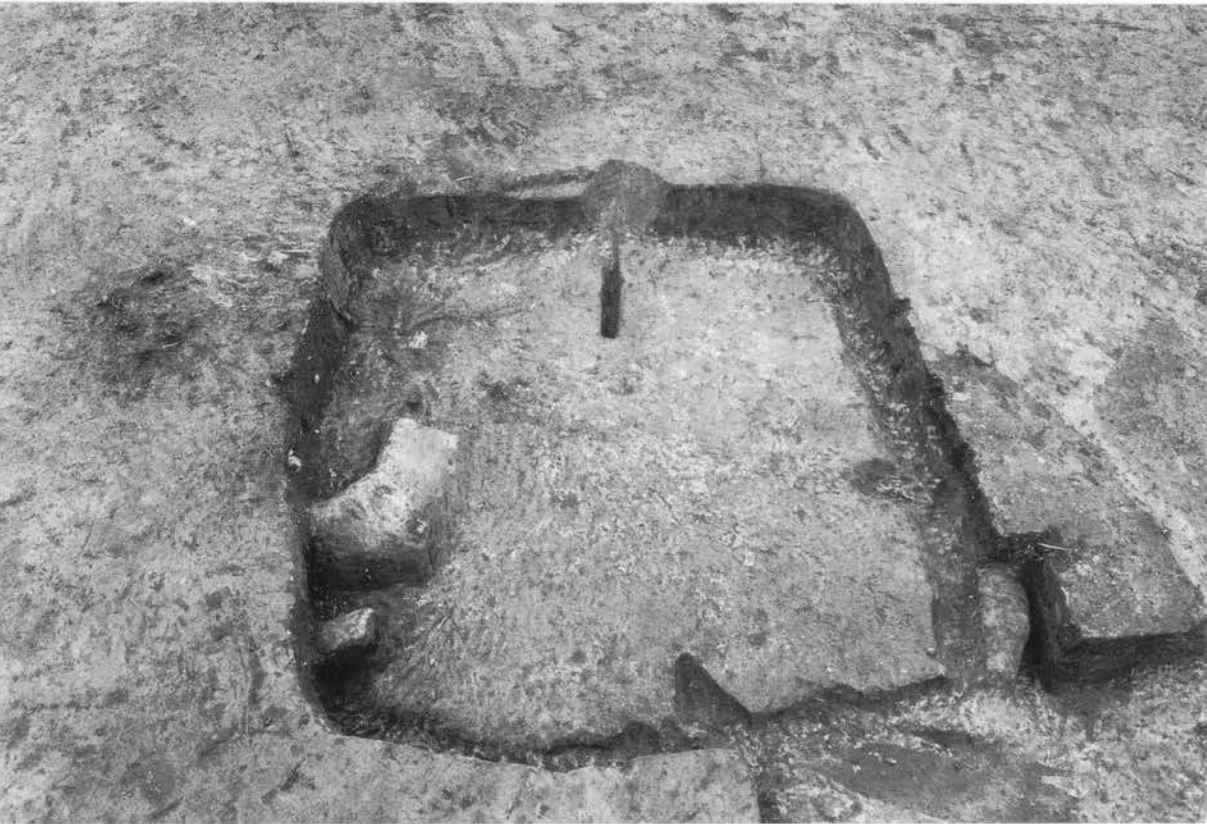
2. II 118  
II 119



3. II 120A  
II 120B



1. II120B



2. II121



3. II121  
II122



1. II122



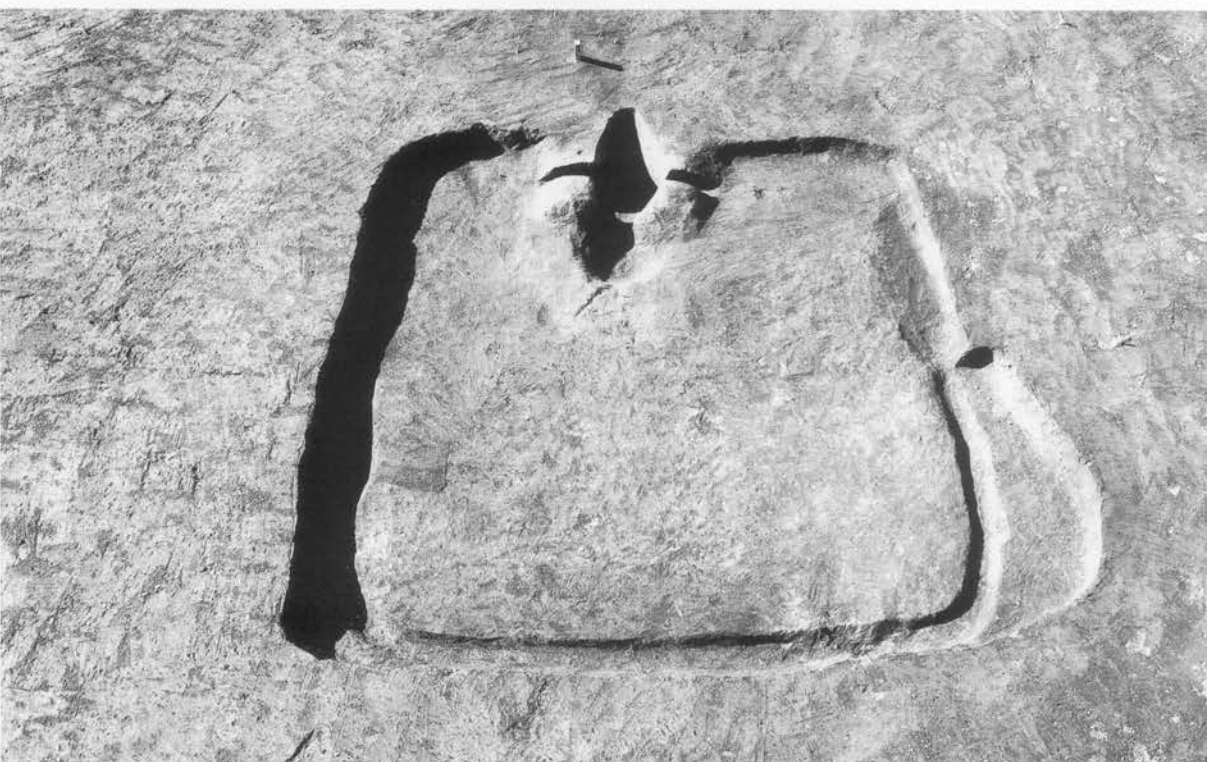
2. II122



3. II123A  
II123B



1. II 123 A  
II 123 B  
II 123 C



2. II 124

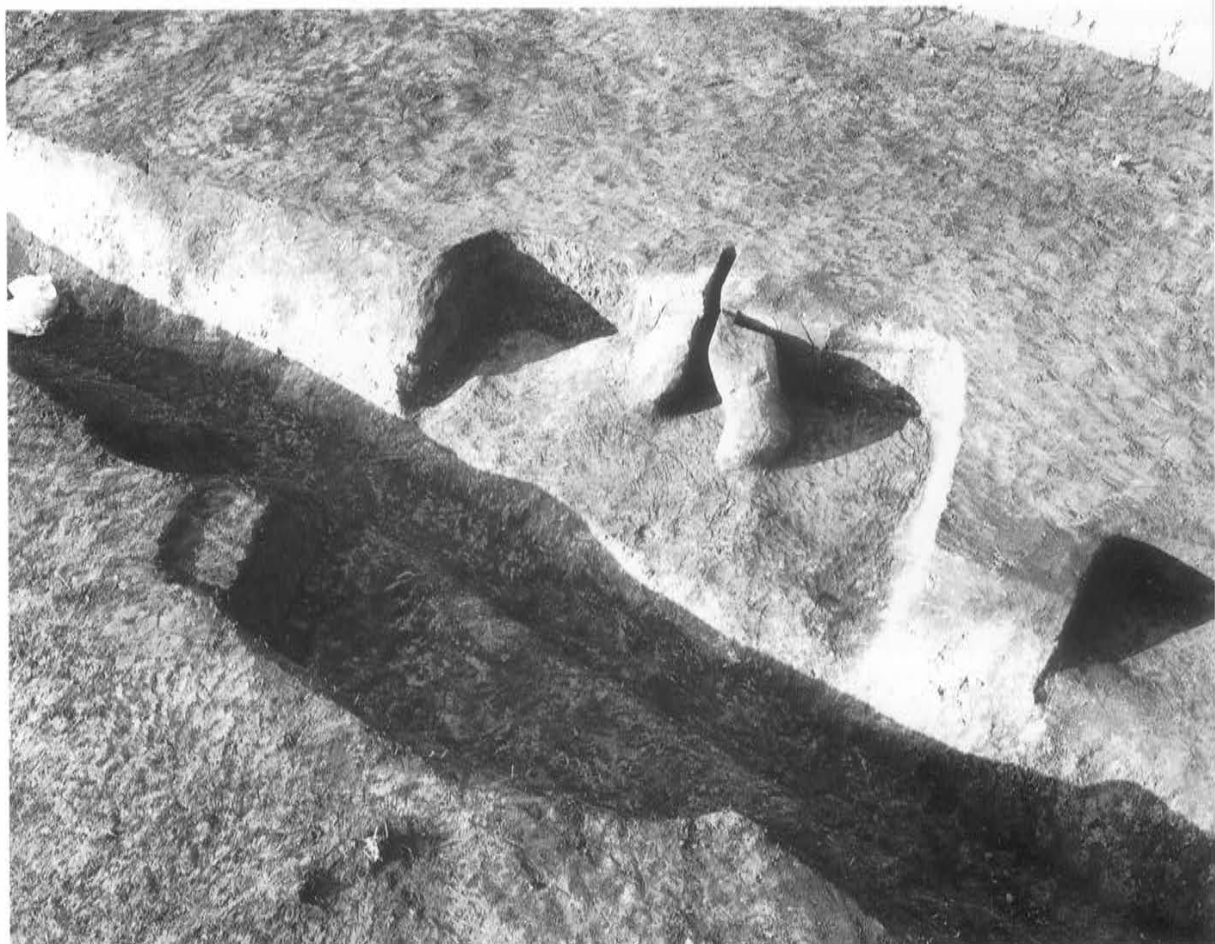


3. II 125





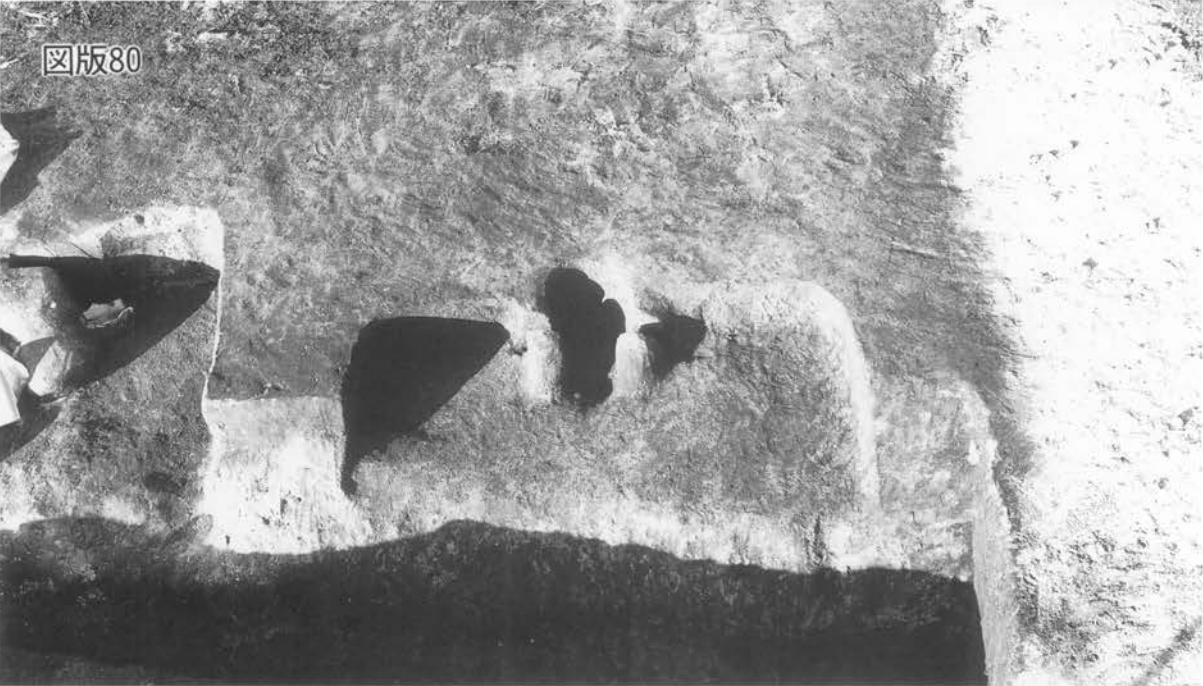
1. II125



2. II126



3. II126



1. II 127



2. II 127



3. II 127



4. II 128  
II 129  
II 130  
II 151



1. II128



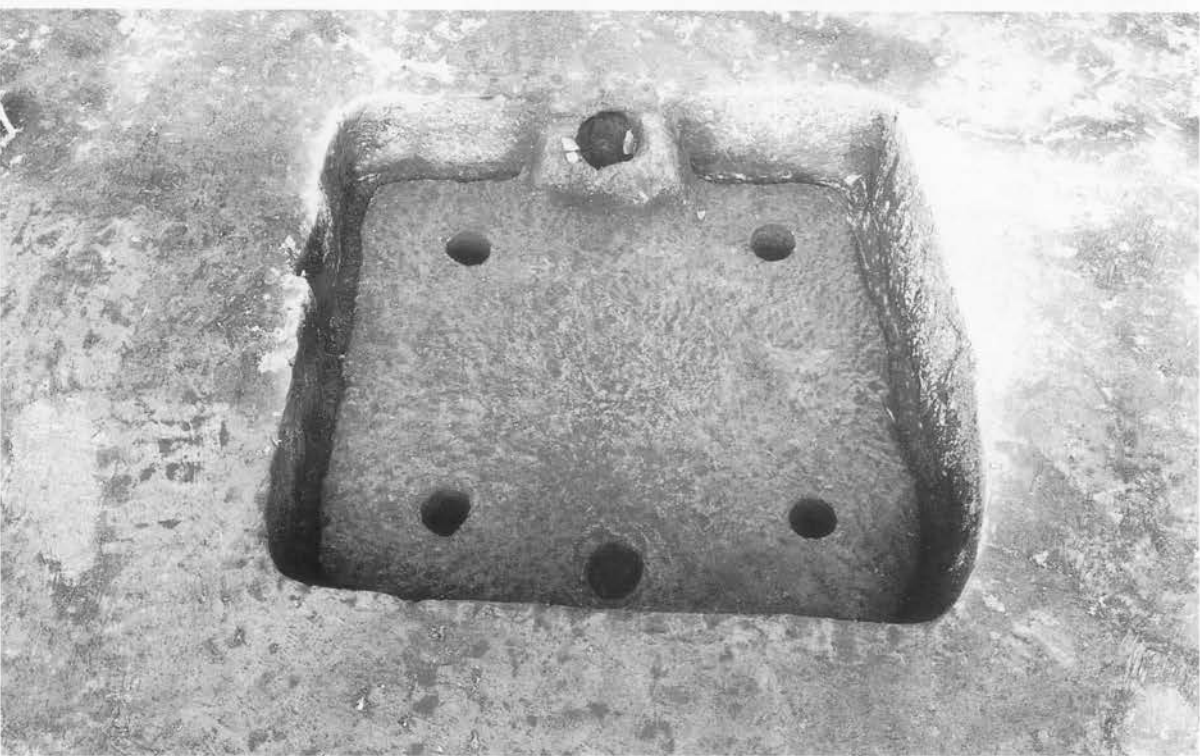
2. II131



3. II132



1. II133



2. II134



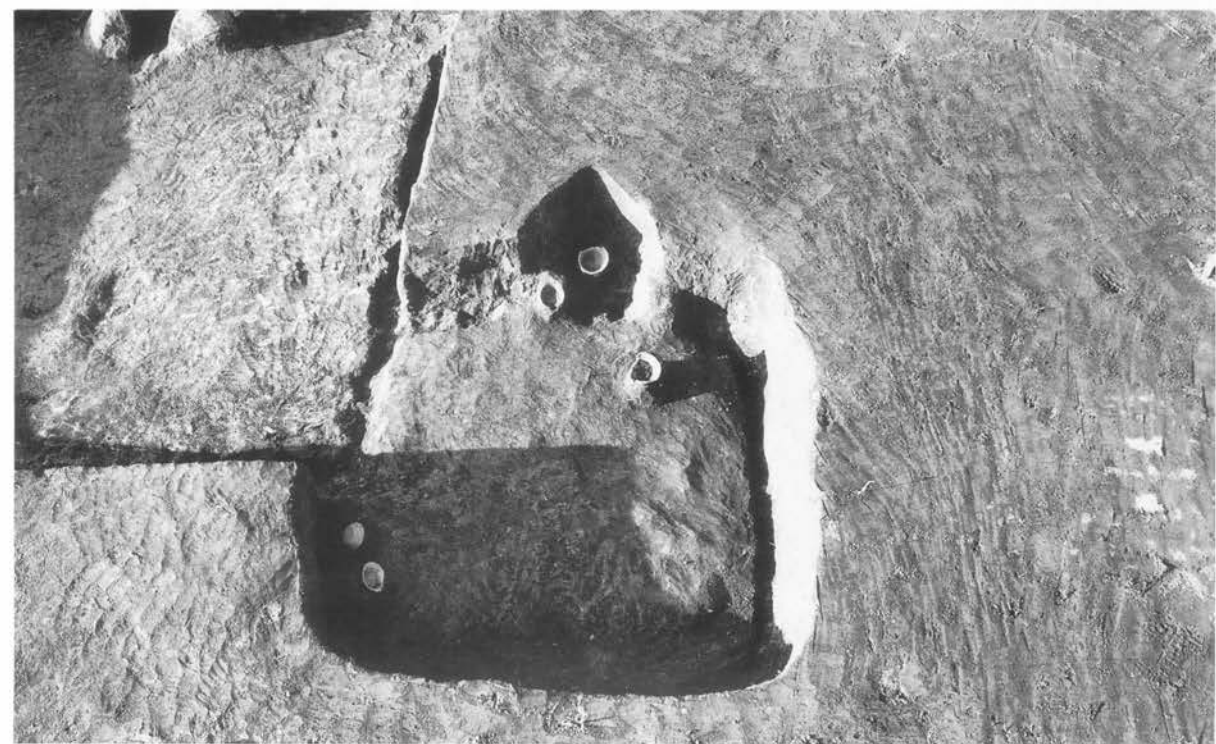
3. II135



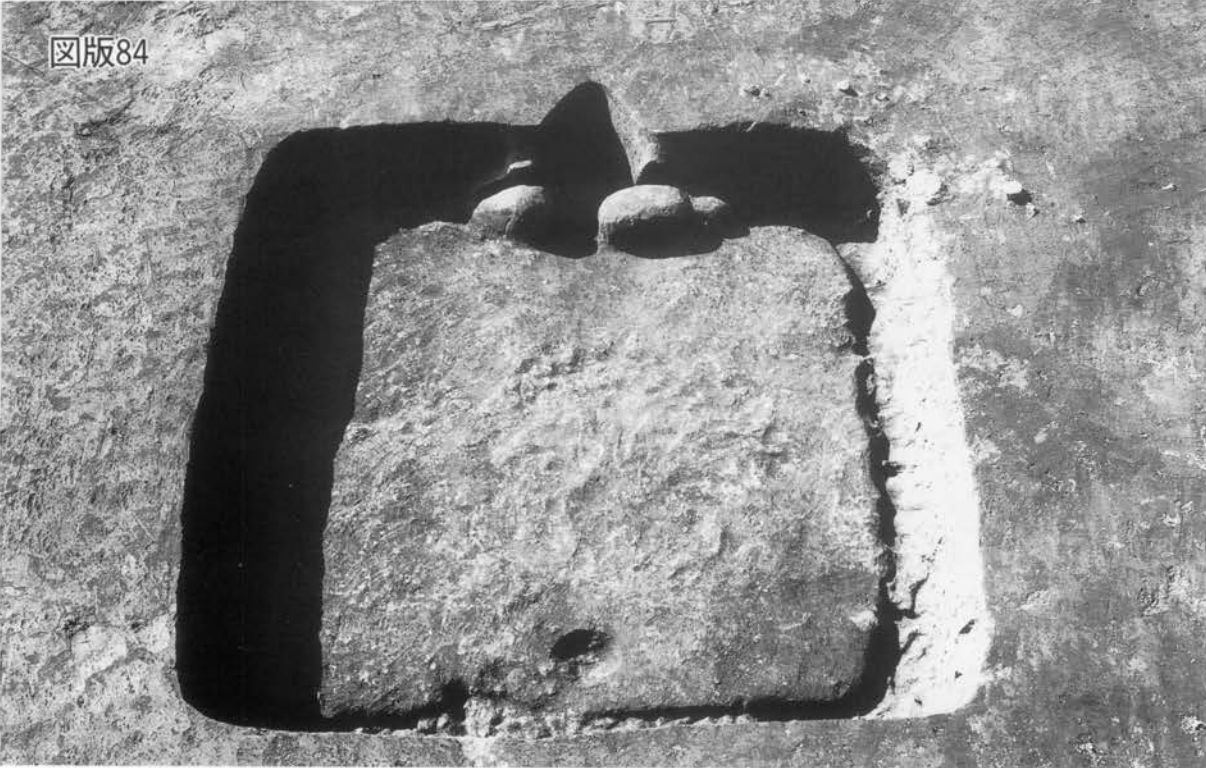
1. II136  
II137



2. II138



3. II139



1. II140



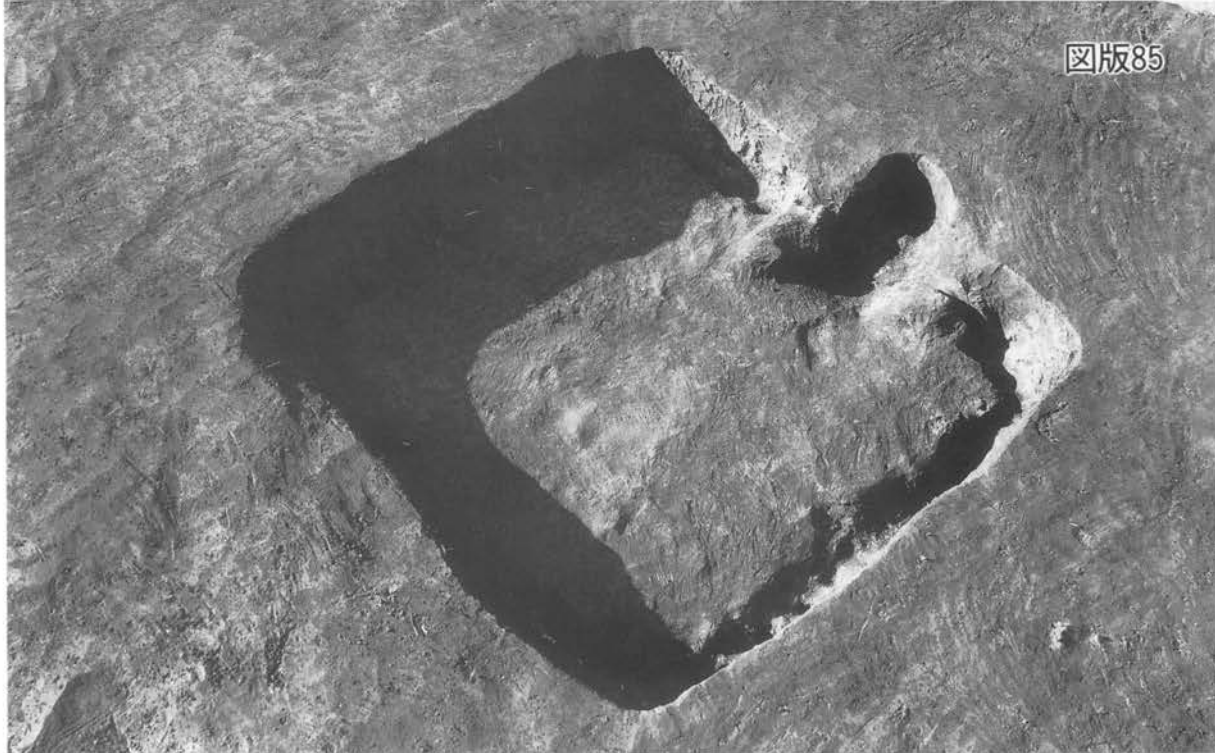
2. II141



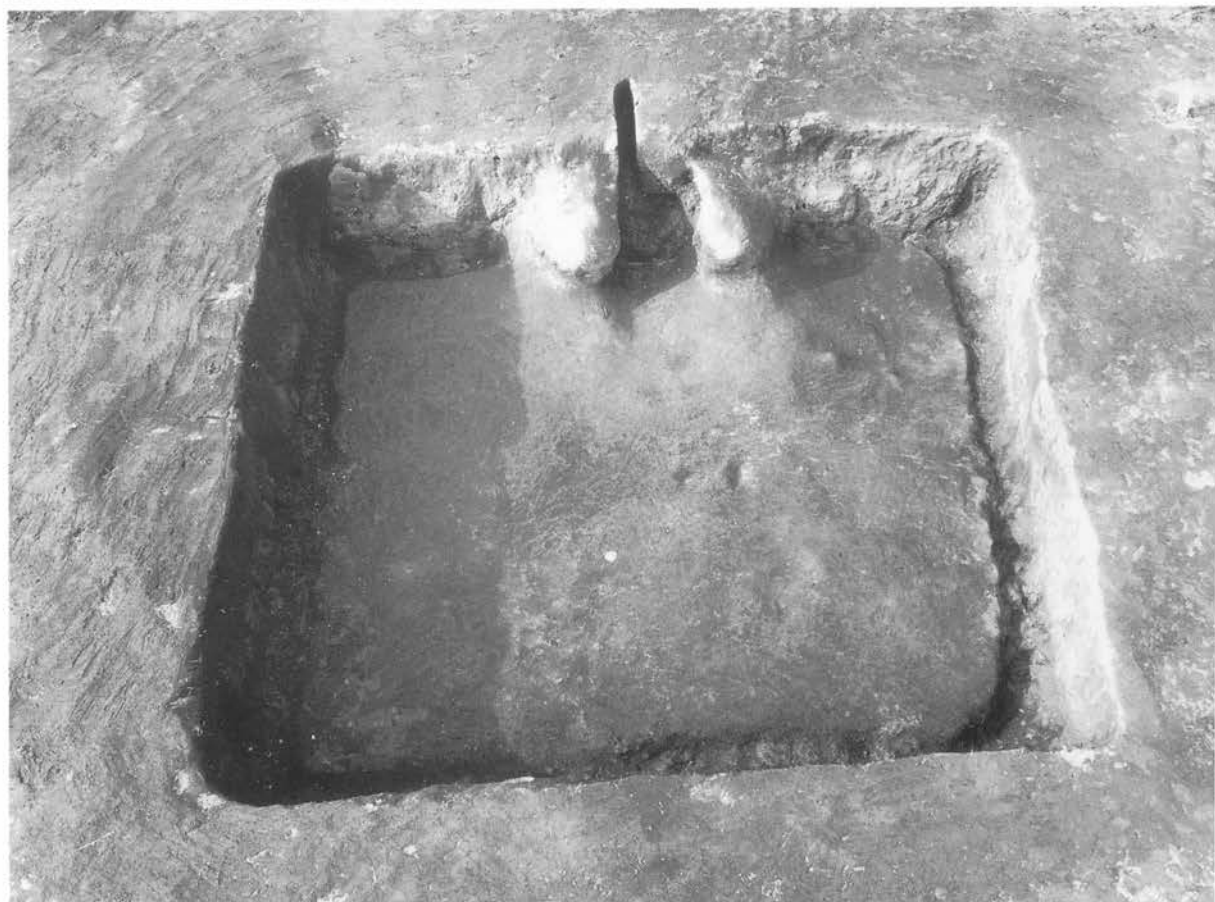
3. II141



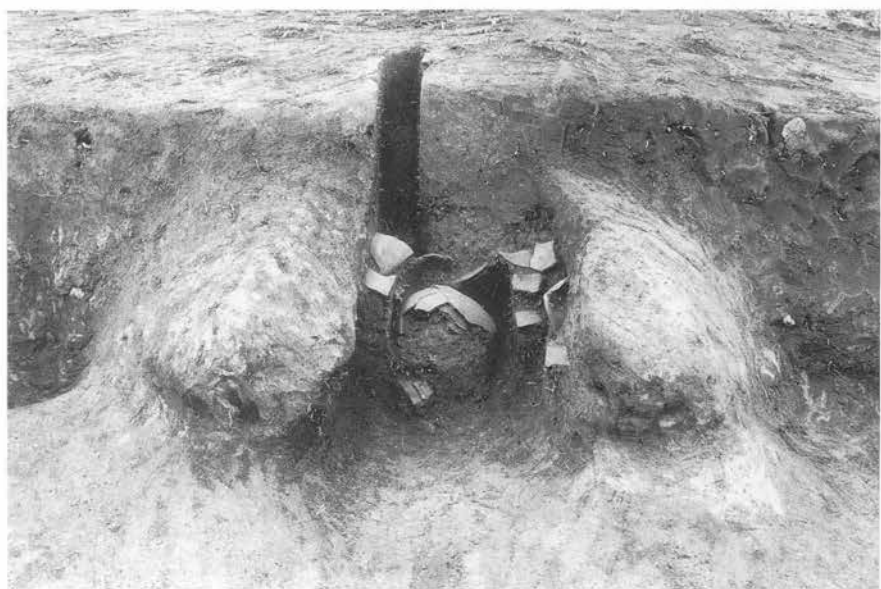
4. II141



1. II142



2. II143



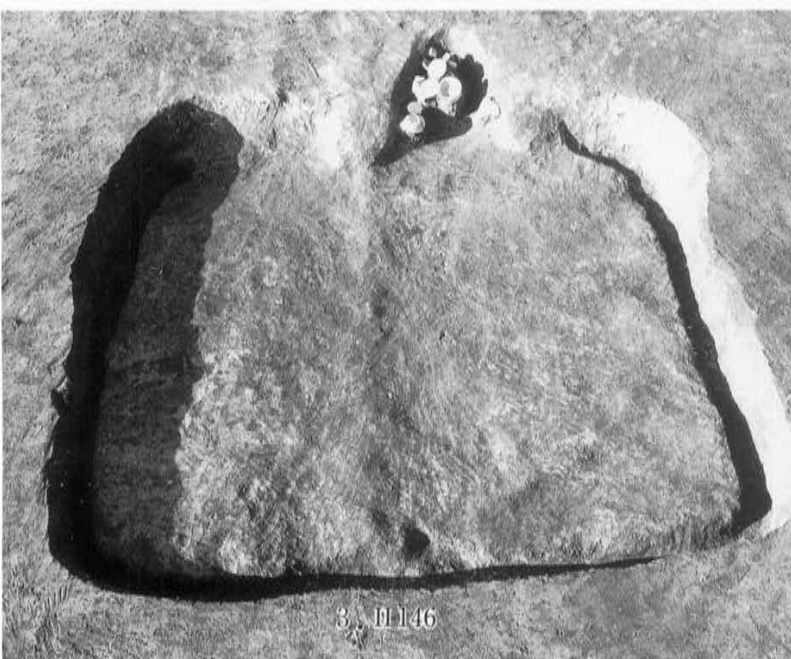
3. II143



1. II144



2. II145



3. II146



4. II146





1. II147



2. II148



3. II148



1. II149



II150

II M001

2. II150  
II M001



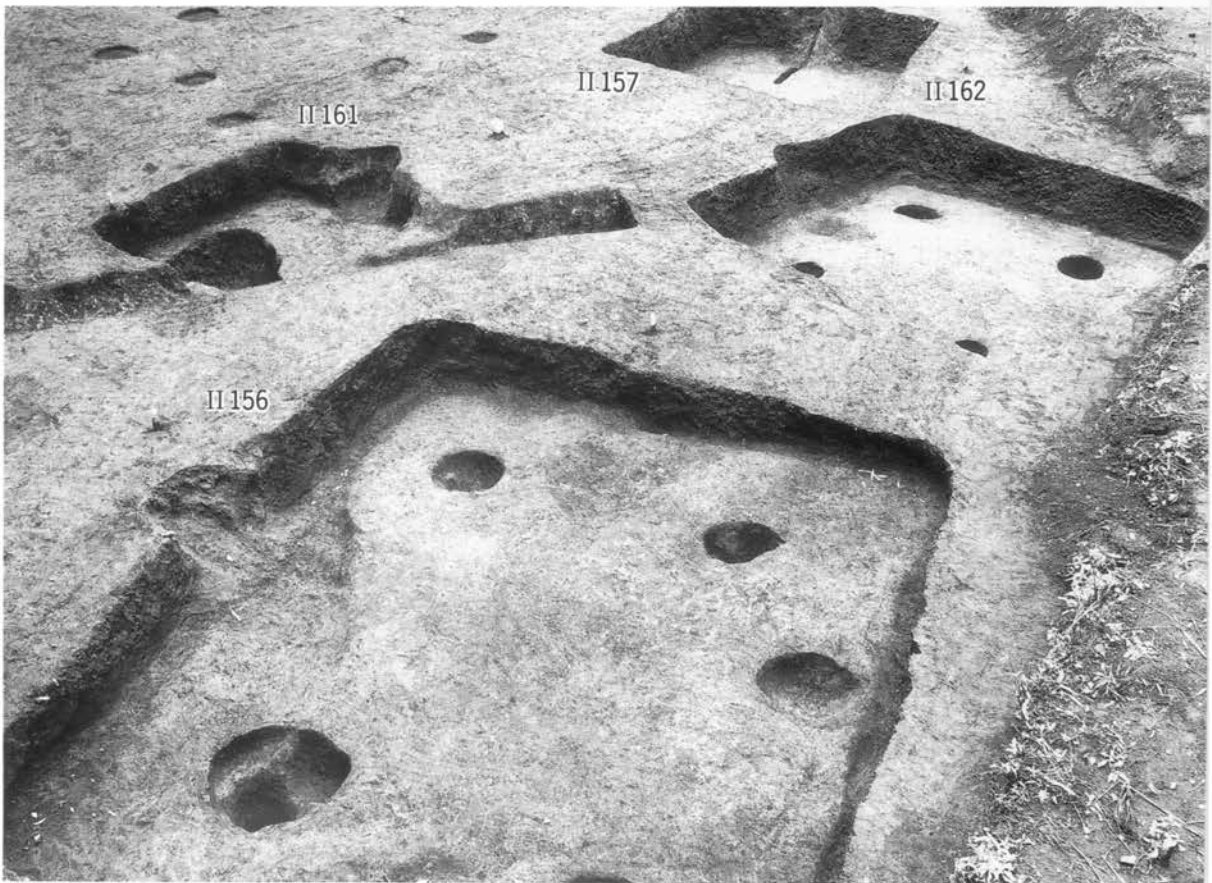
3. II155



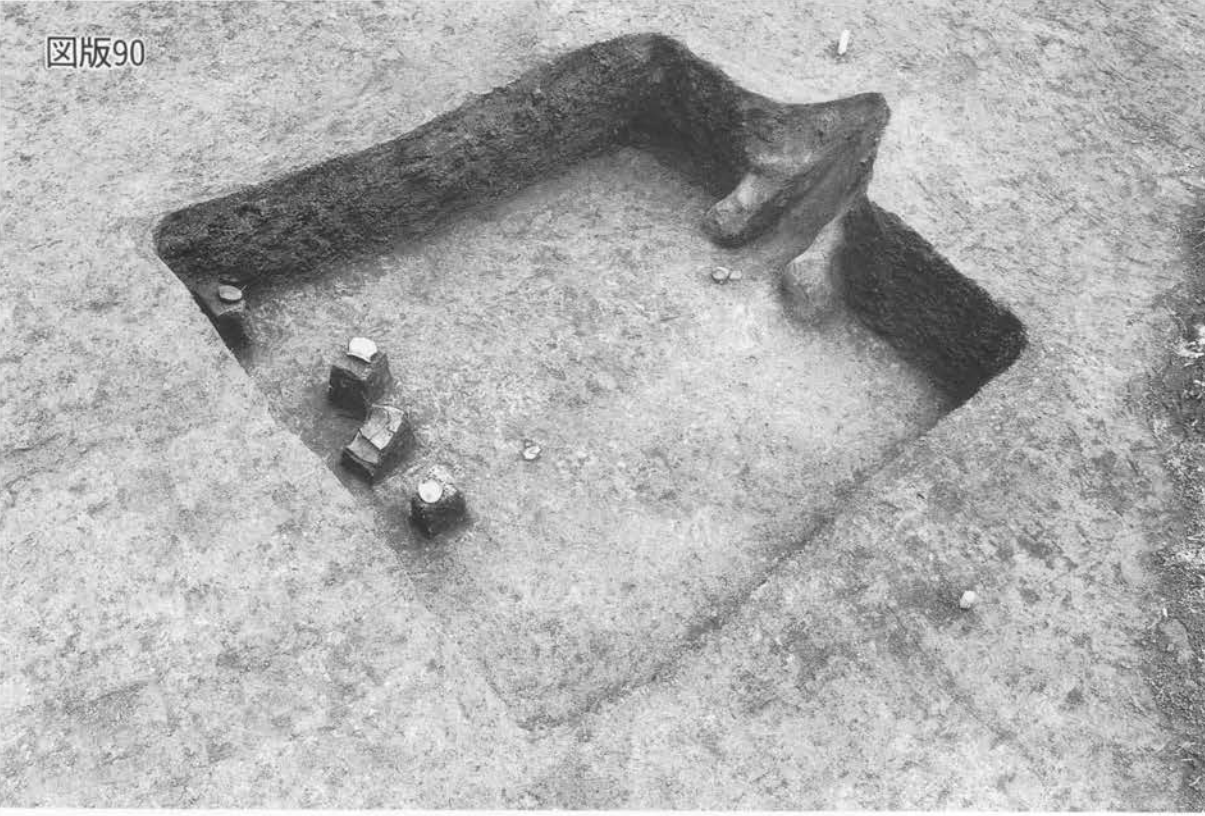
1. II 156



2. II 156



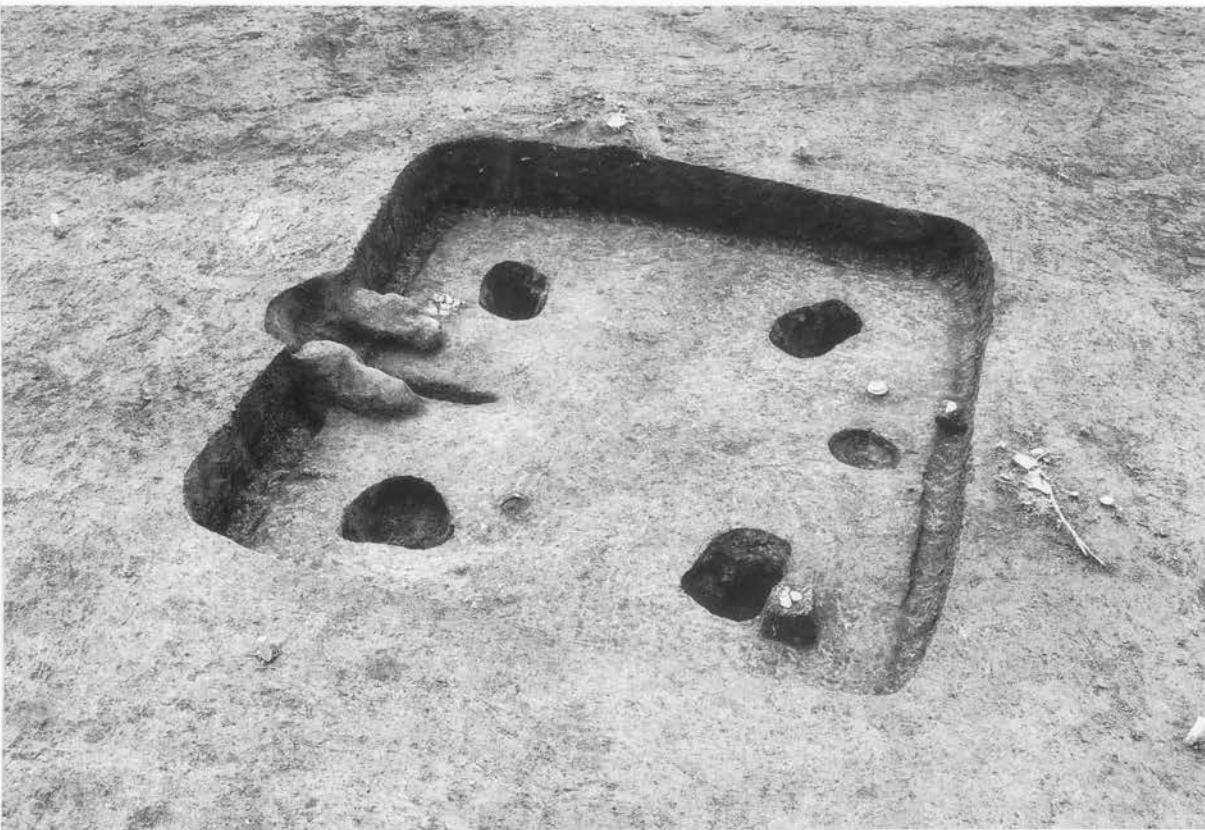
3. II 156  
II 157  
II 161  
II 162



1. II157



2. II157



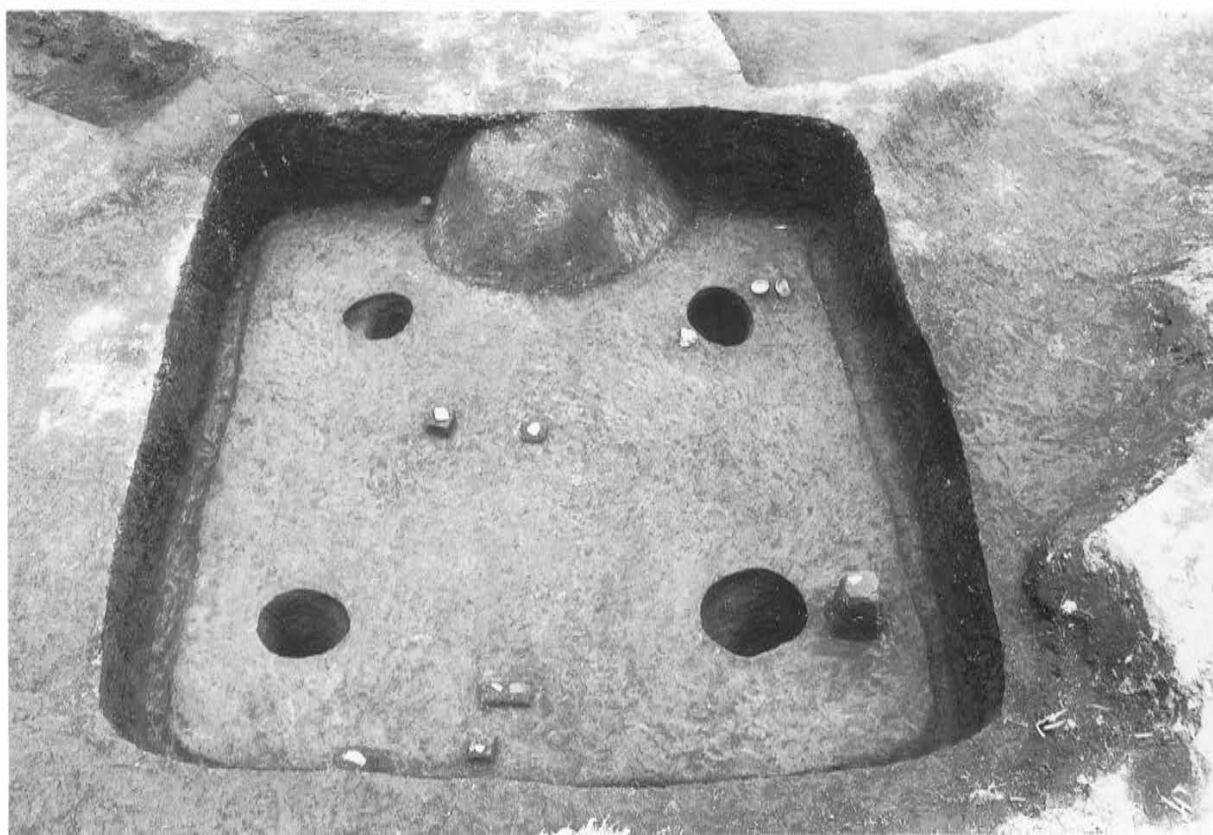
3. II158



1. II158



2. II161



3. II162



1. II163



2. II163B



3. II164



1. II165



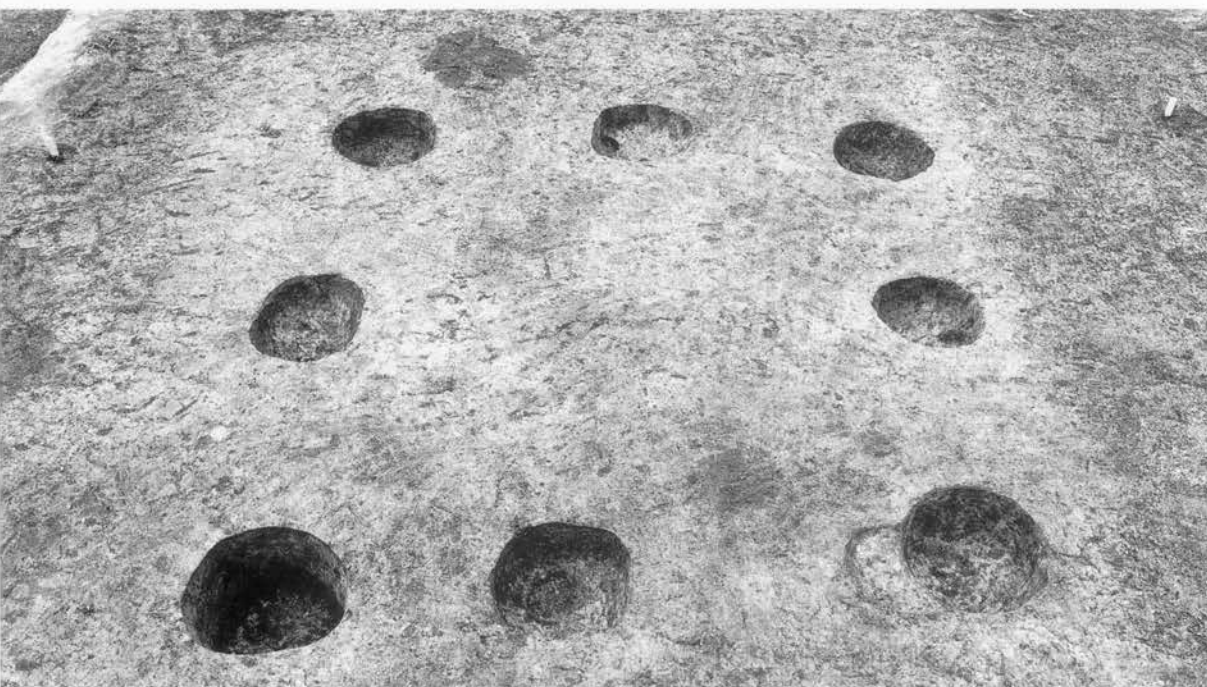
2. II166



3. II167



1. IIH08



2. IIH09

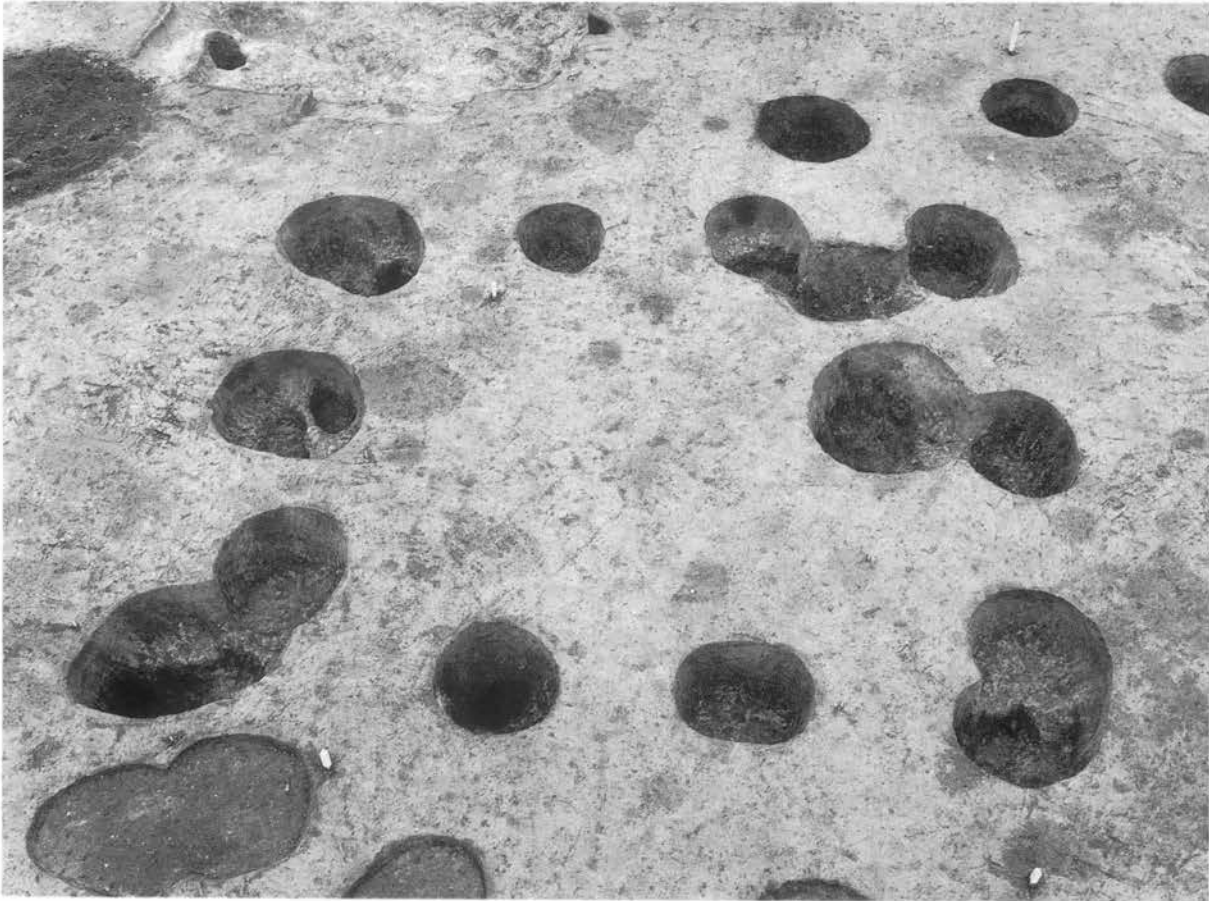


3. IIH10





1. IIH11



2. IIH12



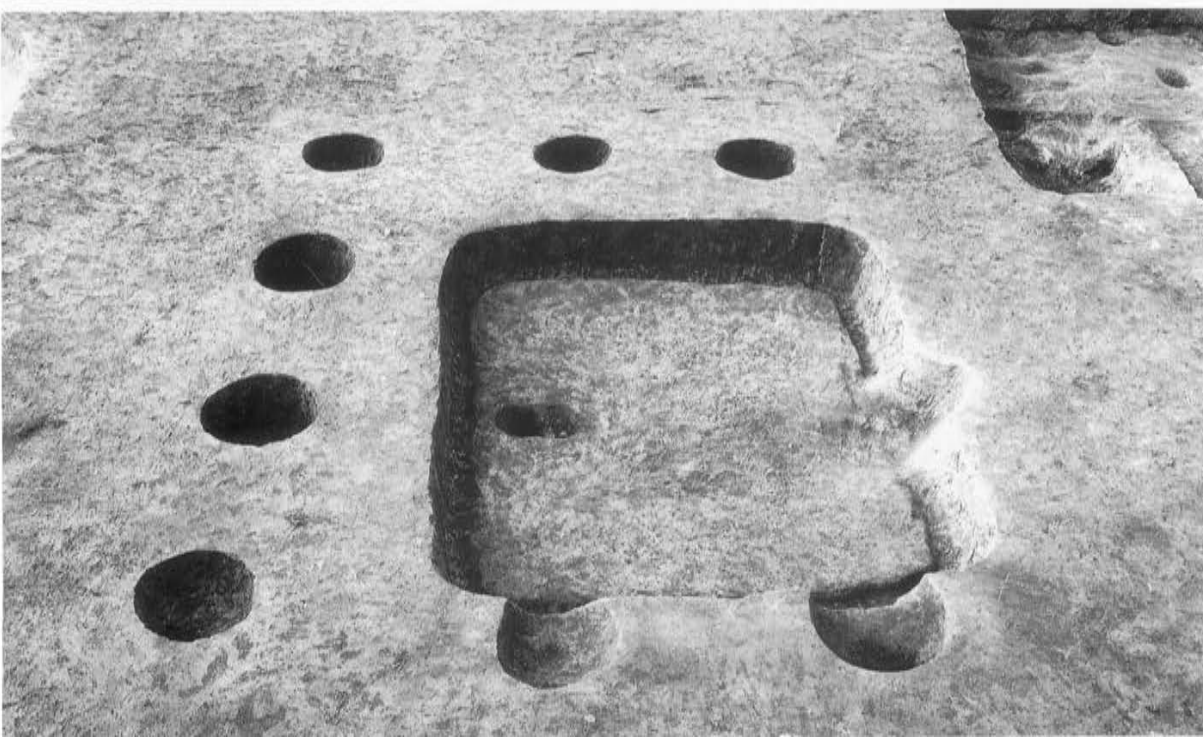
3. IIH12



1. IIH13



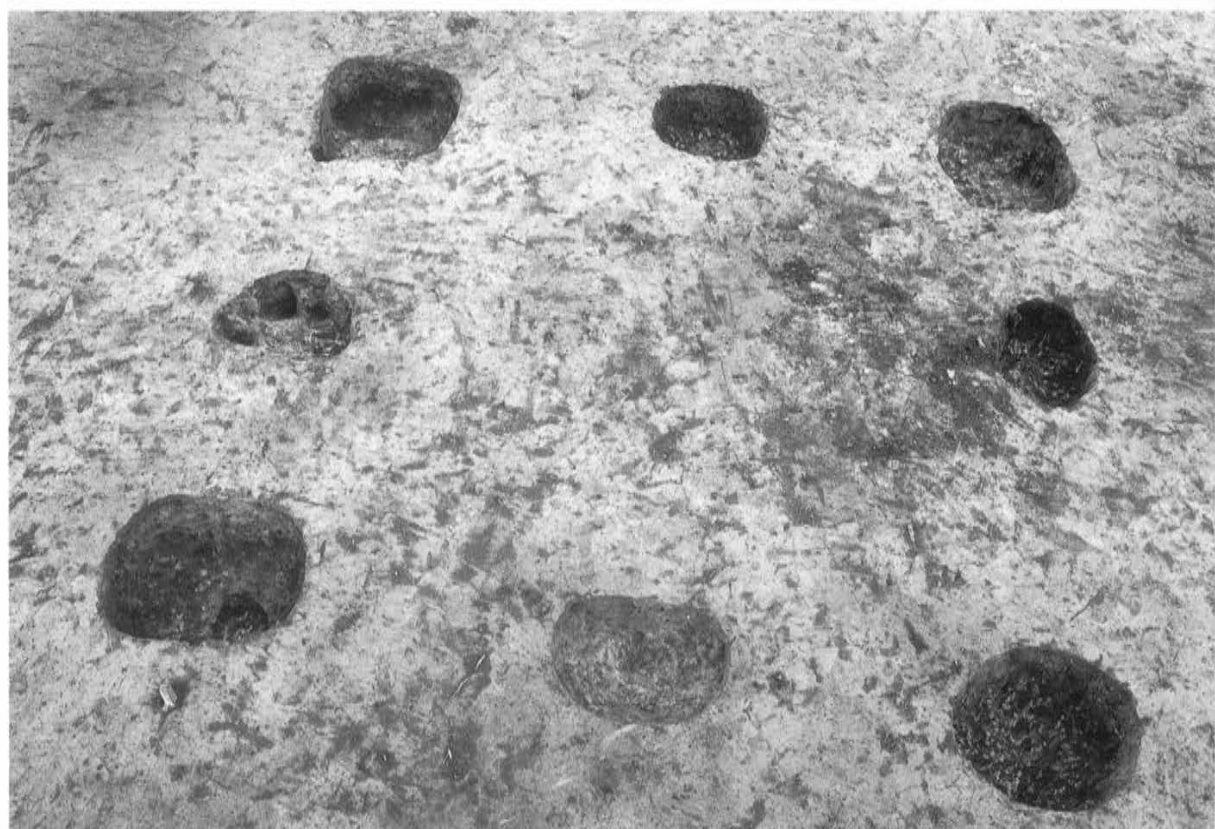
2. IIH14



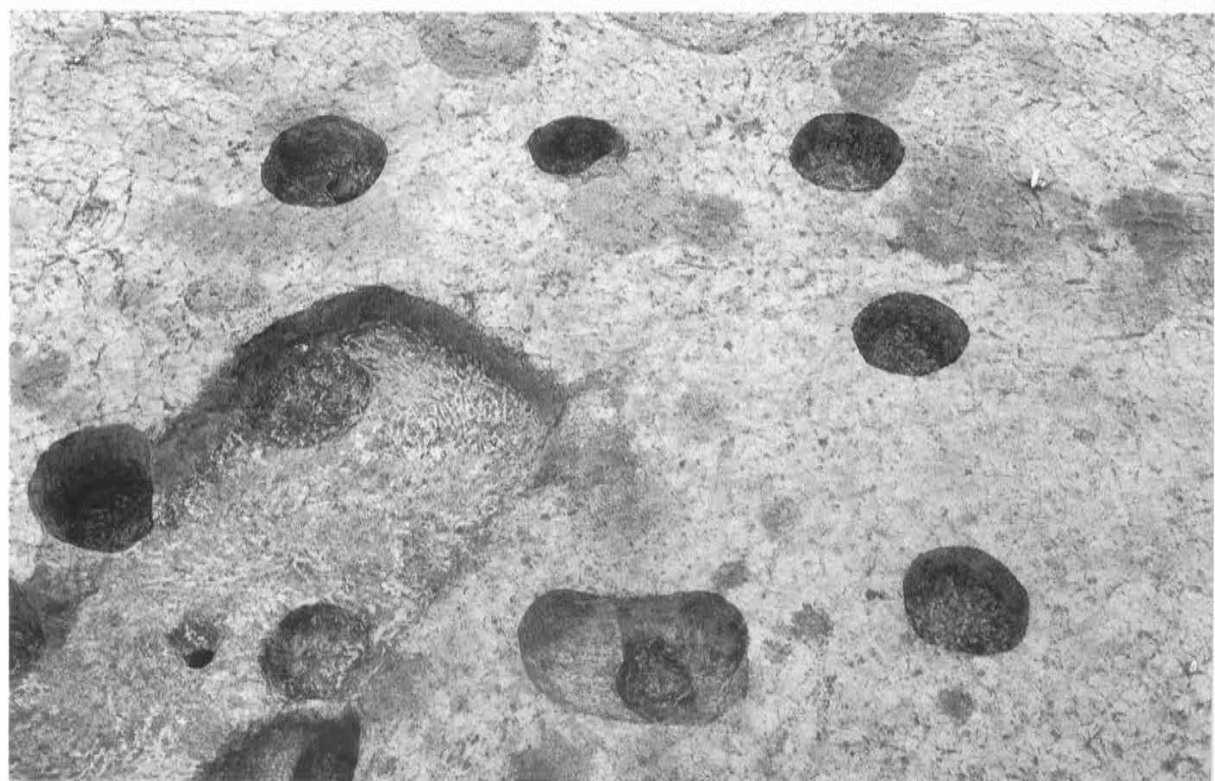
3. IIH15



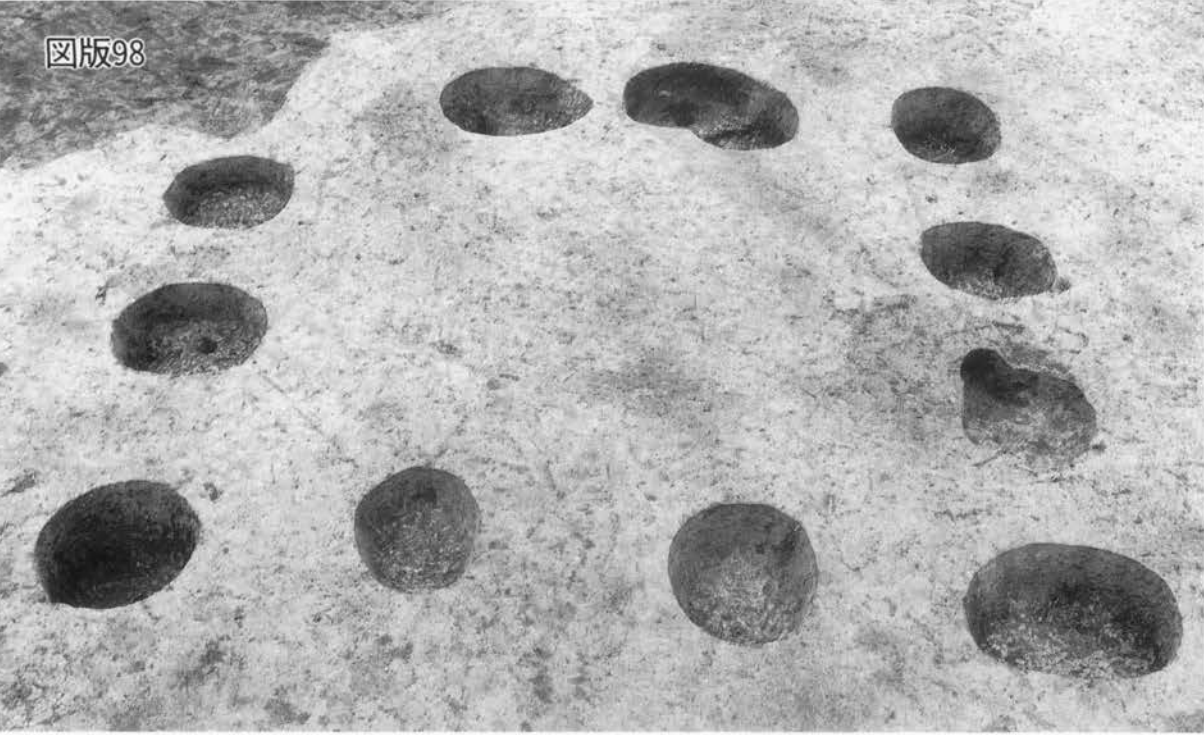
1. IIH16



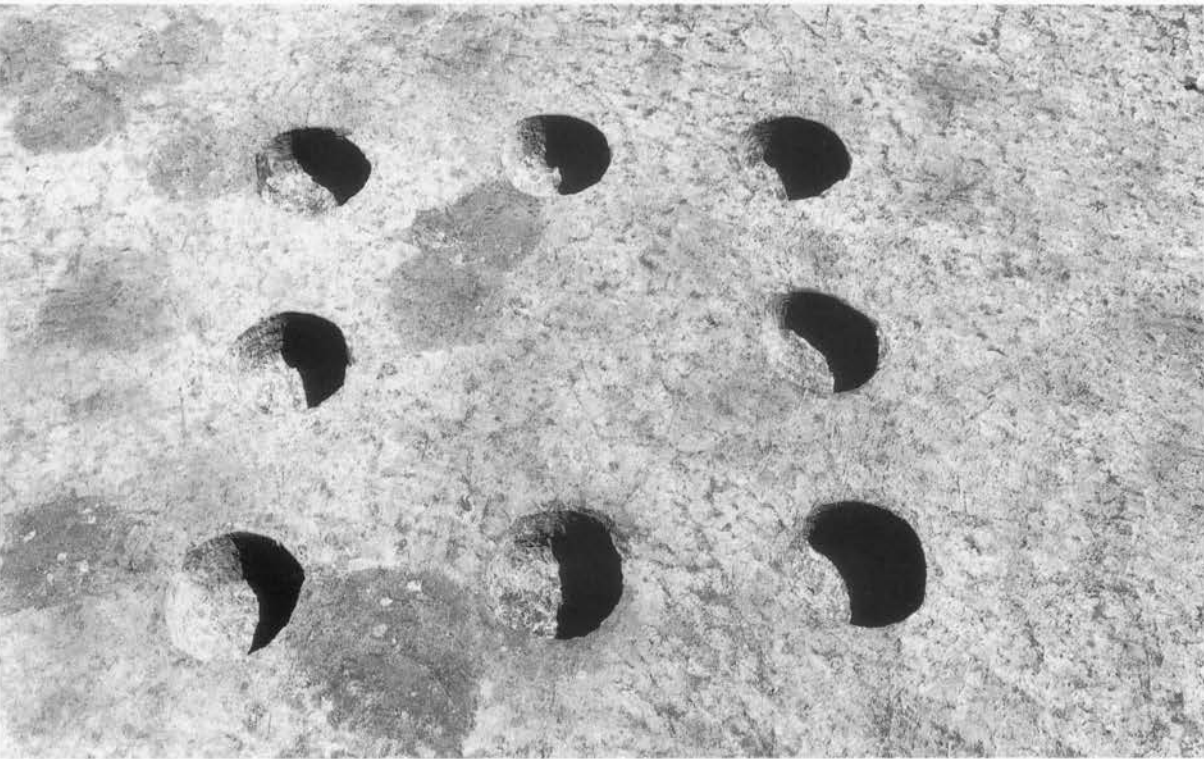
2. IIH17



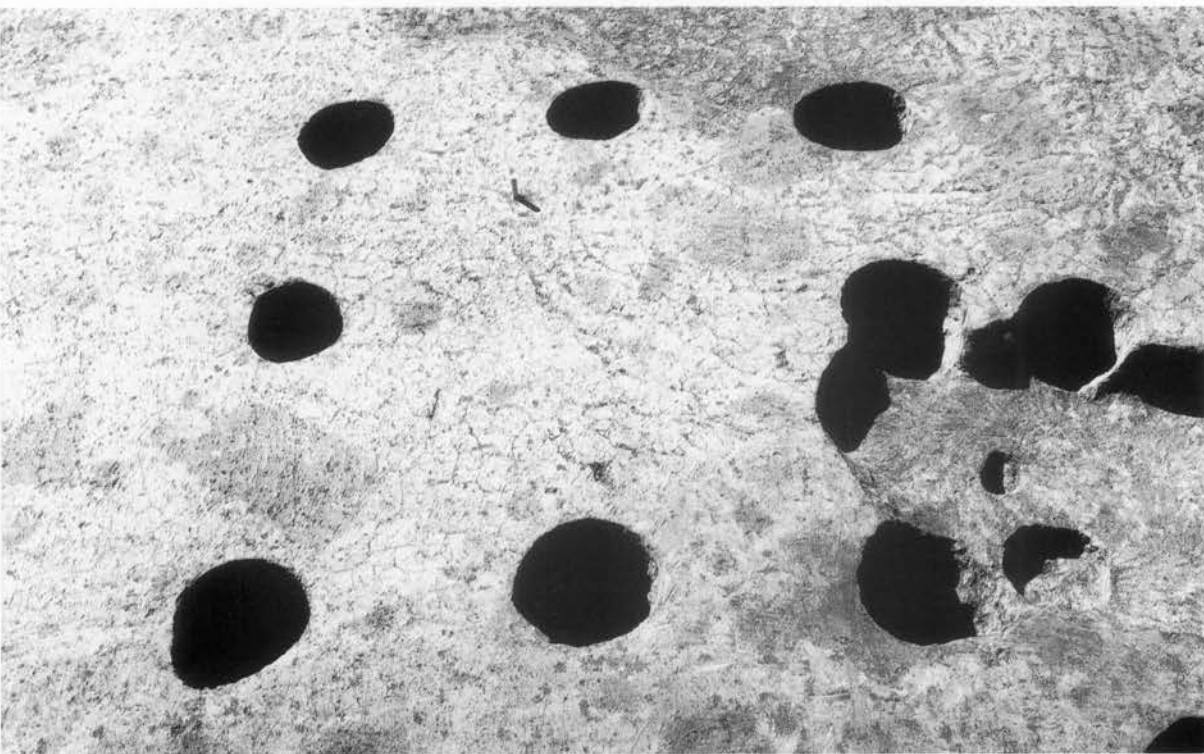
3. IIH18



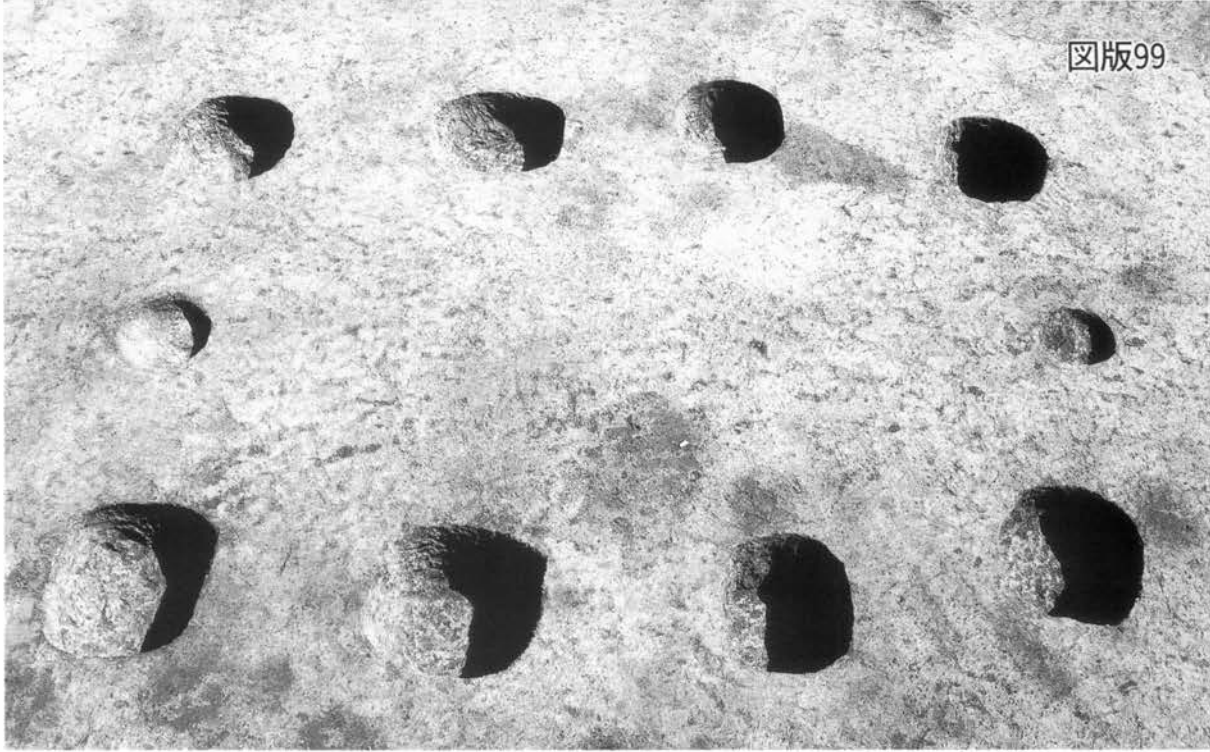
1. II H19



2. II H20



3. II H21



1. IIH22



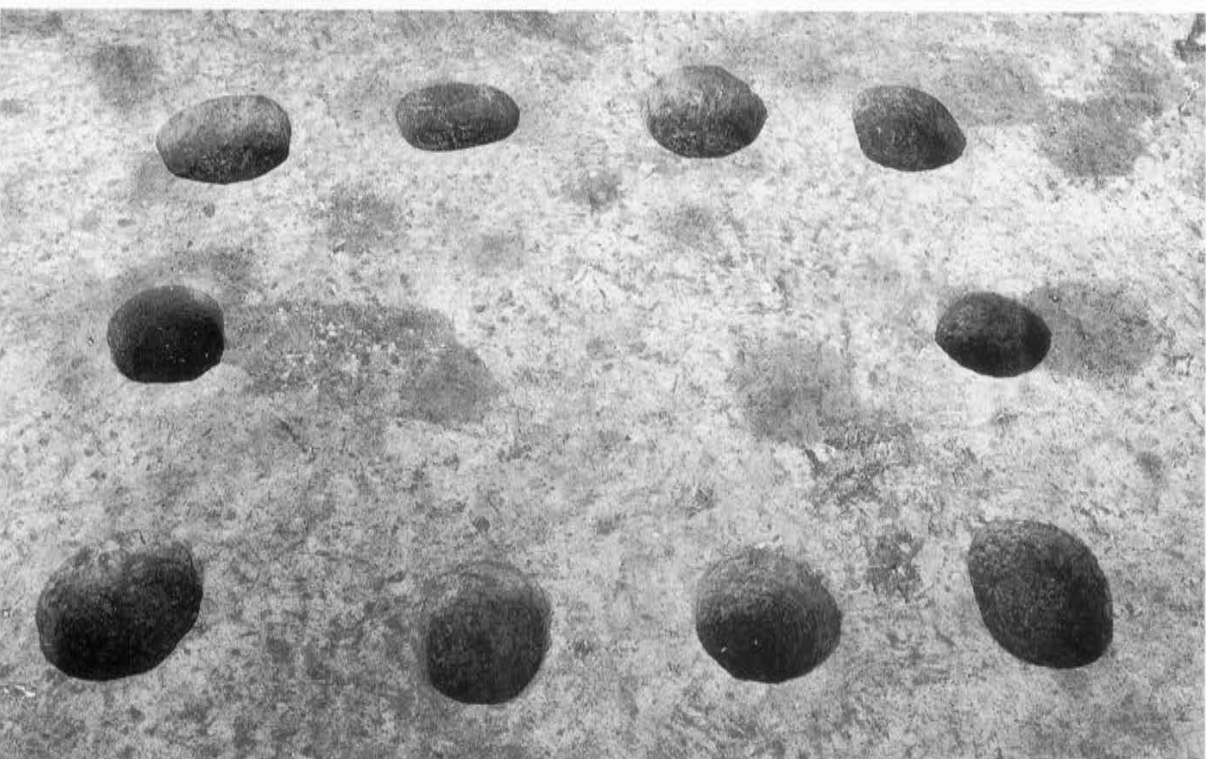
2. IIH23



3. IIH24



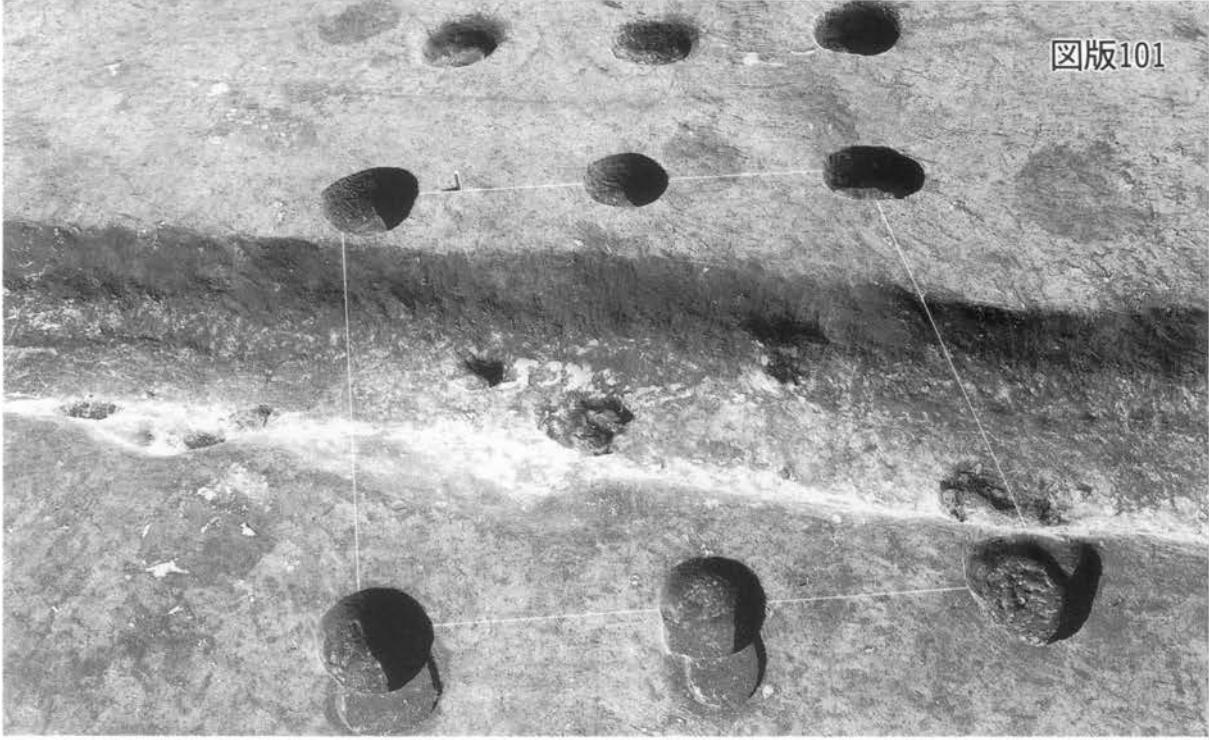
1. IIH25



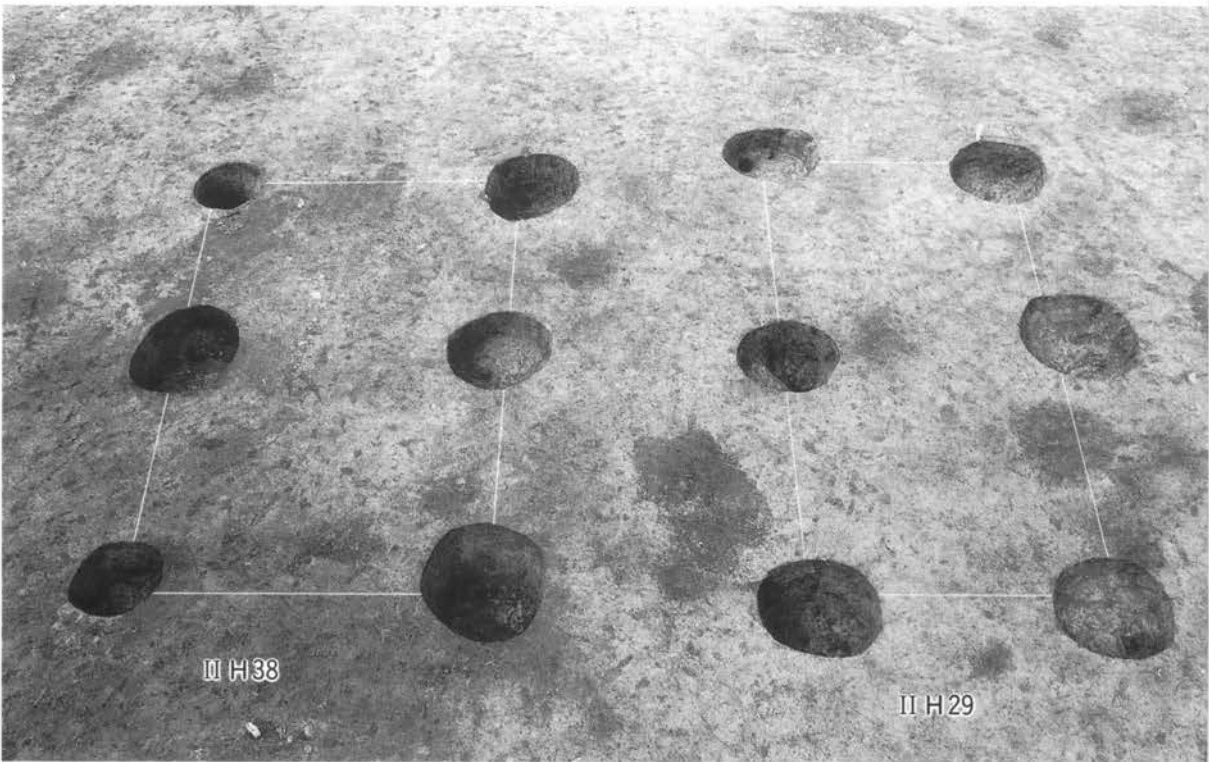
2. IIH26



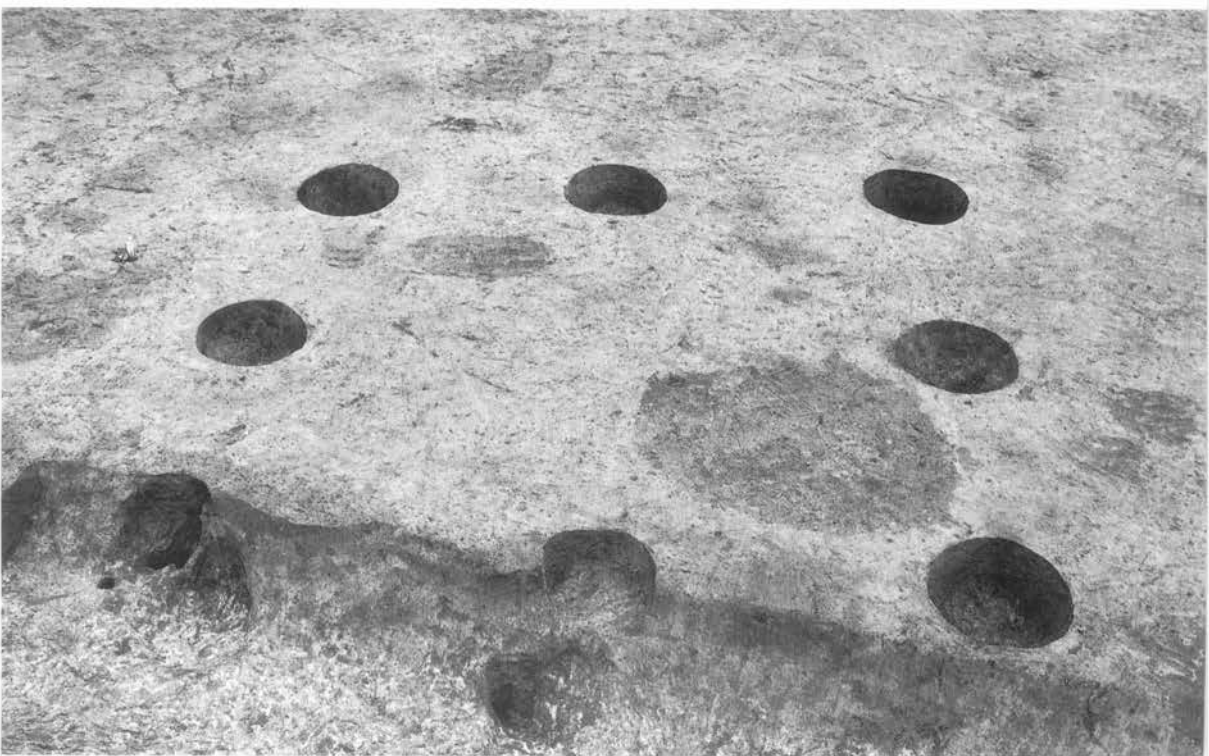
3. IIH27



1. II H28



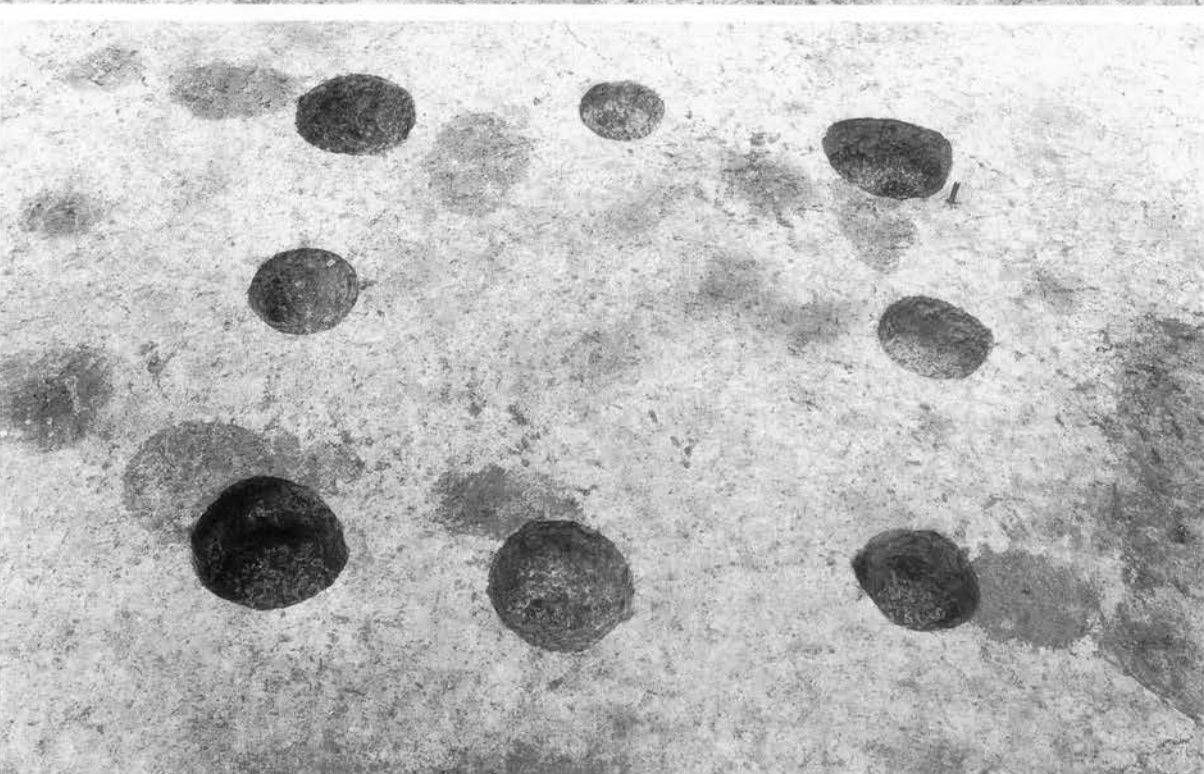
2. II H29  
II H38



3. II H30



1. IIH31



2. IIH33

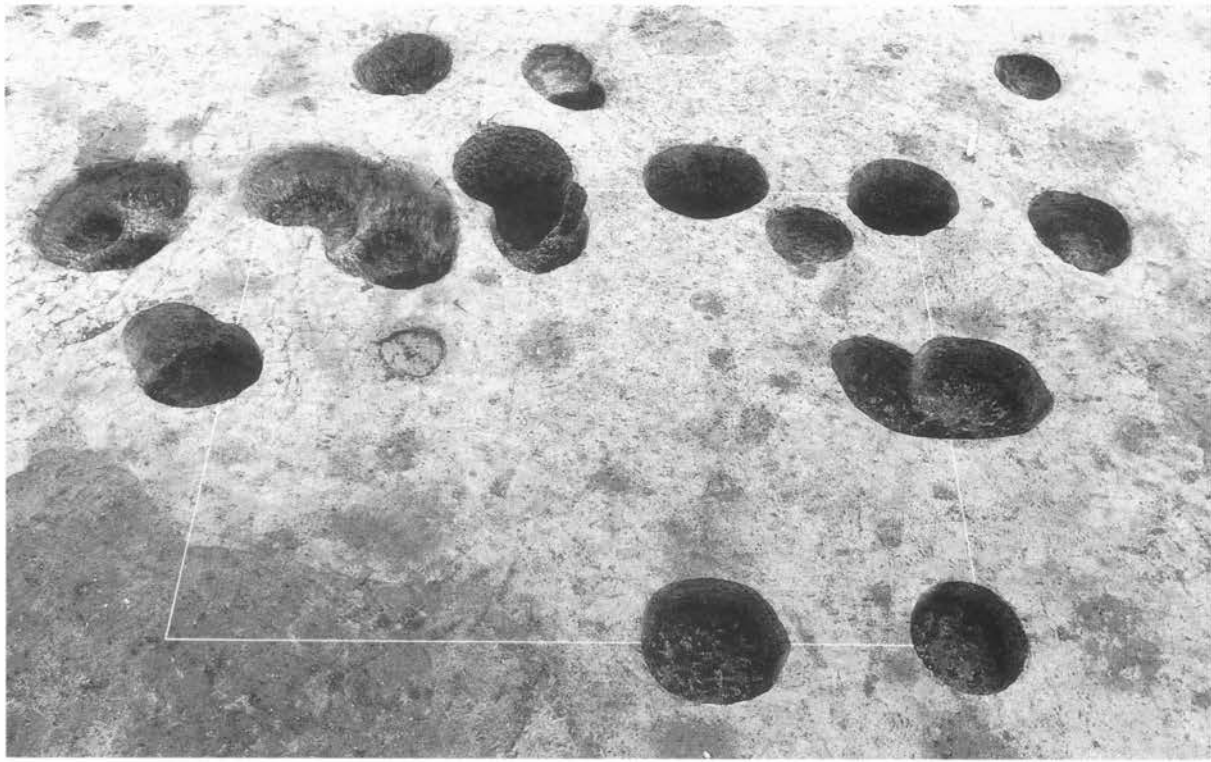


3. IIH34

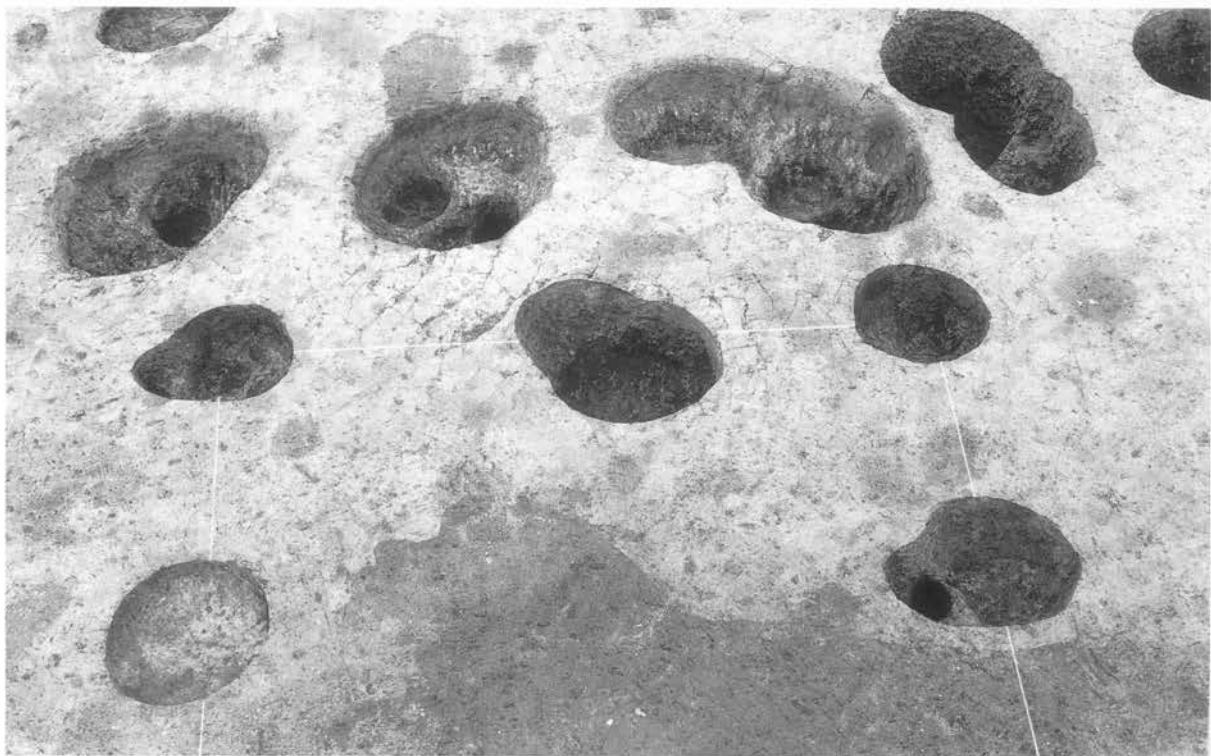




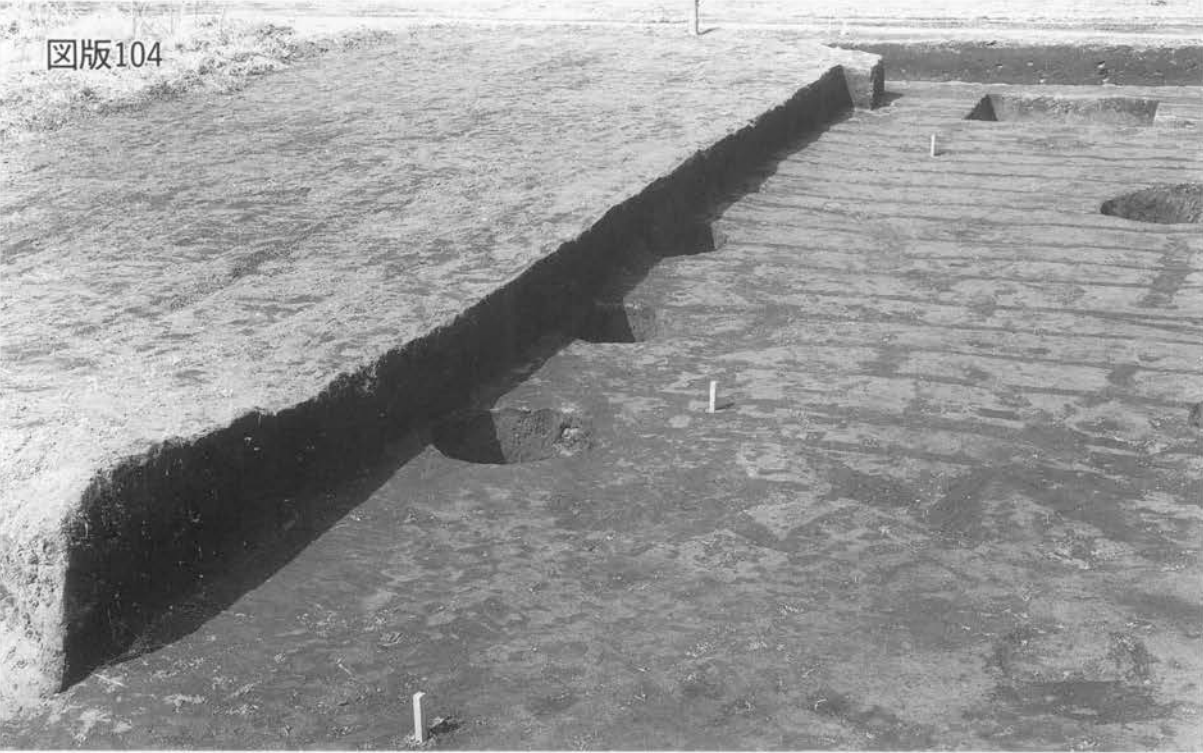
1. IIH35



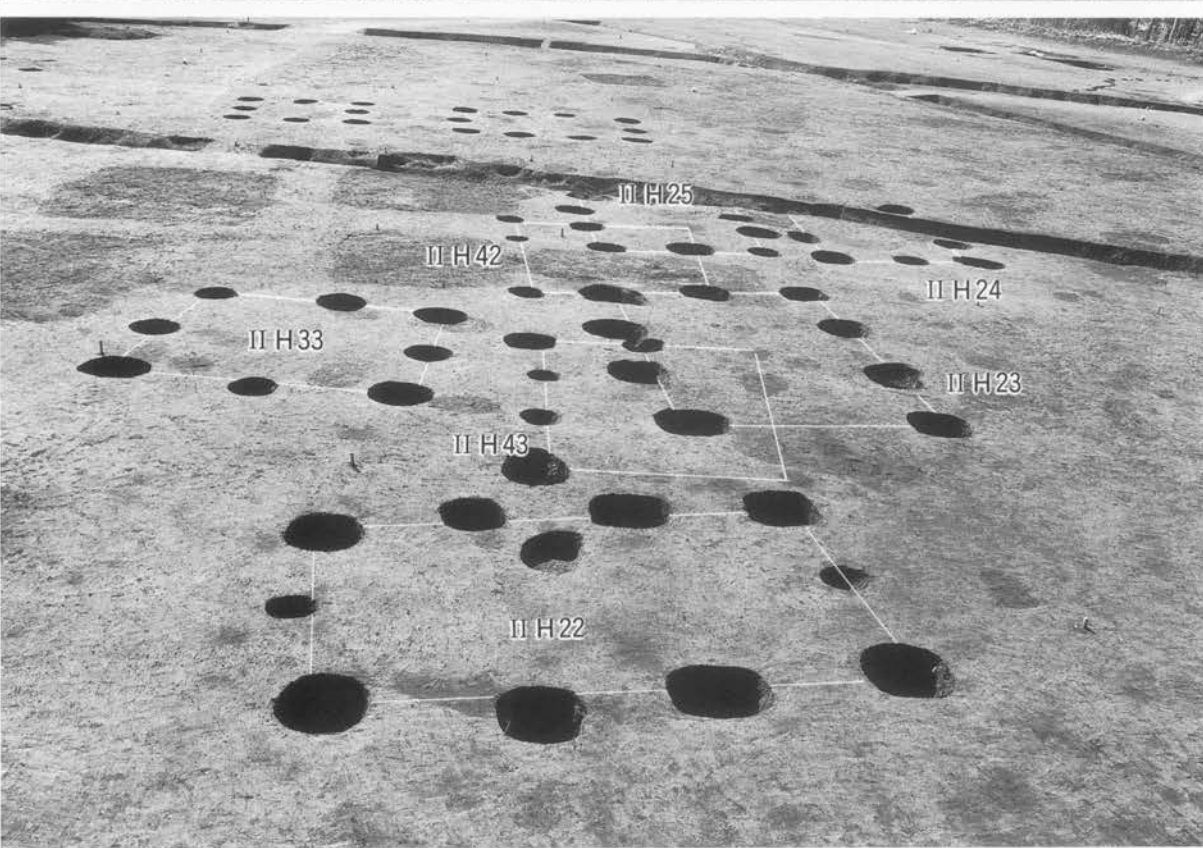
2. IIH36



3. IIH37



1. II H41



2. II H22  
 H23  
 H24  
 H25  
 H33  
 H42  
 H43



3. II SA 2, II H18



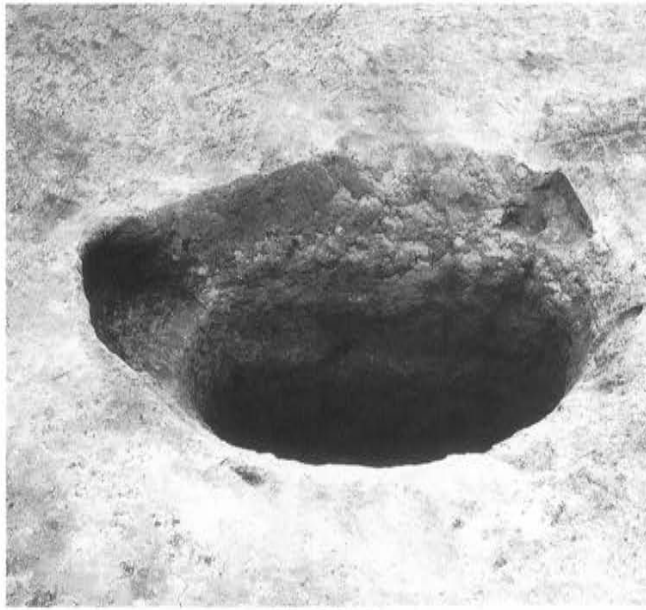
4. II H43



1. II039



2. II072



3. II046



4. II046



5. II152



6. II153



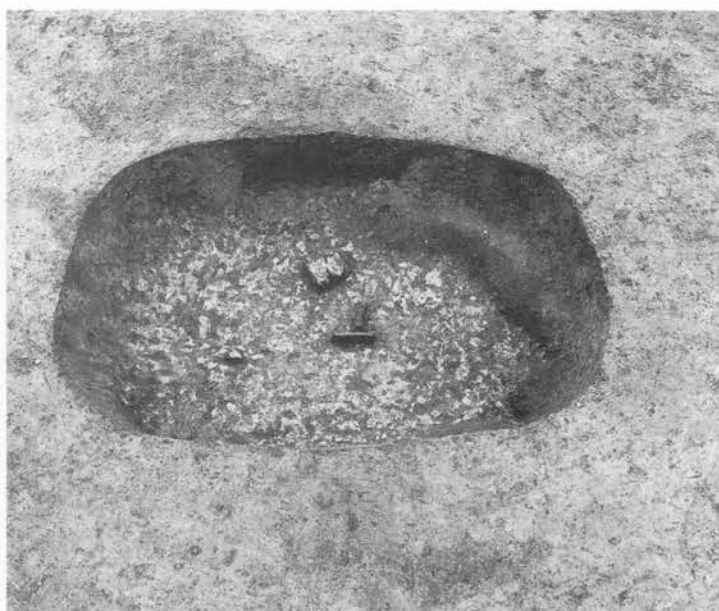
1. II154



2. II159



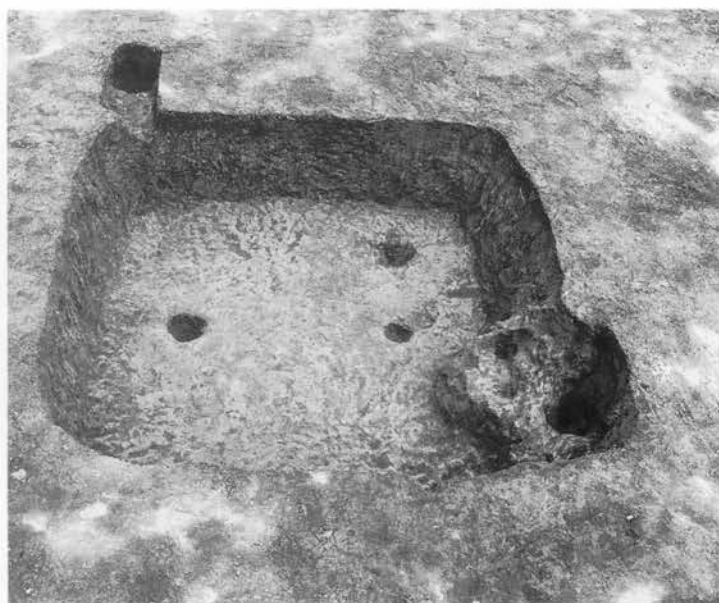
3. II160



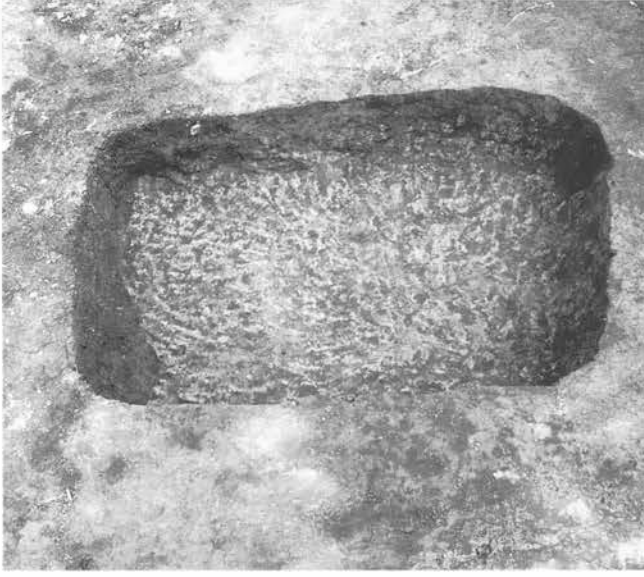
4. II024



5. II047



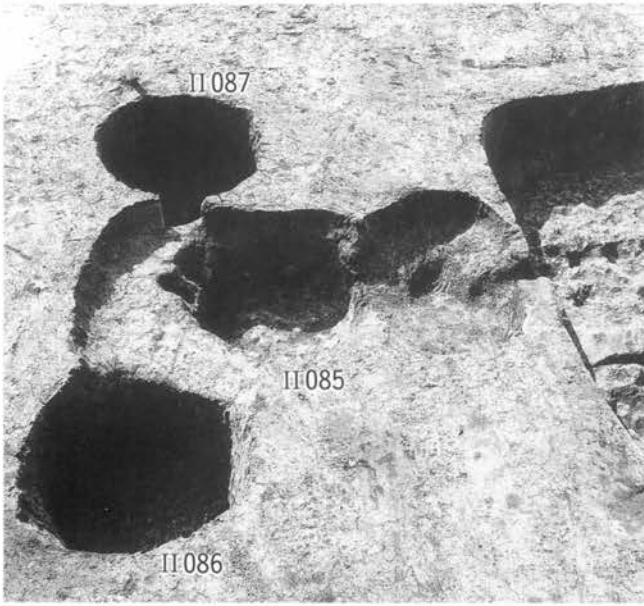
6. II053



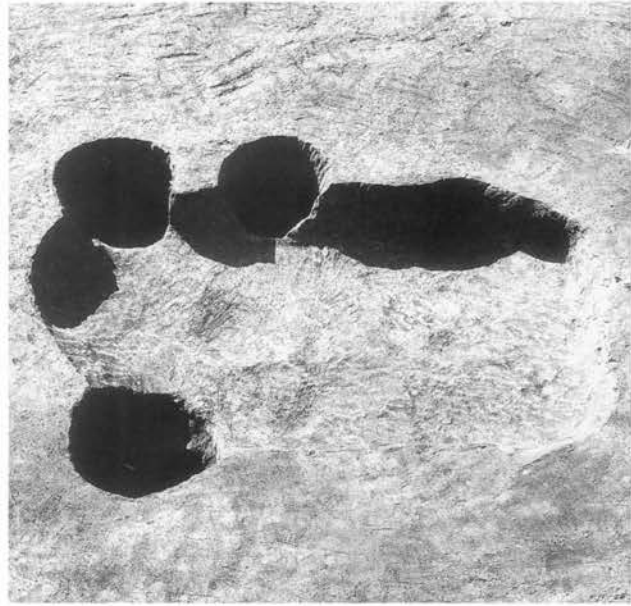
1. II054



2. II055



3. II085  
II086  
II087



4. II091



5. II099



6. II167B



1. П040



2. П040



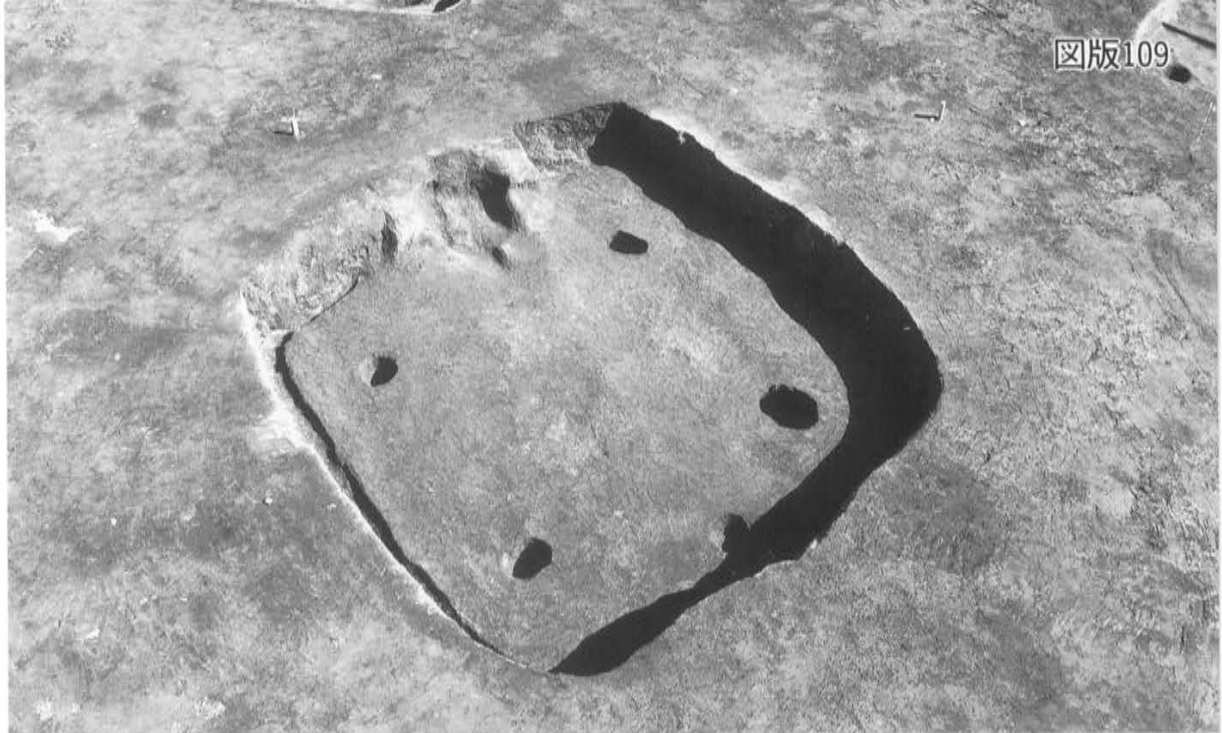
3. П040



4. П040



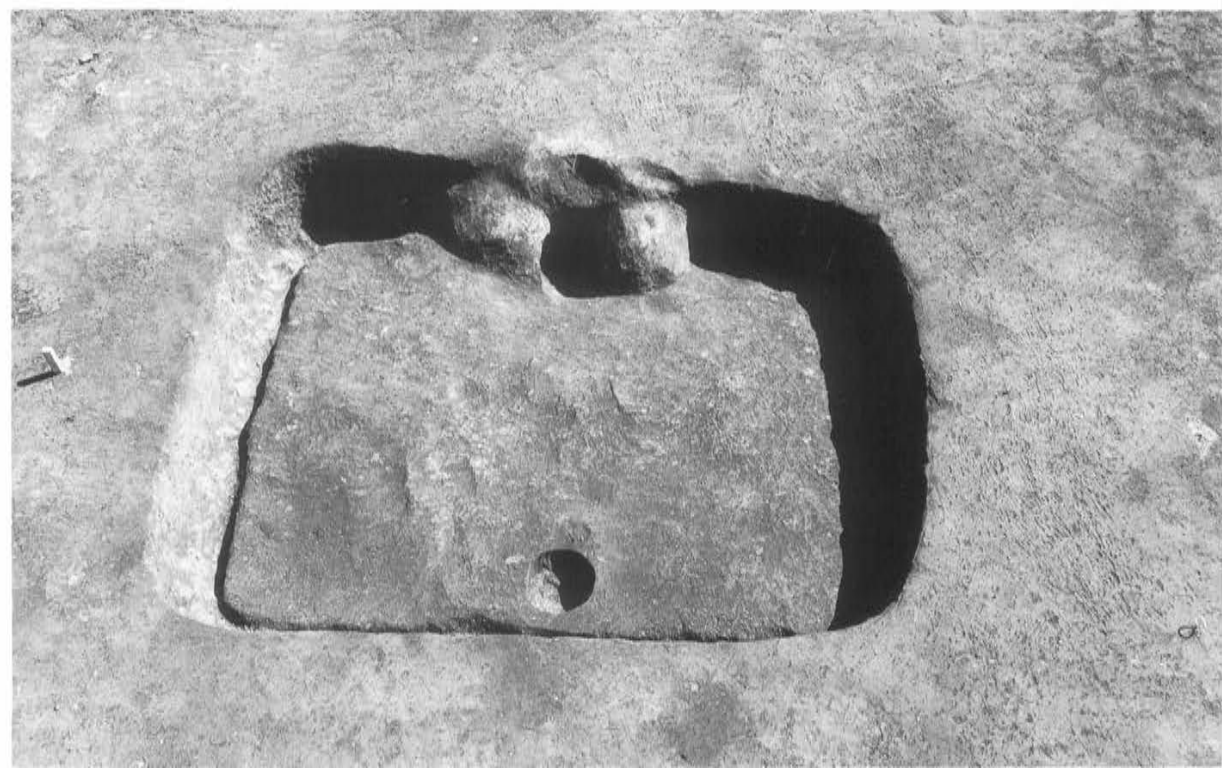
5. П040



1. III170



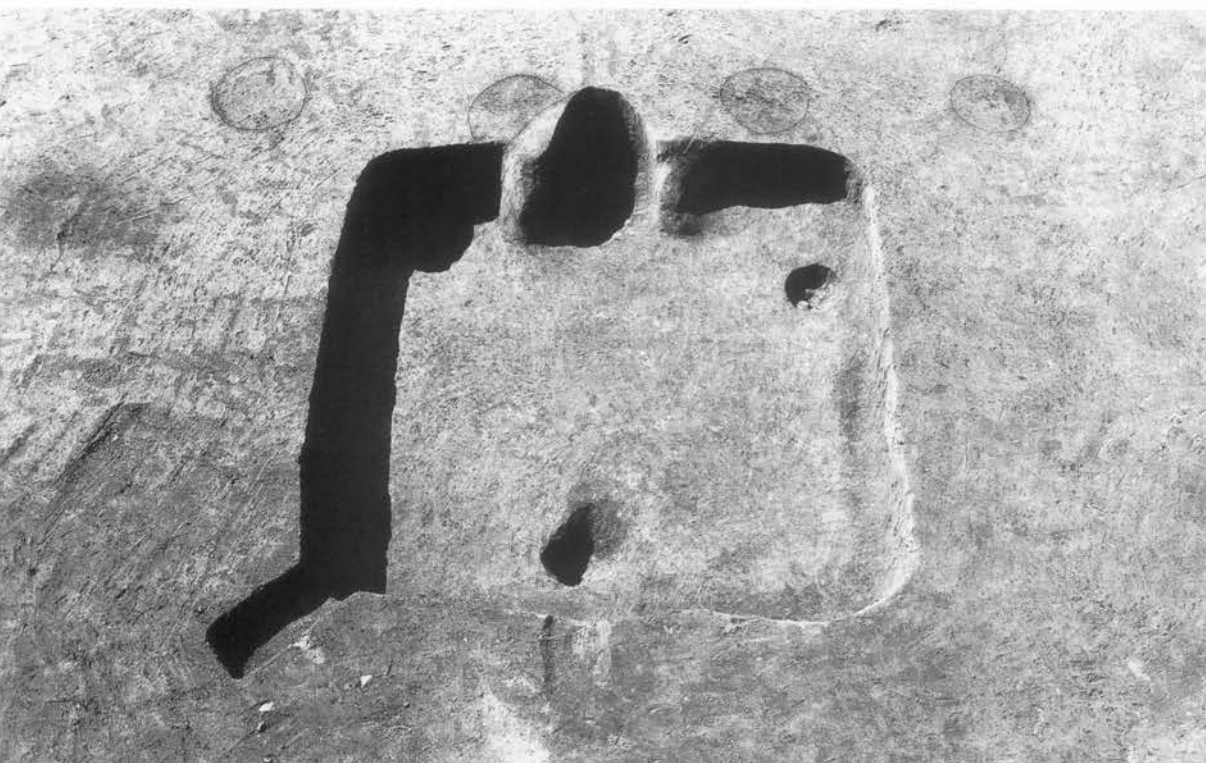
2. III173



3. III175



1. III176



2. III178



3. III180

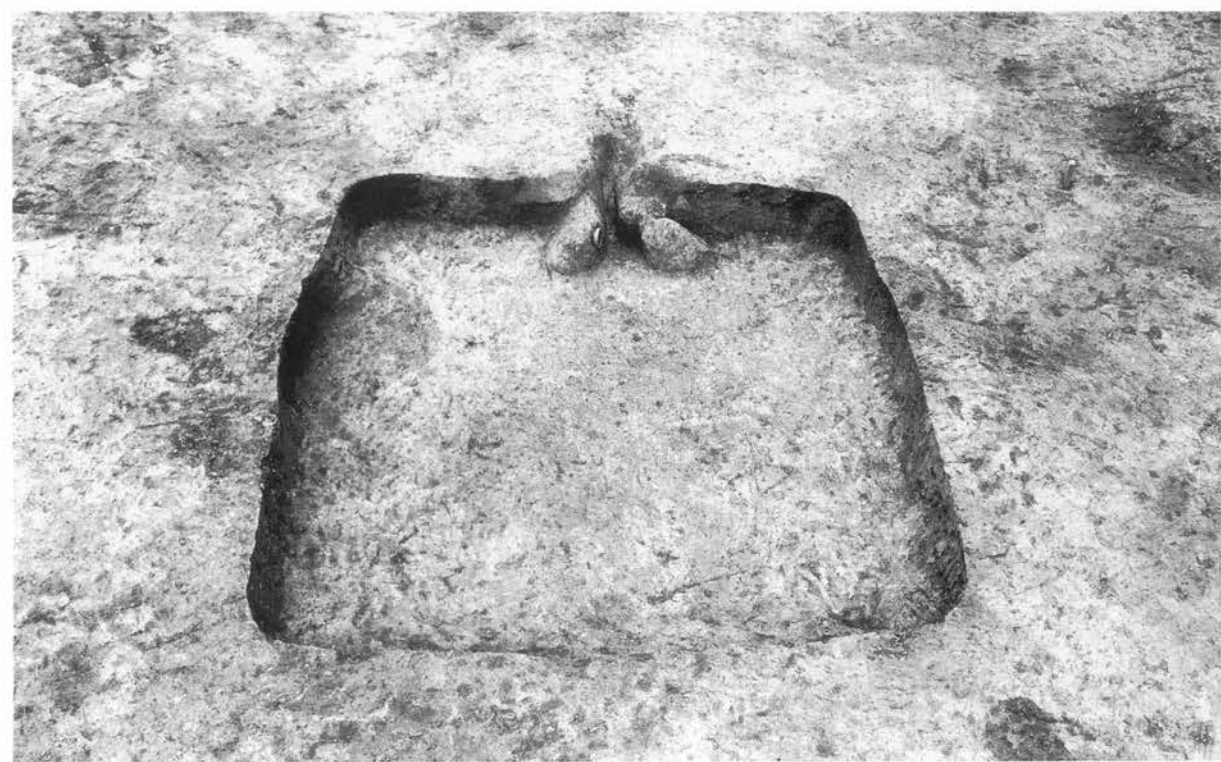




1. III181



2. IIIH32



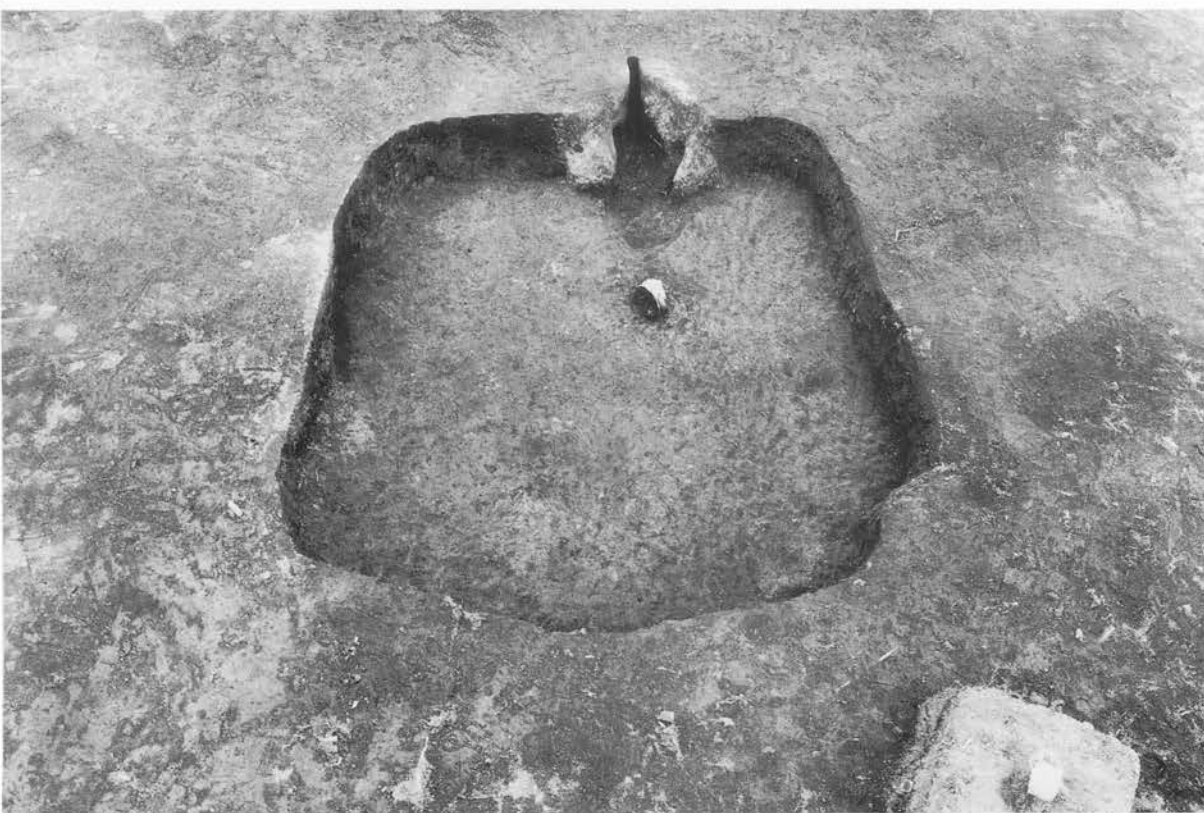
3. N195



1. N196



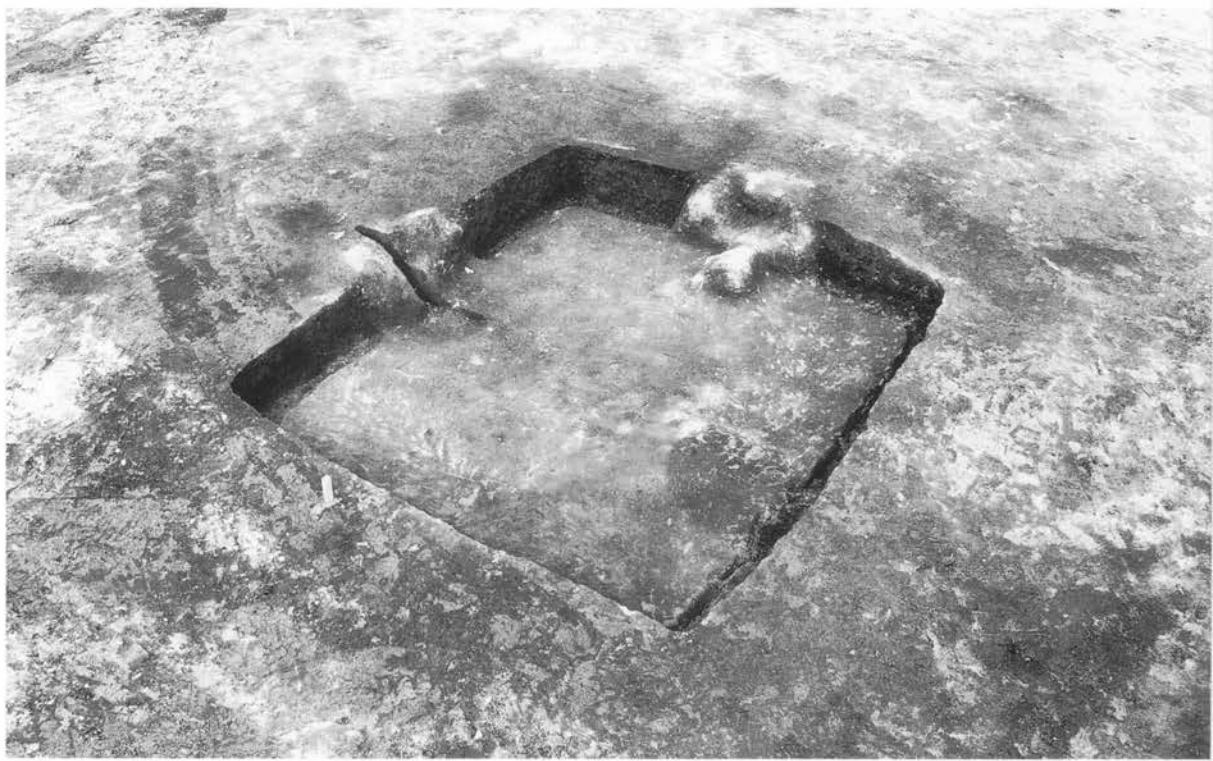
2. N196



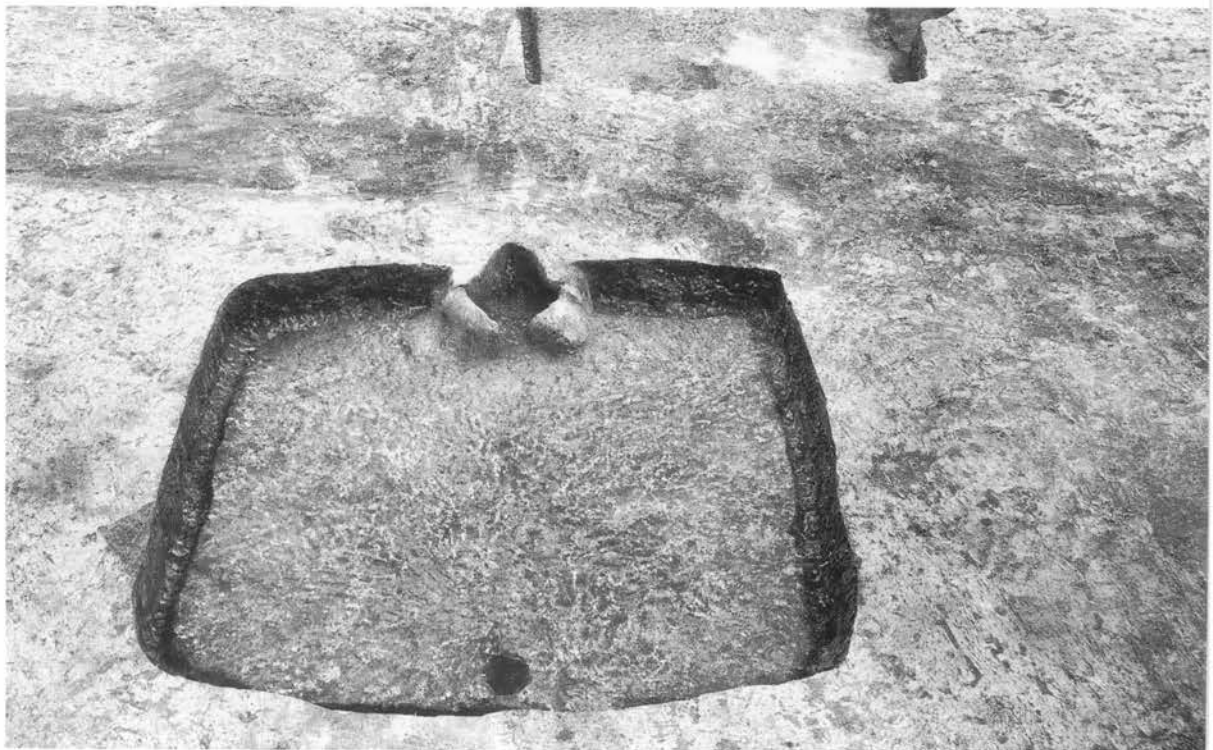
3. N197



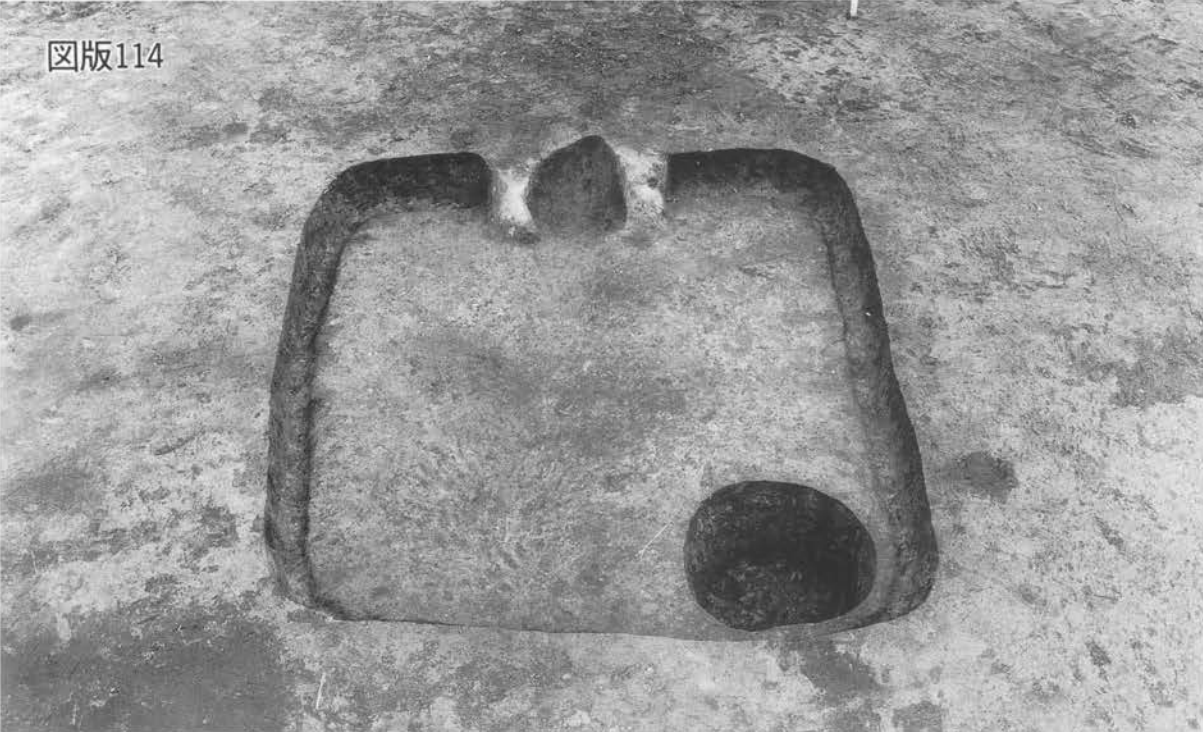
1. N197A  
N197B



2. N198



3. N199



1. N200



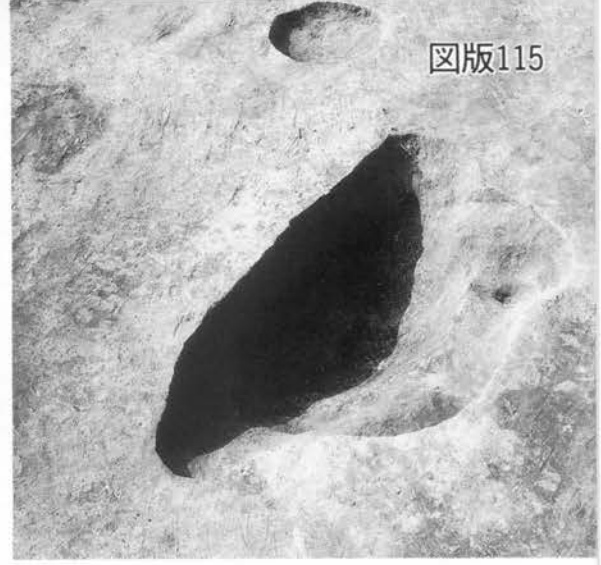
2. N201



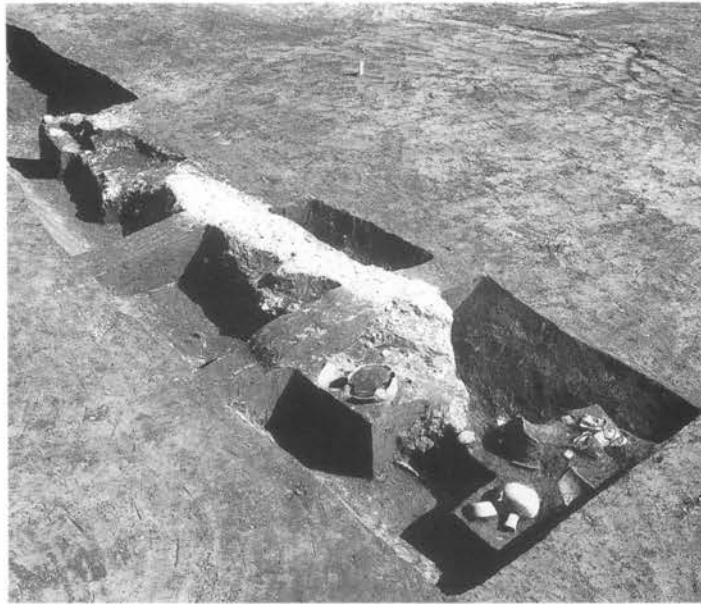
3. N201



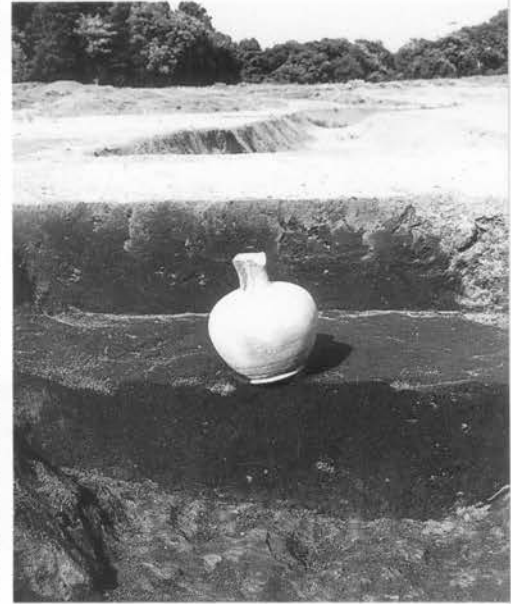
1. N205



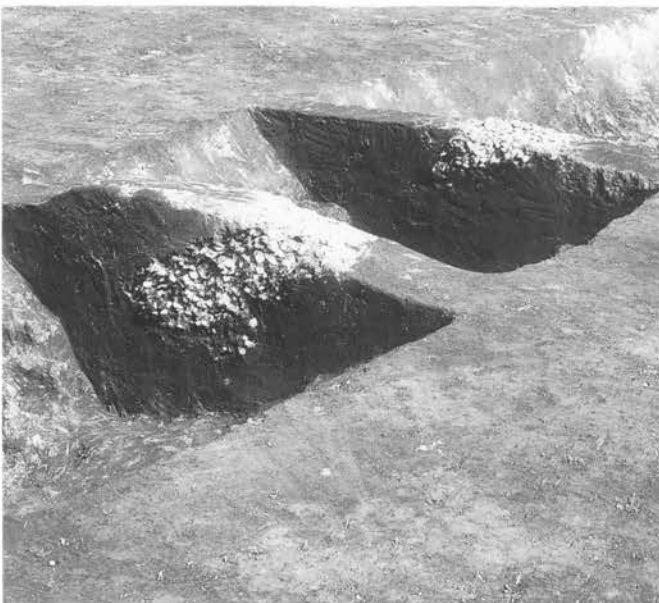
2. N203



3. II M004



4. II M004



5. II M004



6. II M004



1. II M001・002 (17Tグリッド周辺)



2. II M001・002・003 (16Tグリッド周辺)



I 001-5



I 003-1



I 004-4



I 001-8



I 003-5



I 005-5



I 007-7



I 006-3



I 005-3



I 007-8



I 007-9



I 007-10



I 007-20



I 007-16



I 007-11



I 008-3



I 008-1



I 008-2



I 009-2



I 008-7



I 008-5



I 009-3



I 009-5



I 011-3



I 009-21



I 009-8



I 011-4



I 009-10



I 011-5



I 012-2



I 012-5



I 012-1



I 012-4



I 012-3





I 012-7



I 012-6



I 012-8



I 012-9



I 013-1



I 013-3



I 014-1



I 014-8



I 014-7



I 014-20



I 014-16



I 014-11



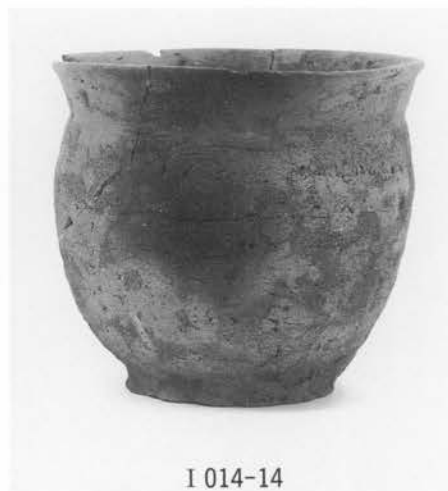
I 014-15



I 014-9



I 014-17



I 014-14



I 014-13



I 014-10



I 014-19



I 014-12



I 015-1



I 015-10



I 015-2



I 015-4



I 015-3



I 015-5



I 015-8



I 015-13



I 016-1



I 017-1



I 018-3



I 020-4



I 020-8



I 017-2



I 020-1



I 020-5



I 021-1



I 017-4



I 020-3



I 020-7



I 021-2



I 022-1



I 022-6



I 022-13



I 023-1



I 023-4



I 024-2



I 023-2



I 024-3



I 025-1



I 025-2



I 025-3



I 028-1



I 028-7



I 028-6



I 028-4



I 029-2



I 029-3



I 029-5



I 029-6



I 029-10



I 029-13



I 030-3



I 031-3



I 031-2



I 030-6



I 031-1



I 031-8



I 031-6



I 031-4



I 031-11



I 031-17



I 031-18



I 031-20





I 034-26



I 034-27



I 034-30



I 034-33



I 034-35



I 035-2



I 035-6



I 035-11



I 035-5



I 035-9



I 035-17



I 035-16



I 035-15



I 035-13



I 037-3



I 038-7



I 035-14



I 037-5



I 038-9



I 036-2



I 039-1



I 036-3



I 038-1



I 039-3



I 036-6



I 038-3



I 040-5



I 037-4



I 038-8





I 040-3



I 040-6



I 041-10



I 041-1



I 041-2



I 041-4



I 042-1



I 042-5



I 043-1



I 043-2



I 044-7



I 044-21



I 044-22



I 044-24



I 044-28



I 044-35



I 044-30



I 044-29



I 044-33



I 047 A-4



I 044-42



I 047 A-18



I 044-53



I 047 A-12



I 044-57



I 047 A-16



I 044-66



I 047 A-17



I 047 A-23



I 047 A-76



I 047 A-73



I 047 A-74



I 047 A-31



I 047 A-91



I 047 A-90



I 047 A -96



I 047 A -98



I 047 A -97



I 047 B -123



I 048-1



I 048-4



I 047 B -126



I 048-2



I 048-5



I 048-3



I 048-6



I 048-7



I 049-1



I 049-16



I 049-20



I 050-2



I 050-3



I 050-5



I 050-8



I 051-3



I 051-10



I 050-10



I 051-4



I 051-17



I 052-1



I 051-13



I 051-14



I 052-3



I 052-12



I 052-13



I 052-6



I 052-25



I 052-27



I 052-18



I 052-29



I 053-42



I 053-39



I 053-1



I 053-3



I 053-44



I 053-9



I 053-13



I 053-45



I 053-43



I 054-5



I 054-2



I 054-3



I 053-49



I 055-5



I 055-6



I 055-8



I 055-12



I 055-13



I 055-23



I 055-21



I 055-17



I 055-22



I 056-3



I 057-1



I 058-7



I 058-2



I 058-3



I 058-4



I 059-12



I 059-2



I 059-14



I 059-3



I 060-2



I 060-3



I 060-8



I 061-26



I 061-17



I 061-16



I 061-11



I 061-31



I 061-27



I 061-28



I 062-10



I 062-11



I 062-12



I 062-8



I 062-9



I 063-5



I 063-8



I 063-6



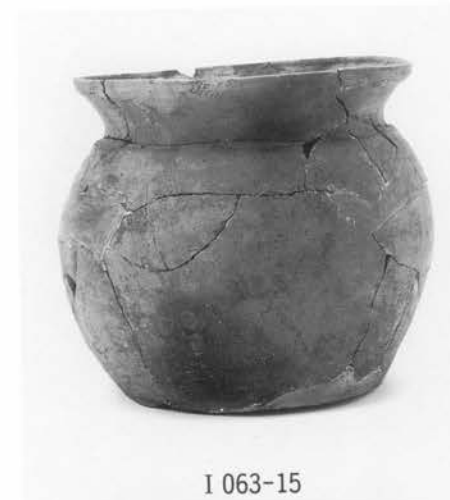
I 063-16



I 063-14



I 063-19



I 063-15



I 063-17



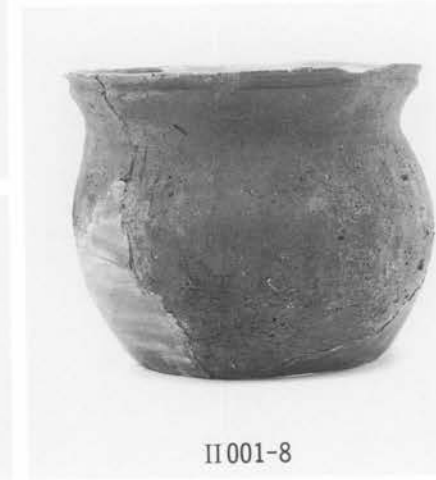
I 063-18



II 001-1



II 001-3



II 001-8



II 003-6





II 003-2



II 004-2



II 004-16



II 004-18



II 004-14



II 004-15



II 005-9



II 005-5



II 005-10



II 006-1



II 006-3



II 007-3



II 006-2



II 006-4



II 007-5



II 007-9



II 007-10



II 009-5



II 009-4



II 009-8



II 011-5



II 012-1



II 011-2



II 012-5



II 014-2



II 012-3



II 014-4



II 015-2



II 015-6



II 015-1



II 015-5



II 015-3



II 018-5



II018-1



II019-5



II019-10



II019-11



II019-12



II019-8



II020-7



II020-10



II020-16



II020-25



II020-18



II020-19



II021-8



II 021-1



II 021-10



II 025-3



II 025-5



II 028-8



II 021-6



II 023-1



II 025-7



II 027-10



II 028-6



II 028-1



II 021-9



II 023-2



II 027-11



II 028-7



II 030-15



II 030-17



II 031-4



II 032-1



II 032-2



II 032-6



II 032-5



II 033-1



II 033-9



II 033-10



II 034-17



II 031-9



II 033-19



II 033-21



II 033-46



II 034-10



II 034-15



II 035-3



II 035-1



II 035-14



II 035-9



II 036-3



II 036-6



II 036-7



II 037-11



II 038-2



II 037-9



II 040-11



II 040-8

II 037



II 040-9



II 040-1



II 040-27



II 040-22



II 040-26



II 040-48



II 040-45



II 040-10



II 040-38



II 040-34



II 040-51



II 040-33



II 040-29



II 040-53



II 041-2



II 042-1



II 042-3



II 042-4



II 042-2



II 043-2



II 043-6



II 043-11



II 043-12



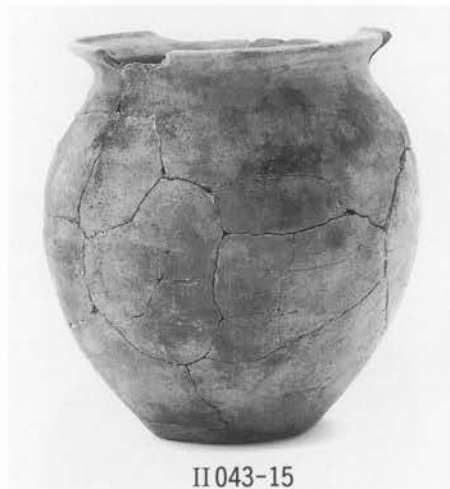
II 043-7



II 043-4



II 043-5



II 043-15



II 043-13



II 044-1



II 044-6



II 048-2



II 044-3



II 044-5



II 048-3





II 048-5



II 048-6



II 048-14



II 049-6



II 049-13



II 056-10



II 056-1



II 056-3



II 056-7



II 056-21



II 057-1



II 058-2



II 058-7



II 059-1



II 058-6



II 059-3



II 059-28



II 059-35



II 059-21



II 059-38



II 061-2



II 061-7



II 061-11



II 061-12



II 062-3



II 062-13



II 061-13



II 063-15



II 063-36



II 063-14



II 063-39



II 063-26



II 063-27



II 063-33



II 063-40



II 064-6



II 064-7



II 064-10



II 064-14



II 064-17



II 064-22



II 064-16



II 065-1



II 065-5



II 065-6



II 065-2



II 065-3



II 066-7



II 065-4



II 066-4



II 068-5



II 068-3



II 068-12



II 069-2



II 069-5



II 069-3



II 070-6



II 070-3



II 070-19



II 070-13



II 071-3



II 071-2



II 071-7



II 074-5



II 071-6



II 073-1



II 075-2



II077-20



II077-4



II077-27



II078-1



II078-6



II078-12



II080-4



II080-7



II080-10



II080-12



II080-16



II080-14



II082-6



II081-34



II083-15



II084-8



II084-7



II084-53



II084-1



II084-44



II 084-57



II 084-61



II 084-59



II 088-5



II 088-11



II 090-4



II 090-20



II 090-18



II 090-15



II 090-24



II 093-4



II 093-5



II 093-3



II 093-6



II 093-7



II 093-8



II 093-9



II 093-10



II 093-11



II 093-18



II 093-12



II 093-19



II 093-23



II 094-27



II 094-32



II 095-3



II 097-21



II 095-2



II 098-1



II 100-7



II 096-7



II 101-5



II 101-7



II 101-13



II 101-10



II 101-21



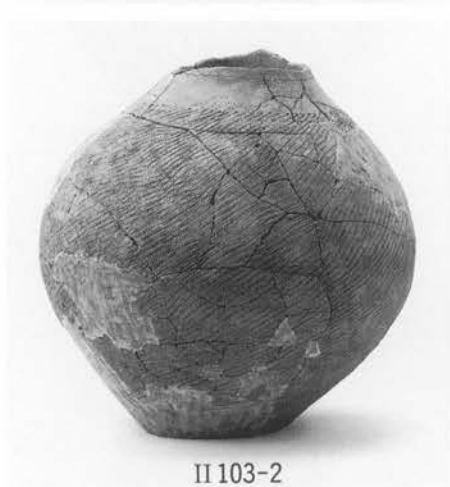
II 102-3



II 101-24



II 104-3



II 103-2



II 103-3



II 106-1



II 105-4



II 106-13



II 106-14





II 106-17



II 107-4



II 109-1



II 107-5



II 110-28



II 110-9



II 110-5



II 110-16



II 111-6



II 111-4



II 112-1



II 113-8



II 111-5



II 112-3



II 113-17



II 113-14



II 115-2



II 115-5



II 115-14



II 116-2



II 118-8



II 118-12



II 119-1



II 120-9



II 120-10



II 120-19



II 120-15



II 120-12



II 120-20



II 120-13



II 120-23



II 121-3



II 121-9



II 120-25



II 121-4



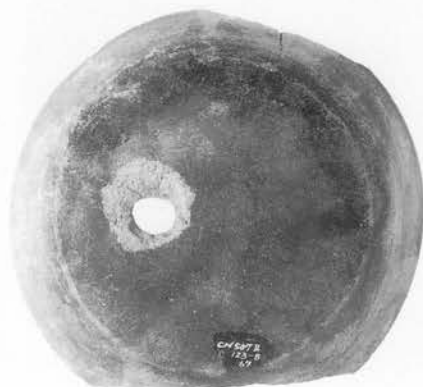
II 122-11



II 122-14



II 122-20



II 123B-28



II 123A-4



II 123A-18



II 123B-27



II 123A-5



II 125-13



II 123B-32



II 123C-36



II 125-14



II 123C-37



II 126-8



II 126-7



II 123C-38



II 126-6



II 126-5



II 127-2



II 127-3



II 127-9



II 128-5



II 128-28



II 128-44



II 128-6



II 128-32



II 128-33



II 129-48



II 128-40



II 129-56



II 129-51



II 130-65



II 133-3



II 134-1



II 135-2



II 138-2



II 137-7



II 137-10



II 138-3



II 139-12



II 139-17



II 139-14



II 140-3



II 140-31



II 140-27



II 140-9



II 140-22



II 140-28



II 141-15



II 141-20



II 142-4



II 142-9



II 141-1



II 141-9



II 141-14



II 141-17



II 142-6



II 142-8



II 141-7



141-10



II 141-11



II 142-2



II 142-3



II 142-5



II 142-10



II 142-12



II 142-13



II 144-4



II 144-6



II 144-11



II 143-1



II 143-28



II 144-15



II 143-3



II 144-16



II 144-19



II 144-9



II 146-4



II 144-21



II 146-1



II 146-8



II 146-2



II 147-3



II 148-4



II 148-6



II 148-9



II 148-10



II 148-13



II 148-11



II 148-12



II 149-14



II 149-2



II 149-9



II 150-4



II 156-4



II 157-8



II 157-7



II 157-11





II 158-2



II 158-7



II 161-5



II 158-6



II 158-10



II 161-1



II 161-2



II 161-3



II 161-4



II 162-5



II 162-6



II 163-4



II 164-4



II 164-1



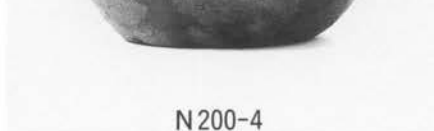
II 163-3



II 164-12



II 165-1





III170-7



III170-10



III170-13



III170-15



III170-16



III170-12



III173-6



III173-1



III173-15



III173-12



III173-14



III173-7



III175-18



III175-6



III175-17



III175-2



III175-20



III175-30



III181-2



III178-2



II H21-3



II M001-25

II M001-25

II M001-25



II M001-31



II M002-1



II M004-1



II H43-1



II M004-11



II M004-13



II M004-15



II M004-25



II M004-29



II M004-23



II M004-20



II M004-52



II M004-59



II M004-49



II M004-63



II M004-64



II M004-65



II M004-66



II M004-67



II M004-69



II M004-70



II M004-72



II M004-111



II M004-79



II M004-85



II M004-81



II M004-82



II M004-87



II M004-86



II M004-133



II M004-117



II M004-118



II M004-119



II M004-137



II M004-134



II M004-136



II M004-139



II M004-144



II M004-143



II M004-197



II M004-198



II M004-204



II M004-200

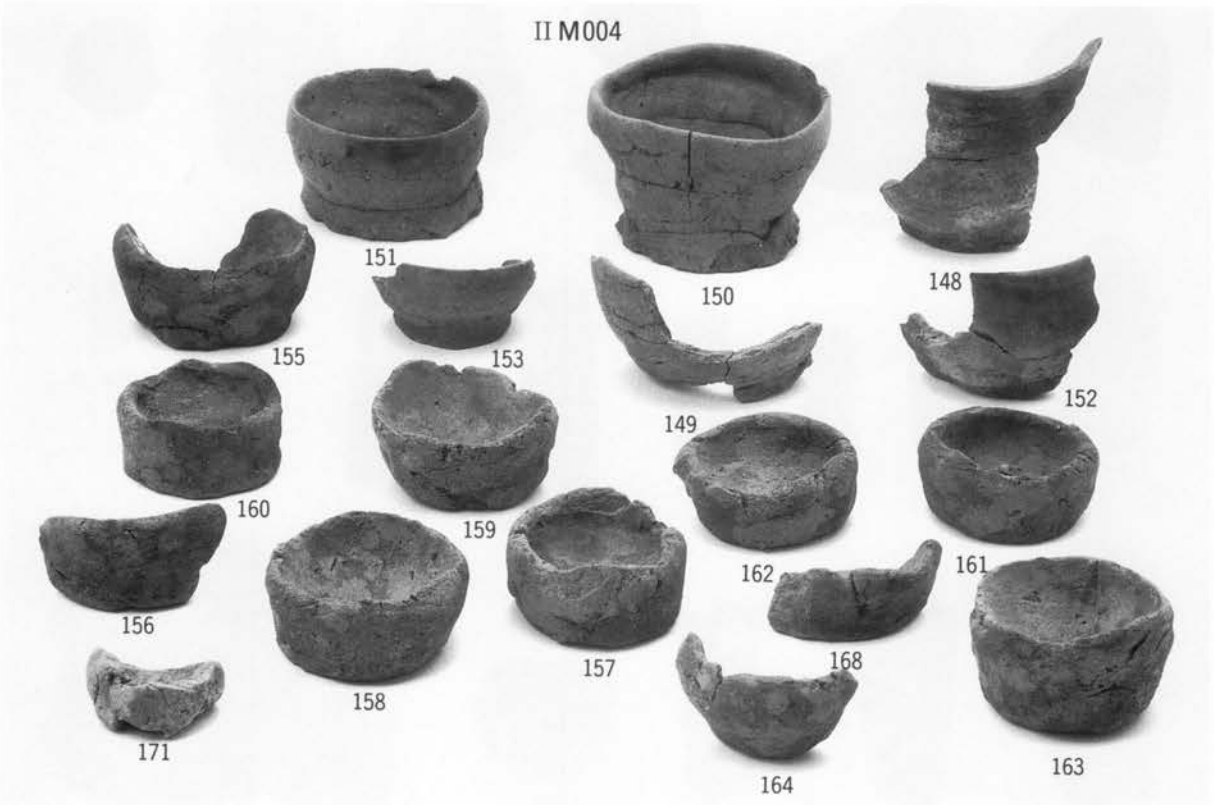


II M004-203

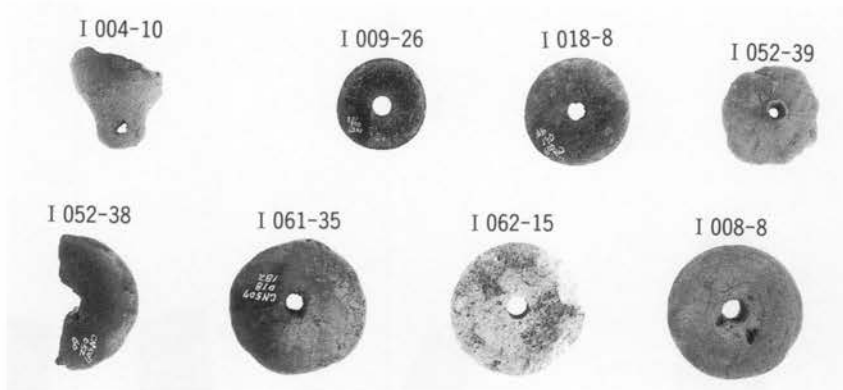


II M006-2

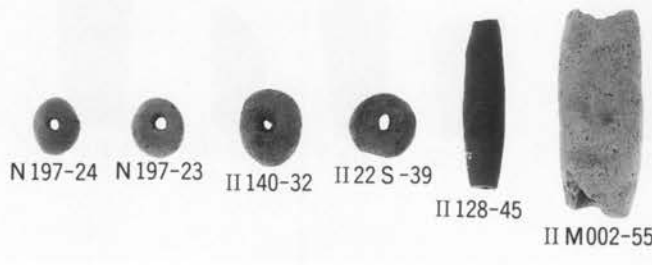
II M004



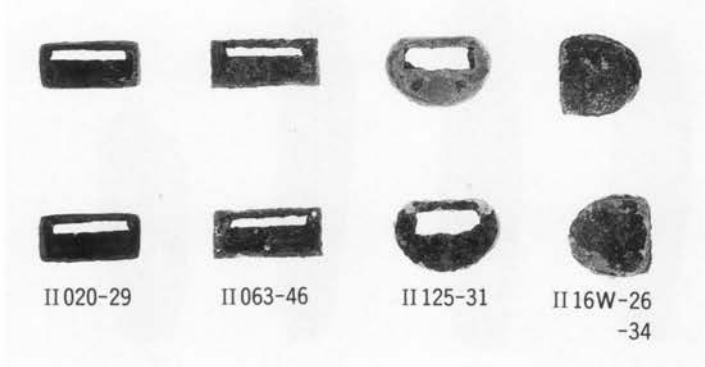
手捏ね



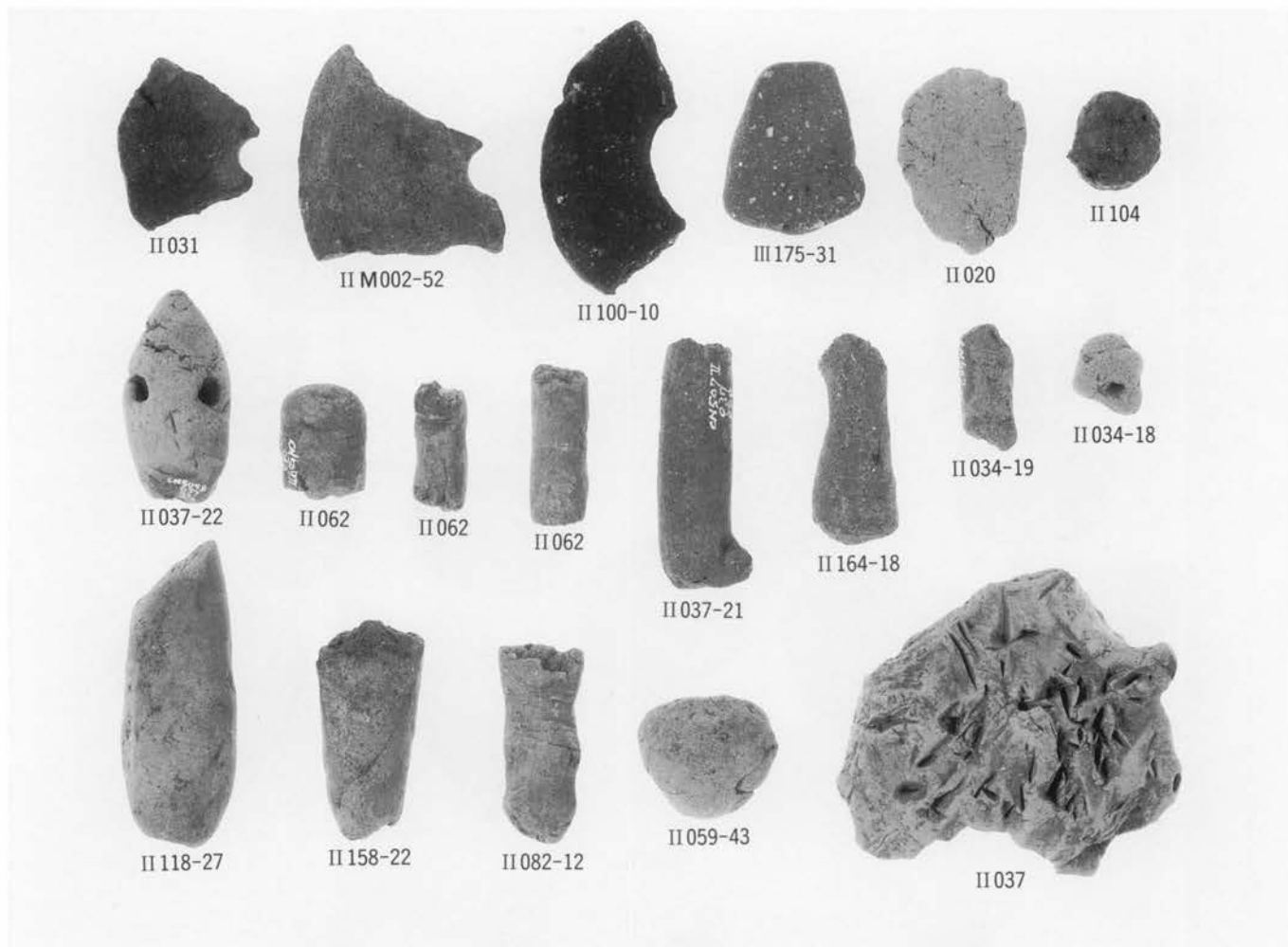
紡錘車  
土鈴



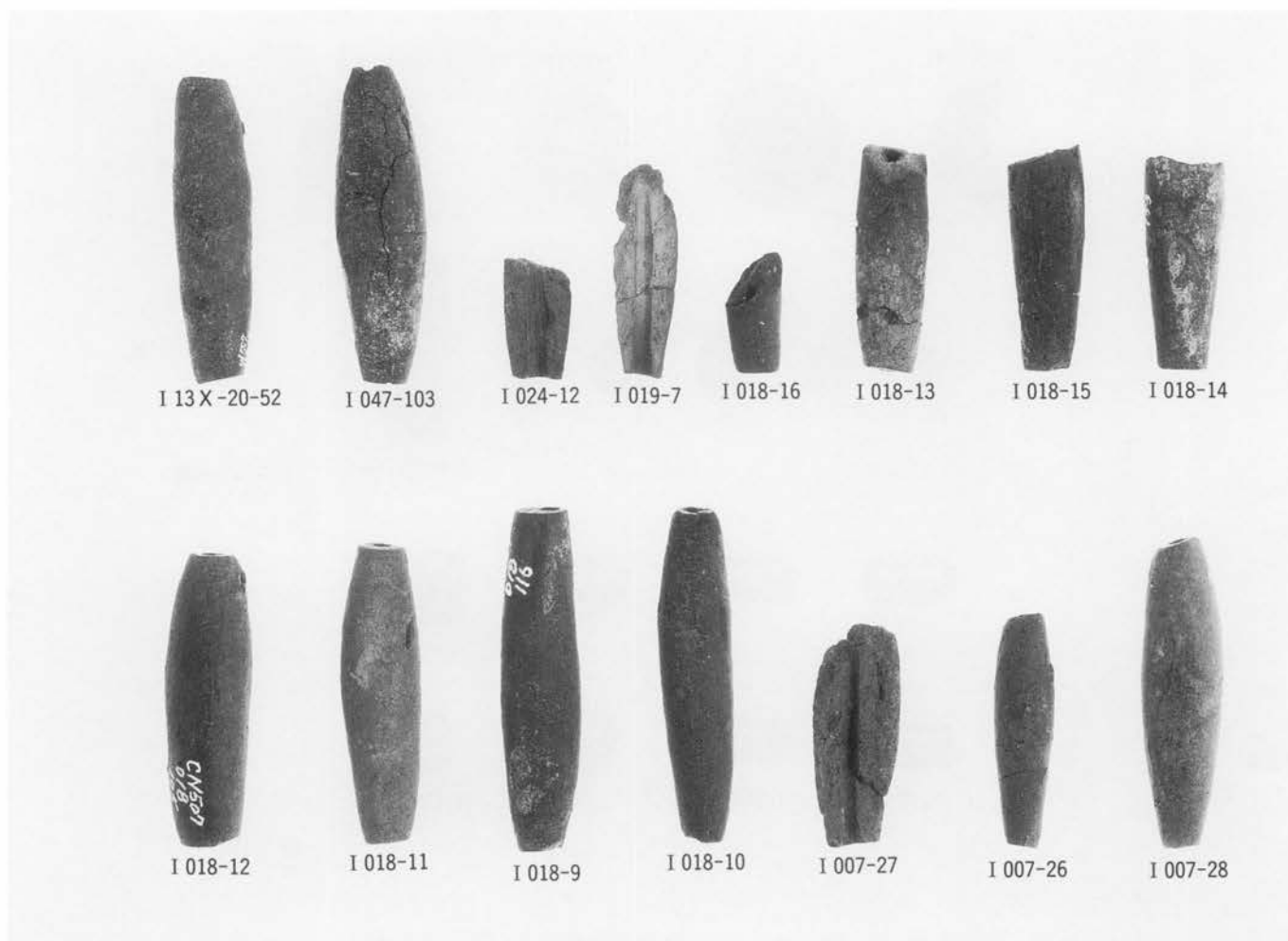
土玉・土錘



帯金具

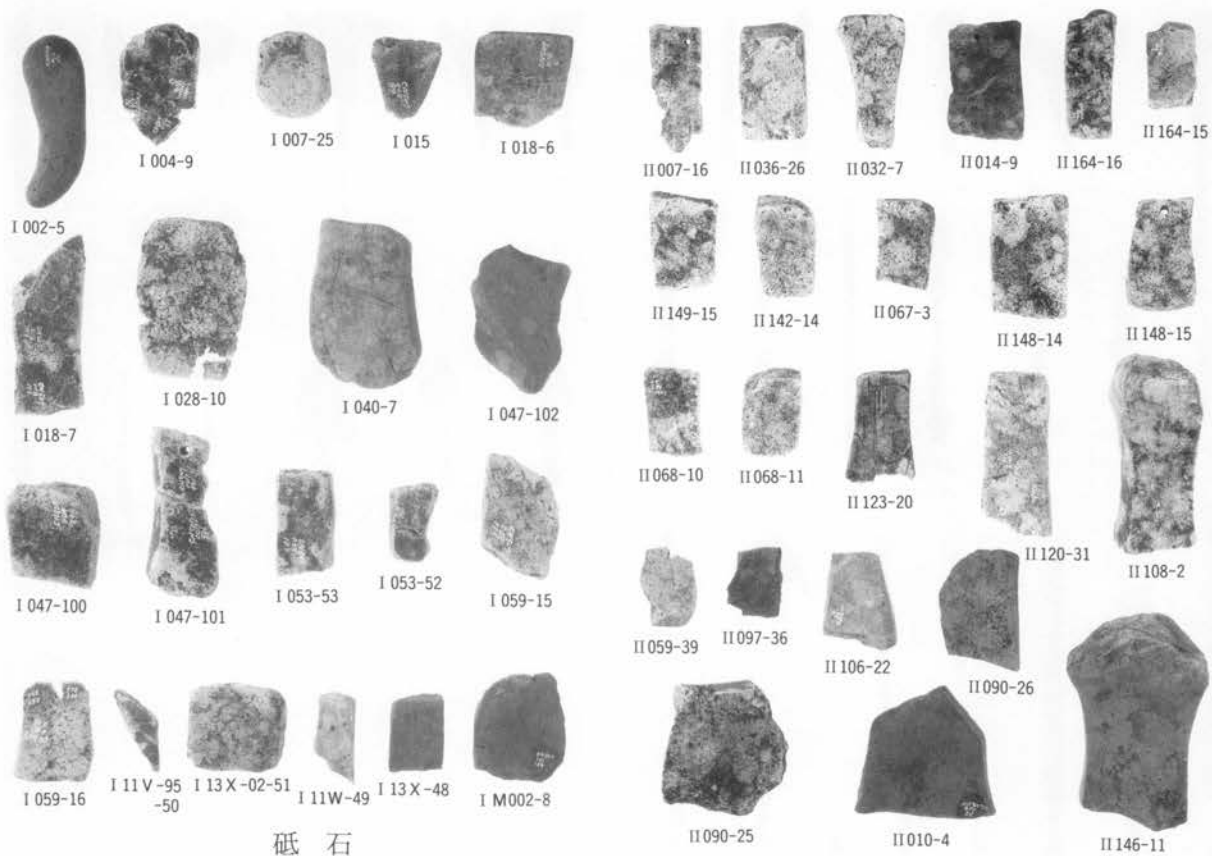


土製品



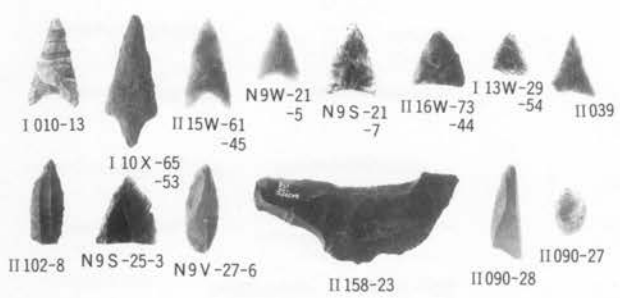
土錘





砥石

砥石



石器



石製模造品



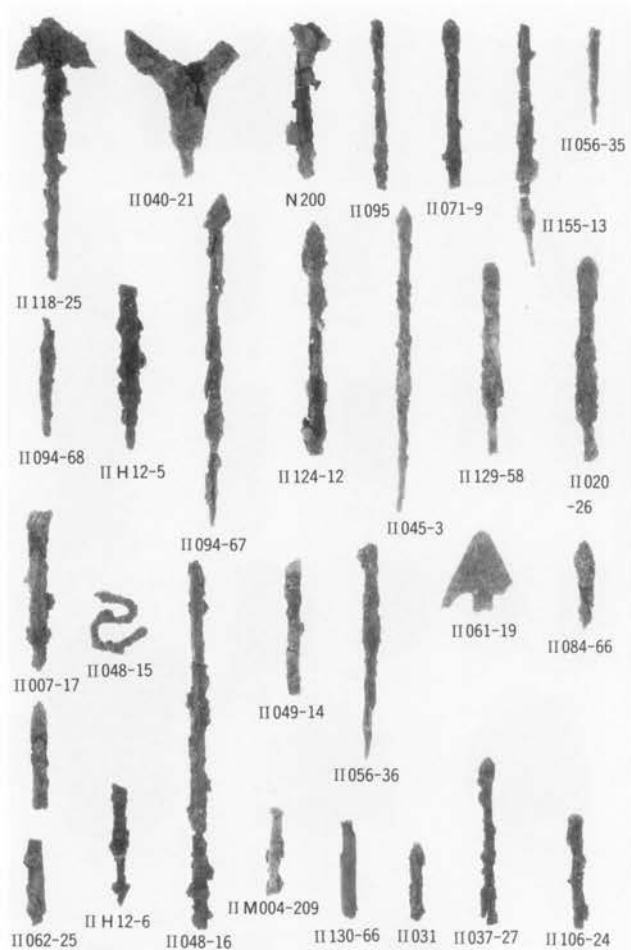
火打ち石



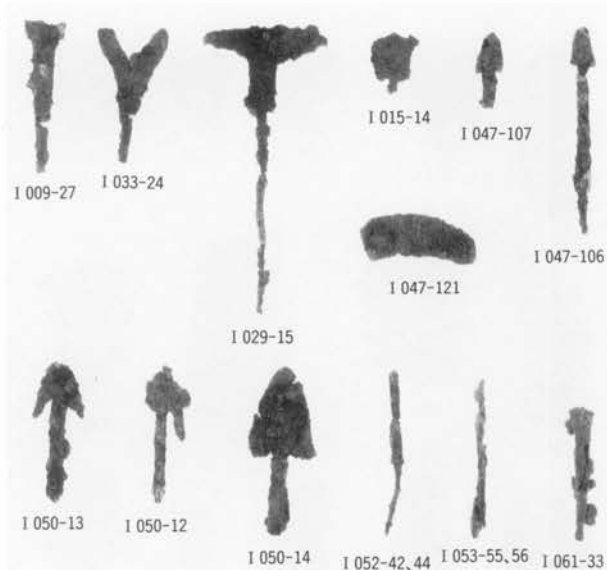
石英



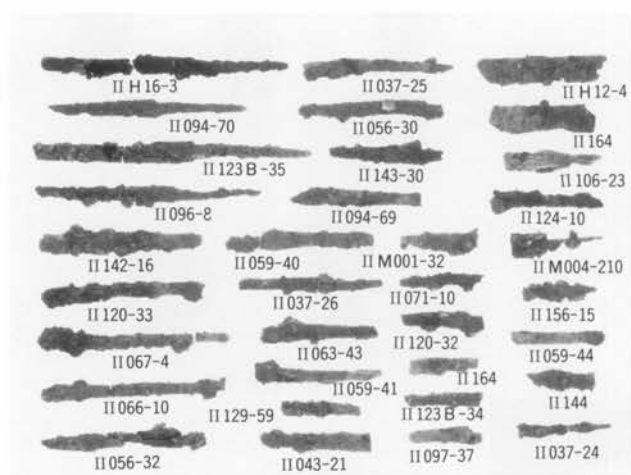
磨石・砥石



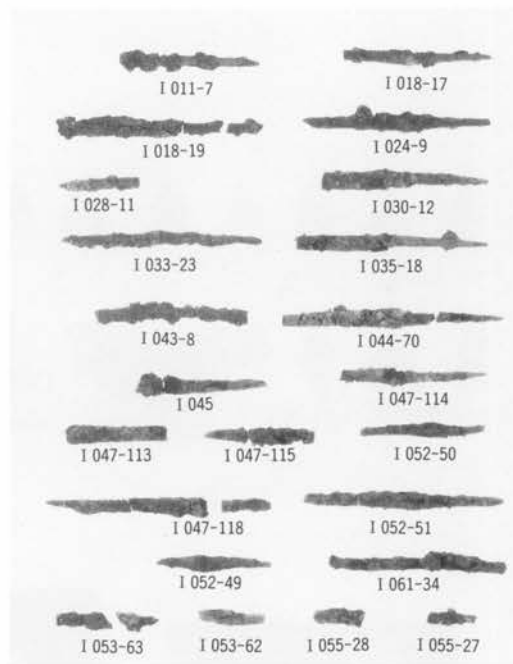
鉄 鍬、その他



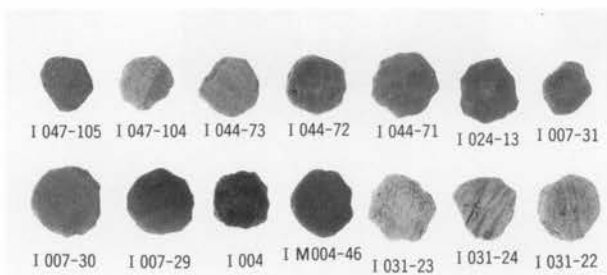
鉄 鍬、鎌



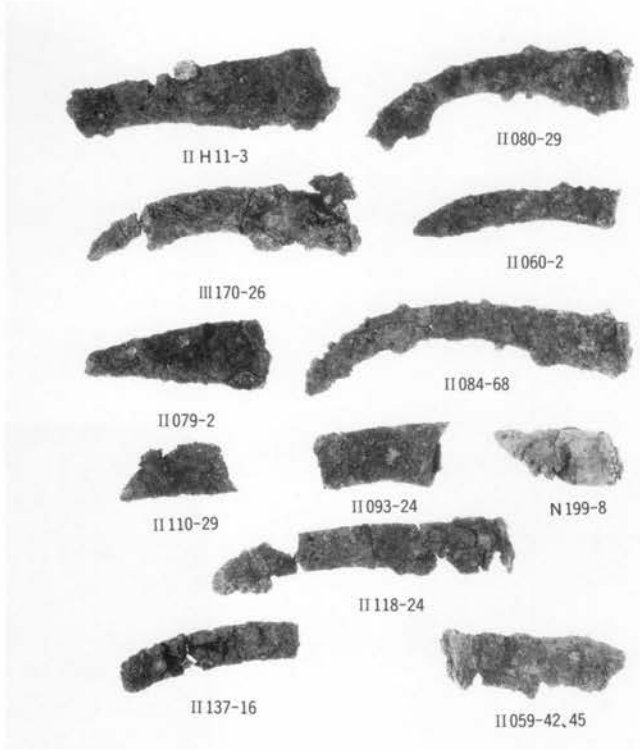
刀子



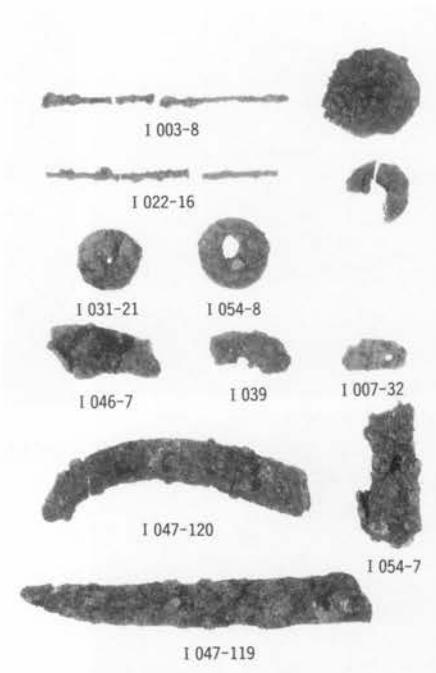
刀子



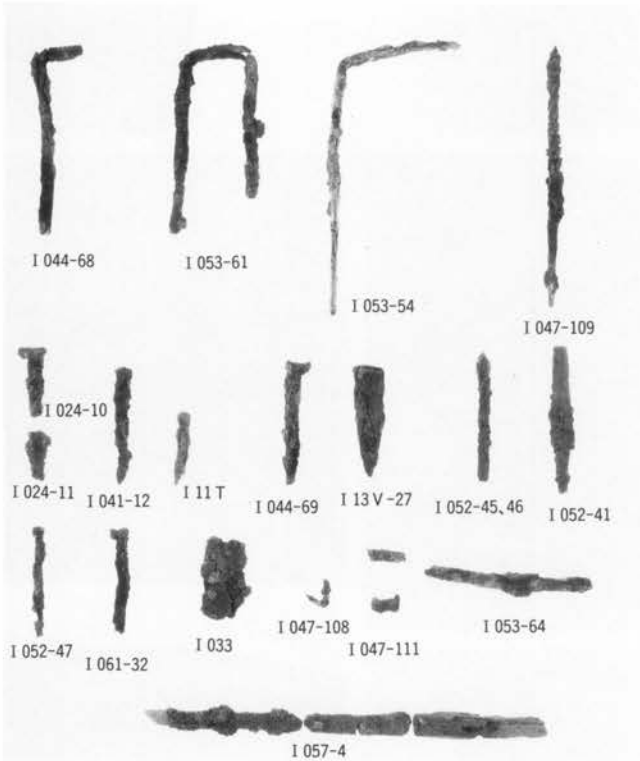
土製円盤



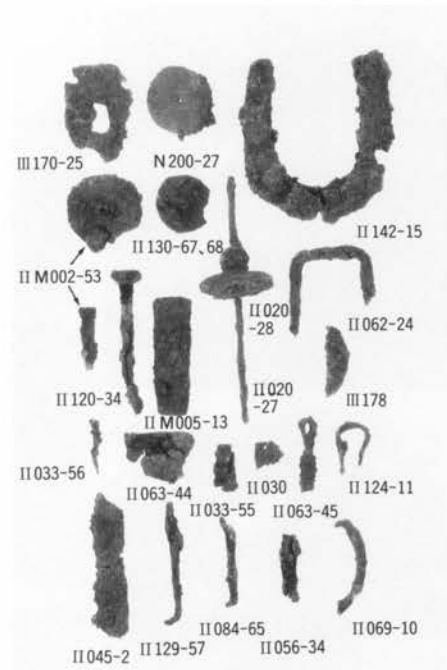
鎌



紡錘車、鎌、鉄斧、穂摘具、その他

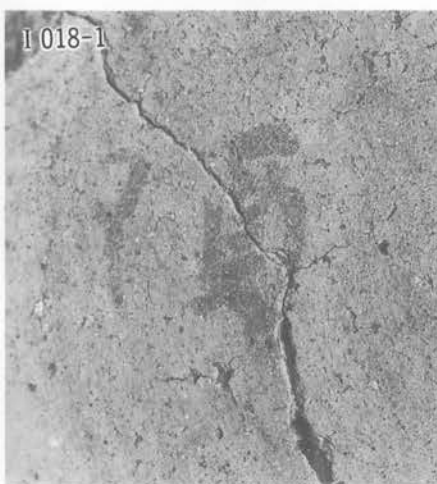
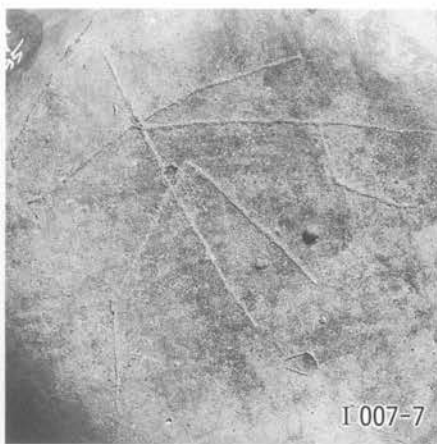
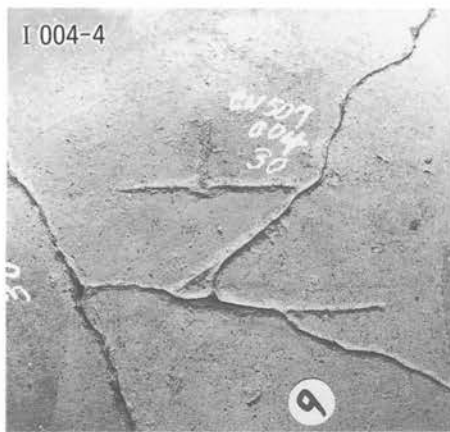


鋌、釘、鉋、小刀、その他

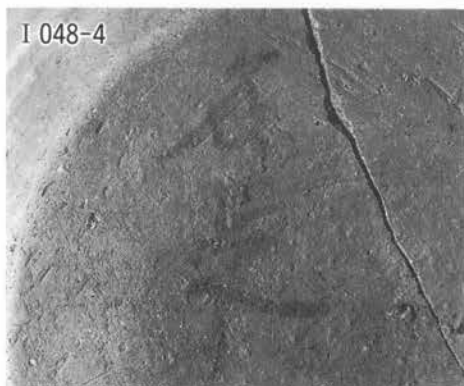
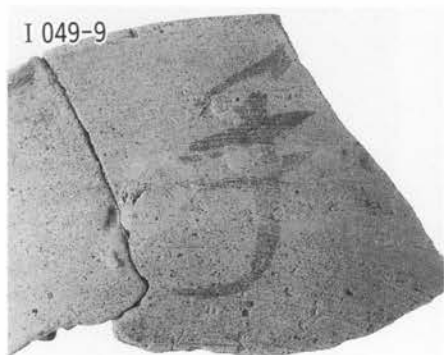
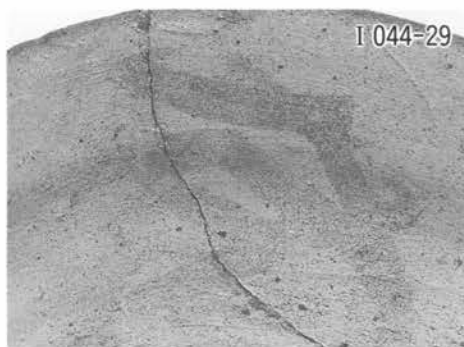


紡錘車、鋌先、釘、楔、穂摘具、その他

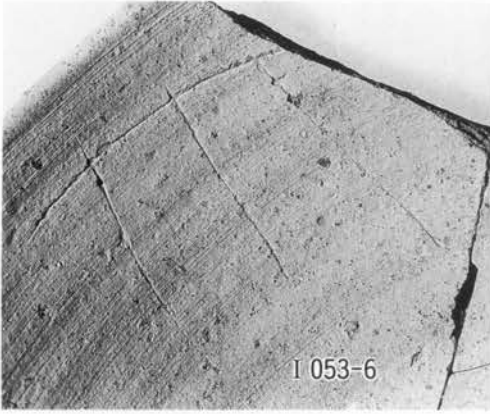
文字資料(1)



文字资料(2)



文字资料(3)



I 053-6



I 053-28



I 054-4



I 053-30



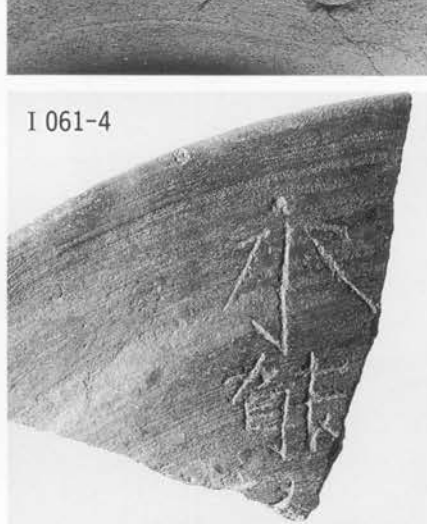
I 055-17



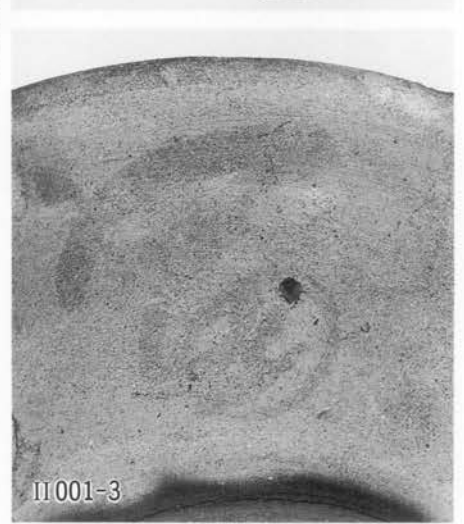
I 059-7



I 061-16



I 061-4



II 001-3



II 004-9

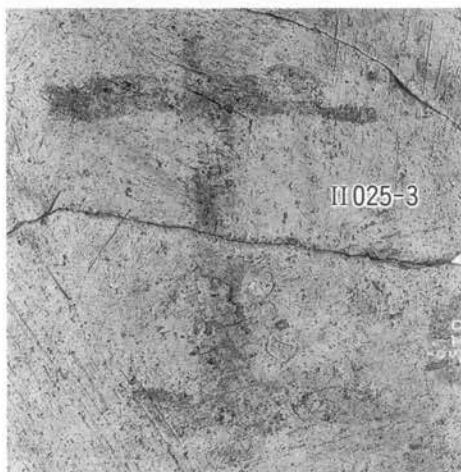


II 004-9



II 004-9

文字资料(4)





II 061-11



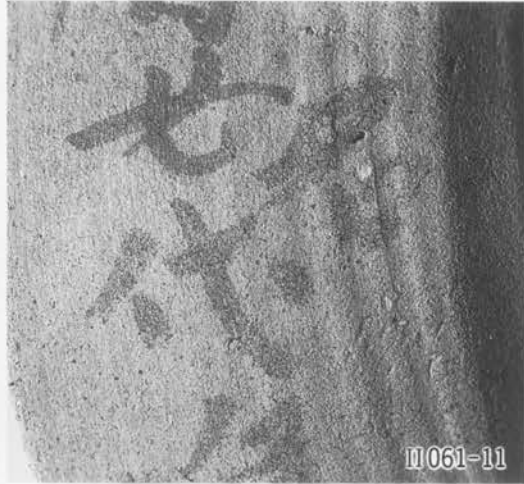
II 061-11



II 061-11



II 061-11



II 061-11



II 061-11



II 094-46



II 094-45



II 077-20



II 094-42



II 094-48

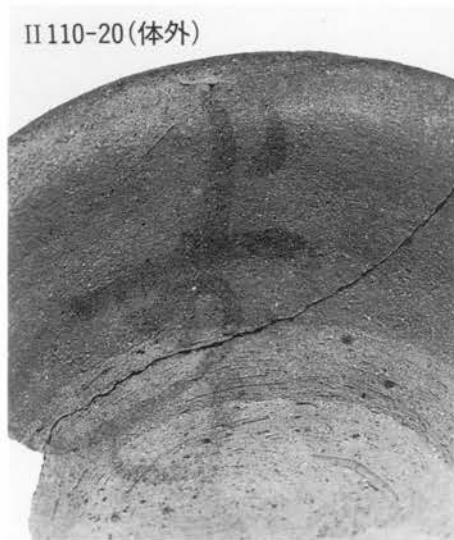


II 110-16

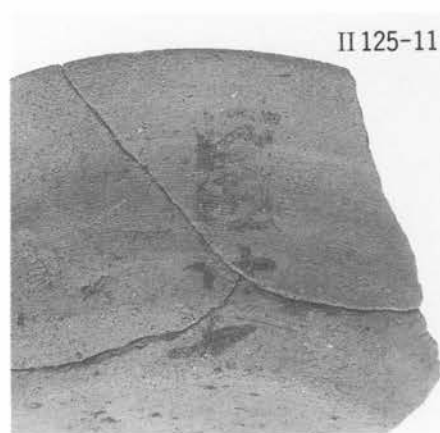


文字资料(6)

II 110-20(体外)



II 113-7



II 125-11

II 125-14



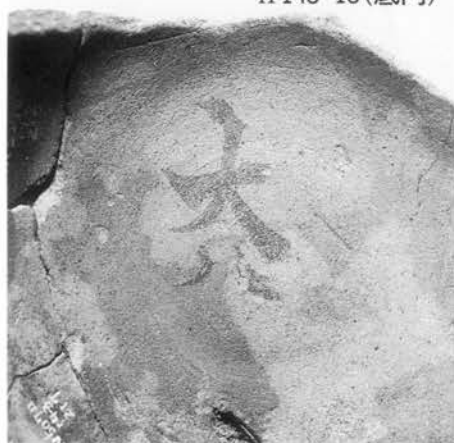
II 125-15



II 138-3



II 143-18(底内)

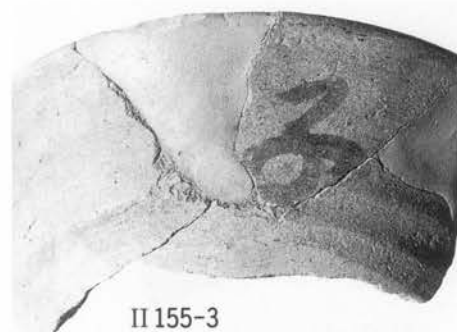


II 155-2



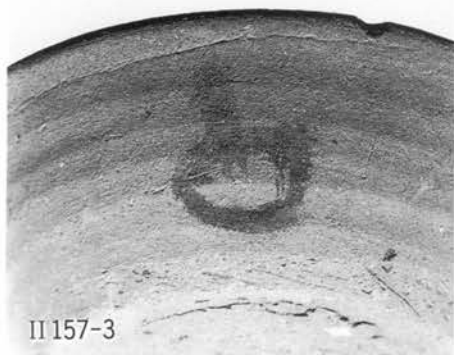
II 155-4

II 157-8

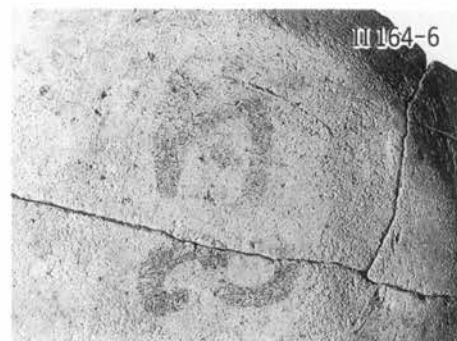


II 155-3

II 157-3



III 164-6



文字資料(7)



N200-11



N201-1



N201-3



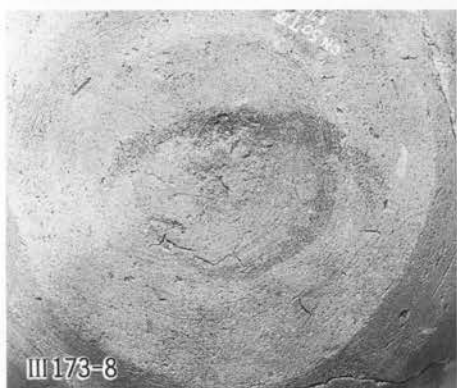
III 170-13



III 173-7



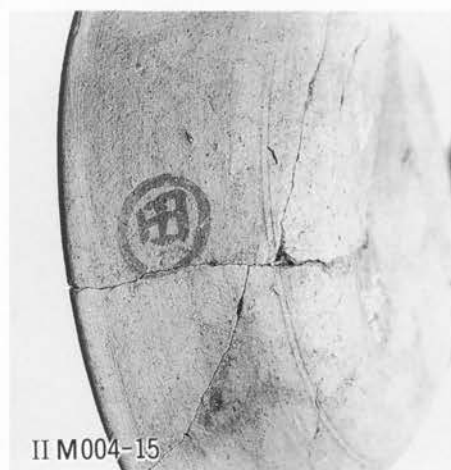
III 173-9



III 173-8



II M004-11



II M004-15



II M001-17



II M001-18



II M002-19



1.001



2.002



3.003



4.004



001-2



001-4



001-6



001-3



001-5



001-9



001-11



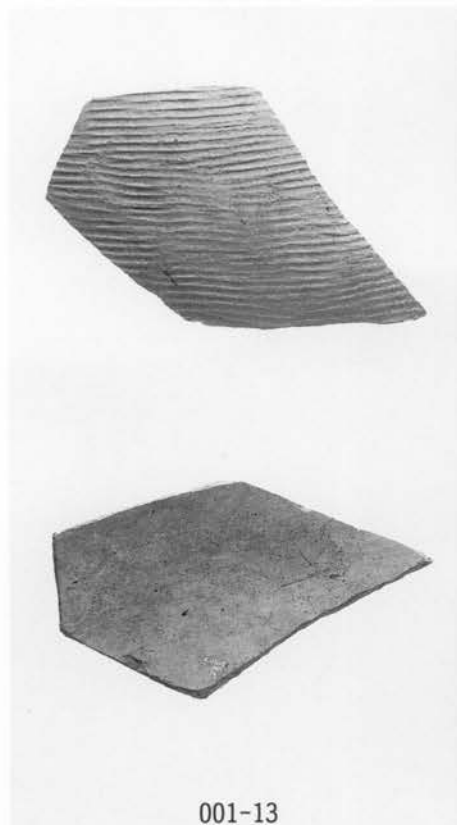
001-12



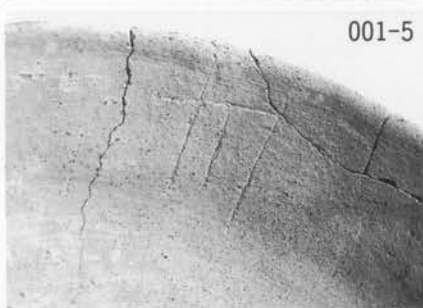
001-4



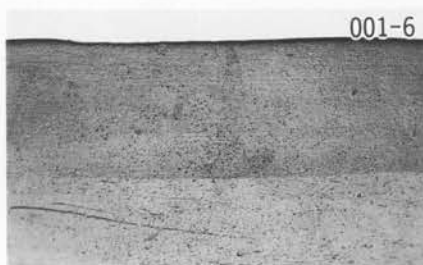
001-14



001-13



001-5



001-6



004-6

報告書抄録

ふりがな	ちばほくぶちくしんしがいちぞうせいせいびじぎょうかんれんまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ		
書名	千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書		
副書名	印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡		
巻次	2		
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告		
シリーズ番号	358		
編著者名	鳴田浩司、田形孝一		
編集機関	財団法人千葉県文化財センター		
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地2		TEL 043(422)8811
発行年月日	西暦1999年3月31日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なるかみやま 鳴神山遺跡	ちばけんいんざいしと 千葉県印西市戸 がみあきおの 神字大野610他	12231	CN507	35度 47分 25秒	140度 07分 24秒	19880916～ 19920630	57,354	営農調整 地造成に 伴う事前 調査
しろいたにおく 白井谷奥遺 跡	ちばけんいんざいしと 千葉県印西市戸 がみあきおの 神字北ノ内1054 他	12231	CN508	35度 47分 25秒	140度 07分 17秒	19910902～ 19910930	2,244	同上

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
鳴神山遺跡	包蔵地	旧石器時代	陥穴	11基	ナイフ形石器、スクレイパー、剝片	集落としては規模が小さい。  集落としては規模が小さい。 紀年銘墨書土器をはじめとした多数の墨書土器、線刻土器、ヘラ書き土器が出土した。印旛郡船穂郷の中心的集落と考えられる。 谷に面した地点に墓域が存在する。  近世牧遺構
	集落跡	弥生時代後期から古墳時代前期	竪穴住居	21軒	縄文土器（早・前・中・後・晩期）、石鏃、弥生土器、手捏ね土器、紡錘車	
	集落跡	古墳時代後期	竪穴住居	2軒	土師器、石製模造品	
	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居 掘立柱建物 道路 土坑	202軒 43軒 1条 9基	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、奈良三彩、二彩、土錘、紡錘車、刀子、鉄鏃、鎌、砥石、鉄製品、石製品、帯金具	
	墓域	中世	土坑 地下式坑 溝	8基 1基 13条		
白井谷奥遺跡	包蔵地	縄文	陥穴	1基	弥生土器  土師器、須恵器	鳴神山遺跡に隣接する、同一台地上の遺跡
	集落跡	弥生時代後期	竪穴住居	1軒		
	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居 道路	1軒 1条		

千葉県文化財センター調査報告第358集

千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書II

－ 印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡 －

---

平成11年3月31日発行

編	集	財団法人	千葉県文化財センター
発	行	千 葉 県 企 業 庁	
			千葉県中央区長洲1-9-1
		財団法人	千葉県文化財センター
			四街道市鹿渡809-2
印	刷	株式会社	弘 文 社
			市川市市川南2丁目7番2号

---